



Wason 2
D701 2.14
S575
v. 2

CORNELL
UNIVERSITY
LIBRARY



THE
CHARLES WILLIAM WASON
COLLECTION ON CHINA
AND THE CHINESE

CORNELL UNIVERSITY LIBRARY



3 1924 082 071 501



支那

第九卷第三十號

V. 9, no. 13-24
1918

要目

論說	歐洲戰後と日支合辦(上).....	一一四
資料	滿州土地商租須知並解釋(一).....	五一〇
	一九一七年支那外國貿易(二).....	一一一三
雜錄	英國對支政策(一).....	一四一九
	日本の對支政策(下).....	二〇二五
	英國對支貿易論(一).....	二六三〇
彙錄	戰時に於ける支那の乘すべき機會.....	三一三二
	支那地名の稱呼.....	三三三四
事業界	支那事業界近況.....	三五三八
半月史	半月間の支那重要事件.....	三九四二
彙報	支那關係諸報道.....	四三—五七
新法令	五八—七〇
會報	七一—七二

東亞同文會調查編纂部

支店出張所



支店出張所

歐米	南洋	支那
倫敦	孟買 新嘉坡	厦門 上海

紐育	スラバヤ スマラン バタビヤ	汕頭 香港 廣東	九江 漢口 福州
----	----------------------	----------------	----------------

株式會社

臺

灣

銀

行

(北臺)

内地	臺灣
神戶	基隆 宜蘭 臺東
大阪	臺中 淡水 花蓮港 澎湖島
橫濱	嘉義 新竹 桃園 阿緱
東京	臺南 打狗

上海東亞同
文書院教授

文學士 大村欣一氏著

支那政治地理誌

菊判洋裝

全貳冊

上卷 金參圓

下卷 金四圓

郵稅各金拾八錢

支那の山系水系より歴代の中央地方の關係、支那の政治法律財制、裁判制度、自治、内外債、民國の新稅、人口及民族、度量衡、貨幣、金融機關、外國銀行、鐵道、外國鐵道郵便電信等に亘り詳細なる敘述を試みたるもの、蓋し内外類書中之に如くものなからむ。

法學博士 今井嘉幸氏著

支那國際法論

菊判背皮
洋裝全壹冊

正價金參圓五拾錢
郵稅金拾八錢

(第一編 外國裁判權及國行政地域)

著者越きに支那政府に聘せられて永らく天津に在り公務の傍ら支那特殊の對外關係を攻究す、一言一句著者の明瞭なる頭腦を通せる實見の結果なれば權威的ならざるはなし。所說泰西學者も未だ手な染めざりし所。

故伊藤博文公著

帝國憲法
皇室典範 義

解

四六判假裝
金壹冊

正價金壹圓
郵稅金八錢

明治維新の功勞者故伊藤公の憲法義解はあらゆる帝國憲法解釋中の權威にして諸多の憲法義解は皆これより流出す。もし之れ無からんか我憲法の意義は遂に解する日なからん、政法學者及政治家は勿論苟も日本國民たるもの、瞬時も缺くべからざる法典なり。

東京日本橋通

丸善株式會社

大 阪 心 齋 橋 筋 通
都 三 條
上 岡 福 仙
國 臺 仙
西 分
町 町

目 次

大正七年「支那」第十九卷
七月一日發行

論 說

歐洲戰後と日支合辦(上)……………一—四

資 料

滿洲土地商租須知並解釋(一)……………五—一〇

一九一七年支那外國貿易(二)……………一一—一五

雜 錄

英國の對支政策(一)……………一四—一九

日本の對支政策(下)……………二〇—二五

英國對支貿易論(一)……………二六—三〇



彙 録

戰時に於ける支那の乘すべき機會……………	三一—三二
支那地名の稱呼……………	三三—三四

事 業 界

上海瓦斯會社營業成 績—泰興營業成績……………	三五—三八
----------------------------	-------

支那半月史

招撫政策、收撫清理局の設置—陸軍章銑殺—天津 會議の犧牲—廣東局面の一瞥—孫文來朝—新國會 選舉の大勢—江庸來る—吉會鐵道借款豫備契約……………	三九—四二
--	-------

彙 報……………	四三—五七
----------	-------

新法令……………	五八—七〇
----------	-------

會 報……………	七一—七二
----------	-------

商 標 登 録



麥 印 窓 硝 子

旭硝子株式會社

東京市丸之内

- 第一工場 兵庫縣尼崎
- 第二工場 福岡縣戸畑
- 第三工場 神奈川鶴見
- 第四工場 福岡縣枝光
- 煉瓦工場 兵庫縣尼崎
- 曹達工場 福岡縣戸畑

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サ二耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外ニ耐火煉瓦及曹達灰

第二回

支那年鑑

廣漠難然たる支那の綜合觀、鳥瞰觀をなすに足るべきものは、纔に「支那年鑑」ある而已。今や「第二回支那年鑑」は支那民國成立以來の最新精細なる各般の材料に満たされて市に出てたり。苟くも支那の事情を知らんと欲するものは速に之を本書に就て求めよ。

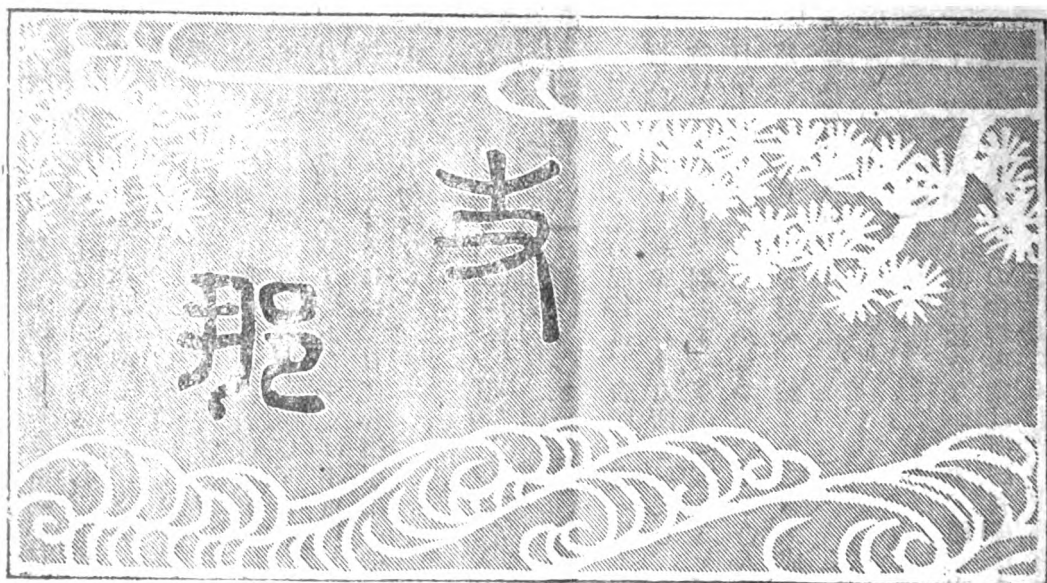
内 容

- 人 口 在留日本人詳細統計表、在支日本實業家調查表、支那僑民本財人調查表、民國成立より實の進支國會議法の復原に至る
- 政 治 中央政府、地方部、蒙藏部官制、光緒以來民國五年に至る財政概覽
- 公 債 外債、内債、短期借款
- 外 交 支那公使館領事官所在地に於ける列國領事館、帝國領事館所在地及管轄表
- 商 會 支那工場調查表、支那工場調查表、支那及外洋商會表、各種會社統計表
- 工 業 支那各省鑛山所在地、鑛山關係各種統計表
- 農 業 各省農田耕地面積表、各省農作物收穫高表、支那各省鑛山所在地
- 海 軍 軍艦名表
- 陸 軍 新軍、重隊、輕隊、步兵、騎兵、砲兵、工兵、衛生隊、外國軍隊
- 水 運 支那各鐵路表、支那各鐵路統計表、支那各鐵路統計表
- 郵 政 支那各郵政表、支那各郵政統計表
- 銀 行 支那各銀行明細表、支那各銀行統計表
- 保 險 支那各保險公司統計表、支那各保險公司統計表
- 貿易 支那各貿易統計表、支那各貿易統計表
- 人名錄 現在支那有力者調查表、支那に於ける新聞紙調查表

東京市赤坂區
溜池町二番地
東亞同文會調查編纂部發行

電話芝二二四番、二二五番、總發東京九七三〇番

定價 金五圓
背皮 金五圓
金文 金五圓
總數 千二百頁
四六 倍
送料 支那內 五十錢
支那外 五十錢



大正七年七月一日

第九卷 第十三號

緒 論

○歐洲戰後と日支合辦 (上)



論 說



巴里經濟會議は歐洲戰後に於ける列強經濟戰爭を報する曉鐘なりしが、最近に及び列強孰れも皆其準備に汲々とし、英佛諸國は、内に於ては原料品管理政策を建て、羊毛、棉花、蘇、護謨、等工業原料たるべき貨物の本國及殖民地に生産すべきものは、政府に於て之が管理と分配とを取締り、敵國の手に歸せしめざることを企て、外に對しては、特惠關稅政策を取り、一般的最惠國約款を含む一切の通商條約を破棄し、差別的關稅を設け、與國中最も利害を共にすべきものに對し、最も輕微なる關稅を賦課し、今日敵國たる諸國を最も不利の地位に置き、一切互惠主義に則り關稅を協定せんことを圖り、其の政策の一部を、平和克復を待たず實行せんとしつゝあり、戰後の形勢は之を逆睹すること難けれども、列強の齊しく排斥利己の政策を採り、自國の利害に依り遲退すべきは、殆んど疑ひなき也。其際我邦の如く、歐米諸國及其殖民地より、原料品、機械、其他の製品を輸入する必要あり、而して生絲、絹織物、茶等の奢侈品を輸出せざるべからざるものにありては、相互の利益に基く互惠條約を締結すること困難なるべく、之が爲め我工業の發達に必要な原料の

供給を絶たれ、製品を販賣すべき市場を塞され、我商工業の根幹を破壊せらるゝの虞あるべし。唯頼に隣邦支那の存するあり、纔かに愁眉を開くべし、支那は面積四百二十萬方哩人口三億あり、我邦の政策宜しきを得んか、我れに必要なる原料品は之を無盡蔵の富源を有する彼れより採買し、彼の需要する無邊際之製品は之を我れより供給すること、必ずしも難からざる也。而して其是に至るには、所謂日支經濟提携を爲すにあらずんば不可にして、日支經濟提携を爲さんとするには、日支合辦事業を楷梯と爲さるべからざるや勿論なり。

第一 同支合辦の現状

日支合辦事業の成否は、帝國存亡の係る所なるに依り、吾人は慎重に其利弊の存する所を研究し、伸張すべきの利益は之を伸張し、剔去すべきの弊害は之を剔去し、以て後日の大成を期せざるべからず。従ふて吾人は先づ其現状を述べ、尋て其利弊を窮め、然る後之を大成する方法を説かんと欲する也。

二

日支合辦事業は其種類少なからず、而も支那官憲と日本官憲又は日本人との合辦事業は所謂利權なるものに係り、單純なる經濟的事業にあらずして、支那官民の共に厭ふ所

たれば、此種の合辦が盛大に赴くとも、日支經濟提携を實現すること難く、日支經濟提携を實現せんには、醇乎たる經濟的目的より生じ、兩國人民に利益を與ふべきものたるべからず。此種の事業は主として支那人が日本人より資本と技術の援助を得んと欲すると、日本人が支那人との合辦に依り、各種の特權と便宜を得んと欲するより出でたるものにして、其細別も亦少なからず、内部に於ける日支人の權限及其組織等も亦一ならざるなり。

三

現時經營せらるゝ一般的日支合辦事業は、鑛山、水道、電燈、銀行、信託、運送、製造工業等各方面に亘るも、就中鑛山業は合辦事業中重を爲せり、蓋し鑛山は支那の重要な富源にして、外國人の之に垂涎する三千丈も管ならざるも、如何せん鑛山條例の儼存するあり、支那人と合辦するにあらざれば經營すること能はず、支那人も亦鑛山業に關する智識幼稚にして、資本缺如するものあるに依り、外國人と合辦するにあらざれば不可なり、唯鑛山業は鉅額の資本を要し、資本の乏しき日本人は、從來此種の合辦事業を起すこと困難なりしが、最近歐洲戰爭の爲め、頗に資本増殖せしに依り、此種の合辦事業輩出するに及べり、即ち左の如し。

名 稱	經 營 地	資 本
順濟鑛務公司	江西省豐城炭坑	二、〇〇〇、〇〇〇兩
太興合名會社	間島天寶山銀鑛	五〇〇、〇〇〇圓

振興鐵鑛公司 南滿洲鞍山站鐵鑛
本溪湖煤鐵鑛公司 南滿洲本溪湖附近炭鐵鑛

七、〇〇〇、〇〇〇圓

此他中日實業公司、安川商店、古河公司等種々なる名義にて鑛山業に關係を有するに至り、尙ほ今後續々此種の事業増加すべき傾向ある也。

四

馬車鐵道、水道、電燈等獨占的性質を有する事業なるか、又は支那政府よりコンセッションを獲得することを目的とする事業は、之を合辦組織とし、支那人と利害を共にする方、支那政府より特許を與へらるること易きのみならず、支那人の排斥運動を免かるを得るに依り、此種の事業を經營する日本人は、之を合辦組織とする場合多く、其事業成績も亦比較的佳良なり、試みに之を擧ぐれば左の如し。

名 稱	所在地	業 務	資 本
瀋陽馬鐵公司	奉 天	馬車鐵道	一九〇〇〇圓
營口水道電氣會社	營 口	水道電燈	二、〇〇〇、〇〇〇圓
遼陽電燈公司	遼 陽	電 燈	一二〇、〇〇〇圓
鐵嶺電燈公司	鐵 嶺	電 燈	一一〇、〇〇〇圓
瓦房店電燈會社	瓦 房 店	電 燈	五〇、〇〇〇圓
中日實業公司	東京北京	利 權	五、〇〇〇、〇〇〇圓

五

支那銀行は、資本乏しく信用薄く、一覽拂の約束手形又

は兌換券を濫發し、經濟界に恐慌を惹起すること數々にして、支那企業の振起せざるは、金融機關の不備にありと稱せらるゝ程なり。之に反し、外國銀行は資本の豊富と信用の深厚とにつき遺憾なきも、外國爲替を本業とするものなるに依り、内地に投資すること難く、假令内地に投資せんとするも、顧客を招致すること能はず、從ふて日支合辦銀行を設立せんには、彼我の短所を補ひ、長所を伸すことを得、便利多かるべきは、復た喋々するを待たず。信託會社も亦同様の理由に基き、合辦の得策なること知るべし。此等事業の日支間に經營せらるゝもの成績良好なること以て徴とするに足る。

名 稱	所在地	資 本	業 務
正 隆 銀 行	大 連	三、〇〇〇、〇〇〇圓	銀 行
龍 口 銀 行	龍 口	二〇〇、〇〇〇圓	銀 行
遼 東 銀 行	瓦房店	六〇〇、〇〇〇圓	銀 行
中日滙業銀行		五、〇〇〇、〇〇〇圓	銀 行
大連取引所信託會社	大 連	一、〇〇〇、〇〇〇圓	信 託
長春取引所信託會社	長 春	五〇〇、〇〇〇圓	信 託
開原取引所信託會社	開 原	五〇〇、〇〇〇圓	信 託

六

製造工業は外國人單獨にて經營する方利益ある場合多かるべきも、開放地以外に於て經營せらるゝ場合、又は相互親信の關係にある場合、若しくは支那人が事業經營に苦しみ援助を求め來る場合等に於て、合辦とすること亦決して

不都合にあらざるべし。此種の日支合辦事業を見るに好成績のもの少なからず、日支經濟關係密接に赴くに從ひ、益益盛大に趣くこと疑あるべからず。

名 稱	所在地	業務	資 本
三 泰 油 房	營 口	豆精製造	三〇〇,〇〇〇圓
三林煙草公司	奉 天	卷煙草製造	二〇〇,〇〇〇圓
鴨綠江製材公司	安 東	製 材	五〇〇,〇〇〇圓
日清燐寸會社	長 春	燐寸製造	三〇〇,〇〇〇圓
青島罐詰會社	青 島	罐詰製造	五〇〇,〇〇〇圓
上海絹糸會社	上 海	絹綜紡績	四〇〇,〇〇〇圓
壽星麵粉公司	天 津	麥粉製造	二五〇,〇〇〇圓
上海電氣公司	上 海	電氣機製造	一,〇〇〇,〇〇〇圓
中國電氣工業會社	上 海	電氣機製造	一,〇〇〇,〇〇〇圓

以上の外、通商、運輸、建築等に關する日支合辦事業なきにあらざるも、其數たる寥々にして、利害得失を論するに足るべき材料乏し、農、牧、保險等に關し未だ合辦事業を見るに至らざるも、將來多小望を囑すべきものたるや疑を容れざる也。

歐米人と支那人との合辦は、其支配權歐米人の手に歸するを常とすれども、日支合辦は種々にして、或は支配權日本人に偏重し、或は中庸を得、或は支那人に偏重せり、而して其成績を觀るに、事業經營に關し日本人の權限強きもの收益多く、支那人の權限強きもの收益少き傾あり。中日實業公司の如きは、日支人の權限同等なるに依り、互に相牽掣し成績觀るべきもの鮮し、但龍口銀行、瀋陽馬鐵公司、

立大麵粉會社の如く、支那人の權限強きものにして、成績佳良なるものあり、上記の原則と反するもの、如し。而も是は寧ろ組織の如何より出でたるものにして、支那人の權限の強弱に關するものにあらざるなり。又合辦事業の組織は必ずしも一ならず。鴨綠江製材會社は合名會社にして三林煙草公司及高昌號は組合組織なるも、其他は概ね株式會社なり。株式會社にありても、外國人側の出資者は數人の資本家なる場合多く、支那人側出資者も亦該地の名望又は企業家なる場合多く、一般的株主殆んどなし。從ふて其名稱の如何に拘らず、其實質は支那舊來の企業組織なる組合の變種、即ち合股事業に類似し、其合股事業に近くに徒ひ、成績良好なる模様なり。支那人の權限強き龍口銀行等の成績良きは、全く其組織の合股的なるに依る。之を要言すれば日支合辦事業は、日本人の權限強く、其組織も亦合股的なるに近くに伴ひ、其成績良しと稱することを得べき也。



資料

滿洲土地商租須知並解釋 (一)

大正四年日支交渉の結果として、邦人は滿洲に於て土地を商租するの權利を獲得せり、然るに其後支那官憲は往々にして、此邦人が條約上當然有する權利を種々の口實により妨害しつゝあるを見る、本商租地畝須知は、支那政府が地方官憲の心得として、密に頒布したるものにして、地方官憲は之れに準據して、土地商租を取扱ひ居れり、依つて參考の爲これを譯出掲載す。

(解釋) 此の商租地畝須知一冊は、内務部の訂定する所にし、吉林及奉天兩省に頒發するもの、標題に所謂商租地畝とは、即ち此回中日兩國が訂立する所の、南滿洲及東部內蒙古條約の第二條に依る、其の原文に（日本國民は南滿洲に於て商工業應用上建物を建設する爲め或は農業を經營する爲め其の必要なる土地を商租することを得）云々、此に據り日本國民は、商工業に因り建物を建設せんとする時、又

は農業を經營せんとする爲め、必要なる土地を得んとする時、其の土地を租用し得るに外ならず、此の以外に於ては即ち租地するを得ざるなり、但し租地は必ず地主と熟商すべし、故に條文に於て商租の文字あり、又南滿洲商租解釋の交換文に依れば、（第二條商租の二字は三十年迄の長き期限附にて且つ無條件にて更新し得べき租借を含むものと了解すべし）云々、此れ商租期限を解釋せるものにして、長くも三十年を過ぐるを得ず、及兩國は必ずしも他種の條件を必要とせず、而して人民間の租地は、長期短期を論せず、滿期後に於て仍ほ續租し得べき意にして、此れ皆商租地畝の四字の根據なり、故に商租地畝を以て標題とせり、其須知と云ふは、土地を商租するには必ず其の辦法を定出すべく、方に準據とすべき辦法に依らざるべからず、此冊中十四條文は、即ち是れ土地を商租するときの辦法なり、惟た此辦法は日本

人民に對し表示すること勿れ、而して各地方官は、必ず須らく知悉して能く遵照辦理すべし、故に章程等の名目を用ひずして須知と云ふ、之決して章程に非ざるを表する所以にして、只各條を地方官の爲め須知せしむるに過ぎざるのみ。

又本國人民間の租地事項にして、此の十四條の條文に對し、適用し難き各條を除く外、亦情形を斟酌して、同一に辦理すべし、本須知の十四條文中には、辦理する場合に於て、前後の手續極めて繁雜なるものあり、今將に原文を逐條開列し、並に詳細なる一切辦法を解釋する下の如し、租地事項を處理せらるる地方官吏に望む、繁瑣を厭はず細かに翻閱し、務めて前後の手續を胸中に了然たらしめ、辦理の時に於て絲毫も紊亂を致さず、豫め紳士及人民に通知し若し多くの方法を設け衆をして明白ならしむるを得ば、善の又善なるものなり。

一、土地商租事項に關しては、條約の規定する所に依り、地方官吏は應に以下各條を按照して注意辦理すべし。

(解釋) 此第一條は總括の文にして、凡そ日本人民が南滿各地方に於て土地を商租するとき、地方官吏は即ち此須知中の十四條文に按照して、辦理するものなり、其の條約の規定する所に依りと云ふは、即ち雜居の日本人民が商業或は工業の爲めに、彼應用の建物が必要とすべく、又農業の爲めには需用の土地を要すべし。

農業の租地を必要とするは、自ら言を待たざる所にし、即ち商工業の建物も亦土地を租得するに非れば、建築する能はざるべし、故に此回の條約は吾國南滿地方に

於て、日本人に許すべき租地事項は、即ち規定する所の商工業農業の應用、或は需用を以て限りとせり、地方官吏は只管條約の規定する所に據り、商工業農業を除くの外は、日本に土地を租給する能はず、亦商量することなかれ、若し日本人が安りに要求を肆にするときは、條約は未だ規定の明文なきを口實と爲すべし、地方官吏とは縣知事は勿論、其他警區々官及各地衙署にありて、租地を辦理する人にして、官に非れば即ち是れ吏にして、均しく其内に含まる、辦理の上に注意の二字を加へたるは蓋し各地の情形同じからざるにより、官吏は只だ各條文を遵照して、窒碍ありて辦理する能はざるもの、或は手續上困難とする所あらば、更に處々注意すべく、或は道尹及各官憲に訓示を請ふか、或は通融の辦法あらば、充分に隨時意見を陳述すべし。

二、租地は典押又は賣買の意義を包含せず、只僅かに收益使用の二權を有するのみ、其の土地所有の權利は、仍ほ之を地主に屬し承租人は之を享有するを得ず。

(解釋) 本條の大意は、租地の人が土地所有權を有することを得ざるを表明する所以にして、實際に於て既に租地と云ふ以上、自然承租人所有の土地にあらざることは知るべきなり、但し東三省は實に特別の情形あり、往々地主にして大區域の土地を買占たるの結果、先づ土地の所有權を極めて輕視し、或は承租人より資金の貸借せるにより、或は租價の高尙なるにより、名は出租なりと雖も、既に自己の所有權を放棄し、視て輕重とするに足らずと

爲し、土地は國家成立の三要素の一たるを知らず、若し承租の外人をして、展轉租賃其土地の所有權を享有するを得せしめば、尙完全なる國家を成立するを得んや故に本條は明白に之を規定せざるを得ざるなり、凡そ土地上の權利は三種となす、一、使用權 二、收益權 三、處分權是れなり、何をか使用權と云ふ、耕種の類の如き土地を使用して、地力を盡せしむる所のものは是れなり、何をか收益權と云ふ、穀類を收穫して其の利益を取得するが如き是なり、處分權に至つては、則ち土地を自己の處分に由り、或は典押し、或は賣買し、一切自己の主張に任す、三者の權利たること同じきも然かも使用收益の二權は、即ち承租人に於て之を享有するを得べしと雖も、其の處分權に至りては、所謂土地所有者に屬し、地主にあらざれば享有するを得ず、既に地主にあらざれば享有するを得ずとすれば、則ち土地を或は典押し、或は賣買するは承租人に於て、當然此權利を有する能はず、承租人が享有し得る所のものは、只收益使用の二權あるのみ故に租地は典押賣買の意義を包含せずと云ひ、以て典押賣買は租地の含む所の意に非ざるを明かにせるなり、只僅かに收益使用の二權を有し、其の土地所有者の權利は仍ほ之を地主に屬すと曰ふは、土地所有者の權利、即ち處分權は以て承租人が收益使用二權の外處分權を享有し得ざることを明にせり、故に又承租人が之を享有することを得ずの一語に就き、充分之を説明せり、又承租人は租地を典押又は賣買することを得ざるは固よりなるが、

但租地の人にして、尙兩種の辦法あり、一を包租と云ひ即ち一人にて大段の土地を租入し、自己に於て耕種すると否とに論なく、別に租戸を招き大段内に於て分段承租するものにして、之等は其の內容實に無數の租戸あるも、其の表面は即ち一人にて、之を包（請はふ）租するなり、一は轉租にして租地の人が或は耕種するの力無く、或は他の事項に因り、本人が租入するも、自ら耕種する能はず之等の原因により他人に轉與して耕作せしむ、是れ即ち轉租と云ふなり、以上二項の包租轉租の糾葛あるは均しく言を待たざる所なるが、就中包租の弊害を以て最も大なるものとす、這回日本人の租地は、當然包租を准さず轉租も亦絕對に禁止する所なり、何ぞや條約の規定する所を之に照せば、包租並に轉租するを得ざるを以てなり蓋し條約の南滿東蒙に關する第二條に云ふ、（商工業應用の建物を建設する爲め或は農業の爲め其の需用土地を商租することを得）是は之等雜居の日本人が、土地を商租するは全く本人の需用を以て限りとなす、故に本人が若干の土地を必要とするは、果して若干の土地を必要とするや否やを調査し、然る後之に租與し、若し本人の需用多からざるときは、商租して可なるも、亦少數に従ひて之を租與すべし、若し本人が既に需用の必要なきも、尙且つ不必要の地に非らずとし、並に租地を自包して、他人に分租し或は本人前に需用の土地なるも、後來他の原因に依り、亦土地を必要とせざるも、之を他人に轉租せんとするに至つては、均しく第二條々文の需用の二字と

は大に相違背するものなり、原來此回日本人に租地する所以のものは、條約を根元として來らざるはなし、故に凡そ約文と抵觸するものは、法律たる命令たることを問はず、且つ其の効力を失ふ、何ぞ況んや包租轉租の如き惡習慣にして、善良なる習慣に非らざるに於ておや、故に包租は自ら認可するを得ず、並に轉租も准允し能はざるの處理方法を、商租契約の背面に於ける双方遵守すべき事項内に規定せるは、條約を尊重し流弊を豫防する所以なり。

三、商租とは平和に商量し、地主の同意を得るの謂にして強迫に涉るが如きは即ち之を商租と云ふを得ず。

(解釋) 前條解釋に於ける商租の租字は、以て承租人が土地所有權を有するを得ざることを明にし、本條に解釋する商租の商字は、承租人が強迫して租地することを得ざるを明にせり、蓋し今回條約を訂立する時、日本側にては所有權を得べき文字の書き方より、租賃の二字に譲りせるを已に大讓歩となしたるが、嗣後我政府は四回の力爭を経、始て商租の二字に爭到せり、是れ此の商字たるや、決して輕々に看過すべきものにあらざるを知る可し、必ず双方相商最し、又意氣平和なるべきなり、其の裏面租地の辨法内に於て、一も地主の同意を得ざるなきに至り、方さに之を商租と謂ふべし、若し地主に於て絲毫にても、不同意なる時は、如何なる場合を論せず、即ち租定するを得ず、然らざれば平和の商量に非ずして、即ち強迫なり、故に地方官吏は地主が用紙に記入報告の時、

官署より之を調査するときに當ては、應に先づ地主に向ひ詳細に此項商租の事たる、双方熟商せるや否や、其の商量のときに於て平和なりしや否や、又未だ強迫せざるも、地主に於て元來承租人に租與するを好まざるが如きことなきやを詢問し、若し或は承租人が威力を以て壓迫か、或は尙傍人ありて外人の勢力を以て、地主を恐嚇し或は既に商量を経たると雖も、其の裏面に尙一二の辨法ありて、双方の意見實際に於て未だ猶融洽せざるが如きあれば、即ち條文中の商租の商字と相違背するものなるを以て、其の租地を准さざるを可とす、然して地方官吏は又須く平常に於て、租地を商量するの本意を、或は警區により、或は村長副長及紳士等によりて展轉布告し、人民をして盡く是等租地の辨法は、全く双方の熟商を要するものにして、當に双方の熟商を要するのみに非らず其權利は尤も重きを地主に置き、地主に於て一たび同意せられん乎、決して租賃を強迫するの理なし、若し果して強迫に涉るときは、即ち商租條約の商字を根據として承租人を拒絶し、其租地を允さざるものなることを知らしむべし、此の如くなれば商租せらるゝ以前に於て、地主は既に商租の本意を明白にせるを以て、商租の時に至り自然承租人の強迫を受けず、爲めに無數の糾葛を省除し得べし、此れ則ち地方官吏に於て事前に綱繆すべきことなりとす。

又租地には必ず盡く民間の土地たるを要せず、本須知第十一條第十二條の官地公地等の如きは、只明細に調査

し別に窒碍なきときは、均しく租用して可なり、故に本條地主の二字は尙官地公地の主權者を包括して謂ふものにして、只官地公地の主權者にありては、此回の條約及土地商租辦法に對し、民間に比し明白なるを以て、自らの強迫を受けざるのみ、若し民間土地所有權を有する地主に在りては、恐く商租の意義を知らざるにより、外人の欺侮を受け易し、故に上文の解釋は民間一方に重きを置きたるものにして、實は官地公地を租出するときも辦法を同一にし、同じく平和商量すべく、同じく土地主の同意を得べきなり、故に第十一條に委員を派遣して調査せしめ、並に他に需用あらざるときは、方に商租すべきの文あり、又第十二條に従來よりの小作人ありて、未だ小作を退かざるときは、出租するを得ずの文あり、是れ均しく商量の時に於て、官公地の主權者が自ら酌定の上實行するものにして、亦決して人の強迫を受くる能はざるなり。

四、期限は人民の自訂に任せ、三十年を以て極限の期限とす、満期に至り地主に於て商租を好まざるが如きは、自由に停租すべし。

(解釋)本條に云ふ處の租地期限及満期停租とは、地主が皆自主の權を有するなり、本條に據る南滿洲の商租に關する解釋の交換文書の内に云ふ、(第二條所載商租の二字は不過三十年の長期限にして及無條件にて續租するを得ることを含むものと了解すべし)云々の規定は、本より極めて明白なるも、只人民が誤解して不過の二字、及長

期限の三字を抹過して、日本人と商租するときは、必ず三十年を以て期限と爲さるべからざるものとなし、此れが原因となりて、絕對に租出を好まざるものあり、或は出租するときに當りても、期限を磋商し能はざるものと思考するが如きものある等、種々の誤解を生じ、殊に租地事項に於て窒礙を生じ易し、抑も交換文書内の所謂三十年の長期限を過ぎずとは、租地最長の期限を明言したるものにして、即ち三十年を限りとし、三十年以外は一日たりとも多きときは、亦許可する勿れ、三十年以内に於ては、則ち數月乃至一年、或は數年或は十年、二十年乃至二十九年等或は長く、或は短く、承租人の經營事業の各殊異なるに因りて、後來を逆料すべきものにして決して一律に定むる能はず、地主も亦種々の關係に因り後來を逆料すれば亦豈必ずしも二十年を以て期限と定むることを得んや、故に承租人は約若干年間租入すべきやを自問し、地主も亦約若干年間出租し得べきやを自問して、以て均しく商租の時に於て、双方熟商するものとす、但三十年以外に出でざらしむべし、則ち承租人が若干年の商租を爲さんとするとき、地主の意思か或は其若干年の租出に應じ得るや否や、商量の結果若干年と定め、均しく人民間の自ら商訂を行ふべきものとす、交換文書の意味は、只三十年を以て最長の期限となせるものにして絶て必ずしも三十年ならざるべからずとの謂れなし、此租地期限は地主に於て自主者たるべきものなり、交換文内の(無條件而得續租)の七字に至りては、更に誤解を招

き易し、或は第二次續租の時に於て、承租人をして故意に續租せしめ、地主に於て出租の必要有無に關せず、均しく抗避すべからずして、只其の續租に任せざるを得ずとの誤解を來さん、蓋し無條件三字の解釋不明なる處にして、承租人と地主間に於て第一次の商租を爲したる以上は、其第二次は隨意に續租し得るものにして、決して無條件にて續租を准さざることをなしとの疑を生ずべし、誤解を來すこと此の如し、知らず無條件なるものは、國家を指して之を言ふものにして、人民を指して之を言ふに非るなり、凡そ兩國々家條約を訂立する、總ての條文は皆國家と國家との應に遵守すべきものを指したるものにして、決して兩國人民間に於ける辨事の手續を規定せるものにあらず、故に無條件にて續租するを得とは、我國々家が日本人に土地の續租を許すには、決して別に制限の條文を加へずとの謂にして、其の續租のときも總て商租等一切の辨法は、均しく第一次の辨理方法に依る、其第一次の辨理に依りたるものは、即ち第二條の條文に依る辨理なり、既に第二條の條文に依る以上は、別に條文を加ふるの要なし、故に曰ふ無條件而得續租と、是れ承租人と地主間との無條件にはあらざるなり、若し果して承租人と地主間に於て其他何等の制限なく、只承租人が欲するに任せ之を續租するが如きは、則ち亦無條件と云ひて條文の文字と相混せざるべく、當に無商量にて續租するを得とすれば足る、由此云之、則ち無條件三字の意は、自ら明瞭なるべし、而して續租滿限の時に於ても

總て商租一切の辨法は均しく第一次と同じく、仍ほ平和に商量し、仍ほ地主の同意を得べし、若し地主に於て續租を好まざるときは、唯停租するあるのみ、承租人の商量を受け能はざるは、猶第一次商租の時の如し、地主が出租を好まざれば、彼れ承租者たるもの、自ら亦強迫するを得ざるなり、此の滿限停租の時に於ける、地主の自主權なるものは、決して放棄すべからざるものなり。



一九一七年支那外國貿易 (二)

海關歲入

一九一六年度の海關歲入は三七、七六四、三二一海關兩、一九一七年度の歲入全額は三八、一八九、四二九海關兩にして、四二五、二一八海關兩の増收なり。然るに既記の如く一九一六年度の兩の相場は三志三片十六分の十三、一九一七年度に於ては四志三片十六分の十三なるが故に、一九一七年度の増收は、之を金貨に換算して、一、九七九、九九三磅なり。此事たるや爲替相場の激變が如何に物價に影響し且又銀貨本位國の商人が如何に之が爲めに困難せるかを示す所の好個の適例なり。而して此事は後に外國貿易の總計に就きて論述する場合にも現れ来るべし。

更に各種税目に就きて之を見るに、輸入税の増收ありし外、他は悉く減收を示す、即ち一昨年度に比して、

輸入税	増額	九四六、六一七海關兩
輸出税	減額	一六〇、九五〇
沿岸貿易税	同	四八、〇六六
阿片税	同	二八、五三四
噸税	同	一二八、六六九
通過税	同	一〇一、九二一
阿片釐金	同	七一、三五九

銀貨の昂騰は輸入を促進し、輸出を不振ならしめたるを

以て通過税の減收を見たるが、一方、交戦諸國の禁輸並に船舶の缺乏は更に噸税の減收を結果せり、即ち通過税の減收は輸出品の減退に基くなり。各開市場の海關歲入を検するに、滿洲地方は一般に一九一六年度よりも増收にして、東清鐵道の貨車の不足及軍隊の車輛の徵發に原因する運輸の不便並に露貨留相場の下落せるにも拘らず、何れも其増加を見たる所以のものは、一に露西亞の大需要に依るものなるが、更に他の重要な原因は、嘗て冬期間は霜雪に閉ぢ込められたる地方に鐵路開通し、其運賃の安價なりしこと及露西亞行貨物が浦鹽斯德に停滯せし爲め、其通路を大連に求めたることの二なり。膠州に於ける貿易は輸入輸出雙方共良好にして、民政署の設置は貿易の發達に預りて力ありしなり。廣東、拱北、九龍、蒙目、騰越、思茅等に於ては増收を見たるも、其他の開市場に於ては悉く減少せり。

外國貿易

一九一七年度の支那の直接貿易額は、一、〇一二、四五〇、四〇四海關兩にて、海關開設以來の最高記録を示し、前年に比し、一四、二四六、四四二海關兩を増加せり。一九一六年及一九一七兩年年度の貿易額を各年の平均爲替相場を以て英貨に換算する時は、前者は一六五、五八七、五四六磅、後者は二一八、五七三、二七七磅にして、即ち五二、九八五、

七三一磅の増收を示す。然れども支那商人の取引を觀察するは銀兩の點よりするものにして、此の銀兩の額に於ては輸入は、一九一五—一六兩年度よりは激増せるも、輸出は一九一六年度よりは減少せり。更に輸入表を検するに、價格數量共に増加を示せるも、輸出に於ては、茶、胡麻の二種のみが、其價格の減少の其の數量の減退よりも甚だ大なるを見る。即ち特殊にして一時的の原因が此等二品の輸出減少を招來せるものなるが、此事たるや、支那の外國貿易は最も不利なる狀態に於ても驚くべき活力あることを示すものなり。

輸 入

輸入税及釐金支拂の後四月一日迄に其消費の許可ある印度阿片の輸入總額は八四七、三二擔なり、爾後に於ては阿片を貯藏せる倉庫は封印されたるを以て、一切其取引行はれず、而して、一昨年度の報告書にも示せる阿片殘荷の買上げに關する支那政府と阿片商人との間に起れる交渉案件は未だに其の解決を見ず波斯產及其他の阿片殘額、一二、四六三擔は消費用として大連及青島の租借地に輸入せられたり。

綿製品輸入額は一九一六年の一三六、六七九、三八六海關兩より、一五八、九五〇、二六七海關兩に増加し、金貨換算にて、一一、六〇〇、〇〇〇磅の増加を示す。日本製の粗布金巾、綾木綿は大に進歩し、其品質著しく改良せられたり。一昨年及昨年に於ける日本綿製品輸入額を對照すれば左の

如し。

	一九一六年	一九一七年
生金巾	六八六、四七三反	一、六二一、五三五反
生粗布	一九二一、六八七	二、六一六、二八四
綾木綿	九七六、五〇二	一、四一一、四五二
細綾木綿	一、二五一、七〇六	一、四五二、一六九
天竺木綿	七四三、五〇一	九一五、五九一
綿 布	八六、一四八、五六二	一〇六、六四七、四二〇
綿毛布	三五〇、三四二枚	六六三、二六八枚
タオル	一、四〇六、一〇九打	一、六一二、三五九打

如斯日本綿製品は何れも著しく増加せり。

之に反し、米國製粗布は、三五三、七三五反より六五、〇三三反に、綾木綿は、五八、七〇九反より二、九二五反に減じ、唯細綾木綿の七五五反より三、五七三反に増加せるを見るのみ。英國品の輸入の減少は甚しからざるも、白金巾の三、一五八、五三四反より二、二三四、九二六反に下れるを著しきものとす。印度及日本の綿絲の輸入は何れも減少せるが、日本綿絲の減少は主として露西亞よりの需要盛なりしによるものなり。日本更紗の好景氣にて、三九五、五四九反より一、四九七、一七四反に増加したるは、近年まで好況を呈せし露西亞品の輸入杜絶の爲めの其不足を補ひたるものなり。染料を得ること困難なる爲め染色布は盛に要求せられたるの感あり。綿毛の交織品の輸入は各種品を通じて増加し、毛織物類は其價格騰貴せるに係らず盛況を呈し其他の木綿も亦好況なりしが、金屬類の輸入は緩慢なるを

免れざりき。

珈琲の輸入高は、一四、四七五、八六三斤なれども、其中九、六四四、一六八斤を露西亞に再輸出したるを以て、國內にての消費額は差引四、八三一、六九五斤となる。而して一九一六年の消費額は、八二九、七六一斤なり。故に若し事情之を許さんには四、〇〇〇、〇〇〇斤をも再輸出すること不可能に非るなり。麥粉の輸入は前年に比して三倍額となりガソリンは、六八五、九〇六ガロンより、一、一八三、八九五ガロンに増加せり。上海に於けるガソリンの小賣相場は一ガロンに付一弗〇五仙なるが、これ船腹不足の爲め充分の供給を受くの能はざるによるなり。液體燃料の需要益々多く、主として發動機船に使用し、其輸入額は、五、一八三噸より、一八、二六一噸に増加せり。マツチの輸入が、二〇、六二〇、七二七グロスより、一五、五九四、三二〇グロスに減少せることは支那製マツチと外國製マツチとの競争の劇烈となれることを示す。亞米利加、ボルネオ、日本及露西亞產の燈用油の輸入は凡て減少せるも、獨りスマトラ油のみは、一九、二〇四、五六九ガロンより、三三、六三三、三四六ガロンに増加し、又植物油は、二、〇四三、八六四ガロンより、五六四、一六二ガロンに減じ、鐵道材料も殆ど五割減を示せり。樽板の輸入増加は、桐油其他の油類の輸出増加に原因するものなり。硬質材は増加せるも、軟質材は太平洋航行の船舶不足の結果約三分の一に減退せり。機關車及炭水車は前年度は、一四、一八六、八一九海關兩輸入せられしも、本年度に於ては、三、五七八、一一四海關兩に減じた

り。自動車の需要も次第に増加しつつあり、此の際運輸機關として自動車を使用する爲めに良好なる道路を設備することは、今日まで交通機關の不備に依りて速かなる發達を遂ぐる能はざりし支那貿易を増進せしむるに預りて力あるべし、是れ支那人の自覺を要する所なり。雜貨の輸入全額は、前年度の三三六、五二三、三一四海關兩なるに比して、本年度に於ては、三四八、五二三、三一四海關兩なり。

(未完)





雜錄

英國の對支政策 (一)

英 國 ブ ラ ン ド

西紀一八三四年英國が東印度會社獨專權を廢止せしよりの英國と支那との關係を通觀するに、自ら一事實の歴然として存立せるものあるを知り得可し、即ち英支貿易是れなり。抑英支貿易に對する英國の抱負の大なるは、炳として明かなる所、事實の屢々此を證明せるが如し、雖然國家的見地よりすれば、之れが發展に傾倒隨伴せし諸種の犠牲、並に危險と其の効果とは、必ずしも相伴ふものに非るは、統計の明示する所なり、即ち一九一〇年英國輸出總額五三、四、一四五、八一七磅中、支那に對する額は僅かに九、三二七、一二二磅、即ち貳%にも足らず、又輸入總額六八七、〇〇〇、〇〇〇磅に對する支那よりの輸入額は五、二〇〇、〇〇〇磅にして、即ち壹%にも及ばざること遠し、此事實より

するも其の効果を推するに難からず、元來英國は輿論の國にして、國防の如き該切問題は自ら別なるも、其他の對外政策は、一に貿易業者の意向及び利害關係を斟酌し來れるものなれば、其貿易關係の密接ならざる國家及び此に對する其輿論の盛ならざる國家に對しては、英政府の政策は決して積極的なるを認むる能はざるなり。

東印度會社廢止以來、約廿五年間即ち十九世紀の後半に於ける、英帝國の對支政策はバルメレストン卿が當時國內に瀰漫せし輿論に従ひ、支那帝國に一大市場を開發し、大々の販路を此の土に求めむとの政策を遂行せり、一八四二年及び一八五八年兩度の戰役は、此の廣汎なる大市場を開發し、又保護せむが爲めに企てられたるものにして、當

時英國は何處にも商敵を發見せざりしは勿論、當時の亞細亞には何等の世界政策なるもの存立せざりき、一八九四年日清戦争によりて、中國の孤立せるに乘じて、領土的野心を伸し得ることを預知せしむるに到る迄の英國の對支政策は、一に貿易業者及び宣教師の利益を保護擴張するに在りき、然れども天津條約によりて商權を確保せし、第二戦争後從來の英國外務省の政策に、漸次變化を來し、北京に於ける英國公使館の設置、即ち直接外交關係の開始が、當時英支問題を研究せる人々に、一つの確信を齎らすに到れり即ち支那に於ては商權に確實に保持するを得んには、敢て他の勢力の侵入を恐るゝに及ばずてふことはなり、然るに一八六二年七月英國最初の駐支公使が、左の如き報告を爲せるは注目に値す、即ち『支那の如き國と締結せる條約は、種々困難なる問題なる問題に終結を與ふるものに非ずして、反て煩雜なる問題を惹起するの始め也』と、抑々當時北京に於て有力なりし外交團は、僅かに英佛露米の四ヶ國にして、當時の十五開港の商權は殆んど英國に掌握せられたる有様なりき、然るに英政府は長髮賊の亂に際し、支那官吏の反感を買ひ、彼等は極力英國に對する開港に反對し前後二回の戦争によりて獲得せし商權は、徐々として衰へ時のサー、フレデリック、ブルース氏の文書は、明かに對支貿易の赫々たる夢想の幻滅せることを示せり、一八五八年天津條約後十年間の支那英國公使館の文書は、悉く對支政策の失敗を物語り、當時英國下院に於ては長き間フレデリック氏は批難の的と爲されたり、此に對し氏は無援の抗辯

をなし無益の説明を爲したり、抑々氏は支那に於ける分割運動の既に萌芽を出せること、滿洲朝廷の政治の固有の弱點、支那に於ける列強の共同行爲を保證することの不可能及び其の列強の利害相反する所より起る争闘が、やがて支那より利用せらるゝ所となる等の事は、明白に了知したる所なり、故に一八六一年彼が通信にも『支那帝國の積弱は總て新たな東洋問題を惹起する傾向あり』と言へり、如斯にして、外交手段も將た又、貿易業者の企圖も無神經にして惰性的なる支那官吏の迫害に對しては、何等策の施す可き餘地なく、英政府商務省の鞭達指導並に各貿易業者の請願に對して、更に一層の努力を試みたる英公使の苦心も水泡に歸し、天津條約は破棄せられ、不當の課税亦免るゝ能はざりき。此時に際しバルメルストン卿は、外務省を去り支那に對しては自由放任主義を採用するに至りたり。

先づ一八六二年英國外務省は、支那國內の經濟に對して好意的の不干渉主義を採りたる第一の實現として、先年辛うじて獲得せる内地航行權及び内地居住權の行使を英國商人に禁じたり、次で翌年ルツセル卿は上海商業會議所に對して、『英國臣民と支那政府及び國民間の衝突を力めて減少することは、吾人の望む所也』と通知せり。

放任主義政策

ジョン、ブライト氏が貿易局に在りて、其の對支政策を行ふに當りては、支那に就きては何等了解する所なき、單なる感情人道主義に則り、極東に於けるバルメルストン

卿の政策を激勵せし、帝國主義を排斥せし結果、所謂切觸衝突の諸點には正しく日に減退したるも、英國商人の活動は峻嚴なる壓迫を蒙るに至れり、支那の事情に對して先見の明あり、且公平なる意見を持するアレキサンダー、マチエ氏は此の英國政策の危機に言及して、曰く『外交關係の最初の十年間の終期に於ける、外交官並に領事官の事務上の變化は之を朝日の昇り、夕陽の沒するにも且又潮の満干にも譬ふるを得可し、外務當局は無神經となり、無脊推動物となり、又感情に支配せられ一定の方針を缺きたり、斯くして無情冷酷は其の主義方針と爲り、如何なる犠牲を拂ふも、平和を保持するてふことは、支那に於ける英國外交政策の根本方針たるに至れり』と、要之に一八七〇年以後支那問題は英國政治家の頭痛の種となり、北京は數多の外交家の或は名聲を博し、或は骨を埋むる墳墓の地たる觀を呈するに至りぬ、然るに一方英國の利權を強制的に認知せしめられたることよりも、寧ろ他列強の活動により刺戟せられ、且種々の誤解に基きて助長せられたる激動的發作屢々起れり、而して此等の發作は、或は支那人慰撫の努力となり、或は漸次に條約によりて與へられたる外國の利權の還附運動となりたり、是れ不干渉主義の確定的方針に對する違反にして、且各其利權防護の爲めに相爭ふは收支相償はざるに依るなり。

要之に一八九七年條約及び關稅改正の聲盛なる當時の英國對支政策の結果を観察するに、先づ當時支那の開市場にありし、英國商人が關稅改革の曉に於て、必要なりと思惟

して、支那政府に要求せし立法上の種々なる特許、若くは讓與は、一八七〇年上海商業會議所の提出に懸かる要求とは少しく相違あり、而して其の際會議所よりクラレンドム卿に輸されたる覺書中にある、兩國商議の焦點たりし條項は、不満足にも今日尙發表の儘にして、而も此の諸點は現今にありては當時殆んど何等の變更なくして通過したるものと信せらるゝが如し、斯る状態は東洋に於ける英國政府の行爲、又は不行爲の結果によりて生じたるものなるが、當時の英國商人の企業心の缺乏は、實に驚くべきものありき、さればコンサル氏は最近『支那貿易報告書』中に此の事に言及して、曰く『英國商人の要求の全く無視せられ、若くは曖昧裡に拋棄せられ、且北京公使館及び本國何れの援助をも得る望の絶えたるを知らば、支那に於ける過去の秩序正しく、又よく指導せられたる活動の歴史を有する彼等貿易業者が、今や無情冷淡無視棄却の狀態に迄沈淪せるを見て、敢て驚く可しと爲す可きや否や、新企業計畫の危険を危懼して、彼等が打揃うて仲介商たらんとするの傾向は、又以て不可思議と爲すべきか、支那の富源に比して英國の貿易額の殆んど意義をなさざる低度に留るは、敢て驚くを要せざるに非ずや云々』と。

彼は尙も語を次ぎて曰く、『一八六九年サー、アール、アルコック氏の未批准のまゝなる假協約、若くはクラレンドム卿ノ文書を一瞥すれば、直ちに當時の政策を明かに知ることを得可し、即ち其は唯に其の直接の結果に於て、退嬰的且致命的なるのみならず、特に爾後該政策は在支英國領事

の職務遂行上に影響し、引いて英國の利益を損害せること、決して尠少にあらず、而して此の自由放任主義的態度は、アルコック氏及びサー・トーマス・ウエード氏等の下に養成せられたる、外交官の腦裏に浸潤すること深かりし爲め、在支英國官憲間に於ては、今日に至るも猶多少クラレンドム卿及びラッセル氏の訓示を反映せしむるものあり」と。

支那に於ける世界政策の發展

前述の如く一八六〇年代に於ける英國政府の鮮明なる政策、即ち帝國主義により、若くは放任主義によりては、到底支那大貿易を創始するの不可能なることを經驗するに至れると同時に、他方に於ては支那の能力を認めて、支那自身をして其富源を開發せしむる政策を講ずること、寧ろ良策なるを悟るに至れり、然れども此等の覺醒の過程と極東に於ける英國商權の凋落とは、同時に又支那は政治問題中必要素として、重要な地位を占むるものなることを確認せしめたり、政治問題とは何ぞ、亞細亞帝國としての英國是れなり。

如是、全然新見地に基く新政策を採れる英國は、漸次支那市場の將來有望なるを認め、若し支那にして一度鐵道政策によりて交通を便ならしめ、教育行政の完備によりて、國民教育を普及せしめば、世界の公開市場として支那は其の有望なること實に圖り知る可からざるものあるべく、今にして英國が此の爲めに盡さむか、嘗に公開市場としての支那帝國を保全し得るのみならず、又英國の商業的優越權

を確保し得可しと思惟するに至れり、況んや已に一八六〇年以後の英國は、軍事的冒險に關する希望を拋棄せるのみならず、領土的野心に至りては始めより是れ無かりしに於ておや、香港は商業上の出店にして、其の目的を以て獲得せるものなり、威海衛は最高程度の勢力範圍として租借せられたるも、此は單なる失錯に過ぎず、而も列國に倣ひて租借したるものにして、會々英國は列強の無視する能はざるものなることを證明せるなり、要之に一八六〇年より十九世紀の末葉迄の、英國の對支政策は、實に其商權維持なる點に集中せられたるなり、其の努力や誠に嘉す可きも或は吾人の黨派政策に基き、或は無能公使を派遣することにより、或は領事事務に於て陋固として袂けざる舊習に捉へらるる等の事由に基きて、其の最高政策常に動搖して、一定の主義を貫かざりし爲め、其の努力も比較的僅少の効果を收むるに過ぎざりき、支那に於ては武力的背景を以てせざれば、外交政策のみにては到底天津條約の自由通商權を其内部に及すこと能はず、又北京政府に對する如何なる忠告も、將た又強迫も敢て意とせざるのみか、内地の障壁たる釐金税をも廢止せず、英國公使は自國商人の利益保護と、支那政府の因通姑息策との間に立ちて、進退維谷り其の威嚴を傷け不愉快を極めたり。

斯くて北京外交團は其の成立の初期に於て、最惠國條款及び其他の保護手段を有する諸條約國は、協同政策なるものを講ずるに至れり、雖然此の舉たるや、各國公使の無能を糊塗するに過ぎずして、其の効果を見ざりき。

されば英國公使よりも、不平少き合衆國公使すら、此を以て「羽根蒲團を打つ」に比し、其の他の諸公使等も、此等の外交的行動を目して、膠質物を鋸を以て壁に張りつくるが如しと云へり、當時の言論戰の跡を顧みるに、支那政府を救済することの如何に困難なりしかを知るに足る、支那の東方及び北方を脅かす、暗雲の徂徠急なるを以て、自強の策を講ずること及び、支那貿易を盛大ならしむることは一に懸りて彼等の義務職責を果すに在る旨を、滿洲並に支那官憲に説服せしも、英國の希望は空しく水泡に歸したり、「脅迫に對しては直ちに服従するにも拘らず、道理に對しては、決して服従せず」といふ、支那人今日の慣習にして、エルジン卿時代と何等異なるなし、歴代の英國公使は支那官憲の組織的なる義務履行通避策を忍びつゝ、支那の爲めに軍事財政、並に行政の改革を極力勸告したり。

一八六〇年時の支那に於ける貿易、並に其他の事項に關する英國の利害關係と、一八九〇年の上海商業會議所の行動、及び諸新聞の論調に表はれたる態度と比較する時は、疑もなく漸次覺醒に赴けるを了解し得可し、然るに一八九五年以後、所謂世界政策は支那帝國に對して暗々裡に其の影を投げ初め、條約に基く英國商人、並に宣教師の利益は、漸次増加したれば英國の外交政策は革新時期に入ると同時に、更に一層の複雑を來さざるを得ざりき、從て英國の輿論は、茲に再び活氣を呈して、支那に於ける活動を鼓舞するに至れり、宜なる哉、日清戰後、三國干涉、露國の極東政策等の事件頻發する迄は、英國外務省の屬僚は、支那

に對して四億萬の雜種族の住居せる、而して兇兒鳥の巢を常食とする、人民の住める國にして、今や將に轉覆の厄に遭はんとする國なりとの、曖昧なる觀念を有するに過ぎざりき、然るに彼の膠州灣占領事件、及び一八九八年の利權爭奪戰以後は、輿論は以て支那を與し易く、理解し易き國なりとし、露國の太平洋に出でんとする確固たる野心、獨逸の東洋に於ける領土的野心、邊境威嚇及び新販路開拓問題等は、相伴ひて、鐵道建設、鑛山發掘等によりて、永く閉鎖されたる支那内部の世界的開放を達す可き革新機運を招致せり。

地方的利害關係の及ぼせる 有力なる影響

此の時に當りて世界の耳目は、支那の事件に興味を感ずるに至り、一八六〇年以來英國の行へる政策は、其の國家主義及び帝國主義を有効に實行し、且組成せしむるに永久の障害物となりしことは、英國及び支那の識者の認むる所と爲れり、元來支那貿易の當初は、其の取扱ふ商品の數も僅かにして、且其貿易は二、三の英人の手によりて當時の開港場に於て行はれたるものなりしが、漸次變化して數個の有力なる商館によりて、勢力ある地方的利害關係を形成するに至れり、支那貿易の特徴たる商品の單純なること、及び一地方に集中せることは、茲に二つの結果の齎らすに至れり、即ち一は支那に於ける英國の官憲の利益を制限し、他は其地に於ける有力なる輿論の團體を缺ける爲め、其の政策は主として支那の事情に造詣深き個人、又は商會等の

忠告によりたること此なり、從て自然的結果として、其地に永住して種々なる經驗を嘗めたる人は、其國の事情及び其の國の要求する所に關する、正當にして最善の判斷を爲し得るものなり、而して公使館にも外務省にも、東洋に特有なる商業上、財政上の問題に精通する士を有せざるを以て、該商會又は個人は、屢々諸問題に對する意見を求めらるる状態なりき、此の種の方法は、或る事情の下に、又或る相當なる制限内に於ては、著しき特長利益を有するものにして、例へば“*The China Association*”の如き、永年英國の政治並に經濟に貢獻する所甚だ大にして、個人の典型的人物を擧げんか、ガンドリー氏、ジー、エル、スコット氏、サー、チャールズ、ダッヂョン氏の如きにして、何れも其の公共的義務の念、及び愛國心は、個人的利害關係を超越して、帝國主義の政策でふ、廣汎なる見地に立ちて、觀察を怠らざりし人々なり、而して支那に於ける英國の利益が、主として商業方面に限らるゝ間は、(少くとも一八九〇年頃迄は然り)條約港に於ける海運業、銀行業、或は貿易業が英國の政策に及ぼしたる影響の一般的に有利なりしは、寧ろ自然的なりと雖も、極東問題が彌々複雑となり、世界政策の圈内に入るに及びては、外見上家族的といはんよりは寧ろ地方的色彩を帯びたる、從來の利害關係は、外交政策上反て障害となり、國家の危險及び詭弱を醸さしむる原因と爲るに至れり、尤も英支關係の初期にありても、有力なる支那人より與へられたる、私人的利益と帝國政策上よりする國家的利益との相違點は、屢々批評せられたる所にして、

シエラルト、オスボルン大佐は支那政府の天津條約破棄に言及して曰く、

『豫期せざる不信行爲に驚かされたる、英國の社會は、此の悲劇の説明を支那に最も永く居住せる人々に求めたり、當時吾人は支那に於ける、英國の利害關係が、却つて英國政府、而して其の實行的能力、及び英國民の健全なる輿論を痲痺せしめたるを目撃せり、而して不思議にも彼等は、階級的利益と帝國の利益と、其の何れを選ぶ可きやに就きて逡巡せり、エルデン卿すらも、彼が吾が英國を去る時に當りて、此の利權を背景とする跋扈せる勢力に對して、媚を呈せざる可からざりき、而して此は管にエルデン卿に於けるのみならず、到る處凡ての形態に於て、目撃せられたる所なり、元來支那貿易に従事する、英國商人の數は僅少なりしも、彼等は極めて富裕にして莫大なる利益を獲得したり、數年毎に其社員に五萬磅乃至十萬磅を與へて、之を隱退せしめ得る所の商會は、大英帝國に於ける家族的關係社會的並地方的位置に於て、決して之等の地位を占むるものに非ず、故に彼等が爲しつゝある所の商戰、及び彼等の利益防護の爲めに爲されたる尤もらしき議論は、英國の政治家をして、不徹底なる中間的行動を採らしめ、遂に今日の失敗を爲さしめたり、』(Recently Events and Present Politics in China By J. O. P. Bland.) (未完)

日本の對支政策 (下)

米 國 カ ル ク ロ ウ

一九〇七年、日露兩國間に締結せられたる、支那に關する協約第二條に曰く、「兩締約國は清帝國の獨立及領土保全並清國に於ける列國の商工業に對する機會均等主義を確實にして、以て清國に於ける列國の共通利益を維持し、能ふ限りの平和手段を以て此の主義を尊敬すること」と。

同一の主義は一九〇八年十一月三十日、日米兩國間に締結せられたる協約中にも發見し得べし。其の一節に曰く

「兩國政府の政策は何等侵略的傾向に制せらるゝことなく前記方面(太平洋)に於ける現状維持及清國に於ける商工業の機會均等主義の擁護を目的とす」と。

又他の節に於て再び此の主義を肯定して曰く

「兩國政府は又其の權内に屬する、一切の平和手段に依り清國の獨立及領土保全、並同帝國に於ける列國の商工業に對する機會均等主義を支持し、以て清國に於ける列國の共通利益を保存するの決意を有す」と。

一九〇七年の日佛協約中にも、次の如き文言を發見し得べし、「日本國政府及佛蘭西國政府は、清國の獨立及領土保全並清國に於て各國の商業、臣民又は人民に對する均等待遇の主義を尊重する事に同意なるに依り」云々。

日本は特に自己の誓言に於て、門戸開放主義を尊敬する

爲めのみならず、現實にそれを破らんと欲する處の他國に對し、此の主義を防護するが爲めに努力を惜まざりき、然れども日本は之等の誓言の或るものに捺印したる時に、既に支那の獨立と保全とに、攻撃を加へ、爾後引續きて此等の誓言及協約を破り、かくて屢々違約行爲を繰返したる後遂に増長して一九一五年の前年に於ける破廉恥の要求を爲すに至りたり、此門戸開放主義に對する日本の最近の妨害を論するに先立ち、二三の日本の其の以前の侵掠即ち其の最近の侵害よりも輕微なる條約上の約束の侵害につき、一言するは又以つて事實の真相を知るの便となるべし。

一九〇五年調印せられたる、ポーツマウス條約の一節に「日本國及露西亞國は、清國が滿洲の商工業を發達せしめんが爲、列國に共通する一般の措置を執るに方り、之を阻礙せざることを互に約す」る旨規定せり。此の句は支那に對し、滿洲を開發し、日露の侵掠により失はれたる權力、及名聲を回復するの機會を與ふる事を規定したるものなるべしと豫想せられたり、然れども此條約の締結後數ヶ月を出でずして、日本は支那と他の條約を締結し、其の條約により支那は南滿鐵道を回收するに先立ち、此鐵道の附近又は之に並行して、鐵道幹線を建設する事、及び南滿鐵道の

利益を害する虞ある支線を建設する事なかる可き旨の約束を爲すことを強制せられたり、支那は此の條約の文言を限定的に解釋して、南滿鐵道より一定の距離の地域内に限るものと主張したりと雖も、日本は此の條約は如此限定的のものには非ずと宣言せり、日本は其後次第に此の條約の意味を擴張し、日本資本家により計劃せらるゝもの、外、滿洲に於ける鐵道の發達を阻止せんと主張を爲すに至りたり、此の如きは滿洲に於ける鐵道事業を支配せんとする、日本の久しき以前より計劃せられ、又確乎たる野戰の開始にして、最近に至り支那と一九一五年の條約を締結して、遂に此の目的を完徹する事を得たり、前に締結せられたる條約は多數の機會に於て、外國資本家により計劃せられたる滿洲鐵道の建設を阻止したるのみならず、支那資本家により計劃せられたるものをも阻止するに用ゐられたり。

國務卿ノックス氏により爲された提議は、ポーツマウス條約の條項及誓言を効果あるものとなしたりと雖も、遂に日本により反對せられ破毀せらるゝに至りたり、實に此提議の効果は、日本と露國とを接近せしめ、米の干涉に對する日本の怨恨の情を増加したるに止まれり、日本と露國とは此提議を以て、米の滿洲侵略の第一歩となし、大に驚きて直ちに密約を結びて、兩國間に滿洲と蒙古とを分ち、相互に之等の地方に於てなさんとする侵略的計劃に就き、援助し合ふ事を誓ひたり、兩國は滿洲に於ける鐵道を、軍事上の目的の爲めに使用する事なかる可しと云ふ、ポーツマウス條約の條項を廢棄し、且つ日本が主唱してポーツマ

ウス條約が擁護せんと企てたる權利を徐々に侵略する事を始めたり。

日露間の此の條約は十分なる了解のなされたる商議の結果、一九一〇年七月四日調印せられたり、爾來日本は支那に對して侵略的政策を行ひ、絶えず爭鬭の原因を索るに努め、且支那をして日本に對抗するの無益なる事を自覺せしむるに努めたり、此の政策は多數の事件につき顯はれ居りたり、其個々の事件に就きて見る時は、誠に瑣々たるものなりと雖も、全事件を通じ全體として見る時は、日本が支那を弱き從屬的の國家として取扱ふ事を主張せる、確乎たる侵略的政策を認め得可し。

一九一一年九月十一日京奉鐵道昌黎停車場に於て、二三の日本兵が、支那行商人より果物を盗みたり、彼等は支那警官により、其の行爲を妨げられ口論の後盜品を奪還せられたり、兵士は復讐の拾白科を残して立去りたり、其夜彼等は再び來りて、他の行商人と爭鬭を始め、暴行をなしたるを以て、遂に警官の干涉を見るに至れり、數分の後約四十人の武裝したる日本兵士が顯はれ、停車場を包圍し、其隊の指揮官と覺しき者が、其の停車場の支那官吏に對し、其朝盜行爲を妨止したる警官の引渡を請求したり、支那官吏は一時の難を免るゝため、翌朝巡査監督官の出動したる後再び來たらむ事を求めたり、此答辯に對し日本士官は大に怒り、その支那人に一刀を浴びせ、尙その身體に連發拳銃を打ち込みたり、次で其の士官は部下に命じて支那官吏及び市民の群に對し、三度一齊射撃をなさしめ、其の結

五千弗宛を受取りたり。

此の事件に關する説明は、その後の成行を附説するの要あり、張勳將軍は眞の東洋流の狡計を以つて、日本人が彼の謝罪及び彼の部下の軍隊の捧銃の禮より受くる事を得可かりし満足の裏を搔きたり、彼が謝罪を爲さんとして出發したる日に、此の日を以て謝罪の日となし、南京に於ける凡ての外國領事館に至りて凡てに對して謝罪し、凡てに對して捧銃の禮を行ひたり。

一九一四年八月十七日、支那の豫備警官隊が Chinchen に近き滿洲の森林中に於て山賊團と爭鬪をなし居りし處へ、日本軍隊が通りかゝりたり、日本軍隊は攻撃せらるゝものと誤解し、支那軍隊に對して砲火を開き三人を殺し十人を傷けたり、此際日本人は二人負傷せり、然れども其傷は警官隊の發したる彈丸によるか、將又山賊の發したる彈丸によるかを決定するは困難なりき、然し六人の警官は、日本軍隊に羅致せられ、日本軍隊の分遣隊は、日本が條約により鐵道守備隊を駐屯する事を許されたる地域以外に屬する遼陽に派遣せり、支那は警官を處罰し、警官を指揮せる士官を免職し、遼陽及び Taoubu に於ける衛戍隊長に轉任を命し、負傷したる日本兵に對し、一萬二千弗の慰藉料を支拂ふべしとの要求を容れたり、他の場合に於けると同じく、遼陽に兵を派遣したるは、支那を威嚇して此の事件に終局をつぐるが爲めにせられたる處なりしが、日本は今日に至るもの尙その軍隊を撤退せず。

上述の如き事件の表は續くれば際限のなきことたり、然

しかゝる事件は、其の數甚多く殆ど枚舉に暇なき程にして其等の凡てに於て、日本は正當の理由なき賠償、及び謝罪即ち過分にして、峻嚴なる要求をなしたり、尙茲に今一つの例を舉げん、一九一二年支那はその締盟國に對し、關稅表は一八九九年以前に於ける、日本の關稅表の如きものなりし故、改正せん事を提議せり、支那の關稅率は輸出輸入共に、名義上五分なりしも之は輸入品に對しては、十年前輸出品に對しては五十年前に作られたる貨物の標準評價に基きて、徵集せらるるなり、貨物の價格は其當時に比し、大に變動せり、其結果支那は當然受く可き關稅歳入を受くの事能はざる也、支那が現在徵集する額は、現在の貨物の價格に基きて徵集せらるゝ額に比すれば、甚小額にして因つて來る損失は、輸入のみに就て云ふも年々五百萬弗を下らざる有様なり。

此提議に對しては何等正當の反對はなき筈なり、實に各條約中には關稅表は十年毎に改正せらるべき旨規定せられ居れり、英、米は直ちに此の提議に賛成せり、佛、獨、露は種々考究の後賛成せり、然るに日本は躊躇し、其回答を爲すことを避けたるのみならず、遂に反對の提議をなして、此の改正事業を妨止する事に成功せり、日本が固執したる反對の提議の一是、支那は日本貨物に對し支那製又は支那產の貨物と同様に取扱ふの特權を與ふ可しと云ふ事なりき、諸列強と、支那との間の條約は、何れも最惠國條款を有せるが故に、此の提議は支那工業界の全滅と、國家の破産とを意味するものなり、此提議にして容れられんか、支那

は關稅收入の大部分を失ふに至る可ければなり、此の提議及び之と同等に不正なる提議により、日本は關稅改正を妨げんとし、歐洲戰爭の開始せられたる當時、尙を此の計劃の遂行に關し論争を重ね居りたり。

以上述べたる各事件より唯一の結論を引き出し得可し、即ち極東に於ける事件の、公平なる研究者が、總て懷ける處のものにして、日本は柔弱なる支那の膏血を絞り、其隣邦より自國の繁榮の爲めにあらゆる利益を奪はんと決心し居れりと云ふ結論之なり、日本は調印したる條約の、精神に違背したる事一再にして止まらず、又支那政府に對し、セルビヤに對する奧太利の要求よりも、一層屈辱的にして不正なる要求をなしたり、支那は之等の要求を拒絶する事は日本が切望せる争を惹起するの因となるに止る事を知れるが故に、常に其の要求を容れたり、支那側に於ける行爲にして、日本に對し害意ありと解釋せられ得る行爲は、日本に益々其要求を大にする機會を與へ、若は國家の侵入及其軍事的征服に對する口實を供するなり。

支那との永き間の關係に於て、凡ての事件を通覽するに日本は豺狼あくなき侵略的精神の外何物をも示したる事なし、日本は總ての機會を利用して、支那政府を侮辱し、日本の優勢を確言し、且支那人の前に、其陸海軍の偉大を誇示する事に力めたり、日本は主義一定して、支那の改新を妨げ、北京政府の威名を弱め、内亂を助成せんと力めたり、凡て此等の事たるやもし門戶開放主義がモンロー主義と同一く、強國は弱國より利益を求む可らずと云ふ意味を

含み居るものとせば、正に此の門戶開放主義の精神に違背するものなりと云ふ可し、然れども日本は依然として、此主義の反對の主義、即ちベルンハルデー主義、換言せば弱國を壓迫し支配するは強國の運命なりと云ふ主義を執り居れり。(Japan and America by Carl Crow.)



英國對支貿易論 (一)

香港大學教授

シー、エー、ミツドルトン、スミス

(C. A. Middleton Smith)

本論文は客臘より引續き倫敦タイムズ商業附録に連載されたるものにして、之に依り在支那英人が對支貿易に對する所見を窺知するに足らむ。(譯者識)

第一章 英國對支貿易の前途

一、緒言

二、支那棉絲紡織業の發達と我對支貿易

(一) 支那紡織業の發達と機械の需要、(二) 支那棉増加とランカシャーの關係、

三、新事業の勃興と東亞の商戰

(一) 機械輸入は貿易伸張の先驅、(二) 日本は英國の強敵

四、戰後に於ける支那産業の發達

(一) 支那參戰の意義、(二) 内政改革と産業の發達

五、支那鐵業の發達と我對支貿易

六、産業改良と我對支貿易

(一) 産業改良の教訓、(二) 英支合辦と對支貿易伸張の機運

一 緒言

支那の貿易と云へば、其輸入品として阿片棉製品を聯想し、輸出品として茶生糸を想起するは、英人の常なるが、

此四種の商品は實に、過去に於て支那輸出入貿易の大宗たりしものなりき。然れども支那の對外貿易は最近に於て、著しき變化を示し來り、今や此等輸出入貨物の外、幾多の貨物が年々多量に輸出入されつゝあるものにして、即ち吾人が本論文を草するに至れるは、英國對支貿易の過去に於ける成功の原因を闡明するに存せずして、實は其將來に於ける好機會を讀者に紹介せんとするに在り。

二 支那棉糸紡織業の發達と我對支貿易

(一) 支那紡織業の發達と機械の需要

近年支那に於ける棉糸紡織事業の設立、歲と共に多きを加へ、其將來に於ける發達迅速にして、遂に全國に普及すべき形勢あり、而して此點に就き、日本の事業家は既に此種事業の發達到底停止すべからざるを認め、之が對應策として、自ら支那に於ける紡織事業に従事するに至り、英人亦上海地方に、紡績工場を設立經營するに至りぬ、是を以つて上海は、實に將來支那のリバークールたり、マンチエスターたるべき、幾多の徵證を示しつゝあるを見る。莫庶吾人は之が爲に、支那に對する棉製品の輸入が、將

來急激に減少して、遂に停止するに至るべきを憂ふるものに非ず、却つて之に依り東亞に於ては、既に紡織業所要の機械類に對する需要極めて大に、且其需要將來急速に増加すべきを力説せむとするものなり。即ち上海附近の紡績工場は、孰れも最新式の機械設備を有し、低廉なる電力を利用し、而も極めて安價なる土人の勞力を使用しつゝあるのみならず、此等工場は、現在英國工場が商務省の下に蒙りつゝあるが如き、極端なる官憲の監督を受けるものに非ざるが故に、其四圍の狀況は、上海に於ける紡織事業の發達に對し、極めて好都合なりと云ふを得べし。

(二) 棉花栽培の發達とランカシャーの商機

一九一六年に於ける支那棉の收穫は頗る良好にして、而も支那棉の價格は、世界中にて最も低廉なりき。然るに上海に紡織工場設立せられて以來、此支那棉は八割以上の暴騰を來せり、而して是れ主として、世界的の棉價暴騰の影響を蒙れるに因るは、勿論なりと雖も、之が爲に支那に於ける棉花の栽培を奨励したるは事實なりとす。一九一一年には棉花検査所の設立を見たりしが、支那に於ては不幸にして、棉花に關する不正手段の防遏を目的とする立法、尙未だ成立せず、爲に奸商輩は到る處其品質を粗惡にして、不正の利得を貪りつゝあり、加之支那の紡織業は現に惡税の爲に著しく其發達を阻礙されつゝあり。

支那海關統計課秘書テラー氏 (Mr. Taylor) の言ふ所に依れば、若支那の地方事情にして改善されんか、其棉花及び棉製品の產額、優に印度に比して遜色を見ざるに至るべ

きは疑を容れざる所なりと。

果して然りとせば、支那の紡織業が此域に達する迄の間には、諸種の機械類の需要極めて多かるべく、而も此等高價なる機械は悉く日本、合衆國又は歐洲諸國より、之を輸入せざるべからざるは勿論にして、之が爲に將來ランカシャー機械業者の、此地方に於ける商機極めて大なるものあるべし。

三 新事業の勃興と東亞の商戰

(一) 機械輸入は貿易伸展の先驅也

紡織業の外支那に於ては將來、各種産業發達の兆あり、即ち現在支那が將に工業時代に入らむとする初期に在るものにして、従つて今後軌條機械類の需要は、歲と共に益増加すべく、既に紡織、製粉、製革、冷蔵業、電燈電力等の諸工業の設立せらるゝもの年々増加し、此等所要の機械設備は、到る處之を外國より輸入しつゝあるを見る、而して此等機械の一臺を供給したるものは即ち、其長所を實地廣告するの便宜を有し、而も支那人は其目撃する機械設備の價值を、會得するに際しては、極めて鋭敏なるが故に、今や支那富豪の子弟にして、内國各地の大學に入り工科の學問を研究せるもの極めて多く、且其海外に留學する者も亦決して少からず、惟ふに彼等は猶未だ實地的經驗に乏しと雖も、其支那に於ける近世機械利用の宣傳者たり得べきは、更に疑を容れざる所なりとす。

是を以つて近年支那人の經營する工場の数、到る處に増

加し、廣東に就きて見るも、其工場は孰れも成功し、其製出する綿莫大小の肌衣股引其他靴下等は、到る處需要大に就中綿莫大小白靴下の如きは、一足に付價格墨銀二十仙なりとす。

(二)日本は支那市場に於ける英國の強敵也

一九一六年度の支那貿易に付き、最も注目すべき事實は即ち日本よりの輸入が激増せる一事にして、確なる筋の言に依るに、其輸入額は遙に英米二國を凌駕する所あり、而して日本が綿製品の競走に於て着々成功しつつあるは、到る處之を覺知し得べしと同時に、其支那に對する電機類の供給亦近年著しき増加を示し來れり。此點に於て英國は將來支那の産業大改革に際し、東亞の活動場裡に於て、強大なる商敵に對抗すべき運命を有するに至れり。

惟ふに支那開發の初期に在りては、交通其他の目的に供せらるべき、鐵道、船舶、機械、軌條等の所謂文明的機械類の輸入は殆ど英人の獨占到屬したるものにして、其取扱に従事したるものは、即ち英國の機械製造家及び造船業者に限られたりき。然るに其後諸國の貿易業者は、此等英人の齎せる報告に依りて、漸次其注意を支那に集中するに至り、就中日本は支那市場に於ける、科學的且有力なる競爭者として其商戰に對する諸般の準備を整へ、今や孜孜として商權獲得に努力しつつあるものなり。

然りと雖も幸にして、支那の需要は極めて大に、其將來に於ける商機從つて頗る多きが故に、英國製造業者は單に支那に於ける競爭者の多き一事を以つて、決して失望すべ

きに非ざる也。

四 戰後に於ける支那産業の發達

(一)支那參戰の産業發達に於ける意義

支那の開發史上最も注意すべき事項は、海關制度の確立と、鐵道の創設並に新式方法に依る鑛山の經營に在ることとは世人の既に知悉する所なるが、支那が今回協商側に立ちて參戰せるの一事は、正に其産業發達史上に特筆大書すべき事實にして、吾人は此點に關し特に人意を強ふるものなり。惟ふに一九一一年の革命に依り、滿洲朝廷覆滅の大目的を遂達したる支那が、爾來内争に没頭し、各黨派が常に勢力争鬭に腐心しつつあるは、是れ唯内政上の問題にして、其國際關係に何等顯著なる影響を齎らざる所なるが、這回の對獨宜戰は實に、支那が國家として、其歐洲政局に於ける自己の利益を擁護すべきことを、明確に宣言せるものにして、是れ即ち支那人が最近數十年間に於て、常に西洋諸國民と接觸せる結果として、其官吏實業家の國際政局に對する心理狀態が一大變化を來せることを、具體的に證明せるものに外ならざる也。

(二)内政改善と産業の發達

國家發達の歴史を按ずるに、一方に進歩を助長する勢力あれば、他方には必ず其發達を阻害する障礙的動力の作用あるは、蓋自然の數にして、支那の現情亦此常則を免ることは能はずと雖も、之を其外國貿易の方面に就きて見るに、其趨勢常に進歩の一方に在るを知るべし、蓋對外貿易の方

面に於ては幸にして、從來發達助長の動因其障礙的勢力に比し、常に遙に有力なりしを以つて也。而して海外諸國に於ける支那商人の大成功は、實に支那産業の將來に關し、最も注意すべき事項にして、之に依り支那内政の發達が、今日の海峽殖民地、濠洲乃至は香港と同一程度に達するときは其産業の發達從つて見るべきものあるを、事實に證明し得るなり。最近彼南に於て物故せる有名なる支那豪商の如きは、其初め廣東より新嘉坡に渡航せる空拳の一青年にして、其後數十年間に巨萬の産を爲せるものなるが、其能く此の如き大成功を爲し得たるは、一に海峽殖民地に於て凡ての實業家が享有する機會均等の賜なりと言へり。而して彼は其故國の産業開發を助長する點に就きては、極めて熱心なりしが、官吏賄賂の爲に財を散するを嫌忌せしを以つて、現行支那法制の改革實現さるゝ迄は、斷じて支那に於ける鑛山開發に、關係せざるべきを斷言せり、是を以つて其本國の現行鑛業法が到底改正せられざるべきを知るや彼は則ち私財を投じて學校を設立し、支那青年に授くるに西洋の學術を以つてせむと志し、乃ち當時設立されたる香港大學に對し、巨額の寄附を爲したり、故に香港大學の基金寄附者中、主なるものは實に彼を初め其他の支那富豪にして、彼等は孰れも英國政府の保護の下に在りて、巨萬の産を爲したるものなりとす。

五 支那鑛業の發達と我對支貿易

支那の産業發達に就き更に注意すべき事象は、即ち其豐

富なる鑛産開發の問題なりとす。惟ふに現に經營せられつつある、支那鑛山の數亦少からざるは勿論にして就中、開源鑛務公司の如きは、現に外人の管理經營に屬し、其規模頗る大なり、而して該會社の株主中には多數の支那官吏あり、而も其會社より受くる配當額亦少からざるを以つて、會社の支那官場に對する勢力極めて大なるものなり、且其唐山炭坑の如きは、最新式の設備を有し、極めて低廉なる支那人勞働者を使用するが故に、其成績頗る良好なり、故に將來支那全國の鑛産にして、若も此會社と同様の方法を以つて開發し得るに至らむか、其産額巨額に上り、其價格頗る低廉なるべきが故に、世界の金屬市場は之が爲に、一大影響を蒙るに至るべきは、今に於て斷言するに難からず。而して支那の鑛業が此の如き發達を遂ぐるに至る迄には、機械の需要益増加すべきは當然なるが故に、吾人は今に於て之に對する準備を整へざるべからず、即ち現今英國に於ける幾多の兵器製造工場中、戰爭終了の曉には、支那鑛山用の機械設備の製造に、從事するに至るべきものあるは、亦自然の勢なるべし。

六 支那産業改良と我對支貿易

(一) 産業改良の敎訓

支那の産業發達を希求するものは、常に其改良の必要を切言し、支那人が今日の如く産業改良に對し、冷淡なる態度を持続するときは、其結果頗る寒心すべきものあるを指摘せり。之を支那茶の現情に就きて見るに、支那茶が漸次

其海外に於ける販路を減縮し、遂に其曾て有せし、世界市場に於ける優勝の地位を失ふに至りしは、一に其栽培者の製茶業者の改良に冷淡なりしが故なりと云ふべし。而して若も今に於て、科學的栽培方法と新式の製茶機械とを、採用せむか、其製品を改良し而も其價格を低廉ならしむることを得て、一旦失ひたる販路を恢復する、決して難事にあらざるべし、是を以て農商工部の當局者は、此點に着眼する所あり、最近茶業の中心地たる安徽省に於て、模範茶園を開設し、銳意茶業の改良を獎勵しつゝあり、此模範茶園の製造せる茶葉の中三十九包は、昨年初めて漢口市場に到着し、其最初の結果を試験するに至れり。故に吾人は茶業に關係ある支那人が須く、其販路恢復に必要な唯一の方法は即ち其製品の改良に在るの點を十分に了解すべきを切望して已まざるもの也。

(二)英支合辦と我對支貿易伸展の機運

其他各種産業に就きて見ても、改良の必要孰れも茶業に於けるが如く緊喫なるものあり。而して此等産業は悉く其將來に於ける發達の望無限なるものなれば、其成功を期する爲には今後數年間、外國人の指導と管理並に新式機械の採用は絶對的に必要なり。

惟ふに英國對支貿易の將來に關し、最も有望なる兆候は即ち英支貿易額の年々増加すること、現に各地に行はれつゝある英支合辦事業の成功なりとす、就中後者に就き吾人の最も意を強ふするに足るものは、開鑛鐵路合同公司、香港及海峽殖民地に於ける各種の英支合辦事業並に英支合

辦に成れる支那各地の鐵道敷設經營が、到る處好結果を收めつゝあるの事實にして、之に依り將來益支那に於ける英支實業家の提挈を、密接ならしむることを得べし。

加之近來支那官民の海外視察旅行の途に上るもの、年と共に増加し、其青年の所謂泰西學術の研究に従事するもの亦日と共に益多きを加へつつあるが故に、彼此綜合して考察するときは、支那の外國貿易が今後三十年間に、急激なる増加を示すべしとの信念は、一層確實なるを得たり。而して更に東亞に於ける、英支兩國貿易者相互の關係が頗る圓滿にして、常に和氣藹々たるの事象に想到するときは英支貿易の前途眞に洋々たるものあるべきを知るべし。



彙 錄

戰時に於ける支那の

乗すべき機會

最近支那を觀察し歸米したる、エムエーラーデキン氏は紐育にて米國輸出品製造協會集會の席上、戰時に於ける支那の乗すべき好機會なる題下に、一場の演説を爲せるが、氏は支那に對して頗る好意ある言語を以て語れり、一定の範圍を限りて旅行せる、他の潰々者と異り、未だ見聞せざる全地域迄滔々どさも權威あるものゝ如く語らず、又利害關係を有する黨派に累され、殊更色眼鏡を掛け事物に對するが如き態度は些しも見聞能はず、彼は深厚なる同情を表明し、衰微せる國民が其慘境より離脱し、依頼心を去り、不振より興り、其の列強と共に自己の欲する儘に、平等の基礎の上に立ち、問題を處理し得る、立脚地を建設せん事を欲するの念の深きは、言外に觀取し得るに難からず、彼は支那を小供扱にし誘導すべしと做すものと、聊か其選を異にせり、彼の云ふ所は支那に機を把握せしめよと云ふにあり、ラーデキン氏の演説筆記は汎く配布せられ、今更茲に再録するの要あるを見ざる程也。彼は論ず歐洲戰亂は支

那が始めて歐洲と政治的に接觸せる結果、被れる打撃に起源せる、外國の羈絆を脱し自由ならしむべき好機を與ふるものなし、講和會議には其主權を聯合國をして、充分承認せしむべしと切論せり、彼は問ひて曰く聯合國は果して進んで其特權を捨て、又支那に於ける特種の位置の要求を打ち切り、支那の正當なる要求に應ずべきか、而して吾人は日米兩國は、協心戮力支那主權の壓迫を防止する手段を講ずるならんと答へて可なるべしと信ず、日本が其特種利益とは、單に地理的に領土相接讓せるより生せるものと解するに同意せし以來、支那に關する思想を一變し、一度時機到來し、支那が自己を支理し得るに至らば、之に信頼するを可とするに至るべしとなすは理由存する也、總ての問題は今は支那の雙肩に懸れり、日本が昨冬十一月米國と協約を締結し、支那の主權に關する以前の保證は、再び確認せられ支那に於ける機會均等商工の門戸開放の保持及何國も支那に於て特種の權利を有するを得ざる件等に關し、宣布する迄は、日本の政策は疑惑の中心なりき。

此等の疑惑は現首相寺内伯爵が始めて其椅子に就きたる際宣示したる現内閣の外交政策、即今後日本の政策は支那に對しては、親善を旨とせんと云へるにより、一掃せられたる筈なり。

之支那の要求する處にして、又同時に支那に關係を有する列國の要求する處なり、日本は其等の疑惑の基礎根底の如何に拘らず、支那に於て他國を排斥せんが爲め、政治的利益を利用し又政治的勢力を建設せんが爲に、通商上の讓

歩を求め、又は他の領得せるもの又國內の紛争を利用して支那に於ける自己の政治的地位を向進せしめんとするものなりとの疑惑を受けるが故に、之を今や一掃する方法に着手せり、故に國家に忠誠なる支那人及利害を有する外國人の反抗は休止すべし。

日本は米國と協同し一定動かすべからざる歩調を取るに決せり、之に據り將來の態度に關する世の疑惑を一掃し得たり、吾人は世界萬國の新聞雜誌と同一の歩調を以て新企劃の效果に尊敬を拂ふべし、此新事業が保證せらるゝ限りは、日本は信頼を得るの權利あり、日本の前内閣が支那に於ける利益を確定せんとて、遂行せんとせし掠奪政策が再び繰返さるゝ事忽ちならんと信するの理あり、世界は米國と共に調印せし、新協約を離れて見るも、之れに對する現内閣の明確なる宣言を有す、莫遮支那の主なる脅威なりしものは共に取り去られん、否取り去られざるべからず、然る後支那國民が有する正當の權利たる、公正の取扱を受けるに至るを見るは、聯合國の喜悅する所なるのみならず又實に義務ならんばあらざるなり。

此際支那自身は此考慮に値するものなるを示し、且整然たる政府を組織するの才能あるを明にすること必要なり、現在行はれつゝあるが如き、政争は好意を表するものをして可なり失望せしむ、然し乍ら之は支那が舊式の專制政治より、最新の共和政體に移せんとする時、必ずや通過せざるべからざる進化の一過程に過ぎざるなり、然し乍ら通商上の非常なる障害なれば、假令國家的見地よりして己む

を得ざる事に屬すとは云へ、只の非難即ち甚だ惡しき事なりと評し得べし。

然れどもヲイデキン氏は之等の内紛の結果は國家の發達發展を沮害する甚しければ、或人の論せしが如く、數年間は或形式の下に、列國の指導にまかせざるべからずとの論起るを指摘せり、氏は此の如きは決して實現せられざるべしとは信せず、而して支那の友好國、即ち其忍耐不撓體力智力自制體儀は世界の等しく承認する所なり、されば列國の伍伴に列し國利民福を確保する政府を早晚創始すべし。

支那を知れる外國人に對し求むる所は、同情と時とにありて保護的態度に過ぎざるなりとヲイデキン氏は極言せり、援助を與へよ、列國が共同して政治的に之をなすに非ず、財政上に工業上に、將又教育上に、而して列強共に忍耐し、時の至るを待てば、支那は世界の大國民の一たらんヲイデキン氏は此の演説に於て、男子らしく急言疾呼、米國に訴へ支那をして公正なる待遇を得せしめよと云へり、此の點に關し支那は廣汎にして、友誼的の同情を他の國家よりも、米國に同様に求むべきを悉知し居れり、然し乍ら此を得るには昨年六月ウイilson大統領がなせる友誼的なる忠告を迅速に容れざるべからず、氏の曰く國內の紛争を一掃し、從來の行懸りを捨て政黨も個人も、協心戮力健全なる政府を樹立し、支那自身當然要求し得べき地位を列國の間に獲得すべし、内紛後を絶たずんば、遂に之を得る不可能に終らん、支那は何時迄も國家進化の自然の過程なればとて、混沌裡に彷徨するを許すべきに非らず、此機會を

捉へ内政上の紛争に超越せば、支那が加はれる、同盟諸國が大戦争を爲しつゝある所に、基礎を置ける政府を確立し得べきなり。(Far Eastern Review.)

支那地名の稱呼

支那政府は多數都市の名稱を變更するの意志ありとの噂あり、又既に名稱變更の旨を郵便にて通達せりと、孜孜として支那地圖を按じ、夜半薄暗きランプの下、或都市の處在を知らんと欲するものの困難の甚しきは何々に據りて然るや、又何故なりやは未だ吾人之を知らずと雖も、親切なる政府當局が改正に着手せりとせば、獨り讀書生に限らず商人其他地圖を利用するものの喜びは蓋し大なるものあらん、吾人の地名改正に賛成する唯一の理由として、論ぜられつゝあるは、二個の同一の名稱を有する個處が接近して存在する爲、混雜を生ずること之也、併し米國にはハルミルトンなる名稱を有する都市二十六あり、又單にセダーのみなるか、或は之にラビードブラックグロークリータ等の富を冠する地名百十二ヶ所あり、而も郵便物は行先を間違へたることを聞かず、然るに獨り支那のみが何故に十八の長沙を有するを得ざること、二ヶ所の中華を如何なる州にも置かざるが如くならしめざるべからざるや、若しも英語が數萬の語彙中より、セダーなる一語を抽出して、百二十回繰返へして可なりとせば、支那も亦例へば同一性質のWongなる文字を用ひ、混雜を禦く爲めに他の語を添加し

て、幾度か使用するも支障なきにあらずや、此整理は他名改稱を外面上正當の理由として、多數都市を明確に區別せんが爲也、又他の一の理由は、列國の贊する所にして地圖を更めんとするものなり、而して地圖作成者及地圖を使用する實業家等に、繁雜極る不便を與へつゝありしものなれば、可なり重きを置いて見るべきものなり、地圖作成者の國籍に據り、支那地名の綴字は甚しく相違し混沌を極めしが、最近稍や秩序を有するに至りしも、或場合にはcoと書し、或場合はchoと書するなど、不便尠からず。

然れども之語學上の見地より、特に恕すべきものとするも、更らに複雑不使なるは、同一の國民中二派の支那研究者が、全然相違せる綴字法を使用し、調査を怠じ、又調査員も亦其先輩に倣ふて異れる羅馬字を使用する事之也。

地質學上の最も重要な言語の一に就て見るに、特に明瞭に意義を表現せんが爲めに、特に奇異なる子音の綴合する羅馬規則を設くるの要あり、子音が最後に來る様に定められたる場合は、不都合を生ぜざるも、不幸にして常に最初に來る場合多く、爲にsuの字を求むる爲に、辭書の全部を捜し又Sou Souとを索したる後、辛じてhanと綴れるを發見するは、決して愉快なる事にはあらざる也、日本人は支那字の發音を、日本流に發音し、支那地名を勝手に變更す、大連の附近に支音にSha ho-kouと明に云ふ處あり、淺き河口と云ふ意義を有し、且該綴りの頭文字は何人も知悉し又支那地名には其例多し。然るにShan-hoと日本人が發音するは、河を發音するが爲めに讀み方を變更せ

るなり。

又湖南(Honou)をコナンと發音す、然も文字は些しも變更せず、更らに青島(Tingao)と獨逸流に綴りし場合に不都合あり、Tingaoとは緑の島との意なるが、英語の辭書は青を Chin と綴り、然るに日本は兩者を共に捨て、セイトウと呼稱するに至りては愈々出て、愈々奇なり、吾人は外國人が一般に勝手に、支那地名を變更せざらん事を切望するもの也、故に吾人は政府當局及支那語學者に衷心より、尊敬するものなりと雖も、絶體に必要あるにあらざれば稱呼を變更する勿からん事を切望す、尠くとも地理學上の名稱に就ては、其發音綴字の法則理論を捨て、統一的羅馬字法を採用せる郵便案内の綴りに従はん事之也、最近英語地圖に使用せられたる綴字法之也、支那學者は其綴字法は簡單にして書記にも、時間を要せざるは確なるも、充分地方的地名の發音を表現する能はずと反對するは期して俟つべし、Anhui(安徽)と書するは Ngan hwei を外國人が誤記せるものにして、安徽人は明に鼻音の N を最初に添加して、發音するは云ふ迄もなし、兎角郵便案内は安價にして、又簡單なる支那地名羅馬字化法を、世人に供給するものにして、若し一般に採用されんか、支那地圖の標準たるを失はざるべし。(Far Eastern Review)

寄贈交換書目録

燕	三	國	特	通	實	朝	奉	長	關	商	東	工	宮	賀	山	山	朝	産	智	支	南
民	民	民	許	商	用	鮮	學	時	宣	標	洋	場	城	本	林	林	鮮	海	利	本	本
經	經	經	公	公	新	及	工	商	資	公	經	法	教	日	公	公	電	工	社	法	法
論	論	論	報	報	案	滿	洲	報	料	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報
其	其	其	特	特	特	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其
社	社	社	局	局	局	社	社	社	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局	局
二十號	六號	六號	自二八一號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號	自二八三號

事業界

上海瓦斯會社營業成績

(The Shanghai Gas Company Ltd)

上海瓦斯會社は五月二十五日第五回年次株主總會を上海スコット、ハーディング商會の事務所にて開會したるが、出席株數三、七八四にして、E. Jenner. 氏之に議長たり。

總會召集趣意書及び會計報告書の朗讀終るや、例の通り議長は、同社事業全般に關し、大要左の如き演説をなしたり。

諸君昨年度の總會に於て、余は本社之事業は逐年向上發展の域に進みつゝあるが、其將來に關して世界政局の錯亂石炭其他營業維持に要する、各種原料品の供給難に對し、戒心以て豫め備ふる所あるべきことを指摘し置きたるが、今回諸君の前に呈示せられたる決算報告は、更に幾分の進境を示し、諸君の満足を得ること、信ず、然れ共吾人は尙容易に樂觀を許さず、各種の困難は依然吾人を圍繞し、炭價は今後益昂騰すべきが故に、之等に處して吾人は、益慎重の態度を持し、以て經營其事に當らざる可からず。

一ヶ年前本社は、瓦斯料金を値上げしたる爲め、大に本社之經營難を緩和したるが、其後更に炭價の騰貴ありたる爲め、遺憾ながら再び値上げの避くべからざるに至れり、

今後に於ても尙如何程迄に値上げを行ふに至るべきかは、豫斷すべからざるが故、吾人は單に形勢の推移を注視するの外策なかるべし、又隨時擴張工事を必要とするが故に、隨て出費多かるべく、現に海外へ注文したる物品多額に上れるが、將來積出の制限何時加へらるべきか、頗る不安にして、其間に爲替率下落して蒙ることあるべき損失を考慮中に加へざるべからず、されば吾人は今後益會計を引締むる必要あり、諸君が會計報告書中に見らるゝが如く、昨年の成績は前年に比し營業勘定に於て三八、七四〇兩七八の増加、純益に於て三六、四一四兩六九の増加を示せり、營業收入の總額は八二四、〇六五兩八六にして、前年の六八六、九六兩に比するときは、一三七、九六八兩八六の増額なるが、一方支出總額は四九三、一七一兩六六にして、前年度の三九三、九四二兩五八に比する時は九九、二一九兩〇八の増加となる、此の支出の増加は主として炭價の昂騰に基くものなり。

石炭の消費價額は二一九、六七七兩八九にして、前年よりも八四、六六八兩一九の増加にして、數量に於ては一、八七〇噸の増加なり、瓦斯の生産高は二九、三三三立方呎の増加を示せり。

其他瓦斯の生産に要する諸費用、維持費、分配費は、合計に於て前年度より一五、〇四〇兩五を増加したるが、是は勞働者の賃銀著しく騰貴し、瓦斯產量亦増加し、更に瓦斯の分配費増額したるによる、尙右の金額中には虹口に在りたる、瓦斯の小貯藏場を本工場へ移轉するに要したる費用

をも包含せり。

營業勘定の貸方を見るに、瓦スの賣上代は六〇四、四二三兩九七にして、前年よりも一一三、二八二兩七〇の増額なり。

副産物としては骸炭及び硫酸安母尼亞は増加したるが、タールは減少せり、されど此等の純収入は一七、九六七兩一三の増加にして好結果を收めたり、取付勘定は器具貸貸料を合して二六、〇三六兩七五の収益を見たり、損益勘定を見るに純益は二八〇、二八八兩一三にして前年の二四三、八七三兩四に比し三六、四一四兩六九の増加を示せり。

利息勘定に關しては、借方に社債の利子四三、八九〇兩あり、貸方は投資利子及び銀行預金利子として四、六一八兩七二あり、結局借方正味殘三九、二七一兩二八にして、前年に比すれば利子の節約四、七七六兩九五に上れり。

取替及減價償却積立金勘定は、貸方へ三〇、〇〇〇兩を記入したるが故に、現在一〇〇、〇〇〇兩となれり、さてパランス、シートを見るに、土地建物勘定に於ては、工部局へ賣渡したる小地面其價五四六兩と工場に一〇八兩三一を加へたるのみにて、大變化なく、何れも頗る確實なる評價の上に立てり、瓦斯配送設備に對する支出は一〇一、三四七兩〇四なり。

諸口貸勘定一七六、四七三兩〇四の内其後一三九、〇二七兩二三を取立てたり。

當社社債に關しては、昨年中に買收したる額面一二一、九〇〇兩にして、買收價額九八、八〇一兩なり、此は本社會

計狀態が明かに見極めらるゝ迄保存し置くものとす、銀行預金は昨年未現在四五、七一三兩八三なりしこと表上に見るが如し。

會計報告に關しては、此外に特に説明を要するものなきこと、信ず、而して昨年度の成績は概して良好なりしと雖も、今後の時局は如何なる形勢を現出すべきかは、容易に端倪を許さず、而して一般瓦斯消費者には、出來得る限り、安價の供給をなし、又會社永遠の利益を圖らむことを欲するが故に、提議したる配當(五分)にて諸君の満足を求むる次第なり云々。

而して前記純利益二八〇、二八八兩一三に、前年度繰越高三〇、五一〇兩六五を加算したる、合計三二〇、七九八兩七八の處分案を左の通り可決したり。

配當 株數二四、〇〇〇

一枚に付二兩半(五分) 六〇、〇〇〇兩

土地建物減價償却 四、〇七六、三五

瓦斯發生及分配工場減價償却 一三五、三二八、二七

什器家具減價償却 九六〇、五七

取替及減價勘定へ 八〇、〇〇〇、〇〇

次年度へ繰越 三〇、四三三、五九

合計 三一〇、七九八、七八

最後に役員改選ありて解散したり。

泰興營業成績

同社の二十二回年次總會は、五月二十一日午前上海にて開催せられたるが、重役諸氏の外一、四五七株を代表する株主の出席を見たり、席上 James Ambrose 氏の試みたる演説に就き、本年二月末日を以て終る一ヶ年間の同社營業成績を示せば左の如し。

過去一年間に於ける成績は頗る良好なりき、昨年議長は總會の席上に於て、業務の遂行上各種の困難を経験せざるべからざる事を注意したるが、其豫測の如く大戰の爲め、諸種の不便を感じ、過去一年間に於ける困難は輕減せられざるのみか、反つて増加したるの觀ありたり、英國に於て絶體に購入し得ざる商品、特に食料品の如きは其供給を充さんが爲めには、英國以外の他の地にて購入せざる可からざる結果となり、然も或商品の如きは如何なる價額を拂ふも、全然獲得し得ざるものさへあり、且つ此上の輸出制限に依り益々物資供給困難となるに至るべし。

本年に於ける利益は一一八、一七五、三三弗にして、前年に比し、一八、六八一、四四弗の増加を來し、頗る満足すべき良成績を挙げ得たり。

土地及建築物は、昨年二月末日には其帳簿價額三五五、〇〇〇弗なりしもの、本年は重役の意見に従ひ減價額二五、〇〇〇弗を見積りたれば、帳簿價額は三三〇、〇〇〇弗となり、社債の發行額は二四〇、〇〇〇兩即ち三二六、三六〇、

六二弗にして、昨年と變化なく、帳簿上に現はれたる同社の資産と殆んど伯仲せり、家具什器は昨年々度初には三、三五六、九六弗なりしもの、其後過去一年間に尙一、〇一一、三九弗だけ購入したれば、合計一三、三六八、三五弗となりたるも、之等の減價額五、〇〇〇弗を差引きたれば、帳尻は八、三六八、三五弗となれり、手持商品は昨年の貸借對照表に於ては三七二、六七一、二六弗なりしも、本年は四四五、八一三、〇九弗となり、七三、一四一、八三弗の増加を來したるが、之は何時オツプアーさるるも、同社の要求に適應したる商品は、常に購入する方針を採用したるが爲めにして、此方針は頗る機宜に適したるものと謂ふ可く、其爲め満足すべき良成績を收め得たるのみならず、多數の觀客にも、亦等しく便利を與ふることを得たり、銀行當座借越は常に重役の注目を惹く項目なれども、商品在荷高の増加の爲め著しき減額を示す能はざりしは止むを得ざる事なり、昨年二月末の帳尻は一六一、三〇二、七七弗なりしも、今回は一五三、二四一、二五弗即ち八、〇六一、五二弗の減少を來したり、こは大減少なるのみならず、また以て同社の着々として發展しつゝあるを想見するに足るべし、雜借方勘定は昨年と殆んど變化なく、一八三、八六一、四五弗に對し本年は一八三、六六一、七二弗なり、積立金の増加は五、〇〇〇弗にして總計三〇、〇〇〇弗となれり。

決算は最も慎重に監査せられ、疑はしき性質のものは全部表より驅逐したるが、此等負債者の多數は疑ひもなく善良なるものなるを以て、之が集金希望を全然放棄する意味

には非ざれども、之等の借主は目下上海を立去りて、再び歸へる望みなきものなれば、疑はしきものとして勘定より除去したるは、賢明なる處置と云ふべし、損益勘定の貸方残高七一、六六〇、六九弗にして之を處分する左の如し。

配當(年八分)

二〇、〇〇〇弗

一般積立金

二五、〇〇〇弗

手持品減價準備積立金

一〇、〇〇〇弗

次期繰越金

一六、六六〇、六九

合計

七一、六六〇、六九

手持品減價準備積立金は、之にて合計三〇、〇〇〇弗となり、一般積立金は合計一二五、〇〇〇弗となれり、尙同社はタンク、ウヰークの間に、額面一千磅の五分利付英國戰時公債を購入する由。



支那半月史

大正七年五月上旬

招撫政策、收撫清理局の設置

六月三日北京政府は歸北せる兩湖宣撫使曹錕の意見を容れ、陸軍中將趙春廷(湖南出身、前湖南鎮守使)を湖南鎮守使に任じたり、趙は永く衡州地方に駐在し同地方に多少の地盤あり、政府が彼を湖南鎮守使とせるは衡州に收撫清理局を設立し、趙を其局長として所謂招撫政策を實行せんとするに在り、湖南に對し南軍が守勢を採り、且つ霖雨が前北兩軍の交戦を不可能ならしめたるに依り、此機を利用し「招撫」に出でんとせしなり、趙が衡州に於て頒布したる收撫の布告を見るに曰く

爲布告事此次兵連禍結民命倒懸既に兵威に畏れ又匪警を加ふ餓物を槍刦し屋宇を焚燬し老弱溝壑に轉じ壯者四方に散す傷心慘目此より甚しきは莫し本局長は軍人也亦湘人也既に民間の困苦を痛み復た軍士の顛連を念ふ數月以來死者凡幾なるを知らず即ち幸にして生存する者も風餐露宿艱辛を受盡せざるなし現在國軍勝に乗じて進致す爾等反躬自から向へ能く累卵の危なきかと本局長兩湖宣撫使曹、湖南督軍張の命令を奉じ己に衡陽に在つて湖南收撫清理局を設立し息事寧人の爲めに見を起し網、三面

を開いて其の既往を寛うす地方公正の紳商と偕同し陸軍第三師々長吳總指揮と會商し擬す双方界を劃して暫く停戦を行ひ員を派し分途招撫せん隨帶して陸軍第三師々長吳總指揮發給の護照あらば爾等を保護して入境せしめ會同呈請編して國軍と爲し官は原職に仍り兵は原餉を發し一律優待せんもし伍に入るを願はざる者はその械を繳し仍は川資護照を給し遣送回籍するを准るし決して稍々覬覦あらず本局長一片の熱心諄々開導するを惜まざる時に及びて頭を回らし垢を滌し新に従はゞ一轉移の間にしに誠に禍を轉じて福と爲し危を轉じて安と爲すべき耳此れ獨り爾等の幸なるのみならず亦地方人民の幸也もし仍は迷を執りて悟らず斯言を河漢にせば則ち是れ甘心逆を爲すものにて雷に蛾の火を撲ち自ら滅亡を取るのみならず定めて後悔及ぶなからん也仰いで即ち一體凜遵違ふなかれ切々特に此に布告す

南方側が「招撫」といふが如きを甘受せざるべきは云ふ迄もなく、北方側とても單に之を以て停戦を潤飾せんとするに過ぎず、遮莫、これ曹錕北上に依りて生ぜし効果にして妥協運動が岑春煊派より直隸系に移りたるを示す、岑春煊派の妥協運動は、廣東軍政府の改造に於てその頂點に達したり、孫文派を放逐して陸榮廷中心の聯合軍政府を樹立し得た事は疑ひもなく岑春煊及政學會の妥協運動の成功なり彼等は一先づ此程度の成功に満足し、妥協運動を直隸系に引渡すを要せしなり、於是直隸系の宿將王芝祥、張紹曾は北京上海を往返し、將軍府參軍趙俊卿は、馮總統の密旨を

承けて南京に李純を訪ひ、以て馮李關係を更新し、更らに江西に陳光遠を訪ひ、直隸省議會議長邊守靖は最近曹錕の幕下に入りてその智恵袋と頼まれ、南京に下りて各省議會聯合會を操縦して久しく活動を中止せし聯合會をして平和促進の通電を發せしめ、天津の商會聯合會亦卞蔭昌を會長に選舉して更らに平和運動を續けんといひ、梁士詒周自齊等も依然活動をやめず遂に徐世昌を説服してその入京（六月六日）を誘知したり。第二路總司令湘贛檢閱使張懷芝亦曹との約束を實行して八日漢口發天津に歸り十五日入京したり、曹錕を主宰者とする天津會議説の此前後に於て盛んなりしは即ち直隸系運動の或程度迄成功せしを語る、而して事の此處に至りし淵源は之を段總理南巡及び漢口會議に迄遡つて探られざる可からず。

陸建章銃殺、天津會議の犠牲

曹錕の歸北が安徽系主戰派に多大の衝動を與へたるは否む可からず、田中玉の電報にも「曹宜撫の一身去留は全軍の進退に關す萬その高蹈引退に任せ前方の戰事を停頓せしむべからず」との語あり、曹にして果して世評に所謂長江六督軍（李純陳光遠王占元張懷芝趙倜及曹自身）聯盟に成功し居たりとせば安徽系に取り由々しき大事たるや論なし、かくて曹を主盟とする天津會議が、陰然安徽系に對する鹿ヶ谷會議となることは安徽系の頗る苦痛とする所なり、是を以て主戰派の中心人物たる徐樹錚は極力形勢の挽回に努め、終に陸建章銃殺てふ惡作劇を以て天津會議を威嚇する

に至れり。陸建章は人も知る如く袁世凱時代軍事執法處々長として袁の政敵を逮捕殺戮し、言論機關を破壊し、民黨増惡の府たりし人物なるが、袁に忠勤を擧ぐてたる功に依つて陝西將軍に任せられ後第三革命に及び部下の鎮守使陳樹藩が徐樹錚（即ち段祺瑞）の後援を得て獨立軍を起すや身を以て北京に遁れ、爾來激烈なる反段派として諸處に陰謀を試みつゝ昨年李純の軍事顧問となり、當時福建援の命を受けて浦口迄來りし第十六混成旅長馮玉祥と結び、馮をして武穴より主和の通電を發せしめ、その黑幕として安徽督軍をねらひしも失敗し、爾來各省の土匪を煽動して擾亂を起さしめつゝありしが、天津會議開かると聞き又一仕事すべく北京より天津に入りしを徐の爲めに謀られ、十三日徐の宿所の庭園内に於て捕縛銃殺されたり。十處に十人を殺せば以て十處の耳目を威すに足る、官僚系の策士は從來此の如き小策を用ふるに慣れたり、主和派に對する威嚇なり、殊に主として曹錕に對する威嚇として陸を犠牲たらしめしものなり、十六日命令に曰く

張懷芝倪嗣冲陳樹藩及び盧永祥の報告によれば陸軍上將街陸建章は山東安徽陝西に於て土匪と結び軍隊を煽動して亂を謀り又徐樹錚の報告によれば上海天津營口に於て軍隊を煽動したるを以て陸軍刑法に依りて處分されたとあり既に捕縛銃殺せり仍てその官職勳位を褫奪す

と馮玉祥は常德占領（十四日）の功あり、その親戚たる陸の此處分に就て政府側は馮に師團長を與へ不平を慰撫せんと意圖なりと。

廣東局面の一瞥

天津會議の結果につき北京よりの情報は

(一)曹錕の直隸歸任確定。

(二)張懷芝は政府の條件如何にては總司令たるべし。

(三)廣東攻略を對南方針の眼目とし四川雲貴方面に對しては守勢を取る。

(四)將來相當の時機に於て妥協をなすこと。

の四點丈け決定し、總統問題は一致せざりしとあり、此報道にして眞なるとせば天津會議は又しても主戰派の勝利に歸したるものと見るの外なし。かくて湖南は招撫策を以て暫時現狀を維持し、廣東に對しては張懷芝を攻略總司令とし、北京滯在中なる龍濟光に軍費を與へて再舉を謀らしめ一方李耀漢並びに龍軍の殘部隊をして之に應せしめんとするものゝ如し。先是廣東警衛軍統領にして龍の舊部下たる袁帶香山縣を以て獨立し(五月二十九日又は六月一日)、李耀漢亦肇慶に於て督軍莫榮新との關係を脫離せりとの報あり、更らに龍軍の廣東に在るもの(一)順德香山の梁永榮軍(二)鶴山高明の潘斯凱軍(三)三水清遠の太永寬軍(四)新會の盧宗緒軍(五)陳朝成軍(六)惠州の張天驥軍(七)東江の漢啓漢各路亦之に響應せんとし、一方福建方面も陳炯明軍潮州は邊き軍饒平を占領せりといへば、廣東の局面は決して南軍の樂觀を許さず、龍濟光と三井との間に交渉中なりし廣東省城山抵當の五百萬元借款成立せば龍濟光再舉の實現を現るの難き状態に在りといふべし。

孫文來朝

廣東を退去せし孫文は、途に廣東三河壩なる陳炯明を訪ひし後、臺灣を経て六月十日門司に到着、胡漢民戴天仇二人を隨へて箱根に入れり。

正式國會開院式

過般來着々準備中なりし正式國會は、六月十二日を以て開院式を挙げたり。會場は廣東省議會議事堂、參議院議員六十一名、衆議院議員百二十八名參集、議長吳景濂起つて次の如く演説を試みたり。

國會非法解散以來正に一ケ年の今日再び開會するを得たるは護法各省の擁護及び諸位の努力に因る、今後一層議員の職責を全うせんことを希望す又護法各省聯合政府の組織速かに成り吾人の素志を遂ぐるの速かならんことを切望す。

廣東に在る議員は二百六十餘名あり、便船毎に續々到着の豫定なれば七月初旬には開議するを得べしと。正式國會は益友社の支配する所にして、政學會の勢力之に次ぎ、民友社及び孫文派最も少し、益友社は今や陸榮廷を支持するに至れりと雖も終に政學會に比すべくもあらず、政學會の勢力にして正式國會を支配するに足るものならしめば正式國會の成立は妥協に一步を進めたるものと見做し得べきも現狀を以てすれば此の如きは望む可からず。

新國會選舉の大勢

南方の正式國會に對抗すべき新國會選舉は、撤頭撤尾安福俱樂部と研究會系との競争なるが、六月十二日迄に世

明せる覆選結果左の如し。

直隸 卞蔭昌 田長庚 葉雲表 籍忠寅 王寶鑒 汪鑑松

蘇藝林 賀培桐 武繩緒 聶裕綬 王雙岐 雲岫

吳得祿 賈庸熙 韓梯雲 光雲錦 周行原 胡延禧

安徽 王揖唐 關建藩 趙熙民 江忠廣 崔法 高秉麟

丁葆光 陳光普 陳嘉言 邱鳳舞 丁冠軍 吳山

劉兆麟 華維嶽 倪道煊 邱鳳舞 丁冠軍 吳山

山西 (次點) 蔣尙彭 那殿元 耿臻顯 劉棧 蘭均 狄麟仁 郭德修 楊

柏榮 高時臻 李道在 劉培澤 李元晉 郭象升

裴寶棠 樊振聲 祈景顯 常贊春 李友蓮 (次點)

李慶芳 張杭蘭 孫孝宗 魏福錫 董寶琳 邢克莊

奉天 劉恩格 曾憲文 孫孝宗 魏福錫 董寶琳 邢克莊

翁恩格 焉泮春 張從仁 彭雲鵬 楊潤

江蘇 楊毓達 沈忠莢 王立廷 張從仁 彭雲鵬 楊潤

任祖葵 解樹強 李龍圖 顧詠葵 夏寅官 郝崇壽

右の中政黨所屬別の判明せるは安福俱樂部四十六、研究會

系九にして前者絶對多數を占め居れり。安福俱樂部は舊進

歩黨中の統一黨系にして、第三革命後表面に立たざりし一

派なるが、最近徐樹錚の後援によりて結束したるもの、領

袖としては王揖唐(現臨時參議院議長)王白川(同秘書長)康

士鐸等あり。研究會系は湯化龍米國に去り、梁啓超出でず

黨務は林長民、王家襄、藍公武、籍忠寅主として視つゝゐ

り。安福俱樂部は安徽系、研究會系は直隸系なり。

江庸來る

司法官僚の領袖として前内閣の司法總長たりし江庸氏は

留日支那學生監督に任せられ六月十七日東京に着せり。氏の任命は日支軍事協定締結の尾聲なり。

吉會鐵道借款豫備契約

日本某方面代表者と支那政府との間に交渉中なりし吉林より會事に至る二百七十七哩所謂吉會鐵道敷設に關する借款は、六月十八日北京に於て支那政府と日本興業銀行代表者(同時に朝鮮銀行臺灣銀行を代表して)吉川孝秀氏との間に調印を了したり。興銀發表によればその要項次の如し。

一、支那政府は本鐵道建設費其他必要條件を定め日本興業銀行の同意を求むる事

二、前項金額確定したる時は日本興業銀行は支那政府の爲に之に相當する支那政府五分利金貨公債を發行する事

三、本公債の元利支拂の爲現在及將來に於ける本鐵道に屬する財産一切及其の收入を擔保とす

四、細目は四鄭鐵道借款契約及津浦鐵道借款契約に準じ雙方協定するものとす

五、本鐵道と朝鮮鐵道の運輸聯絡に就ては圓滿なる聯絡を期するを旨を體し別に之を協定するものとす

六、日本興業銀行は支那政府に對し日本金貨一千萬圓の前貨を爲し支那政府は本公債募集により得たる資金を以て

直に優先本前貨金を返済するものとす

七、前貨金の受授は總て日本東京に於て爲すものとす

尙前貨金一千萬圓を十九日東京に於て興業銀行より支那公使館に交付したり又細目の契約は今後支那政府に於て該鐵道線路の實地測量を爲し之が施設に要すべき費用の豫算を立てたる上にて締結する筈なるが條件其他は大體津浦鐵道及四鄭鐵道借款に準することに申合せたりと。

彙報

自六月一日至六月十五日

對露關係

▲新銳のセ軍出發

(哈爾濱特電廿日發) セミヨノフ大尉對ホルマツト長官にゴルチャク將軍の交渉は行儀みの狀にて毎日出發を延期せられたるが昨夜漸く解決、十一時過ぎ其特別列車は當地を發し新銳の討伐兵を滿蒙せしめて戦線に向へり。(一日、時事)

▲勞兵會軍新司令官

(哈爾濱特電廿日發) ニヨリスに於ける勞兵會はセミヨノフ軍に對する討伐司令官を選出したるにキフ、ツラフニフ將軍官選し不日亦軍を率ゐて出發す可し。(一日、時事)

▲セ軍討伐の許可を求む

(莫斯科ロイテル特電三十日發) 露西亞政府は支那に對し通牒を發し目下滿洲に於て暴威を振ひつゝあるセミヨノフ麾下の匪徒の暴動的行動に就て苦情を唱へ且つ支那軍隊と協同してセミヨノフに對抗する爲め勞兵軍の派遣を許さんことを求めたり。(一日、時事)

▲鐵道員の要求拒絕

(哈爾濱特電廿日發) 二十七日臨時鐵道從業同盟委員會よりの三名の代表者はホルマツト將軍を訪ひ職業同盟會を開催し其中央機關を復活せしめたること、過般の同盟罷業にて退去處分に會ひたる十三名の首謀者を以前の鐵道職務に就かしめられたることなどを交渉せしもホ長は又又斷乎として之を拒絕せり。(一日、時事)

▲東清長官秘書

(長春特電廿日發) 東清鐵道長官ホルマツト將軍秘書キーコブレツト吉林露國領事、哈爾濱露國總領一行七名は廿日夜當地通過日本に向へり。(一日、日日)

▲過激派の大動員

(哈爾濱特電二日發) 過激派は後貝加爾及黑龍江に對し大動員を行へり。(四日、時事)

▲セ軍に怨嗟の聲高し

(二日哈爾濱特派員發) 最近戰線地方に於けるセミヨノフ軍に關する報道は一として該軍に對して好報を發すものなき中にも一日同方面より歸來せし某邦人の談に據れば同軍に屬する支那軍隊が最近ダウリヤ方面に於て盛に露人の家にて掠奪凌辱を致して爲めにセミヨノフ軍に對する地方人民の怨嗟の聲漸く高しと、事實とすれば何時もながら濟度すべからざるは支那兵にして折角戰線地方に於て氣受け長かりしセ軍も之が爲に向後軍隊の行動に對して生ずる障礙甚大なるものあるべしと觀測せらる。(四日、時事)

▲無職業者著しく増加

(二日哈爾濱特派員發) 物價騰貴事業縮小等の爲め沿黑龍省地方に於ける無職業者の數は漸次多きを加へつゝあるが殊にブラゴウエシチエンスク市の一萬八千名ニコライウ اسک市の五千名ハバロフスク市の一萬五千名滿洲縣の一千名が其の最も多き地方なり。(四日、朝日)

▲セ軍を觀察に

(長春特電四日發) 北京公使館附武官齊藤少將は今朝奉天の顧問武官菊地大佐と共に哈爾濱に赴く滞在三日の豫定にして主としてセミヨノフ軍觀察の要件なりと。(六日、日日)

▲米國の割込運動

(哈爾濱特電六日發) 今回當哈爾濱に於ける電氣事業は市會の許可を経て邦人の經營に歸したるが米國側は之を共有のものとせんとし妥協を申込み且つ市會議員を説きて頻りに其の利權に關係せんとしつゝあり。(八日、時事)

▲露支國境閉鎖影響

(七日哈爾濱特派員發) オルロフ軍隊がボグラニチナヤ方面に出動し蘇聯方面の過激派に對峙の結果はボグラニチナヤの露支國境閉鎖を見るに至りて北滿の經濟界に大恐慌を來して日本及び其他の諸外國輸出業者は大打撃を被るに至れり最近の調査によれば東清沿線より滿洲經由日本及び諸外國へ輸出さるゝ北滿特産物の數は年額五十萬噸此價格約四千萬圓の巨額に達し其中四分の三は邦商の手に又殘りの四分の一は諸外國人の手に取扱はれ大豆の大部分は各製油場の原料に供給され其加工品は多く美

米諸國に輸出さる然るにボグラニナヤ驛の國境閉鎖は是等の特産物の輸送を不可能ならしめ沿線に堆積中の大豆及び豆粕は折柄の降雨期に際會して腐敗の虞あるのみならず日本の製油場が原料不足の爲めに外國との契約を不安ならしめ農民に賣付契約の豆粕も不渡となる等の爲めに被る滿洲及び日本經濟界の影響は頗る甚大なるものあり茲に於ては北滿の内外特産物商は結束して若し日本の各製油場と相呼應して右の事實を具申して日本政府に請願すると共に日本の各政黨の力を藉りて國民の輿論に燃ふるも同時に一方東清鐵道會社に向つて輸送業者の被りたる損害賠償要求の擧に出づべく敦閑き居れり。

(九日、朝日)

▲軍事協約の第一歩

(七日北京特派員發) 支那政府は日支軍事協約の結果の第一歩として國務會議を経て將軍府より人を哈爾濱滿洲に派し滿國の實情を視察せしむることとなり。 (九日、朝日)

▲東清鐵道長官

(長春特電六日發) ホルワット東清鐵道長官は鐵道廳各部長其他十六名を從へ七日夜哈爾濱發八日午前五時長春着八時中吉林に發き督軍孟恩遠、省長兼東清鐵道督辦郭宗熙氏等と會見親しく協議し二日間滞在の上十日哈爾濱に歸るべし。 (九日、日日)

▲烏蘇里鐵道運轉中止

(八日哈爾濱特派員發) 烏蘇里鐵道はクロアチヤ方面の軍事行動發展の爲七日午後十二時限りボグラニナヤの列車全部の運轉を中止せり。 (九日、朝日)

▲過激反過激軍戰ふ

(浦鹽特電七日發) ボグラニナヤ附近に於てセミョーノフ軍と赤衛軍と衝突行はるこの鐵道電報當地の停車場に到着せり當地より哈爾濱行電報及び汽車不通なり當地兵會は本日多數の武器と水兵を派遣せり

當地赤衛軍本部は哈爾濱行汽車の停止を命じ本日正午より汽車不通となれりニコリスカには革命裁判設置せられ附近の農民に向ひ兵會に援助す可きことを命ぜりニコリスカより多數の赤衛軍ボグラニナヤに出發せり。

(九日、時事)

▲過激派暴威を揮ふ

(哈爾濱特電七日發) 後貝加爾のアーヤート族哥薩克村民等は黒山を越きて續々滿洲里驛へ引揚げ中なるが過激派は益々新

占領地帯に暴威を揮ひ建物までも焼拂ふに至れり而してセ軍は勿論沿線の住民は孰れも日本兵の到着を待ち居れる様惘然なり。 (九日、時事)

▲兩軍交戰

(長春特電八日發) 露支國境の東清鐵道東線ボグラニナヤ驛附近にては目下反過激派と過激派との戰爭醜なる爲哈爾濱より浦鹽までの汽車不通となり。 (十日、日日)

▲支那軍集中異議

(浦鹽特電八日發) 過激派執政官は支那軍隊の國境集中と該方面の騷擾に就きボグラニナヤの支那官憲に交渉せしが支那側は是れ過激派と獨逸軍が滿洲を威嚇して危殆に陥れんとする爲め國境を防備する爲なりと云へり。 (十日、時事)

▲新疆に増兵請求

(北京特電八日發) 新疆督軍楊增新氏は此程中央政府に電報し露支國境に於て露國過激派と回教徒との間に衝突あるのみならず露國人中支那の國境を越へ伊犁方面に避難し來る者既に多數に及べるを以て同地方の治安維持の爲増兵を請求し來りたり右に付き段國務總理は軍事會議を開きたるに徐樹錚一派は西南諸省未だ鎮定せざるに際し西北に出兵の餘裕なきを理由とし新疆増兵に反對せり。 (十日、時事)

▲東清鐵道新組織

(九日哈爾濱特派員發) ホルワット長官の名に依る東清鐵道廳の布令に依れば該會社は去四月十四日北京に於ける總會の結果左の如くホルワット將軍を事務理事に以下七名を重役に選定し翌十五日より右組織を以て營業を繼續するに至れり

△事務理事ホルワット△理事アチロフコルチャク、ウスツルゴブ、エセルスキー、コノワロフ、スラワタ、顧世清

尙ホルワット將軍はウェンツェー氏不在中臨時東清鐵道副總裁を副長官ダチノフ氏は臨時東清鐵道長官を各代理す。 (十一日、朝日)

▲七軍進撃を開始

(哈爾濱特電九日發) 滿洲里軍の公報に曰く七日セミョーノフ軍は進撃を開始し七日バンセヤ驛に迫りて激退し彼等はアイルカに向ひ見苦しき退却をせり尙ほ七軍は敵に對する作戰を止めず八日シールド新聞に見えたる後バイカルに於ける過激派の勝利なる記事は誤報なりと一致にはセミョーノフ軍不利にして又々退却を行ひ其一部は既に滿洲里に入れりといふ。 (十一日、時事)

▲支那軍隊國境防備 (哈爾濱特電九日發) 寧古塔よりボグラニナナに對し國境防備の爲め援々支那軍到着しつゝあるが該聯隊司令官も既に同地に着せりと。(十一日、時事)

▲避難民三千四百名 (九日哈爾濱特派員發) 滿洲里に集りたる沿線避難民は今や三千四百名に増しセミヨノフは之に糧食を與へて撫恤しつゝあり。(十一日、朝日)

▲過激軍國境を侵す (北京特電九日發) 新疆督軍楊增新氏は中央政府に對し霍爾果西陲知事よりの報告によれば露支國境の過激派對反過激派軍の戰鬪激烈にして反過激派軍敗北し過激派軍は農民數千を慘殺し車輛一千餘輛を掠奪し支那領土内に侵入し來れり之を如何に處置すべきやと打電し來れり。(十一日、朝日)

▲露支國境閉鎖の影響 (九日哈爾濱特派員發) ボグラニナナ支國境閉鎖が餘りに唐突なりし爲め北滿特產物輸出業者の蒙る影響は至大にして何れも之が善後策に汲々たる有様なるが聞くとゝに依れば我滿鐵は其沿線の滯貨を一掃し次第車清沿線の滯貨輸送に全力を注ぐべしと稱せられ且つ實施の望みありとの事にて輸出者は稍慰藉を開きつゝあるが假令一時的現象なりとするも兎に角多額の投資を要する物品なるが故に其蒙る損害の程度も極めて大なるものあり。(十一日、朝日)

▲反過激派凋落 (長春特電十日發) 哈爾濱よりの情報に依れば東滿鐵道東國境ボグラニナナ及西國境滿洲里方面にて活動中なる反過激派は痛く過激派の爲に懼まされ形勢振はず潰滅せんとする有様に恢復頗る困難なるべしと。(十二日、朝日)

▲支兵哈爾濱行 (長春特電十日發) 支那兵十二名は機關銃及擲彈を携へ十一日朝吉林より哈爾濱に向ふ筈。(十二日、朝日)

▲過激派軍出動 (哈爾濱特電十三日發) クロアコウナに於ける過激派軍は愈出動してボグラニナナ驛より東方十露里の地點を古領したり東清鐵道驛は是等過激派に對し更に國境解放に關する談判を提議したるも過激派は寧古塔の支那官憲と談判を爲すべく其代表者はクロアコウナより寧古

塔に兩分出發したりと又クロアコウナより逃げ來りたる者の言によれば今や同地方住民の多數は過激派の狂暴を怖れ烏蘇里各地方に避難し又ニコムカに於ては過激派軍隊用として十臺の貨車を徵發せられたりと露紙は報ぜり。(十四日、朝日)

▲支那兵參戰抗議 (哈爾濱特電十二日發) 支那側の報に據れば過激派司令官は兵支那軍がセミヨノフ軍に參加して進撃を敢てせることに就き支那官憲に抗議を申込み其の證據として過激派が支那軍の俘虜を得たる數を擧げ此の俘虜を如何にす可きやと質問せり之に對し支那官憲は支那人に義勇兵として參加し居れるものは支那政府の國知せざる所なり而して吾人も過激派軍に於ても斯る義勇兵あるを知る尙ほ俘虜支那人は滿洲軍國境に送られたしと答へたり。(十四日、時事)

▲過軍不侵境聲明 (十二日北京特派員發) 九日黑龍江督軍鮑貴卿の報告に依れば露國過激派は支那の國境を犯さざる旨を聲明したり。(十四日朝日)

▲駐哈米國新領事 (奉天特電十二日發) 十一日夜大連より新任哈爾濱駐在米國領事フアーマン氏來奉せるが同行者中猶太人夫婦ありて獨逸系のものなるが爲め大に注意せられつゝあり。(十四日、朝日)

▲過激派對支抗議 (哈爾濱特電十三日發) 支那側の報に據れば過激派司令官は支那軍がセミヨノフ軍に參加して進撃を敢てせることに就き支那官憲の抗議を申込み其證據として過激派が支那軍の俘虜を獲たる數を擧げ此俘虜を如何にす可きやと質問せり

之に對し支那官憲は支那人にしてセミヨノフ軍に義勇兵として參加し居れるものは支那政府の國知せざる所なり而して吾人も過激派軍中に於ても斯る義勇兵の居れるを知る、尙ほ俘虜支那人はアクシヤンスク街を経て滿洲里國境に發送せられたりと答へたり。(十五日、時事)

▲反過激運動起る (哈爾濱特電十三日發) 西北利亞各地に於ける反過激派運動はチエクスラヴと過激派との衝突を合圖として諸所に呼應し最近又々ニコラエフスカを中心として反過激派の地方機關組織せられ勞兵會の政權を覆へさんが爲め秘密準備成りトムスクも亦同様なりとの噂あり尙ほハバ

ロシアに於ける過激派は自己の政權を鞏固にす可く後貝加爾より勞兵會執政官カリニン及びセミョノフ討伐の極東勞兵軍を招けり獨逸併廣政權を占むとの報あるも疑はし。(十五日、時事)

▲東清一部開通 (浦鹽特電十四日發) 哈爾濱、當地間は汽車電信共今尙不通なるも當地よりアラコウ迄開通せり。(十五日、日日)

▲吉林軍續々出動 (長春特電十三日發) 吉林旅團所屬機關銃隊及砲兵百廿八名は機關銃を携へて十三日朝出發哈爾濱に赴けるが尙續々出動すべし。(十五日、日日)

外交關係

▲協約承認交換 (三十日北京特派員發) 林公使は三十日午後三時半隨外交總長を訪ひ兩國政府が正式に軍事協約を承認せる旨の公文書を交換したり協約の効力之に俟つて生ず (二日、朝日)

▲日支軍事協定發表 (三十日北京特派員發) 外交部は三十日午後日支軍事協定に關する日本政府との往復文書を發表せり。(二日、朝日)

▲軍事協定問題の波及 (三十日北京特派員發) 福建省神州の專門學校中學校の學生は日支軍事協約に反對し同校を爲して協議中なり。(二日、朝日)

▲日本賠償要求 (三十日北京特派員發) 日本政府は支那政府に正式公文を以て南北戦争の爲め日本居留民が長沙成都重慶等に於て蒙りたる損害を詳記し其賠償を要求せり國務院にては未だ其狀況を調査し居らざるを以て他日調査の上回答すべし。(二日、朝日)

▲伊國公使對支抗議 (三十一日北京特派員發) 北京駐劄伊太利國公使は三十一日支那政府に陝西書の阿片鴉片に對して抗議を爲せり。(二日、朝日)

▲宜昌に領事館出張所 (漢口特電二日發) 四川貿易の必要上より宜昌に漢口領事館の出張所設置の件を外務省に請願せり。(三日、時事)

▲軍事協約取消請願 (二日上海特派員發) 三十一日上海に於て上海

公學、復旦大學以下各學校並に日本留學生等の各學生約二千餘名上海護軍使署に到り護軍使を訪ひ其代表者を以て護軍使に面會を求め又日支協約は主權を害するを以て之を取消さんとの請願書を出せり護軍使は右代表十四名を引見したり代表者は曰く

今日二千の學生は日支協約に就き護軍使に對し政府に打電し極力拒絕を求められんことを請ふものなりと

護軍使は是に答へて曰く

日支協約は發生の初め余も亦甚だ疑惑を懷き屢々中央に打電したる處此協約は専ら共同出兵を調處さなすものにして共同出兵なくんば此協約は當然無効なり若し又共同出兵が果して實行さるれば此協約なきも日本は我國に於て自由行動を執るの舉あるべし是に於てか余は始めて疑惑を釋くを得たり又武器問題に就ても調停あらんも而かも是も共同出兵にあらざれば亦無効に屬す余は諸君の來意に對し極めて賛成を表す由來外交最後の後援は第一を軍力とし次を民氣となす我邦軍力弱きこと既に極まり民の心未だ死せず民の元氣正に張る尙外交の失敗は挽救し得べし尙最近日本品に對してがイコットを爲す由なるも是は許すを得ず蓋し商工上國際上影響あればなり开は寧ろ支那の國產を改良發達せしむる方外國の貨物の輸入を減少せしめ得べきなり又彼の協約は新國會の成立と共に提出せらるべきも新國會必ず之を通過せざるべし既に通過せざる時は無効たるべし故に諸君安心して可なり

と尙學生等は

國民の此協約に賛成せざるの意を表明せられたし且國民大會を開き此事を討論したし

と對へるに對し護軍使は之を首肯して曰く

先づ地點を選び護軍使署に願出で警察にも届出で且秩序あるを要すと護軍使は彼等を門外迄見送り彼等は中華民國萬歲を三呼して解散せり。

▲沙河鮮人の陰謀 (北京特電二日發) 前內務總長朱啓鈐氏は各會に急電を發して曰く

奉天督軍の報告に依れば最近沙河に於て多數の鮮人、復興會なる秘密結社

を組織し祖國復興の陰謀をなしたることを發覺し同地警察は之を鎮壓せしが是等の結社は各地に蔓延する恐れあり若し嚴重に禁止せざれば獨り社會の安寧を棄すののみならず日支の國交に妨害を及ぼすべしとて各省に取締方を電訓せり。(四日日日)

▲商會日貨排斥反對

(三日漢口特派員發) 上海留學生救國團より日貨排斥的激文を配付し來りしも漢口商會は此際輕舉盲動を戒め市場の擾亂を免れしむべく決議せり。(五日、朝日)

▲誤れる日本の政策

(三日上海特派員發) 岑春煊氏は三日記者に語りて曰く日支親善は予の主張なるも政府對政府の親善のみにては成功せず國民相互の親善を要するに

△近年日本の政策 を見るに援段方針を固守するが如く段祺瑞は支那國民悉く之を惡む所にして其結果之を授くる日本をも惡むに至るは論を待たず支那學生の歸國も此誤解と段祺瑞の秘密政策の結果に出づ今日日本の位置は最も危險にして若し現在の政策を改めざれば或は日支親善は永久に其機會なきに至らん日本政府は特に此點に注意せられんことを欲す如何に段祺瑞を授くるも是が支那統一と思ひも寄らず馮國璋も狡猾にして到底元首の器にあらず支那にては總と法を守るの人物でざれば治まり難し今其人を擧ぐるは差支ふべきも今後は

△南方の民意を尊重 せざるべからず南北妥協に就き余は第一に前敵諸將をして戦ひの無意味なるを知らしめ彼等の發起にて妥協を促進せしめんとしたるも得ず又南北には面目を立つる爲第三者として各派より有力なる人物を集め國民議會を開き是が議決に服するの案を立て張耀會をして北京に行かしめ遊説せしめたるも馮總統一名賛成せるのみにて議員其他不賛成なる爲め成功せず目下の策として

△南北分離の主因 たる舊國會は飽く迄之を回復し是に依りて選舉法を改正し舊國會に既に期限も終る故其議決の選舉法にて新國會召集を爲すべしとの意見にて妥協を策しつゝあり廣東非常國會の結果萬一新する議決出來たる時は或は妥協を早むるやも知れず余は今日廣東代表と會見し就任を諾し廣東に赴くべしと回答したるが現今曹張馮芝北歸等の事あり形勢妥協に有利なる

故今暫し形勢を觀察する積りなり萬一妥協絶望の時は廣東に赴き議法の爲め全力を擧ぐべし要するに日本の政策如何は目下の支那政局を左右するに足る此際南北の爲め應分の援助を切望す南方は是に依つて決して北伐を爲すものにあらざる南北勢力の均等に依つて始めて眞の妥協を爲し得べければなり。

▲軍艦賣却を拒む

(北京特電三日發) 外交部は北京駐劄各國公使に對し左の如く通告し來れり。

廣東督軍莫榮新は軍政府の軍費に充てんが爲め軍艦廣海を賣却に附せんとしつゝ、あつても同艦の所有權は支那政府にありて莫榮新等の自由處分するを許さざるものなるを以て外國商人等は之を購入せざる様注意せられたしと (五日、時事)

▲汕頭領事團の抗議

(三日北京特派員發) 汕頭領事團は三十日附にて陳浩明に抗議を提出せり其理由は陳軍は外國人に公債の押賣を爲し家賃の不法徵收を爲し一旦賣却の官有地の代價の追徴を爲して軍費に收立て又外國に直接命令を出し家屬に侵入する等の不法行為多きを爲なりと。(五日、朝日)

▲支那關稅改正會辦

(上海特電四日發) 關稅改正支那委員長蔡廷幹氏就職後更に當地海關監督馮山勳氏に其會辦とすること、なれりと云ふ。

▲留學生の歸東

(長春特電四日發) 吉林省の歸國留學生三十餘名は同省の官憲に説諭され十五日までに日本に歸る事となれり。(六日日日)

▲香港居住制限

(香港發四日某所著電) 今回當地立法會議を通過したるピーク レジデンス ナーデナンスに依ればピークに居住せんとするものは駐屯軍隊警官等少數の例外を除き總て總督の許可を要すること、なれるが右は主として從來より存する支那人に對する居住制限を一層嚴重にするの總旨なりと云ふ。(六日日日)

▲獨塊人追放決定

(北京特電六日發) 在支那獨塊人追放問題は協同國の希望に依り支那政府は浙江省天臺山或は他の適當なる地方に之を追放するに確定し本月十日頃愈々之を發表すべしとせり尙ほ和蘭公使は支那政府

に對し獨逸人中女子及小兒は之を追放せざらん事を勸告せしも支那政府は之を拒絕せり。(八日、時事)

▲敵入追放斷行 (北京特電七日發) 支那政府の久しき問題となり居りたる獨逸人全部追放の件に關し同政府は聯合國に對し一兩日前決定回答をなせし爲七日午後一時英國公使館に於て日英佛伊の四國公使會議を開き支那の提案に就き協議の結果英國公使は八日陸外交長を訪問し諸般の打合せをなすべし内容に秘密に附せらるゝも追放の場所は歐洲に確定し居るを以て八日の協議會は主に實行方面例へば輸送船舶の提供經費支拂方等に關するものなるべし。

(北京特電八日發) 外交部、陸軍部は各會に對し今後獨逸人の旅行を嚴禁し必要にむを得ざる場合は期限を附し且旅行の目的を嚴重に取調べたる上是を許すべく彼等の事由なき活動を許す勿れと打電せり之れ政府の方針が獨逸人追放に決定せる爲にして在北京の獨逸人は早くより是を洩聞し恐慌を極め居り。(九日、日日)

▲敵國人濠洲に移送 (漢口特電八日發) 吳中賢交渉員は此程上海支派員と共に上京を命ぜられ二日歸來せるが其結果在支敵國人を濠洲シドニーに移すこととなり不日發表せらる可し當地の敵國人の如き特別區域外の往來を禁じあるも支那人瑞西人の投資運動を止めざる有様なれば是れ必要の所置ならん。(九日、時事)

▲敵人活動を止めず (漢口特電八日發) 外交部特派交渉員吳仲賢氏は此程上海交渉員と共に上京を命ぜられ二日歸り來れるが其結果在支敵國人を濠洲に追放する事となり不日發表せらるべく當地敵國人は從來特別區域外の往來を禁じつゝあるも尙支那人、瑞西人等を延じて活動を止めざる有様なれば是等をも嚴に取締るの必要あるべし。(九日、日日)

▲鮮人煽動警戒 (北京特電八日發) 支那政府は最近獨逸人怪しき者長春に潜入し同地より更に上海、山東等に入り込み所在の朝鮮人を煽動する疑ひあり彼等が革命黨の徽文數十枚を携へ其徽文は一見白紙の如きも火に焼れば文字現れ頗る巧妙なる工夫を爲し居れりとの情報に接し關係各會に向け夫々注意すべき旨命令せり。(十日、日日)

▲獨逸通商問題協議 (八日北京特派員發) 七日午後三時英國公使館に於て聯合國公使會議を開き獨逸人通商問題に就き協議中なり支那政府は近々之に對する命令を發表すべし。(十日、朝日)

▲敵國人追放斷行 (北京特電八日發) 獨逸人放逐に供する英國汽船一隻上海に到着せりとの報上海交渉員より外交部に公文達せり。(十日、日日)

▲參戰師團編制 (北京特電八日發) 八日の閣議にて専ら參戰用に供する爲中央政府直屬の二個師團を編制するに決せり。(十日、日日)

▲留學生日本排斥 (上海特電十日發) 當地に居れる日本留學生數國團は全部歸つて再び日本に赴かざる理由の宣言書を出し日本は支那に對し第二の朝鮮たらしめんとするものなりと宣言せり。(十一日、時事)

▲汕頭陸戰除上陸 (海軍省公表) 汕頭地方南北兩軍の形勢一變し擾亂の虞あり居留民保護の爲め九日夕刻同地在泊帝國軍艦より陸戰隊を上陸せしめたり。(十二日、日日)

▲江庸氏渡日 (九日北京特派員發) 日本留學生監督江庸氏は九日午後八時北京發日本に向へり。(十二日、朝日)

▲鐵山採掘奔走 (八日青島特派員發) 大倉喜七郎氏及び東洋鐵廠の鮎川取締役は當地にて金嶺鎮鐵山採掘權問題に就き奔走中なり。(十二日、朝日)

▲英國鐵道權獲得稅 十二日浦鎮より歸任せる清津鐵道在勤露英領事トロースキ氏の談に曰く英國の一會社はボシエツトより理會を経て吉林に至る鐵道敷設權を得たり理會迄一箇年内に敷設の見込に於て露國人は等つてボシエツト地方の土地を購入せんとしつゝあり同地の國有地は一坪一箇年四錢にて廿四年間貸與せらるべし同鐵道は吉會社に對抗するものにて愈々敷設の晩は清津は大打撃を被り延いて我國勢の發展上障礙を來すべく此際吉會社敷設は益々急務となれり。(清津電報)

(備考) ボシエツト灣は國門江口の東方十數里の地點に在る一小灣にして理會に距ること遠からず。(十四日、日日)

▲支人戰鬪能力 (桑港電報十日ロイター發) 當地に來れる青島のシー

シェー・スミス氏は支那人の戦闘能力を稱揚して曰く若し必要あり且運搬力あらば支那人數百萬を海外に送り聯合軍側に参加せしむるを得べし山東の支那人にして労働團に加はりて現在佛國にあるもの十二萬に達し此外體格検査の爲め列られしもの數百名あるが其後し皆再三採用を求めつゝあり。(國際通信) (十四日、日日)

▲伊國俘虜歸國 (北京特電廿二日發) 北京伊太利公使館に收容され居る伊國俘虜三百六十五名は十五日北京發着山より米國船に搭乗歸國す(く伊國公使アリオット氏も同行歸國すべしと。(十四日、日日)

南北情勢

▲總統借金問題 (北京特電廿日發) 馮總統が次期大總統選舉の爲め前清皇室より愛國公債額面三百萬圓を借入れしこと世評に上れるが馮總統は自己の選舉運動をなすにあらず國の爲め(賢人を求むる總旨)にして徐世昌氏を選舉する積りなりと辯解せしに徐世昌氏は之を聞き大に怒り人を介して馮總統に右公債を返還し無益の謠言を作る勿れと通告せり。(一日、日日)

▲伍林總裁就任 (三十日北京特派員發) 伍廷芳、林芳澤は二十八日連名し政務總裁に就任し總裁全部就任の後職權を行ふべき旨通電せり。(一日、朝日)

▲曹錕辭職を請ふ (三十日北京特派員發) 曹錕は更に二十九日病區劇務に堪へず兩湖宣撫使第一路總司令の職を辭し天津に還り休養したき旨陳べ來れり。(一日、朝日)

(一日、朝日)

▲曹錕天津着 (三十日北京特派員發) 曹錕は三十日北京を通過午後三時暮僚を從へ天津に到着したり。(一日、朝日)

▲張督軍三個師編成 (三十日北京特派員發) 奉天督軍張作霖は三十、三十一、三十二の三個師編成に着手せり之が師團長には馮德麟、許蘭沙、劉金馮を任ず。(一日、朝日)

▲龍氏再起計畫 (北京特電廿日發) 龍濟光氏は佛國郵船にて香港に入港

開地にて再起の計畫をなし某國商人へ百萬圓の借款を申込みり。(一日、日日)

▲梁士詒の廣東國會緩和建議 (三十一日上海特派員發) 梁士詒は北京政府に對し舊國會の廣東に填會するを默認し其議員をして自ら組織法修正案を提出せしめ其通過を待ち改選を行はしめ又憲法も先づ豫め協定する所あらしめ廣東にて之を通過せしめ兩院をして閉會(?)せしむるやう建議し北京に於ける各主要人物と協議中なり谷鍾秀も王雲五を招き國會問題に關して協議したりと云ふ。(二日、朝日)

▲龍濟光馮總統に謁見 (三十一日北京特派員發) 龍濟光は三十一日朝海路太沽に着し午後二時中北京に着せり段芝貴吳鼎昌等の出迎へありたり龍濟光は同日午後五時馮總統に謁見し廣東の形勢を述べたるに對し總統は頗る優待したりと龍濟光は一日夜段總理を訪問する筈なり。(三日、朝日)

▲張懷芝山東に歸る (三十一日漢口特派員發) 第一路總司令官張懷芝も亦三十日夜突然京漢列車にて出發山東に歸れり隨行員二十名衛兵二中隊にして鄭州より乘換直に濟南に向ふ筈なりと。(二日、朝日)

▲南軍大雨に乘じに突撃 (三十一日漢口特派員發) 長沙來電、北軍は鄧陽方面にて交戰中適大雨盆を覆す如く南軍は之に乘じて突如攻撃を始め行進し來りたるより奉天軍五千は大敗して死傷二千俘虜三千に達したり尙當日湘鄉方面の北軍も大敗負傷一千民船五十隻にて二十八日長沙下游に到着せり。(二日、朝日)

▲湖南全軍休戰を乞ふ (二日北京特派員發) 湖南の前敵軍隊全部より休戰を請ひ來れり其大意に曰く「湖南民兵禍を蒙り近く又洪水に逢ひ死傷野に遍く慘言ふに忍びず尙若し戰爭を繼續せば湖南の將來遂に收拾し難かるべし然のみならず我等の軍隊岳州長沙を征服して以後苦戰牛虻傷いて完膚なし切に望む休戰を與ふる命を出さしめ」云々。(三日、朝日)

▲湘南全部停戰 (二日北京特派員發) 湖南の戰線は二十九日より三日間全部停戰を行ひたりと。(三日、朝日)

▲段總理と湖南停戰 (二日北京特派員發) 段總理は湖南の停戰に就て湖南を責めず之を處分するの趣旨には賛同せりと唯兩湖は全國の精華にし

て且民黨の根據地たり之を掃蕩せざれば湖南戰停戦すとも未だ俄に和議熱せりといふべからず語れり。(三日、朝日)

▲南方内訌漸く其し (北京特電一日發) 李耀漢氏は北京政府に打電して曰く「現在廣東省に於ては雲南、廣西兩軍の衝突起り内訌の兆顯著なり且韶州方面の南軍は其影響を受けて戰意なし、請ふ陳光遠に命じ大軍を率ゐて韶州を攻めよ予に部下を率ゐる機に乘じ廣東を攻略せん」と。(三日、日)

▲龍入京の目的 (一日北京特派員發) 龍濟光の來京に就き其隨員は第一の目的は軍費の要求にあり且李耀漢の態度を報告し中央より彼を援助せしむるにありと語れり。(三日、朝日)

▲段氏の懷柔政策 (北京特電一日發) 段總理は曹錕、張懷芝兩氏が辭意を漏せるに對し數十萬元を散じて之を慰留し特に曹氏に對しては將來副總統たりしむべしとの好餌を以て之を釣りつゝあわば氏が正面に立ちて非戰論を唱ふるが如き事なかるべし。(三日、日)

▲省議代表南京に召集 (一日北京特派員發) 會議會聯合會は各省議會代表を六月三日南京に召集し時局調停を討論すべき旨通電せりと云ふ。(三日、朝日)

▲張懷芝漢口に留る (一日漢口特派員發) 三十日夜張懷芝は突然出發北歸せりと報は誤りにて張懷芝は北歸を準備せしが湖南より歸來せし徐樹錚に引留められ俄に思ひ止まることとなり張懷芝の準備せし特別列車にて徐樹錚が出發北上せし爲め張懷芝出發せりと誤傳せられしものなり張懷芝は今尚漢口に在るも病を稱して面會を謝絶し居れり但し幕僚の一部は既に北歸したれば張懷芝も遠からず北歸すべしと尙徐樹錚の急遽北歸せるは曹錕の爲めに北方の擾亂されんことを恐れたるが故にして總統選舉等其問題の重なるものゝ如し。(三日、朝日)

▲北軍成都を衝かん (漢口特電二日發) 吳光新氏の計畫は北兵を四川に入れ鳳縣より西に進み劉存厚と合し成都を衝くにありが先日北軍巫山下流にて敗れ巴東まで押返され宜昌よりは日々援軍を送り居れり熊克武は劉存厚が軍器を得て勢力を恢復し成都に迫るの勢あるより湖北に下したる部下を

急に呼返しつゝある一方又雲南軍は重慶より多少下江し居れり。(三日、時事)

▲唐陸和議開始 (重慶特電廿四日發) 先に重慶を経て畢節に赴きたる譚浩明氏の代表桂雲氏は當地に歸れるが其言に依れば唐繼堯氏は既に諸和談列を開始し陸榮廷氏亦然りと譚浩明氏は現駐屯地を防守し攻撃動作を取らざるべく其理由は陸榮廷氏が龍濟光氏を征服する能はざるが爲湖南に援兵を送るを得ざる結果なりと。(四日、日)

▲北軍の停戰要求 (北京特電二日發) 湖南に於ける北軍中徐樹錚部下の北軍及び吳佩孚を除ける各軍師團長等は全部連名し曹錕の手を経て中央政府に對し左の如く停戰を要求し來れり。

湖南省住民は長く兵火の害を被り最近亦大洪水の爲め苦つゝあり之が爲め死屍は野に拾く其慘狀云ふに堪へず若し此上戰爭を繼續するに於ては時局は更に拾收し難きに至らん加ふるに吾等部下の軍隊は岳州長沙恢復以來苦戰惡戰中歳ならんとし生存者と雖も其身體は完全なきに至れり望むらくは中央政府に速かに吾等に休息を與へられたし。

と最近第一軍總司令官たる曹錕氏及び第二軍總司令官たる張懷芝氏は共に中央政府の許可を俟たず天津及び濟南へ引揚げたるに據て、加へて師團長等の此強要あり中央政府は其善後策に苦心せる結果取敢ず主戰派の首領たる徐樹錚氏を招きて協議する事に決し徐氏は漢口を経て本日(二日)未明北京へ到着せり。(四日、時事)

▲江蘇の停戰運動 (北京特電二日發) 江蘇省衆議院議員初選舉當選者潘子貞氏は國內同胞相關き爲に選舉を爲す能はず宜しく停戰を待ちて初て復選舉を行ふべしと主張し各省選舉當選者間に運動しつゝあり。(四日、日)

▲岑總裁承諾 (三日上海特派員發) 議員馬國氏は廣東より上海に來り岑春煊を訪うて廣東非常國會の議決せる政務總裁の推薦狀を渡せり岑氏は之を快諾し尙四五日中に家事を整理したる上廣東に赴くべく取敢ず書面にて就任の旨を回答すべしと語れり又同議員陳策氏も二日廣東より上海に着氏は日本に在る唐紹儀氏と會見同氏政務總裁の就任を勧告する爲め四日丹波丸にて日本に出發すべしと氏の談によれば孫逸仙氏は廣東出發前議會代表者に對

各政務總裁就任を承諾せば氏又就任すべきを約せりと。(四日、時事)

▲岑春煊調停通電 (二日北京特派員發) 岑春煊は馮總統に致電して曰く中央若し速かに和するの意あらば予は廣東政府の政務總裁を辭職して調停の任に當るべしと。

▲南軍招撫實行の協議 (二日北京特派員發) 曹錕は湖南の南軍停戦せる故當然招撫を實行する時機なれども病氣なるを以て前湖南鎮守使趙春庭を特派して招撫を實行せしむべく中央の同意を求めたり一日參議院公署會議を開き之に關して協議したる結果段總理は靳雲鵬を天津に派して招撫の實行に就き曹錕と商議せしめたり靳雲鵬の歸京後に命令發せらるべしと。

(四日、朝日)

▲北軍二軍合併 (三日漢口特派員發) 湖南出征の第一第二路北軍は曹錕の北歸以來指揮者なき爲め今回之を合併して來援湘軍と稱し奉天軍を主力とし徐樹錚を總司令とし孫烈臣を副司令と爲すべく内定し不日發表すべしと。(五日、朝日)

▲廣東南軍勝戰 (四日北京特派員發) 廣東よりの消息に據れば李烈鈞軍は二十六日頃より南雄包圍運動を開始し北軍は戰はずして大庾嶺に退却せり陳炯明軍は三十日永定を確實に占領せり。(五日、朝日)

▲湖南出征兵逃避 (上海特派員發) 湖南に於ける第二路の將校兵士の時疫に罹る者多く兵の岳州鐵道に依り毎日漢口に回避し來る者多く又第一路曹錕の軍は武器彈藥を漢口より保定に送り返すもの少からずと云ふ。(五日、時事)

▲將軍鎮守使任命 (北京特電三日發) 大總統令を以て三師團吳佩孚氏を侯威將軍に趙春廷氏を湘南鎮守使に任命せり。(五日、日日)

▲李燦漢氏獨立 (北京特電三日發) 香港來電 廣東省長李燦漢氏は肇慶にありて既に莫榮新氏に對し獨立を宣言し廣東政府と關係を斷絶せりと。(五日、日日)

▲汕頭海水雷敷設 (一日香港特派員發) 海岸觀察局の回答に據れば支那當局は汕頭灣の入口に機械水雷を沈設したる由是等の機械水雷は海岸より

り爆破する仕掛けにて汽船接觸するも其儘にては爆破せず汽船は合圖次暫停船せざる可からずと。(五日、朝日)

▲李純調停努力返電 (三日北京特派員發) 馮總統が李純の許に趙俊卿を派遣したるに對して李純は二日馮總統宛て趙俊卿より御意見を聽けり極めて賛成なり和を議する爲め努力すべしと返電せり。(五日、朝日)

▲徐世昌の斡旋 (四日北京特派員發) 徐世昌、梁士詒、周自齊の諸士は天津にありて和平運動を試みつゝあり徐世昌は三日馮總統、段總理に宛て時局に關し意見を述べ議和を促せりと梁士詒は和議既に熟すと爲し最も努め居れりと。(五日、朝日)

▲修撫清理局新設 (北京特電四日發) 湖南鎮守使に任ぜられし趙春廷氏は衡州に赴き吳佩孚氏と協議の上衡州に修撫清理局を設置し双方境を劃し南北停戦を行ひ南軍を招撫し之に従ふ者は國家軍隊に編入し將校には現職を與へ兵卒には從來の俸給を與へ若し隊に止まるを欲せざる者には兵器を返納せしめ歸郷旅費を給すべく之に従はざる者は自ら滅亡を取るに至らんと布告すべし。(五日、日日)

▲意氣地なき北軍 (奉天特電五日發) 湖南方面に於ける北軍大敗の報は未だ詳細を盡さざるも總司令孫烈臣氏は張督軍に對し新編成の混成旅團は毒も戰術を知らず且甚しく不規律にして一度砲撃を聞けば潰走する有様なれば是等を以て戰功を擧げんこと到底不可能なれば速に廿七八九の三師團中より一旅團を選抜して之と交代せしめられたしと電報し來りしが張督軍は以上三師團の中より一旅を選抜し且京奉京漢一帶に駐屯し居る百七八の兩師團に對しても出征を電命せり。(六日、日日)

▲南軍祁陽占領 (北京特電四日發) 南軍は廿六日祁陽を占領し同地守備の直隸混成第三旅團は解散せりとの報あり又南雄を占領したる李烈鈞氏は大庾嶺の攻撃に移れる爲同方面は危急に類し江蘇第十九師團は南昌より同地に急派せられたりと。(六日、日日)

▲湖南北軍戰意なし (四日漢口特派員發) 曹錕一度北歸してより湖南の北軍戰意なく續々休戦を希望し來る。(七日、朝日)

▲陳炯明軍大敗 (四日香港特派員發) 福建省境に近き黃岡附近の戰闘に於て陳炯明軍は大敗を被りたるより汕頭は危險に陥りたり。

▲別報 (五日北京特派員發) 汕頭二日來電一廣東右翼軍は黃岡に於て大敗せり潮州豫備軍及左翼軍は援助に向へり。

▲陳援軍を求む (五日廣東特派員發) 汕頭附近の戰況は南軍に不利なるものあり陳炯明は汕頭防禦の爲速に應援軍を派遣せんことを請ひ來れり。(七日、朝日)

▲孫文氏愈渡日 (北京特電六日發) 孫文氏は陳炯明と將來の軍事計畫に就き密議中なりしが黃岡方面の廣東軍大敗せるを見て長く留まるの不利を知り三日汕頭發日本に向へり。(七日、日日)

▲討伐續行の詮議 (北京特電六日發) 在京中の徐樹錚は段總理に對し曹錕引揚げの結果動搖を來せる湖南南部討伐軍の結果を固むると共に更に討伐の歩を進め天津より曹錕漢口より張懷芝を北京へ呼び寄せ之に在京中の徐樹錚等を加へて軍事大會議を開き南方討伐に就き協議するの案を提出せり尙ほ段總理は徐樹錚の意圖に依り吳佩孚を湖南南部討伐司令代理とし又戰線にある奉天軍の指揮は孫烈臣をして之に當らしめ居れり。(七日、時事)

▲譚浩明和を排す (六日北京特派員發) 南軍總司令譚浩明は一日湖南各地に通電して曰く北方にして誠意あらば和を唱へ各路の軍隊に令して一敷停戦し正式條件を提出し双方より委員を派して會商すべきなり然るに徒らに招撫に名を飾り兩軍の軍事計畫を緩めんとするは浩明等暫つて承認し難し各軍努めて欺かるゝなく主戦の計畫を實行せよと命ぜり之依つて湖南の南軍は各地に猛烈なる攻勢を執りつゝあり。(七日、朝日)

▲張懷芝北上見合せ (漢口特電七日發) 張懷芝督軍は政府より數回の慰諭を受け且つ山東督軍の位置に變動なきの誓言を得たるため暫く北上を畢ひ止まりたる如く第二旅の司令部を武昌に置くことし不日移轉す可し。(八日、時事)

▲參議院議員選舉 (上海特電六日發) 昨日參議院議員上海縣初選舉の投票あり當選者午前四名午後六名尙ほ四名の不足は六日投票す可く投票出

席者は午前二百七名午後二百五十六名なりと右當選者は更に復選を爲すものなり又江蘇省衆議院初選當選者は曾て停戦和議を北京政府に請願し停戦和議無き限りは復選を行はずとの議を出し各地衆議院議員當選者の停戦賛同を求めたるに其後續々賛成者出でつゝあり。(八日、時事)

▲商會聯合會終了 (六日北京特派員發) 天津の全國商會聯合會は四日閉會せり未解決に終れる南北調停運動に就ては各省より二名宛の代表を出し協議會を開き引續き活動すべしと。(八日、朝日)

▲奉天武器輸送 (安東縣特電六日發) 支那官憲は張作霖の命にて統器彈藥を奉天に送れるも原因は不明なり。(八日、時事)

▲反莫軍猖獗 (香港特電七日發) 廣東省香山縣の反莫榮新派軍隊は依然勢ひ猖獗なるより廣東當局は新に督憲の兵を同地に派遣せり。(八日、日日)

▲陸氏政務總裁受任 (上海特電八日發) 陸榮廷氏は六月二日政務總裁を承諾せりと云ふ。(九日、時事)

▲孫文等基隆行 (七日北京特派員發) 五日天草丸にて汕頭を出發したる孫文胡漢民戴天仇等は六日廈門に寄港し同日基隆に向へり。(九日、朝日)

▲吳佩孚氏請暇 (北京特電七日發) 湖南に於ける直隸軍の中堅たる吳佩孚氏は第一路總司令たるを辭退し病氣の爲一週間の請暇を求めたりこの報あり吳氏の此行動は最も注意を惹けり。(九日、日日)

▲張勳の特赦を計る (七日奉天特派員發) 雷震作五日突然來奉一張督軍を訪ひ七日吉林に向へり是東三省及び北方各督軍と協議の上張勳の特赦に對し督軍連名にて請願すべく打合の爲めなり。(九日、朝日)

▲雷州半島恢復を期す (北京特電七日發) 雷州半島恢復に要する軍器及び彈藥は中央政府に於て之を支給することに決定せるを以て上京中の龍濟光氏は今日頃北京出發南下の誓なり尙ほ龍氏は語りて曰く余は從來中央政府に對しては絕對に服從主義を執り來れり現に段内閣の對南政策に就き毫も異議無し今後は政府の命する處に従ひ雷州半島の恢復を圖り廣東軍を壓迫せん。(九日、時事)

▲廣東軍黃岡恢復 (七日北京特派員發) 黃岡に大敗したる廣東軍は

應援を得て四日午後黃岡を恢復し小銃一千彈藥百五十萬發を鹵獲せり目下省境分水關にて激戦中なり汕頭には應援に出で、廣東兵の影を見ず此戦ひに参加せる兩軍は各五六千の兵力なりしと。

▲廣東軍永定占領 (七日北京特派員發) 廈門六日發廣東軍枝隊は永定平和方面に大勝し既に永定を占領せり平和には北兵の掠奪行はれつゝあり。(九日、朝日)

▲參議員再選舉を行 (南京特電八日發) 本日參議院議員の再選舉を舉行す。(九日、時事)

▲和議の意見を求む (上海特電八日發) 段祺瑞氏は國會議員諸氏に對し和議に關する意見を求めたりと。(十日、時事)

▲周張和議成らず (漢口特電八日發) 湘西鎮守府副使周則范氏と湖南軍張敬堯氏との單獨講和は遂に成らず周氏は常德を撤退せんとし貴州軍は辰州に退却を開始したるが一方益陽の南軍は瀏陽に退き北軍は既に同地に入れり。(十日、日日)

▲雷震春來林 (長春特電八日發) 雷震春は張勳特設運動の使命を帶び今日北京より來り吉林混雜の爲め遠慮し五日午後同地に行き孟と熱議したり。(十日、時事)

▲北軍益陽占領 (八日漢口特派員發) 常德來電湖南益陽の南軍は瀏陽に退却し益陽は北軍の占領に歸せり常德の南軍は目下民船微發中なるが多分逃仕度なるべし又常德に進出し居りたる貴州軍は再び沅江上游に引揚げたるを以て常德の陷落漸く近付けるを知るべし。(十日、朝日)

▲南軍南雄恢復 廣東省南雄方面に於て數日時より北軍漸次退却し南軍は殆ど戰はすして南雄に入り三日同地を完全に恢復したる由なり。(十日、日日)

▲選舉其時を得ず (上海特電八日發) 江蘇省各地新國會衆議院、參議院初選當選者等は江蘇督軍及び省長に對し國內戰禍已ます國民の選舉何の裨益する處かあらん中央政府に即日停戦し且つ選舉復選をも延期されたく代りて求められたしと打電せり。(十日、時事)

▲張懷芝北上す (上海特電十日發) 張懷芝氏は八日午後八時漢口發濟南に向へり多分十二日頃北京に赴く可しと。(十一日、時事)

▲衡州南軍に歸す (漢口特電十日發) 六日衡州南軍の手に歸し吳佩孚氏は衡山に退けりとの説あり。(十一日、時事)

▲南軍汕頭撤退 (十日某所着電) 廣東、福建兩軍の形勢は其後更に一變し廣東軍は威致平氏の率ゐる北軍の爲撃退せられ六月八日以來澄海を経て汕頭に退却し更に潮州及潮陽に走り汕頭は軍事及行政各官衙は八日夜以來空虛となり市内は全然無守備無警察にして唯北軍の來るを待つのみとの事なり(十一日、日日)

▲北軍常德に入城 (漢口特電十日發) 馮玉祥氏の報告に據れば第十一師、直隸、湖南軍等と共に常德に迫りしが五日田、周等の軍は辰州と溇山とに分れ走り北軍六日城に入れりと益陽の南軍は北軍の到るを聞きし日の正午常德に向ひ退却せるが夜に入り北軍入城し南兵を搜索すこ稱し例の如く各商家を掠奪し亂暴を極む。(十二日、時事)

▲汕頭南軍潰走 (汕頭特電十日發) 廣東福建省境の戰爭は形勢一變し南軍は八日來澄海を経て潮州潮陽に退き汕頭の文武官は逃亡し各官署空虛となり市内は無警察同様の無秩序狀態に陥り北軍の入城を待つ有様なり南軍の敗北の原因は廣東督軍莫榮新氏と陳炯明氏との聯絡を缺きたる爲なりと。(十二日、日日)

▲廣東軍香山縣占領 (十日北京特派員發) 茲に廣東督軍に對し獨立せる廣東省香山縣は六日廣東軍に占領せられたり其主領莫榮新は逃亡せり。(十二日、朝日)

▲馬賊吉林を荒らす (吉林特電十日發) 吉林省方正縣にては去六日百五十人より成る大馬賊團襲來し先づ縣知事公處、警察署、徒軍兵營等を射撃し官民恐怖して避難するを待ち凡ゆる財貨を掠奪し刺へ知事及善良民を人質とし監獄に繋かれし囚徒全部を解放し黑龍江省管内に向け引揚たるが損害多大なり八日督軍省長に宛同地官民より此旨電告し來りしが孟恩遠、郭宗灝氏等亦れも激怒し附近駐屯の徒軍警察に對し速に協力して追撃すべく聲明

せり。(十二日、日日)

▲支那艦賣却さる (上海特電十一日發) 廣東軍政府の賣却する軍艦

廣海は八日香港松華公司にて百二十萬一千元にて買入れた。 (十二日、時事)

▲袁氏二周年忌 (北京特電十日發) 故袁世凱逝去二周年の爲馮總統の

代理庶昌、徐世昌、龍濟光、朱啟鈐、張一宸の諸氏は河南彰德府に赴けり。

(十二日、日日)

▲衆議院議員選舉 (上海特電十一日發) 昨日當地に於ける新國會衆

議院議員選舉投票に就き青浦、南匯、松江、上海、泰興、嘉定、寶山、崇明

奉賢、金山、川沙、海門各縣の初選當選二百四名會合、上海道尹管轄區域の

投票をなし當選者は二十五票以上のものとなり其の開票は後日行ふべく又當

選候補投票も今日行ふ可し。(十二日、時事)

▲廣東國會正式會議 (上海特電十一日發) 廣東非常國會は愈明十二

日正式會議を開く可しと云ふ。(十二日、時事)

▲鮑近討南決行 (十日奉天特派員發) 徐樹錚奉天に來りて張督軍と會

見の結果張督軍を援軍司令に兼任し龍濟光と協力して鮑近討南討伐を決行

する可しなり。(十二日、朝日)

▲王督軍同意の回答 (十日漢口特派員發) 王湖北督軍は曹錕より贊

成を求め來れる南北妥協條件中左の二三項に就き同意の旨回答せり。

一、舊選舉法に依り新國會召集の件

二、陸榮廷を兩廣巡閱使に唐繼堯を雲貴州巡閱使に任命の件

三、譚延闓を湖南軍兼省長に兼任の件 (十二日、朝日)

▲張懷芝再南下せず (青島特電十一日發) 張懷芝氏は十日午後軍民

各長官を督軍所に召集し召集中の勢を謝し十二日に上京するも今後再び南征

する可しなましと聲明し湖南出動中の山東軍は近く引揚ぐ可しと云へり因に張

氏は十二日朝出發上京の筈。(十二日、時事)

▲軍事會議參列者 (上海特電十一日發) 徐樹錚氏より電報にて軍事

會議を開く可く代表者を送られたしとの申出でに對し當地譚軍使盧永祥氏は

其腹臆正當にして列席せしむ可しと。(十二日、時事)

▲陳氏を廣西督軍とす (上海特電十二日發) 陸榮廷氏は陳炯明氏を

廣西督軍と爲せりとの報あり。(十三日、時事)

▲吳氏軍費窮乏 (漢口特電十一日發) 第三師團長吳佩孚氏は既に三箇

月に亘り政府より軍費の供給を斷たれ非常に苦しみ居れり。(十三日、日日)

▲劉鍾兩氏退却 (北京特電十一日發) 國務院着電によれば劉存厚及び

鍾體道兩氏は戰備完成せざる爲の廣元縣(四川)を放棄し其北方神宜に退却せ

り。(十三日、日日)

▲伍廷芳より總統へ (上海特電十三日發) 伍廷芳氏は去る十四日長

文の電報を馮國璋氏に送り(一)正式國會の開會を報告し(二)違法選舉の取消

を請ひ(三)時間妥協の法を述べ(四)密約廢棄を求め心を平かにして氣を和ぐ

るの語を聯れたり馮國璋氏は之を十二日國務院に交附したり。(十四日、時事)

▲張懷芝曹錕訪問 (十二日天津特派員發) 張懷芝は山東稽實陳統領

外隨員十名護衛將士七十名を率ゐ午前九時半特別列車にて濟南より來津直に

曹錕を訪ひ會談の後靳雲鵬代理省長曹錕、劉榆鎮守使張懷城、直隸督軍參謀

長趙玉珂並に朱泮藻等と午餐を共にしたる由にて一兩日中に上京の筈なり。

(十四日、朝日)

▲天津會議通牒 (十二日北京特派員發) 天津會議には直隸、奉天、安

徽山東、江蘇、山西、湖北、江西の八省來會すべく曹錕は六月二十日第一回

を開會すべき旨通牒せり。(十四日、朝日)

▲倪嗣冲北上す (上海特電十三日發) 倪嗣冲氏は十日津浦鐵道にて蚌

埠出發天津北京に赴けり。(十四日、時事)

▲兩派の爭執 (北京特電十二日發) 衆議院議員總選舉に専ら安福俱

樂部と研究會との爭執にして既に報告に接したる部分に就き其派別を見る

に直隸、北京は安福俱樂部三名、研究會一名、天津は安福派五名、研究會三

名、保定道は安福派四名、研究派三名、(内二名は國民黨系なりとも云ふ)江

蘇會黨場道は安福派七名、研究派一名、奉天會の遼瀋道は安福派九名、研究

派一名、安徽會黨湖道は全部安福派なりと以て今後の形勢を察すべし。

(十四日、日日)

▲非常國會開院式 廣東に於ては六月十二日正式國會開院式を舉行せり出席議員は參議院議員六十一名衆議院議員百廿八名にして吳景濂氏首席に就き開會の辭を述べて曰く

昨年國會の非法解散以來今日にて滿一年なるが今日斯くの如く再び開會するを得たるに實は議院各省の擁護と各議員の努力によるものにして今後各議員共當地を離れず飽迄職責を盡されたく又議院各省聯合組織の一日も速に成立し我等同志の素志を貫徹せんことを希望す云々

尙現在廣東に在る議員數は約二百六十餘名にして便船毎に續々到着する見込あり法定數に達したる上にて正式の議事を開く筈なりと。(十四日、日)

▲復辟派總統推戴 (北京特電十三日發) 雷震春現に奉天に在り萬福試等の復辟黨は頗る奉天督軍張作霖等の北方督軍に對し自滿より大總統を選出せむとする運動を開始し先づ徐世昌氏を候補者とし若し徐世昌氏にして復辟に参加せざれば他に復辟賛成者を擇み之を大總統に推し只管復辟實行の第一段に成功せむことに努力し居れり。(十五日、時事)

▲汕頭漸次秩序恢復 (十三日廣東特派員發) 去九日北軍廣東に來歸して諸官署も撤退し遂に無警察の状態に陥れり汕頭は翌十日南軍再び歸來守備に任じて以來漸次秩序恢復し目下全く平穩に歸せり。(十五日、朝日)

▲吳佩孚氏借金 (漢口特電十二日發) 第三師團長吳佩孚氏は軍費に窮し最近商人より四萬元を借入れたる。(十五日、日)

財政關係

▲山東借款挫折真相 (三十日北京特派員發) 山東借款の真相は英米煙草會社は數年前山東鐵道沿線に支那人名義にて廣大なる煙草栽培場を購入し栽培に従事し居れるが今回之を擴張し山東全省の栽培計畫を樹てたるものにて財政廳長と三百萬元の協定の事實暴露して輿論沸騰し財政廳は之を否認して一時沙汰止みとなる次第なり。(二日、朝日)

▲日支新借款說 (北京特電一日發) 外國新聞の報する所によれば日本は新に酒、煙草の專賣權を獲得せんと欲し煙酒稅を抵當として一千萬圓の借款進行中なりと而して其方法は一千萬圓を以て煙酒銀行を設立し支那の煙草製造所及造酒所の改革を行ひ北京、上海、廣東に機械的大工場を設立し日本技師を僱用するに在り。(三日、日)

▲四川借款商議 (一日北京特派員發) 北京にある四川省長張瀾は劉存厚代表と共に二百萬元の借款を爲さんと商議中なるが右は四川の煙酒肉稅及交通部より償還すべき粵漢鐵道を擔保とするものにして目下某總長より某國銀行に交渉中なり。(三日、朝日)

▲煙酒公司の内容 (上海特電三日發) 西原龜三氏の計畫中なる支那の煙酒公債の件に就き日本公使館の否認は理由あるも右は公使館と無關係にて朝鮮臺灣興業三銀行のシンジケートが密に計畫中の者にして煙稅改革も均しく日本の總監督を受け各地に日本人の監督を入銀行を設け漢口上海其他二三箇所に大製造所を設けんとするものにして其借款高五千萬乃至一億圓にして全般の監督を日本が引受くることとなり其收入は日本の銀行に支拂ひ入るゝこと其剩餘金は支那政府に送附することの條件なるも茲に遺憾とす可きは右借款の金の大部が目下の支那武力解決の軍費に徒費されんとするに在りトノースチャイナデーリーニュース北京通信員は報道せり。(四日、時事)

▲煙酒聯合會借款反對 (上海特電三日發) 昨日當地中國煙酒聯合會に於て日本が煙酒稅を提供し借款と爲すとのことタイムスに依れば昨日にて談判開始以來三週間を経過し積極的に進行しつゝある所右は西原龜三と曹汝霖の間に取極め行はれつゝあり双方秘密に附しあり事に與るもの二人あるのみ日本公使館すら之を知らずとあるに就き右聯合會は北京政府に對し嚴重に之を拒絕すべき標打電することに議決ししたり。(四日、時事)

▲幣制改革顧問 (北京特電二日發) 支那政府は阪谷男を幣制改革顧問に僱聘すべく其旨正式に申込み詳細の條件に就きては日本公使館と財政廳長との間に協議進行中なり。(四日、日)

▲交銀營業擴張計畫 (二日北京特派員發) 交通銀行は整地を行ひ更に營業を擴張して朝鮮銀行臺灣銀行等の日本銀行と取引を開始するの準備を爲しつゝあるもの、如く目下歸朝中の交通銀行顧問藤原正文氏、卅日來會せ

る四原龜三氏等之に關係ありと信ぜらる。(四日、朝日)

▲煙酒借款進行 (六日北京特派員發) 煙酒公債借款の議が財政部長と四原龜三との間に進行しつゝあるは事實なり其價格及び條件に就くは不明なるも今同大借款にあらざるは明かにして一千萬餘圓と稱せらるゝは或は眞ならん且つ各公債局に日本人若くは日本より指定せる支那人を監督官に招聘せしむるも條件の一なるもの、如し。(八日、朝日)

▲探鑽停止延期さる (濟南特電七日發) 山東財政廳が鎮區整理の爲め小鎮區所六十箇に探鑽停止を命じたるに對し日支同業者は其れを當路に請願する所ありしが結局向ふ二箇月間停止延期の事に決したり。(八日、時事)

▲鹽稅剩餘金交附 (北京特電七日發) 四國銀行團は支那政府の請求により明日支那政府に對し五月分鹽稅剩餘金三百六十萬元を上海及び天津に於て交附することとせり尙ほ今回廣東に於て交附せざるは廣東軍政府は銀行團の抗議ありしにも拘らず鹽稅收入を軍政府の軍費に流用し居れるを以て銀行團に於ては右鹽稅剩餘金の交附方を中止せる次第なり。(九日、時事)

▲殖邊銀行支店大穴 (七日遼陽特派員發) 遼陽縣知事は張督軍の命により六日殖邊銀行遼陽支店の帳簿検査を行ひたる所二十萬圓の大穴あり支店長某は債券購入に使ひたりと云ふも甚だ曖昧なり内部の紊亂歟ふべからず尙遼陽縣知事よりの照會により領事館にては本邦人にして殖邊銀行紙幣を所持するものは成るべく速かに所管警察署又は最寄派出所に出頭申告すべき旨七日告示を發せり。(九日、朝日)

▲奉天財界紊亂 (七日奉天特派員發) 奉天各銀行は紙幣を濫發し經濟界の紊亂を來す虞あるより張督軍は四日研究財政會議を開き各銀行の紙幣濫發を防ぐ爲從來發行せる紙幣數を取調べんとし初め殖邊銀行の調査に着手せるに之を誤聞したる奉天錢業信託公同は取引人より提供する保證金に殖邊銀行發行紙幣を拒絕しより起る紙幣は不適となり一時取引に會ひたるが六日より又通用せるも他は紙幣とは餘料の差あるより張督軍は七日城內錢業者の小資本にて營業せるもの九十三月に營業を停止し極力市價の下落を防ぎつゝある爲め多少の回復は見たれども奉天經濟界は今や混亂狀態に在り今後各銀行の濫發の事實暴露せば奉天經濟界は支持し難かるべし。(九日、朝日)

▲錢莊營業停止 (八日營口特派員發) 道尹は六日吏員を中國交通銀行に派遣し帳簿を検査し其間兌換を停止せり七日錢莊に對し營業停止を嚴命しだるに違反者ありて二十名引致せられ之が爲め經濟界恐慌を來せり。(九日、朝日)

▲財調訓令 (奉天特電七日發) 張作霖は財界の整調を計る目的にて六日訓令を出し錢相場を一定し關關兩管五十四、不正仲買人二名に營業停止を命ぜるが錢莊取引所は爲に取引杜絶の有様なり。(九日、時事)

▲公債返還の督促 (七日北京特派員發) 馮總統は最近清室より公債三百萬元を借出したるが政府當局は清室に對し該公債は抵當又は質買するを得ざるもの故速かに回收すべく通告せるを以て清室は馮總統に該公債引渡方を督促しつゝあり馮總統は之を返還せんさる由なるも之に關し苦闘し居れり。(九日、朝日)

▲軍費缺乏 (北京特電七日發) 支那財政當局者は軍費支出に困難せる爲シムス・カレー閣員に鐵道借款の一部を米國銀行團に瀝河水利借款の一部を前渡せんと事を求め何れも拒絕されたるを以て已むを得ず蒙古王侯に向ひ民國元年の公債を抵當として百萬兩の融通を求めつゝあり財政の窮乏其極に達せり。(九日、日比)

▲殖邊銀行暫時休業 (奉天特電八日發) 奉天省當局に於て内容を検査爲しつゝある殖邊銀行奉天支店は其の内部整理の爲め八日より二週間休業する旨財政廳長より一般に布告すると同時に同行紙幣は從來通り通用を強制し其の授取を拒絕し能はずと通告す。(十日、時事)

▲煙酒稅借款反對 (上海特電十日發) 當地煙酒聯合會は昨日會議を開き農商部に宛て煙酒稅借款に對し反對の電報を送り各省分會を上海に集め大會を開き反對運動を爲すべく議決せり。(十一日、時事)

▲奉天の幣制整理 (奉天特電十二日發) 兌換停止後總督軍は銀行の整理を行ひ金融界の順調を圖らんと整理の手を殖邊銀行に下したるが更に楊仁山商務總會總理時代に開設せる商業銀行整理に着手し二百五十萬元を回收せしむるに決定せり是れ張作霖が中國交通二銀行を除く外、東三省官銀行及

び興業銀行の二つを紙幣發行銀行とし他は全部撤廢し幣制の整理を遂げんとするものゝ如し従つて張督軍個人の資本を投入せる財團を構成することゝなる可しといふ。(十四日、時事)

▲官銀兌換停止 (十四日警口特派員發) 官銀は三十日突然兌換を停止し邦人の被る損害少からざるに就き三十日實業會臨時總會を開きたり多くの議案出でたるも結局飽く迄兌換を要求することに決し其交渉を三宅領事に請願すべく委員十名を擧げ散會したり仄聞する所によれば銀紙の態度強硬なりと云ふ。(十五日、朝日)

▲地租借款說 (十三日北京特派員發) 西原鐵礦の活動しつゝある借款契約は煙酒借款にあらずして地租借款なりと傳ふるものあり即ち從來の支那の地租購買徴收法を改めて官吏徴收と爲すものにして借款に依る機關を整へ國庫の増收を計らんとするにありと云ふ。(十五日、朝日)

經濟關係及其他

▲張敬堯治水計畫 (三十日北京特派員發) 本月二十五日より湖南湘陰寧鄉長沙湘潭に洪水あり督軍張敬堯は戰時中又洪水に襲はれて衣食なく救助を求むる窮民日に五千ありと報告し救恤を求め來れり尙又張敬堯は各軍に堤防工事を命ぜり。(二日、朝日)

▲湘江漸く減水 (長沙二十九日發電) 五月二十五日長沙に於ける湘江の汎濫は岸上の水深五六尺に及び沿岸の家屋殆んど總て浸水せるも二十六日より直に減水し始二十七日に陸岸を現はし尙ほ減水しつゝあり、支那家屋の倒潰及流失並に溺死せる支那人數は少數なり然れども湘江沿岸一帶に於ける人畜田畑に及ぼせる損害は尠少なからざるが如し。(二日、日日)

▲支那郵船改革 (二十九日桑港特派員發) 支那郵船會社は米國資本家の出資に依り其組織を改めたり總資本金一千萬弗なり。(二日、朝日)

▲廣東の水害 (廣東發外務省電) 此種來連日の大雨にて西江北江東江の水俄に増加し所々の堤防崩壊し福災町村多數にして三水、花縣、四會、順德

地方は殊に甚だしく被害の情報頗々として至り降雨尙續す更に増水の模様あり當地各團體にては目下救済策を講じつゝあるが救済公署の計算に依れば費用約百二十萬乃至百六十萬元を要する見込なりと云ふ。(六日、朝日)

▲米支合辦計畫 (四日北京特派員發) 交通部は支那の電氣事業發達に伴ひ其多くの材料を外國より輸入するを不利と爲し米國と合辦にて上海に電氣材料を製造する電機會社を起すに決定し既に其準備に着手せりと政府より資本を出すも將來希望する商人あらば其投資を許し民間の商會社とすべしと云ふ。(七日、朝日)

▲東清線の大滯貨 (長春特電七日發) 東清鐵道南支線各驛にある大豆其他の貨物は今尙山積し哈爾濱驛にては大豆四千貨車の多きに達し寬城子等の各驛にあるもの亦約卅萬噸を數へ殊に去る五月十八日來の降雨にて損害非常にて大豆の如きは水に浸され芽を吹出し又は腐敗せる等荷主の損害百萬圓にも達すべしと云ふ。(九日、日日)

▲南滿經由輸出 (十二日大連特派員發) ガグラニチナヤ國境閉鎖の爲め北滿貨物の浦潮發送全く杜絶し當分回復の見込なき哈爾濱附近の經濟界は打撃を被るべしとて之が救済策として東清貨物を南滿經由輸出せんとの議あり哈爾濱公署は之が交渉を受けつゝあるが長春發一日の引繼數量を講究中に於て十五日以後に至れば其實施に着手し得べし東清沿線の積荷は特產物二十七萬噸木材十二萬噸なり滿鐵が若し長春發一日二千二百或は二千五百噸を輸送し得たりとすれば本年八月中には一掃し得る見込にして輸送數量を此程度に制限すれば各鐵道及び荷主も滯貨或は到着遲延に苦るしより貨物を處分し得べし。(十三日、朝日)

▲湖南民饑餓 (漢口特電十二日發) 湖南の住民中には昨今穀類缺乏の爲饑餓に瀕せるもの多し。(十五日、日日)

新法令

修正參議院議員選舉法

(七年二月十八日政府公報公布)

第一章 總則

第一條 參議院議員ハ國會組織法第二條ノ規定ニ依リ分別之ヲ行フ

第二條 參議院議員選舉人及互選人ハ本法各章ニ依リ之ヲ定ム

第三條 中華民國々籍ヲ有スル男子年滿三十歲以上ニテ本法各章所定ノ資格ニ合ヒ衆議院議員選舉法第五條列記事情ノ一ナキ者ハ參議院議員ノ選舉人タルヲ得

中華民國々籍ヲ有スル男子年滿三十五歲以上ニテ衆議院議員選舉法第五條列記事情ノ一ナキ者ハ選マレテ參議院議員タルヲ得但シ蒙藏青海回部華僑ノ被選舉人ハ漢語漢字ニ通曉スル者ニ限ル

第四條 參議院議員ノ選舉權及被選舉權其ノ制限ハ衆議院議員選舉法第六條第七條ノ規定ニヨル

第五條 參議院議員ノ選舉期日ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 選舉ハ無記名單記投票法ヲ用フ

第七條 選舉ハ選舉人總數三分ノ二以上出會スルニ非レハ投票スルヲ得ス

第八條 選舉ハ得票投票人總數三分ノ一ニ滿ツルモノヲ當

選ト爲シ當選人定數ニ不足ノ時ハ應ニ再ヒ投票ヲ行ヒ定數ニ充ツルニ至リテ止ム

第九條 當選人充數後並ニ定數ニ依リ同數ノ候補當選人ヲ選定ス其ノ當選票數ハ前條ノ規定ニヨル凡ソ得票當選票數ニ滿ツルモ當選人充數シテ當選スル態ハナル者ハ即チ候補當選人ト爲ス

第十條 當選人及候補當選人名順序ハ選出ノ先後ニ依ル同次ノ選出者ハ得選ノ多寡ニ依リ票數同數者ハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

第十一條 當選人及候補當選人ノ姓名及得票數ハ選舉監督ヨリ即座ニ揭示シ同時ニ各當選人ニ通知ス

第十二條 當選人ハ前後通知接到後應ニ二十日以内ニ於テ應選スルヤ否ヲ答覆スヘク其期ヲ逾ヘ答覆セサル者ハ應選ヲ願ハサルモノトス但シ交通不便ノ地方ハ十五日以内ヲ延長スルヲ得

第十三條 當選人應選ヲ願ハサル時ハ順序ノ候補當選人ヲ以テ之ヲ遞補ス

第十四條 凡ソ地方選舉會ノ覆選及中央選舉會互選ノ應選者ヲ參議院議員ト爲シ選舉監督ヨリ議員證書ヲ給與シ同

時ニ名簿ヲ調製シテ内務部ニ報告ス

第十五條 議員缺員トナリタル時ハ第十三條ノ規定ニ依リ之ヲ遞補ス

第十六條 候補當選人ノ有効期間ハ每期議員改選ノ日ニ至リテ止ム

第十七條 第一期選出ノ參議院議員ハ開會後國會組織法第六條規定ノ任期ニ依リ抽籤法ヲ以テ三組ニ分チ第一組ハ滿二年ニ改選シ第二組ハ滿四年ニ改選シ第三組ハ任期滿了改選ス嗣後毎二年任期滿了ノ議員ニ就キ之ヲ改選ス議員ノ定數三分スル能ハサルトキハ較多或ハ較少ノ數ヲ以テ第三班ト爲ス

第十八條 議員退任シ再遊セラレタル者ハ續任スルヲ得

第十九條 選舉投票開票檢票選舉變更及選舉訴訟ニ關シ本法ニ未タ規定セラレサル者ハ衆議院議員選舉法ノ規定ヲ準用ス

第二章 地方選舉會

第二十條 地方選舉會ハ左記資格ノ一ヲ有スル者ヲ以テ初選々舉人ト爲ス

一 曾テ高等專門以上ノ學校ヲ卒業シ及ヒ高等專門以上ノ學校卒業ト相當ノ資格ヲ有シ滿三年事務ニ任シタル者或ハ曾テ中學以上學校々長及ヒ教員滿三年ノ者或ハ學術上ノ著述及發明ノ主管部ノ審定ヲ經タルコト有ルモノ

二 曾テ薦任^(我委任)_(相當)以上任官滿三年ノ者或ハ曾テ簡任^(我委任)_(相當)任官滿一年ノ者或ハ曾テ勳位ヲ受ケタル者

三年直接稅百圓以上ヲ納メ或ハ不動產五萬圓以上ヲ有スル者

第二十一條 各省區地方選舉會ハ縣ヲ以テ初選區ト爲ス

第二十二條 各縣初選人ハ第二十條資格ノ一ヲ具有スルモノ毎三十人初選當選人一名ヲ互選ス

但シ人數至少三人ノ縣亦タ初選當選人一名ヲ選舉スルヲ得

第二十三條 初選得票當選及候補人ハ均シク第一章第八條第九條第十條ノ規定ヲ適用ス

第二十四條 初選監督ハ縣知事ヲ以テ之ニ充ツ

第二十五條 初選投票場所ハ縣知事所在地ニ設ク

第二十六條 初選期日ハ初選監督ヨリ之ヲ定ム

第二十七條 初選監督ハ應ニ本管區域内ニ就キ調查員ヲ分派シ選舉資格ニ按照シ合格者ヲ調査シテ選舉人名簿ヲ造ル

調查員辦事細則ハ初選監督之ヲ定ム

第二十八條 選舉人名簿ニハ選舉人姓名年齡本籍住所及第二十九條第一項第二項第三項列記ノ資格ヲ登載スヘシ

第二十九條 選舉人名簿ハ應ニ初選期六十日以前一律ニ告成シ初選監督ヨリ覆選監督ニ報呈スヘシ

第三十條 初選監督ハ應サニ選舉人名簿ヲ以テ初選期六十日以前公衆ニ宣示スヘシ

第三十一條 選舉人名簿宣示ハ五日ヲ期トス若シ本人錯誤遺漏ト爲スカ宣示期中證憑ニヨリ初選監督ノ更正ヲ請求スルヲ得

前項ノ更正請求ハ初選監督ニ於テ請求書受理ヨリ五日以内ニ之ヲ判定スヘシ

第三十二條 宣示期滿ツレハ即チ確定ノモノトシ再ヒ更正ヲ請フヲ得ス其初選監督ヨリ判定更正ノ者ハ應ナニ更正

ノ選舉人名簿ヲ以テ覆選監督ニ補報スヘシ

第三十三條 選舉人名簿確定後ハ投票所ニ應存スヘク併ニ

覆選監督ヨリ選舉人總數ヲ内部ニ報告スヘシ

第三十四條 初選當選通知及證書ニハ衆議院議員選舉法ノ

規定ヲ準用ス

第三十五條 各省區選出參議院議員定數ハ左ノ如シ

一 每省五名

二 每特別行政區一名

第三十六條 各省區地方選舉會ハ各省區最高行政長官駐在

地ニ設ク

第三十七條 各省區地方選舉會覆選監督ハ各省最高行政

官ヲ長以テ之ニ充シ

覆選舉場所ハ覆選監督ヨリ之ヲ定ム

第三十八條 蒙古及青海地方選舉會ハ各蒙旗王公世爵世職

ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ選舉會ハ便宜中央政府所在地ニ在ツテ之ヲ組織セ

ルヲ得

第三十九條 蒙古及青海地方選舉會選出議員ノ定數左ノ如

シ

蒙古 十五名

青海 二名

第四十條 蒙古及青海地方選舉會ノ選舉監督ハ選舉會所在

地ノ行政長官或ハ盟長或ハ蒙藏總裁ヲ以テ之ニ充ツ

選舉場所ハ選舉監督ヨリ之ヲ定ム

第四十一條 西藏地方選舉會ハ駐藏辦事長官ヨリ達賴喇嘛

及班禪喇嘛ニ會同シ相當人員ヲ遴選シテ之ヲ組織ス

前項ノ選舉會ハ便宜ニ依リ中央政府所在地ニテ之ヲ組織

スルコトヲ得

第四十二條 西藏地方選舉會選出議員ノ定數ハ六名トス

第四十三條 西藏地方選舉會ノ選舉監督ハ駐藏辦事長官或

ハ蒙藏院總裁ヲ以テ之ニ充ツ

選舉場所ハ選舉監督ヨリ之ヲ定ム

第三章 中央選舉會

第四十四條 中央選舉會ハ左記各項ノ資格ヲ有スル者ヲ以

テ部ヲ分チテ之ヲ組織ス

第一部 曾テ國立大學或ハ外國大學本科ヲ卒業シ其學ヲ

所ヲ以テ事務ニ任スル滿三年ノ者或ハ曾テ國立大學校

校長及教員ニ任スル滿三年ノ者或ハ學術上著述及發明

ノ主管部審定ヲ經タル者

第二部 退職大總統副總統國務員及曾テ特任官(我力親任相當官)

ニ任スル滿一年以上或ハ曾テ三等以上ノ勳位ヲ受ケタ

ル者

第三部 年ニ直接稅一千圓以上ヲ納ムル者或ハ百萬圓以

上ノ財產ヲ有シ農工商業ヲ經營シ主管官廳ノ證明ヲ經

タル者

第四部 華僑ノ百萬圓以上ノ財產ヲ有シ駐在地領事官ノ

證明ヲ經タル者

第五部 滿洲王公ノ政治經驗ヲ有スル者

第六部 回部王公ノ政治經驗ヲ有スル者

第四十五條 中央選舉會各部互選ノ議員定數左ノ如シ

第一部 十名

第二部 八名

第三部 五名

第四部 四名

第五部 二名

第六部 一名

第四十六條 中央選舉會ハ中央政府所在地ニ於テ之ヲ行フ

第一部ハ教育總長ヲ以テ選舉監督ト爲シ第二部第五部ハ

內務總長ヲ以テ選舉監督ト爲シ第三部及第四部ハ農商總

長ヲ以テ選舉監督ト爲シ第六部ハ蒙藏院總裁ヲ以テ選舉

監督ト爲ス

修正衆議院議員選舉法

(七年二月十八日政府公報公布)

第一編 總則

第一條 衆議院議員ハ國會組織法第四條及第五條ノ規定ニ

依リ分別之ヲ選舉ス

第二條 衆議院議員總選舉期日ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム但シ

改選及補選期日ハ覆選監督或ハ蒙藏青海選舉監督ヨリ之

ヲ定ム並ニ內務部ヨリ大總統ニ呈報スヘシ

第三條 中華民國國籍ヲ有スル男子年滿二十五歲以上ニシ

選舉場所ハ各該選舉監督ヨリ之ヲ定ム

第四十七條 中央選舉會各部互選人ノ資格ハ應サニ互選投

票前八十日各該選舉監督ヨリ各項資格ニ按照シ員ヲ派シ

或ハ各省區行政長官及駐外領事ニ委託シ分別調査シ投票

前四十日選舉人名簿ヲ製造シテ公衆ニ宣示ス

前項ノ調査員辦事細則ハ各該選舉監督ヨリ之ヲ定ム

第四十八條 中央選舉會互選人名簿ハ宣示後二十日以内若

シ本人カ錯誤遺漏ト爲サハ證據ヲ具シ更正ヲ請求スヘシ

二十日ノ期滿レハ即チ確定トシ再ヒ更正ヲ請求スルヲ得

ス

前項ノ更正請求ハ各該選舉監督ハ請求書收受ノ日ヨリ五

日以内ニ之ヲ判定スヘシ

第四章 附則

第四十九條 本法施行細則ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十條 本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

ヲ選舉人名簿編造以前選舉區内ニ滿二年以上居住シ左記

資格ノ一ヲ具有スル者ハ衆議院議員ノ選舉人タルヲ得

一 年直接稅四圓以上ヲ納ムル者

二 一千圓以上ノ不動產ヲ有スル者但シ蒙藏青海ハ動產

ニ就キ計算スルヲ得

三 小學校以上ノ卒業者

四 小學校以上卒業ニ相當スル資格ヲ有スル者

第四條 中華民國ニ籍ヲ有スル男子年滿三十歲以上ノ者ハ選マレテ衆議院議員タルヲ得但シ蒙藏青海ノ被選舉人ハ漢語漢字ニ通曉スル者ニ限ル

第五條 左記事情ノ一ヲ有スル者ハ衆議院議員ノ選舉人及被選舉人タルヲ得ス

一 公權褫奪尙ホ未タ復權セサル者

二 破産ノ宣告ヲ受ケ確定後尙ホ未タ撤消セサル者

三 瘋癲或ハ癡疾アル者

四 文字ヲ識ラサル者

第六條 左記人員ハ其ノ選舉權及被選舉權ヲ停止ス

一 現任ノ官吏及巡警

二 現役ノ海陸軍人

三 各學校在學者

四 僧道及其他ノ宗教家

前項第四項ハ蒙藏青海ニハ之ヲ適用セス

第七條 小學校教員ハ其被選舉權ヲ停止ス

第八條 選舉辦理人員ハ其選舉區内ニ於テ其被選舉權ヲ停止ス但シ監督員及蒙藏青海ノ辦理選舉人ハ此限ニ在ラス

第二編 各省及各特別行政區議員ノ選舉

第一章 選舉區劃及辦理選舉人員

第一節 選舉區劃

第九條 初選舉ハ縣ヲ以テ選舉區トシ複選舉ハ道或ハ特別行政區域ヲ以テ選舉區ト爲ス

第十條 行政區劃ノ境界ニ變更アル時ハ選舉區モ一併ニ變更ス但シ原選舉員ハ其職ヲ失ハス

第二節 辦理選舉人員

第十一條 各省ニ選舉總監督ヲ設ケ該省行政長官ヲ以テ之ニ充テ全省ノ選舉事宜ヲ監督ス

第十二條 初選舉區ニハ初選監督ヲ設ケ縣知事ヲ以テ之ニ充テ初選舉一切ノ事宜ヲ監督ス

第十三條 複選舉區ニハ複選監督ヲ設ケ道尹或ハ特別行政區長官ヲ以テ之ニ充テ複選一切ノ事宜ヲ監督ス

第十四條 初選舉複選舉ハ均シク投票管理員監察員開票管理員監察員各若干ヲ設ケ初選監督複選監督ヨリ分別委任ス但シ監察員ハ本區選舉人ヲ以テ限リトス

第十五條 管理員ノ職務左ノ如シ

一 投票所ノ開閉ヲ掌ル

二 投票ノ收受スヘキヤ否ヤヲ決定ス

三 投票箱投票簿投票紙及選舉人名簿ヲ掌ル

四 投票所ノ秩序ヲ保持ス

五 其他本法所定ノ投票管理員ニ屬スル職務ノ事項

第十六條 開票管理員ノ職務左ノ如シ

一 開票所ノ開閉ヲ掌ル

二 投票數目ヲ清算ス

三 投票紙ノ眞偽ヲ檢査ス

四 投票ノ合法ナルヤ否ヤヲ決定ス

五 選舉票ヲ保存ス

六 開票所ノ秩序ヲ保持ス

七 其他本法所定ノ開票管理員ニ屬スル職務ノ事項

第十七條 投票監察員開票監察員ハ各管理員ノ辦理投票開

票事宜ヲ監視ス

監察員管理員ト意見不同ノ時ハ選舉監督ニ呈明シテ決定ス

第十八條 辦理選舉人員ハ均シク名譽職トス但シ公費ヲ酌給スルヲ得

第二章 初選舉

第一節 投票區

第十九條 初選監督ハ應ニ地方ノ情況ニ按照シ本管區域ヲ分割シテ若干投票區ト爲ス

第二十條 投票區ハ應ニ初選期八十日以前初選監督ヨリ籌定シ覆選監督ニ呈報核定シテ總監督ニ轉報スヘシ

第二節 選舉人名簿

第二十一條 初選監督ハ應ニ本管區域内ニ就キ調査員ヲ分派シ選舉資格ニ按照シ合格者ヲ調査シ選舉人名簿ヲ編造ス

調査員辦事細則ハ初選監督ヨリ之ヲ定ム

第二十二條 選舉人名簿ニハ應ニ選舉人名年齡ヲ本籍住所居住年限及左記第一項或ハ第二項ノ事項ヲ載スヘシ

一 年納ノ直接税ノ數或ハ不動産價格ノ數

二 某種學校卒業或ハ某種學校卒業ト相當ノ資格

第二十三條 選舉人名簿ハ應ニ初選期ヲ十日以前一律ニ告成シ初選監督ヨリ分別覆選監督及總監督ニ呈報スヘシ

第二十四條 初選監督ハ應ニ各投票區分造ノ選舉人名簿ニ按シ初選期六十日以前各投票所ニ頒發宣示スヘシ

第二十五條 選舉人名簿ハ宣示ノ日ヨリ五日以内ニ若シ錯

誤遺漏アレハ本人ヨリ初選監督ノ更正ヲ請求スルヲ得
前項ノ更正請求ハ初選監督ハ應サニ請求書收受ノ日ヨリ十日以内ニ之ヲ判定スヘシ

第二十六條 宣示期滿レハ再ヒ更正ヲ請フヲ得ス

初選監督ノ更正判定後應ニ更正名簿ヲ覆選監督及總監督ニ補報スヘシ

第二十七條 選舉人名簿確定後分別シテ投票所及開票所ニ保存シ並ニ總監督ヨリ選舉人總數ヲ內務部ニ報告スヘシ

第三節 初選當選人定數

第二十八條 初選當選人定數ハ議員定數ノ五十倍トシ每期

覆選監督ヨリ該覆選舉區議員ノ定數ニ按シ之ヲ五十倍シテ該覆選區内ノ初選當選人定數トシ各初選區ニ分配ス

第二十九條 初選當選人ノ分配ハ覆選監督ヨリ該覆選區應

出ノ初選當選人定數ヲ以テ全區選舉人總數ヲ割出シ其ノ多寡ニ視テ每選舉人若干ヲ以テ當選人一名ヲ選出スヘキ

ヲ定メ再ヒ此數ヲ以テ各初選區選舉人數ヲ割出シ其數ノ多寡ニ視テ各該初選區ノ選出初選當選人若干ヲ定ムヘシ

初選區ノ有スル選舉人數カ當選人一名ヲ選出スルニ足ラス或ハ若干名ヲ選出シ其端數カ當選人定數ニ足ラサル

者ハ各初選區ノ端數多寡ヲ比較シ其餘數ハ端數較多ノ區ノ選出ニ歸シ若シ兩區以上ノ端數カ相等シキ時ハ其餘數

ノ何區ニ歸スヘキヤハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

初選當選人定數ハ分配定マル後覆選監督ヨリ初選期十日以前各初選區ニ揭示ス

第四節 選舉通告

第三十條 初選監督ハ應ニ初選期四十日以前頒發通告スヘク其起載マヘキ事項左ノ如シ

一 初選期日

二 初選投票所及開票所地點

三 投票方法

第五節 投票所及開票所

第三十一條 投票所ハ每投票區ニ各一處ヲ設ケ開票所ハ初選監督駐在地ニ設ク其地點ハ各初選監督ヨリ之ヲ定ム

第三十二條 投票所開票所周圍ハ臨時巡警ヲ派シテ秩序ヲ保持スルコトヲ得

第三十三條 投票所及開票所ハ本所職員選舉人及巡警ノ外闖入スルヲ得ス

開票所ハ參觀ノ選舉人過多ニシテ容ル、能ハサル時ハ管理員ヨリ人數ヲ制限スルヲ得

第三十四條 投票所及開票所ハ投票及開票完了ノ日ヨリ十五日以内一律ニ裁撤ス

第三十五條 投票所ハ午前八時ヨリ開キ午後六時ニ至リ閉ツ刻限ヲ逾ユレハ内ニ入ルヲ得ス

第三十六條 投票所及開票所辦事細則ハ初選監督ヨリ之ヲ定ム

第六節 投票紙及投票簿及投票箱

第三十七條 投票紙ハ應ニ初選監督ヨリ定式ニ按照シテ製成シ初選期三十日以前初選監督ニ分交ス初選監督ハ應ナニ初選期七日以前各投票所ニ分交スヘシ

第三十八條 初選監督ハ應ニ各投票區所屬選舉人ニ按照シ

分別投票簿ヲ造具シ並ニ定式ニ按照シテ投票箱ヲ製成シ初選期七日以前各投票所ニ分交スヘシ

第三十九條 投票簿ニハ須ラク選舉人ノ姓名年齡本籍住所ヲ載明スヘシ

第四十條 投票箱ハ投票ノ時ノ外ハ應ニ嚴密ニ封鎖スヘシ

第七節 投票開票及檢票

第四十一條 投票人ハ本投票所ノ投票簿ニ列名スルモノニ限ル

第四十二條 投票人ハ選舉期日ニ應ニ親シク投票所ニ赴キ自ラ投票ヲ行フヘシ

第四十三條 投票人ハ投票紙ヲ領シタル時ハ應サニ先ツ投票簿所載ノ本人姓名下ニ捺印スヘシ

第四十四條 投票人ハ每名投票紙一枚ヲ領スハシ

第四十五條 投票ハ無記名單記法ヲ用フ

第四十六條 投票人ハ投票所内ニ於テ投選方法ニ關シ職員ト問答スルノ外他人ト接談スルヲ得ス

第四十七條 投票人ハ投票完了後即チ退出スヘシ

第四十八條 投票人倘シ冒替及其他法令違背ノ事情アレハ管理員ハ退出セシムルヲ得

第四十九條 管理員及監察員ハ應ニ投票情況ヲ會同ノ報告書ヲ造リ投票箱ト共ニ投票完了ノ翌日開票所ニ移交シ並ニ初選監督ニ呈報スヘシ

第五十條 初選監督ハ各投票箱送濟ノ翌日ヨリ時刻ヲ定メ先ツ宣示シタル上親ラ開票所ニ臨ミ會同開票シ即日之ヲ

宣示ス

第五十一條 檢票ノ時ハ應サニ所投ノ選舉票數ヲ投票簿ト對照スヘシ

第五十二條 選舉票ニ左記事情ノ一アル者ハ廢票トス

一 票式ニ依ラサル記載

二 他事ヲ挾寫スル者但被選舉人ノ職業或ハ住所ヲ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

三 字跡模糊認識スル能ハサル者

四 投票所發行ノ票紙ヲ用ヒサル者

五 選出人ノ選舉人名簿ニ無キ者

第五十三條 開票所管理員及監察員ハ應サニ開票情形ヲ以テ會同報告ヲ造リ開票完了ノ翌日初選監督ニ呈送スヘシ凡テノ選舉票ハ應ニ有効無効ヲ分別シ一併ニ本期選舉年限内初選監督ニテ之ヲ保存スヘシ

第八節 常選票額

第五十四條 初選ハ本區選出當選人定數ヲ以テ投票人總數ヲ割出シ得票滿三分ノ一ヲ當選票數ト爲ス

第五十五條 當選票數ニ滿タサルニ因リ當選人ナキカ或ハ當選人定數ニ不足ノ時ハ初選監督ヨリ得票較多ノ者ニ就キ所缺ノ初選當選人定數二倍ノ姓名ヲ列記揭示シ開票後第三日原投票所ニ在ツテ揭示姓名中再ヒ投票ヲ行ヒ定數ニ充テ止ム

第五十六條 凡ソ得票當選票數ニ滿ツルニ初選當人數充足ノ爲メ當選スル能ハサル者ハ初選候補當選人ト爲ス

第五十七條 初選當選人及初選候補當選人順序ハ得票ノ多

寡ニ依ル票數相同キ時ハ抽籤ニ依ル

第九節 當選通知及證書

第五十八條 初選當選人選出後應ニ即チ揭示シ並ニ初選監督ヨリ分別各當選人ニ通知スヘシ

第五十九條 初選當選人ハ通知接到後五日以内ニ於テ應選スヘキヤ否ヲ答覆スヘシ期ヲ逾ヘ答覆セサル者ハ應選ヲ願ハサル者トスヘシ

初選當選人應選ヲ願ハサル者ハ初選候補者ヲ以テ次ニ依リ應選セシム

第六十條 初選當選人應選者ハ初選監督ヨリ初選當選證書ヲ給與ス

第六十一條 初選當選證書ハ初選監督ヨリ定式ニ按照シ製成シ初選期二十日以前初選監督ニ分交ス

第六十二條 當選證書給與後應ニ當選人姓名ヲ揭示シ並ニ初選監督ニ呈報スヘシ

第六十三條 初選當選人ハ證書受領後初選監督ヨリ初選投票所ノ路程遠近ヲ按シ旅費ヲ酌給ス

第三章 初選舉

第六十四條 初選舉ハ初選當選人ヨリ初選監督駐在地ニ齎集シテ之ヲ行フ

第六十五條 初選人名簿ハ初選當選人ニ限リ各初選區ノ順序ニ依リ之ヲ編列シ其簿内ニ記載スヘキ事項ハ第二十二條規定ヲ除クノ外應サニ初選當選ノ票數ヲ裁明スヘシ

第六十六條 初選當選人ハ初選當選人ニ限ラサルヘシ

第六十七條 各初選區選出議員若干ハ每期總監督ヨリ各該

覆選區選舉人名簿ヲ按照シ全省議員定數ヲ以テ之ヲ分配ス

第六十八條 覆選當選人ノ分配ハ總監督ヨリ各覆選區選舉人名簿報告揃ノ後名簿ヲ按照シ該省議員定數ヲ以テ全省選舉人總數ヲ割リ當テ得數ノ多寡ニ視テ每選舉人若干名ノ議員一名ヲ選出シ得ルヤヲ定メ再ヒ此數ヲ以テ各覆選舉人數ヲ割リ當テ得數ノ多寡ニ依リ各該覆選區選出ノ覆選當選人若干名ヲ定ム

覆選舉區ノ有スル選舉人數カ議員一名ヲ選出スルニ足ラサルカ或ハ若干名ヲ選出シテ仍ホ端數アリテ議員定數ニ充タサル者ハ各覆選區端數ノ多寡ヲ比較シ餘數ヲ順序ニ依リ端數較ヤ多キ區ニ歸シ之ヲ選出ス若シ兩區以上ノ端數相等シキ時ハ其餘數ノ應サニ何區ニ歸スヘキヤハ抽籤ニ依リ之ヲ定ム

覆選當選人定數分配後總監督ヨリ初選期三十日以前各覆選監督ニ通知スヘシ

第六十九條 覆選監督ハ應ニ覆選期三十日以前ニ選舉通告ヲ頒發スヘシ其記載スヘキ事項左ノ如シ

一 覆選期日

二 覆選投票所及開票所地點

三 投票方法

四 覆選當選人定數

第七十條 覆選投票所開票所地點及辦事細則ハ覆選監督ヨリ之ヲ定ム

投票所開票所ニ關スル事項ハ第三十二條乃至第三十五條

ノ規定ヲ準用ス

第七十一條 覆選投票紙投票簿及投票箱定式ハ初選ト同シ

第七十二條 覆選投票開票及檢票ハ第四十一條乃至第五十二條第一項ヨリ第四項及第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第七十三條 覆選ハ本區應出議員定數ヲ以テ投票人總數ヲ除シ得數ノ半ヲ以テ當選票數ト爲シ得票滿數スル者ニ非レハ覆選當選人ト爲スヲ得ス

第七十四條 當選票數ニ滿タサルニ因リ當選人ナキカ或ハ當選人不足ノ時ハ覆選監督ヨリ原選投票所ニ在ツテ再ヒ選舉ヲ行ヒ定數ニ充テテ止ム

第七十五條 覆選當選人選出後應ニ該區應出議員定數ニ依リ同數ノ覆選候補當選人ヲ選出ス其ノ當選票數ハ第七十三條ノ規定ニ依ル

凡ソ得票當選票數ニ滿ツルモ覆選當選人定數ニ滿ツル爲メ當選シ能ハサル者ハ即チ覆選候補當選人ト爲ス

第七十六條 覆選當選人及ヒ覆選候補當選人々名順序ハ第五十七條ノ規定ヲ準用ス

第七十七條 覆選當選人及覆選候補當選人ハ選出後直チニ揭示シ並ニ覆選監督ヨリ分別各覆選當選人ニ通知スヘク

覆選當選人ハ通知接到後應サニ二十日以内ニ應選スルヤ否ヲ答覆スヘシ期ヲ逾ヘ答覆セサル者ハ應選ヲ願ハサル者ヲ以テ論ス但シ交通不便ノ地方ハ十五日以内ヲ延長スコトヲ得

第七十八條 覆選當選人ハ應選ヲ願ハサル時ハ候補覆選當選人ヲ以テ順次ニ應選セシム

第七十九條 覆選當選人應選スル者ハ覆選監督ヨリ衆議院議員證書ヲ給與ス

第八十條 議員證書給與後各省覆選監督ハ選舉始末情況ヲ以テ報告ヲ作り投票簿及有効無効ノ選舉票及議員名簿ト共ニ總監督ニ呈送シ本期選舉年限内之ヲ保存シ並ニ總監督ヨリ該省議員名簿ヲ造リ内務部ニ報告スヘシ特別行政區ハ即チ覆選監督ヨリ以上ノ票簿名簿ヲ保存シ並ニ該區議員名簿ヲ作り内務部ニ報告スヘシ議員名簿ニハ應ニ議員ノ姓名年齡本籍及所得票數ヲ載明スヘシ

第八十一條 議員缺員ノ時ハ覆選監督ヨリ順次ニ依リ覆選候補當選人ニ通知シ遞補スヘシ

第八十二條 覆選候補當選人ハ遞補通知接到後二十日以内ニ遞補ヲ願フヤ否ヤヲ答覆スヘシ期ヲ逾ヘ答覆セサル者ハ遞補ヲ願ハサル者ヲ以テ論ス但シ交通不便ノ地方ハ十五日以内ヲ延長スルコトヲ得

覆選候補當選人遞補ヲ承諾スル後覆選監督ヨリ衆議院議員證書ヲ給與ス

第八十三條 覆選候補當選人ノ候補期間ハ每期議員滿期ノ日ヲ以テ止ム

第四章 選舉變更

第一節 選舉無効

第八十四條 左記事情ノ一ヲ有スル者ハ其選舉無効トス

一 選舉人名簿ノ舞弊ニ因リ全數人員ニ牽涉シ審判確定シタル者

二 選舉辦理ノ法令ニ違背シ審判確定シタル者

第八十五條 前條ノ規定ハ初選舉覆選舉均シク之ヲ適用ス初選舉無効ノ時ハ覆選舉モ一併ニ無効トス

第二節 當選無効

第八十六條 左記事情ノ一ヲ有スル者ハ其當選無効トス

一 被選舉資格不合ニシテ審判確定シタル者

二 當選票數不實ニシテ審判確定シタル者

第八十七條 當選無効ノ時當選證書已ニ發給シタル者ハ應サニ返還セシメ並ニ姓名及其事由ヲ宣示スヘシ

第八十八條 當選無効ノ時ハ應ニ各該區覆選候補當選人ヲ以テ順次當選セシム

第三節 總選舉改選及補選

第八十九條 總選舉ハ衆議院議員全部改選ノ時之ヲ行フ

第九十條 改選ハ選舉無効ノ時該選舉區ニ於テ之ヲ行フ

第九十一條 補選ハ議員缺數シ該選舉區ニ覆選候補當選人ナキ時之ヲ行フ

第九十二條 改選及補選ノ選舉事項ハ均シク本編ノ規程ニ依リ之ヲ行フ

第五章 選舉訴訟

第九十三條 選舉人カ辦理選舉人員ノ舞弊有リ及ヒ其他法令違背行為ヲ確認シタル時ハ選舉日ヨリ初選ハ五日以内ニ

地方審判廳ニ向ヒ起訴シ覆選ハ十日以内ニ高等審判廳ニ向ヒ起訴スルコトヲ得其ノ未タ審判廳ヲ設ケサル處ハ訴訟ヲ受理スル相當ノ官署ニ向ヒ起訴スルコトヲ得

第九十四條 選舉人ハ當選人資格ノ不合或ハ票數ノ不實ヲ

確認シタル時ハ前條ノ規定ニ依リ起訴スルコトヲ得

第九十五條 落選人ハ所得票數應ニ當選スヘクシテ未タ當

選セサルヲ確認シ或ハ候補當選人ハ席次ノ錯誤アルヲ確

認シタル時ハ第九十三條ノ規定ニ依リ起訴スルコトヲ得

第九十六條 司法官署ハ選舉訴訟事件ハ應ニ繰上ケ審判ス

ヘシ

第九十七條 第九十三條第九十四條第九十五條ノ訴訟カ判

決ヲ經不服ナル者ハ之ヲ上訴スルヲ得但シ初選ハ高等審

判廳ヲ以テ終審ト爲ス

第三編 蒙古、西藏、青海議員ノ選舉

第九十八條 蒙古西藏青海選舉區劃及議員定數ノ分配左ノ

如シ

哲里木盟 一人

卓索圖盟 一人

昭烏達盟 一人

錫林郭勒盟 一人

烏蘭察布盟 一人

伊克昭盟 一人

土謝圖汗部 一人

車臣汗部 一人

三音諾顏部 一人

札薩克圖汗部 一人

烏梁海 一人

科布多 二人

察哈爾 一人

歸化城土默特 一人

阿拉善 一人

額濟納 一人

舊土爾扈特 一人

哈薩克 一人

前藏 四人

後藏 三人

青海 二人

第九十九條 選舉監督ハ各該選舉區ノ行政長官ヲ以テ之ニ

充ツ該管區域内一切ノ選舉事宜ヲ監督ス

選舉監督ハ辦理選舉人員ヲ酌派シ並ニ其職務ヲ定ムルヲ

得

第一百條 選舉監督ハ應ニ調査員ヲ分派シ選舉資格ヲ按照

シ合格者ヲ調査シ選舉人名簿ヲ造ルヘシ

選舉人名簿ニ記載スヘキ事項ハ第二十二條ノ規定ヲ準用

ス

第一百一條 前條ノ調査選舉監督若シ編行スル能ハスト認め

ル時ハ專ラ其駐在地ニ就キ之ヲ行フ

第一百二條 選舉監督專ラ其駐在地ニ就キ調査ヲ爲ス時ハ駐

在地以外ノ本管區域ニ對シテハ應ニ期ニ先テ選舉事由選

舉資格ヲ詳列シ並ニ期日ヲ限定シ各地ノ行政長官ヲシテ

公衆ニ宣示シ選舉人合格者ヲシテ自ラ呈報セシムヘシ

各地行政長官ハ呈報期滿ノ時ニ於テ應ニ即チ査實シ選舉

監督ニ彙報スヘシ

第一百三條 選舉監督ハ應ニ前條呈報ノ選舉人ヲ以テ一併ニ

選舉人名簿ニ列入スヘシ

第一百四條 選舉人名簿ノ宣示及更正ニ關シテハ第二十四條

第二十五條第二十六條第一項ノ規定ヲ準用ス

第一百五條 選舉監督ハ應ニ選舉期前選舉通告ヲ發シ本管各

地ノ行政長官ヲシテ宣示セシムヘシ

前項ノ選舉通告ニ記載スヘキ事項左ノ如シ

一 選舉期日

二 選舉投票所及開票所地點

三 投票方法

第一百六條 投票所及開票所ハ選舉監督駐在地ニ設ケ選舉監

督ハ便宜ニ依リ本選舉區ヲ分劃シテ若干投票區ト爲シ毎

投票區ニ投票所一處ヲ設クルコトヲ得

第一百七條 投票所及開票所ニ關スル事項ハ第三十二條乃至

第三十六條ノ規定ヲ準用ス

第一百八條 投票紙投票簿及投票箱ハ第三十七條乃至第四十

條ノ規定ヲ準用ス

投票紙ニハ漢字ノ外各該地通用ノ文字ヲ書スルヲ得

第一百九條 投票開票及檢票ハ第四十一條乃至第五十二條第

一項ヨリ第四項及第五十三條ノ規定ヲ準用ス

第一百十條 選舉ハ本區應ニ選出スヘキ議員定數ニ按照シ得

票較ヤ多キ者ヲ以テ當選ト爲ス當選數不足ノ時ハ應ニ原

投票所ニ在テ再ヒ投票ヲ行ヒ充足數ニ至リテ止ム

第一百十一條 當選人充足ノ後得票次數者ヲ以テ候補當選人

ト爲シ其定數ハ議員定數ト同ジ

候補當選人不足ノ時ハ前條ノ規定ニ依リ之ヲ投票ス

第一百十二條 當選人及候補當選人ノ席次ハ第五十七條ノ規

定ヲ準用ス

第一百十三條 當選通知及證書ノ給與ハ第七十六條第七十八

條ノ規定ヲ準用ス

第一百十四條 議員證書給與後選舉監督ハ應サニ選舉狀況ヲ

詳細ニ記載シ投票簿並ニ有効無効ノ投票紙及議員名簿ト

共ニ本期選舉年限内之ヲ保存シ並ニ該區議員名簿ヲ造リ

內務部ニ報告スヘシ

議員名簿ハ第八十條第三項ノ規定ヲ準用ス

第一百十五條 當選人ノ應選ヲ願ハサルコト及ヒ議員缺員ノ

時候補當選人ノ遞補ニ關シテハ第七十七條第八十一條第

八十二條第八十三條ノ規定ヲ準用ス

第一百十六條 選舉無効及當選無効ニ關シテハ第八十四條第

八十六條第八十七條第八十八條ノ規定ヲ準用ス

第一百十七條 改選及補選ハ第九十條第九十一條ノ規定ヲ適

用ス

改選及補選ノ選舉事項ハ均シク本編ノ規定ニ依リ之ヲ行

フ

第一百十八條 選舉人カ辦理選舉人ノ舞弊有リ及ヒ其他法令

違背ノ行爲ヲ確認シタル時ハ選舉日ヨリ五日以内訴訟受

理ノ官署ニ向ヒ起訴スルコトヲ得

第一百十九條 選舉人カ當選人資格ノ不合或ハ票數ノ不實ヲ

確認シタル時ハ前條ノ規定ニ依リ起訴スルコトヲ得

第一百二十條 落選人カ所得票數ノ應ニ當選スヘクシテ未タ

當選セサルカ或ハ候補當選人カ席次ニ錯誤アルヲ確認シ

第四編 附 則

タル者ハ第百十八條ノ規定ニ依リ起訴スルヲ得
第百二十一條 選舉訴訟ノ審判及上訴ハ第九十六條第九十七條ノ規定ヲ準用ス

第百二十二條 本法施行細則ハ敕令ヲ以テ之ヲ定ム
第百二十三條 本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

蒙古四部西藏第二期衆議院議員選舉施行法（民國七年二月十八日政府公報公布）

第一條 蒙古四部西藏第二期衆議院議員ノ選舉ハ政府所在地ニ於テ之ヲ行フ

充ツ

第三條 選舉細則ハ選舉監督ヨリ之ヲ定ム

第二條 蒙古四部西藏ノ選舉監督ハ蒙藏院總裁ヲ以テ之ニ

第四條 本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス

支那國會議員選舉期日ニ關スル大總統令（三月六日公布）

一、參議院議員第二期選舉期日令

第二條 各省區衆議院議員覆選舉及蒙古西藏青海衆議院議員選舉ハ民國七年六月十日ニ舉行ス

第一條 各省區地方選舉會ノ參議院議員覆選舉及蒙古西藏青海地方選舉會ノ參議院議員選舉ハ民國七年六月二十日ニ舉行ス

第三條 前二條ノ規定ニシテ必要ノ事情アル場合ハ覆初選監督或ハ所轄地方行政官ヨリ選舉總監督或ハ特別行政區覆選監督又ハ選舉監督ニ上甲シ酌量シテ五日ヲ延期スルコトヲ得

第二條 中央選舉會各部ノ參議院議員選舉ハ民國七年六月二十日ニ舉行ス

二十日ニ舉行ス

第三條 前二條ノ規定ニシテ必要ノ事故アル場合ハ選舉監督或ハ選舉監督ヨリ酌量延期スルコトヲ得但シ長クモ十日ヲ以テ限リト爲ス

覆選選舉監督或ハ選舉監督ハ延期ヲ決定シタル後內務部ニ報告スヘシ

ニ報告スヘシ

第四條 本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

二、衆議院議員第二期總選舉期日令

第一條 各省區衆議院議員初選舉ハ民國七年五月二十日ニ選舉ス

第五條 本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス

第四條 準備期日選舉期日ト關係アルモノハ內務部令ヲ以テ之ヲ定ム

選舉總監督或ハ特別行政區覆選監督又ハ選舉監督ハ延期ヲ決定シタル後內務部ニ報告スヘシ

前項ノ延期期間満了スルモ各地方確ニ實行困難ニ因リ期限ノ通り選舉ヲ舉行スルコト能ハサルトキハ酌量シテ再ヒ延期ヲ行フコトヲ得但シ本令ハ所定ノ期日ヨリ十五日以外ニ延期スルコトヲ得ス

會報

唐紹儀張繼兩氏招待會

五月十六日午後六時、本會は唐紹儀張繼兩氏の歡迎會を華族會館に開く、小川幹事長本會を代表し、歡迎の辭を述べ、之れに對し唐氏左の謝辭を述べ、主掌歡を蘭し午後九時散會せり。

唐紹儀氏演說大要

東亞同文會幹事長並に會員諸公、今日貴會の御招待に預りまして、諸公が皆御繁忙の處であるにも拘らず、斯くまで多數の御來會を辱うしましたことは、誠に自身に取り光榮と存じます、唯惜しいことには、會長閣下が聊か御不例であり、又副會長閣下にも御旅行中で、共に御目に懸ることが出来なかつたことは、至つて残念と存じます、遂に會長閣下御病氣の一日も早く御全快になることを祈ります。

貴會は創立以來既に二十餘年も経て、其事業の中日兩國親善上に及ぼす効果の莫大なることは、實に限量すべからざるものがあると存じます、而して貴會事業の主なる着眼點は、事情の疏通を謀るにあると存じます、只今小川幹事長の仰せられるには、貴會が毎年多くの人を弊國內地へ派遣し、事情を調べ之を材料として、書籍を著作し、今日まで既に發刊したる分は一萬餘頁に登り、又上海にある東亞同文書院より出したる卒業生は、今日迄既に千人以上に達したとのございます、凡て此等の書籍は弊國の事情を貴國に紹介せられ、此等の卒業生は悉く弊國の言語に通じ、恐らく

は貴國人の中にて最も弊國の事情を知り、最も弊國人の思想を理解する人だらうと思ひます、此等の書籍は年々共に増加し、此等の卒業生は年々共に社會に活動することが多くなり、貴國人が弊國の事情と敵國人の思想とを年々共に明に知る様になり、從つて兩國の親善も、自ら増進することは言ふを待たないのでございます、何と云へば兩國の親善を計るには、只政府の勢力のみに頼つてはなりません、必ず國民と國民との間に理解がなければなりません、國民の間に互に理解せんとするには、其の最も必要なることは一國民は他國民の抱いた思想を理解し、其國の事情に通ずることであり、殊に言語に通じ、始めて此目的に達し得るのであります、貴會の事業が最も此點に力を致されるは、先見の明ありと云はなければなりません、上海にある同文書院が、未だ兵火に罹る前に、私は曾つて参つたこともありますが、其時の規模は今日の如く大きくはなかつたのであります、此校の卒業生中私の知人が大分あり、殊に前上海領事館に居られた西田君の如きは、自分の最も親友の一人であります。

貴會の事業の効果は、斯くの如く大であるが、自分の見る所は未だ極點に達したりとは云へないかと存じます、寧ろ今から基礎を作る時でないかと存じます、此は決して貴會の効果の大ならざるのではなく、寧ろ貴會の抱負は餘りに遠大であるから、斯かる莫大なる効果も遂に其の抱負に比べて満足が出来ないかと存じます。

今日世界の大變局に際し、中日兩國の提携の必要は益々目前に迫り、從つて益々貴國の活動を待たなければならぬ時であります、此時に際して私は

更に一言諸公の前に申し上げなければならぬことは、即ち中日兩國の親善と、平等の思想であります、蓋し兩國の親善すべきは兩國に共通の利害があるからであります、兩國にして共通の利害に基いて親善しなければならぬ以上は、即ち高下の區別がない譯であります、譬へば今晚弊國人が貴會諸公の招待に預り、非常に優待を受けて、只普通の友人として待遇するに止まらず、寧ろ嘉賓として優遇する、ことは、此の優遇に對する好感情は我々諸公後何時までも忘れられないのであります、此れ今夜は決して諸公が我々に食を恵むのではなく、呼賓として食を與へて下さるのではないからである、只今小川幹事長の仰せられたには、今日來會の諸公は皆東亞問題に御熱心なる健將で、一を以て千に當る方々であること承りました、若し今晚我々を款待するも情誼と、平等の觀念を移して、弊國國民全體に對すれば、恐らくは中日の提携は立ち所に實現するだらうと存じます、弊國今日の狀態は恰も人の重患に罹つて居る様なもので、此に其人の友人があつて親切の心を以て之を看護したならば、其人は全快後、必ず其一生涯此友人の好意を感謝し、其恩を報ひんとする考が永久に忘る、ことが出來ないだらうと存じます、之に反し人ありて此病人を救ふに當り、「汝命惜ければ頼みにこい」「自分は汝の命を救ふてやるから恩を忘れてはならぬぞ」と云ふ風に、病人に臨めば其病人は果して如何なる感念を起すでしょうか、惜費會の諸公は皆貴國に於て社會上に有力なる方々でありますから、若し此平等の御考を以て貴國國民を指導し、以て弊國國民に接せられたならば、兩國の提携を早むることは、余の敢へて斷言して憚らない處でございます。

御多忙にも拘らず、我々の爲め諸公が貴會の時間を割いて、御來臨下さいましたことは、誠に感謝する所でございます、茲に謹んで祝杯を舉げて諸公の御健康を祝し、並に鄙人等感謝の意を會長閣下副會長閣下に御傳へを願ひ、且會長閣下の一日も早く御全快になることを祈ります。

尙當日の出席者左の如し

來 賓

會 員 (イロハ順)

井上敬次郎
五百木良三
井田武雄
速水一孔
小川平吉
谷森眞男
田中收吉
津輕英麿
山内 崑
藤田 輸一
宮島大八
森清右工門
鈴木恭堅

唐 紹 儀
張 繼
殷 汝 耕

市川 誠之
伊藤 勘助
飯田 邦彦
土 岐 儀
大谷 誠夫
高木 陸郎
田鍋 安之助
郡島 忠次郎
山本市太郎
寺中 猪介
森 猛 熊
菅 原 傳

支那

第九卷第十四號

要目

論說	歐洲戰後と日支合辦(二).....	一—四
資料	滿洲土地商租須知並解釋(二).....	五—一〇
	一九一七年支那の外國貿易(三).....	一一—一六
	電信借款說明書.....	一七—二〇
雜錄	英國の對支政策(二).....	二一—二五
	支那に於ける敷物工業.....	二六—二八
	英國對支貿易論.....	二九—三三
彙錄	支那人の支那政治論(三).....	三四—三五
	支那に於ける英米の提携.....	三六—三八
事業界	支那事業界近況.....	三九—四一
半月史	半月間の支那重要事件.....	四二—四五
時報	支那最近時事要項.....	四六—五二
彙報	支那關係諸報道.....	五三—六八

東亞同文會調查編纂部

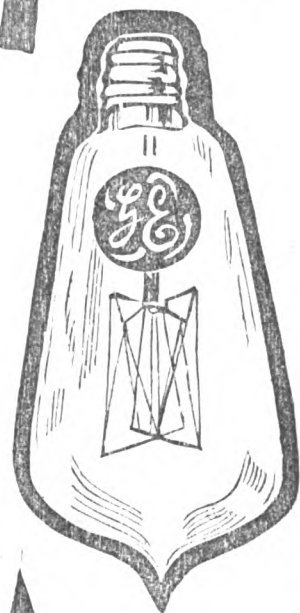
スツダ ランプ

出張所

東京出張所	福岡出張所
横濱出張所	仙臺出張所
大阪出張所	札幌出張所
名古屋出張所	大連出張所
門司出張所	上海出張所



神奈川県川崎町
東京電気株式会社
電話川崎 五〇二、一〇二、一〇三、一〇四。



第十期決算公告

(自大正六年四月一日至大正七年三月三十一日)

貸借對照表

資產ノ部

定期償還貸付金	四、二二五、〇一一・一四〇	定期償還預金	七、八三四、四〇七・一九〇	特別償還貸付金	二、一八六、六二〇・四九〇	株券及債券	三、六二七、五〇〇・〇〇〇	別口當座預金	五、四〇三、九七〇・三一〇	當座預金	六、三二〇、八四四・〇三〇	通知預金	七、七四〇、九四四・〇四〇	定期預金	二、四七一、二五〇・〇〇〇	振替貯蓄金	一、七三五、一四〇・一	地所金	一五、五七一、〇九五・九七三	建物	九三一、〇三四・七六七	耕作牛	一三二、七二五・四三〇	農具及肥料	二、七四〇・二〇〇	農產物	六五一、九二九・五五〇	什器	一〇、八〇六・〇六〇	耕牛讓渡金	六、七三三・五〇〇	貸付物品	四一、一六三・二八五〇	新築工事費	一三、三七七・二七二	山築工事費	三五、五〇七・九二〇	竹林費	五九、一〇一・一五〇	竹林費	一六三、一八一・一八二	地所費	一八、三二三・二〇五	債券價格差	一五、八二六・〇二〇	特別預託金	一、二七一、三〇八・六六〇	假拂預託金	二、五七〇、〇〇〇・〇〇〇	未收高金	五七〇、二二八・八二〇	金	八九、八八九・一二四	總計	七、四一一・四〇八	負債ノ部	五四、七〇三、九九一・六九二	資本	一〇、〇〇〇、〇〇〇・〇〇〇
---------	---------------	--------	---------------	---------	---------------	-------	---------------	--------	---------------	------	---------------	------	---------------	------	---------------	-------	-------------	-----	----------------	----	-------------	-----	-------------	-------	-----------	-----	-------------	----	------------	-------	-----------	------	-------------	-------	------------	-------	------------	-----	------------	-----	-------------	-----	------------	-------	------------	-------	---------------	-------	---------------	------	-------------	---	------------	----	-----------	------	----------------	----	----------------

缺損補填準備金	五一、四〇〇・〇〇〇	配當平均準備金	一五二、三〇〇・〇〇〇	定期預金	三六、三五〇、〇〇〇・〇〇〇	特別受託金	二、二五〇、〇〇〇・〇〇〇	契約保證金	四、〇三一、六九二・〇〇〇	身元保證積立金	五八、五八八・五〇〇	職員退職給與基金	二九、七五六・〇〇〇	未拂受金	三九、八〇三・六七〇	前期繰越金	二九、二七〇・六三五四	前期利益金	一九、七五九・二六〇	常期利益金	三一〇、八八七・六八五	總計	六五七、〇九八・一六三	利益金分配處分	五四、七〇三、九九一・六九二
---------	------------	---------	-------------	------	----------------	-------	---------------	-------	---------------	---------	------------	----------	------------	------	------------	-------	-------------	-------	------------	-------	-------------	----	-------------	---------	----------------

一金六拾五萬七千九百八拾八圓六錢參厘
 一金參拾壹萬八千八百七拾七圓六錢八錢五厘
 合計金九拾六萬七千九百八拾五圓八拾四錢八厘

內
 金五萬貳千六百圓也
 金壹萬參千貳百圓也
 金參萬貳千九百圓也
 金五拾貳萬五千圓也
 金參拾四萬四千貳百八拾五圓八拾四錢八厘

監事當選
 監事一名任期滿了ニ付選舉ノ結果福本元之助再選重任シタリ
 右公告候也
 大正七年五月

東洋殖株株式會社

總裁 石塚英藏
 理事 子爵松平直平
 理事 川上常郎
 理事 高瀬梅吉



大正七年
七月十五日發行
「支那」
第十四卷

論 說

歐洲戰後之日支合辦(二).....一四

資 料

滿洲土地商租須知並解釋(二).....一〇

一九一七年支那外國貿易(三).....一六

電信借款說明書.....一七——二〇

雜 錄

英國の對支政策(二).....二一——二五

支那に於ける敷物工業.....二六——二八

英國對支貿易論(二).....二九——三三

彙 錄



次

支那人の支那政治論

三四—三五

支那に於ける英米の提携

三六—三八

事業界

上海電話會社營業成績—香港電燈公司
營業成績—ユニオン保險會社營業成績

三九—四一

支那半月史

主戰方針の確立—岑春煊廣東に向ふ
—孫文叛國—新國會選舉形勢—關稅
改正一段落—共和恢復記念日

四二—四五

時報

(内治外交)

天津會議開會—各省衆議員數—王家驊の提案—政府の督軍戒告—阿片問題
調印—二十五日の閣議—林紹慶要求—議長と安福俱樂部

(軍 事)

軍費支給狀況—北軍攻粵計畫
經費節減—煙酒借款反對

(財政借款)

五月中の採礦許可—天津紡紗廠擴張—宣化の鐵礦—土布減稅延期—青龍山
鐵礦開掘—五金行の設置

(交通運輸)

鐵路運輸會議—甘綏輪船公司組織—京綏鐵道營業成績—南海鐵道國有問題

集報

五三—六八

商 標 登 記

美 印 窓 硝 子

旭硝子株式會社

東京市丸之内

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外ニ耐火煉瓦及曹達灰

第一工場 兵庫縣尼崎
第二工場 福岡縣戸畑
第三工場 神奈川鶴見
第四工場 福岡縣枝光
煉瓦工場 兵庫縣尼崎
曹達工場 福岡縣戸畑

内 容

第二回

賜天覽

支 那 年 鑑

廣漠難然たる支那の綜合觀、鳥瞰觀をなすに足るべきものは、纔に「支那年鑑」ある而已。今や「第二回支那年鑑」は支那民國成立以來の嶄新精細なる各般の材料に満たされて市に出てたり。苟くも支那の事情を知らんと欲するものは速に之を本書に就て求めよ。

人 口

在日日本人詳細統計
在支日本人調査
支那總人口人調査
支那總人口人調査
支那總人口人調査

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

政 治

中央部、地方部、蒙
藏部官制
光緒以來民國五年に
至る財政狀態
支那公使館領事官所
支那に於ける列國領
事館所在地位及
帝國領事館所在地位及
支那に於ける列國領
事館所在地位及

東京市赤坂區
溜池町二番地

東亞同文會調查編纂部行
電話二二四番、二二五番、接東京九七三〇番

定價 金五圓
背皮 金五圓
金文 金五圓
四紙 金五圓
送科 金五圓
支那 金五圓

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況

水 道

支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況
支那各鐵路狀況



大正七年七月十五日

第九卷 第十四號



○歐洲戰後と日支合辦 (二)

第二 日支合辦と國籍

一

自然人及法人の國籍如何は大問題なる如く、日支合辦會社の國籍も亦決して忽諸に附すべからざるや論なし、然るに未だ本問題につき慎重なる研究を経たるもの鮮なきは遺憾なり。今、日支合辦會社につき之を検するに、其國籍必ずしも一ならず、或は支那國籍なるものあり、或は日本國籍なるものあり、或は兩國孰れの國籍に屬するや曖昧なるものあり、甚しきは二重國籍を有するが如く見ゆるものあり。本溪湖煤鐵有限公司、瀋陽馬車鐵道會社は、本店を支那に置き、支那法に依り支配せらるゝものなれば、支那法人と認むべく、營口水道電氣株式會社、日清燐寸株式會社は、或は本店を日本に置き、或は日本商法に準據するものなれば、日本法人と認むべし。遼陽電燈公司は其章程第二十六條に『本章程に規定なきもの、及本章程に基きて定めたる一切の規則の解釋は、日清兩國の法律に準據す、兩國の法律に抵觸する場合には、日清兩國官憲に於て之を折衷するものとす』とあ

り、其國籍の何れに屬するや曖昧なり。又中華實業公司は、本店を日本東京に設け、總營業所を北京に置き、農工商部に登記し、其公告は本店所轄裁判所の公告を爲すべき新聞紙、及中華民國政府の公告すべき新聞紙に掲載すと定めれば二重國籍を有するにあらずやとの疑なくんばあらず、知らず、合辦事業の會社は、何れの國法に準據するを利とすべきものなるが、請ふ吾人をして之を研究せしめよ。

二

英清條約に於て、英國人が支那會社の株主たるを得べきと同時に、支那人が英國會社の株主たるを得べきことを規定し、日清條約に於ては更に一步を進め、日本人が支那人と合辦して支那會社を組織し、支那人が日本人と合辦して日本會社を組織する場合に、兩國政府の採る處置を規定し居れるも、其國籍を決定すべき標準につき、何等の規定を設けることなく、支那法令の不備なる、内外會社の區別を明白にすべき規定と、外國會社の取締に關する規定とを缺けり。従つて會社國籍を決定すべき標準は、主として之を日本商法の規定に待たざるべからず。日本商法は、會社の定款中に本店の所在地を掲ぐることを命じ、會社が設立せられたるときは、其本店の所在地に於て登記を爲すべく、之を怠りたるときは、其成立を以て第三者に對抗することを得ざることと規定しあり。嘗て東京地方裁判所に於て、國籍は本店の所在地に依り定むべしとの主義に則り、韓國京城に本店を有する東洋拓殖會社は、日本會社にあらずと判決し

たり。若し此判決にして不當ならんには、支那に本店を有するものは、例令本店管轄の領事館に登記し、日本商法に準據するも、日本國籍を得ること能はざるべきなり。而も支那の如く、本國法と、治外法權を有する國の法律と、並び行はるゝ土地にありては、多少の斟酌を必要とすべく、殊に同國は法令不備にして、官憲の保護完からざるに依り日本國籍を得易からしむるの必要あること勿論なり。

三

合辦會社が支那國籍を有する場合に、不開放地に於て事業を經營することを得べきや否や、是れ亦多少の問題存せんばあらざるなり。嘗て支那政府は、外國人の工場を設立し得る權利は、開港場に限れることを理由とし、其開港場以外に在る支那會社の株主たることを得ずとの意見を發表したり。若し果して然らんには、合辦會社をして支那國籍を有せしむべき利益の一半を失ふこととなるべきも、是は全く支那政府が利權回收熱に驅られ、張辯を弄したるまでにて、法理上深き根柢を有するものにあらざるなり。英清條約内に、英國人が株主たるを得べき支那會社の所在地につき、何等の制限を設ること無く、新舊公司律にありても、外國人が株主たるを得べき支那會社の所在地につき制限の設けあらずれば、外國人は支那會社の開港場にあると否かを問はず、齊しく其株主たることを得と解釋することと妥當なるべし。殊に舊公司律にありては、會社を以て法人なりとする規定を缺くも、新公司律にありては、會社は

總て法人なりと明定しあれば、假令外國人が其株主たりとも、法令に制限なき以上、該會社が支那法人として内地に事業を經營し得ること勿論なるべし。

四

日支合辦會社は、兩國孰れの國籍を有せしむることを利益とすべきや、多少の議論有せずんばあらず。先づ支那國籍を有せしむるの利益につきて述べんか、支那に於ては排斥運動熾んにして、條約に於て外國人に賦與したる以外の權利は、一切之を拒否せんとするのみならず、條約に於て賦與したる權利も、種々なる手段を用い、其實施を妨碍せんと努むる程なれば、其排斥を免れんとするには、合辦會社をして支那國籍を有せしむるに如かざるべし。又外國國籍を有する會社は、原則として支那内地に於て事業を經營すること能はず、支那内地に於て事業を經營せんとするには、是非共支那國籍を有せざるべからず。支那國籍を有すれば、支那内地に於て支那人の資本と勞力とを誘致し、外國會社の企て及ぶべからざる各種有利の事業を經營することを得べし。尋で日本國籍を有するの利益を述べんが。支那國籍を有する會社は、上記の利益を有するも、亦少なからざる不利益を被むることを覺悟せざるべからず。支那國籍を有するときは、支那法令と内地課税とに服従せざるべからざるが、支那には完備せる法令なく、苛征誅求行はるるに依り支那會社の運命危險に陥ることを免れず。殊に革命亂後、内亂に墮くに内亂を以てし、或は軍用の爲め、船

舶其他の財産を徵發せられ、或は公債義捐の名義を以て、財産を強收せられ、或は兵火に罹り、或は掠奪に遭ふも、救済又は賠償を求むべき所なし。然るに外國々籍を有せんには、此憂なく、假令災禍に罹るも、相當の賠償金を享くるを得べし。従つて支那人中、自己の財産を外國人の名義に切換へ、自國の銀行より預金を引出し、之を外國銀行に預入し、以て外國の保護に浴せんとするもの少なからず。斯の如きは兩者各々利害あり、其孰れの國籍を採るを有利とすべきや、大に迷なき能はざるなり。

五

大正四年、我政府は内外に於ける大反對を排斥し、所謂日支交渉なるものを遂げ、支那政府をして、南滿洲に於て日本臣民に居住、往來、營業するの權利を承認せしめ。當時日本政府は、非常の權利を獲得せるもの、如く内外に喧傳せられたり。而も我政府は、日本臣民が日支官憲の協定を経たる警察法令及課税に服従すべきことを承認したるに依り、日本人中支那官憲より壓抑苛征を受けんことを憂ひ豫期せられたる如く、滿洲内地に移住するもの多からず。我政府も亦其影響の如何を慮り、協約締結後三年を経たるも、尙ほ未だ警察及課税施行細則を協定するに至らず、或は日支協約は、日本人の南滿洲發展に利あらずして、反て害あるものなりと酷評するものある程なり。我勢力範圍たる南滿洲に於てすら斯の如しとせば、支那内地に於て何等の保障なく、支那法令と課税とに服従すること危險なしと

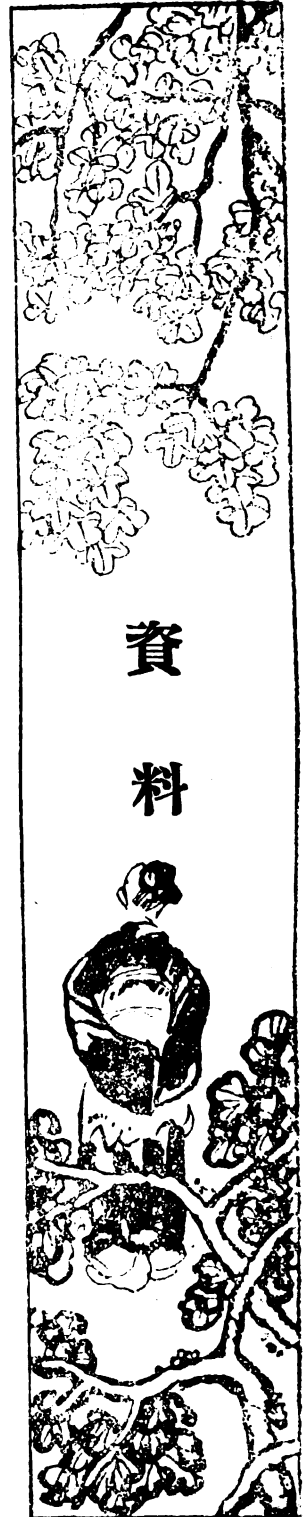
謂ふべからず。されば、日支合辦會社は、成るべく日本國籍を有するを可なりとすべく、若し出來得べくんば、支那商號を用い、支那内地に事業を經營し、國籍を日本に置くことを妙とすべく、又支那國籍を採る場合には、外交上の保障を得ることに努むべし。鴨綠江探木会社が、支那國籍に屬するものなるも、其財産の安固なるは、日清特殊協約の力に待つに依る。今日大小の合辦事業が、悉く協約に頼り難きこと勿論なるも、大企業にありては、相當の用意なかるべからざるなり。

六

我政府は、日支合辦會社をして、日本國籍を有せしむるの利益なることを認め、日本國籍を得易からしむるの便法を設けたり。即ち支那開放地に於て日本法に準據し設立せられたる會社は、一切日本會社と看做すことに決定し其日支合辦に係るものは、支那人に關するものに限り、日本法に準據するの意思表示を爲すことを要し、意思表示の方法は簡短にして、定款に其旨を記載し、支那株主が之に關印する丈にて可なり。合辦會社已に設立せられ、所管日本領事館に登記を舉りたるときは、追加日清通商航海條約第四條に據り、支那政府は、日本人と同しく會社（又は組合）を組織せる支那人に對し、其承認し且つ日本國裁判所の解釋に従ふべき契約覺書定款及之に基きて作りたる細則に定めたる義務の履行を強制すべき義務あるものとす。領事館に對する登記料は、明治三十九年勅令第二百十九號領

事館取扱登錄税に關する税に據り、一萬圓未満を拾圓、五拾萬圓未満を拾九圓、五拾萬圓以上は、二萬五千圓を超ゆる毎に、一萬圓につき一圓を加ふべきものとす、之を本國の手數料に比するに極めて軽く、其所得税、營業税の如きは、一切之を免除することゝせり。従つて、日支合辦事業をして日本國籍を得易からしむるの方法に於ては、略ぼ遺憾なきを得たるものと謂ふべし。されど、其支那國籍を有するものに對し、未だ何等の便法講究せらるゝに至らざれば、今後支那政府をして、之に對し相等の保護の途を啓かしめ、日支合辦事業は、又兩國孰れの國籍を採るも甲乙なからしむること急務なるべし。





資料

滿洲土地商租須知並解釋 (二)

五、商租の土地は工商業用の建物を建設し或は農業を經營するに限る其の商租土地の範圍は其應用及需用の程度を逾ゆることを得ず

前項農業には林業、漁業を包含せず

(解釋)本條の第一項は應に兩層に區分して看るべし第一層は商租地の制限にして第二層は土地多寡の制限なりとす其の實は決して我に由りて外人を制限するにあらず其第一層即ち條約文中の工商業の建物及農業を經營する等の文字ありて既に之を制限せるなり其第二層は應用及需用の文字によりて制限せらるるなり但し條約文中既に自ら制限ありと雖も仍は本條に於て之を申明するを要する所以のものは南滿の地實に特別情形あるを以てなり蓋し南滿地方は寥濶にして滿目荒涼所謂地曠く人稀なるものなり地曠く人稀なるの故を以て遂に極めて寶貴の土地として視るべきもの往々にして甚だ愛惜せざるものとせり

從來荒地を承領するの人は一時に數百方地を承領し得たるものは元より各處の租地も又數畝の地を租種する人なく極少のものも亦た晌(十畝)を以て計算し甚しきは方地(二十四晌)を以て計算し一氣に數十方之地を租賃するものありて實に聽く人をして驚駭せしむ此無制限の租賃法は南滿洲に於ては以て尋常の事とせり目下外人は本より商租土地の多きを希望し又加ふるに此の如き習慣を以てせば條約文を拋棄せば我人民の愚昧なるに乘じ習慣法を援引し任意に商租するなきを保し難し此れ決して條約を履行するものの許す所に非らざるなり、南滿東蒙に關する條約の第二條に云ふ所の租地とは明に商工業の建物を建設し或は農業を經營する爲設けたるものなり則ち外人が土地に向て商租する時は地主は先づ商工業建物を建設する爲め或は農業を經營する爲なるや否やを明に問查し果して實際に於て商工業建物を建設するとせば則ち建物

所の特許は事業を指したるものにして本項の特許は物品を指したるものとす)

(丁)従前協約の時否認せる事項

病院、寺院、學校等は既に従前の訂約に於て其の所有權を否認せり今後此の項の土地を租用せんとするものあるときは一律に制限すること

以上は均しく商工業を經營するときに於て混冒を致し易きものなり若し外人の牽連附會に由り吾國家地方の行政特權に障害を及ぼすが如きは其の患亦小故にあらざるなり故に農業制限の點より煩瑣を憚らず分別して之を述ぶ地方官吏は各宜しく注意すべし

六、土地の商租は地主が商租の時に於て該所管地方官署より租用土地填報用紙を領收し書式に依り記入し該所管地方官署に報告し該官署は調査の上夫々租契を交付すべし(解釋)前五條は土地商租のときに於ける重要各點及概括の意義一切を表明せるものなり本條は即ち双方が商租の時に於て官署より用紙を受領し及官署より租契を交付するの手續なり蓋し商租事項は必ず該所管地方官署に報告するを必要とす其報明を必要とする所以のものは地主が土地を外人に租與せんとするとき一度官署に報明し置くときは將來租款受授等に關し糾葛を生ずるも官署が前報の辨法を明査し法庭に送交して公平に辨理すべく亦官署に於ても藉りて稽考とすべし承租人に於ても亦其租賃權を確定することを得て所謂一舉にして三善を備ふるものなり故に官署に報明するには先づ用紙を受領し該用紙に

記入して官署の調査を経たる後租契を地主と承租人とに交付す於是租地手續は方に完備せるものとす用紙契約の書式に至りては別に本須知の末尾に用紙の記載方法並説明書を添付一覽に便ならしむ今本條辨法による該所管官署に報告する時の前後の詳細なる手續を一々後に説明す承租人が地主に向て土地商租を商量するときは或は紹介人(即ち租契中の中證人の一なり將來は官に於て中人を設くるときは之より他人の紹介に由るを得ず亦官の紹介人を經ずして双方直接にするを得ず)に由り或は紹介人が承租人と共に地主の處に赴き租地一切の辨法を商量し商量既に熟せば地主自ら該所管地方官署に赴くべし但し地方官署地主及承租人の住所を離るゝこと或は百里の遠隔なるあり甚しきに至りては數百里なるありて租地の件は認可せらるゝや否や尙知るべからざるに故なく數百里の地を往復し旅費を消耗する等之れ決して人民を體恤するの意にあらず故に現に規定して遠近の如何を問はず悉く地主が最寄の該管警區に赴き此の土地租用の填報用紙を領收すべし此時に於ける該地方官署とは即ち該管警區にして縣知事公署にあらざるなり

此とき地主の注意すべきことは一は現に租出せんとする土地の地券を携帯して該地は眞に地主の所有地なることを證明するに便ならしむべし一は承租人を邀ひ其自ら註冊證を携帯すべきを囑し共に該管警區に至り以て事に遇ひたる場合の面晤に便ならしむべし然るときは警區に於ても承租人に尋問するを要する際にも徒らに時日を空費

することなかるべし只承租人は該管警區に至ると雖も地主が領收用紙に具報する時は承租人は却て署名せず地主一人之に署名するものとす若し警區が疑問ありて承租人を呼び區に於て詢問せざるを得ざるときは承租人の出頭を要するも然らざれば承租人の出頭は要せざるなり

地主區に至りて其の旨を届出て用紙を領取し並に携帶の地券を提出して査閱を請ふべし時至れば該管警區は先づ地券を査閱し是れ本人の所有なるや並に該地券は曾て登記を経たるものなるやを査閱し若し未だ登記を経ざるものなるときは即時之れが登記をなさしめ地主の所有權をして更に確定ならしむ其登記費は規定の通り徴收するものとす双方に於ける租地一切の辦法は地主に付き平和に商量せるものなるや並に強迫或は欺騙等のことなきや等を詢問し其中填報すべき各事項の事實の有無及び不備の點を詢問するものとす其中證人内の村長副長及隣戸の者は將來租契上に均しく署名すべきものなるを以て若し近處なれば同時區に於て一切を詢問し得べきも然らざれば村長或は副村長一人必ず區に呼出して詢問するものとす此の時一面に於ては各方面を詢問し一面に於ては最寄に就き確查し並に該土地は法令に係る耕種或は建築禁止の有無等を明査し若し生地又は荒地なれば該地主は曾て納税開始を報告せるものなるや其地券は規則に依り納税せしものなるや又糾葛と訴訟關係との有無或は債權問題發生のことまで追及調査すべし尙注意を要すべきは承租人の註冊證なるを以て承租人に向て査閱を索むべし其所在

地營業年限等相符合するや否やを査明し若し其の時双方の辦法尙同じからざるものあるときは承租人を呼出して問明すべし以上は該管警區に於て併て調査するものにして疑義なきに於て始めて租地填報用紙を交付し地主をして用紙様式中の各欄に書式に照し填明せしむ其の用紙費は地主より警區に向ひ規定の通り納付せしむ其時該警區は地主より提出せし租地填報用紙并に調査せる一切の事項及許否の意見を附し併せて該管縣公署に報告するものとす

該管縣公署は前記警區の報告を受領せば詳細に窒礎及填報不符の點なきや否やを審査し若し是等の事あるときは却下するか或は區に命じて地主をして更正せしむることを得若し窒礙なきときは即時に原報警區に指令し双方の當事者に速に縣署に出頭すべきを傳知せしむ地主及承租人が出頭せし時尙詢問すべき處あらば縣に於て詢問の後租契を交付し用紙の各欄に記入すべきことは書記に命じ地主及承租人に代り各書式に照して租契に記入せしめ並に租契裏面にある双方に於て遵守すべき事項は各自に囑附して切實に遵守せしむ此の契紙費即ち出租契費は地主より入租契費は承租人より縣署に納附せしむるものとす但し租契記入後尙縣署へ承租人租用土地の登記を爲し以て承租人の租賃權を證明す此の種の登記費は承租人より縣署に納附せしむ故に本條下文に云ふ所の該管地方官署とは縣知事公署を指して云ふものなり

以上は均しく本條に依り用紙を領收し租契交付に至るま

での前後の詳細なる手續なるを以て應に之れに照して辦理すべきものなり該項の用紙及租契に至ては別に省公署より様式を示し並に財政廳に命じて式の如く印刷せしめ各縣の申出に依りて配布し縣署は此用紙を警區に轉送し以て人民をして領用せしむ

七、土地を商租する時は別に定めたる契紙及租地用紙を遵用し之に印紙を貼用すべし

(解釋)本條の上文は租地の時官署に報明する爲め用ゆる租契用紙を云ふものにして重言申明を必要とする所以は第六條に云ふ所の租地用紙に填報すること及交付の租契に就ては恐く地主及承租人等に於て別に定めたる印刷物あるを知らずして視て完様の文章となし必ずしも一定の填用を要せずとし或は手續繁重にして往復多勞の爲めに故意に規避するものあらんも此等用紙及租契を別に定めたるは是れ皆權利を證明し糾葛を豫防する爲め設けたるものにして遵用せざれば不可なり若し果して私に地を租し定例に遵はざるが如きは即ち双方に於て均しく確證なく一たび糾葛に遇はんか必ず處理する方法なし故に再び反覆して之を言はざるを得ず而して用紙及租契には尙印紙を貼用すべし亦是れ證據を確實にする目的にして此の印紙は地主の貼用に歸すべきものなり



一九一七年支那外國貿易 (三)

輸入貿易 (續)

主要輸入品前年比較表 (價額單位海關兩)

品名	一九一六年		一九一七年	
	數量	價額	數量	價額
生金巾 (無地)	英國: 反	一六二, 六三三	五, 七九四	一, 五九, 四七五
	日本: 同	六六, 四七二	二, 三四三	一六二, 五五五
	其他: 同	九八五	一五, 四〇一	五, 六七八
生金巾 (有地)	英國: 同	三, 五七五	一四, 〇三三	六五, 〇三三
	日本: 同	五, 〇七九	二, 〇九〇	二六, 四〇二
	其他: 同	一, 九二二	六, 四六五	二六, 二八四
晒金巾 (無地)	英國: 同	三, 一五五	二, 六八四	九, 九二一
	日本: 同	三, 〇八四	一, 三三六	二, 三三九
	其他: 同	五, 七〇九	二, 五七二	二, 九二五
雲香布	英國: 同	二, 四四四	一, 二六七	二, 〇七九
	日本: 同	九, 七五〇	二, 九四〇	一, 四二一
	其他: 同	一, 九四四	四, 〇三九	三, 三五二
綿織絲	英國: 同	一, 〇六八	三, 五八八	九, 五七九
	日本: 同	一, 三五〇	二, 〇三三	一, 〇六五
	其他: 同	一, 七八四	四, 七二一	一, 〇六五
加工綿織絲	英國: 同	一, 七八四	四, 七二一	一, 〇六五
	日本: 同	一, 七八四	四, 七二一	一, 〇六五
	其他: 同	一, 七八四	四, 七二一	一, 〇六五

米國: 反	七五五	四, 〇三一	三, 五七三	一八, 四〇三
英國: 同	一七, 六六八	六, 五七七	一六, 九七六	六, 九八六
日本: 同	一, 五二一	四, 〇二一	一, 五二一	四, 〇二一

米及粉	同	二, 八四〇	三, 七九八	九, 八三七
紙卷煙草	千本	六, 六五五	二, 四二五	九, 九八〇

石炭	噸	一, 四三二	九, 九七五	一, 四四四
海產物	擔	一六, 〇七六	一三, 七五二	一七, 三六〇

米國: 同	一〇, 四七五	二, 〇三六	九, 七七六	一, 七六三
日本: 同	六, 四〇六	一, 五五三	五, 四三〇	一, 二八六
露國: 同	一, 四七三	六, 四七一	三, 〇〇六	一, 〇四七

赤糖	同	一, 九四九	八, 七九八	一, 八八〇
白糖	同	九, 〇九三	六, 一八八	一, 二一〇
精糖	同	二, 五八七	一, 九七五	二, 九八〇
水	同	一, 七二一	一, 六〇四	二, 五八七

熟皮	同	一, 三九四	七, 五五一	一, 三九四
棉花	同	四, 〇七六	八, 〇六八	三, 〇〇二
染料	同	四, 九五五	四, 四三二	四, 六二五
燐寸	同	二, 〇二七	六, 九七五	五, 五五五
藥	同	一, 〇六六	一, 〇六六	一, 〇六六

輸出貿易

一九一七年の支那對外輸出貿易總額は四億六千二百九十三萬千六百三十兩にして一九一六年以前の各年に比し何れよりも超越せりと雖大正五年に比し千八百八十六萬兩の減少を見たり一般支那品の輸出には著るしき減少を見ざりしも茶及胡麻種子の輸出額に於て夫々千四百萬兩及五百九十萬兩を激減せるため輸出總額に於て千八百八十餘萬兩の減退を見るに至りしものにして中立國其他非戰國に對する一般支那產品の輸出は船腹不足、運賃暴騰等に拘はらず盛況を呈せり今主要輸出品を列舉せば左の如し。

主要輸出品前年比較表 (價額單位海關兩)

品名	一九一六年		一九一七年	
	數量	價額	數量	價額
銅	同	五、四八八、九〇六、六六一	六、九八三、九四六、七五七	
鐵類	同	七、三二八、八四六、八七三	七、八四三、七〇七、〇六七	
錫	同	二、六三三、八四七、二六六	一、九〇八、二二三、六四四	
豆粕	同	二、六三三、二五二、三三三	二、五五二、七九三、七六五	
豆	同	八、七九二、四九一、七五九	一〇、〇〇七、八五九、六〇一	
剛毛	同	六、二七六、五五五、六八四	六、四二一、六六六、六三八	
石炭	同	一、三二四、八三三、五七七、六六一	一、五五五、六六六、六五九	
棉花	同	八、五二〇、七七一、〇九一	八、三三三、二〇〇、五八三	
蛋白、蛋黃	同	二、八八三、七七一、〇四三	四、五〇一、九二一、九六六	
豆油	同	一、五五五、六〇二、八三三、二七	一、八九一、三三三、八一九、二五	

落花生油.....同 五、二五二、六〇〇、四九四 四、三三三、五二八、八三九

白絲.....同 八、五四〇、五五五、二五七 八、七六九、一五五、五五二

蠶絲類.....同 一、八二五、七三三、八〇六 一、九八五、七九三、〇九二

野蠶絲.....同 一、八六二、五二五、〇六六 一、八三三、六〇二、九六九

絹織物.....同 一、四八五、二二六、五八八 一、九二一、〇〇四、四四四

繭及屑絲.....同 一、九六九、七二〇、八〇五、三五五 一、八四一、八三三、九二〇

生牛皮.....同 四、五五五、二七九、一四二 四、七〇九、二七三、七五二

山羊皮.....同 九、八八六、七七一、五〇四 一、七五五、五七九、七八九、一八六

各種茶.....同 一、四二二、三三三、四四七 一、二五五、五五二、九〇五、五五五

羊毛.....同 三、四四四、五六一、〇六八、六六一 三、九三三、五四一、〇〇〇、〇〇〇

右表中前年に比し増加の著るしきものは銅、鐵、錫、豆、剛毛、石炭、棉花、蛋白、蛋黃、豆油、蠶絲、山羊皮等にして減少の著るしきものは豆粕、落花生油、絹織物、繭及屑絲、生牛皮、各種茶、羊毛等なり。

支那に於ける綿製品製造は著るしく進歩したるも、其輸出額の比較的鮮少なるは其大部分國內に於て需要せらるるに因るものとす、生金巾は一九一五年の二百六十反より二萬五千五百四反に進み、シーチングは二千四百九十四反より三萬八千八百六反に、雲齋布は三千四百二十二反より三萬八千一反に、精巧支那木綿は二十九萬八千四百八十八反より四十九萬九千五百五十三反に、何れも増進し、尙政府に於て獎勵に怠らざるが故に、本製造工業は益々發達するなるべし、鐵產物は一般に増加し安質母尼は五割六分を増進し銅及鐵類は日本へ多大の輸出あり、豆粕も亦日本の需要多かりしため、約四百萬擔の輸出増進を見、鉄力、瓦、セメント、

各種袋類、穀類、蛋白蛋黃、麥粉、皮革、材木、煙草等は
何れも戦争のため輸出増加したるも果實、生姜、蘭製帽子
胡穀、蠟等何れも減退し殊に茶、胡麻種子、卵、落花生、
麥稈、眞田、桐油等に於て著るしき減退を見たり。

生絲は一九一六年に比し多大の増加を見南方に於ては歐
洲及米國の需要多く、四月末に於て既に其在荷を見ざるに
至れり。

一九一七年に於ける茶作は前年に比し良好なりしも、英
國の輸入禁止及露國の動亂に加へ瓜哇茶の競争ありした
め、茶業者は大損失を招けりと雖前年の如く著るしからざ
りき。

船舶出入

一九一七年の支那各港出入船舶數は二十一萬三千四百七
十三隻其噸數八千六百九十萬七千四百四十九噸にして之れを前
年に對比すれば隻數に於て一萬四千四百五十七隻を増加せる
も噸數に於て百一十一萬三千五十二噸の減少を示し最も多數
の出入ありし一九一四年に比し七千八百十八隻、千百七萬七
千百六十四噸の減退なり以て船舶の不足を告ぐる故なきに
あらざるを知る。

支那各港出入船舶國籍別前年比較表

船籍國	一九一六年				一九一七年			
	隻	數	噸	隻	數	噸	運搬貨物價額	
米國	三〇八三	七九,九三	三,六〇九	一,一五五	五,四八三	六,六四		
英吉利	三四,一三	三五,八四〇	五,七三	三四,九二	三三,五七六	二,七	七六,一九六五,九八五	

丁 抹	一五	二六,七四	八	一四,二三八	八,四三三,二八
和 蘭	三三	四三,九六五	三七四	七二,四九	二,一九〇三,九六
佛蘭西	四〇九	五九六,二七	三六	五九四,八九	三,〇六五,四八九
埃洪國	—	—	—	—	—
獨 逸	一,二五	六,五三	二二三	一七,〇四	四六,五四五
伊太利	五七	九七九	四六	一四,九二	—
日 本	三,五八二	四,三三,八五	三,四五四	二四,五二,六四七	七五,四二,〇二
諸 威	四七	六六,二七	五〇	四七,四四九	一五,九二五,八二四
葡萄牙	四〇	二九,四七八	四六	一九,四六	二,五〇七,四八一
露西亞	三,七〇	一,五四,〇八五	三,二七六	一四,九二,〇〇	八三,四〇二,二四八
瑞 典	三四	一〇一,九四八	一〇	二六,六九二	一,一〇九,六六八
無條約國	二	一,四六	—	—	—
支 那	四,五五三	二八,四六〇,五三	四六,四三	一八,五七,九七	五七,二七七,九四三
支那帆船	九,九四九	四九,六五七,六二〇	四六	五,〇四,八〇	—
計	二〇,二六八	四〇,〇二,三,四三	八六,九七,〇四九	二九,九二,五五,二九	—

支那各港出入各國船舶中第一位を占むるは英國船にして
日本、支那、露西亞、米國之れに次ぎ米國、和蘭、獨逸、
葡萄牙、支那以外の諸國船舶は前年に比し一般に減少せり。

金銀出入

一九一七年に於ける金銀輸出入左の如し。

一九一七年金銀出入國別表 (單位兩)

輸 入	金	銀	銅	計
亞米利加洲……………	100,000	七,五六八三	—	七,五七,一〇一

阿弗利加洲	三九三	三九三
亞細亞洲		
印度	六〇三、六八〇	六〇三、六八〇
海峽殖民地	五、三八八	五、三八八
佛領印度支那	一、四四四、〇〇六	一、四四四、〇〇六
暹羅	一〇五、三〇〇	一〇五、三〇〇
香港、澳門	一、九四九、八二〇	一、九四九、八二〇
蘭領東印度	八五五	八五五
日本	六、〇三三、一九四、二六六	六、〇三三、一九四、二六六
朝鮮	二、四〇二	二、四〇二
ハバロフスク	六六六	六六六
浦潮斯德	九〇八、七六四	九〇八、七六四
計	二、七五〇、七二二	二、七五〇、七二二
輸出		
歐羅巴洲	三、四二六、八	七〇〇、九四九
亞細亞洲		
印度	六〇三、六八二	二九、五三二、六
海峽殖民地	八四、九四八	八四、九四八
佛領印度支那	一、三九〇、三七七	一、三九〇、三七七
暹羅	五七、〇〇一	五七、〇〇一
香港、澳門	一、〇二六、六三二	一、〇二六、六三二

支那外國貿易額國別前年對照表 (單位海關兩)

國名	輸 入	輸 出	計
日本 (臺灣を含む)	一、六〇四、〇七〇	一、三三三、二五八	二、九三七、三二八
日本 (朝鮮を除く)	一、六〇四、〇七〇	一、三三三、二五八	二、九三七、三二八

蘭領東印度	一、二九三	一、二九三
日本	八、六六六	二、〇六二、八七一
朝鮮	二、八四三	三、二四三
西伯利	一、五七四	一、五七四
トルキスタン	一、四〇七、九七	一、四〇七、九七
浦潮斯德	三、九〇〇、九七	三、九〇〇、九七
計	五、〇四、五五	四、八四九、三九〇

尙次に支那歷年貿易總額比較表並に國別貿易額比較表を
舉ぐれば左の如し。

支那外國貿易額十年比較表 (單位海關兩)

年次	純輸入額	純輸出額	輸出入總額	輸入超過額
一九〇八年	三、九四、五〇五、四七八	二、六六、〇四三、六七	六、六〇、五四八、一八五	二、二八四、五〇五、四七八
一九〇九年	四、八二、〇六七	三、八、九二、八四七、五〇	八、六一、九二〇、五七五	一、〇一〇、〇九二、八四七、五〇
一九一〇年	四、六、九四、八四四	三、〇、八三三、三八	八、六七、〇七八、二二二	一、六六八、〇七八、二二二
一九一一年	四、七、五〇、三九三	三、七、三三八、一六	八、四四、八四一、〇九	一、〇三三、〇七二、二二二
一九一二年	四、七、〇九、〇三二	三、七、五〇、四三三	八、四六、五九四、四六五	一、〇〇一、五九四、四六五
一九一三年	五、七、二六、二五七	四、〇、三〇五、五四六	九、七七、五六八、八〇三	一、七七二、〇二三、二五七
一九一四年	五、九、二四、二三八	三、五、三六、二六九	九、四八、六〇八、五五七	一、〇一三、二四二、二六九
一九一五年	四、五、四七、七一九	四、八、八六、一、二六四	九、四四、三三三、〇六三	一、〇一三、二四二、二六九
一九一六年	五、六、四〇、六九五	四、八、七、七、六六	一〇、四八、三、四一六	一、〇一三、二四二、二六九
一九一七年	五、四九、五二、八七四	四、六、一、三、六三〇	一〇、一五、六、五〇四	八、六六、五七、一四四

香港	一五,三三七,六四〇	二九,四八五,六五〇	二七,八三三,七四〇	一五,六〇二,四八八	二五,八四二,九四六	二七,四四五,四三四
米國 (布哇含分比 律實を除く)	五,八三三,七九九	七,〇八〇,七〇五	二五,九〇四,四〇四	六〇,九六〇,七七七	九四,七八六,三九九	一五,七七七,〇〇六
英吉利	七〇,三三三,〇三九	三四,九二八,五八六	一〇五,二七一,七五五	五二,九八九,一三三	二六,〇八九,七五九	七八,〇七八,八九四
露西亞	二五,六九四,六〇八	六五,五四二,〇五五	九二,〇八八,一三三	一一,二七七,七五五	四九,七五〇,五〇六	六〇,九六八,二四一
英領印度	三二,七五四,八四一	六,五九九,九九九	三九,三四四,八四〇	二六,九九九,一八四	六,九五〇,三三七	三三,九九五,七一
佛蘭西	二八,七七八,八四四	二七,三六一,九五九	三〇,〇九九,八四三	二,三〇九,〇〇六	二五,五五八,〇七九	二七,八四五,三九九
朝鮮	八五,〇四六,四〇四	六,六〇一,五二一	一五,一〇六,一三三	一一,八四三,〇〇六	八五八,九四四	二〇,三六一,九四〇
海峽殖民地	四六,〇二八,四四五	八,三四八,七五五	一二,九五一,五九〇	六八七,七九三	六,六七四,八五二	一三,五五二,六四四
加奈陀	一八六八,二四五	一,五三九,一六三	三四〇七,四五六	九〇,九四三,四七	二六八六,五三三	一一,七八〇,八六九
澳門	五,三六二,二四四	三,六九六,五七二	八八三,二八六	四六五,四〇九二	四九,九四九,四六九	九,五九三,五六一
蘭領東印度	五,三三〇,三三三	二,三四七,七三六	七,六五〇,五九	四,五二五,六四一	一七,三三,七八	六,二九九,四一九
伊太利	三,五九九,九六六	六,三〇五,九七八	六,六五九,九一四	四六七,九九九	三,九〇五,八四四	四,三七五,八三三
佛領印度支那	三,五八四,七五一	一,四四三,八三〇	五,〇二八,九六一	二,四六一,九九九	一,六二一,九四四	四,〇八三,九六〇
比律賓	二,二九二,八七五	一,〇七五,〇七七	三,三六七,九三二	一,七〇六,六七九	一,五二六,二八五	三,二六八,九六四
暹羅	五,五二二,三四六	三,〇三三,五九〇	三,五七五,九三六	五,五三,八五二	二,三六六,〇七九	二,九一九,九三二
丁抹	二,七六九,六六	二,一六〇,三五〇	二,二八八,〇四六	六,七四四	一,六七八,八三三	一,七四六,二四六
濠洲及新西蘭	四,五七七,七一	一,六四四,九六一	二,〇八〇,六六三	五,八五,二〇五	一,〇二七,三七〇	一,六二二,五七五
土耳其、埃及、波斯等	八八,二二一	二,一六〇,三一九	二,一四八,五〇〇	一,三〇七,二七	一,三五三,五〇二	一,四八四,二九九
瑞典	一,五八〇,〇〇四	一,四四九,二九七	三,〇三七,三〇二	三,四〇,一二三	一,六八〇	三,四二七,三三
挪威	一,一八一,六四四	八,九六七	一一,九〇五,八六一	二,四七,五九九	九,八三三	二,五七,三六二
和蘭	一,三〇〇,三九三	一,一〇五,九九八	一,三三六,三九二	三,三六五	二六,三五六	五九,九八一
南阿弗利加	一,三三	五,一四二	五,一六四	一五,八三九	四,八九一	五七,七五〇
南亞米利加	五	八六,五三七	八六,五四二	一一	四四,五三二	四四,五三二
墨西哥及中米	三七	九四九	九六六	三八六,八八	五,一七八	四三,八六六
西班牙	五,三九七	一三,九五八	一九,三五五	二,一三〇	一九,二七九	二,二四〇九

白耳義	七,七〇四	—	七,七〇四	七,五九七	—	七,五九七
瑞 西	四八二	一,四六八	一,九六〇	六六二	三,六九五	四,三五七
埃洪國	三,七四七	八八	三,八五五	一,〇三五	—	一,〇三五
獨 逸	二,四四九	三三二	二,四八〇	—	五〇	五〇
葡萄牙	—	三七	三七	—	—	—
再輸出	一八八六,四二	—	一八八六,四二	二七,八六二,五五五	—	二七,八六二,五五五
總 計	五二六,四〇六,九九五	四八,一七九,三六六	九九,〇〇四,三六一	五四九,五二八,七七四	四六二,九二,六三〇	一,〇二二,四五四,〇四四

支那在留外國人數國籍別比較表

國籍	一九一六年	一九一七年	洪牙利	無條約國	計	一九一六年	一九一七年
日本	一、八六八	二、八八八	二	三	一八五、六三三	七、〇五五	二二、〇八五
露西亞	一、四三三	二、九四四	三	一五九			
英吉利	六四四	五、三二〇	八、四七九				
米國	一、八七一	六五五	二六	五、六八			
獨逸	一、八一	一三三	二、八九九				
葡萄牙	四七	五一	二、九七				
佛蘭西	二、二六	二、七	二、六二				
瑞典	四	三	五二三				
丁抹	二六	二七	四五〇				
伊太利	四四	四二	四六				
白耳義	一七	一八	三三四				
埃地利	一九	一八	三七				
西班牙	二六	八	三〇〇				
和蘭	二九	三	二九				

電信借款說明書

段内閣は其成立と共に軍費に窮し曹財政總長をして電信借款を取扱はしめたるが、幣制借款に就き財政部に對し先づ幣制整理計畫書説明書を提出せしめたる例に依り、今回の電信借款に就ても、亦説明書を要し五月三日成立せる契約文の後に之を附加することとせりと傳へらる、今該説明書なるものを譯載せば左の如し

邊境の交通關係は最も重要なり、我國有線電報は東部中部線路が其建設早く架設亦多く、通信事務得て以て停滯するに至らざるもの、外、甘肅、新疆一帶及び外蒙古等遠隔地の線路は、長距離にして數千里毎に電信局を置き、面かも單線にして今日迄修理を加へざる爲め、電桿朽腐堪へず、通信速達する能はず、或は電信局未開設の爲め通信不便なるあり、一旦事故あらば消息阻隔し行政商業上何れも妨害あり、是を以て豫算として西北電信を擴張し、大修繕を加ふる要求ありしも、内地の修理擴張費過多にして國庫の支辨を受くるを得ずして中止されたり、然るに今や我國參戰準備の時に當り、外蒙と露國の關係は將に變更あらんとし北部の形勢最も極めて險惡なり、西北の電信を完全に修理し擴張を圖るは當務の急にして、單線各地に電線を増設し新式電信機械に改め交通を便にせざるべからず、又庫倫陳都護使の電報及蒙藏院、農商部の咨文によるも、何れも烏里雅蘇臺、科布多兩地の電線増設を求めあり、今や之を緩

にすべからず電線修理電線増設方法及之に要する經費と時期に就き説明すれば左の如し

第一期

一、五原より烏里雅蘇臺、科布多を経て承化寺に至る電線約三千七百餘里の増設、其經費の評價は百十六萬餘元、此線路は稍他處と接線する遠きも、轉報局稍少く中央との通信便なること、及び大沙漠を去り修理し易く、實に至要の路たり、次年秋頃迄に工事を竣らん見込みなるが、其烏里雅蘇臺より五原に至る間は新式器械を設けて通報に利せん

二、西安より成都に至る線綫の修理と一線を増設することにして、此線路は二千三百四十六哩、經費二十三萬四千六百元、四川陝西重要幹線にして、此線は中間局甚だ多き爲め通信事務非常に遲緩するを以て、切實に修理を加へ且つ一線を増設し器械を改めざるべからず、此事業は二年内に竣工せんとす

三、張家口より歸化寧夏を経て固原に至る間に線を加へ且大修理を施す、二千八百七十一里、經費二十八萬七千五百元、此線路は此路幹線に係り五原より烏里雅蘇臺に接せる後一線となり勢不足なるに、而も甘肅新疆に至る通信何れも之によりて遞傳さるゝを以て、非常緊要なり、第一期の計畫として工事開始後一年半内に竣工せんとす、而して大同、

桿料價值

四六八、〇〇〇

運屯費

九七二、〇〇〇

薪工川資雜項

七二〇、〇〇〇

計

二、一六〇、〇〇〇元

漢口間廣州沿鐵路雙線建設經費

里數

二、一〇〇

桿料價值

一六八、〇〇〇元

運屯費

五二、五〇〇

薪工川資雜項

七三、五〇〇

設局五所

一、〇〇〇

計

二九五、〇〇〇元

(以上二期)

新民間齊々哈爾大修加線經費

里數

一、四四六

桿料價值

六五、〇七〇元

運屯費

三六、一五〇

薪工川資雜項

四三、三八〇

計

一四四、六〇〇元

(以上三期)



雜錄

英國の對支政策 (二)

英國　　ブ　　ラ　　ン　　ド

鐵道敷設及其財政管理上ニ及 ボセル地方的利害關係ノ影響

上述のオスボルン大佐の「階級の偏執」論は之に多少の斟酌を施すも、其の論議は確かに根據ある所說にして其後種種事件の消起に依りて其の修正を餘儀なくせられたる點有り。雖も、猶今日に到る迄此の議論は極東在住の英國人の愛國心を刺戟し且つ屢英國公使館の善意の活動を阻碍せり。デリケートにして而かも不快なる此種の論說を更に推蔽することは不必要にして不當なり。英國外務省の對支政策が從來多年の間而して現今に於ても猶大部分支那に於ける投資關係に依る自國の特權團體の意見及建言に基くものなる

ことは顯著にして疑なき事實なり。一八九八年來の利權爭奪戰、鐵道敷設及其財政管理の開始以來、此種の勢力ある特權團體は引いて一の新形勢を開展せしめ、斯くて此の形勢は、純然たる英國人の商工業上の企業を保護するに際しても、逸早く之に對して國際的形態を採らしめ、財政上の共同管理を爲さしめたり。吾人は既に前章(本篇以外)に於て袁世凱の清朝擁護策及びサー、ジョン、ジョルダン并に其の屬僚等の袁の政策擁護の爲めに効せる好意的努力が、支那帝國の形勢よりも更に地方的若くは個人的利益に一層の密接關係を有する、上海の英國大船船會社及商事會社の早急なる行動によりて如何に粉碎され了せるかを述べたり。

上述の例を按ずるに、斯る行動は近視的なれども其の理

由たるや明瞭、其の動機は單に防衛的のものに過ぎざるなり、何となれば當時革命黨は其得意の武器たるボイコットの脅威を爲したるを以てなり。然かも吾人は、支那在住の大多數の英人の明瞭なる一致的意見及び英國の政策の一般効果が、一の勢力ある團體の利害關係に依りて犠牲に供せられたる事例の甚だ多きを悲まざるを得ず。揚子江沿岸の地が英國鐵道企業の爲めの獨占的豫備地と看做されたる當時即讓與爭奪戰の時代に於て、ジャーデン、マーセソン會社は香上銀行と共同として、“The British and Chinese Corporation, Limited.” ナルシンヂケートを組織せり。一八九八年四月サー、エウエン、カメロンが其外務省に宛てたる書翰は、爾來英國政府より殆ど獨占的保護を得來れる、此の有力なる而して代表的シンヂケートの活動の如何なるものなるかを暗示せり。(此の事は、一九〇二年タイムス北京特派員の注目せし所なり)。而して此のシンヂケートは、サリスベリー内閣の外交の壓迫によりて贏たる重要な讓與の行使を委任せられたり。

此等の讓與によりて生じたる諸利權は其實質上國家的權利にして、個人的權利に非らず。一八九九年の京奉鐵道借款の場合に於て、英國政府が該借款の條件に對して公式の承認を與へんとせし時、サリスベリー卿は是れ實に英國に附與されたる讓與をして其國家的計企としての失敗を告げしめんとするものにして、英國政府の尊嚴を傷け且つ英國全體の利益と兩立せざるものと認めたり。然れども、團匪の亂の後露西亞の滿洲侵略により誘導せられたる新政局に

際會して、上述の健全なる英國の政策は放棄され、之と同時に英國は揚子江沿岸の地を自己の勢力範圍となすことを止めたり、(即ち、一八九八年上海居留地保護の爲めに獨逸の軍隊の駐屯を許容せられたるが故に、英國は揚子江沿岸の地を山東省に於ける獨逸の勢力範圍と同様なる自己の勢力範圍と爲さんとする要求を暗黙の裡に放棄せり。此放棄政策は上海に於ける有力なる英國商人の強硬に反對せし所なるも、支那協會、英國下院、政府保護のシンヂケートの倫敦代表者、及び大船舶業の代表者によりて該政策は賛成せられたり)。英國の一般社會殊に香港植民地より抗議を提出せられたるにも係らず、一八九八年に獲得せる諸讓與は其の後八ヶ年間何等の發展を示さざりき、而して、該讓與は金融市場の好況なりし時に獲得せられたるを以て、該讓與の各條項は英國の政治的及經濟的利益をして、該特權所有者の經濟的並に個人的利益の下位に置けり。多くの反對的教訓ありしに拘らず、英國外務省は尙も支那の保全を維持するを必要なりとし、他列強が、地方的通商の利益なる假面を被りて而かも其實政治的軍事的支配を暗示する鐵道敷設權を著々收めつつありし事實に對して何等顧慮する所なかりき、該諸讓與にして、一八九九年の京奉鐵道借款と同様の取扱を受けしならんには、該讓與は、有効に而して直ちに、無數の外務省の保護希望者の何者かにより且つ英國政府に何等財政上の責任を負はしむることなく、利用行使せられたるやも未だ知るべからず。鐵道問題の重要な此とは原則として認められサー、アーネスト、サトウガ一九

○三年八月故國を離れて北京に歸りたる時、ランズダウン卿は彼の行を説明して曰く、鐵道問題を有効に解決すべく彼は充分の權力と確固たる指令を持して渡支せるものなりと。然るに、當時日英同盟の締結せらるゝありて局面は一轉せり、即ち『極東及印度に於ける兩締盟國の領土權の維持』及び該地方に於ける兩國の特殊利益の防護なるものは明かに、亞細亞新興國日本の信實と好意に俟たざるを得ざるを以てなり。此時以來、英國の政策なるものは、極東問題の世界的意義に對する強硬の認識と、無脊椎的なる地方偏強主義との間に逡巡動搖せり。一九〇二年七月マツケイ條約締結の時に當り、克蘭ボルン卿の如きは、『英國は、支那永遠の繁榮の爲めに、支那の急進的改革並に通商のリオルガニゼーションを援助するよりも寧ろ英國製造業者の直接の利益を保護するに在り』と云へり。此の特殊の時代に於ける英國の『鈍昏浮薄』の政策を回顧するに、共同經濟上の窮迫並に利益の爲めに英國々家の利益を其の次位に置ける人々の行動に對しては、必ずしも正當のものにあらずとするも、多少辯解の辭を見出さざるに非るなり。

チャイナ、アツソシエイション及び

チャイナ、リーグ

斯かる危急の場合に於て、英本國が極東問題に對して無情冷淡なりしこと及ビチャイナ、アツソシエイション中央委員會の迎合追從的態度は、支那在住の英國人殊に上海に於る英人社會の深き疑惑を蒙れり。即ち該協會上海支部は

支部員滿場一致の投票を以て、極東に於る英國の利益は、外務省の信任せる然かも無能なる代表者の事務とせずして須らく輿論を背景とする強硬政策によりて之を發展せしめざるべからずと決議せり、是れ一九〇四年一月十二日の事なり。上海英人團體の意見は一般に、其の標榜する所、愛國的にして國家的なりき。然るに、該中央委員會の其れは當時他列強の所謂『靴フキ』政策と稱せられたる所のものを代表せるものなり。條約改正の曙光、漸く、永年閑却されたる貿易の發展及び支那の富源の開發なる希望を授けたる一九〇一年の初期に當り、支那問題に興味を有する英國下院議員の有力なる一團體を組織せんと議起り即ち、從來の『最惠シンジケート』政策及び投資を背景とする政策に反對せる『チャイナ、リーグ』は生れたり。一九〇一年二月發表せる其宣言書の一節に曰く。

『支那の將來が勢力均衡の上に在る時、支那帝國に於る英國の地位及び貿易の維持（即ち英國將來の幸福は此裡に在り）は、英國政府の直接政策及び北京に於る列強遠視の中の英國代表者の活動如何に懸る時、斯る時に際し、帝國議會の注意は些々たる事件の區々たる説明其物に集中せられ、何等の極東政策を提唱する無し。議會兩派の政治家並に各方面の評論家は此の危機に會して悉く沈黙を守り、敢へて自ら立ちて、英國の利益保護の爲めに解決策を講ずるものあるなし。支那問題は眇たる一地方問題よりも注意せられざるの状況に在り』と。

該リーグは單に不快なる事實を叙述せるに過ぎず、即ち

其事實とは、一八六〇年代の支那に於る英國の政治的活動の漸次的衰退を來たさしめたる中心的事實を反映するものなり、換言すれば、支那の貿易及び投資關係のみにては輿論を背景とする實行力を創造する能はざるものなることは是れなり。斯る強制力を有せざるが故に、外務省に對して確固不拔の政策を期待する能はざりしなり。特殊の事件及特別なる指導者の管内に在る問題を除きては、英國外交政策なるものは輿論に追從するも、輿論を指導するものに非るなり。チャイナ、リーグの好意的活動も遂に、東洋に於る支那協會支部の其れの如くに失敗せり、其の理由は一は其の主張する所が捕捉し難き抽象論の域に到達する能はざりしこと、一は、其等の反抗者（即ち其團員）の多數が、愛國心の實施は却て各自の營業上の不利益たること、即ち財政大官に反抗して、其の有する荊棘を蹴ることは、不愉快なる犠牲を伴ふべき行爲なることを自覺せるに依るなり。其の營業の存在が信用制度を基礎を置く所の商人の團體の主要なる經濟機關が如何に大なる勢力を有するものなるかは、之を誇張し盡し得ざるものなり。其の勢力は商業活の最高目的否社會生活の最高目的に迄も及ぶものなり。一九〇五年に至る迄は、香上銀行ハ、讓與ニ關スル政治的方面の事務は、其の鐵道事業組合員たるジャイデン、マールセン社會社をして取扱はしめ即ち該銀行の活動は専ら交易事務の範圍に限られたるが、而して其の對内政略は聰明なる愛國主義の發現にして、是れによりて、香港に於てサートーマス、ジャックソンの政治を有名ならしめたり。然れ

ども一九〇五年以降、香上銀行の方針及活動は大なる變化を來せり。即ち外務省と密接の關係を有する其の倫敦本部の指揮の下に香上銀行は、政治的財産の範圍内に入り來り急速に且つ鮮明に、國際的性質を帶ぶるに到れり。

時局の艱難を自覺したる支那協會上海支部は一九〇八年に到る迄、所謂其の輿論を背景とする强硬政策を提唱せるも、而かも、投資團は強固に保障せられ、該支部の運動は其内容空虚となりて終に消滅するに到れり。爾來、支那に於ける英帝國及國民的利益を代表し且之を伸張せんが爲に組織せられたる該團體は、其愛國主義よりも寧ろ投資團の利益を代表するに到れり。今日に於る該團體の事業なるものは、單に年一回の晚餐會と、論争の原因となるべきものを巧みに避けたる一報告の發行に過ぎざるなり。例へば川漢鐵道借款、日露兩國の滿蒙に於ける『特殊權及び特殊利益』の要求、若くは六國財團の財政管理者の重大問題に對する該協會の態度は一般に曖昧模糊冷淡を極めたり。實に該協會の態度は、英國外務省より公式に訓令を受けたる代々の英國駐支公使の政策即ち所謂事勿れ主義を忠實に反映せしむるものなり。

一九〇六年來の英國の投資

過去六十年間の英國對支外交政策は、其の經濟的並に商業的利益に關する範圍に於ては、香上銀行の經濟的活動と終始せりと謂ふを得べし。支那問題の政治的方面が、商業的事項より分離するを得べく、且又分離すべきものなり

とするは、倫敦に於ける支那協會によりて最も能く反映せられたる外務省の行へる最も執拗なる誤謬なり。此の器用なる財神（外務省の方針）は直ちに、一般英人の企業及び殊に鐵道若くは鑛山等の讓與に對しても利用せられ、『鐵道及び銀行に據る』侵略的大陸政策の高調を見るに到りても猶依然として舊策を墨守せり。該方針は、『英政府の保護を殆んど獨占せる團體の事業に對しても利用せられたり。

マツケー條約締結の徒爾なりしと更に進轉止むことなき時局の複雑化に疲勞せる結果、英國政府は、支那が其の最も嚴肅なる義務の履行を逃避せんとするを防ぐべき何等の手段を有せざることを暗示するに到れり。（然り是れ文書にさへも記録せらるる所のものなり）。斯くて英國公使の地位は其威信を缺きたると同時に又頗る不愉快なるものなりき何となれば、彼は其の國民に對して、本國政府は彼等國民の權利を保護すべきことを忠實に保障せるに係らず、彼は例ひ、『一艦一兵と雖も』英國の利益保護の爲めには動かし得べからざるを熟知せるを以てなり。而して支那政府も亦等しく能く此事を知りたり。日常の商業上の事項は暫らく之を措くも、鐵道及鑛山企業に關係して、支那が其の義務を履行せざるより問題の生じたるときは、英國政府の與ふる保護助力なるものは、最もよく妥協を可能ならしむる形式を採るか、若くは英國民本政治の勝利として結果さるべきことを要求するの形式に於てするかに過ぎざりき。（而かも後者は是れ寥々たるものなり）。斯る狀態の下に於て、局面を支配すべき經濟的投資關係が漸次四海同胞主義に流轉

せることは、例ひ之を悲むべしとするも、何等之を不可思議とするに足らざるなり。斯くて揚子江沿岸の失敗となり、或は四國財團の發生となり、遂に絶望的紛亂の時局を誘致せる主要なる事件を約説するは極めて興味あることなりとす。（未完）



し其染物屋が誠實に其仕事を續くるならば、支那カーベツトは何時までも其生命を失ふ事なかる可きものなるが實際の試験に依れば彼等は頗る粗製濫造を出し居れり。

此れ等の染料の原料は各種の木草木の實等を用ふるものにして、鑛物は殆んど之を用ひず善良なるカーベツト製造業者にはアニリン染料を排斥しつゝあり。

即ち藍色は藍の草より取り黄色はくちなしの花より取幾分黒く見ゆるものなり、藍色は櫛實より取り紫は柞より取り其他東綠皆極めて廉價にして豊富なる木實草木よりとるものなり。

此れ等染料を製造する方法は極めて簡單にして各種の草木を熱湯中に入れて煮つめ其汁を取るのみなり。

支那カーベツトを外國に輸出して成功せるものは支那製造者に對し親切丁寧に柄合及染料の使用方法を説明し其結果として歐米向きの商品を作り得たる人なり。

此等の事項に關する支那人の趣味は極めて低く且つ狭く模様は其數多じと雖も多くは定まり切りしものなり。

支那の製造業者が單に注文無しに内地向きのカーベツトを製造する際には普通支那商品に見る所の平凡なる模様を附するを例とせり。(完)



英國對支貿易論 (二)

香港大學教授 シー、エー、ミツドルトン、スミス

第二章 香港の商工業

一、總説

- (一) 香港は英米人殖民的成功の徴證 (二) 英國海外貿易の保税倉庫、各種製造業の現狀
- (一) 造船業 (二) 電燈業 (三) 各種工業の勃興
- 三、香港商工業の將來
- (一) 總言 (二) 政治的條件の完備 (三) 經濟的條件の具足
- 四、大戰に對する香港の努力 (本章完)

第二章 香港の商工業

一 總説

(一) 香港は英米人國民的成功の徴證也

一九一六年米人ポール、マイロン (Paul Mylon) 氏は、支那に關する一書を公にして、支那事情を合衆國人に紹介し其商業發展の有望なる事を力説して、自國民の對支經營熱を煽揚せむと試みたることありしが、氏は該著書中、英國殖民地中の白眉 (The Jewell of the British Crown Colony) と題する章下に於て、香港が昔に一時的旅行者の耳目を聳動するのみならず、其發達の徑路を研究する史家に取りても亦、頗る注意に値するものなることを指摘せり、乃ち其一節に曰く。

「香港は實に東洋に於ける英人の、剛健と幸運とを表彰する、好個不滅の記念物たる也」

と、惟ふに香港が、英人の東亞に於ける殖民的活動の記念たるは、彼等の世界に對して誇負し得べき所なるべく、是れ其東亞に於ける殖民地の建設が、正義の觀念と公明正大なる態度を持すべしとの、二大原則に準據して、行はれたるを以て也。

(二) 香港は英國海外貿易の保税倉庫也。

香港は廣東省の省城たる廣東を距る百哩の海岸に位し、其最初東洋に於ける殖民地經營の目的を抱いて、廣東に來りし英國人は、先づ其經營の根據地として、香港の經營に着手し、幾多の障礙を排除し、困苦缺乏に堪へ、拮据經營すること四十年の久きに及び、漸くにして香港の開港を見るに至れり、當時此等の地方は白人種の健康に適せず、其死亡率實に千分の六十四の高きを示せるの一事に徴するも能く其苦心の跡を窺ふに足るべし。

開港の當初香港に出入する船舶噸數は、英國最も多く、米日の二國は遙かに其下に位し、且二者相伯中の間に在りしが、爾後數十年英米の東洋海運業の發達と共に、其香港に出入する船舶の噸數頗る激増し、一八六四年には兩者の

噸數孰れも正に、日本の四百倍、獨の五倍に達するに至りぬ。然るに其後五十年間、日本の海運業は頗る長足の進歩を來し、戰前一九一四年に於て其香港出入船舶噸數は、五十年前に比し、優に一千倍の増加を示し、之に對して英は九倍、獨は十四倍の増加を示せしも、米の噸數は却つて減少するに至りぬ。而して歐洲大戰勃發以來、歐米諸國の東洋に於ける船舶は、全部本國に引揚げしを以て現今香港の海運業は殆ど日本船舶の獨占する所となり、茲に日本船舶全盛の時代に到達せり。

惟ふに一國殖民地の消長は、其海運業の盛衰と、運命を共にすべきは、各國殖民史の示す所にして、實に海運は殖民地の生命なりと云ふべし。而して香港は即ち英國東洋海運業の基地にして、同時に又其殖民地を連絡する船舶の中國港たる也、總督の言を借りて言へば即ち、英國對外貿易に對し、所謂「一種の保税倉庫」たる關係を有するものなるが故に、之を中心とする英國海運業の消長は、實に其國運の盛衰に影響すと云ふも、決して過言にあらざるべし、故に英人は戰後益此地に於ける優越の地位を利用して、其海運業の發達と對支商工業の伸張とに、努力せざるべからざる也。

二、各種製造業の現状

當地に於ける各種製造業は近年歳と共に發達し、將來頗る有望の兆あり、左に其主なるものに就きて述べむ。

(一)造船業

造船業は現在可成盛大にして、香港には二個の大造船所

あり、其使用する職工兩者を合して、一千二百人、昨一九一七年の前七ヶ月間に於ける造船噸數は、計一八、七〇〇噸に上る。而して今日當地造船用の鋼鐵は専ら歐米諸國より之を輸入し、其石炭は即ち主として日本の供給に俟つて雖も、其使用する支那人勞力の低廉なると、經營方法の科學的なると、更に世界的船價暴騰との爲に、其の成績頗る良好にして、利得の見る可きものあり。故に將來當地附近に豊富なる鐵と石炭との採掘行はれ、其結果極めて低廉なる材料石炭を利用するを得るに至らんか、造船業の大發達期して待つべし。

沿岸河川用汽艇 (autocylens) の製造亦、近年盛にして、昨年の製造高八、二〇〇重量噸に上れり、故に七十年前より常に近海又は河川に疾走せし帆船民船は、今や次第に其跡を絶ち、輕快なる汽艇之に代るに至りぬ。而して此種汽艇の製造に當りても亦、輸入鋼鐵と支那職工とを使用するものにして、現今其主要機關部をも、香港に於て製造し得るに至れり。

(二)電燈電の供給事業

最近香港に於ける電燈其他の電力供給業は著しく發達し六十年十弗なりし電燈會社の株は、近來四十八弗の高價を來し、而も電力需要の激増の爲め、會社は其新なる供給を拒絶するの已むなき狀態に在り、以て其盛況を推知すべし。

(三)各種製造業の勃興

近年亦當地に於て新に開始せられたる、製造工業の類頗

る多く、孰れも皆相當の成績を擧げて、將來有望の兆候を示す、其主なるものは、セメント製造、鋼線製造、製糖、硝子製造、煙草製造、及び生薑罐詰業等にして、就中太沽洋行の經營する製糖工場の如きは、其規模の大なる、世界有数の工場に比して、決して遜色を見ざるべし。

三、香港商工業の將來

(一) 緒言

香港は一八一四年に於ては、荒涼不毛の孤島に過ぎざりしが、爾來一百年、英人の拮据經營の結果現在、人口五十萬の大都市となれり、而して此間に於ける商工業の發達は洵に驚くべきものにして、香港政廳の歲出入が、六十年前に三十萬弗なりしもの、今や増加して千四百二十五萬弗となり、正しく四十七倍の激増を示せるの一事は、以つて其商工業貿易發達の經路を窺知する有力なる根據となすに足らむ。然り而して其過去及現在の發達著しきものとあると共に將來に於ける發達更に之より著しきものあるは、亦何人も之を否定する能はざるべし、左に其然る所以を略述せむ。

(二) 政治的條件の完備

惟ふに支那の産業今猶幼稚の域を脱せざるは、諸多の原因に基くべしと雖も、其最も有力なる原因は即ち支那内政の腐敗に之を求めざるべからず、蓋支那の大都市には到る處、惡政行はれ、官吏中包の弊と、生命財産の不安とは、惡税の桎梏と相俟ちて、久しく産業の發達を阻礙し來りしは、萬人周知の事實なりとす。然るに香港は即ち英國善政の支配に屬する所にして、而も英國は、産業發達の獎勵監

督に就き、香港に於て現に有するが如き權力を、支那の他地方に於て有し得べきことなきの事實に想到するときは、香港産業界の將來が極めて有望にして、且頗る安定的なるを、容易に斷定し得べし。蓋香港には文明的の政廳上に在りて、善政を布き、其秩序整然として生命財産に對する瑣の不安なく、規律正しき税制行はれて、曾て産業の發達を阻礙するの虞なきが故に、商工業者は安んじて其事業を遂行し得べく、官吏中包の弊に苦むが如き懸念毫も之れ有ることなし加之余は年來有力なる産業指導者が、香港政廳に必要なることを、主張し來れるものなるが、今や當局は茲に見る所あり、銳意産業の獎勵に腐心するを以つて、當地の製造業者は其事業の發達に就き、有力なる政府の援助を受くことを得べし。然らば即ち、香港に於ける産業發達の政治的條件は、極めて良好なるべく、是れ吾人が其將來の有望にして且安定的なりと、斷言する所以なり。

(三) 經濟的條件の具足

更に香港に於ける産業發達の將來に就き、其經濟的方面を考察するに、資本は安全に、原料勞力は安く、而も其隣接數省は世界に稀なる大市場を提供するものなり。

蓋、一九一七年十一月の頃に在りては、香港所要の石炭は主として之を日本の供給に倚りたるものにして、當時一噸の價格實に九十弗の高値を持したりしにも不拘、其工業は却つて益盛大を至したり、加之造船用の鋼鐵を始め其他の工業原料品も亦、多く之を歐米より輸入せるものなるが故に、若も香港附近に多量に存在する石炭鐵等の礦産にし

て一朝開掘せられ、一噸十弗乃至十五弗の石炭を供給し得るに至らむか、當地の製造業は今に比し一層長足の進歩を爲すべきこと疑ふべからず。

更に勢力の供給に付きて見るに、支那職工の柔順にして勤勉、而も其生産能率に比して勞銀の頗る低廉なるは世界周知の事實にして、前述の如く現今當地の工業が、高價なる石炭と原料とを輸入して、生産に従事し猶能く相當の利益を見るは、一は戦争の影響に因ること勿論なりと雖も、主として頗る低廉なる支那人勞力を使用するに因るものなり。而して支那人經營の製造業が常に成績不良なるは、政治的原因の外、其幹部に在る者が、企業的才能に乏しきが爲なるを以つて、今後英人が其有する企業的手腕を發揮し低廉なる支那人勞力を使用して、事業を遂行するに至らむか、其成績更に良好なるを得べし。

然り而して此の如く安價多量に生産されたる貨物は、其販路を求むるに就き、歐米に於けるが如く、必ずしも海外遠隔の地に至るを要せず、即ち南支那に於ける需要は、將來香港及び日本の供給力以上に、増大して行くべきは勿論なるが故に、香港の製造業者は乃ち、其隣接數省に對し、容易に其製品の販路を求め得べし。

要之香港の商工業が前途有望にして且確實なることは、之を政治的方面より見るも、將、經濟的方面より云ふも、均しく肯定することを得べけむか。

四、大戰に對する香港の努力

吾人は茲に現在及び過去に於ける、在東洋の英國官吏が

腐敗せる東洋官場の氣風に薰染することなく、始終毅然として殖民地治の完成に對し、献身的努力を持續し來れる點に就き、特に滿腔の敬意を表せざるべからず、蓋東洋の官場に於ける誘惑は、極めて巧妙なる方法と、絶大なる魔力とを有するが故に、香港に隣接する各地方の官吏社會は悉く之に薰染し、中包の弊牢として抜く可からざるものあり従つて此種弊風を親しく經驗せるものは、何人ぞ雖も、東洋人が果して其所謂中包の弊に對し、如何なる見解を有するかを、理會すること能はざるべければ也。

惟ふに香港は、支那に於ける英國經濟的利益の樞軸にして、其住民は隆盛東亞に冠たると共に、同時に又極めて愛國心に富む。即ち香港は一九一六—一九一七の一ケ年間に於て本國政府に對し、墨銀一億弗の献金を納付し、各種戰時義捐金に對しては、孰れも多額の寄附を爲したるの外更に、七臺の飛行機と二臺の移動性自動車病院を戰線に送り。而して當地青年の國難に殉じて從軍するもの頗る多く爲に各商館其他の會社は、人員不足に苦みつつあるにも拘はらず、防備の事一日も忽にすべからずとて、五十歳以下の男子は孰れも皆、地方防備軍に入隊せり。更に當地の戰時公債應募額は、戰爭勃發より累計既に四五百萬磅に上りぬ。

然り而して在住英人の愛國心の發露は、獨り以上の義舉に止らず、香港は這般未曾有の大戦に際し、大英帝國の支那に於ける、陸海軍並に商船の活動に對する、一大根據地を形成せるものにして、之が爲に拂ひたる財産上の犠牲は

極めて大に、著しく殖民地の資源を涸渇せしめたるは事實なりと雖も、而も之に依りて東亞に於ける大英帝國の名聲を支持し得たるは即ち、商業上より見ても實に、無形の大資産を形成したるものと云ふを得べし。而して戦争一度終局するときは、英帝國は則ち、其戦争の爲に蒙りたる損失と破壊とを恢復するの目的を以つて、鋭意海外貿易の伸張に努力すべきは勿論なるべく、従つて香港が此戦後の經濟戰に際し、一層の努力を以つて活動すべきは、吾人の今より刮目して待つ所なり。



寄贈書目録

南洋 伯刺西爾ノ最近事情	滿蒙 實業叢書	新滿 蒙著	通商 學公雜	帝國 鐵道協會會報	東洋 經濟新案彙新會報	實業 研究會彙新會報	大學 經濟公報	大經 濟公報	特許 經濟公報	商報 時報	日政 及經濟本報	財政 本報	外報 及經濟本報	月報 及經濟本報	三月 回事情報	島事 業會報	細亞 社會會報	交法 學會報	朝鮮 學會報	支那 工業會報	日本 聯合會報	大日本 聯合會報	滬田 聯合會報	滿蒙 學雜	四月 省貿易經濟事情
東洋 拓殖會社	大連 商學式會社	東省 地學式會社	奉天 商學式會社	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其	其其 其其
三六號	三五四號	三二九一五三號	六六號	二九號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號	四八號

彙 錄

支那人の支那政治論 (三)

其三 軍政府改組の理由

伍 廷 芳

昨年六月黎大總統より國會解散令の副署を迫られしも應ぜずして南下したる前國務總理代理外交總長伍廷芳は爾來廣東に在りて終始一貫誰法に斡旋し専ら孫文派と陸榮廷派との調停に努めつゝありしも兩派の確執案外烈しく到底融和し難きを見るや終にその最後の手段たる軍政府改組を實行したり次に掲ぐるは伍氏が海軍總司令林葆懌、衆議院議長吳景濂、廣東督軍莫榮新と連名にて軍政府改組經過を岑春煊、陸榮廷氏以下に報告せしものなり。

上海岑西林南甯陸巡閱使唐行營唐聯軍總司令貴陽劉督軍成都熊督軍南寧陳督軍譚行營譚聯軍總司令程總司令汕頭陳總司令韶州李聯軍司令李督辦均鑒、

護法軍興つて淹忽周歲、唯だ聽く名實相副ふの統一機關なく對内既に紛岐に涉り對外尤も効を收め難しと、故に國會議員早く軍政府改組の議あり廷芳等會つて齊 八日(佳(九日)兩電に於て續陳せり。當時議員談話會を開き議決し

各省各軍の同意を得るを俟ら再び國會非常會議より正式に條文を通過せん等の語を聲明せり、嗣て其公(唐繼堯)の巧(十八日)電幹公(陸榮廷)の支(四日)電月公(譚浩明)の東(一日)齊(八日)兩電如公(劉顯世)の銑(十六日)微(五日)兩電頌公(陳炳焜)の麻(六日)電及び各省の來電を奉せしに、統一合併辦法に對し進行を力促して危局を挽かんとあり、國會議員齊佳兩電の辦法を採取して軍政府改組案を提出するを經たり。

惟だ開議の始に當り意見未だ即ち一致せず而して此の一髮千鈞の日に際しては宜しく急起直追の謀あるべし故に榮新より別に組織國務院辦法を提出するを行ひ文日(十二日)に於て去電して護法諸公の同意を徵求したり。唯だ議員改組案に對し昨は意見參差たりしと雖も一たび疏通を経て多くは已に釋然たるものあり、昨日(五月十七日)に於て改組案をもつて通過し巧(十八日)日を定めて宣佈せり馬(二十一日)日政務總裁を選擧すべくこれより統一機關既にすでに成るを觀、護法の前途當さに發展すべきなり。

唐公(繼堯)蒸(十日)電に主張せる軍務院酌用、或は別に名稱を訂すること、又頌公(陳炳焜)篠(十七日)電に主張せる臨時政府の名義を用ふるは威な壁壘一新を欲せるにて進行敏銳用意深遠至つて佩服と爲す、惟だ軍政府は既に國會非常會議より產出せらる、新設機關にして若し國會非常會議より產出せられざれば恐らくは反對者に資するに口實を以てせん、若し双方堅持の故を以て分道して背駛するを致さば之を護法の初志に悞るに實に未だ安からざるあり、故

に數月以來廷芳等軍政府改組の一事に對し堅忍以て待てる者職として是故也、故に軍政府一たび改組を経、舉出の各總裁就職を宣布すれば則ち對内對外自から能く統一の効を收むべく軍務院臨時政府を設けると其名異れりと雖も其實は則ち同じ、此種辦法は之を各國改革の際に求むるに均しく先例の援くべきあり、然れども事勢に因應する變展を貴ぶ斟酌損益詳盡を厭はず、唐公蒸電擬する所の各節は仍ほ正式國會成立の時を俟ち提出討論すべし。茲に國會非常會議の通過せる軍政府組織大綱をもつて台覽に呈す。

中華民國軍政府組織大綱

第一條 中華民國軍政府は護法各省各軍の聯合を以て基礎と爲し國會、大總統の職權行使し能はざるの期内に於て本大綱の規定に依り中華民國の行政權を行使す

第二條 軍政府の職權左の如し

- (一) 和戰に關する事件
- (二) 共同外交を辦理し契約を訂立す
- (三) 共同財政を監督し内外公債の募集を辦理す
- (四) 省と省との爭議事件を裁決す
- (五) 護法省區軍隊の加入承認に關する事件
- (六) 軍備統籌及び作戰計畫に關する事件

但し人民に負擔あるの契約、内外公債の募集、及び和平條件の提出に關しては須らく國會非常會議の同意或は追認を経べし

第三條 政府は國會非常會議より選出する所の政務總裁七人を以て政務會議を組織し其職權を行使す

政務會議は政務總裁一人を以て主席と爲し政務會議より之を推定す

護法各省及び政務會議の承認を経たる護法各軍は各代表一人を派出し第二條所載の第一第二第四第六各款に關し政務會議に參與することを得

第四條 軍政府に左列の各部を設立し政務會議に直隸せしむ

外交部 內政部 財政部 參謀部

陸軍部 海軍部 交通部 司法部

第五條 各部の事宜は政務總裁より兼管する者を除くの外

各部長一人を設くることを得

第六條 部長は政務總裁より之を特任す

政務總裁事故ある時は部長一人に代理を委託することを得

第七條 政務總裁は其他の職務を兼ねることを得

第八條 凡そ政務に關する文書は政務總裁より之を連署公布す

第九條 政務會議附屬機關の組織は別に條例を以て之を定む

第十條 護法各省自主政府の職權は一に其舊に仍る

但し現に北京政府に隸する機關にして各省直接管轄する能はざる者は軍政府之を收回することを得

第十一條 本大綱は宣布の日より施行す

第十二條 本大綱は國會、大總統其職權を行使し能ふ時に至り廢止す

中華民國七年五月十八日宣布

務めて來電贊助、進行を速かならしめんことを懇ひ謹んで胸臆を佈き伏して明鑒を希ふ廷芳林葆懌莫榮新吳景濂叩巧(十八日)印

支那に於ける英米の提携

プロシヤの兇惡なる天才に對し、協力一致干戈を執て立てる西歐諸國民の間に、協同互助の精神が湧然として起りつつあり、殊に支那に於て英語國民が過去數月間に益々接近し、諒解を増せしは注目すべき事なりとす。而して英米兩國民の協心戮力を促進する實際方法の講せらるゝや、熱烈に迎ふる所となり、特に北京政府及上海にては著しく喜ばれたり、支那は神來の中心より遠く懸絶し、戦前の如く交通自由ならず、東洋に在留せる西歐人は、東洋人の特性たる頑迷冷淡なる性情に感染し居れば歐洲に根芽出る運動が東洋に出現し、支那に於ける外交問題の上に實現さるゝには大分遅れたる後なりき、支那に於て英米兩國が協力の要を熱心に多年力説高調せし先覺者ありしも、之を迎ふるに冷淡なりしのみならず、疑惑の眼を以て眺められ、其聲は米國又は英國の東洋に於ける諸問題の指導者の耳裡に入らざりき英米兩國は常に共通の國語を使用するのみならず、種々の利害を等うするものありとは夙に承認せられたる所なりき祖先傳來のアングロサクソン魂は全てのアングロサクソン人種の共通遺産にして、英米兩國の國旗の下に入り来る非アングロサクソン民族をも感化し、商業、政治、社會道徳の軌範を與ふる事も、又容認せられし處なり、此共通遺産は英語國民が接觸する、他の全ての國民を鼓舞する精神とは稍趣きを異にせる事も、亦否むべからず、然れども東洋にて世界的趣味及友交が最も良好なるものと思料されたる

時に際し、英米兩國の利益を一時に力説して以て永久に然るべしとするは策の得たるものと云ふべからざるなり、戦前は英米間單獨よりも優秀なりと公言するは、偏狹なる人種の自己心の兆象なりと、米人は考へ、其趣味友交を證明せんが爲に、殊更獨逸社交界に出入し方法を好で採用せし傾きありき、東洋に於ける西歐人社會の舊慣を撲滅するは一朝一夕の事にあらざりき、又英米をして、可なり多くの共通點あり得しむるには可なりの日子を要したりき、彼等が好んで協力するは仕事を愉快に共同處理し得るが故に外ならず、斯くて彼等は諒解を増し、協心戮力効果を擧ぐるに至らんなり、東洋に留英米人間の精神的協商發達に關する報告は、其數多く、長文詳細を極め、兩者の政治的又智識的有力者の誠實なる熱心は遂に各社會を通じ、深く繁殖せしめ、上海北京に幾多の會合の開催を促し、其の結果英米人をして、交誼諒解を増さしむるに至れり、斯る協心戮力の精神の發達を表現する會合は、連續的に催されたるが、其の順序は次の如し、感謝祭の當日上海にて米國人會は同祭禮に参加すべく英國及聯合國領事に參加の招待狀を發せり。殊に英人は之を以て交誼の表現なりとして迎へ、忽ち反響起れり、十二月三日發行の北支毎日新聞に傍觀者と署名せる寄書掲載せられたるが先づ支那の憐むべき分裂を力強き文章を以て敍し、支那の再造は英米の協力に俟つ大なるものありと訴へたり、又支那に於ける英米兩國民の協心戮力は現下の時局にありて喫緊の事なり該寄書家は云へり彼等は仲好く活動せざるべからず、兩者の資金を空しく浪

費し、馬鹿々々しき戦争をなすべき時代にあらす、協力一致最後迄遵守すべき政策を樹立し、支那をして自己の解放に活動せしむる可能性を與へ、其政府をして實行せしむる政策となし、北京に於て、之を實現せしむるは避くべからざる趨勢なり、公明は最も喫緊の要事なり、

上海其の他の開港地にて英米の政治的盟約を形成するは此活動を開始する第一歩なり、祕密を要せず、外交を弄するの要あるなし、否隔意なく直言するにあるのみ、起て四月東洋に於て、最も保守的の英人の機關紙たる北支毎日新聞の熱心なる論文之を引用し、英米公使は北京にて支那をして其危局より脱せしむる爲に協力せざるべからずと論破提議せり、過去に於ける上海の國際通商場裡、北京の外交界に於ける排擠嫉妬の實情を目撃せしものは、之實に痛快極まる革命的の提議なりと感ぜざるを得ざるなり十二月八日北京にて英米留學支那學生の會合英米提携の爲に催されたり、英國公使ジョルダン米國公使ラインシェ外交總長陸徵祥の諸氏交々演壇に立てるが至純なる禮讓好感は表現せれたりき、之より三日後十二月十一日上海英國商業會議所委員の招待を受け、米國人會及商業會議所委員は晚餐會に出席せり、又同夜北京にては英米基督教青年會主催にて最初の英米軍事後援會二回催され、英國公使之が座長席に就き、翌夜は米國公使代り、公使は別とし、其際演説を爲せしは有名なる支那の舊慣風俗の研究者なるアーサー、スミス博士英國公使館附牧師イー、ゼー、ペントレー氏シーエス、キガリー氏牧師アール、チャー、エヴァンス牧師等な

りき、兩夜共に小社交界より四百餘名の英米人出席せり、議論は多く戦争に關するものなりしは、共通の利害を感ずる題目なるに由るならん、會合の特異なりし點は、獨り歐洲に於ける戦争遂行の爲のみならず、支那に於ても外交通商共に利害を等ふするものあるを承認せし事なり、是感情家にとりて満足なるのみならず、戦争及支那にて通商上の企畫をなさんとの希望満足なる實業家にとりても、極めて満足を與へ又感情に冷かにして通商上の同盟の如何なるものかを覺知せしめたり實際的なる支那人をして彼等が最も信頼し保護援助を求むる兩國民が協心戮力、自國同様支那の爲に活動するの希望あるを看取して頗る喜悅を覺へしめたりき、商業界の人々は、英米協同して通商上の利益協定を爲し得ば、明確正當なる取引の範を垂れ、投資は安全販路は迅速に擴張せられ支那の損害を招致するが如き事なかるべきを感知したり、此最後の一點は支那が最も好く諒解覺知せし處ならん、英米の高取引方法が獨逸のものと好對照をなすが如く、外交亦對照をなせり、故に英米外交の諒解は、支那を安穩ならしめ、強制脅迫より保護すべく、又其發達は、漸次困難苦痛を伴ふも激勵せられ、英米が東洋に於て外交及政治上の利害相一致すと宣言せる以後は阻害せらるる事勿るべし、國際的協力は或場合は明日に反對を表明し、或時は暗々裏に非常なる反對を受ける事なく提議するは不可能に屬す、然れども通商上、將又政治上英米の協心戮力の企畫に就て、多少なりとも疑惑を存せず、又條件を附すなかるべし、英米人は皆好く議論の壓迫又プロ

バガンダを要すれば行はるべきを知悉し居ればなり、同席上に於ける數番の演說中、最も注目すべきは、上海英國商業會議所長のジョンストン氏の之なりき、曰く、大抵の企畫は先づ小規模を以て創始せらる、今夜の會合が發議者と等しく吾人の希望する如く成功を收め得ば、最後の發達は又疑ひを容れざるなり、吾等兩國民は、多年支那に於て相並列して活動し來れり、又或場合には共同の權利の爲に共同の敵に對し相提携して對峙し、又戰鬪せり、今日は只活動の光景が變化せるに過ぎず、此の平靜にして古塔天を壓して聳立せる國より去り、フランダースの流血生々しき平原に至らば、其處に我々が共同の原因の爲めに相結んで立てるを見る、紳士諸君、吾人相互の本國にて兩國の國民が戰爭に促され、相接近するに至りしは、實に自ら其處理なり、此遠國にありて、吾々が吾々の前に展開せられたる書籍の一頁を執りて讀むべからざるか、書籍は開かれたり、之を心中に銘記せよ、吾人の同胞親朋は非常なる大戰に参加しつゝあり、一度敗れんか再び起つ能はず、之を恢復する機會は再び廻り至らざるに非ずや、吾人の融和を云ふ或は誇張に失せるやも知れずと雖も、諸君は其意味を善く體せらるべし、吾人は何故に、此處以外に於て相提携活動し能はざるか、之實に實行し得べき結論にして、單に聯合するのみに非ずや、支那には百年前より外國人居住し、通商開け、我國も其の一なるも、實際は、未だ開發せられざる廣汎なる地域ならずや、吾人尙混亂狀態に甘んぜんか敢をして再び其失へる機會の絲を拾ひ上ぐるの動機を得せ

しむるに等しきにあらずや、さりながら吾人は一隻の短艇の纜を引かんとしつゝありや、支那人は吾々兩國の商人を尊敬す、彼等は現歐洲大亂に際し吾人に與しつゝあり、將來吾人の指導を希望すべきは疑ひなきなり、吾人は何を言はんと欲するや、又何をなさんとするや、若しも實際的にして、又實行し得べき唯一の手段の如く見ゆる、吾人協力して纜を引かんとせば、商業上の紐帶を固く引締め協同の動作を爲すを要す、而して好良なる交誼と各自の尊敬の鎖にて固く結び付けて相互諒解の下に共同せざるべからず、而して此連鎖は戰場にて鍛鍊せられつゝあり、其多數は既に略々出來上れり、其既に出來上りたる時は、之を世界の陳列箱に入れんと準備せらる、吾人は信ず、世界至る所、英米は其鎖にて作らるゝ環中に入り、手に手を執りて活動すべし、又戰場に於けるが如く商戰に際しても、勇敢に敵に對し永く渝らざるべきを、紳士諸君、最後に乾杯の辭を呈せん戰爭と商業とを問はず、英米兩國の共同せん事を禱る

(フアー、イースタン、レヴユウ)

事業界

上海電話會社營業成績

(The Shanghai Mutual Telephone Co., Ltd.)

上海電話會社年次總會は六月四日午後本社事務所にて開催、出席株數二、八一五株に達したり、今議長 Mr. Macleod の試みたる報告演説により、昨年四月一日に始り本年三月三十一日に終る一年間の營業成績を抄録すれば左の如し。

一九一五年六月入札にて契約したる、中央局配電盤擴張用器械の内未到着のものありて、久しく不便を感じ居たりしが、昨年の末北部交換局の設置によりて其不便は大に緩和せられたり、北部交換局に移したる加入者の線は一、四六五本にして同局開設以來其作業は満足に行はれつゝあり中央局の蓄電板は既に九ヶ年を経過したるにより、日本製のものど取替へたるが是亦結果良好なり、西部交換局の能力は今後十八ヶ月以内に消滅すべきにより、之が對應策として其建物の上に更に一層を築くこととしたり。

技師の報告を見るに一日間の交換數の最多かりしは、八二、一一六回にして、之を一年に通じて見る時は三千萬回に稍缺くる所あり、而して右八二、一一六回の内一二四回は「返答なし」又は「話中」等の爲め通話不能なりき、電話本

線は昨年の六、〇九三本より本年は六、七〇七本に増加せり加入者一人に付一日の通話回數平均は前年度の一二・七回より一二・三回に減じたり、又一年を通じて最も多忙を極めたる一時間の交換數は八、八五四回にして、前年度の最高記録に比して二一九回多し、交換事務に關する苦情の申込は一日平均・五九回の割合を示せり。

次に營業勘定を見るに前年度に比し、支出合計に於て二八、五七三兩四八を増加し、電話使用料收入に於て三九、七三一兩四二の増收を示せり。

損益勘定に於ては使用料勘定貸方殘に於て二千兩の増加ありたるが、利息勘定に於ては前年中に投資物件を賣却したる爲め、三、七八五兩一七の減少を見たり、結局處分し得べき殘高二〇六、四六九兩〇一にして、之を處分すること左の如し。

配當毎株四兩の割	七六、二〇四・〇〇
特別配當毎株一兩半	二八、五七六・五〇
重役手當	二、四〇〇・〇〇
積立金	五〇、〇〇〇・〇〇
社債償却資金	二〇、四八四・三六
社員賞與金(一割)	八、六七六・一一
次年度へ繰越	二〇、一二八・〇五
合計	二〇六、四六九・〇一

香港電燈公司營業成績

(The Hongkong Electric Co. Ltd.)

同社の第二十九回年次總會は五月十八日正午同社事務所
に開催せられ、各重役の出席を見たり、社長 A. C. Lange 氏
の試みたる演説に據り同社營業成績を略述すれば左の如し
當期利益は五七六、三五六、七八弗、にして前期繰越金一
一三、七五〇、一一弗を加算し合計六八四、一〇六、八九弗を
處分する事次の如し。

配當(六萬株に對し一株二、二五弗の割)	一三五、〇〇〇・〇〇弗
特別配當(一株七五錢)	四五、〇〇〇・〇〇
積立金	一〇〇、〇〇〇・〇〇
機械の減價償却	二〇〇、〇〇〇・〇〇
新財産勘定の減價償却	七〇、〇〇〇・〇〇
家具勘定の減價償却	五六三・五五
職員賞與金	一二、五〇〇・四五
次期繰越金	一一一、〇四二・八九
計	六八四、一〇六・八九

配當は前年と同一にて三弗にして、甚だ好成绩を收め得
たり、積立金は今年十萬弗を加算したれば全部にて五十萬
弗となり、機械の減價償却額は前年度に比し稍多額に失
するかの觀あれども、此増額は主として今日機械の磨滅及
損傷の激しき結果かく見積りたるものなるが、從來採り來
れる此方針が同社が現在に於ける健實の發展を誘導したる

ものにして、今後とも亦同社が此方針にて發展すべきは言を
俟たず、戰爭の爲め運賃昂騰したる結果鋼鐵及他の建築材
料は最初評價したるよりも更に高價となりたれば、新財産
の減價額を七萬弗見積りたり、職員は業務多端のため、既
定時間外の時にも喜んで執務し、業務の遂行上遺漏なきを
得たれば、職員の勤務に對し賞與を以て酬ゆる所ありたり。

同社は又恤兵費に五千弗を寄贈し、更に軍資金募集の爲
に催されたる會合に於て無料にて電燈を供給した。

ノース、ポイント、配達所に關しては前年の總會に於ても
述べられたるが如き新規註文の機械は一度ならず既に積出
の準備出來したる其度毎に、政府の爲めに徴發せらるゝ所
となり、今後とも英本國內の形勢に鑑みる時は戰爭の終局を
見るまでは、該機械の到着を期し難かるべし、されば重役
に於ては必要なる機械の駐文を米國へ發せむとしたれど
も、是亦受渡時期の保證を受くる能はざるが故に、未だ何等
具體的の事實となりて現はるゝに至らず、されども目下交
渉中にて受渡期限を經過するも受渡不能なる場合に於て
は解約の權利を同社に於て留保する條件を附せむことを主
張せり、ワンチャイ發電所は目下能力以上に作業せるが現
在の状態にては止むを得ざる所なり、されば過去二三ヶ月
間に機械の破損數回に及びたれども、幸にして何れも其度
輕微なりき、將來に於ても時としては電力需要者が點燈不
能の爲め一時的不便を感ずることあるべけれども其度たる
輕微なるべし。

本年度の營業に關しては石炭、燃料油、消耗品等何れも

騰貴せる爲め昨年度に匹敵する好成績を擧ぐるに難かるべけれども其收益に著しき減少はなかるべしと。

ユニオン保險會社

營業成績

(The Union Insurance Society of Canton Ltd)

ユニオン保險會社は五月二十三日其第四十五回普通株主總會を香港同社に於て開催したるが、其營業成績を見るに左の如し。

一九一六年度同年度同年度總會に於ては臨時配當一株に付三十弗及増配當二割の案を可決し、尙二、三六五、九五五弗四八仙の餘剰を見たるが、之を處分すること左の如し。

最終配當毎株二十弗

(株數一五、八八一) 三二七、六二〇・〇〇^弗

増配當毎株十弗

(株數同上) 一五八、八〇〇・〇〇

再保險準備金拾萬磅

六六六、六六六・六七

・ (一弗三志替)

建築物準備金一萬磅

六六、六六六・六七

次期繰越

一、一五六、一九二・一四

合計

二、三六五、九五五・四八

一九一七年度 同年十二月末日に於ける營業勘定の貸方

殘高は六、三七九、五六四弗八七仙にして、其内毎株三十弗の臨時配當合計四七六、四三〇と二割の増配合計二五〇、〇〇〇弗とを控除して、殘高は次期へ繰越したり。



支那半月史

大正七年六月下半

主戰方針の確立

北京政府は六月二十日曹錕を四川廣東湖南江西四省經略使に、張懷芝を援粵總司令、吳佩孚を同副司令に特派し、二十二日福建督軍李厚基を閩浙援粵軍總司令、童保暄を同副司令に特派したり。是れ則ち所謂主戰方針の確立を具體化するものにして、其意味の重大なるや言ふ迄もなし。而して事の此處に至れる由來は之をかの天津會議に探らざる可からず。

曹錕の歸北(五月三十日)が馮總統と談合の結果に出でしことは疑ひなしとするも、所謂長江六督軍聯盟説の如きは多少の割引を以て受取らるべき報道なりき。果然曹は馮の口車に乗り、一旦天津迄引返し、自己主宰の下に所謂天津會議なるものを開き、以て馮に聲援を與ふる積りなりしも馮は口ばかりにて實力到底段派を覆へず能はず、徒らに他力を利用して己れの欲する所を遂げんとするに過ぎず、一方主戰派の策士徐樹錚は曹と行動を共にして北歸せんとし居たる第二路總司令張懷芝懷柔に成功し、張は北歸は實行したれども積極的に曹を援助する能はず、剩さへ主戰派の總大將として後路に控へたる安徽督軍倪嗣冲すら天津に出張

し來り、徐と合體して會議を左右するの勢を示し、先づ陸建章を銃殺して主和派を威嚇するの傍若無人の行動に出でたれば、曹は殆んど進退兩難の地位に陥りたり。かくては馮との約束たる副總統の椅子も第一には右の如き行懸上、第二には江蘇の李純等の嫉視に依りて到底我が手に入る可くもあらずと觀念せしを見て取りたる徐樹錚は、副總統の好餌を以て曹を誘ひ、曹、相棒たる張懷芝は夙に軟化して、逆まに曹を説得せんとするなど大勢馮派と終始するの不利なるものありたれば渡りに舟と段派の勸告に従ひ四川經略使に就任せしものならんと察せらる。故に此經略使の職は曹のために資格を高め増すの必要に出でたる任命なること言ふ迄もなし、實は即ち曹の主戰派に對する降服を象徵するもの、若しそれ張懷芝の如きは雀躍して援粵總司令を受け、南下漢口南京の間に在り。主戰方針確立せり、北京に在る龍濟光は或は某洋行との借款に成功せりといひ、振武新軍を募集して廣東に再舉を謀らんとするに及べり。調停又絶望。

かくて北軍の新作戦は

(一) 湖南に在る第三師團及び直隸軍をして郴州を攻略して廣東省境に入らしむ。(援粵副司令吳佩孚軍)

(二) 江西軍及び安徽江蘇の援軍をして廣東省南雄を経て韶州を衝かしむ。(援粵總司令張懷芝軍)

(三) 福建浙江聯合軍をして潮州汕頭を攻陥せしむ。(閩浙援粵軍總司令李厚基、同副司令童保暄軍)

の三路並進して廣東を攻撃し、龍濟光は奉天直隸兩省に

於ける武漢新軍募集終了次第廣東省某地點に上陸し、遊撃として前記三軍を助け、一方廣東省内に於ける北方派たる李耀漢李福林袁帶等をして策應せしむる手筈なりと傳ふ。湖北四川に於て守勢を取り、全力を廣東攻撃に注ぐは新作戦の根幹にして、北方派として之を見る、けだしこれ以上の方策無からん。全線に使用する兵力約十三四個師團(湖北四川方面をも含む)と稱し、四省經略使曹錕以上各軍の司令を統率すべく軍費三百萬元すでに交付済となれりとの報あり。今や湖南郴州には湖南軍司令程潛、廣西軍同馬濟あり安仁、永興、桂陽、永州の一線を守り、雲南軍の援兵續々到着しつゝあり、北軍は茶陵、耒陽、祁陽の一線を連ね、兩軍共に休戦の約を守り居れるも、主戦方針の確立は第一に此方面に作用して兩軍の活躍を見るべし。郴州の爭奪は韶州の爭奪と共に今後最も注目すべき價值あり。

岑春煊廣東に向ふ

軍政府改造以來廣東に於ける政學會系の勢力漸く固く、孫文一派全く屏息し、正式國會は陸榮廷の勢力を認むる益友社、岑系の政學會兩派の左右する所となれるを以て、岑は時機到れりとなし六月二十九日上海發南下廣東に向へり岑は第三革命に際し肇慶に軍務院を作り、唐繼堯を撫軍長に推し撫軍副長を以て撫軍長の事を攝行したることあり、聯合軍政府は第二の軍務院なり、今日の政務總裁は當年の撫軍なり、世人或は岑の南下を以て意に懸くるに足らずと爲すも、余は聲を大にしてその中の意味重大なるを説かん

とす。雲貴川兩廣五省は岑に於て初めてその統率者を見出したるに非ずや、而して岑は第四革命に際し終始一貫調停を唱へ、最後に(一)西南五省現状の容認(二)廣東國會の默認を以て北方派に迫りたる人にあらずや、此人にして今や南方事實上の統領として南下するに至る、調停の前途に大關係あるべきはむしろ豫想し得べき所なり。

孫文歸國

來朝中なりし孫文は戴天仇を從へ六月二十三日神戸發、鄒船近江丸にて二十六日上海に歸着せり。

新國會選舉形勢

其後新國會選舉の終了せるもの左の如し。

▲參議院議員

(中央)

- | | | | | | |
|-------|-------|--------|-----|-------|-----|
| (第一部) | 羅鴻年 | 胡鈞 | 周詒春 | 許喆 | 何焱森 |
| | 吳宗濂 | 王世澂 | 鄧鎔 | 陳煥章 | 魏斯炘 |
| (第二部) | 張元奇 | 朱啓鈴 | 周自齊 | 王揖唐 | 蔡儒楷 |
| | 陳振先 | 熙彥 | 呂調元 | | |
| (第三部) | 任鳳賓 | 梁士詒 | 江紹杰 | 陳邦燮 | 王郅隆 |
| (第四部) | 譚雨三 | 韋榮熙 | 盧謬生 | 林椒之 | |
| (第五部) | 毓朗 | 溥緒 | 戴振 | | |
| (蒙古) | 阿穆爾靈圭 | 阿拉坦瓦齊爾 | 達達 | 費棍布札布 | |
| | 黑凌阿 | 德色賴托布 | 札噶爾 | 祺誠武 | 祺克坦 |
| | 鄂多 | | | | |
| 台 | 李國杰 | 楊壽椿 | 朱士清 | 吳德培 | 林炳華 |

(西藏) 曾毓雋 江贊桑布 沈國鈞 梁鴻志 格勒索巴
黃錫銓

(青海) 烏勒濟 汪聲玲

(京兆) 孟憲彝

(直隸) 馮家遂 曹鈞

(安徽) 龔心湛 倪道杰 姜兆瑞 張敬舜 蘇文選

(奉天) 曾有嚴 趙聯琪 陳灝洲 陳克正 蘇毓芳

(山西) 田應璜 賈耕

(熱河) 高錫恩

(山東) 尹宏慶 莊陔蘭 李元亮 王錫蕃 張玉庚

(察哈爾) 鄭仲升

(吉林) 成多祿 畢維垣 千貴良 祝華如 徐肇銓

▲衆議院議員

(山東) 交慶鏞 李慶璋 韓純一 郭光烈 邵晉蕃 勞

慶祁 周福岐 夏繼泉 呂慶圻 王廣瀚 張棟銘 王

訥 王宗元 安鵬東 于之鳳 曲卓新 謝鴻燾 王

之錄 杜惟侯 王廣瑞 周祖瀾 沙明遠

(察哈爾) 張欽 宋弼良

(西藏) 烏澤聲 克希克圖 羅卜桑車珠爾 史啓藩 威

蔭松 巫懷清 黃雲鵬

(外蒙) 車林桑都布 賀得霖 吳文瀚 布爾格特

(吉林) 金明川 遂長增 王沐身 賈明善

(蒙古) 阿昌阿

(河南) 徐卓增 郭景岱 李隨陽 陳鴻嘯 鄭錫田 王

增禮 李自辰 陳善樂 張肅璜 蔣振黃 彭運斌 張

石生 金 霖 王敬芳 郭涵 林東郊 何霽峰 李
綏恩 侯恩瀾 王印川 王澤欣
(烏梁海) 姚 華

(江西) 熊正發 李蘭浦 宋育德 魏調元 石雲星

以上は六月末迄に覆選終了せるものにして、安福俱樂部員大多數を占め、交通系之に次ぎ研究會系最少し、某消息通の計算に據るに交通系は三十人、研究會系は二十人に過ぎずといふ。於是研究會系は血路を廣東國會に求むべく決心し、新國會選舉に失敗せし議員連は續々南下して廣東國會に投じつゝありと。

さきに屢々説明したるが如く西南五省(廣東廣西雲南貴州四川)は之を違法と看做して選舉を行はず、湖南湖北陝西江蘇は戰亂其他の事情により選舉を執行する能はざるを以て、目下選舉を執行し居るは其余の十三省及び中央にて製造し得る蒙藏議員のみなり、此の十三省議員及び蒙藏議員全部を以てするも兩院議員の三分の二に足らず、到底總統選舉會を開く能はず。一方馮總統はその御用派たる研究會系の失敗に鑑み、今は廣東國會に依るの外なきを悟れるものゝ如く、新に南下せる岑春煊と通じて自己に有利なる形勢を展開せしめん意向なるが如し、政學、研究兩會の合致は恐らくは近き將來に於て到らん、事若し此の地歩に到らんか新國會の前途は愈々以て悲觀さるべし。

關稅改正一段落

支那參戰の結果聯合國は同國政府の希望を容れ、關係列

國の同意を経て關稅率改訂を爲すに決し、今春來上海に聯合委員會開會中なりしが、六月下旬に至り同委員會は一八九七年より一八九九年に至る三年間の平均價格を以て課稅の標準としたる從量稅（今や現實三分以下となれり）の代りに現實五分率を以てするに評議一決したり。而してその基本年度は一九一二年より一九一六年に至る五年間にして、此年度間の商品の平均價格は同委員會に於て支那海關報告等に據り決定する筈なり。又此新稅率（即ち一九一二年商品平均價格に對する五分稅率）は、戰爭終結後二年を経一部若くは全部の修改を行ふに決し、各國政府の承認を経て支那政府に呈示せられたるが、支那政府も其後之を批准したる旨の入電ありたり。

共和恢復紀念日

六月二十四日大總統令を以て、昨年七月十二日張勳の復辟廢破當日を以て紀念日と爲し、前定各紀念日に照し一律辦理せしむる旨發表したり。



時報



內治外交

●天津會議開會 總統選舉問題 曹錕張懷芝の北歸に次ぎ各省督軍代表は陸續として天津に集合し、茲に再び天津會議なるもの開かるるに至りしが、今回の會議たる和戰問題よりも、寧ろ大總統選舉問題を主題とするものにして陰曆五月五日端午の節には、直隸督軍署に曹錕張懷芝以下各督軍代表集合し談話會を催し、大總統選舉問題に關し討論するところありたり、當日の列席者は左の如し。

直隸督軍 曹錕
山東督軍 張懷芝
王占元代表 楊文愷
李純代表 何恩溥

●各省衆議員數

省別	員數	選舉人總數
直隸	二三	三、二四〇、九三二
內譯 津海道八、保定道七、大名道六、口北道二、奉天	一一	八九二、八六四
內譯 遼瀋道一、東邊道一、洮昌道一、吉林	七	二二二、〇五〇

陳樹藩代表
盧永祥代表
閻錫山代表
張作霖代表

張寶齡
盧小嘉
田應璜
楊宇霆
靳雲鵬
徐樹錚

内譯 吉長道四、濱江道二、延吉道一、依蘭道一、
 黑龍江 七 一三七、一〇〇
 内譯 龍江道三、綏蘭道四、黑河道一、
 江蘇 二七 二、七七九、六〇〇
 内譯 金陵道四、滬海道四、蘇常道七、淮揚道七、
 徐海道五、
 安徽 一八 一、三二四、五七九
 内譯 安慶道七、淮泗道六、蕪湖道五、
 江西 二四 四、一一五、〇六五
 同 豫章道七、廬陵道七、贛南道五、潯陽道五、
 浙江 二六 一、六四二、六三二
 同 錢塘道六、會稽道一〇、金華道三、甌海道七、
 福建 一六 一、一九一、五八九
 同 閩海道六、廈門道三、汀漳道四、建安道三、
 山東 二二 一、六二三、五六一
 同 濟南道六、濟寧道四、東臨道五、膠東道七、
 河南 二二 二、八六一、七二五
 同 開封道七、河北道五、河洛道四、汝陽道六、
 山西 一七 一、一五五、三六五
 同 冀寧道七、門道五、河東道五、
 陝西 一四 四、三六一、五二六
 同 開中道七、漢中道五、榆林道二、雁新道一、
 塔城道一、海克蘇道二、喀什噶爾道二、
 京兆 四 六七〇、二五九
 熱河 三 七〇五、二二二

歸綏 一 一九、二三七
 察哈爾 二 一六八、九七二

●王家襄の提案 北京王家襄は六月廿四日廣東國會宛に調停先決問題として、左の三件を提案し來れり。

一、舊約法恢復の事

二、先に舊國會に於て憲法制定の事

三、北方より總統を選出し南方より副總統を選出する事に就き議員討議の結果第一、第二は可とすべきも第三は國會に於ける審議の上決議する旨直に回答せりと(時報)

●政府の督軍戒告 段内閣は六月二十二日新疆、

甘肅、吉林、黑龍特別區域及び西南諸省を隊き各省督軍並に前敵諸將に對し左の密電を發したり。(順天時報)

一、經略使は軍務を統轄す。

二、援粵總司令は前敵奉天、安徽、江西、江蘇の各軍隊を指揮節制す。

三、同上副司令は第三路軍隊を統率して後援とす。

四、直隸、山東に於て新に一旅を募集す。

五、山東軍の軍器缺乏は繼續を補給す。

六、各路軍費は財政部より引續き供給す。

七、各路軍隊の彈藥は各兵工廠に命じて製造せしむ。

八、行軍事務に關しては各督軍は經略使を援助す。

●阿片問題調印 上海洋藥公所代表者アンダーソン氏は、數日前支那政府との間に締結せられし阿片賣買契約書を携へて上海に歸來せしが、本契約書は六月十七日を以て

財政内務兩總長の調印を経たるものにして、之に據る時は支那政府は洋藥公所より六分利附公債と引換に毎箱六千三百兩を以て購入し、更に之を一箱一萬六千元にて某公司に賣渡し、該公司は醫藥用の名義を以て江蘇、江西二省に於て三ヶ年發賣の特權を得、公司よりは前渡金として現銀二百萬元を政府に交附するものなりと云ふ、又一説には梁士詒氏も之に關係ありとの事なるも梁氏は飽迄之を否認しつつあり。(上海タイムス)

●二十五日の閣議

六月二十五日政府は定例閣議を開きしが協議並に報告事項次の如くなりし由傳ふ。

一、陸軍總長段芝貴より軍事上の報告をなせり。

二、財政總長曹汝霖より最近支出せし軍事實費四百七十萬圓の説明。

三、外交總長陸徵祥より外蒙並に華僑選舉案に關し英露公使の反對せる事情を説明せり。

四、烏梁海内附案。

以上の他外交總長より臨時案二件を提出せり即ち左の如し

一、廣東軍政府が鹽稅の三分の二を消費し僅に三分の一を中國銀行に交付せしを英佛日露諸國より抗議せること及び之に對する方針。

二、江寬號乗組英人溺死者案。(北京日報)

●林紹斐要求

先日西南に使したる林紹斐は六月二十五日政府に打電して曰く、莫(榮新)は誠意無ければ速かに梧州に向け出發して陸武鳴に謁すべしと龍濟光より電致

せり、よつて即日赴桂せんとす。同時に林は(一)陸を巡閱使となすこと、(二)龍を廣東督軍たらしむること、(三)莫を瓊崖督辦たらしむること、(四)軍費支給の件等に就き要求する所ありし由。(時報)

●議長と安福俱樂部

聞く所に據れば安福俱樂部員等は内々參衆兩院議長を物色して梁士詒を參議院議長、王揖唐を衆議院議長に推舉せんとする計畫の由。(神州日報)

軍 事

●軍費支給狀況 昨今中央より支給せし軍費大約左の如し。

第八、第二十兩師に十二萬元及び寶慶克後の資金三萬元

祁陽占領の賞一萬元。

第十七師に十萬元。

陝西督軍陳樹藩に十五萬元。

福建海軍費七萬元。

參陸處機密費十萬元。

清室に對して三十萬元。

此外尙特別費七八十萬元あり。

而して今回電報借款の一部八百萬元を受取りしかば、不

日又軍費二百二十萬元を發送する筈なりと云ふ。(時事新報)

●北軍攻粵計畫

最近北軍の所謂攻粵計畫なるものを聞くに左の如し。(時事新報)

一、江西の三混成旅、江東の一混成旅、及び天軍山東各若干旅を以て南雄より韶州に進攻せしむ。

二、福建、浙江の聯合軍を以て汕頭方面より西南に向ひ前進せしむ。

三、龍濟光の新軍を以て暫く雷洲半島を防禦せしめ、機を見て北進せしむること。

財政借款

●經費節減

支那政府は六月二十三日國務會議にて決議せし豫算方針に基き豫算編成中なるが段總理は各部豫算案より夫々節減を命じたり其の額左の如し。(順天時報)

外交部 十六萬二千二百元

内務部 二百十七萬元

陸軍部 千二百五十二兩八十元

海軍部 四百六十五萬三千八百元

財政部 千二百五十一萬六千八百元

交通部 十二萬二千七百元

教育部 二萬五千八百元

農商部 四十二萬七千二百元

司法部 十五萬七千二百元

合計 三千二百七十六萬三千七百元

●煙酒借款反對

支那政府が煙酒税を抵當とし日本より借款すべしとの説は、甚しく上海の煙酒業者の心を動か

し、彼等は幾度となく會議を開きたりしが、中國煙酒聯合會、國貨維持會、煙業公所、皮絲公所、寧波同鄉會の五團體は遂に一致して國務院、財政部、農商部に宛て反對電報を發したり、其内容は全國煙酒專賣實權を日本抵當金一億萬元に充てんとし、近く調印されんとし、監督を派し總廠を設け煙酒製造者も栽培者も共に同廠に赴き證書を取り貨物を取ることを云ふが是れ獨り農工商千萬人の生命を斷送し盡すのみならず、我國の主權も亦全然喪失されん、衆情惶急、公電を以て歴陳して伏して拒絕し原議を取消し、以て商業の命脉を保たんことを乞ふ迫切に勝へず云々、之と同時に煙酒聯合會は各分會に打電反對論の喚起に力めたり。(時報)

實業

●五月中の採礦許可

支那各省より五月中礦產採掘を申請せるは六十餘の多きに及べるが、其中認可を與へたるは左の二十ヶ處なりと。(時報)

奉天桓仁縣合子溝東崗鉛礦六日曲水明に認可。

山西平定縣平潭腦先生溝等の炭礦二日保晉公使に認可。

浙江江山縣狀元山炭礦趙晉鄉に認可。

浙江臨海縣龍珠山礦二日葉緒耕に認可。

吉林濛江縣阿爾轟前山子銀鐵二日陳用章に認可。

同復縣長家窪鉛鐵四日丕承に認可。

浙江永嘉縣寮後山鉛礦十七日王登墀に認可。

浙江永嘉縣孫坑 礦十七日王登墀に認可。

浙江乘縣大嶺山等の弗石礦十七日陳贊元に認可。

同諸 縣搗白山灣の礦十三日徐時勉に認可。

同乘縣毛匪坂弗石礦十五日珍に認可。

同新昌縣毛裡面山一帶の弗石礦十五日何紹韓に認可。

湖北大冶縣殷家山炭礦開に認可。

同竹山縣陳家山房後銅礦九日宋偉臣に認可。

山西太原縣九院 高家河桃坡山炭礦二十二日張百發に認可。

湖北 春縣迎山葉家山等の炭礦二十四日程先全に認可。

同蒲圻縣海塘山炭礦二十四日丁立中に認可。

安徽縣毛田王村炭礦三十日王豐高に認可。

同銅陵縣葉山沖 沖等の鐵礦二十日汝藻に認可。

京兆房山縣蔡樹巷北村炭礦二十四日李蓬萊に認可。

湖北蒲圻縣黃巖炭礦二十八日王に認可。

●天津紡紗廠擴張

天津模範紡紗廠は創立以來廠長王竹銘氏經營に盡力し、銳意改良を圖り居れるが、製品

良好販路の擴大せるより、今回大々的擴張を加ふる由にて

流通資金の直隸省銀行より借入れんと目下省長其他に運動

中なり。(北京日報)

●宣化の鐵礦

直隸省宣化の鐵礦に對しては農商部より顧問及技師を實地踏査に派遣せるが、其結果礦質良好の

程度は、鳳凰山龍關林陵關及大冶等に劣らず、實に最近發

見に係る唯一の大鐵礦なりと云ふ、而して之が承辦者は日

支弁辦企業に熱心なる梁士詒氏ならん。(北京日報)

●土布減稅延期

直隸省饒陽阜城兩縣產の土布及綿絲に關し、兩縣代表瑞益公司趙玉生等財政部に向ひ、輸出に際

し課稅減免を屢次請願し、一箇年間徵稅半減の特典を得居

たるに、昨年は棉花の不作に兼々水害を被れるより、更に

減稅の延期を請願せるに、常關支那副稅司は取調の結果右

土布等の輸出額確に減少せる一方、日本品に壓倒さるる實

狀を認め、半減稅を本年六月一日より民國十年五月末日に

至る三ヶ年間延期するの許可を與ふる事とせる由。

(順天時報)

●青龍山鐵礦問題

農商部は今回江蘇省青龍鐵礦探掘權を陶保普等に與へたりしが、右鐵礦は以前謝某等より

種々運動して其筋の許可を仰ぎしも、未だ結果なく其儘今

日に及びたる由にて、或方面に苦情出で到底一紛擾を免れ

ざるべしに傳へらる。(時報)

●五金行の設置

梁士詒は北京王府街大街に五金行なる事務所を設置し、五大事業計畫の歩を進めつゝあるが、

最近開業せし證券交易所は其の一にして、尙ほ他に銀行、

礦山、綿絲等に關する四大事業目論見中なりと。(順天時報)

交通運輸

●軍輸會議

支那各鐵路運輸事項の統一を圖る爲、交通部に於て鐵路運輸會議を召集せるが、其第一回を頃日北

京西長安街の鐵路協會内に於て開催開會式を舉行せるが、同會議の豫定議題は

一、車輛に屬するもの

資金を調達し車輛を購入するの案

各鐵道の軌道を聯絡し聯絡驛に驗車員を設くるの案

聯絡輸送貨物の車輛を互通するの案

行車號諸用法を畫一するの案

貨車延車費を畫一するの案

技手養處所を設立するの案

中央に各鐵路通用車輛の仲介所を設立せんとするの案

(以上交通部提出)

各鐵路車制を畫一するの案

客車上の電燈及蒸汽管を畫一するの案(以上各鐵路提出)

二、貨物に屬するもの

貨物の運賃規程を概ね法定の權度制に按じ算出するの案

貨車等分辦法を畫一するの案

貨車分類辦法を畫一するの案

貨物運賃割引辦法を畫一するの案

各鐵路運賃を重量により計算するを畫一するの案

普通貨物の運賃標準を畫一するの案

各鐵路貨物保管辦法を制定するの案

貨物噸數の計算を畫一するの案(以上交通部提出)

各鐵路噸量を一致して公噸に改用するの案

各鐵路貨物の磅によりて計算するの制を畫一するの案

貨物の各等級大綱及重量による計算を畫一するの案

貨物を多くの等級に分つ可き案

鐵路の輸送引受貨物に對する責任を負う可き案

積卸費を改計するの辦法案

各鐵路運賃の罰金車輛借貸及軍隊輸送の專用貸率を畫一するの辦法案

各鐵路の互に材料を運ぶ運賃を畫一すべき案

土貨を産地より運ぶ際徵稅を経たる後沿路に於て再び重稅を徵するを免除すべく畫するの案(以上各鐵路提出)

三、旅客に屬するもの

普通旅客の運賃標準を畫一するの案

旅客及行李の運賃領收を酌改するの辦法案。(以上交通部提出)

兒童の乘車賃半額標準を畫一するの案

旅客の送迎及行李小包等の案

行李の運賃免除及重量の計算を畫一するの案(以上各鐵路提出)

四、其他の事項に屬するもの

各車務見習所規則を畫一するの案(交通部提出)

聯絡輸送規則を各鐵路に推行すべく請ふ案

各驛に銀錢兩替所を設立するの案

附屬營業を擴充し運輸を補助するの案(以上各鐵路提出)

●甘綏輪船公司組織

哈漢章、馬福祥等は甘肅に一汽船會社を起さんと計畫しつゝあり、同會社は甘綏輪船公司と稱し其の航路は甘肅蘭州より黃河を下り、綏遠包頭鎮河口に至るものにして、航路延長三千支里資本金二十萬元

なりといふ。(神州日報)
●京綏鐵道營業成績
如し。(北京日報)

京綏鐵道年歴の營業狀況次の

營業支出					
元	二	三	四	五	六
年	年	年	年	年	年
	二、五九一、七一〇	三、二八一、四八八	三、四九〇、七七八	三、六一三、四九三	三、八九五、七七九
					三、七一六、一五五
△資產原價					
元	二	三	四	五	六
年	年	年	年	年	年
	一七、〇六四、二九七	一九、〇一八、三九九	二二、三三五、七三七	二五、五五七、六〇〇	二五、九八一、二〇四
					二六、三二四、九八七
△鐵道里程					
元	二	三	四	五	六
年	年	年	年	年	年
	五八九	六四二	六四二	七四六	八五五
					八五五

●南潯鐵道國有問題 李盛鐸は江西督軍陳光遠の密函を携帶して、上京し、段總理に面會せるが、密函の内容は兩項あり、一は江西省は財政困難にして目下用兵の際籌措の法無きを以て政府より巨款を發給せん事を要求せりと一は南潯鐵道が軍事倥傯の際、客車貨車共軍隊に占據されて、營業上に妨碍あり、出入相伴はず、而して外債の償還期迫るも償還する見込無きより、債權者たる日本側より干渉せんとする模様あるを以て、同鐵道を國有となさんことを求めたるものなりと。



彙報

自六月十六日至六月三十日

對露關係

▲國境派兵建言

(北京特電十四日發) 阿爾泰辦事長に新任せられ前任地恰克圖より歸京したる張慶桐氏は十二日馮總統段總理に面接し露支國境に於ける過激派は商民を蹂躪し横暴を極むるに依り同地方駐在の支那官廳は地方鎮撫に努め居るも駐屯兵數少く到底豫期の目的を達し得ざれば中央政府は速に同方面に送兵し地方民保護の方法を講ぜざる可からずと報告せり(十六日、日誌)

▲露支國境の滯貨

(哈爾濱特電十四日發) 東部露支國境よりの情報に依れば國境閉鎖の爲差押へ居る輸出向貨物は二百五十貨車に達し居れり。尙アラニナナヤ・ニコリ斯克間に集中せる赤衛軍の數は千人に達し何れも滿洲州より召集せしものなるが武裝完からず尙過激派は過激派に換する兵士には月百五十留乃至三百留の手當を給し居れり(十六日、日誌)

▲支那大兵派遣提議

(哈爾濱特電十五日發) 支那政府はダウリヤ方面に大軍を派遣せんとの希望を申し出でたり支那側は北京より野砲七門吉林より機關銃四門を當地に持ち來りたるが這は不日ホケラニナヤ戰線に備ふ可しと(十七日、時事)

▲セ軍撤退を迫る

(十四日浦潮特派員發) 浦潮勞動新聞の所報に依ればセミヨノフ軍は十日迄に支那境界外に去るべく支那政府の命に接せり尙支那住民に危害なきやう嚴重なる通牒を受けたなり(十七日、朝日)

▲ホルワット將軍

(浦潮特電十五日發) ホルワット將軍はセミヨノ

フ、サルローフ、カルムニコフ氏等の軍隊を支那領土内に配置し方陣を布き自ら支那領土内の全軍總司令官たることを布告せり(十七日、日誌)

▲烏蘇里鐵道復舊近し

(哈爾濱特電十六日發) ホケラニナヤ、グロアコフ間の汽車運轉は不日復舊す可く尙ほ領事團は通信の杜絶に非常の不便を招ける爲め抗議を申込中なれば之亦數日中には開始す可き様浦潮より通知ある可き筈なり。尙ほ過激派は烏蘇里鐵道の運轉條件としてホケラニナヤに在る反過激派の軍隊を國境より遠き他の地點に呼び戻す可きを以てせり(十八日時事)

▲遠征軍遣露の議

(榮港合同通信社十四日發) 華盛頓よりの報道に曰く信憑す可き筋の云ふ所に據れば政府は米露側より指揮者を出して若干の米兵と使用し得らるゝ限りの日支露兵とより成る一遠征軍を露國に出すことを審議しつゝあり(十六日、時事)

▲對支要求の討議

(浦潮特電十四日發) 赤衛軍隊長アブラモフは當地勞兵會に向ひ支那政府に最後通牒を送りてセミヨノフ軍を支那領域より追拂ふが又はセミヨノフ軍討伐の爲め赤衛軍に支那領域に入ることを要求す可きことを乞へり勞兵會は此の重要問題を議する爲め十二日急總會議を開けり(十六日、時事)

▲見放されたるセ軍

(滿洲報特電十六日發) 予(特派員)は近日開かるべき哈爾濱會議にセミヨノフ氏の代理として列席せんとするダシキン氏と司令部より同乘し滿洲里に來れるが氏は予に語つて曰く

二週間前迄我等が哈爾濱に在りし頃は日本の態度も略決定せりと聞き其具體的に現はるゝ日を俟ち以て士氣を鼓舞し來りたるが日本の方針尙不定なるより我等は此際眞面目に將來の方針を講究する必要に迫られたり蓋し此儘にては我等は滿洲中、蒙古の國境に避難する數萬の避難者に安寧を與ふるを得ざるのみか平穩なる生活に歸る外何等の希望なき國民の信望を繋ぐを得ざれば我等は此儘恥を忍んで過激派に屈服して苦めらるゝ彼等を救ふか獨逸の勢力を引入れ秩序の恢復を爲すか二つに一つを取るのみとされり哈爾濱會議は多分此難問題を解決すべしと次に氏は日本が從來セミヨノフ軍に與へたる熱烈なる援助の一刻も早く

且體化さるゝを希望す熱心に繰返したり(十九日、日日)

▲セ軍通過禁止 (滿洲里特電十六日發) 十四日滿洲里の支那軍隊はセミヨノフ軍の國境通過を禁止せり停車場は支那軍隊嚴重に警備し混雜を極めつゝあり(十九日、日日)

▲セ軍絶體絶命 (哈爾賓特電十一日發) ダウリヤ來電セミヨノフ軍は敵軍殊に獨逸俘虜増加の爲、時安全地點に退却し部下を休養せしむるの必要に迫られつゝあるが滿洲里支那官憲は北京政府の命令と其背後に動ける某強大國の威力とに依りセミヨノフ軍に對し其部下にして國境通過の場合に武裝を解除すべしと強固に要求したれば直に支那領に入らざれば活路なきセミヨノフ軍は今や絶體絶命となり其他支那官憲はセミヨノフ軍の武器を滿洲里より戰場に送ることさへ妨害しセミヨノフ軍が過激派と戦ふの自由を奪ひつゝあり今明日頃同地附近にて支那軍とセミヨノフ軍との衝突あるべく滿洲里は非常に混雜し在留邦人も萬一の場合に備へつゝあり(廿日、朝日)

▲セ軍續々引揚ぐ (哈爾賓特電十八日發) 勢ひを盛返したるの感ありセミヨノフ軍は過激派の壓迫に堪へず遂にボルジヤの本營を放棄してマチエフスカヤに之を移し主力をダウリヤに集むるの止むなきに至りたるが同地にて更に陣容を整へて攻勢に出づ可しと云へど今に至るも日本の態度判明ざるを以て其の出兵殆ど頼む可からずとなし士氣阻喪して戦ふの勇なく續々滿洲里國境に向ひて引揚げつゝあり而して之に對する支那側の態度は極めて冷酷にして該地方の敗走兵及び避難民に對し國境の通過を禁じ居れりと尙ほ過激派の飛行機は最早や滿洲里の上空に現はれ人心動搖甚だし(廿日、時事)

▲セミヨノフ軍援助 (滿洲里特電十五日發) 後貝加爾のブリヤート人は滿洲里以南の原野に避難せる五千の家族中より代表者二百餘名の委員を選び二日に互り委員總會を開き左の諸件を決議せり
一 殆ど全滅とも云ふべき極端なる窮狀に陥りつゝある現狀に鑑みセミヨノフ軍に軍費及必要の軍需品を提供し自衛の名を以てブリヤート義勇軍を組織す(是は戰場に送ること勿論なり)
一、後貝加爾政府にブリヤート部を置き三名の代表者を入れセミヨノフ

軍と共にブリヤード部落の復舊を圖り漸次ブリヤート自治機關を完成する事而してブリヤート會議はセミヨノフ軍支隊に同情を有する日本政府及國民に感謝の意を表する事併せて大至急日本軍隊を出してセミヨノフ隊及ブリヤート民族を救助せん事を公式にブリヤート族の名を以て日本政府及國民に懇願する事(廿一日、日日)

▲日支協約とセ軍 (北京特電十九日發) マツイスカヤに兵力を集中せるセミヨノフ軍は其退路を絶たんとしてマツイスカヤの左方に迂回せる過激派軍隊を撃退せるが今後引續き武裝せる獨逸俘虜を背後にする過激派軍隊との對陣は頗る困難なる狀態にあり旁セミヨノフ軍は或は近く國境を越えて滿洲里に逃走し來るやも知れず右に就き滿洲里駐屯の支那軍隊司令官は萬一セミヨノフ軍が逃走し來らば支那軍隊はセミヨノフ軍に對し武裝解除を要請せんとしつゝあるも北京政府の某要路は之を否認し斯くの如きことあらば兎に角滿洲里支那軍隊(混成一旅)はセミヨノフ軍と力を戦せ過激派の進入を防止す可し、事一度茲に至らば過激派結せられし日支軍事協定に依り日本も亦出兵し支那と共同動作を執るものと諒解し居れり(廿一日、時事)

▲日本干涉有望か(倫敦ロイテル十八日發) 巴里よりの報道に曰くマルセル・ユータン氏は「日本干涉問題(西比利亞に對する)」は順調に向ひつつありと宣言せり(廿一日、時事)

▲日本の干涉期待 (浦羅特電二十日發) 滿洲里にて發行せらるゝセミヨノフ軍の機關紙ウオスチナイアアガアは刻下の窮境より脱出するには日本の干涉を待つあるのみと論ぜり(同上)

▲支那軍隊の専斷 (十九日哈爾賓特派員發) 滿洲里に在留日本人は次の電報を我外務大臣に送り

過激派軍は協同列國共同の敵たる獨逸軍人を主力とせり支那は其過激派と奮戦せるセミヨノフ軍に對しては軍需品供給を妨害し戦ふを不可能ならしめながら過激派軍には軍需品を輸送しつゝあり當市の支那軍隊の行動は過激派を益することのみなり無援のセミヨノフ軍の旗色振はざるに樂じ支那は何物かを恃む所あるが如くセ軍若し退却する場合に於ては戰線に接續せる國境にて武裝を解除すべしとの強固なる要求を爲せるが敵前の武裝

解除は全軍を併呑せし全滅するものなればセミヨノフ軍が應ぜざるより支那はセミヨノフに對して開戦の準備を爲しつゝあり結局武裝解除に關聯して解散を生ずべく其解散は延いて支那軍セ軍の對戦となり滿洲里は戰場となるべしセミヨノフ軍に對し過激派軍支那兵協同し滿洲里を全然無政府状態に陥らしむべく在留同胞二百五十名が生命財産の安全を期する能はざるに至るやし知るべからず滿洲里は今や非常なる危險に瀕せり前記の事情に鑑み大至急適宜の處置を取られんことを乞ふ右在留民總會の決議により狀況報告旁々懸願すと(廿一日、朝日)

▲セ軍退却を始む

(浦鹽特電廿日發) 赤衛軍側の報に據ればセミヨノフ軍はダウリヤ驛より退却し始めたりと(廿一日、時事)

▲セ軍形勢益々不利

(北京特電十八日發) セミヨノフ軍は其後形勢益々不利にして最近ダウリヤより退却し主力をマツエスカヤに集中せり右は十四日過激派軍隊ホルジャの西方に現はれセミヨノフ軍の退却を断たんとする模様あるを以て已むを得ず退却せるものなるが今にして何等か救済策を講ずるにあらずんばセミヨノフ軍は近く國境を越え滿洲里へ退却の外なきに至らん(同上)

▲露支國境の戰鬪

(北京特電十九日發) 浦鹽方面より進撃し來りし過激派は十七日朝ボグラニチナヤの東方露支國境に於てサクアイコフの率ゆる反過激派と衝突し過激派軍隊は退却せり(廿一日、時事)

▲支那出兵協議

(北京特電廿日發) 段總理は日支協同出兵問題に關し倫敦テリーメール記者に對し過激派が未だ支那國境に接觸せざる今日に於て支那は決定的意見の發表をなす能はず勿論支那政府としては歐洲戰局に注意し西伯利に對しては日本と協作を共にすべく現に東三省の國境防衛に充分なる準備を整へ日本が決心せば直に日本の出征軍と聯絡する決心にして單獨的に國外に活動せざるべしと(廿一日、日日)

(北京特電廿日發) 北京タイムズ紙は報じて曰く參戰督辦處にては重要會議を開き西伯利の形勢に關し支那政府の探るべき方針を議したる結果支那は速に内亂を平定し西伯利方面に對しては日支協同動作に努むべきも此際日本が出兵に決せば西伯利方面は日本軍隊に委せ支那は共同作戰の精神より少數軍

隊を派遣参加せしむるに止むべく決定せりと(同上)

▲段氏參陸處に諮問

(上海特電二十日發) 段祺瑞氏は日支協約に基き支那の準備事項に就き參陸處に其案を提出諮問せるに徐樹錚氏は極端に之に反對し南方平定したる後に於て支那の國境を準備す可く現在顧みたる適なとして日本と協同するの不可なる理由五ヶ條を述べたりと云ふ(廿一日、時事)

▲鐵道改革と英米

(倫敦ロイタル十九日發) 英國外務大臣パフォア氏は十八日下院に於て自由派議員リース スミス氏に答辯を與へて曰く米國委員は露國鐵道の改造を助くるの能否を研究せんが爲め露國に到着したり英國は進んで之に協力するを決して辭せざるも本問題に主として之を米國の手に委するを一層可なりと思惟するものなりと(廿一日、時事)

▲セ軍捲土重來せん

(哈爾濱特電二十日發) セミヨノフ軍のホルジャ撤退は内部の軋轉陣地の不利獨逸俘虜の増加飛行機の出現、士氣の沮喪に基けるものなるが最初ダウリヤに本營を移すべき豫定にて退却を起せしも浮き足止め難く遂にマツエフスカヤまで退却せしも目下對抗せる過激派軍は左程恐るゝに足らざる兵力なれば是非ともダウリヤを奪ひ返して之に本營を定む可く尙ほイルクワンク過激派政權を失ひ其爲めダウリヤ軍を呼び戻し中なれば此機に乗じセ軍は再び進撃に移れりと(廿二日、時事)

▲セ軍の行動を妨げず

(哈爾濱特電二十日發) 國境支那軍隊は滿洲里に留民の嘆願書にもある如く是れまでセ軍への軍需品の送達を妨害し戰鬪を不可能ならしめ其作戰を過激派軍に密通したる等の歴然たる證據あり道は明かに支那軍が滿洲里附近に無數に入り込み居れる過激派の密偵(主として獨逸俘虜の奸策)の爲め其甘言に乘りて買収せられ使惑せられたるに因るものにて尙ほ支那軍は過激派軍に軍需品の輸送をなしつゝありと某國の監視により現場を取り押へられ禁止せられたる實例もあり又過激派は厚顔にも支那軍に對し『國境を越えて軍需品の輸送を内密に許容せられ度し』とまで公書したる事實あり而して此國境支那軍隊がセ軍に裏切りたるは自己の意思に出でたるものにして昨日北京政府は之に對し『支那は聯合諸列強と共に獨逸國に對抗しつゝあれば支那軍隊が獨逸俘虜と提携せる過激派軍に好意を養しセ軍の行動を妨ぐるが如き行動斷じてあるべからず是れ聯合作戰日支協約

の本旨に悖るものなり尙ほ滿洲里に接近し來れるセ軍の武裝を解除し若しくは國境を閉鎖するが如き不法な許さずとの意を訓電したり(廿二日、時事)

▲北邊軍隊増加 (二十一日北京特派員發) 征北出兵に關しは參第處は先づ北邊の軍隊を増加するに決定し居るも日本の出兵前に之を派遣せざるに決したり又反過激派に對しては暗に同情を表するもセモローフ軍敗退して支那國境に入込める場合は武裝解除を命すべきや將又援助を與ふべきや討論中にして聯合國側と商議の上にて決すべし(廿二日、朝日)

▲日本出兵を切望 (哈爾賓特電二十日發) 滿洲里の人心動搖は甚しきもセ軍と支那軍との衝突は北京政府の訓電にて免れたり左れど後貝加爾四比利亞各地遠くはサマラ地方の代表者より日本兵の出動を希望する一切となり(廿二日、時事)

▲陶將軍の嚴命 (浦羅特電廿日發) 支那國境守備軍の陶將軍はアロテコーフのアアラモフ司令官を訪ひオロフ軍到着するや政府の訓令通り三日間を期し武裝を解除するが又は支那領土を撤退するを命じ中立を嚴守する旨聲明せり同將軍は隣境親善問題に關し正式の解釋を求めたるより極東委員會勞兵各司令官參列十九日を期してアロテコーフに於て文武官會商すべしとアロテコーフ以西コロ同鐵道を戰略上破壞し北滿の交通杜絶せる爲穀物缺乏し大恐慌を起さん(二十二日、日々)

▲哈爾賓行列車開通せず (二十一日浦羅特特派員發) 浦濱より哈爾賓行列車未だ恢復せず旅行者は朝鮮を経由する状態にあり(廿二日、朝日)

▲露國境開放命令 (哈爾賓特電廿一日發) 昨日支那當局は滿洲里より轉ての貨物輸出の爲め國境を開く可しと滿洲里ボグラニチナヤハネネ三關門に對し命令せり(廿三日、時事)

▲セ軍遂に没落か (哈爾賓特電廿一日發) セモローフ軍は武裝を解除せられセモローフ大尉は海拉爾に歸還す(廿三日、時事)

▲武裝解除は一部のみ (哈爾賓特電廿一日發) セモローフ大尉の降退は疑問なるも一部の武裝解除は事實なり併しセ軍の大部は今尙は交戦中(廿三日、時事)

▲米露人の鐵道計畫 (二十一日間島特派員發) 米露の大資本家一箇月以前より豫料に來り秘密裡にボシエツト運春間の鐵道敷設に關し活動中なるが起工本年八月頃にて來年の九月頃を以て竣工の豫定なりと當地の吉林への聯絡は今の所豫定にはあらずもの、如く彼等の希望する所は當地の木材搬出にあるもの、如し要するに豊富なる運春材を鐵道によりボシエツトに送り同地より海運に依り各地に輸出せんとする目的にて計畫は甚大なるもの、やう見受けらる(廿三日、朝日)

▲日本出兵請願 (北京特電廿一日發) 哈爾賓祖國擁護請願團は東部四伯利に於ける聯合國の利害に鑑み日本政府に四伯利出兵を願すべく決議せりとの報あり(廿四日、日々)

(哈爾賓特電廿二日發) 聯合國の露國援助の爲開かれたる廿日の第二次政治的會議は黑龍江より十八名當地商業同盟會より十九名市會議員より廿一名其他社會團體より十五名協同組合より五名其他全露執行會議臨時政府當時の執政官西伯利自治政府委員四伯利州會議員當地組合代表者政治團體より八名合計約二百名の代表者參集し多數者の演説ありたるが其結果聯合國は速に露國救助の必要手段を執られたし但し聯合國は主として露國と獨逸との交渉に對し盡力されたしとの決議をなしたり(同上)

▲露支國境の糧食運送解禁 (北京特電十九日發) 十九日支那政府は露支國境に於ける糧食輸送禁止令を解けり右は米國公使ラインシュ氏の運動興りて力ありと傳へるペイルクック各國領事團の決議も參酌されたるもの、如く右解決は西伯利方面に糧食を供給するにあるは勿論なるも裏面には種々複雑なる事情あり聯合國側には不賛成の向きもあり(廿四日、日日)

(哈爾賓特電廿二日發) 當地支那側税關は各國境開放の布告をなしたるが此結果國境開放の目的たるべき露領一般露人に物資を供給することは徒に實權を握れる過激派の腹を肥すのみにて到底公平なる分配行はるべきにあらずと支那側の眞意を疑ふ聲あり(同上)

▲日本出兵翹望 (二十三日哈爾賓特派員發) 是迄日本を毛蟲の如く嫌ひ日本西伯利亞出兵を以て一部の領土的野心に基くものとして非常に危險視しつゝありし一般露國の有識者階級(過激派分子を除く)若くは有識階

統は今は聯合國の武力的援助に俟つの外到底奮亂せる國內の秩序を自力にて恢復することの不可能なるを自覺するに至り聯合國に對して露國の領土保全保障を得て西伯利出兵を求むる傾向を有するに至れり露人は聯合國中有力なる武力的援助を露國に與へ得るものは唯だ日本あるのみと信じ日本の好意を期待し出兵に對しては露人は非常の感謝の念を以て迎ふべし而て此一般露人の好意は日本の將來の對露政策に於て領土獲得以上に有利なるものならんを爲しつゝあり而して露人は聯合國否日本の出兵に依りて露國は第一に西伯利の秩序恢復第二に健全なる新軍隊を編成し得べしと信じつつあり露人は聯合國の出兵に對して西伯利の過激派及之と共に同一行動を執べき獨逸武裝隊、虜は一齊に起つて之を反抗すべしと爲し其他途中の障礙は到底一時に多數の外國軍隊を遠く西伯利の奥地に入るゝ能はずと信じつつありて露軍を交へたる制限せる聯合軍隊にて逐次西伯利各地の過激派の勢力を驅逐し行々其占領地帯に於て健全なる露國の新軍隊を編成して漸次勢力強大して以て國內に於ける過激派の勢力を掃蕩し獨逸の勢力を國內より驅逐し獨逸の露國を復興し國境に於て再び獨逸軍と兵火を交ふべしとの熱望を有せり因に今回の場合に於て尙露人をしして日本の領土的野心を恐れしめたるは畢竟是迄の我對露政策の大失態と目されつゝあり(廿五日朝日)

▲セ軍形勢挽回 (二十三日哈爾賓特派員發) セミヨノフ軍に對して武装解除を要求せりとの説ありし支那側の態度は一變してセ軍に好意を有するに至りしが赤軍の後方退却(西伯利騷動の爲)の爲にセ軍は形勢一轉し進んで赤衛軍撤退後のボルザヤ驛を奪回し尙前進中にあり此外セ軍は某國人の義勇兵を得一時危殆に瀕せしセ軍は士氣頓に揚り捲土重來の傾向あり該軍に對する非難説は一掃されたり(廿五日朝日)

▲セミヨノフ哈爾賓滞在 (二十五哈爾賓特派員發) セミヨノフ大尉は二十二日哈爾賓に來り滞在中なり(同上)

▲露支國境風雲急 (哈爾賓特電廿三日發) 最近出地にては出兵氣分緊張し居れり尙ほ英國將校團も當地に到着し又セミヨノフ大尉も入哈しホルツト將軍も露々哈爾賓より歸來せり極中露支政客の集合と聯合し與國の將校の入市せるも亦注目せられ露支國境の風雲急を告ぐるものあり(廿五日時事)

▲浦哈鐵道開通 (二十三日哈爾賓特派員發) オルロフ派は漸次哈爾賓に引揚中なりと浦潮と哈爾賓間の交通は復舊せりオルロフ派の撤退に内外人の嘲笑を買ひつゝあり(廿五日朝日)

▲ハルビン商議組織行僞 (二十三日哈爾賓特派員發) 日本の法律の下に組織中の日露支三國人共營の哈爾濱商業會議所は北京官憲の反對に依り目下行僞中なり(廿五日朝日)

▲過激派軍を撃退 (哈爾賓特電二十四日發) セミヨノフ軍は十九二十の兩日其の本營とせるマチエフスカヤにて過激派軍の襲撃を受けしがセ軍は勇敢に之を撃退せり目下セミヨノフは兵員の充實を計りつつあり不日總進撃に出づ可しと(廿六日時事)

▲オノン反過激派逃亡 (哈爾賓特電二十四日發) オノンに於ける過激派は住民の建物を焼拂へり而して過激派は同地方千三百三十四名の反過激派哈爾賓へ落延び其の四百名は過激派軍の逃亡兵なることを報ぜり(廿八日時事)

▲チタ過激軍敗走 (哈爾賓特電二十四日發) チタ市來報に曰くモグン(チタの後方附近にては到る所過激派軍とチタ軍との衝突ありしが暫くにして過激派軍は多數の屍骸を遺して散亂敗走したればチタ市はチエク軍に依り占領せられたり(廿八日時事)

▲日本出兵に對する決議 (北京特電二十五日發) 東鐵道從事勞動者は其會議に於て露國の狀態は之れを瀕死の病者に譬ふべく先づ之れを醫するは露民自身ならざる可からず若し外來の武力を要すとせば協商國共同の兵ならざる可からず而して其出兵は當然國際的のものたらざる可からずして露國の主權は寸毫と雖も毀損す可からずとの議決を爲せるよし這是當然日本出兵の風評に對し爲せるものなり云ふ(廿八日時事)

▲國境開放抗議 (哈爾賓特電廿六日發) 日英佛三國領事は今回支那稅關が露國に向ひ貨物を輸出する爲露國々境を開放したるは聯合國が物資的に獨逸を包圍しつゝある力を削ぎ露領に輸入されたる物資は獨逸人の手に入る事疑ひなしとの見地より抗議を提出せり(廿八日日々)

▲本驛に反過激軍なし (浦鹽特電二十六日發) 偵察の爲めボグラニ

チナヤに赴ける赤衛軍は同地の支那官憲と會見せる際支那官憲はオルロフ軍は哈爾濱に引揚げカイオムコフ軍は武裝を解除せしめたりと告げたるもカ軍の武裝解除は事實に非ざるが如し(廿八日、時事)

▲セ軍を追撃す (浦鹽特電廿七日發) 赤衛軍は何等の抵抗をも受けずセキヨノフ軍を追撃しつゝ既に支那國境に接近しつゝあり(廿八日、時事)

▲邦人馬賊に捕はる (浦鹽特電廿七日發) 烏蘇利鐵道スマコエに馬賊來襲し若干の死傷者を出し賊は邦人數名を人質に取り火を放ちて去れり(廿八日、時事)

外交關係

▲鮮人に退却強迫 (十六日奉天特派員發) 奉天の北方五里京奉線に

沿へる吳家房一帶の地方には是れまで五百餘名の朝鮮人ありて永年水田農作を經營し居りしに同地支那官憲は張奉天將軍の鮮人水田取締訓令に基き去る八日より全部退去を再三強迫し是れに應ぜざれば暴力に訴へまじき見舞にて鮮人等の恐慌一方ならず數年來苦心經營せる施設を放棄し得べきにあらず且土地所有者は相當契約あり若しも退去する時は多大の損害なりと奉天總領事館の保護を願出でたるに依り總領事館にては鮮人の水田經營は久しき歴史あり一種の既得私權と認め支那官憲が故なく之を放逐するは不法なり且鮮人の退去を要求する必要あらば先づ我官憲に交渉すべきものなりとし十五日千總警部補外連査五名を鮮人保護の爲め吳家房に派遣したり(十七日、朝日)

▲敵國人放逐を難す (上海特電十六日發) 當地の重なる土着の支那人紳商等北京外交部、南京督軍、省長、上海陸軍使宛政府の敵國人を放逐する由を聞けるが被害甚大なり一、萬國公法に此條例なし二、各契約國間との間に處分法なし三、人道主義に違背す吾をして獨立國體の立場を失するの端を作る況や各國人民敵國にあるもの亦多し萬一敵又此手段を用ひ各國人に對して用ひつゝあらば之れ我範を課すると共に善く害を受くべく流離失ふ所

動憐として何ぞ云ふに忍びん今監察を嚴に行ひ既に責任を盡しあり云々と電報せり(十七日、時事)

▲在津の伊國兵 (十六日北京特派員發) 露に露國より北滿を経て天津に赴きし伊太利兵三百六十五名十七日天津より奉天通過安奉線にて釜山に直行し日本内地を経て本國に歸還する筈(十七日、朝日)

▲阿片賣買の醜聞 (北京特電十五日發) 英國公使館に上海にて締結せられたる阿片買收契約を以て英支禁煙條約に牴觸するものと認め本國政府に詳細報告し訓令を待つて支那政府に抗議すべしと本問題に就いては買收價格百六十萬兩の收賄問題あり馮國璋、段祺瑞、梁士詒、曹汝霖、王克敏氏等も關係し裏面に醜聞あるものゝ如く外交界の注目を惹きつゝあり(十八日、朝日)

▲陸戰隊常備警護 (十五日長沙特派員發) 十四日北軍の常備占領に

際し長沙山本洋行常備出張員松永尚之氏は第百十六混成旅參兵第二團第一營兵の爲め重傷三ヶ所を受けたり生命には別條なかるべしと長沙帝國領事館員及び山本洋行主は事情調査の爲め常備に向け出發の客なるが近時北兵の横暴甚だしく邦人の被害頻々たり尙常備は混亂狀態に在るものゝ如く軍艦陸戰隊を上陸せしめ邦人の避難者保護に當りつゝありと云ふ(十八日、朝日)

▲英軍艦射撃さる (北京特電十八日發) 英國軍艦ワッドコックは十

五日常備入港の途中北軍歩哨の小銃射撃を受けたり(十九日、朝日)

▲對支干涉の機 (十七日倫敦特派員發) タイムス北京通信員の所報に

曰く日本よりする各種の借款が北京政府に依りて南方壓迫の爲に用ひられんとする 甚深の遺憾事なり目下交渉中なる煙草專賣借款も亦南方に對する軍資の調達を意味す之を要するに支那は軍事上の目的の爲に矢鏢に其將來の利福を抵當としつゝあるものにて若し此際列國にして進んで支那に干渉し軍人派の放恣より支那を救済するに非ずんば支那は急轉直下して破滅の深淵に没入すべし今や聯合國が支那の爲に何等かの行動を執るべき重大の時機なり若し無爲にして今日を經過せば正に噬臍の悔あらむと(廿一日、朝日)

▲英支間の紛争 (北京特電廿日發) 英國宣教師グラハム氏殺害事件に關し英支間に重大なる外交上の葛藤を來しつゝあり同宣教師は一月前浙江よ

り福建、向ふ途中支那海賊の爲に殺害せられ英國公使は當支那政府に海賊討伐に就き至急何等かの措置を取らんことを要求せしに其後回答を得ず一箇月半を経過せし爲更に英國砲艦カドモス號を同海面に派遣すべきに就き支那軍艦も同行せしめよと通告せしに支那は内亂の爲派遣すべき軍艦なしと回答せり仍つて英國は單獨行動を取りカドモス號は既に浙江福鹿の海上に遊弋しつゝあり右に對し浙江省官憲は國稅を侵害するものなりと認め北京政府に抗議方を申告し來り外交部は十七日英國公使に右の抗議を提出したるが英國公使は外交部が今日に到り突然抗議を爲すは不都合なり支那は既に英國軍艦の自由行動を默認せしものなりとて之に應ぜず目下紛糾中なり。

(廿二日、日)

▲鄭家屯領事館

奉天鄭家屯に帝國領事館を設置し本月十四日開館の旨外務省より告示せられたるが同館の管轄區域は從來奉天領事館に屬せし双山、遼陽の二縣と長春領事館に屬せし洮南、洮安、安廣、開通、突泉、鎮東の六縣を割き之に奉天省の瞻榆縣內蒙古の遼寧罕外五旗を加へたるものなり。(廿二日、日)

▲支那政府自重

(北京特電廿一日發) 宣教師クラハム殺害事件の爲浙江、福建海面に派遣せられし英國砲艦カドモス號の行動に對し支那政府は浙江、福建の水上警察より巡邏船を出し又海軍よりも艦隊を出すの報告に接し或は衝突の恐れあるを憂ひ陸海軍兩部より海軍司令藍德福氏及右兩省督軍に向ひ慎重の態度を取り決して事端を開く勿れと訓令せり。(廿三日、日)

▲排日印刷物頒布

(北京特電廿二日發) 日本公使館は外交部に向ひ曩に鎮漢初なるもの「一髮の危機生死存亡の問題に關はる」と題する秘密出版を携へ日本に渡り支那留學生に配布し日支協約に反對せしめたる事實あり速に禁止されしと照會し支那政府は上海交渉處に嚴重禁止方を傳達せり。

(廿四日、日)

▲英支互に抗議す

(廿四日北京特派員發) 英國公使は曩に福建海上に於て英國宣教師が支那海賊に殺害されたるに對し外交部に交渉せるが外交部は又英國軍艦が肆に福州に碇泊せるを英艦自ら海賊を討たんとするに對し抗議せり之に對し英國側は未だ何等の回答を爲さず。(廿六日、朝日)

▲邦人負傷事件解決

(北京特電二十四日發) 馮玉祥氏よりの報告に據れば常德進攻の際日本商人入城し來り遂に多少の失を招き軍艦は直に陸戰隊を上陸せしめたるが其後の交渉に依り事解決せり。(廿六日、時事)

▲危険なる獨逸學校

(上海特電二十五日發) 當地ノースチャイナデーリーニュースは吳淞に在る獨逸醫工專門學校が支那に於ける獨逸のアロパガンダの中心なるを指摘し此學校の危險なるを主張せり。(廿七日、時事)

▲英國領事の逆捻

(北京特電廿六日發) 英國公使は支那政府の抗議に對し英國砲艦カドモス號の海賊捜査は天津條約に基けるものにして何等支那の國權を侵害せず支那が之を幫助せざるは條約違反なりとて逆捻の回答を爲せり且カドモス號は寧波英國領事搭乗の上浙江省海面を距る廿哩の島に於て宣教師クラハム殺害の證據品たる衣類所持品を發見し何犯人に海面水上警察署員(元海賊の關係せる事實を突止めたるを以て更に支那政府に向ひ共同調査を要求するに至り支那政府は外交部員一名を現場に派遣し調査せしむる事を承諾せり。(廿八日、日)

▲米國と國境開放

(哈爾濱特電二十七日發) 日英佛三國領事は支那政府に國境開放に就き既識の意味を以て抗議を提出せるが同じ聯合國側に於て米國領事のみは之に加り居らず他は本國政府より豫て何等かの内訓を受け居たるものらしく今回も事を左右に託して同意せず獨り聯合の羈絆を脱し協同の行動を避けたり左れば支那の此舉に出でたる背後に或は米國の存するなきやを疑ふものすらあり。(廿九日、時事)

▲日本借款の不評

(北京特電二十七日發) 政爭次第に激烈なるに従ひ日本特殊財團が非公式に或は個人を通じて一部交通團と結び經濟借款の名の下に無限に政費を給しつゝありとて有志一般の攻撃甚だしく反對派は勿論之を藉りて國論の喚起に努め又同じ段派の中にすら其無謀を怨み尙ほ一般支那人も其成行を懸念しつゝあり結局他の眞面目なる方面に惡影響を及ぼし其反動の爲に將來多大の障礙を感ずるに至る可しと懸念する者少からず。

▲敵人一部追放

(北京特電廿六日發) 支那政府は和蘭公使に向ひ支那在留獨逸人中政治運動をなす者を認めハンネツケン(井陘炭礦主)コルデア

(獨亞銀行支配人)其他軍立ちたる者十餘名を放逐し他は依然在住を許し嚴重なる取締を行ひ一先づ全部放逐を中止する旨通知し目下交渉中なり。

▲排日運動禁止さる (漢口特電廿九日發) 日本に在りし留學生にして湖北に歸れるもの百餘名あり各地にて會合し排日演説を爲す計畫ありしも武昌官憲より禁止せられたり。(卅日、時事)

南北情勢

▲軍隊の休養を乞ふ (上海特電十五日發) 北京來電に依れば曹錕は馮國璋並に段祺瑞兩氏に對し十四日朝長文の電報を送り中央にして作戰を繼續するに決せば第一路の各師旅を撤廢休息せしめられたしと述べたり又一説に依れば天津會議にては再び戦ふに反對するものなりと。(十六日、時事)

▲吳氏援兵派遣を請ふ (上海特電十五日發) 湖南にある直隸第三師團長吳佩孚氏は北京政府に對し湖南の東にある南軍亦攻め來らんとす故に速かに奉天軍三旅を派し且つ徐樹錚氏にも湖南に來る可く命ぜられ某陵に進み駐屯せしめられたし云々云へり。(十六日、時事)

▲南軍退却 (十四日北京特派員發) 常德にありし南軍守將田應詔は十一日湖南桃源に同周則范は安化に向ひ退却せり十三日常德の北方五里の地點に於て南軍と馮玉祥軍と交戦して南軍退却し同日南軍は全然常德を撤退せり。(十六日、朝日)

▲劉督停戰懲慫 (北京特電十六日發) 貴州督軍劉顯世氏は再び馮總統に對し和議は最も希望する所なれども招撫は之を受くる能はず南方の人民は平和を渴望する一朝一夕のことにあらず中央政府にして誠意を以て之を迎へんと欲せば先ば停戰せよ若し停戰後南方にして停戰條件を守らざるものあれば余は進んで之を討つべしと打電せり。(十七日、日々)

▲陸榮廷政務總裁受諾 (十五日、廣東特派員發) 陸榮廷は廣東國會の推薦に係る政務總裁の就任を諾し其使命を帯びたる陸の代表者陳延勳廣東

に向ひ發したり。(十七日、朝日)

▲陳炳焜督軍省長承諾 (十五日廣東特派員發) 陳炳焜は陸榮廷の電命に依り廣西督軍兼省長の職に就く事を承諾せり。(同上)

▲張懷芝入京 (十五日北京特派員發) 第二路總司令張懷芝は十五日午前八時北京に入れり。(十七日、朝日)

▲北軍常德入城 (十五日漢口特派員發常德來電) 十四日午前六時北軍第三十師常德に入城し引續き各北軍到着し完全に占領せり昨夜來南軍が掠奪を行はず無事退却せしは我陸戰隊上陸の結果なりと内外居留民等しく感謝しつゝあり。(十七日、朝日)

▲雷州城攻撃開始 (十五日廣東特派員發) 討龍軍の報告に依れば廣東軍は雷州城の攻撃を開始し五日以上戦闘せる後雷州附近の村落を占領したりと雷州城も近日中に陥るへしといふ。(十七日、朝日)

▲陸氏銃殺事情 (北京特電十六日發) 十六日陸軍軍氏は先年段總理の爲陝西督軍を追はれたるを銜み之に報復せん欲し混成第十六旅團の福建救援を南京に阻止し又馮玉祥氏をして武穴に獨立せしめんせしなど段派怨恨の的となり居りしが爾來安徽、山東、陝西等に於て土匪を煽動せし證據歴然たり爲に中央は其捕縛を密令したるが偶天津會議の開會さるゝや陸氏は又得意の術策を振ひ時局を攪亂せんとし十三日上海より來津し各有志者を訪問したるに徐樹錚氏等は陸氏を庭園に誘ひ伏兵を出して之を銃殺せり此擧事は非戰派に對する間接の脅威とも見るべく且處刑の手續不備の點あり物議を免れざるべきも陸氏は故袁總統の下に陸軍執法處長として九名の民黨志士を慘殺せしことあり今回の銃殺は其報いなりと一般に冷笑されつつあり

(北京特電十七日發) 馮總統の命令に曰く張懷芝(山東督軍)倪嗣冲(安徽督軍)陳樹藩(陝西督軍)盧永祥(松江鎮軍使)等の報告によれば陸軍上將街炳麟、將軍陸建章は山東、安徽、陝西等に於て土匪と結び軍隊を煽動して亂を圖り又徐樹錚の報告によれば同人は上海、天津、永興等にも軍隊を煽動したること歴然たるを以て土匪討伐條例陸軍法により處分せよとの要求あり既に捕縛銃殺を報ぜり仍つて其官職地位を觀察すに因に陸氏は排段の目的を以て李純、馮玉祥氏等の裡面に於て活動し北方の主戰方針を妨害する事辛辣なりし

爲今回の統殺は非戦派に對する一種の示威運動なり。(十八日、日日)

▲討南軍新編成 (十五日漢口特派員發) 湖北督軍王占元は中央政府より今回討南軍各路を改編し五路に別ち五總司令を設くる旨の電命に接せり即ち左の如し

△第一路湖南總司令張宗昌△第二路湖南總司令馬聯甲 △第三路四川總司令許蘭州△第四路福建總司令章保煥△第五路廣東總司令楊春普。

(十八日、朝日)

▲議員當選者 (北京特電十五日發) 十五日迄に發表されし衆議院議員當選者は直隸省廿三名、山東省廿二名、山西省十七名、安徽省十八名、江蘇省廿七名、察哈爾二名なり。(十八日、日日)

▲政學會の折衷案 (北京特電十八日發) 政學會一派は北方派が總統改選問題に關し内争をなしつゝあるに對し南北妥協を加味せしめて總統問題を解決するは策の得たるものにあらず總統問題と共に南北妥協を促進するの必要を唱道し總統には北方に人望ある徐世昌氏を選び副總統には陸榮廷氏又は岑春煊氏の如き南方派を推し總統改選を終ると共に新國會を開會し南北妥協の上にて適法の國會を作り憲法問題を解決すべしとの新折衷案を以て各方面に遊説しつゝあり。(十九日、日日)

▲唐繼堯の三省聯合計畫 (十七日北京特派員發) 唐繼堯が雲南省議會に諮りたる雲貴四川の聯合計畫なるものを見るに左の如し。

一、政治問題に就ては雲貴四川三省議會聯合會三省新聞聯合會を設くる事
二、經濟問題に就ては三省商務總會聯合會を設くること、三省合資貿易會社を發起すること

三、教育問題に就ては三省聯合講武學堂三省聯合法學校設立
是に對し四川人は反對なりと云ふ。(十九日、朝日)

▲馮氏免職取消 (北京特電十八日發) 總統命令出で混成第十六團長馮玉祥氏を陸軍中將の前官に復し免職處分を取消せり右は常德占領の功により武穴獨立の罪を許せりと陸建章氏處刑の爲直隸派軍人の反感を解き彼等の恐慌せるを調和せんとする爲なりと。(十九日、日日)

▲曹錕徐の處分を迫る (十八日天津特派員發) 曹錕は徐樹錚が陸建章を暗殺せる事實に頗ひ出し慌怖の念を儲くと共に傍若無人の行動を激怒し徐が各督軍の名義を騙りて陸建章を誘ひたること自己の管轄下にありて無斷にて此暴舉を爲したるを若し法を以てせば之を陸軍執法處に送るべきに據に處斷せること等徐の非法な舉げて中央政府に其處決を迫れり。(廿日、時事)

▲劉顯世と總統問題 (十八日北京特派員發) 貴州督軍劉顯世十七日陸榮廷の電報を轉電し來り總統選舉にて正副共に北洋派中より選出せば西南の人心を服せしむる餘地なく妥協の望みなきに至らんとしへり。(廿日、朝日)

▲岑氏政務總裁否認 (十九日北京特派員發) 岑春煊氏は十八日馮總統に密電を寄せて今日時局平定の希望なきは憂ふべし吾公危機一髮の時局に際し成竹ありや隨時指示されんことを望む余の廣東に赴かんとするは時局を觀望し統一を速めんとするにあり然れども政務總裁は承認せざるべし然らずんば余は調停の資格を失ひ世の嗤とされければなり流言を輕信する勿れと。(廿一日、朝日)

▲陸建章の横死を恨む (上海特電二十日發) 陸建章の子陸承氏は馮國璋宛て打電して曰く我父の慘憺たる最期に就ての行動を云ひ已に其の職を免ぜられざるに何ぞ能く彼を捕縛し又未だ其の榮轉を奪はざるに焉ぞ之を統殺せる我父の北に赴けるは大總統の電報にて召されたるが爲めに余も亦父に行くことを勧めたり是れ我父を殺すもの實は大總統にして余も亦父を統するものなり云々と云へり馮氏は未だ之に答へず。(廿一日、時事)

▲廣東財政總長 (香港特電十九日發) 楊永蔭氏は今回廣東軍政府財政總長に任命せられたり。(廿一日、日々)

▲南方の妥協條件 (北京特電廿一日發) 在上海の岑春煊氏は茲に北京政府の依頼により南北妥協に關する南方側の意圖を問ひたるに廣東軍政府側は第一西南各省の政治提言を維持す但し湖南督軍は張敬堯とするも差支へなし第二舊國會を廣東に開き新に國會組織法及議員選舉法を制定したる後自ら解散し右新國會法に依る新國會を北京に召集する事を條件として提議せ

り右に就き北京政府内にては交通系は之れに賛成せるも段祺瑞直系の軍人派は絶対に反對せるを以て妥協問題は再び頓挫せり。

(廿二日、時事)

▲妥協の餘地なし

(二十日北京特派員發) 雲南省軍唐繼堯は最近北京政府は日支軍事協約を見合せ南北妥協を圖るの意あらば妥協に應ずべしと述べ來りしが軍事協約成りたるを聞き最早妥協の餘地なしとて南軍總司令譚浩明にも速に湖南を恢復し同省の各州を克復して國賊を除かれたしと打電せり。(廿二日、日)

▲段閣選舉干涉

(二十日北京特派員發) 新國會選舉に關し段内閣は露骨なる干涉を行ひつゝあり消息に依れば國務院は嶺南山西省に密電を發し進歩黨系候補者への投票を禁じ政府指名の候補者を選出すべく命じて極端なる干涉を爲し進歩系の總統指名候補者の多くは落選せる有様にして政府の干涉に驚きて逃歸れる候補者もあり二十日は河南省の覆選舉期日なるが憲兵は豫選當選者保護と稱して彼等を會外に護送し全く四人の如く監視し斯くして指定候補者を選舉せしめんとしつゝあり又直隸北京に於ては全力にて買収し居れり各地共段派の率ふる安福派の全勝に歸すべしと。(廿二日、朝日)

▲經略使總司令

(北京特電廿日發) 天津會議の結果總統命令を以て曹錕氏を四川、廣東、湖北、江西經略使に張樹芝を援粵總司令に吳佩孚氏を同副司令に任命せり。(廿二日、日々)

(北京特電廿一發) 張樹芝氏は十九日午前天津より歸京し援粵總司令たる事を承諾せり。(同上)

▲南軍攻勢準備

(二十日北京特派員發) 覃延閣は湖南永州に多額の軍費を携へ到れるため南軍兵力増加し近く攻勢に出でんと準備中なりと。

(廿二日、朝日)

▲馮玉祥政府に質問

(二十日漢口特派員發) 最近湖南省常德を克復せる第十六混成旅旅長馮玉祥が徐樹錚のために銃殺されし件に關し北京政府に對し果して謀殺の確實なる證據ありやを質問し其確答を求めたり馮玉祥は陸建章の甥なるを以て鮑廷其冤罪を雪がんとするものゝ如し之がため段總理は顧問某を派して辯明せしめんとしたるも馮玉祥は斷乎として之を拒絕せり。

▲共和恢復記念日

(二十日北京特派員發) 張勳の復辟を破壊したる七月十二日を共和恢復記念日となすの案は二十日の國務院會議に通過せり不日命令を以て公布さるべし。(廿二日、朝日)

▲林長民氏勸告

(北京特電廿日發) 日本より歸國せる林長民氏は十九日段總理を訪ひ日本に於ける産業の非常に發達せるを報告し支那も速に内亂を罷め第一に産業の發展財政の整理を圖らざるべからずと勸告せり。(廿二日、日々)

▲議員法定數を超ゆ

(上海特電二十一日發) 其後當地に集まれる國會議員七十餘名あり先日四十餘名廣東に向ひ近く又三十名同地に向ふ可し斯くして法定數を超ゆること五名なる可しとのことなり。(廿三日、時事)

▲參院議員選舉

(北京特電廿一日發) 廿日中央選舉會の參議院議員選舉を舉行せり數日前より安福俱樂部と研究會との競争激烈にして一票二百圓にて賣買され十九日夜に至り某大學卒業生の一團五十五名は一票四百圓ならでば投票せずと値上げし遂に安福俱樂部に買収され同部優勢となれるが開票の結果

- 第一部(學者階級定員十名) 胡筠氏外五名
- 第二部(功勞者定員八名) 周自齊、朱啓鈴、蔡儒楷、呂調元氏等外四名
- 第三部(多額納稅者五名) 未開票明日繼續
- 第四部(華僑四名) 章榮傑氏外三名
- 第五部(滿洲王侯二名) 傅倫勒那氏等當選し第一部の不足は廿二日再選舉を行ふ筈(廿三日、日々)

(北京特電廿二日發) 梁士詒氏外三名は廿一日參議院議員に當選し王揖唐氏は同時に參衆兩院議員に當選したるが參議院を辭し將來衆議院議長たるべく尙參議院議長は梁士詒氏の手落つべしと傳へらる。(同上)

▲李根源に指揮權付與

(二十一日香港特派員發) 廣東督軍莫榮新は唐繼堯の要求に基き李根源に對し在廣東省雲南第三及第四師の指揮權を與へたり(廿三日、朝日)

▲龍南亦危し

(北京特電廿一日發) 江西督軍陳光遠氏の報告によれば

南軍は既に慶南江西省を占領し、龍南亦危險なり、速に援軍を送れと。

(廿三日、日々)

▲北軍汕頭占領 (福州特電廿一日發) 北軍は昨日汕頭を占領せりとの報あり。(廿三日、日々)

▲張總司令出發 (北京特電廿二日發) 援粵總司令張慎芝氏は廿二日午後二時北京出發、濟南府に向へり、同地にて督軍事務を整理せし上再び來京戦線に向ふ筈にて、既に北京に總司令部を設け參謀總長以下幕僚の人選中なりと。(廿四日、日々)

▲陳光遠李純を督促 (二十日南京特派員發) 第十九師長楊春普は未だ南昌にあり、江西督軍陳光遠は廿一日江蘇督軍李純に打電して曰く、速かに江西に赴き以て兵を指揮するに便ならしめよと。(北四日、朝日)

▲李氏を總司令に任ず (北京特電二十二日發) 二十二日大總統令を以て新に李厚基氏を福建、浙江援粵軍總司令と爲し、重保氏を同副司令に任ぜり。(廿四日、時事)

▲楊錦棧叛す (二十二日北京特派員發) 龍裕光は二十日楊錦棧が龍清光の留守に乘じて瓊州島嘉穂に於て叛旗を翻し、瓊東縣以下四縣を隔れ又馮志桓盧に乘じて事を構へんとす、瓊州の防備手薄きを以て速かに援援を請ふと電告し來れり。(廿四日、朝日)

▲漢陽火藥庫爆發 (二十二日漢口特派員發) 二十日漢陽兵工廠火藥庫爆發し、南兵一名即死し、負傷者約三十名を出し、家屋の一部破壊せり、原因不明なり。(廿四日、朝日)

▲參議院復選舉 (天津特電廿三日發) 直隸省參議院復選舉は三日間總長公廳にて執行したるが、當選者五名候補當選五名なり。(廿四日、日々)

▲參議院當選者 (北京特電廿二日發) 直隸、山西、安徽、奉天四省の參議院議員の選舉完了したるが、當選者中に馮總統の子馮華遂、曹錕氏の弟曹鈞、倪嗣冲の子倪道杰、張敬堯氏の弟張敬聲、桂題氏の子某の諸氏あり。(同上)

▲孫氏歸途に就く 京都侯爵旅館に滞在在中なりし孫逸仙氏は眼疾の經過良好にして殆ど快癒せしを以て廿二日午後七時中京都驛發、胡漢民戴天仇兩

氏同伴歸國の途に就きたり。(京都電報)

◎孫逸仙氏は胡漢民、戴天仇兩氏を伴ひ二十三日正午神戸出帆の近江丸にて歸國の途に就けり。(神戸電話廿四日、日々)

▲孫文歸國用向 (上海特電廿三日發) 孫文氏歸國の用向に就き、民黨側にて口を補して語らず、唯南方政府の總裁を承諾したる爲當地に來りて西南諸省の爲努力するにありと言へり。(同上)

▲廣東攻擊嚴命 (二十三日北京特派員發) 參議院公廳は二十二日段總理の自ら定めたる廣東攻擊新計畫を前敵各軍に通電し、且各軍發の猛烈なる攻勢に出づべきを嚴命せり。(廿五日、朝日)

▲各省主戰贊成 (二十三日北京特派員發) 段總理は廣東攻擊問題に關し慎重の態度を執り、西南を除く各省の長官に意見を徵せり之に對し直隸山東は勿論賛成なれば此等を除き十七省區は戦争繼續に賛成し來れりと段總理は各省の軍民大官にも意見を徵せるが主戰を主張し來る者三十餘に上れり。(廿五日、朝日)

▲廣東討伐軍六萬 (上海特電廿四日發) 廣東討伐軍は山東よりの二混成旅團の三十一營、直隸よりの一師四旅、龍濟光氏の六十營等六萬の兵なりと稱し居れり、此外江蘇、江西、浙江、福建及び奉天軍も別動隊としてあり、左れど果して戰事に使用さるゝや否やは疑問なりといふ。(廿五日、時事)

▲廣東國會の通告 (二十三日上海特派員發) 廣東國會は黎大總統馮代理大總統、各省督軍、省長、省議會商務總會、教育總會、各新聞記者に左の如く通告せり

反督兵を備へ約法効を失ひ國會解散民團據るなし、同人等國民の依託を受け職務の期終らんとして共和の危ふきに垂とるを痛み責任捨て難く茲に約法に依り自ら集會し六月十二日廣東にて正式國會を繼續して開くべし云々又陸榮廷は廣東國會に對し

予は既に老い病多くして時難に輔なし狼りに諸公の捨てざるを受け政務總裁に選任さる國法危ふきを以て敢へて固辭せず、以て諸子に従ふ處に就任の旨を打電せるに今又當選書を特に贈る時に益々力を盡して國に報い諸公の望みに副ふべきを期す云々。(廿五日、朝日)

▲廣東國會出席者増加 (二十三日北京特派員發) 香港よりの情報に依れば廣東國會は既に法定數を超える事數名に達したり是れ舊國會議員が新選舉に斷念せる結果廣東に來り俄に増加せる次第なりと。(廿五日、朝日)

▲廣東政府支應 (廣東特電廿四日發) 陳炯明氏は湖南戰線に對應する爲桂林に滞在 つゝあり尙氏は廣東政府支應を南寧に新設せんとしつゝあり。(廿五日、日々)

▲倪督軍の報告 (北京特電廿四日發) 安徽督軍倪嗣冲氏は廿二日天津にて張懷芝氏と會談の後直に蚌埠に歸任せるが北京出發に際し總統府及び國務院に充てて今回の上津は

曹錕の病氣を慰問し並に軍事諸問題を評議するにあり數回曹錕懷芝と會談し且龍濟光の下津を幸ひ龍とも打合せを爲したる結果廣東援軍の作戰計畫は完全に解決し四省の經略使、援粵總司令軍の條件をも既に官報にて發表せられ來津の目的を達したれば直に天津より歸任す

と報告せり尙氏は在江西馬聯甲氏の安武軍全部を張懷芝氏の指揮の下に置く事を承諾せりと。(廿五日、日々)

▲龍軍恩平に進撃 (二十二日香港特派員發) 恩平縣(廣東の南西約八十哩)の官憲よりの報道に依れば一千名以上の龍濟光軍恩平に近き重要地點を占領したる後恩平に向つて進撃中なりと。(廿五日、朝日)

▲龍祐光瓊州島鎮定 (二十三日北京特派員發) 龍祐光は十三四五日の瓊州島の叛亂を鎮壓したる旨報が來れり。(同上)

▲奉天軍疫病に悩む (廿三日奉天特派員發) 奉天軍副司令徐樹錚より奉天張督軍への電報に依れば湖南方面は洪水後疫病盛んにして奉天軍の之に感染して殞る者甚だ多きより十萬元の消毒を以て戰意阻喪の軍隊を激勵したるも效果覺來なしと。(廿五日、朝日)

▲常德陸兵引上 六月十八日馮玉祥常備に入り同市の秩序維持に任じたるを以て我陸戰隊は十九日歸郷せり我居留民には松永事件以外に損害なき由。(廿五日、時事)

▲陝西土匪起る 陝西省西安府發電報によれば雒南商及潼關の間は土匪の爲に占領せられ一切の貨物の輸送停止したる趣なり。(廿五日、時事)

▲陸榮廷總統に密電 (二十四日北京特派員發) 陸榮廷は南寧より馮總統に密電して曰く廣東正式國會成立し表面上は南北勢力平均し法律上にては北方に比して完備せり唯榮廷大局の分裂を坐視するに忍びず外人の機に乗するを恐る勉めて請ふ吾公尙謀和を支持せよ。(廿六日、朝日)

▲唐繼堯湖南救援 (二十四日北京特派員發) 唐繼堯は一混成旅の援兵を湖南永州に派すこゝ譚浩明に之を聞きて此援助を得て決戦せんとす。(廿六日、朝日)

▲北方總司令部設置 (二十四日北京特派員發) 奉天、吉林、黑龍江と參戰省辦處との商議の結果北方總司令部部部黑龍江黑河に設くることなれりとの報あり張作霖は巴英を該處長に擬し居れりと。(廿六日、朝日)

▲龍軍益々進む (二十四日北京特派員發) 龍濟光の部下張文の率ゐる一隊は饒平を攻略して前進を續け左翼は黃岡前面に進撃中なりと。(廿六日、朝日)

▲福浙軍永定恢復 (二十四日北京特派員發) 福建浙江軍右翼部隊は十九日永定を恢復せりと。(廿六日、朝日)

▲南方和意あり (上海特電二十五日發) 陸榮廷氏に對し打電して曰く廣東の正式國會既に成立し政府も組織を改めて成立し表面上南北の勢力平均せり然も法律上北方に比して完備せり唯だ余は時局の更に紛糾するを見るに忍びず尙和議を支持せられたしと。(廿七日、時事)

▲吳氏休戰締結 (北京特電廿六日發) 總統府着電によれば新任援粵副司令吳佩孚氏は南軍第一師團長趙倜惕氏と休戰條約を締結せり。(二十七日、日々)

▲濟軍募兵を拒絕する (二十六日奉天特派員發) 廣東克復の爲二萬五千の新軍を募集編成せんとて天津に募兵事務所を設け居る龍濟光は天津方面に於て募兵困難なより豫て奉天張督軍に交渉す所ありしが二十五日龍濟光は其子龍健坤及び四路司令官汪浩雲、狄蔚齋、范福璽、鄭英祺其他職隊長大隊長等二十餘名を派して四個旗の軍隊募集を懇請せしめたるが張督軍

は奉天に於ては既に混成七個旅を編成せし後なれば更に多數の奉兵は不可能なりとて拒絕し唯だ奉天軍の一部を以て援助せん意ありと。(廿七日、朝日)

▲湖南省土匪討伐

(漢口特電二十五日發) 湖南省益陽、平江瀏陽各地に南軍の解散兵土匪と共に蜂起せり長沙より討伐に向へる奉天軍一個聯隊は敗れて歸れるを以て再び出兵中なり。(廿七日、時事)

▲憲法と總統問題

(上海來電廿六日發) 廣東來電國會に對し前參議院議長王家驊氏より左の三條件を送付し來れり

(一)約法維持(二)國會を開きて後憲法問題を議し法定數に充つる時は選舉之に對し廿六日國會は談話會を開き第一には賛成し第二は先づ憲法問題を議する事に賛成し選舉制度を討論する件は國會開會後に定むる事としたり第三は未だ付議するに及ばざりき(廿八日、日々)

▲孫逸仙着滬

(二十六日上海特派員發) 孫逸仙氏は一行と共に二十六日午後二時上海に歸着せり出迎の黨員は汽艇を繼ぎ途中迄出迎へ孫氏を擁して佛租界に上陸外國刑事事の警戒を受け自動車にて自宅に入れり孫氏曰く「予が急に歸國せるは眼病の爲にて他に理由なし」と更に語を轉じて曰く「段祺瑞の南方討伐は北洋派の討伐にあらず日本南方征伐なり」と。(廿八日、朝日)

▲湖南直隸兩軍妥協中

(二十四日長沙特派員發) 湖南軍の一部と直隸軍總司令吳佩孚との間に停戦を約し妥協に關し交渉中なるが南軍解散兵等は全省到處の土匪と結託して掠奪跳梁を逞しうしつゝあり之が爲め督軍張敬堯は一面討伐隊を派遣し一而招撫策を講じつゝあり然れども牛轡餘の間南北兩軍の爲に蹂躪されたる湖南は今や物價益騰貴し殊に北軍は民を掠奪し或は壯丁を軍中に徵發したるが故に農民四散して殆ど耕作を抛棄したる地方ありて既に食物の缺乏を告げ湖南は將に收拾すべからざる状態に陥らんとす吾人は眞に湖南省民を憫み同情を表すると共に支那當局の之に對する處置を見んと欲するもの也。(廿八日、朝日)

▲懸賞附攻撃

(北京特電廿六日發) 政府は廣東攻撃に對し軍隊獎勵法廿條を制定し被害の都市を占領したる時は上長官に勳位を與へ兵卒は之を昇級し又は之に賞金を與ふる事とし士氣を鼓舞しつゝあり。(廿八日、日日)

▲馮總統の返電

(二十七日上海特派員發) 馮總統は陸榮廷に對し國事は既に内閣に於て悉く實を貢ひ元首は内閣を尊重する故獨り別に意見を樹つるに不便ありと答へしに陸榮廷は更に支那各省は暫つて非法内閣を承認せずと憤慨せる電報を送れりと。(廿八日、朝日)

▲莫榮新廣東防禦協議

(二十六日北京特派員發) 廣東督軍莫榮新は北京政府が四省經略使張勳司令を任命して廣東攻撃計畫を決定したりと聞き軍事會議を召集し其の結果西南各省に通電して防禦に就き協議せり廣東省城には既に特別戒嚴令下れりとの情報香港より來れり。(廿八日、朝日)

▲陸榮廷大兵を練る

(二十五日香港特派員發) 陸榮廷は最近一萬以上の兵を召集し目下桂林に於て訓練中なるが近々湖南戰線に派遣するに至る可し莫榮新は雷州戰線より數個大隊を召還して之を湖南戰線に移さんとしつつあるが此等の兵士は本月末廣東に集合すべしと。(廿八日、朝日)

▲常德秩序整頓す

(漢口特電廿六日發) 馮玉祥既に常德に入りしを以て我陸軍隊は引揚げたり段殺傷件も馮の謝罪にて無事に終れり彼の入城以來秩序整頓し内外人とも悅服し附近に南軍の跡なし桃源にては田應召大に掠奪して去れり。(二十八日、時事)

▲飛行機送達命令

(二十五日北京特派員發) 政府は二十五日張敬堯の要求に依り飛行機二機を李厚基の許に送ることを命ぜりと。(廿八日、朝日)

▲王占元積極方針同意

(二十六日漢口特派員發) 王督軍は今回中央政府の西南に對する積極的方針に賛成の旨を回答し南方既に平和の誠意なき以上主戦は己むを得ざるべし曹錕張敬堯一人既に新任さるゝあり命を奉じて南征せば軍容之が爲めに一新せん本督軍又任地に在りて全力を盡すべしと打電せり。(廿九日、朝日)

▲廣東軍江西侵入

(北京特電廿七日發) 陳光遠氏よりの報告に據れば廣東軍約一千は江西省南部虔南に侵入し來り北軍と衝突し又信豐方面に侵入したる廣東軍は吳徑に到着したり。(廿九日、時事)

▲龍氏に討伐費

(北京特電廿七日發) 北京政府は龍濟光氏に廣東討伐費として二萬元を交付することに決せり。(廿九日、日日)

▲馮玉章氏叙勳 (北京特電廿七日發) 政府は常々恢復の報及陸軍死
 利に對する反感を和ぐる爲馮玉章氏に勳章を授けたり。(廿九日、日日)

▲岑を總裁の首位に (二十八日上海特派員發) 香港來電雲南省唐
 繼堯は岑春煊を廣東軍政府總裁の首位と爲すに賛成せり。(廿日、朝日)

▲山東督軍代理任命 (北京特電廿八日發) 山東督軍張樹元之兵出仕の
 留守中督軍代理兼省長に張樹元氏任命せらる。(廿日、時事)

▲陸の殘黨復讐計畫 (二十七日漢口特派員發) 陸建軍の殘黨漢口に
 入込み徐樹錚の來漢を待ち復讐せんとする噂あり王督軍は特に警戒せしめつ
 つあり。(廿日、朝日)

財政關係

▲吉會借款調印 (北京特電十七日發) 日支吉會鐵道借款金額二千萬圓
 (全長二百七十七哩)は十一日假調印を了せり之に關し外國人間の批評に同鐵
 道は經濟上よりも寧ろ軍事上の必要に基けるものなり元來同鐵道は吉長鐵道
 の延長線にして日本の既約權なれば滿洲の藩ちんとするに等しく日本として

は此際同借款の前渡金が對南軍費に使用され南方の感情を害することをも顧
 みずして調印を焦慮する程のものにはあらずるべし況んや此借款が煙酒借款と
 同く私設公使と假稱する四原龜三と曹汝霖との間に成立し日本公使館は關知
 せずとの一事は外國人の諒解に苦しむ所にして日本の外交が獨逸式なりとの
 批難あるは遺憾なり云々。(十八日、日日)

▲龍濟光借款商議 (十六日北京特派員發) 龍濟光は廣東恢復の軍費
 に當つる爲め三井洋行と借款契約を商議しつゝありしが數日内に調印の運び
 に至るべしと内容は連額日本金五百萬圓手取九十五利率年六分期限十年にし
 て廣東某鎮山を抵當とす龍濟光は廣東總務督辦の名義を以て調印の簽段處理
 は既に許可の内意を與へたりと。(十八日、朝日)

▲幣制借款前渡 (十八日北京特派員發) 幣制借款一千萬元の前渡は

支那政府の要求に依り四國借款團は目下倫敦本部に照會中なるが本月内には
 日本より右一千萬元を交付の運びとなる筈なりと。(廿日、朝日)

▲吉會鐵道借款別報 (北京特電二十日發) 興業、臺灣、朝鮮、三銀行
 代表者吉川孝秀氏は十八日交通部に於て支那政府を代表せる曹汝霖氏との間
 に左の如き借款契約の假調印を了せり

(一) 費途 吉會鐵道建設費 (二) 總額吉會鐵道建設費と同じ (三) 借款の
 形式、興業、臺灣、朝鮮の三銀行をして公債を募集せしめ募集の場所は多
 分東京及び大阪 (四) 擔保 吉會鐵道財產及び收入 (五) 前渡金同鐵道完
 設準備金として日本金一千萬圓を即日東京に於て支那政府代表に交付す
 (六) 豆江鐵道建設費は日支兩方面中額充實擔す。

▲細目規定と使途 (借款契約の細目は不日當地に於て本契約調印の
 際之を規定する筈なるが多分利子五歩割引無償還期限四十年たる可く總
 額は假契約には該鐵道費と同額と規定せるが金額は二千萬圓或は夫れ以上に
 上る可しと尙ほ日本側當事者の言明する所に據れば今回前渡として支那政府
 に交付せる金一千萬圓は果して該鐵道建設に使用するや或は他の政費に充用
 するやは全く支那政府の隨意にして銀行側に於ては毫も容喙せざる筈な
 りと。(二十二日、時事)

▲吉會前渡金 (北京特電廿日發) 吉會鐵道前渡金は手取金額利子七分
 五厘十九日又は二十日東京にて交付の約成れり同金の費途に就ては何等監督
 の方法なきを以て民間側に支那政府が之を軍事に利用せんことを恐れ本協利
 に反對の意志を表せり。(廿二日、日々)

▲吉會借款使途 (上海特電廿二日發) 吉林會審鐵道前渡其他最近
 日本よりの借款は皆廣東討伐費に用ひらるべしとて當地支那紙は報道せり。
 (廿三日、日々)

▲上海關稅改正 (上海特電二十二日發) 上海關稅改正問題に就き一千九
 百十二年より一千九百十六年の商市價に基き五歩稅を計算し新稅率を定め
 之を定むるに就ては上海に於て之を稅關其他より提出する確乎たる證據に基
 き關稅改正委員に於て行ふ事又關稅會報は歐洲戰爭終結後二年を経て一部
 若しくは全部の改正を行ふこととなり既に各國政府の承認を経て目下支那官

憲と交渉中にあり北京よりの許可を待つて右改正の會議開ける可しとのこと
北京より來電ありたり。(廿三日、時事)

▲更に鐵道借款進行 (上海特電廿三日發) 此度地租借款に就いて
は五國銀行團に優先権ありと抗議ありし爲め取消されしが今又他の鐵道借款
として一億萬圓を貸す可く國庫地三氏と曹汝霖氏との間に談判進行中なりと
のことなり。(廿五日、時事)

▲兩借款進行說 (二十三日北京特派員發) 支那側の傳ふる所によれば
京奉鐵道借款と七年公債借款(七年公債を抵當とす)は目下進行中なりと。

(廿五日、朝日)

▲廣東民借款反對 (上海特電廿六日發) 當地廣東人の各團體廣肇公
所潮州會館其他連名にて北京の大總統府及び國務院宛にて打電して曰く龍濟
光が廣東省全省の鑛山を抵當に外債百萬元を借入ることなるが地方の
權利を失ふと共に國家の權利をも失ふ可し國民は到底之を承認し得ざるのみ
ならず右借款を以て廣東の人民を殺さんとする戰費に用ゐんとす是れ人民の
生命問題なり然も國家の爲めに主權を失ふに至らしむるものならずや南北兼
是れ一家なり初め相爭ふも結局和合す可きものなり其時國權一度失はるれば
永く恢復の期なし廣東も亦支那共和國領土の一部なり我等廣東を愛し國を愛
し廣東の鑛山を保つを以て國家の主權を保つものなりと爲すものなり何卒國
家を前提として該借款を取消し以て危きを挽回し大局を全うせられたし
と。(廿七日、時事)

▲稅關改正の協議 (上海特電廿六日發) 本日午後蔡廷幹等支那關稅
改正委員は各國委員と會見し通般北京にて協商國公使との間に成りし取極め
に依り關稅改正案に就き協議す今後も續いて會合の筈。(廿八日、時事)

▲一千萬圓前渡 (二十六日北京特派員發) 幣制(一)借款一千萬元前渡
は北京四國銀行團に協議の結果日本より融通する事となり一方倫敦本部に照
會すると共に北京正金支店より本國に要求中なるが七月五日頃に交付さるゝ
に至るべしと

備考 電文不明の箇所あるも暫らく記して後報を待つ。(廿八日、朝日)

▲龍濟光軍費借入 (二十六日發北京電報) 龍濟光は當地に於て日支

運業銀行より四十萬元の軍費借入を了せり三井の借款に關し三井側は全然否
認せるが唯々軍器購入に付き兩三回交渉せしめ成立するに至らざりしと。

(廿八日、朝日)

▲日本に鐵鑛賣却 (二十六日北京特派員發) 支那政府は龍關鐵鑛發賣辦
陸宗輿をして龍關鐵鑛の鐵石を日本に賣却せしめんとす一噸支那銀四十錢
の相場にて賣り日本より日本金千萬圓の前借を受けんとするものにて日本
は其の爲め辦公處を設くべしと支那派は報せり。(廿九日、朝日)

▲幣制改革案起草 (廿六日北京特派員發) 支那財政部は目下幣制改革案
を起草中にして出來の上は四國團の檢閱を待てきものなりと。(廿九日、朝日)

▲幣制改革實行如何 (二十八日北京特派員發) 消息通は曰く支那政
府は阪谷男の財政顧問招聘を幣制改革實行に決定したる場合に於てこの條
件附きとせり故に阪谷男の招聘確定は兎に角幣制改革實行の確定を意味す然
るに改革實行の事は未だ正式に決せざれば男の招聘も當然未定とす從來支那
政府は改革の意ありしも今日迄斷行の機なかりしなり實行するに於ては四國
財團より二千萬磅を貸付くる筈なるが今日の狀態にて日本が其金額を引受く
るの外なし一千萬磅は鹽稅剩餘金を擔保とする筈なるが殘餘に就ては未だ擔
保を定めず右二千萬磅は裏債に據るべきが今日日本の狀態にて一時に募入不
可能なれば多分二回引渡すべきは所謂幣制借款差後一千萬圓の交付は日本よ
り交附の運びに至りつゝあにれど尙實行までには多少の時日あるべし云々。

(卅日、朝日)

▲幣制借款前渡 (北京特電廿八日發) 幣制借款一千萬圓前渡に就
ては軍費に充當する處ありとて四國銀行團内にも異論あり倫敦本部に問ひ合
せ中なりしが最近本部より日本側の意見に任すべき旨返電あり銀行團の意見
決定せるを以て表面の用途は前回同様行政費として貸與することに決し一週
間内に調印を見るべし擔保は鹽稅剩餘金にて利子其他の條件は前回の契約と
同一なり。(卅日、日々)

▲對日二千萬借款 (二十八日北京特派員發) 支那政府は吉林省内の
一大森林を抵當として日本より二千萬元の借款を起さんとしつゝあり財政部
は同意し居れるも農商部は反對し居れりと總統府側に消息さる。(卅日、朝日)

▲三菱借款成立す (北京特電二十八日發) 三菱及びヴィンケル

との間に進行中なる上海船渠に立借款に就き支那側も異議なく一致を見たり。(廿日、時事)

▲嶺山所有者の反對 (二十八日、香港特派員發) 廣東の嶺山所有者は龍濟光の同會嶺山を抵當に借款すべしと云ふを聞き北京に反對の電報を寄せたりと。(廿日、朝日)

經濟關係及其他

▲滿鐵の配車 (十五日大連特派員發) 長春驛滿貨物の停滯せるものあり之が一掃のため滿鐵は過般來東清よりの引繼中止中の所十五日より復舊し爾後長春驛中繼二十車連絡貨物五十車を一日の引繼個數と定めたり又門司下關貨物輻輳の影響を受け輸送中止中なりし滿洲發朝鮮經由内地行連絡扱に係る一日三車分は是亦十五日より朝鮮線にて引繼輸送を開始せり東清貨物の滿鐵引繼開始に依り北滿に停滯せる產物は今後前次南下さるゝこととなり浦鹽方面への輸送杜絶より起る經濟的恐慌を幾分緩和し得べし。(十七日、日々)

▲筏夫賃銀値上要求 (安東縣十六日發) 鴨綠江筏夫數百名賃金値上げを迫り露林所採木公司等休業す。(十七日、時事)

▲亞細亞銀行組合成立 (十九日北京特派員發) 紐育の主なる銀行の出資に依り今同バンキンググループレシヨン成立せり資本金二千萬弗本店を紐育に置き支店を先づ上海、桑港に設け追つては漢口、天津、奉天等にも設くべしと云ふ目的は米支の通商貿易の發展を延長せしむる機關として日本の企業と利益相反せず歩調を共にし支那の發展に資すべしと稱す。

▲南滿鐵道國有内定 (上海特電二十一日發) 九江來電に依れば南滿鐵道を國有となすことに内定したりと。(廿三日、時事)

▲華僑實業銀行 (北京特電廿一日發) 南洋華僑代表蔡某等は日本資本家澤來太郎氏等と聯合して一千萬圓の華僑實業銀行を設立せんとし支那政府に出願せり同銀行は大體滙業銀行に似し資本金の八分は支那人二分は日本人より出資する計畫なり。(廿三日、日々)

▲鐵道收益の増加 (北京特電二十二日發) 交通部の報告に依れば民國六年度の鐵道總收入は六千四百萬弗支出は四千四百萬弗にして純益金二千萬弗なり其前年度増收に比し二百五十萬弗の増加なり。(廿四日、時事)

▲四鄭鐵道延長計畫 (二十四日、北京特派員發) 支那は四鄭鐵道の延長を計畫し目下日本と借款の商議を開始したりと確聞す。(廿六日、朝日)

▲京漢鐵道開通 (漢口發二十六日其筋着電) 京漢鐵道は直隸省の南部臨洛關及邯鄲縣附近に於て出水のため破損し本月二十二日以來天津發列車の到着時間不定なりし處昨今は全部開通し二三時間延着するに過ぎず又粵漢鐵道も湖北省咸寧縣下一帶出水し線路約一哩破損したるため武昌岳州間は二十四日以來不通となり目下修理着手中なれば一週間後には復舊の見込みなりと云ふ。(廿八日、時事)

▲宣化鐵礦採掘請願 (二十八日上海特派員發) 梁士詒は宣化府の鐵礦採掘を請願し農商部は技師を派し取調中なりと。(廿九日、時事)

▲日華紡績會社 (上海特電廿八日發) 當地インダナナシヨナル紡績を買入れ新に日華紡績會社と改稱經營するに就き河崎助太郎、馬場吉興、田邊輝雄三氏は春洋丸にて今日到着せり。(廿九日、日々)

▲大豆の保險解除 (二十七日大連特派員發) 三井保險部を代表者とせる内外十六保險會社は本年三月以來の大災保險金支拂額に六百七十萬圓に上る見込なるが火災の原因は不明にして益危險を増加するのみなれば將來に對して不安を感じ各保險會社は協同の上二十七日以後の積荷量に大豆に對する保險契約を商法第四百十一條に依り斷然解除の旨通知せるを以て各荷主及び銀行業者は恐慌を來し何等かの善後策を講ずるにあらざれば早速二十八日より大豆其他穀類の取引は不可能とならんとす斯かる問題を起したる其當日午前八時又復第八回の火災を起し大豆凡そ八貨車を焼き益恐慌を大ならしめつゝあり。(廿九日、朝日)

▲大豆高粱立會停止 (二十八日大連特派員發) 大連積貨物に對する保險契約解除の結果取引所は廿八日より先頃の大豆高粱の立會を停止するの已なきに至れり理由は官設取引所機關たる大連取引所信託株式會社事務規定に火災保險を附しあらざるに免物取引に對し決算の義務に任ぜずとの條項に照し賣買行為不罷となりたるに因り今後の成行如何に依り特產取引界に重大問題を惹起するの恐れあり。(卅日、朝日)

支那

第九卷 第十五號

要目

論說	歐洲戰後と日支合辦(三)……………一—四
資料	滿洲土地商租須知並解釋(三)……………五—一〇 江西省に於ける煙草(二)……………一一—一四
雜錄	食料品供給地としての支那……………一五—一八 英國對支貿易論(三)……………一九—二三 英國の對支政策(三)……………二四—二九
彙錄	支那人の支那政治論……………三〇—三四 支那の關稅收入……………三五
事業界	支那事業界近況……………三六—三九
時報	支那最近時事要項……………四〇—四三
彙報	支那關係諸報道……………四四—五六

東亞同文會調查編纂部

支店出張所



支店出張所

株式會社

臺灣銀行

(臺北)

支那

上海 厦門

九江

漢口

福州

汕頭

香港

廣東

南洋 歐米

新嘉坡 孟買 倫敦

紐育

スラバヤ

スマラン

バタビヤ

臺灣

基隆 宜蘭 臺東

臺中 淡水 花蓮港

嘉義 新竹 澎湖島

臺南 桃園

打狗 阿緱

内地 神戸

大阪

横濱

東京

貸借對照表
負債之部

[illegible]

損益計算

所有動産不動産	一、三八、三〇〇,〇〇〇
一預金	二、五九、七九〇,〇〇〇
一現金在高	二、六六、四四一,一五五
合計	一、二二、三〇一,一九六七
損益計算	
一總益金	四、九八、〇五五,六四〇
元株式會社馬關商業銀行合併契	三〇〇,〇〇〇,〇〇〇
約因收益金	一、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
配當平均準備金	一、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
前期繰越	三、九八、〇五五,六四〇
計	五、九八、〇五五,六四〇
仕拂利息並諸經費	四、一五、三三三,二二〇
元株式會社馬關商業銀行解散始末金	一、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
差引	一、〇〇〇,〇〇〇,〇〇〇
純益金	一、三三、五五五,元〇〇
此配當計算左ノ如シ	
法定準備金	二、四〇〇,〇〇〇,〇〇〇
配當平均準備金	一、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇
實與及交際費	八、五〇〇,〇〇〇,〇〇〇
使用人	二〇,〇〇〇,〇〇〇
恩給基金積立金	五、六八、七五〇,〇〇〇
配當金(年一割)	七、二五、〇〇〇,〇〇〇
後期繰越金	七、二五、〇〇〇,〇〇〇
右之通候也	
大正七年七月	
大阪市東區淡路町貳丁目	
株式浪速銀行	
會社	
取締役頭取	松方正雄
常務取締役	愛甲兼達
取締役	山中隆之助
取締役	宅中德平
取締役	高崎親章
取締役	山本辰六郎
取締役	前田時三
常銀行ノ帳簿證憑書及財産ヲ精査シ前記ノ通り相違無之ト確認候	
監査役	平田正之
監査役	浮田桂造
監査役	德永安兵衛

株式會社
近江銀行

株式會社
近江銀行



大正七年八月一日發行
「支那目次」
第十九卷第十五號

論說

歐洲戰後と日支合辦(三).....一四

資料

滿洲土地商租須知並解釋(三).....一〇

江西省に於ける煙草(一).....一四

雜錄

食料品供給地としての支那.....一八

英國對支貿易論(三).....二三

英國の對支政策(三).....二九



彙 錄

支那人の支那政治論(五)

三〇—三四

支那の關稅收入

三五

事業界

麥加利銀行營業成績—豐司公司營業成績
廣東保險會社營業成績

三五—三九

時 報

(政 治)

段系督軍の通告—馮玉祥辭明—外交總長交迭說—法律館總裁と院長—在廣東議員數

(軍 事)

軍費支給方針—廣東討伐軍編成—海軍維持案—督軍署の防範計畫

(經 濟)

六月分鹽稅餘款—天津紡紗廠擴張—阿爾泰の開埠—河南金融會議—六月許可の礦產—熱河採金局—裕通實業銀行—五族商業銀行創立

(交 通)

大連輪船現狀—京綏線成績

彙 報

四四—五六



葵印窓硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式會社

第一工場 兵庫縣尼崎
第二工場 福岡縣戸畑
第三工場 神奈川鶴見
第四工場 福岡縣枝光
煉瓦工場 兵庫縣尼崎
曹達工場 福岡縣戸畑

鐘淵紡績株式會社六拾參回 決算報告

損益計算

總收入金	總支出金	差引	固定資產消却金	臨時利得稅引當	再差引	當期純益金	前期繰越金	計	株主配當金 (但年二割) 臨時株主配當金 (但年五割)	諸種積立金 (故朝吹氏記念職 工療養特別基金 使用人病傷老衰 退職恩給資金 職工幸福増進資金 使用人給與職工 臨時賞與金 役員賞與金 後期繰越金 右報告候也)
八七、二九八、一七〇、〇二二	七四、五二七、六三二、八七四	一二、七七〇、五三七、一四八	二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇	一、四二〇、〇〇〇、〇〇〇	九、三五〇、五三七、一四八	三、六四一、一三三、〇八七	一二、九九一、六七〇、二三五	一、五七八、六九七、〇〇〇	三、九四六、七四二、五〇〇	二、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
								一〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
									二〇〇、〇〇〇、〇〇〇	二〇〇、〇〇〇、〇〇〇
									三五〇、〇〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇、〇〇〇
									三八一六、二三〇、七三五	

大正七年七月

東京府南葛飾郡隅田村

鐘淵紡績株式會社



大正七年八月一日

第九卷 第十五號



論 說

○歐洲戰後と日支合辦 (三)

第三 中外合辦事業の得失

中外合辦事業の利害得失は、業既に前二篇の各所に於て略述する所ありたるも、更に之を綜合して説明せん、先づ試みに其利益ある方面を見んか。

一、彼我の長所は利用し得ること

外國人は資本に富み、技術に秀で、工場の監理と、事業の經營とに於て優り、支那人は各種の交渉、敷地の購買、職工の募集、市況の調査等につき多くの便宜を有するものなれば、中外人合同して事業を經營するときは、彼我の長所を充分發揮し得べき也。

二、相互の不利を補充し得ること

外國人が經營し得べき事業の種類と土地とにつき制限あり、東部内蒙古に於ける農業及附隨の工業は、單獨にて經營することを得ず、鑛山探掘は支那人と合辦することに依り始めて許可せられ開放地を離るゝこと一步なれば、事業を經營すること能はず、又

那人は國內に投資の好目的物を發見し難く、最近十餘年恐慌頻りに起り、山西資本家は資金の回收に努めつゝあり、殊に革命亂後、内亂に踵ぐに内亂を以てし、財産安固殆んど期すべからず。若し此等の中外人が合辦して未を經營せんか、相互の不利益を補充することを得べし。

三、中外人利害を共にし排外思想を和ぐるを得ること

中外合辦は、企業より生ずる損益を、彼我の間に分擔せしむるに依り、相互に損失を避けて利益を享けんと易むるを以て、双方の關係密接に赴き、外國人の利益壟斷により激成せられたる、利權回收思想の如きも、次第に冷却するに至るべきなり。

四、買辦の使用を廢止し得べきこと

中外合辦事業に就ては、其支那人と取引する場合に當り復た舊來の如く、買辦を使用することを要せず、内外人共に、買辦使用に依り、利益を壟斷せらるゝの害を覺るべし。若し合辦事業にして流行せんか、對支企業の障礙たりし買辦なるもの廢止せられ、支那經濟界の進歩を促すべし。尋て合辦の弊害ある方面を見んか。

一、損益分擔の爲め無責任に流るゝこと

損益分擔は、往々關係者をして無責任に流れしむべきは

人情の弱點たり、殊に支那人の如く、公共心に乏しきものにありては、此弊特に甚だしきを見る。

二、支那實業界固有の弊に罹り易きこと

外國人が支那人と合辦する場合には、支那の風俗習慣を參酌するの必要あり、之が爲め往々官利の配當を認め、或は拂込未済株金の拂込強制を避け、或は冠婚喪祭に少なからざる贈物を爲し、甚だしきは支那側重役の親戚朋友を使用するの已むを得ざるに至るなど、支那實業界固有の弊に罹り、遂に事業經營難を馴致するの虞あり。

三、外人横暴の弊に陥り易し

外國人は出資額多くして技術卓越し居れることなれば、合辦事業の支配權は動もすれば外國人に歸し易き傾きあり。外國人も亦成るべく企業的全權を握り、支那人をして合辦の空名を擁せしめんと努め、往々支那の人情風俗を顧みず、横暴を逞しつゝあり。所謂利權と稱するものゝ經營に於て、此弊特に著しきを見る。

四、往々排外運動を挑發すること

外人横暴の結果、支那人は合辦事業を以て、利權を外人に壟斷せしむるものなりと誤解し易く、合辦事業にして成績良好ならんか。之を羨望するもの多かるべく、殊に合辦事業の爲め壓迫を被むるべきものは、之を嫉視すること深

かるべきに依り、排外思想を緩和すべき合辦事業が、反て往々排外運動を挑發すべき恐れあり。

五、華洋箝制の弊

外國人の横暴を矯正せんが爲め、彼我の權限を均衡にせんか、所謂華洋箝制の弊に陥るべし。華洋箝制は滿漢箝制の遺策より出でたるものにして、支那政府は外國人に特許せる事業は、之を中外合辦と爲し、成るべく中外人の權限を均衡にし、互に相牽掣せしめ、外國人の勢力發展を防遏せんと試みたり。即ち支那政府は此方法に依り、外國人の勢力發展を防遏し得れば其目的を達し得るものにして、之が爲め事業の失敗することを顧みざりしなり。然るに、支那人は此方法を營利を目的とする普通事業に適用せんことを望むもの少なからず、之が爲め職員を二倍にし、責任の歸着點を曖昧にし、事務の處理を複雑にし、經費の額を多大にし、遂に有望なる事業をして失敗に畢らしむ。

一利一害は數の免るべからざる所、如何なる事業にありても、利害伴はざるものなければ、吾人は唯須らく利益ある方面を取り、弊害ある方面を除くに努むべきのみ。中外合辦の發生は、日清戰後自然の勢にして、日支兩國の國情に照らすに、日支合辦事業の發展を促がす切なるもの存すれば、兩國官民たるもの、大に思を是に致し、其發達に盡力せずんばあるべからざる也。

第四 日支合辦事業の成績

日支兩國は特殊の關係あり、兩國人互に意思を疏通し、長短共に補足し得べき便宜を有するを以て、其合辦事業を經營するに當り、利益ある方面を採り、弊害ある方面を除くことを得べきに依り、中外合辦事業中、日支合辦程、合理的なるものなく、合辦事業の眞正の目的に副ふべき、各種の日支合辦事業、漸次盛大に赴きつゝあり。若し其成績にして良好ならんには、單に合理的なる事業たるに止まることなく、其實行的なるを見るなり。知らず其成績如何。

一一

日支合辦事業は種々あるも、之を大別すれば二と爲るべし。其一是所謂利權と名くるものにして、其二是普通の營利事業なるものはなり。利權の重なるものに、鴨綠江探木公司、本溪湖煤鐵公司、及漢冶萍煤鐵鑛廠公司の三あり鴨綠江探木公司は、彼我の權限を同等にし、所謂華洋箝制策適切に實行せらるゝにより、其成績極めて惡しく、歐洲大戰勃發し、木材の價格暴騰することなかりしならんには如何なる窮境に陥りたるや測り知るべからざりしなり。本溪湖煤鐵公司是、彼我の權限を同等にする前者と異なることなきも、日支人の長所に應じて、職務の分擔を定むるに依り、成績良好にして、或は之を以て合辦事業の模範なりと激賞するものあるに至る。漢冶萍煤鐵鑛廠公司是其形式借款關係に過ぎざるも、日本より技術會計顧問の名義を以

て事業經營者を派遣し居れることなれば、之を合辦事業と稱するも、敢て不可なかるべく、何分數十年の積弊存するあり、一朝之を釐革すること能はざるも、日本顧問赴任以來、事業一新の運に向ひつゝあるは争ふべからざる事實なり。されば、利權に屬するものも、鴨綠江探木公司の如く故意に事業妨碍の方式を採ることなく、本溪湖煤鐵公司の如く、彼我の長所を活動せしめ得べき組織に出でんか、其成績良好なるべきこと、疑ひなかるべき也。

三

日支合辦事業中其重きを爲すものは、普通營利を目的とするものに存するや明なり。營利を目的とする合辦は、其起源比較的新にして、事業創始に伴ふ各種の障碍あり、又成績の良否を判するに足るべき正確なる統計を得ること難けれども、試みに各會社の報告に基き、其一斑を窺はんか。支那に於ける外國人の經營する事業中、成績拔群なる紡績工業にして、歐洲大戰前三ヶ年間の配當平均率を見るに、怡和紗廠三割五分三厘、上海紡績會社一割九分三厘に達し成績最も下れる瑞記紗廠の如きすら、尙ほ七分三厘を示せり。紡績會社に亞ぎ成績佳なるは、水道、瓦斯、電燈、電話等特定地域に於ける獨占性質を帯びたる事業にして、其配當平均九分内外なり。其他の事業は成績區々にして一律に論じ難きも、平均配當率七分に達するものは、其株式市場に於ける相場、株券額面と略ぼ同一なり。之を換言すれば、支那に於ける外國人の經營する事業の利潤は、七分内外な

りと謂ふことを得べし。従つて日支合辦事業の配當率が七分以上に達せんか、其成績尋常以上なりと稱し、差支あらざるべし。日支合辦中、七分以下の配當を爲すものは、鐵嶺電燈局、營口水道電氣株式會社、東亞通商株式會社等なるも、東亞通商株式會社は、利益の大部分を積立て株主に配當せざるものなるを以て、其眞に七分の配當を爲す能はざるものは、指を屈するに過ぎざるなり。遼陽電燈公司は一割二分乃至一割八分、瀋陽馬車鐵道公司は一割乃至一割三分、大連取引所信託會社は一割二分、正隆龍口兩銀行、上海製造絹絲股份有限公司は、何れも皆一割の配當を爲し、日支合辦會社の總平均率は九分内外なり。之を標準利潤七分に比較し好成績なりと謂も敢て不可なかるべし。

四

以上述ぶる如く、日支合辦事業は些少の例外を除き、成績孰れも良好にして、殊に營利を目的とする企業の成績秀絶なるは、大に注目するに足るべく、若し吾人にして、今日の好機に乘じ、日支合辦に力を竭さんか、歐洲大戰後、列強が支那市場に殺到し、其本國に於て失ふ所のものを、支那に於て償はんことを謀るとも、吾人は何等憂ふる所あらざるべき也。





資料

滿洲土地商租須知並解釋 (三)

八、土地を出租するも其所有權は仍ほ地主に在るものとす但し納付すべき土地に關する一切の課税は承租人に於て規定を按し地主に交付すべき租價内より引去り地主に代りて之を納付すべきものとす

(解釋) 土地既に出租すと云ふ當然出賣と比較すべきものに非ず則所有權の地主に在るや言を俟たず本條故に其所有權仍ほ地主に在りとの一語あり蓋し重言して之を申明するは土地所有權の出租に依りて外人の手に落ち條約の本意を失ふを致すを慮ればなり從來土地の大租(地租)に關しては地主より納付せり而して本條承租人をして地主に代り納付せしむるものと定めたるは地主地を出租し租價を得たるの後故意に遠行し又は事に依りて他に移住せば地主より納付すべき課税は勢ひ必ず徴收すること能はず國家の財政收入從て大に影響を受くべく且つ此種の

租地期限は三十年を以て極限と爲すが故に租借の期間は尋常短年月に非ざるや明なり地主既に所有の土地を以て長期の出租を爲すときは收むる所の租價少額に非ざることも明瞭なりとす租期長く租價亦多しとせば法律上の土地所有權は尙ほ地主に在りと雖も而も該地主は法律上の租借を以て事實上の出賣と看做すことなきを保し難し是れ其の金錢を携へて他去するを免れ難き所以にして善後辦法を俟たざれば課税を徴するに由なく徒に國家をして損失を受けしむるに至らん此れ本條に地主の納付すべき土地に關する一切の課税は承租人より地主に代りて納付すべきものとせる所以なり但し從來租稅納付の義務を負ふ者は土地所有權を取得するを常とす本條に定むる所の所有權なき承租人をして地主の出すべき一切の課税を納付せしむるものとせるは原と特別辦法に係る故に文内に

於て「地主に代りて納付す」との字句を注明し以て課税を納付するは承租人固有の義務に非るを明にす且つ此の代字ありて上文「其所有權は仍ほ地主に在り」との語に聯續するに足るを以て納税義務あるに依りて土地所有權問題に牽及するを致さざらしむ只此種の特別辦法は便宜上の判定に過ぎずして法律上より之が根據を立つるものに非ず則ち承租人若し否認せば執行し難きこともあるべし故に契紙背面に於ける双方の遵守事項中に記入し之を以て租借契約の一條件と爲さしむべし承租人若し先づ之が承諾をなさざれば必ずしも之を訂約せざるべし既に契約證の作製を経たる以上は契約中の條件に對しては既に承諾したるものを認め絶て反對を許容するの餘地無かるべし

文内に「地主に代りて納付す」との一語を用ひたる理由上述の如し然も此に又一問題あり即ち承租人は納税後に至り地主に向て代納金の償還を要求せざるを保し難き一件とす若し承租人をして代納せしめたる後更に地主に向て求償せしむるものとせば其間必ず幾多の糾葛を發生し轉じて紛擾を多くせん故に本條「承租人に於て規定を按し地主に交付すべき租價内より引去り」との語あり承租人をして地主に交付すべき租價中より納税額を引去らしめ代りて課税を納付せしめば庶くは後日求償の糾葛を免れしめんか只本項中極めて注意すべきものは以下の二點とす

(甲)文内の引去の二字は弊害を増し易し蓋し國家課税の

率は常に増加することあるも租價の交納には定限なし假りに租地期限二十年に亘るものとし租して九年目に至り國家の課税を増加することありとし承租人は納付すべき二十年分の租款を既に前八年間に一回に又は期を分ちて完納し且つ納付時の稅率を按して納付すべき稅額を豫め引去りたりとせば此際増加すべき稅率に對しては承租人は求償するに由なきを理由とし既定の額外に増納するを拒み地主は租價を領收して既に他住したらんか増加したる稅額は勢ひ徵收すること能はず且つ表面上承租人の交付すべき租價にして未だ交付済とならざるときは之を引去るの餘地あるべきも而も事實上地主と承租人と別に金錢貸借關係あり地主は既に承租人より交付すべき租價を以て承租人に對する借金の償還に充てたりとせば引去りの一件は勢亦辨到するに由なし

(乙)引去の二字既に弊害あり故に本條定むる所の引去の辦法は唯一の方法と認むること能はずして一種の説明の例と爲すに過ぎず此の以外に於て地主若し土地出租の時に於て承租人に向ひ承租人をして代りて納税義務を負はしめんと欲するに因り特に租價を輕減し以て双方の損失を免れしむとの語を聲明し仍ほ契約證中の記載事項欄内に此の旨を明記せば租價を輕減するの中承租人の納付する課税を報償するの意を寓せん此等は皆地方官より双方租契約證を記入領收する時に於て特別に注意し詳に解説を爲し以て國家の課税をして徵收す

るの法なきに至らしめず當事者をして後日の紛擾を醸
さいらしむるを期すべく是れ本條規定の要義とす

更に一件の注意すべきものあり即ち土地に關する課税
の中習慣に照し承租人より負擔納付するものあるとき
は仍舊に舊に照すべく地主に代りて納付するものと看做
すことを得ず蓋し從來既に地主より納付するものに非
れば所謂代納に非ざるなり

九、商租土地の地主死亡又は絶家となりたるときは其土地
は該所管地方官に於て查明の上國有に歸すべし商租滿限
となり再び續租を要するときは第十一條の方法に據るも
のとす

(解釋) 本條の主旨は土地の所有權を保全して外人の手
に落入せしめざるにあり蓋し地主果して死亡するか或は
逃亡失踪して其家別に土地所有權を享有すべき繼承人な
ければ其の土地は既に主なきものにして承租人は所有者
を以て自ら任するなきを保し難し今國家が之を國有に收
歸するときは承租人の位地依然として變するなく土地の
所有權自ら歸宿する所あり惟だ地主の死亡、逃亡、絶戸
あるも承租人に於て必ずしも報告することを肯せざると
きは各該地方官は警察に命じ隨時注意し若し此種的情形
あるときは迅速に明査して國有に收歸せしむべし若し地
主にして早既に他處に赴き該管警區が調査報告するに由
なきときは原租期の滿限を俟て國有に收歸すべし

本條は既に土地の所有權を保存する爲め設けたるものに
して決して國家か何等利を得るの意なし若し承租人が地

主に對し未だ租款を完納せざるも國家は亦必ずしも之に
向て索取せず之に反し地主が若し承租人と各種金錢關係
の糾葛あるか或は既に租金を收押しあるも承租人は亦國
家に歸納せるの故を以て該所管地方官に向て糾纏するを
許さず蓋し國家が既に地主に代て權利を行ふにあらず但た
が故に従て地主に代て義務を負擔するものにあらざる
土地所有權をして喪失せしめざるは既に國家の盡すべき
職任なり故に商租滿限に際し承租人が若し續租せんとな
るときは乃ち第十一條に按照して處理し國家が該續租を
情願する原承租人と直接協議するものにして滿期以前に
於て國家が承租人に對し契約當事者の位地に立つに非ら
ざるなり

十、抵押租典したる土地は該原有地主に於て回贖したる後
に非れば出租することを得ず

(解釋) 本條の解釋に當りては本須知第六條の解釋を參
照すべし蓋し第六條の解釋は凡そ土地の商租に當り地主
が所屬地方官署に向ひ租地用紙を受領記入する時は原地
券類を携帯して檢閲を受くべく該地券にして未だ登記を
爲さざるときは即時に登記を了し以て所有權の確實なる
ことを明にすべきを云へり是れ地主の所有地にして抵押
又は租典等の關係に依り大照を他人に交付したる際に更
に該地を以て他人に出租するが如きことあらば兩者の權
利は衝突し必ず種々の糾葛を生ずべきを以て之を豫防せ
んとするに在り故に本條に於ては更に之を明にし既に抵
押租典したる土地は該原有地主か之を回贖したる後に非

されば出租することを得ざることとせり是亦權利の衝突糾葛の發生を豫防せんとするなり但し一面に於て土地を他人に押典し又一面に於て之を他に出租するは習慣上常有のことたり若し絶對に禁止するときは實行し難き恐れあり査するに本須知は法律に非ず單に地方官の商租事務取扱標準と爲すに過ぎず其の根本は日本人に應待せしめんが爲めに設けたるのみにして必ずしも支那人に通用するものに非ず又日本人民と甚しく取扱方法を異にするときは却て外人の口實を増すべし故に地方官をして地方の情形を斟酌し本國人民に對しても同一に通用せしめんとす本條主意の存する所は租借權抵押權の糾葛を豫防するに在るか故に外國人に對しては絶對に適用すべく融通辦理することを得さらしめ以て内外人間の訴訟紛糾を防がしむ本國人民に至ては習慣上俄に改め難きときは酌量變通すべし即ち若し抵押租典したる爲め地券は既に地主の手中に在らざる際地主が該地を支那人民に出租するときは勢ひ本須知第六條の解釋に照して地券を提出検査を受ける能はず斯の如き場合には所管警區より該地が果して該地主の所有なるやを明査し又は該地主をして其所有權を證明するに足るべき他の證據書類を提出せしめたる上其出租を許すべく第十條第六條の規定に依る辦法が衝突する所ありと謂ふことを得ず

十一、官有地の商租に當りては承租人より該管地方官に向て之を申請し地方官より吏員を派し實地を調査せしめ他に需要なき場合は商量租用せしむ若し農業の用に供すべ

き官有荒地なるときは地方官の調査を経之を確めたる後更らに吏員を派し土地を丈量し（丈地には部定の尺を用ひ並に外國尺を列記すべし）を出租せしめ租價の外其丈量費用は租地者より規定に照して納付せしむ

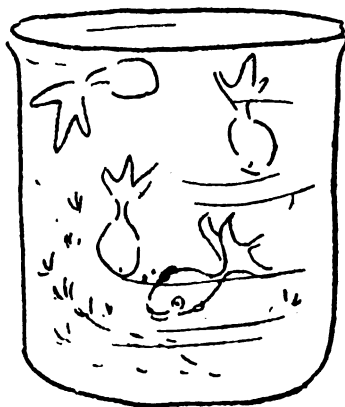
（解釋） 本條云ふ所の官有地とは公有地を包括するものとす故に該管地方官とは公有地を管轄する機關をも包括するものとす承租人の租借を希望する土地が官公有地なるときは各官有地の所轄地方官又は公有地の所轄機關に向て租用を申請すべきものとす當該官署又は機關が右の申請に接したるときは即時に人を派して實地を調査せしめ出租するも妨げなきや現在又は將來に於て官公署は該地を使用することなきを確めたる後商量租用すべく必ず調査を先にし商量を後にすべし調査後商量成らず又は合法の租借と認むる能はざるときは之を拒絶すべし蓋し調査は地の關係を調査するものにして商租は人及其目的に對する關係なるを以て一旦調査を経たりとして必ずしも出租義務ありと云ふべきに非ず條文に「商量租用」と明言するは即ち此を云ふなり

商租人の租借を希望する土地が農業の用に供すべき官公有荒地なるときは所轄地方官又は機關は先づ該地が荒地なりや果して官有又は公有なりやを調査したる後租借條件を商量すべく商量決定したる後人を派して承租地畝を丈量せしむ丈地所用の弓尺は部定のものたるべく且つ外國尺を附列して參考に資せしめ丈量の後に至りて出租を行はしむ承租人は契約に依りて交付すべき租地對價の外

規定に照して丈地の費用を納付すべきものとす蓋し丈地なるものは承租人の爲めに土地を丈量するものにして承租人自ら其費用を負擔すべきものなるを以てなり

本條中最も注意すべきは官有地の商租に關する一節にして此場合に於ては本國人民は外國人民と同一の取扱を爲し以て公産を重することを妨げず其官有荒地の租用に關しては必ずしも本國人民に適用せず蓋し本國人民は荒地を拂下げ其所有權を取得し得るを以てなり要するに荒地租用の一節は専ら外人に對して設けたるものとす故に條文内に於て「租價を除くの外」の一語は荒地を租するものにして荒地の拂下に非ず租の對價にして買價にあらざる事を表明し延て荒地の所有權を租借に依て外人の手に落つるの虞なからしむ

十二、清皇室の私産及王公府第旗の私産にして原と小作人（佃戸）あり増租奪佃すること能はざるものは小作人が租關係を脱退せざる限り其地主は之を出租することを得ず（解釋） 清皇室の私産及王公府第旗の私産に對しては從來佃戸ありて租佃の關係あるもの多く此等は事實に於て所有に同じ故に増租奪佃すること能はざる慣習あり以て佃戸の權利を保ち地主佃戸の衝突を杜く本條記する所は此義に屬す即ち佃戸が租關係を脱退せざる限り地主は外人に對して其地を出租すること能はざるを知るべく支那人に對しても亦出租すること能はざるなり



江西省に於ける煙草（一）

第一 支那煙草の沿革

支那に於ては天然に生せる煙草なく、而して是が栽培を傳へられしは、明の嘉靖二十二年（一五四三年）スペインのフイリツピン諸島を領土として東洋に接近し、一五七五年支那と交通を始めた際、マニラより煙草を澳門に輸入したるに始り、次で臺灣に輸入したり、然れ共未だ支那本土に輸入するに至らず、其の直接輸入を見たるは實に一六二〇年にして爾後栽培次第に盛大となり、今日に於て廣東、福建、江西の産は品質優良にして年々海外に輸出せらるゝもの少からず。

抑も喫煙の風は早くより亞米利加中部及南部熱帶諸島にありしものゝ如くコロンブス一行がタバコ島に上陸せし時土人が野生の煙草の葉を卷き、煙を吸ふを見たりと傳ふるに徴するも煙草原産地は同島附近なるべし。

第二 葉煙草製造の工程

葉煙草の製造は煙草の生葉を收穫し、之を乾燥し、醱酵せしめて其の工程を終るものなれ共、此等の作業は剗然たる區別なきものにして即ち乾燥と醱酵とは同時に行はるゝものとす。

而して作業の巧拙は直に葉煙草の品質を左右するものにして、其の方法を誤るに於ては、時として全く廢物に歸せしむることあり、而も世界各地其の方法を異にするが故に品質に差等を生ずること勿論なり、日本に於ける乾燥方法と支那に於ける夫れとは、自ら異なる、是以其の耕作法等も其慣習に適すべく案出せられ、日本葉、支那葉各獨特の趣きを示せり。

第三 煙草の鑑定法

既述の如く葉煙草の品質は其の産地の如何によりて異なるが故に、其の鑑定も一概に論ずる能はずと雖も、一般標準となすべき鑑定法を示せば次の如し。

一 喫 味

喫味は辛烈なるものよりも、寧ろ緩和なるものを好とし一般の嗜好も亦後者に屬す、而して其の辛烈なるものは要するにニコチンの含有量多きに依るものにして同一地産のものとは雖も通例中葉は緩和なる味を有す。

二 色 澤

色澤も亦各地產出品に就き異なれども、普通は褐黃色にして光澤あるものを上等产品とし、暗黃色又は綠褐色を呈せるものは劣等品とす、而して土葉は概して灰褐色を呈し、

中葉は褐黃色、本葉は濃褐色、天葉は褐色を呈するを常とす。

三 引火及保火

煙草は點火の際、火付きよく、而も其の保存時間永く、急速に燃え盡さるるものを良品とす、即ち葉脈纖維緻密にして細く、粗蛋白質及樹脂の含有少なく且つ多量の加里質を含有し、鹽素を含むこと少なきものは佳品とせらる、之に反し、鹽素を含むこと多きものは、容易に燃燒せざるのみならず、燃燒の際炭粉包燒して酸素の進入を妨げ、燃燒不良ならしむるを以て、人糞、尿等を肥料として栽培したる葉煙草は引火性不良なり。

四 香 氣

煙草の香氣は喫味に次で緊要なる性質にして、香氣の良否は製品の價值と大なる關係を有するものなり、即ち上等製品は香氣良好なるを特質とす、而して一般に濃褐色を帯びたるものは香氣多く、綠色を帯びたるものは惡臭あるを常とす。

五 煙 量

煙量は多きを以て良質とす、即ち煙量少なきは不燃質物多きに由るが故に、従つて煙量の少きものは喫味、香氣共に不良なるを常とす、又殘灰は白色に近きもの程良好にして黒褐色を帶ぶるものは劣等なり、是を以て安徽省宿松縣の產品は劣等なるものと云ふべし。

第四 乾燥法

收穫せし生葉を乾燥し煙草の製造をなす、我が日本に於ける現在の乾燥方法は聯乾、幹乾の二とす、而して葉煙草の成熟は下方より次第に上方に及ぶものにして、其の成熟に従ひ、逐次之を收穫し、聯となし、乾燥せしむるを聯乾と云ひ、土葉は専ら此の方法に依る。

幹乾によるものは概ね醱酵完全にして喫味良好、色澤美にして香氣多きものとす、されど此の方法は専ら屋内乾燥に依るを以て、乾燥に長時間を要し、作業亦困難なるが故に多く之を行はざるの風あり、幹乾の方法は葉を莖幹より掻き取ることなく、其の附着せる儘、蔭乾となすものにして、之を行はんとする時は、土葉の成熟を俟ちて、之を掻き取り、中葉、天葉は其儘幹に附着せしめ置き、後此等の成熟したる時に於て根より刈り取り、蔭乾となす。

聯乾は日乾にして、所要日數は晴曇合せて約十日内外、幹乾は蔭乾にして約三十日内外とす、此の外火力乾燥法なるものあり、是は北米合衆國に於て行はるゝ方法にして、其の設備に費用多きを要すれ共、學理的にして乾燥迅速に而も葉煙草の品質を一樣ならしむるの利あり。

以上は日本及米國に於ける乾燥方法の一斑なれども、支那江西省地方の乾燥方法は我國に見ざる特異なる方法に依る、即ち竹にて作れる枠に一葉宛擴げ張り日乾となす。

第五 煙草產地

江西省に於ける葉煙草の產地として有名なるものを擧ぐれば次の如し。

第七 產 額

江西省内地の各地葉煙草產額に就き一九一三年十月の調査を示せば次の如し。

地名	年 額	一擔價格
廣昌縣下(驛前、白水)	20,000	21—22元
廣豐縣下	10,000	28
饒州府に集るもの	5,000—6,000	15
連 湖	10,000	5—15
都 昌	5,000—6,000	15
瑞 金	11,000	15
宿 松(安徽)	10,000	5—6

江西省產葉煙草出廻り年額は最近二、三年に就て見るに約200,000,000(一件は約重量一八〇斤内外)にして九江を通じて海外に輸出せらるゝもの及び支那各港への移出高を見るに次の如し、

第六 品 質

江西省内產煙草中廣信府產は數年前迄は品質最良とせられしが、現今日本向として歡迎せらるゝは反つて瑞金產にして彼の地に於ては近來其の耕作及製法等にも大なる注意を加へ來れるものあるを以て今後瑞金產は江西を代表するに至るべし。

- 一、廣信府下 廣豐縣 玉山縣
- 二、寧都州下 瑞金縣(新城物をも含む)
- 三、贛州府下 會昌縣 安遠縣
- 四、南康府下 都昌縣
- 五、饒州府下 鄱陽縣 瑞洪 餘干縣
- 六、建昌府下 驛前鎮 白水 新城縣
- 七、南昌府下
- 八、袁州府下 宜春縣 分宜縣

九江 純 輸 移 出 煙 草

葉 煙 草

刻 煙 草

合 計

- 一九〇六年
- 一九〇七年
- 一九〇八年
- 一九〇九年
- 一九一〇年
- 一九一一年

海關報告には一九〇六年より一九一一年に至る六ヶ年は葉煙草及刻煙草を合計して記載せるを以て其の詳細を掲ぐる能はず

九六、六五	六二九、二六二	海關兩
一〇五、七六	六八六、五九二	
一一四、六二	六九九、一五四	
一三、五九〇	八〇〇、六二四	
一三、三九五	九四七、四四七	
三三、四八	一、〇六七、三四八	

一九一二年	二〇九、九三三	海關兩	一九一二年	一五八、八六八	海關兩	一九一二年	五四五、一	海關兩	一九一二年	二〇、一九四	海關兩	一九一二年	二五、三五四	海關兩	一九一二年	一七〇、〇六二	海關兩
一九一三年	二五、一九六	海關兩	一九一三年	九〇、一九六	海關兩	一九一三年	四九五	海關兩	一九一三年	二五、〇三三	海關兩	一九一三年	三〇、一〇一	海關兩	一九一三年	一〇、六九六	海關兩
一九一四年	二四六、三四	海關兩	一九一四年	九四五、六九四	海關兩	一九一四年	五六四八	海關兩	一九一四年	二四、五三八	海關兩	一九一四年	二五、八七一	海關兩	一九一四年	一〇、七〇三	海關兩
一九一五年	一六三、五五三	海關兩	一九一五年	一八四、二六三〇	海關兩	一九一五年	三七六八	海關兩	一九一五年	二二、七九	海關兩	一九一五年	一六、七三二	海關兩	一九一五年	一、九六六、四〇九	海關兩
一九一六年	一五七、四四九	海關兩	一九一六年	一、七六七、五八三	海關兩	一九一六年	四、八一	海關兩	一九一六年	二七、三四六	海關兩	一九一六年	一六、六三〇	海關兩	一九一六年	一、九〇四、九九	海關兩

九江純輸出葉煙草比較表

年次	漢口より	廣州より	温州より	支那各港輸出總高
一九一二年	第一位 一八、九七七	海關兩 一、三三、三四四	海關兩 四、七七	海關兩 二五、六〇七
一九一三年	同 八三、八九七	海關兩 七〇、六〇八	海關兩 三五、四九六	海關兩 二四、二七〇
一九一四年	同 六三、七九七	海關兩 四七、二一六	海關兩 二九、三〇〇	海關兩 一八、七六八
一九一五年	同 九一、二六一	海關兩 五九、七〇五	海關兩 四五、八五四	海關兩 三八、八九七
一九一六年	同 一九〇、五七	海關兩 七三、八七一	海關兩 四〇、二六〇	海關兩 二七、二七三

支那産業煙草主要輸出先國別

年次	日本及朝鮮へ	香港へ	澳門へ	歐洲へ	諸外國への輸出總額
一九一二年	第一位 四四、〇五四	海關兩 四三、〇五〇	海關兩 四三、六五五	海關兩 三三、七四七	海關兩 二七、五二一
一九一三年	二二、三六八	海關兩 二二、二四九	海關兩 三五、七三	海關兩 三三、七三六	海關兩 二四、〇八七
一九一四年	三六、九四	海關兩 三三、三二一	海關兩 二八、九一	海關兩 二四、一八六	海關兩 一八、四一九
一九一五年	六五、四六三	海關兩 六七、三五〇	海關兩 五五、四四〇	海關兩 四四、四二七	海關兩 三三、四三四
一九一六年	四六、二三八	海關兩 四四、三五一	海關兩 三二、八八八	海關兩 二七、八〇四九	海關兩 一九、四七五

歐洲戰前に於ては獨逸向七千擔にして第四位に居りしが一九一五年より英國輸出一萬擔内に代りて獨逸に

第八 江西葉の種類

江西省内に産する煙草は、之を分つて二となす、即ち黃煙草、黑煙草是なり、是等は色澤に依り、區別したるものにして、産地に依りて異なるものなり、前者は葉面黃色を呈し、後者は褐色を帶ぶるものとす。

一、黃煙

黃煙は陰曆五月頃より採取を行ふものにして、新城縣下瑞金縣下等は皆黃煙の有名なる産地なり、瑞金産の黃煙には更に之を區別して三種となし、又廣豐産も數種に分たる而して黃煙の支那産中第一等品は福建産を押す。

二、黑煙

黑煙は本省にては廣昌縣下、寧都州下、石城縣下等に産し、廣東南雄、安徽宿松等亦名あり、然れ共安徽省産は品質劣等にして到底之れのみを以て刻煙となす能はず、故に其の價も一擔に付き七、八弗なり



寄贈書目録

遠東時報	茂生洋行	自一七號至四九號
紙之世界	王子製紙株式會社	自四九號至四九號
實用新案公報	丸の内特許局	自四九號至四九號
特許公報	丸の内特許局	自四九號至四九號
商標公報	丸の内特許局	自四九號至四九號
通商公報	外務省通商局	自四九號至四九號
貿易通報	大阪商業會議所	自四九號至四九號
日華之實業	其	自四九號至四九號
宮城教育	其	自四九號至四九號
奉新公報	其	自四九號至四九號
東洋新報	其	自四九號至四九號
日本及日本人	其	自四九號至四九號
商工	其	自四九號至四九號
東亞經濟研究	其	自四九號至四九號
支那研究資料	其	自四九號至四九號
岐阜商報	岐阜商業會議所	自四九號至四九號
ヘラルドオブラシヤ	其	自四九號至四九號
僧行社記事	其	自四九號至四九號
地學雜誌	東京地學協會	自四九號至四九號
新著書	丸善株式會社	自四九號至四九號
國際法外交雜誌	其	自四九號至四九號
朝鮮彙報	朝鮮總督府	自四九號至四九號
大阪府下、組合、會社、銀行、市場、工場、實業團體一覽	其	自四九號至四九號
貿易	日本貿易協會	自四九號至四九號
臺灣商工月報	字都宮商業會議所	自四九號至四九號
臺灣總督府	其	自四九號至四九號
青嶋實業協會	其	自四九號至四九號
東洋經濟新報	名古屋商業會議所	自四九號至四九號
月報	其	自四九號至四九號



食料品供給地としての支那

在支加奈陀商務官 J. W. Ross 氏

肉 牛

支那は元來人口稠密にして、日々飢餓に襲はるゝもの實に百萬を以て數ふべしと雖、各種食料品の生産能力は頗る豐饒にして、若し今日他の文明諸國に於て廣く行はるゝ培養方法を採用するに於ては、其利用し得る食料品の數量は激増して、少くとも今日に數倍するの盛況を呈するに至らむ、又牛、羊、豚及び家禽の如き其飼育法を改良し、一方運輸機關其他の施設を行ひ、益之が發達を促し、他方には需要の途を講じて家畜及び肉類の輸出を獎勵實行せむには、現に食料缺乏に若しみつゝある諸外國に對しては、之が供給の途を與へ、又之を支那側より見る時は貿易上の利益を收め、以て國內に於ける生活程度を幾分向上せしむるに至るべし。

支那に於ける畜牛の起原は頗る舊くして、遠く有史以前の事に屬すれども、統計の徵すべきものなければこれが頭數を知るに由なし、最近數年間に著しき増加を見たる山東省に在りては其數六十萬と註せられ、四川省にありては其數無慮百萬と號す、而して他の各省に於ける頭數も略之に近きものと見て大過なかるべし、支那に於ては乳牛の飼育は、殆んど等閑視せらるゝを以て、酪農の如き何ら見るべきものなし、従て牛の利用は役用(主として耕作用)に供するの外生肉、生皮、角及び蹄等の利用に限定せらる。

最も廣く各地に飼養せらるゝ種類を見るに、體形小なれ

ども骨格の對稱宜しく、骨太からず細からず、概ね相當の肉付と相當の脂肪量とを有す、而して山東及び直隸等の北部諸省に於ては、一般に稍大形なるを常とす、支那牛には特に變種と稱すべきものなく、歷史上に於て新種の血液の混入せられたる事實を聞かず、多くの畜牛は印度の牛の如く脊に原始的隆肉を有せるが、其形稍小なり、蓋し支那牛は印度牛と其の祖先を共にするものなるべし、但し其の隆肉は外界の狀態と他種との交配の爲め漸次消失しつつあり、體色は暗黒色なるもの赤色黒色なるもの多し、生肉の需要は豚肉に比すれば遙に遜色あれども、亦一般支那人により廣く需要せらるゝ所なり、唯だ内地の都市に在りては、今日未だ冷蔵庫の設備を缺けるが爲め、夏期に於ては賣却前に腐敗すること往々なるが故、酷暑數月間は市場に牛肉の販賣せらるゝを見ること稀なり。

山東省に於て畜牛貿易の行はるゝに至りたるは、略一九〇〇年以降の事に屬し、露國政府が山東牛の良質なるを知り、浦港及び旅順に於ける守備兵、大連に於ける勞働者等の需要に對し、之が供給の途を支那に求めたるを以て矯矢とす、一九一五年日露戰爭勃發するに及び、支那貿易は其刺激を受けて活潑なる刷新を見、兩軍の需要に對し山東牛の供給自由に行はれたるを以て、支那農夫をして漁夫の利に扑舞せしめたり、此時整價を博したる山東牛は爾來滿洲、天津、北京及び上海の各地に廣大なる販路を獲得するに至

山東牛

れり、又獨逸の青島に據るや、守備隊及碇泊艦船の需要新たに開かれ之が年々の供給量多額に上りたり、其後一九一六年には比律賓總督府との間に、山東牛肉供給の契約成立し、又一方には日本向生牛の輸出年々増加し、かくて山東の毎年の輸出は犢牛を除きて、生牛牛肉を合して七萬五千頭の多きに達するに至れり。

以上の事實に觀て支那の市場にして、苟も運搬の便備はれる地方に於ては食料品の貿易は其の發達繁榮を期すべく或は鐵道或は水運の便開け、冷蔵庫の設備を見るに於ては支那西部諸省も亦山東省に於ける畜産業の如く、世界の肉類需要に對し容易に其供給の資源たるを得るに至るべし。

羊

羊の飼養亦支那國內到處に行はるれど、西部諸省を除きて大多數の群羊を見ず、今日支那より輸出せらるゝ羊毛の如きは、多くは西藏產のものにして、四川及甘肅を經由して出で來るなり、然れども元來支那の領域たる頗る廣大にして、其中部並に西部の諸省には多少の差こそあれ、各處に其飼養を見ざるなく、又北は滿洲より南は印度に連る廣范三千哩の間に生存する羊は頗る莫大なる頭數に上るべきは疑を容れざる所なれども、正確なる統計の擧ぐべきなきを遺憾とす、支那羊は牛と同様特別の種類存せず、多くは尾廣くして體形は他國產と略同様に於て、頭部黒く體毛は白色とす、肉質は優良なり。

豚

豚の飼養は全支那に亘りて廣く一般に行はれ、豚肉は支那人により最も普通に食せらるゝ獸肉なりとす、黒色の支那豚は歐米の養豚家の普く知る所にして、肥體性のものとして著名なり、從て脂肪量多く南方產のものは脊凹み短脚小頭とす、北方產のものは之に比し瘦薄にして其毛は長くして粗剛、品質は南方產よりも劣等と稱せらる、支那豚は黒色のもの最も多く白色次に位し、斑點を有するもの最も少し、其豚肉は外見頗る優良なれど、何ら獸醫的検査なく其飼養方法の如きも亦甚だ疑はしきものなれば、將來外國市場へ輸出せるとせば根本的改良を施すの要あるべく、嚴密なる政府の検査を實行せざるべからず、支那に於ては専ら「ハム」及び「ベーコン」の製造を業とせるものあり、或地方の「ハム」支那全國に於て有名なり。

鶏

養鶏亦全國に通じて頗る盛んにして、支那人の消費量頗る莫大なるものなれど、之が奨励法宜しきを得十分發達せしむれば、其餘力を以て多量の輸出をなし得べし、多年支那に於て營業せる一英國商社は支那の家禽を氷漬として、盛んに本國に輸出して成功を収めつゝあり、支那海關の報告に係る一九一六年度の輸出額は後段之を掲載すべし。

鷺 鳥

鷺肉は支那人の最も嗜好する食物にして饗宴の卓上には常に不可缺のものゝ一とせらる、支那全國を縱横に貫く無數の運河は、實に之が飼養には好適し、支那内地の旅客は運河上到處に鷺鳥の群集せるを目撃すべし、此等の鷺群は多きは一群にして數百羽を算し、之を監視するは小兒、老人或は婦女なり。

幼鷺は支那獨特の孵卵器にて孵化せられ、尙雛の間に群鷺中に放たれ、漸く長するに及び市場に送られ、茲に全く成熟するに至る、群鷺の常に其數の減せざるは成熟せる鷺が賣却せらるゝに従ひて幼鷺が絶えず補充せらるゝに因る。

鷄 卵

支那には鷄多數なるが故に、鷄卵從て豊富なり、支那國內の鷄卵及び鷄卵製品の商業は、未だ西人間に廣く解せらるゝに至らず、又支那に在りても其輸出業に關係なき人々の間には全く解決を缺けるものゝ如し、今日米國及び加奈陀に存する支那鷄卵に對する偏見は、毫も根據の存するものに非ず、支那産鷄卵は形狀に於て小なりと雖、其新鮮なるものは其品質に於て又衛生上の點に於て毫も他國産に遜ることなし。

小 麥 粉

小麥の栽培は現時殆んど支那全部に亘りて行はるゝ所となりたる結果、小麥粉の製造年を逐ふて熾となりたるは自然の數と謂ふべし、最近輸出統計の徴すべきは、一九一六

年度のものなるが、同年間の輸出量は一九三、三一六バーレルにして、其仕向地は香港、新嘉坡、爪哇、露國及び朝鮮となす、從來支那は多年間外國粉の購入者なりしが、此の年始めて海外輸出を見るに至りたるなれば、一九一七年度に於ては更に激増したるべきは明かなり、一九一六年度に於て上海より支那内地諸港に移出したる數量は、實に二、七四六、七五六擔即ち一、八三一、一七〇バーレルに達し、其價額九、八九六、〇五一海關兩に上りたり、此事實に徴しても支那は今や多量の國內需要を充して、尙海外輸出の餘力を有するに至れることを知るべし、現今支那は右の如く輸出に充て得べき生産能力あり、且海外市場暴騰せるに拘らず船腹不足運賃高率の爲め、其輸出は制遏せられつゝあり、支那に於ては小麦の輸出が何等の制限なきは亦注意すべき一事項とす、以上述べたる各品に就き、一九一六年度の輸出額を表示せば左の如し

家畜(生きたるもの)

頭數	價額(海關兩)
牛	五六、三四八
豚	一、六四一、四九二
羊	三二三、七二一
鶏	二、三六五、九九八
生肉及冷藏肉	二九、五七三
數 里(擔)	一五七、五八九
價額(海關兩)	四、〇八三、四八五
牛、羊、豚肉	八三三、七六四
同 貯藏肉	三〇五、七一四
	二、五八〇、六〇八
	四〇、九八八
	八四四、六五六

「ハム」	九、四五八	二五四、〇一八
家禽及野禽	三五、九五〇	三三一、七一二
ラード	九六、〇三五	一、二六五、四三〇

生卵及卵製品

數	量(擔)	價額(海關兩)
蛋白及蛋黃	二八八、三四六	七、七〇二、四〇三
凍 卵	一八一、一二三	一、六五八、二三七
生卵及貯藏卵	三五四、〇一一	二、九七〇、八三七

(單位百萬)

以上述べたる輸出は、支那政府の側に於ても又支那商人間に於ても何等組織立ちたる施設のありて行はれたるに非らず、されば若し今後整然たる組織の下に努力を致さむか支那が全世界に對し食料供給の源泉國として、重大なる意義を有するに至るべきは明白なる事實にして、唯茲に大切なるは小麦粉と同様、米穀の輸出解禁を一日も速かに行ふことにあり。



英國對支貿易論 (三)

香港大學教授 C. A. Middleton Smith.

第三章 南支那の發達

一、南支對外貿易の過去

(一) 葡國人の支那開國 (二) 廣東初期の貿易 (三) 南支那人の特性と其實業的才能

二、南支商工業の發達

(一) 歐米品の新輸入 (二) 新機械の輸入激增

三、支那人の商慣習

四、南支貿易の將來

(一) 鐵道敷設の急務 (二) 秩序ある政府組織の必要

(以上)

一 南支對外貿易の過去

(一) 葡萄牙人の支那開國

歐洲人が支那と貿易を開始したるは一五一七年即今より凡そ四百年前のことにして、當時冒險的氣性に富める葡萄牙人が支那貿易の先導者となれり。彼等は頗る浪漫的にして而も進取の氣性を有し、東亞開發に依りて富と勢力とを獲得せむと力めたりしが故に、商機に敏なる貿易業者と熱烈なる宣教師とは、爾後相踵いで東亞に來航するに至れり。而して此等葡萄牙人の開國者は、到る處海賊的強暴を擅に

せるは事實なりと雖も、而も當時に於ける東亞の事情を考察するときは、敢て之を咎むべきにあらざるなり、蓋當時國內の秩序紊亂の極に達し、一方に殺人強盜横行せるに對し他方には弱肉強食の爭鬭盛に行はれ、人民亦無智迷信にして、富を得るの方法唯、實力に依るに在りしを以つてなり。

葡國人支那開國の最初に當りては、先廣東に來りて通商を開始したりしを以つて、爾後廣東は歐亞通商上に於て、主要の地位を占めたりしかば、廣東は現に支那最大の都市にして、南支那政治商業の中心地たるに至れり、是を以つて夫の東亞の開國者たるマルコボロの銅像は、今も猶廣東に在り、支那固有の諸神に伍して、支那人の尊崇する所なり。

葡國人渡航の初に當りては、到る處支那人に歡迎されたりしが、彼等の支那人に對する態度は、凡ての耶穌教國人が初めて異教徒の土人に對する常套を脱せざりしを以つて幾もなく支那人の宗教的反感を激發し、之が爲に著しく貿易の發達を妨ぐるに至れり。

葡國人が初めて經營設定せる殖民地は、即ち厦門にして、香港を距る海路四十哩の處に在り、然れども其貿易産業は

其支那人との社交を圓滑にし、到る處の支那人交際場裡に於て人氣役者となりたることなりとす、而して就中其社交に努めたる點は、他國人の到底模倣し得べからざる所に於て彼等は之が爲には午後六時より翌朝一時に到る迄繼續するが如き支那人の宴會にも倦怠することなく努めて、常に出席せり、而して此種の宴會は歐米人に取りては頗る迷惑なるものなれども、而も其支那人との取引には必要缺くべからざるものなりとす。蓋支那商人は電燈煌々たる下に、支那流の喧囂なる音樂を聴きつゝ、所謂歡樂の裡に於て、重要なる商談を取極むる商慣習を有するものにして、其商取引の取極めらるゝは常に華麗豪華の氣分に酔ひつゝ在るの時に於てす、惟ふに彼等の處世觀は歐米人のそれと全然趣を異にするものにして、彼等は享樂を欲求玩賞すること極めて強く、從つて頗る重大なる商談と雖も、美食美音美妓煌々たる電燈等の爲めに恍惚たる時に於ては、立ろに成立するに至るものなり。

近者筆者は在支英人の一富商と支那人の此取引方法に就きて意見を聞はしたりしが、彼は此種支那人との社交に堪えず、其結果幾多の得意を失ひたりと語れり、即ち彼は凡ての取引を其事務所に於て、行はむと欲したりしが故に、其取引はすべてコムブラドル(支那人の中介業者)の手を経て行はざるを得ざりしなるべく、其結果は利益の大半を擧げてコムブラドルの懷を肥せしなるべし、實際南支那に於けるコムブラドルは、此中介業の爲め過去に於て巨額の産を爲せり。

今や支那に於けるコムブラドルの時代は既に去れりとの聲を耳にする他方に於て、支那語學校は設立せられ、商館は其青年社員を獎勵して支那語研究に従事せしめつゝあり其意とする所は惟ふに南支貿易中介業者の排除を企畫するものなるべし、然れども其廢止は外人が支那人との取引に習熟するを要すると共に、コムブラドルが自ら其業務を拋棄するを要するものにして、其實現は近き將來に於て、之を望むこと能はざるべし。

四 南支貿易の將來

外國貿易の統計表を一覽するときは、南支貿易に就き最も重大なる利害關係を有する歐洲國民は、英佛二國なることは、直ちに明かなるべし、而して往時に在りては此二國民は其對支發展に付、一時政治上の見解を異にせることありしが、今や幸にして此爭議は忘却せられたり、加之二國は今日相携へて共同の敵と相戦ひつゝあるものなれば、聯合關係は、將來此二國民をして、其南支に對する商業的政策に付き共通の政策を行ふに至らしむべきこと今より之を豫想し得べし。

(一) 鐵道敷設の急務

廣東、廣西、雲南、四川、四省の藏有する天產頗る豊富にして、若之を適當に開發するときは、正に無限の富を產出するなるべし、即ち此等四省は各種の礦物を多量に藏有し、其無限に有する勢力亦極めて安價なり。然れども其交通は極めて不便にして、天然の水路を利用する外、道路と

稱すべきものなし、鐵道の現に開通せるは香港廣東間の短距離あるのみにして、他日廣東漢口間の鐵道にして完成せらるゝことあらば、漢口香港間を鐵道にて連絡するに至るべく、其結果香港は天府の有する南支諸省の產物の輸出港たるに至るべしと雖も、其完成は到底近き將來に之を望むべからざるべし。

現今南支那に於ける重要な鐵道は唯僅かに佛領印度支那と雲南とを連絡するもの一あるのみにして、此他豫定線の計畫されしもの頗る多しと雖も、大戰勃發の爲に、孰れも其計畫の遂行を中絶するに至れり、數ヶ月前香港大學卒業の一技師は二三の技師と共に、廣西省に於ける鐵道豫定線の測量旅行を行ひしが、此亦歐洲戰爭終熄に至る迄其計畫を中止せりと云ふ。

南支那の開発上重大なる問題は即ち(一)鑛山採掘に要する機械と之を海港に運搬するに必要な鐵道を完備すること、(二)各地方の農業上の能率を増進することの二事に歸着するを得べし。蓋南支那に於ける農業事情を視察せるものは何人と雖も、其既に集約的農業の行はれつゝあるを肯定すべしと雖も、更に近世科學を應用し新式の機械と組織方法を採用するときは、其收穫は猶大に増加するの餘地あるべし。

(二)秩序ある政府組織の必要

嘗て英國が數年間廣東を占領せしことありしが、其間全市の秩序は頗る好く維持されたるものにして、夫の如きは廣東の歴史上に未だ曾て見ざる所なりとす。今や南幾省は

極めて不穩にして、到る處海賊強盜橫行し、掠奪凌辱頻々として起り、庶民爲に其堵に安せざるの狀態に在り、近時前述廣東省の鐵道線路測量旅行を試みたる技師一行は、往々にして土人の爲に強盜の團集と誤られ、土人をして直ちに防禦準備をなさしめたることあるを説けり。而して一度支那貿易の將來有望なること、其藏有する鑛產其他の天產の豊富なることを思ふときは、吾人は支那が一日も早く安定なる政府を組織するに至らむこと熱望の至りに堪えず、葉今日の如く經濟的效顯の唱導せらるゝ時代に於て、預々たる匪徒の一隊が橫行して、爲に其地方の商業を停止するに至らしめ、更に現下大戰の戦後經營に就き極めて必要な鑛產物が、南支那に於て開發されず空しく廢置せらるるに委するは、吾人の到底看過する能はざる所なればなり。

由是見之支那が這般の大戦に際し、協商國側に立ちて参戦を決行するに至れるは、之を支那の爲に云ふも、極めて幸運なることゝす。蓋是れ支那が有史以來始めて歐洲列強に伍して之と運命を共にするに至りたるものにして、實に又世界的新時代の初めなりとす。

(本章完)



英國の對支政策

(三)

オ
ラ
ン
ド

獨逸の財政的陰謀

一八九五年、即ちカシニー條約未だ締結せられず、膠州灣未だ占領せられず、而して滿洲及北支那の未だ葛藤の地と化せざる此の時に當り、香上銀行は新に創立せる伯林の獨逸銀行と一の協定を結びて、爾後兩行の得べき支那政府との取引は相互に凡て其の分與に預り得ることとなせり。今日と多大の懸隔ある當時の政情の下に於て、此の協定を爲すに當りては、香上銀行は疑もなく、當時に到るまでは一般に他列強によりて閑却せられたる此方面に於て無用の競争を避けんとする正當にして明白なる欲求によりて動かされざるものなり。然れども一八九八年所謂「勢力範圍」制度なるもの實際的發展を見、且つ揚子江沿岸に於ける英國の特殊權の確立を見ると共に、英國公使の行へる峻烈なる外交的壓迫の下に、英國は該地方に於て五個の獨占的鐵道讓與を支那より獲得せり。此等の讓與は、明かに、獨逸と共に其の財政管理を爲すべき性質のものに非ず。香上銀行がジャーデン、マーセン會社と共同して組織せる「The British and Chinese Corporation」なる純粹の英國の一シンダケートの名義を以て此等の讓與は徐々に獲得せられたる

ものなり。一八九九年より一九〇六年に到る間は、團匪の亂及び日露戰爭の勃發せるによりて、支那の財政は一般に停滯不振の状態に陥り、此の間僅かに五個の英國鐵道借款の締結せられたるものありしに過ぎず、然るに、一八九八年獨逸は露西亞と政治的に衝突すべきことを豫知し、京奉鐵道借款の場合に於ては其の參加權を行使することなかりしも、一九〇五年二月の最終の團匪賠償借款に對しては、一八九五年協定の條項に従ひ、獨逸銀行は其の參加の權利を行使せり。日露戰爭の終熄するや、露西亞の戰敗、新支那の急進的國家主義、及び支那の商工業の有望なる發達に伴ひて其の利益の恩恵に預らんとする新來客の劇烈なる競争等の結果によりて惹起せる政治的變化を急速に反映せるものは實に支那の經濟狀態なりき。故に、一八九八年に獲得せる英國の五個の鐵道讓與の中其四個のものが、一九〇七年より同八年に到る間に其の借款契約を爲したる時、會々獨逸銀行は、今後獨逸が平等の條件を以て凡ての借款契約に加入することを許さるゝに非れば、揚子江沿岸及び其他の地方に於て、鐵道其他の支那政府との借款契約に於て競争の地位に立つべき旨、倫敦に於て之を通告せり。(一九〇二年十月上海よりの撤退を協定せるに際し、獨逸は此の

機會に乘じて、英國の揚子江沿岸を其の勢力範圍とし且つ其の經濟的利益を獨占せんとする要求を今後認めざる旨通告せり。此事件は英國に於て何等の反響なくして經過せり。然かも此時若し英國にして政策らしき一の政策を確立せしならんには、獨逸が斯くの如く一八九九年の英露條約を無視し、英獨兩國相互の諒解を素氣なく反古にせる仕打に對しては、正に、少くとも、山東省に於る獨逸の優越權を認めざることの痛棒を食はしむべきなりしなり。

此混亂の時代に於て、英國銀行の行動に對して責任を負ふべき財政家の地位は、極めてデリケートなるものゝなりとす。一方に於て、彼等財政家は、一八九五年の協定未だ廢棄せられざるが故に、獨逸の加入要求を容れざるべからざる義務あると同時に、他方に於ては、英國政府の保護を獨專したる結果其企業は重大なる政治的意義を有する英國政府の計企と同一のものとなりたるを以て、英國及び佛蘭西に批評及び反對を惹起することなし。

二、彼等財政家は獨逸の該要求を公式に是認する能はざりしなり。然れども、獨逸は時機正に到來せりとなし、相手方を壓迫すべき行動に出でたるなり。北京獨逸銀行代表者ヘル、コルデス(前獨逸領事)は、一九〇八年津浦鐵道借款の全管權を辭退せることに依りて支那より非常の好感を贏たり、斯くて彼は其の政策をして意義あらしめんが爲めに支那に其の報酬を要求し、即ち粵漢鐵道及四川鐵道借款を獲得せんが爲めに、武昌の總督張子洞と直接交渉を開始したり。兩鐵道は揚子江沿岸の地域内に入るものなるを以て、

此等は既に支那政府よりして英國の豫備企業として是認せられたるものにして、唯四川鐵道に於てのみ亞米利加合衆國のみが一班の加入權を有するのみなり。獨逸が斯く此等の借款競争をなしたることは即ち一八九八年九月二日の條約を無視せる行動なり、何となれば、獨逸の財政家は嘗て揚子江沿岸を英國の鐵道企業範圍として之を尊重すべきことを誓約せるを以てなり。一九〇九年三月八日獨逸は張子洞と其借款契約を締結せるが、此行動の正當なることを證するため、獨逸は英國の優先權の認められたる状態は「勢力範圍」なるものと共に消失せりと主張せり、此の事は又同年二月サー、ジョン、ジョルダンが支那政府に提出せる公式の抗議を無視せるものとす。獨逸が山東省に於る優越權は(敢て狂愚なりとは謂はざるも)常に英國の承認せる事實を按ずるに、前記の行動を敢てせる獨逸の不信實は、支那の其れと全く同様にして、支那は他國に對して一の蠻的欲望を遂行せんとして終に前記の誓約を無視せるものなり。

香上銀行と共同して * "The Chinese Central Railways, Limited." なるシンデケートを組織せる佛蘭西の財務家は獨逸の行動に疑惑し且つ不滿を表せるに係らず、又倫敦駐劉佛蘭西大使の強硬なる提議及び北京駐在英國公使の支那外務部に致せる抗議警告ありしに係らず、獨逸が揚子江諸鐵道の計企に加入することは、一九〇九年六月に於て一の確定事實となりたり。

* "The Chinese Central Railways, Limited," は揚子江以北の地に於て、鐵道及其財政事務を取扱ふ目的を以て一八九

八年に創立せる英佛共同のシンヂケートにして、サリスベリー卿が雲南四川に關して佛蘭西と交渉し、一八九六年一月十五日に英佛條約の締結せられたる間接の結果として生じたるものなり。

如上の不幸なる幾挿話を通じて見るが如く、英國政府が餘りに軟弱なる態度を採りたるは、一は獨逸の財政的活動の内容を知らず、一は、其結果として、ロンバルド街の代理人が餘りに自重せるに因るものなり。北京の英國公使は、獨逸の該計畫に加入せんとする要求を是認することは是れ即ち英國の無能且つ名譽の失墜を意味するものなることを最初より能く了解せり、然れども公使館の意見は共同財政管理其物に就きて何等重きを置かざりしなり。獨逸との競争を除却せる後、英國は信實なる鐵道計畫及其管理に關しては支那政府に對して其條件を課し得べしとの敬虔なる希望を以て、外務省は一般に恥辱的事件として認めらるる所のものを雪冤せんと試みたり。支那、土耳其、其他の積弱國に於て獨逸が如何なる財政制度を施行せるを知るの士は、上述の如き方法を以てしては英國の到底其目的を達する能はざることを了知せるや必せり。然るに、支那の借款管理に關して、政府の保護を有する英佛兩國の財政家の團體に獨逸の加入することを許容せると同時に、支那は正に借款資金の費途に對して嚴正なる監督を受くべきことを誓約すべしとの保障は與へられたり、而して英國外務省は好威以て之を受容せるなり。一九〇九年の初頭英佛兩國は相互に覺書を交換して、上述の如き支配的條件に於てのみ

支那に貸與さるべき英佛二國の資本に反對すべきことを宣言せり。故に若し公式に新に成立せる英佛獨三國聯合の覺書の條件に準據して、其の管理の條項を有効に充すべき手段の存するものありしならんには、英佛兩國は便宜上獨逸の加入に同意せしやも未だ知るべからざるなり。事件の趨勢の物語るが如く、斯る條件の何等存するものなかりしのみならず、却つて反對に次で湖廣及四川鐵道借款は締結せられたり。其條件は明かに、借款の管理保護を更に馳緩ならしむるの傾向を表せり、斯くして支那及び其債權者の最高利益を保護せるなり。此の傾向は盛宣懷の制度のもとに於ては一層其の甚だしきを加へたり、而して、此傾向にして永續せしならんには、多額の資金が非組織的且つ多少無責任なる支那政府に貸與さるる結果として、悲むべき勞費と誤謬、國內各地方の不安、而して國外に於ける不斷の紛亂を醸成すべきこと知るべきのみ。即ち倫敦に於て交渉を開始し、一九一二年九月の末に締結せるビルチ、クリスプ借款によりて支那政府は、更に再び其の眞實の使途に對する何等の拘束なき外資を獲るの外何等考慮する所なきものなることを示せり。凡て斯る借款は一步一步支那をして政治的財政的破産に導くものなりとす。

「幣制改革滿洲開發」借款の條件も亦、其の政治的經濟的影響を顧慮せざるものにして、浮薄なる、一時的彌縫の、而かも最後致命的の支那の借款政策を反照するものなり、該政策の陰武者は獨逸にして、英國は多年の間斯る政策は「支那の獨立保全」と相矛盾するものとして反對し、英國の

賢明と成效を實現せり。

米國の干涉——四國財團の成立

香上銀行及印度支那銀行によりて代表さる、英佛聯合國と共に獨逸をして楊子江鐵道借款に加入するを許容せることは、其自體に於て將來の政局の紛亂を誘致するものにして最も意義ある重大なる事件の一なりとす。五月九日の在北京タイムズ特派員の電報は『國家的利益よりも寧ろ當然財政的利害關係を考慮すべき義務を有する英國の一銀行に對して、英國政府が獨逸勢力の發展を助長せしむる爲めの權力を委任せんとは實に怪疑に堪へざる旨』を表せり。英國の權利の既に獨逸の掌中に歸し又挽回すべからざるに至るや間もなく亞米利加合衆國は公式に該鐵道借款に對して抗議を提出し且つ一九〇三年慶親王とサー、アーネスト、サトーとの間に締結せる條約の條項に従ひ、米國の加入權を要求せり、是れ一九〇九年六月のことなり。張子洞は、北京獨亞銀行代理者の勸告に従ひ、亞米利加の抗議を無視せんとする傾向を示すや、大統領タフトは最も實効ある非常手段を採りて、直ちに時の清國攝政に打電し、亞米利加の權利を是認すべきことを強硬に主張せり。此電報を在北京タイムズ特派員は説明して曰く『是れ即ち獨亞銀行の陰謀に基くものにして、該銀行の香上銀行に對する勢力は斯くも支那に於ける英國の利益を侵害せるなり』と、更に曰く『英國政府は香上銀行をして獨逸の陰謀の手より分離せしむる爲めに強硬手段を香上銀行に加ふること肝要なり。』

斯る陰謀は、執拗にも、英國と米國を離間せしめむが爲めに企てられたるものなり』と。

Tempora mutantur 曰く、『一九一二年八月廿六日、デーリ、メール代表者との會見に於て、獨逸當局者の曰く『英獨兩國の修好共同せるは世界中に於て支那に於けるより甚しきはあらず。兩國の利害關係は等しく商業的のものなり』と云へり』と。

亞米利加合衆國が此際に於て確固たる態度を採りたることは英國對支政策の特質たる無智優柔不斷を救済せるものなり。頑然英國に對する誓約を破棄して英國の公使の存在を蔑視せる張子洞は、亞米利加合衆國代理公使との短時間の會見に於て報復せらるゝの止むなきに到れり。大統領タフトの訓命ありし結果により、外務部は直に亞米利加合衆國の權利を認むることとなり、而して張子洞は亞米利加の權利を認むるか若くは彼が公然誓約せし鐵道計畫を全然放棄するか進退兩難の地位に立てり。若し其の鐵道計畫を破棄せんか、英國の地位を壓迫せんがために利用されたる彼の豫備的協定を放棄することとなるを以て、是れが爲めには當然獨逸に賠償せざるを得ず。英佛兩國と對等の條件を以て楊子江沿岸地方に其の立脚地を獲得せる獨逸は亞米利加を除外することを忘却せるなり。故に獨逸の代理者は英米兩國の外交家及財政家を離間せしむることによりて支那に其の好意を賣り、更に支那に對して其好意の代償を求むることを以て満足せり。一九一〇年二月香港に於て開かれたる香上銀行株主總會の席上に於て、其社長は忠實に獨逸

の政略の目的とする所を参照せり。同銀行と支那政府との間に延引に延引を重ねたる交渉が、遂に、満足なる協定を遂げ、該協定は國際團體間の利益均分を保障する凡ての必須條件を具備するものなることを言及せる後、彼は「他の方面に於ける要求の復活は條件の再協定を餘儀なくせしめ該交渉に一の政治的性質を附與せるを以て、不幸にして其交渉結了を遅延せしめたり」と。彼は更に微妙なる要點に觸れて論じて曰く「支那が正に差迫りつゝある其の發達を遂行する曉に於ては、其發達の收獲の最も多き分配に預り得べきは、政治的動機の如何を猜疑することなく、最も簡單にして、精妙、且つ最も實際的な方法を以て支那の要求する所を充すべき準備をなせる者に在り」と。當時獨逸が明瞭なる政治的動機よりして、英國財政家と自國との關係を利用して、英國の威名を傷け其の權利を侵害せんとするに際しても、上述の如き意見は在支英人の間に何等の反響を見ざりき。

ノース、チャイナ、デイルリー、ニユーズ紙は謂へり「財政管理を全然國家的利害關係より分離せしめんとする此要求は直接に財政管理に關係ある團體を除きては之れに對して何等其應答を爲すものなかるべしと信ず」と。記者又語を進めて、英國の條約によりて得たる權利を自ら借取し、且つ長江沿岸の英國の商權を引渡せる財政的利益なるものに就きて極力攻撃を加へたり。其の結論に「是れ或は財政管理と稱すべしと雖も、決して愛國主義に非るなり」と云へるは正當なり。然れども支那の輿論は是等の事件に對して何等の影響なかりき。支那政府及び英

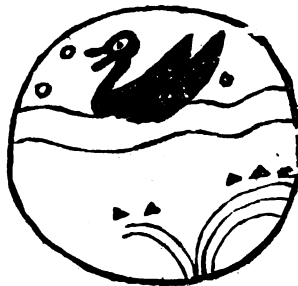
佛獨三國銀行家は據なく爲せるを恰も喜んで爲せるが如くに裝ひ、遂に亞米利加を支那借團の圈内に入るゝの止むなきに到れり、斯くて「四國」シンヂケートは支那の財政管理の中心として公然認めらるゝに到れり。されば、特に國際的財政管理及び世界政策を論ずる際に、該シンヂケートの詳細なる歴史を論じ、而して遂に之れが「六國財團」に變化せる過程を説明せん。

或る意味に於ては、此種の英國の財政家は英國の政策を代表するものと謂ふて可なるべし、何となれば、一九一一年六月サリ、エドワード、グレーハ、下院に於て、英國政府は彼等彼等財政家に獨占的なる政府の保護を與ふことを保障せる旨の苦しき説明をなしたるを以てなり。如斯彼は、長城以北の地域に於る日露兩國の特殊權の性質竝に其限界を定むべき責任をロンバルド街の財政家に一任せり、是れ長江沿岸に於る英國の地位を確定するの權を委任されたると其趣同一なり。英國商工業の利益に特殊關係を有する一般時局を観察するに、獨佛兩國の財政家は何れも自國政府の政治的方針に準據する義務ありて、即ち其國家的利益を代表するも、英國財政家の團體は、之に反して、何等斯る支配權に従屬するの必要なきを見る。吾人の既に知るが如く、彼等財政家の外務省に對する勢力なるものは、在北京英國公使の意見忠告よりも優力なりしことは決して一再に止まらざるなり。外務省の對支政策を決定し、指導するの重大なる責任を有する英國の財政機關は、例ひ是れ英國的なりと稱するも、是單に、獨逸の財政機關が獨逸的なり

との意味に於るものにして、斯る實業家の特殊團體に國際政法を一任するが如き事は、新方針の見地よりして嚴正なる批判を加ふべきものにして、前述の如き外務大臣の公表意見は劇烈なる反對に遭遇すべきなり。然れども其實驗の成績は其結果によりて立證せらるべし。而して英國の政策の決定權及び英國の利益の保護は、國際的葛藤の渦中に没頭し其國際的負擔の大なる彼等財政家に委任せるの時日に當り、英國下院に於ては散漫にして無頓着なる諸問題以上の何物かを求めずんば止まざらんとするの形勢に在り。ロンドンパルド街の財神なくんば如何ともする能はざる支那の將來を知る英國政府にして其對支政策の代表者代辨者を財政機關其物に求むるものとせば、該機關が専ら英國の利益及び國家的目的の代表者たるべきことを英人が之に要求するは至難のことなりと謂はざるを得ず。香港に於ける香上銀行の總務部の如きは四人とは下らざる獨逸人を雇用せり。

一九一一年六月十一日の社説に於て、ノース、チャイナ、デイトリー、ニュースはこの情勢を論じ、サー、エドワード、グレーの用ゐたる言辭を遺憾なりとして、曰く、『事實の真相を知らざる人々に對しては、彼の言辭は現時の交渉に於る或る好ましからざる場面に對してのみならず、又四國財團の發生以來の香上銀行の總べての行動に對し英國政府は責任を有するものなることを意味するものなり』と。後に、國際的財政の章下に於て、吾人は、英國外務省は如何なる程度迄に其の職能權限を名目に於ては英國的なるも、事實に於ては國際共同的なる財政的代表者に委任せるかを

觀察し、且つ又其の一結果として、英國資本の援助と英國政府の暗黙裡の贊助とにより、日露兩國が支那の領土を利用せんとする彼等の明々白々なる意圖を遂行するに、如何に便宜なる地位に置かれたるかを論せんとす。(未完)



彙 錄

支那人の支那政治論 (五)

其四 聯邦論叢 (續)

熊氏の聯邦論を駁す

河南選出新國會議員 郭 涵

涵

秉三先生足下、報紙上先生が岑西林に致すの書を載す、即ち聯邦を組織するを以て時局を解決するの法と爲し、一には則ち曰く統一日にその難きを見ると、二には則ち曰く已むを得ずして此議を創むと。思ふに必ずかの各省今日已に分離の勢を成すを見て、故に此論を爲つて以て時局の解決を速かならしめんとするならん。苟かに謂へらく、聯邦を統一するは國體の永久問題なり、時局を解決するは則ち一時の問題なり、一時の問題のために永久の國體を擧げて之に殉せしむるを惜まざる、已に大いに不可なり。況んや聯邦は必らず先づ各邦の存在を要す、今日の各省は歴史上統一國家の行政區域にして、邦たるの基礎は毫も未だ具備せざるおや。今割據をなさんとするの省を以て、誤認して邦と爲し、獨米の聯邦國家を造成せんと欲するも豈能くす可けんや、苟しくも之を爲さば恐らくは聯邦成らずして徒ら

に割據を圖る者のために藉國の資を爲すのみ。其結果攘奪篡取日として之無きはなく、従前の害は總統を爭ふに在るに似たるも、今後の害は群起して國の首長を爭はん、是れ今日混亂の局を以て未だ足らずとなし更に之を増益するなり。

一國には一國の歴史あり、即ち一國には一國の治法あり日佛の強いて獨米に同じふする能はざるは、猶ほ獨米の強いて日佛に同じうする能はざるが如し。不幸にして民國成立以來、當局詐術を以て相教唆し、暴力を以て相鉗制し、今日の狀態を演出するに至れり。然れども物極まれば必ず反へり、時窮すれば則ち復す、詐僞を以て勝つ者は詐僞を以て敗る、此れ詐術は必らず窮する者なり。今の督軍の中央に抗顔する時は即ち意氣凌轢たるも、内部下を顧みれば隱憂あり、始めは即ち督軍以下師旅團長に至るまで輾轉以て相媚び、終りは且つ營團旅師より督軍に至るまで輾轉以て相抗す、此れ暴力は必らず窮する者なり。詐術窮まれば則ち誠を以て相見えざるを得ず、暴力窮まれば則ち法を以て相維がざるを得ず、今日混亂の局は適々以て清澄と爲り、今日分裂の象は必らず統一の機を肇めん。歴史習慣の窮して而して復た始まるは必然の勢なり。國會に至つては乃ち國體の下に生産するものにして解決の如何に論なく斷じて彼を以て此に易ふる能はず。若し聯邦を組織すると謂はば即ち之を新革命と謂ふべく、而して約法の拘束を免かれん、則ち安んぞ此附會の法律を用ふることを爲さんや。

或は謂ふ先生の意は獨逸の制に倣ひ、全國陸海軍の權を

以て之を中央に歸し、而して各邦は首長を選任し、軍民分治の主旨を達するに在りと。然れども今日に在りて聯邦を組織せば、邦の首長は仍ほ軍人の掌握に在るや知るべし、而して更に紛争を重ねん。若し重きを民意に注ぐとせば、則ち集權分權の適否に在りて國體の單複に在らず。數年以來海内の人士聯邦の説を倡ふる者ありしも、近日に至つては既に銷沈に歸せり、實に老成の名宿先生の如きの統一を主張するに賴り、藉りて頽波を挽回せん。今日の時局は原因複雜にして聯邦の能く救ふ所に非ず、故に驟かに先生の論を聞き迷うて解を得ず、故を以て愚見を陳べて以て之を先生に質す、伏して惟みるに察して之を教へられれば幸甚。此に道安を頌す。郭涵謹啓。

岑西林に復し再び聯邦制を論ず

熊 希 齡

伏して惟ふに聯邦の政制たる、體大にして用宏、各國の聯邦は之を歴史に産し國性に成る、制に異同あれども實に異同無し。制文を泛引するは己に極めて易からず、而して吾國史性悠博に國情違復なれば、將來即ち聯邦制度を採用するとも、恐らくは何國の成規に論なく、皆概括的に吸收する能はず、只よく分断的に採擇すべし、理隨に例繁なり豈希齡の愚よく之を言うて中肯ふる所ならんや。茲には惟だ來書に謹遵し、疑問の二端、謬りに撰答を爲し、藉つて教益に資するあらん、伏して希くば鑒察せよ。

來書に謂ふ、今の督軍能く軍權を中央に譲り退いて一邦の行政首長たるや否や、抑も或は専ら軍區に長とし軍事に任じて民政を問はざるべきかと。又謂ふ今の督軍は即ち省長たり、能く一部政權を地方に譲るや否やと。謹んで按ずるに來書此疑問ある所以の者は、蓋し深くかの今の督軍文武を兼攬し威權無上にして、中央の命令推行し難く、地方の政治發達し難きを悚るゝなり、若しその威權を限制し軍民の權限、國省の權限を劃清せざれば、則ち聯邦制度採用する能はず、若し強いて之を行へば反つて藩鎮の禍を成す、尊意の慮る所大致此の如し。希齡竊かに考ふるに世界各法制國、その軍政は中央に集權せざるなし、單一國此の如く、聯邦國亦此の如し。聯邦國軍權の集中せざる者は北米に若くは莫し、各州民兵を置くことを得、以て將校に任用すべし、然れども仍は大統領を以て全國陸海軍及び各州民兵の元帥と爲し、又兩院の各州軍隊を拘束するあり、故に各州の兵權は仍ほ統卒を合衆國に受く。其次は獨逸の各聯邦部國均しく一部の軍權あり、然れども皆聯邦帝國皇帝の下に統一せられ、聯邦部國は皇帝の允許を受くるに非ざれば軍官を任命するを得ず、又皇帝は隨時各州軍隊を檢閲するの權あり、戰時は則ち皇帝の軍權更に大なり。それ米獨は邦、國に先だつ者也、邦は建國の主體なり、種々の特情あり、故に各邦一部の軍權を保留することを得、若しそれ埃國聯邦國亦邦、國に先だつと雖も、その軍權は則ち埃帝に統屬し、匈王國は祇だよく武裝の警察を以て治安を維持するのみ。加拿太の陸海軍權は則ち全く總督の手に握

られ、瑞西の軍權は全く聯邦政府に屬し、聯邦政府の允許あるに非ざれば各州三百名以上の常備兵を置くことを得ず。

以上各聯邦の憲法に就いて之を觀るに、吾國日後聯邦制を採用せば、その全國陸海軍は當さに完全に中央に隸屬すべきや疑ひなし。地方の治安と秩序の維持に至つては別に法令を以て地方に許すに警察隊或は省衛兵編制を以てせば可也。吾國の「省」の資格は、もと中央の下に隸し、各國の「邦」と「地方」との間に必するに因り、認めて完全の一地方と爲す能はず、亦完全なる「邦」の資格ありと認むる能はず、今聯邦制度を採用し、以て省の資格に培ひ、中央の政權を酌分して全國の行政をして精密ならしめ易からしむるは、もと是れ折衷至當の法、若し附庸と宗國との抗議爭權、邦權最大の聯邦國と同一比例なれば、則ち吾國の史性國情萬相容れずその流弊將さに極端の中央集權と相等しからん也。

それ中央既に陸海軍統卒の全權ありとせば第一下手の法は法令を以て軍區を明定すべし。各軍隊は軍區に駐紮し省治を脱離して政治に干渉するを得ず、軍區の劃定は行政區域を以て標準と爲さず、或は一軍區を以て數省に跨界するものあり、或は一省區域内に於て數軍區を設くる者あり、軍區は軍長と均しく冠するに地方の名稱を以てせず、且つ駐紮亦定所なく、中央は隨時に軍隊を轉調せしめ得べしとせば、武人職權以外の事に侵越するに由なし。軍民すでに分治せば、省の行政權は當然之を省長に屬し、武人の兼任するを得る所にあらず、則ち來書に謂ふ督軍能く軍權を中央に讓るや否や、又退いて行政首長となる等の事は法制上

に在つては問題と成らざるに似たり。

省長の地位に至つては竊かに謂へらく絶對的簡任と絶對的民選と、均しく弊害あり。或は中央限制任免の法を採り之をして省議會に對し責任を負はしめ、或は省長或は省より數人を選薦し、中央に呈請して其一を擇任せしむるは均しく平衡調劑の法に係る。それ省長の地位此によりて產生せば、自から能く國家の法令を遵守し、地方保留する所の政權を侵犯せず、則ち來書に謂ふ所の能く一部政權を地方に讓るや否や等の事は法制上亦問題と成らざるに似たり。

然りと雖も事實上武人の中央命令に服從し政治に干渉せざらんことを欲するは此れ誠に目前の一大問題、而して來書懷疑せらるゝ所は當さに此に在るべきなり。希齡竊かに謂へらく吾國歷來の大亂、その總因即ち文武權を分たず、國省治を分たざるの二事に在り、今の戰禍亦此二事の醸成する所なり。然りと雖も此時は正に此二事を解決するの絶好時機なり、蓋しさきに武力を以て相持し而して戰に出で今は戰爭を以て相持し而して戰を弭むる所以を思ふ、勢の必らず至る所、此即ち否泰剝復の理、特に大力ある者の能く此抵括を轉振するや否やに在る耳。もし此問題にして今猶ほ解決する能はずんば今の戰爭毫も意識なく、毫も代償なきのみならず後來の戰爭亦更に止境無く、國且つ之に隨つて亡びん、何の暇あつてか聯邦制の採用と否とに論及せんや。故に吾國聯邦制問題の發生なくとも、文武分權國省分治の二事は必らずまさに解決の法を求むべく、萬此二事を執つて聯邦に於て疑を懷く所ある能はず、僅かに疑を懷

かざるべしといふのみに非ざる也。且つ惟だ聯邦制を採れば、既に此二事を促して解決に易からしむべく、解決の後復た聯邦制に藉つて護符となし、此二事をして永く復活せざらしむべし。蓋し聯邦制採用の後、國に國權あり、省に省權あり、文に文權あり、武に武權あり、之を國基に根ざし、之を憲典に垂れ、相維くの道あつて相衝くの理無し。例へば今日の戰爭の如き、即ち全く國省文武各々その權を行ふ能はざるの致す所、中央集權して權力を地方に擴張せんと欲し、之を出すに專制を以てし、地方は分權して中央の權力を抵制せんと欲し、之を出すに革命を以てす、而して所謂武人なる者は決して自由の意思なく亦決して倡亂の決心なし、故に中央に袒する者は自然專制の旋渦中に墮入し、地方に袒する者は自然革命の旋渦中に墮入し、專制革命各極端に走り循環やむなし。中央固より權の集むべきなく、地方亦權の分つべきなく、惟だ全國の大殺機を醸成するのみ。もしよく聯邦制を採用せば、國省の權限、一は概括を取り一は列舉を取りて憲法に訂入し、以て率循に資せば、中央集むべきの權あり專制を以て地方の權を爭ふを須ふるなく、地方亦分つべきの權あり革命を以て中央の權を爭ふを須ふるなく、中央と地方の權力、均しく恢廓してそれ餘りあり、各々維持して敵れず、而して所謂南北、新舊、文武、烈激溫和各種の黨派、均しく革面洗心、仇怨を消融して共に新國家の建設に努力せん。故に希齡所爲らく、もしよく國省の權限を劃清せば何人に論なく此主義に反對する能はざるなりと。今の悲觀者釀亂の原因を細審せず、徒

らに南北武人の天性好亂を痛憤す、殊に知らず武人の迭りに戰爭を起す所以の者、必らずその一種の主張あり、法網を以て之を解決する能はざるや乃ち此の主張を持して黨衆を號召するの旗幟と爲し、武力を以て此主張を解決せんとするなり。もし今日よく双方の主張を容納し、根本大法の中に於てその亂源を絶たば、誰れかよくそれ血忱以て國を衛り民を保つことを失はざらん乎。希齡の愚見に所爲へらく、全國の人士宜しく公同して國省權限劃清の意見を發表し、南北の武人をして、深く此種主張の吾國今日の弭亂、將來の建國に對する唯一の神藥にして、若し此の神藥を飲まば以後中央は地方を壓制するを須ふるなく、地方も中央に抵抗するを須ふるなく、北軍も南軍を征服するを須ふるなく、南軍も亦北軍を攻撃するを須ふるなく、各々その職責權限を守るべきあり、功名事業の圖るべきあるを知らしむべし。此れ國と省と、南と北と共利の事、則ち南北武人中の粗ば大義を知る者、互相に此主張を一種會議の中に提出し、兵を按じて動かす、以て此主張の如何にして亂を弭むるに足るか、如何にして國を救ふに足るかを討論すべし此れ決して希齡の迂見に非ざるなり。

例へば舊國會の恢復の如き、今日南北最も爭持するの問題なり、然れども此事の價值たる、國省權限劃清の事と比較するに、相去る道里を以て計る可からず。然れども南方は何を以て必らず恢復を主張するか、その意中に所爲へらく、此一如きに非ざれば以て中央の專制を抵制するに足らずと。北方何を以て必らず恢復に反對するか、その意中

に所爲へらく、此の如きに非ざれば以て南方の革命を遏抑するに足らずと。若し南北の武人を開導するものあり曰く今の戦争は武人の罪にあらず、法制不良の咎なり、若しよく共同戦を罷め、法定機關をして一極良の法制を編定せしめ、頒布施行せしめば双方の主張均しく貫徹すべく、今日戦を言ふを須ふるなく、後來更に戦ふべきの問題なからん然らざれば則ち今日の戦争了結する能はざるのみならず、後來の戦禍愈々潰して愈々烈に、双方の主張均しく貫徹するの時無かるべしと。若し國中多數の信望ある人、よく此種言論を以て、南北武人を切實開導しその反省を促がさば希齡所爲へらく双方の主戦派必らずその恢復不恢復の論調を抛棄し、仇を釋て好を修め共に國本の大計を籌らん、殺機すでに息み、舊國會の恢復不恢復、及び如何にして之を變通すべきかの法は均しく順利の事に屬す、蓋し双方すでに戦を罷め、一議會の中に和平討論す、斷じて一語合はざるに因り荷戈前驅するの理なければなり。

それ今日南北武人の和を言ふ者實に多數に居る、即ち少數の主戦派といへどもその心中亦何ぞ嘗つて今日の事戦争の能く解決する所に非ざるを知らざらんや、たゞ一種永久調和の良策なきが故に挺して峻に走れるのみ。先生若し此の機勢を看破し國中の要人に聯絡し、この根本大計を以て切實勸導し、南北の將校一律戦を罷め、國會の恢復と否とは一種の條件と爲さずんば、希齡所爲らく、双方將校の調和を主とする者、此の光明正大の主張を得ば、必らず理直氣壯、戦局調停を以て己が任と爲さん。而して少數の主戦

派自から勢の孤なるを知り、必らず調和を默認せん。而して彌天の雲霧これより霽朗ならん矣。

希齡更らに言あり、各國の聯邦の性質、大半邦、國に先づ、吾國省の性質、全く體を具して而して微なる邦に屬す、吾國人の聯邦を視る蛇蝎の如き、鄙意所爲らく、吾國日後憲法を制定し、聯邦の精神を採用せば是れ已まん。若し、嚴格の聯邦とその名義と、必しも拘泥して之を求め、反對者に授くるに口實を以てし、大統領の成功を墮さしむるを要せざるに似たり。先生望泰斗よりも崇く、座に英賢滿つ、必らず幹旋劫運の才、拔濯羣倫の德あらん、希齡下風を逖聽し、惟だ漂毫して盛業を載するあるのみ。諸希くは鑒察せよ、拳膺に任ふるなし、専ら此に肅復し、敬んで助安を頌す。熊希齡。



支那の關稅收入

—(一九一八年一月—三月)—

開
市
場

皇 東 井 芬 爾 洲

九 漢 岳 長 沙 宜 萬 重 膠 芝 龍 天 秦 牛 大 大 安 龍 環 綏 哈 滿 三 愛

江 口 州 沙 市 昌 縣 慶 州 罌 口 津 島 莊 連 溝 東 村 春 河 賓 里 姓 環

一九一八年	海關兩	一九一七年	海關兩
三三,三八二六八九	四,五九四	三三,二五三七七	
一三,三〇〇,九五二		八二,八二三二七	
四,三三五六三二		二〇,七六九八八	
三八,三一,三三三		五,三三二,三三八	
四,一二〇,四二二		五,七〇四八九五	
二四,一六九四八		二〇,六九八〇九二	
一六三,八一九二一		二〇〇,二〇八	
一〇一,七四五		九〇四,五〇一,二九九	
八三,九三三七六〇		二,四六八,六八六	
一九五,七六,一		六五,九九七,六五四	
七,〇一五,九〇五		九七,九五六,二六七	
七〇五,二八七三〇		六,一九三〇,九〇	
四,八七二,一三三		九,八八二,〇一八	
七六,二五五九六二		五三,七二五七〇六	
四〇一,五五五,四九		一六,二五九,二六二	
七二,一三三,二九一		七,六三九,一九	
二四,一九六四一七		三三,〇三二,七八四	
一九,〇四三,四〇三		七,三二〇,五二九	
六,二四〇,五四七		一九,二五三,九六八	
三九,七八四,六二九		一〇,六六八,八五三	
四〇,三九一,三〇八		八七,八〇四,二六八	
六二七,三六二,三七五		一〇,一三八,一三六〇	
七九,二五〇,二一			

合 騰 思 蒙 龍 北 瓊 南 梧 三 江 拱 九 九 廣 汕 厦 福 三 溫 寧 杭 蘇 上 鎮 南 燕

龍
鐵
都

計 越 茅 自 州 海 州 寧 州 水 門 托 道 龍 東 頭 門 州 澳 州 波 州 州 海 江 京 湖

二五,八五三七九	一〇,一〇九六二
一〇四,二四九八三七	二五,七三二五八
七,一三五,二五二	一〇六,六四〇,三七二
二四六,六二八八七	二,七二,四三八七五
二〇,七四七,二七	一七,七二九,九七
三〇,一〇五,二〇八	三,五六,一五九九
七,四二〇,九五〇	八二,〇八四六一
一〇,三五〇,八四一	一〇,一四二,三七六
一,一二三,九九五	二,一七六,〇九二
九五,三三三,三七六	一〇,四三九,二七
八九,一九五,三三六	八六,六二二,八九
二四九,七五〇,一八	二八,〇五二,四四五
五〇,一八六,〇八五	六六,四九七,一〇〇
六六,六六六,二八	七,三三,三五三
一八,三九,一七	二〇,八〇四,一八二
二八,二〇五,六五五	三七,六三四,三八二
三六,一八三,七二五	四五,二三五,一六二
二八,二四四,二六〇	三九,七九六,〇五
九七,九七〇,九二	二〇,一三〇,五六九
三〇,九二四,七二三	三九,四八三,二八四
三〇,七四二,三三六	三七,〇四五,五九
一四,〇七三,三四三	一七,四五〇,八八三
一,六三三,八九	七,七〇,二二
二二,一三七,五七五	二二,〇五八,八三
一,一三八,四六九	二,一八六,二二七
一四,九三五,六九六	一九,三九九,五二九
七六〇,一,九六六,七三	九,一八九,八六九,二九二

事業界

麥加利銀行營業成績

(The Chartered Bank of India, Australia & China)

支那に支店を有する麥加利銀行は、去る四月十日倫敦本店に於て第六十四回株主總會を開催したるが、今其決算報告書に據り、同行昨一九一七年度の營業成績を見るに左の如し。

同年度營業純益は總ての滯貨準備金を除き、前年度より繰越金一五七、四六五磅一〇志二片を合して五六〇、二六一磅三志三片に上り、其内昨年九月に支拂ひたる年一割四分に相當する上半年期配當其額八四、〇〇〇磅を控除する時は殘高四七六、二六一磅三志三片となるべし、此金額に對し下半年期配當年一割四分、外に毎株一磅の特別配當を行ひたるが是にて合計全年に對し年一割九步(所得稅免除)の配當となる此外積立金に一〇〇、〇〇〇の磅を加へて全計二、〇〇〇、〇〇〇磅となし、役員退隱料基金に二五、〇〇〇磅と不動産の減價償却に四〇、〇〇〇磅を充てて殘額一六七、二六一磅三志三片を次期へ繰越したり。

今參考の爲め營業決算表を示せば左の如し

●貸借對照表(一九一七年十二月三十一日)

負債之部

一、資本金 株數六〇、〇〇〇株	
每株額面、二十磅	一、二〇〇、〇〇〇・〇〇
一、積立金	一、九〇〇、〇〇〇・〇〇
一、銀行券	九二五、九九一・一六・一
一、當座及其他諸勘定(貸倒及臨時缺損準備を含む)	一九、三四九、三四五・一四・八
一、定期預金	八、六九二、八〇三・三・一一
一、支拂手形	五八三、三六〇・一六・八
一、支拂承諾	一、二五五、九七六・四・三
一、擔保付借入金	五三二、五〇〇・〇・〇
一、他店借	三一、二九二・三・七
一、雜負債	一、一七八、九〇一・九・八
一、損益勘定	四七六、二六一・三・三
再割引手形に對する債務	
六、一五〇、四五三磅一四志四片の内	
五、五一八、四八八磅一二志一〇片は	
一九一八年三月二十五日を以て滿期	
決濟せられたり。	
爲替豫約殘高一二、三五六、四八三磅二志一片	
總計	三六、一二六、四三二・二・一
資產之部	
一、現金及當座預金	八、六九四、一四五・六・一一
一、手許及運送中地金	四五、二二八・一七・一一
一、國債證書其他有價證券	三、三二五、九七七・六・一〇

一、紙幣發行準備及政府へ供託

一、〇一四、〇〇〇・〇・〇

一、爲替手形(大藏證券を含む)

四、三三七、九〇三・五・一

一、割引手形及貸金 一〇、一四三、一〇八・一〇・一

一、取引先支拂承諾 一、二五五、九七六・四・三

一、他店貸 二二一、一四六・一・二

一、雜資産 一二五、四九三・一三・二

一、本支店營業用地所家屋等

五一六、九五九・一九・一

一、本店及支店間の送付中の金銭及手形

六、四四六、四九三・六・一〇

總計 三六、一二六、四三二・一二・一

●損益計算書

支 出

一、前半期配當(一九一七年六月三十日)

八四、〇〇〇・〇・〇

一、配當(後半期分年一割四分の割)

八四、〇〇〇・〇・〇

一、特別配當毎株一磅

六〇、〇〇〇・〇・〇

一、積立金 一〇〇、〇〇〇・〇・〇

一、役員退隠料基金 二五、〇〇〇・〇・〇

一、土地家屋 四〇、〇〇〇・〇・〇

一、次年度へ繰越 一六七、二六一・三・三
四七六、二六一・三・二

合計

五六〇、二六一・三・三

收 入

一、一九一六年度末日殘高 四二七、四六五・一〇・二

内差引

一九一六年下半年配當

八四、〇〇〇・〇・〇

特別配當毎株十二志

三六、〇〇〇・〇・〇

積立金

一〇〇、〇〇〇・〇・〇

役員退隠料基金

二〇、〇〇〇・〇・〇

土地及建物

三〇、〇〇〇・〇・〇

一、一九一七年度總利益(貸倒準備
過剩利益税及役員賞與金控除)

二七〇、〇〇〇・〇・〇
一五七、四六五・一〇・二
九二三、〇四〇・七・二

内差引

本支店營業經費

五二〇、二四四・一四・一

四〇二、七九五・二三・一

五六〇、二六一・三・三

彙司公司營業成績

(Weeks & Co., Ltd.)

彙司公司是五月三十一日第十八回株主總會を上海江西路

三七號なる本店に於て開催本年二月二十八日に終る營業年度決算の結果に對し八歩の配當案を可決したり

當日は L. I. Cubitt 氏病氣缺席のため H. M. Little 氏總支配人 T. E. Freeman 氏之を輔佐し、出席株數五、二七八ありたり、同年度の營業に關する議長の説明の要點を略述すれば左の如し

前年の總會に於て議長が指摘したる營業上の諸障礙は昨年中毫も輕減することなく、本國製造家の生産制限、政府の輸出取締、船腹難等は本公司の營業を阻害したる主因にして、是等の諸障礙ありたるに關らず、満足なる成績を舉げ得たるは、總支配人の先見と伎倆によるものと云はざるべからず、而して商内高は着々増加を示し本年度は昨年度に比し、價額に於て二七、〇〇〇弗、一昨年度初に比し一三四、〇〇〇弗多き手持商品を以て開始せられたり、此事は一方に於て銀行の當座借越高の減少と相俟ちて、本公司本年度の營業を大に好都合ならしめつゝあり。

在上海不動産は着々利益を舉げつゝあり、一方漢口に於ける不動産亦漸く收支相償ふの域に達したり。

帳簿上に於て全く償却せられたる牯嶺の舊平屋は増加しつゝある夏期の商賣向には不便にして、不適當なるが故、之を倉庫及社員に住居に適する様、新式家屋に建替へたり此家屋は石造にして結構宏麗、設計便利且美術的なり。

損益勘定に就ては別段異なるものなし、取立の見込立たざる賣掛勘定の償却は例の通り之を行ひたる上、更に滯貨準備金勘定へ一、五〇〇弗を加へ、器具什器運搬車、馬及機

械等の減價償却は十分に之を行ひたり。

建築物の増建改良に要したる費用の償却は、例の通り二割の割合なるが、其上本勘定尻六、一三〇弗の殘高をも全部償却することゝなしたり。

さて貸借對照表を見るに、積立金勘定に加へられたる一、三一一弗九六仙は、昨年株のプレミアムとして示されたるが、此積立金を丁度八五、〇〇〇弗となす爲に、其上に八、六八八弗〇四仙を追加したり。

爲替勘定貸方殘高は之を株券勘定貸方へ轉じたるが、其内一、九八二弗四七仙は、之を爲替損益勘定へ振込み、其勘定尻を一〇、〇〇〇弗に爲したり。

香上銀行の當座借越高は前年よりも多少減少し、各種弗勘定貸方殘高を差引く時は、純負債額二〇五、九二二弗一一仙となる、賣掛勘定殘高は合計に於て昨年度よりも約一二、〇〇〇弗多額なるが、是れ賣上高の増加したること、各人が軍事公債の應募及恤兵費への醵金等により支拂が平時より稍遅るゝに因るものなり、建築物の帳簿價額は原價より三八、〇〇〇弗を減じ居れるが、本年は更に一〇、〇〇〇弗の減價償却を行ふことに決せり。

而して損益勘定貸方殘は前年度よりの繰越七、八三四弗九七仙を加へて、六九、八六六弗〇五仙となるが、之を處分すること左の如し。

配當年八分	三四、九一五・二〇
建物減價償却	一〇、〇〇〇・〇〇
建替及改良費の償却	六、一三〇・〇〇

積立金 八、六八八・〇四
次期へ繰越 一〇、一三二・八一

合計 六九、八六六・〇五

社員へは一ヶ年の俸給額の一割以内に於て、賞與金を給することゝに決議したり。

廣東保險會社營業成績

(The Canton Insurance office, Ltd)

廣東保險會社は五月十七日其第三十七回普通株主總會を香港怡和洋行事務所に於て開催したるが、今其營業成績を見るに左の如し。

一九一六年度決算尻は昨年五月三日に支拂ひたる臨時配當毎株十八弗を支拂ひて、尙五三九、七九三弗九六仙ありたるが、之を處分すること左の如し。

最終配當毎株七弗 七〇、〇〇〇・〇〇弗

英貨積立金二萬磅(三志替) 一三三、三三三・三三

次期へ繰越 三三六、四六〇・六三

合計 五三九、七九三・九六

一九一七年度の純收益三、二二七、九五四弗九八仙、此内毎株十八弗合計一八〇、〇〇〇弗の配當を支拂ひて殘額三、〇四七、九五四弗九八仙を次期へ繰越することゝしたり。



時報



政治

●段系督軍の通告

七月十六日奉天、湖南、安徽、福建、浙江、陝西、山西、河南、吉林の段系督軍等は王占元に通電して曰く、中央の征南續行策は一致賛同せしものなり、近時私利を謀るの徒、隙に乗じて妥協を圖らんとするは大局を破壊せんとするものにして、嚴然拒絶し、速かに國家の平和を圖るべし云々と。(時報)

●馮玉祥の辯明

馮玉祥は、七月十六日王督軍に向け、予は決して獨立せる事なし、外聞の風説は虚報にして信するに足らずと辯明し來れり、蓋し馮が直隸系の秘令を受け、中立の態度を持せしは事實にして獨立説傳はりしより、中央は張敬堯范國璋をして嚴重に監視せしめ、較もす

●外交總長更迭説

れば壓迫を被らんとするに鑑み、暫らく段系の疑惑を避けん爲め王占元をして辯護せしめんとするもの、如し(時報)更に二週間の休暇を呈請せり、或は出で、瑞西公使たるべしと言ふ、よつて外交部の事務は暫時次長陳籙代つて主宰しつゝあり、段總理は汪大燮を起して陸の後任たらしめんとする意あるが如しと。(神州日報)

●法律館總裁と院長

新設法律館總裁には董康、王寵惠擬せられ、大理院長には姚霍升任命せらるべし、されど董は選舉訴訟事件の爲め今暫らく現職を離れ難き事情あり、結局總裁は王寵惠の物なるべし、又姚は龍濟光及び徐樹錚等有力者の推薦せる所なりと傳ふ。(神州日報)

●在廣東議員數

七月十日參議院及衆議院秘書廳の調査に據れば議員名簿に記され居る廣東來着の議員は參議

員百十三名衆議員二百三十五名合計三百四十八名にして未だ全數の一半に達せずと。(順天時報)

軍事

●軍費支給方針

段總理は七月七日曹汝霖を自宅に招きて協議の上軍費の支給方法を次の如く決定したりと言ふ。(時報)

(一) 攻川援粵軍軍費を第一と爲し政府より直接交付す
(二) 各軍々費の不足は之を第二とし財政部より期を分ちて支給す

(三) 普通の軍費を第三と爲し陸軍部より分給す

(四) 特別軍費を第四と爲し參陸處より發給す

(五) 地方の軍費を第五となし各省財政廳より負擔する事

●廣東討伐軍編成

援粵總司令張懷芝は漢口到着後武昌督軍府に湖南江西安徽江蘇の各軍將校を召集し廣東討伐に關する軍事計畫を定めたるが之に依れば大軍を三路に分ち林州桂東に進み廣東に侵入する手筈にて其軍の配備は左の如し。(時事新報)

本 隊 奉天軍五個混成旅

右 翼 江西山東軍各一旅江蘇軍一旅及近畿混成第六旅

左 翼 安武軍三十營近畿第三師

豫 備 隊 第十師第二十師及第十六混成旅

本隊指揮官 奉天軍司令孫烈臣

右翼司令 第六混成旅長張宗昌

左翼司令 安武軍司令馬聯甲

●海軍維持案 十一日の閣議に於て劉海軍總長は特に海軍維持案を提出せしが其内容は凡そ次の四項なりと言ふ(神州日報)

(一) 海軍と陸軍の聯合案

(二) 軍隊軍需品輸送手續

(三) 水上警察をして海防を補助せしむ

(四) 軍艦の停泊、遊弋各地點を定むること、尙聞く所に據れば海軍部は日支海軍協定を履行する爲先づ海軍供給所を設くる筈なりと。

●督軍署の防範計畫 山東護理督軍張樹元は各縣下の土匪未だ終息せず治安を擾亂するを以て特に防範計畫を規定し各縣に通令せるが其内容の要點は

一、軍隊分駐の要點

二、軍警聯合の方針

三、軍警擊匪の獎賞

四、軍警共同哨防の規定

五、軍警の責任

六、隣縣と共同防備の地點

七、知事出巡の責任

等なりと云ふ。

經濟

●六月分鹽稅餘款 六月の鹽稅餘款は銀五十萬兩と二百四十二萬五千元なり而して右餘款は天津上海の各關係銀行より支那政府に交付せり。

●天津紡紗廠擴張 天津模範紡紗廠は創立以來廠長王竹銘氏經營に盡力し、銳意改良を圖り居れるが、製品の良好販路の擴大せるより、今回大々的擴張を加ふる由にて流通資金を直隸省銀行より借入れんと目下省長其他に運動中なりと。

●阿爾泰の開埠 一阿爾泰は彼の阿爾泰山の連綿たる地方にして、外蒙と新疆に挟まれ西比利亞に近接し、寧ろ露國との通商頻繁なる土地柄なるが、支那政府は同地にも商埠を自開せんとし、外交部は主管各部院と協議の上國務會議に提出して、討議に附すと云ふ。

●河南金融會議 河南省金融維持の爲該省公署に於て金融會議を開き左の四大綱を決議せり。(時報)

- 一、紙幣價值の維持及偽造を查禁すること
- 二、紙幣の信用を保存すること
- 三、弗銀を省外に搬出するを禁止すること
- 四、弗銀及現錢を省内に吸收すること

●六月許可の鑛產 六月中農商部に於て採掘認可を與へたる支那全國の鑛產は、炭礦八ヶ處、金鑛一ヶ處、鐵鑛四ヶ處、銅鑛一ヶ處、總計鑛區一萬一千四百三十一畝なり。

●熱河採金局 曩に財政部に於て設立せる熱河採金分局を今回熱河の自營に歸し熱河金鑛總局と命名せり。

●裕邊實業銀行 奉天及び吉林に於ける殖邊銀行の信用大に失墜し、最近、吉林實業界の有力者張振遠來京し中央の要路に在る者と往復して裕邊實業銀行を設立せんと畫策しつゝある由傳ふ。(順天時報)

●五族商業銀行創立 五族商業銀行は七月四日北京に於て創立大會を開催せるが役員の顔振は左の如し。(順天時報)

董事 梁士詒、周自齊、劉冠雄、彭解、鄧君翔、胡憲徽
王至隆

候補董事 陳日初、馮耿光

監察人 饒昌齡、孫靜山

候補監察人 趙幼田

總理 陳文泉

協理 伍錫河

董事會議長 梁士詒

交通

●大達輪船現狀 大達輪船公司は昨年支那政府が對獨塊宣戰布告の結果當時迄中立國たりし支那諸港に通竄中の獨塊船全部を押收して組織したるものにて其現在所有せる船舶は左の十二隻なり。

船名	前名
華甲	チャイナ
華乙	シレシア
華丙	ボヘミア
華丁	デーク・リツクマアー
華戊	アルベンガ
華巳	カツセ
華庚	コン・ウエイ
華辛	セクスタ
華壬	ツリユムフ
華癸	ヘレン
華大	メイ・ダアー
華利	メイ・リー

右の内華戊、華丙、華壬の三隻は日本郵船會社に傭船せられ、華戊はカルカッタ航路に、華丙は南洋航路に、華壬は天津航路に従事し居り、其他は英佛伊等聯合國の傭船となりて、地中海及大西洋方面の運航に従事せり、但し右の内華大華利の二隻は河川用船舶にして、上海を中心として内河航路に従事す、又華甲華乙華丁及華巳四隻の船長は外人なるも、他は何れも本邦人の船長にして又其他の船員は殆ど日本人に於て之を占め、唯だ下級船員に支那人を乗組ましめ居りて、所屬船員總數は四百餘名に達すると云ふ。

(神洲日報)

●京綏線成績 京綏鐵路の本年五月分營業收入は三十九萬九百八十四元にして、昨年五月に比し十萬千七十二

元を増し、一月以降五月迄の同收入は百七十九萬五千四百九十一元にして昨年の同期に比較し、二十九萬三千九百七十八元の増進を告げたり、同線は客臘よりベスト流行の爲一時輸送を停止し、後更に制限を加へたるにも拘らず、昨年の同期より營業收入の増進を示せるは京津對奥地間の交通に進歩を來しつゝあるものと云ふべし。(順天時報)



彙報

自七月一日至七月十五日

對露關係

▲セ軍を國境に追窮 (浦瀾特電廿九日發) 赤衛軍の報に曰く我軍はセミヨノフ軍の殘兵を支那國境に追ひ詰めたり支那兵はセミヨノフ軍の支那領土に入るを許さず目下セミヨノフ軍には支那兵二千あり露國土官百五十名其指揮を執り他に蒙古人哥薩克ブリヤット人より成る一隊の兵士が混ぜり戰闘開始以來セミヨノフ軍の死傷者一千七百にして我軍は死者二十名と負傷者二百名ありたりと。(一日、時事)

▲オムスク政府宣言 (哈爾濱特電廿日發) 過激派政府は六月十日附オムスク臨時政府の宣言書を發表したり。

ヤマヤベリーに於ける過激派の權力は一掃され其政權は重要問題の復活を期し基本法律の制定並に將來の西伯利の國體問題並に歐露との關係を決定すべき西伯利立法會議の組織に努めんとす臨時政府は今や重き疾患と不幸と艱難に陷れる歐露と將來永遠に分離せん事を欲すと雖も祖國の狀態に鑑み若し過激派政府にして西伯利に於ける過激派の權力復活の計畫を承認する事なくば吾人は祖國の市民に物資の救助をなすを辭せざるべからず。(二日、日日)

▲極東政府愈樹立 (長春特電二日發) ホルワット中將は愈々極東政府樹立に決し義勇軍團の募兵を急ぎつゝあるが當地方の應募者盛なり。(三日、時事)

▲反過激派新首領 (倫敦電報二日發ロイテル) 六月廿八日發アムステルダム來電に曰くフォツシツセ・ツアイツング紙の報道によれば露國前外務卿にして立憲民主黨領袖なるトリューコフ氏及十月黨領袖なるグチコーフ

氏は哈爾濱に到着し反過激派運動の首領に推戴せられたりと。(三日、日日)

▲哈爾濱危急 (安東特電一日發) 哈爾濱在住の邦人形勢日に險惡を加へんとするより自衛團を組織して萬一の變に備ふべく準備中にて是が訓練の任に當るべき在郷軍人募集中なすが安東縣にては少尉以下六名の應募者あり卅日夜哈爾濱に向け出發せり。(三日、日日)

▲西伯利政府の政策 (二日浦瀾特派員發) 今同浦瀾に於て組織されたる臨時西伯利政府の政策は全西伯利に於て憲法議會を召集し秩序を回復せんとするにあり同政府の旗は白青旗にして白は西伯利の平野を掩ふ白雲の意青は西伯利の鬱林を意味し同政府が西伯利全部の權利を統轄するの徵象たり西伯利臨時政府の實行方針は他國民の干渉を受けずして過激派の手より西伯利を自由と爲し各州縣會を召集して之に依り無職者に職を與へ土地なき者に土地を分ち商業經濟を復興し一般民衆に廣く平等選舉權を與へて全西伯利憲法議會を召集し西伯利を以て全露國領第一の民衆政治團と解釋し總て大露國國家建設の先驅を以て任するものなり斯の如き主義に依り同政府は飽迄聯合國と協同して世界的民衆の名の下に獨逸と戰爭を繼續すべし因に衆民皆西伯利政府に歸きつゝあざ。(四日、時事)

▲西伯利政府顔觸 (二日浦瀾特派員發) 今同浦瀾に成立したる西伯利政府内閣一部の顔觸れ左の如し。

△内閣總理兼外務卿デルベル(極東委員會長) △内務卿チベル・ベトロフ △食糧卿タラソフ △大藏卿トルネフ △軍務卿ラルチン。

尙トムスク西伯利政府との關係は二者同體なるが如く西伯利政府は青白二色の旗を其國旗と改めたり。(四日、朝日)

▲コ中將來航 (三日奉天特派員發) ボクラニチナヤ國境驛に於て過激派軍に對抗せし東清沿線總司令官コルチャク中將一行三名は二日夜安東驛にて日本に向へり用向は一切不明なるも中將は親英派に屬しセミヨノフ及び邦人側には反感を受けしものなり尙ホルワット將軍にも渡日を勧めし政客ありしも將軍は中途より之を拒絶せりと。(四日、朝日)

▲ドムスク新政府 (五日上海經由路透社發) テーリー・エキスブレツスにストツクホルム通信員所報に曰く哈爾濱に首都を有する東部西伯利政府とトムスクに首都を有する西部西伯利政府とは今同合併しトムスクを新首

都に選びたり新政府の主なる兵力は義勇兵數個兵團と士官との外にチエツク・スロヴァク兵より成れり全軍の運動はケレンスキー氏外部より之を指揮す。(七日、日日)

▲支那貨物露國行 (倫敦ロイタル三日發) 在哈爾濱、デリー、モール通信員六月二十六日附所報に曰く支那側にては輸出禁止の解除以來多量の棉花、毛布、脂肪、油、咖啡其他獨逸に取り絕對必要な貨物を露國に向け發送しつゝあり元來支那の輸出禁止は東方に於て獨逸に對する完全なる封鎖を行ふ爲めのものなりしなり支那側にては物資の必要を感じ居れる露國在留支那人を悩はしむるの必要なることを切實し居れるも是等の貨物はイルク・ツクを通して獨逸人側に達す可しと信ず可き理由ありと。(七日、時事)

▲西比利亞首相と會談す (漢堡特電六日發) 五日余(時事新報特派員)は西比利亞政府を訪ひ首相テルベル氏に會見せるが彼は聯合國と事務的交渉に入り且つ聯合國より財政技術上の援助を希望し居る旨を述べ西比利亞政府の依頼に依り勞兵會長スハノフを拘禁せりと語れり。(八日、時事)

▲西比利亞政府基礎確立 (哈爾濱特電六日發) クラスノヤルスク及びトムスクにては西比利亞政府の基礎確立し既に裁判をも復活せりと。(八日、時事)

▲國境出兵議決せん (上海特電十日發) 支那大總統は西北國境出兵に關し在外公使に意見を徴したるに既に日英佛米駐劄公使より返電ありたり閣議に提出して決定す可し。(十一日、時事)

▲過激軍窮地に陥る (哈爾濱特電八日發) チタよりの來報によればチエツク軍は廿九日の戦闘に於てカルイムスカヤ(黒龍鐵道と後貝加爾鐵道との分岐點)より過激派を撃退し過激派軍は滿洲里の國境並にハバロフスク方面に退却せるが其結果ダウリヤ方面の過激派軍は烏蘇里及グロドコウオ過激派同様板挟みの窮地に陥るを以てカルイムスカヤ、チタ方面のチエツク軍にしてセミヨノフ軍と氣脈を通じ腹背より過激派軍を挟撃せば又一掃を見ること難からずセミヨノフ軍の前途亦一大回轉を見るに至るべしと観測せらる尙チエツクはチタ軍に於て千五百名の過激派軍を俘虜としたるが其内八百名は獨逸俘虜なりしと又ハバロフスクに於ても既に兩軍の開戦を見るに至れり。(十一日、日日)

▲過激派軍襲撃失敗 (長春特電十日發) 過激派軍は去る一二兩日セミヨノフ軍を襲ひ激戦の後セ軍に撃退され山砲自動車多數擄獲されたり。(十一日、時事)

▲過激派軍を撃退 (哈爾濱特電九日發) 四日過激派イルク・ツクを占領せしも激戦二日の後チエツク軍之を撃退せり。(十一日、時事)

▲國境守備増派 (哈爾濱特電九日發) 東清沿線守備隊司令官陶將軍に對し北京政府より國境守備の爲ボグラーニチナヤ方面に更に三箇聯隊の支那軍を派遣すべしと通告し來れり。(十一日、日日)

▲國境増兵の請求 (北京特電十一日發) 新疆省督軍よりの電請に據れば邊に兵をアオン地方防備の爲め増派したるが露國兵日に増し過激派の爲めに破らるゝことあらは支那國境内に運れ來るも差支なき旨命令し置けり然るに該地方防備國境保護は目下の兵にては不充分なれば尙ほ一軍團の増兵を望む今日國境内に運れ來れるもの伊犁丈けにて一萬人を超え天山南路に駐屯せる英國印度兵は又命令一下進發せんとしつゝわり一般民心恟々たり前記の處置に就き命令あり度しとあり政府は取敢ず『是等英露の軍隊は皆露國過激派及び獨逸の勢力に當らんとするものなれば之が處置に就き充分の注意を拂ひて過ちなきを期せよ』と返電せり。(十五日、時事)

▲過激軍前哨逃亡 (哈爾濱特電十四日發) 滿洲里よりの來報によればセミヨノフ軍はダウリヤに前進し過激派軍の前哨は逃亡したるが獨逸軍の司令官は目下オノンにありと又滿洲里より歸來せるもの言によれば前進の準備を整へ居りしセミヨノフ軍は今日明日にオノンを略取する意氣込にて前進する豫定なりと。(十五日、日日)

▲極東政府成立 (哈爾濱特電十三日發) セルワット將軍は豫定の通りグロドコオに於て極東臨時政府組織を發表し自己の國家的権限並に國民の秩序恢復と露國國體を制定すべき一般自由權の組織とを發表したるが其権限はカルムイコフ軍の占領地域内に止まり頗る次の如くならん。

ウストルコフ氏(前交通次官にして東清幹部の一人) ▲ウストルキン氏(前國會議員) ▲タスチー、オコロコフ、ブーチロフ氏(露國銀行員) ▲フルーグ氏(前沿黒龍江省知事) ▲アルハークコフ氏

(哈爾濱特電十三日發) ハルワット將軍は九日グロドコオに於て次の命令を

發したり。

一、エニセースク選出國會議員臨時政府食料執政官ウーストルキンを閣員に任じ商工業事務を管理せしむ。

二、臨時政府交通次官ウーストルコフを閣員に任じ交通及通信事務を管理せしむ。

三、臨時政府アルタイ縣執政官同縣共同組合長消費組合長オコロコフを閣員に任じ食料事務を管理せしむ。

四、後貝加爾選出國會議員同州選出國會議員立法會議員タスチーを閣員に任じ農務及國有財産教育事務を管理せしむ。

五、不明。

六、東清鐵道理事ブーチロフを閣員に任じ財政を管理せしむ。

七、西伯利信用組合代表者クルスキーを閣員に任じ宗教事務を管理せしむ。

八、中央露國軍事社會團は政治部代表者ブルハーコフを閣員に任ず（任務未定）。

内閣員の互選に依りウーストルコフを内閣議長に任命す。

（哈爾濱特電十四日發）臨時政府閣員ウーストルキン氏は浦鹽に赴きタスチー氏は十二日哈爾濱に來るべしと。

（哈爾濱特電十四日發）ホルワツト將軍はセモイノフ氏に對し臨時政府の陸軍部長たる事を勸誘したりとの説あり。（十五日、日日）

▲極東政府援助 （哈爾濱特電十四日發）哈爾濱社會革命黨及社會民主黨は全露合衆國保護の見地より次の決議を爲したり。

一、西伯利の經濟的生活の復興及民主的行政の組織を爲すべく西伯利立法會議を援助すること。

二、地方自治團體及司法機關の復活。

三、人民の自由擁護。

四、規律ある軍隊組織の援助。

五、フレスト・リトウスク平和條約の廢棄。

右の團體は溫和派を以て標榜せるものにして且ホルワツト政府を援助するものなるは言を俟たず。

（哈爾濱特電十四日發）昨日東清鐵道從業員はホルワツト將軍に對し次の電報を發したり。

昨日十日吾人は閣下が國家の全權力を擔はれしとの快報に接したり露國民が敵國より受くる言語に絶する程の侮辱と屈辱とは祖國の保護及救済の爲め遂に閣下の憤起を餘儀なくせしめたり思ふに祖國を救済する唯一の方策は權力を一人の手に統轄するにあり吾人は滿腔の愛國心を以て其成功を祈りて已まず。（十五日、日日）

外交關係

▲米國より機關砲 （上海特電二十九日發）昨日當地着の米國汽船は三十八年式機關砲三十門及び其他彈藥三十萬發を積載せり右は北方政府に送らる可しと云ふ。（一日時事）

▲孫文氏逮捕計畫 （北京特電三十日發）上海護軍使盧永祥氏より政府に對し既に訓令により佛國領事館に向ひ孫逸仙氏逮捕の件を交渉中なるも尙未だ解決せず引續き交渉を續行すべしとの返電あり之によれば政府は孫逸仙氏逮捕密令を發せるものと認めらる。（二日、日日）

▲鳳凰山鐵礦問題 （倫敦ロイテル特電二十七日發）英國下院に於て外務次官は自由派議員サー・チャールズ・ホプハウスの若干問に互る質問に答へて曰く英國政府は日本シンゲケートの支那鳳凰山鐵礦探掘權獲得の交渉行はれつゝあることを知る然れども未だ該交渉が終了成立したりとの公報に據せず右鐵礦は英國政府が常に英國の特殊利益範圍なりと思惟する楊子江流域に位す、其特殊利益範圍とは即ち英國臣民が同地方に於ける產業上の權利讓渡を申込むに當りては支那政府より好意的證議を受ける優先權を有するの意味に於てなり然も英國政府は苟くも支那に於ける利益範圍に對する英國又は他國の主權が門戸開放の主義と相背馳してまで強いるものなりと思惟せず本問題に關しては英國公使も將た又外務省も相談を受け居らずと。（三日、時事）

▲孫文逮捕交渉 （北京特派員發）上海護軍使盧永祥は國務院に宛て孫文逮捕に關し佛蘭西領事に交渉したるも（孫文は佛租界にあり）未だ解決

せず佛國公使と交渉されたしと述べ來れり。(三日、朝日)

▲日人凌辱頻出

(三日長沙特派員發)

長沙警察廳は人力車税の増徴を實施せるため車夫等は物價騰貴の際に於ける増税と軍隊の強制備喝との苦痛に堪へず一致反對し二十五日來同盟休業を爲すに至れり茲に於て軍需品の運搬は船積運搬に支障を生ずるに至り二十九日正午頃邦商三五洋行所有の車輛は奉天兵のため徴發せられたるより同店員岡西藏氏は銅元局前に於て該隊の引率者に交渉し之を奪回し將に歸らんとする際該所にありたる凡そ二百の暴兵は喧嘩して岡氏を包圍し各自に所持せる天群棒を以て亂打し人事不省に陥らしめたり同人は附近にありたる邦人の介抱に依り幸ひ蘇生したるも全治迄には凡そ六週間を要すべしと尙該隊引率者は暴兵を制止せざりしのみならず却て其部下を使喚し暴行を取てせしめたる疑ひあり昨秋湖南兵亂勃發以來我國籍若くは我國旗の許に往來しつゝありたる大小船舶を徴發し或は射撃を企てし事件は數十回に互るべく或は住宅さへ掠奪或は狙撃せられて重傷を受け殊に去月中在醴陵の加藤醫院並に在實慶の森井齒科醫院に對する暴行の如きは單に財物を掠奪したるに止まらず醴陵に於ては同館にありし病中の支那人を死に至らしめ實慶に於ては森井齒科醫院は四肢を縛されて厩内に吊下げられあらゆる殘忍の行爲と凌辱を受け最近に於ては常德に於ける山本洋行に對する銃劍給暴行事件等は皆明らかに日本人なることを認識しつゝ凌辱を加へたるものなり是れ寧ろ無智の支那兵の暴行と言はんよりは寧ろ從來の我が對支策の不徹底なる結果我が國威を失墜したる實證なりといふべく湖南戰時終結に尙時日を要するとすれば此等の事件頻發すべく日支兩國間に於て嚴重なる取締を爲すか然らずんば吾人在留邦人に於て自衛策を講ずるにあらざらんば生命財産の安全を保し難きのみならず之れが爲帝國の威信は當地方より遂に殆ど一掃せらるゝに至らん。(四日、朝日)

▲孫氏を逮捕せず (北京特電三日發) 佛國公使館にては上海護軍使盧永祥氏より孫逸仙氏逮捕の事に就き交渉ありたるに就ては何等公報に接せざるも假令右交渉あるも佛國官憲に於て國際法により處分し決して支那政府の要求に應ずる事なしと辯明せり。(五日、日日)

▲鳳凰山問題議事

(倫敦ロイタル六日發) 七月二日英國下院に於て外務次官ロバート・セシル報は自由黨議員サー・チャールス・ホブハウスの質

問に答へて日本に對する鳳凰山鐵礦採掘權許可問題に就きては英國の利益が十分に保護せらるゝこと確實となるまで之が最後の許可を猶豫せしめんが爲め支那に對して照會を爲すの問題を考慮す可しと約言せり。(九日、時事)

▲孫氏引渡拒絶

(上海特電八日發)

孫逸仙氏捕縛の件は孫氏が會て支那の臨時總統たり現に政治に關係ありて捕縛どころか正に保護すべきものなりとて支那官憲に拒絶することに決し孫氏の住宅附近を特に警戒し居れりと。(九日、日日)

▲日本滿蒙開市要求

(八日北京特派員發)

日本政府は滿洲洲及東蒙古に關する日支新條約第六條に基きて支那政府が大正三年に自ら聲明したる奉天省葫蘆島(連山灣)山西省歸化城、直隸省張家口、赤峰(直隸省熱河管内)洮南(奉天省)南多倫諾爾(直隸省察哈爾管内)の六箇所を商埠に開放する事を督促せり、同時に新に直隸省彰德(熱河)朝陽(直隸省熱河管内)間魯(同省)林西(同省)奉天省錦州の五箇所を商埠として開放されたる旨要望せり。(十日、朝日)

▲印度兵新驅入り

(北京特電八日發)

支那政府は新疆督軍楊增新氏の報告に基き喀什噶爾英國領事館に印度兵來着の件を英國公使館に問合せたるに英國は新疆方面に露國過激派兵侵入せる爲英國は保護の必要を認め印度兵二十名を同地に駐屯せしむる事となれる旨明答せり支那政府が之に對し抗議を申込むべきや否や考慮中なりと。(十日、日日)

▲商埠六箇所開放

(六月北京特派員發)

日本が支那に對し督促したる兩埠開放に關し九日の國務會議は民國三年に開放すべく支那自ら聲明したる六箇所即ち張家口、歸化城、赤峰、洮南、多倫諾爾、葫蘆島を先づ開くべく決議せり。(十二日、朝日)

▲俘虜護送提議

(北京特電十日發)

昨日午前七時北戴河より突然歸京したる英國公使ジョルダン氏は午後三時外交部に次長陳露氏を訪ひ在支獨逸俘虜全部を中立國汽船にて丁抹首府アムステルダムに輸送し該地より自由に獨逸兩國に歸還せしむべしとの本國政府の訓令を齎し交渉を試みたるが支那政府は目下陸外交總長不在なれば其歸京を待ち何分の回答を爲すべしと。(十二日、日日)

▲敵國人收容地選定

(十日北京特派員發)

外交部は敵國人收容地を

浙江省の舟山島に遷定し既に同島調査の爲人を派したり準備成り次第歐國人を同島に移して監視すべしと。(十二日、朝日)

▲英支立會裁判 (北京特電九日發) 英國宣統帥グラハム氏殺害事件に對し英國政府は英支兩國の立會裁判を爲すべき旨提議し支那政府も之を承諾せしが英國側は浙江省海門衛に之を設置せんことを主張し支那側は審波を主張し未だ一致せず。(十二日、日日)

▲唐紹儀借款運動 (上海特電十一日發) 駐日支那公使は北京政府に對し唐紹儀は日本に在りて廣東嶺南を抵當とし金を借り武備を買はんとする運動を爲す故之を阻止す可く交渉ありたしと通電せりと。(十三日、時事)

▲滿蒙開埠說明 (北京特電十一日發) 北京政府は奉天督軍、齊々哈爾、熱河、綏遠城右都統に打電し日本より内蒙古商埠地開放の請求ありたるも右は民國三年の支那政府宣言及民國四年の日支協約によりて開放すべきものにして決して日支軍事協約に基きて發生せるものにあらず且自開商埠にして主權は支那政府にある租界の性質と同じからず誤解する勿れと訓諭せりと。(十五日、時事)

南北情勢

▲唐氏和議勸告 (上海特電二十九日發) 北京來電唐紹儀氏は五日憲總統に打電して日本の輿論は支那に南北妥協を求むるにあり實下は此輿論を尊重し和議に意を用ひられよと。(一日、日日)

▲經略使の職權 (北京特電二十九日發) 二十九の閣議に於て四省經略使曹錕氏の職權問題を議したるが具體的決定を見ず先づ曹錕氏の入京を促し而談の上本問題を解決するに決せりと。(一日、日日)

▲最後の「一戰」を必す (重慶特電廿日發) 三十日鎮守使公署に於て靖國軍幹部王天縱、黃復生、王文華氏等重なる者相會し左の要項を議決せりと。

- 一、黎天才、王天縱の兩軍に對し軍器、糧食を補給すると。
- 二、第二路總司令葉奎は黎王兩軍と共に巴東を奪回して靖國軍の勢威を揚ぐる事。

三、雲貴川援軍は王天縱の巫山に歸るを待ち後より十分の部隊を派遣すべし。

四、宜昌攻撃は北軍の進路如何により其計畫を定むべし。

要するに右は近き將來に於て開かるべき南北の議和に際し有利なる地歩を得んが爲最後の「一戰」を試みんとする準備なるべしと。(一日、日日)

▲山東督軍任命 (北京特電) (二十八日發) 張樹元氏は山東督軍兼省長職理に任命されたり。(一日、日日)

▲二艦福建に派遣 (上海特電二十九日發) 當地海軍總司令は湖鵠、潮鵠の二艦を福建に送ることせりと。(一日、時事)

▲經略使問題に窮す (北京特電三十日發) 曹錕氏よりの經略使權限に關する質問に對し政府は全く其回答に窮し數日來國務會議參議院公署會議を開くと雖も議論區々にして決する所なし蓋し官制に無きものを無造作に作り而も其動機は張樹元氏を總司令と爲し曹錕氏は其儘に爲し置くは彼の感觸を害す可しとの考へより案出されしものなれば一度疑義を醸しては容易に決す可からざる問題となるより曹錕氏に取りては南下せざる口實となり且つ更に物質的抽象的に政府より何ものかを獲得の機會を作りたるものと云ふ可し。(二日、時事)

▲吳佩孚に戰爭繼續命令 (二十五日北京特派員發) 吳佩孚が湖南前敵にて趙恒惕と單獨妥協を開始中なるは既報の如し段總理は吳佩孚に對し中央は將に積極的作戰中にあるを以て斷じて不可なり士氣沮喪の虞あれば戰爭を繼續すべき旨二十四日參陸辦公處より訓諭の電報を發せしめたり。(二日朝日)

▲陸榮廷林紹妻を詰る (一日北京特派員發) 將軍府參軍林紹妻の報告に依れば二十三日武鳴に於て陸榮廷に會ひ妥協條件を示したるに陸榮廷は其其物には至極賛成なるも七月一日北軍は三路に岐れて廣東を攻撃せんとするは妥協の誠意なきものにあらざやと詰問せり因に林は段内閣成立後間もなく其密使として南下したるものなるが八月下旬歸京の書なりと。(二日、朝日)

▲徐樹錚の方針に従ふ (三十日北京特派員發) 亞伯利出兵に關し段總理は徐樹錚の意見を認め國內の時局に變みて先づ西南を平定して然る後

西北に出兵するの方針となせりと云ふ。(二日、朝日)

▲李厚基部下獨立宣言 (一日北京特派員發)

福建督軍李厚基部下の大隊長陶某は福建省永春に於て獨立を宣言し安溪南安の各縣知事は逃亡せりと從來同地附近一帯土匪猖獗を極め福建廣東救護と稱し其勢力侮り難きもあり李督軍は獨立軍と土匪と結託せざる限り恐るゝに足らずと樂觀し居れど福建軍の廣東攻撃に少からざる障害を來す模様あり。(三日、朝日)

▲四省經略使の權限 (北京特電二日發)

四省經略使權限に對し政府は漸く箇條的に決定する所ありたるが其大要は軍事の進行に關しては各司令と隨時會商することを得又地方の善後措置及び各省政治問題に就き地方長官を指揮命令して機宜の處置を執ることを得と云ふにあり尙ほ一同國務會議を経て上發布す可しと云ふ。(四日、時事)

▲新國會に反對す (上海特電二日發)

貴州省議會は舊國會の存立を國府の議員を指名して新國會を組織せんとするを攻撃するの意を北京政府に致せりと云ふ。(四日、時事)

▲南北休戰條約 (一日北京特派員發)

湖北督軍參謀長の談に依れば湖南督軍張敬堯、援粵副司令吳佩孚と南軍總司令譚浩明、譚延闓、趙恒惕との間に六月二十四日より七月二十四日迄休戰の條約を結びたる王占元に報知し來れり。(四日、朝日)

▲兵工廠設立再請願 (上海特電二日發)

倪嗣冲氏は蚌埠に兵工廠設立の許可を再び北京政府に向ひ申出で此經費は鹽の値段を上げて得たる資金を以てすること其材料を銅關山產出の鐵石炭を用ふることを以てせりと云ふ(四日、時事)

▲岑春煊氏の別辭 (上海特電三日發)

岑春煊氏は上海を去るに際し告示して警告する長文の書を遺し本日之を發表せり其要領左の如し。

▲黨同伐異 目下海軍の將士及び西南各省は護法の爲め努力し居れるに一方北京側は武力を以て之を壓せんとす抑も政は正なり古明君德を垂れ力を以て人を服するは專制國も尙ほ之を許さざる處況んや共和民國に於ては主權は人民に屬し行政權能は法律に依り扶けらる人民は國權の統治に服せざるなきに唯私利を逞うして全國統一を以て前提とせば誠心を披き公道を布き法度に從つて萬機を公論に決せざる可からず今政を執るもの現政府の起源如何其の法律上の地位如何を究め居れりや否や今根本の是非曲直に就

き自から判する能はざるが故之を察するに徒に強辯の脅迫を利用し元首を擁して政柄を執り中央の地位を驅りて己れに異なるものを攻め以て必ず屬從せしめんとす斯くして口を統一に藉るあるのみ海軍及び西南の行爲なくとも天下の人よく悉く之に盲從せんや其狀態を觀るに南人を見るに夷類を見るが如くなり長江の諸督軍は大局を思ひ努めて和解を爲す可く任じたるも陸に騎に之れを嫉み束縛して彼の志を行はざらしめ曹錕張繼等も亦民の困難を思ひて討伐を阻止したりしに更に彼等を誘ひて前敵に赴かしめんとす陸建章は高級軍官なる故に若し犯罪あらば當然軍法會議に附す可きに副司令と私に稱するもの(徐樹錚)のみを以て恣に之れを殺し政府亦之れに公式の追認を與へたり其餘の軍官亦忍びざるまでの咎を得るもの少からず。

▲討伐を固執するの弊 西南も尙我國土なり文明國は殖民地土人を治むるにも人道を以て自治を許し體柔を示し未だ専ら武力を頼みよく威壓を能事とするものを聞かざるなり海軍と西南は北京と兩立せざるの仇に非ず唯だ法を守る爲め自ら守るのみ而も相對して法に従ひ決する事も難事にあらざるに全國の武威を傾け西南を蹂躪し餘地を止めざらんとす且つ之に要する軍費を計らず無暗に外債を積み有ゆる物を抵當とせんとし徒らに友邦の支那に對し厚く助けんとするの好意を誤り用ひて一箇の機宜を逞ふし一時の機宜を得んが爲め故國に破産の罪を遺しつゝあり何爲ぞ忍びんや余は素より不才平時待む所は國に關ゆるに公利を以てするを知ると共に民意の尊重す可きを知るのみ今の如くんば強權ありて民意なし横恣ありて公利なきなり民意と公利は驚つ可からず而かも之を無視するもの殘暴といふ可きなり今日に於て苟も名義の何たるを知るもの護法護國を前提とし金錢を掠め暴力を萬能とするものを排せざる可からず是れ余の西南との約束に應ぜざる可からざる所以にして之に依りて正規の平和を促進せしめんとする所以なり苟も人民を安んずる公利の途を求む可きあらば誓つて素志を堅く持す可し代理大總統及び朝野軍權の後に從ひ時局收拾を計り且つ我國の危亡を救ふに努む可しと云々。(五日、時事)

▲唐繼堯政務總裁承諾 (上海特電三日發)

戦に就くを承諾せりと。(五日、時事)

▲南軍瓊州灣封鎖

(三日上海特派員發) 龍裕光は國務院に打電して

曰く南軍の軍艦は瓊州灣(海遼島)を封鎖し既に二十五里以内に水雷を沈設したり此事を各國公使に傳へられたしと。(五日、朝日)

▲吳佩孚軍動かず

(上海特電四日發) 湖南省前敵にある吳佩孚氏は停戦を爲したるに就き段總理より壓打電して停戦を取消し進軍す可き様命令せりも吳氏は頗る動く様様なしと云ふ。(六日、時事)

▲參軍の謀叛

(北京特電三日發) 將軍府參軍張鈞なる者土匪軍に投じ豫南に於て靖國軍南路司令官の名を以て督軍陳樹藩氏反對の旨宣言せり段總理は張が參軍の職に在りながら謀叛せるを憤り趙倜、陳樹藩兩督軍に向け速に之を討伐せよと電命せり。(六日、朝日)

▲南軍永春御化城占領

(四日廣東特派員發) 廣東省三河來電に據れば廣東軍は永春、御化城の兩處軍及び北軍を攻撃して福建省漳州方面に潰走せしめ廣東軍は永春及び御化城を占領せり。(六日、朝日)

▲廣東軍龍軍根據包圍

(四日北京特派員發) 廣東軍は雷州方面の龍濟光軍攻撃に全力を傾注し同地は目下包圍の狀態に在り龍濟光の南歸する迄に驅逐せんとするものゝ如し。(六日、朝日)

▲李烈鈞韶州防備

(四日北京特派員發) 李烈鈞は廣東韶州の防禦を固むるに全力を盡し虎門砲臺の二十四連砲二十門を韶州に輸送したりと。(六日、朝日)

▲廣西軍廣東移送

(三日香港特派員發) 廣西軍を廣東に輸送する爲め數隻の砲艦を梧州に派遣せり右廣西軍は陳炯明指揮する各隊は二十六日梧州に到着せり桂林及廣東の防備の任に當るべしと。(六日、朝日)

▲岑春煊廣東着

(四日廣東特派員發) 岑春煊は三日午後十時當地着四日國會議員は歡迎會を開けり。(六日、朝日)

▲廣東議員孫文に要請

(三日香港特派員發) 廣東國會議員等は孫逸仙の上海に歸着せる報を得孫氏に打電して廣東に來り政務總裁に就任する事を要請せり。(六日、朝日)

▲外蒙内付請願

(北京特電五日發) 外蒙古烏梁海地方の王侯は支那政府に内付せんことを請願し來れるより北京政府は此機會に同地方を確保せ

んと欲し人を派して現狀を調査せしめたり。(七日、日日)

▲國會列席の議員數

(上海特電五日發) 廣東正式國會に列席する爲め一昨日及び昨日議員二十名愈々廣東に向ひたり目下の狀態は參議院議員の既に廣東に着せるもの二十一名目下上海に在りて必ず行くもの十五名北京天津に在りて必ず行くもの二十七名各省に在りて必ず行くもの二十五名あり衆議院議員の廣東に着せるもの二百五十六名上海より二十七名北京天津より四十三名各省より七十七名必ず廣東に行く筈なりと。(七日、時事)

▲廣東政府の聲明

(上海特電七日發) 廣東政府通信局は左の如く上海マニヤウリー紙を通じて聲明せり。

西南諸法各省は多數外國人の手を経て段祺瑞の率ふる如き軍閥派をして若くは武器を供給する事に反對す今や北方軍閥派は支那國民を衰亡せしめんとし尙支那人民が内政問題に就き最後の判決を爲す場合に於て不正當なる干涉をなせる某々外國亦其責任を問はるべきなり北方軍閥派が自國の軍隊主權、領土、富源等を賣らんとする計畫の暴露なる事は云ふ迄もなく尙密に鐵道等を抵當として勝手に金を借り阿片を輸入し其害毒を再び支那に流布せんとしつゝあるが如きは輿論の等しく反對する處にして國際條約に反せる行爲なり彼等は又高等武官を暗殺し其政敵を暗殺せしめ更に不法選舉を行ふ等到底支那の國法及世界の正義的觀念と兩立する能はず廣東正式國會及西南各省々議會は北京政府の是等不法行爲に關し外國の輿論に懇ふると共に北京政府は人民の承認せざる偽政府にして廣東國會こそ支那に於ける唯一の合法的立法機關なることを茲に聲明す。(八日、日日)

▲新國會愈成立す

(北京特電五日發) 當地政府機關新聞の聲明に據れば新國會は廣東、廣西、江西、雲南、貴州を除く參議院議員二十六名又衆議院議員四川、廣東、雲南、貴州の八十一名を除くの外は悉く選舉完了したれば確に法定數に達し其成立を見るべければ八月一日各議員の召集を行ひ八月半正式成立を見る可しと。(八日、時事)

▲三督軍討伐費要求

(六日上海特派員發) 廣東討伐費として曹錕五百萬元、張作霖二百萬元、龍濟光三百萬元を要求せりと又六月間の軍政費百萬

元尙千二百萬元を缺乏するを以て吉林森林借款を利用すべしとの説もあり又

吉會鐵道借款前渡金千萬圓の支那の金に換算して六百三十萬元此内六十三萬元を以て參陸軍の費用に當て其餘は短期外債を償還すべしといふ。(八日、朝日)

▲徐氏軍隊募集 (北京特電五日發) 徐樹錚氏は洛陽及直隸にて四旅團を新募し馬廠及原坊にて訓練中なりと傳ふ徐氏の新募兵計畫は五箇旅團にして専ら政府は直屬の軍隊とし北京を警備し將來總統選舉に利用せんとするにありと。(八日、日日)

▲熊軍陝西に迫る (北京特電六日發) 陝西督軍陳樹藩氏の電報に據れば熊克武氏は部下の項傳興氏を援陝後路總司令の名を以て約一箇師團以上の雲南四川軍を率ゐしめ漢中(陝西)に迫れり仍りて參陸辦公處は許蘭州氏をして奉天軍三旅團を率ゐる直に陝西を救ふべしと命令せりと。(八日、日日)

▲聯合政府總統 (上海特電八日發) 廣東國會は岑春煊氏を舉げて聯合軍政府總統に推舉するに決定せりと。(九日、日日)

▲岑氏就任宣言 農に政務總裁に選舉せられたる岑春煊氏は六月十日附を以て左の通り總裁に就任の宣言を爲したり。(四日某所着電)

農に國會非常會議は岑春煊を選舉して政務總裁となしたり茲に六月四日就職し謹んで護法清國の主權に基き諸公の後に從ひ勇効馳驅せん。

尙六月二日在粵雲南軍第四師長朱培德第一軍司令成光氏其他雲南軍高級武官は連名を以て全軍を率ゐて岑春煊氏を推薦し其節制を受くべき旨を宣言せりと。(九日、日日)

▲對南方宣言 七月四日岑春煊氏は南方各主要人物に對し左の通り宣言したり。(八日、某所着電)

外寇寇迫し輿論亂に傾きしを以て調停に従事したれども其効なく段祺瑞は國を賣り兵を用ゐ一意南方討伐に従事せんとしつゝあるにより座視するに忍びず義勇を厭はず敢て來粵せし次第にして是れ専ら大議の赴く所なれば誓つて諸公と生死を同うし困難を共にすべし成敗の如何は計り知る能はざる所なるも苟くも正義を保持し民國を曲安すべきあらば萬難を冒すことも辭する所にあらず。(同上)

▲穩和派多く廣東に走る (七日南京特派員發) 今同廣東討伐命令

發せられてより全く南北調和の餘地なきに至り從來調停の爲竊に運動しつゝありし者も沈黙し岑春煊も亦調停を斷念して南下するの止むなきに至れり茲に於て南北の感情は益離隔し上海にあつて調停を計畫しつゝありし穩和派の廣東に走れる者少からず斯くの如き形勢の變化に就き南京にある重要者間には廣東討伐功を棄して一時的統一を見るか或は失敗に終つて南北分立の形勢一層甚だしくなるか前途は此二途の外なかるべしと悲觀的に觀察せられ居れり。(九日、朝日)

▲福建援兵を要求 (上海特電七日發) 北軍各地相繼いで陥り敵兵迫り福州大龍嶺等よりの兵を待つも及ばず福州も危險となれるを以て督軍李厚基氏は北京政府に對し速かに奉天軍若くは他の兵を福建省に援兵として送るを要求せりと又江西方面も頗る危險なりとの報あり。(九日、時事)

▲廣東幹部重要會議 (八日北京特派員發) 岑春煊、伍廷芳、林葆懌、莫榮新及韶州より來會せる李烈鈞、李根源等は重要會議を開き居れるが岑春煊は首席政務總裁に仰ぐ事に内定したるものゝ如し又雲南軍第三師長第四師長第一軍司令等如初め雲南軍高級武官は連署を以て七月二日雲南軍全軍を率ゐて岑春煊を優待して其節制を受くる旨發表せりと。(十日、朝日)

▲唐繼堯の總裁代表 (上海特電六日發) 唐繼堯氏は朱新を廣東に遣はし其の政務總裁として代表たらしめたりと。(十日、時事)

▲王督軍の宣誓 (漢口特電七日發) 廣東討伐方針決し援粵總司令張懷芝、四省經略使曹錕の兩氏南下する事に決したるに付湖北督軍王占元氏は改めて中央政府に政策擁護を誓ひ且軍費五十萬元を要求せりと。(十日、日日)

▲援粵軍費五百萬元 (八日漢口特派員發) 援粵總司令張懷芝同副司令吳佩孚は直隸軍援粵軍參加問題に就き四省經略使曹錕の至急南下を電催せり之に對し曹錕は八日天津を出發し九日來漢の旨返電せり問題の援粵軍の軍費は五百萬元にして張懷芝は内五十萬元を要求し來れりと。(十日、朝日)

▲龍濟光軍の出動 (天津特電八日發) 龍濟光氏の振武軍第一路司令以下北京にて募集せる新兵八百名八日朝富地通過軍糧城に赴けり。(十日、日日)

▲南方政府成立す (北京特電九日發) 廣東に於て唐繼堯、伍廷芳、

李烈鈞、岑春煊、林葆懌、諸氏連名にて本月五日左の如き宣言を發表せり。

唐紹儀、孫文兩政務總裁は交通阻害されたる爲め未だ就職の通知に接せざるを以て人々を特派しつゝあり目下就職の總裁は半数以上に達し北方政府は武力に訴へ時局危険、民命を毒するの時に當り護法の審議は一刻も忽諾に附するを許さず謹で我が民國軍政府、法に依り成立す即ち政務會議を開く事を宣言す。(十一日、時事)

▲李烈鈞意氣昂る (北京特電八日發) 廣東省境にある李烈鈞氏は趙毅の戦勝に依り小銃彈百二十萬發砲彈百萬發を分捕りし其中小銃彈七十萬發を雷州の南軍に分配して此方面には北軍の一兵も入れずと傲語し居れりと云ふ。(十一日、時事)

▲議員の來集を促す (北京特電十日發) 伍廷芳以下廣東政府政務總裁連名にて馮總統以下兩院議長各省議會に左の如き通電を寄せたり。

政府は非法に國會解散の命を下し以て復讐を招きたる以來國家の機關は國會大總統國務院の如き一として存するものなく段氏兵を率て入京し暴を以て暴に代へ密に政權を偷み國本を危害す而して國家の重要な民國議會は別に臨時參議院を設けて以て之に做ふと雖も違法解散の命は之を取消さず新くて憲法制定の機關は破壞蹂躪せられ海軍及び護法各省は遣次宣言して連に國會を恢復するを以て絶對の要求と爲したり惟ふに是れ法に據りて解決するの責任ある政府の誠然悔悟せんことを希望し之を思ふこと久しかりしに然かも國家を顛覆する陰謀の進行益々急にして臨時參議院の宣布せる國會組織法を以て改竄を實行し陰謀派成法律は全く蹂躪されたり違法產出の機關は正に國人の共に案つる所伍廷芳の死を誓ひ承認する能はざる所のものなり我護法各省は國會召集經費を分擔して各議員等五月二十日以前に廣東に集り六月十二日正式國會を開會する言を以てす伍廷芳方に國の爲に誓つて一死擁護す尙ほ冀くば議員諸公國家中外の爲に謀り迅速に集會と共に時患を救ふ可し斯くしてこそ護法各省無上の榮譽にして議員諸君無二の天職なり。(十二日、時事)

▲莫榮新服從聲明 (上海特電十日發) 廣東督軍莫榮新は七日軍政府の軍令に服從する旨聲明せりと云ふ。(十二日、時事)

▲馮玉祥遂に獨立 (北京特電十日發) 常態に於ける馮玉祥の獨立は

愈確實なりとの入電ありたり。(十二日、時事)

▲南軍土匪に變ず (北京特電十日發) 湖南省の南部にて本鎮を失へる南軍は姿を變じ土匪となりて各地に潜伏し出沒自在にして北軍は之が鎮壓に困難を感じ居れり是等土匪は夫々聯絡を有し北軍を奔命に疲れしめんと企み居れるものゝ如く交戰地帯の人民は軍隊の掠奪土匪の横行に惱まれ人心恟々として中には饑饉に迫れるもの多數ありと。(十二日、日日)

▲南軍鐵道を狙ふ (上海特電十日發) 湖南にある第六旅團長張宗昌氏は急電を發して曰く南軍は援軍を得て其二枝隊は萍鄉鐵道を破壞し北軍の歸路を絶たんとしつゝあれば既に右鐵道の防備を嚴にせりと。(十二日、日日)

▲龍氏の募兵 (安東特電十日發) 龍濟光氏は安東にて約千八百名其他東邊道管下にて約千二百名の新兵を募集する筈にて部下二名過日來當地に來り募集申なるが今日まで當地にて約三百名の應募者あり大隊長以下の幹部は主として巡防隊より選抜する筈にて右は全部奉天より馬廠に送り同地にて一應訓練の後廣東に送るものなりと。(十二日、日日)

▲田中玉兵外蒙各地分駐 (九日北京特派員發) 察哈爾都統田中玉は張家口より一旅の軍を外蒙古庫倫方面に出動せしめ外蒙古各地に分駐せしむべしと烏得等には既に支那本國の軍隊駐屯すと。(十二日、朝日)

▲岑廬永祥を誘ふ (十一日上海特派員發) 上海護軍使盧永祥は十日岑春煊の來電に接せり「去四日軍政府政務總裁の職に就けるも和平を渴望すること尙昨の如し希くは早く干戈を戢め共に危局を拯ふに努められたし」云云盧護軍使は之に對し未だ初志を讀さずと答へたりと。(十三日、朝日)

▲新國會召集さる (北京特電十一日發) 北京政府は新國會開設を急ぎ選舉を了れる各省に對し各當選人は七月中に必ず來京せよと訓電せり(北京特電十二日發) 十二日總統命令を以て民國七年八月一日新國會を召集開會する旨發表せり。

(北京特電十二日發) 十二日共和記念日を機とし總統命令を以て左の如く發表せり。

内務部の上申によれば參衆兩院の選舉は延期せる地方を除く外一律舉行せりと按ずるに民國成立既に七年事變紛起し國基未だ固からず以て懸念甚し

く擲る處なし本大統領は努めて救済を圖らんとすや國會議員既に選出せらる自ら將に等しく集まり以て法令を修明し綱紀を締め時難を救ひ永く國本を繋ぐを期すべし爰に民國七年八月一日今同當選せる參眾議員は一律北京に集まり期を定め開會し以て國會立法を尊重するの主旨に添はん事を命ず。(十五日、日日)

▲熊希齡妥協斡旋 (十二日漢口特派員發) 熊希齡は湖南兵禍賑恤に赴く途次十日朝漢口に於て王占元、張敬芝を訪ひ時局問題に就き語つて曰く手は馮大總統の旨を受け諸君と聯絡して西南政務總裁岑春煊と妥協を協議せんとしつゝありと。(十五日、日日)

▲江南の形勢不利 (上海特電十四日發) 吳沙來電に據れば吳佩孚の軍隊は確に南軍と六月二十四日より七月十四日まで一箇月間停戦を爲し馮玉祥亦同様の態度を持し張敬芝如何ともする能はずとあり馮玉祥獨立の報と共に江南の形勢北方に不利となれること明白となり現に之に加ふるに安武軍總司令馬聯甲も亦同様敢て進軍せず九江より蚌埠に展り六七兩月に軍費四十萬八千元を請求せりとの報あり。(十五日、時事)

財政關係

▲總統濫債を戒む (上海特電二十九日發) 馮總統は曹汝霖氏に對して曰く時局斯くの如く急に我は敢て關せざるも只一言す可きは公債増大し國民の負擔を重くするの事なり既に借りたるものは其用途を監督し未だ成らざるものは其條件を慎重にせられたし事宜公債を藉る殊に少きに今我取ること多し云々と。(一日、時事)

▲京奉借款成立 (北京特電廿九日發) 支那政府は京奉鐵道營業利益金を擔保として日本より二千萬元の借款を爲すに決し既に調印を終りたるが第一期三百萬圓、第二期七百萬圓、第三期一千萬圓に分ち交付すべしとの說あり又元來本借款は京奉鐵道一部の財政を抵當とする筈なりしも英國側の反對によつて單に營業利益のみとすることに改められたるなりと尙別報によれば此外日本資本家との間に印紙稅擔保の千萬圓の借款踐進行し居れりと。(一日、日日)

▲鐵道借款調印 (北京特電一日發) 濟南府順德縣の鐵道借款は一日支那交通部と日本資本家との間に調印せられたり。(三日、日日)

▲吉會借款反對決議 (二日奉天特派員發) 吉林省議會議員は商務總會其他各國體の領袖と六月二十九日省議會に集合し吉會鐵道借款に對し左記の理由に對し反對を決議し馮總統に借款の中止を電請したり。

(一)借款二千萬圓は其用途曖昧にして南北鬭爭之が爲め益々永引くの虞あり(二)政府は此借款を鐵道建設費に使用せず從つて吉會線の起工は無期延期となり且つ天圖鐵道は敷設中止を命ぜられ爲めに地方開發に支障あり(三)斯の如き借款は民國の將來に益々負擔を重くからしめ就中吉林は最も苦痛なり。(四日、朝日)

▲吉林森林借款 (二日北京特派員發) 吉林森林借款契約吉林省當局と日本人森格との間に締結されたり借款額二百萬元にして目的は吉林省瀋江森林の經營にありて同森林を擔保とする本借款は財務部に異論なかりしも農商部に多少に反對ありたるが既に承認したりと。(四日、朝日)

▲大借款商議中 (二日北京特派員發) 支那政府は日本銀行團と吉林の某山林を抵當とする大借款の商議中なり其の金額は未だ決定し居らざるも少くとも三千萬圓なるべしと其の借款は吉林省が森業と締結したる借款と全然別種のものなりと。(五日、朝日)

▲京奉借款無根聲明 (二日北京特派員發) 交通部は日本との京奉鐵道借款の件全然事實無根の旨正式に聲明す。(五日、朝日)

▲濟順借款否認 (北京特電一日發) 公使館側にては濟順鐵道借款は未だ成立せずとて之を否認し居れり。(五日、日日)

▲對支借款詮議中 (觀音閣特電二日發) 米國國務省代表者は支那借款に關し引續き國際諸銀行家と協議中なりジェー・ビー・モルガン會社キュートンエブ會社ナショナルシティ銀行、ガランティー・アンド・トラスト會社等の代表者此會議に出席せり銀行家は政府の承認なくんば借款契約をなさざる事に議決したるも政府の意圖は該借款に賛成なるものゝ如し。(六日、時事)

▲三千萬圓借款說 (上海特電四日發) 當地に達せる北京電報に曰く吉林、黑龍江森林鐵道日本借款三千萬圓西原龜三氏と曹汝霖氏と直接契約し其借款は割引無し、日本公使林男は極力之に反對したるも坂西少將の調和に

より調印せられんとす云々とあり又日本が義和團事件の賠償金を支那に返還すると共に天津、上海、漢口に大製鐵工場を設くるを以て交換條件とす。
(六日、時事)

▲前後契約の調印 (北京特電五日發) 第二支那改造借款千萬圓前渡契約は本日財政總長と竹內正金代表者との間に調印せられたり。(七日、時事)

▲農商部森林借款反對 (六日長春特派員發) 三千萬圓の吉林省森林借款契約に對し農商部は反對せりとの報に接せるが排日の巨頭初光聲外數名は連名にて反對の當然なることを述べ政府の愚案を攻撃し契約破棄の電報を發し且吉林林務局長胡宗瀾は右借款反對意見を主張せるも政府の容れざるに憤慨し辭職せんとす又吉林官民は吉會縣借款に對しても政府は吉林省に於ける企業の名を藉り南方の討伐費を作るものなりとの議論喧しく各所にて密議を爲し反對運動盛ならんとす。(八日、朝日)

▲濟南順德鐵道改約 (六日上海特派員發) 濟南順德鐵道契約は單に支那獨逸の原約に照し二千萬馬克とあるを二千萬圓と改めたるのみなりと云ふ。(八日、朝日)

▲森林借款前渡 (六日北京特派員發) 四日に調印せられたる吉林森林借款三千萬圓の中一千萬圓は一兩日以内に滙業銀行より引渡す筈にて殘額二千萬圓の交付期は未定なり本借款は西原龜三と陸宗輿との間に成立せしものにして日本興業、朝鮮、臺灣銀行の資本團に日支滙業銀行を加へたるが正金三井銀行は本借款に關する反對したり但し放實に關しては日本側は資本家間に諒解を缺くる事往々あるは遺憾なりとす。(八日、朝日)

▲森林借款要項 (北京特電六日發) 北京リダーは日支森林借款は七月二日成立せり其内容は左の如くなりと報道せり。

- 一、當事者 財政部及日支滙業銀行
- 一、金額 三千萬圓
- 一、擔保 吉林黑龍兩省の森林

尙契約の條項は明かに知る能はざるも大體鴨綠江材木公司の規程に類するものなりと。(八日、日日)

▲借款前渡交付 通日北京に於て支那政府及橫濱正金銀行兩代表者間に契約成立せる第二次善後借款前渡金一千萬圓は支那政府大藏省證券引受の

形式にて既に東京、大阪兩シンヂケート銀行十八行より一銀行五十五萬五千圓宛の割當出資ありたるを以て正金銀行は十日東京に於て支那公使に對し右一千萬圓を交付したり而して支那公使は爾後每週一定額を超過せざる範圍に於て數回に分割引出しの契約の下に即時其金額を同銀行に預け入れたりと。(八日、日日)

▲鹽稅剩餘金引渡 (北京特電九日發) 鹽稅剩餘金三百十六萬元は上海及び天津に於て本日支那政府に引渡さる。(十一日、時事)

▲支人山林借款反對 (九日長春特派員發) 北京にて調印済と傳へらる、吉黑兩省山林借款三千萬圓に對する吉林の反感は非常にして六日省議會にて反對聯合大會を開き殊に吉林全省各界聯合事務所を置き各團體の代表を選び事務所に請切り督軍省長に對し省民は死を盟つて政府に抵抗するの決心を傳達し抵抗の方法は日貨排斥(明文なきも其意を暗示す)を以て三省民一致協力して政府に調印延期を迫る事を決議し各省の應援を求むべく長春に人を密派すべき模様なり。(十二日、朝日)

▲森林借款反對騷擾 (長春特電十四日發) 吉林省議會にて議長其他各會代表者と留日學生等主催となり借款反對公民大會を開きたるが來會者三千名に達し悲憤慷慨なる演說盛にして吳某は指を嚙み切りて借款不承認と血書せる旗を打振り賣國奴を誅せよと叫び三千の群衆は旗を翻して市内を練り歩き借款に關係せる工商局長胡宗瀾氏の邸宅を襲撃し機打ちせんとせるも本人逃走せる爲め往復苦類を蒙り家屋を破壊して引揚げ尙ほ督軍に會見を求め請願する所あり孟督軍は余も諸君と同意なり中央にて目的を貫徹する様取計らふ可ければ安心せよと諭し一時は市内混亂を呈し各戸戸を閉し逡巡出動し警戒物々しかりき。(十五日、時事)

▲森林借款反對決議 (長春特電十四日發) 吉林森林借款に對する吉林、黑龍江二省選出議員より成れる聯合會議は九日吉林に大會を開き議會の協賛を経ざる不法借款は人民之を承諾せず死に代へても反對すとの決議を爲し之を林公使に傳ふ可き旨北京外交團に送れり。(十五日、時事)

▲南滿鐵道國有決定 (五日北京特派員發) 支那政府は南滿鐵道(江四省九江より同省南昌に至る)を國有とするに決定せり同時に其延長を計畫し右鐵道買上延長敷設の爲め東亞興業會社と借款を商議しつつあり延長線

は南昌より廣東省潮州に至るものと福建省福州に至るものとの二説あるも多分前者なるべしと。(七日、朝日)

經濟關係及其他

支那電氣組織

(二十九日北京特派員發) 曹交通總長は支那電氣株式會社を組織せし旨發表せり日支米の合辦にして牛官牛民の會社なり交通次長葉恭綽を取締役會長に擧げ日本側より交通顧問中山龍次取締役たるべしと本會社は電信電話電燈等の機械材料を製作するを目的とし資本は日本金二百萬圓にして其半額に支那にて引受け半額は日本電氣會社と米國のウェスタン電氣會社とが均分に引受くるものとす本店を北京に認め支店を上海に置く。(一日、朝日)

東三省官銀號取付

(二十九日營口特派員發) 東三省官銀號は日本人に對し日々一萬圓宛兌換し來りたるに本月に至り中止し損害莫大に就き二十九日午前六十餘人大舉して取付けに赴きしが硬貨缺乏に就き來二日まで延期を請へり其後引續き兌換するや不明なり。(一日、朝日)

滿鐵探炭權獲得

(二日長春特派員發) 孟吉林督軍は吉林を距る二百支里の亂泥溝炭坑の探掘權を滿鐵に委任せり滿鐵は人を派し目下調査中なりと。(三日、朝日)

海州鐵礦探掘許可說

(二日北京特派員發) 目下出願中の中日實業公司の投資せる江蘇省の海州鐵礦(同省の北部海に近し)探掘の件は近く許可せらるべしとの事なるが該鐵山は鐵石多量ならざるも青島に近く交通便なれば相當に有望なりと。(四日、朝日)

金嶺鎮探掘問題

(青島特電四日發) 金嶺鎮鐵礦探掘に就ては過日來久原、大倉合同出資を爲し其探掘を請負はんと代表者青島に來り協議中なりしが其條件不調に歸したるを以て鐵道部直轄の方針を立て其打合せの爲四日阪口鐵道部長上京あり。(五日、日日)

工政局の設置を促す

(北京特電三日發) 熊希齡氏より南運河借款日本と契約成立したるを以て速に工政局を設立し其督辦を決せられたしと言ひ來りたるが政府は勿論熊希齡氏を之に任命す可し。(六日、時事)

大豆野積問題

(四日大連特派員發) 大連滿鐵埠頭に於ては去三月二十一日以來前後八回に互りて野積の北滿大豆に火災ありて其損害總額百三十三萬三千餘圓に達し遂に日本側保險九會社は二十七日を以て其保險契約を爲さざる旨を聲明するに至れり現在の野積保管貨物は十五萬三千噸以上にして之に對し火災保險額實に千六百六十二萬千圓に達し萬一保險會社に於て讓歩妥協する所なくんば金融業者は前貸出しを停止せざるべからず是れ大連に取っては由々しき大問題にして目下關係者は各方面に於て其前後處分に就き研究中なるも未だ適當の成案を發見せず都督府に於ても之が對應策に就き熟慮し二十九日大連金融業者代表として安部朝鮮銀行大連支店長に來願を求め當業者の意見を聴取し今後の方策に就き協議を遂げたり因に目下の現狀は奥地より來るべき貨物は總て野積保管の別途なし又連絡輸送に依る貨物は到着度二十四時間保險會社に於て其の責に任すべきも其れ以上は危險を負担せず從來は滿鐵が是等貨物には自ら保險を附し居たりしも今回の保險拒絶に依り將來は全然無保險の儘船待せざるべからざるの狀態となれり昨年來大連の大豆問題より延いて本年の受渡品質鑑定紛擾起り今又火災問題を惹起す等相踵いで不祥事あるは遺憾なり今後の野積保管問題に就ては何とか方法を講ぜざる可からずとの輿論熾なり。(六日、朝日)

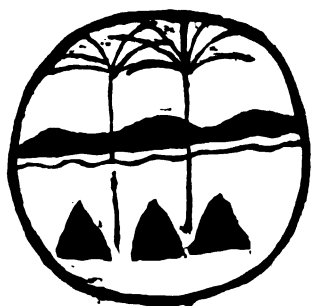
鐵山取締秘密訓令

(奉天特電六日發) 蓋に邦人土地商租に對し禁止同様の秘密訓令を發し一問題を惹起したる張奉天督軍は今亦鐵山取締りの秘密訓令を財部長より各縣知事に通達せる事實あり此内容は支那人名義の探掘出願者が邦人の手先或は邦人の出資を含めるものには其探掘權を與ふ可からずと云ふにありて現に此訓令により不合理なる事實なきに拘らず不許可となれるもの數件あり爲に邦人關係の鐵山探掘は殆ど絶望視されつゝあり右に關し當地の當業者は親日を標榜する奉天省の官憲の下にありては邦人の事業は事毎に制肘を受け全く發展の餘地なく之に反し替て排日気分を加へたりと目せらるゝ吉林官憲の管内にありては其實鐵山、輕便鐵道、製絲、燐寸製造其他多くの紡織事業等邦人の投資事業順調に成立し全く奇怪なる對照を示せり彼張作霖以下の奉天官憲が口々に親日を唱へ胸底に頑迷なる排日思想を藏する明かなる例證と猶せらるゝも何の辭あらん。(八日、日日)

南滿鐵國有と延長

(六日北京特派員發) 南滿鐵道を國有とする案

は略成りたるが本月下旬までには確定の見込みなり而して其延長計畫も引續き決定を見るべく延長線は一、南昌より廣東省潮州に連絡するものと二、福建省福州を経て馬尾に出づるものと三、漳州を経て厦門に出づるものと三條路線あり第三案を以て最も有望とせらる而して南潯鐵道を國有とするには約千二百萬圓を要し其延長線厦門に至る四百哩の敷設費等を合すれば支那政府は少くとも五千萬圓を要すべく此借款は東亞興業が日本銀行團に引受けしめ日本に於て公債募集の計畫を以て成立すべし。 九日朝日



第二回

覽天賜

支那年鑑

定價 金五圓
 郵費 金二角
 送料 金一角
 支那年鑑 五十冊

廣漠難然たる支那の綜合觀、鳥瞰觀をなすに足るべきものは、纔に「支那年鑑」ある而已。今や「第二回支那年鑑」は支那民國成立以來の嶄新精細なる各般の材料に満たされて市に出てたり。苟くも支那の事情を知らんと欲するものは速に之を本書に就て求めよ。

斑 一 容 内

人口	在留日本人詳細統計 支那僑民本防人調査
政治	民國政立より其の過去國會約法の復活に至る
政治	中央政府、地方部、蒙藏部官制
財政	光緒以來民國五年に至る財政狀態
公債	外債、内債、短期借款
外交	支那公使館領事館所在地 支那に於ける列國領事館所在地及帝國領事館所在地及管轄表
商會	支那工場調査表 支那及外洋商會表
工業	支那工場調査表
礦業	支那各省礦山所在地 支那各省礦山所在地表
農業	各省農田耗地面積表 各省農作物收穫高表
海軍	支那海軍名表
陸軍	新軍、軍隊組織表、兵力一覽表、配備表、八旅巡防其他支那駐屯外國軍隊
鐵道	支那鐵道協約表、支那に關する列國間協約表
水運	支那各鐵道各種統計 支那各鐵道狀況
郵便電信	支那郵便行明細表 支那に於ける外國銀行
保險	支那關稅統計一覽表 支那關稅統計一覽表
貿易	支那關稅統計一覽表 支那關稅統計一覽表
人名錄	現在支那有力者調査 支那に於ける新聞紙調査表
新聞	支那に於ける新聞紙調査表

東京市赤坂區
溜池町二番地

東亞同文會調查編纂部

電話三二二四、三二二五番、電報東京九七三〇番

支那

第九卷 第十六號

要目

論說	歐洲戰後と日支合辦(四)……………一
資料	滿洲土地商租須知(完)……………五
	江西省に於ける煙草(二)……………一〇—一三
雜錄	無線電信借款條件……………一四—一七
	支那全國製粉會社一覽表……………一八—二〇
	英國對支貿易論(三)……………二一—二六
彙錄	支那の貨幣制度……………二七—二八
	支那人の支那政治論(四)……………二八—三三
	工商同業公會規則……………三三—三四
事業界	支那事業界近況……………三五—三七
半月史	半月間の支那重要事件……………三八—四七
時報	支那最近時事要項……………四八—五一
彙報	支那關係諸報道……………五二—六六

東亞同文會調查編纂部

一資本金 四千八百萬圓 (内拂込済參千萬圓)

一積立金 貳千萬圓



横濱正金銀行

電話

特 四	特 四	特 四	特 四	特 四
四	四	四	四	四
三	三	三	三	三
〇	〇	〇	〇	〇
四	三	二	一	〇
番	番	番	番	番

番(宿直)
用

支店 東京、大阪、神戸、長崎、倫敦、里昂、紐育、桑港、ロスアンゼルス、布哇、
出張所 シドニー、孟買、カルカッタ、香港、上海、青島、濟南、漢口、天津、北京、
牛莊、旅順口、大連、遼陽、奉天、鐵嶺、安東縣、長春、哈爾賓、

此外内外樞要ノ地ニ代理店有之候間爲替、荷爲替、信用狀其他内國手形
割引、貸付、保護預等御便宜御相談可仕ニ付御都合次第御來談被下度候

麴町區丸ノ内有樂町一丁目一番地

東洋製糖株式會社

電話本局 特長 五三二一七

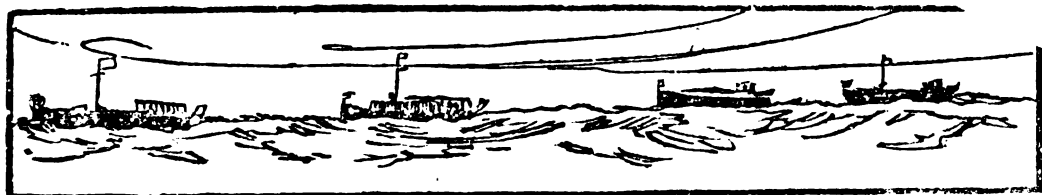
創立明治
廿一年
資本金
四千萬圓



東京丸の内
蝙蝠印
揮發油
燈油
發動機油
輕油
重油

日本石油株式會社

電話本局 (長) 三三八〇・三三八一・三三八二
三三八三・三三八四



大正七年
八月十五日發行

支那目次

第九卷
第十六號

論說

歐洲戰後と日支合辦(四).....

一——四

資料

滿洲土地商租須知並解釋(完).....

五——九

江西省に於ける煙草(二).....

一〇——一三

雜錄

無線電信借款條件.....

一四——一七

支那全國製粉會社一覽表.....

一八——二〇

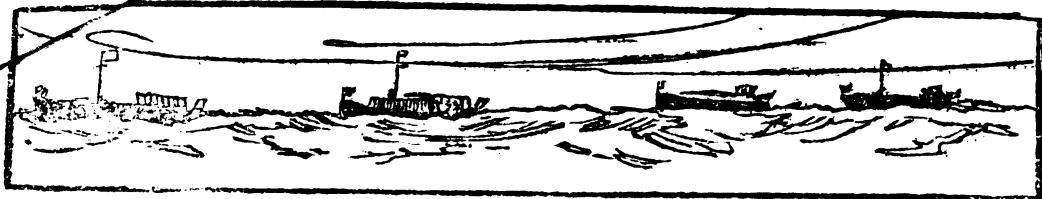
英國對支貿易論(三).....

二一——二六

彙錄

支那の貨幣制度.....

二七——二八



支那人の支那政治論(四).....二八——三三

工商同業公會規則.....三三——三四

事業界

鴻源紡織公司賣渡
第三次臨時株主總會.....三五——三七

支那半月史

西南政府成立、新國會召集令發表、經略使署總參謀長、吉會借款續備契
約、吉林森林借款、支那電氣會社支那の島港出兵、廣東國會と法定數、龍
濟光軍殘部の降伏、張作霖天津に入る——又天津會議、斷續せる妥協運動、
米國の財團復歸、吉林森林借款正式調印、駐支法王麗公使.....三八——四七

時報

(政治) 曹錕の要求條件——吳佩孚の停戰意見——曹錕の南下——天津會議諸問題
と王占元——各督軍聯名返電——陳炯明の戰況報告——八月三日の閣議——
出兵と參戰督辦處.....四八——五一

(經濟) 開埠委員會——七年公債返還方法——蒙古の銀行計畫
密雲の炭礦認可——鎮山熱旺盛——夏口裕綏鎮廣東森林拂下規則
(交通) 交通事業成績——京綏線と運賃——輕便鐵道敷設計畫——張庫自動車問題.....五二——六六

彙報

商 標

菱印窓硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄

透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式会社

- 第一工場 兵庫縣尼崎
- 第二工場 福岡縣戸畑
- 第三工場 神奈川鶴見
- 第四工場 福岡縣枝光
- 煉瓦工場 兵庫縣尼崎
- 曹達工場 福岡縣戸畑

第二回

支那年鑑

定價 金五圓
背皮總字一冊
金紙數千二百頁
四六倍二十錢
送料 支那五十錢

廣漠難然たる支那の綜合觀、鳥瞰觀をなすに足るべきものは、纔に「支那年鑑」ある而已。今や「第二回支那年鑑」は支那民國成立以來の嶄新精細なる各般の材料に満たされて市に出てたり。苟くも支那の事情を知らんと欲するものは速に之を本書に就て求めよ。

斑 一 容 内

- 人口積
 - 在留日本人詳細統計
 - 在支日本實業家調査
 - 支那僑民本邦人調査
- 政治
 - 民國政立より雲の逝
 - 去國會約法の復活に至る
 - 中央部、地方部、蒙藏部官制
 - 財政
 - 光緒以來民國五年に至る財政狀態
 - 外債、内債、短期借款
 - 外交
 - 支那公使館領事館所在地
 - 支那に於ける列國領事館所在地
 - 帝國領事館所在地及管轄表
- 農業
 - 各省農田總地面積表
 - 各省農作物收穫高表
 - 支那各省礦山所在地
 - 礦山關係各種統計
- 工業
 - 支那工場調查表
 - 支那及外洋商會表
 - 各種會社統計表
- 商業
 - 支那關市場一覽表
 - 支那貿易統計
 - 支那貿易統計
- 鐵道
 - 支那關各鐵路統計
 - 支那各鐵路狀況
- 水運
 - 支那各水路統計
 - 汽船及航路表
- 郵便電信
 - 支那銀行明細表
 - 支那に於ける外國銀行
- 保險
 - 支那關市場一覽表
 - 支那貿易統計
- 人名錄
 - 在支那有力者調査
 - 支那に於ける新聞紙調査

東京市赤坂區
溜池町二番地

東亞同文會調查編纂部

電話 芝二二四番、一二三番、東京九四七三〇番



大正七年八月十五日

第九卷 第十六號



歐洲戦後と日支合辦 (四)

日支合辦の缺陷

吾人は既に日支合辦事業の理論上善良なるのみならず、其成績も亦優秀なることを述べたり。然らば、吾人は現狀を以て満足して可なるべき乎、否々一般中外合辦事業は勿論日支合辦事業と雖も、種々なる障碍あり、改良進歩を要すべき點甚だ多きを見るなり。吾人は之を兩方面に別ち説明せんと欲す。

一、内外人の調和を得ざること

合辦事業は勢力範圍政策より生ずる利權の獲得に始まり、外國人は合辦の名に依り、利權の壟斷を試み、支那人の權利と利益とを顧みず、其風延びて一般の合辦に及び、外人獨り支配權を占め專横を逞ふするに至れり。従つて支那官民間に排外思想澎湃として湧出し、有ゆる手段を竭して利權の回收を企て、種々の方策を廻らして合辦事業の防遏を圖り、鐵道に關しては復た外人に合辦

權を與ふることを罷め、中國交通兩銀行の株式は之を外人に買賣譲渡することを禁じ、政府より獎勵金を受くる公海漁業會社及政府より補給利子を受くる棉織業外五事業會社の社員又は株主は、之を支那人に限り、外國人の合辦を許すものと雖も、鑛山業の如く重要なものは、外國人の出資額を會社資本の十分の五を踰ゆるを得ざるものとし、會社の代表者は、必ず支那人たることを要し、一切の鑛夫職工は必ず支那人を使用すべく、技術員の資格職移進退につき、農工總長の支配を受けざるべからずとするなど、外人にとり極めて不利なる制限を設けたり。甚だしきは合辦事業を以て支那の利權を獲得するものなりと猜忌し、成るべく之に壓迫を加へ、華洋箱制の方法に依り、企業の發達を抑制せんと謀るものあるに及べり。従つて外人は國家の保證を得ざれば、鑛山業其他重要な事業を經營し難く、合辦事業の國籍を支那に置くの危険を感じ、開港場に於ける普通の工業は、單獨にて經營すること有利と爲すに至れり。

一、日支經濟關係未だ密接なら

ざること

日本人は主として營利事業を合辦にせんことを企つるのみならず、支那人側の權利利益を尊重するに依り、日支合辦は之を華洋合辦に比すれば、盛大なるに相違なきも、前

篇に述べたる通り、日支合辦事業の未だ醇乎たる株式組織に依り成立せるものあるなく、其組織の合股的たるに従ひ成績良く、日本人の權限強きに伴ひ利益^{あり}く、未だ理想的合辦事業を現出するに至らず。加ふるに、滿洲に偏すること^{あり}を免れず。其南方に設立せられたるものは、上海製造絹絲股份公司、上海電氣公司、中國電氣興業株式會社、順濟公司、東亞通商會社、立大麵粉會司(以上上海)高昌號(以上漢口)、其他製粉製絲に關する三、四の工場あるに過ぎず。其北方に設立せられたるものも、青嶋罐詰株式會社(青嶋)龍口銀行(龍口)、壽星麵粉公司(天津)、其他二三を除き、滿洲殊に關東州租借地及南滿洲鐵道附屬地に設立せられたるもの多きに居れり、斯の如きものは何ぞや。或は南方は文化風に開け、資本と技術とに富み、日本人の力を要すること少く、加ふるに、利權回收熟流行し、外國人との合辦を厭忌するに依ると論するものあり。一理なきにあらざるも、吾人は之に與みするを欲せざるなり。何となれば、南方に於て支那人の手に依り設立せられたる各種の事業中成績面白からざるに依り、外國人の協力に待たざるべからざるもの少なからず、支那人の所謂利權なるものは、主として鐵道鑛山等獨占的性質を有するものに係り、製造工業まで悉く之を排斥し竭さんとの強烈なる意思を有するや否や疑問なればなり。謂つに從來日支合辦事業の北方に偏したる

は我官民共に滿洲經營を急務としたると、日本の威力北支那に行はれ、事業の經營便宜多かりしに依らずんばあらず斯の如く日支合辦が北方に偏し、而も理想的合辦の現はれざるは、日支關係の未だ密接なるに至らざる標準たるに外ならざれば、吾人は大に努力する所なかるべからざるなり。

日支合辦の緊要

日支合辦事業は兩國の經濟上政治上に及ぼす影響の甚大なるべきは業既に説明したる所の如し、然るに上述の通り缺陷多きは、吾人の遺憾とする所にして、大陸戰後に於ける形勢を揣摩すれば、太息に耐へざるものあり、奮勇一番せざるべからざるを見る。歐洲戰爭終局の勝利が、聯合國側に歸すると獨逸側に歸するとを論せず、列國特殊の利害に依り去就を決し、互惠主義に依り通商條約を結び、一般的最惠國約款の廢棄せらるべきは、疑を容れざるべし。此際我邦の如く、歐米諸國及其殖民地より、棉花、羊毛等の原料品、銑鐵、鋼鐵、機械其他の半製品又は製品を輸入するの必要あり、而して之が代償として生絲、茶、絹織物等の奢侈品を輸入せざるべからざるものにありては、相互の利益に基く互惠條約を締結すること頗る困難にして、我邦の外交政策の巧拙如何に依りては、列強よりポイコットに遭ひ、我商工業が根本的に破壊せらるゝの虞なしとせざる

なり。唯幸に隣邦支那の存するあり、我に必要な原料品は之を無盡の富庫を有する彼より採買し、彼の需要する無量の製品は之を我れより供給すること必ずしも難からざるなり。我邦は支那領土保全を以て國是と爲し、國命を賭したる日露戰爭を始め、大小幾多の犠牲を供することを辭せざりしもの、畢竟茲に我商工業を發展せしめんとするより出で、期せずして歐洲戰後に於ける準備たりしは奇なりと謂ふべし。而して我邦が此舉に出でんとするには、所謂日支經濟提携を爲すにあらずんば不可にして、日支經濟提携を爲さんとするには、日支合辦を其階梯と爲さざるべからざるや論なし。然るに、日支合辦には前述せる如く種々なる障礙あり、未だ大に觀るべき發達を遂ぐる能はざるは殘念にして、戰後歐洲諸國が國內靡弊を救はんが爲め、資源滾々として竭さざる支那に殺到し、一大飛躍を試むべきことを憶念せんか、痛嘆するに耐ゆべからざるなり。

日支合辦の良法

日支合辦事業を發達せしめんと欲せば先づ其最も障礙となるべき支那官民の排日思想と、對日猜忌心とを除去することを努めざるべからず、日本の國是は支那領土を保全し支那より原料品を買入れ、之に加工したる製品を賣込み、兩國共同の福祉を圖るにあるも、一部官民の言動往々常軌

を逸し、遂に日支の疏隔今日あるを致したり。而も最近數年間、非常識なる言動悉く失敗に歸し、歐洲大戰より生ずる日本の責任重大なるに至りしより、本來の國是漸く茲に適用せられ、歐洲諸國の政治的經濟的浸入に對し、支那を擁護すべき運となりたれば、今後努めて怠らざらんか、日支の關係を日露戰爭以前に回復すること必ずしも難からざるべし。我邦の實業家も亦支那が日本の最大最善の華客なることに顧み、合辦事業を經營する際には、成るべく多く支那側に利益を與へんことを心掛け、資本と技能を日本側より供給し、其資本に對しては利益を得たることに限り、通常官利より少き割合の利息を支拂はしめ、殘餘の純益を日支間に折半するの雅量を有すべく、彼我の權限の如きも平等を原則とし、適材を適所に置くことを圖り、支那人側をして用地の買收、原料の仕入、職工鑛夫の募集、現金の出納支那官民との交渉を掌らしめ、日本人側をして工場採鑛の監督、製品鑛石の販賣、帳簿の記載等を掌らしめ、營業の差支なき限り、支那の人情風俗を斟酌し萬事を處斷せんには、支那人間に怨嗟の聲を發するもの少く、喜んで日本人と合辦することゝなるべし。苟くも斯の如くならんか、日支經濟提携なるもの期して待つべく、我邦は歐洲戰後に於ける經濟戰爭に處して憂ふる所なく、支那も亦列強の分割を免れ、兩國共に永く幸福を享ることを得べき也。(完了)





資料

滿洲土地商租須知並解釋 (完)

十三、商租したる地上の建築物に關する事項は左の如く注意すべきものとす

(甲)地を租して家屋を建築するには地主に商議し其同意を得るを要し期限滿了したるときは該建築家屋は地方の習慣に従ひ地主の所有に歸せしむ

(乙)地を租して家屋を建築し又は家屋を承租し若は之れを修理するには地主商議し其同意を得へく期限滿了後該建築又は修理家屋の取拂を原則と爲すものにして地主が其讓受を希望するものは之を許すべく其取拂に際しては原狀に回復すべきものとす

(丙)農工業用の租地にして租地者の自ら建造せる家屋井及假建設の橋梁堤防等に對し期限滿了後地主が必ず買收せんとするものは双方より評價人を選びて之を評價せしめ若し地主が關係なく買收の意なきものは之を強

ふることを得ず又取拂はざるべし

(丁)農業上各項の建設を爲すときは隣人の耕作を妨害せざることを原則とすべし

(解釋) 所謂各項の建設とは租借地上の家屋倉庫を指す此等は既に地盤の上に附設せられ地盤に對する權利と密接の關係あり外人は僅に土地を租することを得るも之を買ふこと能はず只建設物を地上に附設するに因り地盤の權利が外人の手に轉落するに至るを恐る故に地方官は斯の如き場合に對し特に注意すべきものとす商租地と建設物との關係は四種の情形に過ぎず

(一)地を租して自ら家屋を建造するもの 即ち承租人が土地を租する後若し承租人が日本國臣民なるときは該地を商工業の用と爲し又は農業を經營する等自ら之を行ふことを得べく租得したる地面の上に必要

なる家屋を建造することを得べし

(二)家屋を租して更に増築するもの 地畝を租用したる者にして該地上の家屋をも租用し更に家屋を修造する者例へば原有家屋三間ありしを土地家屋の租用人に於て該家屋の外に二間を増築するが如き場合を云ふ

(三)家屋を租して更に修理を加ふるもの 家屋を租して更に修理を加ふとは承租人が該地上の家屋を租用したる後更に該家屋に對し自ら修理を加ふるもの例へば該家屋が舊來一門ありしに對し承租人自ら別に一門を開き若は原と平屋なりしものに對し承租人自ら之を二階建に改むるが如きを云ふ以上三種の情形に對しては既に説明したるを以て以下更に四種の情形に對する取扱法を注意すべし

(甲)地を租し家屋を建造する場合に關しては地主は土地を出租するは單に土地を承租人に出租するを許すに過ぎずして該出租地上に家屋を増築するの意を含まず故に承租人が租する所の地上に自ら家屋を建造せんと欲するときは地主に商議し其同意を得又は別に契約を定め又は租地契約證内に其旨を附記するに非ずんば不可なり蓋し家屋の増築が若し地主の地盤に對し妨あるときは地主は之を許さざることを得べし土地を商租の事は双方既に意思の一致を見たる時に當りても承租人が該地上に自ら家屋を建造せんとする一項に關し地主が之を希望せざるときは承租人は自ら家屋建造の請求を

拋棄するか又は直に租地の契約を解除すべく其建造を許さんことを地主に強ふること能はず

承租人が租地上に於て地主の同意を得て築造する所の家屋に關しては租地期間満了し續租を願はず又は未だ續租を商量許諾せざるときは該家屋は地方の慣習に従て地主の承受到歸せしむべし蓋し地盤既に租せざるときは地上の家屋は之を附着すべきものなきを以て自ら無代價にて地主の所得と爲るべし然も此に一の問題あり即ち本條甲項云ふ所の如く期限満了の場合に於ける辦法中假に租地の期限未だ滿たざるとき地主に於て其の土地を使用せんとし又は其他の理由に依り承租人に向ひ租契約の解除を要求して該土地を回收し又は承租人より租用の資力なきに依り又は其他の理由に由り地主に向て租契約を解除し土地の回收を要求するときは承租人が該地上に建造したる家屋は如何に處分すべきかの一件に關しては道理上より云ふときは地既に租せざるときは地上の家屋は附著する所なきも實際より云ふときは承租人自ら建造せる家屋は既に相當の價格を有し且つ期限満了によりて租關係を脱退するに非ず豈權利を放棄することを甘せんや故に承租人は地主に商量し其同意を得たる後所有家屋を轉賣し(但し地盤と共に賣却することを得ず地盤は地主の所有にして承租人之を侵害すべしに非ざるを以てなり)又は他人に轉租することを許すべく地主自ら買収又は承租するも可なるべし但し此際尤も注意すべきは家屋を轉租するに

は租地期限範圍内に於てすべく且つ以下の條件に適合すべきものとす(一)轉租に關しては必ず先づ地主の同意を得べく(二)轉租に際しては必ず土地承租人と家屋の轉租を受ける者と契約證を作製し並に地主の連署を具して將來の紛擾を避くべく(三)轉租の期限は原租年限外に出づることを得ず例へば原租二十年を以て期限と爲し租地人既に租すること十年なるとき解約するものとせば殘餘十年の範圍内に於て家屋轉租の期限を定むべきものとす

租地期限満了せざる以前に於て公用に依り該土地を收用するときは公用徵收法を按じ支那人民たると日本臣民たるとに論なく一律之を取扱ふべきものとす

(甲)家屋を租して増築又は修理するもの 承租人が承租地上に於て家屋をも承租するときは該家屋が地主の所有なると否とを問はず家屋敷地範圍内に於て自ら家屋を増築又は修理改造せんと欲するときは均しく地主の地盤と關係あるを以て地主に商議し其同意を得べし家屋と地主と別人なるときは家主に商議する外同時に地主に商議し若し家主既に同意するも地主不同意なるときは之が建造修築を爲すを得ず蓋し地主は該家屋の附着的土地の所有者なるを以て其意思に反し地主の土地所有權を侵害すること能はざるを以てなり若し租地期限満了後承租人が家屋を建造又は修築したるときは之を取拂ふべし蓋し家屋の増築修理は必要又は使用に適するや否や業主(業主の二字は家主地主を含む)承租

人の見る所未だ必ずしも相同じからず故に地を租し家屋を租する際に於ける該家屋の形狀が如何なりしやに對し之を還附するときに於ても其原狀に照して之を還附すべく變更を加へ租房契約に違ふことを得ず然も若し業主が該承租人の増築修築を必要とし又は使用に適するものと認め之が受領を希望するときは之を許すべく其の儘受領を希望せざるときは承租人は増築又は修築したるものを取拂ひ並に原狀に復せしめざるべからず例へば原と平屋なりしときは仍ほ之を平屋とし單に一門なりしときは仍は一門と爲し原と坑ありしものは抗を置き返還するが如き是なり

家屋と土地とは附著するの關係ありと雖も分離して處理すべし故に承租人が土地を商租すると該地上の家屋を商租するとは本二事に屬するを以て自ら分離して辦理すべし地を租するには租地契を立つべく家屋を租するには租房契を立つべし只地主と家主と二人なるときは家主に向て商租する外更に地主と協議して其同意を得べし蓋し家屋は既に地主の所有地上に在り出租すると否とは地主に於て之を過問すべき權利あるを以てなり承租人若し果して租期未滿前に退租するも家屋に對しては業主より(地主家主を含む)引續き租用を許し又は之が轉租を許すときは轉租條件は承租人が轉租地上に築造する家屋をも一併して辦理すべし

(乙)農工業の爲め地を租する者が租する所の地上に於て自ら築造する家屋井又は假建設の橋梁に對する期限満

了後の處置方法

日本人が土地を商租し農工業を經營するの用に充つるときは該地上に於て家屋の建築又は井戸の開掘橋梁堤防の建築を要する場合あるべし此の場合に於て若し租期満了したるも續租を願はず又は續租を許諾せざるときは建設物を取拂ひ原狀に復せしむることを強制するは穩便ならず亦地を租し家屋を建設する者の例に依り該建設物を地主に歸せしむることを強制するに便ならず蓋し右の如き建設には工事上稍多額の經費を要し其の堪久力亦普通家屋より久しく權衡輕重自ら本條甲項の如く辦理すること能はず故に地主は承租人の租地期限満了に際し未だ續租を約せざるとき若し該建設物を買収するの必要ありと認むるときは双方より各評價人を選びて評價せしむべし此際地主の買収の意が本心より出づるときは評價人の選定は自由に任すべく（農工商會ある地方に於ては双方會に請ふて評價人を代選せしむるに便宜なり）評價人の評價が双方より妥當と認むるときは乃ち買収すべし當然一方より強迫して騙詐することを得ず若し果して該建設物が地主自身に何等利害關係なく自ら買収するの意なきものに在りては承租人は之が買収することを得ず

本條二款に記する假建設の意は該敷地は租來するに係り地上の家屋井橋梁の建設亦自然に長久のものに非ざるに因り取拂はざるべしとの一語は表面より見るときは甲款原狀に回復するの語と衝突するに似たり然れど

も絶て衝突せず蓋し此の一語の記載は兩種の必要あり

（一）公益上よりの着眼 凡そ承租人の爲す假建設の橋梁堤防は當然其の承租地域内に在るべきは毫も疑義なし租地範圍外に出づれば自ら警察の干涉あるべし但し堤防の類は租地内に在りと雖も一旦取拂を爲すときは公共の水利道路に妨碍を來すを免れ難し故に加ふるに取拂はざるべしとの語を以てし任意に之を取拂ひ公益を害するを免れしむ

（二）私益上よりの着眼 地主は承租人が租地内に設くる所の橋梁堤防等は之を存するも多くの利益なく時に之を廢するときは不利を覺ゆべく堤防溝渠の如きは之を取拂ひ埋立を爲すときは地上の形狀に變改を生じ地主に不利なる場合あるべく且つ承租人に於ても必ずしも利益ありとせず故に之を買収せざるの故を以て當然之を取拂ふこと能はず

但し既に買収せず又取拂はざるときは承租人獨り其の損失を受くるに至るべし然して須知條文に取拂はざるべしとし取拂ふことを得ずとせざるものは原と適宜斟酌の餘地を残したるものとす地主が果して買収を願はず承租人自ら取拂はんとするときは當事者間に於て自由に商量せしめ又は警吏若くは公正なる紳士の斡定に任すべく只公益に害なからしむるを要す地主の私益に損害なきものは其取拂を許し變價せしむるも可なり

農工業用に地を租する者が期間満了前に退租を爲し

又は地主より退租を爲すときは其承租人の建設せる
家屋井戸又は假建設の橋梁堤防等は當事者双方より
自ら處分方法を商量し又は警吏若くは公正なる紳士
をして公斷せしむべし

(丙)農業上各項の建設に關する制限 農業に關する各種
の建設は隣人の耕作を妨害せざるを以て限りとすべく
本文に原則の二字を使用せるは限字と同意味に解すべ
きものとす換言すれば承租人が爲す所の建設に依り隣
人の耕作を妨害することを得ずとの意なり一面に於て
は妨害ありと爲し一面に於ては妨害なしと主張する場
合に於ては訴訟手續に依るに非ずんば其の是非を判定
する能はず

又耕作の二字は注意すべし蓋し右に云ふ耕作の二字は
廣義の解釋を爲すべく即ち田を耕し作を營むの意とす
故に農家の農場に赴く道路を妨害する如き亦耕作を妨
害するものと認むべし

十四、以上の規定は續租の時にも之を適用す

中日條約交換文書内に續租すべき旨を聲明せり即ち當事
者自由に之を商定するものは國家は當然禁止すること能
はず續租の後はその地主と承租人との關係は原租の時と
一樣なるに過ぎず故に一切仍は本須知各條を適用すべし
但し此際地方官の最も注意すべきものは商租期間満了の
時又は期間未滿以前に退租する時は地主及租戸をして双
方共其旨を届出でしめ並に地方官自ら表を作りて時々之
を稽查し租戸地主等期間満了に依る届出又は退租の届出

に關しては租契受領の時に詳細之を告知し並に書類を以
て通達すべく續租人が續租を商定したるときは原契約證
を携へて新契約證の引換を請ふべく若し舊契約證遺失の
場合は其旨届出づべし

以上の解釋は略は大端を擧げたるのみ其餘須知中包括し盡
さざるものは地方の慣習を按照して辨理すべく解釋にして
盡さざるもの又は解釋中事實上辨理し能はざるものは該地
方官より其の都度事由を報告し所轄長官に申請して辦法の
指示を受くべし本須知載する所の事項に至ては民法の法理
に渉るもの多し將來民法を頒布したるときは該民法に遵照
して辨理すべく若し土地を商租するに依り紛擾を生じ解決
の方法なきものは地主又は承租人より訴訟を提起すべし若
し地官公有に係らば當然所管官廳又は機關の名を以て起訴
し又は訴訟關係人と爲るべし。



江西省に於ける煙草（二）

九江に集散する葉煙草

第一 產地及運搬狀況

九江に集散する葉煙草は江西省内産及安徽省産との二種あり、安徽省より來るものは宿松産の葉煙草にして、民船に依り、長江に出で九江に搬出せらるゝものとす、其の年の出廻り高は十六萬件にして一件の重量は二百斤なるが故に三十二萬擔と見るべし、而して江西内地に於けるものに比し、一件の重量は多量なり。

宿松産葉煙草にして當地九江を通じ、輸移出せらるゝものは、上海に至るもの大部分を占め、其他支那内地に移出せらるゝものは極めて稀なり、而して上海に至るものは一部は輸出品として我國に仕向けられ、一部は上海製煙公司に供給せられ、紙卷煙草製造に供せらる、然れども此の地方に産するものは品質粗惡にして、之のみを以ては完全なる葉を製すること能はざるが故に、他の葉煙草を加へ用ふるの必要ありと云ふ。

江西省産は總て民船に由り、來るものにして、吳城鎮釐金局を通じて來るものとす、而して今其の徑路の主なるものを舉ぐれば次の五路あり。

一 錦江（上饒水）水運に由るもの

本水路に依るものは廣信府内産出して玉山縣、廣豐縣を中心として良好なるものを出す、而して是等は福建省より來る一部の葉と共に上饒江の民船に依り九江に出づ。

二 汝水に依るもの

此の徑路に依るものは建昌府下の産に係り、一度建昌に集り汝水の民船に依るものにして新城縣産と廣昌縣管下贛白水鎮、驛前鎮等の産を主とす、而して此等の一部は從前州を通じ、陸路廣東方面に仕向けられたるものありしも今は贛州産及瑞金産の一部が挑夫に由り嘉應、潮州等を経て汕頭に至るものもあるも其の數少なし、新城縣産は汝水を下すものゝ外更に山路を経て福建方面に向ふものあり。

三 贛水に依るもの

此の徑路に依りて、九江に出づるものは、贛州、及瑞金等の産に係り、共に黃煙の良質物なり。形狀は宿松産、廣信府産、驛前産と異り、長形のものなり、此の兩地の産は、廣東省土民の喫煙用として、刻の原料となる爲め梅江流域地方に出づるものあり、然れども今日に於ては専ら贛水を下り、九江に至るものにして、當地方買出は上海伊藤商行を主とす。

四 直に鄱陽湖に出で九江に到るもの
是等は都昌、餘干、鄱陽等の産にして一度各縣城に集り更に九江方面に出づるものとす。

五 陸路直に九江に出づるもの

是等は九江の西方九十支那里なる瑞昌縣下より産する所にして、年額一萬擔の出廻りありと稱せられ、種類は黃煙なれども品質優良なりと云ふべからざるも、運賃及釐金等の諸掛少なきを以て市價比較的安價なれば、土人の使用せらるゝもの多し。

第二 葉煙草の荷造り

安徽省宿松縣下より産する葉煙草は二百斤内外を重ね四角形となし、何等包むことなく、單に四圍に竹簾を充て、繩子にて括るものなれども驛前、瑞金等の産は約百六十斤より百八十斤を重ね、細長き、竹簾に入れ、更に包むことなし、瑞昌物は二百斤一袋を普通とす。

第三 產地價格

各產地に於ける葉煙草の價格及九江に於けるものとの價格を比較するに凡そ次の如し。

單位	產地相場	九江着値	
		上	下
廣 豐	一擔	一〇—一五	二四
瑞 金	同	一〇—二七	三五
			一六

驛 前 同 八—二〇 二四 一一
鄱 陽 同 四・五 一〇
宿 松 同 七串文内外 三一—一〇
端 昌 同 五一—六 四兩二錢
產地より九江に運送するには水運なき處は挑夫に由り運賃は豫め到着地迄の量數を基とし、一人に付き幾何と定むるものにして、普通三百支那里を五六元にて運送するを常とす。

民船運賃は交渉に由り、到着地迄幾何と契約するものなれば、時節及民船の多少に由り異なる、日本商人の買出の如き、本省産は概ね一度南昌を通づるものにして、南昌に於て民船より日清汽船會社の手に移し、同會社の計算に由り、原產地より九江迄の運賃を支拂ふものなり。

厘金は一擔に就き銀二分にして、九江港より他港に輸出するには輸出税百斤に付き、一錢五分を要し、上海へ送るには運賃四錢三分を要すと云ふ。

本省産及安徽産葉煙草は共に刻煙草及紙卷煙草の原料に適するものにして、葉卷に適せず、日本商人にして買出しに従事せるは伊藤商行及び三井洋行となし、大部分は日本專賣局及東亞煙公司に輸送せらるゝものとす。

東亞煙公司是現今中部支那より南部支那地方に紙卷煙草の賣込に努力し、九江にては伊藤商行が其の代理店を兼ねつゝあり、然れども其の製品の成績宜しからず、品質粗惡にして到底上海に於ける英米煙草公司製のクロスカット、バイレート、ロンドン、スリーキャスル、ブライドオヴチ

ヤイナ、チエスピンヘッド、ストレイトカット等に遠く及ばす。

贛江流域及南部の煙草

第一 南昌に於ける葉煙草及刻煙

一 產地及產額

南昌に集散する葉煙草は都昌產のもの大部分を占め、瑞金、鄱陽、驛前、南城、進賢產之に次ぐ、福建產煙は品質の優等にして當地に移入し來るもの尠なからず。

市内の煙莊悉く福建絲條或は皮絲或は名煙等の招牌を掲げ本省產と云ふよりも、寧ろ福建產と云ふを好むの風あり。今左に省内各地產の種類當地への移入高及び產地よりの運賃、税金並に荷造費等の概算を示さむ。

產地	色	產額	南昌へ來荷
都昌	九都	十四、五萬元	三萬元
六都	同		
瑞金	黃早	十四、五萬元	六七百元
同	紅		
鄱陽	黃	十萬元	
珠湖	黃紅		
偏路	紅	二十一萬元	
驛前	黃	二十萬元	
南城	白	四、五十擔	
進賢	白	四、五萬元	二百擔

產地

諸掛

南昌相場(擔)

產地	諸掛	南昌相場(擔)
都昌	九都	一擔 四角一仙 六十一元
六都	同	七十一元
瑞金	黃早	同 五弗以上 三十一元三八
同		
鄱陽	珠湖	四角内外 一九・五〇
偏路		一二・〇〇
驛前		二弗四角 二〇・〇〇
南城		二弗 一四・一五
進賢		四角一仙 六一・一〇

賣買價值は一擔(百斤)建を普通とするものなれども、瑞金產は百二十斤を以て一擔となす、葉煙は其の色合に依り其用途を異にするものとす、而して黃色煙葉は上等刻煙草の製造に用ゐられ、之を皮絲と稱し、白色物は下等品にして長煙管に用ゆる奇品と稱する刻煙草を製し、紅色は概ね葉卷となす。

二 南昌に於ける煙商

煙莊の大なるものは城外廣潤門外通濠巷の同裕及香子巷の永隆號、並に洗馬池の李怡昌等とし、小なるものは市内到處に在り、小賣は八兩包、四兩包、二兩包、五匁の四種に分ち、品質の良否に由り、各包名稱を異にす。

價格は各名稱の異なるに従ひ移動す、今小賣相場を示せば次の如し。

杭城奇品	一包	一六〇文
------	----	------

京都雜拜	一本	二八〇
本作「田桂	一本	二八〇
本作婦城	一本	三二〇
本作彬化	一本	三六〇
大興永記	同	四〇〇
大興遠記	同	四八〇
大興昌記	同	五〇〇
大興盛記	同	六〇〇
大興隆記	同	七〇〇
大興榮記	同	八〇〇
大興華記	同	一、〇〇〇
大興富記	同	一、二〇〇
大興貴記	同	一、四〇〇
大興春記	同	一、六〇〇
大興祥選	同	一、八〇〇
大興和選	同	二、〇〇〇
大興魁記	同	二、二〇〇
大興超選	同	二、四〇〇
大興鴻選	同	二、六〇〇

市價は民國銀行發行の官標を以て標準とし、現金拂を普通とすれども、莊票を用ゆる場合は即票にして、期票を用ゐず、地方の買出しは銅元及制錢を以て支拂に充つ、取引條件は民船渡し、支拂慣習は百元の現金支拂に對し九十八元を支拂ふものにして即ち二元の割引をなす

每一包 筋





雜錄

無線電信借款條件

昨秋十一月、北支那に於ける無線電信局設置に關し、一の借款を含む契約支那海軍總長劉冠雄提督及び獨逸の利益を代表せるものなりとの嫌疑ある丁抹人 エス、ラルゼン氏に依り調印せられしは、今尙吾人の記憶に新たなる處なり北京に於ける協商國公使館側がこの協定を以て、これ東洋との直接交通に對する仲介物を掌握せんとする獨逸の陰謀に出でしものと信じ、敏速にして極めて活氣ある抗議に出でしは又充分の理由あること、云ふべし。而して支那政府も亦かの企業心に滿ちたる提督が、同僚との談合を俟たずして、この舉に出でしを以て彼の行動に關し疑惑を抱き其結果該契約は破棄せられ、外人間に生ぜし一時的昂奮もこゝに終熄せり。然れども支那人間に在つては然らず、ラルゼン氏失敗の流言蜚語及び彼に支拂ひたる償金に對する幾多の風説に興味を失ふや、日本に對する無線電信契約な

る新しき風説は、其契約を以て或はこれ丁抹との協定と同一性質のものなりとし、或は丁抹人の利益を直接に本人に譲り渡されたるものなりとして流布せられ、往々尾鰭をつけて誇張せられ、現今に至る迄尙これが巷説の流布を努め來れり。

支那新聞紙はこれを以て、三井洋行は丁抹に對する協定の破棄の後、直ちに丁抹人の放棄せるこの契約を再締せしものなりとなせり。而して假定的日本の契約者が、合衆國政府が輸出を許可せんには、同國に於て購求せらるべき假定的無線電信材料をラルゼン商會より繼承せるものと論じたり。北京政府に於て馮總統が頃日凡ての無線電信に關する處分は、戰亂の終局迄延期すべしとの宣言を發し、以て巷説の鎮撫に努めしも、借款讓與の不正行爲に對し、最近數年間の經驗により、その探索愈鋭敏の度を増し來りし支

那操觚界に及ばせし反響の熱度は、遽に滅殺すること能はざりき。外人團は丁抹人の行爲が如何に獨逸人の感興を惹くも終に施すの策なきを信じて、日本との契約に對し支那人の如き鋭敏なる興味を有せず。然れども日本人への契約の讓渡に關する事實に對しては支那新聞紙の斷えず傳ふる處なるを以て劉提督及びラルゼン氏に依り調印せられし契約及書類の條件の概要を次に摘錄せり、之れ蓋し甚だ興味あるものなるべし。

契約の概要

米國及び歐羅巴に於ける他の諸局との直接聯絡を設定し得べき、無線電信局設置に關する契約は、千九百十七年十一月十六日支那海軍總長及び「上海の協議請負技師の稱ある」和蘭エス、ラルゼン商會に依り調印せられたり。

(第二條) 海軍當局により許可せられたる一地方に歐米の諸局と連結すべき充分有力なる一局を設立すべき事。

(第三條) 契約者は土地購入或は借入れの爲め且つ諸裝置家屋等設置及びこれが設備に關する取扱上の凡て責任を負担すべき爲め、五十三萬六千二百六十七磅の豫算額を準備し置くべきことを規定せり。

(第四條) 前記資金は該電信局の費用に當つるものにして三十年内に毎年等額の年賦を以て之が支拂をなすべく、未済の分に對しては、八分の利子を附すべく該局實施の年末より支拂を開始すべきものとす。

(第五條) 契約者は繼續入費全額拂込の後該局に依り此等支拂金を利得し得べきを保證すべき事。而して契約者は

假令、該局が相當なる利得を見る事なきも、政府が彼等に三十年間該局を監理し諸般の事務を處辨し得べき權利を與へしに酬ゆる爲め支拂金に對して責任を負担すべき事。

(第六條) 政府は收支如何を問はず、全所得の一割の使用税を受くべく使用税は毎年歲末に支拂ふべきものとす。

(第七條) 政府に依り任命せる官吏は、該局に帳簿管理の爲め、學生は、官費にて無線電信見習の爲め、雇傭せらるべきものとす。

(第八條) 政府は該局に最も大なる而して最も利益ある取引を保證する航海中或は碇泊中の船舶、並びに支那以外の諸局との通信を許可すべし。然れども契約者は假令戰時に於て陸軍が該局作業の全部を管理するも陸軍當局の訓令に基く軍事目的に非ざれば支那内地の如何なる局に對しても商事上の取引を避くべき權利を有す。

(第九條) 政府は三十年の期間内何時にても該局の作業を讓受くる事を得べし。然れども政府は其際年賦金及び支拂日に達する八分の利子を支拂ふべく、契約者は此場合該設備の完全なる目録を提供すべし。

(第十條) 此等の支拂未済の間は政府は該局作業を讓り受くる權利なく若し政府が斯かる企をなす時は契約者は該局所有者としての全權を行使し得べし。

(第十一條) 契約者は其權利を政府の許可を得て他の團體に讓渡す事を得。

(第十二條) 若し政府が該局を讓受けし場合は總ての使用

人の支拂は政府に依りなさるべく萬一然らざる場合は契約者側より總ての使用人を任命し所得金中よりこれに支拂ふべき權利を保留す。

(第十三條) 三十年後に於ては、政府は六ヶ月の豫告を與へ該局を無償にて譲り受くべき權利を有す。若し政府が其權利を行使せざれば契約者は五ヶ年間所得の五分を支拂はるべきものとす。

(第十四條) 契約者は該局の能率を増進し最初三十年間に於けるその費用並に利益に對し責任を有す。

(第十五條) 機械材料は無税、無釐金税にて輸入を許可すること

(第十六條) 然れども契約者は、支那に於て相當なる代價にて購入し得べき、適當なる材料は總てこれを使用すべき事。

十一月十六日

ラルゼン及劉冠雄(署名)

補遺借款協定

右調印後政府は完備後の該局譲渡しを希望せるを以て、これが補足的協定を重ねたり。即ち

(第一條) 契約者は歐洲銀行の信用を得る爲め預金し置くべき金高即ち該局設置に關し諸入費支拂に當つべき資金五十三萬六千二百六十七磅の借款を政府に代りて調達すべき事を規定せり。

(第二條) 資本の全額は三十ヶ年内に毎年等額の年賦金に依り、何時にても契約者に支拂ふべき金額に年利八分を附しこれを契約者に支拂ふべきものとす。

(第三條) 然れども最初の年賦金は該局の完成され西部アメリカ及歐羅巴に於ける同種の諸局との通信可能の實證されし後、十年間これが支拂開始を延期すべきものとす

(第四條) 利子支拂は、該局設立完成の歳末より始む可きものとす。

(第五條) 政府はこの補遺協定に依り該局施設の全權利を承繼せしを以て前契約の第五條はこれを取消す。

(第六條) 政府に依る該局の事業が海底電信の諸會社との協定と抵觸する際は、契約者は政府の爲め其の監理權を讓受け、海底電信會社の事務と抵觸せざる範圍に於て、他の無線電信局との通信を個人經營にて行ひ、契約者に對する支拂は、かくの如き協約が他のかくの如き無線電信會社との間に設定せらるゝ迄、保留せらるべきものとす。

(第七條) 契約者は契約調印後六ヶ月以内に、ワシントン若しくはコペンハーゲンに於ける支那公使館に、必要なる機械を供給するの可能なる事、及び第一條に述べし金額を信用の爲め一歐洲銀行に預金せし事を實證するの義務あり。若しこの事の不可能なる場合には、該契約は無効にして契約者は、この契約調印の日に寄託せし、保證金一萬五千磅を失ふべきものとす。

千九百十七年十一月十六日

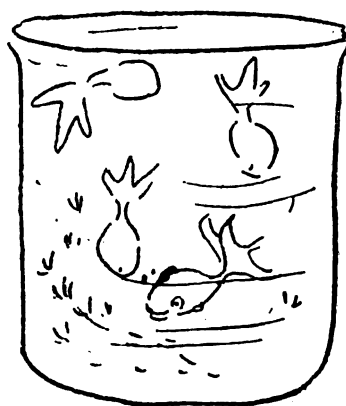
劉冠雄及ユス、ラルゼン(署名)

補足的書簡二通

海軍總長宛にてユス、ラルゼン氏の署名にかゝる十一月

十六日附の一書は、補足的に次の事項を述べたり。即ち、海軍總長にして該局の割賦償却及び利子支拂に對する充分なる利益が不可能なりと思惟せんには、契約者は該局の事業を政府監理の下に譲り受け、最初の調印にかゝる認可の契約に基づき、利子及割賦償却をなすに躊躇せず。然れどもかかる場合に於て、契約者は(一)政府は該局經營上適當なる設備をなさしむる爲、滿一ヶ年間の豫告をなすべきこと。(二)政府は全資本及全利子に對して責任を負ふべきこと。(三)契約者は該局監理中は、公私文書の送達に對しこれが責任を負ふ事を主張せざるべからず」と而してこの書簡は劉冠雄の副署する所となり協定に附加されたり。

十一月十六日附の關係者一同の聯合調印にかゝる協定に附加されし他の補足的書簡の示す處に依れば「契約者は政府が千九百三十年迄効力を有する大北電信會社との協約の一員なるを認めしを以て、補遺協約の第六條の條件は唯だ千九百三十一年迄之を遵守し同年々初より世界に於ける總ての無線電信局と聯結すべき權利を有すべし」と。(フアー、イースタン、レヴェュー所載)



支那全國製粉會社一覽表

地方	所在地	工場名	設立年	資本	生産力	同
滿洲	哈爾濱	露國製粉會社	一九二一	五〇〇,〇〇〇	留五六〇〇 四二〇〇	同 傳家甸 東亞製粉火磨廠 一九二三 九〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 成泰義火磨 一九二三 二五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 成發祥火磨 一九二八 二〇〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 雙城堡 ニーシナヤ 一九二八 二二六〇
同	同	同	同	同	同	同 雙合盛火磨 一九二一 二七,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 四家子 東亞火磨 同 二〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 舊哈爾濱 北滿製粉會社 一九二三 二五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 一面坡 一面坡製粉會社 一九二八 一〇〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 阿什河 恒發裕火磨 一九二一 五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 同 永遠機磨無限公司(一九二六年右恒裕を買収) 一九二六 五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 呼蘭 永榮火磨 一九二三 五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 愛琿 永濟火磨 一九二四 二〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 寧古塔 長寧同 一九二八 四〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 同 裕順同 一九二四 一五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 海林 ユサンド 一九二四 一五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 海林 孫顏卿火磨 一九二〇 五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 富拉爾吉 廣元吉火磨 一九二二 五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 胡拉爾吉 グリヤーエフ 一九二二 三五〇
同	同	同	同	同	同	同 寧古塔 格順和火磨 一九二四 一五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 寬城子 セシャンコーフ 一九二四 一五〇,〇〇〇
同	同	同	同	同	同	同 長春 裕昌源製粉工場 一九二四 三〇〇,〇〇〇

同	海甸雙橋、中興源記水力磨麵有限公司	一九一五	五,000元	同	同	興須福機器磨麵公司	—	一六
同	鐵嶺滿洲製粉會社	一九〇六	一,500	同	同	濟寧縣山東濟豐麵粉公司	一九一五	一,000
同	長春同	一九一四	1,000,000圓	同	同	豐年麵粉公司	同	100,000
同	千金寨千金寨製粉所	一九一	四,000年四八一九	同	同	茂蘭福機器磨麵粉公司	一九一六	300,000
同	四平街德懋昌製粉場	一九一四	三,000圓三二五〇	同	同	大通機器製粉會社	一九二四	50,000
同	吉林裕順和麵粉合資公司	一九一〇	五0,000元一六〇〇	同	同	長豐麵粉公司	一九一五	100,000元二五〇〇
同	(寧安縣城)長寧機器麵粉有限公司	一九一四	100,000	同	同	鄭茂和公司	一九一五	100,000兩一,000
同	寧安縣南關外、新華機器麵粉兩合公司	一九一三	100,000	同	同	中興同	一九一五	100,000一六〇〇
同	同(北崗子街)阜寧機器麵粉股份有限公司	一九一三	200,000	同	同	福新第一工場	一九一三	100,000一五〇〇
同	吉林省城東關車站東商埠界外	一九一六	三0,000斤	同	同	同第二同	一九一五	300,000元五,300
同	恒茂火磨麵粉股份有限公司	一九一六	三0,000斤	同	同	阜豐麵粉公司	一九〇〇	200,000四,100
同	撫順福田製粉所	一九一四	五,000圓一,000斤	同	同	華豐同	一九一四	350,000三,六〇〇
同	北支那、北京貼來牟和記麵粉公司	一九一〇	二0,000圓	同	同	華興同	一九〇二	200,000四八〇〇
同	同揚輝機器製粉公司	一九一四	八,000	同	同	增裕(一九一七年二月解散)	一九一四	80,000四〇〇
同	同德隆磨粉公司	一九一三	四五,000	同	同	立成麵粉公司	一九一三	50,000兩一,000
同	天津湧源機器磨麵公司	一九一三	三0,000兩	同	同	立大同	一九〇六	200,000二,000
同	同壽星製粉株式會社	一九一六	二五0,000元三,000	同	同	申大同	同	150,000一六〇〇
同	同濟南人和麵粉公司	—	一六	同	同	大有同	一九一三	45,000八〇〇
同	同	—	—	同	同	裕豐同	一九〇四	100,000一六〇〇
同	同	—	—	同	同	元豐同	一九一四	100,000八〇〇
同	同	—	—	同	同	中國同	—	—
同	同	—	—	同	同	振興同	—	—

英國對支貿易論

(四)

香港大學教授

ミッドルトン、スミス

第四章 北支と長江沿岸

一 上海

(一)楊子江 (二)上海は文明輸入の起點 (三)電力消費量は産業發達の徵證 (四)上海の特徵

二 北支概觀

三 貨幣相場の重要

四 北支中支の發達と外國貿易の將來

(一)住民の特色 (二)洋學の研究は産業發達の先驅

(三)鐵道の發達と英國對支貿易の伸展 (四)内地貿易の有望

五 北支中支に對する英國貿易の將來

(一)英國利益範圍説の迂愚 (二)日本の對支企業の發達 (三)英國貿易の將來

第四章 北支那と揚子江沿岸

一 上海

(一)楊子江

支那に於ける主要通商路は、即ち其河流にして、就中楊

子江は幾多の大支流と共に、支那最大の大河なり、而して其長さ沿岸流域地方の面積頗る大なりと雖も、之が數字を擧ぐるのみにては、到底其重要な程度を讀者に了解せしむること能はざるべし、其支那の商業交通に對する重要な度合は之を合衆國に例ふれば、恰もミシシッピー河が其産業發達に對する關係に例比するを得べく、遠洋航海に従事する巨船は六百哩の上流なる漢口に到る迄自由に航行するを得べし、而して上海は實に此大河の下流に位する重要な貿易港なりとす。

(二)上海は文明輸入の起點也。

中部支那の鐵道は上海を中心として、四方に延長するものにして、上海は即ち其鐵道扇の要を爲す、故に其貿易額と、支那貿易に對する重要な程度は、即ち鐵道の延長と相隨伴して増加するに至るべく、其般賑は正に支那に於ける倫敦に對比するを得べし、加之上海は支那政治上の中心にあらずと雖も、附近の工業特に織絲業の發達近年長足の進歩を示しつゝあれば、將來支那に於けるマンチエスターとなるに至るべし。而して英國に於ては、マンチエスターの今日考へつゝある事は、英國は明日に至り漸く之を考ふ

との謠を耳にすれども、此點は正しく之を移して支那と上海との關係を説明するを得べし、蓋歐米の新思想は先づ、長江沿岸に浸潤し、漸次各地方に傳播するものなるが、其長江沿岸に浸潤するは、即ち常に上海を経由するを以てなり。

(三) 電力消費量は、産業發達の微證

上海地方の産業發達は、之を其電力消費額の増加に依りて、卜知するを得べし、即ち上海の發電會社は倫敦の有名な顧問技師に依りて設計せられ、而も其規模頗る大に設計は最新式のものにして、之より大なる發電所は英國に於ても、僅か二三を數ふるのみなるが、現に其電力供給額は供給力を超過するの狀態に在り、換言すれば、上海に於ける電力消費の増加は、當初設計者が大に前途を樂觀して定めたる需要豫想額に超過するものにして、以て其産業の盛大を推測するに足るべし。

(四) 上海の特徴

上海に到る水路は頗る殺風景にして、之を香港のそれに比すれば好個の對照を爲す、即ち河口より上海に通ずる運河は十三哩の緩流にして、其兩沿岸は恰もテイルブリット附近のテームス河畔の如く一望千里の平原なるが故に、旅客頗る倦怠を覺ゆ、加之此間沙洲多くエムプレス型の大船は航行頗る困難なり、但外人の創設に成る淺濠局の設けありて、水路の改修に就き、施設する所多し。

上海共同租界に於ける土地の市價は、創設當初の七十五年前に比し、約三千倍の増加を爲せり、故に今日に於ては

上海、香港等に於て、廣大なる住宅を維持するには、巨額の費用を要するに至りぬ、而して此等兩地の地價が、近年斯く著しく騰貴するに至れる理由は、勿論需要供給關係の然らしむる所にして、其需要の激増せるは即ち、近年支那人の外國租界に住するもの歳と共に増加せるが故なり、蓋支那人は一方に於て近來道路、學校、病院、電燈、水道等の所謂歐米的設備の利便を覺知するに至り、他方に於ては租界に居住するときは其生業、及び生命財産の安固、内地の居住に比し著しく大なるを認識するに至りしが故に、競ふて租界に移住するに至れるが故なり。即ち支那の豪商は孰れも上海を以つて其商業上の本據地と爲すに至れり。

今日上海に於ては租界に接近して、大なる舊市街を存し其住民たる支那人は即ち、巨額の廉價なる勞力を供給するものあるが故に、舊市街は實に、上海産業の發達上極めて重要なりと云ふべし。

上海には造船所の設備ありと雖も、其市街の一大特徴を爲すものは即ち河岸に櫛比する大倉庫の建物にして、上海を經由して内地に輸入せらるる貨物は悉く此倉庫に保管せらる。

二 北支概觀

支那商業系統中の大動脈は即ち楊子江にして、今後國內の鐵道道路にして著しく發達するに至る時は、更に其重要な程度を増すべし。

漢口は楊子江上流六百哩の處に在りて、將來支那の市俄

古たるべき運命を有す、近年英國人が市街再築の計畫に着手せしが、歐洲戰爭の勃發に因り、一時之を中止するに至れり。漢口は長江沿岸に於ける三大都市の一にして、萍鄉炭坑より良好なる石炭とコークスとを得べく、且其價格頗る低廉なるが故に、將來の工業發達に就き極めて、有利なる地位に在り。

楊子江上流は二個の特徴を有す、一は即ち其支那最大の富源たる四川兩湖諸省と海洋とを連絡する唯一の通路たるに存し、他は即ち其兩岸の風景雄大奇勝なるの點に在り。

北支那の三大都市は即ち上海漢口天津にして、就中天津は團匪事件以來長足の進歩を爲せしが、近來洪水の影響を蒙りて稍衰運に向ひつゝあり。天津は北京の咽喉を扼する商業港なりと雖も、北京は商業都市にあらず。但北京は商業地ならずと雖も、之が爲に北支地方は商業不振なりと懸斷するを得ず、即ち天津今日の殷賑は即ち其隣接數省の通商の要路に位するが故なり。

廣東人は現在の首都を北京より南支地方に移轉せむとの希望を有するものなるが、此事は必ずしも彼等の空想するに止らず他日實現の時期あるやも測られず。

三 貨幣相場の重要

上海銀相場即ち上海に於ける銀塊相場は、支那通貨の價格を變動せしむるものにして、而も銀塊相場は日々動搖するが故に、其結果之に就き著しく投機を刺激するに至る、加之支那人は賭博を好むが故に、此銀相場の投機盛に行はる

るを以つて、支那貿易に志あるものは、先づ此銀相場の問題を研究するに非ずむば到底、錯綜せる支那人との取引關係を理會すること能はざるべし。

先年歐洲大戰勃發以來銀相場の變動激甚にして、之が爲に歐米人の支那に於ける標準貨幣たる墨銀は、其金に對する市價過去三四年間に於て、實に百パーセントの變動を示したり、是れ墨銀相場は銀相場の變動に従つて動搖するものにして、戰爭の結果銀塊相場の暴騰を來したるが爲なり。支那人は即ち商業的國民にして、彼等は既に數千年の昔より交易及爲替に従事し來り其貨幣制度の特異なるは（各都市各別の通貨を有す）即ち、彼等の商業的才能を證明するものなり。蓋貨幣制度不統一の爲に存する爲替取引は商取引を複雑ならしむると雖も、之あるが爲に商人銀行業者は著しく其利益を増加し得べき機會を有するを以つてなり。

四 北支中支の發達と外國貿易の將來

(一) 住民の特徴

楊子江流域地方は頗る天產に富み、漢口は茶葉貿易の中心地なり、但本論文に依り英國人に對し、此等地方の概況を了解せしむることは、殆ど不可能事に屬すと雖も、而も此等地方住民の運命を常に忘却せしめざらむが爲に、一言せむとするのみ。即ち本地方は常に人口稠密なるのみならず其住民極めて勤勉にして且智識の程度頗る高し、蓋此地方

は古來より既に生存競争激烈なりしを以つて、其生存者が智識有り而も勤勉なるは當然の事理なるを以つてなり。例へば上海に於ける勞働者階級に在りても、英語習得の欲求極めて熾烈にして、上流の官商社會に於ては、孰れも其子弟をして所謂洋學の研究に従事せしむることに熱心なり、是を以つて英米兩國人は、此欲求の満足計るが爲に今や其全力を傾注し、従つて此等地方には、英語を以つて新式教育を施す學校極めて多し。

(二) 洋學の研究は産業發達の先驅

内地より香港に遊學する學生は、通常二三週間の民船旅程を経て、長江沿岸に至り、更に三週間の航海の後漸く、香港に到着するものなるが、彼等は孰れも洋學習得の欲求を充足せしむるが爲に來るものにして、其歸郷するや即ち近世思想を鄉關に齎すに至る、即ち彼等は其鄉黨に語るに鐵道電車電燈の利便と、飛行機の靈妙なる作用を以つてす加之彼等は既に歐洲の産業革命史を研究し、親しく英國人教師に接近し、日常英人の家庭に親炙し、文明的生活方法を經驗し來りたるものなるが故に、今や其父祖の満足せし舊式の生活狀態に満足すること能はざるに至るは蓋已むを得ざる所なるべし。

(三) 鐵道の發達と英國對支貿易の伸張

惟ふに支那人の心理狀態が、過去二十年間に於て、如何に大變化をなしたるかは、其交通運輸の方便に對する態度の異なるに依りて、之を卜知するを得べし。即ち彼等は今や汽船汽艇を購求使用し、鐵道の開通利用を熱望するに至れ

り、而して尙現下歐洲大戰の勃發に因る障礙なからむには既に完成せる線路決して少からざりしならむ。

蓋過去數年間に於ける、支那の國際政局は、即ち列強鐵道政策の競合にして、爲に却つて其鐵道の發達を阻害せること大なり、故に大戰終熄後に至り、若列強にして一度、支那鐵道敷設に關する妥協的政策を案出するを得むか、英國に於ける工場は、爲に巨額の注文を得るに至らむ。蓋支那現在の鐵道既成工事中の哩數は、僅々八千哩に過ぎずして、之を其面積の尨大なるに比すれば、洵に九牛の一毛たるに過ぎざるが故に、若も支那が、其人口面積に比例して恰も印度と同一程度の鐵路を完成するに至るものとせば、之が爲に鐵道材料機械の需要頗る増加すべく、其英國工業家に齎す所の利益、極めて大なるものあるべし。

(四) 内地貿易の有望

長江沿岸地方の内地貿易に關しては、統計の據るべきなく、外國人は一般に其重要の程度を輕視する傾向ありと雖も、内地貿易には一定の通商路を存し、其外國輸入品の猶未だ侵入するを得ざる地方に於ける貿易額の大なることは常に旅行者を一驚せしむる所なり。故に此等地方に於て現に土人間に賞讃さるゝ外國品は、數年ならずして、遂に之を直接に外國より輸入するに至るべく、現に此等各地方よりの報告を綜合して考ふるに、數年前には曾て外國の事情を知らざりし多數の住民は、今や既に早く覺醒せるものゝ如し。

五 北支中支に對する英國貿易の將來

(一)英國利益範圍説の迂愚

英本國人は從來常に、長江沿岸地方を以つて、其利益範圍内に屬するものと思惟し來りたり。而して今や其年來の強敵たる獨逸人が、支那と交戰關係に在るを以つて、其對支貿易は杜絶し、從つて將來此等地方には又競爭者なかるべしと臆斷するあらば、其迂愚も亦極まれりと謂ふべし。蓋最近日本の對支貿易熱の勃興は、英人に對して新なる強敵を出場せしめたるを以つてなり。而して東洋の英國たる日本は實に吾同盟國なるが故に、其吾人より習得せる應用科學を實踐して、産業上長足の進歩を爲し來りたるは、亦吾人の誇負するに足る所なりと雖も、而も吾人は現在支那に於ける外國貿易の實際と其將來に於ける豫期すべき事實とに就き、今に於て十分其真相を闡明すべく、斷じて皮相の謬見に陷るを許さざるものなり、蓋支那人は廉價の外國品を欲し、從つて其之を買ふや、最も廉價に賣る外國人よりすべきは、勿論にして、從來彼等が政治上の理由に依り、屢試みたる日貨排斥運動は、結局に於て毫も其効果を奏せしを見ず、從つて將來復之を繰返すが如きことあるを信ずる能はざる也。

(二)日本の對支企業の發達

現下の大戦に際し、日本は其産業的地位を改善するに就き、絶好の機會を捕捉して、之を極度に利用し、爲に其朝

鮮滿洲等に於ける經濟的地歩を鞏固にするを得たり、故に此等地方に於ける外國人の貿易業者は、孰れも、日本が鐵道を獨占管理するの故を以て、之と競爭するの不可能なるを云ふ。

英國は從來常に支那に於ける列強國民の機會均等と門戶開放主義の實行を唱道し來りたるものにして、且其長江沿岸に於ける貿易が、各國民に對し自由に開放せらるゝことは、實に歐洲列強國民の爲に利益なるのみならず、抑又英國自身の利益とする所なり、是を以て既に英日米佛の四國は、明かに此主義の維持に關し、十分の協調を遂けたり。然れども日本は常に應用科學を習得せるのみならず、之を應用して今や獨逸人と同一の程度に於て、其商業的企業を組織するを得るに至れり。即ち彼等は迅速に製造業を創設し、一九一三年の一年間の日本の支那に輸出せる電氣機械類は、僅かに八萬磅に過ぎざりしが、昨一九一七年には其額一躍して四年前の五倍となり、四十二萬一千磅に達し、更に本年の一月より三月に至る三ヶ月間に於て既に、二十六萬磅に達したるを以つて、此一年間には優に七八十萬磅の多額に上るなるべし。而して香港地方に於ける日本製電機價格は、遙かに英國製よりも廉に、而も日本は既に多數新式電機製造所を有し、且國內到る處の瀑布より得らるべき安價なる水力と低廉なる勞力とを有するを以つて、其賣價は更に低廉なるに至るべく、加之日本人は其輸出伸展の爲には、能く合同し得る特性を發揮せるを以つて此等の事實は我國貿易業者の看過すべからざる所なりとす。

(三) 英國貿易の將來

然れども支那に於ける貿易に就き一度適當なる組織を定め得るに至らば、英日米其他の列強の餘剰生産に對する市場は、優に之を支那に於て求め得べく、而も其購買力は正に無限に増加するを得べし、加之現戰爭は吾人の因襲を一刀兩斷せるを以つて、其終熄の曉には、國家の連盟が世界の騷擾なる地方に於ける通商貿易を安全ならしむる爲に、其秩序を維持すべきは正に其當然の義務なりとす、而して支那の革命不秩序が從來其國運の發達を阻害したると共に著しく其貿易の伸展を阻止したることは争ふべからざる事實なりとす。然りと雖も支那に於ける「歐米品」に對する需要は此等の障礙あるに拘はらず、漸次増加しつゝあるを以つて、若も英國にして現下の大戦に際し軍需品供給の爲に施設せるが如く、對支貿易伸展の目的を以つて、其商業上並に工業上の組織を完成するを得むか、支那は之が爲に其國內の富源を開發して購買力を増進し、依つて吾貿易業者の努力に對し、十分の報酬を齎らし得べし、是れ實に世界將來に於ける一大事業たるものにして、英國は此偉業の完成に就き、重要な役割を演ずべき責務を有するものなり。

(本章完)



彙 錄

支那の貨幣制度

幣制改革問題の復活

支那の貨幣制度の改革は對支貿易業者にとりて至大の關係を有する重大問題なり、然れども、現今時局紛糾の時に際し、斯る問題の復活し來れることは一見奇異の感無くんばあらず、何となれば、目下銀價騰貴して戰前に比して二倍の高値を示し居るを以て、支那は其結果として、自國の通貨の交換價值の昂騰に依りて尠からざる利益を得たるが故なり、*“The Chinese Engineering and Mining Co.”*の報告書に依れば、支那よりの送金は良好なる相場の下に回送せられたるを以て、六月三十日までの本年度の該會社の利潤は非常なる増加なりと、此種の利益増加は對支關係企業者の等しく經驗せる所なり、前述の如く銀價は戰前に比して二倍の昂騰なるを以て、銀貨の金購買力が戰前に比較して著しく増進したるは自ら明かなる所なり。

支那は世界に於ける唯一の純然たる銀貨使用國なり、而して支那の貨幣制度の不可思議にして、紛糾錯雜なることは、其の研究者をして苦ましむる所なれども、それは現今支那の貨幣の單位は「兩」なることを説明するを以て足れり

とす、然るに兩は通常純銀一オンスを表すものとせらるゝも、不幸にして兩には種々相違あり、即ち兩は單に重量及び價值の尺度に過ぎずして、何等兩なる名稱の通貨あるなし、而かも其重量並に價值も地方によりて各々異なる所あるなり、支那には七十七種を下らざる兩の種類あるも、其中の主なるものは、僅かに四種に過ぎずして、就中海關兩最も著名にして、凡て海關稅の賦課は皆之に據る、海關兩は銀五八三・二グレインに相當す、庫平兩も亦重要なる一單位にして政府の課稅は凡て此の庫平兩を以て計算するなり。

銀價變動の影響

支那の爲替相場の決定的要素は倫敦銀價にして、各種の兩に對して通用さるべき其相場なるものは、各種の兩の表す所の銀量に相當するなり、銀の騰貴は支那の通貨をして其の購買力を増進せしめ、銀の下落は其の購買力を減退せしむ、故に、銀の昂騰即ち銀の金購買力の増加する時は、支那に對する外國よりの輸入品は支那商人にとりては安値となる、外國輸入品は金を以て決済せらるゝが故なり、又此際支那の外國輸出品は高値に於て購入せられざるを得ず是れ輸出品は銀を以て決済せらるゝが故なり、而して銀の下落せる場合には此と反對の現象を惹起す、過去二ヶ年間に於ける銀の騰貴は支那貿易に對して前述の如き當然の結果を引及ぼしたり、即ち其輸入品は増加したるも、輸出品は減退せり、上述の事實よりして、銀相場の一定程度に於ては、支那に於ける物資の生産を不利ならしむる所以を容

易に了解し得べし。是れ即ち物資を生産するよりも、之を海外より一層安値に購入することを得べきを以てなり、故に銀の大暴騰は支那に對して、不快なる諸種の經濟問題を提供せり、銀の購買力が大に増進せるがために、特に支那の輸出の減少せること甚しきものあるを見る、銀騰貴の際に於ては支那の輸出業者が其營業の不振を餘儀なくせらるるに反して輸入業者は利する所大なり、銀の下落する時には、之と反對の結果を示す、而して畢竟輸入品は輸出品によりて決濟さるゝものなるが故に、銀の昂騰が一定期間中繼續するものとせば、地方市場に於て消化さるゝ國內の諸物産を犠牲に供して迄も外國輸入品を歡迎し、且つ其輸出品を高價ならしめ、其結果輸出を減退せしむるが故に、支那の生産力を減殺するに到るなり、斯くて支那の購買力は漸次に衰退し、支那の通貨に對する需要は其の輸出品と相伴ひて減少するを以て、相場は平價以下に下落するに到る、然るに銀の下落は輸出品を増加せしめて、輸入品を減するが故に、於是貿易の平準を得て支那のために良好の状態を現出するなり、一般經濟上より觀察するに、勿論銀の騰貴によりて、支那は多少の利益を得べきも、概括的に謂へば市場に於ける銀相場の下落は、其の昂騰の際よりも、却つて支那にとりて利益多きは否み難き事實なり。

支那銀貨制度の不備なることは、支那に於ては通貨を控損するも何等の刑罰を課せざるの事實に職由するものにして、之を例せば支那人は常に自己所有の銀貨より銀片を削り取ること、及び之と同時に市場に流通する種々なる貨幣

に對して、支那人が各自勝手に價格を附することを許容せられ居るの事實は、確かに支那に健全なる銀貨制度を維持し難き根本的原因ならすんばあらず、勿論金本位制度の設定は支那の對外貿易上に刺戟的影響を及ぼすべしと雖も、若しも支那人固有の銀貨にして改良せられず、確固たる統一的基础の上に之を置くに非れば、金本位制度も、地方に於ける交易上の諸障害を艾除する能はざるべし。

(The Times.)

支那人の支那政治論 (五)

其四 聯邦制論叢

岑西林に與へて聯邦を論ず

熊希齡

上海岑雲階(春煊)先生足下、一昨日貴電を拜誦す、議論公正、當頭の一棒といふべく欽佩の至に任ふるなし。思ふに人心の陷溺己に深く、必ずその覺醒を得難からん、往代の末世を歴觀するに各意見を異にし國を亡ぼして顧みず所謂國仇猶ほ緩ふすべきも私恨最も消し難しの二語を以てその狀況を顯はすべし、眞に太息痛恨に堪へざるなり。足下亡國に忍びず勉めてその難きをなし、耿々たる至誠を以て群雄を感動せしめ、和局を調停せんと欲す、唯だ恐らくは此の如き散漫の時局に對し、東を扶けんとすれば西倒れ成功殊に容易ならざるべし。

去年督軍團の兵を率ゐて闕を犯すや、希齡謂へらく南北双方内容ありて實力なし、之を往古の割據時代に考ふるに位に在る者その知識平等にして、傑出する者ありてこれが指揮をなすにあらざれば必ず紛裂して不統一を致さんと、今にして思ふ、この言恐らくは事實とならんとす。希齡一昨日電執を以て軍民分治を實行することを主張せり、今南北双方を觀るに爭持するところ仍ほ國會に在り、法律の根本を以て唯一の條件となす。如何せん南北の見、その勢力炭相容れず、舊國會を恢復せんと欲すれば北方督軍團死力を以て相持し、新國會を召集せんと欲すれば南方督軍團護法を以て相詰る、夜長く夢多く、まさに天下をして紛擾せしめ土崩瓦解して收拾によしなからしめんとす。それ双方すでに武力を以て法律を爭ふ、苟しくも一方をして戰勝の利を占め、群雄を屈服して全國を統一せしめば、未だ始より人民の渴望を慰むべくんばあらざるも如何せん彼此の均衡常に動搖して各把握なく、一波未だ平ならざるに一波又起り、螳螂前に在りて黃雀の後に在るを覺らず、希齡露西亞の革命の擾亂四分五裂の勢をなすを見實に慄々として危懼す。

竊かに思ふに共和政體は約法を根本となす、約法をおいて一解決の策を求むるも、如何なる法律の大家と雖も約法の中に於て變通の術を得る能はず。希齡の愚見に謂へらく中國土地の大にして人民の多き、數千年の歴史習慣又深く地方主義に積襲す、今中央集權の統一政治を行はんと欲せば今後日にその困難に遭遇せん、實に改めて地方分權の聯

邦政治となしなほ徐ろにその善後策を講ずるに若かず。果して能く之を輿論に徹し之を公決に取り、各省特派の代表者を以て聯邦會議を組織し、先づ一最良の聯邦憲法を定めて天下に頒布し、聯邦會議を召集し従前の所謂新舊國會、南北系統の激進漸進、帝黨民黨の各派を擧げて一概に排除淨盡して新共和革命の一紀念となさば、譬へば昨日に死して今日に生くるが如し、各派の人士をして同じく國家の福利を謀り、世界の大勢に注重せしめん、すでに舊仇のいふべきなく更に何の私見かこれあらん。希齡等憲政を觀察し國に歸るや、即ち中央集權を主持し、地方分權と同時に並進すべきを上奏せしが、辛亥革命に深く南北の分裂を憂慮し、乃ち章太炎（炳麟）と統一黨を組織し以て領土を保全せんことを冀へり。乙卯以後項城（袁世凱）專制し、各省の政治改良絶望に歸せしが、僅かに浙江の一省なほよく自治をなすあり、故に齡等又漸く地方分權の思想を抱くに至れり。近頃遠く露西亞の紛擾を觀、近く各省の分離に鑑み已むを得ずして聯邦の議を創む、或は以て目前を挽救すべきか。但憲法を議定するには博採旁搜、獨米の成規に於て更に最善の法を擬定せば或は以て長治久安の策となすに足らんか。未だ足下の以て然りとなすや否やを知らず、謹んで所見を呈して採擇を加へられんことを希ふ。熊希齡頓首。

熊秉三（希齡）に復す

岑 春 煊

秉三先生大鑒、馬（二十一日）電聯邦を以て救時の劑と

なす、藥その病に當れば沈痼を起すに足る、國の良醫也甚佩甚佩。有(二十五日)電を奉ずるに當りよつて贊仰を誌せり。病源得たり矣、方劑具はれり矣、然れども病者疾を諱みて醫を忌む、醫者は必らず先ず病者の疑を去り、而して後能く其方劑を進む。煊の商らんと欲する所のものは何を以てか病者をしてその諱疾拒醫の心を去らしむるかとなり。

今の世聯邦にあらざれば大國を治むる能はず、國を析ちて邦となせば内治周密に、邦を積んで國となせば外勢雄厚なり。我國勢力均峙の各省に就き、改めて聯邦となし、機に因つて利導せば此より善きはなし。然りと雖も聯邦國の制度未だ國防の軍權を以て中央に隸せざるものあらず、邦に少數の兵を置くはたゞ此制を美有するのみ。今各省の勢力督軍に集り、督軍は實に國防軍隊を統率する者、國軍の將帥を以て聯邦の首領となさば、名は聯邦にして實は藩鎮なり軍權一ならず何を以て國をなさん、正式の聯邦をつくらんと欲せば必ず先づ軍民の權限を清めざる可からず。公前電に言ふ所の軍區分別の辦法、實に先決の前提たり。今の督軍能く軍權を中央に譲り、退いて一邦の行政首長となるや否や、抑も或は専ら軍區に長として軍事に任じ民政を尙はざるべきや否や、此れ事實上商を待つ者の一也。

地方自治は邦の基なり。美洲の坎拿太、澳太利の邦、其源皆自治に起る、民主國體の下勢封建君主の邦ある能はず邦の行政首長は民選簡任を論せず、立法權行政監督權を邦の議會に譲らざる能はず、今督軍省長を一身に兼ね、軍民

を總轄し、政己より出で令出で、行はる、威權無上なり。即ち一邦の首長となり、能く一部分の政權を地方に譲ること、各國聯邦の通例のごとくなるべきや否や、此れ事實上商を待つ者の二也。

若し此の二端にして絶へて疑問なくんば、則ち國會一たび開けて杯酒談笑の間兵氣全く消し大局底定せん、然らざれば則ち深閉固拒、或は陽合陰離、是れ猶ほ病者の疾を諱み醫を拒むがごとし、醫者即ち股を割いて以て進めんと欲するも亦安んぞ得べけんや。聯邦不死の神藥と雖もそれ當局の口に苦きを以て嫌となすを如何せん。公は宏才卓識にして、世變を洞達したれば、必ずや策の以て此に處するものあらん苟しくも其道を得ば煊、看護侍従の列に居り、耳目手足の力を竭し、公の後に従はんことを願ふ。東亞の病夫、庶くばそれ瘳ゆるあらん。此拳々を積んで明教を跼望す、諸君たゞ國の爲めに珍重せられよ、専ら此に敬んで籌祺を頌す。

聯邦評議

衆議院議員 呂

復

呂復氏は直隸選出衆議院議員にして益友社に屬し(或は政學會ともいふ)法制の造詣深く國會に於ける辯舌家の一人にして特に血性を以て聞ゆ本編は氏が本年二月十七日の上海中華新聞紙上に掲載せしものなり當時同新聞は聯邦制に關する議論を募集掲載し李述唐氏(陝西選出衆議院議員政學會幹部)の「大一統論」以下名論少なからず今呂氏の

論文を譯載してその一斑を窺ふに便せんとす。

民國元二年の間、國內政論紛紜、その分野大概を綜ぶるに分權、集權の二説に外ならず。分權の説は國民派之を主とし、集權の説は進歩派之を主とす。分權を主とする者も儘地方自治の發展を言ふに過ぎず初め未だ聯邦と言はざる也。集權を主とする者は則ち中央の權力を以て地方を發達せしむと爲し、政府の強にして有力なるを渴服せり。其時袁氏國に當り肆まに專制を行ひ暗に帝制の豫備を爲す、分權の説は自から專制政策の容れざる所、その排斥する所と爲りしや宜也。集權の説は最もその利用に供するに足り、豪強の聞くを喜ぶ所となり易し、於是風を迎へて勢を取り國內集權の論に附同し愈唱へて愈高し、その極まるやたゞに地方の位置とその價值とを抹煞するのみならず、並びにその所謂中央政府なるものを亦儘事實上大權を手握するの一人に附麗せしむ、實は則ち一人政治のみ、謂うて合式の政府と爲すも猶ほ名と實と戾れるを覺ゆる也。三四年の間に至り此種無限集權の説より釀成せる所の一人政治、固よりすでに登峰造極、復た加ふべきなし。於是その反面よりして聯邦制度の集權の弊を矯正するに足るを證し得、これより聯邦の論始めて國內言論界中に見はれたり。當時絕對に聯邦に贊同せざる者も亦深く極端集權の以て國を立つるに足らず、必ず中央地方の事權を分配する各基の當を得兩つながら相維繫して平衡限制の原則に悖らざるを求め、然る後各その境に安んじ始めて一方積重偏倚の弊無きを信ぜり。

民國中興し國會重ねて開かるゝに及び、首として不佞より聯邦性質を採りて條文を草擬し、省制を憲法に加入するの議案を提出せり。當時反對方面の大いに反對を事とせし所以の者は正にその聯邦制に近似せるを以て也。曾て研究會議員藍某（按するに藍公武か）不佞に謂うて云ふ、「省と省との爭議は參議院より之を裁決す等聯邦性質に近似せるの制度は絶対に不可なり」と。二讀會に及び地方制度憲法加入を議決するや、倪氏（嗣冲）叛を唱へ平日志を國會に得ざるの少數政客、又從つて波瀾を推助し、煽動鼓惑ただ亂の大ならざるを恐る、卒に國會解散され總統走り、而して大亂連綿今に至り未だやまざるに至る。近者熊君希齡國難を坐視するに忍びず、乃ちその水災を救済し河流を改良するの餘暇に於てその國人と國是を商榷し、是において聯邦會議の議あり。不佞以爲らく熊君すでに此議を倡ふ、即ち邦それ自身の組織、各邦聯合の組織、及び聯邦會議の組織、熊君必らず先づ具體的の草案あり、國人に出示して討論するものならんと。報章に於てその電文を讀むに及びその所謂聯邦會議なるものは、儘各省軍民長官より代表を派遣し地を擇んで開會し、今日護法各省爭ふ所の舊國會恢復の事を擧げてその裁決を聽すといふにすぎず。然らば則ちかの所謂聯邦會議なる者は、乃ち一變名の督軍省長代表團を以て國會を處分せんといふなり、古今中外安んぞかくの如き奇特の聯邦會議あらんや。但だに現行國法に於てその根據の所在を得ざるのみならず之を學理に按ずるも、その原理原則吾人をして索尋に難からしむ。

願ふるに熊君の倡ふる所はすでに聯邦と名くるを得ず、然らば則ち純粹の聯邦制度は果して今日の中國に行はるべきか、是れ又然らず。何となれば純粹の聯邦制度はたゞ開始建國の時に行はるべく國家すでに建設を経たるの後に進行する能はず、試にすでに建立を経たるの國家には必ずやその國家を組織する根本大法あり、絶へて自由に棄取し隨時法外の強力を以て此種組織を棄去し、更に之に易ふるに其他一種の組織を以てする能はざる也。是れ則ち不佞論議の在る所也。北美の英を離るゝやたゞ十三州、州各その組織ありと雖も尙は未だ自立國家たらず、各州聯合して合衆國憲法を制定するに及び而して後北美合衆國以て成るを告ぐ此れ美國の開創也。日爾曼各邦は、澳太利分立すと雖も零星自立の小邦に過ぎず、普魯士各邦の獨逸聯邦憲法を制定するに及び獨逸聯邦帝國これより完全に成立せり、是れ德國の開創也。凡そ此れ皆國家元始開創の時に於て之を行ふ、今の美國と德國と、皆各州各邦より聯合して成る、苟しくも人あり此種已成の聯邦制度を放棄して易ふるに他種の組織を以てせんと欲する、其事法定の憲法改正の手續に由るに非ざれば必らず國法の許す所と爲らず、然らざれば則ち革命行動也。不佞嘗て謂へらく辛亥の役、各省清を離れて獨立するや、其時各省苟しくも先づ自から一省の憲法を定め、實際一邦の地位を確立し、然る後各省より聯合し、何種の事權を以て省に留保し、何種の事權を以て中央に讓與すべきかを定め、聯合憲法を制定せば、吾國必らずや聯邦共和國たりしや疑ひなし。たゞ其時高處より着手し、既

に各省代表會議より變じて參議院と爲り、復た參議院より現行臨時約法を制定せり。此臨時約法は永久憲法未成立以前に於ては即ち國家組織の根本にして絕對統治の力を具有せり、各省其下に寄生し、その事權地位は乃ち通常法律に寄り約法に寄らず、現行省議會暫行法の如き是也。今日聯邦を言ふ者、知らず根本的に約法の存在を容認し異日憲法上に於て一の聯邦に近似するの地方制度を確立せんことを求むるか、抑も逕ちに現行國法を不問に置き、事實上強有力者より機關を建置し所謂聯邦制度を制定せんとする乎。前の説に由れば但だ國內の暴力をして救平せしめ、國會をして自由に開會するを得せしめば、議憲の時地方制度の一章終に商權の時機あり、後の説に由れば則ち竟に現行根本國法を抹煞す、乃ち一種の革命行動なり。知るを要す、今日既に現行の臨時約法を抹煞して所謂聯邦なる者を組織す、又安んぞ所謂聯邦なる者を否認し易ふるに他種組織を以てす可からざるを知らん乎。此の如く變動して定まらずんば國家一永久確實の制度なし、尙何の國家の言ふ可きあらんや。總之今日中國の争は何種組織の適宜に在らずして現行國法の完全なる効力あるを否認するや否やに在り。若し亂を倡へ國に叛くの人にして以て問はざるべくんば是れ則ち國家の刑法廢紙に等しく、即ち徵許の威權あるも僅細氓市民鷄鳴狗盜の流に及ぶに過ぎず、奸大慝は畏るゝ所無き也。約法未だ大總統に國會解散の權を賦與せず、而して竟にその解散を容認すとせば、臨時約法も亦空文に等しく、野心家そのおのれに便なるものを選びて一二條文を適用す

るに過ぎず、完全の効力に至つては絲毫も有ることなし。此の如くにして聯邦制度を言ふ、その所謂聯邦制度なる者は、果して臨時約法、現行刑法に異なるあり、絶對の効力あつて強有力者の推翻する所とならざるか。是の如きは不佞の知る所に非ざる也。

工商同業公會規則

第一條 凡そ工商同業公會を設立せんことを請ふ時は發起人の姓名、商號、年齢、住籍を書し同業公會設立の必要理由を陳明し、同區域内の同業者の商號及經理人の姓名を同處商會に登録し、商會の證明文件一切を送るべし。

第二條 工商同業公會は事務所を設立し、總董一人副董一人、董事十人より十五人を置くを得、均しく名譽職とす。

第三條 工商同業公會職員の選舉及任期は商會法第十八條及第二十條より二十五條に比照して辦理するを得、工商同業公會の會議は、商法第二十二條第二十七條に比照し辦理するを得。

第四條 工商同業公會の辦事情形、費用の籌集及び收支決算は毎年末に地方長官に彙報すべし。

第五條 工商同業公會の圖記（印）は内務所定の圖章式様に違ひ、長濶各營造尺一寸五分、四邊の寬は一分とし「某地某業公會の章」とし設立許可の後、始めて之を用ふることを得。

第六條 本細則は公布の日より施行す。

工商同業公會施行辦法

第一條 工商同業公會は同業の公益利益を維持し營業上の弊害を矯正するを以て宗旨とす。

第二條 工商同業公會の設立は各地方重要各營業を以て限りと爲す、其種類範圍は同處總商會より之を認定す、凡て手工勞働に屬し及び場屋を設け以て客を集むる營業は本規則に依り工商同業公會を設立するを得ず。

第三條 工商同業公會の設立は同業中三人以上の資望充分なるものより發起し、並に規則を定め同處總商會の查明を経、地方官より地方主管廳又は地方最高行政長官に呈請し商務部に彙報すべし、

第四條 前項規則は左記各款を明記し同一區域内四分の三以上の同業者の議決を得べし。

一、名稱及所在地 二、宗旨及辦法 三、職員の選舉方法及其權限 四、會議に關する規定 五、同業入會及出會に關する規定 六、費用の籌收及收支に關する方法 七、規章に違反するものに關する處分方法、

第五條 同一區域内の工商同業者は公會を設立し一會を以て限とす。

第六條 工商同業公會は同業公會の名義を以て營利事業をなすを得ず。

第七條 工商同業公會若し法令に違反し權限を越へ又は公益を妨害する時は地方主管官廳又は最高行政長官は解散を命じ且農商部に報告することを得。

第八條 工商同業公會の職員にして規定に違反する重大事件ある時は公會より議決し除名するを得。

第九條 本規則施行前本と商工業に關する體團は公所公會又は會館等の名稱に論なく均しく舊に照らし辦理するを得、但し其現行章程規則は地方主管官廳又は地方最高行政長官より農商部に轉報し嗣後改修の時も亦同じ。

第十條 本規則は公布の日より施行す。



寄贈書目録

山	月	商	特	實	通	日	滿	東	月	水	大	財	學	滿	亞	三	東	朝	商	遠	水	大	化	京	紡	新	大
林	標	標	許	用	商	本	本	本	方	本	交	政	政	實	網	網	洋	洋	工	易	東	產	學	法	織	著	日
公	公	公	公	公	公	人	人	人	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時	時
報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報	報
農商務省山林局	奉天商會	特許局	特許局	特許局	外務省通商局	政教社	日支時社	其支時社	木浦商會	臨時產業調查局	東亞經濟研究所	其支時社	東洋協社	丸善株式會社	大連商會	黑龍社	其支時社	其支時社	農商務省陳列所	大阪商會	總府殖產局	其支時社	其支時社	其支時社	其支時社	其支時社	其支時社
自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號	自四二八號
七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號	七號

事業界

鴻源紡織公司賣渡

・上海鴻源紡織公司是五月一日臨時株主總會を開催し、日本當業者よりの申込に應じ、其營業全體を賣却清算することの可否を附議したるが、結局當日中に決議を見る能はず更に第二次總會を召集して決議することとして解散したるが、其第二次總會を五月二十一日午後本公司事務所に於て開催し再議に附したり。

其結果 Charles E. Rayner 氏の提出し S. A. Levy 氏の賛成せる會社資産全部を大阪河崎助太郎氏へ賣却の決議案は、賣却價額を一、一三四、〇〇〇兩より一、三〇〇、〇〇〇兩に引上げ、他の條件は原案通り可決通過せり、當日も前回同様 A. Hide 氏議長席に着き F. Ayscough, C. Rayner, S. A. Levy, H. P. Wilkinson, G. Willeumier 諸氏之を輔佐せり。

議長は前回の臨時總會以後に發生したる事項を一通り述ぶるは、株主諸君の希望せらるゝ所なるべしと冒頭して曰く。

「其後重役は前回の總會の情況に鑑みて、怡和洋行及河崎氏の雙方へ交渉して、封書を以てする入札に附し、本日此の總會に於て開札決定せむことを申込たり、然るに河崎氏よりは入札ありしが、怡和よりは何等の入札に接せず、此

外に新規の申込二口ありたるが、何れも其基礎條件は前回に述べたるものと大同小異なるが故、單に建築物土地工場に對する申込價額の實數を諸君に示せば足るべし。

即ち河崎氏の申込みは一、三〇〇、〇〇〇兩にして、支那シンジケートよりの申込みは、其條件中多少の疑義ありたるが、其價額一、二五〇、〇〇〇兩、最後のものは J. P. Brett & Co. がシンジケートに代りて、一、三五〇、〇〇〇兩にて申込みたるものなるが、此申込には額面三十萬兩の支拂保證附小切手を添付したり、以上合計三口の申込ありたるが Rayner 氏に求めて氏が前回提出せられたる第一決議案を再び動議せらるれば足るべし」と、Rayner 氏即ち左の如く提議せり、即ち。

(一) 本公司は其任意により茲に從來の營業を閉止し、在上海 Charles Ernest Rayner 氏を之が清算人に任命すること。

之に對し Levy 氏の賛成前回の如し。
此時議長發言して曰く。

「前回に問題の要點となりたるは、本公司を賣却するか否かに在りて 未だ然らば何人に賣却するかと云ふ迄は進み居らざりき、余が前回余の希望として陳述したる所は、今尙諸君の記憶に新なるべきことを信ず、前回討議したる時の價額一、一三四、〇〇〇兩なりしも、其後最高額一、三五〇、〇〇〇兩まで繰上られたり、されど余は其丈けの値上が、果して本公司賣却を償ふものなりとは、未だ思考せず、而かも賣却か否か又賣却するとせば何人に之を賣却し得べ

きやは一に諸君の意思によりて決すべきなり、而して今此點に就ては Rayner 氏に於て何等かの意見あるべし」と。之に應じて Rayner 氏起ちて曰く。

「余は前同に陳べたる所見に何等の加除をなすの必要を見ず、而して依然賣却を可とするものにして、本決議案の可決通過せむことを希望す」と。

茲に株主全體の意嚮を質したるに、大多數の賛成を得て第一案は通過したり。

次に Rayner 氏は修正を加へたる第二決議案を提出すること左の如し。

(二)一九一八年五月二十一日附を以て河崎助太郎氏より提出せられたる申込書に記載の内容及條件に基き、申込みの引受を前記清算人に委任すること。

Levy 氏之に賛成す。

議長は此時此修正案による時は、本公司の營業を一、三〇〇、〇〇〇兩の價額にて河崎氏に賣却することとなる、然るに前に述べたる如く買収申込は三口ありて、最低一、二五〇、〇〇〇兩、第二は一、三〇〇、〇〇〇兩、後は J. P. Baet & Co. の一、三五〇、〇〇〇兩にして河崎氏よりの申込價額よりも五萬兩高く、而も之には多額の手金まで添付しあることを指摘し、之にも拘らず Rayner 氏が河崎氏の申込を選ばむとするには據る據あるべく、之に關し同氏の説明あるべきを述べたり。

時に White 氏發言して議長に對し怡和洋行が一旦申込をなして後に之を撤回したる理由如何と質問したり、議長

之に應へて重役は怡和洋行に對し、入札を求めたるが左の回答に接したりとて之を朗讀せり、即ち本月四日附貴輪正に拜誦仕候、弊行が鴻源紡績公司を一、二〇〇、〇〇〇兩にて買収せむとの申込に關し誤解を避けむが爲め、本月一日の貴公司臨時總會に於て決議せられたる所に鑑み、弊行の事情を再び茲に具陳可仕候。

弊行が貴公司買収の申込をなしたるは貴方株主諸君にして、貴公司を賣却するの意嚮なるに於ては、之を英國人に賣渡すべき機會を貴方株主諸君に提供せむとの意に出でたるものにして、其爲め株主諸君が賣却に應ぜむとせられたる日本側よりの申込價額よりも高價を申出でたる次第に有之候。

然るに前記總會の結果弊行は、今や實際機敏なる日本の買手と直接競争の位置に立つことと相成り、貴方重役會議がよしや十分熟考の上にて封書入札のことに御決議相成たることは云へ、是れ弊行申込の主意たる英國の利益擁護の精神は全然沒却せらるゝの結果と相成申可候、其結果が如何成行くべきは十分熟慮したる所に候へども、茲には單に若し封書入札のことならば、株主諸君の金錢上の考より見る時は、弊行の入札は日本側より提出すべき入札程有利ならざるべきを申述置候。

諸弊行より屢に提出致候申込は、當分撤回の上目下考量中に有之候云々、右書面は五月九日附なりき。

議長は最後に右書翰は怡和洋行より接受したる最後のものなることを附言したり。

次に Simmons 氏は第二案を修正し、Bisset & Co に賣却することを提議し Spunt 氏は之に賛意を表せり、之に對し Rayner 氏は説きて曰く。

「余の指摘せんと欲するは、河崎氏は第一に申込をなしたる人にして、而も其申込價額たる吾等が投資したる所に對し相當のものなり、而かも氏が此申込をなす迄には専門家を吾工場に派して、仔細の取調を行ひ、多大の勞力を費したるものなれば、今其申込を拒くるは餘り德義に反することと思考す、一方他の申込は何れも河崎氏の勞して調査し上げたる所に基き何等自ら勞する所なかりしなり、今後未賣却棉花の在荷を七月一日に賣渡すに際し、相手たる當事者の如何によりて其受取るべき價額に大差あるべし、余は多年川崎氏を知るものなれば、吾人の利益を匿名のシンジケートよりも河崎氏の手に委せむことを欲するものなり」と。

此時 Simmons は Bisset & Co. の申込を引受くるに於ては、本公司は依然英人の手に在り其上五萬兩、英貨にて一萬磅以上に當る巨額を餘分に獲得し得る利益あることを述べたり、同氏の修正案は總株主の決議に上したるが否決せられたり。

斯くて議長は今や Rayner 氏の修正決議案を總株主の決議に附せむとするに際し、Burrell 氏發言して曰く。

「株主諸君は五萬兩の金額を捨て、何等顧慮せざるものゝ如くなり、余は諸君の之を欲せざるに非るかを疑ふものなり、又河崎氏をして其申込價額を一、三〇〇、〇〇〇兩より一、三五〇、〇〇〇兩に引上げしむること不可能なりや、余

は河崎氏を知らざれども、多年 Bisset & Co. を知り其名の信用ある點に於て、他の何人にも劣らざることを言明す」と。

されど結局 Rayner 氏の提議が決議に附せられ、可決通過し本總會の議事日程を終了したり、最後に議長は來月五日更に本決議確認の爲、今一度臨時總會を開催すべきことを告げたり。

第三次臨時株主總會

其後六月五日更に第三次臨時總會を開き、其確認を求めたるに、僅かに一票の反對ありたるのみにて、二ヶ條より成る清算賣却の決議は、茲に確認せられたり。

今重複を厭はす右二ヶ條の決議文を再録すれば、左の如し。

一、本公司は其任意により茲に従來の營業を閉止し、在上海チャールス・アーネスト・レーナー氏を之が清算人に任命の事。

二、一九一八年五月二十一日附を以て、河崎助太郎氏より提出せられたる申込書に記載の内容及條件に基き、其申込の引受を前記清算人に委任すること。



支那半月史

大正七年七月上旬

西南政府成立

既報の如く岑春煊は六月二十九日を以て上海を發し、七月四日廣東に入れるが、廣東に於ける岑擁戴派の中堅たる李烈鈞、李根源は、督軍莫榮新及び伍廷芳、林葆懌二政務總裁に運動して岑を首席政務總裁に推すことに決定し、七月五日岑及び唐繼堯、陸榮廷、伍廷芳、林葆懌五政務總裁の連名を以て左の如き宣言を發表し、西南政府茲に成立せり。

唐紹儀孫文を除くの外各政務總裁就任し半數以上に達せるを以て本月五日中華民國軍政府法に依りて政務會議を開くことを宣言す。

十二日に至り孫文亦政務總裁就任を承認したりとの報あり、一方國會方面に於ても議員の到着せるもの參議院百二十一人、衆議院二百五十六人合計三百七十七人に及び、此外到着の見込ある者二百餘人ありとの事なれば、多少の時は要すべきも大總統選舉の法定數を得ることあるべく、尙兩院協議會の決議を以て開院後一ヶ月を経るも到着せざる議員の資格を取消し、次點者を以て當選人とし、その來粵を促がす方針を採ることとせりとのこと故、前途望みな

しとせざるべし。之を暫らくして南北共に各一個の國會を擁し、各々その好む所の人物を舉げて大總統となすに至るべきか、抑も又北方側機關紙の唱道するが如く、岑の南下に依りて却つて妥協の成立を容易ならしむべきかは雄辯なる未來に説明せしめ、茲には岑が南下に際し上海各新聞に發表したる臨別宣言を譯載して參考に資すべし。

國家不幸にして禍亂頻りにかさなり煮豆鬪牆隣に間に一載を逾ゆその原始に溯るに段氏近習少數人一念の私に過ぎずその未流に及んでや遂に全國億兆生靈無窮の慘を演ず、某覆亡の日無く巢卵災を同じうせんことをいたみ亦既に自から衰朽を忘れ當世の賢達に追隨して息事寧人の義を持し命を執政に乞うて調劑有容の説を申ねて當途に強聒せり初め爾和の感情扞格によりて疏通し彼此の期望衝突によりて矜讓せんことを冀ひしが迺ち主戰の者意氣自から持し忿心中に結び猪口噴音劫運を回し難からんとは近頃國際の形勢驟かに變じ東亞の大局虞るゝに堪へたるより海軍の將士と西南各省と護法の聲中に於て救亡の論を創め嫌を捐てて馳電じ甘んじて裁斷を公意に聽く此れ正に干戈を玉帛と爲し絕港逢生の機と爲す顧みるに主戰の者悍然として逕行し稍顧みることを屑しとせず嗚呼痛ましい哉斯れ何にれぞや彼れ毎に自から愛國を謂る當さに知るべし政治家の施設必らず先づ時勢の要求に因應し民生の利害を顧念し始めて立てゝ政策と爲すべし斷じて時勢人民を不顧に置き我見を膠執して一味冥行する者無し今の時勢は鉅んぞ内争を延長すべけんや今の人民は

詎んぞ屢々獨狗に供すべけんや當局躬を撫して自省せば亦當さに幾希の明あるべし若し明かに之を知りて而して猶ほ人の妻を寡にし人の子を孤にし人の家屋を離散せしめ人の生命を草菅し以て同國相殘の俾勝を博す斯れ豈に以てやむべからざらんや。

もし統一を力求すと謂ふか則ち政は正也古より明訓を垂れたり力を以て人を服するは專制の國尙ほ許さるる所矧んや共和國に在りては主權は之を人民に屬し行政の權能は法律より授けらる人民孰れか服せざらんや國權の統治は惟だ私力を逞しうして以て征服を圖る者を視る辨姦は嚴ならざる可からず司政者果して全國の統一を以て前提と爲さば宜しく如何か誠心を開き公道を布き法度に遵循して萬機を公論に決すべき顧みるに今の司政者曾つて一たび現政府の起原如何その法律上の地位如何を究めしや否や根本の是非曲直既に反躬省察の誠なく徒らに強藩の脅迫を利し元首を要して以て政柄を攫み中央の位置を假りて己に異なるものを責むるに必らず屈從せんことを以てし此れを以て口を統一に藉る即ち海軍西南の抗議なきも天下の人能く盡く盲從せんや。

若し爲す所殆んど南人を屏けて異類と爲すか然らば又何ぞ憾まん北方羣衆の正義主張、長江諸督の大局を思維し力めて排解に任するや則ち陰に忌み陽に猜み防範束縛してその志を行ふあたはさらしむ曹張諸帥の民瘼を念ひて止まらんことを思ふや則ち復た言誘勢迫勉めて前敵に任せしむ陸建章は身高級武官に係る犯罪ありとも當然軍

法會審の判決を経べし乃ち一私稱の副司令擅まに之を誘殺し政府復た予ふるに公式の追認を以てす其餘軍官の相殘するに忍びずして咎を得る者幾くなるを知らず彼に在りては以爲へらく主張堅定凌厲無前と而して豈に一として釀亂致戾の原に非ざる無きを知らんや且つ西南は猶ほ國土也近世文明國の殖民地土人を治する猶ほ人道を標榜し許すに自治を以てし治するに懷柔を以てす未だ純ら武力を恃み威殺を以て能事と爲す者を聞かず今海軍と西南との北京執政に於けるもと兩立せざるの仇無し徒だ護法に因りて自衛し遂に相對を成せるにて法に循ひ情を衡るに解決に難きなし乃ち全國の師を傾けて摧鋤蹂躪餘地を留めず外藩を撻伐するより甚し用心何ぞ忍なる西南の塗炭値へざる所然らば又何ぞ全國の命脈に憾あらん而して必ず之を内争に耗し之を財政に亡し百業彫殘庶政叢廢するを致し軍費度なく債項繁興し抵押印刷に及び電信に及び路鑛に及び船廠に及び甚しきは議して地丁に及ぶに至る友邦の厚援を誤用し徒らに一己の淫威を逞しうし一時挹注の便を貪りて百年破産の憂を貽す又た何ぞ忍なるや。

某不才熱直性を成し平昔恃んで以て國に報ゆる所上は祇だ公理あるを知り下は祇だ民意あることを知るその克く人民の疾苦を念ひ國事を公理に哀求する者は地の南北を問はず情の新舊をわかつたす力任同調敢へて勞を告ぐる莫し乃ち西南の當事確かに息争の誠を示し北方の羣衆亦其豆の痛を深うし開誠商榷妥協立るに期すべし不幸にし

て段氏一人獨り復た左右に蔽はれ意氣に誤られ將を遣はし師を勞し龍を援けて粵を攻む水己に深し火己に熱し復た從つて而して之を益す哀れ我が同胞いづくぞ喘息を定めん窮せるかな禹域四百餘州の廣き祇だ一二主戰者の挾持を容るゝに因りて南北に瀾漫せるの壓戰心理をして悉く隱忍觀望の中に葬られて表暴に由無きを致す彼れ既に八方を揮斥せり矣而して和平を愛する者轉た箝口結舌す彼れ既に莽進盲行せり矣而して和平を愛する者惟だ心を悉して運に任せやうやくにして國中強權あつて民意なく橫慾あつて公理無きに至る此れ豈和平を酷念するの志士仁人の始より料り及ぶ所の者ならんや。

某の愚を以て竊かに謂へらく相忍んで國の爲めにする亦自からその限度なるものあり何ぞや民意と公理と也此度を越へて悍然蔑視する者は之を殘暴と謂ふ此度に及ばずして僅かに和平を相望する者亦中庸に非ず其情同じからざるもその國民の天職に負くは惟れ均し國家は公器匹夫も責あり某始終息寧を以て職志と爲す惟だ國民の人格存せざる可からず始終調劑を信じて良藥と爲す惟だ天地の正誼は伸ばざる可からず正誼人格の伸存する所當さに首として「愛和平」と「甘征服」との兩事たり「求統一」と「擅威權」との背馳たるを明かにすべき也今戰禍の線延と生靈の塗炭を坐視し身を挺して平和を促進するの計を爲さずんば人格之を如何、一方は明々護法護國を以て前提と爲し一方は金錢萬能の暴力を挟み以て相凌辱す正誼を如何、此の兩義に因り某西南の約に應じ以て

正誼に合するの平和を促進せざる能はず今後苟しくも以て人民を奠安し公理を昭伸するの道あらば誓つて必らず素志を堅持し代大總統及び朝野羣賢の後に從ひ以て收拾を圖り危亡を力挽せん各方に敬告すそれ民困已に深く國危已に甚しきに惻然たるあらば翻然國家を以て重しと爲し共に福利を圖る者は某皆認めて愛國の同志と爲しともに提携することを楽しむ即ち段氏に在つても國家の爲めに計れば亦その良知を啓發し憬然覺悟し法律を尊重して宵小を屏退し民とともに更新するの一日あらんことを望まざる能はず惟だ某衰庸無能なるも當世に役せらるさきに某と同じく和平の念に切なる者は今日の義憤必らず且つ某に十倍せん此の奮發に繼がば尤も當さに某に百倍すべし各その力を視各その能を竭しその初衷を秉りて德務と爲さば卒に則ち國家人民の浩劫行々轉旋を見ん臨行宣言胸臆を披瀝す邦人君子幸に垂察せよ焉。

新國會召集令發表

所謂新國會議員選舉は西南五省を除ける各省區に就いて執行せられつゝあるが、今や大部分完了し、たゞ湖北湖南新疆三省を剩すのみとなりたるを以て、七月十二日の共和恢復紀念日を以て次の如き命令を發表したり。

國會組織法及び參衆兩院議員選舉法は前きに參議院の議決を経、法に依り公布し並びに内務部に明令して迅速選舉を籌辦せしめ案に在り茲に該部の呈報に據るに參衆兩院議員の選舉は事に因りて延期する各地方を除くの外

均しく一律舉行を經たり等の語あり、民國成立して今茲に七年事變粉乘邦基未だ固からず以て憲典虛しく懸り率循よるなく庶政理を待ち邦治幾んど難きを致せり本大總統時に段憂に切に力めて修舉を圖る現在國會議員既に法に依りて選出するを經たり自から應るに期を尅して齊集し以て法令を修明し宏綱を締構し共に時艱を濟うて永く國本を維がんことを期す茲に定む民國七年八月一日以前に於てあらゆる此次當選の參議院議員衆議院議員一律京師に齊集し期を定めて開會しもつて國家の立法を尊重するの至意に副へよ此に令す

右召集令發表當日迄に發表ありし其後の當選議員左の如し。

參議院議員

△浙江 沈銘昌 吳鍾榮 潘復 沈金鑑 汪有齡

△江西 李盛鐸 陶家瑤 吳鈞 賀國昌 許受衡

△黑龍江 翟文選 蔡國忱 楊崇山 李占英 宋連甲

△綏遠 龔秉鈞

△陝西 王 樹 武樹善 祁毓璋 宋伯魯 何毓璋

△河南 張鳳臺 畢太昌 李時燦 王祖同 史寶安

衆議院議員

△陝西 譚 湛 崔雲松 岳淮 王珍 李步雲 吳崇

德 史作鑑 楊逢盛 高杞 李少唐 鐘允諧 羅

仁博 白建勳 李蒞華

△浙江 沈椿年 謝鍾靈 杜棋華 童藩 王行進 黃秉義

玉錫榮 虞翼 何勳業 黃秉鑑 黃羣 章猷猷 杜楊

蔣季哲 美周輔 林卓 林同

△青海 龔慶霖 劉朝望

△阿拉善旗 周維藩

△額爾納旗 劉錫章

△福建 邵繼琛 林棟 劉以芬 李俊 林佑衡 鄭蕪

王大貞 陳美光 黃蔭

△科布多 程克 徐世一

經略使署總參謀長

七月十日命令を以て前綏遠都統潘矩楹を四州廣東湖南江西四省經略使署總參謀長に任命したり。湖南にては吳佩孚、南軍の將趙恒惕と休戰を約し、江西督軍陳光遠病を姑嶺に養ひ、援粵總司令張懷芝漢口に盤桓するの時、總參謀長の任命は主戰派が其後爲し得たる唯一の成績なり。

吉會借款豫備契約

六月十八日調印の「吉會鐵路借款豫備合同」原文左の如し。(本誌九の一三、四二頁參照)

中華民國政府は(以下甲と稱す)中華民國吉林より延吉南境及び圖們江を經過し以て會寧に至るの鐵路を建造するに因り大日本帝國股份會社日本興業銀行を代表する所の大日本帝國股份會社日本興業銀行股份會社臺灣銀行及び朝鮮銀行共三銀行(以下乙と稱す)との間に左列の豫備合同を訂定し以て正式借款合同の準備と爲す。

第一條 甲は速かに即ち本鐵路の建造費及び其他必需の

一切費用を擬定し乙の同意を徵求す。

乙は前項議定の金額に就き甲に代りて同額の中華民國政府五釐金幣公債を發行す。

第二條 本公債の期限は四十年と爲し公債發行の日より起算し第四十一年に還本を開始し分年攤還の方法を用ひて辨理す。

第三條 甲は吉會鐵道正式借款合同の成立を俟ち同時に即ち鐵路の建造に着手し其の速成を期す。

第四條 甲は大日本帝國朝鮮總督府鐵路局と共同にて圖們に鐵橋を建造す而して該建造費の半額を負擔す。

本鐵路と朝鮮鐵路との運輸聯絡に關しては別に協定を行ひ務めて兩鐵路運輸の發達及び聯絡の圓滿を以て宗旨と爲す。

第五條 甲は乙に對し左列の物件を提供し本公債本息付還の擔保と爲す。

現在及び將來の本鐵路所屬の一切の財産及びその收入。

甲は乙の承諾を得るに非ざれば前項の財産或は收入を以て擔保と爲し他人に提供することを得ず。

第六條 本公債の實收額は中華民國四年十二月十七日甲と橫濱正金銀行との間に訂定したる四鄭鐵路借款合同の規定に比照して之を定む但須らく較や甲に有利なるべし。

本公債の發行價格は發行當時の情形に依り別に之を協定す。

第七條 以上各條に未だ規定せざるの所の條項に關しては光緒三十三年十二月十日訂定の津浦鐵路借款合同に準照し甲と乙と協議して之を決定す。

第八條 吉會鐵道正式借款合同は本豫備合同を以て基礎と爲しその成立の日より起し六ヶ月以内に之を訂定す。

第九條 乙は豫備合同成立を俟ち同時に甲に對し日金一千萬元を墊借し十足交款決して回控無し。

第十條 本墊款の利息は年息七釐半と爲す即ち日金一百元に對し毎年日金七圓五十錢を付息す。

第十一條 本墊款は甲發行する所の國庫證券貼現の方法を以て之を交付す。

第十二條 前條國庫證券は六ヶ月毎に換給すること一次とし毎六ヶ月分の息金を以て乙に支付す。

第十三條 甲は吉會鐵路正式借款合同成立の後に於て本公債募得の資金を以て優先して即ち速かに本墊款を付還す。

第十四條 本墊款の交付償還付息及び其他一切の授受は均しく日本東京に於て之を行ふ。

本豫備合同は共に中日文各二分を備へ甲乙互に各一分を執るもし本豫備合同に關し解釋上疑義を發生する時は日文合同を以て準と爲す。

中華民國交通財政總長曹汝霖

日本帝國股份公司日本興業銀行總裁土方久徵代理眞川孝彦。

中華民國七年六月十八日。
大日本帝國大正七年六月十八日。

吉林森林借款

吉林省濛江縣一帶の森林を擔保とする三千萬圓の日支借款、七月二日調印せられたりと信ぜらる。支那紙の報する所によれば此借款は最初吉林督軍孟恩遠と我が某資本家との間に契約成立し、孟より農商部の許可を求め来りしも農商部之に反對し、且つ右森林地帯が奉天省々境に在るため奉天督軍張作霖も之に反對せしより立消へとなりしが、最近中央財政窮乏のため曹財政總長により借款說再燃し、陸宗輿と我資本家との間に交渉纏まりたるなりと。契約内容左の如しと傳ふ。

△契約甲號

- 一 金額三千萬圓
- 二 利率七分五
- 三 償還期限五年
- 四 擔保吉林黑龍江兩省の森林鑛產
- 五 支那は株式會社を組織し兩省の森林鑛產の利源を開拓す。

△契約乙號

- 一 支那が吉黑兩省に伐木採鑛株式會社を設立する場合には此次の借款に應じたる各銀行は資本金總額の半迄投資するを得。
- 二 日支合資規定は兩國委員協議決定すべし但し鴨綠

江探木公司天寶山銀鑛公司の慣例に依る。

- 三 支那政府が期限に至り借款を償還し能はざる場合は右借款は日本關係各銀行の同會社に對する投資額と見做すべし。

- 四 支那政府が株式會社資金募集のため債券を発行する場合日本の該借款關係各銀行はその一部又は全部を代理することを得。

右借款に對して吉林各界人士の反對激烈を極め、七月十日公民大會開かれその餘波林務局長胡宗瀛、省長顧問范厚澤二人の邸を襲撃し、胡は北京に在りて無事なりしも、范は身を以て纒かに遁るゝなどの活劇あり、反對運動今に至り衰へず。擔保となれる森林地帯に民有林少なからざるところこの紛擾の原因なり。

支那電氣會社

交通部及び The Western Electric Co, Incorporated, 並びに The Nippon Electric Co, Ltd, 三者の合資に依り The China Electric Co, Ltd. なるもの設立の件六月二十七日當事者間に調印せられたり。出資割合は支那側百萬圓、ウェスタン會社、日本電氣(三井系)會社各五十萬圓なり。本店を北京に、工場を上海に設け、葉泰綽(交通部次長)重役會長に、周家義(交通部電政司長)何元瀚(電政司總務)助役に、中山龍次(交通部顧問)監督に、Clark H Minor 總司配人に、K.T. Long 副司配人に、G.R. Howatt 會計たるべしと。業務は電話電信諸機械附屬品其他製造販賣なり。

大正七年七月下半

支那の烏港出兵

チエツク、スロワツク軍援助を目的とする聯合國共同出兵の議決するや、支那も亦共同して烏港に出兵すべく、七月十八日徐樹錚は我が林公使を訪問し、青木中將齊藤少將列席の上協議三時間に及びたるが、同日午後の國務會議は北戴河に避暑中の陸外交總長に歸任を促がすことを決議せるのみにて何等決定せず、段總理は従前より熱心なる出兵論者にして、さきに佛國出兵を計畫し内争のためその希望を達する能はざるを遺憾とし居たるが、今回の出兵は支那と利害關係深き西伯利關係の事にもあり、一面國際的地位の向上を圖るべき好機會なりとて熱心參加を主張し、二十三日の國務會議に於て終に參加に決定せりとの報あり。兵數は混成一個旅團にして、南苑駐在の第九師團（師長魏宗瀚、前の模範團にして段派直屬軍隊なり）に對し二十七日夜動員令を下せり。輸送は初め海路に依るべしと噂されしが、此に至り陸路と改められ、滿鐵使用の件につき我國の承諾を求むるに決せりと。越へて八月三日、大總統令を以て海容艦長林建章を將官代理とし、烏港派遣海陸軍を節制せしむる旨發表したり。

出兵參加に對する英國側の意見に曰く、支那の出兵參加は聯合國の一員たる關係上當然なり、但し結局支那は小規模の軍隊を派遣してその體面を保つに了らんと。米國側は

日支軍事協定の存在は、何等支那の烏港出兵を制限するものに非ずと。佛國亦支那の出兵參加を歓迎せり。

廣東國會と法定數

六月十二日を以て開院式を擧げたる廣東の正式國會は、其後過半数を得て開議する地步に達すべく、舊議員に對する南下要求、或は到底南下の見込なき議員を解職し、次點者に來廣を促がす等の手段を執りつゝありしが、岑春煊の南下に隨同して多少の議員南下し、八月三日上海出帆のコレア九にて議員十九名廣東に向ひ、その到着に依りて終に過半数を獲得せり。即ち參議院の到着議員百四十九名にして總員二百七十四名の過半数たる百三十七名を超過すること十一名、衆議院の到着議員三百三十一名にして總員五百九十六名の過半数二百九十八名を超過すること三十三名なり。正式開議の機遠からざるべく、果して南下見込なき議員の解職を實行し、次點者を以て補充するを得ば、大總統選舉の法定數に達するは近き將來に在るべし、此の如きは南方派の大いなる武器なりといはざる可からず。

龍濟光軍殘部の降伏

龍濟光が北方に於て振武新軍の編成に努力し、漸く二千七百名を驅り集め得たる際、廣東省雷州に殘留せるその部下約八百名は、七月中旬南軍に對し降伏を申出で、二十四日雷州城開城、龍軍全部武裝を解除せり。龍が今後の行動如何、彼が振武軍を擁して果して海南島なる古巢に歸り行

くべきか、それとも或は果して其儘北方に居据ることなかるべきか注目し値す。

張作霖天津に入る―又天津會議

去る三月段祺瑞の復任に先ち、徐樹錚の奔走に依りて段祺瑞との新關係を生じ、段復任も京奉、津浦各線の要地に部下の軍隊を配置し、湖南にも大軍を派して大局を動かすの勢力を把握せる奉天督軍張作霖が、七月二十七日突如奉天を發し天津に入れるは注目すべき出來事に屬す。加ふるに援粵總司令張懷芝、安徽督軍倪嗣冲亦前後して入津し、龍濟光、田中玉、徐樹錚等之に加はりて密議せるをや。天津會議の噂は又しても世人の耳朵を打ち、或は復辟計畫説も起りたれど、其後の經過を見れば、張は徐樹錚に動かされ、その有する大なる發言權を以て。

一、徐世昌の大總統

二、段祺瑞の副總統

を主張せりと信すべき理由あり。又た、

三、曹錕に對する南下勸告

即ち討南軍事の激勵が會議の大眼目たりしは勿論なり。之に對し曹が四省經略使の權限組織に關し次の如き過大なる要求を提出し、その要求容れられたる曉に於て辛く出征を肯んすべき意嚮を示せるは、曹並びに背後の直隸系の苦肉策ならん。

四省經略使は四川廣東湖南江西の軍務及び軍政を總轄し總秘書廳總政務廳總軍務廳總需廳總副官廳總電報廳

檢察處探偵處等の各機關（每月經費十二萬九千圓）を設け直屬軍隊として混成旅團を新募し（每年經費七十五萬圓）憲兵巡捕隊（每年經費十五萬圓）を置く。張入津の今一つの目的は奉天軍を京畿に配置して新國會を監視せんとするに在り。彼は當分段派と事を共にすべく輕々復辟を云ふことなかるべし。

斷續せる妥協運動

馮國璋、梁士詒二人を中心とせる妥協の運動は、今なほ斷續して行はれつゝあり。梁士詒の南下はすでに述べたり其後世人に洩れたる運動としては將軍府參軍林紹妻が馮の命を奉じ、交通系の健將關冕鈞が梁の旨を承け、共に陸榮廷を廣西に訪へるの一事なり。而して在湖南の吳佩孚は六日（七月）附陸榮廷の梁士詒朱啓鈴周自齊宛電報を發見抑留せりとて之を轉電し來れり。その文に曰く

華密、林關二君到り大教を奉ず、時局解決を以て榮廷に諮及せらる、捧誦の餘欽佩己む無し。中間列する所の八條、一に曰く廣東現有軍隊排配の法、二に曰く去龍三に曰く別に莫を別事に任ず、四に曰く兩廣巡閱、五に曰く粵督は廷の同意を取る、六に曰く廣東歲支の軍餉若干數かざれば全く中央より擔任す、七に曰く廣西督軍廷より保薦す、八に曰く雲貴方面の辦法及び國會召集の法と。茲に謹んで各款中の認むべく否認すべきを以て逐答下の如し。

榮廷衰病の身決して敢て兩廣巡閱使に任せず、粵督亦

敢へて同意權を須ふるなく中央より之を主とせよ。惟だ龍は則ち必らず當さに去るべく桂（廣）西督軍は仍ほ譚浩明を以て之に任すべし。莫の別任は竹君伯恆返京粵を過ぎる時廷の意見を述べその許可を得て再び決定を爲すべし、然れども（思ふに莫は）斷じて粵に繫戀せざるべき也。川滇の事は敢へて與聞せず、湘省の護法軍隊は湘省長譚延闓より酌編して湘の國軍と爲し、在粵の李（烈鈞）方（聲濤）領する所の滇軍亦よろしく國軍に預編し以て誤會を免かるべし。桂軍問題は別に辦法を考ふべく現任欽廉鎮守使沈鴻英、高雷鎮守使林虎、潮梅鎮守使劉志陸は各隊伍を率ゐて留駐せしめ、其他の桂軍の湖南廣東に在るものは全く回桂を行はしめ、暫編して國軍と爲し不足の軍餉は中央より擔負を請ひ、大局稍定まるを俟ちて逐漸裁減以て定額に符せん。他日桂或は歲餉足らずば中央より指撥し、械缺乏あらば亦並びに中央より核定せられんことを。國會の召集まさに何の法を用ふべきかは、中央より各省に分飭し、手數を酌定して決を取るべく、榮廷斷じて阻撓するなき也。榮廷は一庸人耳、愛國の心諸公と同じ、たゞ林下に退歸してより以還、即ち國事を言ふことを欲せず、然れどもさきには李陳諸督と亦常に國人の地位に列す、内争を息め外侮を禦ぐに非ざるは無きのみ。即ち今日の兩廣の事に任するを願はざるは、此假期を趁ひて休養を事とし、以て時機を俟たんとするなり、倘し或は外人の侵略甚しければ則ち我が病軀を起し芝老（段祺瑞）を佐けて強隣を禦ぐべきや疑なし。願く

ば此意を以て芝老に告げられんことを。此より前、兩たび府院に上るの電、又覆せらるゝを得ず、竊かに以爲へらく中央廷に深惡庸絶せるかと、遂に復た言ふ所あらず。今林闓二君の傳述に據るに中央尙ほ榮廷を以てともに言ふべき者と爲す、特に復し詳かに之を言ふ耳、その仔細の狀況は林闓の旋京を俟ちて再托轉達し並びに付するに書を以てす、陸榮廷叩魚（六日）

此電報を發見せる吳佩孚は直隸系の健將、又此新聞原稿を配附せるは研究會系の領袖藍公武經營の通信社なるより見れば、電報の眞偽は兎に角、馮梁及研究會系一派妥協運動者の希望條件たるに幾し。

米國の財團復歸

米國財團の四國借款團復歸に關し、石井駐米大使を通じて八月二日我政府に申込ありたる旨、外務省に入電あり。國際華聖頓七月二十九日發電によれば、米國々務卿代理は次の如き陳述をなしたりと。

支那は米國の行爲に倣ひて一般的對獨宣戰をなしたり故に米國政府は支那が中歐列強に對する戰爭に更に特殊の援助を與へんが爲めに國力を充實せしめんとするの企圖に對して特別の利害關係あるを感じたり、今日まで米國は歐洲戰に米國の武力を有効に傾注せんとするの準備に忙はしくして支那をしてその希望を實現せしめんとする特殊の建設手段を執ること能はざりき、然れども最近米國政府は支那領土が擾亂の現場に接近せるに鑑み、支

那人のために完全なる手段を執るべく特殊の努力を講せざる可からざるを認めたり、その結果從來對支借款に關係を有し且つ東洋に關して經驗を有する若干の米國銀行家を華盛頓に召集し此問題の關係者たらんことを求めたり、銀行家は直ちに之に應召し銀行家と左の諸條件を提出したる國務省との間に協調成立せり。

一、一個或はそれ以上の借款に應すべき米國銀行家の一團を組織し米國內各地銀行家の代表者を之に参加せしむる事。

二、銀行家側は政府と相提携し且つ國務省の定めたる政策を遵奉する事を保證する事。

三、銀行團を組織する銀行名を國務省に提出してその免許を得る事。

四、借款は如何なるものもその期限及び條件と國務省に提出してその許可を得る事。

五、借款にして米國々民と相手外國との間の自由交際を助長促進せんがため締結せられ且つ彼我兩國双方に有利なるものなりとして米國政府及び相手外國政府よりその期限及條件に關して承認を得ば米國政府は進んであらゆる可能的手段を執りて之を援助し且つ迅速にして有力なる提示をなし而も外國領土内に於て米國人が誠意を以て行ひたる公正なる諸契約に對してはあらゆる方法を講じてその遂行を補助すべき事を誓約する事。

米國銀行團は日英佛三個國銀行家と相提携せんことを希望す。目下米國政府と、借款成立の際は結局之と共同

してその銀行家が同様にその借款に加入するに至るべきを希望せる國々の政府との間に交渉進行中なり。尙ほ支那が北部及び西部國境に於て遭遇しつゝある戰爭の如き狀態に鑑み如上の諸政府全部をして相共同せしむべき新激勵を生じたり。何となれば戰爭は右諸國及びその國民間に共通の利益關係を生ぜしめ且つ曾つて存在したる障壁は打破せられて諸國民間の交際は更に容易となりしが故なり。若し此計畫にして成功せばソハ一の代理團として役を爲すべく此代理團を通じてその利益の結合と海外に於ける吾人相互の利益の必然的膨脹とが適當となり且つ完全に開陳せらるゝに至らん事は望ましき事なり。

吉林森林借款正式調印

八月二日日本銀行團を代表せる中華滙業銀行代表陸宗輿と、農商總長田文烈との間に吉林、黑龍江兩省森林金鑛借款の正式調印を了せり。金額三千萬圓にして條件等は前號に掲載せし豫備契約に同じ。

駐支法王廳公使

羅馬法王は今回比律賓駐劄特使ベトレリー僧正を支那公使に兼任せしめ、支那は和蘭公使戴陳霖をして駐教廷公使を兼任せしめたり。

時報



政治

●曹錕の要求條件

曹錕は八月一日書簡にて政府に對し四省經略使權限及び組織に就き、詳細の條件を提出し中央若し許容せば南下すべしと申來れり、右條件の内容は一、權限—四省の軍務及び軍事上に關する政務を統轄する事、二、四省經略使署の經常費—毎月十二萬九千元を支給する事、三、混成二旅を増加し之に要する費用毎年七十九萬三千元を支給する事、四、憲兵隊及び警察隊設置經費—毎年三十七萬元を支給する事、五、以上の各機關設置費若干元の支給等なり。(時報)

●吳佩孚の停戰意見

七月二十日吳佩孚より中央に

對し戰鬪繼續不可能の五理由を左の如く述べ來れり。(北京日報)

- 一、北軍の將校は一二を除くの外戰意あるもの無し
- 二、北軍は概括的兵力多きも節制不統一の爲め南軍に比し遜色あり
- 三、軍紀嚴肅ならず且つ人民の北軍に對する反感甚だし
- 四、炎暑酷烈北軍之に堪えず
- 五、北軍は地理に不明なり

●曹錕の南下困難

吳佩孚は八月一日曹錕に打電して絶對に再戰すること能はずと言ひ、且つ曹を勸めて天津を動く勿れ、若再び南下せば必ず大失敗に至らんと注意せしかば、曹は愈々再戰せざることに決心し、一方中央に向かひ病軀再征に堪へず、前敵の軍事は乃ち張懷芝より暫ら

く統率せんことを請ふと打電せり、茲に於て曹の南下は今暫らくは不可能なりと見るを得べし。(順天時報)

●天津會議諮問案と王占元 七月三十日張作霖は第一次天津會議の諮問案たる所の

一、大、副總統は何人を推舉すべきや

二、中央西南續征は期限を豫定すべし

三、共同出兵の妥善辦法

等に就き、王占元の意見を尋ね來れるに對し、王は第三案に對しては相當の意見を提出せしも、第一、第二案は衆議院により決定せられたしと返電せり。(時事新報)

●各督軍聯名返電 江蘇、江西、湖南、湖北の各督軍聯名にて天津會議よりの諮詢に對し左の如き返電を寄せ來れり。(北京時報)

一、對南策としては和戰何れの主張も無し、吾人は我管轄内を侵す者は討伐するも、然らざる者は討伐を爲さず。

二、總統、副總統問題は國會の決定に委す。

三、出兵に關しては中央政府の決定方針を承認す。

蓋し第一は和戰を明言せざるも消極的に南方討伐に反對を表する者なり云々。

●陳炯明の戰況報告 陳炯明の報告に據れば南軍は七月三十日より大埔方面の北軍に對する攻撃を開始し、激戰數時間の後、同地を恢復し、三十一日及び八月一日の兩日追撃を續行して敵を藍田に驅逐せり、敵の兵力四箇聯隊を下らず、二日以来梅嶺方面に於ても南軍攻撃を開始し激

戰進行中との報あり。

●八月三日の閣議 八月三日政府は例に依つて閣議を開きたるが、協議事項は大約次の如くなりし由。(北京日報)

(一) 内務部の提出に係る敵國人驅逐案、但し本案は内務總長缺席の爲延期せられたり。

(二) 對亞細亞公司賠償問題、本案は事安徽湖北境上に關する發生案にして猶慎重に協議すべきこととせり。

(三) 國防問題、本案は最近の形勢を前日に較ぶれば既に變化ありとて、參陸處は新に五種の計畫を提出せり但し閣議にては暫らく保留する事とし、僅に東三省の軍隊に令じて國境方面に出動せしむる事に決定せり、日支共同出兵案は唯必要の際日支軍事協定の趣意に照して日本と一致の行動を執るべしと言ふ。

●出兵と參戰督辦處 參戰督辦處の出兵手續と言ふを聞くに(一)糧食は吉林、黑龍江二省より準備すること、(二)軍事費は暫らく一千萬元と定む、(三)軍器、彈藥は暫らく中央より支給す、(四)出兵數は先發として一千名を出し以後五百名づゝ増遣すること、但し浦鹽に差遣する軍隊は(一)各國の答覆文未だ到着せず、(二)借款の交渉終らざるとにより、暫らく出發期日を延ばすべしと言ふ。(神州日報)

經濟

●開埠委員會 支那の商埠開設問題は、前きに閣議の

決定を経、先づ張家口等の六ヶ處を開放することゝなれるが、關係頗る大にして其施行細則は最も慎重に研究するの要有るを以て、外交内務財政農商の四部より各委員を出し聯合して一の開埠委員會を組織し、不取敢細則の討議に従事する筈にて、農商部よりは既に參事秦瑞珍を派して該會の委員とせり。(時報)

●七年公債返還方法 民國七年短期公債の第一回返債方法は大要左の如し。(時事新報)

一、各機關之を經理し中國交通兩銀行本店は返債總機關を經理し各省中國交通兩銀行支店は返債分機關を經理す。

二、今回の民國七年短期公債第一回返債當籤番號は別に印刷せる番號表を各返債機關に交付して購買者の隨意便覽に供ふる外北京内外の各新聞紙に二週間廣告して一般に知らしむ。

三、民國七年短期公債票は萬元千元百元十元に論無く番號の末二位が番號票に載せたる當籤番號に同じければ今回の當籤債券とす。

四、今回の民國七年短期公債當籤債券は總べて通用元銀を以て各返債機關より支拂ふ。

五、今回の民國七年短期公債第一回當籤債券に附帶の第二號以下の利息票九枚を返債を受くる時債券に併せて返債機關に返還すべし前項の附帶利息票にして不足せる時は返債機關に於て取調べ其不足の利息票に對する金額を公債返還額中より差引く。

六、今回の民國七年短期公債第一回返債は財政部に於て表式を制定し返債總機關を経て各分機關に送り毎月の返債高及回收せる債券の種類並に枚數を詳細に二枚記載し回收せる債券及附帶の利息票を添へ毎月下旬總機關に送り總機關は其一枚を控に残し他の一枚に右の債券及利息票を添へ別に總表一枚を作り翌月上旬公債局に彙送すべし。

七、今回の民國七年短期公債第一回當籤債券は三年内に限り債券所持者より返債機關に向て返債を受くべし之を過ぐれば返債せず。

●蒙古の銀行計畫 蒙古親王搭旺布里甲拉は、蒙古一帯に於ける經濟狀態を發展せしむるの起見にて、國務院に向て蒙古の繁盛なる地方に殖邊銀行を設立し、蒙古方面の投資に便すると共に、該地方農工商鑛各業の開發に資せんことを申請せるが、國務院にては財政農商兩部に移謀し研究中なり。(時報)

實業

●密雲の炭礦認可 疊に支那商姚南亭等の農商部に申請せる、京兆密漁村鎮地方の炭鑛は農商部派遣技師の測量を完了し、探堀の認可を得たるが、姚等は北京西城根に密雲漁村鎮煤鑛有限公司の創立事務所を設立し、目下進行を圖り居れり。

●鑛山熱旺盛 近來支那官民間の鑛山熱は益々旺盛に

向へるが、七月一日より二十日迄に農商部に於て探掘認可を與へたるもの、金鑛一、銀鑛一、鉛鑛三、鐵鑛四、苦土鑛一、錳鑛三、炭鑛九合計二十二ヶ處、鑛區一萬一千二百三十六畝の多き上にれりと。(順天時報)

●夏口裕鐵鑛 龍關鐵鑛附近の夏口裕に於て新鐵鑛を發見せるが、鑛脈豊富なるより陸宗輿督辦數日前農商部に備案の准許及顧問を測量に派遣せんとを請へり。(神洲日報)

●廣東森林拂下規則 廣東省英德翁源縣下の滑水山大森林は愈々左の規定に依り拂下ぐることを爲れり。(時事新報)

一、個人若くは公司に於て森林全部の拂下げを受けんと欲せば、銀百萬元以上納附す可し、官憲は事業の保護に任じ、收益は凡て請負人に歸す。

一、十萬元以上の保證金を納入し、一定の期限を定め木材を伐採せんとするものは、其實却金の五割を森林局に納附し、五割を自己の收益と爲す。

右の拂下げに關する一切の措置は北江滑水山森林局に於て之を取扱ふ由なるが、果して世評の通り有利なる大森林なるや否や、實地の踏査を必要とすと。

交通

●交通事業成績 昨年度支那鐵道及郵便電報の收支概數を、一昨年度に比較するに、收支總計に於て七百三十

餘萬元を増し、支出も亦増加せるも、差引純收入に於て一昨年度より七十五萬餘元の増進を告げ、支那交通事業の發達を示しつつあり。(北京日報)

●京綏線と運賃 京綏鐵路は毎年夏季に入れば貨物の輸送閑散となる例なるが、本夏は出貨誘致の策として七月二十二日より八月末迄貨車借切の雜穀運賃を一割五分引とし、又石炭運賃の特定せるものを除き、其他は二千一噸以上四千噸迄を普通運賃より一割、六千噸迄を二割、八千噸迄は三割、一萬噸迄を四割、一萬噸以上を五割引すべく各驛に命令を發せり。(順天時報)

●輕便鐵道敷設計畫 交通部にては國防上重要なりとの理由の下に、蒙古に通ずる重要地點に輕便鐵道を敷設せん計畫中なるが、其一線は宣化より歸化に至るもの、其二線は張家口より多倫に達するもの、其三線は熱河より赤峰に通ずるものにて、已に辦法を訂したれば、國務會議の決議を俟ち、直に計畫を進行すべしと、以上三線にして實現せば蒙古との通商上にも多大の便益を與ふべし。(北京日報)

●張庫自動車問題 張家口庫倫の自動車輸送は、支那人間の經營に係る大成汽車公司が正式に認可を経て營業しつつあるの外、無鑑札にて同營業を爲し居たる米商元和洋行は、曩に支那政府と米國公使と交渉の結果營業を停止する代り、察哈爾都統の手に押收せる自動車を該洋行に返却し、解決を告げたる筈なるに、元和洋行は今仍は無斷にて庫張間の自動車營業を爲しつつある由にて、大成公司より之が交渉を再び外交部に申請せり。(時事新報)

彙報

自七月十六日至七月卅一日

對露關係

▲極東政府の政綱 (哈爾濱特電十五日發) ホルワット將軍一派の臨時政府の政綱左の如し

- (一) 過激派より發したる總ての命令廢止
- (二) 司法行政廳の再興
- (三) 市民に對する法律の平等
- (四) 一般選舉權の附與
- (五) 聯合國連に中立國との財政的交渉の復活
- (六) 政治に干與せざる規律ある軍隊の再興
- (七) 財産權の復活
- (八) 立法會議に於ける地方分割及統一問題の決定
- (九) 工業及交通の復活
- (十) 國民教育の振興
- (十一) 信教の自由
- (十二) 露國統一の爲にする地方自治權の承認

▲ホ政府を認めず (浦鹽特電十一日發廷着) 西比利亞政府はホルワット將軍に下の如き電報を發せり曰く貴下は自ら執政者たることを宣言すれども西比利亞に於て合法的官憲は自治西比利亞政府あるのみ西比利亞政府は貴下に向ひ速かに不法の全權を撤回せんことを勸告す若し然らずして兵力に依りて野心を遂げんとする時は今後の責任は貴下に在りと知る可し。(十六日時事)

▲ホルワット政府と租借地 (十二日哈爾濱特派員發) 最近哈爾濱支那官憲と北京政府はホルワット政府に關する信書の往復頻繁を極め居れり支那は同政府に對し東清租借地に他國政府若くは其一部の存在するは支那の威信に關するものと爲し内外國の承認せざる新政府の命令行使を喜ばざる事從來支那政府が承認を與へざるレニン政府に對すと同一なり従つてホルワット政府委員も該租借地に於ては一個の個人たるの資格を以て應み該政府の名に依り命令發布を許さず遽にホルワットは臨時政府の執政官を以て任じ支那

側も亦斯く信ぜしも今は滿洲一般に承認されし露西亞の官憲なく東清鐵道會社は一經濟的機關なりと爲しつゝありと露紙は報ぜり。(十七日、朝日)

▲ホルワットの軍隊 (十三日浦鹽特派員發) ホルワットの軍隊はオロフ隊八百名アコラキン支隊千二百名にして共に支那人を兵とし露西亞將校之を指揮するものなりといふ。(十七日、朝日)

▲西伯利問題協議 (北京特電十六日發) 馮總統は十五日午前露國公使劉鏡人氏黑龍江督軍畢桂芳氏東清鐵道重役顏世清氏を招き對西伯利問題に就き協議を凝し其結果劉鏡人氏は露國公使館を訪問せり馮總統は劉鏡人氏に西伯利の現勢觀察を命じたるも劉氏は之を辭退し恰克圖副都護使李垣氏を適任者として推薦せり。(十八日、日)

▲支那ホ政府を認めず (哈爾濱特電十二日發廷着) 支那官憲はホルワット政府に對し次の意見を主張すと曰く

東清鐵道管轄内に外國政府又は其の一部の存在するは支那の主權を侵害するものにて支那はホ政府の如何なる命令をも認めず且つ右管内の露國民にホ政府を認めしむる能はざらしむ要するに支那はレニン政府同様ホ政府を認めず目下滿洲には露國の政權を認むるものなし唯支那は經濟上の利益を有する東清鐵道あるを思ふのみなりと。(十八日、時事)

▲支那官憲セ軍供給妨害 (十六日浦鹽特派員發) 滿洲里日本在留民は支那官憲がセミヨノフに對する軍需品供給の途を妨ぐるに對し然るべき處置を取られたき旨東京外務省に請願せりと傳へらる。(十八日、朝日)

▲支那ホ政府協力 (哈爾濱特電十六日發) 十三日チエック軍司令官ヂードリヒはホルワット將軍を特別列車に訪ひ新政府樹立挨拶の爲めに派遣せられし旨を告げて好意を表し且つ特別命令に接せざる間は同軍は該政府と共に協力すべきを表白せり。(十八日、時事)

▲チ軍勝利を博す (哈爾濱特電十六日發) ムチナヤ驛附近にて過激派とチエック軍との衝突あり過激派はチエルニゴフ河に敗走せしが夜に入りてチエック軍は同地をも占領し莫大の戰利品を獲たり。(十七日、時事)

▲出兵準備質問 (十七日北京特派員發) 林公使は本國政府の訓令に依り十六日支那政府に對し出兵すべき兵數軍器彈藥の準備に關する質問書を出せるを以て外交部は之を國務院へ轉送せりと。(十九日、朝日)

▲米佛出兵概數

(北京特電十八日發) 米國は天津守備兵より三百名を捕虜に急派すべく馬尼拉守備隊に對し同數の補助兵を天津に送るべき旨急電を發せり佛國出兵は二箇中隊又は一箇大隊の豫定なりと。(十九日、日日)

▲西伯利出兵と滿鐵

(十七日大連特派員發) 西伯利出兵決定し近く軍隊の輸送開始さるべきに就き滿鐵にては之に處する軍事輸送計畫を豫め決定し置くの必要あり委員を任命し本月廿五日第一回委員會を開議する答。(十九日、朝日)

▲西伯利政府宣言

(十九日浦鹽特派員發) 浦鹽西伯利政府は西伯利住民に對し左の宣言を發表せり

臨時西伯利政府は本年一月トムスク市に開催せられたる西伯利州議會の選立に係り州議會は全然西伯利を網羅せる各市會ゼムストウオ購買組合農民勞動者組合代表者の選立に依りたる者なり而して本政府は本年六月廿九日△全西伯利統治權 掌握の旨を宣言せり斯くて臨時西伯利政府の主權は全西伯利政府即ちオムスク以西イルクーツク迄の過激派掃蕩地帯に於て完全に確立せられ同地方の統治機關として西部西伯利代官府其衝に當れり今や西伯利住民は過激派及び獨逸の厄より免れ一様に翕然として對獨宣戰復興の爲優勢なる軍隊を組織し西部西伯利政府に呼應せんとする意思を示し一方極東に於ては極東に西伯利内地との連絡を保ち過激派と獨逸の膝下に壓迫苦悶せる露國救済の爲に自由軍募集に着手し傍ら國民を暴虐なる壓制より自由にし眞實國民の權利を保障し自由安寧の生活に導かんと努力しつゝある時に當り何等の階級や彼の滿州里の獨裁官たるホルワットは全露臨時主權者と主張し獨裁官の名を以て人民の權利を剝奪せんと試む彼れ自稱獨裁官は一億七千萬の國民の意思に反し勝手氣儘に主權者の地位に上りたり露國民はさらでに幾世紀の長々に互り獨裁君主の暴政に虐げられ幾多の犧牲者は獨裁官の暴政と

△過激派の壓制に倒れたるもの殆ど其數萬を超え其血は河と流るべし然るに今や新なる獨裁者出現し國民を其膝下に服従せしめんとするなり臨時西伯利政府は彼のホルワットの主權者と自稱し政權剝奪の舉措に對し儼然其國民の權利を無視せる國事犯罪なることを茲に宣言す臨時西伯利政府は直接ホルワット政府に對し此種無智無義なる舉措を廢すべきを宣告し萬一是が

爲に新事態を發生し内争を來す如き場合あれば其責任は彼にあることを指摘す紛糾繼續せる此時局に對し西伯利政府を廣く國民に宣言す國民は宜しく地方自治機關の下に共同一致し國民權利の保護に自ら任ずべし西伯利國民は國民の義務に對する自覺と其判斷に俟ちて必ずやホルワットの存在行爲に對し峻烈なる評價を下し州議會の選立に係る西伯利政府に全然信頼し自稱獨裁者の階級なる行動に對し國民自身の權利と共和の擁護に當るべきを信じて疑はざるなり (二十日、朝日)

▲黑龍督軍國境派兵

(十八日、北京特派員發) 黑龍江督軍鮑貴卿はホルワットの臨時政府が支那國境内に存在するより既に兵を派して干渉せる旨報じ來れりと(二十日、朝日)

▲支那軍浦鹽着

(十八日浦鹽特派員發) 十七日夜數名の參謀將校と共に支那軍隊客車二臺に分乘し浦鹽に到着せり。(二十日、朝日)

▲米佛軍編成

(北京特電十八日發) 浦鹽出兵の佛國兵は北京に於て編成中にて佛國兵二百名より成る一個中隊安南兵二百名より成る一個中隊及機關銃隊五十名にて天津より募集兵陸續來京す米國は約一個大隊を出兵すべく天津にて編成中にて出發期日は秘密に付せり英國は香港より直接出兵すべく京津にては準備をなさず。(二十日、日日)

▲佛兵先破隊

(北京特電十八日發) 佛國將校一名下士卒四十名は浦鹽派遣隊の先發隊として十八日午後四時半北京發天津に向へり。(廿日、日日)

▲各國出兵軍隊別

(哈爾濱特電十八日發) 西比利亞に對する聯合國の共同出兵は佛國はチェック軍と塞爾維軍に之を提議し英國は陸戰隊を、米國は特派隊を、日本は正規軍隊を派す可く支那も同様參加す可しと市場頗る緊張す。(二十一日、時事)

▲吉林兵浦鹽に來る

(浦鹽特電十八日發) 吉林の支那兵約二百名は當地に來りしが右は過激派が馬賊を徵集せりとの報に接して來れりとのことなるも其目的に就き態度曖昧なるが明日哈爾濱に引返すべしと。(二十一日、日日)

▲四箇師團出兵か

(北京特電十九日發) 日本の西比利亞出兵の實際問題として論議さるゝを見て支那政府も日支共同出兵協定に基き種々考慮の結果現に徐樹錚氏が南方討伐の爲め新兵募集の要務を帶び上京中なるを幸と

し彼と意見を交換せる結果取敢ず奉天督軍張作霖氏に宛「貴下は此頃中央政府に對し西比利亞へ四箇師團出兵の希望を述べ來れり政府は遠からず西比利亞出兵の答なるが貴下は之が爲め能く四箇師團の兵を徵集し得るや否や云々」と問合せの電報を發せり。(二十一日、時事)

▲過激派軍の暴行 (二十一日長春特派員發) 滿州里より蒙古各地を経て歸任せる南滿鐵道支配人の實見談に曰く小庫倫附近には過激派軍の爲に追はれたる露國人八百餘名避難し居れるが彼等は何れも過激派兵に家財家畜を殆ど掠奪され婦女は凌辱せられ父母妻子は殺され繼に身を以て免れたるも過激派兵等は尙慍然と蒙古領に侵入して有らゆる暴行を逞うし彼等は買ふに物なく宿るに家なく進退谷り漸く露命を繋ぎ歸國せんとするも叶はず異境にありて唯死を待つ外なく運を天に任し居れりと。(二十二日、朝日)

▲セ軍に武器を送る (長春特電二十日發) 北京英國公使よりセメコーノフに向け送れる武器彈藥五車は昨日當地經由北行せり英國人二名之に附添へり。(二十二日、時事)

▲支兵庫倫派遣 (北京特電廿日發) 熱河都統姜桂題氏は政府に命により步兵騎兵各一個聯隊を庫倫に派遣することに決し先發隊は十七日遼江に向け出發せり。(二十二日、日日)

▲獨逸俘虜軍迫撃 (哈爾濱特電廿一日發) チェツク軍に擊破されたる獨逸俘虜軍の一部一萬二千人はセミヨノフ軍を擊滅すべくチタ方面より大迂迴を爲し滿州里に迫りたる爲セミヨノフ軍は國境に向つて退却し敵軍は滿州里附近に落下し今や滿州里は累卵の危きに陥り引揚問題起れり支那軍は附近より援兵を集め獨逸軍を防がんとし居れり。(二十三日、日日)

▲ホルワット引揚移牒 (二十一日浦鹽特派員發) 浦鹽領事團はホルワット軍の露領内に進軍し來るに依り一般の秩序を棄し又チェツク軍に對し反感を生ぜしめ其結果憂ふべきものある爲ホルワットをして引揚げしむべき旨北京外交團に移牒せり。(二十三日、朝日)

▲チエクト意思疏通 (北京特電廿一日發) 當地露國公使館は左の如く發表せり曰くチエツク軍司令官ザードリック將軍は七月十八日グロドコフに於てホルワット將軍と會見しカルムイコフは砲兵及び騎兵を率ゐてチエツク軍應援に向ふこととなり又翌十九日ホルワットは浦鹽チエツク委員及び

領事團代表者と會見滿洲より食料品の輸出を爲す可き旨協定成り尙ほ其他代金支拂方法も協定済となりたり之が爲め從來になき意思の疏通なりたりと(二十三日、朝日)

▲ホルワット政府異動 (廿一日哈爾濱特派員發) ホルワット政府の内務兼軍務大臣ブルグ將軍は辭職しタスキン(農務兼文部大臣)内相を兼務し住所不定のゲルハレフ大佐は法務に、ウリヤニスキツ内閣官房長に任ぜらる。(二十三日、朝日)

▲東清長官任命さる (哈爾濱特電二十一日發) プレシコフ大將はホルワット將軍不在の故を以て東清鐵道沿線長官に任命せられたり、(二十三日、日日)

▲伊國も出兵希望 (北京特電二十二日發) 日米佛等協同國が浦鹽に出兵せんとするを見て伊太利も亦同一行動に出て度き希望あり差し詰め目下北京の伊太利に兵艦滯在中の境地に國籍を有する伊太利人をして共同防敵に参加せしめんとしつゝあり然るに右伊太利人は曾て境地利軍に参加して露國の捕虜となり其後北京に護送され來りしものなるを以て當地露國公使館は勿論一般露國人は彼等に對し好感を與へず伊太利人の出兵に就ては寧ろ反對の意嚮を有し居れり。(二十四日、時事)

▲出兵準備を始む (北京特電二十二日發) 浦鹽出兵に就き日米間の意志疏通し英佛の極東に於ける守備隊を出しチェツク軍應援の意疎にて正に共同防敵行動を取らんとするを見て支那政府は非公式に協商國の意嚮を問ひたる上、愈々支那政府の自發的行動として浦鹽へ約一箇大隊の兵を輸送することに決定し參戰準備處は段國務總理監督の下に出兵準備に取りかゝれり。(二十四日、時事)

▲支那國境防備 (北京特電廿二日發) 北京政府は西伯利方面の狀態に鑑み吉林督軍孟恩遠氏に對し新舊の混成第五旅團を滿洲里方面に派遣し國境防備に援助せよと命じ奉天督軍張作霖氏も東蒙古より陳錫五氏の一箇旅團を黑龍江省に赴援せしむる答なるが鮑黑龍督軍は該旅團を索倫山に駐屯せしめ露軍の南進を防がしむべき事を提議せりと。(二十四日、日々)

▲セ軍危殆に瀕す (北京特電二十三日發) マツエスカフ附近に於て過激派軍隊と對峙せしセミヨノフ軍は十六日以来益々不利に陥り十八日夜よ

り露支國境に向け退却し始めたるが其左翼は二十日以来過激派軍隊の爲めに包圍せられんとする形勢に立ち至り滿洲里は危險に陥れり。(二十四日、時事)

▲滿洲里邦人避難 (長春特電二十二日發) 滿洲里の邦人婦女千三百三十名二十一日海拉爾に避難せり。(二十四日、時事)

▲武裝俘虜の侵入 (北京特電廿三日發) 新疆軍の報告によれば武裝せる俄國俘虜中央亞細亞方面より侵入せるを發見し支那官憲は直に武裝解除を命じ抑留中なりと。(二十四日、日誌)

▲總統の出兵意見 (北京特電廿三日發) 最近露國より引揚の途中來京せる白耳義公使レストリー氏は廿二日馮總統に謁見し露國本國及西伯利の形勢を陳述したるが馮總統は支那も聯合國と一致の態度を取る以上出兵せざるべからず既に本總統は段總理と一致して積極的進行を主張し居れり唯内亂中にて實行稍遲滯するを免れざるも根本的方針は既に決定して断じて改變せずと答へたり。(二十五日、日誌)

▲浦鹽出兵一千名 (二十二日北京特派員發) 二十二日軍事外交の聯合會議あり支那は浦鹽に一千名を出兵することとなり各國軍隊と一致の行動を執るに決定せるが如く而して出兵の件は既に各國の同意を得たりと。(二十五日、朝日)

▲西伯利政府開員 (浦鹽特電廿三日發) 西伯利政府首相デルベル氏は外務事務に全力を注ぐ必要上辭任して外務專務となり内務次官ラウロフ氏に内閣議長職を譲れり其他の開員三名も内閣を去り近く召集の西伯利議會の事務に當る事となり。

◎西伯利政府の開員左の如し。

首相代理ラウロフ ▲外務デルベル ▲軍相クロウエツキ ▲給養大臣センラフスキ ▲藏相ツルトニヨフ ▲會計検査院長シエルナコフ ▲内相ノウオシオロフ ▲異種民大臣ネオメトリョフ。

因にラウロフ氏は無所屬なるが其他は悉く社會革命黨なり。(廿四日某所著電二十五日、日誌)

▲セ軍除隊の邦人 (二十三日哈爾濱特派員發) セミヨノフ軍は南滿及朝鮮地方に於て募兵せし數十名の邦人中卑怯の振舞ありて全軍の士氣を沮喪せしめ又軍規紊亂の行爲ありたるものとして除隊されし三四十名は滿洲里に於て内外人間に暴行を恣にし非常の迷惑を被らしめ日本人の面目を損する事少からず該地方の日本人は之が取締に困じつゝあり哈爾濱より我が警官四名該地に急行せり義勇兵の歸來する者多し。(二十五日、朝日)

▲出兵に就き警告 (浦鹽特電二十五日發) 西比利亞政府は更に同盟國に對し警告を發し同盟國が協同出兵に關し西比利亞政府以外のものと協約を結ぶ時は國民全體の反感を招く可し若し同盟國が一般的民主的平和の爲めに戰ふ外に他に目的なしとせば宜しく西比利亞政府と交渉せざる可からずと云へり又各國駐劄の露國使臣に向ひ各國政府に對し露國主權不可侵を確認する旨明を要求す可しとの通知を發せり。(二十六日、時事)

▲支那出兵通告 (北京特電廿四日發至急報) 廿三日段總理代表は日本公使館を訪問し浦鹽に約一千の出兵をなす事に決せる旨口頭にて通告したり。(二十六日、日誌)

▲烏蘇里鐵道開通 (二十三日大連特派員發) 豫て不通なりしグロデコフ、ボグラニチナヤ間の烏蘇里鐵道は二十二日より開通せり一週一同滿洲里浦鹽兩地間を發着する直通混合列車の運轉を開始する答但し哈爾濱、ボグラニチナヤ間の東清鐵道は從前より一日二回の郵便列車及び一同の混合列車を運轉し居れり尙ボグラニチナヤの支那稅關は閉鎖中なりしも混合列車の直通開始と共に解禁せられたるものと解せらる。(二十六日、朝日)

▲佛軍浦鹽に出動 (北京特電廿五日發) 北京天津駐屯佛蘭西軍(佛蘭西兵一箇中隊安南兵一箇中隊)三百五十名は本日天津より津浦鐵道經由上海に赴きたるが同地にて印度支那より來る可き佛蘭西軍(殆ど全部佛蘭西人)と合して一箇大隊(千人)を編成し佛蘭西船にて浦鹽に向ひ八月二日頃目的地へ上陸の答なりと。(二十七日、時事)

▲吉林二營浦鹽派遣 (長春特電二十五日發) 先頃露支國境の守備の任にありたる吉林二營は浦鹽派遣の命を受け出發せりとの報あり。(二十七日、朝日)

▲黑龍海戰隊成功す (哈爾濱特電二十五日發) コルチャク提督の主唱により黑龍江にて過激派と戰闘を行ふ名とし哈爾濱に於て海戰隊組織せられ、松花江に沿ひロラハス(黑龍松花の合流點)に向ひ出發せるが過激派の地點に入込みて汽船、稅關、巡邏艇、運送船其他三隻を捕へ目下松

花江口まで監視中なり之れが爲め過激派は死者一、戦死二、俘虜十四を殘して逃亡せり。(二十七日、時事)

▲セ軍窮境に陥る (長春特電二十五日發) ダウリヤのセミヨノフ將軍は一萬二千の過激派軍の攻撃に堪へず滿洲里に退却し又支那守備兵も過激派軍の攻撃に威嚇され退却し同地は過激派に占領されんとし大混雜を呈し居留民の避難者絡驛たりセミヨノフ軍の武裝解除、我義勇兵の離散は免れ難き状態に陥れり。(二十七日、時事)

▲日英米佛支那出兵賛同 (二十六日北京特派員發) 支那が浦鹽出兵に關し通日聯合國に意見を徴したるに對し英佛米何れも賛成の旨回答ありたり日本も亦賛成の旨通告せり。(二十八日、朝日)

▲伊國も浦鹽へ出兵 (北京特電廿五日發) 伊太利公使は支那政府及各國公使に向ひ伊太利も浦鹽出兵に参加し、北京天津の領土同收派の軍隊(義に露國に俘虜となり解放されし軍隊)を派遣すべしとの本國政府の訓電に接したる旨通告せり。(二十八日、日日)

▲支那の對露意見 (北京特電廿五日發) 露國公使クダシエフ侯は廿四日外交部を訪ひ西伯利に舉立せし三政府に對する支那政府の意見を質したるに支那はチエツク政府及デルベル政府に關しては何等知る所なし又ホルワツト政府に對しては同情を有す若しケレンスキー氏出で統一を圖る時代に達せば更に可ならんと答へたる由。(二十八日、日日)

▲支那一個旅出兵 (二十七日北京特派員發) 支那政府は浦鹽出兵に關し國務院參戰處參議院協議の結果步兵一營砲兵一連、工兵一連、機關銃隊一連及輜重兵より成る一個旅の兵を出して日英米佛と共同動作を執るに決し參議院は二十六日軍隊輸送方を議し前記各隊は鐵道に依り步兵隊は軍艦に依ることとなり二十六日直に第九師(湖北襄陽駐劄)に出動準備を電訓したり八月下旬出發することとなるべし糧食は吉林商會に命ずることに決定し省長郭宗熙に電訓を發せり支那政府は數日内に各協商國に出兵通知を發する答。(二十九日、朝日)

▲哥薩克軍組織計畫 (二十六日哈爾濱特派員發) 黑龍省に於る過激派兵討討の爲にブラゴウエシチエンスクの對岸支那領黑河に於て哥薩克軍編成中にて目下哈爾濱に滞在して軍需品供給問題に關連して不日臨時政府所

在地に赴くべく黑龍省哥薩克指揮官ガモフ將軍談として露紙の報する所に依れば黑河に於けるガモフ將軍の募集成績は極めて良好にして匪黨者の數既に數百名に達せりガモフ將軍は該地に於て更に哥薩克及び露人のみならず支那官吏より非常の好意を以て迎へられ支那道尹は將軍の爲め盛宴を張れりブラゴウエシチエンスクの過激派はガモフ將軍に依つて哥薩克軍組織されつゝあるを知るや多大の恐慌を來し其歸來を恐れて直に境を閉鎖し警戒を嚴重にせり。(二十九日、朝日)

▲解裝要求の拒絶 (哈爾濱特電廿八日發) 滿洲里發報道に曰く獨軍はマヌエフスカヤに主力を集中しつゝありセミヨノフ軍は絶然なく大砲を發射しつゝあるが昨夕は敵の砲火は滿洲里附近を襲へりと尙ほ支那側は日本の提議を容れ兩國共同の利益の爲めセ軍武裝解除要求を拒絶せりと。(三十日、時事)

▲滿洲里占領さる (長春特電二十九日發) 海拉爾來電に曰く過激派は滿洲里を占領しセミヨノフ軍潰走し居民全部海拉爾及哈爾濱方面に引揚げたり。(三十一日、時事)

▲過激軍國境侵入 (哈爾濱特電二十九日發) 過激派國境侵入の報を得たるホルワツト將軍は事容易ならずとしグロデコフより其部下一箇中隊を滿洲里に急行せしめつゝあり尙ほ當地支那司令官陶少將は過激派軍の國境侵入を以て事重大なりとし政府の斷乎たる命令を待ち居れり。(卅一日、時事)

▲安南兵浦鹽に出動 (二十八日北京特派員發) 安南兵凡そ八百はルボン號にて二十九日印度支那より上海着の豫定なり樂島島に同航したる上京津の佛國兵と合して浦鹽に向ふべしと。(三十一日、朝日)

外交關係

▲日本船襲撃さる (漢口特電十二日發) 臺灣人戴生昌會社の所有長沙常德航路汽船は八日長沙の下流三十哩の所にて約四百の土匪に襲はれ殺害せられたるもの二人捕虜となれるもの二人あり北兵數人水に投げ行方不明となり荷物は悉く奪はれたり又常德にて邦人一名又復滿洲の兵に傷けられたり。(十六日、時事)

▲商埠開場延期 (十三日北京特派員發) 日本より要望せし商埠の開

放に就き支那政府は各地方官に實情取調を命じたるが其の返電の大多數は尙ほ暫く猶豫あるべく主張し來れるを以て支那政府は日本公使館に對し時局多端にして商埠開場的事暫く延期す但し地方廳に命じ準備せしめ成るべく早く御希望に副ふべき旨回答せりと。(十七日、朝日)

▲唐紹儀の借款成立説 (十四日北京特派員發) 唐紹儀は日本に在

りて廣東嶺山を抵當とする借款の調印を了りしものゝ如く之を以て軍器を買入れんとする模様なれば注意あれとの情報章公使より北京政府に達したりと。(十七日、朝日)

▲鐵礦暫辦撤廢抗議 (十六日北京特派員發) 日本政府が支那政府

に對し袁世凱時代に内規せられたる鐵礦暫行辦法撤廢を本年二月公文書を以て要求してより以來交渉を重ねつゝあれど今以て解決を見ず該條例は鐵礦の國有を以て其目的とし鐵礦採掘に就き外國人は關係し得ざるものと爲せるが一時的に内審に定められたるものを今日も尙適用し居るを不當とするの抗議なり要求の一部は違からず容れらるべきものと思惟せらる。(十九日、朝日)

▲英國南潯抗議 (北京特電十七日發) 英國公使は南潯鐵道を福建省

に延長し日本より借款する件は英國の勢力範圍を侵すものなりとて之に抗議せんと欲し先づ支那政府に事實の有無を質せりと報ずる者あり尤も英國側にては英國公使ジョルダン氏が交通總長曹汝霖氏を訪問せしは英汽船アンラン號賠償金問題にて南潯鐵道に關係なしと稱し居れり。(十九日、日日)

▲裁判に立會を諾す (北京特電十九日發) 曁に浙江臨海に於て虐殺

を行ひたる犯人海賊の裁判に就き英國側は其裁判に立會を要求し支那政府は其先例なきを以て之に應ぜざりしが英國公使の態度強硬なりし爲め最近に至り外交部は其要求に従ふ可き旨英國公使に通告したり。(二十一日、時事)

▲上海居留地不穩 (上海特電廿日發) 先般來當地共同居留地吳淞路

方面にて支那人と日本人との間に言語不通の爲行違を生じ種々の争ひありし處十九日夜に至り居留地警察署の支那人巡查は武器を持ちて日本商店を破壊し居留地警察署の日本巡查に對して暴行を加へ一名の巡查は之が爲即死し其他日本人の負傷者數名を出すに至れり右に就き居留地市會議長たるヒーヤス氏及警察長マチュエン氏等は有吉總領事を訪問し謝罪の意を表し且善後策に

就き協議する所あり更に今後不穩の事なき様各當局にて出來得る限りの方法を講じつゝあるが右即死せる日本巡查は澤田貞次氏にして森正義氏は重傷を負ひ又吳淞路の吳服商原太氏も短銃に當り死亡 其他數名の負傷者あり。(二十二日、日日)

▲學生の排日運動 (二十日南京特派員發) 駐日學生より成れる救國

團は南京各學校に於て排日演說を以て學生を煽動し此等學生は暑中休暇を利用して歸省し排日運動を助勢しつゝあり南京學校は米國人經營の者多く學校當局は此舉に對し默許し居れり但し南京官憲は極力之が防止に努め居れり。(二十二日、朝日)

▲日本人總領事に不滿 (二十二日上海特派員發) 支那巡查の大暴

行事件に就き二十一日夜英米兩國の義勇兵も出動し警戒の結果無事なりしが日本人俱樂部に集りし我居留民は此事件に對する有吉總領事の態度を憤慨し領事館を襲はんと突飛なる説まで出でしも二十一日午前二時半退散せり總領事の不信任は平素より鬱積せることなれば今後も猶引續き排斥を行ふに至るべし。(二十三日、朝日)

▲東洋貿易開發 (十九日國際社紐育發) 内外通商局はシー、ユム、

ビショップ氏を課長として梅東課を設置せる旨を發表せり此の課の職務は米國と東洋諸國間の密接なる關係を開發するに至るべく政府は梅東貿易を促進せんとする特殊の目的を以て議會より經費支出協賛を得て大規模に東洋諸國との通商上の關係を開發せしむるに助力すべし。(二十三日、朝日)

▲法王廳へ特使 戴陳霖氏(西班牙葡萄牙駐在公使)を羅馬法王廳の

特命全權公使を兼任せしむる旨七月十七日附大統領令を以て發布せらる。(廿日北京發某所電)(二十三日、日日)

▲邦人居留民大會 (二十二日上海特派員發) 支那巡查暴行事件に關

する臨時居留民大會は二十二日午後七時より日本人俱樂部に開會され三階の會場は居留民各階級千餘名を網羅し極めて靜肅に該事件の善後策として、

一、被害者に對し相當賠償を工部局に請求する事

二、加害者所罰

三、工部局の日本人巡查の待遇改善

四、支那巡查の武器携帯を禁止する事

五、有吉總領事不信任

六、以上を外務省及外交調査會委員に打電する事

の六箇條を議決し實行委員を擧げ散會せり各國義勇兵の警戒、領事館内の日本水兵の警戒は前日の通りなるが市街は平靜に歸せり。(二十四日、朝日)

▲居留民大會委員附託

(二十三日上海特派員發) 上海居留民大會

の決議文は第四項まで大多數にて可決せられたるが第五項は二十二日夜に選舉せられし委員に參考として示すに止め、より以上有利なる條件の選定を該委員に附託するに決し委員として七名即ち居留民團長外西、雷匠、新田、瀨東四名及辯護士二名を選び小西、新田等四名の委員は直に就任を承諾し他の委員は右四名より就任を求むることとし更に必要の場合には七名を加ふべく全權を四名に託することを決議せり。(二十五日、朝日)

▲對支抗議

(北京特電廿三日發) 湖南督軍張敬堯及混成旅團長馮玉祥

兩氏の部下たる北軍は日本人に對して惡感を抱き不滿の態度あり日本人の被害觸々たるを以て長沙常備にある日本人中には居留の不安を感じ引揚げんとする者すら多き狀態なるが之に對し林公使は廿二日北京政府に對し嚴重なる警告を與へ反省を促せり。

◎湖南省に於ける排日感情は近來益甚だしく督軍張敬堯、馮玉祥氏等も是を助長せしめんとするの風あり現に彼等の部下は同省に在る邦人商店に闖入し掠奪を擅にし又汽船に停船を命じて邦人の物品を奪取する等の事屢行はるるより我政府に於ても捨置かれず過般林公使に訓電して支那政府に嚴重なる抗議を爲さしめたり其結果支那政府に於ては張敬堯、馮玉祥氏等に對し嚴命する所ありたる趣なり。(廿四日某所著電)(二十五日、日日)

▲在留民有志大會

(上海特電廿四日發) 昨夜當地在留日本人居留民

有志大會を日本人俱樂部に開き正式に總領事館に手續を爲し取締を嚴にし且出席者の氏名を自署せしめたるが出席せる者千六百名正式に會議を進行し左記八箇條の決議を爲し十一時散會せり。

- 一、遭難者故澤田巡査以下各被害者に對し賠償又は遺族救護料を出し謝罪を爲さしむべくミュンシバル・カウンスルに交渉を爲さしむ。
- 二、ミュンシバル・カウンスルの日本人巡査を増進せしむべく適當の方法を取る事。

三、本月十九日に於ける支那人巡防の保護加害者及責任者處分の件。

四、支那人巡防は今後一切武器を携帯せしめざる事。

五、右決議事項を進行しせむるに於て當上海總領事は果して適任なるや否や有吉總領事は不適任と認むるより辭職勧告を爲す事而して之が爲外務大臣外交調査會等以免職請願の打電を爲す事。

六、前記の決議事項は内地各新聞社各政黨本部に詳細通告し其目的を達すべく盡力を依頼する事。

七、日本人巡査は日本人長官の指揮の下に置く事。

八、十五名の委員を確定の上更に重要な決議を要する場合は委員の決議全部を居留民大會は承認す。(二十六日、日日)

▲英國領事退任

(漢口特電廿四日發) 當地英國領事ウィルソン氏は

諒旨免職となり本月退去する其原因は戰爭に依り漢口上流にて英船屢々支那兵の射撃を受け遂に航行を中止するに至れるに對し管下の五會社より公使團に向け氏の所置軟弱を彈劾せし爲めなりと。(二十六日、時事)

▲海軍武官派遣

(北京特電廿四日發) 廿三日の閣議に於て各國公使

館に海軍武官派遣案を通過せり右は日支軍事協約に基き兩國海軍の聯絡を保つ爲東京に海軍武官を駐在せしむる焦眉の急に基きたるものなり。(二十六日日)

▲各軍司令官を戒飭

(上清特電廿五日發) 湖南問題に就き支那政

府は國務總理段祺瑞及び陸軍總長段芝貴の名を以て林公使に對し左の如く回答し來れり。

湖南省に於て張敬堯及び馮玉祥部下の兵が在留日本人に危害を加へたるに就ては其曲何れにあるを問はず今後充注意し再び衝突を來さざるやう部下を嚴重に取締る可き旨各軍司令官に夫々電令したり。(二十七日、時事)

▲長沙に邦人義勇隊

(漢口特電二十七日發) 長沙にては北兵の頻

頻たる暴行に鑑み木村少佐を中心とし約五十名の義勇兵を編成するの計畫中なり。(二十八日、時事)

▲鑛山探掘閉鎖

(奉天特電廿四日發) 北京政府は各省に對し鑛山探

掘に關する訓電を發し奉天省又之が訓令を奉じて各縣に通牒せるが开は合辦と否とに拘はらず日本人に對して鑛山を閉鎖せんとするものなれば赤塚奉天

總領事は張作霖氏に抗議を申込むと同時に之が根本解決は特殊關係にある東三省の鐵道條例の改正を急務とし同領事は不日之が材料を携へて北京に赴くべしと。(二十八日、日)

▲邦人居留團意見書提出 (二十八日上海特派員發) 上海日本人居留民團行政委員は二十七日上海日本總領事館に左の意見書を提出せり。

大正七年七月十九日夜數十名のミニニンシバル・カウンシル支那巡捕は武裝して隊伍を組み一齊に日本の民に危害暴行を加へ多數の死傷者を生ぜしめ更に日本巡査を殺傷し尙進んで日本人の店舗住家に發砲突入し多大の損害を蒙らしめたるは疑ふべからざる事實なりとす由つて本行政委員會は左の件を議決す。

第一、加害者の處分(一)我帝國の官憲に請求して遲滞なくミニニンシバル・カウンシルをして加害者及連累者を嚴罰に處せしむる事(二)責任當局者を全部處分せしむる事。

第二、賠償(一)死亡者の遺族に對しては弔慰金扶養料並に子女の教育費を支辨せしむる事(二)負傷者並に其他の被害者に對しては相當の損害賠償を爲さしむる事。

第三、警察制度の改正(一)共同居留地の警察は外國人本位たるべきは當然の事にして支那も其在留外人の狀況に依り警察の配置を考察せざるべからざるが故に共同居留地一般の安寧秩序維持の必要上日本人が多數を占むる虹口方面にはミニニンシバル・カウンシル警察總長直接監督のもとに速に全部日本警察を配置すること。

第四、領事館警察改善に關する希望(一)領事館の警察部に増員し其能率を増し保安上遺憾なきを期すること(二)ミニニンシバル・カウンシルの警察部と常に接觸を保ちて共同活動につとむること(三)居留民に對し懇切簡易な旨とし同情を以て之が誘動につとめ同時に不真無賴の徒を嚴重に取締ること(二十九日、朝)

▲西藏支那に反抗 (二十二日倫敦特派員發) 西藏は四川省と南に於て其境界を接する地方に於ける支那の主權に對して一般的に反抗を爲しつゝあり而して北京政府は件の邊境の守備兵に財政上の供給を爲す能はざる結果西藏の進出を遮止する能はず目下休戦の申合せ成り居れども一般的形勢は支

那に取りて絶望的なりと想像せらる。(二十九日、朝)

▲借款中止を望む (上海特電二十七日發) 當地上海總商會董事の一人なる賀德は各商會に手紙を出し上海外國品商、棉花繅絲、雜穀、洋反物、各商の代表と共に日本總領事有吉氏に對し。

目下支那は不幸にして武人の專横の下に個人權利を爭ひ西南軍起り北方兵を出し陝西湖南福建廣東に戦ひあり人民之に苦しみ農民耕を止め貨物は停滯し長江流域の形勢憂ふ可きあり斯の如きは果して友邦の利益なるや我が商民は今日の兵亂の延長を以て全く借款の繼續に因ると爲す新聞紙の報するもの十一種の多きに至る而して其の借款の多くは日本よりなり而も是等の借款たる名を幣制改革其の他に藉るも實は皆戰爭の用に於て軍費に徒費せらる日本は資本を以て支那に滲を加へんとす日本の趣意は日支親善に在るも總に政府あるを知りて人民の意の存する處を問はず兩國民が之が爲に長く握手し貿易に従ふを離からしむるは遺憾なり吾等は政權なく黨派なく貿易往來中外の別なし今や北方に四省經略の命あり南方政務總裁の置かるるあり何れが是何れが非姑く之を論ぜず世の商人等は支那の兵亂の延長は借款の爲めなりと異口同音に唱へ歐米新聞紙亦之を論じ居れり日本總領事は久しく上海に駐在し我が商民の敬服する處且つ我が商民の意の存する處を熟知せらる可し何卒此の事を日本の政府に通ぜられ借款を供給して我が商民に害毒を流さざるやうせられ度し是れ即ち日支親善を得る所以なり直言之を述べ云々。

と申し出でたる故各商會も之に就き盡力され度しと云へり。(二十九日、時事)

▲政治借款判別難 (北京特電廿七日發) 未だ償還せられざる對支政治借款は英米佛銀行團の大借款に借代ふる爲め米國は米貨五千萬弗まで出資す可しとの米國銀行團の提議に就ては英佛側には別段反對なく日本側も主義に於て異議なきも未償還の借款中如何なるものを政治借款と看做す可きかは實際問題として餘程困難なる可しと思惟し居れり。(二十九日、時事)

▲廣東米國より借款 (北京特電廿七日發) 廣東軍政府は軍資金問題に就き協議を重ねたる結果愈々米國資本家より借款することに決し伍廷芳氏は其交渉の任に當ることとなり但し米國が廣東軍政府の借款提議に應ずるや否やは不明なり。(二十九日、時事)

▲支那人米軍に投ず (桑港國際特電二十七日發) ロサンジェルスより十七名の支那人軍事訓練を受けるが爲め太平洋沿岸の某教場に来り彼等は佛國に到りて獨帝と戦はんことを熱望し居れり。(三十一日、時事)

▲日支製紙會社に發砲 (二十九日長春特派員發) 去二十五日午前一時吉林城内の日支合辦製紙會社に向ひ一齊射撃を爲せるものあり閣を破る銃聲に驚き附近の者飛び出したるに巡警らしきもの、逃ぐるを目撃したり之が爲め一時は騷擾を極む原因は不明なるも誠に借款反對會當時賣國賊と目され群衆の襲撃を受けたる交渉員某を同會社に隠匿せしめたりと憤慨せるものが使喚して遺憾晴らしを爲さしめたるもの、如く實彈飛來し頗る危険なりしも幸ひに被害者なかりしと歸來者は語れり。(三十一日、朝日)

▲羅馬法王駐支聖使任命 (三十日上海經由路透社發) 羅馬來電羅馬法王は比律賓使節ベトリ師を支那駐劄羅馬法王宮聖使として任命したり。(三十一日、朝日)

▲馬賊海龍城包圍 (三十日鐵嶺特派員發) 近來奧地方に於ける支那陸軍の南西出動の爲め警備兵の薄弱なるに乘じ馬賊團橫行を極め海龍城は二十八日三百餘名の馬賊に包圍され人心恟々たる旨在海龍日本領事分館より鐵嶺領事館に通知ありたり。(三十一日、朝日)

▲國會召集令發布 (北京特電十二日發延着) 新國會召集の大總統令は折柄復辟記念日に當るを以て色調にて發布せり其大要に曰く國會組織法は參衆兩院の議決を経て法に依り公布し内務部に命じ迅速に籌辦せしめたるが茲に參衆兩院議員選舉は事に依り延期する地方を除くの外、一律に舉行せり民國今に於て七年、軍變紛擾、法規未だ固からず經典空しく諸政治難し本大總統切に力度する所あり現在國會議員は既に法に依り選出せられたれば期至つて集まり以て法令を修明し法網を繕構し共に時艱を救ひ永く國本を維持せよ茲に民國七年八月一日以前に當選の議員は京師に來り期を定めて開會、國家の立法を尊重する趣旨に副ふ可しと。(十六日、時事)

▲四川邊境不穩 (北京特電十二日發) 川邊鎮守使陳選勳氏よりの報告によれば四川邊境を侵さんとする西藏軍の勢猖獗にして同軍中に英國人存在せるもの、如しとの事なるが最近の情報左の如し。

第一、貢噶縣知事の報告によれば八日西藏軍二千既に縣城を距る六十支那里の地點に迫り各村落を占領せり目下官兵を發して防禦中なり。

第二、九日密使の報告によれば西藏後續部隊は陸續察邊多に到着しつゝあり。

第三、十日川邊鎮守使陳選勳氏の急電によれば巴塘、裏塘、標邊塘等不穩の形勢あり各地動搖。

と因に陳氏は治邊政策第十四箇條制定に關し建議し來れり。(十六日、日日)

▲四省經略使辦公處 (十六日天津特派員發) 曹錕は天津河北中州會館に四省經略使辦公處を開設し其内部を三十六課に分てり。(十六日、朝日)

▲南軍瓊州に上陸 (十二日北京特派員發) 廣東省瓊州鎮守使黃志桓は沈鴻英の部下二營を率ゐて瓊州島に上陸せり楊觀東と策應して龍濟光の根據地なる瓊州を居らんとす。(十六日、日日)

▲陸外交總長辭職願 (十三日北京特派員發) 陸外交總長邊壽地より辭職を願ひ出でたり不日正式に辭表を提出すべしと陸總長は瑞西の公使として赴任すること希望し居れりと。(十七日、朝日)

▲孫文政務總裁承諾 (上海特電十五日發) 孫文は政務總裁を承諾し胡漢民を全權代表として政務會議に參與せしむる旨西南各當局に通電せりと云ふ。(十七日、時事)

▲孫逸仙氏を誣ふ (上海特電十五日發) 當地新聞報は孫文氏が戴天仇氏をして日本の實本家より五百萬元の借款を起し別に十萬元の金を借り今後其の占領す可き地方を抵當とし日本にて義勇兵を募り支那に來りて民黨を助けしむるとの北京電報を掲げたり是れ恐らく北方策士が賣國奴の譏を受くる孫に對して斯かる虛構の説を流布したるものなる可し戴天仇氏は現に上海に在り。(十七日、時事)

▲張懷芝動かず (十三日漢口特派員發) 援粵總司令張懷芝は出發間際に至り變更し一部の有力者のみを湖南に派し依然武昌に止まり曹錕の南下せざる限り動かずと稱し居れり。(十七日、朝日)

▲海軍軍事處條例 (北京特電十五日發) 海軍總長劉冠雄氏は海軍軍

南北情勢

事發供給の爲便宜の地點に海軍軍事處を設立するの必要を述べ各國に於て現に其制度あるも支那は經費の都合上之を設立すること能はざりしが過般調印せられたる日支海軍軍事協定第五條第三項を實行するも一層其必要を感ずとて海軍軍事處設置條例若干草を起草して國務院に提出せり。(十七日、日)

▲修訂法律館條例 (北京特電十六日發) 總統命令にて修訂法律館條例十八箇條を發布し民利各法典及附屬法規編纂習慣調查をなし總裁副總裁二人總纂纂二人纂手六人を置く總裁には王寵惠董康(大理院長)兩氏副總裁には羅文漢氏任命さるべく大理院々長後任には姚震氏に補せらるべし。(十七日、日)

▲戴天仇辯明を試む (上海特電十六日發) 戴天仇氏は昨日所報孫文氏が戴氏をして日本より五十萬の借款及び小銃十萬を借り且つ日本義勇兵を借らんとすと云へる報道を否認して是れ段派が故意に捏造して我輩の名譽を破壞するものにて常識あるものは決して之を信ぜず我輩國家を見る第一の生命として主張する處國を救ふにあり何ぞ國權を輕視するに至る可き此度國內の戰爭たる表面は是れ護法軍と段派との戰爭なるも日本との戰爭の如きものなり日本武器軍人の段派を助くるならば平和解決を速かに爲すを得可く我輩が段派の行爲に反對するもの只其の法を棄するに反對するのみならず其の賣國的行爲にも反對するなり無論如何なる政治家としても賣國的行爲ある者に對しては反對す況んや外國の武力を借り自己の政權を維持するが如きは素より反對なり是れ我輩の終始保持する意見なり前記虛報は反敵の價值無きも目下諒實行はれ居るより一言辯明の要ありと本日支那新聞に右記事を掲載せしめ居れり。(十八日、時事)

▲馮氏獨立無根 (漢口特電十六日發) 馮玉祥氏(混成第十六旅團長)の獨立につき督軍王占元氏は第八師團長王汝賢氏に密電して是が實否を探りしが王氏は此事實なしと返電せり。

(北京特電十六日發) 混成第十六旅團長馮玉祥氏は北京政府に打電して北京にて獨立的の説ある由なるも事實無根なる謠言を放つ者は嚴罰されたと憤慨せり。(十八日、日日)

▲吳軍主和通電 (十五日漢口特派員發) 吳佩孚は十三日馮總統曹錕

以下江蘇江西湖北の各督軍に對し直隸軍は出征日久しく疲勞甚だしく此上戰爭に堪へず諸部隊各旅長と協議の結果茲に主和を通告し將來萬一の敗潰を免れんと欲す云々と通電せりと。(十八日、朝日)

▲南北兩將の停戰 (上海特電十七日發) 吳佩孚氏は十三日親しく馬濟氏と會商して停戰を約せりといふ。(十九日、時事)

▲譚氏の免職を求む (上海特電十七日發) 湖南督軍張敬堯氏は譚延闓氏の湖南省長の官職を剝奪せんことを求めたり。(十九日、時事)

▲廣東人大會決議 (十六日北京特派員發) 十四日廣東に於て廣東人大會開かれ日支秘密協約に反對す無謀の借款を承認せず、龍濟光の歸り來るに反對すとの決議を爲せりと。(十九日、朝日)

▲廣東國會開會通告 (十八日廣東特派員發) 廣東國會は各議員に對し一箇月以内に國會を開會すべく當日迄に召集に應ぜざる者は議員の資格を失ふべき旨を通告せり尙未到着議員は參議院議員五十名衆議院議員百四十名なりと。(二十日、朝日)

▲岑春煊停戰に同意 (十八日上海特派員發) 吳佩孚陳光遠は岑春煊に對し停戰を爲し時局調和の方法を講じたとし打電せるに岑春煊は之に對し贊成の意を表したりといふ。(二十日、朝日)

▲廣東軍龍巖占領 (十八日廣東特派員發) 陳炯明率ある廣東軍は福建省龍巖を攻撃し遂に之を占領せり督軍李厚基の軍は殆ど全滅の程度に大敗せり。(二十日、朝日)

▲李根源を省長に推す (上海特電十八日發) 廣東省長として李耀漢の代に李根源を當つ可く岑春煊氏は取計らひ居れりと云ふ。(二十日、時事)

▲唐繼堯和議條件 (十八日北京特派員發) 雲南省軍唐繼堯が最近北京政府に提出したる和議條件は左の四箇條なりと。

一、總統事故あれば副總統當然其の職權を代行するも障礙去らば復職すべし然らざれば國會に向つて辭職すべし。

二、國會の非法解散は命令を以て回復すべし。

三、現國務委員は國會の承認を経居らず改造するが國會の追認を要す。

四、兵を構へて命に抗せば内亂犯として懲辦すべし。

唐繼堯は之に附加して以上は何れも輕微の條件なり北京政府にして誠意だ

にあらば龍曉は熊克武等と相約して西南に告げ一致兵を載め共に外侮を防ぐべしと。(二十日、朝日)

▲雲南軍巴東來襲 (十七日漢口特派員發) 葉荃某の雲南軍は十四日王天縱等と共に兵力を整へ巴東に來襲し爲に同地守備中なりし奉天軍は敗走せり吳光新は宜昌より救援隊を急派し遊擊中なり。(二十日、朝日)

▲譚延闓氏復職 (漢口特電十七日發) 南軍司令譚浩明氏は十六日通電を發し程潛等の各將校と協議の上目下永州に在る譚延闓を湖南省長兼督軍の元職に復し湖南護國軍總司令を兼ねしむと言へり。(二十日、日日)

▲段總理戰意固し (上海特電十九日發) 雲南督軍唐繼堯氏の來電に對し段祺瑞氏は徐樹錚氏に向ひ敢て之に答ふるに及ばず南軍と勝敗を決するの外なしと言へり。(二十一日、日日)

▲段派九督軍王に通電 (十八日漢口特派員發) 十六日奉天湖南安徽福建浙江陝西山西河南吉林の段派督軍は王占元に通電を發し中央の西南討伐策進行には一致賛同せしものなり近時鎮利の徒妥協を圖らんとするものあり嚴重に之を根絶し速かに克復を期し國家の平安を圖るべし云々と主戰派の意氣軒昂たるを示し來れり。(二十一日、朝日)

▲討南促進提議 (北京特電十九日發) 奉天督軍張作霖氏は政府に對し四省經略使曹錕氏は運々として南下せざるを以て徐樹錚氏を經略使副使に任じ急遽南伐を促進すべしと提議せり。(二十一日、日日)

▲議員の參集を求む (上海特電十九日發) 當地に在りて舊國會議員を廣東に招致することに關する事務に従事し居たる緒輔成は本日支那新聞に廣告し來る廿五日廣東に戻る事並に其出發後は山東の參議院議員張謇保及浙江の參議院議員孫東山彼れに代りて事務を執る事今同舊國會の法に依り集會するに憲法を制定するの天職を完うせしめん爲めなるも今日までに廣東に集まれるは僅かに法定數たる過半數なり憲法會議の法定數たる三分の二以上たらしむる爲め更に多數の議員の廣東に來ることを必要とすと述べ其速かに廣東に集まり憲法制定の大業を完うしたしとの希望を述べたり。(二十一日、時事)

▲衡州北軍不利 (長沙特電十八日發) 衡州方面の戰況は北軍不利にして十一日寶慶は南軍に奪回されたりとの報あり尙疾病者多く其數四分の一に達すと。(二十一日、日日)

▲陳氏龍磐を占領 (上海特電十九日發) 陳炯明は十三日龍磐を占領せりといふ。(二十一日、時事)

▲奉天參謀等免職 (十九日奉天特派員發) 奉天督軍參謀長楊宇霆、軍界局長丁趙は奉天督軍張作霖の激怒に觸れ免職せられたり軍界局長の後任は未定なるも參謀長には參謀喬啓雲就任せり楊宇霆は南方討伐の主唱者にて豫て軍人界に嫌はれ最近副司令徐樹錚と結託し山東に於て恣に兵を募集し兩人各自己の地盤を作らんと圖り總司令孫烈臣より其專横を張督軍に彈劾せられ張督軍は南方討伐の徐樹錚に誤られしを悟りし際て遂に楊參謀長を免職したるなり何れ徐樹錚とも關係を絶つべしとの噂あり尙丁趙の免職は軍器積害の咎に依ると。(二十一日、朝日)

▲湖北議員復選 (十九日漢口特派員發) 湖北衆議院議員の復選は十八日行はれたり數日前安福系は運動員を派し王占元に對し湖北十九名の議員中安福系十人交通系四人其他に五人を選定すべく商議せるも王は賛成せざりしと。(二十一日、朝日)

▲湖北安福系當選 (十九日漢口特派員發) 湖北衆議院議員復選の結果十一名當選す悉く安福系と見做さる。(二十一日、朝日)

▲湖南安福派優勢 (十九日長沙特派員發) 湖南省選出衆議院議員復選は去る十五日長沙教育會にて舉行され翌十六日開票の結果湘江道十名衡陽道沅新道各四名計十八名にして無所屬議員を除く外安福俱樂部員なりと尙帝制主唱者の一名なりし楊度の如き運動の結果最高點の五十一票を得たるも内三十六票無効なりしかにて落選せり。(二十一日、朝日)

▲張敬堯王張に急電 (十九日漢口特派員發) 湖南督軍張敬堯は十七日王占元、張懷芝に急電して曰く湖南南部の敵は大舉して寶慶、祁陽、來陽、安仁等に逆撃し來らんとす寶慶鎮守使に命令し防禦を講ぜしめ尙曹錕に轉電して吳佩孚をして極力要撃せしむると共に徐樹錚に打電し至急奉天軍を増派せん事を請ふと。(二十一日、朝日)

▲龍濟光募兵中止 (二十一日安東縣特派員發) 龍濟光の新兵募集は當初東遼道管内に於て約三千を募集する計畫なりしに今迄に僅六百を募集せしに過ぎず成績不良にて中止せり。(二十一日、朝日)

▲北軍南軍を破る (北京特電二十日發) 吳佩孚氏が休戦を取消したる爲第七師二十八聯隊は石内司の南軍と會戦し大に之を破り敵を金標市に擊退せり。(二十一日、日)

▲莫榮新氏の祝電 莫榮新氏は七月七日通電を發して中華民國新政府法により政務會議を開くに至れるを賀し尙諸部を率ゐて其命を盡き永く渝らざるを誓ふ旨を聲明したり。(某所著電) (二十二日、日)

▲瓊州島危し (二十一日北京特派員發) 龍濟光の子龍裕光の報告に據れば雷州附近總て南軍に占領せられ瓊州島(海南)又四面包圍され援兵到らず瓊州島必ず守を失ふべし。(二十三日、朝日)

▲吳佩孚停戰を乞ふ (二十一日北京特派員發) 援粵副司令吳佩孚は夷魯を避くる爲め更に一箇月の停戰を乞へりと。(二十三日、朝日)

▲馮氏調停延期を望む (上海電二十二日發) 馮總統は最近江蘇省通州にある張賽に宛てたる電報にて「國內に争あるは遺憾とする所にして竟に争を止むるを主張したるも時勢の變遷あり其趣旨を遂ぐるを得ず會て南方に統一的代表なく遂に又戰端を再び開けるは不幸なり余は近日任期を終り交代す可きを以て調定案を爲すは余の野に下るを待たれ度し」と云へり。(二十四日、時事)

▲岑春煊南軍に向ふ (二十三日廣東特派員發) 岑春煊は陸榮廷と會見の爲め二十二日廣東發南軍に向へり。(二十五日、朝日)

▲南方承認を求む (上海特電二十六日發) 廣東軍政府は全國に對する宣言書約千三百字を通電し北京政府の法に違へること北軍の跋扈し居ることとを痛く攻撃し國民に民國を擁護せんことを懇に求めたり又軍政府は普く各國政府に電報を發し段祺瑞が對獨宣戰に就き誠意なきことを述べ協商各國によりて段は單に己を助けしめ北方の自己の黨派を増大せしめ大總統の勢力を奪ふに努めたるに過ぎざるを顯し西南の法を護る者は之が爲に起つて段祺瑞を討つなり即ち協商國と連絡を爲し友誼を鞏固にせんとするものなる故協商國が西南政府を承認せられんことを深く望むとの意を以てせり。(二十七日、時事)

▲舊國會議員補缺 (上海特電二十六日發) 廣東に於ける舊國會參議員は公告して曰く本院既に六月十二日正式に廣東にて開會す參議院法第七條

に據れば議院開會後一箇月の後、任に至らず且つ其の至らざる理由を聲明せざるものは其の職を解く可しと、現に其の職を解くべきもの直隸四奉天三、黑龍江二、江蘇三、安徽三、江西二、浙江一、福建一、湖北一、山東二、河南四、山西一、陝西一、甘肅三、新疆四、四川一、廣東一、貴州三、蒙古四西藏四(以下略す)故に當該各省次點者は補決として速かに廣東に来る可し然らざれば更に其次點者を召集す可しと尙ほ衆議院も同様の公告を爲せるが其解職人員は直隸十六、奉天四、吉林三、黑龍江一、江蘇十一、安徽六、江西六、浙江七、福建五、湖北六、湖南二、山東十四、河南十、山西六、陝西三、甘肅五、新疆二十二、四川廣東三、江西、雲南六、貴州三、蒙古十、西藏五を解職せしめ次點者を召集す可しと。(二十七日、時事)

▲雷州府の龍軍降伏 (上海特電二十三日發) 廣東省雷州府の龍濟光部下の兵は降伏を申出でしより之を許し廣東督軍は雲南兵を同地に送り龍濟光の兵を處分せしめ居れりと。(二十七日、時事)

▲湖北議員の系統 (漢口特電二十五日發) 湖北衆議院議員十三名は交通系一名を除く外悉く安福系にして日本留學生六名あり。(二十七日、時事)

▲龍裕光到る (上海特電二十六日發) 瓊州より逃れ香港に越ける龍濟光の子龍裕光は二十三日夜北京若龍濟光徐樹錚の兩氏と二十四日夜會議せり。(二十七日、時事)

▲張作霖長江米買收 (二十四日南京特派員發) 奉天督軍張作霖は其部下を南京對岸浦口に派遣し目下盛んに正米を買入中なり聞か所に據れば買收豫定價格は二萬五千餘元にして未だ何處に運ぶや不明なるが一説に據れば目下敵前に在る奉天軍の依頼に據るものにあらざると。(二十七日、朝日)

▲國防司令部設置 (二十六日北京特派員發) 齊々哈爾濱に國防司令部設置の件及喀克圖に増兵の件は二十五日國務會議を通過せり國防總司令に黑龍江督軍鮑貴卿任命さるべし。(二十日朝日)

▲湖南參議員複選 (二十四日長沙特派員發) 湖南選出 議院議員複選は二十七日を以て完了せるが當選者五名共悉く安福俱樂部員なり即ち湖南に於ては參衆議員總計二十三名中二十一名は安福俱樂部員とす。(二十八日、朝日)

▲岑首席總裁に推舉

(二十五日廣東特派員發) 雲南督軍唐繼堯より岑春煊を政務總裁の首席に推舉する旨の電報ありたり。(二十八日、朝日)

▲王正廷廣東着

(二十六日廣東特派員發) 參議院副議長王正廷其他議員四十名二十五日廣東に着せり。(二十八日、朝日)

▲雷州完全占領

(二十五日北京特派員發) 廣東省雷州の龍濟光軍は二十四日開城して降り雷州は完全に廣東軍の手に歸せり。(二十八日、朝日)

▲廣東政府の飛檄

(北京特電二十六日發) 廣東政府は岑春煊氏以下政務總裁の連名を以て大要左の如く全國に通電せり曰く、

國會解散の非法なるは勿論段祺瑞が外交政策を利用して國事を專制するは不都合なり北京政府が召集せんとする新國會なるものは明に民國の法律に違反せるものなり南方は元來和平を希望す其の北方に對する要求は單に舊國會恢復の一事のみ然るに北京政府は之を容れず言を左右にして和平の議を棄てたるものなり北京政府たるもの宜しく速に過を悔い約法を遵守し國會の恢復を宣言し以て國本を維持す可きもの也。(二十九日、朝日)

▲安福俱樂部破裂

(二十八日上海特派員發) 安福俱樂部は徐樹錚が依然段祺瑞を總統に選舉し張作霖を副總統となすべしと主張せるより大衝突を來し交通系と内務次長于寶軒一派及び超然社の三派に分れ交通系超然社は共に徐世昌を總統に推さんと主張し居るも徐樹錚は尙堅く段を總統とするを主張して已まず遂に茲に安福俱樂部の破裂を見るに至れり又徐世昌は徐樹錚の中央大權に干與せざるを條件として大總統就任を諾すべきを宣明せる爲徐樹錚は徐世昌に表面より反對するに至れるなりと云ふ。(二十九日、朝日)

▲運河督辦事宜

(北特電二十七日發) 二十七日大總統令を以て懸希齡氏に運河督辦事宜を兼任すべき旨命ぜらる。(二十九日、日日)

▲南軍實慶に迫る

(二十七日漢口特派員發) 譚清明的報告に依れば湖南の南軍は二十日來陽を占領し祁陽、實慶に向つて進撃中なり。(二十九日、朝日)

▲龍軍全たく降服

(北京特電二十七日發) 廣東來電〓沈討龍軍司令官の公報によれば龍軍は雷州を死守し居れるも南軍が二十日來降服勸告を爲したる結果既に龍軍部下に生命の安全を保障し且二箇月分の給料を與ふる事を契約したるを以て龍軍は全部降服したりと。(二十九日、日日)

▲北軍土匪と衝突

(漢口特電二十七日發) 長沙の東北平江劉陽一帶には護國軍と稱する土匪群集し最近彼等の一部は平江附近にて北軍と衝突し北軍の爲三十人虐殺されたり。(二十九日、日日)

▲土匪討伐費要求

(南京特電二十九日發) 海州鎮守使白寶山氏は昨日土匪討伐費として十萬元の支出を李督軍に電請せり。(三十一日、時事)

▲支那募兵不成績

(安東縣特電二十九日發) 安東縣にて六月以來募集中の支那兵は二營なるが成績好からず緝安縣より募集兵約八十名二十八日到着し三十日奉天に輸送の筈。(三十一日、時事)

財政關係

▲第二善後借款調印

(十三日北京特派員發) 第二善後借款の第三前渡は十三日調印され其條件は全部前回同様即ち一千萬元にて期限一年用途は中國銀行紙幣の回收なりと。(十六日、朝日)

▲森林借款大反對

(長春特電九日發延着) 黑龍吉林二省森林借款に對する吉林省の反對頗る猛烈にて去る六日吉林省議會にて全省聯合反對大會を開き借款は省民一致の反對なりと宣言し各會より代表者を選び吉林省長に向ひ省民は死を誓つて反對する旨を傳へしめ實行方法は非實同盟を以てし黑龍吉林省の應援を請ひ極力協定の破滅を北京政府に迫らんことを決議したり。(十六日、時事)

▲上海船渠借款行惱

(十三日北京特派員發) 三菱公司と英國ヴィッカース會社と共同して支那海軍部と協議しつありたる上海船渠(江南)借款は米國が優先權を主張して抗議せるを以て該借款は目下行儀し居れり。(十六日、朝日)

▲吉林借款陳情

(北京特電十四日發) 目下吉林省に於ける森林借款反對熱は頗る激烈なるが中央政府に陳述の爲督軍代表王陳、省長代表劉彭壽、人民代表松毓氏外九名は十五日北京に到着せり。(十七日、日日)

▲政府對支借款保證

(十七日紐育特派員發) 支那借款交涉に關係せる當地銀行家は昨日國務省より企圖せる計畫の實行に關しては合衆國政府は十二分の援助を與ふべしとの満足なる保證を受けたり借款は五千萬弗を超

加すべき見込にして米國シンドケートの組織を見るべく市俄高市は右計畫に關し首動者たるべし多分日本英國及び佛國は右借款に参加すべく尤も資金は日米兩國よりのみ之を供給すべし。(二十二日、朝日)

▲借款償還期限延期 (北京特電十九日發) 第二次善後大借款第一回前渡金一千萬圓の償還期限は本日迄を以て盡きたるを以て四國銀行團は支那政府の請求に依りて條件全部前同同様とし一箇年延期に決定し正々銀行代表者武內金平氏は本日七時財政部に於て財政總長曹汝霖氏との間に右借款契約に調印せり。(二十二日、時事)

▲森林借款變更 (北京特電二十日發) 森林借款に對し吉林黑龍江兩省民の反對激烈なる爲支那政府は日本實業家と協議の上契約の二箇條を變更し其旨各督軍に打電せるが奉天督軍よりは再び反對せずと返電ありたり。(二十二日、日日)

▲對支借款同意條件 (十九日國際社華盛頓發) 米國政府は米國銀行家を通じて支那借款増額に同意せしが其條件として支那は凡ての未済借款を取消し而して凡ての借那は英米佛日の銀行家の間に配分すべき事を提出せり借款協約未だ完了せざるも米國より前渡せんと審議中なるもの約五千萬弗の額に達し居れり。

▲金額一億圓 (十七日イムス社發) 紐育來電米國政府は日米兩國銀行家が對支借款に應ずる件に對する阻害物を除去するに足るべき後援保障を與へたり右は五國團中の英國其他の道義的參加を含み金額は五千萬弗(一億圓)を超過すと豫期せらる。(二十三日、朝日)

▲借款取消拒絕 (北京特電二十一日發) 吉林代表は二十日段總理に面會し森林金礦借款取消を請ひたるに段總理は若し國家の主權地方の利益に反せば代表等の陳情を待つ迄もなく予は是に賛成せず然れども今回の契約は國家の主權地方の利益を害せず地方人民の干渉を加ふべきに非ず借款取消は不可能なりと拒絕せり。(二十三日、朝日)

▲中交兩銀行取付 (二十日天津特派員發) 天津の中國、交通兩銀行は二十日突然取付けに遇へり原因不明。(二十三日、朝日)

▲政府對支借款態度決定 (二十六日上海經由路透社發) 二十四日附華盛頓來電米國政府は支那政府が現在の借款全部を取消し今後の總べて

の借款に米英佛日四箇國の銀行家をして參加せしめば米國銀行家の支那借款參與に同意する事に決せり但し詳細の事は未だ決定に至らざれど一箇國の出資額宛額を五千萬弗として承認すべしと思はる。(二十八日、朝日)

▲江蘇省の短期債案 (南京特電二十九日發) 江蘇省財政廳長胡林氏は省議會に提出せる短期公債一百五十萬元發行案は既に討論を終へたるも内容は明白ならず。(三十一日、時事)

▲森林借款反對演說 (長春特電二十九日發) 昨日當地にて第二次森林借款の反對會あり參會者千五百名吉林及當地の代表者交々過激なる反對演說を爲し衆愚の喝采裡に午後一時閉會したる後道尹は鎮守使に會見し陳ぶる處ありたり。(三十一日、時事)

經濟關係及其他

▲浦口に大精鍊所を設けん (十五日北京特派員發) 江蘇省鳳凰山鐵礦は農商部より陸軍部の管轄に移されたり依つて陸軍部は南京の對岸なる浦口に大精鍊所を設け該鐵礦の鑛石を以て製鐵し國防上に必要なる材料を得んとするなりと。(十七日、朝日)

▲吉長賃金引上 (吉林特電十六日發) 吉長鐵道は十六日より一般旅客の賃金五割方の引上を發表したるが来る二十一日より貨物に對しても五割の引上を爲すべしと。(十七日、日日)

▲吉長線運賃別揚反對 (長春特電十六日發) 吉長鐵道收入金は商用鐵道なる爲め近來銀の下落に伴れ日々二千圓の損失を受けつゝあるを以て調節の爲め来る二十一日より運賃五割引上ぐる事とせるが吉林在留邦人に大影響ありとて當地居留民會長より撤回の要求を爲せるが當局は十月より實行の豫定賃率及び收入豫定改正期までは撤回せざる方針なりと。(十七日、時事)

▲演越鐵道不通 (雲南特電十七日若電) 滇越鐵道昨今の豪雨にて又復蒙自附近崩壞し同地點汽車不通となれり毎年の例に依れば十月迄當地方の雨氣中は鐵道の故障多し。(十八日、朝日)

▲日支合辦渤海漁業計畫 (十七日北京特派員發) 資本金一千萬圓の日支合辦渤海漁業會社を設立すべく目下兩國當局者間に協議し居れりと流

業區域は奉天府遼山灣の胡盧島より山東省青島に至る海岸以内に限るものにして資本金は日支兩國にて五百萬圓宛を負擔すべしと。(十九日、朝日)

▲鹽賣制度反對 (二十一日長春特派員發) 長春官鹽局は當局の命に依り鹽の買賣は從來の小津銀錢を大洋銀錢に變更したるが孟督軍及郭省長は此改革は價格を騰貴せしむるものにして人民の困難大なるを以て絶対に反對なりと強硬なる抗議電報を二十日北京政府に送り。(二十二日、朝日)

▲兩行兌換開始 (二十三日某所著電) 中國交通兩銀行は七月二十一日日曜日にも拘らず開店して兌換に應じ又市内樞要の地點にある數軒の錢舖にても兌換を行ひたる爲信用全く舊に復し二十二日に至りては平時と異なる所なしとの事なり。(二十四日、日)

▲吉長鐵道運賃値上 (大連特電二十二日發) 吉長鐵道運賃を八月一日より現在運賃の五割値上を發表せるより吉林在住者は大恐慌を來し盛に反對運動を試み其代表者二名來連滿鐵本社に川上理事を訪ひ事情を陳述し一面大連商會議所の援助を乞ひ徹底的に解決す可く滿鐵は一割だけ讓歩し得る内意を洩らせり。(二十四日、朝日)

▲山東省水害救濟 (南京特電二十一日發) 周自齊氏等は山東省の水害嚴重にして其救濟方法に就き盡力方を李督軍に電請せり。(二十四日、時事)

▲保險問題紛糾 (二十五日大連特派員發) 大連埠頭積保管品に對する保險復活交渉は滿鐵會社仲介者となり荷主と保險會との間に保險會社九割荷主一割分擔保險するの條件を以て往復しつゝありしが二十五日保險會は九割を全然拒絶して七割五分保險が若くは損害後三十日間に於る最低相場に依り評價するならば八割の保險契約に應ずべしとの旨回答し態度極めて強硬にして交渉前途は漸く重難ならんとす。(二十七日、朝日)

▲奉天金融統一 (奉天特電二十七日發) 張督軍は奉天省金融機關統一の爲に大英斷を施し整理の見込なき殖邊銀行に對しては營業禁止を命じ又商業華富兩銀行を東三省の官銀號に合併する事とせり。(二十九日、日)

▲米船建造調印 (二十七日北京特派員發) 支那政府は上海船塢にて米國往來船一萬一千噸級の汽船四隻及其他的汽船八隻は隨意として總計約三千萬弗にて建造するの契約盛寧頓に於て管船局と支那代表との間に調印されたり。

△別報 (二十六日國際社華盛頓發) 米國船舶管理局長は曰く支那代表者は今開始めて締結せられたる米支兩國間の造船契約に調印したり契約の規定に據れば支那政府は上海に於て一萬噸の鋼鐵汽船四隻を建造し若し支那に於て意あらば更に同形の汽船八隻を建造すべく此の總工費三千萬弗なり。(三十日、朝日)

▲殖銀借款計畫 (二十八日長春特派員發) 一時休業の體なりし殖邊銀行は本店との關係を離れ日本財團より五百萬圓の借款を爲し整理改革業務刷新を圖る計畫なりと。(三十日、朝日)

▲米支關係敦厚 (華盛頓電報二十七日發ロイタル) 米國船舶局長は國務省を經由して支那政府に電報を送りて曰く今同支那政府が上海に於て米國船の建造を引受けたる米支間の友好關係を益々敦睦ならしむべきを確信すと國際通信。(三十一日、日)



支那

第九卷第七十號

要目

論說	防穀稅の撤廢(上)……………	一—四
資料	浙江地方實業銀行事情……………	五一—一
	滿洲に於ける諸工業(一)……………	一一—二一
雜錄	支那の關稅政策問題(一)……………	二二—二五
	世界的支那問題と其解決案上……………	二六—三一
彙錄	清華學校留學生……………	三二
	米國政府の對支借款策發表……………	三三
	支那絹糸廠統計表……………	三三—三四
事業界	支那事業界近況……………	三五—三六
半月史	半月間の支那重要事件……………	三七—四〇
雜錄	支那最近時事要項……………	四一—四四
彙報	支那關係諸報道……………	四五—五七

東亞同文會調查編纂部

支店出張所

臺灣
基隆 臺中 嘉義 臺南 打狗
宜蘭 淡水 新竹 桃園 阿猴
臺東 花蓮港 澎湖島
内地
神戸 大阪 横濱 東京



株式會社

臺

灣

銀

行

(北臺)

支店出張所

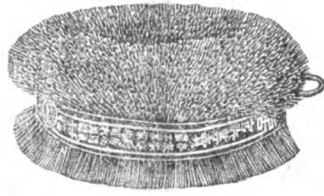
支那
上海 九江 漢口 福州
厦門 汕頭 香港 廣東
南洋
新嘉坡
歐米
倫敦 紐育
孟買
スラバヤ
スマラン
バタビヤ

註
冊



商
標

賣 專



許 官

仙鶴牌束子

製造
發售
本 舖

大日本東京
西尾商店

本舖開設以來研究多年專造束子遠近名馳嚮請官許專賣此貨用鐵絲編椰子纖維而成之價值格外從廉堅牢無比兩面均可耐久使用銷路日見增加輸出外國實為不鮮各家庭各工場以外一切從農工漁業者代用刷子一日亦不可缺之要品也其用途廣大必贅述凡掃除洗刷等等非用此品不可於各家廚房洗刷一切最為清潔衛生早一日用之則有一日之利實為理想的要品特此謹告即請購備為荷
請立刻函致本舖試用實為至盼

榮光の上買御省内宮賜

專賣特許

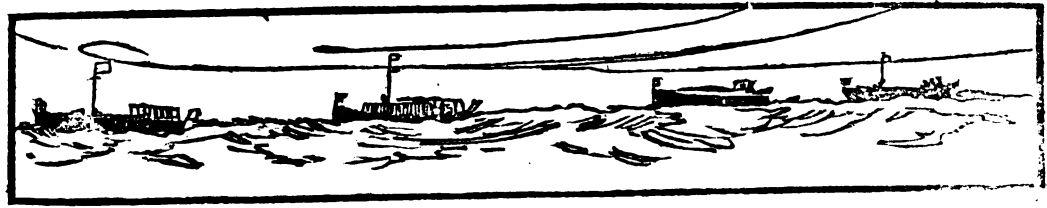
仙鶴牌束子（龜の子束子）の用途は頗る廣汎にして厨所用に限らず百般の工業養產畜產漁業船舶用其他ブラシ代用の洗滌器として需用益々擴大し尙海外に輸出せらる

東京市本郷區眞砂町

本舖

西尾正左衛門 店

電話小石川 九五二番
九五三番
振替口座東京六六〇八番



大正七年九月一日發行
「支那目次」第十九卷第十七號

論 說

防穀稅の撤廢(上).....

四

資 料

浙江地方實業銀行事情.....

五

滿洲に於ける諸工場(一).....

一二

雜 錄

支那の關稅政策問題(一).....

二二

世界的支那問題と其解決案(上).....

二六

彙 錄

清華學校留學生.....

三一



米國政府の對支借款策發表

三三—

支那絹糸廠統計表

三三—三四

事業界

上海ドック會社營業成績、樺洋人壽保險公司營業成績、華僑有限公司開業

三五—三六

半月央

廣東國會開議、新國會の開院、法王廳公使問題、金券條例及幣制局

三七—四〇

時報

(政治)

馮總統の辭職聲明、南北妥協提議、參議院解散、支那商標施行細則、科布多危急

(經濟)

豫算整頓計畫、湖北と外債、新華銀行株主總會、湖南省六月分政費、山西の造幣廠、湖北省の茶稅

(實業)

龍煙鐵礦近況、七月分許可鐵產

彙報

四五—五七



大正七年九月一日

第九卷 第十七號



○防穀稅の撤廢（上）

一

日支新聞紙の報道する所に據れば、帝國政府は支那政府に對し、江蘇省内に於て、米穀を買入れ、之を日本に輸入することにつき懇談したるに、支那政府は帝國の現狀を諒とし、二百萬石を限り、輸出解禁することに決したるも、上海商業會議所に於ては之が爲め、省内米價の騰貴を來たし、一揆を激成すべき虞ありとし、反對を試みつゝありと。支那に於て今尙ほ中世時代の防穀思想猛烈なるのみならず、我邦に於ても亦外米輸入増加が、本邦農家を衰靡せしむべしと爲し、支那防穀令の撤廢を喜ばず、今回米價暴騰し、一升五十錢を唱へ、所在米一揆の勃發を見るに至りたるに拘らず、尙ほ米穀輸入稅撤廢を肯せざるものある程なり。吾人は豫てより防穀令撤廢の、支那に有利なると同時に、我邦に有益なりとの意見を持するものなるが、此機に於て重ねて防穀令撤廢の彼我に利益あることを述ぶる徒爾ならざるを信するなり。

二

支那は昔時より防穀令なるものを敷き、單に米穀の國內輸出を禁止するのみならず、時としては督撫の命令により省外輸出を禁止することあり、一八五八年天津條約締結せらるゝ際、内地生産たると外國輸入たるとを問はず、米及其他一切の穀物は、之を外國に輸出することを禁止すべきことを規定し、明治四年及明治二十九年の日清通商條約内に於ても亦、米穀輸出禁止の趣旨を明定しあり、船内水夫船客の食用に供するもの以外、殆んど輸出することなく、唯大正元年本邦米價が每石二十圓に暴騰せしとき、三井物産會社に對し、每石二兩の報効金を徴し、江蘇米二十五萬石を、同一兩五錢を徴し安徽米四十萬石を、矢部氏に對し四十萬元を徴し安徽米三十四萬石の輸出を特許せることありしのみ、支那の輸出を禁止する理由は、國內の在米高を豊富にし、饑饉其他の原因より生ずる米價の騰貴に備へ、内亂の起ることを防がんとする趣旨に外ならず、此政策は嘗て日本朝鮮は勿論、歐洲諸國に於て用ゐられたるものにして、交通不便にして世界經濟の行はれざる時代には必要なりしならんも、今日に於ては不必要なるのみならず、之が爲め支那農家に與ふる不利益少なからざるを見るなり。

三

支那農家の所得幾何なりやは、明確なる統計なきを以て之を確知し難きも、南滿洲に於て二百畝(約我十二町歩)を有する中流農家の一ヶ年の收支左の如しと云ふ。(南滿洲鐵道會社の調査)

	自作農			全部小作			一半自作 一半小作		
	資本	收入	支出	資本	收入	支出	資本	收入	支出
純益	六、〇一〇元	九八五元	〇、六八二元	五、五五〇元	二七〇元	二二〇元	六、〇一〇元	七七六元	四四四元
			三四三元 <small>(資本金に對し五分七厘)</small>			五〇元 <small>(資本金に對し九厘)</small>			三三一元 <small>(資本金に對し五分五厘)</small>

收入斯の如く少きを以て、滿洲農民は、生計困難にして粗惡なる綿布を織ひ、高粱と豆腐とを常食とし、陋屋に起臥するに過ぎず、滿洲は人口少く土地廣きに依り、農家の所有地大なるを得るも、人口稠密なる楊子江沿岸に於ては、二三百畝を有するものは大農にして、一百畝を有するものは一村一二家を限り、三五十畝を有するものは中農にして、小農は數畝を有するのみ、其收入も亦甚だ少く湖南の俗諺に『有錢買田地一串文。每錢只可牧利息錢三十文』とある位なり。支那農民生活程度の低き想見するに餘りありと謂ふべき也。

四

支那農民の所得少く、其生活程度の低き原因は、種々あ

るべきも、其收穫少くして穀價の低きこと重要なるべきものたるは論を待たざるなり。我邦は農業の改正日に進歩し明治二十四五年頃は、一反歩の收穫全國平均一石四斗なりしが、漸次増加して最近一石八斗を算するに及べり。然るに、支那にありては、一反歩の收穫平均一石内外にして我邦より遙かに少く、滿洲に於て支那舊式の耕作法を用ふるものは、一反歩に於ける穀の收穫上田一石五斗下田九斗なるに、新式耕作法を用ふるものは、上田三石六斗下田一石八斗なりと、其穀價の如きも上海の如き大都會にありては、我一石十一圓五六十錢に達すべきも、田舎に至るに従ひ益々廉にして、蕪湖漢口に至れば七圓四十錢乃至八十錢に下り、更に南昌易俗河に至れば五圓二十錢乃至五圓六十錢に下る、斯の如く一反歩に於ける收穫少くして、穀價も亦低きものなれば、其所得少く、生活程度の低からざるを得ざる也。

五

支那農家の收穫少く、内地に至るに従ひ、穀價益々低き理由如何、請ふ吾人をして之を研究せしめよ。惟ふに農家の收穫少き理由凡そ三あり、支那農民一般に無知にして、種子の選定に注意を怠り、收穫の時に當り、好良なる穂を選び之を播種に供することを爲さず、貯蔵せる穀の内より一定量を浸種するに過ぎず、病蟲害豫防驅除の方法は殆んど論することなく、一切自然に放任するのみ、其他肥料の如きも手近に得易き有機質のみを用ひ、無機質を用ふること

なく、土壤の性分如何を顧み、肥料を斟酌することなし、是れ其收穫少き第一の原因なり。資本の缺乏し、適當なる農具を買入れ、土地の改良を計り、善良なる肥料を用ふる能はず、是れ其收穫少き第二の原因なり。多額の收穫あるも、之を輸出して利益を博するの機會乏しく、特に多量の收穫を得んと努力することなし、是れ其收穫少き第三の原因なり。内地に赴くに從ひ、穀價の特に低き原因を考ふるに亦三あるものゝ如し。支那農家は其生産せる穀類を以て、直ちに消費者又は米商に販賣すること能はず、必ず米行の手を経ざるべからず、米行とは支那官憲の特許に依り、米穀買賣の仲買を爲すの權を有し、安く農民より買入れ、高く米商に賣り込み、利益を壟斷し、之を如何ともする能はず、是れ内地に於ける穀價の特に低き第一原因なり。支那には常關殊に厘金局なるもの設置せられ、之を通過する貨物に課税し、關局を通過すること多きものは、課税も多き勘定なるを以て、奥地の穀物は、大都市に出づること能はず、是れ其内地に於ける穀價特に低き第二の原因なり。米穀の海外輸出嚴禁せられ、往々省外輸出も亦自由ならざるを以て、穀物の販路勢狭少なざるを得ず、是れ其内地の穀價特に低き第三の原因なり。故に若し支那政府にして、米行の特權を廢し、厘金局常關を撤し、海外輸出の業を解かば、支那内地に於ける米價は、都會と均衡を保ち得る程度に於て騰貴し、農家の經濟漸次餘裕を生じ、資本を土地に放下し、多量の生産を努め、農業も亦改良せられ、農民の生活程度も亦向上せらるべきなり。されど、米行の特

を廢し、厘金局を撤することは、支那財政上少なからざる打撃にして、容易に實行し得べからざるものなるも、防穀令の解除は、一片の法令發布に依り、何時にても實行し得べく、而して其農家の收穫を増加し、内地に於ける穀價をして都會と均衡を保たしむるの効大なるものなれば、支那政府たるもの、斷然實行せざるべからざるなり。支那經濟界の先覺者たる上海商業會議所が、今回米穀一百萬石の、日本輸出解禁に對し、苦情を唱ふるは、吾人の大に解せざる所にして、此機に際し、防穀令の撤廢を絶叫するの、寧ろ當然たることを思はずんばあらざるなり。



寄贈書目録

ヘラルドオブアジア	大陸公報	通商公報	日華之實業	紙之世界	實用新案公報	特許公報	朝鮮彙報	新著書	地學雜誌	銀行社記事	外事彙報	宮城縣教育會	上海港輸出入貿易明細表	日本及日本人	東洋經濟新報	會	商工彙報	報	月	帝國鐵道協會會報
ヘラルド社	東亞技術同志會	外務省通商局	其	其	特許局	特許局	朝鮮總督府	日本貿易協會	丸善株式會社	東京地學協會	銀行社	外務省政務局	其	日本人實業協會	政教社	其	南滿洲教育會	其	其	其
自二〇號	至二二號	五一號	自五四三號	至五四六號	八月號	四九九號	二九〇號	四三號	八號	三五六號	九四號	六號	二五二號	三三三號	七三六號	自八二三號	至八二四號	一四號	八號	八號
六九號	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其	其



資料

浙江地方實業銀行事情

浙江地方實業銀行は當初、浙江銀行と稱し浙江官錢局を變更して純然たる商業銀行となし、官商より其資本金を籌出して、官商の合同經營となしたるものなり、其資本金は一百萬元にして、之を一萬株に分ち、内六千株即六十萬元は官より之を支出し、殘餘の四千株即四十萬元は之を一般商民より募集する豫定なりしが、民有株は全部の拂込ありしも、官株は未拂込額二十九萬八百元あり、依て省庫より同行預入の綱捐三十萬元を永久預入れおき、以て右不足額に充つることなし居れり、其營業を監理する爲官より一名の監理官を派して、銀行一切の事宜を司らしめ、別に株主より總理、協理、董事等を選舉し、各々分任して營業經營に就き監理せしむ。

該銀行の主なる業務は、浙江官錢局の辦理せるものと大差なし、即ち商業銀行と全く相同じく(一)短期貸付、(二)

各種預金、(三)各種手形の割引、(四)送金爲替及荷爲替、(五)手形の代理取立等を經營すると共に、設立を奏報せる文に見るが如く現時浙江省に流通せる貨幣は墨西哥弗又は英洋銀元にして其流通已に久しく、人民の慣用する所たれば、若し是等の兌換券を發行するに於ては、浙江省財政の權は、外人の手に掌握せらるゝに至るべし、故に本銀行に於て浙江省流通の銀錢票を發行し、利權の外溢を未前に防正せんとし紙幣の發行をなすにあり、其章程次の如し。

浙江銀行章程

第一條 本銀行を浙江省城に設け地方經濟を維持し兼て實業の提倡を爲し名けて浙江銀行と稱す

第二條 本銀行は官民合同經營と爲し資本金額庫平銀二百萬兩とし二萬株に分ち一株を一百兩とし官民各一半を負擔す

第三條 本銀行は有限株式會社にして若し本銀行に缺損ある時は各株主は所有株以外に其責任を負はす

第四條 本銀行は兌換券を發行することを得而して其準備金は發行額十分の六以下なるべからず

第五條 本銀行發行兌換券は市場に通行する外各種納稅官金出納等によつて通用するを得

第六條 本銀行若し市場金融逼迫の時には官金の接濟を願出つ可く此種の社債に關しては相當利息を支拂ひ尙ほ短期を以て支辨すべし

第七條 本銀行は銀行通行則例を遵照し同一地方に於ける同業者の危險に遭遇し一時運轉する能はざるものある時は若し實際の營業の缺損に屬するものならば該同業者より巡撫に申請し巡撫より本銀行に命令あるを俟ち本銀行之を調査の上臨時株主總會を開き以て資金の融通若くは保證を爲す

第八條 凡そ浙江省に於ける各實業會社に關し經理人確實にして相當資本を有するものなる時は本銀行は十分調査の上資金の融通をなし以て實業の發達を補助す

第九條 本銀行營業年限は大清銀行辦法に照し開業の日より起算し三十年を以て滿期限と爲し滿期後再び延期するや否やは株主總會により議決す

第十條 本銀行印鑑一箇あり奏辨浙江銀行關防と記し監督の所管に屬し一切の公文に捺用し尙ほ一箇浙江銀行總理圖章とせるものあり總理の所管に屬し凡そ營業事項に關し之を以て證印となす

第十一條 凡そ本銀行株券を購求し株式に加入せるものは即ち本銀行の株主にして皆本銀行章程を遵守すべし

第十二條 本銀行は外國人の株式加入を認めず株式加入者の各姓名字族籍を書明し加入後は其株券を外國人に轉賣することを不得す

第十三條 凡そ加入者は申込の日に株金を拂込領收證の交付を受け株券及利札の刊成を俟ちて再び引換を受くべし

第十四條 本銀行株金利率年六分とし株金拂込の次日より滿一箇年間無利息とし以後毎年利息を支拂ふ

第十五條 本銀行再び株式募集を爲す時は舊株主中應募者なき時新株主を募集す

第十六條 凡そ株主たるものは本銀行營業期限内に於ては株金を引出すことを得ず

第十七條 凡そ本銀行株券を他人に賣渡し若くは讓與せんとする時は株券の裡面年月日を示し記名調印の上隨時本銀行に報告して登録に便すべし

第十八條 株券を紛失せし場合には直に本銀行に報明し且つ新聞に廣告し三箇月後確實なる保證に依り再下附を爲す

第十九條 本銀行營業種目左の如し

甲、貯金 乙、貸付 丙、爲替
丁、割引 戊、兌換 己、手形

庚、兌換券發行 辛、此他銀行條例に關する事項

第二十條 前條各種營業細則は別に之を規定す
第二十一條 本銀行株主總會は定期臨時の二種に分て皆取

締役より招集す

第二十二條 定期總會は毎年春夏二回之を開き臨時總會は左記の場合に之を招集す

一、頭取、副頭取、取締役若くは監査役が本銀行緊要事件と認むるものある時

二、總株數の十分の一以上の株主一人若くは數人理由書を付し開會を請求する時

第二十三條 會期、會場及討議事項は會期の十日以前に於て各株主に通知す可し

第二十四條 株主總會は全株主數の一半總株數の一半及役員的一半以上の出席により開議するを得但し如上數に満たずと雖とも多數株主の意見相同じき時は暫く會議を開き各株主に報告す

第二十五條 株主總會開會の時は取締役首領議長と爲り或は別に株主中より選舉することあり

第二十六條 株主總會に於ける議決權は一株に付一議決權を有し十一株以上は五株に付一議決權とし但一株主二十五議決權を越ゆることを得ず

第二十七條 會議は來會者議決權の過半數を以て議決を爲し可否同數の時は議長に依り之を決す

第二十八條 株主中出席する能はざるものある時は代理人を以て議決權を行使するを得但し委任狀は會議當日の三日前に本銀行に送達す可し

第二十九條 株主總會議決事項は書記により株主總會議事録を作成し議長及取締役記名調印の上本銀行に保存す

第三十條 株主總會議事と株主個人と相關連するものある時と雖とも該株主は會議に列するを得

第三十一條 本銀行は株主總會職員會の外毎年開業の始め職員株主會を開くものとす

第三十二條 乃至第四十九條は職員に關することに付略す

第五十條 本銀行帳簿は毎月小決算を爲す尙ほ毎年一回年度決算を爲し監督、副監督、頭取、副頭取、取締役、監査役は各司帳人を督同し決算對照表を作り各株主に報告す

第五十一條 凡そ年度決算の時は監査役は一切帳簿を詳査し錯誤なければ決算表上に其旨記明し捺印して證據と爲す

第五十二條 年度決算の時は年内金銀出入對照表を作成し新聞に廣告し各株主に分送し且つ本銀行に存して検査に備ふ

第五十三條 年度決算の結果獲たる純益は百六十分し二十を以て積立て百を株主利益とし殘四十を監督以下役員及事務員の報酬及賞與と爲す

第五十四條 略

第五十五條 凡そ株主中本銀行帳簿を臨時檢閲せんとする時は全株數の三分の一及株主十人以上の同意を必要とし備に理由書を具し本銀行に請求すべし

第五十六條 本章程は本銀行開辦の日を以て施行の期と爲し若し修正増補を要する時は株主總會の議決を經巡撫の許可を得且つ度支部に報明す可し

元浙江銀行は清末以後の浙江銀行を改組して民國元年

月開業せるものにして全省の金庫を經理し、元純然たる省立銀行の性質を有し、浙江、上海等に於て紙幣を發行せり、後民國三年秋中國銀行杭州に分行を設くるや、該行は金庫事務を舉げて中國銀行に移し、爾來専ら實業銀行として工業商業の補助となすこととせり、其時偶政府紙幣を統一せんとするの計畫ありしより、本行亦率先中國銀行紙幣を領有して、之れを流通せしむることとし、經理李馥蓀氏四年春入京し、中國銀行と契約の上、浙江銀行の新發紙幣は全部回收することとせり、第四期決算の時迄に發行せる中國銀行兌換券は合計百四十四萬八千七百元あり、中國銀行に存する準備金八十萬四千元なり。

民國四年より浙江地方實業銀行と改稱し、杭州に本店を上海、海門等に支店を置き、上海に於ては他の中國交通銀行等と共に、上海公棧を設け、又杭州に於ては東棧と稱する倉庫を設け、専ら生糸、綢緞を抵當として預り、これに對し資金の融通をなすの途を探れり、現在の職員次の如し。

董事	朱葆三	朱曉雨	樓映齋
	胡濟生	王湘泉	顧竹溪
	周季綸	袁仲符	
稽查員	吳燦麟	銖新之	
上海店經理	李馥蓀		
杭州店經理	何敬安		
海門店經理	韓慰棠		

營業狀況

浙江地方實業銀行の民國六年營業利は、洋十一萬一千

二百五十四元にして、十二月末決算報告によれば定期預金は四十三萬八千元、當座預金一百九十九萬九千餘元、發行兌換券百五十餘萬六千餘元にして、之を上半期決算と比較すれば、發行額は約十餘萬元を増し、中國銀行預入れ準備金は八十七萬四千元あり、之を兌換券發行額に比すれば約五割五分にして、上半期決算よりも七萬元の増加なり、即ち之に依て該行兌換券發行の増加に従て、準備金も増加せるを觀るべし、十二月末に於ける該行貸出は、百二十八萬八千餘元抵當貸付百二十八萬九千餘元、兩者合計を上半期末に比すれば二十餘萬元の増加なり、浙江銀行貸付の本期回收せるもの三千一百餘元、又本期利息收入も、亦前期に比し、二萬餘元を増加せり、該行は儲蓄處を特設して以來、資本金中より十萬元を支出して、資本に當て、同時に章程十一條を規定して、財政部の許可を得、杭州及上海の兩處に同時に開業し、別に會計を立て、相混合せざる事となしたるが、今回の決算に於て兩處共に一千餘元の利益を擧げ、更に定期預金一萬六千元、當座預金四萬八千餘元を有し、並に章程の規定に遵據して、預金の四分の一を以て、內國公債券三萬元を購買し、之を杭州中國銀行及び上海興業銀行に分托して、保管し、以て信用を昭にせり、昨年の配當は毎株二元なりといふ、今該行第五期決算報告に據り、其の營業の概況を記せば左の如し。

杭州本店―該行の營業計畫は信用貸付を減少し、抵當貸付を増加するを以て、目的とするが故に、東倉庫を擴張し擔保品の收容に便利ならしむるに努めつゝあり、同行は東棧

(東倉庫)の外に湖墅に以前一の米棧(米穀倉庫)を有したりしも、其地位宜しからず應用に適さざりしが故に、湖墅仁和倉庫跡を買取り、之に修復を加へて、穀類倉庫に使用し、名づけて北棧となし、昨年八月中開業せり、爾來米の倉入をなすもの、該貨物を擔保に借入をなす者、漸次増加しつゝ有り、同行は棧漕江を上下する貨物にして、必ず通過すべき地點にて、而も貨物を收容する倉庫を有せざる點より、開口の家屋を購買して、倉庫となし、之を南棧と名づけ、十月中開業し、現に一般貨物及擔保貨物を相當に收容せり。

本期該行の抵當貸付、及同業貸付は、共に前期に比して多く、所有中國銀行兌換券發行額も、亦稍や増加せり、甯波獨立事件發生の際には、預金に多少の動搖ありたるも、間もなく原狀に復歸し、今回の決算に於ては、營業器具家屋其他の減價償却を控除したる外に、純益三萬八千二百餘元に達したり。

上海支店——上海市場は歐戰の影響を受け、船腹減少し、輸出入貨物均しく停滯し、各業不振なりしに加へて、八、九月中銀塊相場異常の昂騰をなして、現銀更に多額の流出ありたる等、此兩種の原因ありて、金融は殊に恐慌を呈したるが、該行は此市況に際し、一意準備に重きを置き、現銀を豊富ならしめ、以て信用を加ふるに努めたりしを以て、敢て多くの貸付をなさず、其他一切の取引に慎重の用意を以て、健實なる營業をなすことを方針とせり、而して其舊時の建物は、既に多年を経、且つ營業の用に合はざるが故

に、更に増築を行ひ、顧客の便利を加へたり、將來時局にして安靜に歸せば、同行の營業の發展は、必や見る可きものあるべしと期待せらる、本期決算に於ては、銀行手形、印刷費、行用器具及び家屋建築費等を控除して純益一萬五千餘元なり。

海門支店——海門は六年度は漁業甚だ旺んにして、秋期收穫も亦豐作なりしが故に、市面甚だ活潑を呈し、該行營業は前期に比して増加をなし、純益一千六百餘元なり、今浙江地方實業銀行第五期收支及貸借對照表を參考のため表示すれば次の如し。

貸借對照表(民國六年十二月末)

負債の部

資本金	一、〇〇〇、〇〇〇
特別積立金	二六、一八八
一般積立金	二五、七六五
定期預金	四三八、〇四二
當座預金	一九九五、九〇一
票 存	二、八五八
兌換券	一、五四六、三九〇
暫 存 款	五七、〇二六
未拂株利	八五三
上期純利	五六、二一一
本期純利	五五、〇四二
計	五、二一三、二七九

資産の部

未拂込株金	二九〇、八〇〇
有價證券	三二〇、七九二
銀行錢莊貸	四四一、七九八
往來放款	一、二八八、二四八
抵當貸付	一、二八九、二二八
浙江銀行貸	八一、四八二
中國銀行預	八七四、〇〇〇
銀行手形印紙費	一〇、〇〇〇
家屋地產	一一二、三六九
儲蓄處資本	一〇〇、〇〇〇
上海倉庫資本	六八〇
現金	四〇三、七七八
計	五、二二三、二六九

收支決算表	
收入	
利息	八二八、九三八
升水	三、七七四
房地產收入	六九六
口錢	七九
計	九一、四八八
支出	
總務處經費	四、五四三
各種支出	二三、九八一
減價償却	七、九二〇
本期純利	五五、〇四二
計	九一、四八八

次に同行歷年資産負債表次の如し

期次	積立金	特別積立金	定期預金	當座預金	票	存	兌換券發行高	暫時預金	本期純利
五年上半	三〇、五九	一五、五六	二八四、〇二四	一二六、八七一	六六四六		六六、九六〇	五〇、四三	五、七六
五年下半	一七、八七一	二七、七四	四三、一八〇	一九七、七三六	五二		七六、〇三三	二、五九一	五七、一五
六年上半	二、七三	二五、六八	四六、二六五	二二、六六六	一七、九		一四、八七〇	五、七七一	五、二二
六年下半	二五、五五	二、一八	四三、〇四二	一九五、九〇一	二八、九		一、四六、三九〇	五、七〇三	五、〇四二

(註)特別積立金は元二十萬元あり、官廳が該行を實業銀行に改組し、發行權を取消すにつき獎勵金として與へしものにして、専ら從來の浙江銀行並中華民國浙江銀行の舊缺損を填補するの用に充つるものなり、實業銀行成立前には舊缺損は浙江銀行貸付金項下に劃入し、清理に従事し、損失あれば特別積立金中より支辨せり、之該積立金が年々減少する所以なり

財 産 の 部

期 次	有價證券	銀行匯通 貸出預金	當座貸金	抵當貸金	中國銀行預 入準備金	土地家 屋器具	公株資本	現 金
五年上半	二四、九三	一五、九五	九四、二六七	一〇七、五三	二九四、〇〇〇	四三、〇七五	六八〇	二〇四、八四〇
五年下半	二六、三七五	三四六、三八九	一二、〇五八	一二、三、五九七	三五〇、〇〇〇	九二、二七九	六八〇	四三九、五四五
六年上半	三〇、八五六	五四、八八五	一二、九二四	一二、四八、一九五	八四四、〇〇〇	九七、六七三	六八〇	六八一、五八二
六年下半	三〇、七九二	四一、七九八	一二、八八二四八	一二、八九、二三八	八七四、〇〇〇	一二、三六九	六八〇	四〇三、七八



滿洲に於ける諸工場

諸工場の一 (關東州内)

大正五年末日現在

工場名	所在地	設立年月	資本金	職工		製造品	種類	数量	價格
				日本人	支那人	計			
雙福窯	大島町	明治四十年五月	六〇四	一	一、五〇〇	一、五〇〇	煉瓦	六、〇〇〇	三四
柏木鐵工所	大島町	同四十二年七月	三、〇〇〇	七五	一、六〇〇	二、三五〇	建築材料	?	八〇〇
順記窯	大島町	同四十一年十月	四〇〇	一	一、二〇〇	一、二〇〇	煉瓦	六、〇〇〇	三〇〇
福裕窯	大島町	同四十一年三月	三〇〇	一	一、二五〇	一、二五〇	煉瓦	六、〇〇〇	三〇〇
旅順醬油釀造合名會	朝日町	同四十二年四月	二五、〇〇〇	二	八	一〇	醬油	一、七五三	一、六七九
張乃城	三淵堡會	同四十二年五月	五五	一	四〇	四〇	石灰	四、〇〇〇	三
天興窯	三淵堡會	同四十二年五月	六〇〇	一	九八〇	九八〇	石灰	二九〇、〇〇〇	一、七四〇
安源窯	三淵堡會	同四十二年五月	五五〇	一	一、〇九〇	一、〇九〇	石灰	三三〇、〇〇〇	一、九二六
武田煉瓦工場	方家屯會	同四十二年七月	三〇〇	一	一、五〇〇	一、五〇〇	煉瓦	九六、〇〇〇	四八
吉村商店	乃木町	同四十四年四月	八、〇〇〇	一	八、二〇〇	八、二〇〇	煉瓦	二、六八、〇〇〇	三、四九
野間鐵工所	乃木町	同四十二年五月	一、五〇〇	一	一〇	一三	建築材料	?	二、三〇〇
旅順石鹼製造所	乃木町	大正二年六月	一、〇〇〇	一	二	二	石鹼	二七、六七〇	二、八九
潘殿臣	同	同三年一月	一〇〇	一	二	二	酢	四	八四
子鴻達	同	同三年一月	四〇〇	一	一	一	黃酒	二五	一、二四
王効義	同	同三年一月	六〇〇	一	一	一	黃酒	三四	一、五二
史潤廷	同	同四年一月	四〇〇	一	一	一	黃酒	一六	九五

順				大				連			
王 緒 德	裕 盛 寓	蕭 心 田	滿洲機織工場	順慶業合名會社	滿洲耐火煉瓦工場	大口井再製鹽工場	南滿製帽會社龍	合計(工場數二五)	莊石灰工場	營口煉瓦製造所奥水子工場	玉置硝子工場
白 金 町	三 洞 堡 會	白 金 町	鎮 遠 町	金 比 羅 町	桃 園 町	方 家 屯 會	伊 地 知 町	同	同	同	同
同 四年 一月	同 四年 三月	同 四年 八月	同 五年 一月	同 五年 四月	同 五年 六月	同 三年 十月	同 五年 九月	明治三十八年十月	同 三十九年 三月	同 三十九年 五月	同 三十九年 九月
100,000	170,000	200,000	200,000	300,000	500,000	900,000	100,000	101,700	2,000,000	7,000,000	2,500,000
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
石 灰	黃 酒	石 灰	黃 酒	瓦	耐 火 煉 瓦	耐 火 煉 瓦	再 製 鹽	石 灰	煉 瓦	硝 子 器	石 灰
(石)	(石)	(石)	(石)	(打)	(打)	(打)	(打)	(打)	(打)	(打)	(打)
2,000,000	2,000,000	2,000,000	2,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000
1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000	1,000,000

大															
玉昌合油房	公成玉油房	泰來油房	中堂洋行	巴商行	石田煉瓦工場	成順和油房	晉豐油房	株式會社川崎造船所 大連出張所	安惠棧油房	日清豆粕製造株式會社	振成油房	裕增和油房	政記油房	同聚厚油房	怡和東油房
小崗子	小崗子	小崗子	能登町	小崗子	朝日町	小崗子	小崗子	濱町	小崗子	軍用地區	軍用地區	小崗子	小崗子	軍用地區	小崗子
同四十年十一月	同四十年十一月	同四十年十二月	同四十年一月	同四十年一月	同四十年四月	同四十年六月	同四十年六月	同四十年七月	同四十年七月	同四十年七月	同四十年八月	同四十年八月	同四十年十月	同四十年十月	同四十年十月
一五,000	一五,000	一五,000	七,000	七,000	三,000	三,000	三,000	一〇,000,000	三〇,000	七五,000,000	四〇,000	三〇,000	七五,000	二五,000	二五,000
一	一	一	三	二	六	一	一	九	一	二	一	一	一	一	一
三	三	三	八	七	七	七	一〇〇	一五〇	五〇	二四〇	六五	五〇	六〇	七〇	四五
豆	豆	豆	海味	海味	瓦	豆	豆	修造船 船及	豆	豆	豆	豆	豆	豆	豆
油粕	油粕	油粕	油	油	煉	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕
(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(真) (石)	(真) (石)	(真) (石)	(真) (石)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)	(斤) (枚)
一七,〇〇〇	一四,〇〇〇	一五,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇	一五,〇〇〇

連									
忠盛和油房	小崗子	同	四十二年一月	三,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
德興成油房	小崗子	同	四十二年一月	三,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
吉田油房	軍用地區	同	四十二年二月	五,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
順興鐵廠	小崗子	同	四十二年五月	七,000	諸機補製	造及修繕			二五,000
滿洲石鹼製造所	加賀町	同	四十二年六月	五,000	八	洗濯石鹼		?	二五,000
小野田セメント製造株式會社大連工場	泡典子水崖子	同	四十二年六月	一,000,000	三	セメント	石	(斤)(枚)	九,000,000
三泰油房	軍用地區	同	四十二年六月	一,000,000	二	豆	油粕	(斤)(枚)	一,000,000
池田醬油釀造場	西通	同	四十二年七月	三,000	二	醬油		(石)	二五,000
福元油房	軍用地區	同	四十二年九月	三,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
恒昌公油房	軍用地區	同	四十二年九月	二六,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
同泰油房	軍用地區	同	四十二年九月	二五,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
裕成東油房	軍用地區	同	四十二年十二月	二七,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
豐成油房	軍用地區	同	四十二年十二月	三,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
同聚祥油房	小崗子	同	四十二年十二月	六,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
德聚禮油房	軍用地區	同	四十二年一月	四,000	豆	豆	油粕	(斤)(枚)	二五,000
大連煉瓦合資會社	王家屯	同	四十二年三月	三,000	煉瓦			(萬)	二五,000

大														
小川洋行第二釀造場	三太利油房	東永茂油房	鳥羽洋行鐵工所	萬玉洋行石鹼工場	小寺油房	和生祥油房	雙聚福油房	福順裕油房	達昌油房	成裕昌油房	聚成祥油房	中村鐵工所	恒昇油房	柳工場
安藝町	小崗子	軍用地區	近江町	松林町	軍用地區	軍用地區	小崗子	少崗子	軍用地區	軍用地區	軍用地區	西通	軍用地區	三春柳
明治四十三年三月	同 四十三年五月	同 四十三年五月	同 四十三年八月	同 四十三年九月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月	同 四十三年七月
15,000	30,000	30,000	15,000	30,000	28,000	28,000	30,000	30,000	15,000	30,000	40,000	15,000	30,000	10,000
1	1	1	3	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
7	3	3	4	6	1	6	5	4	4	7	7	6	4	2
八(糖球)	豆	豆	諸機重製	石鹼	豆	豆	豆	豆	豆	豆	豆	諸機重製	豆	煉煉
油膏	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕	油粕
(石)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)
2,000,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000	1,950,000
11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500	11,500

連																			
乾聚和油房	福島製鐵工場	廣永茂油房	山口製材所	精工舎	德豐和油房	昇源油房	ソーライト製造工場	丸太商店	信昌東油房	新順洪油房	瀝泉湧燒鍋	福順成油房	和盛利油房	齊藤油房	萬慶長油房				
軍用地區	敷島町	小崗子	近江町	八幡町	軍用地區	軍用地區	淡路町	紀伊町	軍用地區	軍用地區	譚家屯	軍用地區	軍用地區	軍用地區	軍用地區				
同三年一月	同二年十二月	同二年十二月	同二年六月	同二年三月	同二年一月	同二年一月	同元年十二月	同大正元年十一月	同四十五年二月	同四十五年一月	同四十四年七月	同四十四年七月	同四十四年七月	同四十四年七月	同四十四年十月				
一九,〇〇〇	一〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	四,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	一〇,〇〇〇	四,〇〇〇	三〇,〇〇〇	三三,〇〇〇	六,〇〇〇	二〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇				
一	二	一	二	一	一	一	一	三	一	一	一	一	一	一	一				
六五	二三	五〇	三〇	九	三三	六〇	二三	九	三	六〇	三	一〇〇	六五	八〇	七五				
豆	鐵	豆	製	柳	豆	豆	豆	味	豆	豆	燒	豆	豆	豆	豆				
油	燭	油	材	行	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油	油				
(枝)		(枝)			(枝)	(枝)	(磅)	(石)	(枝)	(枝)	(斤)	(枝)	(枝)	(枝)	(枝)				
一,四六,〇〇〇	?	一,四六,〇〇〇	?	?	九〇〇,〇〇〇	一,四六,〇〇〇	一,四六,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	一,七五,〇〇〇	一,七五,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇	三三,〇〇〇				
三六,六六六	七,〇〇〇	三三,〇〇〇	四,〇〇〇	九,〇〇〇	二九,〇〇〇	二九,〇〇〇	二九,〇〇〇	二,三三〇	八六,三三六	四三,三三六	九七,五〇〇	九七,五〇〇	七二,九七九	六五,三三六	四六,六六六				

大

同聚治油房	軍用地區	大正三年一月	七,000	一	三	豆	油粕	(斤)	一四,000	一四,000
義順密油房	軍用地區	三年一月	三,000	一	四	豆	油粕	(斤)	一四,000	一四,000
福田製瓦工場	黄家屯	三年五月	一,000	三	元	日本形 瓦	瓦	(筒)	一,000	一,000
木村屋製菓工場	信濃町	三年八月	三,000	四	七	ビスケット	ビスケット	(箱)	一,000	一,000
乾製藥工場	軍用地區	三年十月	三,000	三	四	甘草エツ	甘草エツ	(箱)	一,000	一,000
兒島製塋所	西王家屯	三年十月	三,000	三	三	製塋	製塋	(本)	一,000	一,000
義祥油房	軍用地區	四年一月	三,000	七	七	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
同聚永油房	軍用地區	四年一月	一,000	六	六	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
泰豐源油房	軍用地區	四年一月	三,000	六	六	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
福聚恒油房	軍用地區	四年一月	三,000	六	六	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
成德油房	軍用地區	四年一月	一,000	六	六	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
永春油房	軍用地區	四年一月	八,000	三	三	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
政興利油房	軍用地區	四年一月	八,000	三	三	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
興祥恒油房	小崗子	四年一月	三,000	三	三	豆	油粕	(斤)	一,000	一,000
今資會社仁發煉瓦工場	鄭家屯	四年四月	一,000	一	六	煉瓦	煉瓦	(筒)	一,000	一,000
大信洋行製銅所	軍用地區	四年四月	七,000	一	二	製銅	製銅	(斤)	一,000	一,000

州 金			連												
長	天	天	合計(工場数一〇三)	松尾	松原	鈴木	大運	大運	カラ	滿洲	月星	大連	鈴木	宮崎	小林
盛	登	盛		鐵工	號粉	油房	運油	運業	一商	洲皮	合資	石鹼	木油	商會	煉瓦
客	客	客		所	廠	グリセリン部	會社	株式會社	會	革商會	會社	製造所	房	煉瓦工場	煉瓦工場
高商	高南	高南		紀伊	李家	寺兒	軍川	奥水	北大	小崗	西通	對馬	寺兒	王家	李家
山會	山會	山會		町	屯	溝	地區	子	山通	子	通	町	溝	屯	屯
同	同	文		同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
元	元	化		四年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	五年	四年	四年	四年	四年
年	年	元		七月	十一月	十一月	十月	七月	三月	三月	三月	十月	九月	五月	五月
七〇〇	一〇〇	一、一〇〇	二、一〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	?	一、〇〇〇、〇〇〇	五、〇〇〇	六、〇〇〇	六、〇〇〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇	二五、〇〇〇	二、〇〇〇
				三	一	一	二	四	二	二	二	二	一七〇	三	一
三	四	四		八	三	五	四〇	六五	一八	六	一六	六	一五	八五	四五
三	四	四		天	益	益	益	益	益	ハ	ハ	ハ	一金	八	興
土瓦煉	瓦煉	土瓦煉		法瓦新清接	藏粉子	セグリンリ	礮化油	煉瓦	染料	ハボックス	ハサイダー	ハ石鹼	豆油粕	煉瓦	煉瓦
鉢	瓦	鉢		天	益	益	益	益	益	ハ	ハ	ハ	豆油粕	煉瓦	煉瓦
(箇)	(箇)	(箇)		法瓦新清接	藏粉子	セグリンリ	礮化油	煉瓦	染料	ハボックス	ハサイダー	ハ石鹼	豆油粕	煉瓦	煉瓦
九、〇〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	三、七〇〇	?	八、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五五五	五、〇〇〇	六、一〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	?	三、九、〇〇〇	二、六〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
九、〇〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	三、七〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五五五	五、〇〇〇	六、一〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	?	三、九、〇〇〇	二、六〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇
九、〇〇〇	九、一〇〇	九、一〇〇	三、七〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	一、五五五	五、〇〇〇	六、一〇〇	五、〇〇〇	七、〇〇〇	?	三、九、〇〇〇	二、六〇〇	五、〇〇〇、〇〇〇

金															
永	和	長	順	寶	永	馮	同	榮	廣	天	義	中	徐	劉	長
遠	興	興	記	興	興	萬	春	發	增	福	和	和	家	家	發
興	居	居	密	居	居	祿	館	長	盛	圖	居	居	宴	宴	宴
內金	內金	內金	七馬	內金	內金	馮馬	內金	內金	內金	內金	內金	內金	劉玉	劉玉	高南
北洲	南州	西州	里家	南州	南州	家屯	北州	北州	北州	南州	東州	北州	家頂	家頂	家山
街城	街城	街城	庄會	街城	街城	屯會	街城	街城	街城	街城	街城	街城	宴會	宴會	宴會
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	明	不	不	文
四十五年八月	四十五年四月	四十四年三月	四十二年三月	四十四年三月	四十四年三月	三十九年三月	三十九年二月	三十七年一月	三十五年十月	三十一年一月	二十年五月	二十年五月	詳	詳	化元年
五、〇〇〇	一〇〇	四〇〇	三、五〇〇	二〇〇	三〇〇	一〇〇	八〇〇	七、〇〇〇	四、〇〇〇	三〇〇	二〇〇	二〇〇	七〇〇	一、七〇〇	一、〇〇〇
八	一	一	二	一	一	二	二	四	四	二	一	一	二	五	三
八	一	一	二	一	一	二	二	四	四	二	一	一	二	五	三
荷馬車	清黃酒	清黃酒	石灰	清黃酒	清黃酒	石灰	清黃酒	荷馬車	豆油	清黃酒	清黃酒	清黃酒	薑餅類	薑餅類	瓦煉
(臺)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(臺)	(斤)(枚)	(斤)	(斤)	(斤)	(箇)	(箇)	(箇)
一〇〇	六、八七〇	九、六六〇	一四〇、〇〇〇	二、四〇〇	六、八七五	九、八〇〇	一、三、一三〇	六、三	四、五九九	一、七、六七〇	二、五、二〇〇	一、八、四〇〇	一、〇、〇〇〇	二、六、八〇〇	二、四、〇〇〇
五、七〇〇	四、八〇〇	六、六六〇	七、〇〇〇	一、四〇〇	二、四〇〇	九、八〇〇	一、三、一三〇	三、一三〇	八、〇〇〇	一、七、六七〇	二、五、二〇〇	一、八、四〇〇	一、〇、〇〇〇	二、六、八〇〇	二、四、〇〇〇



州							
合計(工場數 二六)	永 和 居	洪 盛 霧	子 湧	呂 家 遷	石 棉 採 掘 所	增 盛 綢	天 順 密
	內金 南州 街城	蘆老 虎家 山 漢會	北門 三家 樓會 庄東	前大 石魏 灰家 屯子 會	製薑 音家 閣漢 下會	馮馬 家 屯 會	高南 家山 密會
	同 五年 七月	同 三年 五月	同 三年 一月	同 二年 四月	同 二年 三月	同 二年 三月	大正 二年
圓千1100	100	200	300	500	1,000	800	800
	一	二	五	一	二五	二	三
	二	二	五	一	二五	二	三
	清黃 酒酒	瓦煉 瓦	帽 子	石 灰	石 棉	石 灰	瓦煉 瓦
	(斤)	(箇)	(箇)	(斤)	(斤)	(斤)	(箇)
	一,600 九三五	一三,000 四,000	二七八	二,000	一六,100	二,000	四,九五〇 四,〇〇〇
圓千100	二二	五四	五〇	二〇	八五五	二〇	二六



支那の關稅政策問題

保護貿易利益論に關する考究事項

——支那の特種な事情に種々なる議論——

眞箇の支那の經濟政策は、國富の増進及び産業上の獨立てふ、二個の目的に向つて導かなければならぬ。而してこの目的の實現に關しては、保護貿易の利を高唱する幾多の説がある。

第一、支那に於ける地方的經濟より轉じて國家的經濟に移らんとする過渡期に際しては、全國の行政は租稅制度と同様その統一と實効に於て未だ缺くる處が甚だ多い。國家的精神の振興を促し、國家統一を策する所のものならば、如何なるものにも翹望して已まない點が多々ある。此處に於てか保護關稅は廣くこの目的に向つて制定せねばならぬ結果となる。

第二、支那に於ける多くの幼稚なる産業は、今後高い入

費と創業時代の種々なる困難と云ふ二つのハンデイヤツプと戰はねばならぬ。此の一つの理由でも多くの經濟學者の一般に認容する如く、保護關稅の採用に對して充分なる論據と云ふべきであらう。

第三、支那は幾多の傳説に富んだ古い國である。而して種々の新しい産業に立ち後れた理由は、慥かに此の國民の懶惰性に原因するのである。トウシツグ教授の説に従へばこれ正に保護貿易を求めてゐる狀態である。

第四、又他の一面から觀察すれば、近代の産業の進歩しない支那に在つては、外國の競争があまりに激しい爲め、自國の産業の發達を阻害する惧れがある。かのジョン、スチュアート、ミルでさへかくの如き狀況の下に在りては保護關稅を正當なりと認めてゐる。

第五、支那の均一稅率五%はその効果極めて僅少ななるを以て事實上に於ては支那は一箇の自由貿易國である。而して

此の政策は支那の産業の發達を阻害して來たものと思はれる。

最後に、先進國の中の多くのものは一世紀間位は大抵高い關稅を以て障壁を造つて自國の産業を保護して來たものだ。何等保護政策を用ひずして果してよく支那の如き未開國に於て、その幼稚な産業の發達を期することが出来るだらうか。

右述べたるこれ等の議論は凡て支那に對して保護政策の採るべきことを指示してゐるものと考へられる。

然れ共關稅保護に就いて以上述べた種々の説は、餘りに尤もらしい皮相の議論であつて實質に觸れてゐない憾がある。何故ならば、現在に於て、支那にとつて最も賢明な政策は、その政治狀態乃至社會狀態を産業組織に適應せしむるにあらずして寧ろその産業の發達を常に變化して行く政治及社會狀態に調和せしむるにあるのだ。前者は退歩であり、後者は進歩的である。凡そ全ての發展膨脹は勞苦を伴ひ全ての進歩發達は同時に犠牲を伴ふものである。

最終の發展を獲得する爲めには、一時的の犠牲は已むを得ないのである。支那に於ける産業革命は、政治上及び社會上の革命と同時に起つた。然し乍ら支那の産業革命は、西歐のそれとは餘程趣を異にしてゐる。即ち西歐の産業革命の主なる要因は生産方面の變更であつた。然るに支那に於ては消費と言つた様なもの、變更が革命の著しい現象であつた。それ故支那に於けるこの革命を容易ならしむる爲めには、制限的の政策より、自由貿易策の方が結局一般國民

に對して最も利益であると云ふことを證明することが出来るであらう。その結果、支那に於ける關稅保護の運動に關しては、種々の誤解した觀念が行はれてゐる。保護貿易主義に對する種々なる議論は、往々一方的であつて、偏頗な嫌がめる。而して、支那に於ける關稅保護の主唱者は、往々次のやうな諸點を閑却した嫌がある。先づ

第一に、保護關稅は消費者の利益を犠牲にして行はれるものなるを以て制限的の政策は、寧ろ産業を遅延せしむる傾向がある。前世紀に於て西班牙關稅の影響が同國の一般的繁榮を阻止した事實は、世人の熟知する所である。何故なれば、保護貿易策は往々輸入を杜絶せしめ、其結果は、輸入品の價格を引き上げるやうなことになるからである。國民のこの損失は、決して政府の歳入の増加位で賠償せしめ得べきものではない。

第二に、國民の産業的活動の要訣は、彼等の欲望と希望とに根ざしてゐるものである。原始時代の人類のやうな自足的満足心では、決して近代の文明は、建設することは出来ぬ。支那の産業革命は國民の新しい欲望を創造し、その生活標準を變更せしむる使命を持つてゐる。而して、近代の改善が、生活上の必要品を低廉ならしめ、且つ從來の單純なる生活の慰安物に加へらるゝ以上、此等近代の進歩した施設のなす處、一として善ならざるものはない。新しい欲望に依つて創造された刺激は、國民の間に種々の新しい活動をなさしめる原因となるであらう。かくの如き狀態の下にあつては、政府は國民に新しい欲望を起さしむる爲め

に、外國品の輸入を獎勵しなければならぬ。而して、これと同時に、政府は經濟獨立て終局の目的を獲得する爲めに。自國の幼稚な産業の發達を監督し、且つこれを幫助する爲めに、努力しなくてはならぬ。

第三に、支那に於て、新しい産業を起すに當つて、一般の智識、科學的實驗及び外國の熟練した勞働、外國人技師外國の資本の輸入は關稅保護とか其他の制限的施設の採用より、遙に緊急にして重要な事である。

第四に、支那に於て最も必要とする處のものは、種々の制限よりも、寧ろあらゆる點に、利便を計ると云ふ方面にある。現今の如き運輸、交通の遅々たる進歩、内地の嘆かばしい租稅制度、交換、通貨の複雑なる組織及び銀行の利便、缺陷と云ふあらゆる悲觀的の狀態の下にあつては、商工業の著しい發達は、到底望むことの出来ない。此等の障礙の現存せる限り、禁止政策は、事態をして増々惡より惡に向はせるに過ぎない。假令、此等障礙の除去せられた後と雖も、政府は、必ず保護政策に耳を傾け近い將來に於て徐々としてこの勢力ある政策を採用するに至るであらう。

第五、支那に於ける新しい産業の發達は、同國の農產物に起因する處頗る大きい。然しながら、農業は、他の産業と異り、その影響を受ける處は、その必要とする技術より寧ろ土地及氣候の、物理的要素であるから、保護政策は、農業には餘り必要でない。且豐饒な地味と、固有の原產物に富む、支那は、農業保護策を施すべき地ではあるまい。語を更へて言へば、假令或る特別の場合に、政府の獎勵、

又は已むを得ずその管理を要することがあらうとも、保護政策は、決して支那の遠慮ある政治家の、標的とすべきものではない。

日本の關稅政策

——日本には保護貿易政策なし——

數年前の日本は、他の先進國より遙に支那の産業狀態に類似する處が多かつた。それ故、經濟政策に關しては、日本の經驗から學び得る處が非常に多い。日本はその當初にあつては、支那と同様な關稅條約に従つて居つた。それ故、如何なる保護政策も行ふことは出来なかつた。然れど日本の商工業は政府側の細心な關稅法則の有無に拘はる處なく、急速な進歩をした。日本政府の採つた主なる政策は廣い意味に於ける、教育の普及を計つたこと、政府が率先して、新しい産業に手を出したこと、民間の事業に補助金を與へたこと、その他種々の獎勵方法であつた。例へば、官吏や留學生を海外に派遣して、先進國の社會狀態、乃至産業組織を研究せしめ、且つ各種の農業學校、工業學校を設立した。幾多の製造會社は、政府の管理の下に置かれ、海運業其他の事業には、補助金を給與された。運輸、交通、貨幣の流通及び銀行業の前に横はる種々の障礙は除去せられ、幾多の便宜が普及せられた。換言すれば、政府は自國の産業を獎勵し、これが助成を計る爲めには、保護關稅以外のあらゆる手段を用ひた。

此の如き政策を採りたる結果、日本の産業は、雷にその

性質を一變せしめたるのみならず、その發達を加速的ならしめた處の、著しい變遷を経過して來た。而して、今や、外國の製造品は、全く日本の市場から驅逐せられしのみならず、或方面に於ては、日本は既に、中立市場に於ける諸外國の活潑なる競争舞臺に、足を踏み入るゝに至つた。此の成功に對して、日本の關稅は、何等與る處はなかつた。これに反し日本が西洋文明の新思想を追求してゐた過渡期に於て、保護貿易主義の政策程、此の國に禍をなしたものはあるまい。そして又他の一方に於ては外國との競争から受ける壓迫は、産業の急速なる進歩を促す刺激となし、其後に至つて發達した外國貿易の基礎を確立するに力があつた。この二つの事實は人々の普く主張し來つた處である。勿論、外國との競争に起因する商業上の失敗は無數にあつた。併しながら、新しい産業は、この舊制度の廢墟の中から生ずることを得たのである。

——日本の保護貿易論者——

西洋の保護貿易主義の學說の影響が、日本に傳來したことは、何等奇とするに足らぬ。多くの日本の經濟論者は、前世紀の協定稅率に依つて生ずる損害に對し不滿を抱き、政府に向つて、日本が保護貿易政策を採用せん爲め、國定稅率に類似した何ものかを齎す處の現在の條約を利用せんことを申請した。併し、當時の日本政府は、賢明にも、かくの如き固陋な意見を用ひなかつた。政府が、時々國定稅率を引き上げる策を採つたのはずつと後の事であつて日露戰爭中及其後に於て、歲入の増加を計る必要に迫られたか

らである。現在に於ても尙ほ日本に保護貿易主義の稅法のないことは、此の國の農產物の輸入品、又は原料品が、輸入製造品より遙に高い稅を課せられてゐるのにも見ても、明かなことである。かくの如き迂愚な關稅政策の行はれてゐるにも拘はらず、日本には増々その繁榮の度を増しつつある。勿論、日本に於ける保護貿易論者は産業の發達が、彼等の期待する程度に迄達してゐないことは、主として日本が保護貿易の政策を採らぬからであると主張してゐる。けれども、政府では又、千八百六十八年以來日本の輸出入額は、多少に拘はらず、十年毎に、二倍してゐる、而してその著しい發達は、慥に自由貿易策を是認するに足ると云ふ意見を持してゐる。現今の日本の産業上の缺陷に關して、辯明する處に依れば、日本は今尙農工業科學的教育を受けた人と實際上の經驗のある技術者が非常に不足してゐるからであつて、決して保護貿易の行はれてゐない故ではないと云つてゐる。(The Tariff Problem in China, by Chin Chu Ph.D.)



世界的支那問題と其解決案 (上)

米國宣教師 J. W. Bashford

- 一、支那問題は現代的世界的大問題也
- 二、白人種の黃人種排斥政策
- 三、支那國民の増殖力と發展力
- (一) 支那人口の増殖力
- (二) 支那の人口支持力
- (三) 滿蒙新疆地方に於ける支那人勢力の増大
- (四) 馬來群島に於ける支那人勢力の増大

一支那問題は現代世界的大問題也

現下の歐洲大戰は實に近世史上、最も戰慄すべき一大事變にして、其勃發以來歳を閲すること既に四年に及び、今や殆ど全世界を其慘渦中に捲き入れて、更に終熄する所を知らず。而して此世界的大戰が果して如何なる結果を齎すべきやは、蓋何人も之を豫言すること能はざるは勿論なりと雖も、吾人は其結果現に存する人種の偏見を一掃し、國家主義的思想を抑壓して、人道的博愛主義の思想を涵養し遂に歐羅巴合衆國又は歐米合衆國を現出せしめ、以つて人類進歩の極點たる、世界合同國家に向ふ可き一段階を形成すべきを希望し信頼するものなり。然りと雖も這般歐洲大

戰の結果として、假りに歐米合衆國の現出することありとするも、黃白二人種の對抗は現在に比して、一層劇然たるに至るべく、其競争は更に激甚を加ふべきは自然の數にして、之が爲に世界は新に極東問題の解決に、逢着するに至るべし。

惟ふに現今歐米に於ける人種の畛域は、人類和平に對する一大溝渠たるは事實なりと雖も、東西二洋の分界は之に比して更に劇然たるものあり、ルデイヤード、キツブリングの詩に曰く、「西洋は西に位し、東洋は東に在り、兩者の融合するは唯夫れ神意の裁斷に依るのみか」と、而して故ジョージ・ヘー氏は黃白二人種の對抗に關し、將來起るべき感情の一大衝突を豫想し、世界の大旋渦の中心はバルカン半島より東漸し、コンスタンチノーブル、波斯灣、印度を経由して、遂に支那に移動すべきを斷じ、其結論に於て喝破して曰く、「大國支那を了解し、其社會的、政治的、經濟的並に宗教的情勢に通曉するの國民は、實に能く將來五世紀間に於ける、世界政策の關鍵を把握することを得べし」と。

是を以つて吾人は、現下の歐洲大戰に關する思考に没頭すると同時に、他方に於て現に東洋諸國間に潜轉默移する

情勢の、極めて寒心すべきものあるを忘却すべからざるなり、蓋、人種の争鬭の旋渦は現に歐米大陸を震撼すると同時に、更に東方に向つても進展しつつあるものなれば、其勢西方に歇むの後に於て、永く東西に暴威を逞うすべきを覺悟せざるべからざるを以つてなり。而して駐支米國使ラインシュ博士が、世界史の研究に際し、一九一一年支那に關する著書に於て、「世界史上人類が一大危機に遭遇せし」と一再に止らずと雖も、現に東西に釀成せられつつある一大悲劇は、實に此等幾多の危機に比して、寒心すべきものにして、其結果は皆に一國一人種の興亡に關するのみならず、乃ち世界全人類の禍福の關する所たる也」と斷言せしは、洵に此黃白二人種の衝突が齎すことあるべき、大悲劇を豫想せるを以つてなり。更にロバート、フレーザー(Robert Fraser)曰く、「凡そ全世界に對し最も重大なる意義を有する一大事件は、實に東洋諸國の覺醒なり。」と、ビー、ブトナムウイール(B. Putnam Weale)又曰く、「支那問題は實に、二十世紀に於ける世界的大問題也」と。

二、白人種の黃人種排斥政策

白色人種が近世に至り、遽に採用せる政策は、即ち亞細亞を除く五大洲より黃色人種を排斥し、更に進みて亞細亞の一部よりも之を驅逐し去らむとするに在り。

即ち一八四八年以來葡萄牙は約八十萬方哩の領土を獲得し、白耳義は九十萬方哩、露獨は各百二十萬方哩、合衆國は百八十萬方哩、佛は三百二十萬方哩、英は三百六十萬方

哩の邦土を領有し、之に其他白人種國の領有せる五十萬方哩を加ふるときを、白人種が過去七十年間に於て獲得せる領土は大約一千三百二十萬方哩に達し、其面積正に歐羅巴の三倍半に該當するものにして、彼等の實行する世界政策の傾向は即ち、歐羅巴、アフリカ、南北米洲、濠洲及び露領亞細亞の全部より、黃色人種を排斥し、之を驅逐して亞細亞の南半に閉塞せんとするに在り、而して此排斥政策は皆に支那人、日本人、馬來人に對して行ふのみならず、更にアフリエン族の一種にして、彼等の同胞たる印度人に對しても亦、之を強行せむとす。是を以つて日本の支那侵略に關する一部軍國者流の建築、又は合衆國の亞細亞人排斥政策に對し非難する批評家は、更に眼界を擴大して、此白色人種が黃色人種に對して行ひ來れる、機會均等の拒否に關し、正に慎重なる考慮を拂ふべきものなりとす。

蓋、若も白色人種にして其從來採用し來れるが如き、夫の世界領土の獨占的領有政策を強行するなく、從つて黃色人種を未開の地方より排斥するが爲に、武力的政策を斷行するが如きこと無しとすれば、世界の平和は之が爲に、著しく増進せられたりしなるべし。蓋、世界全人口の五割一分を占むる白色人種が、世界領土の中五大洲を獨占し、更に自餘の一大洲の過半をも其支配に屬せしめ、其結果全人口の三割七分を占むる黃色人種を驅りて、亞細亞の一部に閉塞せしめんとするが如きは、一面耶蘇教國の主義に背悖すると共に、他方政治道德を無視する不正不徳の行爲たるを以つてなり。

而して白人種は此の如く過去及び現在に於て、不正横暴の政策を強行し來りしと雖も、之が爲に今や一大危機に瀕しつゝあるものにして、彼等は正に其地位を自覺し、其誤れる政策を改善すべき秋に際會せるなり。即ち左に彼等の危機を促進せしめつゝある重大問題を列擧し、以つて其覺醒を促すべき機會を與へむ。

三、支那國民の増殖力と發展力

(一) 支那人口の増殖力

支那人口の増殖力は極めて大にして、歐米の人口が百年間に二倍に増加するに對し、支那の人口は能く八十年にして二倍となる(但これは専ら出生率の死亡率超過に因る人口の實質的増加を云ふものにして其他の原因を除く)即ち此點に關し、シー、エッチ、ピアソン(C. H. Pearson)は「支那の人口は、外部の障礙なしとせば、六十年間に於て能く二倍に増加す」と云へり、故に若も平和狀態が永く維持せらるゝ場合には、支那の人口は歐米に比し、其割合に於て著しく増加するに至るべし。

(二) 支那人口の支持力

支那人口の増殖力は歐米に比して、遙に大なることは世界諸學者の一致する所なるが、其人口の支持力も亦歐米に比して著しく大なるものあり。蓋支那は各種の天産に豊富にして、就中國富増進の原動力たる鐵と石炭との鑛産埋藏額世界に冠たるを以つてなり。

アーキバルド、リッツル曰く、「國內の交通機關にして、

今日の文明諸國の如き發達を遂ぐるときは、山西省に於ける鑛業の發達を促し、其結果支那の鐵は英米の鐵と、世界の市場に競争して毫も遜色なきに至るべし」と。

リヒトホルヘン男が公にせる、支那の鑛産に關する報告書は、獨逸其他の文明國民を驚倒せしめたる所なるが、男は當時上海商業會議所に致せる書翰中に斷言して曰く、

「此説明に依りて明なるが如く、山西省は實に世界に冠絶する鐵石炭の產出地にして、余が試みたる精算に依れば、世界が今日の消費率を維持するものと假定して、山西一省の產額は優に一千年間の世界の消費額を供給するを得べし」と。

合衆國石炭商組合(The Bituminous Coal Trade Association of the U. S.)協會秘書は世界の石炭埋藏額を左の如く計算せり。

合衆國	三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸
支那	一、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸
其他の諸國	五七三、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇噸

(The World Almanac 1915 p.257)

而して此數字は、支那に就きては不完全なること勿論なれども、而も尙其埋藏量は、合衆國を含まざる世界全量の約三倍に該當するを知る。

更に前記リヒトホルヘン男は、支那炭田の面積を計算して、四一九、〇〇〇方哩となし、之を合衆國の三二〇、〇〇〇方哩と對比せしが、其後多數の専門家は種々の踏査を試みたる結果、支那の炭田面積を計算し、約二三二、〇〇〇方

哩を以て正確なる數字と斷定せり。而して更に從來踏査を經ざりし地方の調査を行ふときは、今後尙多量の炭田を發見するに至るべきは勿論なるべく、此點に關し、多數支那通の専門家は、將來支那に於て發見さるべき鐵山炭田の、尠からざるべきを、均しく認むるに至れり。

支那が豊富なる鐵と石炭とを利用して、將來其國富を増進し、其急速に増殖する人口を國內に支持するに當り、更に看過すべからざる一大動力は、實に其無限にして良好なる勞力の供給なりとす。加之支那に於ける生活程度は、諸外國に比して著しく低きを以つて、其供給する勞力は亦、外國に比して頗る低廉なるべきは、自明の事に屬す。

一九一三年五月十四日、合衆國鋼鐵會社社長ファレル氏(Mr. Farrell)は、議會の委員會に於て、支那鐵に就き説明して曰く、目下桑港に於ける米國鐵の價格は噸二十一弗なるに對し、支那鐵を桑港に輸入するときは、一噸に付き十弗七十八仙の價格を以つて、賣ることを得べし」と。

又一九一一年七月七日の上海タイムスは、英國代議士サー・モレトン・フリユウエン(Sir Moreton Frewen)が、當時漢口を視察して、其所感を英國レビュー、オブ、レビューに寄稿せる視察談中に於て、漢陽製鐵所に關し、左の如き記事を掲載せる旨を報道せり。

漢陽製鐵所の製出せるレールは、米國製レールに比して、毫も遜色あるを見ず、又職工の工程を見るに、漢陽に於ける支那職工百十人一日の製造高は、正にピッツブ

ルグ職工百人のそれに匹敵するを得べく、且、後者の賃銀は實に前者の十五倍に該當すべし、故に若も漢陽製鐵所に多少の改革を加ふるときは、其製造する鐵の生産費を著しく低減して、一噸十二志即三弗(米)ならしむるを得べく、而も此改革は極めて容易に、之を實行することを得べし」と。

エルンスト・フエーバー博士(Mr. Ernst Faber)は、保守的にして、常識圓滿なる獨逸宣教師なるが、多年支那に在留せる後豫言して曰く、「支那本部十八省のみを以つてするも、支那人口の二倍を支持して、優に二十世紀の末葉に至ることを得べし」と、而して博士の此豫言は、白耳義、和蘭、英國、獨逸等の諸國に於ける、人口増加の歴史に基きて、立論せるものにして、即此等諸國に於ては産業革命以來漸次、手工業經濟より進歩して、遂に今日の機械工業時代に達し、其間二倍乃至三倍に増加せる人口を、支持し來れるものなるが、支那も亦現世紀の末葉に至る迄の間に於て、漸次機械工業の域に進むを得べく、従つて此間に其人口は現在の二倍に増加するものと、見るを得べければなり。

惟ふに日本も亦過去五十年間に於て、從來の手工業時代を脱し、今や漸く機械工業の初期に入らむとするものにして、而も其間人口は約二倍の増加をなせり。然らば即ち支那も亦、同一の徑路に依り、同一の原因に基き、今世紀の末葉迄には、現在に二倍する人口の増加を見るべきこと、蓋何人と雖も之を疑ふこと能はざるべし。

(三) 滿蒙新疆地方に於ける支那人勢力の増大

將來に於ける支那人の發展を論するに當り、看過すべからざるは即ち、滿蒙新疆及び青海地方に於ける、支那人勢力の増大なりとす。

蓋、北方に於ける滿洲及び內蒙古、西部境域地方を形成する新疆青海等は、孰れも多數の人口を支持し得べきが故に、現世紀の末葉に至らば、此等地方に於ける支那人の増加、極めて大なるものあるべし。即ちフォン、シールブランド (Von Schierbrand) は現世紀末に於ける、滿洲人口の増加を豫測して、一億萬と爲すも、(Schierbrand, Wolf Von: America, Asia, and the Pacific p. 283) 余は之を約六千萬と爲す。

更に支那トルコ(主として新疆地方)に於ける支那人の増加に關しては、ピーアソンは之を七千五百萬と爲すも、(Pearson, C. H.: National Life and Character, p. 46) 余は其増加しかく大ならざるべきを信ず、勿論カーライスの近著(Turkistan, the Heart of Asia)に依るに、今世紀間に於て、支那人の此等地方に移住するもの、極めて多數に上るべきを豫想するを得べし。

露國が西伯利亞鐵道を敷設せしは、一面軍事的目的を有せしこと勿論なるべきも、他方更に産業的目的を有せしことも亦否むべからず、即露國は此鐵道に依り、歐露より西伯利亞、蒙古、滿洲等に對する移民の移動を奨励すべきを豫想せり、然るに實際に於て此鐵道は二種の移民を發生せしめたり、即一は歐露より亞細亞に向ふものにして、他は

亞細亞より歐露に向ふものなり、換言すれば露西亞人が西伯利亞に移住すると同時に、支那人は鐵道に依り盛に歐露に移住するに至れり。

而して西伯利亞、蒙古、滿洲等の諸地方が、將來如何なる政府に統治せらるるやは、寧ろ餘り重要な問題にあらず、即ち統治者が其地方の開發を圖らむとせば、必ずや其人口を増加せざるべからざるを以つて、結局此等地方に移住する人種の如何は極めて重大なる問題なるべし、而して現に此等地方に移住するものは、其大部は支那人なるが故に之が移住を禁止せざる限り、今世紀の末葉に至らば、滿蒙は勿論、西伯利亞に至る迄、悉く支那人の占據する所となるべく、從つて此等地方の實權は全く、支那人の掌中に歸するに至るべし。

(四) 馬來群島に於ける支那人勢力の増大

北米、南米、亞弗利加及び馬來群島は、現に人口稀薄の地方にして今後尙幾多の人口を收容し得べき餘地を有するものなるが、就中馬來群島は其人口收容力遙かに北米アフリカに比して大なるべし。即ちアルフレッド、ラッセル、ワレーヌ氏が此群島の研究に於て、本群島は正に六大州中に匹敵すべし」と喝破せるは洵に至言なりと云ふべし。

馬來群島中瓜哇は文化最も開けたる地方なるが、其人口の密度一方哩五百七十人なるを以つて、假りに全群島にして之と同等の發達を爲すとせば、優に五億七千萬の人口を支持し得べし、之に關してオールドハム博士(Dr. W. E. Oldham)は群島全部を視察したる後、其群島に關する講演

に於て其優に六億の人口を支持し得べきを公言せり。而して瓜哇以外の地方が瓜哇と同一の人口支持を有するにも拘はらず、現人口の三分の二が瓜哇に集中するに至りしは、全く從來瓜哇が和蘭政廳の下に在りて文化開け、他の地方は依然野蠻未開の狀態に在りしに因る、然るに今や此等の地方は、孰れも皆米英蘭佛獨等の統治に屬するに至りしを以つて、其將來に於て瓜哇と同一の人口支持力を有するに至るや勿論なるべし。

是を以つて日支兩國の人口にして、今世紀末迄に倍加することあるも、馬來群島は之を收容して尙餘りあるべく、現に支那人の此地方に移住するもの極めて多し。而して支那人の馬來群島に移住するものは、孰れも成功し、彼等が本國に送致する金額年々頗る巨額に達するが故に、其將來馬來群島に對する移民の激増する傾向は、正しく過去二世紀間に於ける歐洲人の北米に對する移民増加と其軌を同ふすべし。

マクミリアンブラウン氏に依るに蘭領印度に於ける主人公は百五十萬の支那人と三十萬のアラビヤ人にして、支那商人の勢力遙にアラビヤ人の上に在り、又オールドハム博士に依るに、支那人の新嘉坡に移住するもの年々二十萬、彼等は群島の到る處に發展しつつあり。

支那人の群島に移住して、馬來人と接觸するや、到る處或は之を開發し、然らずむば之を壓服するものにして、此點に就きては、恰も過去二世紀間に亘り、北アメリカに於て行はれしと同一の事象が、現に馬來群島に於ても露はれ

つゝあり即ち、此群島が將來如何なる政府の統治に服すに至るとも、其商業經營、社會、生活、文明の形成に於て、絶大の勢力を有するものは依然支那人なるべく、即ち彼等は其島民を感化して、自己固有の文明を開拓するに至るべし。吾人は現在四千四百萬の馬來群島の人口が、今世紀末迄に急激に増加して、五億七千萬に達すべきは、之を豫想するに躊躇すべし、何者、假りに支那人の移民が年々激増するとも、彼等は之と共に其生活程度を向上せしめつゝあるが故に、其出生率は之に従つて遞減すべきを以つてなり然れども更に年處を経ること遠く、二十一世紀に至りて、科學の發達、殊に巴拿馬共和國に於ける合衆國の經驗に依り、熱帶地方も亦黃色人種の生活に適應するものなることを、立證せらるゝに至らむか、馬來群島の人口は、二十一世紀の初期又は中葉迄に約三億に増加し、而も其一半は支那にして、其大部は盡く支那人の文化に、同化されたるの狀態を、今に於て豫想する、必ずしも無稽のことにあらざるべし。(未完)



彙錄

清華學校留學生

北京清華學校本年度留學生は、其第九期生にして、其第一期は遠く宣統元年に在りたり、今第一期以來第八期迄の卒業者數及び卒業者にして博士、碩子、學士の稱號を得たるものを表示すれば左の如し。

各期	人數	博士	碩子	學士
第一期	四七	一	一九	二二
第二期	六九	五	二八	二八
第三期	五九	一	一七	三〇
第四期	二〇	二	一	一一
第五期	八六	一	六	二八
第六期	三九	一	一	八
第七期	四五	一	一	二
第八期	四三	一	一	三
總計	男四〇八 女一八	九	七二	一三二

尙は今回清華學校より留米學を試験の上採用せるものは男七人女九人にして、彼等の母校は唐山工業兩通紡織專門

上海工業專門、北洋大學、中西、景海、湖郡、瑪利亞諸女學校等なり。

去る八月十五日南京號を以て出發したる清華學生の在米大學々名及學生割當額は左の如し。

大學名	學生數	大學名	學生數
シカゴ	五	コロンビヤ	六
ロウ、スデー	七	コーネル	四
ジョーンス	三	グルネル	三
ボブキン	一	ミグ、アグリカ	一
リノイス	二	ル、スクール	一
ウエスター	三	ブラウン	一
レザール	二	シツソウリル	三
ロウエル、テサス	二	ペロイトウ	一
オヒヨステール	二	オルセス	一
バーデュー	九	タリーボリ	二
コロ、マイ	二	テクニツク	三
シンシナチー	二	レーイ	二
シクカレツザ	二	ステヴェンス	二
オプマチン	二	インスチユート	二
レンスリヤ、ボ	二	マス、インス	二
リテクニツク	二	トオプテク	二
ベンシル	二	アル、アイ	二
ヴァニヤ	一	スチート	三
クード	一	ミシガン	一
ウエスレヤン	一	米國ミリタリ	一
ハムリン	二	アガデミー	一
ネグラスカ	二	ダート、マウス	一
カルフオーニヤ	一	クラーク	二
デニオン	一	シヤミー	二
		エムアイタイ	三

米國政府の對支借款策發表

七月二十九日華盛頓發電に據れば、米國國務卿代理は今回對支借款方針に就き左の如き聲明をなしたり。

支那の對獨宣戰布告は、米國の勸説に職由するものなれば、支那が對中歐同盟戰爭に於て、聯合軍側に一層有効なる助力を與へむが爲に、十分の準備をなさむとする希望に對し、米國政府は特殊の利害關係を感ずるものなり。

現在に至るまで米國は現戰爭に於て、聯合國の一員として十分の職責を盡すべく、其準備に没頭し居たる爲め、支那に對しては其希望を實現せしむるに十分の助力を與ふることは能はざりき、然れども近時米國政府は支那が其國內の無秩序に惱めるを見て、茲に支那援助の爲め特別の盡力をなすべき必要あるを感ずるに至れり、此に於て米國政府は從來支那に於ける借款に關與し、又は東洋に利害關係を有せる米國銀行家を華盛頓に招集し、對支問題に關し協力せむことを提議せり、其結果諸銀行家と政府との間に協約成立したるが、其主眼とする所左の如し。

第一、借款に應ずべき銀行團を組織し、該銀行團は米國內各地方の銀行を網羅すること。

第二、銀行團は政府と行動を共にし、政府が樹立したる政策方針に従ふべきことを保證す。

第三、銀行團に加入せむとする銀行は、其行名を政府に通知し其承認を得べきこと。

第四、借款に應せむとする時は其内容及條件を政府に呈示

して之が承認を受く可きこと。

第五、米國々民と他國との相互の利益を増進すべき借款の内容、條件が米國政府及他の一方の政府の承認を経たる時は、米國政府は外國に於て米國々民が善意にて締結したる契約の履行を確保する爲め、有らゆる援助を與ふることを保障す。

尙右銀行團には英、日、佛の銀行團の加盟を希望し、目下此事に關しては、米政府は右諸國の政府と交渉中にして其結果此等各國銀行が共同の步調を取りて、今後成立すべき借款に於ては、此等の各銀行が均等に參加するに至らむことを希望す。

現に支那は其北部及西部に於て戰時狀態に在るのみならず、更に右各國政府が共同動作を必要とする動機あり、其は戰爭が此等國民及政府間に利害關係を共通ならしめ、又曾て各國間に存在し以て其間の交通を容易ならしめたる境界を破壊し去りたればなり、されど上述の計畫にして成功の曉には、利害を共にする各國民は、互に其恩惠に浴することを得べし。

支那絹糸廠統計表

江蘇、浙江、安徽三省系廠繭業公所の調査する所に係る支那に於ける最近三年間の絹絲廠及繭業統計表の公示するあり、今該統計表を摘錄せば左の如し。

民國四年分

工場數

繅糸器數

上海

五六

一四、四二四

蘇州

三

七三六

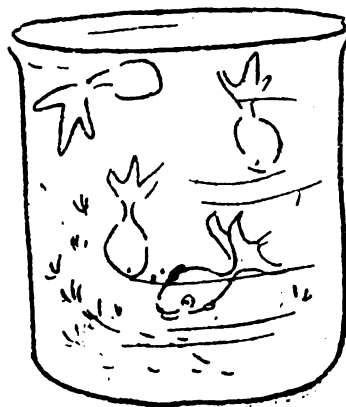
無錫	八	二、一一八
鎮江	二	四四八
杭州	一	二七六
湖州	一	二〇〇
蕭山	一	一〇八
合計	七二	一八、四一〇
民國五年分		
上海	六一	一六、二八八
蘇州	三	七三六
無錫	九	二、五三〇
鎮江	二	四五六
杭州	一	二七六
湖州	一	二〇〇
蕭山	一	二〇八
合計	七八	二〇、六九六
(湖北武昌官立黃絲廠繅糸器二百は此統計表中に加入せず)		
民國六年分		
上海	七一	一八、八〇二
蘇州	三	七三六
無錫	九	二、六六〇
鎮江	二	四五六
杭州	一	二七六
湖州	一	二〇〇
蕭山	一	二〇八

合計

八八

二、三三八

以上の外に湖北官立絲廠の繅糸器二百臺、湖南官立模範絲廠の一百臺雲南官立模範絲廠の四十臺あり。



事業界

上海ドック會社營業成績

(Shanghai Dock & Engineering Co., Ltd.)

上海ドック會社は、去る七月二十六日第二回年次株主總會を開催、重役 Jhon Prentice (議長) H. A. J. Mooney, E. C. Richards 及 Jhon Johnston の四氏並に二〇、二一六株を代表する株主の出席を見たり、今左に議長ブレンチス氏が當日試みたる報告演説の要領を掲げて、同社が本年四月三十日に終る一ケ年間の營業成績を知らんとす。

鐵材の供給難と註文高到着遲延とは、甚だしく同社の工事を阻害しつゝ、あれ共同社は昨年度中に重量噸各六千五百噸の汽船四隻を竣成引渡をなし、目下建造中の約三千百噸の汽船一隻も、近く竣成引渡の事となるべし、其外に多數の修繕工事をもなし、一年中の營業成績は頗る良好なり、若し材料さへ十分に得ること可能なりならんには、更に右以上の能力を發揮し更に好果を修め得たりしことならむ。

營業勘定總額は一昨年度は一昨々年度に比し四割五分の増加を示したるが、昨年度は更に一昨年度よりも六割六分の増加を見たり。

昨年度の營業利益は一昨年度よりの繰越を加算し、之よ

り諸費用並に負擔を控除して、純益一、一五四、一四二兩七二を殘せり、而して之を處分すること左の如し。

株主へ配當一株に付十四兩

七七二、八〇〇・〇〇

特別積立金

二四〇、〇〇〇・〇〇

減價償却準備金

七〇、〇〇〇・〇〇

次年度へ繰越

七〇、七四二・七二

昨年度に於ては減價償却準備金として七〇、〇〇〇兩を積立てたれば、本勘定は合計四二二、〇六七兩八二となれり。

特別積立金勘定は二四〇、〇〇〇兩を加へて合計を五〇〇、〇〇〇兩となしたるが、同積立金は重役の意圖により必要に應じて設備の取替費及配當平均等に充當せらるゝものなり。

貸借對照表上の資産勘定中一昨年度に比して變化を見たるもの左の如し。

一、諸機械の減額四一、二一二兩五〇、是は昨年中に賣却したるものあるに由る。

一、汽船及ランチの減額四二、五〇〇兩、之れ昨年中に汽船一隻を賣却したるに由る。

其他在庫品の價額は二五、三三七兩七四を減少し、諸貸借勘定は略變化なく投資、預金及現金は一昨年度に比して七〇九、三三五兩四六を増加せり。

各部の維持費は營業勘定中より支拂ひたり。

尙同社は現在引受け居る註文頗る多額に上り、其内には英國政府の註文に係るC級標準船三隻を含めり。

同社は又戰時海兵遺族扶助基金中へ一千兩の寄附をなすことに決したり。

華洋人壽保險公司營業成績

(The Shanghai Life Insurance Co., Ltd.)

華洋人壽保險公司是六月二十一日第十三同年次株式總會を開催したり、議長 T. H. Parker 氏の外に重役 E. T. Burne A. J. Israel J. R. Moodie, John Hay の諸氏並に一六、八四〇株を代表する株主出席したり。

當日議長の報告演説の要旨左の如し。

前年度株主總會の決議により、茲に附議せんとする會計の年度は、昨年四月一日より十二月三十一日に至る九個月とす、此九箇月間内の保險契約申込高は三、八〇九、九八三兩二五なりしが、是に對し保險證券を發行したる額は三、六一三、五五二兩二五にして、其餘の一九六、三四一兩は證券發行延期と申込拒絶とを含めり、昨年十二月末の保險契約現在高は二〇、六四七、五一三兩四二なり、資産は前年度に比して二八九、五六三兩三一を増加し、合計四、八七四、六五五兩八四に達せり、前記九ヶ月間に於ける保險料金利子、家賃及持株配當等の收入合計は所得税を控除して一、四三九、五〇六兩九七に上り、被保險人への支拂は七二三、八二四兩二五にして、本公司創業以來の支拂合計三、四七五、七〇一兩六一となれり、有價證券の減價準備金は今や四、〇〇〇兩となり、此外英國並に聯合國の軍事公債に投資したるもの約六〇〇、〇〇〇兩に達せり、昨年度中の

新規契約高は歐洲戰爭以來の平均額に達し居れども、該戰爭並に支那の内亂の影響を受けて餘り目覺しからざりき。

華僑有限公司開業

瓜哇在住の支那人李興廉、陳金山、蘇善地、陳金安、李錦龍等は、所謂國貨推行利權挽回の主旨より、鉅資を集めて上海に華僑有限公司を設立せんと欲し、先づ陳金安を總經理に、損青遠、傅溪水を經理と爲して、營業を開始せしが、此半年間に各製造所の出品多きに過ぎ、皆南洋に仕向けんとする下心ありて、盛に委托し來れるもの故、其荷捌に躊躇し居る程なるに拘はらず、總經理たる陳金安は尙は南洋に滞在すると、經理なる楊清遠は公金を私用して數萬の大穴を空けし爲め、正式に該公司の成立を見る能はざりしが、此程陳金安來滬し、楊清遠の私消金辨濟と事定まり、漸く一段落を告げて、七月二十七日正式に開業式を挙げたり、同夜は一品香に大披露宴を張り、在上海の紳商及學界等の名士百餘人來會し、頗る盛宴を極めたりと、而して該公司是南洋貿易を専ら事とし、競爭者の出現を期待しつゝありて、諸般準備完成せりと號稱し居れりと云ふ。



支那半月史

大正七年八月上旬

廣東國會開議

六月十二日を以て開院式を挙げたる廣東正式國會は、爾來或は舊議員の南下勸誘、或は曠職議員の解職等の手段に依り、必死となりて開議の法定數たる過半數の到著を獲んと努力しつゝありしが、八月上旬に到り愈其目的を達し、衆議院は八月五日午後二時開會、出席議員三百二名（總員五百九十六名の過半數たる二百九十九名を超過すること三名）議長吳景濂の開會の辭に次ぎ。

- （一）議員席次を定め。
- （二）議員證書審查委員を選定し。
- （三）中華民國々會議法宣言を議決すべき參衆兩院合同會議を九日開會の件。

を議決し散會。參議院は同八日開會、出席議員百三十九名（總員二百七十四名の過半數たる百三十八名を超過すること一名）研究會系に屬する議長王家襄は尙北京に在りて南下せざるを以て副議長王正廷議長席に就き、議員席次を定め資格審查委員を選舉して散會せり。

西南諸省の呼號したる「護法」の事、茲に到りて一段落を告げたり、されど唯それ過半數を得たに止まる、これ

より三分の二の法定數を得て大總統選舉會を開くの地歩に達するは容易の事にあらず、一方北方の所謂新國會は、その特色なる議員數の少なき事に依り法定數獲得を容易ならしめ、或は廣東國會より先きに大總統選舉會を開き得るやも知れず。南方派の奮發一番を要する所なり。

新國會の開院

北方の所謂新國會議員の選舉は、七月中に曲りなりにも終了し、八月上旬續々着京を見、十二日終に開院式を挙げたり。出席議員參議院百六名（總員百六十八名の過半數たる八十五名を超過すること二十一名）衆議院二百五十八名（總員四百六名の過半數たる二百四名を超過すること五十四名）年長者たる參議院議員（中央選舉會選出）李兆珍を主席に推し、馮總統の祝詞、段總理の祝詞あり、各員國旗に向つて三鞠躬の禮を施して閉式せり。廣東國會に比し立遅れたる新國會も、集め得たる議員數は舊國會に比例して多く、參議院は今七名にして三分の二に達し、衆議院も今十四名にして同じく三分の二に達し、大總統選舉會を開き得るの狀態に在り、段派の得意滿面は固より想像し得る所なり。

馮總統の隱退聲明

此時に當り馮總統が、開院式當日夜を以て各省督軍に宛て通電を發し、隱退の意を示せしは大なるアイロニーといふべし、通電大要に曰く。

昨年復辟に依り國基動搖せんとせしも幸に段總理及び各督軍等の協力に依り共和を恢復せり當時黎總統辭讓し元首の位、置く所なし各方面の督促に依り余は大德總統たるに足らざるを知るもやむを得ず總統代理に就任せり而して約法の精神に順りみ民國の統一と平和とを以て二大希望と爲すの外毫も利己の私心無かりしが總統代理たること既に一年所謂統一と平和とは夢幻の如く之を抱握するを得ずその原因は要するに余一人の咎にして才德其器に非ざればなり今や將士外に暴露し人民内に憂苦す賢能の闕僚忠勇の同胞ありと雖も余一人之を統率するに足らず故を以てその利國福民の願を遂ぐるに由なく自から責めて速かに位を去り能者を得んとするのみ今や余の任期も満つるに近く國會亦既に開かれたり議院は宜しく徳望を兼備し統一と平和を圖るに足るの人を總統に選舉し約法の精神に副はんことを望む余の誠意誠心は昊天皇土之を知る余が總統の位置に懸々として選舉に競争せんとするが如く傳へらるゝは全く局外者の流言なり但だ國家の存亡は匹夫も責あり余は野に下ると雖も統一と平和の目的を達するためには國民の一分子たる義務を盡すを辭するものにあらず敢て腹心を布きて諸子に告ぐ。

是れ馮國璋が敵派（段祺瑞及その一派）に與へ、與黨に徹し、飽くまでその初一念を固執せんとするの意思表示たるに幾し。

浦鹽派遣軍出發

浦鹽派遣支那軍を南滿鐵道にて輸送の件は日支兩國間に交渉纏まり、八月十四日先發隊として將校以下六百名出發せるが、十八日より五日間毎日より一列車宛輸送の事に決定したり。

法律適用條例

八月五日敕令を以て、法律適用條例二十七條を發布し、治外法權取消後に於ける獨逸兩國人の審判はその本國法律を適用す但し本國法律と雖も公共の秩序又は善良の風俗に反するものは之を適用せざる旨規定せり。

法王廳公使問題

支那政府が七月下旬、和蘭駐紮公使戴陳霖を羅馬法王廳駐紮公使に兼任せしめたるに對し、羅馬法王は比律賓駐紮公使ベトレッリ僧正に駐支公使を兼任せしめたるが、東洋に於ける舊教の保護者を以て任せる佛國は右の公使交換を喜ばず、八月二日駐支佛國公使ボツプ氏は外交部に對し「佛支條約には支那に駐在する羅馬カトリック教會の牧師は、その佛國、伊太利、西班牙、葡萄牙何れの國籍に屬せる者たるを問はず悉く佛國公使の保護を受くべき條項あり然るに今支那と羅馬法王廳とが公使を交換せる結果は右佛國既得の權利を侵害するものなり」とて嚴重なる抗議を提出せり。教權の保護は固より佛公使抗議の一因なり、併し他に重要なる一原因あり即ち獨逸新外相ヒンツエ（前駐支公使）は羅馬法王と親交あるを利用し、駐支法王廳公使をして獨

關係を恢復せんとする隠謀これなり支那政府は佛國の抗議に接して大いに驚き、法王廳に對しベトリー僧正の來任を好まざる旨を通告したるが、ポツ公使は之を以て満足せず、公使交換中止を求めて止まず、段總理は是に於いて急遽北戴河避暑中なる外交總長陸徵祥を呼戻し、十三日國務會議に於て佛國の主張を容れて公使交換を中止するに決し、戴陳霖公使に對して羅馬法王に信任狀を呈出せざるやう電訓し、此問題は一先づ落着きたり。

金券條例及び幣制局

大總統令（八月十日）

茲に金券條例を制定して之を公布す此に令す。

茲に幣制局官制を制定して之を公布す此に令す。

兼署財政總長曹汝霖の呈稱に據るに幣制は重要照かに宜しく整理すべし請ふ民國三年頒布の國幣條例を厲行し銀貨を統一し金券を發行し及び金券を推行するの貿易機關を組織せんことを並びに請ふ幣制局を特設し以て責成を専らにせんことを條例官制を酌擬し呈請して公布を鑒核す等の語あり幣制は國家の要政たり民生に關係するのと尤も密切と爲す民國三年曾つて國幣條例を頒布するを經、銀幣統一を以て金本位制實行の豫備となさんと期し辨理以來漸く成效を著はせり自から應さに力めて進歩を圖り全功を竟へしむべしあらゆる金券條例及び幣制局官制はすでに敕令を以て制定し著して該部より按照して節略を呈具せしめ力めて進行を策せしめ余は擬する所の如

く辨理せしむ此に令す。

金券條例（敕令第三十三號）

第一條 政府は國際貿易、金本位改用豫備のために見を起し幣制局指定の銀行より金券を發行せしむるを得。

第二條 金券の單位は一金元となし每一金元は純金〇・七五二三一八公分（グラム）即ち庫平二分零一毫六絲八忽八を含む。

一金元の十分の一を角と爲し百分の一を分と爲し千分の一を厘と爲し皆十を以て進む。

第三條 金券の種類は左の如し。

一元

五元

十元

二十元

五十元

一百元

政府は幣制局指定の銀行をして五角一角二角の三種の金券を發行せしむるを得並びに造幣總廠をして一分銅幣を造らしむるを得。

第四條 金券は金元未鑄以前は持券人は指定の銀行に向ひ本國の他處或は外國に匯至するを得金元鑄造後は金元に改兌し並びに本國の他處或は外國に匯至するを得。

金券は外國の金幣或は生金を以て含む所の純金重量を按じ指定の銀行に向つて折合し之を交換するを得金器

具は生金を以て論ず。

第五條 金券と現行國幣とは比價を定めず但だ指定の銀行が各地にて隨時牌示するの比價に照し金券を以て該銀行に向つて國幣と兌換し或は國幣及び生銀を以て金券と兌換するを得。

第六條 指定の銀行が金券を發行するには應さに十成の準備あるべく該準備は本國の金元或は生金或は外國金幣にして中外の匯兌商埠に分存すべくあらゆる準備金の地點及び數目は該銀行應さに毎旬公布すること一次なるべし。

上項の準備は應さに幣制局所派專員の隨時検査を受くべし。

第七條 金券は指定銀行の隨時牌示する比價に照し公款項の出入に於て之を使用するを得。

金券の用數は無制限と爲す。

第八條 指定銀行は金券を以て存放及び其他の營業を爲すことを得。

第九條 本條例は公布の日を以て之を施行す。

幣制局官制(敕令第三十四號)

第一條 幣制局は國務總理に直隸し全國の幣制を整理する職掌左の如し。

一 泉幣に關する事宜。

二 鈔券に關する事宜。

三 其他幣制に關する事宜。

第二條 幣制局に職員を置く左の如し。

督辦一員 財政總長兼任。

總裁一員 特任。

顧問一員 聘任。

名譽顧問無定額 聘任。

第三條 幣制局は應さに員司を酌設し科を分つて事を辨すべし但し各科未だ組織成立を経ざる前は先づ調査委員會を設け委員若干人を置き局令を以て之を定むるを得。

第四條 幣制局は文件の繕寫及び其他庶務のために雇員を酌用するを得。

第五條 凡そ財政部所屬の造幣總分廠印刷局造紙廠及び各銀行監督官は應さに幣制局の監督及び指揮を受くべし。

第六條 幣制局は局令を發するを得必要の時は院令を發し或は財政部と合同して命令を發せん事を請ふを得。

第七條 幣制局設立期間を定めて十年と爲す。

第八條 幣制局辦事規則は別に之を定む。

第九條 本官制は公布の日より施行す。

金券條例發布の目的は、幣制改革の一階梯として中國交通兩銀行紙幣の回收、吉林廣東兩省に於ける不換紙幣の整理、及び國際貸借に便せんがための計畫なるが、四國銀行團は支那が幣制改革の際には四國銀行團と協議すべき契約あるに拘はらず、今回事前は何等の交渉なく金券條例を發布したるは四國財團を無視したる行爲なりとて抗議を提出したり。

時報



内治外交

●馮總統の辭職聲明

馮總統は八月十二日衆議院より總統府に歸りて後、各省に向ひ通電を發し、職を賢者に譲りて安治を希望する旨聲明せり、本電は又公報によりて發表すべく令したり、其れより府員を集めて演説して曰く余は元來一個の武弁なるに係はらず要職に歷任したり、今日に當に職を辭して閑地に就くの好機會なり、されど國家の存在する間は吾人は之に盡すべき義務あり、各員の此意を體せん事を望むと、畢りて一同紀念撮影をなし散會せり。

(北京日報)

●南北妥協提議

漢口來電に依れば吳佩孚馮玉祥は王督軍に向け、今次天津會議の決議に依れる南征續行には、

敵の實情を知らざる者が一決したるものなり、余等は其情形に十分熟察を遂げたれば、此際國家の統一を圖り政策を除き速かに停戰を實行し、妥協の外良策なかる可しと、中央部に向け建策す可く電告をなしたるが、王督軍は之に對し復電して曰く、兩人の電文は頗る賛成なれども、目下北方は容易に之を容れ難き形勢に在り、却て其建議は無効に終り遂には相互譴責を蒙るのみに付、直接中央部に傳達せず只曹錕張懷芝の兩氏に向け其内容を電達すべしと。(北京日報)

●參議院解散

臨時參議院は八月十二日午後二時閉會式を舉行せり、馮總統は代表として田文烈を派遣し、其他段總理始め各閣員列席せり、馮總統段總理各祝詞を述べ、王揖唐議員を代表して答辭を述べたり、式終りて一同紀念撮影をなし解散せしが、沿途の警戒極めて物々しかりき。

(哈天時報)

●支那商標施行細則 農商部は商標法の施行細則草案六類四十餘條を假定せるが、近々閣議に提出し通過を俟て、實施の筈。(北京日報)

●科布多危急 科布多都護使徐時震は八月十三日急電を政府に發し、近頃同地方に於ける過激派は日に軍隊を増し形勢頗る不穩なり、故に步騎砲各若干を派遣して協助せられたし、震病を力めて政務を執掌せるも困難名狀すべからず、若し中央の允許を得ること能はずんば、先づ震を免職して邊事を誤ること勿れと意見を述べたる由。(北京日報)

●支那の兵出準備 北京の參戰督辦處は左の如き出兵手續きを議定せりと。(北京日報)

- 一、糧食は吉林、黑龍江より籌備す。
 - 一、軍費は暫らく一千萬元と定む。
 - 一、銃器彈藥は暫く本國より發す。
 - 一、出兵數は先づ一千人を發し以後毎回五百人を加ふ。
- 又浦鹽行きの支那軍隊は各國の回答が未だ全部揃はざると借款商議が成立せざるとにより、其の出發を緩ふすべしと。

●湖南省參議院議員

長沙初選當選者

易尙琪、周乃武、陳鄂、楊炳照、周晉、吳家祐、張先贊、羅家福、陳澄一、馬續常、李太平、文忠輔、羅善祥、吳家慶、張文範、傅汝礪、朱邦範、楊知臨、陳幹樞、彭學海、周澍、馮俊、徐卓、楊樹毅、

周三和、柳天麒、楊式間、梁煥章、周莊、徐作霖、龔家凱、胡汝霖、李國瑜、陳肇康、周大椿、劉飛、羅啓瑞、陳中環、柳熾、周佑南、鄭業榮、胡僑年、吳文勳、黃鴻猷、黃傑、黃瑛、勞鼎勳、張世楷、蔣先濬、聶爾頓、劉澤榮、張家恢、施仁溥、龔業強、何維道、易廷楨、王光壽、章浩、周澍、葉啓偉、夏建寅、杜煥淦、舒立強、易榮甲、郭志任、黃伯厚、瞿宣綬、李代治、夏聲駿、馬傳中、姚振域、穆任、劉佐陶、楊景輝、馬景蘇、武紹程、收縣、夏錫爵、王式、尹維楨、劉德麟、夏璜、劉文龍、劉耀泮、文任棟、易辟萬、辰沅道屬縣

永綏縣 麻慶君、石元貞、石昌松、吳錦三、鄧文烹、向錫九、洪淵、翟維陽、章詩傑、麻陽縣 張嗣先、李鎮坤、田佑藩、黃璜、黃自強、歐定遠、黔陽縣 謝淵、范道豐、沈卓裁、周順成、永順縣 向乃祺、彭之瑞、彭雲伯、孔憲達、唐士進、乾城縣 高瑚珊、陳世清、吳凌雲、張楚強、張宏鑑、龍山縣 朱繼承、彭喚、向寶楨、向振名、彭瀛、沅陵縣 歐本麟、王傑、淑浦縣 蕭襄生、譚亞東、丁茂材、辰谿縣 歐世隆、胡濯漢、溆溪縣 鄧希禹、鄧顯甲、桑植縣 王尙文、

保靖縣	余煥然、張翥、
晃縣	董正、
鳳凰縣	贊成達、
靖縣	申開雲、
會同縣	林世譜、
通道縣	鄧子奇、
綏寧縣	黃慶年、
桃源縣	張乙震、
慈利縣	朱潤楚、
石門縣	田長慶、陳典謨、汪山經、
大庸縣	秦定藩、
古丈縣	陳家謨、
芷江縣	唐舉、張京霖、

財政經濟

●豫算整頓計畫

北京政府は目下各省の豫算紊亂し財政の支出極に達するより、之を整頓せんと欲し、特に三大計畫を訂定し、各省に通咨せり其大要左の如し。(時報)

一、經費分配 政費の節約を行ひ剩餘額は軍費の不足を補ふ。

二、豫算議定範圍 英米各國の成例に仿ひ、固定經費を畫出し、毎年國會の議決範圍外に置き、以て政爭の影響を受くるを免る。

三、實行豫算 凡そ支出は豫備金を以て標準と爲し、若し

豫算用途有るも、切實計畫其要政に關係無きものは、追加を請求する事を得ざらしめ、豫備金を制限して科目の流弊を禁絶す。

●湖北と外債 湖北省が本年より民國十一年に到るまでに毎年償却すべき外債の數額左の如し。

▲七年度分

甲、地方公債 正金銀行へ償還すべき分銀五萬兩

乙、炭山灣煤礦贖回借款 銀十萬三千八百兩

▲八年度分

同 銀九萬八千二百兩

▲九年度分

同 銀九萬二千六百兩

▲十年度分

同 銀八萬七千兩

▲十一年度分

同 銀四萬四千四百兩

●新華銀行株主總會

北京新華銀行は中交兩銀行重役の主持するに至りて以來、營業日に隆盛に赴き、本年六月末新商株百萬元の募集を完成し、七月一日純然たる商業銀行に改め、董事數名を舉て董事會を組織し、行内の事務を管理し居たるが、前日株主總會を開き正式に役員の選舉を行へり、其結果梁士詒、方仁元、葉恭綽、吳鼎昌、譚標孫、陳福頤、居易宏、胡筆仁等董事に就任周作民、周自齊、朱啓鈴、鮑宗漢、謝霖、李恩浩、汪有齡等候補董事に當選陸宗輿、謝霖の二名監視に、汪立元、鄧文藻の二名候補監

視に任じ、方仁元を經理に推舉せり。(順天時報)

●湖南省六月分政費

收入		
釐金	現銀	五、四〇五、三九九
	紙幣	一二、一九七、〇一二
田賦	銀	一二六、〇〇〇
	紙幣	二八、九八七、九一〇
礦物稅	銀	五、〇一五、三五八
	紙幣	三、四二七、〇一〇
正雜稅	紙幣	一五九、三九五、六〇八
雜收入	銀	三、三七八、〇〇〇
	紙幣	四、〇八八、一〇一
司法收入	紙幣	一、〇〇七、七七三
正雜捐	銀	二〇〇、二四〇
	紙幣	四、六六六、〇〇〇
餘款	銀	一七六、六一六、一三八
合計	銀	五二、三四〇、六一六
	紙幣	六九、九一八、一六二
支	銀	三三、七九六、四一九
內務	紙幣	一、〇〇〇、〇〇〇
外交	銀	九、七〇五、四一九
財政	銀	九、五五九、三二〇
司法	紙幣	四、〇八〇、八六三

教育	銀	三九、〇八六、八八五
	紙幣	二六、六一二、一七六
實業	銀	二、四一〇、一一六
	紙幣	一、六〇一、四八〇
合計	銀	一三一、六八〇、四三三
	紙幣	六六、〇九〇、九三八

●山西の造幣廠 閻山西督軍は該省金融維持の起見を以て造幣を開始す可く、人を上海に派遣して購入せる造幣機械は既に山西に到着せる由にて、不日鑄造に眞手すべしと。(時報)

●湖北省茶稅 鄂南蒲圻縣羊樓司一帶の茶葉は湖北の主要物産なるが、其税金は主として陰曆四五六の三箇月間に取立てられ居れり、今年上半季の收入狀況左の如し。

(時報)		
四月分	豫算額	四、〇六四元四九九
	實收高	二、五一五元三六一
五月分	豫算額	六七、一一二元五六三
	實收高	五六、八二九元七〇八
六月分	豫算額	二八、一三二元九八八
	實收高	二七、三五四元一二一

鑛 山

●龍煙鐵鑛近況 龍關及煙筒山鐵鑛は官商合辦會社組織とし、資本金は官民各一半を負擔する規定にて、官株に對する一百萬元は、不日現金にて同社に交付し、進捗を

國る由なるが、同社監督陸宗輿氏は農商務顧問安特生氏を
借り、同社の事業を援助せしめん事を農商部に請へり。

(時報)

●七月分許可鑛産

七月中農商部に於て採鑛認可を
與へたる鑛山數は十五ヶ處にして、金鑛一、鉛鑛一、弗石
鑛一、炭鑛十二、劉區面積合計九千四百七十三畝なり、其
内譯左の如し。(時事新報)

福建省建甌縣黎山村炭鑛二十七日劉崇倫に認可。

山西省平定縣燕子溝小南溝炭鑛同日崔廷獻に認可。

京兆宛平縣太平山金鑛二十四日楊玉貴に認可。

安徽省宣城縣 牛山炭鑛二十四日陳光譜に認可。

吉林省和龍縣土山子炭鑛二十七日孫芝に認可。

河南省城縣王家村炭鑛二十七日馬吉梅に認可。

奉天省桓仁縣西于溝子炭鑛十八日鄭寶興に認可。

同省西安縣孟河亮岩鑛二十日傳承文に認可。

湖北省蒲圻縣北鄉虎山犬山炭鑛十七日夏道南に認可。

同省大冶縣馬叫堡陰山溝炭鑛八日劉廷撰に認可。

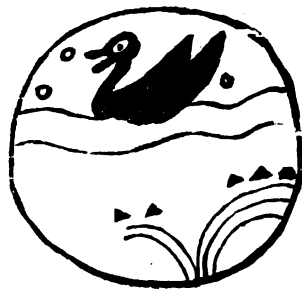
安徽省貴池縣豬形山炭鑛八日吳南崑に認可。

山西省大同縣南北深井村炭鑛一日張樹探に認可。

奉天省海城縣候家隈子蘇耳滑石鑛一日王朝宗に認可。

直隸省井陘縣瓜地嶺炭鑛二十七日李秀亭に認可。

奉天省寬甸縣欠財溝鉛鑛二十七日顧雲泰に認可。



彙報

自八月一日至八月十五日

對露關係

▲過激軍の不意討

(哈爾濱特電廿一日發) 廿六日未明過激派軍は不意にセミヨノフ軍の本營に肉薄しセ軍は幸うじて之を擊退し翌日敵陣地を夜襲し五百名の敵軍を全滅せしめたるも敵は大逆襲をなしセ軍の支那兵大隊を全滅せしめ日本義勇兵亦大に奮戦せしも廿七名の戦死者及七名の行方不明者を出し兩軍白兵戦を演ぜり。(二日、日日)

▲セミヨノフ軍退却

(哈爾濱特電廿一日發) 滿洲里來電——滿洲里前面に於て幾度かセミヨノフ軍と戰國を交へたる獨逸俘虜軍はアバガイドは出でアルグ河畔より滿洲里に大迂回をなして包圍攻撃をなさんとする形勢なるよりセミヨノフ軍は緊急軍事會議を開き協議の結果直に退却を開始し十七列車を以て海拉爾に向け發車し約四時間の後十七部隊の輸送を終りたり尙獨逸俘虜軍はセミヨノフ軍の退却と共に其攻撃を中止せり又國境の支那軍司令官は『敵軍は決して國境内に侵入せざるべく若し侵入し來るも直に之を擊退すべし』と聲明せるも一般住民は日本の出兵を待つ情は極度に達し此危急を救ふものは唯日本の正規軍あるのみなりと誓へり。(二日、日日)

▲チ軍と東清鐵道

(北京特電廿一日發) 支那政府は協南側公使團に宛て左の如く通告し來れり。

チエツク軍は協南側と同一目的を以て獨逸に敵對するものなるを以て支那政府は彼等と便宜を興ふるも悉く支なしと信じ今同チエツク軍に對し東清鐵道の使用を許可することゝ爲せり。(二日、時事)

▲支那陸海指揮官

(北京特電一日發) 一日閣議にて浦鹽派遣の海容

經長林建章氏に將官の資格を與へ浦鹽に於ける支那陸海軍の指揮官たりしむることを決定し尙義戰營辦事處より同付せし西伯利出兵案をも通過せり但本案は直に實行に取掛る意味にあらず日本と共同策戰を爲す場合の準備なり。(三日、日日)

▲佛兵浦鹽に向ふ

(上海特電二日發) 佛領安南陸兵六百名浦鹽に向ひたり。(三日、時事)

▲邦人財産掠奪さる

(哈爾濱特電一日發) 滿洲里在留邦人(約五百名)は僅に身を以て引揚げたるが同市には過激派侵入し邦人が多年の辛酸に依りて作り上げたる財産を支那人と結びて片端より掠奪しつゝありとの報あり二十六二十七の兩日の戰鬪にて負傷せし日本義勇兵約二十名は海拉爾より本日當地に到着露國衛戍病院に收容せらる可し尙は同病院内は既に邦人義勇兵二名の重傷者及び八名の戰病患者を收容し居れり。(四日、時事)

▲セ軍貝加爾に退却

(二日北京特派員發) 黑龍江省督軍鮑貴卿の報告に依れば過激派有力にしてセミヨノフ軍は遂に支へず二十九日は全部貝加爾に向け退却せり滿洲里にある支那軍司令は過激派軍と嚴重なる交渉を爲せる結果凡そ二週間は支那國境を犯さざる約を結べり吉林黑龍江省の狀況然り予は上京して陳情せん。(五日、朝日)

▲沿海住民饑饉に瀕す

(二日北京特派員發) 浦鹽に於て滿洲方面より輸入の途絶えたる爲事紛は浦鹽の住民を今後十日間養ふのみにして沿海住民は今や饑饉に瀕しつゝありと。(五日、朝日)

▲支那軍總司令

(北京發五日其筋着電) 支那民國政府は八月三日附大總統令を以て浦鹽警備軍總司令長林建章を海軍代將に任じ遺露支那陸海軍の總司令たらしむべき旨公布せり。(六日、朝日)

▲過激派侵入否認

(北京特電四日發) 支那政府の接受せる報告によれば過激派は滿洲里を距る廿支那里の地點に迫れるも未だ支那國境に侵入せず支那軍隊は過激派軍隊に對し互に侵入せざるを約し居れりとして過激派軍の滿洲里侵入を否認し居れり。(六日、日日)

▲李督軍浦鹽出兵同意

(南京特電四日發) 李督軍は中央に對し北邊防備に關し建議する所あると共に參戰營辦事處に對して浦鹽出兵に對し同意する旨電告せり。(六日、日日)

▲邊境防備方針

(北京特電四日發) 三日の閣議にて滿洲里出兵を可決したるも此際著しく兵力を殺ぐは困難なりとし先づ黑龍江督軍鮑貴卿氏の部下一個聯隊を急派せしめて過激派の侵入に備へ其上にて奉天、吉林、黑龍三省より増援隊を派遣することとなり。(六日、日日)

▲領事團調停を拒む

(浦鹽國際特電五日發) 當地領事團は西比利亞政府より西比利亞政府とホルワット將軍の間に立ちて調停を行はんことを求められたるに就き本日會議を開きたるも結局之を拒絶し中立を守ることを決定せり但し領事團はホルワット將軍に對し西比利亞政府と直接の交渉をなさんことを提議す可し。(七日、時事)

▲浦鹽へは陸路派兵

(北京特電五日發) 浦鹽派遣の支那軍隊千名は目下北京に於て編成中なるが右軍隊の輸送は陸路京奉南滿及び東清鐵道を經由することとし東清鐵道の使用方に就きては支那政府は東清鐵道ホルワット長官との間に略ぼ了解あり滿鐵の使用方に就き現に日本政府と交渉中なり。(七日、時事)

▲支那軍東清鐵道管理

(三日國際社哈爾濱發) ホルワット將軍は鐵道をデブリツクス將軍の管理の下に置けり之に對して支那は同すべしと思惟さるデブリツクス將軍は今タムールスクスに赴けり。(七日、朝日)

▲過支兩軍條約締結

(五日哈爾濱特派員發) セミヨーノフ軍に對し瀕死的打撃を與へし過激派の勢ひ當るべからざるものあり今にも國境を突破せんとする形勢を見たる滿洲里に駐屯せる凡々三千の支那軍隊は驚き恐怖の念を擲き勝ち誇りたる過激派軍の勢力を國境に喰止むる能はずして憤懣過激派との間に次の條約を締結せり。

一、支那側はセミヨーノフ軍の武裝を解除し且つ該軍隊の滿洲里通過を許さす。

二、過激派軍は滿洲里に侵入せずしてダウリヤ驛迄撤退すべし。

三、支那軍隊にして第一案を強行し能はざる時は支那側は始め之を過激派に通告すべし。

四、第八十九特選隊を以て中立地帯の境界とす。(八日、朝日)

▲チエツク黑龍江督軍訪問

(六日北京特派員發) チエツク軍司令官の副官は黑龍江督軍鮑貴卿を訪ひ聯合軍は浦港よりハバロフスク方面に

行く事となればチエツク軍の黑龍江省を通過するに關し十分の便宜を與へられたしと述べたり。(八日、朝日)

▲ホルワット軍送還

(浦鹽特電七日發) 聯合國武官は内争を避けしめんが爲めホルワット軍をグロテコフに送還せんことを提議せり依つてホルワットは其軍隊中の支那人を解散し露國軍人は之をグロテコフに送還せり。(八日、時事)

▲日人滿洲里引揚事情

(五日哈爾濱特派員發) 支那側はセミヨーノフを以て日本の傀儡と爲しセミヨーノフ軍の軍事行動を以て日本の意志に出づるものと爲し恰も黑河の支那官憲がブラゴウエシチエンスク事件に對せしと同じ見解を有し居れり滿洲里の日本人が急遽引揚げを決定したるは該地の支那官憲の方針に對する行動に不安を感じし結果に由るもの多し只今滿洲里は平靜にして武裝せざる赤衛軍の出入するもの依然として頻繁なり過激派數は三四千にして獨逸俘虜は少し。(八日、朝日)

▲國境侵入嚴戒

(北京特電六日發) 滿洲里方面にて支那軍司令官は北京政府の密令を奉じ過激派軍に對しセミヨーノフ軍にして支那領土内に進入せるものに對しては武裝解除を要求し再び進撃せしめざるにより過激派軍も亦支那國境内に一步をも入る事勿れと要求せり。(八日、日日)

▲十二門の新式大砲

(五日哈爾濱特派員發) 過激派は黑龍江の水運に依り上海より十二門の新式大砲を得近く又該地より武器到來すべし。(八日、朝日)

▲過支軍妥協を作る

(哈爾濱特電七日發) 滿洲里よりの報に據れば支那官憲と過激派の間に向ふ五週間は互に國境を越えざるべしとの同意成れり而して支那軍司令官趙將軍は此の期間は一時平安を得可きものなりと保障す尙ほ彼は鐵道及び村落の財産行政を管掌し及び鐵道に於ける秩序を改善するを許さすとなせりとあり。九日、時事)

▲佛軍浦鹽に出發

(北京特電五日發) 浦鹽派遣英國兵二箇中隊は本月三日無事浦鹽に上陸し佛蘭西兵四箇中隊八九百名は本日塔沽出帆ルボン號にて浦鹽に向へり尙ほ佛軍は全部佛國兵にて安南兵は尙ほ派遣せざることに變更せり。(九日、時事)

▲チエツク討伐決行

(アムステルダム、ロイテル特電六日發) 伯林に

由莫斯科來電に曰く過激派政府はチエツクスロツクに對する戰費として三億留の支出に可決せりと。(九日、時事)

▲過激派鐵道を左右す (哈爾濱特電八日發) 武裝せざる(各自ピストルを有せり)過激派兵は續々滿洲里を發して東に向ひつゝあるが今やジャライノルまでの東清鐵道は既に過激派の勢力圈内にありと。(九日、時事)

▲避難邦人の苦境 (哈爾濱特電八日發) 海拉爾に於ける滿洲里避難民は支那人の空屋を借りて土間に起臥し市街にて食事を居れるが同市今や物資缺乏し居れりと。(九日、時事)

▲チエツクと衝突解決 (浦鹽特電九日發) コレンキに於けるホルワツト軍とチエツク軍の衝突事件はホルワツトがチエツクに對し謝罪しホルワツト軍司令官クレシチヤツスキを解職し支那人を解散し露國軍人を後且加爾雜戰に派遣可すべき條件にて落着せり。(十日、時事)

▲支那兵東清線守備 (浦鹽特電八日發) ホルワツト軍の司令官フレシチヤツスキ將軍は解職せられ東清鐵道は支那兵守備の任に當ると。(十日、時事)

▲支那の滿鐵使用 (北京特電九日發) 外交部秘書施恩氏は昨日日本公使館を訪問し支那の滿鐵出兵に就き滿鐵使用方に關し至急回答あらんとを請求せり日本側は主義に於て勿論賛成なるも滿鐵よりは未だ確答に至らず本問題未解決の状態にあり因に支那滿鐵出兵數は南苑に駐屯せる第九師團所屬兵千三百名(工兵騎兵を含む)の外、輜重兵等を加へて總數二千名餘、第九師團長陸軍中將饒宗幹氏之を統率し滿鐵の同意あり次第輸送開始の筈なり。(十一日、時事)

▲過激派に集合 (十日哈爾濱特派員發) イルクーツクは今尙過激派の手にありて勢力當るべからず後且加爾州には一兵のチエツク兵だになし是迄傳はりし報道は全く虚報なり數日前チタより來りし邦人の談に赤衛軍は盛にチタに集合しつゝあるが如きも市中は甚だ靜謐なり過激派は左留邦人に對して非常の好意を有し居れり支那人は寧ろ過激派の権力の下にある事を希望し居れり日本人の引揚後西伯利の經濟界は支那人の獨舞臺にして非常の利益を収めつゝありチタは物資缺乏して約十倍の昂價を告げ居れり。(十二日、朝日)

▲過激派益々跳梁 (哈爾濱特電九日發) 滿洲里よりの報道に據れば過激派は漸次滿洲里を占領しつゝあり而して反革命者と見れば用捨なく逮捕しつゝあり四、五の兩日避難逃亡者の二列車を差押へられ後方マチエフスカヤに向け送られたリマチエフスカヤに於ける勞兵會は地方人民に激を飛ばしてセ軍の軍事關係者を隱蔽することなく過激派に之を引渡す可しと布告せり過激派の巡邏兵は反革命加擔の商人五名を拘禁せり尙ほ八月十四日過激派は赤衛軍の武裝せざる列車を滿洲里まで進行せしめんとす之に對し支那側は薄弱なる抗議を申込みつゝありと支那側は過激派に強硬なる態度を持し難く全く彼等を利用してられつゝありと。(十二日、時事)

▲黑河戒嚴令布告 (哈爾濱特電九日發) 黑河に於ける支那軍司令官は同市に戰時狀態を布告せり是れ同地はブラゴエシチエンスクの對岸にして支那側は近時著しく過激派と感情を疎隔し居れるが爲めなり尙ほ同市には危險なる過激派の間諜入込み居れりと。(十二日、時事)

▲北滿に二個師出兵 (十日奉天特派員發) 北京政府は北滿方面に第十五師團の一個旅第十三師團の一個旅第九師團の一個聯隊第十六師の一個聯隊奉天軍の一個旅總計二個旅を派遣する事に決定し九日張寶軍の參謀長湯字露は是等に關し天津北京方面に急行せり。(十二日、朝日)

▲東拓の活躍 (九日奉天特派員發) 東拓は盛に哈爾濱電燈會社を買收したるが其後各方面の各種事業界に活躍せんとして調査を進めつゝあるが過激派滿市政を掌握せる市政委員より東拓系に對し哈爾濱上水道敷設及其經營を依託し來り交渉順調に進み目下技師を派遣して調査中なり。(十二日、朝日)

▲ホ將軍護衛兵還送 (浦鹽特電十一日發) ゼムストウオの抗議に對し領事團はホルワツトの護衛兵五十名をグロデコフに還送し支那兵を解散せしむるに決せり。(十三日、時事)

▲海拉爾嚴重の警戒 (哈爾濱特電十日發) 海拉爾に於ては滿洲里より到着するものに對し嚴重なる檢閲を行ひ過激派及び獨逸の惡策に乘するを得せしめざるやう警戒し居れり。(十四日、時事)

▲支那防備に汲々 (北京特電十二日發) 支那政府は庫倫の烏蘇里にも四箇大隊を増派し從來の手兵と合し合計六大隊となし又遼江に五箇大隊を

増派し庫倫、張家口間にも五箇大隊を増派する計畫にて着々實行中なりと。

(十四日、日日)

▲赤衛軍對支抗議

(哈爾濱特電十一日發) 昨日附滿洲里よりの報道に據れば八日赤衛軍司令官は更に支那官憲が過激派をして滿洲里に通過せしめざるに對し抗議を申込みり即ち曰く。

支那は東清鐵道沿線に守備を命じ居れるが元來東清鐵道は露國の管轄内に屬し同沿線村落の住民は當然露國の法律に依りて秩序を維持せらる可きものたり然るに目下露國は過激派政府の權力の下にあれば東清鐵道も同じく過激派極下の軍隊に依りて守備せられざる可からず左れば支那官憲は赤衛軍が哈爾濱に向つての通過に同意す可くセミヨノフを助けて罪なき露國の村落及び過激派軍隊を攻撃するが如き所爲ある可からずと。

之に對して地方支那官憲は「本件に就いては北京政府に照會する所ある可く二週間の猶ほを與へられたし」と回答し故に何等施す所なかりしが支那政府は國境支那軍隊及東清守備隊に依然軍隊を嚴にす可しと命ぜり。(十四日、時事)

▲巨魁リューチン起つ

(哈爾濱特電十日發) 滿洲里よりの報道に據れば哈爾濱過激派の巨魁なりしリューチンは今同東清鐵道廳及び其沿線長官に過激派本部より任命せられたりと。(十四日、時事)

外交關係

▲團匪賠償金免除

(北京特電三十日發) 章駐日公使は昨程北京政府に宛て左の如く電報し來れり。

日本政府は日支親善の見地より團匪賠償金全部の免除を提議し來りたるが右に就き如何なる回答を與ふ可きや至急訓電を請ふと云々。(一日、時事)

▲支那人の英國援助

(桑港國際特電二十八日發) 最近當地に到着せる新嘉坡英支教會首長の談に據ればマレー諸州の富有なる支那人は裝甲自動車及び飛行機を購入して之を英軍に獻納しつゝあるのみならず多額の軍艦建造費を寄附し且つ多くの軍事情報を購入せり又一四にて赤十字社への寄附金五千弗の集まりしことありと。(一日、時事)

▲敵人收容法決議

(北京特電三十一日發) 日英佛米等協商國公使は二十九日公使團會議を開き在支那獨逸人國外放逐問題は英佛國の希望に依り一時支那政府に於て要求を撤回し改めて在支獨逸中協關係に取り最も危險なる人物を戰爭中支那國內一定の場所に收容することとし北支那に於ては北京の西方四十哩西城寺南支那に於ては舟山列島を收容地と爲す可しとの意見に一致し會議の結果直に支那政府に通告せり。(三日、時事)

▲四川邊警

(北京特電一日發) 西廠總辦事長官陸興祺氏よりの入電に曰く西藏、兵馬總理大臣噶布倫既に大軍を率ゐる大本營を察木多に遷め其大本營に英國人顧問武官附屬し軍事計畫に參せる由にて四川邊境は危急なりと。(三日、日日)

▲張家口開阜

(北京特電一日發) 過般來上京中の察哈爾都統田中玉氏は張家口開市に就き北京政府と交渉したる結果政府は將來開市の曉商阜となすべき釐定地を河東上子橋附近と定め廣さ二十九頃的地價其他諸經費六十萬圓支出を承諾せり。(三日、日日)

▲學生政治運動取締

(漢口特電二日發) 歸國せる日本留學生天津上海にて愛國會救國團等の團體を組織し各地の學生を煽動する事情尙ほ止まざるを以て教育部は更に各省學校取締を嚴命せり。(四日、時事)

▲廣東政府承認を求む

(北京特電二日發) 廣東軍政外交總長伍廷芳は同政府承認方に付き北京駐在各國公使に對し大要左の如く請願し來れり。

支那現時の内亂原因は段祺瑞の北洋派の武斷主義にありて存す南方政府は南北の分裂を企圖するものにあらす今日北方に對抗するは恰も歐洲に於て聯合軍が奮闘しつゝあると同様民主主義の爲め專制主義に對し闘ひつゝあるものあり支那は平和を回復せんが爲めに先づ段派の廓清を必要とす其爲めに列國が廣東軍政府を承認する事を最も適當と信ず云々。(五日、時事)

▲佛國抗議提出

(北京特電四日發) 佛國公使は二日外交部に到り佛支條約に支那にある羅馬加特力教會教師は佛國、伊太利、西班牙、葡萄牙何れの國籍たるを問はず佛國公使の保護を受くる條項あり今支那と羅馬は王廳が公使を交換する結果は佛國の權利を侵害するものなりとて嚴重に抗議せり。

(五日、日日)

▲賠償金支拂 (北京特電二日發) 支那政府は露國側よりの交渉により義和團賠償金の内露國の分を支拂ふことに決したりと右はホルロツト政府の軍費に使用するものならんと。(五日、日日)

▲日米借款協力 (華盛頓特電三十一日發) 米國國務省の發表に曰く日本銀行家より米國政府の監督と同意との下に支那に對する借款に應ずる目的を以て組織されたる米國銀行團に協力すべき旨の交渉を受けつゝありと官憲側の思惟する所に依れば國際銀行團の協心戮力を度外し之を困難なつしめたる從來の反感は消失せり且支那の現状は露國の混亂に鑑み特別の考慮を必要とす殊に米國は支那の對露斷交に對し責任を負へるを以て其現狀に對し深甚の考慮を拂はざるべからずと。(五日、日日)

▲米國借款團復歸理由 (一日倫敦特派員發) 華盛頓來電——大統領ウィルソン氏は其對支借款に關する從來の態度を變更せるを説明せる文書に於て述べて曰く支那が參戰するに至れるは米國の感化に因る處大なり而して米國は支那をして戰爭の目的の爲に一層有効に軍備を整へしめんことを欲すと又曰く「對支借款は依りて以て此兩國の共同の利害及び其結果として生ずる海外に對する相互の利益が適當に表明せらるゝの具となるべし」と。(六日、朝日)

▲外人湖南旅行禁止 (漢口特電四日發) 張敬堯氏は暫く外國人の湖南旅行を禁止せり。(六日、時事)

▲林公使宣旨傳達 (五日北京特派員發) 林公使は五日午後五時國務院に段總理を訪問し口頭を以て日本の出兵宣言を傳達せり。(七日、朝日)

▲英公使に交渉 (五日北京特派員發) 西藏辦事大臣薩福英の報告に依り西藏内亂は印度兵の同地方援助に依り益々猖獗なるより外交部は四日英國公使に交渉の公文を送れり。(七日、朝日)

▲外人法律適用條例 (五日北京特派員發) 外人に對する法律適用條例五日發布さる本條例にて法律行為、能力親族及び財産管理當事者の本國法適用の範圍を規定したり。(七日、朝日)

▲騷擾事件の交渉 (上海特電八日發) 當地先般の騷擾事件に關し有吉領事は昨日ミニニシバルカウシンの會長タロスキーア氏に面會し要求する所あり又居留地警察總長マキユエン氏は該事件の報告は數日中にミニ

ニシバルカウシんに提出せらる可く支那巡警が紀律を破りし事に付き遺憾とすると共に該事件は日本人に依りて開始せられたるものなることを述べたりと云ふミニニシバルカウシンは目下暑中休暇にて九月十一日會合ある可く其節此問題に就き會議す可しとのことなり。(九日、時事)

▲廣東軍政府と列國 (八日上海特派員發) 廣東軍政府の各國より承認を爲すを求めし件に付き北京にある各國公使は既に各本國政府に之を傳達し指令を乞へりと。(九日、朝日)

▲公使交換問題 (北京特電八日發) 羅馬法王國との公使交換問題は佛支間の交渉となり延びては支那政府を勸めて本問題を開議に遊進せし英國の仲裁となり今や紛議最中なるが七日佛國公使ボツプ氏と段總理との會見の結果漸く解決の曙光見え來たり唯某國は支那駐在新公使ベトロリー僧正が從來親獨主義を以て聞ゆるを以て之を好まず變更を望み居れりと。(十日、日日)

▲僧正公使を好まず (北京特電八日發) 支那政府は羅馬法王國に對しベトロリー僧正を公使として迎ふる事を好まざる旨公式に通告せり。(十一日、日日)

▲公使問題解決 (北京特電九日發) 支那政府は羅馬法王國に對し公使の人選變更を希望すると同時に從來佛國公使は加特力教徒の保護に當り居りたる事情を述べ兩者の使節交換によりて佛國の既得權を侵害せる能はず法王國の公使は教案に對し會商する能はざる事を承知し置かれたしと通告せり之にて問題は佛支間に於て圓滿に解決せり。(十二日、日日)

▲佛支問題紛糾 (北京特電十三日發) 佛國公使は支那政府が羅馬法王の公使人選に反對し宗教問題に干渉せざる事を通告せるに對して満足せず佛國公使は二回段總理を訪ひ根本より羅馬法王との使節交換を中止せん事を要求し更に倫敦駐劄佛國大使は伊國其他の協商國と交渉し聯合抗議を提起せんとしつゝあり此運動は獨逸新任外務大臣ヒンツェ氏が羅馬法王と親密にして法王を利用し特殊の關係を恢復せんとする陰謀ありたるに基因するものなりと報ぜらる尙段總理は羅馬法王と公使交換問題の爲佛支間に重要な外交問題と惹起し交渉困難なる爲薩福祥氏に對し是非歸京の上何等かの策を講ぜし事を熱望したる結果薩氏は十一日夜歸京し十二日の國會開院式にも出席せ

るが十三日の會議にて本問題を熟議すべしと傳へらるる右に就き支那少壯外交官は佛國の主張に對し是外政に干渉するものなりと憤慨する者少からざるも苟くも協商國と一致して獨逸に對する今日の協合佛國の要求は全然拒絕する能はざるに似たり。(十五日、日日)

南北情勢

▲參議局總裁 (香港特電二十九日發) 李烈鈞氏は今同廣東軍政府の參議局總裁に任命されたり。(一日、日日)

▲張懷芝獨斷にて北上 (漢口特電三十日發) 張懷芝氏は屢々曹錕氏の南下を促せしも効なきより天津に行き曹氏と面議せんことを政府に請ひしも許されざりしが遂に命を待たず北上せしなり。(一日、時事)

▲直隸省議選舉 (天津特電三十一日發) 直隸省議會議員初選舉は種々紛擾を生じ内幕暴露したるが曹省長の命令により去る二十四日以来投票を行ひ漸く二十九日終了し定員百十二名當選せり來月復選舉を執行すべし。(二日、日日)

▲安福俱樂部の計畫 (上海特電二日發) 安福俱樂部の計畫は徐世昌氏を總統に段祺瑞氏を副總統に曹錕氏を陸軍總長に徐樹錚氏を直隸督軍に馮國璋氏を江蘇督軍に張懷芝氏を江西督軍に李純、陳光遠兩氏を將軍府に王揖唐氏を國務總理とせんとするにありと。(三日、時事)

▲倪嗣冲天津會議列席 (上海特電二日發) 倪嗣冲氏は三十一日夜六時天津會議に參與せり天津會議は張懷芝氏發後會議を二分し互に決議する處ありたり爲めに北洋派の分裂を來さんとしつゝあり。(三日、時事)

▲天津會議と王督軍 (三十一日漢口特派員發) 三十日北洋軍團の名を以て第三次天津會議の開催に就き代表者派遣力を要求し來りたれば王督軍は軍務科長楊文愷を派遣するに決定せり今回の會議は對外出兵に對する件總統選舉問題等なりと。(三日、朝日)

▲南軍勢力を恢復 (上海特電一日發) 北軍の海軍は汕頭を攻めんとせるに陳炯明水雷を敷設せるより南粵より進まんとせるに此處にも水雷を敷設せるより進むを得ず又廣東軍八營は陳炯明の根據地三河に至れる爲め南軍

勢は恢復せりと。(三日、時事)

▲南軍の部署定る (上海特電二日發) 湖南の南軍總司令官は羅延閣程潛は左翼司令官林修梅は右翼司令となれり目下南軍は湖南寶慶を攻撃し居れりとの報あり。(三日、時事)

▲陝西依然紛亂 (漢口特電一日發) 陝西省山陽縣よりの來信によれば陝西の紛亂は依然たり民軍の首領四名各地に割據し陝西靖國軍副司令胡景翼氏は山陽にあり陳督軍は胡氏に對し妥協を求めしが胡氏は陝西の平和は陳督軍の辭職によつてのみ得らるべしと答へたりと。(三日、日日)

▲達賴獨立企圖 (北京特電一日發) 達賴喇嘛は南北の爭亂を奇貨とし獨立の計を運らしつゝありとの報あり。(三日、日日)

▲曹錕非戰に決す (上海特電三日發) 吳佩孚氏は曹錕氏に對し三十一日電報を送り絕對に再び戦ふ能はざるが故に寧ろ再び戦はず天津に止まりて動く勿れ若し再び南下せば大失敗に至る可しと云へり曹氏も既に再び戦ふ能はざるに決すとの報あり。(四日、時事)

▲副總統問題纏らず (三日北京特派員發) 段總理は天津の曹錕張作霖に二回迄書を送つて決して副總統に就任せざる旨を表示せるを以て天津會議は徐世昌を大總統に推すに一致せるも副總統に就ては議する所なかりしと云ふ尙會議に列席せる督軍等は軍事問題解決後は各歸任して來京せず。(五日、朝日)

▲王占元張作霖に答電 (二日漢口特派員發) 三十一日張作霖は第一次天津會議の諸問案たる、
(一)大總統副總統は何人を推舉すべきや(二)中央西南綏征軍に期限を豫定すべし(三)共同出兵の辦法如何

に就き王占元の意見を問ね來れるに對し王占元に第三に對し相當の意見を提出せるも第一、第二に衆議院に依り決定されたと返電せり。(五日、朝日)

▲入京新議員少數 (三日北京特派員發) 新國會議員の北京に集まるもの十七日迄に僅に百名に達せるのみなるより電報にて他の議員の入京を催促し居れりと。(五日、朝日)

▲廣東着の國會議員 (二日廣東特派員發) 廣東國會に列席せる各省の議員左の如し。

直隸二十二、奉天六、吉林二、黑龍江五、江蘇二十七、安徽九、江西二十八、浙江十六、福建十六、湖北十六、湖南十七、山東十四、河南十七、山西十四、陝西九、甘肅四、新疆二、四川十三、廣東三十四、廣西十七、雲南十四、貴州三、蒙古六、西藏三、合計三百五十五名。

國會議員は廣東に來着したるが參議院は尙定員に二名不足なり。(五日、朝日)

▲奉天軍の使命 (北京特電三日發) 鄭坊駐屯の奉天軍は二日五個大隊を江蘇に分派せり奉天軍が漸次北京附近に集まるは總統選舉に關し新國會を監視する爲なりと傳へらる。(五日、日日)

▲黎天才軍振ふ (二日漢口特派員發) 黎黎天才は雲南四川軍の増援を得巴東を攻撃し北軍は危險の狀態に陥り且光新よりは急速援軍を請ふ旨來電ありし故王督軍は三十一日漢口駐紮第十八師の一隊を宜昌に急行せしめたり。(五日、朝日)

▲龍軍の殘兵降伏す (三日廣東特派員發) 龍濟光の根據地たる海南島に殘留せる龍濟光軍は廣東軍に包圍せられ降伏を申出でたり。(五日、朝日)

▲天津會議の議決 (四日北京特派員發) 天津會議の結果從來の主戰政策を續行して廣東攻撃を爲す事戰費を節減して持久策を取る事に大體の方針を決定せり總統問題は徐世昌を總統に段祺瑞を副總統に推すに決定せり且各所有の權限分配を妥協し軍費として曹錕五百萬元張勳四百萬元、張作霖二百萬元、徐樹錚の新軍設備費五十萬元、張敬堯二十萬元、河南福建凡そ二百萬元を受くるの議決を爲せりと。(六日、朝日)

▲李純對時局進言 (四日南京特派員發) 李江蘇督軍は中央に打電して曰く今同聯合國西伯利亞出兵は將來外交上の地歩確立を必要とするにあり此緊要の秋に當り中國出兵計畫は慎重の態度を取られたし外交多事の際速かに南北讓歩を以て妥協を圖り而して極力北邊の防禦策を講ぜられたし又參陸處に對し滿洲出兵に關して賛同すべき旨を打電せり。(六日、朝日)

▲廣東國會正式開會 (三日上海特派員發) 廣東に來れる舊國會議員は既に法定數に達し參議員は一名、衆議院は十三名丈け過半數を超えたり五日正式開會に決定し議事日程を定めたり。(六日、朝日)

▲林葆懌歸順無根 (三日上海特派員發) 廣東海軍總司令林葆懌が北京政府に歸順を申出でたりとの北京電報は虛報なり。(六日、朝日)

▲陳軍大埔奪回 (五日廣東特派員發) 陳炯明の率ふる廣東軍は福建軍を攻撃し三十日大埔を恢復せり又廣西、廣東境界に於て南北兩軍は長らく對峙中なりしが南軍は北軍中熱病に冒され戦ふ能はざるに乘じ攻撃を開始し目下激戦中なり。(七日、朝日)

▲雷州攻略兵凱旋 (五日北京特派員發) 雷州を攻略したる林虎劉志陸劉連桂は廣東省城に凱旋したり廣東軍は林虎の軍三營を雷州守備とする外全部三十一營は引揚ぐるに決し劉志陸軍は二十五日雷州より汕頭に向け出發せり尙劉志陸は汕頭劉連桂は瓊州に駐屯する事となれり又沈鴻英は瓊州島に向け出發せり。(七日、朝日)

▲南北妥協運動 (上海特電五日發) 長江方面に於て李純(江蘇)陳光遠(江西)王占元(湖北)張敬堯(湖南)並に馮玉祥(混成第十六旅團長)氏は南北妥協の必要を唱へ武力を以て國家を統一するの不可能なる所以を述べ援鄂副司令吳佩孚氏も亦同様の意見を述べたり。

(北京特電六日發) 江蘇、江西、湖南、湖北各督軍は連名にて北京政府及天津會議に當て(一)南方に對し和戰を主張せず唯自己の管轄區内を犯すものに對しては討伐すべし(二)總統問題は國會の決定に一任す(三)滿洲出兵の件は北京政府の決定せる方針を承認する旨打電せり。

(北京特電六日發) 湖北督軍王占元氏は軍事會議を開きたる結果六日中央政府に對し西伯利亞問題は國際上に及ぼす影響重大なるを以て南北の内争は互に讓歩して平和の解決を促し對外出兵を萬全に實行せざる可らず且湖北第二師團の一部も之に参加せりと打電せり。(八日、日日)

▲南方討伐豫定 (北京特電六日發) 六日の閣議にて南方討伐期を約三箇月と豫定し毎月千五百萬元の軍費を支出する件を決定通過せり。(八日、日日)

▲熊克武中央服從希望 (五日漢口特派員發) 吳光新は四川督軍熊克武在成都が雲貴軍の壓迫を受け中央に服從を冀ひ代表を派し吳光新と連絡し雲貴軍を撲撃せんことを提議し來れる旨王督軍に打電し來れり。(八日、朝日)

▲北軍の武器 (五日北京特派員發) 北軍の武器を輸送せる汽船二隻は八月一日湖南省朱希附近に於て土匪の襲撃を受け擄奪されたり。(八日、朝日)

日)

▲岑氏陸氏と會見 (上海特電六日發) 岑春煊氏は陸榮廷氏と會見し満足の結果を得たり十日までに廣東に歸る可し。(八日、時事)

▲南軍攸縣占頗 (六日上海特派員發) 湖南省南軍は又攸縣を占領せり。(八日、朝日)

▲南軍梅嶺方面攻撃 (五日上海特派員發) 陳炯明は南軍は七月三十日より大埔方面の北軍を攻撃し同地恢復の上八月一日までに藍田にて北軍を驅逐せり又二日以來梅嶺方面にても南軍は攻撃を開始し居れりと。(八日、朝日)

▲湖南各地獨立 (漢口特電五日發) 湖南辰州にて周則范氏は巡閱使田應韶氏は督軍張學濟氏は省長と稱し軍政府を組織せり事實滑稽なるも又北軍の活動なきを見るに足る。

(漢口特電五日發) 湖南省乾州靖縣も獨立せり。(八日、日刊)

▲廣東國會開會 (七日上海特派員發) 廣東國會の衆議院は六日開會せり出席者三百二名にて午後二時議長吳景濂開會の辭を述べ席順を定め議員資格を審査し委員を選挙し國會の宣言は二三修正案緊急動議出で九日參衆兩院合同會議を開き決議するに決し四時半散會せり。(九日、朝日)

▲北洋團分裂の虞 (六日漢口特派員發) 援粵總司令張懷芝氏は四日武昌の留守司令部に對し曹錕、張作霖は副總統問題に關し意見を異にし北洋團體分裂の虞あり圓滿解決を俟つて歸岳すべし援粵軍勢は暫く消極主義を執るべしと打電し來れり而して湖北督軍王占元は北方の暗潮甚だしきより自己の地盤を保全し戰禍に投込まれざる爲め時局に關する一切の建議を爲さざると共に天津會議に派遣せる楊務務課長に對し何如なる問題も過半数の賛成を見ざるものには同意する勿れ又異議を挟む勿れと訓電せり。(九日、朝日)

▲南軍寶慶に迫る (上海特電八日發) 張敬堯は湖南寶慶の九弓橋地方は南軍に占領せられたるを報ぜり。(九日、時事)

▲天津會議終了 (八日北京特派員發) 天津會議は七日を以て終了せり而して本會議に於ては主戰方針は變更せず、廣東討伐を強行する事、大總統には徐世昌を推し副總統は未決の儘とし曹錕の戰功を待つて推薦すること、東三省巡閱使に張作霖を推す事等を申合せたりと。(十日、朝日)

▲西南聯合軍總司令 (上海特電八日發) 唐繼堯は西南四省聯合軍總司令となれりと。(十日、時事)

▲國會開院式期日 (北京特電九日發) 參衆兩院議員談話會は本日午後三日開會せらる國會籌備事務委員長より參議院議員の來着せるもの百十三名衆議院議員二百二十六名に達し開會法定數を超過せる旨報告せる後議場一致にて本月十二日は國會開院式を舉會することに決定せり尙ほ臨時參議院は十二日正式國會開會と同時に閉會するに決せり。(十一日、時事)

▲鹽稅問題險惡 (芝罘特電八日發) 無稅鹽課稅問題は各反對黨を昂め威海衛にては駐劄軍隊の一小隊を亂打死に至らしめ形勢危難に傾せり。(十一日、日刊)

▲張宗昌軍費請求 (十日南京特派員發) 目下湖南に在る張宗昌は自己の率ある部隊に對し特別の軍費として八萬七千餘元を支出せられ度き旨李督軍に電報せり。(十二日、朝日)

▲陳炯明軍峰州占領 (十日廣東特派員發) 陳炯明軍は福建省峰州を占領したる旨陳司令官より報告し來れり。(十二日、朝日)

▲分登事件擴大 (芝罘特電十一日發) 分登にて檢殺されたる小隊長事件の爲官民衝突し土民百餘名官兵百餘名の死傷を出して事件益擴大し當地鎮守使は更に二十箇小隊を増遣せり。(十三日、日刊)

▲國會宣言書作製會議 (十一日上海特派員發) 廣東來電ト九日午後三時參議院衆議院合同にて國會宣言書作製に關する會議を開き參議院百一名、衆議院三百三名、合計四百四名列席討論の上委員附託となり該審查委員は參議員より森林以下七名衆議院より徐補成以下七名合計十四名を選舉して散會せり次會の會合日取は未定なり。(十三日、朝日)

▲張督軍子息暗殺失敗 (十二日奉天特派員發) 十日夜南方派四名張督軍の息張瀟瀾を其親衛中に暗殺せんとせしも發覺し巡警一名を射殺し二名に重傷を負はせて逃走せり内二名は宮殿内に隠れしも官憲並に兵一個大隊に包圍され何れも自殺し遂げたり自殺せる一名は婦人にして短刀を持ち居り兵士數名に斬り付け一時城内を騒がしたり右の外尙連累者ある見込にて嚴重警戒中なり。(十三日、朝日)

▲國會開會式舉行 (北京特電十二日發) 本日の國會開會式に於ける

馮大總統の祝辭左の如し。

參衆兩院は國家の立法機關なるも昨年解散以來久しく成立せず以て國民の望みを慰るに由なかりし本代理大總統就職の始め即ち汲々其事を以て事とせり故を以て參議院を召集し國會選舉法を修正し公布の後今に至る迄數月に過ぎざるに各省及中央の選舉次第に終了す數國治を望み人同情あるを見るに足るべし幸びに國會開會の期に際し本代理大總統自ら其政界に與るを得たるは何の欣幸か國會無きの立憲國無く專制政府と立憲政體との區別を論ぜば國會の有無を以て段と爲す聖旨あり政治は人類の產物なり一個の政治亦一國の產物なり凡そ國民は普通性と特別性とあり其立憲政體の下に生くる者は國會の幸福を希望す是れ普通性にして各國の同じうする所なり國會の組織如何極限の範圍如何に依りては是れ特別性に屬し一國の所有國會の組織及極限に確立す將來國民は其幸を受くるを得べし諸君田間より來る信望最も優なり今人徳を望むの時に當り立法の權威を發揮するは將來官民の冀ふ所なりと。

段國務總理の祝辭左の如し。

正式國會成立し段祺瑞亦其盛典に遭ふ何の幸ひか是れに如かん諸君は皆是れ後敘明述の士なり國家の前途は諸君に依頼する所大なり今一堂に會同す祺瑞聊か往日の經過狀況を述べて諸君に語らんとす民國建設七年危くして安きに歸る事再びなり國會亦不幸にして再び覆へり紛糾今に至る迄已むなし國家の改革は此階段あるを已むを得ずと雖も而かも其由來する所に溯れば約法の不真なるに在り夫れ專制政體よりして一躍共和制を布き理想的國民皆依らしむるには國會と政府と相助け行ふにあらざるは不可なり故に今日の急務は眞好なる憲法を布き人民敬慕の中心となり國會は立法の機關となりて政府を監督し自私自利の因なからしむるにあり願はくば政令のまにまに綱紀を整理し國勢を鞏固にし國會亦宜しく賛襄する所あるべし内閣ありて以來更迭する事十數回内閣を組織するの際總統より其信任を選び難し今や字内の形勢は益難沸し内亂未だ平かならず冀はくば國會と政府と協同同心之れに依つて保安を致し内政を治め列強と共に大局に處せんとす語に曰く善を俾て證とし機を忘れ敢て此義を助くと聊か遂て諸君の爲めに國會の爲に全國民の爲に祝す。

と。(十五日、時事)

▲徐氏に三策あり (上海特電十四日發) 北京よりの報道に據れば西

南省代表某天津に於て徐世昌の信任する人物と總統問題に關し折衝せるに徐世昌は假りに總統に當選し就職を承諾する場合には左の三政策を主張す即ち(一)争ひを歇め外侮を防ぐ事(二)財政を整理す(三)軍隊を裁決し土匪を處罰す此政策にして容れられざれば敢て國會の推薦を受けずと答へたりと。(十五日、時事)

▲陸總長辭職申出 (上海特電十四日發) 陸徵祥氏外交總長辭職を申出でたるに對し段祺瑞氏は堅く其留任を求め且つ曰く現内閣は總統を選出したる後同時に退職す可しと。(十五日、時事)

▲張懷芝濟南に歸る (青島特電十三日發) 張懷芝氏は十二日朝北京を辭去し今朝濟南に歸る。(十五日、時事)

財政關係

▲對支借款加入 (二十九日合同通信社發) 華盛頓來電 國務卿ラッセン氏の發表によれば米國銀行家は政府の調停を承認し支那の借款に應ずることに同意せり。(一日、朝日)

▲對支借款發表 (二十九日國際社華盛頓發) 米國國務省は米國の對支借款政策を發表し述べて曰く銀行家は細目全部とも政府の提議に服従することを承諾せり尙國務省は條件の實行に就て有ゆる援助を與ふる事を確定し聯合國は支那をして對獨逸戰爭に於ける最も活動的援助者として準備を完うせしむべき該借款に協力せんことを希望せり。(同上)

▲對支貸付額如何 (二十九日紐育特派員發) 華盛頓來電 本日國務省は米國銀行家の支那國防借款參加に賛成せり借款額は別に發表せられざるも五千萬弗を渡す事となるべし目下、日、英、佛と支那との間に右借款參加に關し商議進行中なるが詳細の點は未だ決定するに至らずと。(同上)

▲關稅改正期疑義 (上海特電三十一日發) 今回の改正稅率は歐洲戰爭終了後再び改正することとなり居れるに就き其歐洲戰爭終了とは停戰の日より起算す可きか講和條約成立の日より起算すべきか不明なる爲め北京政府は既に外交方面に對し確實に決意せんことを求めたりといふ。(一日、時事)

▲借款承認條件 (紐育特電二十九日發) 米國政府は支那政府計畫の

未成立の借款全部取消を條件として米國銀行團に對し借款に應ぜんとするの企畫を承認せり而して今後支那に對する總ての借款は日、英、米、佛四國銀行團にて共同にて之を引受くる事となるべし借款の細目に就ては未だ全部確定するに至らざるも取致す五千萬弗を貸與する事に就て考慮中なり尤も目下の暫時狀態に鑑み日米兩國銀行團は當分英佛兩國に於て分擔を立替へ置くに至るべしと。

(華盛頓電報二十九日ロイテル發) 米國國務卿代理は左の陳述書を發表せり、

支那は米國の行爲に就て一般的に對獨宣戰を布告せり故に米國政府は支那が中央列強に對する戰爭に更に特殊の援助を與へんが爲に國力を充實せしめんとするの希望に對して特別の利害關係あるを感じたり現在に至る迄は米國は歐洲戰に米國の武力を有効に傾注せしめんとするの準備に對する義務の爲に支那が其希望を實現せんとするを援けんとする特殊の建設的手段を執るを阻止し居たり然れども最近米國政府は支那領土が擾亂の現場に接近せるに鑑み支那人の爲に完全なる手段を講ずべき特殊の努力を講ぜざるべからざるを認めたり其結果從來對支借款に關係を有し且東洋に關して經驗を有する若干の米國銀行家は華盛頓に召集され遂に銀行家及國務省との間に左の條件にて協調設立せり。

(一)一箇或は夫れ以上の借款に應ずべき米國銀行家の一團を組織し米國內各地銀行家の代表者を之に参加せしむる事。

(二)銀行家側は政府と提携し且國務省より定められたる政策を遵奉する事を保證する事。

(三)銀行團を組織する銀行名を國務省に提出して其免許を得る事。

(四)借款は如何なるものも其期限及條件を國務省に提示して其許可を得る事。

(五)借款にして米國民と對手外國との間の自由交際を助長促進せんが爲に締結せられ且彼我國双方に有利なるものなりとして米國政府及對手外國政府とより其期限及條件に關して承認を得ば米國政府は進んで凡ゆる可能的手段を執つて之を援助し且迅速にして有力なる提示をなし而も外國領土内に於て米國人が誠意を以て行ひたる公正なる諸契約に對しては凡ゆる方法

を講じて其遂行を保護すべきを誓約す。

尙米國銀行團は日英佛三箇國銀行家と提携せん事を希望し目下是等の諸政府との間に交渉進行中なるが結局圓滿なる提携をなすに至るべしと。(國際通信二日、日)

▲借款反對運動

(間島特電二日發) 間島延吉縣教育會は俄に吉黑森林借款反對運動を開始し本日より三日間縣下教育會を催し過激なる機文を各會員に配布せり其機文は血を以て團結し云々とあり。(四日、日)

▲金貨紙幣條例起草

(上海特電八日發) 北京來電に據れば金貨紙幣借款調印せられたるを以て金貨紙幣發行條令を起草して公布す可く此條令の許可を求むることに六日閣議に於て決定し曹汝霖氏は馮總統に對し現に金の假安く銀を以て金の買入れ準備を爲すの決して損失にあらざるを説明し且つ金貨本位に改むるの便もありとの事を説明せり但し借款は朝鮮銀行紙幣を用ふるものなりとのことにて當地支那人中には我國既に金融權を失へりと憤慨するものあり。(十日、時事)

▲金券發行內容

(七日北京特派員發) 支那政府は日本より得べき借款金額を引當に支那に於て同額の金券を發行せんとす其方法は東京に預けある交通銀行借款の殘額二千三百萬圓に對して金券を發行する計畫なり。(十日、朝日)

▲金貨紙幣

北京特電九日發) 財政部の金貨紙幣發行計畫は既に熟し居れるが右金貨紙幣は米國金貨半弗を以て一圓とし中國、交通、中華、滬業の四銀行をして之を發行せしむべく之と同時に幣制局を新設すべきが國務院が金貨紙幣發行條例を公布(何れも既に閣議を通過したりと傳ふ)を宣布せんとするに對し馮總統は是等財政上の重要問題を急遽決定するは宜しからず國會の承認を得たる上發表すべしと陳べ國務院より回付せる案に署名捺印を肯ぜざる爲に府院の感情頗る面白からずと。(十一日、日)

▲金券條例要旨

(北京特電十日發) 十日敕令卅三號を以て(金券金貨紙幣)條例九箇條を發布せり其要領左の如し。

第一 國際貿易の便を計り金本位採用豫備の爲幣制局より指定せる銀行は金券を發行するを得其種類は一圓、五圓、十圓、廿圓、五十圓、百圓の六種なり。

第二 金一圓の單位は純金の含有量〇・七五二、三一八五即ち庫平二分一毛六絲八忽とす。

第三 金貨鑄造前は單に國內及外國爲替に用ゐる金貨鑄造後は兌換をなし金券は外國金券及金塊を以て交換することを得。

第四 金券と銀價との比較を一定せず指定銀行は時々金銀交換の比價を告示す。

第五 指定銀行は金券發行に對し全額の準備を要し該準備は本國、金貨、金塊、外國金券を以て十日毎に準備額を公表し幣制局より之を検査す。

第六 金券は比價に照し公私共に使用するを得。

第七 指定銀行金券を以て預金其他の業務を營む。(十二日、日日)

▲吉黑代表歸る (九日永天特派員發) 吉林黑龍江兩省林續三千萬元借款取消運動の爲上京せる吉林代表は九日夜當地通過歸吉せり政府は多少退讓し財政部は讓歩の方法に就き目下考案中なり吉林各團體は利權の幾分を挽回したる孟督軍の盡力に對し感謝の意を表せりと。(十二日、朝日)

▲幣制局官制發布 (北京特電十日發) 十日敕令を以て幣制局官制九箇條を發布せり其要領左の如し。

▲幣制局は國務總理に直屬し貨幣紙幣及幣制に關する事項を取扱ふ。

▲實辦一名(財政總長兼任)總長一名、顧問一名、名譽顧問數名を置き先づ調査委員會を設置し財政部直屬の造幣廠印刷局及銀行を監督す設立期間を十箇年と定む。

尙十日の總統令に曰く財政總長より速に幣制を創立し民國三年公布の國幣條例を履行し金貨を統一し金券發行を流通せしめ並に幣制局を設くるの件を從議せり右刻下の要政にして民主と直接の關係あり我國は民國三年既に國幣條例を公布し銀價を統一し金本位制の準備を爲し漸次成功せり正に努めて進歩を圖り金力を擧ぐべし故に金券發行條例及幣制局官制を發布す財政部は該計畫に従ひ振興を圖るべし。(十三日、日日)

▲金券借款反對 (上海特電十二日發) 支那商會聯合會は國務院に對し金券借款には反對の意を示し居れり。(十四日、日日)

經濟關係及其他

▲貨物停滯應策

(漢口特電廿一日發) 日清汽船會社は上海日本間船腹不足の爲め目下上海の停滯貨物は一萬七千噸に達し之を一掃するには今後約一箇月を要す可きに依り爾今每噸五匁の費用を荷主に負擔せしむること、各會社は延滞に關する實に任ぜずと通告せしが各荷主は之に異議あり協議中なり。(二日、時事)

▲煙酒公賣總辦

(北京特電廿一日發) 丙乃楊氏は全國煙酒公賣局總辦に任命されたり。(二日、日日)

▲四鄭線新計畫

(大連特電二日發) 四鄭鐵道の第二期事業として鄭家屯より洮南府迄延長する豫定なりしが幹線と併行線となり且物價及地質上の不利多きを以て四鄭鐵道技師長藤根氏は改めて鄭家屯より先づ開魯縣に到らしむる新計畫を起て之を携へて便宜上先づ滿鐵本社に至り目下協議を經しつゝあり。(四日、日日)

▲支那學生渡米

(二日上海特派員發) 支那學生約百五十名(内二名は女學生)は來る十五日午前南京號にて米國に留學すべく又河南省よりも學生五名三日のモンテリル號にて渡米すべしと。(四日、朝日)

▲廣海貸貸申込

(廣東特電三日發) 支那シンジケートに賣却せられたる軍艦廣海に對し一實業家は擔保金六十萬兩を以て二年間期限にてチャイキせんことを申込たりとの説あり。(五日、日日)

▲滿鐵水害擴大

(三日大連特派員發) 奉天以南の豪雨歇まず南滿鐵道の被害益々擴大し二日夜より安奉線及奉天以南の本線不通となれり遼陽附近最も甚だしく太子河氾濫全市浸水し食料缺乏す又工事中の鞍山站製鐵所及立山驛附近は積減水したるも尙警戒中にて鐵路破壞箇所は本線六箇所安奉線七箇所及び天候恢復するにあらざれば復舊の見込なし。(五日、朝日)

▲支那に米船の註文

(桑港合同通信社四日發) 華盛頓よりの報道に曰く船舶局は上海に於ける江南機器局に一萬噸級汽船四隻の建造を註文せりと。(六日、時事)

▲金嶺鎮探掘

(青島特電四日發) 阪口鐵道部長は三日歸任せるより金嶺鎮鐵山も近く探掘着手を見るならんが一年の探掘量二十萬噸にして一ヶ年に要する重なる費目の豫算は金嶺鎮鐵山間鐵道敷設費二十五萬圓鐵石運搬

車九十輛九十萬圓機關車五輛六萬圓山元設備費十五萬圓合計百三十萬圓なり。(六日、時事)

▲京漢鐵道不通

(漢口三日發) 其筋着電河南省鄭州と孝感との中間に於て出水の爲め鐵道破損せしを以て三日漢口より北京行の汽車切符は發賣せず又二日北京發汽車も本日豫定の時刻に到着せず當地鐵道局に於ては右損害の程度不明なるを以て鄭州へ問合せ中なり尙ほ二日北京發汽車は我高等學校學生の一行乗込み居る筈。(六日、時事)

▲漢口滯貨問題解決

(漢口特電八日發) 日清汽船と同地地主との紛議は同社にて上海の滯貨を一掃する爲め和歌の浦丸を借入れたる上定期船は之迄の内規を改め努めて漢口荷物も多く積み取り印度澳洲航路の寄港にも積取をなす條件にて解決せり。(十日、日日)

▲上海の大滯貨

(漢口特電九日發) 目下日本行貨物にして上海に停滯せるもの三萬七千噸あり其中漢口よりの貨物は一萬四千噸にして通常の船腹にて之を一掃するには二箇月を要す然るに時局關係にて一層船腹不足を來せるを以て一般に大恐慌を起し十日關係者の會議を開き對應策に就き協議する筈。(十二日、日日)

▲金券流通の助成手段

(十一日北京特派員發) 支那政府は金券發行の結果其流通を助成する手段として金寶金買の商事會社を設立する筈にて中華貿易公司と稱し民間より株を募集し特別法の保護を與ふべしと中華貿易公司の設立までには尙多少の時日を要す。(十三日、朝日)

▲亞細亞銀行組織完了

(九日紐育特派員發) 米國政府は本日公式に左の如く發表せり「亞細亞銀行組合の準備組織完了せり本部は紐育にて近く開業すべく尙上海に中央支部開設の目的にて特別委員は九月早々日本及び支那に向けて出發すべし」と。(十三日、朝日)

▲船腹問題落着

(漢口特電十一日發) 船腹問題につき總領事は外務省に實業協會は參戰局に事情を訴へ善後處置を求めたるが一方荷主會議の結果は三菱は其所有船二隻を往復せしむる事を承諾し郵船も敦賀丸を借入るゝ事を通知し來れり。(十三日、日日)

▲京漢線再不通

(漢口發十一日外務省着電) 京漢鐵道は水害の爲め八日以來再不通となり漢口發汽車は彭城止まりにて北京汽車との聯絡なきが

故に昨今漢口より北京に赴くものは孰れも津浦線を迂迴し居れり當地鐵道局員の言に依れば今回は黃河附近の水害甚だしきが故に復舊工事の爲め多少の日子を要すべしとのことなり。(十三日、朝日)

▲支那兩替店取締

(安東縣特電十三日發) 支那兩替店九十軒に對する取締令出で資本一千元以下は之れを許さず原因は經濟界を擾亂する爲めなり。(十五日、時事)

▲滿洲米價暴騰

(奉天特電十三日發) 滿洲各地に於ても米價俄に暴騰し一升四十五錢を呼ぶに至れるより奉天稅務署にては白米販賣業者を召集して持米販賣方法に就き協議する所あり且隨時當業者を臨檢し嚴重なる取締を加へつゝあるが米價は益々騰貴するのみにて諸物價も之に準じ就中木炭最も甚しく爲に當業者に對し二俵以上の販賣を嚴禁せり。(十五日、日日)



國漢字書界の一新紀元
劃る本邦空前の大字典

天覽台覽

大字典

上田 文學博士 岡田 學習院教授 飯島 學習院教授 榮田 文科大學助手 飯田 一傳先生 共編

六版發售
●收載文字の多大なる、字音、字形、字義の説明の至り盡せる、本邦にのみ用ひらるゝ特殊の發音及特訓を説くことの詳細なる、十有五萬の熟語を收めたる、難讀の固有名詞數千を載せたる、同訓異義及辨似を細說せる、劃引音訓索引の外、數字引の新法を以てせる等これ本書の有する大特色にして、本書一たび出でて復在來の字書を説くものなきに至れる所以なり。速に購求あれ。

索引其他詳見本代進呈
細説明書付

菊入六號活字四角半堅本美革角背頁千三判菊
定價金七圓也
送料 內地錢五拾 朝鮮錢四拾 臺灣錢五拾 日本錢五拾 函付

東京市日本橋區本銀町三丁目

株式會社

振替 東京 五五〇二一

啓成社

電話本局 二〇〇〇

井上 賴國先生
高山 昇先生 共著
苑田 茂丸先生

難訓辭典

國書中に存する難訓の地名、姓氏、神祇、官職、動植、器服、有職故實、佛事、時令、稱號等を蒐集し盡く其讀方及出典を示したるもの讀書家必備の寶典なり。

菊判洋裝上製
定價金拾貳錢
送料金拾貳錢

文學博士
芳賀 矢一先生著

詞藻類纂

本邦唯一の文學引照辭典にして、古今の文學中より誦すべきの佳句秀詠十餘萬を撰抄し之を五十音順に配列したるもの文學愛好者必讀の好辭書なり。

菊判洋裝上製
定價金拾貳錢
送料金拾貳錢

池邊 義象先生著

古事記通釋

池邊先生が其蘊著を傾けて著はされたるもの古事記註釋書の權威として尊重せられ神宮皇學館其他の教科書として採用せらる。以て其眞價を知る可し。

菊判洋裝上製
定價金拾貳錢
送料金拾貳錢

芳賀 文學博士 閱
芝野 六助先生著

吾妻鏡物語

鎌倉時代唯一の史料たる吾妻鏡の中より最興味多き部分を選び流暢なる口語文に譯述せられたるもの鎌倉武士の眞相は本書によりて初めて知るを得べし。

菊判洋裝上製
定價金拾貳錢
送料金拾貳錢

支那

第九卷第十八號

要目

論說	防穀稅の撤廢（下）……………一—四
資料	湖南省水道整理豫定……………五—八
	滿洲に於ける諸工業（二）……………九—二一
	支那に於る英吉利人と獨逸人（一）……………三—六
	英國の對支政策（四）……………二七—三一
雜錄	支那の關稅政策問題（二）……………三二—三五
	世界的支那問題と其解決案（二）……………三六—四〇
彙錄	金券條例及幣制局官制の公布……………四一—四三
	江蘇省本年度教育行政豫算……………四二—四三
事業界	支那事業界近況……………四四—四六
半月史	半月間の支那重要事件……………四七—五二
時報	支那最近時事要項……………五三—六三
彙報	支那關係諸報道……………六四—七九

東亞同文會調查編纂部

株式臺灣銀行第卅八回(大正七年上半季)決算公告

貸借對照表

資本	三〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
積立金	五、六八〇、〇〇〇、〇〇〇
銀行	三〇、二八三、〇二五、〇〇〇
支拂手形	二、六二一、四七二、七六
諸國預金	二九五、一六八、五六三、一二
代理貸付保證	五四、一四三、二〇五、三八
及支拂承諾	一二、四五八、八〇八、三七
他店借	三九、一三六、八九六、八八
信託預金	一八、八一七、〇八八、二六
信託金	六、三九二、六一八、三六
假受託金	五、一三二、〇二
支拂未濟配當金	三九二、九二九、八八
前期繰越金	一、四九七、四三五、七三
當期純益金	五五、一九七、一七五、七六
總計	五五、一九七、一七五、七六
拂込未濟資本金	七、五〇一、一二五、〇〇
政府貸上金	二、九五五、七〇〇、〇〇
諸貸出金及替	三九二、五三六、五〇二、四〇
買入爲替	五四、一四三、二〇五、三八
代理貸付及諸	一八、四二〇、六二四、八九
取引先支拂承諾	三、〇三八、三四五、二一
他店貸	四五、三六九、九〇五、四三
諸有價證券	二、七二二、三三七、九四
營業用所有物	

一假拂金	一二二、三五五、一九
一地金	一一、四二二、五七二、四一
一金銀在高	一三、三六四、五〇一、九一
總計	五五、一九七、一七五、七六

損益勘定

一當期純益金	一、四九七、四三五、七三
一前期繰越金	三九二、九二九、八八
合計	一、八九〇、三六五、六一
右利益金ノ分配左ノ如シ	
一諸積立金	三五〇、〇〇〇、〇〇〇
一賞與金	六〇、〇〇〇、〇〇〇
一配當金(年一割)	一、〇一八、〇〇〇、〇〇〇
一後期繰越金	四六二、三六五、六一
右ノ通ニ候也	

大正七年九月

株式臺灣銀行

頭取	櫻井鐵太郎
副頭取	中川小十郎
理事	佐田家年
理事	山成喬六
理事	南新吾

前書之事項ヲ審査スルニ總テ相違無之候也

大正七年九月

監查役(男爵)	大倉喜八郎
監查役	大谷嘉兵衛
監查役	辰野宗義
監查役	下坂藤太郎
監查役	土岐

橫濱正金銀行第七拾七回(大正七年)

決算報告

負債

拂込株金	四二、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
諸積立金	二二、一〇〇、〇〇〇、〇〇〇
滯貸準備金	二、七一六、〇二九、二四〇
銀行券	二一、二六六、七九〇、五二
諸預リ金及手形内入金等	六五九、九七四、〇七七、四四
賣爲替、再割引、支拂承諾、他店勘定等	四〇三、〇九七、二七一、二三
支拂未済配當金	九、一五五、七七
前半季繰越金	二、七二〇、四四八、七三
當半季利益金	三、九八三、五五四、一九
總計	一、一五八、八六七、三二七、一二

資産

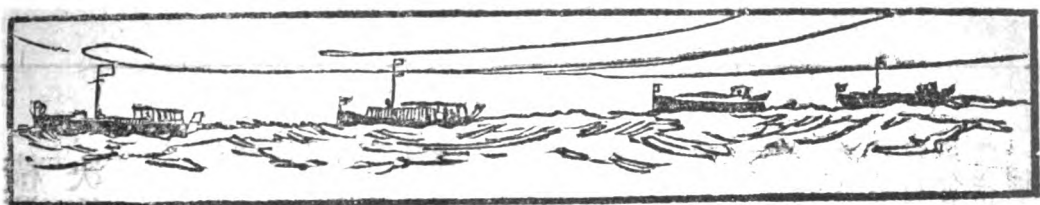
金銀勘定	二六五、四八八、四九二、六四
手許有高	四二、〇〇二、六三〇、八一
銀行預ケ金	二二三、四八五、八六一、八三
諸公債證書	二二、六七二、八六三、七四
諸貸金、割引等	三三八、八二九、六五五、四七
買爲替他店勘定等	三二六、六二七、一六二、一二
地金及外國貨幣	二、〇六二、三〇二、二三
營業用地所家屋等	三、一八六、八五〇、九二
總計	一、一五八、八六七、三二七、一二

損益勘定

總益金	六五、三八四、四七五、八六
前半季繰越金	二、七二〇、四四八、七三
總損金	五八、六八〇、四七二、九四
差引純益金	六、七〇四、〇〇二、九二
右利益金分配方左ノ通り	
積立金	一、二〇〇、〇〇〇、〇〇
配當金(年壹割貳分)	二、四〇〇、〇〇〇、〇〇
後半季繰越金	三、一〇四、〇〇二、九二
右報告候也	
大正七年九月	

橫濱正金銀行

頭取	井上準之助
副頭取	梶原仲治
取締役	相馬永胤
同	園田孝吉
同	木村利右衛門
同	原六郎
同	山川勇木
同	小田切萬壽之助
同	岩崎小彌太
同	巽孝之丞
同	鈴木島吉
同	前書ノ事項ヲ審査候處總ヲ相違無之候也
監查役	淺田德則
同	渡邊福三郎



大正七年
九月十五日發行

支那目次

第十九卷
第十八號

論說

防穀稅の撤廢(下).....

一—四

資料

湖南省水道整理豫定.....

五—八

滿洲に於ける諸工場(二).....

九—二一

雜錄

支那に於ける英吉利人と獨逸人(一).....

二二—二六

英國の對支政策(四).....

二七—三一

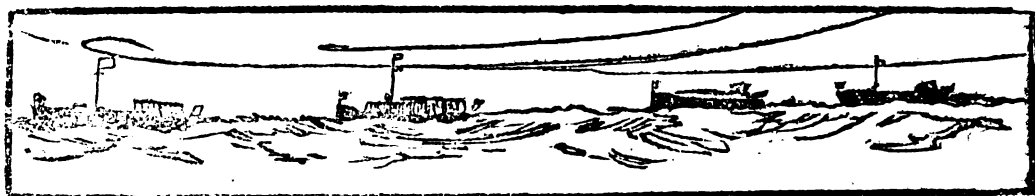
支那の關稅政策問題(二).....

三二—三五

世界的支那問題と其解決案(二).....

三六—四〇

彙錄



金券條例及幣制局官制の公布
江蘇省本年度教育行政豫算

四一—四二

四二—四三

事業界

永年保險公同の株主總會、香港總領會社營業狀態
東方織紡公同株主總會

四四—四六

半月央

烏港派遣支那軍、參衆兩院議長、吳佩孚等の停戰
電請、大同俱樂部の組織、大總統選舉、徐世昌氏
當選、副總統選舉會流會、東三省經閣使、無線電
訪借款、金券條例抗議、湯化龍暗殺、林公使歸朝

四七—五二

時報

(内治外交)

新國會の開院式、經略使署組織の續聞、教廷派使問題、公府の
重要會議、徐東海當選後の豫期政策、副總統選舉説の優勢、張
徐衝突の眞因、廣州舊國會の四報、各黨派漸く活動の形勢を爲
す天津會議結了の報告、曹錕の要求、僑工募集事務の劃一

五三—六三

(軍事)

外蒙古方面國防の兵力、遷延中の支那出兵

(財政借款)

金幣條例發表の經過、金幣中借款成立後の波折、林續借款反對
の聲

(鑛業)

七月分許可の鑛山

彙報

六四—七九

商 標



葵 印 窓 硝 子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式會社

第一工場 兵庫縣尼崎
第二工場 福岡縣戸畑
第三工場 神奈川鶴見
第四工場 福岡縣枝光
煉瓦工場 兵庫縣尼崎
曹達工場 福岡縣戸畑

東亞同文會調查編纂部編纂

再 訂 支那全圖

縱五尺一寸 橫四尺四寸 七色刷映入

大正七年版

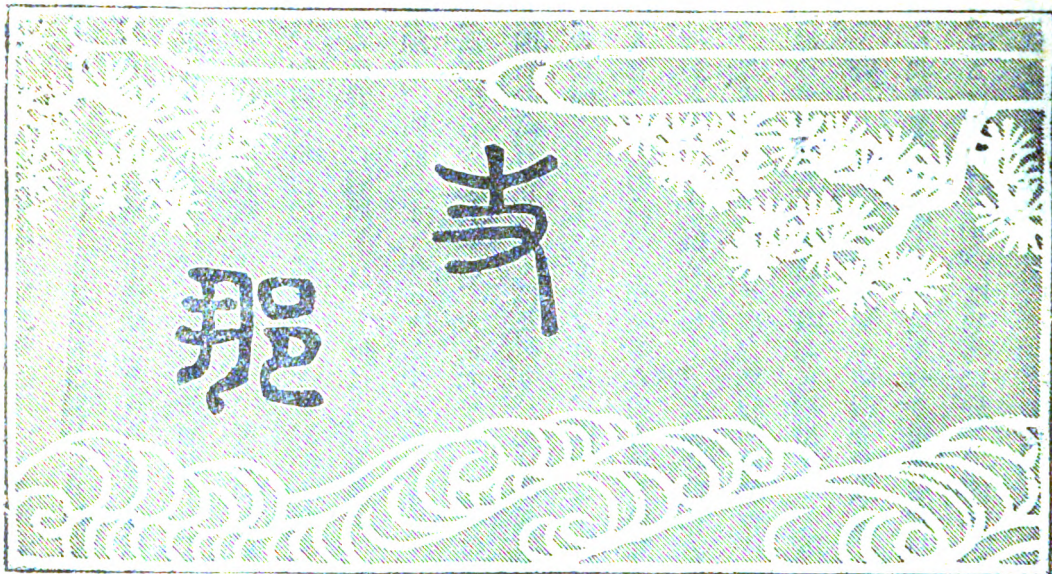
定價貳圓也

郵 稅 〔内地八錢
〔海外三十錢

東京赤坂溜池二番地

發行所

東亞同文會調查編纂部



大正七年九月十五日

第九卷 第十八號



論說

○支那防穀令ノ撤廢（下）

一

支那防穀令撤廢の支那に鴻益あること既に論ずる所の如し、而も之に關し、我邦一部農政家中防穀令撤廢の爲め支那米穀の陸續我邦に輸入せらるゝ、恰も猶ほ歐露及米國の小麥の歐洲に於けるが如く、我邦の農業を靡弊せしむべしと爲し、反對するものなきにあらず、而も是れ甚だ根據なきの説たらずんばあらざるなり。

謂ふに、我邦は人口年々増加して止まらず、生活程度の向上と共に、米穀の一人當り消費高年々増加し、明治二十一年より二十五年に亘る、五ヶ年間に於ける、平均一人當消費高の指數を百とせんに、明治四十一年より大正元年に亘る五ヶ年間の平均消費高は一百十と爲り、全國に於ける消費總額の激増を來し、明治二十一年より二十五年に亘る平均消費總額の指數を百とせんに、大正

元年より三年に亘る平均消費總額は、百四十二と爲る。此間に於ける我邦農業の進歩も亦著しく、明治二十一年より二十五年に亘る平均生産額三千八百五十萬石なりしもの、大正元年より三年に亘る平均生産額五千七十三萬石と爲れり。されど、我國土狹少にして、可耕地の割合更に少なれば、如何に集約的農耕を營むとも、年々歳々増加して止まざる消費額に適應すること能はず、海外よりの輸入額漸次増加し、明治二十一年より二十五年に亘る平均輸入高五十七萬三千石なりしもの、大正元年より三年に亘る平均輸入高四百餘萬石を算するに及べり。是は我邦の大勢にして、人力如何ともし難きものなれば、隣國より廉價なる米穀を輸入し、我邦の缺乏を補充する方法を講究するの外策あるべからず。既に述ぶる如く、支那は世界の農業國にして、其防穀令だに撤廢せば、集約的農耕行はれ、生産額も亦従つて増加し、米穀を我邦に輸出するの餘裕を生すべきこと疑なし。されど、支那が防穀令を撤廢したりとて、俄かに我農業を壓倒するに足るべき鉅額を我邦に輸出する能はざるは明白にして、唯我邦に於て、凶作又は其他の理由に依り、米價暴騰せしとき、之を適宜に調節し得るに過ぎ

ざるべし。

二

支那に於ける米の産額は幾何にして、其消費額幾何なりやは、精確なる統計の徴すべきものなし、支那海關の報告を見るに、毎年外米二三百萬石を輸入しつゝあり、従つて幾分米穀不足しつゝあるにあらずやとの疑生せざるにあらざるも、之を輸入する地方は、何れも南方にして、揚子江方面より輸入するよりも、寧ろランゲン方面より輸入すること便利なるにより、外米の輸入ある所以にして、必ずしも米穀の供給不足せる結果によるにあらず、其地方により我邦に輸出し得る餘力あるもの存すること勿論なり、其内最も有望なるは、江浙、安徽、湖南の諸地方なるべし。

江浙は支那の米産地にして、貢米を北京に輸出せしこと少なからず、其米質は地方により相違なきにあらざるも、支那第一に位せり、就中常熟米は、米粒肥大にして色澤白く殆んど日本米と異なることなし。松江米は、品質常熟米に亞ぎ、粒稍々大にして、色少しく黒味を帶び、粒揃良く、日本人向として歡迎せらる。無錫米、蘇州米、亦用ふべし

其集散市場は上海にして、上海は我邦と僅かに一衣帶水を隔つるに過ぎず、交通も亦頗る便利なれば、其防禁令撤廢の曉、先づ是より江蘇米を我邦に輸出すること、最も利あるに似たり。而も世人の期待する如く、多數の利益を舉げんこと容易にあらず、試みに上海白米を神戸に輸入するまでに要する原價及諸經費と、大阪市場に於ける白米卸賣相場とを、比較對照せんか。

上海米神戸輸入

大阪相場

支那一石相場(圓) 運賃附掛(圓)		計
一九〇〇年	五、六八八	一、六三九
一九〇五	八、一六〇	一、六八三
一九一〇	一四、一七五	一、八七一
一九一一	一六、一九七	一、八六四
一九一二	一三、七三五	一、六五七
一九一三	一三、〇八五	一、六七〇
一九一四	一〇、六六八	一、五二六
一九一五	一〇、七四七	一、〇三三
一九一六	一三、三六三	一、六八六
		一五、〇四七
		一四、〇五六
		一五、三一九
		一六、〇一一
		二一、〇三五
		二四、四七九
		二五、〇八一
		一九、一二五

上表に據れば、上海より米穀を我邦に輸入せんか、毎石四圓乃至十圓の利益ある勘定なるも、支那に於ける穀價は、年々騰貴するの傾あるのみならず、輸出解禁の曉には、更

らに騰貴することあるべく、又毎石日本米に比し數圓廉ならざれば日本に於て需要者を發見すること難かるべければ、我邦に於ける穀價騰貴せしときにあらざれば、上海より江蘇米を露出し、利益を得る能はざるべし。

三

支那奥地の米產地より米を大都に輸出するには、幾多の釐金常關を通じ、夥多の間屋仲立人の手を経ざるべからざるに依り、其經費多額に上り、奥地と都會との米相場に非常の懸隔あれば、安値なる米穀を仕入せんとするには、直ちに奥地に赴くに如かざるや勿論なり。試みに上海と、上海上流三百四十哩に位する、揚子江沿岸に於ける有名なる蕪湖に於ける米相場を比較せんか。

年次	上海相場(支那一石三付)	蕪湖相場(支那一石三付)
一九一二	八、二〇〇	五、一八四
一九一三	七、七五	四、八六〇
一九一四	六、九二	六、四八〇
一九一五	七、九八	六、三一八
一九一六	七、八〇	五、三四六

蕪湖に於ける米相場は、之を上海に比し、支那一石(百五

十斤)につき二三圓の差異あり、而して蕪湖より米を神戸に輸送する運賃諸掛は、一石につき一元五十九錢二厘にして、之を上海の九十九仙八厘に比較し、僅かに五十九仙四厘高きに過ぎざれば、蕪湖より米穀を神戸に輸入するは、上海に比し遙かに利益多きものゝ如し。然れども、蕪湖米は粳米屬にして、粒細長く、西貢米に似て稍々少く、其白米は淺曇を帶び、品質江蘇米より劣れり、唯灣沚米は大粒にして、江蘇米と相似たるも、産額少く相等の年月を經、産額を増加したる後にあらざれば、大量を我邦に輸出し得べき見込あらざるべし。されば、我邦に於ける穀價高くして人々廉價なる蕪湖米に甘んずる時にあらざれば、之を我邦に輸出するも、奇利を博する能はざるべし。湖南米の蕪湖米に於けるは、猶ほ蕪湖米の上海に於けるが如し。湖南は水流縱横し、氣候亦暖熱にして、水田頗る多く、毎年二回收穫することを得べく、支那第一の米産地にして、湖廣熱すれば天下饑へすとの諺ある位にて、毎年の米産額四千萬石に下らず、省外輸出自由ならざるに依り、毎年の輸出額三四百萬石内外なるも、防穀令撤去せらるれば、輸出額俄かに増加すること疑ひなかるべし。其穀價は蕪湖より遙か

に低く、之を日本に輸出する運賃諸掛は、蕪湖より少しく高きに過ぎざるも、米質蕪湖より下れば、非常の時にあらざれば、我邦に於て需要を喚起すること困難なるべし。

四

以上述ぶる所に依り之を觀れば、支那防穀令撤廢の爲め我邦一部の農政家が憂ふる如く、鉅額の米穀我邦に殺到し我邦の農業を壓抑することあらざるべく、從つて支那官民の唱ふる如く、支那に於ける穀價俄かに騰貴し、貧民一揆を激發することあらざるべし。恐らく當分は支那米穀の豐熟するときは、又は我邦米價暴騰するとき、數十萬乃至數百萬石、楊子江方面より我邦に向て輸出せらるゝに過ぎざるべし。然れども、之が爲め漸次支那に於ける農耕の改正と米作の増加を促がし、支那農民の生活程度を向上せしむべく、又我邦に於て徐々に米穀の供給を豊富にし、米價の暴騰を調節し、工業の發展に貢獻する所あるべし。從つて支那防穀令の撤廢は、兩國に何等の危害を加ふることなく、歲月と共に兩國の經濟界に裨益を與ふるものなれば、吾人は該令撤廢の一日も速かならんことを希望して已まざるなり。



資料

湖南省水道整理豫定

臨武縣

(一)武水 湖南臨武縣西山より、湖南宜章縣界を経て廣

東に入る

長さ 九十七支里 寬さ 約五丈餘

水漲時の寬度 上流六丈餘 下流九丈餘

同 深度 上流約八尺 下流一丈二尺餘

水減時の寬度 上流一丈餘 下流二丈餘

同 深度 上流一尺餘 下流二尺餘

堤防 兩岸の堤防寬處四尺 窄處二尺

同 高處約一丈五尺 低處約一丈一尺

從來堤防修理は民間に一任せり

沿岸の民家は農を業とし、生活程度甚だ低くし

民國五年より屢次水害に遭ひ損處多し

沿岸の農産物は稻梁重もきに居る

沿岸の民船業(運送)四十餘艘、目下釐金局の設けなく

通河税の收入なし

(二)道縣

双口 青口に至る長百支里

農田に灌漑す(測量未済)

工事としては架橋と堤防の修理、其經費は田地所有者より反別割に徴收して、之に充てしは從來の慣例とす

(三)衡陽縣

湘江 常寧縣より北は草河と合す

湘江長 百五十支里、草河長 百六十支里、

水漲時の湘江寬度 上流百五十尺 下流百七十尺餘

同 深度 上流五丈三尺 下流六丈二尺

同 草河の寬度 三十尺

同 深度 上流三丈 下流二丈七八尺

水減時の湘江寬度 上流三丈 下流五丈

同 深度 上流二尺 下流一尺八寸

同 草河寬度 上流二丈二尺 下流三丈二尺
同 深度 上流七八寸 下流一尺

湘江の堤防修築全からず、多く天然の儘となれり、歷年水害屢至り、被害區十四ヶ處に及び民地二百餘丁は免稅し居れり

沿岸の民業は重もに米作とす

民船數 湘江 約七千餘隻

草河 約三千餘隻

船稅收入一年九千五百三十串文

(四)同上

七里灘 衡陽縣下の難處にして、往々民船の難破、顛覆をなす處にして、濬鑿を要する處なり

寬度 百四十尺 長さ 四千五百尺

工事の時期は秋期水涸れの際に、水底に崛起せる堅岩剛石を炸壞せざるべからず

經費豫定

石工費 六千元(三萬人)

人夫賃 一萬五千元(約十萬人)

火藥 三萬斤 四千五百元

雜費 五千元

合計 三萬五百元

(五)道縣

澧水 芷江縣界より道縣に入り沅水と合す

長 六十支里 寬 五丈

水漲時 寬 七丈 深 二丈

水減時 寬 四尺 深 一丈

兩岸は一部は田園にして、一部は山林なるを以て、堤防を築かず、天然の岸となす、近年の水害にも格段の被害破損なし

沿河の民業は農家十分の七を占め、其他は民船運送業と、漁業二分を占め、其他の雜業一分を占む、農産は米の外豆、麥、甘蔗、紅薯等

民船は沅州船四十餘艘道縣船五十餘艘あり

通河船稅徵收機關なし

(六) 黔陽縣

沅水 貴州省天柱及會同兩河より流れ、澧水に合し、

辰谿縣界の銅灣へ出す

長 二百二十支里 寬 五丈

水漲時 寬 七丈 深 二丈

水減時 寬 四丈 深 一丈

兩岸は田園と山林とにして人工を加へし堤防なし、近年洪水にも大患を被らず

沿河民業は農業七分民船業、漁業雜業三分を占む、農産物は米、豆、麥、甘蔗、紅薯、棉花、胡麻等全河船業に従事するもの左の如し

苗船百三十餘艘、鑿洞船八十餘艘、鎮遠船七十餘艘

龍溪船三十餘艘、玉屏船二十餘艘、靖州船七十餘艘

通河船稅未詳

此外黔陽縣の小河の修理を要し、堰塘を築くべきもの二百八十三ヶ處、之に要する人工費約二萬三千二百元

とす

(七)澧縣

澧河は其支流澧水、潯水、道水あり、本流は西南より東流して安郷に入る

長 百六十支里 寬 三百尺

水漲時 寬 上流三百尺 下流三百五十尺

同 深 上流六十五尺 下流七十五尺

水減時 寬 上流三十八尺 下流四十六尺

同 深 上流四尺 下流五尺

兩岸堤防 最寬處十二尺 最窄處八尺

最高處五十尺 最低處二十八尺

近十年來水害屢臻り宣統年末に、五千餘人の被害者と二十餘萬畝の荒蕪地を生ぜしが、其後屢次の水災を経たるも、近年兵亂のため調査を了らず、免稅せし地方少なからず

沿河の民業大半は耕作にして棉、穀物、桑、豆等を主要產物とし、船業一部を占む

小蒸汽船三隻 民船二千八百餘艘

船 稅二千九百元

右の本支流を合し修理工事を要するもの董家堰の外、三十六ヶ處の堤防工事及浚渫、疏通なり

工費見積 (一)工賃 三萬元 (二)食料雜費 二萬元

(三)公費 五千元 (四)器具 五千元

合計 六萬元とす

右修理を了りし後田畝の利益を増加すべきものは六萬

畝以上、農產物代價約四萬元を加ふべく、隨つて國稅の收額に二千餘兩を得べし

此外精密の調査を結了せざるも、整理を要するもの左し如し

(八)澱浦縣の澱水 長 二十七支里 寬 平均七丈六尺

・南 縣

東中支河 湖北藕池より沅江に入る

長 百支里 寬 平均三十五丈

東支河 同上より華容に入る

長 五十五里 寬 三十五丈

西中支河 同上より漢壽に入る

長 六十里 寬 三十一丈

西支河 同上より同上に入る

長 五十里 寬 三十四丈

外支河 同上より常德界に入る

長 三十五里 寬 二十四丈

湘 鄉 縣

澧 水 同縣集祥嶺より湘潭に入る

長 三十七里 寬 二十五丈

澧 溪 縣

武 水 乾城河口より沅陵に入る

長 八十里 寬 三十丈

沅 水 浦市より沅陵に入る

長 七十五里 寬 六十丈

未 陽 縣

耒	水	大河灘より衡陽に入る	長 二百八十里	寬 二十六丈
春	水	西郷より北鎮山に入る	長 百十里	寬 十八丈
資慶	縣			
瀘	江	長 九百里	寬 四十丈	
邵	江	龍山より東關欄江に入る	長 百四十里	寬 二十丈
石門	縣			
溁	水	長 三百二十里		
辰谿	縣			
辰	江	麻陽より沅江に合す	長 六十里	寬 八十丈
桂陽	縣			
鍾	水	源潭より野鹿灘迄	長 百二十七里	寬 二十丈
湖屯	水	桂陽より郴縣に入る	長 八十五里	寬 十丈
湘潭	縣			
湘	江	衡山より長沙迄	長 三百三十四里	寬 百十丈
涓	水	衡山より湘河に入る	長 百十五里	寬 四十丈
新	水	石靈橋より長沙迄	(未詳)	寬 三十丈

永明縣

沐水 冲天嶺より廣西省に入る

長 七十一里 寬 三十五丈

瀟水 天步峯より桐口村迄

長 百二十三里 寬 三十六丈

以上は整理を要すべきものにして、未だ調査を了らざるものなり、此外猶各縣の水道あり、續查すべき豫定なりと



大正五年末日現在

九

子														
鶴														
新	福	協	王	天	天	常	天	張	天	福	東	西	永	子
驕	金	隆	家	成	增	泰	發	家	發	興	油	油	成	家
油	油	油	房	房	房	房	房	房	房	海	房	房	居	房
鶴子高四街	王來何家廟屯舍	鶴子高四街	鶴子高東街	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會	小楊樹房隆會
明治十八年九月	同二十年一月	同二十一年九月	同二十五年四月	同三十一年三月	同三十一年五月	同三十一年九月	同三十七年八月	同三十八年二月	同三十八年四月	同三十九年十月	同三十九年十月	同三十九年十月	同三十九年十月	同三十九年十月
二五,000	一,000	10,000	200	800	800	2,000	800	800	800	4,000	1,000	1,000	3,000	3,000
六	五	三	一	二	二	二	一	四	二	四	二	二	三	二
豆	豆	豆	醬	瓦	瓦	豆	瓦	瓦	瓦	燒	豆	豆	黃	醬
油	油	油	油	瓦	瓦	油	瓦	瓦	瓦	酒	油	油	酒	油
(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)
一七,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	二,一〇〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇
一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇	一,七五〇

高															
永慶油房	福源海	瑞興泉	順興居	永盛居	福海居	常順祥	常隆湧	鄭洪燭	鄭春令	湧泉居	益昌油房	雲集油房	新順號	天盛裕	王合順
魏子高東街	魏子高西街	魏子高西街	魏子高東街	魏子高西街	魏子高西街	魏子高東街	魏子高西街	魏子高東街	魏子高西街	魏子高西街	魏子高東街	魏子高東街	魏子高西街	魏子高西街	魏子高西街
同 四十三年十月	同 四十四年三月	同 四十四年四月	同 四十四年八月	同 四十五年二月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月	同 四十五年三月
10,000	4,000	2,000	300	300	300	300	2,000	800	800	300	10,000	7,000	1,000	600	100
三	五	四	三	三	三	一	四	三	三	三	三	二	二	二	三
三 豆油	三 燒酒	三 燒酒	三 黃酒	三 黃酒	三 黃酒	一 醬油	四 燒酒	三 瓦煉	三 瓦煉	三 黃酒	三 豆油	三 豆油	二 豆油	三 瓦煉	三 醬油
(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)	(斤)
3,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
7,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
7,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000

鶴	子	高	合 計(同)	大正四年(同一九八)		同三年(同一八七)		同二年(同一〇二)		同元年(同一〇四)		明治四十四年(同一六五)														
				益 増 油 房	鶴 子 窩 東 街	大正四年十二月	一五、〇〇〇	一五	豆(枝)	八〇、八〇〇	八六、八〇〇	同	順 油 房	鶴 子 窩 東 街	同五年一月	一〇、〇〇〇	一二	豆(枝)	四四、〇〇〇	五一、六〇〇						
湧 興 海	鶴 子 窩 東 街	同五年四月	五、〇〇〇	三	燒 酒	三四、〇〇〇	五九、四〇〇	同 <td>福 合 油 房</td> <td>鶴 子 窩 東 街</td> <td>同五年十月</td> <td>七、〇〇〇</td> <td>一六</td> <td>豆(枝)</td> <td>三一、二五〇</td> <td>三四、三七五</td> <td>同 <td>合 油 房</td> <td>鶴 子 窩 東 街</td> <td>同五年十一月</td> <td>一一、〇〇〇</td> <td>一四</td> <td>豆(枝)</td> <td>二五、二〇〇</td> <td>三一、一〇〇</td> </td>	福 合 油 房	鶴 子 窩 東 街	同五年十月	七、〇〇〇	一六	豆(枝)	三一、二五〇	三四、三七五	同 <td>合 油 房</td> <td>鶴 子 窩 東 街</td> <td>同五年十一月</td> <td>一一、〇〇〇</td> <td>一四</td> <td>豆(枝)</td> <td>二五、二〇〇</td> <td>三一、一〇〇</td>	合 油 房	鶴 子 窩 東 街	同五年十一月	一一、〇〇〇	一四	豆(枝)	二五、二〇〇	三一、一〇〇	
協 隆 義	鶴 子 窩 西 街	同五年八月	一、〇〇〇	二	燒 酒	一一、八〇〇	一、六六四	同 <td>大正四年(同一九八)</td> <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> </td></td></td></td></td>	大正四年(同一九八)	三、七四、八五五	二七、六九七、六四七	同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> </td></td></td></td>	三、七四、八五五	二七、六九七、六四七	同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> </td></td></td>	三、七四、八五五	二七、六九七、六四七	同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> </td></td>	三、七四、八五五	二七、六九七、六四七	同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> <td>同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td> </td>	三、七四、八五五	二七、六九七、六四七	同 <td>三、七四、八五五</td> <td>二七、六九七、六四七</td>	三、七四、八五五	二七、六九七、六四七
永 興 居	鶴 子 窩 東 街	同五年五月	二〇〇	三	黃 酒	八九、六〇〇	六〇、〇〇〇	同 <td>同三年(同一八七)</td> <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> </td></td></td></td></td>	同三年(同一八七)	二〇、九三八、美一	一四、四四四、四三八	同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> </td></td></td></td>	二〇、九三八、美一	一四、四四四、四三八	同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> </td></td></td>	二〇、九三八、美一	一四、四四四、四三八	同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> </td></td>	二〇、九三八、美一	一四、四四四、四三八	同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> <td>同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td> </td>	二〇、九三八、美一	一四、四四四、四三八	同 <td>二〇、九三八、美一</td> <td>一四、四四四、四三八</td>	二〇、九三八、美一	一四、四四四、四三八
合 計(工場數 三九)			一三六、〇〇〇						同二年(同一〇二)	一〇、三五五、三三〇	二二、五三四、〇七	同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> </td></td></td></td>	一〇、三五五、三三〇	二二、五三四、〇七	同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> </td></td></td>	一〇、三五五、三三〇	二二、五三四、〇七	同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> </td></td>	一〇、三五五、三三〇	二二、五三四、〇七	同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> <td>同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td> </td>	一〇、三五五、三三〇	二二、五三四、〇七	同 <td>一〇、三五五、三三〇</td> <td>二二、五三四、〇七</td>	一〇、三五五、三三〇	二二、五三四、〇七
合 計(同)									同元年(同一〇四)	三二、四四、九二	三二、二四六、八五	同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> </td></td></td></td>	三二、四四、九二	三二、二四六、八五	同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> </td></td></td>	三二、四四、九二	三二、二四六、八五	同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> </td></td>	三二、四四、九二	三二、二四六、八五	同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> <td>同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td> </td>	三二、四四、九二	三二、二四六、八五	同 <td>三二、四四、九二</td> <td>三二、二四六、八五</td>	三二、四四、九二	三二、二四六、八五
明 治 四 十 四 年 (同 一 六 五)			三三、〇八一、九五						明治四十四年(同一六五)	三三、〇八一、九五	一九、〇八七、六八		三三、〇八一、九五	一九、〇八七、六八		三三、〇八一、九五	一九、〇八七、六八		三三、〇八一、九五	一九、〇八七、六八		三三、〇八一、九五	一九、〇八七、六八		三三、〇八一、九五	一九、〇八七、六八

一本表は年末現在の工場に就き調査せるものにして資本金及職工人員は年末現在を掲げ製造高は一箇年間の總計なり但し職工欄×印を附するものは延人員なり次表亦同じ

一表中支那人の經營せる工場に在りては其資本金及製造品價格は概ね銀勘定なるも必ずしも一定せず故に總計に於ては金銀を混計せり次表亦同じ

諸工場の二 (附屬地)

大正五年末日現在

工場名		所在地	設立年月	資本金	職工		製造品	
					日本人	支那人	種類	数量
					計		價	額
焼口		第二煉瓦製造所	三牛家子屯	明治三十九年八月	四、八五	九	煉瓦	(箇) 一五、〇〇〇
怡順油房	新市街	同	四十二年七月	一五、〇〇〇	二	二	(豆) 油粕	(斤) 七、〇〇〇
藤山煉瓦製造所	金鑾店	同	四十二年八月	二、〇〇〇	三	三	(箇) 煉瓦	五、〇〇〇
慶順油房	新市街	同	四十四年七月	一五、〇〇〇	二	二	(豆) 油粕	(斤) 三、〇〇〇
田出精米所	松樹第三區	同	大正三年十二月	二〇、〇〇〇	六	六	精米	(石) 三、〇〇〇
福源油房	松樹第二區	同	十月一月	七、〇〇〇	三	三	(豆) 油粕	(斤) 二、〇〇〇
全順油房	松樹第一區	同	四年十月	一八、〇〇〇	二	二	(豆) 油粕	(斤) 二、〇〇〇
恒裕祥	九街附屬地	同	四年十一月	二、〇〇〇	四	四	燒酎	(斤) 二、〇〇〇
入江洋行	熊岳城附屬地	同	四年十二月	四、〇〇〇	七	七	燒酎	(斤) 五、〇〇〇
福泉	新市街	同	五年五月	五、〇〇〇	四	四	燒酎	(斤) 一、〇〇〇
永泉	新市街	同	五年十一月	五、〇〇〇	四	四	燒酎	(斤) 九、〇〇〇
滿鐵遼陽工場	遼陽車站街	明治四十年四月	二四、四六	一九五	二四	元九	車輛及器具	?
岡田醬油釀造場	遼陽佟家大街	同	四十二年三月	九、八〇〇	六	六	醬油	(石) 五、〇〇〇
林洋行煉瓦工場	遼陽附屬地	大正二年七月	一〇、〇〇〇	一〇〇	一〇	一〇	煉瓦	(箇) 五、〇〇〇
衛利德油房	鞍山站附屬地	同	三年九月	一〇、〇〇〇	九	九	(豆) 油粕	(斤) 一、〇〇〇
永盛利油房	立山附屬地	同	四年十一月	二、〇〇〇	二	二	(豆) 油粕	(斤) 七、〇〇〇

遼東酒釀造場	遼陽附屬地	同	五年十月	五、000	一		二	清酒	(石)	100	五、000
增成豆腐製造場	煙臺附屬地	同	四年十二月	10、000	一〇		二	豆油	(斤)	10、000	1、000,000
永增隆油房	沙河附屬地	同	五年十一月	1、000	六		六	液粕	(斤)	7、100	三、四三〇
鳥谷石鹼製造所	奉天附屬地	明治四十四年八月	六、000	二		二	甲	石鹼	(箇)	60、000	六、000
清澤鐵工所	奉天新市街	大正元年十月	五、000	三		二二	乙	鐵工具	(實)	10、000	13、000
西宮精米所	奉天縣南北地點	元年十一月	五、000	一		三	丙	精米	(石)	1、000	17、000
奉天精米所	奉天西一條	元年十一月	一五、000	一		九	丁	精米	(石)	1、000	三、五〇〇
瀨川鐵工所	奉天新市街	二年四月	一、000	二		九	戊	鐵工具	(實)	五、000	六、五〇〇
宮崎製瓦所	奉天附屬地	四年三月	三、五〇〇	三		三〇	己	燒瓦	(箇)	150、000	七、000
神谷燒酎公司	奉天中央大街	四年三月	10、000	一		三	庚	燒酎	(石)	1、000	六七、五〇〇
四海湧燒酎製造所	蘇家屯附屬地	五年七月	10、000	一		三	辛	燒酎	(石)	1、000	一七、四〇〇
伊藤煉瓦工場	本溪湖	明治四十三年四月	10、000	四		一一〇	壬	煉瓦	(箇)	1、100、000	13、000
飯塚石灰工場	本溪湖	同四十四年四月	11、000	一		五五	癸	石灰	(斤)	6、000、000	11、000
伊藤石灰工場	本溪湖	同四十四年五月	五、000	六		六	甲	石灰	(斤)	1、500、000	五、000
野村石灰工場	本溪湖	同四十四年九月	10、000	三		六	乙	石灰	(斤)	6、500、000	1五、000
煤礦有限公司製鐵所	本溪湖	大正四年一月	七、000、000	六五		一六五	丙	製鐵	(噸)	五、000	二八〇、000
撫順煉瓦工場	大官屯	明治四十三年五月	四八、000	二二		八〇〇	丁	煉瓦	(箇)	1、900、000	二七、000
千金藥製粉所	千金寨	同四十四年四月	10、000	五		五	戊	製粉	(石)	80、000	10、000
撫順煉瓦所	古城子	同四十四年八月	10、000	三		二〇〇	己	煉瓦	(箇)	70、000	10、000
大松號精米所	千金寨	同四十五年三月	10、000	二		六	庚	精米	(石)	二、000	三、000

[illegible]

長					春					平				
工棟組煉瓦工場	外二道溝地	明治四十三年六月	一、〇〇〇	四	六	六	六	六	六	植木煉瓦工場	四平街附屬地	四平街附屬地	四平街附屬地	四平街附屬地
吉長鐵工場	長春東第八區	同 四十四年十月	三、〇〇〇	一	二	三	四	五	六	德懋昌油房	四平街北三條路	四平街北三條路	四平街北三條路	四平街北三條路
洪發燒鍋	北問屋敷外	大正元年十二月	四、七五〇	二	三	四	五	六	七	玉成隆油房	四平街南一條路	四平街南一條路	四平街南一條路	四平街南一條路
德豐泰油房	范家屯附屬地	同 二年二月	三、一五〇	一	二	三	四	五	六	松茂煉瓦工場	四平街附屬地	四平街附屬地	四平街附屬地	四平街附屬地
滿洲製粉株式會社	長春附屬地	同 二年六月	一、〇〇〇、〇〇〇	六	七	八	九	一〇	一一	德懋昌燒酎工場	四平街北三條路	四平街北三條路	四平街北三條路	四平街北三條路
長泰泉燒鍋	東問屋敷外	同 三年二月	一〇〇、〇〇〇	三	四	五	六	七	八					
裕昌源	范家屯附屬地	同 三年八月	三〇〇、〇〇〇	八	九	一〇	一一	一二	一三					
萬發湧	范家屯附屬地	同 三年九月	五、六〇〇	五	六	七	八	九	一〇					
德盛隆	范家屯附屬地	同 三年十月	二五、〇〇〇	四	五	六	七	八	九					
北原活版所	長春東第八區	同 三年十二月	三、〇〇〇	二	三	四	五	六	七					
朝日鐵工場	長春南農耕地	同 四年五月	一、〇〇〇	二	三	四	五	六	七					
松永製材工場	長春東第十六區	同 四年九月	三、〇〇〇	七	八	九	一〇	一一	一二					
吉燐寸會社長春支店	長春東第二十五區	同 四年十月	一八〇、〇〇〇	一三	一四	一五	一六	一七	一八					
昇德燒鍋	長春區外北問屋敷	同 五年六月	五五、〇〇〇	二四	二五	二六	二七	二八	二九					
湧發燒鍋	長春區外東問屋敷	同 五年十月	一〇〇、〇〇〇	三	四	五	六	七	八					
公升燒鍋	長春區外東問屋敷	同 五年十月	四〇、〇〇〇	二〇	二一	二二	二三	二四	二五					
德懋昌燒酎工場	四平街北三條路	同 二年六月	三、〇〇〇	八	九	一〇	一一	一二	一三					
松茂煉瓦工場	四平街附屬地	同 四年十二月	一〇、〇〇〇	三	四	五	六	七	八					
玉成隆油房	四平街南一條路	同 四十四年七月	六〇、〇〇〇	五	六	七	八	九	一〇					
植木煉瓦工場	四平街附屬地	明治四十二年四月	六、〇〇〇	一	二	三	四	五	六					

公 主 嶺		安		東		總 計(工場數 九二)	
濱田鐵工場	大和町	明治四十三年五月	八〇〇	二	建築材料	?	八五
久保田煉工場	櫻町	同 四十三年六月	三〇〇	一	建築材料	?	三、四四五
煉瓦工場	大和町	同 四十三年七月	四、〇〇〇	一五	煉瓦	(箇) 一、〇〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇
廣 豐 泉	郭家店南二條街	大正二年十月	一〇、〇〇〇	二二	燒酎	(斤) 一〇五、六六〇	三、八四〇
東茂泰燒鍋	綠町	同 二年十月	一六、〇〇〇	一〇	燒酎	(斤) 一六、六四八	一、三三三
東茂泰油房	綠町	同 二年十月	一三、〇〇〇	一〇	油粕	(斤) 四四、〇七五	四、四〇〇
泰和增油房	柳町	同 五年十一月	一〇、〇〇〇	三	油粕	(斤) 一〇、〇〇〇	一、四〇〇
合資會社日興油房	江岸通一丁目	明治四十三年三月	八〇、〇〇〇	三	豆油粕	(枚) 二〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇
鴨綠江製材有限公司	六道溝	大正四年十月	五〇〇、〇〇〇	一八	精製米	(石) 八三三、三〇六	一五〇、〇〇〇
勝武洋行糯米分工場	五龍背附屬地	同 四年十二月	三、〇〇〇	五	精製米	(石) 四、四八〇	一八、〇〇〇
武藤製材所	江岸通二丁目	同 五年四月	五、〇〇〇	四〇	製材	(締) 八、〇〇〇	四八、〇〇〇
唐津製材所	江岸通四丁目	同 五年七月	五、〇〇〇	二八	製材	(締) 七、〇〇〇	四五、五〇〇
加來製材所	江岸通一丁目	同 五年七月	七、五〇〇	一〇	製材	(締) 二、一四〇	七一、五〇〇
浦元製材所	江岸通二丁目	同 五年九月	三、〇〇〇	二	製材	(締) 六、〇〇〇	元、〇〇〇
株式會社山下製材所	江岸通二丁目	同 五年九月	三〇、〇〇〇	二五	製材	(締) 一八、〇〇〇	一七、〇〇〇
吉井製材所	江岸通五丁目	同 五年十二月	一、五〇〇	六	製材	(締) 三〇〇	一、九五五
總計(工場數 九二)			一六、七三、五二				一一、六六、一一三
大正四年(同 七)			一一、五三、七六				九、七三、八九
同 三年(同 五)			三、六〇、六九				六、三四四、七五
同 二年(同 五)			四、〇〇、三二				四、三八六、五三
同 元年(同 四)			二、四八、六五				三、六八一、三八
明治四十四年(同 四)			二、八八、九七				三、四〇五、七八

諸工場の三 (領事館管内)

大正五年

工場名	所在地	設立年月	資本金	職工			種類	数量	量	價格
				日本人	支那人	計				
東萊醬園	舊市街二官街	明治三十五年十月	三〇,〇〇〇	四	一四	一八	醬油	(石)	七五	一四,五〇〇
宮下木局	新市街南本街	同三十九年二月	六,〇〇〇	一	二	三	製材	(坪)	七,五〇〇	八,〇〇〇
小寺機械油房	牛家屯清泰街	同三十九年七月	一六〇,〇〇〇	一四	一五	二九	豆油	(石)	七五	一四,五〇〇
東亞煙草株式會社	新市街青柳町	同四十二年十月	三〇〇,〇〇〇	三	二元	三	煙草	(箱)	六六,〇〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇
管口製造株式會社	舊市街永世街	大正元年八月	二〇,〇〇〇	三	二元	三	硝子器	(箱)	?	一五,七〇〇
大矢組醬油釀造部	關	明治四十一年九月	一七,〇〇〇	一	五	六	味噌	(石)	五五	七,一五二
泉泰機器麵廠	油	大正三年十一月	四,五〇〇	一	二	三	製粉	(袋)	三〇,〇〇〇	一六,三三三
奉天活版所	小西關	明治三十九年三月	四,〇〇〇	五	四	九	印刷物		?	三,九〇〇
瑞積玻璃工廠	大西關	同三十九年六月	二五,〇〇〇	五	七	一二	硝子器		?	六四,〇〇〇
三林公司	大北關	同三十九年十月	二〇,〇〇〇	一	四	五	卷煙草	(箱)七,一七八	八〇,〇〇〇	一五,四九
松茂洋行工業部	西塔大街	同四十一年三月	三〇,〇〇〇	六	一六	二二	煉瓦		八〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
三五洋行玻璃工廠	小西關	大正二年六月	四,〇〇〇	三	二〇	二三	硝子器		?	三,五〇〇
義和順鑄鐵公司	西塔大街	同四年七月	五〇,〇〇〇	二	六〇	七二	鑄物		?	二〇,〇〇〇
奉天合同煉瓦製工所	鐵	同五年五月	一一,〇〇〇	三	一〇〇	一〇三	煉瓦	(箇)二,二〇〇,〇〇〇	?	二〇,〇〇〇
小倉煉瓦工場	鐵	同五年五月	五,〇〇〇	三	一〇〇	一〇三	煉瓦	(箇)六五〇,〇〇〇	?	六,五〇〇
日清燐寸會社	西二道街	明治四十年十月	三〇〇,〇〇〇	一三	三〇〇	三一三	燐寸	(噸)	四五	九,四〇〇
伊藤硝子工場	旭町	大正四年六月	一,〇〇〇	一	八	九	硝子器		?	九,四〇〇

東										安												
三省洋行精米所	安東物産商會	三浦製材所	野村石粉製造所	安東木工廠	後閑製材所	安東名産館	本莊精米所	大森鐵工所	福記盛器	日東洋行精米所	西播洋行精米所	田中精米所	達磨商會窯業部	大東精米所	達磨商會精米部	寺田玻璃廠	大生絲廠	安東窯業株式會社	西和精米所	松村瓦製造所	福來窯	滿鮮鐵工所
四番通	市場通	一番通	濱通三丁目	七番通	一番通	市場通	大和橋通	大和橋通	山手貸下地	市場通	市場通	三番通	三官有號地二ノ	三番通	市場通	舊市街	五番通	六道溝	六番通	上川端町	二官有號地ノ	二番通
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	大正元年十二月	同	同	同	明治四十二年八月
五年五月	五年二月	四年十一月	四年九月	四年八月	四年五月	四年二月	三年十一月	三年九月	三年四月	二年十二月	二年十一月	二年十月	二年九月	二年七月	二年七月	二年五月	元年十二月		同	同	同	
五、〇〇〇	二、五〇〇	八〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	二、〇〇〇	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	七、〇〇〇	五〇〇	一〇、〇〇〇	四、〇〇〇	一、五〇〇	二〇〇	五〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	三〇、〇〇〇
三	六	一		三		七		三		三	三	四		二六	二	二			二	一		一〇
四〇		二〇	二	一〇	九	三	三	七	九	四〇	四〇	三	三〇	三	四	二	四	一五	一	二	八	三
精米	履物	製材	石粉	家具	製材	家具	精米	諸機械	煉瓦	精米	精米	精米	煉瓦	精米	精米	硝子器	炸蠶絲	煉瓦	精米	瓦	煉瓦	諸機械修理新
(石)	(足)	(締)	(呎)	(締)	(石)	(石)	(石)	(枚)	(枚)	(石)	(石)	(石)	(筒)	(石)	(石)	(打)	(斤)	(枚)	(石)	(枚)	(枚)	?
一、一〇〇	五、二〇〇	六、六〇〇	一〇、〇〇〇	?	一〇、〇〇〇	?	一、六〇〇	?	六、五〇〇	一〇、九〇〇	三、六〇〇	七、五〇〇	六〇〇、〇〇〇	七、〇〇〇	八、五〇〇	三〇、〇〇〇	五、〇〇〇	九〇〇、〇〇〇	一、〇〇〇	七、〇〇〇	一、五〇〇	?
一〇、〇〇〇	三、六〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	一五、〇〇〇	三三、七〇〇	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一五、〇〇〇	二五、〇〇〇	一一、〇〇〇	七、一〇〇	一一、〇〇〇	一一、〇〇〇	九、〇〇〇	一一、〇〇〇	一〇、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一〇、〇〇〇

安法華製材所	井上鐵工所	東守永製材所	合 計(工場數 四三)	大正四年(同 四二)	同 三年(同 三七)	同 二年(同 四一)	同 元年(同 二七)	明治四十四年(同 一七)
通	通	通
大正五年七月	同 五年八月	同 五年九月
三〇〇	三〇〇	六〇〇	五、三三、〇〇〇	五、八元、八〇〇	五、六元、六五〇	四、八元、一五〇	二、五元、五〇〇	二、四元、一〇〇
一	一	二	三三	一七	二八	二四	一八	一〇
九	五	八	一、八三	一、九三八	一、八元	三、八五	一、九〇六	一、三四
九	五	一〇	三〇三八	二、一七	二、〇六七	三、四三〇	二、〇九四	一、四四四
製材(締)	器具	製材(締)
八〇〇	?	一三〇	八、三六、五七	七、四六三、六三	七、二七一、四七	六、五四、九七	三、六六、〇三五	六、五三六、〇〇〇

一 表中資本金及職工數は年末現在なり

右表の外旅順に那須清涼飲料水製造所(資本不詳サイダ製造年産額八、〇〇〇打價格四千五百圓)、旅順ホライ麥酒釀造所(投資額一萬圓麥酒製造大正六年夏季試賣をなし成績良好なり)、大連に山葉洋行製材所(資本六十萬圓製材年産額九十萬才價格五千圓)、池田商店(資本一千圓主として自轉車臺鍍金年百十臺價格千〇五十圓)、石川商店(資本一千圓鍍金年千四百五十六箇價格千六百圓)及び都督府經營の硫酸工場、合資組織の大華公司(資本三十萬圓冰糖及副産物の製造販賣、卵粉製造及販賣)等がある、其他大正六年中に開業せられたるもの或は計畫中のものを舉ぐれば、大連製氷株式會社(舊兒島製氷改稱)、滿洲製麻株式會社、合資會社大連機械製作所、大連油絲精製合資會社、合名會社大

連電氣器具製作所、滿蒙興業株式會社、滿洲皮革株式會社大星公司、興安産業合資會社、島喜合名會社、合資會社中大利粉廠等である。
大石橋に醬油釀造所(資本額生産不詳)
營口に盛進商行精米所(資本金二十萬圓精米年額千五百石、價格二萬八千五百圓)、旭龍公司(資本金五千圓酒及醬油釀造年賣上高一千圓)、公隆行(資本金不詳レース絲製造)、三益公司(資本金不詳鹽化加里、硫酸加里製造 以上邦人經營關東火柴公司(資本銀三萬圓燐寸製造一日の製造高二十六箱)、東華興織布工廠(資本銀二萬圓綿布製造一日の製造高六十疋)、惠中織布公司(資本銀一萬圓綿布製造一日の製造高五十疋)、魁興永織布工廠(資本銀五千圓綿布製造一日の

製造高四十疋)、以上支那人經營

遼陽に大業工廠(資本銀八萬圓綿布製造年生産額約八千疋)

竹宜工廠(資本銀三萬元綿布製造年生産額約三千五百疋)以上支那人經營

錦州に官立織布工廠(資本銀一萬五千圓綿布製造年生産額約四千疋)第一織布工廠(資本銀一萬五千元綿布製造年生産額約六千疋)、第二織布工廠(資本銀一萬圓綿布製造年生産額約六千疋)、集盛織布工廠(資本銀八千圓綿布製造年生産額六千疋)、貧民習藝所(資本不詳綿布製造年生産額三千疋)以上支那人經營

鐵嶺に義和湧(資本金三萬五千圓燒酒釀造年生産額二萬打價格五千圓)以上邦人經營

吉林に吉林燐寸株式會社(資本金十八萬圓燐寸製造年生産額二萬一千五百二十五箱價格約十萬圓)以上邦人經營

吉林恒茂火礱公司(資本銀三十二萬圓麥粉製造年生産額二十五萬打)、吉林吉福火柴公ドリジシ製粉會社(資本四十萬圓麥粉製造一日の生産能力三千一百五十布度)、滿洲製所資本八萬圓麥粉製造一日の生産能力八百四十布度)、カサツキ

ン製粉所(資本十萬圓麥粉製造一日の生産能力千五百四十布度)、モスチツキ製粉所(資本十萬圓麥粉製造一日の生産能力百四十布度)、カサツキン油坊(資本五萬圓豆、油、豆油製造一日の生産能力二千四百枚)カバルキン油坊(資本不詳板粕及豆油製造一日の生産能力二千枚)以上露國人經營成泰義火礱(資本二十五萬圓麥粉製造一日の生産能力一千五百四十布度)、成發祥火礱(資本二十萬圓麥粉製造一日の

生産能力一千二百六十布度)、東亞大礱(資本十二萬圓麥粉製造一日の生産能力九百十布度)以上支那人經營

一面坡に一面坡製粉會社(資本十萬圓麥粉製造一日の生産能力二千一百布度)、一面坡板硝子製造所(資本生産額不詳)以上露國人經營

阿什河に阿什露國製造會社(資本不詳砂糖製造年生産額十二萬布度)以上露國人經營

恒發裕火礱(資本五萬圓麥粉製造一日の生産能力五百六十布度)以上支那人經營

寧古塔に長壽火礱(資本四萬圓麥粉製造能力四百九十布度)裕順和火礱(資本十五萬圓麥粉製造一日の生産能力一千二百六十布度)以上支那人經營

呼蘭に永榮火礱(資本五萬圓麥粉製造一日の生産能力七百七十布度)以上支那人經營

呼蘭製糖會社(資本生産額不詳)以上露國人經營

海林に孫都鄉火礱(資本五萬圓麥粉製造一日の生産能力四百二十布度)以上支那人經營

富拉雨吉に廣元吉火礱(資本五萬圓麥粉製造一日の生産能力三百五十布度)以上支那人經營

以上既設の分其他大正六年中に設立せられたるもの、或は計畫中の重なるものを舉ぐれば、奉天に南滿洲製糖株式會社、東亞燐寸株式會社奉天支店、滿洲皮革株式會社、奉天化學工業會社、長春に滿洲製織會社、東華實會社、吉林に鴨綠江製材公司吉林分工場、安東に木摺製材所哈爾賓製織會社、哈爾賓英支製粉會社、織布製造工場等あり。



雜 錄

支那に於る英吉利人と獨逸人(一)

デツニス、ケー、モツス

一 香港に於ける敵國商館の

清算と其結果 (上)

英領諸殖民地に於る敵國商館をして清算せしむることは確に必要なりき、而して例ひ此の敵國商館の清算は利害關係を異にする少數の人士によりて戦時諸失錯中の一として非難さるゝ所なりと雖も、思ふに極東に於る我が英國の軍事的商業的根據地の中心に於て敵國人の通商行為を許容し得べしと爲すが如きは無稽も亦甚しと謂はざるべからず。何となれば獨逸人の毫も信用する能はざるは事實の屢々立證する所なるを以てなり。獨逸人を信用し得ざる顯著なる一例は、該清算の開始と同時に發見せられたり。對獨宣戰

の當日よりして、香港政廳は其の當然の結果として、敵國民の財政上の負擔に對して、種々なる強制を加へたり。此の財政上の強制に對して獨逸商館は同意を表したるも、此の強制命令は全く『一片の紙葉』たるに過ぎざるに到り、且つ彼等は英國の寛容なるに乗じて甚しき欺騙の行為を敢てせり。敵國商館の清算を開始する以前に於ては、香港政廳は眞實に凡ての敵國民を『敵國の友人』として取扱ひ、其所謂『敵國の友人』の商業取引を繼續し得せしむが爲に最も寛大なる政策を採用せり。然れども、他の英領殖民地に於ると同様に、我が英國の對敵同情は會々英國の缺陷を暴露せるものとして、獨逸人は英國の寛大なるに乗じて不信行為を敢てせるは冗説するを須ひず。獨逸の重要な

軍事上の一地點に於て、獨逸人は敵國民の通商を許容し且つ敵國民が獨逸國民に對して障害を敢てするを默許するの雅量を有するものなりとは誰か之を信するものあらんや。所謂我が『敵國の友人』の大部分にして香港に殘留することを許容せられしならんには、必ずや香港は暴動に襲はれたるや明かなり、而して、此の暴動たるやは、其の性質の辛辣にして、其の影響範圍の廣大なる點に於ては、新嘉坡に於る暴動の到底及ぶ所に非らざりしやも未だ知るべからざるなり。

ベルンハルデーの所謂『香港をして今日の盛況に到らしめたる』獨逸の商工業を代表する其商館の數は十五乃至二十を越えたることなく、現大戰勃發の當時に於て、此等の商館に於て雇用せる獨逸人の數は約百五十人なりき。而して、此等の商館が多數の葡萄牙人及び支那人の助手及び書記を使用せることは勿論なり。而かも、此等敵國商館が香港の全貿易額の大半を左右せることは否むべからざる事實なり。十年前に於て、香港にて商工業に従事せる獨逸人の數は大約百三十人にして、英國人は約六百人なりしも、其十年後即ち大戰開始の當時に於ては、前述の如く獨逸商工業者の數は百五十人なりしが、行政、司法、陸海軍等の事務に全然關係なく實際に商工業に従事せる英國人は八百人以上なりき。英國人は數に於て獨逸人に勝るものあるも、英人八百人の大部分は單に製造業及び機關工業に従事するものに過ぎざることは注意を要する所なり。更に吾人の精考を要するものは純然たる商人の取引に就てなり、即ち香

港に於ける英國人が果して香港に於る所謂商業上の地位に於て他國人に比して果して良好なるや甚だ疑問なるを以てなり。最も注意を怠り易きは、支那人が香港商業の大部分を掌握せることにして、支那人は支那の物産を殆んど獨專し、米、砂糖及び其他の重要物産に於て多大の利益を擧げつゝあるなり。故に『商人の取引』なる語は稍々複雑なる意義を有するなり。

香港は自由港なるが故に、輸出入の統計表存せざるを以て香港に於て獨逸人が英國人よりも果して比較的多額の商業取引を爲せるや否やは決して明確ならず。然るに近時輸出入特許制度創始せられたるを以て、之に依りて、香港の貿易額に關する重要な統計的智識を得ることは極めて容易なることなりとす、而かも、該制度が其の以前に施行せられたりと假定するも、香港に於る各國の貿易額を判別するは極めて困難の事なるべし、何となれば支那の國內貿易が香港の全貿易と混交し居るが故なり。然れども、獨逸人各個が英國人よりも多額の貿易を營めることは吾人の想像し得る所なり。然り、是れ毫も驚くに足らざるなり、而して、清算の開始によりて證明せられたる通り、獨逸人は長期間の危険多き信用貸を爲し、各方面に於て損失を招き、不正なる手段を以て其の資本を獲得し、且つ利益の有無に拘らず、事業獲得の爲めに、獨逸人相互の間に愚劣なる、燥急なる爭奪戰行はれたるを以て、其の實質に於て何等期待するに足るものあるなし。如何なる犠牲を支拂ふも、一大顛覆を行はざるべからずとは香港に於る全獨逸商人の腦裡

に深く透徹せる思想なりしが如し。獨逸人が從來是と同様な利己的手段を上海及び其他の支那各地に於て施し來れること及び尙現に施しつつあることも亦疑ふべき餘地なきことなり。然れども、此の場合に於ては獨逸人は、其他の事業特に獨逸の軍事的施設に於て見るが如き系統的なる細心の注意を傾倒せる方法を以てせざるが故に、其の手段に於て何等讚嘆すべきものなきのみならず、殆んど企業とすら稱する能はざるものあるなり。彼等の通商上の施設は、支那在住の獨逸代表者の爲せる事業并に之に關する本國に於て其力の範圍頗る大なるものあるに拘らず、單に感傷的施設たるに過ぎざるものあり。

若し在支獨逸人にして彼等の企業に依りて相當の利益を擧げしならんには、彼等の企業を祝福すべき理由ありと雖も、憐むべし、清算の結果によりて立證せられたる如く、彼等通商上の成績は各方面に於て、殆んど信憑し得べからざる程慘憺たる狀況なりしを以て、何故に少くとも彼等獨逸人の大半が行李を納めて歸國の途に就かざりしやを疑はざるを得ざる程なりき。

清算一度開始せらるゝや、新しき有効なる商業經營法を見出すに至るべしとは一般人の想像せし所なれども、清算人に任命されたる商人及び會計士は這般の事情を研究の結果、驚くべし、到底其商業を繼續する能はざるものなることを暴露せり。

斯くして暴露されたる獨逸人の商業經營法は極めて貧弱なるものにして、吾人をして先づ第一に想像せざる能はざ

らしむるは、香港に於る獨逸人は凡て何等かの方法を以て本國政府より多額の補助を受けしものなること、而かも其補助の目的とする所は英國の貿易を根本的に粉碎するに在りしことは是れなり。如上の想像が果して事實なりしや否やを確むる爲めに各方面に亘りて研究吟味を開始したり。其結果は稍々否定的なりき。尤も其精査の結果は興味深き特殊の狀況を闡明し得たるも、惜むらくは其研究に着手せる時機既に晩かりしを以て實際上に於ては大なる効果を擧ぐる能はざるに到れり。獨逸政府が香港在住の自國商人に對して直接に補助金を交附せりとは今日に到るまで確證する能はざる所なれども、多くの場合に於て獨逸政府が間接に而かも最も貴重なる援助を與へたることの明瞭となりたることは注意を要す、而して、此事實は應て獨逸人の多數が何故長期間吾人に屈服せざりしかを物語るものと謂ふべし此の間接的援助に就きては後來詳細に説明する所あらんとす。

獨逸人が主として支那人に對して莫大なる、廉價薄利の賣捌きを爲したる商品が、マンチエスター及び、ブラッドフォード製のものなる事實に顧みるに、英國の貿易を粉碎せんとする一般的組織的計畫存せりとは些信じ難き點あり。マンチエスター及びブラッドフォードの商人は宜しく獨逸人が唯單に其の商品を、屢々多大の損失を招きつゝも賣捌き呉れたることに對して感謝せざるべからず、而かも香港殖民地は之に依りて何等利する所なかりき、其の理由は即ち其の英國人たるも獨逸人なるとの如何を問はず、勞

働者には賃銀を支拂はざるべからずとの陳套なる原則に基くに過ぎざるなり。

最も不可思議なる現象にして吾人の注目を要することは、獨逸兩國の製造業に於て、彼等兩國人が相互に鎬を削りて競争せしことにして、何故に、兩國人が斯くの如く競争してまで斯業を經營するの必要あるかに就きて吾人は疑なき能はざるなり。何故に彼等は家郷に止まらずして不快なる熱帶氣候と常終の雨天に惱まされ而かも單に幸じて生存を支持するのみにして何等の享樂なき此地に來れるものなるや怪むべき限りなり。

此等香港に於る獨逸人の成績と英國人の其れとを對照せよ。支那人の營める貿易高を全然控除するも、英國の香港に於る貿易商は香港貿易總額の七〇パーセントと當り、獨逸の二十倍に相當するものあり。香港の英國商館の一ヶ年間の純利益が優に獨逸商館全體一ヶ年間の利潤と匹敵するものありとなすは必ずしも無稽の言にあらざるなり。英國人の獲たる利益金の大部分は或は再び新企業に對して、或は既に着手せる事業の擴張の爲めに投資せらるゝを以て、英國人の貿易は本殖民地の富と幸福を増進するものなり。バルンハルデー將軍の所謂『香港は主として獨逸商工業の恩恵によりて今日の盛大を致せり、』となす脅威的夢魔は既に事古りて、徒に將軍の破廉恥鐵面皮なるを證明するに過ぎざるなり。

獨逸人が香港殖民地に於て英國人と同程度の投資を行はざりしは、吾人の想像にして謬りなくんば、主なる其理由

は彼等が投資する手段を有せざりしに依る。彼等は其剩餘資金をば死藏するに過ぎずして、其の或者は壯麗なる事務所を、他の或者は宏壯なる邸宅を所有し、而かも吾人の精査する所に依れば、彼等の大半は、其の生活收支相償はざるものゝ如し。香港在住の獨逸青年の殆んど全部及び年長者の大部分も、彼等の雇用せる支那人に多大の負債を爲し居れり。勿論、單に之に依りて、英國人及び其他諸外國人の間には、斯る贅澤なる生活を爲すものなしとは信ずる能はず、否多々あるべしと雖も、獨逸人の如き甚しき程度に非ることは明かなり。

一九一四年十月末以前に於ては清算未だ開始せられざりしが、商業上より之を觀察するに、即ち宣戰布告より我が香港殖民地よりの第一回の敵國民の追放に至る迄の間に於て、彼等敵國民は、不正不當なる其取引の證據を晦まし、且つ重要な諸情報の吾人の掌中に入ることを障害するが爲めには充分の時間を有したるを以て、宣戰と放追との間に相當時間の距離ありしことは敵國民にとりて大なる恩恵たりしに相違なし。

唯二、三の商館の場合に於てのみ吾人は其私用的通信を利用し得たるのみにして、重要帳簿書類の大部分は終に發見せられずして、此等が或は破碎せられ或は上海に密送せられたることは疑なき點なり。故に、斯くして獨逸人が香港に於る英國人の利益を覆滅せんとする大規模の計畫の存在せしや否やを徹底的に立證する機會は既に永久に消滅せり。

されど獨逸の貿易額を極少視するは誤りにして、確かに獨逸人は多くの支店を有する商館を經營し、實際に於て、染料、裝飾用綿織物、金屬、軍器、軍需品及び其他の獨逸兩國製造品の取引を獨專したり。かるが故に、此事實は決して一些事として看過する能はず、而して此等百數十名の在香港獨逸人が英國の貿易を阻害せる額は全體に於て頗る大なるものあることを明かに自識すること肝要なり。

支那の物産を輸出するに當りても獨逸は如何なる犠牲を拂ふも其輸出を確保せんとするなど前同様なる迂愚なる競争を敢てせることを清算の結果に依りて知り得たり。斯くの如き取引の方法を以てして彼等は果して何物を獲んとせしものなるか吾人は了解に苦まざるを得ざるなり。更に具體的事例によりて之を説明せんに、一獨逸商館は一ヶ年間に四百萬弗の生絲の取引を爲したるも、此取引によりて獲得せる利益は僅かに該商館の營業費を充し得るに過ぎず、又他の一商館は支那物産の莫大なる輸出を取扱ひ、而かも其一ヶ年間の利益金總額なるものは僅に三百磅をすら超過することなかりき。其他多くの實例に鑑みても繼續的に莫大なる損失を被りたることは一般普通の事實にして、彼等獨逸人は飽くまでも其の營業に執着して、何等其の經營法を更新することなく、或は甘んじて多大の損失を招きつゝ、或は無謀なる冒險を敢てして其の取引を繼續せり。取引の或方面に於ては多く英國人を競争の圏外に追出したれども、彼等は毫も之を利用して其利益を増進するが如きことなかりき。吾人は獨逸人の商業の成績を吟味するに當りて

益々其の真相を解するに苦まざるを得ず。獨逸商館の或者は多額の支那產錫を取引せるも、其損失は一般に著しく、最も好況の場合に於てすら其の利潤は極めて微々たるものなりき。具體的の一例を按ずるに、或の種の重要品を長期間多額の取引を爲せるに拘らず、其の利益は僅かに賣上高の四分の三パーセントに過ぎざるものすらありたり。

(未完)



英國の對支政策 (四)

ブ ラ ン ド

國際的共同投資の影響

サー、エドワード、グレーが英國政府は六國財團の如何なる行動に對しても財政的責任を負担するものに非ることを重要視せるは眞實なり。而して又第一次の借款成立の時に當り、外務省は差當りて、財團が政府の保護を獨占せる其の利得として、且つ又將來の借款發行の場合に於て英國政府が之に是認を與ふる重要な一條件として、該借款手取金相當額の擔保を要求せることも亦事實なり。

遮莫、極東に於る英國の財政的全歴史は、皆所謂好意なるもの、痛ましき失敗を演じたる記録なり、要之、其の事實上の結果たるや、英國の資本が支那政府の腐敗墮落を促進せしめ、且つ我が競争國の政治的目的に奉仕するに過ぎざる諸借款の發行を公然許容せるに過ぎざるなり。其の投資機關の英國的なこと將た國際共同的なことを問はず如何なる投資機關と雖も、終に英國政府の發表せる確定的意見に反對しては、支那と大借款を締結する能はざるに至ることは注意すべき點なり、而して、ドーニング街（英國政府）と、カー、ドルザー街（佛國政府）との間の親密なる其力並に聰明なる先見の政策とは共同投資の局面を支配するに

足るものなることを臆げながらも認むるに到れることは是れ亦重要な事件なりとす。然れども、此の智慧を確固たる帝國政策に應用するは尙將來のことなり。不幸にして一月より七月に至る間の、北京に於る英國の態度なるものは、勞働黨の旨的偏執主義を徒に反映するのみにして、唯、不均衡なる自由の犬の尾を打振らしめたるに過ぎず。サー、エド、ワード、グレーの先見も好意も、不幸にして屢々衆人環視の中に、社會主義者の華麗なる祭禮騒ぎの爲めに失敗せしめられたり、故にスベクテーター通信員の語を借りて謂へば、『英國の對支政策は恰も頭なき像の如くにして不屈き至極なる優柔不斷の紀念物なり、』と。

一九一一年十一月十五日、サー、エドワード、グレーは北京駐劄英國公使に訓電を發して曰く、『吾人は袁世凱に對して友情と尊敬を拂へり。吾人は切に望む諸外國との交際に於て公平無私たるべく、且つ商業の進歩の爲めに革命の結果として生じたる國內の秩序及び良好の状態を維持せんが爲めに、支那政府の充分強力ならんことを。斯くの如き政府は吾人の與へ得べき凡ての外交的援助を享受せんことを求むべし、』と。

英國政府の爲めには不幸にも、（前述の如く）清朝政府

の危機に當り、上海に於る英國資本家は袁の反對黨に對して多大の好意と尊敬を表せる爲め、當時袁の爲めに致せる外交的援助も遂に好意的中立の形式を採るの已むなきに到れり、次で日露兩國は英國政府の承認の下に、支那に特殊の、利害關係を有する列強を代表する財團に加入するに到れる時、而して此兩國は支那に借款を周旋して、其の報償として一の立脚地を獲得し、之に依りて支那を犠牲とし彼等の領土的發展の計畫を試みんとせし時に當り、斯る重大なる事件に對して、英國政府よりは、之に對して如何なる態度を採るべきかに就きて何等の通告に接することなき。國際的共同投資並に偏跛なる同盟の窮迫は、波斯に於るが如く支那に於ても、英國外務省の好意及び同情をして悉く失敗に終らしむることを餘儀なくせしめたり。英國の對支借款資本をして英帝國の目的並に其の國民的希望に副はしむるを得べき唯一の方法は、明かに、先きに引用せる外務大臣の訓電に示されたる方針に準據するに在りしなり。然るに、爾後未だ數ヶ月を経過せざるに、外務省は、此等の目的を無効ならしめたる財政的計企並に國際的協定に參加せり。

借款資金の費途に對する監督の必要

支那に於る英國の利益に二種類あり、一は國民的利益にして、貿易を保護し發展せしむるに在り、他の一は、帝國的利益にして、帝國の現状を保持し亞細亞に於る帝國の地

位を防護するに在るなり。此等二個の利益を増進する爲めには強固なる北京中央政府の確立を必要とす、即ち支那の領土保全と云ひ或は支那の財政の漸進的改造と云ふも、一に懸りて此中央政府の確立に存するなり。然るに共同投資の方針のもとに、英國政府の保護を受けたことは、彼等支那人が自國の財政を健全なる基礎の上に置かんとする永續的希望を有せざるが故に、頗る支那の保全を脅威する性質を帯びたり。此事に關して英國外務省は少からざる罪惡を犯せり、何となれば借款をして英支兩國の利益を増進せしめ得べき唯一の手段は、支那の海關稅を唯一の財源と爲すと同様なる安全瓣を裝置するにあることは明かなる所に於て、且つ英國は其承諾を宣明せるを以てなり。此事に關しては六國財團の財務家と同様に、サー、エドワード、グレイは、例ひ有名なる顧問を招聘し、多數の検査官を任命するも、借款資金の正直なる運用を保障する能はざるを能く了解せり、是れ即ち是等の顧問、検査官は、實行的權力を有せず且つ支那官憲に對する以外には何等の責任を有せずと云ふ最も簡單なる事由に因るなり。支那に於て、正確に帳簿を公表する制度の下に於て、其の一錢一厘に對しても責任を負ふ所の、優良なる歐洲の會計官を任用すること必要にして、此制度は、京奉鐵道、滬寧鐵道、九龍鐵道、海關等の全關係者に有利なる結果を齎すべし。此制度に據るに非れば、支那が自ら優良正直なる公吏を養成し得る迄には其の締結毎に支那の國家をして益々破産の方向に導くべき新借款を阻止すべき何等の手段を有せざるなり。六國財

國今次の計畫なるものは、必然の結果として、單に土耳其、波斯の歴史を繰返すに過ぎざるなり。斯る状態なるを以て、英國外務省が援助を與へたること若くは英國資本家が其資本を貸與せることに對して、下院並にブリュー、ブツク（政治録）に與ふべき妥當なる理由を發見する能はざるなり。若しも兇惡なる結果の避くべからざるものありとせば、せめても吾人の隻手を自由に、吾人の良心を健全ならしめよ。而して財政上に於る英佛兩國の共同政策は、確かに國際市場を支配し、對支借款をして生産的企圖に對して獨立なるものたらしむることを得べし。

必須的利益關係の對等

極東問題を處理するに當りて、其日々々の御都合主義を奉じ來れる英國外務省は從來永年の傳統に従ひたるに過ぎざりき。極東問題に對しては一般的に智識及び興味を缺如せるが故に、何等統一的主義を要求するものなかりき。然れども其日暮らしの制度なるものは最早亞細亞に於る英帝國の目的貫徹の爲めに何等貢獻する所なきものなることは明白となれり。印度、波斯、西藏、滿洲、而して支那の將來等の問題は最早狹隘なる區劃主義を以てしては到底解決すべからずして、此等の諸問題は英帝國にとりては致命的に重大なる意義を有するものにして、世界政策なる一大問題の一部分を形成するものなり。此問題の最も顯著なる特色即ち大商業國民の經濟的互助によりて比較的近時に發達せる特色なるものは、國際化せる資本が帝國と而して市場開

拓の爲めの暗澹たる戰闘中に表はせる所の働振り是れなり。今日の英國對外政策中の最も著明なる事項の一は、英國政府が輿論に顧みずして、上述の諸問題より生起する所の危險を認むること能はずして、英國の資本を攻撃防禦の武器として使用する組織を定め、之を指導することに失敗せることなり。英國の商敵、殊に獨逸及び日本が、英國の自由放任主義を奇禍措くべしとなし、英國の政策上の失敗と、英國の商工業の目的とを同じくせしめんとせるは、支那に於るのみに非るなり。世界の到る處に於る英國資本の地位を吟味するに、市場獲得戰の勝敗の決定者として、上述の障害的要素は急速に其の効果を奏しつゝあり。葡萄牙、露西亞、及び我植民地に於てさへも、英國資本と其產業企業とが全然一致せざること、及び何等確定的政策を有せざることとは、漸次に、獨逸と英國の競争をして延引せしむるの事態を生ずるに到れり、各個人の先見に歸する極端的努力を除けば、國家的活力の源泉たる英國の資本は、現状の儘にて浪費さるゝものと稱するも決して失當に非るなり。無數の實例を見るが如くに、此の活力の要素が、共同投資なる運河を通じて、英國の利益に反對する一武器として利用せらるゝと謂ふも過言に非ず、何となれば英國の借款なるものは、英國の競争國の政治的目的遂行の爲めに、而して彼等の產業の利益の爲めに利用せられつゝあるが故なり。殆んど何等の驚愕をも惹起せざる一般的事例を列擧するは無益なり。日本は滿洲の鐵道敷設の爲めに英國の資本を借りたるも、日本は其車輛の注文をば亞米利加合衆國に

致せり。支那が近時英國の努力範圍と認めらるゝ地方に於て鐵道を建設せんが爲めに倫敦にて一借款を締結せるも、該資金の大部分を獨逸及び日本に於て費し、而して、支那は此等兩國より購入せる原料に對する其の嗜好を、屢々公告するに敢て躊躇する所なかりき。

共同投資機關の極度に發達せる佛蘭西に在りては、(而して、其最も悲むべき結果を齎したること二、三に止らず)政府は以前より佛蘭西資本家の利益を保護するの必要を認め、之と同時に政府の充分なる了解及び許可を得ざる外國借款を阻止し得べき法律に依りて、國民的活力の源泉たる資本を支配するの必要を認めたり。更に獨逸に於ては、政治的活動と財政的活動との對等的關係が寧ろ非常に密接することは、最近吾人が土耳其及び支那に於る經驗に徴して明かなる所なり。獨逸内務省は、世界政策的事業に關係ある銀行を指導するために獨逸官吏を任命する等、海外に於る財政家の運動と大に接觸を保つのみならず、秩序的組織の一部分として、凡ての大財政機關は直接に製造業者及び工業家と協力するが故に、政治、産業財政等、皆其の全力を擧げて、豫定の計畫に従ひて、共通の目的に向つて活動するなり。換言すれば吾人が英國に於て、自由貿易なる呪の夢に耽りて、商業は政治より分離すべからず、而して財政は政治及商業の兩者より分つべからずとの教訓を尙も學ばざらんとするを見て、世界の大商業國民は既に大に之を戒むる所ありたるなり。露西亞に於る英國の利益が漸次に衰退せることは、明かに吾が産業上の利益と財政上の利益と

對等的の一致を有せざるに原因するものにして、是れと同様なる原因結果の關係は、英國の關係を有する殆んど凡ての國家に於て目撃する所なり。

英國が土耳其に於る其の國家的利益に關して、聰明なる對等的組織を有せざる結果は特に吾人に教訓を與ふるものなり。エム、カムボンと獨逸外相との間に爲されたるモロコシ交渉事件に就きて佛蘭西元老院の啓示せる問題の真相は漸く闡明せられたる結果、此の啓示は例ひ修好條約なるものは真正且つ強力なるものなりとは雖も、對外借款の企圖にして責任ある當局者によりて組織的に指導支配せらるゝに非る限りは、此の修好條約なるものも、英佛兩國共通の利益のためには何等の効果なきものなりとの不快なる感じを吾人に與へたり。斯る指導と支配權とを與へしめば、キツシゲン交渉事件に際しても、彼等をしてコンスタンチノープル其他の地に於る英國の利益を侵害するが如き方針を採るを不可能ならしむることを得たるや言を要せざるなり。而して斯くの如くんば、亦等しく、英佛兩國の財政的企圖をして永く相反目するを許さざるに至るべきや必せり。彼のバグダッド鐵道なるものは、從來國際的共同計畫の重大なる時機に際する英國對外政策の特質たる鈍昏浮薄の政策の悲むべき實例を給するものなり。今や英國の輿論は、商業會議所の活動と共に、動搖し向上しつゝあり。英國の資本をして國民的活力の一要素として聰明なる當局者をして之を指導せしめんがために、其の制度を根本的に改革すべき時機は既に到來せるなり。諸外國が英國の資本を

使用することに依りて得べき利益が、借款に伴ふ浮動的利得並びに引受人のコンミッションと共に終始するが如きは不當なり、即ち斯る利得及びコンミッションは多くの場合に於ては、英帝國の榮辱と尊嚴とは全く無頓着なる無國籍的財務家の懷中を肥やすに過ぎざるものなり。英國の對外政策は須らく科學的組織を有する大商業國の事例に鑑み、而して英國の潤澤なる富は國民の商工業を益すべきものなることを要求せざるべからず。



寄贈書目録

日本及支那	日支時論社	自至	五六七
通商公報	外務省通商局	自至	五五七
月報	青島商業協會	自至	五五七
水交社記事	水交社	自至	五五七
瓜哇ノ金融及日瓜貿易	農商務省南工局	自至	五五七
ヘラルドオブアジア	ヘラルド社	自至	五五七
化學工藝	其社	自至	五五七
特許公報	丸善株式會社	自至	五五七
實川新案公報	丸の内特許局	自至	五五七
商標公報	丸の内特許局	自至	五五七
月報	名古屋商業會議所	自至	五五七
日本及日本人	政教社	自至	五五七
青島ニオケル物價	青島守備軍民政部	自至	五五七
財政經濟時報	其社	自至	五五七
東洋時報	東亞經濟調查所	自至	五五七
經濟資料	木浦商業會議所	自至	五五七
月報	其社	自至	五五七
東洋時報	其社	自至	五五七
大橋圖書館第十六年報	其社	自至	五五七
三田評論	其社	自至	五五七
滿蒙實業叢報	其社	自至	五五七
水産實業叢報	其社	自至	五五七
朝鮮及滿州	其社	自至	五五七
滿蒙研究叢報	其社	自至	五五七
東洋經濟新報	其社	自至	五五七
大陸經濟新報	其社	自至	五五七
紡織學會雜誌	其社	自至	五五七
京都法學會	其社	自至	五五七
大陸工報	其社	自至	五五七
地學雜誌	其社	自至	五五七
滿蒙本邦聯合會月報	其社	自至	五五七
滿蒙經濟事情	其社	自至	五五七
宮城縣教育	其社	自至	五五七
商工時報	其社	自至	五五七
いんさつ	其社	自至	五五七

支那の關稅政策問題 (二)

亞米利加合衆國の保護稅

合衆國の極端なる保護貿易とその動機及び結果

合衆國に於ては次のやうな理由で保護貿易策が是認されてゐる。(一)此國の富強にして自給の出来ること。從て物價騰貴も運賃値上げも、それが保護關稅に因る結果である限りは決して一般公衆に何等の影響も及ばさぬ。(二)米國は古い移住者に依つて殖民された新しい國家であるが、彼等の風俗、習慣、欲望、智識、乃至熟練、經驗は歐洲大陸のそれと何等異なる處はない。(三)米國政府とその國民は、今に至る迄、モンロー主義を固守して主として國內の富源の開發に従事して來た。のみならず米國の保護政策の發展は全然經濟的理由に基いてゐない。多くの保護貿易利益論は、純然たる政治的の意味に於て論せられてゐる。加之、歲入の問題は、近年の高率の關稅の中の、重要な考究事項となつた。この高い稅率は南北戰爭の交戦中歲入の必要に迫られて始つたものであつて、その以前は、政府の政策は多少放任主義の傾があつた。けれども、現在に於ては、保護貿易が實施されない場合でさへ、輸入を欲しない種々の貨物に多くの不必要にして、而かも效果の餘りない關稅を課してゐる。

暫く實施された保護貿易策の結果は、國人と同様に外國

人と取引をする意志を挫き、又、外國人の供給する品物と見れば、その時代、その狀態をも辨へず、無暗にこれを疑の眼を以て觀又は毛嫌ひする感情を醸すに至つた。併し合衆國に於ては、産業上の能率が著しく増加した爲め、保護關稅の結界から生ずる影響は、殆んど皆無である。併乍ら若しかくの如き狀態が、現今の支那のやうな未開の國にあつたとしたら、それが生産の不振を益々大にする原因となるが故に支那にとつては、極めて有害であらう。

米國の産業に對して關稅の影響如何は疑問なり

合衆國に於ける工業の改善、及び産業の繁榮、が高率の保護貿易制度の下に著しい長足の進歩を遂げた事は、疑もなき事實である。且、又保護貿易策、が初期の産業の活動に對し、何等かの刺激を與へたと云ふことも事實である。然れども高稅率が支那に於けるより遙に多く正當なりと認められてゐる此國でさへ、保護貿易が此進歩に那邊迄與る處があつたかは頗る疑はしい。

事實に於て、多くの米國人は、保護貿易策が行はれなかつたとしても、現在と同程度の一般の隆盛を望むことが出來たらうと考へてゐる。例へばトゥシツグ教授はその著『Some Aspects of The-Tariff Question』の中に合衆國の最も主要なる幾多の産業に付いて、彼の造詣深い研究の興味ある結論を發表した。甜菜糖の場合に於て(同書第二編第七

章)その改良發達は價格の高いことゝ容易に收益があると云ふことより寧ろ價格が低廉で危険性が少ないことに因るものであると云ふのが彼の說である。この事實はルイジアナ州の砂糖栽培業者の場合のみならず、フリーシユガーの期間(一八六〇—一九四)に於ける布哇の栽培業者の場合に付いて觀るも明かなことである。彼は又關稅保護は、農産物の増進に對しあまり有望な政策ではなく、教育、經驗ある位置、及正當な智識の普及と云ふ方面が此目的に對し遙に有望な方法であると主張してゐる。

鐵工業及網鐵業の發展さへ保護貿易に負ふ處はないと言はれてゐる。著者の說に依れば、その發展は、恐らくは保護貿易主義の力を借らずとも、同様の速度を以て發達し、又同様の域に迄到達することが出來たらうと言つてゐる、例へばスベリオル湖の大鐵鑛床發展の主なる要因は、この豐饒な自然の寶庫を、企業發起人の利便に供した運輸機關の進歩にある。保護貿易制度は、一般人民の企業心に歸すべき處の歐洲強大國の動功たるこの結果に對し與るところがあると主張することは出來ぬ。此の天然の富源、事務上の熟練、運輸交通の改善、應用科學の教育普及、其他統御し易き勞働者の充實等あらゆる要素は、一般の進歩を説明するに充分である。而して凡てこれらのものは關稅保護が無くても存在することを得るものである。勿論中部地方の鋼鐵會社に於て、保護貿易制度の爲めに利益の増加を促し、而してこの收益に勵まされて大規模な投資をした事は疑のない事實だ。併しながら保護貿易主義だらうが又は非保

護貿易主義だらうが何れの場合に限らず、かくの如き膨脹を遂げたらうと云ふことも亦疑ふ餘地はない。

次に銅の場合に就いて述べれば關稅が何等これに關係のないと云ふことは更に明白である。銅山の中で有名なカルメットアンドヘクラ銅山は最も模範的なものである。同銅山では採掘の當初に於て、既に莫大な量を產出した。而して此等の銅山は、保護政策の實施以前創業せられ、且つ大なる盛況を致したのである。

絹織業の場合に就いてこれを觀れば同業が著しい膨脹發展をしたのは、實際關稅に負ふ處が多い、けれども其地に於てさへ高率の納稅制度の行はれない以前に於て、既に綿織物毛織物が大規模に製造されてゐた。綿織物業の隆盛は、全然關稅保護の恩顧を蒙つては居らぬ。最後に、毛織物業の場合に於て、高い稅率は反つて事業の發達を妨害した傾さへある。即ち羊毛の質は種々難多であるのに、政府は或る特種な方法を設けて、長い間、稅を課し品物の等級を作ることを禁止した。これが爲め、他の製造品の用途を阻害したのである。蓋しこの製造業をして常道を逸せしめない爲めに、多少の効果があつたことであらう。トウシツグ教授は、合衆國の半世紀以上に亘る産業發達狀態を研究して、その結論に於て次のやうな事を言つてゐる。即ち一國の國情に比較的有利であり且つ適應すると云ふことが、疑ひもなく關稅保護より更に重要なことであると。

支那の採るべき政策如何

實際的獻策

或る點について觀れば支那は日本の國狀に似てゐる、又他の方面から觀察すれば合衆國にも類似してゐる。けれども、大體から論すると二つの中何れの國とも異なつてゐるのである。支那は恰も數年前の日本未開沈滞の國情と、技術上の熟練、國民の欲望、及び國民の活動の標準の低かつた當時と類似してゐる。若しも日本が、かくも短時日に關係保護に依らずしてかくの如き狀態から脱却するを得たとしたならば、その領土の廣さ、天產物、鑛產物の產額の巨多なる點、その人口の無限なること等に就て、比較的有利な地位にある支那が、何故日本と同じ經路を辿らぬであらうか。

此の點について考へる時は、支那は合衆國のそれと相類似した處がある。故に若し、米國の各種産業の發達がその採用せる關稅に依らずして、その豐饒な土地、鑛產物の富源、數多の企業的國民、及び廣大なる面積に原因するとしたならば、支那は正に保護政策を施す必要があるであらう。併し事實に於て、それは不道理らしく思はれる。何故ならば支那は、一般の沈滞を救ふ爲めに外國の援助を俟つてゐる、而してその自國の生産業者は、彼等の活動を活潑ならしむる爲めに、外人との競争を希望してゐるからである。若し、如上の觀察が正鴻を得たものならば、支那の政策は次の如き種々の目的に向つて導かなくてはならぬ。

一、稅率權の回復

支那に於ける輸出入品を管理する處のすべての關稅規約

が偶然にも商條約の中に記入されあることは不幸な事實である。かくの如き協定稅率の禍する種々の結果に就いては、既に前章に於て縷々論述せる處である。併しながら、この支那がこの權利を回復した以前に於ても、或は以後に於ても假令稅金を主として歳入の爲めに多少増加せしむることがあらうとも、又均一稅率の簡條書が貨物の性質品質によつて修正されることがあらうとも、一般的保護政策を採用することは、如何なる場合にも差控へなければならぬ。

二、商工業に禍するあらゆる障害を排除すること

支那は假令未だ實現を見ないけれども、莫大なる富の可能性を有する國である。而して、肥沃なる土地と鑛物の無盡藏な寶庫を有し、その氣候は溫和に、その住民はよく艱難辛苦に堪へ、極めて節儉な國民である。故に道路を開き、鐵道を敷設し、通貨を改良し、水道を保護し、又これを浚渫し以て現在の進歩を阻止する幾多の障害を除去すれば、決して支那が將來隆盛に赴かないと云ふ理由はないのである。就中、中央政府と地方官廳との關係を包括する全國の財政制度課稅の徵集、及びその負擔に關する制度を徹底的に改革して始めて眞の進歩を齎すことが出来るのである。

三、政府と新事業管理

種々なる幼稚な産業は、政府の援助を俟たなければ到底健全な、しかも急速な進歩は期せられない。從來の重要な産業でさへ政府の保護監督がなければ、人民の無智文盲の爲め、衰微に傾いたものが數多ある。それ故政府は先づ茶、及び綿生糸の科學的研究法を輸入し、且つ從來貿易の減少の

原因をなした下等品の混入、その他の不正行爲を禁止せねばならぬ。第二に、工業智識の普及を計り、各種の工業學校を設け、種々なる發明を奨励したならば國民は徐々に新しい方面の産業に著手するに至るであらう。而して第三に、政府は或種の重要な産業を發達せしむる爲め、實際的の手段をとらなければならぬ。經驗家にして博學の英國人、エイ、ジェイ、ムーア、ベネット氏の説に依れば、千九百十二年中に輸入せる七千三百萬磅の製造品中支那に於ては、少くも該商品の五十%は製造することが出來た。而して今や同國は世界の如何なる國よりも廉價に輸入してゐる併し是等産業の發達は政府の一意専心の援助と外資を輸入し外人技師を雇傭することを奨励する法律の規定に負ふ處が多い。

四、特種の産業に對する特別な保護

若しも幼稚な事業が設立したならば、保護政策よりも寧ろ奨励金を供する方が勝しであらう。奨励金は、種々の點に於て保護政策とは異つてゐる。即ち(一)關稅は政府が保護する貨物の價を引き上げる傾向あるに反し政府の補助金はこれを引き下げる傾向あること(二)奨励金制度は、外國の競争者には課稅せずして、内地の生産業者をして、一の目的に副ふやうにせしむるのである。(三)奨励金の場合には、其の負擔は、納稅者の上にかゝり、消費者にはかゝらない。この二個の制度の區別は、生活程度の低い而かも國力の貧弱な支那に於ては重大なものである。

五、進歩した先見ある政策の採用

この問題は、實に支那に於ける主要なる要求である。貿易

の初期に於ては外國貿易は、單に外國人の利得となるものであると云ふ考が行はれてゐた。假令、不幸にもこの原因の一部は官憲の、固陋な政策に起因したものと云へ、實際貿易は此の國に何等の利益も表はさなかつた。

政府はこれ等貿易の發展を阻害した、舊來の制度を、破壊し終局の進歩繁榮を期する爲めに、一時的の利得を犠牲にしなければならぬ。又輸出稅は、能ふ限りこれを引き下げ、或は全然これを廢すべきである。外資の輸入を計り、外國の進歩した技術を受け入れることは、如何やうなことがあつても奨励せねばならぬ。而して、支那に於ける外國人は、同國の産業の發達を助け、國民の購買力を増す爲めに、現在の禍根を除去するやう、彼等の特權を廢さしめなければならぬ。何故ならば國民が自己の富源を開發する能力のないのにつけ込で、利益を獲てゐる貿易に對し、餘り確實な永遠のものとして、多くを期待することは出來ないのである。

世界的支那問題と其解決案 (二)

米國宣教師、ゼー、ダブルユー、バツシユフオード

四、黃白二人種發展力の比較

五、世界的支那問題解決の標準

- (一) 白人種の政策拋棄を前提とす
- (二) 利他的勤勞の必要
- (三) 生物進化の法則と利他的效用
- (四) 人類の發達と利他的勤勞
- (五) 四海同胞主義は將來政治史の關鍵也

(未完)

四 黃白二人種發展力の比較

ピアソン氏曰く、

支那は洵に大國にして、其人口極めて多く、其國土は即ち諸種の豊富なる原料品を產出するが故に、其富強に赴くべきは必然の數にして、從つて其國民は早晚未開の地に向つて、移住すべく、彼等は到る處貧弱なる人種を壓倒するに至るべし。(中略) 而して若も近世文明にして、同程度に普及するに至るときは、則ち最大の人口を包擁する國家が、勢ひ最強國となるべきは當然のことなるを以て、支那が太平洋沿岸諸國の孰れよりも、優越なる

國家を形成し、遂には合衆國をも凌駕するに至るべきは、蓋杞憂にあらずるべし。(Pearson C. H.: National Life and Character, P. 54)

と、而して氏は其著書の到る處に於て、白人種が健康上の缺點より、陥ることあるべき諸種の悲觀的事實を例示せり。

吾人は氏の主張するが如き、白人種の前途に關する幾多の悲觀的方面に就き、悉く之に賛成すること能はずと雖も、而も其前途に關し全然樂觀するものにあらず、即ち、吾人は必ずしもアリアン民族の近世科學並に、耶蘇敎國の文明が、既に其頂點に達し、將來次第に衰運に向ふものなることを信する能はずと雖も、而も他方に於て吾人が未だ曾て夢想だもせざりし、機運の今や正に刻々切迫しつつあるを覺知するものなり、從つて吾人が茲に支那の將來強大に赴くべきを豫想し、其結果白人種の將來に關し、ピアソン氏と同様の悲觀を懷抱するは、一見頗る自家撞着の感なき能はずと雖も、而も是れ實に顯著なる事實なればなり。

前項に於て論じたるが如く、支那人は其自然に享有する絶大の増殖力に因り、過去數世紀間に於て、著しき増加を爲し來りたるものなるが故に、將來其馬來群島に對する移

住の著しく増加すべきこと、正に十九世紀に於ける北米洲の移民激増の如きものあるべく、更に其北西疆域地方に於ける人口の増加亦極めて大なるべし。而して支那本部に在りては、此原因に加ふるに、近世文明の發明にかかる機械の輸入に因り、其手工業は漸次機械工業に移りて、産業上の一大革命期を劃すべきが故に、其人口の増殖前二者に比して更に大なるものあるべし。

然らば即ち今世紀末迄の間に、日支兩國の人口が増加して、八億乃至十億の多きに達すべしと云ふは、蓋根據なき豫想にあらざるべし。而して印度は英國の領有以來、其人口既に三倍の増加を示して、今や三億の多きを數ふ、故に今後更に近代的機械の輸入に因りて、其國富増進を助長するときは、今世紀末迄の間には其人口更に増加して、優に五億の多きに達すべし。故に二十世紀末に於ける黄色人種の總數は、少くとも十三億乃至十五億を下らざるに至るべし。

之に反し白人種國の中には、現に人口減少に苦めるものあり。然らざるものと雖も、悉く出生率の遞減を見る。加ふるに現下の大戦に因り、孰れも多數の國民を喪失し、爲に著しく將來に於ける増殖力を減殺しつゝあるものなれば、黄色人種は其數に於て、急促に白人種に接近すべく、一二世紀の後には遂に之を凌駕するに至るべきは、洵に己むを得ざる所なるべし。

五 世界的支那問題解決の標準

(一) 白人種の政策拋棄を前提とす

以上述ぶる所の事實を綜合して、公平なる考慮を重ねるときは、白人種が現に黄色人種に對して、執りつゝある所の態度は、極めて不合理のものにて、而も其間に大なる危険を包含することを首肯し得べし。惟ふに今日人種の各國家が、貴重なる血と肉と巨額の財力とを犠牲として、解決に努力しつゝある問題は、彼等の存立上極めて重大なるものなるは事實なりと雖も、而も此問題の解決後には、更に重大なる黃白二人種の對抗てう、死活問題に達着すべき運命を有することは、蓋、先見の明ある士の今日に於て、既に均しく認むる所なるべし。

然り而して此人種的死活問題の解決に際し、若も白人種が、其從來採用し來れるが如き、利己的動機に基く方法を、固執せむとするときは、是れ明に破滅に向つて進むものにして、其結果は今日の大戦に比し、遙に激烈慘憺たる人種戦の、勃發を免れざるべし。

然るに今日白人種が黄色人種に對する態度を見るに、極めて寒心すべきものあり、即ち彼等は一様に到る處黄色人種を排斥し、之を驅りて亞細亞の一部に閉塞せしめむとするものなるが故に、今に於て其態度を緩和せしむるが如き、解決方法を案出せざるときは、吾人の憂慮するが如き、人種的大戦争の勃發を免れざるべし。

然らば即ち其解決方法如何。惟ふに日支兩國人が將來百年間に於て、其國內並に馬來群島地方に於て、著しき發展を遂ぐべきことは、神意の配劑の明に然らしむる所にし

て、此間に白人種も亦、急促の進歩を爲すべきこと勿論なりと雖も、而も其發達は到底黃色人種の増大に比すべくもあらず、其結果白人種は數に於て將勢力に於て、早晚黃色人種に凌駕せらるるに至るべきが故に、有識の士は即ち、白人種が武力的に永く黃人種を壓服するは、到底不可能なることを覺知するに至れり、加之軍國主義と、一人種が他人種に對する永久的の壓服とは、吾人の正義仁愛の觀念に違背するものにして、此點より云ふも白人種の政策は、既に認容すべからざるものなり。是を以つて人種的問題の解決方法は、即ち白人種の政策拋棄より、之を始めざるべからざるを知る。

(二) 人種問題解決の標準は利他的勤勞に在り。

人種問題の真相を闡明にし、更に耶蘇敎の敎義と、自然界の法則を考察するときは、其解決方法の標準として、利己主義に代ふるに、利他主義を以つてせざるべからず、蓋、人類は勿論人類以外の生物の生存増殖は、利己主義の實行に依るに非ずして、實に利他主義の普及に因るを以つてなり。

之を耶蘇敎の敎義に見るに、其根本主義は即ち、「誠心誠意、以つて神を愛し、他人を愛すること猶自らの如くなるべし」と云ふに在りて、而も耶蘇は死を以つて、此敎義の爲に殉じたり。而して其所謂愛なるものが果して自己完成と合一するや否やを検討するに、カントの説に従へば耶蘇敎の敎義は即ち、其終局に於て、各人の自己完成を目的とするものにして、耶蘇が他人の爲に蒙りたる幾多の苦難と

艱苦とは、悉く其自己完成に缺く可からざる要素たるなり、即ち知る愛の法則は極めて廣義にして、個人の完成と、利他的勤勞とを包含するを。

更に國家に就きて之を見るに、國家は必要の場合には其法を強行するが爲に、實力を行使するものなるが故に、其活動は主として、正義の範圍に止り、宗教の如く積極的に愛を強行することなく、其範圍を逸脱するは唯、其自己、國民又は他國の存立に必要な、場合に限らる、故に此點に於て所謂國家社會主義は、即ち國家の基礎觀念に矛盾するものなり。

此の如く正義は、國家生活の永續に必要な基礎なりと雖も、國家を構成する人類の生存發達に就きて考ふるに、其發達は單に今日の國家の理想たる、正義の宣言強行のみを以つてしては、之を望むべからず、其以外更に、個人の任意的行爲に依る利他的勤勞を以つて、一の法則と爲すことを要求するものなり。以下自然的生物並に人類進化の法則に鑑み、利他的勤勞の自己保存に、絶對的必要なる所以を論述せむ。

(三) 生物進化の法則と利他的效用。

耶蘇の敎義は愛に在り、愛は自己完成に必要なものなるが、此敎義は果して、生物進化の法則に合致するものなるやと云ふに、生物進化の第一法則は即ち自己保存にして、而も生物が自己を保存し増殖するが爲には、常に人類に對する何等かの效用を供せざるべからず、故に人類が増加するに従ひ其生活に效用を供する生物は益々増殖せしに反

し、之を供せざるものは次第に減退するに至れるは、否定すること能はざる事實なり、換言すれば人類以外の生物は、生物進化の法則に於ける、直接の主體にあらずして、其上級の生物に對する效用を供與する點に於て、間接の主體なるが故に、其生存を維持増加するものは、孰れも上級生物に對して、最大の效用を供するものなり。

(四) 人類の發達と利他的勤勞。

人類の自然的狀態に就きては、異論ある所なれども、其原始的時代に在りて、墮落に陥りたりしことは、疑なき事實なりとす、而して其墮落の第一期に於ては即ち、人は其慾望を抑制すること能はず、個人は其骨肉を忘れ、自己を忘れて、専ら肉體的慾望の充足に、其精力を集中したるものにして、其生活狀態は毫も禽獸と異なる所なかりき、然るに自然淘汰の法則は、此の如く情慾の奴隸となれる人類の、永く生存するを許さず、戰爭又は生存競爭の結果、適當に慾望を制御し得る人類のみ殘存するに至れり。

第二期に於ては人は、其熾烈なる肉體慾望を一時的に抑制し、依りて自己の體力と智力とを養成すべき必要を認め、たれども、此體力と智力とは、専ら自己の野心を満足せしめ、其勢力を扶植せむが爲に、使用されたるものにして、即ち、其自己制御及び自己發達の必要を認識せる點に於て第一期よりは、稍進歩せるものなりと雖も、其結果専ら自己の野心を満足せしめむと、努力したる點に於て、一の墮落時代たるを失はず、從つて此種の人類も亦、早晚衰滅に歸すべき運命を有す、之を國家の興亡に見るに、奈翁、シー

ザー、アレキサンダーの如き征服者は、一時權勢を擅にせしも、其動機は常に野心の満足に在りしが故に、遂に滅亡の運命に遭遇せり。

惟ふに進歩せる人類は先づ家庭を形り、次で國家的生活を送るに至れるものにして、家庭は即ち愛を中心として、人の利他的勤勞を要求し、國家は即ち現代の人類が、激烈なる生存競爭に投じて、自己を保全せむが爲に組織せる制度にして、之を組織する個人が、自己、家族、鄉黨等の小なる利益を犠牲にして、國家の爲に愛國的熱誠を以つて、奉公するは結局、其自己保全に必要なが爲に外ならず。即ち國家は現代文明の產出物にして、其基礎を爲すものは、實に人類が自己保全の爲にする、利他的勤勞に在りと云ふ可し。

(五) 四海同胞主義は將來政治史の關鍵也。

然り而して神は、家族及び國家の上に、宗教界と稱する極めて廣き團體を組織せるものにして、其所謂宗教界とは、單に信仰上の野心を満足せしむる爲に作られたる組織體の謂にあらずるは勿論、人類中の弱者に對し、慰安を與ふるが爲め設立せられたるものにもあらず。即ち耶穌の所謂教會とは、此の如き具體的意義に於ける、組織體にあらずして、實に地上に於ける天國を指稱するものなり。此意味に於ける教會とは即ち、人類の全體を包含する完全なる大組織體にして、實に神の創造せる所の制度に外ならず。

而して之を以つて神意に依る創造體なりと云ふは、是れ其人類が國家又は民族に對して奉公する、廣義の利他的勤

務を轉じて、人類全體の最高目的に向はしむる、一の手段たるが故なり。蓋所謂國家主義は、仁愛の法則を遺憾なく實現し得べき、最高の制度を爲すこと能はざるが故に、未だ以つて最高文明に到達せるものと云ふべからず。即ち實際に於ても亦、「各民族は同胞にして、四海到る處に平等に生活す可し」との神意を無視し、擅に異民族相排するは常に見る所なりとす。

而して狹義の愛國心と、之よりも廣き人類全體に對する完全なる仁愛心とは、其初め相距る正に一步なりと雖も、遠きに行く者は一步の差遂に千里の差となるが如く、愛國心を以つて人類最高の規範と誤信するが如き國民は、不知不識の間、遂に人類終局の目的を忘失するに至るは、亦已むを得ざる所なりとす。然れども他方之と同一の危險は、教會の間にも之を免れ難きものにして、各教會は孰れも自己勢力の伸張を以つて、其終局の目的と爲すの傾向あり、此の如きは即ち、神意を無視するの甚しきものにして、吾人の極力非難する所なり。

劔橋大學教授シーレー氏曰く、「民族主義は十九世紀に於ける政治史の關鍵なり」と、之と同様に吾人は、「四海同胞主義は、正に二十世紀以後に於ける、政治史の關鍵たるべし」と豫言せむとす、惟ふに宇宙が神の創造物にして、其支配に服し、仁愛が萬有指導の爲に必要な基礎的法則として、人類行爲の規範たるべきものなりとせば、夫の進化の法則を曲解して、權力即權利の主義を支持するが如き國家又は人種は、早晚破滅の悲運を免ること能はざるべし。

蓋、生物進化の法則に就きて述べたる如く、自己を保全して増殖し得る生物は、即ち其上級生物に對し、多くの利他的效用を供與し來れるものなるを以つてなり。

以上論する所に依りて明なるが如く、國家又は人種にして、若も其先天的地位に依り、他國又は異人種を壓服支配す可き使命を有するものと信じ、此動念に基きて行動することあらば、則ち、其運命は卜知するに難からざる可し。

(未完)



彙 錄

金券條例及幣制局官制の公布

過般來問題たりし金券發行問題は、府院内多少の曲折を経て、漸く解決せられ、八月十日大總統敕令第三十三號を以て、該金券條例は公布されたり、元此案の發起者は阪谷男爵にて、該條例案は同男爵の手に起草され、財政文部を漢譯し、曹財政總長之を總統府に回送し、去る八日國務院秘書長方樞氏蓋印を請ひしに、一時馮總統は余は不明瞭なり」とて、之が蓋印を拒絕せしが、四圍の事情に驅られ、二日の延期に止まり、遂に這般の公布令を見るに至れるなりと、聞くに此金券發行機關は、中華貿易公司と名け、監督機關は幣制局と稱し、曹汝霖氏を督辦に、陸宗輿氏を總裁に任命したり、茲に金券査例及幣制局官制を錄すること左の如し。

金券條例

第一條 政府は國際貿易の便利の爲め金本位改良に豫備する見地より幣制局指定の銀行に由り金券を發行することを得。

第二條 金券の單位は一金圓と爲す每一金は純金〇七五二三八公分即ち庫平二分一毫六絲八忽八を含む。

一金圓の十分の一を角と爲し百分の一を分と爲し千分の一を厘と爲す皆十進法に據る。

第三條 金券の種類左の如し。

一圓 五圓 十圓 二十圓 五十圓 百圓

政府は幣制局指定の銀行をして五角一角二角三種の金券を發行せしむるを得並に造幣總局をして一分銅幣を鑄造せしむるを得。

第四條 未だ金圓鑄造せざる以前に於て金券所持人は指定銀行に向て本國の他處或は外國への送金爲替を取組むことを得金圓鑄造後に在りては金圓の兌換及本國の他處或は外國への送金爲替を取組むことを得。

金券は外國金貨或は生金所含の純金重量に按して指定銀行に向ひ兌換を求むることを得。

交換する金製器具は生金を以て論ず

第五條 金券と現行國幣との比價は之を定めず但し指定銀行の各地隨時に掲示する比價に照して金券を以て該銀行に向ひ國幣を兌換し或は國幣及生金を以て金券と兌換することを得

第六條 指定銀行の發行金券には十成の準備を有すべし該準備は本國の金圓或は生金或は外國金幣にて中外爲替商埠に備置き所有準備金の所在及數目に就き毎旬一回之を公布すべし

上項の準備金は隨事に幣制局所派專員の検査を受くべし
第七條 金券は指定銀行の隨時掲示する比價に照して公私上金錢出入に於て之を使用することを得金券の使用數に制限なし

第八條 指定銀行は金券を以て預金貸付及其他の營業を爲

すことを得

第九條 本條例は公布の日を以て之を施行す

幣制局官制

第一條 幣制局は國務總理に直隸して全國幣制を整理す其職掌左の如し

一、貨幣（硬貨）に關する事項

二、紙幣に關する事項

三、其他幣制に關する事項

第二條 幣制局に職員を置く事左の如し

督辦一員 財政總長兼任

總裁一員 特任

顧問一員 聘任

名譽顧問定員なし 聘任

第三條 幣制局は司員を設け科を分て事務を處理すへし但し各科未だ組織成立せざる前は先づ調査委員會を設け委員若干人を置く局令を以て之を定む

第四條 幣制局は文件寫製及其他の庶務を爲す雇員を酌用することを得

第五條 凡て財政部所屬の造幣總分廠印刷局造紙廠及各銀行監督官は幣制局の監督及指揮を受く

第六條 幣制局は局令を發することを得必要の時は院令を發し或は財政部の會同して命令を發することを請求するを得

第七條 幣制局の設立期間は十ヶ年と定む

第八條 幣制局辨事規則は別に之を定む

第九條 本官制は公布の日より施行す

江蘇省本年度教育行政豫算

江蘇省專門學校、師範學校、中學、女子師範其他に關する本年度の教育費豫算表は左の如し

法政專門學校	二九・四〇三
醫學專門學校	七二・八三六
第一師範學校	五五・〇三三
第二師範學校	四九・八八四
第三師範學校	四八・七五四
第四師範學校	四八・七四四
第五師範學校	四九・四六二
第六師範學校	三七・九七八
第七師範學校	三五・一四九
第八師範學校	四八・六七〇
第九師範學校	一二・四八〇
代用師範學校	二六・〇一〇
第一女子師範	三七・五一三
第二女子師範	三七・九四三
第一女子師範附設保姆傳習所	七・六四四
第一中學	二七・五九五
第二中學	二四・五四九
第三中學	二四・五九八
第四中學	二二・四七一
第五中學	二八・一一八

第六中學
 第七中學
 第八中學
 第九中學
 第十中學
 第十一中學
 代用競志女中學
 第一農學校
 第二農學校
 第三農學校
 水產學校
 女子蠶業校
 第一工業
 第一工業附設木工教員養成所
 第二工業
 第一商業
 第一圖書館
 第二圖書館
 通俗教育館
 公共體育場
 私立學校補助
 省教育會補助

二四・三五七
 二三・九九二
 一九・六五二
 二二・四一一
 一四・九九二
 一四・九〇〇
 三・六〇〇
 四三・四六六
 三八・〇三四
 三五・一八〇
 三七・五七二
 三二・三六〇
 四三・三七六
 二・〇〇〇
 五六・六三一
 二九・六九二
 二・五二五
 三・六六六
 一九・五九二
 一・八一六
 二九・八〇〇
 八・〇〇〇



事業界

永年保壽公司株主總會

永年保壽公司是六月十八日上海廣東路十號なる本社に於て、其第二十回年次株主總會を開催、出席株數四千五百三十に達したり。

同總會に於て昨年十二月三十一日を以て終る、一ケ年間の決算報告及利益配當其他の決議ありたるが、其營業成績に於ては、各勘定に關する數字の發表なき爲め、其詳細報告を知る能はざるが、總會席上に於ける議長パーキル氏の講演説により、同公司營業狀態を窺へは左の如し。

同公司是昨年度に於て銀資金の一部を金資金に振替へたるが、是れ従前は銀投資に對する利息高率なりしにより、負債に對する資産の過剩部分は、銀にて保管する方有利なりしが、昨年中に爲替率頗る有利となりたるに付、金貨保險證券に對する填補の過剩部分を、金投資に振替ふることとなしたるなり、されば現在に於ては金貨保險證券に關する負債は、金資産を以て全部を充當し、其餘剩部分亦金投資の形となれる譯なり、次に露貨勘定に就ては、一九一五年同公司是、額面六萬留に當る第二回露國內國軍事公債を購入したり、而して昨年初めには露貨保險證券の發行したるもの少數ありたるが、昨年中に露貨の暴落ありたる爲め、

露國額面の保險證券の申込多數ありたり、之に對し同公司是爲替投機の危險を避くる爲め、露貨證券に對する保險料金は全部哈爾濱に於ける取引銀行に送致し、同公司的貨方勘定に振込みたり、然るに其後哈爾濱への送金危險となりたる爲め、露貨の保險契約を一切中止したり、而して露貨の負債額は前記露國軍事公債を別とするも、銀行に於ける露貨預金にて之を充當して餘りあり、されば假令露國が公債償還を拒絶することあるも露貨の負債に對する準備は十分なり。

而して營業を堅實ならしむる爲め、露貨勘定を全部分離することとし、其結果露貨投資に於て資産の負債を超過せる部分は、一切配當中に加算せず、今後に於て露國國情復舊したる時は、露貨資金より生ずる利益を配當し得ることあるべし。

英國及聯合與國の軍事公債に投じたる金額は、十萬磅を超過せるが、更に近く募集せらるべき印度の公債にも應募することに決せり。

同公司的事業も亦歐洲戰爭並に支那内亂の爲め、種々の障礙に遭遇したれども、而かも其事業は着々進展しつつあり、而して配當は前年同様拂込資本に對し全額七千五百兩を支拂ふことに決議せられたり。

香港鑄鋼會社營業狀態

(The Hongkong Steel Foundry Co. Ltd)

香港鑄鋼會社の第八回年次株主總會は七月三日香港同社

に於て開催せられたるが、今當日の議長 A. G. Gordon 氏の報告により、其營業狀態を見るに左の如し。

昨一九一七年六月一日より本年五月三十一日に至る一ヶ年間の會計決算の結果は、重役への報酬、工場機械、小蒸汽船、在庫品等の減價償却を行ひて、純益三四、四二三弗六一仙を挙げ、之に前年度よりの繰越金二一、五五八弗五五仙を加算する時は、損益勘定貸方殘五五、九八一弗一六仙となれり、而して之を處分すること左の如し。

株主へ配當 一株に付一弗

七、八〇八、〇〇

特別配當 同上

七、八〇八、〇〇

特許料の償却

二一、三六九、五六

社員へ賞與金

一、八六〇、〇〇

積立金

一〇、〇〇〇、〇〇

次期へ繰越

七、一三五、六〇

合 計

五五、九八一、一六

昨年度中に計畫せられたる熔鑄爐の増設、其他各種の改良は着々進捗し、二組の反射爐は既に新設せられ、今や作業中の反射爐は全部にて十組を數へ、尙近々強壓通風爐一二基を建設する計畫にて其計畫圖は目下英國より取寄せ中なり。

同社工場は昨年中を通じて註文輻輳の爲め多忙を極め、其中には英政府標準船用の大型鑄物の註文をも引受けたり、此註文に關しては、海軍省の試験頗る嚴重なるにより、同社は最初多少の懸念を存したりしが、製作の結果は満足すべきものなりき。

● スチール、インゴット 昨年中にスチール、インゴット製造の實驗をなしたるに、頗る良好なる成績を挙げ得たるが故、今後註文の杜絶えたる時は、何時にても之が製造をなして、收入の資源とすべければ、同社の將來は頗る好望と謂ふべし。

● 特許製法 上述の如く特許製法に對しては、前年度の決算報告上に現れたる二一、三六九弗五六仙を、全部償却したるが故に、同社は今や高價なる權利を獲得したり、若し該權利を獲得し居らざりしならば、同社工場は本國よりの供給杜絶の爲め、閉鎖の止むなきに立至りたるなるべし。

● 土地及家屋 同社は昨年度に五、〇〇〇弗を支出して、土地及家屋を買入れたるが、其價額は頗る低廉にして、今後必要に應じて隨時工場の擴張に充て得べし、又帳簿上に負債として残り居たる五、〇〇〇弗の抵當に入れ居たる不動産は、本年度に其負債を償却して抵當權を恢復したり。

● 前途の見込み 同社の現状は昨年度に於けると大差なけれども、目下事業擴張に關する交渉進行中なり、而して香港は比較的距離に多量の鐵鑄、石炭石灰其他タングステン鑄存在し、之が確實なる永久的供給の契約を結び得るが故に、同社の事業は前途益々多望なりと謂ふべし。

東方織紡公司株主總會

(The Oriental Cotton Spinning & Sewing Co. Ltd)

東方織紡公司是昨秋其倉庫に火を失し、次で之に關する訴訟事件は久しく紛議を重ねて、容易に解決を見ず、株主

總會の召集は、其爲め永く延引し居たりしが、漸く七月十二日總會を、上海楊子ビルディングに於て開催、出席株數八、二二五に達したり。

右の訴訟は同公司に取りて頗る不利なる結果に歸し、其爲め同社は多大の損害を被り、結局昨年度の營業に對しては、無配當と決するの止むなきに至りたり。

當日議長 H.E. Arnold 氏は、該訴訟事件の經過に就て詳述したる後、計算に關する説明を與へたるが、其要點を摘記すれば左の如し。

昨秋の火災は云ふ迄もなく同公司の營業に大打撃を加へたり、昨年九月迄の營業の成績は諸種の經費を差引きて二五六、〇〇〇兩の純益を挙げ、尙十月迄の製品先物賣約は七、〇〇〇〇兩以上の利益を見る可く、最後の二ヶ月間の生産に對する利益を加算する時は、結局少くとも三五〇、〇〇〇兩の純益を收め得る豫想なりき、然るに火災は一ヶ月分の製品を全然烏有に歸し、保険金の回收不能なりし損害八四、七五三兩、之に對する利子諸掛等の損失約一〇、〇〇〇兩、此外壓搾包裝機及倉庫の火災損害約一〇、〇〇〇兩にして、以上の損失合計約一〇五、〇〇〇兩に上る。

以上の外各種積立金を控除し、尙昨年度の營業に對し幾分の利益配當をなし得れども、事業の基礎の堅固を圖り、本年度に相當の配當を行はむ爲め、今回は全然無配當と決したり。



支那半月史

大正七年八月下半

烏港派遣支那軍

支那政府は段總理以下各總長の署名せる烏港出兵宣言書を八月二十五日在烏港支那海陸軍司令官に送附し同地各國軍に通告せり要點左の如し。

露支兩國は元來國誼敦厚なり然るに露國に内亂生ぜし以來西伯利に政變あり中歐帝國の勢力日に東漸し獨塊俘虜はチエツク軍を阻止し東進せしめず我國は聯合國の一として露國政府及國民に對し獨塊俘虜のチエツク軍を壓迫するを座視するに忍びず米國の提議に基き相當の軍隊を烏港に派遣すべし但し此出兵は聯合各友邦の義舉に賛同するものにして露國の領土及び主權を尊重しその内政には毫も干涉を加へず一度目的を達せば完全に撤兵すべし特に茲に宣言す。

尚烏港派遣軍兵數左の如し。支那紙所報、正確を期し難し。

第九師步兵第三十三團長宋煥章、同團第一營長劉春臺以下六百名、憲兵二十名小銃彈藥十萬發
(二)八月十九日輸送

(二)八月十九日輸送
第九師步兵第三十三團第二營長蘇炳文以下六百名機關銃

隊一連(約百名)輜重兵隊一連(約百五十名)

(三)八月二十日輸送

第九師輜重隊一排（隊長謝崑）、工兵一連（約百五十名、連長劉效）騎兵一排、馬百二十頭

(四)八月二十一日輸送

第九師砲兵第一營第二連長黃深恒以下百五十名、騎兵第一營第二連長韓輝榮以下百五十名

(五)八月二十二日輸送

第九師步兵第三十三團副官周傑以下輜重隊二排、憲兵十二名、工兵用架橋鐵船二百隻人夫二百名

參衆兩院議長

北京新國會にては八月二十日衆議院に於て議長選舉の結果、出席議員總數二百七十八人、王揖唐二百六十二票、詹忠寅十一票、王樹柵黃羣各一票、無効二票にて王揖唐當選せり。副議長選舉は同二十二日舉行、出席議員二百五十七人、劉恩格百七十六票、王印川十一票、黃羣九票、籍忠寅六票、王樹柵五票、賀培桐四票、康士鐸、郭涵各二票、王揖唐那彥圖孫潤宇吳文翰各一票、無効十三票にて劉恩格當選せり。

王揖唐 新國會の多數黨たる安福俱樂部の首領なり。初め王廣の名を以て知らる。段祺瑞と同省同郷の安徽合肥縣の人、前清時代進士を以て我が士官學校に留學し、卒業後徐世昌の幕中に入り、奉天軍事參議（時に徐、東三省總督たり）となり、後戴鴻慈に随つて露皇戴冠式に

列し、歐洲を漫遊すること二年にして歸り、吉林省兵備處總辦となり、民國成立後徐世昌の紹介によりて袁の幕僚となり、王印川と共に章炳麟を擔ぎ統一黨を作り、進歩黨成るや二王共に理事たり、王は黨務を一身に切つて廻す傍ら中華大學を經營して後進を養ひ、國會解散後國華報を組織して烏澤聲を社長たらしめ、政界の活動に便する等、活躍眞に驚くべきものあり、後參政院參政より出で、吉林巡按使となり、袁の帝制取消後段祺瑞内閣に内務總長たりしが、南北統一と共に野に下り、餘熱を露國に冷し、幾くもなく歸國し王印川と共に政界の裏面に活動し（昨年五月所謂「公民團」の議會包圍の如きその劃策に出でたりと信せらる）、臨時參議院開かるゝやその議長に擧げられ、次で徐樹錚の後援を得て安福俱樂部を組織し、之を踏臺として今回議長に當選したるなり。本年四十二歳、陸軍上將銜を有し文武兼備の才人なり。段祺瑞との關係は比較的新らしきも徐世昌との關係は頗る深し。

●●●
劉恩格 奉天出身の議員にして、第一國會以來引續き當選し居れど、格別の聲名なし。唯だ安福俱樂部員にして且つ奉天督軍張作霖の岳父たる關係上、の王印川より副議長の椅子を譲つて貰ひたる迄なり。

參議院も同二十二日正副議長を選挙し、出席議員百二十三名、梁士詒百十九票、梁善濟三票、李兆珍一票にて梁士詒議長に當選、引續き副議長選舉を行ひ朱啓鈴百十四票、李盛鐸四票、梁善濟三票、秦望瀾一票、無効一票にて朱啓

鈴當選せり。梁士詒は言ふ迄もなく交通系の首領、朱啓鈴亦同系の領袖にして帝制問題以來殊に梁との關係深く、又その出身より云へば徐世昌の乾兒なり。尙注意すべきは衆議院議長選舉に十一票を得たる籍忠寅、副議長に九票を得たる黃羣、參議院議長選舉に三票を得たる梁善濟は共に研究會に屬することこれなり。

吳佩孚等の停戰電請

總統選舉準備の進行と共に、馮國璋派の活動も漸く顯著なるに到れり。その第一は八月二十一日附を以て發せられたる援粵副司令吳佩孚等の停戰電請にして、その第二は大同俱樂部の組織これなり。吳佩孚は曹錕の部下にして、第三師長として、湖南討伐に最も功ありたる直隸系の健將なり、さきには中央の命を受けずして譚浩明と約して停戰を實行し、北京政府を手古摺らしめし者、今や馮の旨を承け（百萬元授受の約束ありといふ）、昨年十一月に於ける王汝賢、范國璋の先例を追ひ、かの通電を發せしなり。吳佩孚以下連署者に湘南鎮守使趙春廷、總指揮張宗昌、副司令陳德修、混成第十六旅長茫玉祥、直隸第二混成旅長閻相文、第三混成旅長蕭耀南、同第六旅長張福來、山東第一旅長潘鴻鈞、同第二旅長張克瑤あり。通電大要に曰く

八月十二日の大總統の通電を讀み我が元首が約法の精神を尊重し平和を主持し統一に努力せらるゝに對し感佩せざるなし我等職を奉じて時局に對し救ふに法なく心に疚しき所多し唯軍人なる故少しも國を保ち民を守る天職を

忘れず廻りて惟ふり法律問題より内争を惹起したる以來全國紛擾すること一年を過ぎ分崩の端緒を生ずる目前に在り國利民福焉んぞ存せんや況んや近來外交上緊急問題多く危険の現象絶へず是れ一に内争の結果に非ざるなし我が經路使曹錕曾つて漢口に在るの日屢々平相の意を電述したるが江西江蘇湖北の三督軍亦其主義に對し同情を表せり我等愚昧にして法律の知識なきも唯總統は約法に於て講和宣戰の特權ありと聞く然らば對内政策上和を講ずるも之を非法といふ可からず仍つて茲に大總統に對し約法の精神に準據し全國に對し戰を罷むるの明令を出し南北の軍隊をして尙餘力あらしめ以て一致して外に對し力を用ふるに至らしめんことを請ふ總統の任期満了せんとするに際し眉を休むることなく能く生靈を塗炭に救ひ共に平和に力を効さんことを希ふ若しそれ選舉問題に至りては之れが爲め南北に分れ既に統一の精神なく此兵禍なばやまざるの時驟かに選舉を行はば皆に法理に合はざるのみならず恐らくは民國の分裂を促すに至るべく謹んで命を待つ

此通電の北京政府に與へたる影響は豫想外に大にして、今が今迄段祺瑞推戴に餘念なかりし段派をして殆んどその運動を中止せざる可からざる迄に偉大なる効果ありたり。北京政府の憤怒は、吳に對する詰責電報となりて現はれしが、吳は既にかの電報を發せし以上は別に爲すべき事もなし、案の如く靜まり返りて音もせざるに、代りて現はれたるは經路使曹錕なり。彼れは吳の長官にして、吳の行爲の曹

との相談なくして出來得べからざるは世間周知の事實なるに拘はらず、白々しくも北京政府に向つて、吳の行爲は甚だ當を得ず、予よりも充分詰責し置きたれば直ちに前電を取消すべく、予も南下して之れが監督の任に當るべしと打電せり、何處迄も人を喰つた遣口といふべし。兎に角吳の通電は南方討伐の不可能を天下に表白し、段派をして野に下るのやむを得ざるを覺悟せしめたる點に於て最も意味あり。

大同俱樂部の組織

吳佩孚通電と相俟つて馮派の對選舉運動の第二は即ち大同俱樂部の組織なり。馮派は初めその與黨たる研究會系に屬する議員を舊國會に参加せしめ、以て新國會を不成立に了らしむべしとの計畫を以て段派を威嚇せしも、段派が笑つて相手にせざるより計畫を變へ、依然新國會内に在りて段派と對抗すべしと決心し、さてこそ與黨と結束して大同俱樂部を組織せしめたるなれ。同俱樂部の領袖は籍忠寅、梁善濟、黃羣(以上研究會系)、張調辰(馮の直系)、王克敏(前財政總長)等にして、抱擁し得べき議員數は

研究會系 五十人 討論會系 二十人

馮直屬派 十五人 一般民黨系色彩ある者十五人

合計百人に及ぶべく、之に對し安福俱樂部は二百人、交通系は百二十人の多數を有し、無所屬議員亦五十人を下らざる有様なれば、馮派の結束も物の數ならざるが如きも、交通系との連衡にして完全に行はるゝ時は、優に安福派を壓

し得て餘りあり。而して馮派の底意は馮の副總統當選に在り、これが爲め差當り段をして大總統たらしめざるの必要あり、何となれば段の下に副總統たるは馮として到底堪へ得べき所にあらざればなり。吳佩孚通電、大同俱樂部組織は馮派をして此の志を得せしめたり。之を總統選舉の經過に檢せよ。

大總統選舉

徐世昌氏當選

九月四日を以て執行せられたる大總統選舉の經過を述ぶるに先ち、八月三十一日附にて發せられし段總理の辭職通電なるものを瞥見せざる可からず。吳佩孚等直隸系武將の停戰電請に依り南伐の不可能なるを覺りたる段總理は、昨年十一月王汝賢、范國璋等の停戰電請に處せしと同様に、一先づ引退と決心し、差當り徐世昌を大總統に推し、馮國璋の大總統たるを防ぎ、以て徐ろに後圖を策せんとこの計に出でたり。辭職通電は即ちその意思表示なり、文に曰く

天津曹經略使濟南張總司令各省督軍省長各都統護軍使鎮守使各司各師旅長均鑒往歲滇黔諸省同意を挾持して獨立自主し理論情感信使無功なりき祺瑞悉くも國成を乗り義、坐視し難く仰いで明令を承け討伐に従事し全勝の勢に據るに方り忽ち調停の説を倡ふ祺瑞敢へて己が意を孤行せず咎を延いて休を乞ふ詎んぞ中央調停に従事せるに方り長岳失陷し荆襄擾攘し、武漢震驚す險阻を憑恃する

者かつて禍を悔い亂を厭ふの誠なく全局を運籌する者息事寧人の計を施し難し彼時祺瑞職を解いて専ら籌邊に任じすでに再び政權を綜ぶるを願はず而して大總統車騎親臨して再起を敦促し我が同胞函電交馳勉むるに大義を以てす迫、已むを容れず重ねて仔肩を負へり受任以來仍は統一を以て職志と爲し和平を希望と爲し大總統と同徳同心刼運を挽さんと冀へり在苒時を経て統一の局尙は時日を需め將士は外に疲勞し人民は下に疾苦す清夜に深思すれば心哀しみ淚墜つ良とに以へらく統一成らず平和直ちに虛願と成る而して國綱の在る所斷じて統一を棄て、和平に就くべからず惜むらくは祺瑞襄贊方無く未だ早く國難を紓ぶる能はず上、大總統知人の哲に負けることを今幸にして國會成るを告げ已に大總統選舉聯合會の組織を議決せり實に我國第一次改選の大典と爲す元首改任の時は即ち政局重新の會、祺瑞自から應さに時に及んで引退し我が初服を遂ぐべし慮る所は遞嬗の際新内閣尙未だ成立せず人心浮動諸誅生じ易し凡そ我が在位具して責成あり而して各省軍民長官責任尤も重し所有る前敵各軍隊は希くば即ち轉飭して戰備を修明し嚴に煽惑を杜ぎ京師及び各省地方は尤も應さに人心を鎮撫し秩序を安維すべし倘し疏虞あらば國本に危及せん則ち前敵諸將領と地方の責に任する者と國家人民に對し皆辭す可からざるの咎ある也謹んで區々を布き諸鑒納を希ふ祺瑞卅一印

先是八月二十七日、衆議院にては大總統速選に關する郭涵提出案、王伊文案、黃雲鵬案、李慶璋案を通過し、七日

内に兩院聯合會を開き、總統選舉會開催期日を協議すべき旨參議院に咨行する事に決したるが、研究會系領袖黃羣は緩舉を主張し、十月十日以前ならば何時にても宜し、それよりも今回選出すべき總統はよく時局を解決し得べき人物なるを要すと述べたるが無論大勢を動かす能はず、二十九日の參議院は衆議院委附の速選案を討論し、汪有齡の提議にて八月三十一日を以て兩院聯合會を開くことに決し、三十一日聯合會開會の結果九月四日を以て總統選舉會を開くことに確定したり。

かくて總統選舉會當日迄に安福俱樂部は勿論、研究會も一致して徐世昌を推すことに内定し、殆んど他に競争者無きの状態となりしが、四日大總統選舉の結果は豫想通り徐氏の當選を見たり。選舉會は四日午前十時開會參議院議長梁士詒主席となり、兩院議員より八名宛の檢票員を選び堂々廻りをなし、開票の結果出席議員四百三十五名中

徐世昌 四百二十五票

段祺瑞 五票

張謇 王士珍 王揖唐 各一票

無効 二票

にて徐世昌當選せり。

閱歷よりするも人望よりするも徐の當選は當然且つ平凡の順序なり。武人跋扈の支那に於て、文官出身なる徐の當選は極めて喜ぶべき事に屬し、北方各省にては極めて好感情を以て迎へられたり。その就任と否とは尙問題とせられ徐自からも辭退の電報を發したりと雖も、コハ支那一流の

辭令にすぎず、馮總統任期満了の十月十日迄には何とかして就任を實行するの段取りとなるべし。

副總統選舉會流會

副總統選舉會は五日開會せられたるも出席議員法定數に充たずして流會となり、六日兩院聯合會にて十月十日以前適當の時期に於て選舉會開會の旨議決せり。副總統候補者に關し各派の協議纏まらざる結果たるや勿論なり。

東三省巡閱使

張作霖任命

奉天督軍張作霖は、九月七日附總統令にて東三省巡閱使に任命されたり。張がさきに入關せし目的は東三省巡閱使に在りとの噂は、此に至りて確かめられたり、而して此任命は一面その副總統斷念を意味す。東三省巡閱使は清朝時代に於ける東三省總督にして、張は名實共に支那の大局を左右し得る巨頭となれり、副總統に優ること萬々。

無線電話借款

支那陸軍當局と、英國マルコニー會社代表との間に八月二十七日無線電話借款契約締結されたり。條件大要次の如し。

(一) 支那政府は百二十支里の通話に堪ゆる最新無線電話機二百臺をマルコニー會社より購入す。

(二) マルコニー會社は九ヶ月内に右無線電話機の裝置を終了するものとす

(三) 支那政府は英國技師を招聘しその使用法を習得す

(四) 支那政府は右電話機の代價三萬磅、別に三萬磅合計六萬磅をマルコニー會社より借款す

(五) 右借款利子は年八分とす

(六) 電話機代價三萬磅を差引きたる殘額三萬磅を三回に分ち會社より支那政府に交附す

(七) 擔保は國庫債券とす

(八) 民國十三年より五ヶ年間に償還す

(九) 將來無線電話機の修繕又は購入の場合には支那はマルコニー會社と合資を以て之を行ふ

倫敦タイムズ北京特派員は評して曰く

「本借款は日本の無線電信借款(中日實業關係?)の範圍を測定するの具と認めらる而して右日本無線電信借款の内容は支那に於ける無線電信事業の獨占權を日本に與ふるものなりと想像され居れり」

金券條例抗議

金券條例に對する四國銀行團の抗議に就いては前號に報じたるが、八月三十日四國公使(日英佛露)より各別に支那政府に對し抗議する所ありたり。

湯化龍暗殺

研究會系の領袖にして特に黨務實際の主持者と目され居

たる湯化龍氏は、九月一日加拿太并クトリアにて南方派に屬する支那人理髮師の爲めに暗殺され、犯人は直ちに自殺せり。氏は本年三月我が某々筋の招致に應じて來朝し、南北妥協に北方側代表として斡旋する筈なりしも妥協失敗し轉じて米國に向ひたるものなり。

林公使歸朝

林公使は九月六日北京發歸朝せり。當局と事務打合せの爲めにして多分今一度歸任すべしといふ。



時報



内治外交

●新國會の開院式

八月十二日午前九時新國會開院式を行ふ、各議員一齊登院、各國務員も亦た院に蒞めり、教育海軍財政兼交通外交(陸軍も亦た晩れて登院)、及び段總理左席に列し、内務、農商、陸軍、司法は右席に列し、九時四十分馮代大總統蒞院、遂に開會す、先づ寶軒次長より登壇報告あり、議員中の最年長者福建の李兆珍を擇び主席とし、同氏をして開會の詞を朗讀せしむ、次に馮代大總統段總理各祝詞を讀む、議員齊しく國旗に向て三鞠の躬禮を行ふ、撮影して而して散す、是日會場の景象は内外國の新聞記者の參觀傍聽するを許さず、故に僅かに某派の機關報に傍聽券十餘枚を發せしのみ、是に因りて新聞界甚だ不平

を爲す、外賓の至る者に至りては僅かに佛白兩公使及び各使派遣の參贊官書記官なりしが、惟婦人席上には娼妓に形似する者頗る多く、多數議員の注目を引起したり、散會の時は十一時なりしと云ふ。

馮總統祝詞 參衆兩院は國家の立法機關たり、去歲解散してより以來、久しく未だ成立せず、以て國人の望を慰むるなし、本代大總統就職の初め、即ち汲々此を以て念と爲す是を以て參議院を召集して、國會選舉法を修正せり、公布の日より今に至るまで數月に過ぎず、而して各省及中央は選舉を辦理して、已に次第に竣成を告ぐ、舉國治を望み人々同情あるを見るに足る、今幸にして貴院開會の期に値り、本代大總統躬其盛に與るを得たるは、甚だ欣幸と爲す、自らを企慰するや言を俟たず、蓋し天下無國會の立憲國なし、專制政體と立憲政體との區別を論ずるときは、即ち國會の

有無を以て斷となす、惟ふに是れ西哲言へるあり、政治は人類の產物なり、一國の政治は又た一國國民の產物なりと凡そ國民には普通性あり、其立憲政體の下に棲息して國會の幸福を食まんことを希望す、此れ普通性に根づき、而して各國の同ふする所なり、國會の組織の何たる機限の範圍の何たるに至りては、此れ特別性に根づきて、而して成る、一國の獨りする所なり、今國會の組織及び權限は既に已に確定し、將來國民は終に竟に其幸福を食むを得るは則ち全く國會自身に在り、諸君は田間より來れり、品望最も優なり、此の國人治を望むの時に値り、以て立法の眞意を發揮するを得ば、將來完善の憲法を製成して、小民の苦痛を解除し、已往の覆轍を矯め未來の盛軌を開く、皆な將に諸君に是れ頼らん、是れ則ち本代大總統區々の望なるのみならず、抑も亦た國民の厚幸なるのみ。

段總理の祝詞 正式國會已に成立に屆き、祺瑞又た其盛に逢ふ、慶幸如何、諸君は一時の俊彥體を明かにし、用を達し、國家の前途の利賴する所となる、今一堂に聯會するを得たり、祺瑞往日の經過の情形を略述し、諸君と商量せん、民國建立七年、危くして而して復た安き者再びなり、國會は不幸にして蹶き、紛擾寧息なきに至る、國家は改革すと曰ふと雖も、免るゝこと能はざる階なり、然れども厥の由來に溯れば、寧ろ約法の不良の致す所にあらず、夫の專制政體を以て一躍して、而して共和となり、已に至上の境に到る、之を共同愛護して永遠に強固ならしむるは、國會と政府と相輔けて而して行ふにあらずんば不可なり、今の相需むる

ことの最も盛なる者は、良好の憲法に在り、四海喁喁同じく深く仰望す、國會は立法機關たり、政府を監督す、自私自利の圖なからしむ、顧ふに政府の政令の自ら出る所たり、綱紀を整飭にし國勢を強固にするも、亦た國會の宜しく贊助すべき所なり、而して内閣ありてより以來、更に十數組閣の才を易ふ、固より其選に難く、信任専らならず、束縛して而して之を馳驟す、即ち其才に當るも亦た奚ぞ展布するに由らんや、嘗て全球鼎沸國難未だ夷ならざるを以て、冀ふ所は國會と政府は協力同心、是に由て邦交を敦睦にし、内政を修明し、以て列強と並駕齊馳せんことを、語に曰く陳善爲敬頌不忘規と、敢て斯の語を抜き諸君の爲めに祝し、國會の爲めに祝し、全國人民の爲めに祝するなり。(順天時報)

●經略使署組織の續聞

經略使署は既に已に組織

成立し、其編制の内容は已に各報に見ゆ、茲に聞く所に據れば、此の項の編制は曹使早已に成就したれども、尙ほ未だ其筋に提出裁可を経ず、此の次天津會議の結果、各督軍均しく曹に南行を迫るに及んで、曹氏は遂に編制を以て會某をして滯京せしめ、直接總理の一閱に供したりと聞く、其中の總秘書處等八處を組織するを除く外に、尙ほ衛隊編成一項あり、步兵三營、騎兵一營、機關槍一營、遞騎隊、憲兵隊各一連、衛生隊半部、約其計一混成なり、當きに總理の閱覽に供し、早晚承認せらるべしと云ふ、(順天)

●敎廷派使問題

八月九日確聞する所に據れば、駐京佛國公使と外交部と、敎廷派使問題に關して現に正に交渉進行中に在り、佛國は形式上にありては、天津條約に照

らし天主教會を保護し其特權を侵害されたることに關し、交渉を發生したり、然れども佛國の眞意は互に使節を遣はすの問題は、獨國のなす陰謀にして、協商國全體の利害に於て、甚だ關係あり、故に佛國公使は頗る堅固の決意を持ち、以て此の問題を解決せんことを期せるなり、且つ此の度佛國の交渉は已に協商各國の同意を得たり、佛國公使は首として其衝に當る者は、實際問題上佛國は天津條約に依り其地位上條約の權利を主張するあるなり、本と京報紙中教皇は駐華公使を任命してモートレリ氏と爲す、獨國外相ヒンツエ氏前駐華獨國公使又親交に屬し、著名の親獨派となす、若し中國政府は陌氏の來華を拒絶するときは、則ち佛國公使は満足して、而して交渉自ら解決せん云々、但し此次の問題は僅かに使節人選たるのみにあらざるなり、實に獨國陰謀を爲すの大問題にして、中國政府も亦た參戰協商國中の一員なり、獨國陰謀の播弄する所となる、協商各國の到底傍觀坐視すること能はざるや明らかなり、故に佛國交渉の目的希望は、中國政府戴陳霖の敎廷特命全權公使の兼を解き、並に敎皇の駐華使節の派遣の承諾を取消さんことにして、如何なる抱一に論なく、目的を達到するの決心なり云々。(順天)

●公府の重要會議 公府の確息に據るに曰く、大總統は八月九日居仁堂に於て、各部總長及中交兩行總裁總理を召集して重要會議を開きたり、府中某員云く此次の會議最要の點三ありと。

(一)對南作戰は既に天津會議の決定を経たれども、其戰費

は如何に籌畫すべき。

(二)外交は現に己に日々緊急に趨き、我國の金融は日々窘まる、應さに何の法を以て外力に仰仗せざるべき。

(三)中交兩行の紙幣は信用及び名譽地を掃ふ、應さに何種の手段を以て維持すべき云々。(順天)

●徐東海當選後の豫期政策 總統問題最近各方面

は既に己に一致決定して、東海を推舉するときは、則ち此事設へは他故の發生すること無んば、當さに必ず變動に至らざるべし、惟東海は當選後の條件に對し、此より前きに已に表示あり茲に復た徐氏の親信の某君の言に據るに、東海此度各方面の誠意に鑒み、當選後は必ず辭退するに至らず惟彼の豫期政策は三あり。

(一)爭を息め侮を禦く。

(二)財政を清理す。

(三)裁兵勦匪若し辨到する能はざるときは、國會推戴を受けるを敢てせず云々。(順天)

●副總統緩舉説の優勢 本社は數方面有力議員の

談する所に據るに、曰く明十二日は已に新國會開會の期に屆き、正副總統選舉問題も睫眉の急に迫れり、大總統は既に徐東海を舉ぐるに決し問題とならず、而して副總統問題なるときは、則ち依然解決の法なし、段總理は曾て不就を表示すと雖も、而も某方面の所謂張作霖已に退讓の言を表示せり、則ち未だ必ずしも即ち頼むべしと爲さず、倪嗣冲天津に到るの後、力めて大功ある者に授與するの説を倡へたり此時何人か大功ある者と爲すかは定義を下し易からず、故

に今の仍は副總統を以て自ら居る者を以てするは、實に三方面以上の人あるなり、萬一草率一人を舉出せば、反對の聲は三方面よりして起らん、彼の時は舊總統の任期已に満ち、新總統は此の現象を見て就職を肯んぜず政府は搖動して將に莫大の危險を醸成せんとす、故に現在各方有力者の意は仍は以爲らく、先づ大總統を舉ぐるに如かず、大總統の舉出を俟ち、新舊總統交替して然る後再び副總統問題を協議すれば、即ち時局を統一する上に在りても、亦た幾分の轉圜の餘地を留む可し、且つ副總統と國務總理とは同じからず、決して一日も無かるべからざる者にあらず、各方の形勢に従て觀察せば、自ら稍緩議に従ひ、以て危機の勃發を免れざるべからず、此種の主張は殆んど議員の大多數を占む、大總統選舉法に依るに正副總統は應に同時に之を行ふべしと謂ふに至りては、此れ所謂時に狹義的には同じく一點鐘以内に在りて、同一時期に之を行ふと謂ふにあらずるのみ、然らば則ち相距ること數十日或は月餘の久しき協議末だ安かならずして、而して延期するも亦た始めより可ならずんばあらず云々。(順天)

●張徐衝突の眞因 天津會議の際張作霖と徐樹錚との間に衝突を發生せしこと、己に本報に誌したり、其原因は種々ありしと雖ども、但だ張氏の最も憤慨せる者、徐氏が奉天軍費中より一百四十萬元を侵蝕せるあり、其用途不明を致せるの説あり、此項の軍費は大約安福俱樂部に於て議員を買収の爲めに消費せる者なり、之を要するに張氏は徐氏の玩弄を受け、其發覺せらるゝに因り故に甚しく憤慨

を爲すなり。(時報)

●廣州舊國會開會の西報

英文滬報に云く廣東の

電報に據るに、舊國會衆議院は已に本月六日に於て、正式に第三期會議を開けり、是日大風雨にして議員の全く來會せる者、共計三百有二人、午後二時開會吳景濂を會長となす、當日の事務は僅かに議員の席次を定ると、長期委員會を指定するとの二端なり、又た議員十三人を指定して、議員の資格を審査するの會と爲す、國民黨は朱福成を以て會長となす、開會宣言書には稍改削を加へ、全院通過せり、衆議院法定人數已に足り、將に八日に於て開會せんとせり時に到りて兩院は將に聯合茶話會を開き、某項の重要事を通過せんとす、前月の末衆議院議員の廣東に在る者、共に三百二十二人、正式に通報の到れる者僅かに三百〇五人、其中各省の人下の如し、直隸二十二人、奉天六人、吉林二人、黑龍江五人、江蘇二十七人、安徽九人、江西二十七人、浙江十九人、福建十六人、湖北十六人、湖南十七人、山東十四人、河南十七人、山西十三人、陝西九人、甘肅四人、新疆二人、四川十三人、廣東二十四人、廣西十七人、雲南十四人、貴州三人、蒙古六人、西藏三人、共計三百〇五人參議員の已に到着せる者共計一百三十九人、嗣後陸續として來る、數日を出でずして法定數に滿つるの望あり、然れども若し兩院既に法定數を得ば、大副總統を選擧すると憲法を定むるとの一事の如きは、當然着手進行すべし、衆議院初次開會議事日程中、已に二要案を列せり、選舉問題に關する者は惟だ議員中大副總統の任期末滿を主張して、遽

かに選ふべからざる者あり、吾人豫め料るに要案動議の後
は、必ず一番激烈の爭論あらんことなり。(時報)

●各黨派漸く活動の形勢を爲す 客歲國會解散

の後より、各政黨の潮流の趨く所、無形消滅して今日に及
べり、茲に又た漸く活動の兆候あり、討論會の如き進歩黨
(研究會の變稱)及び新組の安福俱樂部の如きは、皆な旗幟
を明に樹て黨徒を號召す、三者の中惟た安福俱樂部派大多
數を占む、研究派之に次ぎ、討論派は其末なり、近日安福
派は尙ほ未だ開會せざれば、其政見の如何を知らず、但個
人の傳言に據れば、總統問題は已に擬定して人の有ること
は已に前報に誌したり、研究派は昨日開會せり、其宣言は
頗る空漠として、痕迹を露出せず、該演說中に於て已に徐
東海を默認して總統となすが如し。

惟安福派中進歩黨の分子多きに居り、其獨り一旗幟を樹つ
る所以の者は、研究派と意見合はざるにあらざるなし、故
に對等の地位を立予せり、討論派に至りては則ち近ろ安福
派に加入するの流言あり、前日該派は客を請待するも或は
言ふ席間表示する所の事なし、後ち鄧某及び某々分頭接洽
該派の意見を表示せしが、大に徐東海の名を假藉するを致
せり、必ず謂はん徐氏は先づ南北の調和を主張して、總統
を再舉すと、該派は即ち東海の主張を以て主張となすと、
或は又た傳ふ該派は第三黨を組織するの宣言あらんと、是
れ實に屬するや否や、須らく尙ほ調査を要すべし、前條の
事情に依り觀察すれば、此の後の時局如何は政黨と或は幾
分關係なくんばあらずと云ふ。(順天)

●天津會議結了の報告 茲に天津報告に據るに正

副總統問題に關しては、已に徐段に決定し他故の發生する
ことなきが如くんば、已に更動する所あるを致さざらん、
各要人の權限の分配に至りては、軍糧軍費問題に關し、曹
氏の軍費を需用するは、經略使署の設立費及び今日迄の負
債を合して、五百萬元なり、張懷芝の軍費は軍隊輸送費及
び豫備費其他不足の糧食費合計四百萬元なり、張作霖の需
求の經費は糧食費及び第七旅成立費二百萬元なり、徐氏の
新軍成立費五十萬元を要す、張敬堯は敵前費二百萬元を需
要す、福建河南兩省は約二百萬元を需求す、若し中央目下能
く一千五百萬元の現金を出資することに計畫するときは、
則ち攻粵の事は以て進行し得べし云々、天津會議も此に至
りて一結束を告げたりと、又た半官性質の新民通信社の報
告に據れば、舉世矚目の天津會議は會議の名稱ありと雖も
決して會議の體裁を具へず、連日數回の商談あり、具體の
成案なきに及びて僅かに軍事上各種の問題に對し、已に大
略解決せり、第一主戰政略決定して變更せず、仍ほ攻粵を
企圖す、第二經費を節約す、凡そ甚だ軍隊に力を得ざれば
概ね撤回を行ふ、各行署新設の各科は事務の繁簡に照らし、
斟酌して併合裁撤し、以て督軍署の舊員を並び其科員に充
つ、毎月の軍費を減削し以て持久の計を爲す、此頃の計畫
は既に已に議定せり、此の外政治方面の副總統問題の如き
彼此謙讓未だ迫あらず、且つ均しく擔任の聲明を願はざる
あり、尙ほ未だ具體の表決あらずと云ふ。

倪嗣冲曹錕の南下を催促するの情況は已に昨報に誌した

り、茲に聞く在洋主戰の要人は、僅かに曹氏が南行を允認したるを尙ほ満足せず、現に曹氏に迫勸して一通の電報を發して、出發の期日を説明し、以て更改すること能はざらしむるに便にせんとしたりしが、曹氏は此に對し尙ほ承諾を與へざりしは、昨日午後の情況なりとす、政府が曹氏に對し請へる所の兩旅を擴充する等の事に至りては、以爲らく曹氏が定むる所の經費は衛隊憲兵隊の經費と合して毎月三十餘萬元を要すれども、必ずや中央より裁可を與ふべし權限一節に就きては此度曹氏所定の者は、四省の軍務及び軍事上の一切の政務を司る、陸軍部の原案の範圍と亦た巨大の出入なく、更らに問題の言ふべきことなし、要するに政府は曹氏の南下を催促するの因縁に由り曹氏の要求に對しては、已に將に承認を與へんとす、現在の狀況を以てすれば、曹氏も又た行かざるを得ざるの勢あるに似たり、故に曹氏方面は已に力を竭し、準備出發の狀を作せり、昨日電報あり、參陸辦公處に致すあり、添練の直隸補充第一旅の已に成立せりとの報告なりき、且つ請ふて該旅の經費の前渡金を要求し來れり、此れ亦た次第に南下する一種の措詞を表したるなり、然れども南行と否とは曹氏本人を除くの外には、恐らくは他人の代りて斷言を下すことなからん。

(時報)

●曹錕の要求

同氏は德滬漢三處の兵工廠の管理の權能を要求し、以て軍行に利せんとせり、未だ政府の允認を得ざれども、但し政府は許すに南下後に於ける軍器彈藥の充分なる供給を許さんと、已に人を天津に派し曹氏に談

示して、同氏の南行を促せり。(神州)

●僑工募集事務の劃一

江蘇省長公署は僑工募集

事務を劃一にせん爲め、左の意義の布告を發したり、國務院の照會を受領せるに、曰く僑工事務局の通告に謂く、江蘇交渉員の伺出に據るに、其筋の命令を奉じ僑工の海外出稼條例を頒行す、本管内全體遵奉せよ、並に領事團に右の内通知したりと、是より先き省長の命令を奉じ、通商港に僑工事務機關の有無を調査し、又た訓令を發して僑工を招募するに、必ず當地の僑工分局に出願の上許可を得て、始めて營業を開始すべく、又た僑工として應募するに、必ず當地の僑工分局に届出づれば、直に許可を與ふべし、右の趣きは已に夫々通知し置きたり、偕て英國領事の照會に據るに、華工を招募するに、必ず僑工事務局條例に據り辦理すべき事は、已に同領事より駐京公使へ報告したりしが、同公使の回答には華工を招募するに際し、該局若し查詢することあらんには、應さに外交部に呈明し、本大臣に轉與し、直接商辦すべしと右は督軍に出願するの外は、僑工事務局並に同分局に轉じて照會して查照辦理せんことを、僑工事務の範圍を查するに、江蘇一省に止まらず、英領事の稱する所の各節の事の外交に涉る辦法は、未だ兩岐に便ならず、後來僑工を招募せんとする事務あれば、應さに當地方官或は交渉員に呈請するか、然らざれば直ちに外交部に呈請せよ、本局と直接辦理すべし、尙ほ未だ許可を得ずして如し中外人等の擅まゝに自ら僑工を招募するを得ず云々。(時報)

軍事

●外蒙古方面國防の兵力

此より前駐庫大員陳毅は數政府に電請して、外蒙古に派兵せんことを以てしたり並に已に庫政府の允許を得たるを以て、故に前回察哈爾の田都統入京したるも、亦た外蒙古に出兵のことを籌商するを以て要務となせり、具體の計畫の決定を経るに當り、次第に進行せり、近聞に政府は張家口都統署の電呈に接するに、高團長に綏師支隊兩營を率ゐしめ派遣したるを報せり已に是日に於て張家口より出發して庫倫に赴けり、田都統と政府と高團長を派遣して庫倫に赴むかしむることを商定する時に當り、曾て電報を以て陳毅に知照ありたり、茲に聞く陳氏も亦た北京に打電して迅速に出兵を催促せり、蓋し尙は未だ高團長の已に十日に於て出發したるを知らざりしなり、其電文の略に曰く、此の外交急迫の時に値り、烏察は甚だ緊要と爲す、願くは綏軍高團長に下命して迅速に來庫し、以て不虞に備へんことを云々、又た聞く政府は高團長に命して、庫に赴かしめたることは、已に豫め電報を以て陳毅に致し、其をして兵士の駐所に對し、速に計畫して準備せしめたりと、陳毅の返電に曰く、高團長來庫極めて歓迎を爲せり、駐所は已に命令して租借し修理を施したりと。

又一報に云く蒙古方面は前に察哈爾、綏遠より各騎兵四營を派遣して出防に任せり、烏得は庫倫を距ること八百里、

馬行するときは三日にして達すべし、綏區の四營を留めて烏得に駐せしむるを除く外に、其烏得原有の二營及び察區より新調の四營は、高團長統率して庫倫に進駐せりと、頃ろ聞く陳毅より電報あり、庫倫管内の商民は大兵の遠來を聞き、非常に欣慰せり、現に營房を準備し修理に忙はし云々、又た向きに綏遠の管轄に屬する騎兵尙は五營あり、近畿に駐紮せるが、現に滂江に派遣駐紮せしめ、以て兵力を厚ふせん企圖の由なり、是の如きときは、庫倫烏得滂江の三處にて合計已に十五營の駐兵ある筈なり。(神州)

●遷延中の支那出兵

出兵宣言書は政府は已に不必要と認め、已に既に打銷したり、茲に聞く此議又復活して勢必行にあり、惟其性質は對外一種の宣言に係り、絶へて對内の意味を含まず、而して所謂對外なる者は、範圍已に既に縮小せり、之を換言すれば、即ち僅かに現時駐威協約各國の外交軍事各團に向て宣言せるのみ、其原因は威林に駐在する代將より昨日北京に來電ありしに由ると云ふ、各國派來の軍隊は、均しく宣言書ありて、在威機關に通告せり、我國も亦た軍隊の出發以前に於て、先づ通告を行ひ以て程序に符合すべし云々、政府は深く其説を是とし、已に外交部に照會し速に起草せしめたりと。

赴威の軍隊尙は未だ出發せず、出兵威に赴くの一事は、前に聞く、第九師三十三團長宋煥章を定めて派遣することとなし、支隊長をも兼任することにしたりと、昨聞く陸軍部は已に宋に對して支隊長の辭令を發給したりと、現に已に配備齊全し居れり、一たび南滿鐵道のこととは日本の正式

の回答あるを俟ち、即ち出發すと云ふ、惟此次出兵は對内の作戰にあらず、該支隊長は加意紀律を整肅にし、中國軍隊の舊習を一洗して國際の羞を貽すなかるべきなり。

派員哈爾濱の情形を調査す、參陸兩部より各部員三人を派し、哈爾濱滿洲里等の處に派し、近日の情況を調査せり、外交部も亦た秘書施履本を同地に派することとなし、均しく去る十二日晚、北京を出發したり、第九師は別に將校及護兵を同地に派し、専ら駐兵所の準備を爲さしむべしと云ふ。

(時報)

財政經濟

●金幣條例發表の經過

此次財政部所訂の金券條例は、該部總次長の手に成れり、司長參事皆な未だ預り聞くを得ず、其秘密の深きこと其關係の大なるを徴するに足る、該條例の内容を按ずるに、簡單に之を言へば、中國發行の一種の紙幣を名づけて金幣となし、一銀行或は特設の一銀行を指定して兌換せしむ、中交兩銀行は皆な預り聞かず、然して兌換する所の者は、決して金幣にあらず、乃ち日本朝鮮銀行の紙幣と爲す、之を質言するときは、則ち朝鮮銀行は即ち中國金幣兌換準備金の用をなす、此の計畫を訂立するの由來は、政府は尙ほ一大宗借款を需むればなり然して日本方面に在りては、借款は一般擔認すと雖も、而も現金を輸出すること能はず、故に只だ能く東京銀行にありて、帳簿を畫一にし中國の預金と爲す、故に借款は多し

と雖も而も錢は到手する能はず、且つ日本國幣の兌換券も亦た借ると能はず、中國は只だ能く一種の特種銀行を求め、紙幣を以て中國に貸與せしむ、政府に在りては目前八千萬の紙幣の活動力を得べし、而して日本は則ち一躍して而して中國金融の基を操縱す、之を質言すれば則ち此頃の計畫は、實に朝鮮銀行の爲めに中國に在りて紙幣を推して通用せしむるなり、而して幣制改革に託し、以て名となすのみ、政府は神速秘密の手段を以て、此條例を通過し、公府に送至したり、未だ裁可を経ざれども、馮氏謂く此事の内容に對しては、實に明瞭ならず、故に須らく一商議を作すべしと、九日午後五時特に閣員等及び中交兩銀行々長を召集し一會議を開きたり、其結果は則ち財政當局に由り、理由を説明せり、先つ一幣制局を設く、金幣價格は約米國金貨の半に合す、一方には即ち詳細の計畫書を以て、銀行團に報告し、以て我國の幣制を改革するの意あることを示す、馮氏は曰く諸君は既に皆な我に同意して決して異議なしと、遂に署名發表するを允許したりと云ふ、或は謂く此事は實際に反對する者尙ほ僅かに馮氏一人のみならず、即ち閣員中には亦た實行を緩に従ふべく請ふものありと、又た聞く某國は本と米國に不滿にして、銀團に加入したり、故に此の制を催定して一億元の金幣借款を供給し、能く先發して人を制せしなり、之に因りて外交團は此事に對し、亦た異議ありと、而して我國某方面は則ち必ず之をして速成せしめんと欲すと、聞く將來の金幣局總裁は頗る陸宗輿を以て任に充たらしむるの意ありと云ふ。(神州)

●金幣借款成立後の波折

最近北京の消息に據る

に、金幣借款八千萬元の契約は、確に已に署名調印せられたりと、惟茲に事關係極めて大にして、中日兩方の當局恐らくば、輿論の論詰を招かんことを、依て相約して秘密を嚴守し、敢て絲毫も露洩せず、故に外間多くは未だ之を知らず、現在政府當局の日夜籌畫する所の者は、乃ち發行金券の辦法に關し、決して借款を商議するにあらず、實して而して之を言へば、借款を第一步となし、發券を第二步となす、現在辨する所の者は、全く第二步の範圍に屬し、其第一步は則ち已に完全に竣成を告げ、更らに問題とならず、第二步包含の問題甚だ多く、發行機關發行條例發行數量及び金幣券代表する所の貨幣の單位等の如き等、皆其重要な者なり、但し此項の發行機關は或は命名して銀行となさず而して命名して中華貿易公司となす、蓋し國際爲替に注意するの意を表示するなり、又た發行機關の外に於て、一の監督機關を設け名を幣制局と定め、曹汝霖を以て督辦となし、陸宗輿を總裁となし、尙ほ副總裁一席は人未だ擬定せず其他の職員は應さに盡有なるべし、曹氏既に幣制局督辦に任せられ、而して金幣券發行機關は、即ち所謂中華貿易公司なるときは、經理は必ず別に人あらん、但し吾國人多才多藝往々一身を以てして、而して監督を兼ねる者被監督者と兩種の資格あり、去年王克敏の財政總長及び中國銀行總裁を兼任せる如き是れ其例なり、曹汝霖或は仿ふて而して之を行ひ、幣制局督辦と中華貿易公司經理の兩職を兼任するも、意中事未だ奇とするに足らざるなり、發行條例に至

りては、則ち完全に日本人に由りて起草せられ、而して眞筆者は即ち大名鼎鼎の財政家阪谷芳郎其人となす、此項の條例は原稿日本文を用ひ、現に財政部の漢文の譯成を経たり、曹汝霖公府に入り報告の時袖中已に此物を携有したりと、此外は即ち發行數量にして當局は最も普通の辦法に照らし準備金に據り、發行額は三分の一の比例に居り、定めて金券二億四千萬元を發行するを得るなり、亦た巨なりと云ふべし、金幣券代表する所の貨幣の單位に至りては、則ち完全には日本金元の單位と相同じくす、此れ本と情理に近し、蓋し金券準備金は既に朝鮮銀行紙幣と爲すときは、則ち其代表する所の貨幣は直接朝鮮銀行紙幣たるが如く、間接即ち日本金元と爲す、其單位同一を取らざる能はず、但し又一説に據るに、則ち曰く政府擬する所の單位は、約現在通用の銀元の半と相當すと、而して日本金元の單位に較ふれば稍小なり、(此れ僅かに現在の金銀市價に就て之を言ふ)、其命意の在る所は、頗る人をして索解に難からしむ、惟此項の條例は曹汝霖より公府に送り、大總統の署名を請ふの時竟に馮氏の拒む所となり、未だ署名せられず、暫らく擱置を命ぜらる、故に此事は又た將に稍停頓あらんとす、且つ已に府院間の重要問題を成爲せり。(神州)

●林鑛借款反對の聲

聞く新たに吉林省南山より下し來る、材木は其數甚だ夥し、昨七日團體聯合會報告に云く、近頃日本人あり、南山一帯に在りて森林を把持し、伐採を阻止し辯言すらく、汝中國政府は森林を以て、吾が日本に擔保として提出せり、汝中國人の再び伐採を事とする

鑛業

を准さず等の語あり、剩へ即ち早伐の木も亦た扣留せられ、筏を爲し流下するを准さず、此の如く日本人は横暴なり、殊に人をして忍ぶ難からしむ、故に省衙に報告したりと、聯合會諸君子に請ふ、法を設けて抗争せられ、以て民命を活さんことを云々、聞く聯合會は材木報告を得てより、森林借款の條約は尙ほ未だ正式に發表せられざるを以て、該日本人もし此の如く横施せば、他日約成れば後禍は更らに何れの邊に至るやも知るべからずとなし、昨七日該會は決議して、一面には切實右に對するの處置法を討議し、並に借約を挽回し、又一面には督軍に書面を以て、主持一切を上陳し日本人との交渉は、但た目前の紛争の障害を免るゝのみにあらず、且つ後日の莫大の巨患を除くべし云々。

又聞く、該會前日北京よりの報に接するに、曰く代表等は近頃北京に在りて一面には府院と財農兩部に奔走して利害を陳説し、又一面には在京の吉林出身の健全分子總統府顧問宋少澤及國務秘書徐靜一と國會東三省議員とに連絡して討議し、政府に向て抗争し、挽救に資し、而して損失を免れしめんとし、吉林各材木商は森林借款は實に人の生路を絶つに屬することなれば、群衆激憤目下特に聯絡して、省の工務總會に在りて討議抵抗せんと企圖すと、並に全省の材木商を聯合して一大團體を組織し、借款を抗争し、以て聯合會の後盾となり、將來如し美滿の結果を得ざれば、最後の對待策を定むべしと云ふ。(時報)

●七月分許可の鑛山

中央許可の鑛山の確數は已

に本紙に載せたり、茲に聞く農商部先月鑛物の採掘の許可を與へたる者計十五個處にして、金鑛一處、鉛鑛一處、弗石鑛一處、石炭鑛十五個處合して鑛區の面積九千四百七十三畝詳誌すれば左の如し。(時報)

(一)福建建甌縣黎山村石炭鑛登記料二百元七月廿七日劉崇倫に採鑛許可證を下附す

(二)山西平定縣燕子溝小南溝登記料一千八百〇二元五十錢七月廿七日崔廷獻に採鑛許可證を下附す

(三)京兆宛平縣大平山金鑛七月廿四日楊玉貴に採鑛許可證を下附す

(四)安徽宣城縣珉牛山石炭鑛七月廿四日陳光譜に採掘許可證を下附す

(五)吉林和龍縣土山子石炭鑛は七月二十七日孫芝抱に採掘許可證を下附す

(六)河南商城縣王家村石炭鑛を登録す費用二百元七月二十七日馬吉梅に採掘許可證を下附す

(七)奉天桓仁縣西千溝子石炭鑛は其筋に出願登記費用二百元七月十八日鄭寶興に採鑛許可證書を下附す

(八)奉天西安縣孟河亮石炭鑛を登記し費用二百元七月二十日傳承文に採鑛許可證を下附す

(九)湖北北蒲圻縣北鄉虎山犬山石炭鑛七月十七日夏道南に

採礦許可證を下附す

(十) 湖北大冶縣馬叫堡陰山溝石炭礦は七月八日劉廷選に採礦許可證を下附す

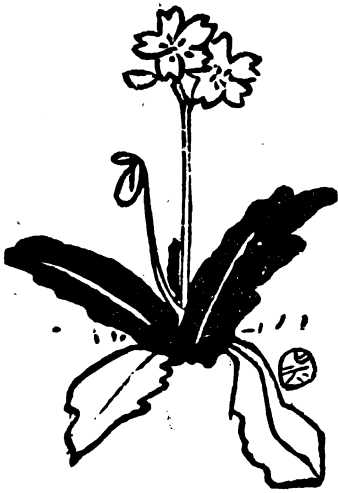
(十一) 安徽貴池縣猪形山石炭礦は七月八日吳南岳に採礦許可證を下附す

(十二) 山西大同縣南北深井村石炭礦を登記す費用二百元七月一日王朝宗に採礦許可證を下附す

(十三) 奉天海城縣侯家隈子蘇耳峪滑石礦を登記す費用二百元七月一日王朝宗に採礦許可證を下附す

(十四) 直隸井陘縣瓜地嶺石炭礦を登記す費用二百二十九元七月二十七日李秀亭に採礦許可證を下附す

(十五) 奉天寬甸縣欠財溝筆鉛礦を登記す費用二百元七月二十七日顧雲泰に採礦許可證を下附す



東亞同文會編纂
最新版

支那關係
特種條約彙纂

正價金四圓

總本製紙箱入四六版
總六號七百五十頁
送料 内地十二錢
支那鮮四十錢

最近迄の支那
關係の各種條
約を網羅す

支那と列國との特種關係・
支那に於ける列國の利權・
支那の國際上の地位悉く
本書にて明瞭

發行所

東京市赤坂區溜池町二
東亞同文會調查編纂部

電話芝一二一四番
振替東京九七三〇番

彙報

自八月十六日至八月卅一日

對露關係

▲支那外交官浦鹽派遣

(北京特電十四日發) 外交部參事王景禧(佛蘭西語秘書)施履本(日本語秘書)刀作謙(英語秘書)は外交事務を取扱ふ爲哈爾濱浦鹽に出張を命ぜられ十二日夜出發せり。過殺我國及英佛等より外交官を浦鹽に派遣せるを以て支那政府も亦之と聯絡を取るの必要上外交部參事王景禧、同施履本、同刀作謙の三氏を派遣する事に決し十一日北京出發浦鹽に向ひたり。(某所著電十六日、日日)

▲北滿派兵に不滿

(北京特電十五日發) 日中の滿洲里出兵に對し支那側は國家の體面上不面目なりとして不平を述べ居れり政府に於ては意見の發表を避けつゝあるも民間にては今日滿洲里方面に於ては日支共同作戰の必要なし若し支那側の滿洲里方面の防禦の効果なくば浦鹽同様協商四國聯合出兵と爲すべく日本が單獨にて之に當るは好ましからずと論じ居れり勿論此等の論は段内閣反對の色を帯べるものなり。(十七日、日日)

▲支兵過派内通

(哈爾濱特電十四日發) マツエフスカヤに於て支那官憲は過激派に内通せる支那兵七十三名を逮捕せり。(十七日、日日)

▲出兵宣言書提示

(北京特電十五日發) 齊藤陸軍中將は日本の東清鐵道沿線出兵の宣言書を支那陸軍當局に示したるに右は強め打合せを見たることゝて支那に於ても日本の意ある所を諒とし之より日支の國交は益ます敦厚を加ふ可しと答へたり。(十八日、時事)

▲支那派遣軍出發

(北京特電、十五日發) 第一回浦鹽派遣支那軍隊將校以下六百人は十七日午後五時將廳門内驛發特別列車にて出征の途に就く。(十八日、日日)

▲北滿出兵經費

(十六日北京特派員發) 支那の北滿出兵の經費を鹽稅剩餘金中より四千萬元支出の計畫にて善後借款關係の各國公使に照會中なり而して北滿出兵に參加すべき軍隊は既に滿洲里に居る黑龍江兵の外徐樹錚の湖南洛陽及信陽にて編成せる二旅奉天軍中二旅なりと。(十八日、朝日)

▲過激派戰備狀態

(哈爾濱特電十五日發) 滿洲里昨日發報道に曰く八月十日を以てチタよりダウリアに至る旅客の交通は軍隊輸送の爲めに停止せらる而して軍隊はチタより續々東行しつゝあり同地にては八月五日大動員を行へりヘルチンクスにては動員に際し集まれる勞働者七千人に達したるも數日後兵營に收容し得たるは其半數に過ぎざり是れダウリア戰線にはチエツク軍其他出動の報を受けたるが爲めなりとダウリア軍過激派司令官ラゾはカリムスカヤまでは戰闘狀態にある旨布告し且つ地方住民に對し反革命者に反抗し赤衛軍を援助す可き旨布告せり尙ほ過激派司令部は八月七日ダウリアに移されたりとマチエフスカヤ附近の支那大隊は國境に近づきて哨兵を襲り居れり十三日を期して支那官憲に致せる過激派の滿洲里廟會は其儘となり居れるが如く今に何等異變の報なし。(十八日、時事)

▲庫倫兩派衝突

(北京特電十五日發) 十三日庫倫都護使發電報によれば庫倫西林村にて過激派と反過激派との間に戰闘起り反過激派は勢支へ得ず同村四方に退却せりと右に關し支那政府は彼等を支那國境外に放逐せしむべく支那軍をして其溝中に投ぜしめず現狀の維持を主意とせよと返電せり。(十八日、日日)

▲公使團日本新出兵附議

(十八日北京特派員發) 聯合國公使は日本の滿洲里出兵宣言に接するや之に對し協議會を開きたるが其結果米國側は浦鹽に於ける共同出兵の範圍を擴張し滿洲里方面まで及ぼさん事を主張し既に本國政府に向ひ具申せりととの報あり。(二十日、朝日)

▲支兵出發

(北京特電十八日發) 浦鹽守備支那陸軍第卅三聯隊長宋煥章氏以下步兵一大隊、憲兵廿名は彈藥十萬發を携帶し十八日午後五時出發せり。(二十日、日日)

▲北滿派遣軍藤井中將挨拶

(哈爾濱特電二十日發) 哈爾濱驛にて藤井中將左の如く挨拶せり。

我軍の到着は〇〇〇の出兵宣言に依り諸君の知らるゝ如し即ち吾々の行動は協商國の盟約と日支軍事協定に依り支那軍と共に滿洲里附近の我が在留民に危害を加へつゝあるものを一掃し東亞永遠の和平の光からしめんが爲めなることを承知ありたし而して我軍は正義人道に立ちて行動するものなれば之に反抗する者は人類の敵として容赦なく悉く撃退す可し（此時將軍聲激す）左れば在留民は勿論各國民も同様保護を與ふ可く諸君幸に意を安んぜられよ本日はブルシロフ大將以下盛大なる歡迎を受け余は之に感謝すると同時に各國が我軍の行動に同意せられたる結果（其聲莊重にして力あり）此處に余等を迎へられたるは欣快に堪へず。

と挨拶後〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇兩少將陶少將ブルシロフ大將其他約一百名を從へ四國軍隊前を擧手徐行し次で支那側主權の歡迎會室に入れり其間日本國歌君が代を吹奏し莊重なる式を終れり。（二十一日、時事 陸軍省檢閱済）

▲新疆督軍に訓電 （北京特電十九日發） 北京政府は新疆督軍楊增新氏に向ひ同省は黑龍江、吉林方面とは情勢を異にするを以て過激派及反過激派に對し領土内に於ては争はしめざる様威壓を加へよ請求の軍隊増派軍器補充は承諾せりと打電せり。（二十一日、日日）

▲支、セ兩軍不和 （二十日哈爾濱特派員發） セミョーノフ軍に屬する一義勇兵の談に據ればセミョーノフ少將以下全軍は滿洲里より約十里を距るツアガン驛附近にあるが支那軍とセ軍側の義勇兵との間極めて不和にして最近モルヨンテ驛の支那兵は横暴にも義勇兵に向つて發砲しセ軍側の支那兵一名を傷け義勇軍の抗議に達ひて該支那軍隊は解散するに至り滿洲里引揚の在留邦人は依然海拉爾にありて、日本軍の到來を千秋の思ひに待倦れつゝあり。（二十二日、朝日）

▲食料輸送禁止要求

（北京特電二十日發） 英國公使ジョルダン氏は首席公使たるの故を以て協商側を代表し昨日外交部を訪問し下の如き要求を提出せり曰く現在北滿方面より松花江を経てハバロフスク方面に輸送せらるゝ食料品はハバロフスク方面に於ける過激派の手に入るの虞あるを以て爾今支那政府は北滿より該地方への一切の食料の輸送を禁止せられたしと。（二十二日、時事）

▲過激派軍の恐怖

（哈爾濱特電二十日發） 過激派司令官は支那軍司

令官張督軍に對して東清鐵道の引渡を要求し最初二週間を限りて回答を求め次いで十三日を期し最後の談判に出でたる程にて期限満了後は滿洲里砲撃を開始す可しと威嚇せしも支那側は遷延之に應ぜず右に關して中央政府の命あるまで互に休戦す可しとて綢繆策を取りて妥協し居たるが過激派も十三日に至るも砲撃決行の舉に出でず休戦期間も八月二十七日にて完了す可く支那側は神妙に防禦のみに努め只管に衝突を避け居たり然るに今同日本軍及びチエツクの協力を知りて過激派の支那軍威嚇は寧ろ恐怖に變じ休戦期間を延期し度き旨逆に過激派より希望し來れりとの報あり。

滿洲里十九日發の所報に據れば支那側の軍事外交委員は實情觀察の爲め滿洲里に到着せり過激派司令官は該委員と何事かを談判を試み可しと。（二十三日、時事）

▲協同作戰決せず

（北京特電二十一日發） 黑龍督軍鮑貴卿氏の國防計畫案は廿日の閣議に提出されたり右は既に滿洲里に出兵せる一箇師團の外昨年黑龍江にて新募せし二箇混成旅團を國防軍に選し中央より二箇旅團を選抜して之を補充するにあり閣議は同案の主義を承認し參戰督辦處及參辦處に詳細の計畫を爲すべしと命ぜるが一方日本より協同作戰の督促ありたるに對しては支那は共同防敵の見地より軍事協定の履行を望むと雖も參戰督辦處の第二期計畫（參戰用軍隊組織）未だ完了せず之に要する經費に充つべき鹽稅剩餘基金の交付未だ銀行團の承認を得ざる爲其進行遲滞するを免れず今日直に協同作戰を爲す能はざる遺憾なる旨回答するに決したり。（二十三日、日日）

▲過軍支那に最後通牒

（北京特電二十三日發） 滿洲里方面の支那軍隊司令官の中央政府に宛たる報告に據れば某地守備の支那兵は既にセミョーノフ軍敗退の際過激派軍隊との間に今後五週間過激派軍隊及セミョーノフ軍共に露支國境を越えざるを約し支那政府は右に就き十分注意す可き旨を約せり然るに既にセミョーノフ軍及びチエツク軍は有力なる後援を得て勢力を恢復し國境を越え北逆せるを以て過激派軍隊は二十日支那軍司令官に對し最後の通牒を送り支那政府の違約を實め二十四時間内に回答せんことを要求し來れりとあり。（二十五日、時事）

▲過激派の支那恫喝

（二十四日北京特派員發） 過激派は支那がチエツク、セミョーノフ兩軍を其國境内に止まらしむるに依り支那に對し彼等を二十四時間以内に引渡すべしと最後通牒的の恫喝を爲せし旨報機相より急電

に接し支那政府は張司令官に對し「過激派にして備を侵さば武力を以て之に應じチエツク、セミヨノフ兩軍には支那國境内に於て挑戦せざるの要求を守らしめよ」と返電し且龍黑龍江督軍を促し急ぎ歸りて適當の處置を執らしむる事とせりと其結果なるか龍督軍は二十三日退京して天津にて張作霖と打合を爲し歸任の途に就けりと。(二十六日、朝日)

▲鮑貴卿歸任す (北京特電二十四日發) 北滿防備打合せの爲め上京中の黑龍江督軍鮑貴卿氏は中央政府と意見の交換を終り日本の北滿出兵の意義を全く諒解せるを以て昨日當地歸任の途に就きたり。(二十六日、時事)

▲支那出兵宣言 支那政府は浦鹽出兵に關し八月二十四日附を以て左の如き宣言を發表せり。(北京發二十五日其筋着電)

支那政府は露國と境界を接近し邦交教朴なり現在露國の亂未だ熄まず政狀混沌中欧各國は此の時機に乘じ益々壓迫を加へ其勢力漸を以て東進し西伯利多數の獨逸武裝の俘虜其間に侵入し並にチエツク、スロヴァツク軍の東進を阻止し勢力漸く盛んなり査するにチエツク、スロヴァツク軍は聯合國と其の志圖同じく休戚相關す民國政府は露國及び露國人民に對するの隣誼を重んじ該軍が壓迫を甘受し其の建國の宿志夙く償ふ能はざるを坐視し離く爰に合衆國政府の發議に基き相當軍隊を特派して浦鹽に出兵し聯合國と一致の行動を執る

前項出兵は民國政府が専ら聯合國友邦仗義の舉動に參同し露國領土及び其主權を奪取するの見地に於て國內政策に對しては絲毫も干渉を加へざる可く將來目的完成せば總ての派遣軍隊は乃ち撤收す可し特に爰に宣言す。(二十七日、時事)

▲日支兵又復衝突 (哈爾濱特電二十五日發) 滿洲里二十四日發報道に據るに土曜夜深夜(廿四日午前ならん)滿洲里村の三箇所に於て射撃ありたり并は日支兵が誤解の爲め互に發砲せるに依るものにして双方死傷者を出せりと露紙特派員は報ぜり尙ほ別報に據れば此際双方死者二名負傷者三名を出したるが其他沿線各驛に於て衝突頻發しつゝありて日支軍幹部は之が釀成を講じつゝありと。

(哈爾濱特電二十四日發) 既報の日支軍衝突は二十四日夜半の出來事にして之に關係せるは所謂セ軍の日本義勇兵なり彼等に内外の信望を盡せしことあり

りと雖も哈爾濱過激派一掃後東清守備に當れる支那兵が常に傲慢の態度を示し邦人に恥辱を加へ殊に一時セ軍と不幸の運命を共にせし我が義勇兵を輕侮すること甚しく義勇兵亦之に答へ双方の間に衝突すること屢々ありたるが我が義勇兵は支那側に壓迫せられて夜間は外出せず晝間も姿を變へて歩行せし程なりしが我が正規兵到着せし爲め蘇生したる感あり今回の衝突の原因は未だ判明せざれども之を察するに離からず其筋への報告には支那兵先づ發砲し次で邦人側之に答へ双方死傷者を出せりと日本側は驛谷兵少尉死し外數名死傷者あり右は是まで日本軍哈爾濱通過後直に起れる風説なり正規日本軍には無關係にして支那軍と日本の正規軍との仲は何等圓滿を缺き居らざるもの之の如く其報告は概して良好なり。(二十七日、時事)

▲日支兵衝突落着 (北京特電二十六日發) 滿洲里來電に曰く廿四日夜セミヨノフ部下の日本義勇兵と支那軍隊との間に衝突あり日本側は豫備中尉一名即死せる外、死傷者五名を出し支那側も重傷者を出せるが當地駐在日本武官の斡旋により無事落着きし。(二十八日、時事)

▲支那軍撤退を要求 (北京特電二十七日發) 滿洲里守備の支那兵積疊を極め既に既電の如くセミヨノフ部下の日本義勇兵と衝突するに至りたるを以てセミヨノフ將軍は正式に支那司令官に對し治安維持の必要上支那全軍隊を滿洲里より撤退せんことを要求せり。(二十九日、時事)

▲支那回答 (北京特電廿三日發) 支那政府は過激派の再度通牒に對し滿洲軍總司令張煥相に宛「兩軍の調停は五週間の休戦を約せるのみチエツク軍の支那國境通過は未だ戰闘行爲と云ふ能はざれば違約と旨ふを得ず若し過激派にして國境を侵す場合には支那軍は防禦行爲を取るの外なき旨 回答せよ」との訓令を發せり。(二十九日、日日)

外交關係

▲滿鐵使用を許諾 (北京特電十四日發) 支那政府は鐵に支那軍隊浦鹽輸送に就き南滿鐵道の使用方を我政府に請求する所ありたるが昨日午後船津一等書記官は外交部に陸總長を訪ひ左の如く帝國政府の回答を傳達せり。

帝國政府は主義に於て勿論支那の浦鹽出兵に賛成なるを以て支那政府の之

が爲めに南滿鐵道を使用するの一事を承諾す可く但し現に滿鐵にては輸送力に制限あるを以て一時に二千餘名の支那兵を輸送する能はず數回に分ち輸送するの外なし。

右に就き陸外交總長は成る可く數回に全部の輸送を爲し度き旨を希望せり。
(十六日、時事)

▲滿洲里の邦商掠奪さる 滿洲里にある邦人商店は悉く窓硝子等を破壊せられ商品、家財等の掠奪を蒙り其被害甚大なるにも拘らず支那官憲は何等の取締を行はざる趣なり尙南滿鐵道守備隊の一部は邊境防備の爲滿洲里に向け進軍を開始したるが軍隊輸送に關しては支那官憲も大に好意を表し種種便宜を與へ居れりと。(某所著電、十六日、日日)

▲使節交換中止 (北京特電十四日發) 十三日の閣議にて羅馬法王使節交換問題を協議し佛國の主張鞏固なるを以て一時交換を中止することとし此結果外交部より羅馬法王駐劄公使兼任を命ぜられたる西班牙公使戴爾霖氏に向け既に發送せし信任狀を羅馬法王廳に捧呈するなかれと常訓せり。(十六日、日日)

▲佛國反對強硬 (北京特電十五日發) 佛蘭西は依然羅馬法王駐公使交換問題に反對し千九百二年當時の外務大臣李鴻章が羅馬法王と使節交換を企て佛蘭西の抗議に會ひ今後同問題を再起せざる旨の公文を交付せる事を證據とし支那政府は佛蘭西の既得權を尊重し該計畫を全然廢棄せよと要求し強硬の態度を示せり。(十七日、日日)

▲騷擾事件の審問 (上海特電十五日發) 當地のミニュンバルカウンスルはアントン、ジャクソン、スプレグの三氏に託し先般の騷擾事件に關し事實を審問せしむることとせり其審問の件は左の如し。

- (一) 一切の證人を取調べ必要の場合には證人を再調べすること。
- (二) 必要とせば更に他の證人を喚問取調べること。
- (三) 右騷擾事件に關する居留地警察の事實報告書を承認するか必要の場合には之を改定すること。

等なり又居留地警察總長マキューエン氏の報告は査問委員の査問ある當故何等の解釋を加へず單に本件に關し工部局警察巡查なる一人の日本人及び其他の日本人一名其生命を失ひたること又本件の事の起りは誠に些細の事件より

生ぜるものにて吳淞道路の支那人時計屋にて七月十六日日本の水兵が逮捕せられ警察に護送されたるに始まり其夜同時に他の日本人二名巡查の職務執行を妨げ巡查を毆打せるを以て之を逮捕したり故に翌日日本領事、裁判所に急報せり十八日夜二人の支那巡查は日本の群衆により毆打せられ重傷を負へり十九日夜は日本人の一群支那巡查の一隊と相對抗したり彼等は其夜夜勦交換者の來るを一時回許り待受けたるものなり其結果、銃を放ち商店を破壊し前記二名の重傷者の外に多數の負傷者を出せり云々と。(十七日、時事)

▲日支海軍協定實行 (北京特電十四日發) 海軍中佐林國臣氏は東京公使館附武官に命ぜらる右は日支海軍協定實行の一端なり。(十七日、日日)

▲西藏自治運動 (北京特電十五日發) 西藏軍は四川に侵入し支那内地の混亂に乗じ外蒙古の例に倣ひ西藏の自治權を確立せんといふ、あるが其背後には英國あること疑ひなき事實なるを以て支那政府は英國公使に向ひ交渉を開始したり英國は一面西藏に對する大野心を有するも此際支那政府の感情を害する事を好まず兎角遷延主義を取り居れり。(十七日、日日)

▲支那の反省を促す (北京特電十五日發) 日英露佛四國銀行團は金券條令の公布に就き左の如き遺憾の意を述べて支那政府に對し其反省を促せり誠に支那政府は四國銀行團に對し幣制借款の申込を爲したる際銀行團は右は主眼に於て賛成なれども兎に角支那の成案を示さんことを希望せり支那政府は之に對し何等同答を爲さず今同突然銀行團に沒交渉にて幣制改革の第一歩として金券條令を公布するに至れるものにして銀行團にては支那政府の誠意の程を疑はざるを得ず。(十八日、時事)

▲金券發行不贊成 (上海特電十七日發) 銀行團は金券條例に不贊成の爲め倫敦本部の意見を求めたりと云ふ。(十九日、時事)

▲金券條令に抗議 (上海特電十七日發) 北京各國銀行團は正式に金券條令に對し抗議を提出せりと。(十九日、時事)

▲萬縣開市を要求 (上海特電十七日發) 各國公使團は四川省萬縣を開きて商埠と爲すを要求せりと。(十九日、時事)

▲羅馬法王の對支使節 (十四日倫敦特派員發) 羅馬來電に羅馬法王は支那に派遣すべき使命を當分單に宗教上の代表者としマシオ(外交的性質を有する使節)を送らざるに決せり尤も他日佛國臣民たる一管長を右使節に

任命すべきが道は法王が支那と外交關係を樹立するは中欧諸國の利益を圖らんが爲なりとの風説を否認せんが爲なり。(十九日、朝日)

▲南方承認問題 (北京特電十九日發) 北京來電「外交團の南方承認問題に對する態度は本國政府の訓令を待ちつつあり但西南各省は實際上能く統一せられ條約違反の行爲なくば是を承認するに至るべし。(二十日、日)」

▲印度兵天山南路に向ふ (上海特電二十日發) 新疆督軍楊增新氏の報告によれば印度兵武裝して天山南路及び喀什葛爾地方に到るもの、數を増し其數八百名に上れり右は印度總督の命によりて獨逸軍の印度に入るを防ぐ爲なり云々。(二十一日、時事)

▲軍政府を承認せん (北京特電二十一日發) 米國公使館は廣東軍政府の關係者中に米國留學生出身者多數あるを以て此機に乘じて廣東軍政府を承認せんとする意思あり先づ廣東と地理的關係深き英國公使に向ひ其意圖を探りつゝあり。(二十三日、日)

▲諸言取締要求 (北京特電二十日發) 林公使は支那に對し新聞紙中には日本の滿洲里出兵に關し日支兩國政府に誤解あるが如く報ずるものあり同時に之に關聯し謠言を官觸らすものあるを以て禁止せられたしとして嚴重なる報告を與へたり。(二十三日、日)

▲我守備兵を傷く (二十三日長春特派員發) 二十三日午前八時寬城子驛に於て北行中の支那兵は其接待の任務に當る滿鐵驛員と事を構へて爭論を起し暴行せんとせる爲め監視の我守備兵仲藏に入りしも反つて多數の支那兵は着剣武裝し且機關銃を裝填して包圍し我兵に重傷を負はせたるを以て官憲驅付け其支那兵の發送を引留め領事嚴重交渉中にて負傷兵は病院に收容したるも一時殺氣に満ちたり。(二十五日、朝日)

▲不法支那巡警取締 (二十二日安東縣特派員發) 二十一日午後三時若口溝駐在の支那巡警五名武裝して安奉鐵道五龍背驛附近の我警察管内に居住せる支那人を暗捕犯人なりと稱し逮捕に向ひ將に引致せんとせるより同地駐在の或警官其不法を責めたるも飽く迄無法なる彼等は銃器に裝填して發砲し兼ねまじき氣勢を示せる爲め已むなく守備隊の應援を求め遂に五名とも取押へ當地に押送し來れるが支那官憲より引渡方交渉ありたるも之を拒絶し目下取調中なり。(二十五日、朝日)

▲敵人通信容易 (二十二日北京特派員發) 在支那敵國人の其本國との通信は露國內の秩序紊亂の爲從前に比し容易に行はれ彼等は支那人又は露國人の名義にて西伯利某地に送り獨人之を取次ぎ其本國に送る手筈となり居れりと。(二十五日、朝日)

▲寬城子暴行事件落着 (長春特電二十四日發) 既報の寬城子驛支那兵暴行事件に就き其筋の調査に依れば二十二日朝北京より同驛に着せる浦鹽派遣支那兵三十名同驛の日本軍隊湯飲場に來り茶を請求せる際多少の行違ひより支那兵は怒つて滿鐵驛員野津山崎の二名を亂打し且つ器具を打壞し負傷せしめたる爲め我守備兵佐久間三橋の二名は制止せんとするや支那將校は喇叭を吹きて數百の兵を集め拔劍し機關銃六門を以て之を包圍攻撃し我兵二名とも重傷打撲傷を負ひ益々暴威を逞うせんとするを以て驛員は漸く血路を開きて避難せり助役は警長を促して制止に努めたる結果負傷者を病院に收容し我官憲出張調査すると共に山内領事は支那側鎮守使代理及道尹等と寬城子に於て嚴重に交渉し尙ほ軍隊司令官其他の武官及滿鐵驛長等と協議の結果左記の條件の下に圓滿に解決せり。

- 一、暴行責任者を嚴罰に處す
- 二、道尹は將來斯ることなきを保證すること
- 三、敵對行爲に對して相當の方法にて謝罪すること
- 四、被害者に對して相當の見舞ふること

右の中停車場司令官に對する謝罪は二十三日即時實行し且つ第九師團驛長は謝罪公文を提出せり而して解決後支那軍隊は昨夜出發す。(二十六日、時事)

▲支那の誣言に警告 (北京特電二十四日發) 支那新聞紙は日本の北滿出兵に關し日本は露支國境が危急なるが如く云ひ振らし故意に日支共同出兵の機會を作らんとするものなりと攻撃し居れるを以て船津書記官は此種支那當局を訪問し改めて露支國境に於ける現狀に就き委曲説明し支那當局に於て是等新聞紙を取締らんことを警告せり。(二十六日、時事)

▲支那人の暴行

(二十五日長春特派員發) 二十四日午前十時伊通縣沙河子炭坑に於て數百名の支那坑夫は十餘名の邦人を包圍し暴行を加へ、殺せんとしつゝありしが急報に依り將校以下三十名及び警官數名救助の爲同地に急行せり。(二十六日、朝日)

▲日本に惡聲を放つ

(漢口特電二十五日發) 日本留學支那學生救國團は滿洲里出兵につき激文を發し例の如く惡聲を放ち各國の怒りに乗じ共同出兵協約の取消しを宣言す可し尙ほ聽かれざれば列國の裁斷を仰ぐ可しと云ひ日本を呼んで夷と云へり。(二十六日、時事)

▲金券問題と警告

(北京特電二十七日發) 金券、陳令は四國銀行團に何等協議せずして公布せしに就き銀行團は過日支那政府に警告する處ありたるが英國公使ジョルダン氏は更に日英露佛四國公使團よりも正式に支那政府に對し同様の警告を與ふ可きを交渉し露佛兩國公使は何れも之に賛同せしが日本の意圖不明なるを以て未だ公使團の名を以て警告を提出するに至らず。(二十九日、時事)

▲蒙古王公歸順

(北京特電二十七日發) 庫倫辦事長官陳毅氏よりの報告によれば烏梁海(外蒙古の西北)の王公は露國の内亂に乗じ露國との關係を絶ち北京政府に歸順し舊の如く入貢すべしと申込みりと。(二十九日、日日)

▲寬城子衝突顛末

(長春特電二十七日發) 既報の如く二十六日夜七時寬城子驛に於ける支那兵威嚇事件は最初同驛にて渡河材料の積込み監視中の北京第九師團兵が附近にて休憩し居たる我軍需品輸送の任務にある我守備隊二等卒古川幸次郎に對して立退を命ぜるも古川は意に止めず笑ひつゝ支那兵の顔を撫でたるに彼等三名は怒りて古川を包圍し威嚇的行爲を爲したる折柄監督の兒島准尉來りて取鎮むる際支那監督者吳某が開付け直に其支那兵を見島准尉の前に整列せしめ警戒の爲めに投付けて罪罪し且つ内濟を哀願せざるも兒島准尉は過日暴行事件の際支那側より我官憲に警ひたる關係もあれば兵站司令官須賀中佐に報告し司令部及び警察より現場に出張し取調べんとせるも支那兵等逃走後なりしを以て交港局長及び監督者に嚴重交渉の上領事に通報し湯道尹は領事の照會に依り領事館に來り事情を開陳し調査の結果些細の事なるを以て司令官協議の上道尹は二十七日須賀司令官に對し公式に謝意を表する事とし解決したるが暴舉頻出の爲め一般邦人の憤慨甚だし。(二十九

日、時事)

▲衝突事件解決條件

(哈爾濱特電二十七日發) 滿洲里及び東清沿線に於ける日支兵衝突事件は左の條件に依りて解決せられたり

- (一) 支那側は被害邦人の遺族に對して弔慰金一萬圓を出すこと
- (二) 加害支那兵を嚴重に懲罰す可きこと
- (三) 當該支那兵官謝罪引責のこと
- (四) 支那側守備兵を日本軍と交代せしむ可きこと。(二十九日、時事)

▲參戰軍の編制

(北京特電二十八日發) 參戰督辦處は遲延ながら參戰軍隊の編制に着手し既に訓練所將校下士教導團を新設し中將丁錦氏を訓練所長に任命せり。(三十日、日日)

▲借款反對下火

(吉林特電二十八日發) 森林借款反對暴動起れる當時孟督軍は臨時戒嚴令を布き軍警を配置し萬一を警戒し特に日支兩國の銀行會社等へは數名の護衛を附せるが反對運動も漸次下火となり暗殺團等も自然消滅の形となりたるより今同臨時戒嚴令を撤回したり。(三十日、日日)

南北情勢

▲馮總統の通電要領

(十三日北京特派員發) 馮總統は十三日各省督軍省長都統護軍使鎮守使師長旅長に宛て通電を發せり其要領左の如し
國章民國に服務する事茲に七歲此間變亂ありしに飽く迄艱難を嘗む昨午國基勳播せるも幸ひにして總理と各督軍との盡力に依り共和を恢復したり其時黎總統辭讓する事再三元首の職權附託する所なく約法に依り各方面より促されて己むを得ずして總統代行の職に就けり然も約法の精神たる民國の統一と平和とを顧念し根本精神の貫徹を期して一毫の私心なく法に背かざらん事を期せるのみ今や代理の職に就てより一年を越え所謂統一と平和とを求めて然も尙未だ把握する所無し其責任者は即ち國璋一人なり國璋は自かの約法の精神を認めて誤り無しと雖も誠以て人を動かすに足らず信以て衆を服するに足らず將士を外に洒し萬民塗炭に苦む、賢能の官僚と忠良なる同胞ありと雖も然も國璋一人を以て之を顧すに足らず天下に自白するも

のは自知の明白責の念切にして速かに高位を避けて能者を僱入のみ今や在職の期満ちんとして國會の會議目前にあり莫くは國會議員各其心の主張に基き總府兼備統一を遂げ平和を復するの能を公舉し以て約法の精神に副ふを期せよ新く國水與く隱禍消ゆべし國璋日夜國の爲めに福を祈り民の爲めに憂を請ひ自ら一年來の罪狀を悔ひ若し國璋に選舉を争ふの意ありと疑ふものあれば局外の流言なり國璋の野に在りと雖も苟くも統一平和の目的を達し國民の義務を盡すべきものあらば敢て辭せざるなり。(十六日、朝日)

▲總統府全員に訓示 (北京特電十四日發) 馮國璋氏は辭意の通電を發すると共に總統府全員を集め訓示して曰く余は武人の故を以て國家主義の職務に盡瘁す自ら顧みて甚だ謀るに超えたるを覺ゆ今將に暫く事を治めて休憩せんとす只須らく國家存存すれば吾人尙ほ國民としての義務を盡すの機會ある可し望むらくは諸君に於ても其意を體し人と争ふ無く寧ろ得失の偏見を抱く無からんことを尙ほ馮國璋氏は國會開會の翌日を以て右の如き態度に出でたるは自己の總統再任が新國會に於て絶望となれる今日南方諸省より新國會の要望者なりと見られんことを憂へ今後南北爭鬭の上に超然たる爲めに外ならずして悉く馮氏の中心望む處は斯くて南方國會の馮總統就任を容易ならしめんとするにある可く一般は此通電を以て段派彈劾と見做し居れり。

(十六日、時事)

▲白狼匪殘徒の掠奪 (十二日漢口特派員發) 湖北省北部の襄陽地方一帶には白狼の殘部數千陝西又は河南援鄂の旗幟を立て掠奪を逞うし居り襄陽鎮守使は討伐隊を派するも匪徒は隱見出沒して剿滅する能はず。(十六日、朝日)

▲軍需處案否決 (北京特電十四日發) 海軍部の提案に係る海軍々需處設置の件は十三日の閣議にて財政上の都合により否決せられたり同軍需處は日支海軍協定によつて設けられたる自發的のものにして日本とは何等利害關係なし。(十六日、日日)

▲廣東討伐説明書打電 (十五日北京特派員發) 北京政府は十四日廣東討伐の必要、經略使及び援粵總司令の權限、軍器糧食の購入及び各省の廣東討伐計畫に助力すべき事等を説明せる長文の電報を發せり。(十七日、朝日)

▲廣東聯合軍福建に勝つ (十四日北京特派員發) 廣東廣西雲南の聯合軍は三路に分れて福建を攻め福建軍は一旦恢復したる長江を再び失ひ上杭永定亦陷落せり。(十七日、朝日)

▲新國會は違法 (上海特電十五日發) 各省々議會代表者は天津黎元洪總統、北京馮國璋總統、各省督軍、省長、商會、教育會、名新聞社、各團體に對し廣東國會は正式に國民代表の國會にして既に法に依り召集開會され居れり北京に於ける非法選舉の國會は國民の認め得ざるものなり云々と打電し且又別に北京馮代理總統及國務院に對し金紙幣發行借款に關し金融の權を隣國に委ねんとする者なるのみならず幣制改革の事未だ國會の議決を得ず是違法にして利を營むものなり故に全國人民は其金紙幣を有効なりと認むる能はずと爲す事に關し彼等は各商會に對し金紙幣發行するも之を融通すべからずと勸告せり。(十六日、日日)

▲研究會の政綱 (北京特電十五日發) 研究會は十四日同會新選の議員歡迎會を開きたるが席上新議員黃群氏は同會は新國會に於て絕對少數なるも政綱としては民國の統一と平和を主張し總統には統一平和を實現するに足る人物を舉げ議長は自由投票を許す旨宣言し且總統候補者及各政黨は政見を發表し文明的に行動せん事を希望せり。(十七日、日日)

▲王占元政府に詰問 (十五日漢口特派員發) 湖北督軍王占元は十四日北京政府に對し中央の西南討伐續行に決せるより湖南大に其影響を受け湖南宜昌陽襄陽の戰機緊迫し居れり然るに中央は其後何等の施設を續行せず畢竟するに西南討伐は實施せられざるや否やを詰問せり。(十八日、朝日)

▲妥協の外策なし (漢口特電十六日發) 吳佩孚馮玉祥兩氏は最近王督電に打電して曰く天津會議は南伐繼續を議定せし由なるが余等は實驗上武力の頼む可からざるを知れり統一を計るには妥協の外策なし閣下より切に此意味の建議を爲すを望む。(十八日、時事)

▲奉天軍移駐 (上海特電十七日發) 湖南督軍張敬堯氏は十四日報告して曰く湖南東部にある奉天軍は北京に移駐すべき命令に接し一旅團は十四日汽船にて漢口に向ひ又一聯隊は汽車にて武昌に向ひたりと。(十八日、日日)

▲徐世昌時局收拾方針 (十六日上海特派員發) 徐世昌は人に語りて曰く時局を收拾するには開誠布告の四字を斷行せば困難にあらず若し手をして強ひて全權を有せしめば先づ南北の争を止めしめ統一を計るを前提とすと

(十九日、朝日)

▲張懷芝の肚裏

(十七日漢口特派員發) 張懷芝は十四日湖北王督軍に打電して曰く「援粵軍事は天津會議に於て決定せるも曹錕南下せずは總司令として職權を履行する能はず再び武昌に歸るを欲せざるも中央強ひて催促せば再び來漢して病を養はんのみ」と。(十九日、朝日)

▲張敬堯北軍攻勢電請

(十七日北京特派員發) 湖南督軍張敬堯は北京政府に急電を發し湖南東南部の北軍既に我部隊にあらず軍事進行上不利此上なし早く曹錕張懷芝をして直隸山東兩軍に令し守勢を變じ攻勢に出て再び喉要の地を隔らしむる勿れと要請せり。(十九日、朝日)

▲王占元時局對策

(十七日漢口特派員發) 湖北督軍王占元は十四日其從弟の陸軍部員より正副總統選舉に關し張作霖曹錕の兩人が武力競爭の準備を爲し居れる旨の報告に接し幕僚と會議の結果張曹兩者に打電し大議を説き意思疎通を圖ると共に若し騷動發生せば江蘇、江西兩督軍と一致行動を取り長江流域を戰禍に陥らしめざる事を決定せり。(十九日、朝日)

▲湖南の北軍危急

(上海特電十八日發) 馮玉祥氏は曹錕氏に打電して曰く湖南省西部の南軍漸く勢力を加へ貴州軍盧溝の部下は東平を繼繼の部軍は黃土店を占領せり然るに桃源の軍隊は兵力劣弱頗る危急なりと又張宗昌氏も湖南の形勢急なる訴へたりと。(十九日、時事)

▲廣東議案不成立

(上海特電十七日發) 廣東國會にては十三日委員會に於て『國會は總統問題及び憲法のみを議す可し』との案は成立せざりき又軍政府として承諾せしむ可しとの説も時期尚ほ早しとして削除せられ民黨議員は更に奔走す可く活氣を示し居れり。(十九日、時事)

▲福建省境南軍優勢

(十七日北京特派員發) 廈門來電に福建省境の南北兩軍は七月以來對峙の姿なりしが南軍は國者次第に勢力を恢復し既に大埔永定を奪回し最近南靖縣に侵入しつゝありて北軍の死傷頗る多しと。(十九日、朝日)

▲北軍巴東縣維持

(十六日漢口特派員發) 湖北省巴東縣は南軍の攻撃に依り危險に瀕せし援軍來若せし爲め北軍之を維持するを得たり。(十九日、朝日)

▲段氏新員に演說

(北京特電十九日發) 國務總理段祺瑞氏は昨日陸

軍總長段芝資氏、安徽俱樂部領袖王梅唐氏等安徽派有力者と共に安徽省選出新國會議員の全部及び江蘇省、浙江省並に中央選出議員中の有力者總計四十六名を國務院に招待せり席上段總理は演說して曰く會て安徽省出身の先覺者たる李鴻章は北京に於て専ら人材採用に努めたるが余も亦其知遇を受けたる一人なり然るに今や國家多事、人材を要すること當年に比し更に大なり余は諸君が時勢に鑑み中國の爲めに謀し以て我安徽省の光輝を増さんことを切望す云々。(二十日、時事)

▲徐氏推戴勸告

(北京特電十八日發) 馮總統は徐世昌氏に對し大總統に就任し國民を水火より救はんことを希望し自分は如何なる職にも就かず徐氏と南方との意思疎通に當るべしと申込み一方廣東軍行嚴氏に對し南方政府も同じく徐世昌氏を總統に戴き統一を助くる様勸告せよと打電せり。(二十日、日日)

▲胡軍西安に迫らん

(漢口特電十八日發) 北路司令胡景翼氏の兵は目下藍田を包圍し直に西安に迫らん。(二十日、時事)

▲湖南南軍勢力増大

(十八日上海特派員發) 馮國祥氏は曹錕氏に宛て打電して曰く湖南省西部の南軍漸く勢力を増し貴州軍盧溝の部下は東平を、張錕の部下は黃土店を占領せり然るに桃源の軍隊は兵力薄弱頗る危急なりと又張宗昌氏も湖南東部の危急を訴へたり。(二十日、朝日)

▲水雷艇辰字號福建行

(南京特電十八日發) 水雷艇辰字號は海軍總司令藍建樞氏の命を奉じて昨日當地を發し北軍壓後の爲め福建に向へり。(二十日、時事)

▲孫文廣東に來らず

(上海特電十八日發) 孫文氏は廣東國會議員に宛て其の廣東に來る能はざるを告げたり。(二十日、時事)

▲廣東國會議員數

(上海特電十八日發) 廣東國會參議院議員百四十九名衆議院議員三百四十名に達せり。(二十日、時事)

▲三督軍復た停戰を求む

(十八日上海特派員發) 楊子江方面三督軍は復參陸辦公處に對し停戰を求め兵を止むるの外何等爲す能はずと云へり又奉天軍總司令たる孫烈臣も内争を止め外侮を防ぐべしとの意見を總統及び國務院に提出したりと云ふ。(二十一日、朝日)

▲張敬堯援兵電請

(二十日北京特派員發) 湖南督軍張敬堯は南軍第

既に一議員より議案を提出せりと。(二十五日、朝日)

▲湖北督軍吳佩孚慰諭 (二十一日漢口特派員發) 湖北王督軍は數日前援粵副司令吳佩孚より「前敵の實狀は戦ひに連せざるを以て本月十五日より一箇月停戦を契約せり今屢和議を中央に促すも効果なく却て進軍を促令せらるゝこと頗々なり今は唯軍を率ゐて北歸し軍を中央に請はんのみ」との來電あり之に對し北軍の撤去は時局に大に影響す依然現狀を守るべし戰ふ能はざるの苦衷は占元之を諒とす誓つて中央に罪を請ふが如き事ならしむべしと返電せり。(二十五日、朝日)

辭職せしめ楊徐兩人は此竹篋返しに孫の軍費費消を張督軍に彈劾して盛んに内訌を煽り孫は遂に辭職の餘儀なきに至りし由なるが奉天文武官は楊の免職孫の辭職を以て張督軍自ら其手足を斷つものとして人心漸く離れんとする傾向あり。(二十六日、朝日)

▲前敵各軍戰意なし (二十二日上海特派員發) 吳佩孚、王正雅、馮玉祥は前敵軍人と共に李純に對し前敵各軍戰ふの意なし和議に就き繼續主張せんことを請へり。(二十五日、朝日)

▲龍軍新兵力約二千 (二十二日廣東特派員發) 海南島よりの報道に據れば龍清光の本天其他にて募集せる新兵其他は着々到着し其兵力は約二千に達せり同軍は近く雷州署間の爲め進軍すべしと。(二十五日、朝日)

▲福建北軍敗退 (北京特電二十三日發) 廈門來電「福建省に於ける北軍の敗北は事實にして前敵より退却せる混成第十旅團長唐國漢氏は廈門に歸り督軍李厚基氏に敗戦の罪を乞へり李督軍は大勢を挽回する爲漳州に出發せるが當地方の人民は官憲が敗戦を秘密に付せるを憤慨せり。(二十五日、日)

▲南軍新稅賦課 (漢口特電二十二日發) 最近の確實なる調査によると宜昌は上流に於ては南軍は培石、北軍は楠木園を守り數月以來互に進まず事實上の發展なく南軍は糧食に窮し支那船に對し上りは巫山、下りは歸州にて船の大小により八十元より百八十元迄の新稅を課することになりしより我が重慶領事は之に對し交渉中な爲め兩軍は今や全く戦ひに倦み居れり。(二十五日、日)

▲岑氏軍政府總裁就任 (二十四日廣東特派員發) 岑春煊は二十三日軍政府總裁首席に就任し參謀總長代理として方聲濤就任せり又胡謙は第一部長、周應時は第二部長、毛執花は第三部長となり郭松年、趙頌雲は夫大陸海副官に任命されたり。(二十五日、朝日)

▲孫烈臣師長辭職 (二十四日奉天特派員發) 奉天軍第二十七師長孫烈臣氏は數日前天津に於て辭職を申出で張督軍は即時之を許可せり孫は遂に奉天軍副司令徐樹錚、參謀長楊宇霆の軍費々消と獨斷專兵とな彈劾して楊を

停戰命令を請ふ (上海特電二十五日發) 援鄂副司令吳佩孚及湘南鎮守使張振廷、總指揮官張宗昌、副司令陳德修、混成第十六旅團長馮玉祥、直隸第二混成旅團長閻相章、第三混成旅團長蕭耀陽、同第六旅團長張福來、山東第一旅團長潘鴻鈞、同第二旅團長張克瑛氏等十五名は二十一日北京政府其他に打電して曰く

八月十二日の大總統の通電を讀み我元首が約法の精神を尊重し平和を堅持して統一に努力するに感佩せざる者なし我等職を奉じて時局に對し救ふに法なく心に疚しき所多し唯軍人なる故少しも國を保ち民を守る天職を忘れず遡りて惟ふに法律問題より内争を惹起したる以來全國紛擾すること一年を過ぎ分崩の端緒を生ずる目前にあり國利民福焉ぞ存せんや我等憂苦に堪へざる所あり況や近來外交上に緊急問題多く危險の現象絶えず是に内争の結果ならざるなし我等略使曹錕偕て漢口にあるの日屬々電報にて平和の意見を述べたるが江西江蘇、湖北の三督軍亦其主義に對し同情を表せり我等愚昧にして法律の知識なきも唯總統は約法に於て講和宣戰の特權ありと聞く然らば對立政策上和を講ずるも之を非法といふべからず仍つて茲に大總統に對し約法の精神に準據し全國に對し戦を止むるの命令を出し南北の軍隊をして尙餘力あらしめ以て一致して外に對し力を用ゐるに至らしめん事を請ふ總統の任期満了せんとするに際し肩を休むる事なく飽く生靈を塗炭の苦より救ひ共に平和に力を致さんことを希望す若しそれ選舉問題に至りては之が爲南北に分れ既に統一の精神なく此兵禍尙熾ざるの時遽に選舉を行はゞ實に法理に合はざるのみならず恐らく民國の分裂を促すに至るべく茲に命を待つ處なり。(二十七日、日)

▲曹錕保定に移る (上海特電二十四日發) 曹錕氏は二十四日朝十時衛兵七百を率の天津より保定に移れり。(二十七日、時事)

▲憲法會議 (上海特電廿六日發) 廣東來電「廣東に於ては目下參議院議員百五十五名衆議院議員三百四十三名にして憲法制定會議の法定數に至ら

さること参議院は廿九名衆議院は四十一名なりされば其法定數に達するまでは國會は憲法會議談話會として開くべく廿七日憲法會議談話會の一會を開くべく法定數に達したる上は直に憲法を制定し大統領選舉會を組織する筈なりと吳景濂氏は語れり。(二十八日、日)

▲國防の危急を説く (漢口特電二十六日發) 黑龍江督軍は二十日北京より王督軍に長電を送り國防の危急に鑑み内亂を止むるの必要を説き王氏の盡力を求め段總理も目下決して主戦に執着し居らざるを傳へたり王氏は協議の爲め南昌南京に孫傳芳氏を派遣せり。(二十八日、時事)

▲吳氏討伐難を説く (北京特電二十六日發) 四川攻撃の北軍司令官吳光新氏は討伐實行の可否に就き中央政府と意見交換の爲め戦線を後として北上し二十三日沙市通過、二十四日漢口に到着、二十五日漢口發本日入京せるが吳氏は語れて曰く現に四川長江上流に於ては南北兩軍間には毫も戦争なく全然停戦の狀態にあり北軍前敵將士既に戰意なきを以て討伐實行は餘程困難なりと。(二十八日、時事)

▲曹氏の日和見 (北京特電二十五日發) 二十五日午前保定に到着せし曹錕氏は同地にて軍備を整へ漢口に赴く由揚言し居るも氏は天津にて機作衆、鮑貴卿氏等より南下を強ひられ止むを得ず保定に移りしものにて南下の決心なしと傳へられ恰も日和見の態度を取り副總統問題の歸趨を窺ひ居れり氏は其部下吳佩孚氏等の平和を主張せる電報に對し北京政府の痛く憤怒せるを知り右電報は吳等が馮總統辭職の電報を誤解し且南方の間者が昨年の王汝賢范國璋の覆轍を繰返さしめ北方を失敗せしめんとする策に欺かれたるものなれば重大視するを要せず若し南方にして真に國を憂ひ平和を欲せば先づ其獨立を取消し中央政府の命に服従せよ其他に方法なしとの電報を送り且吳佩孚等にも右誤解を解くやうに打電せりと附言せり。(二十八日、日)

▲秘密電報檢閱 (北京特電二十六日發) 段内閣は總統府と各方面との間に秘密電報を往復し時局を攪亂する形跡あるを認め交通部に對し總統府發着電報を十分檢閲すべしと密命せり。(二十八日、日)

▲參謀長任命さむ (北京特電二十六日發) 徐樹錚氏は參戰督辦處參謀員に新任されたり。(二十八日、日)

▲吉林軍備擴張 (吉林特電二十五日發) 吉林督軍孟恩遠、省長郭宗

熙氏等は連名にて吉林各團體聯合軍に對し吉林全省の地租増徴を行ひ其收入を以て現在の保衛團を混成旅團に改編するの可否に就き速に回答せよとの公文を送れり孟督軍は斯くして軍備擴張を爲し益々自己の勢力を扶植せんとしつつあり。(二十八日、日)

▲總統選舉期日 (北京特電二十七日發) 二十七日衆議院は速に總統選舉すべく議案を一括して討論せしが研究會議員黃群氏は時局の危機を説き總統選舉を後にして南北調和を前にすべしと述ぶるや克布克圖、程滿清、烏澤聲氏等交々起つて之に反對し劉恩格氏の調停により遂に衆議院に移應し一週間内に兩院聯合會を開き總統選舉期日を決定することに決せり。(二十九日、日)

▲總統選舉促進 (北京特電二十八日發) 二十七日衆議院議員王伊文氏は既に来京せる衆議院議員三百名、參議院議員百十二名と共に三分の二以上の法定數に達せるを以て速に大統領選舉會を開くべしとの建議を提出し黃雲鵬氏李繼樹氏等も同一の議案を提出せる爲二十七日衆議院例會は之に就き討論せり尙奉天、河南、陝西、黑龍江、吉林五督軍よりも政府に對し速に總統選舉を行ひ時局を安定せよと電請せり右は吳佩孚氏等が總統選舉前に南北和議を爲すべしと主張せるに對抗する爲なり。(二十九日、日)

▲大同俱樂部成る (上海特電二十七日發) 馮國璋王克敏の兩氏大同俱樂部を組織し安福俱樂部より脱離の分子を吸收し居れり安福俱樂部は既に形勢變に總統選舉に多數を占め能はざるを認め居れり。(二十九日、時事)

▲安福派の結束策 (北京特電廿七日發) 安福俱樂部は二十六日觀覽會を開き周自齊氏を座長とし梁士詒、王揖唐、曹汝霖、陸宗輿氏等首領株の演説あり右は各省議員代表者選出に對する部内の不平を和げ總統選舉に對し歩調を一にする爲に催されたるものなり。(二十九日、日)

▲廣東議會の討議 (上海特電二十七日發) 二十五日の廣東衆議院は國會開會期限を討論せり今同の國會を先づ次國會の臨時會議と爲すこととし又衆議院に此事を報告することとし次いで議員の年限を議し次期議員の改選後召集期一日迄を議員の任期とすと決せり。(二十九日、時事)

▲議員法定數に不足 (上海特電二十七日發) 目下廣東に在る衆議院議員百五十名衆議院議員三百四十三名にして憲法會議法定數今議員の三分

の二に不足數參議院議員二十九名衆議院議員四十一名なり。(二十九日、時事)
▲廣東政府任命 (上海特電二十七日發) 廣東軍政府は伍朝樞氏を外
交次長に黎吉氏を内務次長に鄧鏗氏を海軍次長に林虎氏を參謀次長に任命せ
り。(二十九日、時事)

▲國務院主戰鼓吹 (北京特電二十七日發) 吳佩孚氏等の主和電報によ
り戰線の將士を失ふ虞ある爲國務院は各省警察廳に對し「馮總統曾て停戰命
令を出せるも無効に了れり即ち一方面のみの停戰にては平和を招く事能はず
政府は漢武を事とせず時機到らば輿論に従ひ統一を圖るべきも尙現在主戰方
針を維持する必要ありとて各督軍の意見を徴する旨打電せるが倪嗣冲氏は
政府の主旨に賛成し吳佩孚氏に向ひ「國務院の電報を敷衍し先八月上旬天津
にて曹錕、張作霖兩督軍と會見したる席上國基盤からす人心安んぜず外交困
難財政瀕瀕の原因は全く南方が中央政府に服従せざるが爲めなり統一を圖り
滅亡を救ふには空言を以てすべからず武力に訴へて平和を促進するに一致せ
り現に曹錕は二十四日保定に赴き南下せんとす和を言ふ勿れ」と覆答せり又
張敬堯氏も吳佩孚氏と同一意見なりと傳へらる又政府は馮玉祥、張宗昌氏等
の意見を問ひしに馮氏は中央政府に服従すべしと述べ張氏は張南を平げ大局
を繋ぐべしと返電せりと。(二十九日、日日)

▲張督軍要求三箇條 (二十七日奉天特派員發) 奉天張督軍は二十七
日天津より歸奉せり東三省巡閱使問題は張督軍より左の要求を提出し政府は
考慮中にて行轅み居れりと。

(一)國防總司令を設けず東三省巡閱使の名義を以て其任に當る事(二)巡閱
使は三省の司法外交軍事財政を監督する事(三)奉天督軍は巡閱使より兼任
し或は張作霖個人の推薦に依る事。(二十九日、朝日)

▲北軍南軍に投ず (二十七日北京特派員發) 汕頭南方司令の報に據
れば饒平方面に在りし北軍童保喧の部下歩兵一團と機關銃隊一隊は二十四日
南軍に投ぜり童保喧も南軍に通ずるに至るべしと。(二十九日、朝日)

▲秘密機關發かる (長沙特電二十八日發) 湘潭朱州等にて西南軍の
秘密機關部發見せられたり。(三十日、日日)

▲陳炯明軍占領 (上海特電二十八日發) 陳炯明軍は二十三日福建省
平和縣を占領す。(三十日、日日)

▲段總理議員交歡 (北京特電二十八日發) 段總理は本日午後一時參、
衆兩院議員三百餘名を國務院に招待し盛宴を張りたるが席上段氏は演説して
曰く「久しく中絶せる憲法機關が今再び組織せらるゝは慶賀す可きことなり
諸子が遠路上海して憲法の實に任ずるは感謝に堪へざる處にして余は諸子が
總統選舉に當りては最も適任者を選び憲法制定に就いては民國の國情に最も
適する根本法を案出せんことを期待す」と之に對し梁士詒氏は兩院議員を代
表して總統選舉準備は着々進行し居れり近く兩院議員より成れる總統選舉會
を組織し慎重に總統選舉を舉行する筈にて近々憲法會議を組織し之が制定に
着手する筈なり云々との答辭を述べたり。(三十一日、時事)

▲省議會聯合會通電 (二十九日上海特派員發) 在上海各省省議會聯
合會は江蘇江西湖北三省督軍及び吳佩孚氏に對し其主和の主張に賛成の意を表し
且又其主張を何處迄も貫徹せんことを求め一面各省最高機關に通電し代表者
を出さしめ和平會議を組織し其地點を定め和議を進行せしめ一切の問題を法
の規定に依り解決し以て憲法政治の基礎を立て内争を止めしめたとの意を
致せり。(三十一日、朝日)

▲三省會議混亂 (北京特電二十九日發) 過般來重慶に開會中なる雲
南、四川、貴州三省々議會聯合會は唐繼堯氏の操縱する所にして黃復生氏を
省長となし軍民分治を主張し熊克武氏の勢力を奪はんとし爲に熊氏は北京政
府に欺を通じ總司令の名を以て軍民兩權を掌握せんとし貴州軍の師團長王文
化氏は甘萬國の軍費を請求して容れられざるを憤り貴州に歸らんとしつゝあ
る等頗る混沌たる狀態を呈し居れり。(三十一日、日日)

▲王督軍復辟謠言取締 (二十八日漢口特派員發) 王督軍は近來復辟
の謠言流布され居るより湖北の文武官に其取締方を命ずると共に中央に向つ
て至急總統選舉期を宣明し謠言を杜絶せんことを要求し尙國會既に開會し議
長既に法に依り選出せり總統選舉目録の間に在り豈に復辟を企て張勳の轍を
覆む者あらんや云々と聲明せり。(三十一日、朝日)

▲吳佩孚主和通電頻發 (二十九日北京特派員發) 吳佩孚は最近主和
勸告の通電を發せし以來明確き同意味にて更に激烈なる通電を三回に亘りて
發し北京政府は愈々狼の色見ゆ。(三十一日、朝日)

▲北軍民船に課税 (二十九日北京特派員發) 宜昌上流の北軍は軍資

缺乏の爲め孤山の上流に關門を設け上下する民船に對し一艘に就き百六十元より八十元迄を課税し之が爲留せらるゝ民船多數ありと。(三十一日、朝日)

▲福建の南軍占領地點 (二十九日上海特派員發) 福建に於ける南軍占領地點は十九縣に亘り武平、上杭、長汀、寧化、政和、永安、寧洋、永定、清流、連城、漳平、龍巖、太田、德化、永春、安溪、仙游、尤溪、平和の諸縣なりと又湖南方面にては前敵左右能く攻撃を開始し既に寶慶攸縣を占領せりと之の報あり。(三十一日、朝日)

財政關係

▲借款反對委員歸る (長春特電十七日發) 吉林森林借款反對運動委員等は北京にて拒絕せられ何等爲す處なく吉林に歸りたるが再び大會を開き協議する處あり更に三名の運動委員を昨日北京に赴かしめたり。(十九日、時事)

▲南方米國に借款 (上海特電十八日發) 香港來電に據れば伍廷芳氏は其の子伍朝樞氏を上海に遣はし米國に借款を求めたりと。(十九日、時事)

▲準備金交付拒絕 (北京特電二十一日發) 支那政府は關係國公使團及び日英佛露四國銀行團に對し支那財政の窮狀を訴へ鹽稅準備金銀一千萬元の交付を要求したるに就き銀行團は夫れ々々本國へ問合せの上本日當地上海銀行にて四國銀行會議を開きたる結果左の如く支那へ回答せり曰く、

支那鹽稅の現狀は本年三月中要求を提出せし當時に比し一層不良なるを以て銀行團は本年三月支那の要求を拒絕せしと同一理由を以て今同様の要求を遺憾ながら拒絕す。(二十三日、時事)

▲金券發行反對 (二十六日北京特派員發) 金券發行に就き各商務總會よりの反對頗る多きに依り當分金券發行を見合すに至るべしと。(二十八日、朝日)

▲議院經費増額 (上海特電二十六日發) 國會議員増加に付從來の經費十萬元にては不足なる故五萬元の増額を各督軍府に請求せり。(二十八日、朝日)

▲無線電話借款 (北京特電二十九日發) 支那陸軍當局と英商マルコニー無線電話會社との間に左の如く無線電話機械購入の借款成立し双方代表者

の間に二十七日調印了せり

(一) 支那政府は百二十支里の通話に堪ゆる最新無線電話機二百臺をマルコニー會社より購入す

(二) マルコニー會社は九箇月内に右無線電話機の裝置を終了するものなり

(三) 支那政府は英國技師を招聘し其の使用法を修得す

(四) 支那政府は右電話機の代價金三十萬磅別に三十萬磅合計六十萬磅をマルコニー會社より借款す

(五) 右借款の利子は年八分とすること

(六) 右借款中電話機の代價三十萬磅を差引たる代價三十萬磅は前後二回に分ちマルコニー會社より支那政府に交付す

(七) 借款擔保は總額の八厘は金貨公債を以て之に充つ

(八) 償還は民國十三年より開始し五箇年間に完了す

(九) 將來支那政府が無線電話機の修繕又は購入の場合には支那はマルコニー會社と合資を以て之を行ふ。(三十一日、時事)

▲金貨紙幣反對 (漢口特電二十八日發) 漢口商會、漢口華僑大聯合會は共に大總統國務總理等に打電し阿片賣收及金貨紙幣發行の取消を求めたり。(三十一日、朝日)

經濟關係及其他

▲米穀輸出審議中 (北京特電十四日發) 支那各市場に停屯せる米穀の一定量を限り日本に輸出す可しとの日本政府の要求に對し支那に於ては實否の意見あり反對論者は曰く從來支那は極めて少數の米穀を輸出せる例ありと雖も其都度狡猾なる支那人の買占となり支那内地に於ける米穀の昂騰となり貧民の困惑となり延いては地方的暴動を惹起する傾向を示せり今、多量の米穀を日本に輸出せんとするが如きは新に支那に内亂の種を蒔かんとするものならんと之に反し贊成論者は日本朝鮮は昨年天津廣東等の水災に義侠的好意を以て支那人を救済せり支那は之に對して報恩として此際日本に米穀を供給し日本國民に便宜を與へざる可からず又江蘇省其他全國各市場に停屯せる米穀を輸出するも自國民に對して米の供給に毫も支障を生ぜざる可しと爲

し水害善後事務局總辦熊希齡氏の如きは率先して防穀令の解禁を主張し居り北京政府當局者は目下日本政府への回答に付き考慮中なり。(十六日、時事)

▲揚子江氾濫 (長沙特電十四日發) 十二日連日の降雨にて長江の水最増加し氾濫の狀あり目下米の成熟期にて左なきだに農民は刈入不能に困難せるに若し出水に至らば幾ど全滅するに至らん虞あり。(十六日、日日)

▲中繼航路開始 (漢口特電十三日發) 三葉は大坂漢口間中繼航路を開き溯江船大順丸は二十日入港の筈にて減水と雖も持續すべし。(十六日、日日)

▲支那防穀令解除交渉 (北京特電十五日發) 日本政府は内地に於ける米價の暴騰に鑑み此際支那政府をして防穀令を解除せしむるの交渉を開始せり即ち船津一等書記官は外交部に陸外交總長を農商部に錢農商總長を訪問し長江沿岸地方に米穀の停滯せる事實を指摘し速に米の一定量を限り日本への輸出方を特に請求せり因に江蘇省無錫には既に二百萬石の米停滯し此外、長江沿岸のみにても低廉なる米尙ほ百萬石停滯せるを以て無錫商會(商業會議所)は全國商會と聯絡し農商部に宛て停滯米の外國輸出方を請願中なるが長江沿岸地方に比し四割乃至五割高の天津地方に於てすら米穀輸出解禁の際には北方米を輸出せんと計畫するものあり之が爲め北京天津地方に於ても早くも米價暴騰の外暴騰の傾向を現はし始たり。(十七日、時事)

(北京特電十五日發) 日本政府は米價騰貴の爲め支那政府に米輸出禁止を解かんことを交渉せるが江蘇には輸出し得べき停滯米三百萬石あり。(十七日、時事)

▲豐材公司成立 (長春特電十五日發) 大倉喜八郎男と前支那財政總長周自齊氏との間に計畫せられし材木會社は實本金五百萬圓の日支合辦にて成立し豐材公司と稱し十四日長春にて支那及日本兩官廳に其成立手續を了したるが本店を長春に置き哈爾濱吉林に支店を設け汎く材木に關する一切の營業をなし將來適當の地點に一大製材工場を設置する計畫なりと會社の總理は曲阜新氏副總理は大倉喜七郎氏にして周自齊大倉喜八郎の兩氏は相談役なり。(十七日、日日)

▲對支防穀解除交渉 (十五日北京特派員發) 米缺乏救済の爲め日本より支那政府に産米の餘剩ある各省の輸出禁止を解除せんことを交渉したる

に對し支那政府は同情を表し江蘇湖南等の産米多き各省と商議し便宜を圖るべきを承諾せり但し江蘇省の産米剩餘は約三百萬石なりと。(十八日、朝日)

▲銅鑛採掘便宜 (十六日奉天特派員發) 赤塔總領事は十四日夜北京より歸奉せり從來支那當局は鐵礦暫行條例に依り滿洲鐵山特に銅鐵の採掘を邦人に許可せざりしが今回親しく交渉の結果意思圓滿に疏通し頗る都合好くなりしと。(十八日、朝日)

▲京漢線復舊期 (漢口十五日瀾川總領事發) 河南省鄭城及び許州間鐵道の水害破損は約三十支里に亘り先頃來修理中なるを以て今後一週内に南北連絡すべき見込みなり。(十八日、時事)

▲新聞檢閱局 (北京特電十五日發) 支那政府は十五日の閣議にて日本例に倣ひ新聞檢閱局を新設するに決せり。(十八日、日日)

▲米穀輸出入交渉 (上海特電十七日發) 十五日日本公使館は段總理に對し支那米輸出に關する交渉を爲し段氏は直ちに米の主要産地たる江蘇省に諮りたる由なるが先に省内の米不足せるの故を以て蔵米の輸出を差止めたる程なるを以て北京政府の右交渉に對し如何なる態度に出づべきかは疑問なり之に對し一二漢字新聞は米不足にして米價次第に昂騰しつゝある際省内の米る他に出すは不可なりとし且隣國を救ふの美名の許に暴利を貪らんとするものありと叫び居れるが恐らく此種の反對運動は段内閣反對の一形式として更に同地方に起るべし。(十九日、日日)

▲上海滯貨減少 (漢口特電十七日發) 上海の滯貨は漸次減少し日清汽船は廿九日頃より當地の貨物を引受くる事となれり。(十九日、日日)

▲周襄鐵道起工 (漢口特電十八日發) 周家口(河南)襄陽(湖北)間の鐵道は米國技師により九月十五日より工事に着手すべしと。(二十日、日日)

▲杭州稻作不良 (八月十七日杭州新井事務代理發) 杭州地方の稻作は今春苗の補付以來發育順調なりしも近來雨なきこと一ヶ月に及び或る部分は枯死するに至れり之が補給策として目下西湖の水門を開き各地へ供給しつゝあるも若し更に旱魃續けば本年の稻作は全く見込みなかる可しとて農民は大に恐慌せり然し當地は今春甚だ米の見懸買置をなしたれば米價は未だ暴騰するに至らず。(二十一日、時事)

▲長江氾濫 (十九日沙市發電其筋着電) 當地は昨朝より長江増水し海

關水標三十呎に及び碼頭外其他堤防外の低地は全部浸水せるも昨年よりも二呎低し今朝減水に向ひたれば大事に至らざるべし人畜其他に異狀無きも沿岸一帶農作物の被害大なる見込みなり。(二十二日、時事)

▲新通路起工 (上海特電廿三日發) 元標より吳淞に至る十二哩の通路を新に黃浦江に沿ひて建設するに就き支那兵を用ふることとなり二十日より護軍使薩永祥の部下第十師の廿七、廿八、廿九、四十の四箇聯隊より選拔されしもの千名により起工せり。(二十四日、時事)

▲米輸出解禁反對 (漢口特電二十三日發) 米輸出解禁の説に對し一部の人民は大に反對を唱へ王督軍に之を許すこと無からんことを乞へり。(二十四日、時事)

▲支那棉作良好 漢口よりの入電によれば白芙蓉及び泰魯の最近收穫豫想は八割乃至九割の由にて更に速かに天候の恢復を見るに於ては作物は益々良好なるを得べし而して本年度植付段別は前年に比し一割方の増加なりと云ふ。(二十四日、時事)

▲支那博物館探檢 (上海特電二十二日發) 米國博物館の博物學者ボウル、ジェイ、ディネイ氏は昨日當地に暫せり北京を経て支那の内地に入り支那の動物標本及び野獸の天然の生活を寫眞に撮るの要務を果さんとす是れ該博物館より支那に來れる第三回の探檢隊なりと。(二十四日、時事)

▲米穀輸出されん (北京特電二十三日發) 船津一等書記官は昨日外交部に赴き支那米輸入に關し帝國政府の公文書を提出せり其内容左の如し。日本は目下の米穀缺乏の爲め米價騰貴し一般人民は窮境にあり右に就き支那政府は隣邦の好を以て現に江蘇省に停滯せる剩餘米を一定の制限を附して日本へ輸出方を策せんことを希望す惟ふに江蘇省一帶に於ては剩餘米停滯の爲め財外不振に陥り一般農民及び商人は其處分に苦しみ居る際なれば支那政府が右日本の要求を容るゝに於ては日支兩國は共に利益を得る聯合なる可く日本政府は支那政府が直に適當の手段を取らんことを希望す云々尙ほ從來日支交渉の經過より見る時は北京政府は主義に於ては異議なき模様なり只現に江蘇省議會は反對の氣勢を示し居れり併し早晚是等地方民の諒解を得るに於ては支那米の輸出は不可能にあらず可しと日本公使館側は觀測し居れり又公文書中に所謂制限的輸出とは江蘇省内に停滯せる米穀を二百萬

石とか三百萬石と一定の分量を限りて日本に輸出するを意味す。(二十五日、時事)

▲江蘇防穀解禁 (二十二日北京特派員發) 支那政府は日本の交渉に對し江蘇省の米輸出禁止令を解除することとなり。(二十五日、朝日)

▲京漢鐵道一部開通 (漢口發八月廿三日賴川總領事) 先日來水害の爲め久しく不通なりし京漢鐵道は許州及び大石橋間の復舊工事完成せざる爲め北京、漢口間の直通汽車は未だ運搬を開始せざるも許州大石橋間約三十支里の所を徒歩する時は南北の聯絡出來ることになり居れり當地鐵道局員の言に依れば一週間後には修理落成すべき見込みなりと云ふ。(二十五日、時事)

▲漢陽工廠擴張 (漢口特電二十二日發) 漢陽の兵工廠は大治に分工場を置く計畫中なりと。(二十五日、日日)

▲米穀輸出未解決 (北京特電二十六日發) 江蘇商業會議所は此程江蘇實業廳長に請願して曰く現下無錫には米穀停滯せる爲め約十萬元の資金停滯し金融界の不調を致せし此際當局は速かに右停滯米輸出に就き盡力せられたいと然るに江蘇省議會は米穀の輸出は當地方米價の騰貴を惹起す可きを憂慮し今尙ほ防穀令解禁に反對し居れるを以て江蘇省より日本に米穀輸出の問題は未だ解決するに至らず。(二十八日、時事)

▲金銀禁出 (北京特電二十五日發) 支那政府は外國の例に倣ひ金銀塊銀貨、銅貨、金銀銅の製品等の海外輸出禁止規則を制定して近く發表の善なるが特許なくして上述の品を輸出せば之を沒收し聯合國中立國人民は海外旅行の場合銀貨百圓以下を携帯すること許す規程なりと。(二十八日、日日)

▲阿片買收 (北京特電二十四日發) 二十二日の閣議にて上海貯藏の阿片買收案は内務財政兩部にて立案し阿片賣買規則を通過せり其内容は一國六千二百兩(上海現在の阿片二千五百七十八萬兩)を買收し制藥の上特許商人をして賣下しむるものにして政府の賣下價格一兩一萬六千元政府の利益合計一千萬圓に上るべく賣買地域は江蘇浙江外二省に限るべし然れども湖南は外國人間にて人道上の大問題として非難の聲高く支那地方民の反對の氣勢あれば將來紛擾を免れざるべし。(二十八日、日日)

▲日貨排斥の兆 (安東縣特電二十八日發) 西伯利戰爭熱支那人間に高き物價暴騰止す銀相場暴騰、日本金百圓に對し銀百四十圓以上となり貿易上打撃少からず日貨排斥の兆あり。(三十日、時事)

支那省

天覽

第九卷

第九卷內容

目次

第一編	總說	一—一二
第二編	開市	一三—七二
第三編	貿易	七三—九四
第四編	都會	九五—一七二
第五編	交通運輸及郵電	一七三—四五四
第六編	主要物產及商業慣習	四五五—六四八
第七編	工業及礦產	六四九—八三五
第八編	輸入品	八三六—九〇八
第九編	商業機關及特種慣習	九〇九—九七六
第十編	金融貨幣及度量衡	九七七—一〇九六

地圖寫真 湖北省全省(百五十萬分四色刷)外都會圖寫真百餘
 本書は本會附屬上海東亞同文書院に於て一
 千餘の人員と二十萬金の資とに依り十年間
 實地踏査をなさしめたる資料三十萬頁を基

支那

第九卷 第十號

要目

論說	寺内内閣と對支借款……………一—四
資料	湖南の茶業……………五—一〇
	運河改修七厘金貨借款契約書(上)二—三
雜錄	英國の對支政策(五)(完結)……………一四—一九
	世界的支那問題と其解決案(下)二〇—二四
	支那に於ける英吉利人と獨逸人(二)二五—二九
彙錄	支那のローマンカトリック教徒數……………三〇
	支那綿布稅則の修正……………三〇—三一
	支那の銀銅輸出禁止……………三一
事業界	支那事業界近況……………三二—三四
半月史	半月間の支那重要事件……………三五—三八
時報	支那最近時事要項……………三九—五七
彙報	支那關係諸報道……………五八—五六

東亞同文會調查編纂部



株式會社

臺

灣

銀行

(北臺)

支店出張所

歐南	支
米洋	那
孟買	仙頭
倫敦	上海
紐育	九江
	漢口
	福州
	廈門
	廣東
	香港
	新嘉坡
	スラバヤ
	スマラン
	バタビヤ

支店出張所

内地	臺灣
神戶	基隆
大阪	宜蘭
橫濱	臺中
東京	嘉義
	臺南
	打狗
	阿緱
	桃園
	新竹
	澎湖島
	花連港

侍從次長 伯爵 德川 達孝閣下題字
陸軍中將 比志島義輝閣下序文

山口高等商業
學校 講師

西山榮久先生著

增訂最新支那大地理

- 洋本菊版總クローズ
- 美製全一冊
- 插圖數十個
- 附錄索引數十頁
- 壹千五百餘頁

正價金五圓五拾錢 郵稅內地金廿八錢 臺、樺、朝、支、各金五十錢

！現代支那地理之權威！

我對支貿易は、本年一億の餘に上り、我三十萬に進を達し、尙急激の増世
上半期に於て正に二億の餘に上り、我三十萬に進を達し、尙急激の増世
界の寶藏・列國經濟戰の大戰場たる支那は、先づ知らざるべからず。
言語・宗教・教育は勿論政治・經濟・財政・軍事・鐵道・郵電・水運・都邑・外國貿易等一切の
問題に涉りて之を詳述し、宛ら掌を指すが如し。本書の價值は、各新紙異口同聲の好
評と、漢譯が二、三年間品切なりし本書は今や、民國最新の資料に
官制其他増訂百餘頁を加へ、新舊府縣の對種表等を附し、新裝して現はる。
各方面に勸各小學校も必らず一本を備

西山榮久著

最新支那分省圖

四六倍判全壹冊

正價金壹圓五拾錢
內地送料金八錢

發行所 東京 日本橋 大倉書店 振替 番 八 三 二



大正七年十月一日發行「支那目次」第十九卷

論說

寺内内閣と對支借款.....一——四

資料

湖南の茶業.....五——一〇

運河改修七厘金貨借款契約書.....一一——一三

雜錄

英國の對支政策(五)(完結).....一四——一九

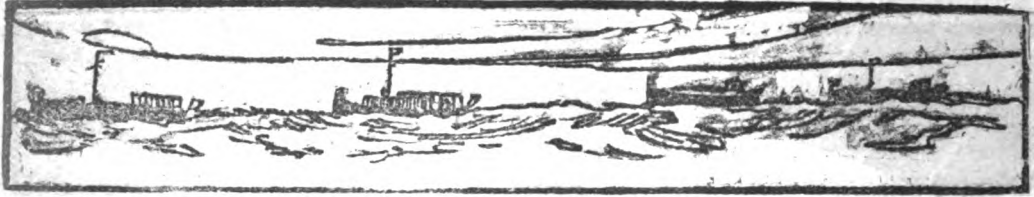
世界的支那問題と其解決案(下).....二〇——二四

支那に於ける英吉利人と獨逸人(三).....二五——二九

彙錄

支那のローマンカトリック教徒數.....三〇——三二

支那綿布稅則の修正.....三一——三三



支那の銀銅輸出禁止.....三一

事業界

中華貿易公司と其章程、華豐製針廠の擴充
中國郵船公司株主會、浦東電車公司の計畫.....三二——三四

半月央

徐世昌就任承諾、南方の態度、副總統選舉期日
福建南軍優勢、南方承認運動、四鄭線開通式.....三五——三八

時報

(内治外交) 政府浦陽出兵に對するの宣言——參院議長產出の經過——段總理昨日議員を招待す——副總統と各派——參眾議院議長及び副議長を推舉す——總統選舉會を組織するの原案を提議す——廣東國會宣言書を發表す——三十一日の閣議記聞——唐繼堯將に重慶に入らんとす——曹錕保定に赴くの眞意如何——籌議中の國防問題——國防問題の大綱を決す——浙江省新軍を募集す——參戰軍督練處を設立す——內務部宣戰の要項を調査す——

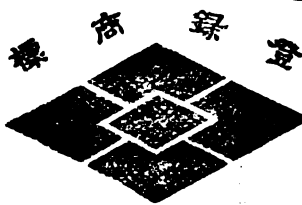
(軍 事)

(財政經濟)

米糧の海外輸出に對する反對の聲——陳樹藩一百萬元を請求せるの急電——銀行團償債基金を交付するを拒絕す——林礦借款に關するの記載——吉黑林礦借款契約の修正——無線電話機借款の成立——江南造船廠の成績——山東最近の鹽務觀——貿易公司の蛻化——南潯鐵道國有に收歸するの近信——鐵道工事遲緩の原因——

(交 通)

彙 報



菱印窓硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚

サニ耗ヨリ四耗迄

透明板、摺板、小紋板

色硝子、簾板、結霜板

外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式會社

第一工場 兵庫縣尼崎

第二工場 福岡縣戸畑

第三工場 神奈川鶴見

第四工場 福岡縣枝光

煉瓦工場 兵庫縣尼崎

曹達工場 福岡縣戸畑

東亞同文會調查編纂部編纂

再訂 支那全圖

縱五尺一寸 横四尺四寸 七色刷映入

大正七年版

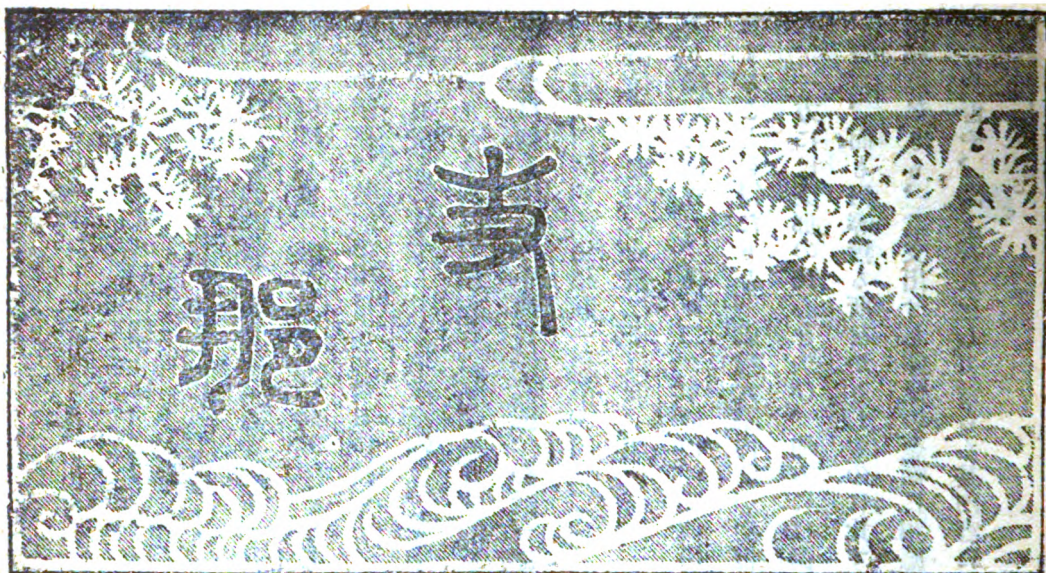
定價貳圓也

郵稅(内地八錢 海外三十錢)

東京赤坂溜池二番地

發行所

東亞同文會調查編纂部



大正七年十月一日

第九卷 第十號



寺内内閣と對支借款

一

寺内内閣は辭職するに臨み、大藏省をして寺内内閣成立後二年に於ける財政經濟方策並施設概要なる一書を公にし、對支借款に關し比較的詳細なる報告を爲さしめ、暗に其功績を誇りたり。自己の功績を過大に吹聴するは、何れの内閣にありても免れ難き所なるも、對支借款に對し、此種の吹聴を爲すは、寺内内閣を以て嚆矢と爲すべく、殊に對支借款を壟斷せし外務省が沈黙を守り、大藏省が疾言大聲するは、空前の現象なりと謂ふべし。尤も國家的立場より之を見れば、何れの省が手柄を建つるも、國家の受くべき利益は同一なるに依り、大藏省の手柄たると、外務省の手柄たると問ふ所にあらざるも、大藏省が異例の振舞を爲す丈の功績ありたるや否や、請ふ吾人をして之を研究せしよ。

二

大藏省の發表する所に據るに、寺内内閣成立前に於ける對支借款額は、約一億二千萬圓に過ぎざりしも、寺内内閣が對支金融の整備改善及資金の疏通を圖ると共に、熱心對支投資を奨勵したる結果、支那に於ける政治狀態の不安、列強との關係、其他の事情存したるに拘らず、本内閣の成立以來、日支間に成立したる借款金額は、對中央政府借款一億二千九百餘萬圓、地方政府借款一千六百餘萬圓、對會社借款又は個人借款三千四百餘萬圓、合計一億八千萬圓に達し、別に滿蒙四鐵道借款一億五千萬圓（内前貸二千萬圓）濟訓高徐二鐵道借款前貸二千萬圓、製鐵借款一億圓も最近に至り纔かに成立し、僅々二ヶ年の内、従前借款額の三倍を算することを得たりと。成程大隈内閣が空權の獲得に熱注し、一方には支那の民心を失ひ、他方には諸外國の猜忌心を買ひ、而も何等獲る所なかりしものに比すれば、優れるに相違なきも、其支出せし鉅億の金額に相應する收穫ありたるや否や、請ふ吾人をして暫らく其内容につき吟味する所あらしめよ。

三

大藏省の發表せる各種借款を觀察するに、我邦にとり有益なる利權を獲得せりと認むべきものなきにあらず、有線電信借款、製鐵借款の如き是れなり。殊に製鐵借款は、支那をして豊富なる鐵礦石炭を利用せしめ、國營製鐵廠を設立せしめ、其資金は我銀行團より支出すると共に、我邦に於ける製鐵、鐵礦石の供給を圓滑ならしめんとするにあり、彼等の經濟上軍事上に鴻益を與ふるものなるに依り、之を電信が、佛國其他の手にあるに拘らず、我邦が何等交通上の權利なきことなれば、將來發達の見込充分なる電信事業に二千萬圓を貸付け、電信事業に關する外國技師の聘用、及之に要する材料の供給に關し、我邦に優先權を認めしめたるは、亦其成功の一たるを妨げず。此外大藏省の發表せるものを除き、二三借款の有益なりと認むべきもの亦なきにあらずるものの如し。されば反對黨が屬倒する如く、決して借款全部失敗せるものにあらずる也。

四

吉長鐵道（四百五十一萬三百五十圓）四鄭鐵道（追加二百五十萬圓）濟順高徐鐵道（二千萬圓前貸）等の諸借款は有益なるに相違なきも、大隈内閣乃至山本内閣時代に獲得せる利權を完成せしまでにて、之を以て寺内内閣のみの功績に算するは、餘りに蟲善しと謂はざるべからず。米支運河借款（六百萬弗）は、日米資本家提携して對支事業を經營する前驅なるに依り、慶すべき借款なるに相違なきも、是れ亦前内閣に蒔きし果實を收穫せしに過ぎざるなり。但滿蒙四鐵道中、熱洮鐵道の一地點より、海港に達する鐵道を建設する爲め、二千萬圓の前貸契約を爲せしは、滿蒙四鐵道の効果を擴大し、山本内閣の缺漏を拾遺するものにして、吾人の賛成する所なり。

五

中國銀行と並び支那の中央銀行と稱せらるゝ交通銀行に資金を貸付け、該銀行の整理を行ひ、其發行する紙幣の聲價を高め、將來に於ける支那幣制改革實行上の一前提たらしめんと企てしは、主義上何人も異論なかるべし、されど、之に二千五百萬圓の大金を貸付け、而も之に相當すべき權利

を獲得すること能はず、偶々日本顧問を推薦したるも、顧問の監督宜しきを得ざりしにや、該銀行發行する所の紙幣は、額面價格を保つこと能はず、五割の大暴騰を見たり。其原因は未だ詳ならざるも、段内閣が該借款を流用して、南方討伐を試みたる結果なりと謂ふ、果して斯の如くならんか、該借款は支那の内訌を甚だしからしめたるものにして、寺内内閣の功績に數ふことを許さざるなり。又吉會鐵道借款（前貸一千萬圓）は、我邦にして朝鮮清津港より間島を経て、長春に出づる軍用鐵道を敷設せんとするには有益なりしものならんも、露國の形勢に一大變化を來したる今日、此種軍用鐵道の必要なべきに依り、此種の借款を締結せしは、無意義なりと謂はざるべからず。道路傳ふる所に據れば、段内閣は該前貸金を流用して、南方討伐費に充てたりと、若し果して然からんには、反對黨より寺内内閣の失政の一に算せらるゝこと己を得ざる也。

六

政治借款として成立せるもの二あり。其一是第二次善後借款にして、第一回一千萬圓、第二回一千萬圓、第三回一千萬圓、合計三千萬圓に達し、其二是日支軍事協約に基き、日支兩國が、軍事上協力策應の實を擧げん爲め、我邦より

支那に對し、財政上の援助を與ふるの緊要なるに至り、茲に二千萬圓の軍事借款を成立せしめたるものはなり。軍事借款につきては、未だ俄かに其得失を判じ難きものある

に依り、暫らく之が批評を見合すべきも、第二次善後借款につきては、一言せざるべからざるなり。該借款は、五國財團の取極に基き、財政的援助の爲め、支那政府に貸付くべきものなるに依り、支那政府の請求に依り、之を貸付くこと己むを得ざることならんも、其支途につきては、五國財團は權利上義務上之を監督すべき等なり、然るに、寺内内閣に於ては、何等觀るべき監督を爲さざりき、無監督の結果、段内閣は之を如何に處分したるや、決して想像するに難からず。即ち彼は之を用ひて南方討伐費に充てたるなり。

七

以上述ぶる所により之を觀るに、寺内内閣に至り、對支借款の成立するもの三億圓を算し、歴代内閣の三倍を數へたるも、其内該内閣の功績と認むべきものは三分の一にして、三分の二は前内閣時代に蒔きたる果實を收獲したるものならずんば、即ち段内閣に南方討伐費を支給したるものに係れり。我邦資金の豊富なるに甘んじ、往々擔保の確實なると否とを問はず、支那全體の爲め利益ありや否やを論

せず、妄りに支那に貸付け借款額の龐大なるを誇るの傾見ゆるは、吾人の取らざる所なり。

八

寺内内閣の獲得せる利權は少なからざるにあらざるも、之を歐洲大戰前、白耳義シンデケートの獲得せる海蘭、大成二鐵道、佛國の獲得せる欽淪鐵道、英國の獲得せる寧湘、沙興二鐵道に比較すれば、殆んど言ふに足らざるなり。然るに、諸外國及支那人が、日本獨り支那利權を獲得し盡すもの、如く思惟し、排日の火の手熾んなるものは何ぞや、寺内内閣が其功績の吹聴に急なりしもの累を爲せるにあらざるなき乎。段内閣が日支借款を掲載せしは支那新聞社を目し、虚偽の記載を爲し、日支の國交を破るものなりとの廉を以て、其發行を禁止するに至りたるに拘らず、寺内々閣が辭職するに臨み、一切の對支借款を發表し、支那新聞紙の記事を是認するが如きは、吾人其何の謂たるやを解するに苦まずんばあらざるなり。





資料



湖南の茶業

總説

湖南省の主要産物として、茶の輸出は年々巨額を算せられ、其多きは四千五百萬斤を超し、其少き時も三千萬斤を下らずして、漢口市場に運遭され、其重なる花客は露國人なり、其種類は紅茶を主とし、綠茶、青茶、花香等なり、近年は其産額漸次減退し、湖南政府は之が挽救に力めつゝ、あるも未だ其成績を見るに至らず。

湖南省の氣候、地質は最も茶の栽培に適すと云ふも、其製造法及管理は總て舊套を脱して、新式に改善する能はざるは産額の減退を來せし原因なるべし。

産地の状態

安化縣は湖南省の中部に位し、資水是縣内を貫流し頗る運輸に便なり、製茶地方は前後二郷に分れ、重要な茶市は後郷に屬し、東坪、橋口、黃沙坪、醴州、江南、小淹の

六箇所なり、製茶場は總計七十七莊にして内譯

東坪 二十一莊、橋口 七莊、

黃沙坪 二十莊、醴州 十八莊、

江南 七莊、小淹 四莊、

此内五莊は紅茶、黑茶を兼製するも、其他は専ら紅茶製造とす

但醴州に一茶莊あるは専ら黑茶を製す。

前郷の茶市は藍田の一箇所茶莊五戸あり、各莊は各産地に分莊五六箇所を設く、後郷の茶莊中、正記、寶泰祥、聚興順、生記、昆記、慶生祥、は個人の資本を以て單獨の設立に係るも、其他は湖南人の合資に成るものと、又臨時に組織せるものにして、茶業及經驗貧弱なるもの多しと、此等臨時的のものは投機的にして、一度失敗すれば直に閉鎖す、其損害は設立者のみにして憂ふるに足らざるが如きも茶業其者の發達を阻害する決して小少ならず、一年五六百

萬斤を産出すべきものが、著しく衰退を兆するに至る所以なり。

製造と栽培

- (イ) 氣候温和にして四圍皆山なるが故に、寒暑風雨の被害稀にして、氣候激變の虞なく濕氣を帶べり。
土壤は砂質にして表土は輕鬆にして、其中に混ざる砂礫は皆稜角ありて排水に便なり。
- (ロ) 地勢は山嶺重疊して平地少く、傾斜度は四十度乃至七十度、其高さは數千尺より數千丈に至る。
- (ハ) 茶樹の種類は概して支那種なり。
- (ニ) 採種と其貯藏、採種は寒露節(十月上旬)前に手を以て種子を摘採し、空氣の流通せる濕潤の地に堆積し草や葉を以て覆ふ。
播種は雨水節前(二月末)に土塊を碎き畦を設けて種子を播きて土を以て之を覆ふ。
- (ホ) 幼苗の管理は極めて粗略にして、早天の時は稀薄なる人糞肥料を施し、一年一二回苗圃の除草をなし、三年後に移植す、安化茶山の茶樹は苗植にして播種せるもの少し。
- (ヘ) 幼苗の價格、茶莊中には茶苗を培養販賣するものあり、一斤約二十本位にして價格約二百文(一錢銅貨二十枚)
- (ト) 茶圃の整理、土壤の深さ約七八寸に耕鋤し、畦を設けず移植の時機は雨水節の頃とす。
- (チ) 移植法、地面に孔を穿ち良苗を擇んで之を孔中に

挿入して土をかく、一株に三四本の苗を栽へて、肥料を施さず、株と株との間隔は三尺四方位にして、其中一割は枯死することあり、苗圃より茶圃に移植するものにして茶苗を假植するが如きことなし。

- (リ) 肥料の種類と施用時機、肥料は桐油粕、人糞を用ふ、桐油粕は拳大に碎き、耕耘の時土中に埋む、茶樹の根際には糞尿を適宜に施す、但し摘葉前と摘葉後に施す。
- (ヌ) 中耕、摘葉後茶圃を耕すを中耕と云ふ、其と同時に草を埋め込み肥料とす。
但以上は一般の培養にして實際之を行ふもの少く、普通は數年間に一回の肥料を施し、或は栽附後久しく施肥も中耕も怠廢するものあり、茶樹は深草に没し居るもの多し、或は茶株の間に農作をなすものあり、此等は中耕も可なり行き届き居れり。
- (ル) 剪枝法、剪枝をなさざれば枝繁茂して摘葉に便ならず、故に高サ一尺乃至二尺位に至れば各様の形狀に剪枝す。
- (ヲ) 茶圃の保護は極めて放任し寒暑、雨水の害及蟲害等は之を防驅するものなく、枯死せるも補植するものあらず。

- 茶樹の年齢は大約二十年乃至三十年を経過し、枯死せる時を限度とし、將に枯死せんとする時は株を刈りて新芽を發せしめ、多くは其高サ五寸位の所より刈取る。
- (ヱ) 摘葉時期、春茶は穀雨後小滿(四月下旬より五月下旬迄)前に摘

採す、仔茶は芒種節後（六月上旬）小暑節前（七月上旬）に摘み、采花茶は立秋に摘み、白露茶は白露節（九月上旬）の候に摘採す、其度数は一年四回にして第一回は春茶、第二回は仔茶、第三回は采花茶、第四回は白露茶とす。

（カ）摘葉年度、移植の苗は三年後に摘葉を始む、播種の苗は五年後より摘葉す其末期は茶樹枯死期とす。

（コ）毎畝の摘葉量、培養管理の厚薄により一定せざるも其培養完全なれば、一畝は春茶百二三十斤、仔茶百三四十斤を穫べし。

（ク）茶園の間作、茶山の傾斜緩なれば株間に玉蜀黍、甘藷等を植ふ。

以上は安化地方に於ける状態にして、之より其改良を要するものを舉ぐれば左の如し。

（甲）従來茶莊の茶業に對する處置は、一般に粗略放任し居るが、其改良を要する重要事項二あり。

（一）管理の周到を要す、土地の生産力には限あり、然るに茶莊の摘葉は多々益す要し、而して施肥培養を怠り中耕をなすもの少く、茶樹は瘦枯せんとするも、培養補植等をなさず、安化産茶額の割合に茶園の手入れを怠らざるものは、全山中の半部に過ぎず、此れ大に改善を奨励する必要あり。

（二）摘葉過度、安化の氣候土質より見るに、摘葉は一年二回を超すべからず、然れども茶莊は眼前の利益に眩して、過度の摘採をなし、茶樹の衰枯を顧慮せず、

茶樹は繁茂の力を失ひ、外襲の害に抵抗する能はず、昨年の寒氣に襲はれ、多數の枯樹を出せしは之がためなりと信す、要するに當業者の覺醒と専門技師を招し舊弊を矯正して新益を増進するは焦眉の急務なり、之に就ては省農會の盡力を要するものなり。

（乙）製造に關するもの

（一）黑茶（番茶）製造は生葉を炒鍋に入れて炒り、三ツ齒の木杵を以て攪拌し、葉の凋萎せる時取り出して地上に堆積し、足にて踐踏すること數分にして、熔爐上の竹簾に擴げ、時々手を以て反轉し、半乾の時又地上に出して搓揉す、一定の葉形をなして後之を放置し乾燥せしめて販賣す、熔爐の燃料は柴薪を用ふ。

（二）紅茶粗製法、生葉を竹簾上に薄く擴げ、日光に晒らし葉の萎みし時足を以て踐揉し、十分に葉汁を揉み出し、結塊せる葉を解きて空氣に乾燥せしめて、再度攪きよせて揉む、其時間良久しく力を用ふるも亦大なり、更らに葉塊を散解して空氣に乾はかし、木桶中に貯へ醗酵せしめ、棉布を以て之を覆ふ、其時間は一定せず、手を葉中に入れて其溫氣を感じるを度とす、醗酵後又日光に晒らす、其揉み方充分ならざる時は、更らに揉みて醗酵せしめて乾燥し、之を販賣す、以上は安化地方の舊式製法にして、此組成のものを露國茶商に賣渡し、露商の手にて精製す、近來は揉揉は一回に止めて醗酵せしめて乾燥するを以て、香味色澤共に佳ならず。

(三) 紅茶精製法、粗製の紅茶を焙室に入れ、八割位に葉量の減する時取り出して堆積し、暫くして焙籠に入れて焙じ、手を以て茶葉を攪み、微音を發するに至りて之を粗雨篩にかけ、手にて揉み、次に中雨篩にかけ

後に小雨篩に篩ひ、次に芽雨篩にかけ又鐵篩にて篩ひ次に生末篩を用ひ、篩の孔は大小數種あり、又平篩、圓篩等あり、篩ひの度數は茶の精粗によりて一定せず、粗なるものも十三回以上に及ぶ、粗雨篩面の茶は焙籠に入れ火を加へ、再び粗雨篩を用ひ、生末に至れば中篩にかけ粗雨篩面の茶を一茶と稱し、小雨篩の茶は二茶と云ひ、生末篩面の茶は三茶となす、鐵篩面を四茶と云ひ後ち一箇所に集積するに一茶を最低に置き二、三、四、と順次と積堆す、一堆は約百斤とす、而して此堆積せるものを他の處へ運びて黃葉雜葉等を去るに風車扇と云ふものを用ひて撤去りて、又人手を以て揉み梗子を去りて、又焙籠に入れて焙す、生末篩面下に在るを花香と稱す。

(四) 花香製法、精製紅茶の碎末を花香と云ふ、其中に塵埃を混入せるを以て、風車扇にて撤去し、布袋に入れて之を販賣す、又粗製紅茶の劣惡なるものも、亦花香を製す、焙籠を用ひ乾燥せるを地上に堆積し、打碎して雜混せるものを去りて包裝す。

(五) 茶梗製法、精製紅茶及花香より撤去せる梗を剪刀にて一二分に剪り籠に入れて販賣す。

(六) 雨天製茶法に二機あり、一つは陰乾にして茶葉を

空氣流通せる處に撒布し、其凋萎するを待ちて足にて蹂む、一つは火焙法を用ふ其燃料は木炭を用ふ、其色澤風味到底日光乾燥に及ばず。

(七) 生葉と製茶の割合、生葉十斤は黑茶二斤半乃至二斤十二兩(一斤は十兩とす)となる、粗製紅茶は二斤半を得、粗製紅茶十斤より精製紅茶七斤乃至八斤を得べし。

(八) 茶莊の習慣と製茶の套語、茶戸茶莊は概して製法の精良を求めず、製造額の多量を誇りとし、粗造を以て敏活と思惟せり、極めて不潔にして垢穢せる跣足を以て茶葉を踐踏す、製造場は塵埃不潔物を以て充滿せり。

製茶の套語、醱酵を發汗と云ひ、揉茶を采茶と云ひ第一回焙じを打毛火、第二焙を打足火と稱し包裝時の焙火を復火と呼ぶ、篩茶一、二、三、四、茶に初、中、小雨井の用語あり梗子を攪り出すを發揀と云ひ、堆積を打堆と云ふ。

(九) 機械製茶、前年茶商慶生祥は外國人を聘して機械製茶を試みしも、其風味色澤從來の舊法に及ばず、製額も比較的減少し開業以來利益を收めず損失を重ねて停止したり。

(丙) 經營方法

(一) 牧茶、各茶莊は各產地に分莊を設置し、遠方の茶を買収す、又仲買人は茶葉を買入れて茶莊に賣り込むに、其秤一定せず、其價八九掛位なるが此際仲買人が壟斷する利益大なるため、茶莊は往々損害を蒙るこ

とあり。

(二) 販路、近年紅茶は漢口に輸送して、外國茶商に賣り渡し、或は廣東に運送す、黑茶は漢口より廣東、陝西、甘肅等に分送す、花香の販路は紅茶と同じく、梗子の販路は黑茶と同じ、輸出額は逐年低減し民國四年の春茶は十八萬箱、仔茶十七萬二千箱、花香三百萬斤、六年の春茶十一萬箱、花香百餘萬斤なりと、以上は未だ運送せずして残り居るものありと雖も、茶商は概して買方を停減し、仔茶の賣れゆき多からずと、以上は資水流域の概數なり。

(三) 茶價、民國四年の産地の價額は百斤四十串文輸出價額百斤四十兩、五年産地價額百斤八十串文、輸出價額三十兩、六年産地價額百斤百餘串文輸出價額不明。

黑茶は紅茶の二割低價とす、小賣價額は一定せず、花香の價額は五六分梗子は三四分の差あり。

(四) 賃銀、茶摘人夫の賃銀一人一日約一串文とす、職長は月給にして之を大小に分ち高下を附し、四五十串文より二十三十串文の差等あり、其他の小工は製茶日數を計算し、其出來高によりて賃銀差の等を定む、一人一日約百文以上五百文、此外茶山に於ける食料あり、摘葉を終れば歸り去る、雨天は休息し食料のみを給す

(五) 一人一日の摘葉量は紅茶四十斤黑茶五十餘斤。

(六) 人工募集茶山の人夫は四方より來集するを以て、一々本人と面談採用するか、多くは職工長の請負ひによりて傭入す

(七) 茶商の増加、民國四年の湖南商三十六、廣東商四江西商十二、計五十二家、五年湖南省五十二、廣東商四、江西商十七、計七十四家、六年湖南商五十三、廣東商四、江西商二十、計七十七家以上は紅茶商なり。

(八) 茶行(茶問屋なり)資水流域に二十三家あり茶販賣の口錢を取るものにして、茶價一串文に付五十六七文を抽取す、茶行は茶價の貴くして出荷の多きを喜ぶ茶商の失敗も之が關する所多し。

(九) 採費 茶一擔約漢口銀十五兩、運賃は其中に含有す。(十) 茶商の詐偽、焙屑や揉屑、茶梗、木葉草葉等を混入することあり、此は茶に濕氣を生じ、腐敗することあり、民國六年は此の被害は二萬餘箱に及べり、此弊を敢行するは販子や脚夫等なりと。

(十一) 茶商の團體、茶業公所を設け、政府に届け出たれども、未だ何等の利益を生じ宿弊を矯正する能はず商務會は此等茶商の利弊に關しては漫然として過問せず。

臨湘縣の茶業

臨湘は安化縣に亞ぐ産茶額を有し、一年千五百斤萬内外を産せりと云ふが、近年は減退の兆あり、紅茶と主として青茶も産す、凡ての狀態安化と大差なし。

寶慶縣は産額三百萬斤に達し、漢口廣東方面に輸出し品質劣り毛茶に屬するもの多し

新化縣、は安化と境を接し、風土民情も大差なく年産額

百二十萬斤内外なり。

平江縣、は臨湘縣と接壤し、茶莊五十餘、紅茶、磚茶、青茶等一年産額約二百萬斤内外、近年衰退しつつあり。

郴縣、は廣東に接し茶莊二十三家茶山戸數三千七百餘戸大部分は廣東に輸出し、再製して南洋及英國に輸出す、民國五年の輸出額青茶三十七萬五千斤、粗茶百四萬斤、片茶七十一萬四千斤。

瀏陽縣 産額五十萬斤紅茶黑茶花香を産す

湘鄉縣 同 六十萬斤餘 同上

寧鄉縣 同 五十萬斤内外紅葉、黑茶、青等にして安化に出荷するもの多し

湘陰縣 同 六十萬斤 同上

岳陽縣 輸出額二十一萬斤内、君山産の綠茶一萬斤餘は名茶の稱あり近年産額著しく減少す

沅江縣 産額六十萬斤毛茶青茶等

石門縣 同 六十萬餘斤磚茶毛茶

慈利縣 同 三十萬斤青茶、毛尖茶

武岡縣 同 三十五萬斤紅茶、青茶

以上は湖南省製茶の近狀にして、上述の如く處々皆衰兆あるは、一つは原産地の茶圃及製造上の注意と改良に闕如する所、一つにして足らざると、他は歐洲戰爭の販路に影響すると、又湖南省近年の亂機續發して、地方の危險狀態を持続するに因るを以て、此衰兆を挽回するは如上の原因を消除するに非れば、茶業の興隆は難事に屬するが如し。



運河改修七厘金貨借款契約書 (上)

中國政府は山東直隸省内の運河を整理するが爲に、借款を商訂し、且以後整理を推行する時要する經費の籌備等は國會の同意を咨請し並に大總統の批准を経て成立するものとす。

中國政府は山東直隸省内の運河工事を以て、全國水利工程の一部分となし、此頃の工程は北に龐家口欄黃埧より起り、南は微山湖台兒莊に至る一段の運河、並に其必須の延長より關係汝泗兩河流域の工事に及ぶものにして、坡河並に水區及運河其他の支流の田畝の發生と恢復とをなすものにして本契約効力發生後山東政府と米國廣益公司との間に締結せる一九一六年四月十九日所訂の契約は廢棄するものとす。

更に現定工程を推廣し運河の北段に展長する時は、黃河の陶成堡に起り臨清德縣を経て、天津に至りて止め、並に其必須の延長より其他農田の水利に關係ある支流に及ぶものとす。

之れが爲に督辦水災河工善後事宜處に責成し並に權限を附與し、米國廣益公司と後列の契約を締結せしむ、凡そ契約内稱する處の人員は皆事權を受有し、並に契約内述ぶる處の該人員等は應に行ふべき事業を責成辦理すべきものとす。

第一條 (一) 茲に籌款して以て山東直隸兩省内以上所述の

整理工程の用に供する爲、中國政府は特に公司を代理人として、金貨借款米貨六百萬弗を起さしむ、一切の辦理は以下所述の規定を按じ、此項の借款を施行すべく、定名して一九一七年中國政府整理運河七厘金貨借款と曰ふ。

(二) 此項借款及嗣後一切の前渡金は政府に於て直接責を負ひ、並に信用を以て擔保し、期を按じて本借款の本息を分還し、及び本契約規定の一切の義務を施行すべし。

(三) 票面全數文字式樣及幣制種類は均しく公司の規定による、此項に關する一切の費用は公司の擔任に歸す、只債券印刷費は須く政府に於て負擔すべく、政府は又財政部印並財政總長記名式を用ひて債券印刷の用に供し、中國の駐劄華盛頓公使は債券未發以前に其記名式官印式を以て券面に摹印するの用に供し以て該債券の中國政府が完全に責を負ふものなる事を證すべし。

(四) 第一回發行債券の總額を米貨六百萬弗とし、手取百分の九十とす、此額は或は一時に或は分期發行し得るものにして本借款合同内には公司が本債券の全數或は一部分を購買するを制限するの意義なし、苟くも本借款の額工程の用に供するに足らざる時は、廣益公司に請ふて、別に條件を議し繼續して債券を發行すべし、凡て全部或は分期發行債券の數目及其時期並に前渡金臨時籌款の條件は應に廣益公司より政府に商明して規定すべし。

(五) 此項六百萬弗の債券額内に於て、或は以後繼續發行の債券額内に於て公司の購買するもの例へば銀行手数料並に經手費等は公司に於て負擔すべし。

(六) 本契約の効力發生するを俟ち、債券未發行の前にありては、公司是政府の爲に前渡金を準備し工事籌備の用となすべし。

(七) 公司与政府正式代表者と會商して以て債券發行の最善の時期を定むべく、政府代表は辦法を駐米支那公使に通知し、商定時期債券の如きを査照すべし、政府公司与商定し双方滿意の暫時籌款辦法を商定せる時は一切の條件は時に臨んで別に議すべし。

若し公司在債券發行條件を既に議妥せるの後、該項債券發售の通告未發布の前に、政治上或は財政上特別の搖動あり、金融市場に妨害を致し、金融市面或は中國政府擔保品の價值に妨碍を致し、此に因つて公司在定期に按照して債券を發行するも完全の効果を獲難しとなす時は、公司是政府に商請して時期について相當の延期をなし、以て契約の履行に利するを得、若し此期限内にありて中國の債券が前述の規定によりては上述の原因によりて發行する能はざる時は、政府は公司与双方妥議の上暫時籌款の方法を圖りて以て工事の中止を見ざる様にすべし。

(八) 若し特別の事故により債券發行、臨時前渡、前渡を實行する能はざる時は、公司在既に前渡をなし或は債券を發行して前渡を繼續する能はざる時には、則ち一年後に本契約の中止を聲明すべく、政府は三ヶ月内に總ての前渡金

或は總ての既發の債券及支拂ふべき利子を償還すべく、此手續を経たる後本契約は廢止して無効とすべし。

(九) 此次及其他發行の債券並に本借款債券發行の通告、其一切の内容は本契約特別の規定を経ざるものゝ外は、公司と駐米支那公使と商酌規定すべし。

第二條 (一) 此次發行債券の利子は年利七厘とし債券記載の日より起算し、發行の日より每半年毎に利子を支拂ふべく、本契約篇後の規定により辦理す、凡そ中國花旗銀行にあり未だ拂出さるる預金に對しては時の利率を附し、米國にありて未だ拂出さるる餘款には年利三厘を附す。

(二) 本工事の督辦派定以後は公司即ち該前渡金並に發行債券の收入を運河水利の口座の下に撥存し、需用の多寡により花旗銀行より隨時中國に送りて存放す、若し工事を行する時は天津又は上海の花旗銀行に爲替して運河水利の口座に預入し、六ヶ月間の預外の經費に充つ、其豫算數目は技師長と工事受負技師と商議の後督辦の核准を得て規定し此後毎月繼續送金し、中國花旗銀行をして常に六ヶ月間の用款を存有せしむ。

(三) 工事經費を工事施行地點に置くには、政府指定の中國の確實なる銀行に預入して之れを經理すべし。

(四) 本借款に關しては何種性質の金員に關するを論せず米國より支那に、支那より米國に、及支那に於て往返する一切の爲替料は政府に於て擔任して兌換費内に包括せしむ該項兌換費は或は送金の日に於て折算し、或は送金前に於て折算する等均しく政府と花旗銀行と商定す。

(五) 工事時期以内にありては政府は應に常に工事受負技師をして工費を有せしめんが爲に、本契約内指す所の工事費を備へしむべく、技師をして毎月末一週間前迄に來月工事受負に要すべき費用の大略を豫算せしめ、督辦を経て技師長に交し其許可を得たる後、總稽核より之れを付給すべし、如し其手許に餘款を存する時は之れを差引くべし、受負技師領款の後は第六條の規定計畫並に所訂の辦法に照して總工程局必要の經費を支拂ふべく、該局金計科をして掌理せしむべし、毎來月必要經費の豫算は總稽核と受負技師との同意を経て總稽核より督辦に呈し其許可を得て後受領すべし。

(六) 總工程局運河水利局と受負技師とは平時均しく正當合式の簿記を用ひ英文を以て記帳し出納金員は詳細分項記帳し双方隨時帳簿を檢閲するの權あり。

東亞同文會編纂

最新版

支那關係

特種條約彙纂

正價金四圓

送料 内地十二錢
支那鮮四十錢
總本製紙箱入四六版
總六號七百五十頁

最近迄 支那

關係の各種條

約を網羅す

支那と列國との特種關係・支那に於ける列國利權・支那の國際上の地位悉く本書にて明瞭

東京市赤坂區溜池町二

發行所 東亞同文會調查編纂部

電話 芝一二一四番
振替東京九七三〇番



英國の對支政策 (五) (完結)

ブ ラ ン ド

土耳其及び支那に於る共同投資の比較

東洋の時局を觀するに、土耳其に於る共同投資及び世界政策の制度並に其結果と支那に於る其れとは、而して是等災厄絶ゆることなき兩國の現在の不幸に對して、共同投資及び世界政策の兩者が如何なる程度までに因果關係を有するかは頗る教訓に富める對照なり。支那の四國鐵道財團とバグダッド鐵道兩者の歴史は、確かに共通の特色あり、之を能く研究せんか、將來の爲めに、國民の輿論を指導し、其の道義的觀念を振起するに資すること、蓋し少からざるべし。

支那及び土耳其兩國に於る列強の經濟的競争は兩國不安の慢性的原因なりしことは否むべからず、而して支土兩國に於る獨逸の聰明にして科學的組織を有する方針は能く國際的財政を支配することを得たること、即ち英佛兩國の大資本が共に獨逸の政治的目的貫徹の爲めに利用せられたることも亦明かなる所なり。英佛兩國の政策を失敗せしめたる原因及び英佛兩國の修好的協商よりしてコンスタンチノーブルに於る凡ての實際的價值を剝奪せる原因（即ち小亞細亞に於る獨逸の鐵道計畫に對して佛蘭西の資本の實際的援助を與へたるものはれなり）と、中央支那に於る鐵道企業に關して、英佛兩國の威名の恥辱的失墜と兩國の失敗を招來せる原因及び支那現存の政治的不安の直接原因とは

其の性質及び其構相の趣全く相等しきものあるを見る。以上兩個の場合に於る獨逸の成功せる原因は、英佛兩國の政策は共に、私利私慾を事として、何等愛國の國家的觀念を有せざる國際的財務家の爲めに常に謬まられたるに反して、獨逸の政策は其の財政的、產業的及び政治的實力を其の豫定の目的即ち専ら獨逸國家の目的の爲めに、相互に緊密なり對等關係に於て、巧みに指導せることに歸するなり、殊に小亞細亞及び極東の地方即ち經濟的發展の將來が、政治的利權伸張の程度如何に依る是等の地方に於ては、獨逸の財政的活動は其性質上根本的に政治的にして其計畫遠大なり。故に吾人は支那に於て、獨逸銀行の事業が支那官憲と密接なる關係を有するを見る。而して同銀行の事務は、外交官若くは領事官の選拔者、即ち私利私慾よりも祖國を重じ、且つ彼等と反對の見解を有する即ち國家よりも自己の私利私慾を重しとする者と關係して、之に利を以て喰はすの却つて捷徑なることを熟知せる人々によりて運轉せらるるなり、而してコンスタンチノーブルに在りては、獨逸資本家の普遍的活動は、其の大使館によりて指導せらる。又獨逸は日本と同じく、戰略的に重要な所を獨占することに注意を怠らざるが故に、元來は露西亞の發明に懸る近代の國策たる、鐵道及び銀行により侵略政策は多く獨逸人に依りて完成されつゝあるなり。重要な多くの中心に於ける、獨逸の有する實際的勢力の大部分は、放任的英國財政政策並に巴里に本部を有し、各主要地に支部を有する佛蘭西の頑迷なる財政的四海同胞主義の缺陷を利用して得たる

所の利權に由來するものなり。一九一一年末佛蘭西のカイヨウ及びメシノーと獨逸財政家との關係、並に亞弗利加のカメルン地方と經濟的從屬の關係を有する地域に於る佛蘭西の政治的地位に關して彼等が協定せし結果は、國際的共同投資の多くの事象中の一を力説するに過ぎずして、若し之に何等の制禦を加ふるなしとすれば、自然利益問題の爲めに謬まらるゝに至るなり。

The French Congo Company of 'La Forestiers' group を動かしたる本能、即ち些々たる利得及び配當金の爲めに、佛蘭西の名譽と政治的地位を賣らんとする頑迷なる態度は第一次バグダッド鐵道借款のグラールスシンデケート及び彼の英佛共同の財團の兩者に於て、自己の欲望を満足せしむべき相棒を發見せるなり、後者の如きは、北京に於る英佛兩國の外交的努力を忽ろにし、揚子沿岸鐵道借款に獨逸を加せしめたる大責任を有するなり。

現下の形勢の危險なること及び英國の孟浪杜撰なる方針の危險なることは、獨逸及び日本の財政々策を注意する人にとりては明かなる事實なり。譬へば、如何なる財務家の集團も、其の傾向に於て「コスモポリタン」的なるにもせよ、英國若くは佛國の政治的企圖を進捗せしめんが爲めに獨逸の資本を支配し利用することの不可能なることは想像にも及ばざる所なり。伯林の霧圍氣なるものは、上述の如き思想發生の地としては極端に不健全なり。獨逸政府の指導保護の下に活動しつゝある獨逸の銀行が、其動機が無頓着なるより來るにせよ若くは又利害關係より來るにせよ、

獨逸の製造業者及び貿易業者の利益を毀損するが如き行動に其身を投すべしとなすか、チュートン民族の理性は斯る思想を排斥するなり。佛蘭西には嘗て斯る状態存在せしが官憲の支配權を以て敢て之を爲せる點に於て頗る著名なるものにして、實に大藏大臣は其支配權をば、外國に於て佛蘭西の資本を使用する場合より以上に、庶民の貯蓄金及び産業の利益の爲めに之を行使すべきものたるなり。佛蘭西の取引所の株の相場が政府の好意及び權威に従屈して上下するが如き制度なるを以て、佛蘭西資本家の資金が、國民の政治的並に商業的利益を阻害するが如き目的のために使用さるゝが如きは、全く關係政府當局者の無智蒙昧なるに據るか、若くは彼等の共犯に基因するものなりとす。取引所支配權なるものは攻撃防禦の一武器にして、若し之を聰明且つ愛國的に使用せんか、國家武裝上の最も有力なる武器の一たるべし、國際政治に於る最近幾多の事件は取引所支配權が保護的實力を有するものなることを立證せり。翻つて英國に於る、其外務省とロンバルド街との從來の關係を尋ねるに、其は組織なく確實なる智識なく、永続的政策を有せずして自由貿易主義の爲めに昏迷せし、不確實なる熾變的「タイプ」のものに過ぎざりしなり。英國の對外關係に於て、何時如何なる場合にドーニング街がロンバルド街を指導すべきか、若くは之と反對にロンバルド街がドーニング街を指導すべきかを適確に豫言することは不可能なり。斯くの如き状態なるを以て、伯林に對策の本部を有する國際的一財團が此處に其の乘すべき機會と及び其報酬と

を求めて而して發見するを得ずとすれば、天下此より不可思議の事なからん。

カイヨウ内閣の瓦解を餘儀なくせしめたる原因の啓示によりて、英佛兩國國民は一般に、英佛協約の目的とする所が所謂高等財政なるもの、無制限的活動によりて脅かさるゝの危険に就きて注意するに到れるが故に、國家的活力たる國民の富を處理するに當りて、獨逸人の熱慮及び其諸勢力を適當に配合せることを學び之を活用することは確かに望ましき事なり。今日の如き紛亂の時局に際しては、近東及び極東の財政問題に關して英佛兩國政府が相互に明快なる了解と聰明なる共力を爲すこと特に緊要なりとす。

日英同盟

英國の對支政策の研究を結論するに當りて、吾人は日英同盟に就きて一言せざる能はず。英國人の見解よりすれば一九〇二年の日英同盟の締約は、露西亞の北支那侵略を阻止し、該地方に於る英國の商業的利益を保護せんが爲めに企圖せられたるものにして、賢明にして必要なる手段たるを失はざりき。即ち是れ聰明なる先見の所産且つ大膽なる政治家らしき見解にして、能く其目的とする所に副ひたり。(同く、後二年にして、吾人は、印度西藏國境方面の形勢の逼迫せるに就き、聰明なるも而かも短命なる觀察の下に活動せり。)日本の見解よりすれば此種の同盟は當時の彼に取て必要なものなりき。當時聖彼得斯堡に在りし伊藤公が將に露西亞と盟約せんとせし時、桂公及び小村侯の上

奏に依り、日本皇帝が是の事に干與せられ、伊藤公に、當時倫敦に於て英國と同盟の交渉中なりし林伯を援助すべく命ぜられたることは公知の事實なり。斯くして成立せる日英同盟は確固たる目的を有する實際的のものなりき。從來日本の對外政策なるものは何等感情的分子を含まずして、日本の政治家は最初より、大強國間の條約協商なるものは、之を地理的に觀て重大なる作用を含み、且つ政治家の將來の企圖を藏するに足る（而して是等を妨害する能はざること）を熟知せり。一九〇五年八月、即ち亞米利加合衆國ポーツマウスに於て日露媾和條約の進行しつゝ、ありし當時、ランズダウン卿と林伯との間に日英同盟の改訂を協議せられたるが、同盟の本質なる鹽分は既に其の味を失ひたり。日英同盟は其の第二回の改訂によりて、或種の過發事件に對する攻守同盟と成りたり、而して此の過發事件なるものは當分暫く發生の見込みなきものなり、即ち今時の盟約は露西亞の敗北に依りて根本的に變化せる狀態の重要な事實を無視せるものなり。世には日本は、「支那帝國の獨立保全」の爲めに、而して支那に於る諸國の商工業上の機會均等の原則を擁護するために、戰爭の犠牲を拂へるものなりと信ずる好人物あらんも、然り確にあり、日露戰爭は日本の經濟的壓力の必然的結果にして、且つ日本は、長城の北に人口稀薄にして豐饒なる地域に於る露西亞の領土的野心と相爭へるも、皆此の經濟的壓力に依るもの、即ち稠密なる而して重税に苦みつゝある日本國民の爲めに其發展の門戸を與へんとする止むを得ざる必要に因るものなるこ

とは、凡ての實際的政治家及び經濟學者の知る所なり、ヘーイ氏の「門戸開放」協定が露西亞の侵略を阻止したる以上、ポーツマウス條約若くは其他の條約によりて、無援積弱の支那を保護し得たるものと爲すは無稽なり。日英同盟の改訂は、異りたる政策、及び目的を明示する狀態に於ての利益の均等を豫想せるものにして、爾後間もなく北京に於て締結せる日支協約も亦如上の事實を立證するものなり。其地理的形勢の優勝なると而して新しき軍事的威名とに依り、日本は北京に於て重要な政治的要求を贏たるのみならず、又日本は全支那に於て、歐洲諸國（日本の同盟國をも含む）との商工業上の競争に成功せることを得たり。日英同盟の精神的義務及び其他の義務は、嘗て露西亞が侵略を取てせる時に、最も強硬なる反對を惹起せるが、日本が之と全く同様の行爲を爲すに當りても、英國をして之を否認する能はざる狀態に陥れたり。ポーツマウス條約が滿洲に於る支那の主權の尊重等の重要な條項に關しては、全く死文同様なることは最初より明かなりき。之を譬へば、一九〇九年十二月英國上院に於て、アール、スタンホープが『支那政府が滿洲及び蒙古の發達の爲めに探らんと欲する手段に關して、日本政府が之を拒否し得べき地理的限界を決定すること』を英國政府は必要と認むるや否やに就き質問せるとき、アール、オブ、クルーウエは斯る「デリケート」なる質問を提出せざらんことを望み、且つ斯る事項は日支兩國政府間に於て協定すべきものなることを陳述せり。支那の保全を保障せるポーツマウス條約及び其他凡て

の條約協定も、韓國の保全を保證せる諸條約より以上に、何等の効力は有せざるものなることは一般の默認する所なり。英國にして若し其同盟國の凡ての行動に同するものとするれば、こは實際的利益の問題としても、國家的尊嚴の問題としても亦、日英同盟の改訂は望ましからざるなり。日英兩國政府の面目は、從來屢々信實並に相互の信頼を宣明せることによりて保存せられたりと雖も、ポーツマウス條約の精神同様に、改訂日英同盟の目的も亦終局に於て、各國民の政策を支配すべき自己保存の本能に反し而して進化の根本法則に反するものなりとの事實は嚴存するなり。敢て之を嘲笑するに非るもポーツマウス條約日英同盟の兩者は、日露協約の締結に依りて不用のものとなりしやせり、斯くて終に伊藤公の爛眼は立證せられたるなり。

之を概説するに近代國家の凡ての政策は、其の學理の多少如何に拘らず、皆經濟的壓迫によりて創造せられたる重要問題を反映するものなり。斯くの如くに考ふる時は、現在の日英同盟の目的は、亞米利加合衆國のモンロー主義若くはパナマ運河政策と等しく、其前途に横はる否むべからざる事實を婉曲に逃避するものと謂ふべし。日本に關する問題は暫らく之を措き、同様なる筆法を以てすれば、英國極東政策の最近の實跡は、英國政府の社會主義者及び労働黨の偏執觀を反照し、且つ英國内の經濟的壓迫によりて生れたる新問題と帝國政策及び外國市場との直接關係を了解する能はざる選舉民の無能力を表はすものなり。何等反抗の氣聲無き斯る狀態の下に於て、例ひ過去に於て英國が宣

明せし凡ては抱負に反するものなりと雖も、「切觸すべき諸點」を減少せんとする傳統的傾向は現今に於ては否定すべからざる引力を有するなり。アングロサクソンの精神は徐徐として其の環境の變化に適應する力あり、即ち其の變化の漸次的なる時に當りては、確實性を増進するも、其の變化の複雑急劇なる時は却つて脆弱性の根源を培ふに到るは是れアングロサクソン民族の特質なり。國家存在の一條件たり兵役義務の必要を未だ悟らず且つ自由貿易なるもの、消滅既に久しきに拘らず、尙も自由貿易の可能を盲信するが如き一國民に對して、走馬燈の如くに變化する極東の諸事件の眞意義を會得することを期待するは不可能なり。國家的重大事件に對する國民の輿論を指導するを任務とする政治家及び政論家が、支那の紛糾錯雜せる事件及び其の貓眼の如く變化極りなき情勢を達觀して、如何なる點に於て英國の利益が最も多く脅かされ易きかを會得すること之を譬へば短日月なる南方のポイコットに因る犧牲よりも、清朝政府を維持するの得策なることを會得すること、更に、國際的財政の陰謀に加はるよりも、英國の政策を確立する（例ひ缺陷を有するにもせよ）の有利なることを會得すること、是れ吾人の彼等に期待し得べき最善の事なりとす。日露兩國をして獨逸世界政策の軌道に汲引せしめざるが爲めに、英國は日露兩國が支那に於て如何なる侵略行動を敢てするも、其の何れに對しても、之に反對することなかるべしとは、東京及び聖彼得堡の最も皮相的觀察者にとりて最初より明白なることに相違なし。此の中心的事實は明

白なるものにして、且つ其結果は必然的に峻酷なるものなり。例ひ然りとするも、從順に吾人の戰略的地位を放棄し若くは徐々として敵國の掌中に陷るが如き必要毛頭あるなし。況んや、日露協約なるもの、到底極東問題を解決する能はざること、尙日英同盟の之を能くせざると相等しきに於てをや。

“Recent Events and Present Policies in China,” (1912)
by J. O. P. Bland.



寄贈書目錄

遠東時報	遠東時報社
新著書	丸善株式會社
貿易通報	大阪商業會議所
通商公報	外務省通商局
日本及日本人	政教社
東洋經濟新報	其社
ヘラルドオブアジア	其社
實用新案公報	特許局
朝鮮彙報	朝鮮總督府
調查資料	臨時產業調查局三四部
貿易	大日本貿易協會
月報	青島實業協會
商標公報	特許局
山林公報	農商務省山林局
特許公報	特許局
地學雜誌	東京地學會
岐阜商報	岐阜商業會議所
自然と人生	政教社
國際法外交雜誌	其社
臺灣商工月報	臺灣總督府
東京經濟新報	其社
日華之實業	其社
日本及支那	日支時論社
報德	其會
比律賓ニオケル、眞珠貝、椰子、水稻、東洋拓殖株式會社	

世界的支那問題と其解決案 (三)

六、世界的支那問題の解決案

- (一) ロバートハート氏の所説 (二) 耶蘇教の普及を促進すること
- (三) 科學の應用を普及すべし (四) 馬來群島に科學と耶蘇教を普及すること (五) モンロー主義の擴張 (六) 合衆國移民問題の解決 (七) 耶蘇教的行動と利他的勤勞の實踐 (八) 國家主義と耶蘇教主義
- 七、世界的支那問題の解決と合衆國の政策
- (一) 合衆國東亞政策は此主義に合致す
- (二) 合衆國の軍備擴張と耶蘇主義

六 世界支那問題の解決案

(一) ロバートハート氏の所論

サー、ロバート、ハートは支那に在ること四十年、銳意支那の改革に腐心して、人類の爲に一大貢獻をなしたりしが、氏は即ち現今支那人の心裡に普く潜在する、排外的思想は、實に人類に對する一大危險なることを、確信せし一人なりき、蓋氏は、堅忍不拔の精神を有し、祖先傳統の慣習に没頭しつゝある四億萬の民衆は、今日白人種が激發しつゝある、激烈なる人種の偏見の影響を蒙りて、漸次現在の平和的性質を一變し、遂に好戰的國民と化し、其結果白

米國宣教師、ゼー、ダブルユー、バツシユフオード

人種に對する復讐的行動に出づべきを憂慮したるに因る。而して氏は、白人種の抱懷する支那問題の解決方法に、二方面あるを指摘して曰く、「今日白人種の實行せむとする、支那問題の解決方法二あり、一は即ち支那の分割にして、他は即ち支那に於ける耶蘇教の大々の普及なり、而して前者は其實行絶對的に不可能なるに反し、後者は必ずしも不可能なるに非ずと雖も、宗教の普及に依り、支那人を感化して、最も親善なる友邦國と爲すが如きは、實際上到底麻痺し得べからざることなりとす。」と。

吾人は以上論する如く、世界的支那問題の重大なるに鑑み、之が解決方法として、左の事項を提案せむとす。

(二) 耶蘇教の普及を促進すること

惟ふに耶蘇教の普及は、支那兒童の教育普及を確實ならしむるものにして、其結果支那國民の啓發を速ならしむべし。加之之が爲に學校の設立を促すべきが故に、從來支那人を圍繞せる陰鬱不潔なる生活狀態を改善して、快活清潔ならしむるを得べく、即ち、耶蘇教の普及は自發的に、支那下層階級の生活程度を向上し、之をして歐米諸國の勞働者階級のそれと、同等ならしむべきが故に、之に依りて世界の貨銀を平均するを得べし。

更に耶蘇教一度普及するときは、支那從來の祖先の祭祀に關する迷信漸く衰へて、子孫を重要視すること從來の如く甚しからざるに至るべく、他方生活程度の向上と相俟つて、出生率遞減の結果を生ずべし、是れ即ち將來黃人種が白人種に對する、壓迫力を減殺する有力なる手段なりとす。

(三) 科學の應用を普及すべし、

即ち科學の應用を國內に普及せしめ、其無限の富源を開發するときは、支那は將來其著しく増加する人口を優に國內に於て支持することを得べく、且支那人は極めて強き愛國心と愛郷心とを有するが故に、若も國內に於て愉快なる生活を樂み得るものとすれば、海外に移住を求むるもの極めて稀なるに至るべし。

(四) 科學の應用と耶蘇教とを馬來群島に普及すること、

馬來群島は日本、支那及び印度の移民に對する、自然的收容場なるが故に、此地方に對する此等國民の移住を排斥するは、蓋、不可能なるべし、故に此等群島に耶蘇教を普及せしめ、科學の應用を盛にして、其住民の間に歐米の文明を扶植すべく、更に適當の時期に至り彼等をして、自由に其政治的運命を決定するの、機會を與ふるを必要とす、此際彼等は、或は其現に従屬する合衆國、其他の歐洲諸國に對する、從屬關係を維持せむことを希望し、或は其母國たる日本支那及び場合に依りては印度に對して、新なる從屬關係を設定せむことを希望し、又は各自の獨立國を建設せむと、希望することもあるべし、就中彼等にして若も獨立國を建設せむとせる場合に於ては、所謂耶蘇教國は即ち

一面此新興國民の獨立を尊重し、他面彼等が眞に獨立國たるの事實を、適當に立證するの機會を供する迄は、他國の侵略に對して、之を防禦するの責務を有するものとす。

(五) モンロー主義の擴張、

南北米大洲の自衛上、現今のモンロー主義を擴張し、此兩大陸に於ける凡ての國家をして、之に加盟せしめ、合衆國と相提挈して此主義の維持に協力せざるべからず、而して對移民問題に關しては、締盟各國は他の締盟國が其採用せむとする對移民政策が、兩大洲全國家の自由と安全に、軋觸せざることを承認する場合に限り、其欲する所に從つて他國家との間に、移民收容に關する協定を、締結し得べきものと爲すべし。

(六) 合衆國移民問題の解決、

之と同時に合衆國は、ギューリック博士の提議せる方法を採用して、移民の入國を管理するを要す、即ち博士の提案は、合衆國が毎年入國を許可すべき一國移民の數は、現に合衆國に歸化在住する該外國人總數の、五パーセントを以つて限度と爲すべしと云ふものにして、博士の説明に依るに、此方法に依るときは、一方北歐よりの移民を増加して、南歐よりの移民を制限する結果を生じ、他方將來日支兩國より渡來すべき移民を極めて少數ならしむることを得べく、而も各國に對する取扱毫も不公平に失するの虞なく且之に依りて過去に於て合衆國に歸化すること極めて稀なりし國民の、我國に對する移住を禁止することを得べきが故に、我國に於ける外國移民の同化を、最も速に且確實な

らしむるを得べし。

故に合衆國は現今既に、極めて確實に、占領開發せられたる國家なれば、外國移民は之を絶対に禁止すべしとの、論據あるにも拘はらず、此對移民政策は、極めて安固にして且、合理的のものなることを主張せざるべからず。

(七) 耶蘇敎の行動と利他的勤勞の實踐、

世界的支那問題の解決方法中、最も必要なるは、即ち耶蘇敎の行爲と、利他的勤勞の實踐とに依り、東洋各國民をして、白人種は黃人種を開發指導するにあらずして、實に之が爲に役務を供與するものなることを、自覺せしむるに在り、是れ即ち、人類發達の法則と、生物の進化並に神の敎義に、共通せる根本的規範に、合致する所以にして、抑亦白人種の生存維持を確保する、唯一の手段たるなり。

然らば即ち、黃白二人種間の大問題たる、支那問題の解決方法は、白人種が如何にして黃人種より、剝奪せむかに在らず、如何にして之に與ふべきかに存す、換言すれば、一國一人種が如何なる程度に、太平洋を霸制すべきやの問題にあらずして、其他國家異人種に對する關係に於て、如何なる程度迄で、絶對的正義を支持し得べきやに存す。

惟ふに黃人種に與ふるに、世界に對する機會均等を以つてするときは、白人種の現に享有する特權は、それだけ制限せらるゝの、感なき能はずと雖も、冷靜に之を考察するときは、白人種の生存維持と、其世界に對する永續的、政治的並に道義的勢力は、實に彼等が黃人種に對して供與すべき、國家としての正義及び、耶蘇敎徒としての利他的勤

勞に、其基礎を有するものなることを理會し得べし。蓋與ふる者は與へられ、殉する者は復活し、更に愛する者は敬せられ、事ふる者は、事へらるゝとは、是れ神の理法なるが故に、吾人は唯有らゆる眼前の利己的野心を、拋棄することによりてのみ、能く永遠不滅の域に達することを得べし。之を國家人種に就きて見るも、正義と利他的勤勞とは實に人種の安全進歩に必要な原則たるに止らず、實に其存在の絶對的要素たるものなり、蓋、正義は永遠不滅なるが故に、之を基礎とする國家人種の存在は、亦永遠なるを得べく、更に利己的勤勞を以つて規範とするものは、即ち生物進化の法則と、神意の敎訓との合致するを得べければなり。

(八) 國家生活と耶蘇敎主義

吾人が世界的支那問題の解決に際し、耶蘇敎主義を以つて其基礎となせるに對し、淺薄の徒は乃ち曰はむ、「耶蘇敎の敎義は善且美なりと雖も、悉く妄想の產物なるが故に、之を以つて吾人の生活する現社會の、經濟的政治的實際に適用すること能はず」と。然れど此論の如きは耶蘇敎の眞諦を究めざる者の說にして、學者孰れも其社會に對する。密接の關係を主張す。經濟學の大家マーシャル曰く、「人類の歴史を構成せる二大要素は實に、宗教と經濟なり」と、ジェームス、アントニー、フラウデ曰く、人類生活の全體を通じ、一人の意思が他の意思と接觸する所、其正しき行爲の條件として、常に自己犠牲の義務あり、即ち、犠牲の法則は通常、義務の形式を以つて表現す」と而して支那に於ても亦此と同一の思想を存するものにして、孟子の所謂

「仁は性の本」と云ふは即ち此謂に外ならず。

惟ふに現下の歐洲大戰は洵に曠古の慘禍にして、今や歐米亞細亞を其渦中に捲込み、亞弗利加を震撼して、餘勢遠く全世界を戰慄せしめつゝありと雖も、是れ實に人類の愛國の犠牲の精神を立證する上に於ては、有史以來未だ曾て見ざる所の、壯烈なる試練なりと云ふ可し、見よ各國民は自己を没却し、家庭の享樂を棄て、其國難に殉じ、其國家の爲に命を殞すもの幾千萬なるを知らず。然れども之を他方面より見るに、現戰爭は即ち偽善的耶蘇教主義を奉持する現代世界の產物に外ならずして、彼等は即ち國家的權力を以つて、宗教の上に超越せしめ、人類全體の利益を無視して、専ら國家的野心の充足に熱中せしが故に、遂に現下の慘禍を招くに至れるなり。

更に廿一の米洲共和國が、結合して全米聯盟の基礎を定めたるは、一に政治上の必要に基くものなりと雖も、亦耶蘇教主義の實行たらずむばあらず、蓋「一國は全米の利害を念とし、全米は其一國の利害を念とすべし」との叫は、即ち耶蘇教主義の原則にして、又西半球に於ける政治上の必要なればなり。即ち國務卿ランシング氏の語を以つて云へば、「全米主義は即ち、四海同胞主義の表現にして、兩米大陸が此主義を實現せるは、是れ其將來全世界に實現さるべき前驅を爲すものなり」と。

是に依つて之を見るときは、夫の四海同胞の觀念を基礎とし、之に基いて全世界の國家を規律すべき、最高の使命を有する耶蘇教主義が、實に實行され得るものなるに止ら

ず、更に世界的大問題に對する唯一の解決手段たるべき時代は、既に來りつゝあるを知るべし。

世界的支那問題の解決と

米國の政策

(一) 合衆國の對東亞政策は此主義に合致す、

合衆國の支那を遇するや、常に耶蘇的仁愛の主義に基きたるものにして、之が爲に今日に至る迄、深く支那人の心服する所となりぬ。即ち米國宣教師は過去百年間、常に支那人の啓蒙と其生活狀態の向上の爲に努力し來り、他方合衆國政府は、或は支那労働者の賣買禁止、又は亞片輸入禁止等に關して、常に支那政府の方針を援助し、或は率先して其獨立と領土保全を確保する原則を提唱し、或は團匪事變の賠款未拂額を還付し、之を以つて遣米支那留學生の教育費用に充當し、更に支那に於て醫療事業を設立經營する等、各種の方法を以つて、其進歩發達を助成し來りたり。

此の如く合衆國官民は將來に於ても均しく、支那に對する役務を供與すると共に、更に日本に對しても亦、之と親善の關係を増進するが爲に、各方面に亘り各種の方法を用ひて、勤勞を供與すべきものにして、若も日支兩國の信頼する所となる場合には、我國の比島に對する政策の實行、亦極めて容易なるに至るべし。蓋此場合には比島人の心服を得べく、從つて今後一時代に亘りて、之が啓蒙指導に力むるときは、時期を見て其獨立を承認すとも何等の危險をも伴ふことなかるべし、而して此獨立承認の際には、比島

人の希望に依り、或は全然獨立國として之を認むべく、或は一時我國と同盟關係を設定するも可なるべし。

然らば即ち合衆國は將來、軍事的征服政策に代るに、利他的勤勞主義の政策を創設すべき地位に在るものにして、而も此政策は軍事的征服政策に比し、僅に其千分の一の費用を以つて、之を實行するを得べく、且其結果より云へば貿易の伸張に於て、戰爭の回避に於て、更に著しく人道的なる等の諸點に於て、其價值遙に大なるは、何人と雖も、之を否定すること能はざるべし。

此く論じ來れば、合衆國政府が將來太平洋岸に於て、正義と利他的勤勞とを根柢とする、新時代の外交政策を創設する自信を以つて、現に其對外政策の實行に腐心しつゝ、ありと云ふは、必ずしも不當の言にあらざるを知るべし。

(二)合衆國の軍備擴張と耶蘇教主義、

國際關係に於て耶蘇教主義の實行を主張するときは、之に關連して必要起るべきは即ち、合衆國軍備擴張の可否に關する問題なりとす。惟ふに國家が専ら侵略の目的を以つて、其軍備を擴張するは、極めて不當なること勿論なりと雖も、而も耶蘇教主義は、一面無政府主義を認容せざると同時に、他面國家の兵力行使を排斥するものにあらざることを、記憶せざるべからず、即ち國家は教會と均しく、神意の創造に成るものなるを以つて、其存立維持の必要上國內及び國際間に於ける、秩序の破壊を防止救正するが爲に十分なる兵力を備へざるべからず、而して大統領ワシントン氏が、一七九三年十二月三日、議會に對して宣言せる所

は、此問題の解決に關し、好例の指針を與ふるものなるが故に、左に之を摘録せむ。

「余は茲に合衆國が他國に對して有する義務の履行方法に就きて、諸君に提示する所あると同時に、我國が一面自國の防備を完成すると共に、更に他國の我國に對する義務の履行を強制し得べき地位に立つの必要あることを力説せざるべからず。蓋合衆國が、徒に人事の常態に逆行し、各國の歴史上屢有るが如き、兵力使用の緊切なる要求に對しても、永久に之を等閑視するものなりとの、主張に没頭するが如きは、吾人の探らざる所なりとす、何者、合衆國が當然有すべくして、而も弱國の名あるが爲に、假令全然喪失せずとも、一時拒否せらるゝが如き地位あるを以つてなり。即ち、吾人は他國の侮辱を免れむとせば、必ず先づ之を排除するに足る實力を備へざるべからず、又漸次向上しつゝある我國隆盛の有力原因の一たる平和を確保せむと欲せば、必ず先づ吾人の戰備常に成れることを知らしめざるべからず」と。

結 論

今や吾人は歐洲大戰の慘禍を見聞するも、戰後に於ては各國が更に戰爭に因る經濟的打撃を回復するが爲に、死力を竭して相角逐するを見るべし、然し而して此經濟戰の後に来るものは即ち、黃白二人種間の競争にして、現代の國家は既に此人種に向つて籌遂せるなり、之を救正指導するの途は唯、耶蘇教主義の實行に在るのみ。(完)

支那に於ける英吉利人と獨逸人(二)

デツニス、ケル、モツス

香港に於る敵國商館の

清算と其結果 (下)

前述の實例によりて吾人は、獨逸商館一般の通弊が、利益の有無如何を問はず、單に賣上高の多額ならんことを欲するに在りしことを知る、而して斯る思想の顯現せる實例は頗る興味あり、教訓的のものにして、如何にすれば取引を爲し得べからざるに到るかを示すものなり。多數の雇員を有し、世界的なる大取引關係を有する一獨逸商館の如きは其の一ヶ年の利益金は僅かに賣上高の約一、五パーセントに過ぎずして、而かも、其利益金なるものは其中より商館の支配人の取分と金利を控除せざるものにして、此利益金の約大半は實に此の獨逸商館が其英國保險會社の代理店を勤めて得たる所のものなり。本商館は嘗て其の經營宜しきを得たるを以て、其各部門皆相當の利益を挙げ得たるも、遂に唯取引額の大を競はんが爲めに無用の爭奪を事とし、爲めに最も利益ありし取引をも、年々不利の状態に陥らしめ、事實上に於て破産の止むなきに至りしなり。

他の一獨逸商館は、數年前支那政府との取引契約によりて多大の利益を收めたり。然かも、其時以來該商館は外觀

の偉美と奢侈なる經營法によりて、前述の利益多き取引を繼續せんが爲めに、其利得金を悉く使用せる爲め、清算の結果は、該商館は既に破産の状態に在りしことを明かにせられたり。

更に他の一例を挙げれば、獨逸商館中其の規模の最も大にして、偉大なる勢力を有したる一商館の如きは、清算開始の當初既に局部的に全く破産の状態に在りたり。

此商館も亦多額の取引をなせる多數の有力なる代理店を有したるも其營業者の支出に就ては系統と秩序なく、而して又結果の如何を顧慮せずして單に外觀の大と賣上高の多額ならん事を欲する一般當時流行の思想の犠牲となり、さしも多額の利益金も投機的事業の失敗によりて前者同様痛ましくも蕩盡するの已むなきに至れり。

敵國民が其政府より直接に補助金を受け居りしや否やを確むるの困難なる事は吾人の曩に説明せし處なるが、今や吾人は珍妙なる二、三の實例を挙げんに獨逸人が政府より間接に補助金を受け居りたるは明かなる事實なりとす。獨逸人が自國の染料製造業者より十パーセントの高額なる手数料を取りたることは、一、二に止らず。著者は獨逸染料製造業者が英國商人より同額の手手数料を強要せられたるこ

とを知るも、末だ同額の手數料の英國商人に與へられたる者あるを聞かざるなり。更に英國商人は獨逸商人の得る利潤の半額を獲るを以て満足せんとしたるも、然かも英人の努力は常に各方面に於て拒絶せられ、或は阻碍せられたり。

他の一獨逸商館は獨逸及び其他の船舶の代理店を務めて、多額の手數料を受けたるが、是れ固より其自體に於て何等異論を挿むべきものあるなし。多くの獨逸の英國船舶代理店は亦獨逸人の企望以上の良成績を收めたり。然れども是等の利潤多き代理業によりて獲得せる利益金を利用して、他國人の事業を詭計を以て覆滅せしめむが爲めに、先前以來吾人の詳述せるが如き兇暴なる條件而かも事實上の損失を意とせずして、只管船舶業以外の他の事業を爲さむとするに至りては、這般の事情決して單簡にあらざるなり。之をしも補助金商業とするに非れば、吾人は其の何物たるかを想像するに苦まざるを得ざるなり。

右の例は、商業上に於る獨逸人の一般的精神を現はす典型的の實例なり。獨逸商人の取引高は累進的に増加し、一時之を維持し得たるも之によりて、何等利する所なかりしことは、殆んど凡ての獨逸商館の報告帳簿之を語りて除蘊なし。獨逸人の或者は小心翼々として其の帳簿を保管するに卑怯の態度を現はし、或者の如き恥辱的行爲をさへ敢てせり。されど少數の小賣商店を除けば、彼等獨逸人の商業なるものは、如何なる障害をも顧慮することなく、唯單に他國人よりも廉價なる賣捌を爲すことに腐心せるものゝ如し。某々商館の如きは經濟上に於ては破産の状態なりしも

其の大部分のものは極めて熾奢なる經營法に依りたり。若し是等の商館にして、損失を顧みざる一にも販賣、二にも販賣、三にも販賣といふが如き病症に感染することなかりせば、多少の利益を擧げ得しならむ。

商業資本を獲得せんが爲めに殆んど凡ての獨逸商館が不正なる手段を用ひたるにも拘らず、其結果たるや前述の如く慘憺たるものなりき、是れ當然の報償ならんばあらず獨逸人の見解よりすれば、商業とは單に賣上高を多くすることの別名に過ぎざるべく、凡て他國人の商業を驅逐せんとする焦慮と唯物主義とにより、獨逸人が契約文書を單に『一葉の紙片』に過ぎざるものなりとする常習的詭計を敢てするも決して驚くに足らざるなり。獨逸人の商業の大部分は、虚偽なる口實の下に、倫敦の銀行業者より借入れたる資金によりて營まれたり。尤も獨逸人が彼等の不信行爲の責任を轉嫁せんとする是等の倫敦銀行家の多數は獨逸種にして、多く獨逸人の勢力圏内に在るものなれども、是等の銀行業は、國別の如何に關係なく、彼等の利害關係を全世界的に考慮せざる能はず、而かも彼等銀行業務者が獨逸人によりて利用せられ、且つ彼等は非常なる危険を冒しつつあるものなることに思ひ至る能はざりしに似たり。此の資本獲得の不正手段は左記の如く單簡に之を叙述すべし。

先づ、マンチエスター商人と香港に於る獨逸商人との取引關係に於る實例を擧げんに、從來貨物はマンチエスターより香港に對して賣捌かれたり。此の場合に於てマンチエスター商人は六ヶ月拂の手形を振出し、倫敦の一銀行業者

は、該貨物の積荷證券と其他の證書と引換に該手形を受取り、斯くてマンチエスター商人は該手形を割引して、其貨物の代金を受取るなり、如斯にして、倫敦銀行業者は該積荷證券を香港に送り、之と引換に、香港の獨逸人よりして、該貨物の賣却により獲得すべき利益金を交附すべく且つ如何なる場合に於ても該手形の満期日前に送金すべき約定書を受取るなり、之によりて、倫敦銀行業者は自己の收支を相償はしむることを得るなり。若し如斯順潮に運ぶことを得ば可なれども、獨逸人は、約定書に署名し、諸條件に同意を表したる後、誠實に其の利益金を銀行業者に對して拂渡すことなかりき。例外なく彼等獨逸人は其利益金を彼等の營業上に使用して其の信用を破棄せること、其の本質に於ては屢々本國に於て法廷の問題となり、多く峻嚴なる刑罰を科せられたる諸事件と何等異なる所なかりき。倫敦銀行業者の獨逸人に對して措ける信用は尙も破壊せられたり、何となれば、彼等は、本國の得意先に對して、長期にして且つ危険なる信用貸を爲さむが爲め、前述の經濟的權能を利用せるを以てなり。倫敦銀行業者を一方なり順々に伴り利用することによりて、獨逸人が繼續的に多額の英國資本を獲得したるは自ら明かなる所ならん。如斯取引上最も不正なる手段を利用するに際しても、不斷に定時の積荷を手することは彼等にとりて必要缺くべからざることとなり、是れ、即ち不利益なる條件を以て爲替を確保せんとする彼等の無謀なる焦慮を立證するものなり。

他の方面に於て獨逸人の採用せる方法も等しく皆妨害的

不正のものなりとすると若くは獨逸人は英國人の採用せる方法を蔑視せりとなすとは何れも公平を缺くの嫌なきに非ず、著者が其の清算に預りし獨逸の一商館が營業の一部として經營せる保險業の實際を詳察して驚愕せることは、該保險業者が嚴正なる意に於て合法に行はれたること、而かも彼等の矯語にも拘らず、其實際は殆んど滑稽的のものなりしことと是れなり。吾人の詳説し來れる獨逸人の詭計は獨逸の諸保險會社を犠牲に供して迄も遂行せられたるの一事は注目に値す。更に他の一例を按ずるに、清算人は、獨逸人が鋼鐵業に關する契約を獲得し、而かも、秘密にして、全く不法なる手數料を支那人に支拂ひたることを發見して（該支那人は斯る手數料を受取るべき何等の職業を有せざるものなりき）驚異せり。該清算人は一商人にして、前述の鋼鐵業の契約に對して、提供金を差出して失敗せるものなりしを以て、彼の驚きは想察するに餘りありと謂ふべし。此種の性質の小事件は枚舉に遑なき所なるが、獨逸人は、英國人の採用せる經營法に就きて少しく檢索し且つ英國人は此方面に於ては決して狹量なるものに非ることを學ぶべかりしなり。

清算を速かに終結する能はざりしは、一般人の頗る堪へ難しとせる所にして、此の事たる屢々議會の問題となり。商業界に於ては一般に、清算の完了前に戰爭の終熄を見るに至るなきやを危惧せり、即ち其結果は、獨逸人は戰爭終熄するや直ちに彼等の本據に歸り、傍若無人の振舞を以て吾人の勢力の覆滅を策すべきを以てなり。若し戰爭が今日

まで繼續せざりしならんには、此事或は實現せられ、敵國民は再び此地に歸來して、舊の如く彼等の事業に従事し、彼等の商標を維持し、自國人たる彼等の販賣人、書記、及び助手等を雇用し得たるやも未だ知るべからざるなり。

清算開始の時期遅かりしを以て、幾何程度まで彼等の財産を上海又は其他の中立國の開市場に移送し得たるやを明かにするは不可能なり。戰爭勃發の當時に於て、政府は此の種の事態の惹起するを防止せんが爲めに種々手段を講じたるも果して此等の手段が完全に徹底せるや否やは明確ならず。

新嘉坡の清算に於ては、如上の防禦策は香港に於るよりも寧ろ嚴格に施行せられたり。然れども、新嘉坡に於る所謂獨逸商館は事實上に於て英國の支配下に在りしことは了解を要す。其大部分の商館は數年前に設立せられ、英國に歸化せる獨逸人によりて經營せられたるものなるが故に、新嘉坡及び馬來半島に於ける清算は香港に於けるが如き大規模のものに非らざるなり。

然れども、香港の英國清算人は、其清算事務を一九一五年未まで悉皆完結せしむる爲めに政府より、一層多くの權力を附與せられんことを希望せしは事實なり。獨逸人が巨大なる取引關係を有せしこと竝に英國の諸銀行が多額の獨逸の株券を所有せしことより觀察するも、一ヶ年より短日月の間に清算を完了せしめむと企つるが如きは、香港殖民地の一般商業上に憂ふべき影響を與ふべきや論なし。斯くの如んばマンチエスター及びブラッドフォードの商人は悉く

開店の止めなきに至りしなるべく、且つ商業上各方面に困厄と不便を醸したるなるべし、英國の銀行は多大の損失を招き、商業界は甚しき破産状態に沈淪せしならむ。英國商館及び其小賣商店の大半は長期の信用貸に依頼するの止むなきに到りしならむ、此長期の信用貸は獨逸人の能く慣用せし所なり。極めて短日月の間に支那人が其の商業を恢復したるは顯著なる事にして、支那人は獨逸及び英國の商館に對する未償還の負債を皆済したるのみならず、彼等は今や現金制度によりて、商業上の活動をなしつゝあるなり。獨逸人が再び香港に來りて彼等の事業を恢復せんとしつゝ、あるを英國商人が之を注意せざるに到りては豈に驚くべきに非ずや、而かも況んや獨逸人が、例ひ永年の苦惱に基くとは云へ、再び彼の有害なる信用制度を復活せしめむとするの勢甚しきものあるに於てをや。

獨逸商人の不可思議なる心理狀態を窮明することは餘りに複雑にして、之を分類すること困難なり、若し香港に於る獨逸人にして他國人を驅逐せんとする野望を遂行する爲めに一層の團結を爲し、利益の獲得の爲めに彼等の協力と智識を更に活用せしならんには、既に極東に於る英人竝に其他の商業上の利益を甚しく脅威せしに相違なかるべきは吾人の認めざるを得ざる所なり。清算の結果は、獨逸人は、如何はしき不器用なる方法を以てして、尙且つ當然英國人の掌中に改めらるべき貿易上の大部分を支配し居りたることは明かにして、若し獨逸商館にして、而かも將來國別の如何を問はず、彼等の眼前の競争者を一掃せんとす

る熾烈なる慾望を有せずとすれば、今日に於て其の對抗策を講ずるが如きは、時機既に晩しと謂はざるべからず。故に、吾人は靜かに、獨逸人が再び香港若くは支那の各開市場に歸來するを俟ちて可なり。獨逸商館を清算するに當りて吾人の彼等に對する待遇の酷なりしに怯え、獨逸人が再び香港植民地に來りて、吾が彼等の所謂『英領殖民地を繁榮ならしむる』の意思なかるべきは明かなり、何となれば、將來に於て再び、獨逸人が戰前に於て有せし商業上の自由を享有するが如きは到底あり得べからざることなるを以てなり。尤も過去に於る獨逸人の努力は決して蔑視すべきものに非ると同時に、亦吾人英國人たるものは決して之を模倣すべきものに非るなり。

政府が果して清算の結果と其統計とを公表すべきや否やは不明なれども、確かなる種々の方面より觀察するに、英國獨逸國民は各々均等の機會を有したるにも拘らず、英國人が獨逸人よりも遙かに多額の貿易を營みたることは否むべからざる事實なり。吾人の獲得せる地盤を確實にし、吾人の勝利の月桂冠に依頼することなく、否寧ろ新なる努力と銳氣を以て、吾人と吾人の最も苦手なる歐洲の競争者たる獨逸との懸隔をして過去に於るよりも一層大ならしむるは、吾人の將來の任務なりとす。

不正手段を以て資本を獲得し、其商品を損失を以て賣却するが如きことを誰か爲し得ざるものあらむや。損失を以て自己の商品を賣却するを難しとするが如きは史上唯一人あるのみ、ロンドン、ブリッヂの上に佇立して、一ソペレ

ン（一磅）を十九志と交換せる奇狂人其人あるのみ。然れども獨逸人の堅忍不拔なる、能く長日月の間露顯することなく、大々的の脅嚇を敢てし得たると同時に、英國銀行者及びマンチエスター商業家を欺き彼等と取引せしめ、其の結果は疑ひもなく英國の商權及び政治的利益を侵害するに到りたり。

然れども獨逸人の一部者が斯る手段を以てしては到底利益を得る能はざるものなることを知れる其證據は、獨逸商館の一員が、其の支店の一同僚に宛てたる書信の一節によりて知り得べし、今之を左に意譯すれば、

『若し吾人にして我が競争者たる英國人の思想に倣ひて一労働者と雖も賃銀を支拂はざるべからざるものなりとの觀念の上に立た、むには、吾人が更に良好の商續を擧げ得べしと思惟せらる』云々。

誰か此の醜態たる獨逸商人の苦惱を見て悲まざるものあらむや。即ち個人的には、彼等獨逸人は皆善良の分子にして、且良友なり。過去に於る謬られたる獨逸の商業政策の故を以て、吾人は彼等を嫌惡するものに非るなり。清算の結果によりて暴露されたる各方面の事情を照合するに、ベルンハルデー將軍の所說中の左記の一言の如きは蓋し最も奇異の感なくんばあらざるなり。獨逸人が英領植民地に寄與せる効績に就きて、將軍は卒直に語りて曰く、

『吾人が英國の商業によりて利益を得たりと爲すが如きは事の真相に非ず。吾人は唯吾人の利益を獨逸の工業に歸屬せしむべきのみ！』と。

（此項完）

彙 錄

支那のローマンカトリック

教徒數 (一九一六年)

省 別

安 徽	五九、一〇〇
浙 江	四七、〇五八
直 隸	五〇〇、六五五
福 建	五九、四八一
河 南	四六、四八七
湖 北	二〇、四一二
湖 南	九一、二九八
甘 肅	六、三六〇
江 蘇	七一、八八六
江 西	一七五、六二一
廣 東	四、七〇〇
廣 西	八七、六〇二
貴 州	三二、八五八
山 西	五六、八四九
山 東	一三五、一六〇
陝 西	四六、一八〇
四川及西藏	一四一、八三四

雲 南
滿 洲
蒙 古
澳 門

計

一七、七一四
五三、二六五
九四、八七七
(四〇、〇〇〇)
一、七八九、二九七

教 會 別

Lazaristes	五二九、九五六
Jesuites	三二八、三六三
Miss. Etr de Paris.	三一八、九七三
Franiscains	二四一、五九五
Missions de Sehent	一〇一、二四七
Missions de Steyl	八六、一五〇
Dominicains	五九、四八一
Missions de Milan	五九、一六〇
Missions de Rome	一四、六二五
Augustiniens	七、五二九
Missions de Parme	六、四二七
計	一、七五三、五〇六

支那綿布稅則の修正

去年四月北京稅務處の調査を経て、支那綿布に對する輸出稅減收及再輸入半稅免除の準則六條を規定したる者なるが、向後各省の土布織法往々該準則に適合せざる點ありて、各處の土布商より其修正を請願せし結果、該稅務處より總

稅務司に諮り、稅則修正委員會副主任の手を経て、此程更に準則四條を起草されたるが如し、聞く所に據れば數日前農商部第七二七號訓令を以て、上海總商會に通達する所ありたり、其内容は各海關は一律に修正準則四條を通用し、各常關は尙舊六條を遵守することとなれり、而して修正四條とは即ち左の如し

第一條 經紗一時は七十條の數を越ゆる能はず緯紗は六十條の數を越ゆる能はず

第二條 織布法は斜紋布織布及花架織法を提用する能はず第三條 織布は絲光線を用ふる能はず

第四條 經緯の内或は經或は緯の一に對して雙線を用ふる者には百斤に付稅一兩二錢五分を賦課し經緯共に雙線を用ふる者には百斤に付一兩五錢を賦課す

支那の銀銅輸出禁止

歐戰以來支那の銀銅輸出巨額に上り、金融市場に影響を及ぼすこと莫大なるを以て、支那當局は去年春頃より屢次籌議を經、且外交團に照會して、國幣輸出以外其他の銀塊及び各通商港流通の外國貨幣をも暫時輸出禁止せんと爲せしが、今に至る迄之が決定を見ざりき、目下缺乏の狀況益激烈に赴くより、近頃外交部より閣議の結果に係る臨時銀銅輸出禁止規則を以て、正式に外交團に向て該規則の施行を要求し來れりと、今其の條文を摘載すれば左の如し

臨時銀銅輸出禁止規則

第一條 生金生銀銀元銀角銀質物品銅劬銅元銅錢銅質物品

は本令の定むる所の外一律に輸出或は再輸出を禁止す其此港より彼港に運送するものも仍ほ章程に照して辨理す香港澳門青島大連に運送する者は輸出を以て論ず

第二條 政府の特別情形あるを認て特に前條の銀銅輸出を許可する時は財政部より許可書を發給し且各關に通知す

第三條 本國或は聯合軍方面の各國米國或は中立各國人民にして國外に旅行する時其攜帶する銀幣は百元を限度として之を許すことを得

第四條 第一條に違背して密輸したる者は其物全數を以て之を官沒す

第五條 第二條の許可書を領有して其所載數目溢出したる者は之が溢出したる數目を沒收す旅行人にして第三條の限度に違ふ時も亦同じ

第六條 稅關手續を経て未だ輸出を行はざる者は本規則公布の日より一律に之が輸出を禁止す

第七條 本規則は公布の日より起り明令廢止前までを有効期間と爲す



事業界

中華貿易公司と其章程

曩に支那政府の發布せる金券條例は、中外の反對の爲一時其施行を見合せたるが之が副産物たる中華貿易公司の創設も、昨今躊躇しつゝある様子なり、但し他名義の下にても其目的の幾分にては貫徹せしむるの概あるが該公司章程の内容は左の如し。

中華貿易公司章程

第一條 本公司は中華貿易株式有限公司と定名し株主の責任は有限と爲す。

第二條 本公司の資本金は金元五百萬元と爲し五千株に作り一株金元一千元第一回拂込は一株に付き四分の一即ち二百五十元を徴收す。

第三條 本公司は株式第一回拂込分を徴收し四分の一に達したる時營業を開始す。

第四條 本公司の株主は中華民國人民に限り株券は記名式を用ふ。

第五條 本公司は直接各種の原料品製造品及其他貨品の輸出入貿易を辦理し且政府公司商店個人を代表して輸出入貨品の買賣を爲すを以て營業範圍と爲す上項必要の附帶事業を經營するに當り本公司は亦重役會の議決を経て之

を辦理す。

第六條 本公司は政府に向て下列各項の獎勵法を許可するを請ひ以て對外貿易の發展に資す。

(甲) 政府の特許を経て始て各物品を輸出或は輸入すべし政府は本公司に輸出或は輸入を特許するを得べし。

(乙) 政府及所屬機關の各種用品は本公司の政府及所屬機關より許可を得たる時契約を訂商すべし其特許代理人は専ら本公司に歸し代て購買經理を爲す。

(丙) 國內輸出の各種原料品製造品輸入の原料機械及其他特種物品に由り政府の特許を経たる者には交通部は其國有運輸機關の運賃數目に照し補助金額を酌定して之を獎勵するを得。

第七條 政府は振興を要すべき國貨を認めて其種類を指示し其辦法を詳定するを得本公司は極力之が輸出増進を謀り其盡すべきの責任を負ふべし。

第八條 本公司は本店を北京に設け並に國內國外の重要商港に支店及分所を酌設すべし且他公司商店或は商人に委託して代理所たらしむるを得。

第九條 本公司は五十株以上所持の株主中より五人を選挙して取締役と爲し三十株以上の株主中より二人を選挙して監査役と爲すべし取締役の任期は三年監査役の任期は一年とす且再選再任するを得。

第十條 本公司は總理一人を設け重役會に由り之を選挙し其任期は五年とす又協理一人は總理に由り之を指任す但其他重役の同意を得べし。

第十一條 本公司本店の營業會計主任は總理に由り之を充任す但營業主任は協理に由り之を兼充するを得。

第十二條 本公司の支店及分所には店長所長を設け總理より之を派充し本公司の代理所は總理より之を委託すべし。

第十三條 本公司は毎年一回株主總會を開き取締役監査役を選挙す且總理より帳簿及營業の情況を報告す。

附 則

第十四條 本公司の創立事務は中國交通兩銀行に由り創立委員會を設立し財政部農商部所派の創立委員と會同して之を處理すべし。

前項の創立委員會は財政部農商部に由り之を指揮監督す。

第十五條 創立委員は本章程に照し細則を起草して財政農商兩部の認可を得たる後直に株式募集を行ふ。

第十六條 創立委員は章程に照して第一回株金の拂込終了したる時直に創立總會を召集すべし。

第十七條 創立終了後創立委員は一切事務を以て本公司の重役及總理に引渡す重役及總理は直に農商部に登記を申請すべし。

第十八條 本章程は批准の日より施行す。

華豐製針廠の擴充

上海虹口提籃橋華德路の華豐製針廠は、源豐順號主周光宇氏の創設に係り、一昨年基本金三萬元を以て開設し經理は

の完全を謀る由、又聞く所に據れば株式募集には左まで間の成績頗る良好なりと稱せらる、最初の計畫は縫針十五號迄製出する豫定なりしが、工場設備未だ完全せざるより現在は僅に一號乃至九號迄毎日約十五萬本を製出しつゝあり、該製品を正副兩號に分ち、正號を紅花蜂、副號を藍花蜂と商標せり、價格は日本品と大差なく、結局は日本品を驅逐し終らんとの意氣込ありて、現に徒弟七十名を募集して、製造力の擴充に着手しつゝあり、更に資金増加の運動中なりと。

中國郵船公司株主會

八月二十七日中國郵船公司是上海寧波路廣華公所を借り、第二回株主會を開きたり、當日は陳炳謙を主席とし開會の旨を宣言し、勞敬修は香港に赴きし事情を演説して曰く、南京號の買收價格は九十萬元なりしも、其修理費に二百萬元を費したるが、當時は米國歐戰加入の際にして、原料高く職工費亦高く豫想外なりき、公司資本二百萬なるに此の如き出費を要せしを以て、非常に困難を招きたり、幸ひに一西洋人あり援助を與へ、爲めに今日あるを致せり云々、次に黃朝章は香港に於ける開會事情を述べそれより參事員の選舉あり、沈聯芳、除冠南、岑庭芳之に舉げられ、勞敬修、陳炳謙、黃朝章、歐靈生四人は臨時參事員に舉げられたり、而して勞敬修は公司を代表し米國に派遣せらるゝこととなり、尙ほ右公司一西洋人の援助あり、公債を發行せる爲め公司を外人に賣渡したりとて株主側より痛く詰問

顧槐卿氏となす、工場内男女工約百餘名を使役し、此兩年書を發したり。

因みに右公司は一九一五年十月十五日に發起され二百十萬元の株を以て成立し、三十萬元を以てチャイナ號を購入し、五十萬元を以てナイル號を購入する筈なりしが、後者は英國政府にチャーターされたるを以て、遂に實行の運びに立至らずして止みたり。

浦東電車公司の計畫

在上海の安徽人程某は同地の電車事業頗る發達せるに鑑み、現在電車設備なき浦東に電車公司を組織して、急速之が敷設を實行せんとする計畫あり、聞く所に據れば現に資金一千萬元を募集せんとて、其準備に腐心しつゝあり、而して其計畫の一端を窺ふに、元川沙沿海灘一帶より、毎日來滬する鮮魚甚だ多く、而かも船行遅き支那魚船に由りて運搬さるゝこととて、僅に此路程四十支里餘なるに拘はらず、魚船の行駛如何に速かなるも必ず一宵夜を費すは常例なりき、將來電車開通する曉此等鮮魚を電車に改裝せば、其運搬最も迅速となり、且浦東各鎮の商舖居民に便利を與ふること莫大なるより、從て電車營業は勢ひ必ず發達すべしと謂ふにあり、又該線路の起點は董家渡地方を撰定し、沿途は各鄉村鎮を經過せしめ、尙ほ不便なる地方には別に支線を敷設して幹線に接續する豫計あり、即ち其幹線は董家渡碼頭より起り川沙に至て止まる、此間四十支里餘ありて若し電力及ばざる場合は、途中に中繼所數ヶ處を設けて設備

せられたるが、右公司董事局は已に六月二十日を以て辨明碍の發生なく、應募者頗る多き様子にて、創立事務所は中秋後早々開設する見込みなり、現に一切機器及其他材料は米國に向つて購入方約定済となれり、一面には前華商電車技師周某を聘して、該工事主任に充て、交通部の認可次第直に測量に着手する筈なりと。



支那半月史

大正七年九月上半

徐世昌就任承諾

九月四日新國會が大多數を以て徐世昌氏を大總統に選舉するや、衆議院議長王揖唐氏は國會を代表して徐氏を訪ひ當選の趣きを通知せるが、徐氏は就任を承諾せず、五日國會に向け辭退書を差出し、同時に各省に宛て左の通電を發したり。

國會成立し適ま總統選舉の期に値ふや乃ち世昌を以て克く斯選に膺る世昌の愛民愛國豈人に後れんや初め高蹈の名を沾るに非ず決して畏難の見を存せず惟だ國家机陞の形を憐念し商民顛連の狀を默察しこれを當世に質しこれを藐躬にかへりみるに實に衰老の軀の能く職に稱ふ者に非ざるあり決して謙讓に非ず實に眞誠に本づく謹んで一言を貢す幸ひに垂聽せよ。

民國遞嬗變亂屢々經たり承平を想望するも徒らに虛願を存するのみ但だ艱危の狀況は當時に十百する者あり道德立たず威信行はれず紀綱肅はず人心定まらず國防日に亟かに邊垂の擾亂虞るゝに堪へたり歐戰將さに終らんとし世局の變遷宜しく審かにすべし其他凡そ事實の發見する所情勢の抵牾する所は當局の諸公目撃し身から膺る事

んぞ昌の喋々を俟たんや是れ即ち才能學識昌に十倍するも此の時艱に處しては殆んど將さに手を束ねんとす是れ國を愛して國に補ひなく害國躊躇せざる能はざる者也。國の本は民に在りすなはち烽火の警水潦の災商業の停滯金融の消耗土匪劫掠して村落墟と爲り哀々たる窮民告窮すべきなし吏に撫字の方なく人來蘇の望鮮し固より教育の計畫を爲すに暇なく決して喘息を須臾に蘇する能はず悉くも民の上に居りそれ之を何とか謂はん此の流離困苦の國民を親術の以て其後を善くするなく復た何ぞ治理を高談して我が徧氓を愚にするに忍びんや此れ民を愛して而して以て民を保つなく更に慄慄として自から安んぜざる者也。

然り昌に假すに壯盛の年を以てせしめば亦未だ嘗つて澄清の志無くんばあらず今や則ち衰病侵尋、間散に習ふ偶々國事に及べばすなはち眠食を廢す若し暮齒を以て更に高位を忝ふせば將さに徒らに愛國愛民の願を抱いて必らずや心餘りありて力足らず精神注がず羸瘵虞るゝに堪へ智慮充たず疏陋立ろに見はるゝに至らん既に恐る國を救ふ者を以て轉じて國羞を貽し更に恐る民を救ふ者を以て適ま民病となさんことを彼時以て我が全國の民に對ふる無し更に何を以て諸君子に對せんや吾れ斯に未だ信せず敢へて率爾に心の以て危しと謂ふ所に従はず謹んで用つて誠を擲し以て告ぐ惟ふに我が國會及び全國の軍民長官時局を盱衡し日に隱憂に切なり望むらくは各責任を負ひ共に艱難を濟ひ垂蹙の民生を起してこれを衽席に登し顧

危の國運を挽いて苞桑に繫げんことを昌野に在りと雖も
勝記之を求めん矣邦基至重敢へて承くる所に非ず艱屯を
幹濟する必らず賢俊あらん幸ひに應酬を全ふし初衷を遂
げしめよ此に懇辭を爲す唯だ諒察を希ふ。

此通電は固より「潮蹈み」の範圍を出でず、豫想の如く
各省より續々挽留の覆電あり、國會よりもたゞ大總統を選
舉する權あるもこれが就否を決する權能なしと回答し來り
たるを以て徐氏は十一日更に次の通電を發して就任の意を
明かにし、十六日梁參議院議長、王衆議院議長の捧呈せる
大總統當選證書を受け、徐氏の就任は是に於て全く確定せ
り。

前電に拘臧相示せしは實に至情に出で絲毫も矯飾あるに
あらずすなほち參衆兩院は國計民生を以て重ねて敦勗を
加へ復た諸公の函電勸勉を承く責むるに大義を以てし動
かすに至誠を以てす愛國の熱忱を推し施して下走に及ぶ
崇論宏議金石能く開く昌獨り何の心かよく感奮する無か
らんや惟だ是れ出づるや即ち再商を待つなし而して國家
は斷じて一試を容れず昌の斷々意を致す所以の者は則ち
國を愛して而して國を救ふ能はず民を愛して而して民を
保つなく人に負き自から負き卒に以て國に負くを以てな
り此れ昌の大いに懼るゝ所也。

夫れ所謂救國保民を源を法律に導き効を政治に取る我國
憲典未だ修めず法制未だ備はらず日に法治を談ずと雖も
而も丹々是とし素を弄とし折衷する所なく坐して國張ら
ず民困日に甚しく威な害を此に受けて而して之れを知ら

ざらしむ譬へば彼の河流の壅に遇へば則ち決するが如し
斷に常慮無ければ奚んぞ以て存を圖らん内政の源これを
財用に準ず盈虛酌劑は經國の常なり今は則ち金融匱竭し
供億浩繁に各省は則ち難きを中央に責め中央は則ち給を
常とす可からざるの外債に仰ぐ流の節すべきなし開源を
論するの違あらんや此因を長せば仍は何を以て國を爲さ
ん。

軍事計畫は重きこと國防に在り邊要の衝に當り合従の勢
を成す稍々疏虞あらば動もすれば大局に關す況んや復た
師を境内に勞し轉戰年を経、擾攘紛紜仍は歸宿無きおや
邊疆の徵調何を以て之に應せん。

立國の要は實に邦交に繫る歐戰將さに終らんとして潮流
益々迫る世界の大大勢或は變遷あらん武を易へて商に趨か
ば則ち東亞は固より絶好の商場也工商の競進は中外に同
じき所我れ則ち内政修めず財源涸渇し既に提挈の力なく
必らずや學困の形勢を成さん固より然るあり事んぞ忽視
すべけんや民生の耗散商業の凋殘吏治の情輸盜匪の充斥
に至りては癰結の在る所優計に難きなし積患已に極まる
夫れ豈圖り易からん故に今日立國の本計を論するは固よ
り僅に國內問題に非ず而して全國の力を合して以て事權
に赴かんと欲せば則ち必らず先づ内政をして手を持ぐ所
あらしむべし諸公は同じく重寄に膺り國の干城たり度る
に亦之を計ること熟せるならん矣若し昌の慮る所を以て
尙は事情に戻らずとせば則ち必ずや共に補救を圖るの方
あらん次第にして之を整理せん誠に中央の地方に於ける

舊は腹心の指臂に於けるが如し中央は地方を離れて孤立する能はず地方亦豈能く中央を去つて而して自から存せんや況んや昌の如き者も政に従ふ年ありいさゝか經驗あり初めより畏難苟安の人にあらず假令勉めて國會の情と諸公勗勉の殷に狗ふも惟だ仍ほ同徳同心共に危局を與へんことを冀ふ但だ救國保民の策あらば協力之を爲さるなし否らざれば則ち衰老の軀を以て茲の鉅任に膺るも尙ほ内政統治の實力なく奚んぞ遠圖に暇あらんや亦適ま以て世昌の戻を重ねん而已抑も世昌更に言あり治國の本は端として羣賢に頼る茲の國事多艱人材消乏に當つて而して憂時の責は或は潔身棲隱し或は避地遠遊し羣策匡濟立賢方なし古に明訓あり此れ尤も世昌の延望する所の者也既に推轂の愛を承く必らずや惜客の謀あらん再び惆悵を布き明教を守候す世昌十一日。

南方の態度

新國會の總統選舉に對する南方の態度は直截明瞭なり、八月三十日廣東軍政府は「約法に依り馮國璋氏の大總統職權代行を認めざるも新國會の總統選舉の如きは絶対に承認する能はず」との通電を發し、廣東國會は九月四日兩院聯合會を開き、全會一致新國會及びその大總統選舉を承認せざることを議決し、同日附を以て北京新國會の組織及びその一切の行動の無効なること、並びに總統選舉は唯約法に準據して生じたる國會の特權にして其他の如何なる機關も之に參與する權限なく、北京に於て何人を選挙するも對内

對外共に全然無効なる旨の宣言を發したり。

唯注意すべきは此宣言の純然たる法理論に由立し、毫も徐世昌氏に對する對人的作用に出でしものに非ざること、是れなり。岑春煊陸榮廷兩氏は徐氏に對し好感を有す、而して廣東國會は大總統選舉の唯一の適法機關なり、然らば北方の所爲に順着なく廣東國會に於て徐氏を大總統に選舉するは或は有り得べき所、若し岑陸兩氏と徐氏方面との間に裏面の諒解成立せば當然かくなるべしと推測さる。若し然らば平面的には南北分立の端緒とも觀察すべき廣東國會の大總統選舉てふ事其事が妥協の有力なる手段となるを得べきなり。

副總統選舉期日

新國會にては副總統選舉は「大總統選舉後直ちに」てふ解釋を取り、九月五日副總統選舉會を開きしが、交通系及び研究會系は緩舉を主張して缺席し、安福俱樂部中にも曹錕を推すものと然らざるものとありて一致せず、爲めに僅かに九十餘人の出席を見たるのみにて流會に終りたるが、六日更に兩院聯合談話會を開き討論の結果、相當の時期に於て再び兩院談話會を開き選舉期日を決定すること、但しこの「時期」は大總統就任前なるべきことを議決したり。

屢々述べたるが如く大總統は徐氏を以て各方面共に異議なく案外無事に納まりたれど、副總統問題に至りては段祺瑞、馮國璋、曹錕、張作霖の四候補者ありて何人を選挙するも苦情多く、實際大總統以上の難問なり。たゞ張作霖の

みは九月七日附を以て東三省巡閱使を與へられたれど、馮段曹の三ツ巴戦はこれより益々激烈ならんとす。馮段政爭の中心はかくて今や此問題に在り、大總統就任期以前果して選舉會を開き得べきや覺束なし。

福建南軍優勢

福建に在る浙江軍第一師團（師團長童保暄）第一團長陳肇英が、呂公望（前浙江督軍にして段祺瑞氏の爲めに失職し深く段に啣む所あり）褚輔成（浙江選出衆議院議員にして今回副議長となる有力家）の中心に依りて部下三個大隊を率ゐて南軍に加擔せしは福建の局面に動搖を與へ、南軍は九月上旬漳州泉州同安を陥れ、廈門を圍み省城福州人心洶々として督軍李厚基到廈治安を維持し能はざるより領事團の請求に依り日英兩國軍艦入港し、陸戰隊を上陸せしめたるが、其後北軍稍々勢を恢復し同安を克復したるも大勢は依然南軍に有利に十五日洪兆麟軍は廈門を占領せり。

南方承認運動

八月上旬廣東軍政府は列國に向つて交戰團體承認を切望する旨の宣言書を發表し、列國は此問題に關し協議する所あり、我が政府に對し言質を與へたる事ありと信すべき理由あり。然るに廣東軍政府は愈々此問題に向つて歩を進め參議院議長王正廷を米國に、軍政府秘書廳長章士釗を日本に派遣するに決せりとの報あり、王正廷氏は九月十四日エ

ムプレス・オヴ・ヂャパン號にて米國に向け上海を出發したるが、章氏も十月上旬來朝すべしと。

四鄭線開通式

九月十五日四平街にて舉行せられたり。



時報



内治外交

●政府浦鹽出兵に對するの宣言

浦鹽に出兵するの宣言書は已に二十二日に於て參陸辦公處より國務員全體に商議して署名せしめ、即是日に於て全文を以て威林駐在の代將に電知し、命令して協商方面各機關に錄送せしめたり、原文の略に曰ふ支露國境相交はり、睦誼素より敦し、乃ち該國內亂より以來禍變相乘じ、政情混沌たり、中歐各國は遂に此機に乘じ、遠東の勢力を發展し、而して西比利亞の德奧俘虜蜂起して加入し、捷克軍を阻止し東進せしめず、捷克軍を査するに協約國と宗旨相同じく、休戚相關す、中國は隣邦の誼の在る所にして、實に迫られて其建國の目的を達し難きを致せるを坐視するに忍びず、因て米國政府

の建議に本づき、特に浦鹽方面に相當の軍隊を派出し、協商各國と一致の行動を取るべし、此項の出兵は純ら各友邦仗義の舉動に賛同を爲し、並に露國の領土及び其主權を尊重するが爲めの目的にして、内政に對しては絲毫も干渉を加へず、一たび目的の完成を俟ち即ち所派の軍隊を將て完全撤回せん特に此に宣言す。

(神州)

●參院議長產出の經過

梁士詒の參院議長 二十二日參議院第一次開會出席議員百二十三人、年長議員李兆珍を公推し、正副議長を選擧することを宣言す、鄧鎔、陳懋易、陳介等八人を指定して檢票員となし、檢票員を宣告し、先づ投票を行ふ、議員は次第に投票せり、議員投票を畢り頃らくして開票を宣告す、檢票員票數を檢得するに百二十三枚人數と相符合す、開票の結果梁士詒百十九票を得、梁善濟

三票を得、李兆珍一票を得たり、梁士詒の得票過半数に超えたるを以て、院法に照らし正議長に當選す、陳介起立して現在梁君既に法に依り當選せり、即ち請ふ議長席に就けと是に於て梁演臺に登り簡單に演説す、略に謂く鄙人學識淺陋謬りて諸君の棄てざるを蒙り、推舉して本院議長となす慚愧交々深し、但し既に責任の在る所義何ぞ辭すべけん、惟是れ現在國家國難已に極まり、全國人民喁々として治を望む、國會は既に人民の代表たり、即ち人民の爲めに幸福を謀るには務めて宜しく時勢を力救し、以て息事寧人を以て宗旨となし、而して人民の渴望を慰し並に中華民國の國基を鞏固にせんことを。

朱啓鈴の參院副議長 梁氏演説畢り始めて議長席に就き副議長の選舉を行ふ旨を宣告す、検査するに在場人數仍は一百二十三人となす、遂に散票仍は鄧銘外八人を指定して檢票員と爲す、投票畢りて開票を宣告す、查得するに票數共に百二十三枚人數と相符合す、議長開票の結果を報告す、朱啓鈴百十四票を得、李盛鐸四票、梁善濟三票、秦望瀾一票廢票一、朱氏の得票は投票總數の半に超過す、應さに當選して副議長となすべし、朱氏未だ出席せざるを以て、遂に未だ演説せず、陳氏曰く現在正副議長は均しく已に選出して而して時間尙は早し、席次を定めては如何と遂に秘書より席次を定め乃ち散會す。

(神州)

●段總理昨日議員を招待す 關員全體昨二十三日午後一時國務院含憲館に於て、兩院全體諸員を招待せり、段總理は十二時に於て首として先づ蒞み、各部總長先後して

到る、僅かに外交部のみ陳大長代理をなしたり、出席議員の數は四百十餘人定列席に入る、首として段總理は閣員を代表して詞を陳べ、次に梁燕孫兩院を代表して答詞を致せり、均しく極めて簡單なり、演説畢りて酒點を導用し、二時半に至りて散す、歡迎詞及び答詞左の如し。

段總理歡迎詞 今日同人等歡迎會を開き、公に參衆兩院議員諸君子と議す、法治國々家國會久しく成立せず、同人等對外固より以て解釋するなく、更らに以て海内億兆喁喁の意を慰むることなし、故に力めて各省に促がして選舉の事を辨理せしむ、事畢りて諸君入都せり、整ふて且速なり、己に人民の望を慰めたり、兩院議長を選出するは固より一時の望み朝を終へずして而して事を成し兩院幾んど能く一致し、殊に人をして之を喜び盡きざらしむ、議長を選舉するを以て之を將來に徵するに、元首を選舉するには必ず經濟宏通老成碩望なれ、憲法を制定するには必ず輿情に適合し、萬年鑑れず但に天下の人をして之を歌頌せしめず、即ち後世も亦た將に之を歌頌して、遑あらざらしめんとす、是を以て國家の爲めに賀し亦た諸君の爲めに祝するなり。

梁議長兩議員を代表して答詞を述べ云く、士詒謹で兩院全體を代表して恭しく答辭を致す、今日國務員全體の歡待を承け、敝院同人行政各首長と共に話するを得たるは一堂同人等榮幸の至りに勝へず、孟德斯鳩三權鼎立の説を唱へてより美法兩國首として先づ實行す、而して近日立憲各國國體を接して相倣ふ、今の號して憲政國と稱する者其君主たり、共和たるとに論なく、此原則に依らざるなし、吾國有清皇

革の後より國體を改めて共和となす、自ら應に三權鼎立の政を行ふべきは、論議を俟つなし、惟士詒の一言せんと欲するもの近人、毎に三權鼎立の解を將て、立法行政司法三者の絶えて相關せずと作す、此實に大に謬れるの論なり各國の憲政を觀るに國務員能く案を國會に提げ、而して内閣は恒に國會の頌敷を以て基礎となす、知るべし行政立法の關係は交互的聯絡となり、而して分離的にあらず、吾國憲政經驗の時日向は淺し、尤も宜しく行政立法兩機關は互に相了解せんことを、士詒竊かに願ふ今日の會を以て時機となし、向後は互に誠意を披瀝し、共に國家國民の福利を謀らんこととなり、總統を選舉するの問題に至りては、兩院已に進行中にあり、務めて求む公意を徵集し、最適當の時期を擇定し、早く選出を行ひ以て民心を安んじ、而して爭亂を預めんことを、憲法は一國政治の基礎なれば、尤も宜しく早日制定し、政府をして遵依する所あらしめんことを、敵院同人は當に迅速議制以て國民囑々望治の心に副はんなり、謹みて答へ數言以て謝意を表す。(順天)

●副總統と各派 昨日某方面の信に據るに謂く、安福派一部の真意は副總統選舉は、總統の選舉と同時に並び行ふにあり、而して其裏面は則ち此凝成の一氣を藉り、曹錕を推舉し、以て自己の目的を達到せんと欲せしなり、惟斯雲鵬氏一派の強硬分子、並に討論會は頗る以て然となさず、極めて緩期の舉行を願ふ、進歩黨に至りては更に多く自派勢力の關係を顧慮し、同時に選舉の主張に對し、必ず極力反對すべし、之を要するに兩派の形勢が斯の如きとき

は、則ち將來選舉會成立し、正副總統を討議するの際、該問題は恐らくは必ず一番紛擾を免れ難からん耳云々。(順天)

●銀行團の金券條例に對するの抗議 四國銀行團は頃日各關係公使の承認を得て、政府發布する所の金券條例及び幣政局官制に對し、已に十六日に於て財政部に向ひ抗議を提出せり其主張する所の理由は左の如し。

(一)千九百十八年現銀行團前身の英米佛獨財團と、中國政府と所訂の幣制借款一千萬磅は、今に至るも尙ほ未だ公債を發行せず、應に此款を以て將來の幣制借款内に算入すべし。

(二)第二次善後借款殘餘金は、已に交付すること三次、請ふ中國政府は每次整理せる幣制の成案を以て、銀行團に提示せよ、是れ銀行團と整理幣制とは既に此の如き密切の關係あり、而して中國政府の金券條例及び幣制制定の際には、決して何等の協議なし、只だ一紙の通告を送來し、即ち總統令を以て公布せり、實に人をして中國政府の誠意の程度に疑及せしめざる能はず、故に此問題に關しては銀行團は已に各關係公使に委任して中國政府と交渉すと云ふ。(神州)

●參眾議院議長及び副議長を推舉す 今廿二日參議院議長を推舉せり、議員出席百二十三人、梁士詒百十九票を得、正議長に當選し、朱啓鈴は百十四票を得て副議長に當選す、又衆議院は副議長を推舉せり、議員出席二百五十七人劉恩格百七十六票を得て當選せり。(時報)

●總統選舉會を組織するの原案を提議す 衆議院議員王伊文兩院に、速に會合して期を定め、總統選舉

會を組織し、大總統を任するの選舉を行はんことを提議せり、茲に提案の原文を左に録す。

大總統選舉法第三條第一項を查するに、大總統の任期は五年、又本條第二項大總統の任滿つる前三個月國會議員は須らく自ら集會を行ひ、總統選舉會を組織し、次の大總統を任するの選舉を行ふべし、又た該法第二條を查するに、大總統は國會議員に由り、選舉會を組織し、之を選舉す、前項の選舉は選舉人總數三分二以上の列席を以て無記名投票を用ゐ、之を行ふ、得票は投票人數四分の三に滿つる者を當選と爲す、又た該法第五條を查するに、大總統缺位の時は副總統より繼任す、本任大總統任滿つるの日に至りて止む、大總統故に因り職務を執行すること能はざるときは、副總統を以て之を代理すとあり、現在馮代大總統は黎大總統に代り職務を執行す、黎大總統又袁前大總統の任を繼ぎしなり、推本溯源すれば自ら應さに袁前大總統就任の日を以て本となし、大總統任期開始の日と爲すべし、袁前大總統は民國二年十月十日就任せり、該項の選舉法第三條に依り本年十月九日に至り即ち大總統任期滿了の日となす、若し該條第二項に依るに大總統任滿つるの前三個月に於て選舉を舉行すべし、本と國會に屆き已に八月十二日に於て開會式を行ひ、兩院議長は均しく已に舉定せり、計るに大總統滿任を距る僅かに一月餘日、惟たに法に依るのみならず應さに國會議員より速かに總統選舉會を組織し、次の大總統を任するの選舉を行ふべし、且つ目前内政外交は緊迫す事實上に在りて亦た大總統產出の必要あり、況んや大總統

選舉法第二條を查するに總統の選舉は選舉人の總數三分二以上の列席を以て之を行ふ、則ち本と參議院議員總數三分の二以上に屆き、應さに一百十二人となす、衆議院議員總數三分の二以上は應さに二百七十一人となるべし、本月二十日に至り參議院議員の到着せる者已に一百三十二人あり、衆議院議員の到着せる者已に三百人あり、均しく已に三分二以上の人數に超過せり、而して陸續到着する者尤も復た日々増加せり、目下總統選舉會を組織するは事實上に於て絶えて滯碍なし、且つ本と總統任滿を距る日を爲すことと多きことなし、急起直追するも猶ほ及ばざるを虞る、倘し再び遷延すれば更らに誤りを貽さんことを恐る、請ふ本院より衆議院と會同して速かに期を定め、總統選舉會を組織し次の大總統を任するの選舉を行ひ、大法を尊び職權を重んぜんことを、謹みて議院法に依り提出す、是れ有當なりや、否や、敬みて公決を請ふ、提出者王伊文連署者程克等六十餘人。(時報)

●廣東國會宣言書を發表す 二十二日廣東の來電に廣東國會聯合會は、八月十九日開會して、宣言書を議決し、同日宣布の宣言書中劈頭非法政府賣國の罪狀を數へ次に中華民國の憲法は應さに國會に由りて制定すべきを言ひ、憲法の制定以前は其約法の効力は憲法と同等なり、故に約法を破壊する者は即ち人民の公敵となす、若し憲法一日も定まらざるときは、則ち國體一日も明らかならずと云ふ、其篇末に復た宣明すること左の如し。

今兩院議院法に由り廣東にありて臨時に憲法會議を召集

す、總統選舉會の組織も均しく漸次進行すと云ふ、又同時に兩院會合して左の決議を爲す。

(一)非法政府公布の法律及び護法行爲に抵抗するの命令は、絶對に効力を生ぜず。

(二)非法政府締結する所の條約協約、並に公債等は應に國會の議決或は同意を得べし若し、未だ議決或は同意を経ざる者は均しく無効に屬すと云ふ。(順天)

●廿一日の閣議記聞 昨日の國務會には段總理午前

九時院に到る、外交は仍ほ陳次長代理出席、司法朱總長は事に因り未だ到らず、其他の各總長は均しく十時登院、十一時入席せり、首めに先づ威埠開戦後の該處居留人保護の辦法を開議し、討論の結果は先づ訓電を發し、張代督軍をして約に照らし辦理せしむることになしたり、次に例案兩件を議せり。

(一)教育部より清華學校留米卒業生の歸國任用案を提議せる爲め、其結果は外交教育兩部より考察辦理することゝなせり。

(二)曹錕電請して范國璋の官勳を復舊せんが爲めの案なりしが、其結果は許可を與ふることゝなり、不日即ち明令を發せん、最後に敵前各軍官に傳觀せしむる爲め、發送すべき要電數件なりと午後一時散會劉總長より公府に赴き報告せり。(順天)

●唐繼堯將に重慶に入らんとす 八月二十六日

漢口の來電に據るに、唐氏は二十二日畢節より發し遵義縣を経て、而して重慶に來れりと、熊克武も亦た二十五日豫

め定めて成都より出發して重慶に赴きしと云ふ唐氏重慶に來るときは雲貴川三省の結束は愈堅固を加へん、聞く四川は六師に改編すと、將來湖北に對し守勢を取り、湖南陝西に對しては攻勢を取らん、其一部は已に運動を開始せりと云ふ。(順天)

軍 事

●曹錕保定に赴くの眞意如何 四省經略使曹氏は已に昨十八日に於て天津を出發して保定に赴けり、外間には曹氏の此の行に對して一種の觀測あり、究竟何種を以て信すべしとなすか、刻下判斷を下し難けれども、茲に之を並録して讀者の參考に供す。

南下せずとの説 曹氏此度天津より保定に赴くは、原と張作霖の看視を避けんが爲めの一術策にして、斷じて保定より南下を行ふに至らず、蓋し吳佩孚湖南に在りて發する所の主和の通電は、實に本月七日の事と爲す、現在時日未だ久しからずして、即ち曹氏をして速に南下を行はしむ、而して此の毫も戰意なきの北軍あり、恐らくは終に徒勞に屬さんのみ、曹氏の心中此に因りて愈堅く、決して南下を肯んせず、惟曹氏南下せざる如くんば則ち張作霖も亦た天津に逗留して動かす、故に曹氏已むを得ず、保定に至り該地にありて南下の狀勢を假裝せんとするなり、此れ曹氏の天津出發の行動ある所以なり云々。

南下説 曹氏昨十八日天津より保定に赴けり、實に南下の

決心を具有せり、大約保府に至りて滞留すること二三日の後、即ち南下すべし、吳佩孚の主和の通電は事實となすと雖も、然れども實に南方人士の爲めに利用せらる、曹氏南下して督戦するが如きは、則ち吳氏當さに服従すべきも、曹氏の命令は近來外間は搖座の辭紛起して、北軍は毫も戰意なきを云ふ、以爲らく曹氏の此行も亦た僅かに保定に至るに過ぎざるのみと、此乃ち裏面を知らざるの人の言ふ所なりと。(順天)

●籌議中の國防問題 靳雲鵬を國防總司令に任す 國防總司令一職は現に已に決定し、靳上將を以て擔任せしむ、此項の命令は前晚已に既に擬定し、常晚靳の宅に赴き賀詞を陳ぶる者即ち紛々として絶えず、今日再び國務會議を経て即正式に發表すべしと、此事に關しては政府は本と會て一度は之を鮑督軍に譲りしかど、鮑督軍就任せざるを以て、始めて靳上將を以て擔任せしめんとするなり、發表の後には將來靳上將或は鮑督軍と携手赴東する由なり。

鹽稅準備金と國防費 政府は鹽稅準備金を以て出兵費用に充てんとす、前きに十日に於て鹽政顧問丁恩に託し、四國銀行團に向て非正式に準備金五百萬元の融通を要求せり、銀行團より拒絕せられたるに因り、十七日に至り外交部は更に銀行團各關係公使に向ひ、提議して鹽稅準備金全額一千萬元を以て出兵費用に充てんと欲せり、目下各公使は已に此の事を以て本國に報告し、辦法の指示を請へり、銀行團も亦た關係公使間にて決定せる方針に遵て辦理せんとすと云ふ。

張奉督軍兩旅を防邊に派遣すべく允諾せり 我國兵を派し滿蒙に出防するの一事は、現に正に籌辦中にあり、聞く政府は出兵を決定するの後に於て、即ち張奉督軍に電知し兩旅を調用すべく、其同意を徵したりしと、聞く張は已に復電して允諾したり故に一切の問題は已に解決せるものゝ如し、惟出發の期日は尙ほ未だ確定せずと云ふ。(時報)

●國防問題の大綱を決定す 西北國防問題は鮑督軍晋京の後より、中央は已に其真相を詳悉せり、故に防務事宜に關しては亦た非常に注意せり、茲に參陸辦公處の消息に據るに略に曰く、上項の問題は開議の決定を経たる三種の辦法あり、能く實施するや否やは鮑督軍返黑の上孟督軍と磋商妥協を俟ちて、再び分曉を見ん、先づ大綱を將て誌出して以て參考に資す。

(一)北滿には防止主義を取る。

(二)伊犁には干涉主義を取る。

(三)恰克圖には中立主義を取る。

(順天)

●浙江省新軍を募集す 浙江省督軍楊善德は政府の命を奉じて、童子軍に分遣せんが爲め、福州に赴き浙江を離るゝの後、所部の四鄣軍隊は調防に不足の爲め、會て同督軍より陸軍部に電商して馬歩の兩軍若干營を添招し、調遣に資し防務を重くせんことを請ひしが、其筋の許可を得しかば、眞を淮徐兩處に分派し、歩軍を募集し浙江に送り訓練編制中に在りしが、同督軍の檢閲する處に因れば、歩軍は已に定額に達せしを以て、馬軍の未だ募集せざるを導に招添せざるべからず、故に特に參謀副官を上海に派遣し

て、盧護軍使に商議し、岡使の允許を得て同地開北寶山路某號の房屋を求め、浙江省騎兵募集事務所となし、即日招募に着手し二百名を定額としたりしが、忽ちにして多數の候補者を得て、選拔試験を實施したり、選に中る者其九に乏じからざりし由なり、松滬警察廳長徐氏は楊督軍の電知に因り、部下の余常兩警官に命じて當日の混雜を警戒せしめたりと云ふ。(時報)

●參戰軍督練處を設立す 國防總司令官は原と靳上將を任命派遣すること、せしが、現在靳氏を改任して督選と爲したるは、已に報端に見ゆ、茲に詳細の調査を経たるに、政府は已に參戰軍督練處を組織することに決定したりと、其情形を分誌すれば下の如し。

(一)名稱 督理參戰軍訓練事宜 目下正に官印を製作中にあり、前日(十九日)已に委任の公文を將て靳氏に交付せりと。

(二)職務 専ら國防軍新軍の訓練を司り、舊軍編制は一種の後方教練機關と爲す。

(三)地址 北京に設く、機關を分設することなし、連日正に公署を設けんが爲め家屋を搜索中なり。

(四)組織內容 此項機關の將來組織の内容は機要參謀外交軍需器械庶務等の科に分つ。

(五)軍費 目下參陸處と國務院は均しく軍費に關し連りに討論し一千萬と規定するの事は未だ落着せず故に目下未だ發表すること能はずと。(順天)

●内務部宣戰の要項を調査す 戰時會計處は三次

會議を開きし結果、内務、陸軍、海軍、教育、農商、司法の各部の所管の費用及び損失を調査せり、茲に聞く陸海軍兩部調査の科目は各該部より各自擬定を行ふの外、其司法部は事の辨すべき無ければ已に戰時會計處に問答に及びたり、特に内務部の調査の情形を以て後に詳誌す(甲)管理費(一)特設機關或は特派人員經費(二)郵電費(三)其他の各費(乙)保護費(一)敵國公使領事を護送して出境せしむる費用(二)敵國人登録及び簽到費(三)敵國人存留の財産保管費(四)特設警察費(牯嶺北戴河の如き敵國人を保護する爲め警察を添設す)(五)移居出境護送費(六)移居出境の舟車費(丙)接管費(一)敵國租界接管費(二)特別區を設置する各項の政費(三)特別區を添設する警察費(四)敵國々々公有財産を接管する費用(丁)調査費(一)調査費(二)視察費(戊)検査費(一)検査郵電費(己)救濟費(一)居所費(二)食料費其教育農商兩部の調査の情形は現に尙は未だ悉さず。(時報)

財政經濟

●米糧の海外輸出に對する反對の聲 上海の米業南幫公所、碾米公所、仁穀公所等三團體前きに農商を維持せんと目的に因り、米糧を以て本國の境内に流通し、以て河南、山東、奉天等の災區に便にせんと欲したるも、亦た運達藉りて以て接濟し、以て民食を裕にせんとして、省公署に伺出しに對しては、不許可の儘にて今日まで經過したり、乃ち聞く政府は已に日本國の要求に據り、江蘇

内に在りて米石を採辦輸出して以て接濟せんとする由、事未だ實行せざるも已に該業中國積居奇の者踵を接して而して起たざるなし、且つ奸商あり機に乗じて私運し、亦復た層出して窮りなからん、該團等愈本國の流通を以てするは國內各省を指し、而して言ふも尙ほ制限の規定のあるあり、今若し米糧を海外に輸出して日本國を接濟せらる、其間決して制限なければ怪むことなし、本埠の米價は已に風を聞くらへ昂騰せん、事果して實行せば米業の影響は設想に堪へず、而して民食の前途に於て大に妨碍あり、是を以て聯合して防止の法を會議し、並びに齋省長に公呈して、利害を陳明し、國內に流通及び海外に運米するの兩問題を將て情形區別せんことを請ふ、詳細に中央部に轉報して應さ民食を維持するを以て前提となし、本國の米糧を以て他國を濟ふことなく、後患を杜絶せんことを云ふ、知らず省公署如何に對付するや。(神州)

●陳樹藩一百萬元を請求せるの急電 陝西陳督軍昨二十四日晚謂南縣より一急電を打し來り、國務院則政部參陸辦公處に分致せり、謂く陝省より四川軍の爲めに軍費を借與し、又た管旅の軍資を代償して已に數十萬元に達せり、而して本職部下軍隊の七八兩月分軍費に不足を生ぜり、特に希くは中央より迅かに軍費一百萬元を爲替とし送金せられ、以て眉急を救はれんことを、倘し政府に於て籌措し易からざれば、請ふ銀行に向て暫らく借入れをなし、利息は總て本省の負擔となし、一たび陝亂の稍定まるを俟ちて立どころに償還せんと。(順天)

●銀行團償債基金を交付するを拒絶す 中國政府が銀行團各關係公使に向て、鹽稅準備金を融通し以て出兵經費に充てんことを要求せし事件は、現に各關係國公使より銀行團に照會せるが、此に因り匯豐銀行の希禮雅氏印度支那の桑希逸魯氏、正金の小貫氏及び菲俄道勝の各代表は、二十一日午前十一時匯豐銀行内に在りて會議を開きし結果、已に中國の要求を拒絶することに決定せり、其理由下の如し。

一 準備金は擔保金なるを以て、其性質は應さに常に存儲すべきものとす。

一 本年三月十一日前財政總長王克敏會て同一の提議ありしも、亦た已に拒絶せり、加ふるに最近鹽稅收入の狀況を以てするも頗る佳良ならず、譬へば四川廣東等の省の如きは全然送金し來らず、即ち湖南も亦た漸く減少せんとす、王克敏時代の狀況に比すれば尤も不良と爲す。

一 鹽稅を以て擔保となす第二次善後借款内第一回殘額金は已に先月に於て借り換へ、本年十月より來年七月に至る毎月當さに一百萬元を償還すべし、更らに加ふるに第二第三兩回の殘金借換期も亦た漸く間近かに逼れり。

目下の情況既に此の若し、是れ準備金全額は斷じて其流用を他の途に允るす能はざる所以なり、故に已に決議して拒絶せるなり、尙ほ銀行團は二十二日を以て各關係國公使に答覆し、公使等は即同一意志を以て更らに中國政府に同答せりと。(順天)

●林礦借款に關する記載 吉黑林礦の風潮は政府

契約書の條款を改修したることは、己に本報に見ゆ、茲に聞く政府方面にては讓歩に似たりと雖も、而も吉林聯合會は尙ほ未だ此次の辦法を承認せず、在京各代表は遂に敢て商權を爲さずして、前日省に返りしに因り、吉黑二省の民心は近日大に激昂して未だ平息ならず。

又聞く關外某督軍預備金の收回を主張するを以て、契約には甚だ力むる傾向あり、林礦借款を見るに僅かに契約書に改修を加へたる位にては、決して此次の風潮を消滅するに足らざるなりと。

兩院中三省同鄉議員は、政府の辦法未だ善からざるに鑒み昨日開會討論し、均しく此案は國庫の負擔に關するを以て正式の開會を俟ち、即ち質問を提出せん意向なり蓋し三省の議員の志は取消に在るや勿論なりとす。(時報)

●吉黑林礦借款契約の修正 吉黑林礦借款は兩省の力爭を繰たる後も、未だ肯て取消を爲さず、是に於て契約の内容に修改を加へて、危險を減少するの說あり、聞く當局者は辦法を提出して大約四ありと云ふ左の如し。

(一)契約を草したるも未だ訂明せず、契約有効期間には現に新に第十條を加へたり、本借款は本利全部償還の時は本契約は即ち廢止す。

(二)部より銀行に致せし照會文中金券を發行せんと謀り、所需金の準備充實の一語あり、完全に刪去せんとす。

(三)銀行よりの照會文中吉黑兩省の全礦森林既得の權利を尊重す、政府の許可を以て限と爲すを、改めて已得の中央政府或は地方官廳の許可となさんとす。

(四)中華匯業銀行の來書に新事業を計畫して、而して巨額の資金を需要する時は日本の資金を商借し、或は中日合辦公司を組織する等の語あり、中國當事人の希望に依り一語を加人せんとすと云ふ。(神州)

●無線電話機借款の成立 中央新聞社の消息に謂く、軍事當局は現に軍事消息を靈通傳遞を爲すの目的にて

近頃英人マーカーマルコーニ無線電話有限公司に向ひ、最新式能通話百二十華里の無線話機二百臺其代價革貨三十萬磅を注文せり、該公司は九箇月内を約し、機械を運來して裝置完成すべく、承諾したりと、中國側は則ち英人の専門技師を聘訂して、實用の各法を教導せしむ、該公司より前に龍動派來の代表は、己に軍事當局某と應接に着手せりと、其手續を聞くに該公司と英金六十萬磅の借款契約を訂し原價三十萬磅を扣除して、其餘の三十萬磅は最短期間内に在りて、該公司より交付す、利息は年八厘、兩期に分ちて給付す、政府よりは八厘金磅通行國庫券を給與して、擔保となす、償還期限は則ち民國十三年より始まり、五箇年に分ち清償す、惟將來一切の機械の修理及び話機を購買する等の事は、必ず該公司と合資辦理すと云ふ、該契約書の正文は已に前月十七日に於て雙方より正式に調印せりと云ふ。(順天)

●江南造船廠の成績 江南造船廠にて中國沿海公司所造の上海第二號二千噸船今回進水試速轉式を行ひしが、成績甚だ佳良なりし、船長二百〇三尺、幅二十九尺、吃水深十一尺、馬力六百、將來は香港新加坡一帶を駛行すと云

彙報

自九月一日至九月十五日

對露關係

▲支那官憲邦人を壓迫 (北京特電三十一日發) 黑龍省督軍龍貴福氏部下の軍隊は此程ヘラスハより黑龍江に沿ひブラゴウエシチエンスの西北約百支里アルマチン附近の間に戒嚴令を布けるが此結果同地方支那官憲の邦人に對する壓迫は一層激しくなり。(二日時事)

▲過激派對支宣戰布告 (一日哈爾濱特派員發) プラゴウエシチエンスの過激派は支那が聯合國として西伯利に共同出兵したる理由を以て去月二十七日を以て支那に對し戰爭を布告したるが之より先過激派は同月二十二日には露支國境を閉鎖して支那人の露領に入るを禁じア市に於ける支那商人の物資沒收を開始せり過激派の支那側に對する戰爭布告と共に支那官憲は支那船舶の黑龍江航行を禁止せり同月二十八日過激派の砲艦は穀物を滿載せる支那荷物船四隻を拿捕せんとし陸上の支那兵との間に小時間の銃砲を交へたる後過激派は荷物船を捨て去れり。(三日朝日)

▲支軍ニコリスク集中 (三十一日浦鹽特派員發) 支那軍隊は二十八日ニコリスク附近に集合せり。(三日朝日)

▲吉林派遣軍引揚ぐ (北京特電三日發) 滿洲里守備の吉林兵は從來セモヨノフ將軍に對し好意を有せざるものゝ如く協商國側の軍隊として不都合の點多きを以て指揮官楊少將は部下を率ゐ八月三十日哈爾濱に引揚げ目下滿洲里には趙少將の率ひる黑龍江軍の駐屯せるのみなり。(六日時事)

▲支那人罷工とセ大尉 (哈爾濱特派員發) 東清鐵道の支那

労働者は經濟上の理由にて同盟罷業を宣言したりセモヨノフ氏は威嚇的の嚴酷なる手段を取らずして激を發し軍隊の行動を維持し且つ其安全を保護せんことを請へり氏は過激派首領は其罪惡に對し相當の刑罰を受くべしと語れり。(六日時事)

▲東清鐵道開通見込なし (長春特電七日發) 東清鐵道は今尙開通せず哈爾濱よりの情報によれば從業員に對する給料は彼等の要求を容るゝことと決したるに彼等は何故か復業せざる爲汽車は何時開通するや全く見込立たざるに至れり斯く從業員等が強硬なる態度に出づるに至りしは最早給料問題を超越して今や一種の政治的色彩を帯び來れるものと云ふべく大に警戒を要する問題となれり。(八日日)

▲東清罷業擴大 (八日哈爾濱特派員發) 解決の見込ありし東清の同盟は漸次政治的色彩を帯び來り労働者の權利を要求して止まず範圍益擴大し爲に領事團と支那側は協議しつゝあり事態重大なり。(十日朝日)

▲軍用列車のみ動く (八日哈爾濱特派員發) 日支露チエク軍代表者は東清鐵道同盟罷業と交渉の結果軍用汽車のみ八日朝發車せり當局は斷乎たる處置に出づべしと。(十日朝日)

▲職工依然復職せず (哈爾濱特電九日發) 九日朝に至るも職工は労働に従事せず同盟罷業依然として繼續せられ公衆の損害軍事上の不利益莫大なり。(十日時事)

▲罷業者側に通告 (哈爾濱特電八日發) 領事團は會議を催し同盟罷業者側幹部に對し此際此狀態を續けば各自本國政府の命を仰ぐ可しと通告せり。(十日時事)

▲第一列車發車す (哈爾濱特電九日發) 八日夜十時發車決定の同盟罷業後の第一列車は同夜零時二十分哈爾濱を出發せり支那護衛兵は約二丁に亘る長き列車の前に二間毎に並び居たり機關車は支那人の手にて運轉せられたり。(十一日時事)

▲東清罷業終熄 (十日哈爾濱特派員發) 東清幹部が同盟罷業者側に肉つて九日朝七時迄に復職せざれば解散し社宅を押収すべしと峻嚴なる態度に出でし爲め連の同盟罷業者側も大恐慌を來し漸次復職しつゝあり、以來社

絶し居りし交通諸機關は漸次開通し居れり。(十一日朝日)

▲東清鐵道復業

(長春特電九日發)

東清鐵道同盟罷業は八日哈爾濱に於ける領事團の最後通牒に據り彼等も遂に復業する事に決し九日午前十一時三十分第一列車として到着する旨哈爾濱より來報ありたり。(十一日時事)

▲罷業尙ほ止まず

(哈爾濱特電十日發)

罷業尙ほ止まず東清鐵道は昨夜來高壓手段に出て勞動機關紙を停止し主謀者を拘禁し始め萬一の場合には支那車を利用す可し。(十二日時事)

▲東清鐵道一回運轉

(長春特電十日發)

約一週間運轉を停止せし東清列車は昨日一同到着せるが同列車は實工道尹が吉林督軍に急用ありて兵力を用ひ強ひて運轉せしめたるものにて未だ罷業の解決したるものにあらず引續き運轉するや否やは不明なり。(十二日時事)

▲俘虜軍の降服

(北京特電十日發)

庫倫都護使陳毅氏の報告によれば恰克圖を占領せるチエック軍は歩兵千五百騎兵六百五十名にして當時獨逸俘虜五十二名支那軍に投降せしを以て收容費四萬圓を支出せられたし。(十二日日)

▲東清罷業對應策

(哈爾濱特電十一日發)

東清鐵道從業員の同盟罷業に對し當地各國領事團は昨日夜の決議をなしたり。

第一、東清鐵道從業員の賃金問題は既に労働者により有利に解決せるものと認む

第二、同盟罷業は經濟的たるを將た政治的たるを問はず聯合國の軍事計畫の爲すべからざるものと認む

第三、同盟罷業若し繼續せば領事團は已むを得ず自國政府に對し同盟罷業を長延がしめざる手段に就て上申すべし。(十三日日)

▲支那運輸業務擔任

(北京特電十一日發)

哈爾濱支那軍司令官より北京政府に達したる電報によれば六日協商國の鐵道會議の結果により哈爾濱に於ける運輸業務一切を支那軍にて擔任する事となり八日朝支那人のみにて一二の列車の試運轉を爲したるが運轉手其他不足の爲救済を期し得ざれば速に交通部より熟練なる技術員二三十名を派遣せよと乞へり支那側にては露支條約に依り東清鐵道は建設後三十六年目に無償にて支那に還附する規定なれ

ば此際露國が之を管理すること能はざる時は當然支那に於て承繼すべく日本米國又は協商國の管理に委ね將來外交紛糾を招くべからずとなし此機に乗じ是非支那の手に管理權を移さんと欲しつゝあれど果して其實力を有するや否や疑はれつゝあり。(十四日日)

▲列車運轉紛議

(長春特電十二日發)

齊々哈爾濱來電によれば東清鐵道從業員同盟罷業の爲連日貨物乘客等停滯せる折柄去八日海拉爾より一列車來りし爲乘客等は争ひて之に乘らんとせしに該列車機關士は機械場を離れて給水を裝ひ機關庫に入らんとせしかば同驛警備の我軍隊司令は之を遮り列車の運轉を迫りしに機關士は自分等は同盟罷業に誓約し居れば若し此儀哈爾濱に行かば如何なる目に逢はんやも圖り難きを以て之より先に進む能はずとて頑として聞かざりしが折柄同驛にありし米國の鐵道隊員は我軍司令に向ひ露國人の内争紛擾に干渉するは奇怪なりとて議論を吹つけしため我司令は日本軍隊の北滿出動任務につき説明し且汽車の不通は其任務遂行に妨げあり之を動かさんことを勸むるは敢て内政干渉にあらずと反駁して彼を斥け遂に機關士をして運轉を爲さしむるに至れる爲一般乘客は何れも我軍隊の威力に感謝し米國人の餘計な口出しを非難したり。(十四日日)

▲東清線罷業者解雇

(哈爾濱特電十一日發)

東清鐵道總局は愈々最後的手段に訴へ同盟罷業の主謀者を初め約七百名を解雇する事となりし爲今朝労働者も續々復業し始め罷業も終熄に近づけり。(十四日日)

外交關係

▲鑛山閉鎖除外例

(奉天特電三十日發)

北京政府は露に各省に對して鑛山閉鎖命令を發したるより赤嶺奉天總領事は北京に赴き親しく支那當局に會見調査の結果特殊地域なる滿洲に對しては特別に日本人の權利を尊重するの保障を得たるが從來買辦契約其他姑息手段を以て經營し來れる者の人物及事業の内容を嚴重調査したる上専ら日支合辦の形式を取ることとなり近く其旨を發表し邦人の危機を除くべしと。(一日日日)

▲四國公使愈抗議

(北京特電三十日發)

英國公使ジョルダン氏は既

報の如く日英露佛四國銀行より支那政府に對し金券條例の公布につき支那政府に抗議すべき旨提議せる結果露佛公使は直に之に同意せるも日本の態度不明なる爲め未だ之を提出するに至らざりしが此程林公使帝國政府の國電に接せるを以て意英露佛三國公使と同一行動を執ることとなり三十日四國公使は各別に支那外交部を訪問し金券條例の公布四國銀行團に對する從來の關係を無視せるものなりとの理由を以て正式に抗議を提出せり。(二日時事)

▲軍事聯絡協議 (北京特電三十日發) 支那政府は日支軍事協定に依る軍事聯絡に關し中將銜周家樹氏外隨員四名を大谷司令部に、陸軍少將史久光氏外隨員二名を廣東都督府に某武官を滿洲里に派遣し日本政府と交渉中なるが日本側は既に聯絡員として顧問菊池大佐を奉天督軍署に顧問齋藤中佐を吉林督軍署に又某武官を黑龍江省に派遣せり。(三日日)

▲政府抗議に狼狽す (北京特電三十日發) 金券條例は元來小林財務官の立案にて西原龜三氏が日本政府の意圖なるが如く支那政府に傳へ支那側は條例を公布するに於て日本政府は從來幣制借款を單獨にて引受け支那多年懸案なる幣制改革の實行に便宜を與ふるものと思惟して公布せる次第なるに今回日本政府が四國銀行團の一員たる關係上英露佛三國と歩調を共にし支那政府に對し金券條例の公布につき嚴重なる抗議を提出せるに狼狽の色ありと。(二日時事)

▲支那抗議回答 (北京特電二日發) 支那政府は日本軍が哈爾濱に警察署を設置せりとの報告に基き過日日本公使館に對し抗議を提出せしが日本公使館にては事實を調査したる後右は居留民保護の爲時々警察官を派遣し調査をなさしめたるを誤解せるものにて警察を設置せるにあらざると回答せり。(四日日)

▲親米政策 (北京特電三日發) 廣東軍政府は王正廷氏を米國に派し承認運動に努むる外親米派の伍朝樞氏を廣東に招き米國との借款交渉に盡力せしめんとし今や南方は専ら米國の援助を借らんとしつゝあり。(六日日)

▲東清線管理申込 (北京特電三日發) 米國駐在支那公使顧維鈞氏は米國政府より支那政府に對し東清鐵道の管理權を西伯利鐵道に派遣せる米國鐵道委員に委任せんことを望み支那政府之を承認せば更に米國政府は日本に

向つて交渉を開始すべしとの提議を受けしことを駐外交通長に打電し來れるを以て三日の閣議に於て同問題を討論し外交總長陸徵祥氏も列席したるが支那政府も立場に迷ひ米國政府に對して先づ日本に交渉し日本との間に諒解成立せば支那政府に於ては別に異議なしとの趣旨にて回答を發することに決せりと。(七日日)

▲海關管理を強制 (上海特電六日發) 廣東軍政府岑春煊、伍廷芳、伍朝樞等署名にて軍政府は廣東海關を必要の場合強制的に管理す可しと海關に通告せり之に關し英國側の意見は若し南方が斯る事を行ひ條約上の關係を無視するに於ては却て南方に對する同情を失はむしるに至る可しと。(八日時事)

▲公使會議 (北京特電五日發) 駐在佛蘭西公使ボツア氏は廣東佛蘭西總領事より廣東軍政府が郭泰祺氏を支那海關に派遣し同收入を軍政府に交付せよと要求し支那官吏を新任して外國人に代へんとする由の急電に接せり佛蘭西公使は關稅收入は外國借款の擔保となり各國の利害に關係あるを以て廣東軍政府の要求を不當なりとして各國公使に宛て本問題に關し急遽公使會議を開かんことを提議せり。(九日日)

▲長寬間道路開通 (長春特電六日發) 長春より寬城子に至る道路は露支兩國との交渉繼り開通せしが露國と日本との租借地外なる支那の土地を通過する箇所は協約の趣旨に基き吉長道尹陶彬氏は道路用土地買収及工事費を支出して支那側に於て之を築造せり。(九日日)

▲東清管理要求事情 (北京特電四日發) 米國當局者は曰く米國政府より東清鐵道管理權を要求せし件に就き北京公使館は何等通知する所なし右は全く華盛頓政府より出でたるものなるが其内容は未だ之を明言するの時機に達せず元來米國鐵道委員は露政府の委託を受け西伯利鐵道の運輸改良の任に當るの任務を有し現に東清鐵道に對しても運輸に關する教育を擔任し居れり故に目下紊亂し居れる東清鐵道の管理權を該委員に與へ華盛頓を行ふことは露支兩國の利益にして聯合國にも決して害なしと信ずと。(九日日)

▲東清管理要求拒絕 (北京特電五日發) 支那政府は米國政府より東清鐵道管理權を要求せられたる件に關しては頗る當惑を感じ居れり支那政

府は日支軍事協約締結の際にも日本の要求が該問題に關れんことを恐れ特に
國鐵道に關し附屬書類中に現狀維持に關する一箇條を書き加へたる程にて決
して米國の要求に盲從して管理權を與ふるが如き事なかるべし只米國に對し
斷なく拒絶する能はざる爲支那側にて東清鐵道側と交渉の必要あり聯合國
特に日本とも充分協議の上にて本問題を決せんとの口實の下に體よく米國の
要求を拒絶したるものなりと。(九日日日)

▲新聞發行禁止

(北京特電八日發) 新蜀派と目されたる英字新聞ジ
ヤナールは北京警察廳より發行を禁止され新聞社に宛てたる家屋より立退き
を命ぜられたり右は英國公使ジョルダン氏抗議の結果なり。(十日日日)

▲支那學生到着

(桑港國際特電六日發) 百五十一名の支那學生(内女
學生五十名あり)は剛陸賠償費を以て實業專門教育を習得する爲め米國各地
の大學へ赴く途中當地に到着せりエール大學卒業生にして目下支那基督教育
年會理事なる輪車動は太平洋沿岸諸州に在る支那人に適當の仕事及び教育的
援助を與へんとする運動を起さん意圖ありと述べたり上海の同會幹事李紀範
は一年間以上米國內を巡遊中なりしが此程歸國の途中當地に來着せり。(十日
時事)

▲林公使見送り

(北京特電六日發) 林公使は六日午後八時半歸朝の
途に上れり段總理は午後三時公使館を訪れ告別の挨拶をなせり停車場には英
露公使各國公使館員、段芝實、曹汝霖、朱深、陸宗輿、徐樹錚、王揖唐氏其
他内外人多數の見送りありたり。(十日日日)

▲公使交換問題打切

(北京特電九日發) 支那政府は羅馬法王廳との
公使交換に關し佛國公使ボツ氏に向ひ歐洲戰爭中は之を中止し戰後必要の
場合あらば直に協議すべしとの明確の答辯を與へ佛國公使は満足の意を表し
全部解決せり。(十一日日日)

▲關稅差押中止

(北京特電十一日發) 北京公使團は廣東軍政府が廣
東稅關を占領し關稅收入を差押へんとせるに對し斷然反對の態度を取り夫々
本國政府の訓令を仰ぎたるが軍政府自ら國際問題に亘るを反省し稅關收入差
押へを中止したる旨公報ありたる爲別に運動を爲さざる事と爲せり。(十三日
日日)

▲東清拒絕調電

(北京特電十一日發) 支那政府は日米駐朝公使に調
電を發し東清鐵道は露國が管理權を全うする能はざる時は支那政府代つて管
理すべく外國の管理に移すことは體面上堪ゆる所にあらずとの意味を兩國政
府に通告せよと命令せり。(十三日日日)

▲英國公使妥協勸告

(上海特電十二日發) 英國公使ジョルダン氏
は外交總長陸徵祥氏を訪問し徐世昌氏に南北調和に努力せん事を進言された
しと依頼したるが本國政府の調電あるを俟つて正式に勸告をなすべしと。(十
四日日日)

南北情勢

▲衡州方面狀況

(漢口特電廿九日發) 衡州よりの來信に據れば地方
平和にて只、常寧の如き中立地帯は土匪に苦しみ吳佩孚氏は人民保護の法を
南軍と協議し居れり米は大半收購し非常の豐作にて米價日々に低落す。(一日
時事)

▲段總理勸告を容れず

(北京特電卅日發) 段總理は吳佩孚氏の廿
六日發電報に對し其下の理屈は高遠なり然れども政府は既定の方針を改むる
能はず若し強ひて撤退を欲せば自由行動を採るも可なり唯政府は別に後任者
を選ばんのみと返電せり吳氏今後の行動は注目し價す。(一日日日)

▲吳氏段總理を非難

(北京特電三十日發) 張宗昌氏も湖南東部の各
軍も攻勢を改め守勢を取り未だ南軍を攻めず吳佩孚氏と南軍とは無期停戰の
契約あり靜かに中央の命令を待ち其行止を定めんとすと又吳佩孚氏は段祺瑞
氏に返電し且つ徐世昌、王士珍兩氏に其寫を送り頗る過激なる言辭を連ねた
る語を引用し段祺瑞氏を非難して曰く余の服従するは曹錕氏の命令にあり間
接に中央の命令に服従す我師(段祺瑞)曾て數年共和を宣布せる事あり(第一
革命當時)宜戰講和の權は總統の權内にあり内閣に於て隨意に事を決するは
恰も王莽の如く元首を侮蔑するものなり之が爲め軍心離反收拾すべからざる
に至りたるなれ又彼は曹錕氏に打電し友誼上段祺瑞氏に勸告する所あらん事
を諷みたりと。(一日時事)

▲龍軍退治評議 (香港特電廿九日發) 岑春煊氏は諸報に於て進行しつつある戦争の経過に就き協議する爲高毅武官を召集し福建に更に多くの兵を増派するの可否如何を尋ね且海南島にある龍濟光氏の軍が最近二千以上の増兵を爲したりとの報道に接したれば李烈鈞氏は汕頭に派遣して接境地方の軍隊を増遣せしめんことを請求せり廣東軍政府當局者は此際速に海南島の龍氏の根據を衝かざれば必ずや西南の危殆に至るべしと論じ林葆懌氏に商け直に軍艦を海南に派遣し龍氏の増援軍を海上に邀撃せんことを要請せり砲艦數隻は林氏の軍艦と行動を共にすべく出發せよとの命令を受けたなり。(一日日)

▲廣東國會と憲法 (三十日上海特派員發) 廣東國會は二十八日憲法談話會を開き従前の憲法草案を討議するを以て第一歩とするの決議を爲せり。(一日朝日)

▲師長等の罷免要求 (北京特電三十日發) 湖南督軍張敬堯氏は中央に打電して曰く師長等命を奉ぜず中央の威信地を掃ひ軍心廢弛せるに等しく假に戦ふも勝を難じ余は職を奉じて何等爲す能はず速かに罷免せよと。(一日時事)

▲王占元意見提出 (三十日上海特派員發) 湖北督軍王占元は中央に打電して湖南省の人心一ならず危險實に甚だし先づ現状維持を計り次に西南各省に對し議和の誠意あるや否やを問ふべきなりとの意見を述べたりと。(一日朝日)

▲南軍奪回 (上海特電三十日發) 福建に於ける南軍の占領地は武平地方十八縣にして湖南方面にても前敵左右兩翼攻撃を開始し既に寶慶、攸縣を占領せりとの報あり。(一日日)

▲浙江軍の變心 (北京特電三十日發) 浙江軍により守備せられたる福建省平和縣は既に南軍の手に歸せりとの公報あり右は浙江軍が變心せし爲に外ならず同地にありし浙江軍司令官童保暉氏に關しては消息なし。(一日日)

▲兩議員招待會 (北京特電三十日發) 二十七日午後一時段總理以下各總長は兩院議員四百十餘名を國務院に招き段總理は兩院の選舉速に行はれ

議員其人を得たるを喜ぶ今後迅速に總統選舉を行ひ才德兼備の人物を推さんことを願ふ旨演説し梁士詒、王揖唐兩氏は兩院を代表し謝辭を述べ立食の饗應に移り同三時散會せり。(一日日日)

▲中立督軍段氏勸告 (北京特電三十日發) 中立各督軍等は段祺瑞氏に參戰督辦處に戻り特に總理は内閣の一名に代理せしめ時局解決の意思を示し解決の方法を定め以て缺裂を免れん事を勸告せりと。(一日時事)

▲南方諸將も和議 (漢口特電二十九日發) 譚浩明、馬濟、程潛、趙恒惕等の諸氏も和議を唱へ皆吳佩孚氏と電信電話を通じ居れり再戦は遂に望む可らず。(一日時事)

▲南滿馬賊橫行 (長春特電三十日發) 北滿地方時局切迫し支那歩兵等は此方面に出動する爲南滿各地の警備多少薄弱となれるの報あり且高麗紫茂して馬賊の行動に最も便利なる時季となりしかば彼等の出沒激しく殊に懷德縣管内にては昨今大小の賊害頻出し縣民の恐怖一方ならざる爲懷德縣知事は同縣巡警長を隨へ討伐の爲出動し兵を指揮しつつあり。(二日日)

▲軍事協定實行さる (北京特電三十一日發) 徐樹錚氏は參戰督辦處參謀長の名にて諸督軍及び北滿駐屯軍指揮官等に電報し曩に締結せる日支軍事協定は既に實行期に入れる旨を説明し茲に軍事協定の効力に關して陸軍部内に存立せし有らゆる疑問を氷解せり。(二日時事)

▲北京國會は非法也 (三十一日上海特派員發) 廣東の軍政府は三十日通電を發し北京非法國會の存在に反對の主旨を發布するを議決せり。(二日朝日)

▲段氏は參戰に努力 (漢口特電三十日發) 吳光新氏の出京は二十日段祺瑞氏の招電に依り即日出發せしものにて二十四日王占元氏の宴會の席にて吳氏は段政府は早く内争を熄めて力を參戰に盡さんとする決心なるを演説せり。(二日時事)

▲孟督軍軍隊増設 (長春特電三十一日發) 孟督軍は時局に連れ邊疆の防備に急なりとの理由の下に陸軍二十個營を新設し安全を期せんと謀り来る省議會の通過を遂げ自己の勢力の擴大に資す可しと。(二日時事)

▲國防に全力を注ぎ (北京特電三十日發) 吳佩孚氏は更に第十九師

吳錫春督氏及び同師全員の電報を當地に返電し來り第十九師の意思は要するに約法を尊重し國家の統一を圖り長江三督軍と共に元首の意見を授け貫徹するを説き内争止まざる間總統選舉を延期す可しと賛成し又戦ひを國內に起すを止め全力を國防に注ぐの要を述べたり。(二日時事)

▲楊氏主和贊成

(北京特電三十日發) 廣東討伐軍に屬する江蘇軍師團長楊春普氏は二十九日江西省贛州より北京政府に打電し吳佩孚氏の主和電報に賛成なりと聲明せり。(二日日)

▲倪氏主戰固執

(北京特電三十一日發) 倪嗣冲氏は段總理に密電を送り吳佩孚等の主和運動の根源を究るに海軍にあり決して海派の陰謀に陥り輕々しく辭職等を爲す勿れ余は飽迄主戰方針を取り政府の公僕たるべしと斷言せり。(二日日)

▲盧護軍使返電す

(上海特電一日發) 護軍使盧永祥氏は昨日吳佩孚及び湖北、湖西、陝西、福建、上海の各護軍使等に段祺瑞の元首をして戦ひを止むるの命令を分ち民生を厚うし國威を振興せんことを主張されたと云へる電報に何等詳論を加へず北京政府に返電せりと云ふ。(二日時事)

▲奉天新募兵編入

(北京特電三十一日發) 北京政府は奉天督軍張作霖氏と交渉の結果徐樹錚氏が新募せる奉天募集兵第一、第二、第四の三箇旅團及奉天の一箇旅團を九月一日より參戰督辦處に隸屬せしむる事に決し斬雲鵬氏は參戰督辦處督理として該軍隊の編制訓練指揮權を附與されたり。(二日日)

▲吳佩孚氏の辯解

(北京特電三十一日發) 南軍司令官譚浩明、譚延闓氏等は援粵副司令吳佩孚氏の主和電報に對し賛成の意を表し之を陸榮廷、岑春煊兩氏に轉電し一致して主和を主張すべし然らば時局解決は難からずと返電せり吳佩孚氏は右の趣を北京政府に報告し今回の事件は決して他の運動によれるものにあらずと述べ海派との關係を否認せり。(二日日)

▲張氏南下を拒む

(北京特電三十一日發) 北京政府は四省經略使曹錕氏より九月一日出發南下すべしとの來電に接し張勳氏に之を移譲し遂に南下せよと命じたるも張氏は曾を土匪討伐の多忙に託し出發期日を確定する能はずと返電せり。(二日日)

▲唐氏總裁就任

(香港特電三十日發) 唐紹儀氏は近日中に廣東に歸來し政務總裁に就任すべしと打電し來れり。(二日日)

▲南軍突進

(北京特電三十一日發) 長沙來電に南軍約二萬は吳佩孚氏の平和運動の爲湖南軍備の隙を窺ひ劉陽に突進して北軍を包圍攻撃し北軍は約三十支那里敗退し湘戰團繼續中なり張敬堯氏は直に援軍を送りしも長沙方面は頗る危險なり。(二日日)

▲張勳の特赦を請ふ

(三十一日漢口特派員發) 張作霖は湖北王督軍に對し中央政府に打電し帝制犯人張勳の特赦を請ひ張を邊防に派遣し功を立て前罪を償はしむべく盡力せんことを懇請し來れり。(三日朝日)

▲瀏陽陷落原因

(北京特電一日發) 湖南省瀏陽の陷落は同方面防備の第十一師團の後方に撤退せる爲にして同師團長李奎元氏は事を以て督軍張敬堯氏を恨み吳佩孚氏の主和運動に加擔し隙を窺めて外侮を防ぐべしとの通電を發せり。(三日日日)

▲長江督軍吳佩孚後援

(三十一日漢口特派員發) 張作霖其他の主戰派督軍は湖北王督軍に對し吳佩孚の通電は叛逆に相當すると認め職權を褫奪し處罰せん事を要求せり然も吳は依然主和運動を止めず湖南の防務を撤退し北歸して初志を貫かんと決意せる旨返電せり長江三督軍中吳佩孚の平和運動を積極的に援助し居るは李純にして二十九日特使を派し吳の後援策に就き王督軍と商議せしめ居れるが其要旨は湖北、江西、江蘇の團結を固め中央に打電し西南一致兵を止め善後策を講ずる事、新舊の諸事及總選舉を暫く中絶し之が將來の存廢を公議に決する事にして王督軍は最近張勳の同意を得たる上共同動作に出づべしといふ。(三日朝日)

▲曹錕時局解決を説く

(上海特電一日發) 曹錕氏は愈々南下して漢口に赴くと共に吳佩孚氏の戦ひを止むるの議に就いては此の邊陲の地に依りて國防の必要を深く感じ若し時局速かに解決されずば語言盡だ多し中央は遂かに方針を定められたしと云へり。(三日時事)

▲各總長も辭職申合

(北京特電一日發) 段總理は三十一日の閣議に於て總統選舉後斷然辭職する旨發表せるが各總長も段總理と連退を共にし辭職することと申合せたり。(三日日日)

▲徐氏の對南策

(一日北京特派員發) 徐世昌は初め梁士詒等の意見に依り南北妥協を條件として總統就任の決心を爲しつゝありしも今同梁士詒南方と衝突の結果南方人士間に意見一致せず南北調停は決して急速に運ぶものにあらずとの意見を述べたるを以て徐氏は時局重大の際なれば兎に角一時大總統に就任する上にて徐々に和平統一の観を講ずる事に決したり。(三月初日)

▲兩院議長徐氏推薦

(北京特電二日發) 參議院議長梁士詒、衆議院議長王揖唐兩氏は一日各省議員を歴訪し徐世昌氏推薦の理由を説明し徐氏の就任により國內の平和を求め得べく戰線の精悍及長江三督軍も之に賛成せりと述べ一致して投票せんことを希望し一二兩日に亘り更に議員を招待して盛議を張れり。(四日日)

▲辭職通電

(北京特電一日發) 既電の如く段總理は三十一日各省督軍に通電を發し總統選舉後辭職すべきことを聲明したり其電報全文左の如し。

往年雲貴兩省私意を挾んで獨立自主せる時予は悉くも國政を執り義として之を座視し難く大總統の命を享けて討伐に従事し將に全勝を得んとする際忽ち調停説を唱ふるものあり予は敢て自ら師を行らず告を引きて辭職し予の後成立せる王内閣は調停に従事せるも長沙、岳州陷落し荊州、襄陽騷擾し武昌漢口亦危險に迫り險を待むもの頗る悔る心なく戰局を計るもの平和政策を施し難し此時予が職を解かれ専ら邊防を事とし再び政權を握るを希はざりしが大總統親ら駕を枉げて再起を促し各方面の督促により已むを得ず就職せり就任以來統一を以て職旨となし平和を以て希望となし馮總統同體同心願運を挽回せんと希ひしも荏苒時を経て統一に時日を要し統一の平和希望を達せず而も國家は統一平和を捨つる能はず情むらくは予實衰の力なく未だ國難を収むる能はず上大總統の知遇に負けり今幸に國會成立し既に大總統選舉會を組織す之れ實に我國第一回の大總統改選にして政局維新の秋に會す予は將に時に及び隱退して初志を遂ぐべし唯更迭の際新内閣未だ成立せず人心動搖し騒ぎ起り易し凡そ各省軍民總督及前敵將官は職備を修め嚴に煽惑を防ぎ人心を鎮撫し秩序を保つべし若し之を苟且にせば國本を危からしめ戰線將及び地方官官の責任免る能はず竊んで區々の誠を布

き鐵納を祈る。(三日日)

▲南軍延平占領

(上海特電二日發) 南軍司令陳炯明氏は三十日延平を占領せり。(四日日)

▲研究會徐氏に確定

(北京特電二日發) 研究會は總統問題に關し徐世昌氏の真意を實す爲面會を申込みしも徐氏は面會を通じ吳寶孫氏(印錫局長)をして自ら總統たるを願はざるも選出せらるゝ時は就職すべし時局に對しては和平統一を最後の目的として一先づ事實問題を解決し法理問題を後題となすべしと告げしめたり又梁士詒氏は安福俱樂部を代表して研究會に對し徐世昌氏を總統に選舉されたい旨提議し徐氏は和平統一を目的とし段祺瑞氏は總統選舉後野に下るべく主戰派督軍亦徐氏に賛成なりと聲明したるが右に對し研究會は大會を開き徐氏を總統に選舉することに確定副總統選舉に對しては延期を主張し安福俱樂部にして應ぜざる時は副總統選舉會は勿論大總統選舉會にも缺席すべしと決議せり。(四日日)

▲龍軍の屈服

(香港特電三十一日發) 龍濟光氏の軍隊は廣東の壓迫に堪へ兼ね廣東政府當局に對し自由に海南に進み得る事を條件として何時にても廣東軍に降伏すべき意思ある事を傳ふる爲代表者を派遣せり仍つて廣東當局は龍軍の精銳を盡き成るべく速に平和を克復する目的を以て二名の武官を平和特使として海南島に派遣する事に決せり。(四日日)

▲林葆懌氏就任

(上海特電二日發) 林葆懌氏は九月一日廣東軍政府の海軍總長に就任せり。(四日日)

▲段總理曹張に命令

(二日北京特派員發) 段總理は曹錕、張懷芝に對し吳佩孚和議成る後前敵處分如何、南方一致して果して主和を實行し得るかと質問すべきを命ぜりと。(四日朝日)

▲馮氏再び通電を發す

(上海特電三日發) 馮國璋氏は又も通電を發し其野に下るに決定せるを聲明し且つ時局の之より統一さる可きを希望し其意教育上に關して力を致すを得んことを欲し未だ之を發するを得ずして居れりと述べたり。(四日時事)

▲張懷芝南下中止

(二日北京特派員發) 張懷芝は中央政府に宛て長江督軍より形勢險惡なるを以て南下を見合せよとの來電ありしより暫く出發

を中止し先づ曹錕を促して早く南下せしめられたしと打電し來れり。(四日朝日)

▲南軍江西を攻めん

(上海特電二日發) 陳光遠氏は國務院に打電し中央和議を決せざる廣東は林虎を總指揮官とし二十九日南雄に到り韶縣の廣西軍と共に贛縣を攻めんとしつゝあり。(四日時事)

▲湯化龍暗殺さる

(二日國際社ウイクトリア發) 湯化龍氏は加奈陀ウイクトリアに於て支那人理髮師に暗殺されたり犯人は直に自殺せり。(四日朝日)

▲曹錕政治無關係を云ふ

(漢口特電二日發) 當地各新聞に宛たる曹錕氏の長電頗る奇異なるものなり曰く世間余に對し種々の評あれど余は軍人にて服従を知るのみ更に政治問題選舉問題に容喙せしことなし今兵を動まし南伐せんとす平定の日ば田園に歸り太平を樂まんと。(四日時事)

▲湖南督軍答電

(上海特電二日發) 段氏が一致主張せば大局の解決離からずとの通電を發したるに對し湖南陝西督軍等は其意見を求むる懇切なる答辭を打電せりと。(四日時事)

▲北方督軍段氏引留

(三日北京特派員發) 段總理辭意の通電に對し曹錕、張懷芝、鮑貴卿、倪嗣冲、張敬堯等より返電あり何れも段氏の留任を勸め從來の方針を堅持し地方の治安を保ち大局を維持すべき事を述べたり。(四日朝日)

▲自稱總司令官

(北京特電二日發) 福州にある浙江軍を謀叛せしめし呂公望氏は自ら援閩浙總司令と稱し雲南軍と聯絡し福建を攻略せんとしつゝあるも南軍司令陳炯明氏とは意見一致せず今後の離合遊移すべからず漳州は未だ北軍の手にあるも守備兵は戰意なく掠奪を行ひ物情騷然たりと。(四日朝日)

▲奉天の馬賊

(奉天特電二日發) 奉天省輯安縣通遼城に一日午前四時約二百餘名の馬賊襲來し縣知事公處其他民家數箇所を放火し同入時頃に到り同城の民家大半烏有に歸し縣知事は行方不明となり警察廳長は賊團に拉致せられ巡警は悉く逃亡し人民の多數は對岸に避難し約百名の有力者は人質となりたるが日本巡査一名あり安否不明なりとの情報ありたり。(四日朝日)

▲張作霖氏募兵

(芝罘特電三日發) 奉天督軍張作霖氏は部下の軍

隊補充を名として山西、河南、江蘇各省にて約一萬人の新兵募集中心なるが二日當地にも募集官來り二千名を募集せんとしつゝあり。(五日朝日)

▲王占元陳光遠は傍觀

(三日漢口特派員發) 湖北王督軍は一日江西督軍陳光遠と現在及び將來の態度に就き電照して曰く、兩省は元來直隸系なり本系の現状は今や猶豫す可からざるものあるが如し但し吳師長の第一主和の失敗に鑒み曹錕、張懷芝が和議に對する態度決定したる後進行すべく暫く傍觀の態度を執るを可とせん云々。(五日朝日)

▲副總統選舉急々延期

(北京特電三日發) 五日開會すべき副總統選舉會は各派に於て未だ公認の候補者を定め居らざる爲急に舉行すべからずとの意見を有し研究會は五日副總統選舉を爲すならば一同連袂缺席すべしと提議せし爲急々延期せらるゝ事に交渉纏まり候補者中有力なるは馮國璋、曹錕、張作霖氏等にして段氏は副總統の希望なき事を明言せり。(五日朝日)

▲平和會議開催を求む

(漢口特電三日發) 各省省議會聯合會は湖北江西督軍及び吳佩孚氏に打電し急に各省に通告し代表を集め平和會議を開き一切の爭點を法律に依り解決するに努力するを求む。(五日時事)

▲吳佩孚逆心あり

(三日漢口特派員發) 湖南督軍張敬堯の來電に曰く吳佩孚衡陽に在りて和を計り失敗に終る而して吳や逆心に出て湖南の防務撤去を準備するのみならず南軍と協商し遂に張を引いて寧に入れんとするの形跡あり湖南の防務維持の爲め奉天第一師を湖南に派し吳を監視せしむる事とせりと。(五日朝日)

▲段氏留任勸告

(北京特電二日發) 直隸督軍曹錕、奉天督軍張作霖、安徽督軍倪嗣冲、山東督軍張懷芝、河南督軍趙倜氏等より段氏の辭職通電に對し新舊總統交代の際總理が俄に辭職するは宜しからずとの意味の返電を送り來れり。(五日朝日)

▲徐世昌氏當選

(北京特電四日發) 大總統選舉は出席者四百三十五名に對し四百二十五票の多數にて徐世昌氏當選せり。(六日朝日)

▲南方總統不承認

(北京特電四日發) 廣東軍政府は新國會を承認せず該國會の選舉せる正副總統を承認する能はずとし飽く迄法律を擁護して

和志を貫徹すべしとの宣言を發し各省に通電せり。(六日日)

▲南軍漳州占領 (三日廣東特派員發) 廣東軍は福建省漳州を占領せり。(六日朝日)

▲南軍攻略 (福州特電四日發) 南方派の自稱國軍副司令孫寶樹氏の部隊は昨日福州の上流なる延平布を攻略せりとの情報あり市内騒然として錢莊の我が臺灣銀行支店に預金を請ふ者多數にて雜沓せり。(六日日)

▲吳和議を迫る (三日漢口特派員發) 吳佩孚は主和を通電し主戰派の阻止に違ふや折返し和議を即行せよ然らざれば湘南の防務を撤し北歸せんと時に桂冠の意を打電せり段總理は之に對し戦ひを棄てて和を言ふことには今日濫りに從ふこと能はず吳にして湘南の防務を撤去せば自ら責を引いて辭職せん王督軍に打電せり王は之に對し現在内憂外患交々至り解決一に公に依頼す辭意を讀し願はくは國家を磐石の安きに置かんことを云々と答電せり。(六日朝日)

▲雲貴川聯合軍失敗 (三日漢口特派員發) 柏文蔚氏等の率ふる雲貴四川聯合軍は吳光新の不在に乘じ湖北西部を突破せんと企て一部隊を長江北岸與山縣の山間より間道に沿ひ八月廿九日夜宜昌の上流三哩の南津間に突出し三十一日主力を以て巴東を攻撃せしも共に撃退せられたり。(六日朝日)

▲廈門泉州危し (四日上海特派員發) 福建省の南軍振ひ廈門危ふく泉州亦危ふしと目下廈門には英米日の軍艦警備し居れりと。(六日朝日)

▲妥協反對 (上海特電四日發) 孫洪伊氏は昨日伍廷芳、陸榮廷、岑春煊、林葆懌氏等に對し樂士論派の南北調停運動に反對する旨の長電を發せり其理由として

一、妥協案は全く護法精神に反す
二、妥協の結果は北方に降服することとなる
三、精銳の兵力未だ盡きず北方の武力に屈するの必要なし
四、北方の軍人中南方に同情を有するもの少からず

との事項を擧げがける時に於て若し和議を講せば將來の治安望むべからず今や北方政府の財源竭きつゝあり此際南方の態度としては即ち形勢の推移を見時機を待つを以て上策とすべしと主張せり。(六日日)

▲形式辭表 (北京特電五日發) 梁士詒、王揖唐兩氏は議會を代表し

五日午後徐世昌氏を防ひ速に就職し支那古慣の謙讓的辭令を繰返す勿れと勸めたるが徐氏は一應辭意の電報を各省に發し其回答を待ち去就を決する筈なり而も西南五省を除き北方各省は徐氏の就職を督促すべく氏の就職は既定の事實と云ふべし。(七日日日)

▲南方派の宣言 (上海特電五日發) 廣東軍政府は八月三十日通電を發し約法にて馮國璋氏を大統領として總統の職權を代行するは暫らく承認するも新國會の總統選舉の如きは絕對に之を承認する能はずと。(七日日日)

▲總統選舉に異議 (上海特電五日發) 徐世昌氏當選せるも西南承認せざるに於ては如何吳佩孚氏等も此總統選舉を以て法理に合はずとせり。(七日時事)

▲湖南南軍茶陵集中 (六日上海特派員發) 湖南に於ける南軍は湖南の南部西部の外東部を攻めんと爲其の兵を茶陵に集中し居れりと。(七日朝日)

▲徐氏の當選を祝せず (漢口特電五日發) 徐世昌氏當選に就ても今朝官民共國旗を掲げ祝意を表するものを見ず。(七日時事)

▲徐氏就任不承諾 (五日特派員發) 徐世昌は大總統就任不承諾の旨參衆兩院に通告せり其大要は「予は愛國心を懷けるも今日の時勢は之を實現するに便ならず救民の念深きも時局困難にして到底目的を達する能はず今日の紛糾せる時局は壯年の人も解決し難しとする所なるに老年予の如きものが力の能くする所にあらざ」と云ふにあり徐氏は同様の通告を各省軍民長官に漏れなく打電せり。(七日日日)

▲段氏の留任勸告 (北京特電五日發) 此程廣東軍政府は北京に召集されたる新國會は之を承認せず従つて其選出せる正副總統は之を承認せず軍政府は飽くまで法律を擁護す云々と政務會議の名を以て通電し來れり段總理は右通電到着後、果して倪嗣冲、張作霖以下北洋各督軍より續々留任勸告の電報に接せるが其態度を疑ひて長江沿岸各督軍中王占元氏は段總理に宛時局を一層紛糾ならしむるを以て暫く留任せられたしと取任を勸告し來れり。(七日時事)

▲張作霖氏怒る (奉天特電五日發) 張奉天督軍は保安鎮馬賊騷動の報告に接せるが大いに鬱怒し直ちに東邊鎮守使馬龍潭氏に馬賊討伐を電命し馬鎮守使は部下の某大隊長をして一箇中隊を率ゐて遼瀋城に急行せしめた

り而して一方同縣知事及警察廳長に對し馬賊に拉致されたる人質を奪回するにあらざれば嚴罰に處する旨嚴達せり。(七日日日)

▲段總理引留運動

(上海特電七日發) 龍濟光氏は二日各省に打電し段總理辭職引留を請ふの旨電報を打つ事を運動せるに湖南督軍張敬堯、察哈爾都統田中玉四省經略使曹錕、浙江督軍楊善德氏等は四日山東督軍張懷芝同代理督軍張樹元兩氏は五日龍濟光氏に返電し段氏の引留に賛成の旨申出たりと。(八日日)

▲陳氏參陸處に報告

(上海特電六日發) 湖西督軍陳光遠氏は三日參陸處に打電して曰く目下湖西省に在る軍隊は八族を各地に分駐しあり勢ひ甚だ弱し僅に防禦し得るのみにて西南を攻むるを得ず又第十八師團長楊岐孚の都下は吉安、萬載等に分駐しあるも嚴に中立を守ると稱し居れりと。(八日時事)

▼徐氏出廬念入り

(上海特電六日發) 徐世昌氏は新國會兩院、總統府國務院に宛て書簡を送りたるが頗る強硬の辭を用ひ居れり尙氏は時局解決に關し意見書を各方面に致し其一致賛助を得ることを確めたる上初めて就任を肯ずるの意を表せりと。(八日日)

▲廣東兩院聯合會

(上海特電七日發) 廣東にて五日舊國會參眾兩院聯合會を開き北京に於ける非法總統選舉に反對の宣言書草案を討論せり又衆議院は副議長陳國祥氏の廣東に來らざるより解職を決定し六日副議長の選舉を行ふ答。(八日日)

▲奉天軍南下決議

(上海特電七日發) 三日徐樹錚氏宅にて奉天軍駐蘭州、孫烈臣氏等列席會議の上左の議決を爲せり。

一、徐世昌就職後奉天軍は直に南下する事

二、許蘭州は兵を率ひ陝西を平ぐる事

三、張敬堯等に打電し湖南に於ける防禦をなす事(八日日)

▲劉人熙氏擔がる

(漢口特電七日發) 前湖南督軍代理劉人熙氏が兵を起し劉陽を占領せりとの説は昨日氏が浙江九に於て當地に來り直に上海に下江せし爲事情明白となれり氏の予(特派員)に歸れる所によれば劉陽平衡兩縣は十一師團長李奎源氏の兵之を守り居りしが劉陽の兵は土匪の攻撃を受くること三日にて長沙に引揚げ平衡の兵も賊はすして又引揚げ土匪は二十九日

兩地を占領せり李師團長の兵引揚げしは氏が平和に傾き馮督軍と意見衝突せしに由る斯くて土匪は其首領なきに苦しみ劉氏の名義を以て統一を計りしなり氏は七十五歳の老人にて土匪と行動を共にする者にあらざるや勿論にて嫌疑を避けんが爲暫らく上海に移住せんとせるなり尙目下唐紹儀氏は督軍の依頼により同地の土匪を招撫しつゝあり。(九日日)

▲徐氏の四條件

(五日北京特派員發) 徐世昌は辭退を聽かれず如何にしても就任せざるべからざる際には當局の有力者に向つて馮國璋の副總統繼任、段祺瑞の留任、南北の停戰和議、中國交通兩銀行の紙幣兌換を實行すべき事の四箇條件を提出し其如何にて去就を決する意嚮なりと。(九日朝日)

▲馮總統辭任申入

(四日北京特派員發) 馮總統は張秘書官を以て兩院議長に對し最早一日も早く野に下り度き故新大總統就任の時期を繰上げん事を要求せるも兩院議長は選舉會は單に選舉の權あるのみ任期に就ては如何ともするの權能なしと答へたりと。(九日朝日)

▲馮氏南方に通電

(七日北京特派員發) 馮總統は各省軍民長官に對し徐世昌推戴を勧むるの通電を發したるが南方側に對しても岑春煊陸榮廷其他の名士に宛て大要左の如き通電を發せり。

國分製すれば必ず減ぶ今日分裂の形勢を離成せしは皆意氣と意見との致す所なり然れども國家重きが意氣と意見重きが諸公國家を以て前提とし法律問題は後日之を解決する事とし徐世昌の大總統就任を賛同せん事を請ふ諸公談話を云ふも法の根本は人民を以て主體と爲す今全國の人民皆亂を厭ふて治を望む苟くも民なくして何の法か是れあらん諸公の志國家に存せば和平を希望して總督國中に運き徐氏の就任を賛せられよ。(九日朝日)

▲東三巡閱使任命

(北京特電六日發) 五日の國務會議は奉天督軍張作霖氏を東三省巡閱使に任命する件を議し閣員一同の賛成を見正式に閣議を通過せりよつて即日大總統命令を以て公布せらるゝ事となれり目下副總統問題が各派の暗闘の爲決定を見難き際張氏の東三省巡閱使特任は時局に重大關係あるを以て各方面の注目を惹きつゝあり。(九日日)

▲總統常選證書授與式

(北京特電五日發) 五日午前九時衆士貽氏(參議院議長) 王揖唐氏(衆議院議長)は總統選舉會にて作成せる總統常選證書を携へ徐世昌氏に謁し證書授與式を行ひたり。(九日日)

▲副總統選舉期

(北京特電六日發) 兩院議員三百餘名は六日午後一時衆議院に集會し副總統選舉期に就き協議したる結果十月十日(大總統就任期)迄の内に適當の時期を選び執行する事に決定せり。(九日朝日)

▲馮氏辭任通電

(北京特電七日發) 馮總統は北方各督軍に向ひ徐世昌氏が次期大總統に當選せるは其人を得たり徐氏は謙遜にして各方面より一致推薦するにあらざれば就任せざるべし予の退職期既に迫る予は衷心より徐世昌氏の就任を望むと通電せり。(九日朝日)

▲廣東軍政府吳を援けん

(六日香港特派員發) 廣東軍政府は主和を主張せる吳佩孚が若し北京政府より免職せられたる場合は吳に對し軍事的援助を與ふべきを約せり。(九日朝日)

▲徐氏當選祝意

(北京特電六日發) 前清皇族醇親王及載洵貝勒は六日徐世昌氏を訪ひ總統當選を祝し日英兩國公使も個人の資格にて徐氏を訪ひ祝辭を述べたり地方よりの祝電は曹錕、張作霖、倪嗣冲、張懷芝、張敬堯、閻錫山氏等五十餘通に達せりと。(十日朝日)

▲廣東國會宣言

(八日上海特派員發) 廣東國會は四日左の如き宣言を發したり。

曩に國會は非法政府の命令を絕對に承認せざる旨發表せるが今や北京非法國會は遂に大權を偷み總統を選舉せんとす約法に根據なき國會が斯かる權能なきは一般の知る所なり若し不幸非法選舉の事實發生し何人が總統に選舉せらるゝも國會は絕對に之を承認せず。(十日朝日)

▲徐世昌と湖北官民

(七日漢口特派員發) 徐世昌は王督軍が四日賀電を發し徐に擁護を誓へるに對し「老朽重任に堪へ難く國事を誤らざらんが爲め當然貴能の士に譲らん」云々と返電せるが王督軍は再び打電し「當今の危局專ら鈞鑒克統禦せるのみ即日就任して人心を安んぜん事を乞ふ」と言へり湖北の官場は徐にして就職せば國事はより結束せしむるあらんと樂觀し當地商會にては徐は支那唯一の元老にして北洋派及岑春煊等西南首領とも交情あり和議の進行に好都合にして過段の暗潮を終滅せしむべしとて大に歡迎し武漢商務總會は既に祝電を發せり唯政黨員は徐の當選は南北の妥協は可能性を加へたる如き裏面に於ける暗潮は容易に融合さるべきにあらす將來第二の黎元洪たるなきを保せず憂ふべきは其時第二の張勳の出現せん事是なりと稱し居れり。(十日朝日)

▲選舉手續を難す

(上海特電八日發) 岑春煊氏は馮國璋氏に宛徐世昌氏の總統たらんことを歡迎せるも其の當選手續不法なる爲め承認すること能はずと云へり。(十日時事)

▲兩院議長徐に回答

(十日北京特派員發) 參衆兩院議長は徐世昌の就任辭退通告に對して總統選舉は選舉會の選舉せる問題に係り本院は總統の選退に就き議決するの權限なしと回答せり。(十日朝日)

▲福建に北兵増派

(北京特電八日發) 北京政府は福建省の危急を救ふ爲龍濟光氏の新募せる振武新軍を増派することに決し同軍は天津より續々南下しつゝあり。(十日朝日)

▲徐氏通電範圍

(上海特電八日發) 徐世昌氏の通電は各省督軍省長の外黎元洪、張謇、趙爾巽、梁啟超、熊希齡、王士珍、唐紹儀、岑春煊、陸榮廷、伍廷芳、孫文、范源濂氏等にも發送し頗る世人の注意を惹けり。(十日朝日)

▲廈門西岸既に陥る

(上海特電九日發) 福建省廈門西岸の江東橋は既に南軍の手に入り李厚基氏は現に廈門城内に留まり敗軍は連れつゝ掠奪を爲し今は之を收拾する能はず僅に手兵一團を有するのみ砲臺軍の掩護にて漸く支へ居れり浙江軍の司令部は尙は蘭安に在り廈門との電報は杜絶せるも尙は交通は連絡し居れりと廈門より通信ありたり。(十日時事)

▲廣東軍福建に迫る

(上海特電八日發) 福建方面の廣東軍は雲南軍を右翼とし潮州にあり漳州にある許崇智氏の兵は左翼として延平にあり各主力を集居し中れり又投降せる浙江軍は呂公望氏之を指揮し饒平方面にある左翼は四日黃岡を占領し福建軍は分水嶺方面に退却せり童保暉氏は尙は蘭安に根據を有し廈門方面の部下二營孤立せり尙は廣東軍は浙江軍投降の際小銃約二千彈藥三十萬發を獲得せりと云ふ。(十日時事)

▲廣東軍政府總統選舉反對

(八日上海特派員發) 廣東軍政府の總統選舉反對電報に曰く 西南師を起して以來本軍政府は議決に關し屢々表示する所ありたり副總統が大總統の職務を執行することを除きたる外其餘の北京非法政府一切の行為は軍政府に於て萬之を承認するの餘地なし今や大總統の法定任期殆ど満

さし時北京自ら機關を構へ國會と自稱し總統の選舉を行はんとす軍政府の
重んずる所は該法のみ人に於て容るゝ心なし故に其候補者の何人たるを問
はず賛否を決するは其選舉の合法なりや否やに存す南も北京非法國會にし
て大權を濫用し投票するあれば其選ばるゝ人如何を問はず之を承諾せず
と。(十日朝日)

▲内争中止請願會 (漢口特電八日發) 南京の商會は沙市、武昌、漢口
九江の商會と連絡し雄爭請願會を組織し政府に戰爭中止發布を請願せんと
計畫にて漢口よりは代表を派遣せり。(十日、時事)

▲十七省段氏慰留 (北京特電八日發) 段總理の辭職通電に對し直隸
河南、山東、湖北、湖南、安徽、浙江、江西、陝西、山西、甘肅、福建、奉天
黑龍江、綏遠城、察哈爾、熱河の十七省區より留任勸告電報あり殊に倪嗣冲
(安徽)張作霖(奉天)兩氏より熱烈なる慰留電通報したるが江蘇督軍李純氏の
みは「君子人を愛するに德を以てす」と婉曲なる電文中に辭職賛成を意を仄
めかし來れり。(十日、日日)

▲湖南武崗落つ (八日上海特派員發) 湖南省武崗は守を失へりと。
(十日、朝日)

▲巡閱使の權限 (奉天特電八日發) 東三省巡閱使張作霖氏は督軍及
省長は依然業務する筈にて巡閱使としての權限は三省の軍事外交財政を管理
すべきも吉林に對しては孟督軍の在任する以上徹底的の實行は困難なるべし
總辦の事務は奉天に於て處理する筈にて九日孫烈臣、吳俊陞、汲金純氏等
各師團長外主なる文武官を招き祝賀の宴を張れり。(十一日、日日)

▲政權を離るゝ勿れ (北京特電九日發) 奉天督軍張作霖氏は段總
理の留任を希望し段氏に向ひ副總統に選出せらるゝも可ならんも政權を離る
る勿れとの忠告的電報を寄せ來れり。(十一日、日日)

▲段總理長子下漢 (七日漢口特派員發) 段總理の長子は二名の隨員
を隨へ來漢せるが其用向は前敵各司令を宣撫し吳佩孚の主和に服せしめざら
んが爲にて彼は其隨員を湖南に赴かしめ自己は痔疾の爲め佛蘭西ホテルに宿
り居れり。(十一日、朝日)

▲湖南收拾し難し (九日北京特派員發) 湖南督軍張敬堯より北京政
府宛て打電して曰く吳佩孚、譚浩明は暗に和議を提唱するも政府が之に對

し具體的方策を講ぜず湖南の局面は收拾す可からず予は地方防備に盡瘁しつ
つあるも四面楚歌の程に在り早く援兵を増派し適當の處置を執られたし。(十
一日、朝日)

▲南軍廈門を包圍せん (九日北京特派員發) 廈門來電 漳州厦
門間鐵道は今や南軍の手に歸し廈門は南軍に包圍さるゝ状態に在り廈門占領
は案外容易なるも同地は外人居留者多きを以て若し攻撃を開始せば先づ領事
團に通告し外人に避難を求むることとなるべし廈門砲台の英國砲艦は居留地
保護の爲めに廈門に陸戰隊を上陸せしめたり。(十一日、朝日)

▲支那國會一週休會 (九日北京特派員發) 支那國會は九日より一
週休會すべしと。(十一日、朝日)

▲非法選舉否認 (九日上海特派員發) 陸榮廷譚浩明熊克武等は親し
く軍政府に對し北京に於る非法總統選舉を否認せるに賛成の旨通電せり。(十
一日、朝日)

▲張敬堯吳佩孚と反目 (九日北京特派員發) 張敬堯と吳佩孚とは
意見反目しつゝあるを以て其衝突を來さん事を疊々段總理は吳佩孚に對し衡州
を離るべからずと嚴命せりと。(十一日、朝日)

▲陝西亦亂る (北京特電九日發) 陝西省内亦素亂の極に達し督軍陳
樹藩軍と獨立軍は滄河を挟んで對抗し督軍は潼關を扼して陝西河南の交通を
遮斷し獨立軍首領胡景翼氏は滄河通航の民船に重税を課し居れり。(十一日、
日日)

▲李厚基無力 (九日上海特派員發) 福建省廈門西岸の江東橋は既に
南軍の手に入り督軍李厚基は現に廈門城内に留まり敗軍連れ來り掠奪を爲す
も李督軍は之を收拾する能はず僅に手兵一聯隊を有するのみ砲臺の掩護によ
り漸く支へつゝあり浙江軍の司令部は尙陽安にあり廈門との電報は杜絶し居
れりと尙交通は聯絡しありと廈門より通信あり。(十一日、朝日)

▲參戰奉天軍の編制 (北京特電十日發) 參戰軍隊に編入し北滿に
出兵すべき奉天軍は河南正陽、洛陽、信陽等に在る二箇旅團にして第一旅團
長には王永泉氏第二旅團長には鮑德山氏各任命せられたるが支那政府は該軍
隊を北滿に輸送する爲南滿鐵道通過の件に就き日本政府と交渉中なり。(十二
日、日日)

▲洪兆麟廈門鎮守使 (十日上海特派員發) 四路より廈門を攻め洪兆麟は既に軍政府より廈門鎮守府に任ぜられたり。(十二日、朝日)

▲土匪軍の掠奪 (北京特電十日發) 湖南瀏陽縣を占領せし土匪軍(南軍と聯絡せり)に討伐軍増派の報を得轉じて平江縣の北軍を驅逐し之を占領して大掠奪を行ひたるが同縣知事は逃早く逃亡し住民の被害甚し。(十二日、朝日)

▲南軍辰州を省城とす (十日上海特派員發) 湖南よりの報道に依れば南軍は辰州を以て省城となし張學濟自ら省長と稱し居れりと。(十二日、朝日)

▲西藏危急 (上海特電十日發) 西藏に於ける形勢益々不穩にて巴塘は正に危急に陥り又西藏政府は十八歳以上六十歳以下の者を強制的に兵役に従はしめ大舉四川を攻めんとすとの報あり。(十二日、朝日)

▲同安奪還 (北京特電十一日發) 廈門來電 李厚基氏は七日一旦南軍の手に歸したる同安縣を奪回し目下漳厦鐵路附近にて戰闘中なり李厚基氏は軍容を嚴にし進退を賭して總攻撃を爲す準備に汲々たり福州にては排斥運動激なるが北方派督軍代理姚瑩屏氏は自ら取つて代らんと欲し陸軍派は南方と緣故ある福建人を督軍とし獨立を企てんと欲し海軍派は同じく福建人を督軍と爲すを希望するも北京政府との關係を持続せんと欲しつゝあり在北京福建人劉冠雄、薩鎮冰氏等は海軍の主張を援け居る爲同派最も有力なりと。(十三日、朝日)

▲徐氏略ぼ就任承諾 (十一日北京特派員發) 徐世昌氏は十一日各省軍民長官に對し第二の通電を發し略就任承諾の意思を表明し國憲確立、財政整理、國防問題、商工業の發達、中央と地方との協助方法及び人材登用の方法に就き教へを仰ぎたしとの希望を述べたり同時に政府榮業兩院にも同意味の通告を發せり。(十三日、朝日)

▲段總理親征の意あり (北京特電十一日發) 段祺瑞氏は新總統に對する南方の態度強硬にして讓歩の意なく却つて北方が妥協を唱ふる陳に樂じ湖南、福建に侵入し勢力を擴張せんとするに鑑 徐世昌氏が南北調停主義に立脚せんとするも到底成功の見込なく依然主戰政策を持するにあらざれば不可なりとし場合により湖南に自ら出馬して諸將を奮勵せんとする決心を有

せりと。(十三日、朝日)

▲福建督軍に退去勸告 (十一日北京特派員發) 廣東に於ける顧應人福建會館に會合し福建方面の海軍と協同し督軍李厚基に戰亂を免れしむるため福建退去を勸告し福建の治安は海軍の林葆懌をして維持せしむる事を決議し福建に於ける海軍に運動せるため軍政府參謀長は廈門に向へり。(十三日、朝日)

▲徐氏就任條件 (上海特電十日發) 徐世昌氏は其就任條件として各省の内閣組織及南北停戰に干渉する勿れとのことを加へ居れりと。(十三日、朝日)

▲李厚基引責せん (上海特電十二日發) 李厚基氏は免職處分ありたしとのことを自ら廈門より北京政府に求めたりと。(十三日、時事)

▲英米協會支那へ勸告 (上海特電十二日發) 新聞報の得たる北京電報に據れば英國公使サー、ジョン、ジョルダンは外交長と會見し英米協會の意見を傳へ同協會は支那が參戰後専ら内争を事とし國際上の行動を充分に行ふを爲さず故に英米政府に於て出で、調停を爲さんことを乞へり是は英米人の輿論なり云々と通告せり茲に於てか昨日北京國務會議にて此事を討議したりとあり。(十三日、時事)

▲南軍湖南進擊 (十一日漢口特派員發) 四川、雲南、貴州靖國軍は聯合軍を編成し一箇月を期し湖北陝西に迫るべく尙陝西靖國軍は二梯團より成る援鄂軍を組織し湖北北部に進撃すべしとの報あり王督軍は中央に三個旅の派遣を要求すると共に吳光新の至急歸任を促せり。(十四日、朝日)

▲岑氏辭任 (香港特電十二日發) 岑春煊氏は廣東軍政府内務總長を辭職せりより任可澄氏其後任に任ぜられたり。(十四日、朝日)

▲奉天軍湖南輸送 (十一日北京特派員發) 湖南日々危急を告ぐるに依り奉天軍を以て同地の直隸軍と交代せしめんため耶坊に駐屯せし奉天軍混成第六旅は既に全部湖南に向け出發せりと。(十四日、朝日)

▲黎元洪氏 (北京特電十一日發) 黎元洪氏に副總統候補たらんことを勸誘する爲下津せし蕭安國氏は十一日歸京せるが黎氏は此時局艱難の際副總統に就任するの希望なしと拒絕せり。(十四日、朝日)

▲副總統の資格 (上海特電十二日發) 長江督軍等は副總統は西軍出

身の人物なるを要すとの意味の密電を各師團長と連名にて各方面に發送せりと。(十四日、日日)

▲總統選舉會 (上海特電十四日發) 廣東參眾兩院は總統選舉會を開かんとして上海議員等の連に廣東に來るべく打電し來れり。(十五日、日日)

▲徐氏就任宣言 (北京特電十二日發) 徐世昌氏第二回の通電に曰く參眾兩院及省より大義を以て攻め至誠を以て動かす就任の責任に堪へし世昌何ぞ感奮せざらんや唯出處を決するに際し更に協議をなす要ありと述べ憲法法制の不備財政の困難邊境の不備國內戰亂の時國の共和國交にあり歐戰爲に終らんとし世界の大勢に變動あり遂に武力に代ふるに商業を以てせんとす我國は内政治まらず敗源淵熾し競爭の實力なし居ながら竊するを忽にすべけんや更に國民生計の困難商業の衰微利源の不整頓土匪の充満等重慶既に窺まり之を恢復するは容易にあらざる全國の力を以て外國に對せんとせば先づ内政の整理を爲さざるべからざるも中央と地方とは唇齒の關係にあり相離るべからず世昌は同體同心諸君と共に危局を支へんと欲す諸君が之に協力せずんば世昌何ぞ重任に堪ふるを得んやと舉國一致を提唱し終りに國事多難人材缺乏之際一身を深くして隠棲し又は遠く外國に遊び世を避くる者も共に出で、群策を供給せられん事を望む既に諸君の爲選舉を執りたる上は先づ之を諸君と圖る速に推舉を俟と結べり。(十四日、日日)

(上海特電十二日發) 徐世昌氏は左の如く更に第二の通電を發せり。
一、國會議に常憲あるを要す。
二、財政は如何にして救済すべきか。
三、邊防の必要により内争止まざるは何を以て之に應ずべきや。
尙右の外更に外交上商工業の競争を論じ民の困難商人の艱難官紀の頹廢、土匪盜賊橫行の状態を述べ事に赴かんとせば先づ内政を整へ専ら中央地方の關係を思ひ最後に人材をして事に當らしむるの要を觀戰和平主義を表示せりと云ふ。(十四日、日日)

▲徐斬の對段勸告 (上海特電十二日發) 徐樹錚氏は段祺瑞氏の親しく長沙に行き安徽奉天に依り最後の勢力を爲し野に下るに就ての體面を維持せんことを乞へるも靳雲鵬氏に其の南下を不可とし野に下りて政界を觀望することを勸告せり。(十五日、時事)

▲厦門南北兩艦妥協 (十二日北京特派員發) 門來電 南方側より永豐艦長外二名厦門に來り當地政治の北軍側軍艦陳瑞、鈞和、通濟外二隻の艦長等と協議の結果妥協成立せり。(十五日、朝日)

▲陸榮廷王督軍に打電 (十二日北京特派員發) 陸榮廷は王占元に對し徐世昌の大總統當選は非法國會の選舉に依るものに就き之を承認し雖し併し此機會に於て妥協の方針に進むを適當とすと打電し來れり。(十五日、朝日)

▲南方徐氏承認 (十三日北京特派員發) 孫逸仙孫洪伊等を除ける南方領袖達は徐世昌を連任者と認め總統選舉會を開き徐世昌を大總統に舉げ北方より南方各省從來の負債を負擔する事副總統問題は改めて評議する事を條件として妥協するに一致せりと。(十五日、朝日)

▲張督軍北京に要求 (奉天特電十三日發) 七日附を以て張督軍は東三省巡閱使に任命せられたるが張氏は之につき東三省の人事に關する任免權を掌握すること、巡閱制の經費十二萬元を更に増加し北京に對し要求せり。(十五日、時事)

▲楊氏上京を好まず (上海特電十四日發) 當地にある楊士琦氏は徐世昌氏より北京に來るべく電報に接せるも北上するを欲せずと。(十五日、日日)

▲西安土匪猖獗 (十四日其筋着電) 陝西省西安府は目下土匪猖獗を極め形勢頗る危急を傳へ居るが督軍陳樹藩氏に對する反抗は其原因なりといふ支那政府は同地方旅行を嚴禁する旨布告せりと。(十五日、日日)

財政關係

▲北軍民船課稅 (北京特電三十日發) 宜昌上流の北軍は軍費不足を補ふ爲巫山下流大豁口に關門を設け通行の大型民船に百六十圓中型民船に百二十圓小型民船に八十圓の課稅を爲し納稅せざる民船五十隻は目下押留され居れり右の爲商業上影響を來し不平の聲高し。(一日、日日)

▲英支無電借款調印 (北京特電二十八日發) 二十七日英國マルコニニ無線電信會社代表と支那陸軍當局との間に六百萬圓の借款契約調印され

たり其内容左の如し。

第一、六百萬圓の内三百萬圓を以て百二十支那里に通用する新式無線電機二百臺を購入。

第二、英國技師を備聘し据付及使用方法の教授に充つ。

第三、年利八厘擔保國庫債券、償還期限民國十三年より五箇年間

第四、將來一切の機械購入修繕を支那政府と同會社と合資にて辦理す。(一日、日)

▲軍需調達協議

(北京特電三十日發) 廣東來電 軍政府は軍需調達に關し會議を開きたるが軍器は廣東兵工廠の設備を完全にし出來得る限り製造能力を高めることとし軍費は地稅増徴の見込なく外債も望むべからざるを以て岑春煊氏は已むを得ず國稅を差押ふべしと主張せるが伍廷芳氏は關稅差押へは國際上の紛議を生ずる恐れあり軍政府は承認決定以前之れを行ふは不利なりとて否決されたり。(一日、日)

▲金券條例の趣意説明

(上海特電三十一日發) 北京政府財政部は三十日當地總商會に對し金券條例は銀の値段の金より高きに樂じ人民をして金を貯藏せしむるやう導き將來金貨本位實行の準備と爲さんとするものにて且つ我國商人の國際貿易上相當の地位を占め金銀の相場に就き外國商人の思惑するを免れしめんとするにあり而して金券準備は條令にあるが如く十割の現金を以てすと議定しあり斷じて他國銀行紙幣を用ふるの議なし露言に迷はざる、勿れ五千萬元の借款説も更に無稽の謠言にして政府は絕對に此事なきを聲明す云々と打電せり。(二日、時事)

▲列國公使團銀行團抗議を支持

(二十八日倫敦特派員發) 倫敦タイムズ紙北京通信員所報に依れば北京に於ける關係列國公使館は將來八千萬圓の借款を見るに至るべき幣制改革案に對する銀行團の抗議を支持するに決せること明白となり横濱正金銀行も日本公使館の許可を得て抗議に加入せり此事は日本公使館が銀行團を支持するに至れる確證なり。(三日、朝日)

▲銀行團の決議

(上海特電二日發) 金券條例に對する抗議を提出すると共に銀行團は左の三項を決議せりと。
(一)時局決せざる間借款を爲さず(二)時局解決後五國にて善後大借款を擔任すべし(三)銀行團にて財政監督をなすべし。(四日、日)

▲孟督の承諾條件

(奉天特電七日發) 孟吉林督軍は吉黑森林金礦借款に就き政府が、

第一、擔保たるべき森林金礦は國有に限る。

第二、國有以外のものは人民自由之を開採す。

第三、借款の中百萬圓を森林の經營に充つ。

第四、復擔保は將來森林金礦を經營する利益金。

第五、日支合辦の會社を起す場合は支那の法律による。

第六、森林金礦監督は吉林省より推薦す。

との條件を容るゝにあらざれば反對なりと打電せり。(九日、日)

▲支那の自殺借款

(北京特電八日發) 米國駐在支那公使顧維鈞氏より政府に達せし電報によれば國務卿ランシング氏は米國は此際支那の自殺用に供するが如き借款に應ずる(内亂に用ふる軍費を指す)に忍びず若し支那の秩序回復せば二億圓を融通し専ら實業振興の爲めに投資せんと告げたりと。(十日、日)

▲鹽稅剩餘引渡

(八日北京特派員發) 四國銀行團は二三日中に支那政府に對し八月分鹽稅剩餘金三百三十二萬二千元を交付する事に決せり。(十日、朝日)

▲廣東軍債

(上海特電十日發) 廣東軍政府は債券一千萬元を發行することに決せり。(十二日、日)

▲紙幣兌換借款

(十日香港特派員發) 確報に依れば廣東軍政府は紙幣兌換開始の目的を以て臺灣銀行と一百萬元の借款を締結せり抵當は鹽酒收入期限は六箇月利率年八分なり而して兌換開始決定の報道傳はるや紙幣の價格は忽ち八割六分方騰貴せり。(十三日、朝日)

▲借款成立

(廣東特電十一日發) 政府より差押へ命令を受けたる廣東三水鐵道會社支配人は同政府に納金する爲臺灣銀行廣東支店より十萬弗の借款契約を爲せり。(十三日、日)

▲南軍徵稅拂戻

(漢口特電十一日發) 南軍が鳳山靈州にて徵集せし船稅は重慶領事の抗議にて拂戻せり。(十三日、日)

經濟關係及其他

▲四鄭線交涉

(奉天特電三日發) 四鄭鐵路局長虞鳳氏は張て北京に滞在し同鐵道延長線の比較研究並に借款問題に就き同政府と我北京公使館との間に交渉中の處二日四平街に歸りたるが聞く處によれば同鐵道の延長線は我關關に於ては開辦以來延長する事に内定せざるも北京政府は洮南線を固執して處々未だ何れとも決定せざるも現在に於ける日支國際的關係及日本の經濟事情は借款を起すに極めて適當なれば此際何れかに折合ひ必要な借款を起したる上時機を見て起工する事となるべしと。(五日、日日)

▲福州市民動搖

(九月三日福州來電) 目下福州市民の動搖は益々甚しく綿絲棉布其他輸入雜貨の取引は中止せられ舖莊發行の銀票は刻々下落しつつあり。(七日、時事)

▲阿片金券問題說明

(漢口特電八日發) 當地各團體の反對に對し政府は王督軍に返電し阿片を湖北に販賣せしむる意志なしと云ひ金券條令に就きては金の價額下落の際、人民をして金を貯へしめ金本位の準備をなさしむる意思なり且つ發行に對し相當の準備金を備ふる基礎なれば更に心配なし八十萬元の借款は無根なりと云へり。(十日、時事)

▲船腹救濟方電問

(漢口特電九日發) 本年九月より十二月迄の當地の日本向輸出は十萬噸(九江蕪湖共)の見込みなるが之に對す郵船の船腹は目下六萬噸の豫定に過ぎず當地實業協會は本日郵船會社に對し電報を以て右の救濟方を問合したり。(十一日、日日)

▲四鄭鐵道開通

(十二日奉天特派員發) 四鄭鐵道の開通式は九月十五日舉行さるべし。

(備考) 今開通する四平街鄭家屯間五十五哩の鐵道は滿蒙五鐵道中の四平街洮南鐵道二百三十哩の一部にして大正五年七月測量に着手し大正六年上旬豫算五百三十餘萬元にて工事を始め同年十一月三十日全線の一部工事を終り同日試運轉と共に鄭家屯にて入車式を行へり工事中水害其他にて豫算より約二百萬元の不足を見たり本鐵道は南滿鐵道の培養線たるのみならず將來東蒙古に入るべき基礎線にして此鐵道線内に包括さる洮南鄭家屯

八面城買賣街鐵道圖書園平街大花廟等の遺跡は勿論東蒙古の文化に貢獻する所多かるべく我國貿易の進展上大に喜ぶべきことなり就中鄭家屯は人口三萬五千東蒙古の富源を貢ひ特産物の集中高のみにて毎年多額に過す將來本線を延長さるべき洮南府は東蒙古哲里木盟の一大沃野に位置し內蒙古經綸土缺くべからざる地點なり鄭家屯洮南百六十五哩の沃野には支那移住民の部落所在に散點せり。(十三日、朝日)

▲米と船とを交換

(北京特電十一日發) 防務令解禁に就き上海商業會議所は此程農商部に左の如く電報し來れり。

防務令五部を解禁し日本米穀の輸出を許可するの件は支那國民への供給に影響を及ぼさざる程度なるに於ては之に反對せず但し右の代償として日本は支那に商船の賣却又は貸與を許し以て支那の海外輸出に便にす可し即ち中央政府は穀物輸出問題の代償として支那の船腹問題を日本に提出す可し云々。(十三日、時事)

▲漢口製茶開始

(漢口特電十一日發) 久しく休業中なりし當地の國興茶三會社の内二會社は數日内に製造を開始すべく西伯利方面に需要有處なりと稱し居れり。(十三日、日日)

▲輸入綿検査問題

(十一日天津特派員發) 當地税關は突如十一日より輸入綿一切の梱包を開き検査せんとせるより税關吏と我輸入商との間に紛議起れり右は段政府が南方派の兇器を綿絲梱包中に包蔵して密輸入を爲し事を計らんとする由を傳聞し恐怖の結果總稅務司を経て電命せるものなり此検査は我綿絲貿易に及ぼす影響重大なるを以て我野蠻領事は直に海關に對し抗議を爲すと共に北京の公使館に詳細を打電せるを以て不日圓滿の解決を告ぐべきも是が爲我輸入綿絲は通關すること能はず多數被束縛に堆積し居れり。(十四日、朝日)



第三回支那年鑑

四六倍版紙數
一千百頁背皮總
クロース美裝
定價
金六圓也
支臺鮮 五十錢

定價

金六圓也

支、臺、鮮 五十錢

支那に關す

る各般の材料は本書に盡く

歐米人の支那観

支、臺、鮮 四十錢

定價
參圓五拾錢

菊版紙數千頁
總文入美本郵
金文入美本郵

歐米の識者有力なる新聞雜誌は如何に支那問題を観察しつゝあるか支那研究者に與へらるべき一新資料なり

電話芝二一三二
振替東京九七三〇
番四二番
番五〇番

部纂編查調會文同亞東

東京市赤坂區
溜池二丁目番地

大正七年十月十五日發行（每月一、十五、三十日發行）

支那

第九卷第十二號

要目

論說	調停か傍觀か……………一—四
資料	支那に於ける租借地の研究……………五一—二
	殖邊銀行事情……………一二—一八
	湖南省の教育及實業機關一覽……………一九—二二
雜錄	英國對支貿易論（五完）……………二二—二七
	支那に於ける英吉利人と獨逸人……………二七—三一
	戰時在外職工損害調查方法……………三二—三三
彙錄	土布免稅布告……………三三—三六
	湖南省兵災地方田賦免除章程……………三六—四〇
事業界	支那事業界近況……………三五—三六
半月史	半月間の支那重要事件……………三七—四〇
時報	支那最近時事要項……………四一—四八
彙報	支那關係諸報道……………四九—六二

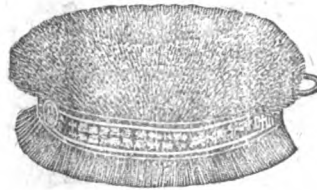
東亞同文會調查編纂部

註
冊



商
標

賣 專



許 官

仙鶴牌束子

製造
發售
本 鋪

大日本東京
西尾商店

本鋪開設以來研究多年專造束子遠近名馳嚮請官許專賣此貨用鐵絲編椰子纖維而成之價值格外從廉堅牢無比兩面均可耐久使用銷路日見增加輸出外國實為不鮮各家庭各工場以外一切從農工漁業者代用刷子一日亦不可缺之要品也其用途廣大必贅述凡掃除洗刷等等非用此品不可於各家廚房洗刷一切最為清潔衛生早一日用之則有一日之利實為理想的要品特此謹告即請購備為荷
請立刻函致本鋪試用實為至盼

榮光の上買御省内宮賜

專賣特許

仙鶴牌束子（龜の子束子）の用途は頗る廣汎にして厨所用に限らず百般の工業養產畜產漁業船舶用其他ブラシ代用の洗滌器として需用益々擴大し尙海外に輸出せらる

東京市本郷區眞砂町

本鋪

西尾正左衛門 商店

電話小石川 四五二番
九五三番
振替口座東京六六〇八番

外務省通商局御編纂

海峽殖民地は英國皇領地の一にしてマライ聯邦と共に同半島の南部に位し、マラツカ海峽の門戸を扼し、東西交通の一大要路たるのみならず種々の農産物、ゴム、コブラ、香料、海産物等を産し、殊に錫は世界産額の約二分の一を占め、産業、交通、貿易亦盛に、本邦人の此地方に在留して業務を営むもの尠からず。本書は外務省當局が同地方在留の帝國官吏に命じ、實地踏

海峽殖民地概覽

査の結果編纂せられたるものに係り、同地方の地勢、沿革、人種及人口、統治、財政、貨幣及金融機關、度量衡、農業、漁業、商工業、港灣、交通及通信、貿易、宗教、教育、新聞其他の刊行物、醫事等に關する凡ゆる實情を網羅して剩す所なし。故に英國の殖民政策を知らんとするものは勿論、苟くも海外通商貿易に關係するもの及び其他の工業家、軍事當局者は必ず一部を座右にせざるべからず。

最新刊

四六倍判總クロス綴
本文四百五十餘頁原文
諸條約付

定價

金貳圓八拾錢

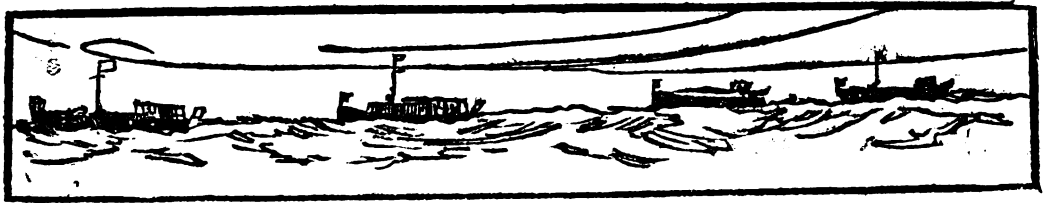
送料金十二錢

東京日本橋今川橋際

啓成社

電話本局 二一〇〇番

振替東京 二一〇五番



大正七年「支那目次」第九卷
十月十五日發行 第二十號

論 說

調停か傍觀か……………一—四

資 料

支那に於ける租借地の研究……………五—二一

殖邊銀行事情(上)……………二—一八

雜 錄

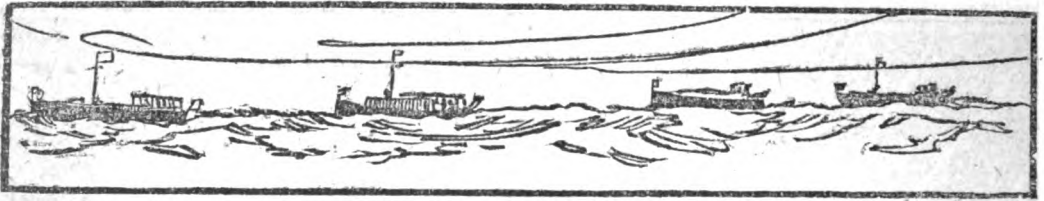
湖南省の教育及實業機關一覽……………一九—二一

英國對支貿易論(五完)……………二二—二七

支那に於ける英吉利人と獨逸人(三)……………二七—三一

彙 錄

戰時在外職工損害調查方法……………三二



土地免稅布告……………三二——三三

湖南省兵災地方田賦免除章程……………三三——三四

事業界

上海紡績營業成績、中國電氣
公司の内容、五族商業銀行……………三五——三六

半月央

南方派態度堅決、廣東大官更任、滿蒙山東鐵道借款、
製鐵廠借款、北京に於ける新聞社封鎖、金券條例抗議
の其後、南北將士聯名通電、義和團事件賠償金免除問題……………三七——四〇

時報

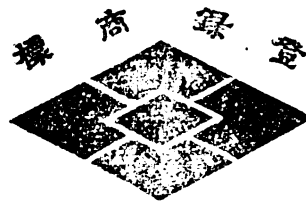
(内治外交) 新總統證書授與式—副總統問題の内幕—參戰督辦處組織規則—
廣東國會の軍政府—廣東軍政府の要聞—李厚基急遽歸省の二原

因—李王兩督軍の妥協の内容—露國人の內國旅行を取締る條件
—參陸處會議紀要—海外出稼條例の解釋—昨廿一日の閣議紀聞
—和平會議は將に江蘇に開かれんとす—

(軍事) 湖地省援湘軍の新調査

(財政實業) 中交兩銀行紙幣の維持を實行す—王敏克の計畫如何—江西商組

織の錫礦公司—廟灣華成鹽業公司—米を海外に輸出するの特別
調査—中日實業公司よりの借款—



菱印硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚

サニ耗ヨリ四耗迄

透明板、摺板、小紋板

色硝子、簾板、結霜板

外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式會社

第一工場 兵庫縣尼崎

第二工場 福岡縣戸畑

第三工場 神奈川鶴見

第四工場 福岡縣枝光

煉瓦工場 兵庫縣尼崎

曹達工場 福岡縣戸畑

東亞同文會調查編纂部編纂

再訂 支那全圖

縱五尺一寸 横四尺四寸 七色刷映入

大正七年版

定價貳圓也

郵稅(内地八錢 海外三十錢)

東京赤坂溜池二番地

發行所

東亞同文會調查編纂部



大正七年十月十五日

第九卷 第十二號

○調停か傍觀か

一

内田外務大臣が對支意見を發表してより以來、單に日本政府が南北妥協を希望するものゝ如く傳へらるゝのみならず、往々自ら進んで調停に従事するの意思あるものゝ如く解せられつゝあり。南北妥協し、支那の統一せらるゝこと、何人たりとも、異存なかるべきも、我政府が自ら調停の勞を執らんとするにつきては、贊成者あると同時に、反對論も亦少なからざるべし。吾人は外交に關し全く門外漢にして、我政府が果して調停の勞を執るの意思あるや否やにつき何等知る所なきも、所謂調停說に對し、多少の意見なきにあらざるなり。

二

調停に關し種々なる意見行はれつゝあるも、我政府が進んで調停を爲すべき場合は、二あるに過ぎず。其一は南北双方より調停を依頼し來りたる場合にして、其二は東亞の平和を維持すべき必要に迫まれたる場合はれなり。知らず、現時は其調停を爲すべき場合なる乎。

段派を除き南北共に妥協を希望しつつあるは疑ひなし。而も未だ双方より我邦に對し調停を依頼し來れるを聞かず、否排日思想を有する南方の新聞紙が日本の調停を排斥し、英米兩國の調停に依頼せんと主張しつつあり。英國は曩に支那政治問題に關し、我邦に相談することなく、何等の處置を採らざることを誓約し、米國も亦已に日本の支那に於ける政治上、優越權を認めたることなるに依り、此二國が我邦を出抜き、調停の舉に出でざること明にして、其無稽の言たる、一笑に値せざるなり。されど、南北兩派の最も有力なる領袖中に、日本に調停を依頼するは、遇々支那の主權を損傷するものなりとの意見を抱持し、我邦の調停に反對しつつあるは、注意せざるべからず。民族的國家主義は、世界の風潮にして、支那上下に浸潤すること少なからざるに依り、南北双方よりの依頼なくして、調停に着手するは、彼等の怨恨を買ふものなることを記憶せざるべからず。彼等の怨恨を買ふことを辭せず、進んで調停を爲さんとするには、他に重大なる理由なかるべからざる也。

三

歐洲戰況は新聞紙が傳ふる如く、聯合國に有利にして、獨逸の崩壊目前に迫まれるや否や、疑問の點なしとせざるも、平和克復の遠からざるは、大多數の疑はざる所たるべし。列強の悉く大戰に没頭し居れる時期にありては、支那問題の如き、之を高閣に委ねて、尋ねることなかるべきも平和克復の後は、之を重大なる問題と爲すべきこと明なり。若し支那にして、何時までも、現時の如く南北抗爭せんに、列強の干涉を招くべき虞あるべし。是は支那の存立上由々敷大事なるのみならず、東亞平和に關し責任を有する我邦の重大問題たらすんばあらず。されば、我邦たるもの成るべく歐洲平和克復前に、南北をして妥協せしむべき必要あり。されど、平和克復まで、相當の日月も有することなれば、支那官民の深怨を買ひつつ、強ひて妥協を爲さしむべき必要もなかるべく、徐ろに南北妥協を促進すべき方法を採れば足ることなるべし。

四

我邦が南北妥協を促進する方法を採るか、又は進んで調停を爲すにつき、注意せざるべからざる點少なからざるが

先づ第一に心得ざるべからざるは、妥協條件の容易に折合ひ難きことは是れなり。南方派は舊約法に依る舊國會を召集せんことを主張し、北方派は修正約法に依る新國會を維持せんことを主張し、其主張餘りに懸隔し、妥協點を發見すること難し。若し我邦が國風に從ひ互讓案を提出せんか、體面を重んずる彼等の決して承知せざる所なるべく、若し強ひて妥協せしめんには、南北双方の深怨を買ふのみならず。列強の物議を惹起することあるを覺悟せざるべからず。第二に心得ざるべからざるは南北策士の爲めに利用せらるゝことは是れなり。我邦の對支野心に關する謬説、世界に傳播せらるゝこと久しく、袁世凱の如きは、數々之を利用して其野心を逞したり。第一次革命の際には、之を利用して南北妥協を遂げ、第三次革命には亦之を利用し、徐世昌段祺瑞の兩氏を草廬より引出し、南北妥協を策せるが如き、其顯著なるものなり。若し我邦にして細心の注意を支拂はずんば、南北策士中、袁氏の故智を襲ひ、妥協を成立せしむるものあるやも亦知るべからず。

五

我邦の關停又は支那人自身の發意に依り、南北妥協するときは、支那は茲に統一せられ、平和確保せらるべきや否やを、更らに講究せざるべからざる問題なり。我邦の一部常識ある階級者に、往々南北妥協だにせば、支那の秩序恢復せらるゝものゝ如く思惟するものもあるも、是れ支那の事情に通せざる迂説たるを免れず。彼の北洋官僚派と稱するもの、及南方民黨と號するものは、之を外觀に徴するに、支那南北を代表する力なるものゝ如くなるも、支那を支配するに足るべき何等の實力を有することなく、實權は反て兵力を擁する督軍の手にあり、彼等は適宜の督軍を利用して、抗爭するに過ぎざるなり。官僚派と民黨とは、氷炭の如く相容れざるは、之を前後二回の妥協に徴し、察知すること難からざる次第なるが、假りに兩派一致したりとすると、督軍の同意を得ざる限り、國務を遂行し得べからず。督軍の有力なるもの、北に張作霖、倪嗣冲あり、南に唐繼堯、陸榮廷あり、皆家子郎黨に等しき數萬の部下を有し、意に満たざれば、何時にても、中央に反對することを辭せず、宛然唐時の藩鎮の如し。彼等は地方的利害に依り、互に聯盟し、張倪兩氏は山東の張懷芝、直隸の曹錕等と結び

て、北洋督軍團を組織し、陸唐兩氏は兩廣、貴州、湖南、四川の陳炳焜、譚浩明等を率ひて南方督軍團を組織し、別に江蘇の李純、江西の陳光遠、湖北の王占元等長江督軍團を組織し、眼中中央政府なく、又國會なく、自己の利害により行動し、何人も能く之を制すること能はず。従つて假令南北妥協するも、督軍の兵權を奪はざる限り、支那の統一を見ることを得べからず。我邦の諸侯は自ら進んで封土を奉還したるも、支那督軍に兵權の奉還を望むこと、河清を待つゝの觀なくんばあるべからざるなり。

六

支那の内訌不統一は寔に今日に始まりたるものにあらず、王朝の交替互に、數十百年に亘る内亂あるを常とせり。清朝退位の後、群雄割據し、國土國華八裂すべき筈なりしに形式的丈にても中央政府の成立したるは、全く外交關係に依るに外ならざるなり。外交關係に依り、國土の分裂を免れたりと雖も、今や海外の文物制度思想の支那に輸入せられ、固有の文物制度思想を根本的に破壊する、支那歷朝嘗て有らざる大事變出來し、加ふるに、凶奴、突厥、遼金

蒙古を合せたるよりも反て怖るべき列強四隅より徐々に武歩を進め、經濟的、政治的、軍略的に侵入し、支那の國運岌岌乎として危きの勢あり。假令督軍にして兵權を奉還することありとも、支那永年の統一を見んこと決して容易にあらず。況んや間合の妥協に依り、支那秩序恢復を望むをや。

七

支那の前途は實に容易ならず、支那と利害休戚を齊ふすべき我邦の傍觀することを許さざること勿論なりと雖も、一時間に合の妥協を強行し、支那人の深怨を買ひ、列國の猜忌を招くが如く行動は、斷じて慎まざるべからず。世界の大勢に照らし、東亞百年の平和に鑑み、徐々に深謀大計を劃し、支那に臨むべきなり。我邦一小部に我邦が東亞の覇者たることを示さんが爲め、南北妥協を試むるべしと論ずるものあり、又南方に同情を寄するもの、内、南方派の主張を貫徹せしめ、支那百年の太平を啓くべしと説くものあり。其稚氣や愛すべく、其義氣や欽すべしと雖も、吾人の容易に賛成する能はざる所なり。



資料

支那に於ける租借地研究

定義

西歷千八百九十八年に、支那政府は、諸外國に對し以下列記する港灣の貸渡をなしたり。

契約期日	港灣	租借期	租借期間
三月 六日	膠州灣	獨逸	九十九ヶ年
三月廿七日	旅順口 大連灣	露西亞	二十五ヶ年
五月廿七日	廣州灣	佛蘭西	九十九ヶ年
七月 一日	威海衛	英吉利	(旅順口が露國の領有にある間)

是等租借權の本質は、相類似せり、而して此の租借期間存續中は、特に保留せざる限り、領土君主の統治權は停止せらるべきものにして、これに代ふるに借地國の統治權を以てすべきものとす。

法律上の地位

讓渡證書の契約に従ひ、貸地國の主權は、明白に保留せらる、而して或場合につきては、協定を設けてその租借期間内に主權の一部行使をなさしむ、例へば、支那皇帝は、主權の全權を保持するに反し、膠州灣を圍繞する滿潮時の五十軒の地帯内に於て、獨逸軍隊の自由交通を許可せるが如き、或は又これと同時に、支那皇帝は、獨逸政府と協定して、該地帯内に軍隊を駐屯せしめ、軍事行動を執るを得るが如きこれなり、而して旅順口の場合は、その租借權は如何なる事情の下にも、支那君主の所有者たる權利を侵犯することを得ず、更に膠州協約に規定する處に依れば、獨逸は將來、租借權の撤廢以前に於て、膠州灣を支那に還附するの志を表明し、支那は又獨逸が膠州灣の經營に投じたる經費を賠償し、且つ更に適當なる地を擇び、これを獨逸に割讓することを約し、獨逸は又如何なる時に於ても支那より租借したる土地を他國に轉貸せざることを約定せり。

▲貸地國現有の權利 支那船舶は、租借地の港灣に於て、借地國と同様の權利を享有す、然れども一、二の例外ありてこれらの權利は、多少修正せられたり。

▲港灣の使用 例へば威海衛の場合の如く「支那軍艦はその中立たると否とを問はず、英國の租借せる港灣の使用權を保有すべし、」旅順口に就いては「單に露國及び支那の船舶のみこれが使用を許され、其他の外國軍艦及び商船に關しては一の不開港と見做さる、又大連に於ては、同港内に旅順口に相當する一部分ありて、露西亞及支那の船舶の使用に供する爲めに保留せられ、殘部は貿易港として、諸外國の船舶の自由に航行するを得さしむ、」廣州灣に於ては支那の船舶と同じく「租借地にありても支那の港に於けると同様の待遇を受くると雖も、同港に碇泊することは、全然佛蘭西及び支那の軍艦に限られ、而かも支那軍艦は單にその中立の場合にのみ許さる、」膠州灣にありては支那船舶はその軍艦たると商船たるを問はず、他の友邦の船舶と同様、好意的待遇を受くべしと雖も、「同灣が獨逸の管轄の下に置かれしより、獨逸政府は支那及び諸外國の船舶に對し、適當なる管理をなす目的を以て、何時にても或る規約を設くるを得べき權利を有す、而して、これ以上は何等の拘束も設くることなし、」反之、若し支那船舶又は諸外國の船舶が港灣改良に要せし費用に相當する賠償をなしたる場合は、これ以外何等の賠償をなす義務なし。

▲支那住民の權利 租借地内の支那住民の權利は充分に尊重せられ、且つ或場合に於ては、支那が行政權を繼續する

ことを容認されたるものあり、例へば、威海衛に於ては、支那官憲はその城壁内の市街に於て、裁判權の行使を繼續す、但し租借地の防備に關する種々の政策と兩立せざる場合は此の限りにあらず、而して該地帯内に於ては、支那の行政權は何等の拘束を受くことなく、且つ支那又は英國軍隊以外の兵は、該地域内に入るを許されず、次に旅順口の場合に就き考察すれば、支那住民は同地に留ると、これ而去るとは彼等の隨意たるべく、決して放逐せらるべきものにあらず、若し彼等が租借地内に罪を犯さんか、「これを最寄の支那官憲に引渡し法律に従ひ罰せらるべきなり、」此千八百六十年の兩國間の條約第八條に準據せる處なり、「此の租借地の北部に一地を卜し、その範圍は兩者に於て適當に協定すべし、此の地は全然支那官憲に對し設けたるものにして、豫め露西亞官憲との協定を俟たずして支那軍艦はこの地域内に入ることを得ず、」膠州の場合に於ては、支那人は「法律を嚴守し、獨逸の保護を受くべき條件の下に同様に租借地内に居留することを得べし、」若し支那の犯罪者が、租借地内に通入せる時は、「願書に依り、支那官憲に引渡さるべきものなり、但し、支那官憲は、該租借地に於ては犯罪者を拘引することを得ず、」加之「支那税關に關しては、(その或るものは半徑百里外の地に設立すべき定めあり)後に至りその規約、及び協定を調製すべきやう規定あり、」最後に、廣州灣に就き一言すれば、此の地は膠州に於けるが如く、支那住民が佛蘭西法律規約を尊重するの條件の下に、佛蘭西の保護に依り、その居住及び職業を繼續す

るの自由あり。

▲國際地役權の規定 扱て是等の租借權は一種の國際地役權を構成す、而してこれは使用權を有する國家に對し嚴密なる解釋を下すべきものなり、如何となれば、此等及かる特權即ち無資格は、法律によらずして契約に依り生ぜしものなり、かゝる特權は、他物權に適用せらるゝ一般的法則に準すべきものなり。

これ等特權の起源が、慣習上のものなると、契約上のものなるを問はず、嚴密に解釋せられざるべからず、故に若し、領地主權と某外國との間に、外國がその領土より享受する權利の範圍、又は性質に關し、紛議を生じたる時はこれに對する推定は、外國側に不利益にして、外國は何等これに對し疑義を挾む餘地なきやう、その主張する權利を證明する義務あり、かゝる推定の規定は、極めて重要なものにして、吾人の最も力説する處なり。

▲租借權の不動性 租借地は、これを委託し、又は讓渡をなすことを得ず、例へば獨逸が如何なる場合に於ても、支那より租借したる地を、他國に轉貸する能はざる規定あるが如し。

▲租借權は、受繼國に對し、專屬的のものなり 租借權は借地國政府に對し專屬的のものなり、如何となれば、租借權は行政上の領土に關するものにして、單なる所有地に屬すべきものにあらず、領地君主が外國に對し讓渡をなすは政治上の理由に基くものにして、道德上の理由は此處に論ずる限りにあらず、この讓渡より主權と獨立權に關する重

大なる問題生ず、然れども、これは通常行はるゝ商業上の種々の提議に關しては、何等論議する餘地なきこと、尙ほ土地建物の賃借に於けると一般なり、前述せる租借地は統治者に固有する權利を侵害するものなり、而して、此の侵害は領土君主がその領土に對して、有する讓渡し得ざる種類の權利を毀損する處のものなり、讓渡の本體は承諾なり然れども、是れは假令、或る年限内とは言へ、領土君主の行使する裁判權を減損する讓渡の中に決定すること能はざるものなり、若し讓渡を以て一の事實とせんか、それは讓渡人側の快とする能はざる處にして、彼の承諾は他のものより優勢なる力に威迫されその協約は強暴の下に締結せらるべし。

▲租借權の不讓與 以上論述せる處に依り、かくの如く租借したる土地は、これを第三國に讓渡し、委託し、或はこれを轉貸する可否如何に就いては、何等疑問とする餘地なし、若し貸地國が、強力に威迫せられたりとは言へ、引渡を肯んぜざると雖も、彼がこれを第三者に讓渡することに承諾するや否や未だ測知すべからず、而して、若し貸地國と最初の貸地國との間に、或る政治上の理由存在したりとするも、將來讓渡を許容したる第三國との間に、前と同様なるか、或はこれに類似せる理由が生ずるに至るや否や、未だ知るべからず、かくの如き租借權は、委託するを得ざるものなり、如何となれば、讓渡の目的物は、有價報償即ち金錢上の賠償なる語を用ふる契約の目的物としては、不當なるものなり、若し租借期間内に、貸地國の該領土に對する管轄權が停止せられたる時、貸地國がかゝる變則なる

狀態を延引し、或はその範圍を擴大することに同意したるものなりと想像すること能はざるなり。

▲旅順口に關する議論 露西亞が千九百五年に於て、旅順口及び大連の租借權を日本に譲渡したるは、全く無効の行爲なりき、若しも租借地がその性質として、譲渡をなし得べからざるものとすれば、貸地國の承引を経ざる場合は殊に然り、事情斯くの如くなるを以て、支那がこの處分に關し認可を與へ、或はこれに同意する必要はなかりしなり、如何となれば、貸地國の承諾を得ざりしことは、言ふを俟たざるところなれど、更に大なる理由は、租借權の存在の理由を缺き居ればなり、旅順協約の中にこの目的に就き言明して曰く「これ露西亞艦隊の保護の爲めに、且つ北支那の海岸に於て同艦隊をして安全なる根據地を得せしむる爲めなり」と、吾人は此處に「勢力均衡」なる古傳を以て此の問題を論せんとす、然れども、一は決して余の論せんとする全部にあらず、露西亞協商に依れば、旅順及び大連の租借權は千九百二十三年に撤廢すべしとあり、千九百十五年五月二十五日支那が日本の最後通牒を受取りし後、締結せられたる條約の條件に依れば、租借期限二十五ヶ年は、更に九十九ヶ年延長せられ、從つて千九百九十七年迄撤廢すること能はざるに至れり、加ふるに千九百五年に露國より日本に譲り渡されて、現に南滿鐵道と呼ばれたる旅順口に通ずる處のシベリヤ鐵道敷設權の一部に及ぼす權利は同じく九十九ヶ年延長せられたり、この租借權は單に委託せられたるのみならず、その期間を延長せられたり、貸地

國の縮減せられたる管轄權は、更に延長せられたる期間内剝奪せらる、而してこれは同國の抗議に拘はらず、行はるるものなり。かくの如き讓與及び擴張は甚だし、支那の主權を侵すものなるを以て無効なり。

▲默示的盟約 かくの如き讓渡は、一の租借權なるを以て借地國が認めざるべからざる種々の盟約あり、而してこれ等盟約の或るものは、明示的なれども、或るものは又默示的に認められたり、この明示せられたる盟約は貸地國の主權の保留、租借期間、租借權の不委託性及び吾人が既に論じたる種々なる事實に關するものなり、而して、第二種の盟約は明白には言明せられずと雖も暗黙の裡に充分に理解せられたるものなり、例へば、借地人は謹慎を旨とし、自己を處するに適當なる態度を執らざるべからず、彼は平穩にその所有權を享有し、且つ租借地に於て、その權利を濫用し、又は公共の妨害をなすべからず。更に彼は隣人の權利を侵害せざらん爲めに、用益權を用ひざるべからず。換言すれば借地人はかの「人の權利を侵害せざるやう汝の權利を利用すべし」なる原則に違反せざるやうその保有物を使用せざるべからず、然らざれば、借地人より害惡を蒙り權利を侵犯せられたるものは、借地人に對し賠償を求むることを得、且つ最後の手段としては、地主をして借地人の所有權を剝奪せしむることを得べし、就中借地人はその元來の所有權を租借權の消滅の場合に、讓渡人に對し返却せざるべからず、而して此場合に於て、多少の剝減はこれを容認すと雖も、讓渡人が最初に彼に讓與したる時と同様なる條

件を以てせざるべからず、それ故に若し租借權の消滅する場合に、借地人が貸地人に對し、その所有權を取返し能はざる場合、貸地人はこれを彼の借地人に賠償せしむる權利あり、若しその回收せられたる土地がその價值を低下せしめられたる場合は、これ借地人の取扱の不行届に歸すべきものなるを以て前同様貸地人は賠償の權利を求むることを得。

▲盟約の破棄 扱てこれ等の盟約は頗る重要なものなり何故なれば、吾人が現時の戰爭に膠州が中立なる場合に見るが如く、これ等盟約の破約は直に地主をして借地人に對し或る行爲の要求をなすの權利を與ふるに至る、而してこの破約にして、重大なる意義を有するものならんか、この貸地人側の行爲の權利は、租借權を取消し又は借地人よりその所有權を剝奪するものとなるに至るべし、以上記述せる處の盟約は、土地又は建物に關する通常の租借權に屬する處のものなり、併し乍ら或る通常の土地使用に關する條件は、行政領土内の土地の場合と同様なり。但し讓渡或は委託等の重大なる問題に就いてはこの限りにあらず、それ故に此處に於ては實際上の目的の爲めに、これを合同せしむるを得べし。

▲勢力の均衡 かくの如き租借權はその源を勢力均衡なる古傳に根ざしをれることは、注目すべきことなり、膠州協約の中に、租借權の目的に關し言表して曰く「二國の友誼を強固にし且つその武力を強大にする爲め」云々とあり、而して獨逸のこの行動は、露國に對する一の威嚇なりと認

められ、こゝに於て「露國艦隊の保護を目的とし且つ露國をして北支那の海岸に安全なる根據地を得さしめんが爲め云々」の理由の下に、露國は旅順口を租借するに至れり、英國は露國が北京に接近することを危險視して、英國に對し北支那に於て適當なる軍港を得さしめ、且つ近海に於て英國の通商を保護する爲めに、威海衛を租借するに至れり、而して威海衛は山東半島の頭角に位し北直隸灣を展望し旅順口と膠州灣とは直接招呼するを得べき近距離に在り、威海衛はかゝる理由を以て租借せられたるものなるを以て、その租借期間に協約に規定するが如く「旅順口が露國の領有に屬する間」のみ存続すべきものなり、是等の協約は均しく佛國の危懼する處となり、遂に印度支那に於ける佛國の利益を擁護する目的を以て、廣州灣の租借權を獲得せり、換言すれば前述せる處の列強は互に他國の野心を疑懼し、從つて自國の利益の自衛に關し懸念するに至りしなり。

▲現時の還附問題 併しながら、前述の協約の締結せられたる時、支那が分裂せんとするの狀態にありしことは、一般の認むる處なりき、かるが故に、支那が直に分裂すべきものならんか歐洲列強は管に孤立せられざらんことを恐るのみならず、今後列強間に起る論争に於て、機先を制せんが爲め、先づ領土君主に對し當時死刑執行命令として認められたる規約に調印せんことを求めたり、これ千八百九十八年のことにして今より十八年前のことなり、然れども支那に於ける種々の事情は著しき變化をなし、今日の眼を以てすれば、前言せる支那の分割は殆んど空想に近きものと

觀察せらる、而して今や支那は再生の意氣を示し、生新の勢力を回復するに至れり、こゝに於て「勢力均衡」なる古傳の背景は破棄せられたり、新しき共和國はその過去に失ひたる威名を回復せんと欲せり、この場合には、各國の正當なる利益は均しく擁護せらるべきに至るべし、故に各國は最早支那政府の此の問題に對する軟弱なること、又は冷淡なることを疑ふ必要なに至れり。

▲戦後の膠州灣 日本は現時戦争の終局に於て、次の條件により膠州灣を支那に還附することに同意せり、即ち「(一) 州灣全部を開放し、商港となすこと、(二) 日本専有の管轄權の下にある居留地を日本政府の指定せる一地に設定すべき事、(三) 若し外國がこれを希望せる場合は、別に國際居留地を設定するを得べき事」これなり、獨逸の勢力をこの租借地より撤退せしめたる事が、英國と日本との共同作業なる以上、この協約は英國を拘束すること能はざるものと云ふを得べし、抑も還附なる行爲は、賞讃すべき行爲にして、その結果は、關係諸國の福利となるものなり、故にこの領土を還附するてふ企圖が、當然に遂行せらるべきものなりと確認することを得べし、然れどもかゝる還附に對する前述の條件が遂行せらるべきや否やは、來るべき戦後の平和會議に於て決定せらるべき問題なり、北支那より獨逸を排除せることに依り勢力均衡なる基礎物はその存在を失ふに至れり、故に若し、他の租借權が全然獨逸の膠州灣占領に根ざすものとせば、これ等租借權も同様に解除せらるべきものなり。加之、嘗ては互に他國の利益を羨望し、且

つ第三國が支那の領土を領有すると同一の期間その租借權を保持せんことを主張したり列強も、今や相互に能動的の盟約をなすに至れり、租借地の領有を存続せんとするの口實は最早今日に於ては存在せず、然ればかゝる租借地はこれを本來の許諾者に還附すべきものなり、蓋し立法理由が消滅すれば法律は自ら消滅すべきなり。

▲國際法に於ける解除條件約款 國際法に條約締結當時の狀態が永遠に繼續するならば有名なる約款あり。こは後章に於て充分研究すべきを以て此處にはたい事情の變化に依り、或る條約の締結せられし後、前に考究せる條件に變化を生じたる時はこの文書は無効なるべしとてふことを述べれば充分ならん、扱て既に論じたるが如く、租借權が受惠國に對し讓渡されたる場合、貸地國は正に分裂の過程にあるものと信せられたり、今や新しき共和國は極めて眞面目に、かの「オーヂェアヌ王の厭」の如き困憊し再び起つ能はざる滿洲の經營に力を盡しつゝあり、新しき民主政體は既に各國間に容認せられ、而して「分割と支配」なる夢は既に單なる空想となり了りぬ、若し十八年以前に於て借地國の一が該領土を自己のものとして領有し、且つ貸地國に該領土を永久に割讓すべきことを強請せしならんには、滿洲人はこれを承諾したりしならん、然れ共今日に於ては、かゝる性質の要求をなすことは極めて危険なり五年前に外國人の軼より開放せられその相續權を恢復したりし國民は、決して容易にこれを威嚇し又は屈服せしむる能はざるなり、而してこの獨逸の攻撃者はその目的を遂行する爲めに白耳義に於

て凡ての法規と感情を蹂躪して思ふまゝなる振舞をなせる
獨逸と戦はざるべからざるべし。

▲貸地國の獨立國としての主なる義務 かゝる租借權は獨立國としての根本的義務を遂行する事を阻止するものなりこれ等の主なる義務の或るものは、貸地國の時代精神に従つてこの國の進歩發達を促すべきものなり、而してこの進歩發達は決して抑壓する能はざるものなり、如何となれば、こは極めて自然的のものなればなり、然れどもそは主權内の主權一時的行使に依り諸外國爲めに阻害されつゝあり、然れども今日迄のところにてはこの制限は左程痛感する程度には至らざりき、國民的自覺の再生と、國民精神の勃興に従ひ、かくの如き不法なる桎梏の下に呻吟しつゝあり、此の國民精神の勃興進歩は、將來その束縛を破棄するに至り、従つて相互間の論争を惹起すべきものと觀測せらる、彼等の目撃する膠州灣の場合に於て、外國に租借せられたる支那領土としての不合理より生ずる危險は、極めて顯然たるものあり、如何となれば、かくの如き領地は實に領土主權をして兩交戰國の不平たらしむる危險あるのみならず獨逸の敵國に對し、支那の中立を侵犯する一の口實以外、他の口實を與ふるものなり、前述せる制限は支那の自然的發達を阻害し且つ支那の自己保存を危くするものなり、故に今や各租借權は、須らくこれを解除しこれ等領土は讓渡國たる支那に對し還附すべき時なり。

(支那人 M. T. Z. Tyan著『The Legal obligations arising out of Treaty Relations between China and others. 』)



殖邊銀行事情 (上)

殖邊銀行は前清南京師團長にして革命後南京衛戍總督たりし徐超楨、安徽派領袖王揖唐、北京商務總會總理馮麟需等の發企せし處にして民國二年七月中財政部に呈請し、其則例を國會に提出して議決を求めしが、其未だ議決に至らざるに、袁のクーデターの爲に國會停止となりしより、徐氏等は本銀行設立は緊要なるものなりとして、財政部に對し、右銀行則例は條例として株式募集章程と共に大總統の認可公布を請はん事を求めたるより、財政總長は右條例に多少の修正を加へ大總統に呈請し、其結果民國三年三月六日附を以て認可せられたり。

同行設立の趣旨は遼瀋にして爲産豐饒なる支那邊境に於ける事業の勃興を助けんとするにあり當時周財政總長の大總統に右條例の認可を呈請せるの文に曰く

吾國邊陲闕文豐饒たれば殖邊銀行を設け、以て整頓を資けしめんとの請情を調査するに、規畫宏遠にして殊に嘉獎するに足る、尙は殖邊銀行條例草案及株式募集章程等に付て、處々に不合の處あるを以て、本部は情形を酌量分別修正して、本年三月六日大總統の批據に奉呈せり、(中略)原株式募集章程第一條規定には、資本總額三千萬元之を三百萬株に分つと、惟れ衡るに吾國現時の經濟情形は、如し此の如くに鉅額たれば、一時貿易上の影響を受ける虞れあり、故に需要の範圍に止どめ募集金額を減少

し、都て速成を期するに如かず、茲に總資本二千萬元を二百萬株に、毎株十元とし、六十萬株無記名式、一百四十萬株を記名式、尙は記名無記名を論せず、記名式株券の三分の二を超過するを得ず、又第十五條内に呈明財政總長の一語は、即ち財政部に呈明と修正す云云。

と、以て本行設立の趣旨及當時財政部の該條例に修正を加へたる事情を知り得べし、尙當時認可せられたる該行條例及株式募集章程次の如し。

殖邊銀行條例 (民國三年三月六日公布大總統令)

第一條 殖邊銀行は株式有限公司とす

第二條 殖邊銀行は政府を補助し邊疆金融の調和並に邊疆の實業に放資するを以て業務となす

第三條 殖邊銀行は中央政府所在地に本店を置き漸次に營業所在地に分店或は代理機關を置くことを得但し財政部の認可を経へきものとす

第四條 殖邊銀行の總額を二千萬元とし之を二百萬株に分ち一株を十元とす其株式募集規則は別に之を定む

殖邊銀行は資本二十萬株に達したるときは營業を開始す
第五條 殖邊銀行は本條例裁可後一年以内に營業を開始せされは財政部より裁可ありたる條例の取消を申請することを得

第六條 殖邊銀行株券は六十萬株の無記名式を除き其他の

百四十萬株は記名式を用ふへし

無記名株券は何時たりとも記名式株券の三分の二を超過することを不得

第七條 營業期限は本條例裁可の日より起算して三十年とす若し之を延長せんとするときは株主總會の決議に依り財政部の認可を経へし

第八條 毎年營業より得る所の純益金の總額十分の二を積立金としたる後株主に利益を配當すへし

第九條 殖邊銀行營業の種類左の如し

一、動產不動産を抵當とする貸出

二、預金の取扱

三、金銀地金の賣買

四、爲替の取扱

五、各種手形の取扱

六、他銀行業務の代理

第十條 殖邊銀行は紙幣を發行することを得但し少くも十分の四の現金の準備及中國銀行兌換券を有すべく其他は保證準備を以て之に充つへし

前項の紙幣通用地域は財政部令を以て之を定む

第十一條 殖邊銀行發行の紙幣額は毎月發行數目平均報告表を作り財政部に報告すへし。

第十二條 殖邊銀行は金庫の委託を受け金庫事務を代理す第十三條 殖邊銀行は總理一名、協理一名、董事七名、監事五名を置き均しく株主より選舉す選舉したる後は財政部に届出つるものとす其選舉法は別に之を定む其他の職

員は總理協理に於て選任す。

前項の總理協理は一百株以上、董事監事は五十株以上の株主に限る

第十四條 總理協理の任期は三年、董事監事の任期は二年とす任期内は他銀行又は公司の職務を兼ねるを得ず期限満了後は再任することを得

第十五條 殖邊銀行の職員は營業上の處理に對し職員會を開くことを得其組織及會議細則は別に之を定む

第十六條 殖邊銀行の株主總會を分ち通常總會臨時總會の二種とし其會議細則は別に之を定む

第十七條 通常總會は毎年二月中旬本店所在地に開會し總理之を召集す其際前年の營業成績報告を株主及財政部に提出すへし

第十八條 總理協理或は職員會が重要事件ありと認めたるるとき或は株式總數五十分の一を有する株主の請求ありたるときは臨時總會を召集することを得

第十九條 百株に付一の表決權を有し百株以下の株主は他株主と百株を纏めて一人を互選して代表者となすときは亦一の表決權を得但し此種の代表者は二十表決權以上を超過することを得す

第二十條 殖邊銀行一切の帳簿は毎月財政部より吏員を派して之を檢査す

第二十一條 殖邊銀行一切の業務に對し財政部が本則例及其他の規程に違背し或は營業上不利の事件ありと認むるときは之を制止することを得

殖邊銀行股份(株)募集規則 (民國三年三月十五日公布)

第一條 本銀行の資本二千萬元を二百萬株に分ち一株を十元とし六十萬株は無記名式を用ひ百四十萬株は記名式を用ひ無記名式株券は何時たりとも記名式株券の三分の二を超過することを得ず

第二條 本銀行株券は記名式及無記名式を各三種に分つ

甲 一株券

乙 十株券

丙 百株券

第三條 本銀行の募集株二十萬株に達したるときは營業を開始す

第四條 本銀行の株金は第一次に先ち十分の三を徴し其拂込の場所は籌辦處(創立事務所)に於て指定し内外各新聞紙に掲載す第二次第三次の株金拂込金額、期日、場所は職員會に於て決定の上二箇月以前に之を通告し並に新聞紙上に公告す

第五條 本銀行株式引受の申込をなさんとする者は本銀行の株式申込書に記入の上一株に付銀三角(即三十仙)の保證金を添へ本銀行の指定せる株式募集處に交付するものを有効とす

株式申込書は本銀行籌辦處或は本銀行の約定せる内外代辦處に於て受取るへし

第六條 一株毎に交付せる保證金は第一次株金拂込のとき差引納入することを得

株式引受人が期限を経過するも株金の拂込をなさざると

きは本銀行より催告し並に一回新聞に公告すべく若し期限に至るも拂込まざるときは株主たるの權利を失ふべく又其保證金は之を取消す

第七條 本銀行募集の株數二十萬株に達したるときは第一次株金の拂込をなさしむ

第八條 本銀行第一次の拂込に對しては先づ領收證を交付し第二次拂込のとき株券及利札を交付す

第九條 本銀行は營業を開始するにあらざれば募集したる株金を使用することを得ず

第十條 本銀行の創立費を十萬元と定め創立株と稱し發起人に於て之を負擔す創立株に關する規則は別に之を定む

第十一條 本銀行株主の責任は其承認する所或は引受けたる所の株金を以て限度とす

第十二條 株式が數人の共有に係るときは其共有者は一人を選定して主となし直接株主の權利を行使せしむ

第十三條 株券を譲渡したるときは無記名式を除くの外本銀行に於て譲渡の登記をなし株主の姓名を書換ふへし

第十四條 株券を遺失したるときは株主は其再渡を請求することを得其規則は別に之を定む

第十五條 本銀行毎年得る所の純益は株主總會の決定を経て財政部に届出たる上十分の二を積立金として他を株主に配當す

第十六條 本銀行が損失ある場合に於ても株金を以て利益配當となすを得ず

第十七條 本規則は財政部認可の日より實行す

右條例に示す如く本行は政府を助けて邊境の金融實業の發達に資する拓殖銀行にして其取扱業務は普通銀行と異なるなきも、兌換券發行の特權を有し、又其性質上滿洲蒙古、伊犁、西藏等の邊境地方に發展を策するを主眼とす、尙其株式中六十萬株を無記名とせるは、外資を輸入せんとするの目的に出でたるものなりしと云ふ、尙同行資本金は二百萬元なるも開業當時の拂込額は八十二萬元なりき。

斯くて本行は民國三年四月を以て總理、理事以下籌員の任命あり、株式募集に着手し、同年十月より業務を開き本店を北京に置き、天津、奉天、上海、牛莊、齊々哈爾、哈爾賓、張家口、瀋川、重慶、成都、打箭爐、大理、杭州、福州、伊犁等に支店を設け其他の重要開港場に代理店を設置し、倫敦、巴里、紐育、華盛頓、桑港、露都、孟買、大阪、橫濱等にも代理店を開けり。

當時の同行重役及營業章程を示せば次の如し

殖邊銀行營業章程

總理 徐固鄉 協理 項微塵

陶鍾漢 馮潤田

董事 王一堂 陳蔗青

劉開長

監事 張一鵬 宋致長 王秉彝

馮潤田 陳蔗青 劉開長

預金章程

(甲)預金は之を分ちて左の六種とす

當座預金 特別當座預金 定期預金

特別定期預金 通知預金 暫時預金

(乙)各種預金は總て本銀行に於て發行せる預金通帳或は預金證中に記入しある年利率に照して其利息を計算す年利率は即ち左の如し。

當座預金 二厘半 特別當座預金

特別定期預金 通知預金 暫時預金

(乙)各種預金は總て本銀行に於て發行せる預金通帳或は預金證中に記入しある年利率に照して其利息を計算す。

年利率は即ち左の如し。

當座預金 二厘半 特別當座預金 二厘

定期預金 三個月三厘 六個月五厘 九個月五厘

一個年六厘

特別定期預金 面談の上之を定む

通知預金三厘 暫時預金 面談の上之を定む

以上各種の利率は金融市場の情勢に因て隨時改變すると雖も但し其れ以前の預金に對しては依然從前の利率を以て算數す。

(丙)預金は兩銀を以てすると洋銀を以てするは預入者の任意たるべきも但し洋銀率は兩銀に比して低率なり。

即ち當座、特別當座、通知及暫時預金の場合は兩銀に比し一厘低率、定期預金、特別定期預金の場合は兩銀に比し半厘低率なり。

而して上海に於ける通用銀に非ざる貨幣及一切の補助貨幣は須らく先づ上海通貨に兌換し然る後預金するを要す。

(丁)本銀行に預金する者は最初先づ一百元(兩銀ならば一

(百兩)を預入るを要する時は同行存貯課(預金係)にては直に通帳を交付し章規に照して利息を計算す其百元に満ざるものと雖も該課に於て情狀を酌量して之を預ることあるべし、然れど本行存貯課にては百元或は百兩を以て利息起算の單位となし此數に達せざるものは利息は預金後一日より起算し預金引出前一日迄之を付す。

貴重品保管章程

本行にては貴重品保管箱の備付ありて其嚴密保管箱の如き厚さ三四寸の精鍊鋼鐵を以て作られ内に更に二個の精巧なる錠鍵を有する鐵函を裝置し暗號を知るに非ざれば能く獨りにて開き得ざるものなりと云ふ、鍵は二個ありて一は銀行之を持ち他の一は保管主に渡し置くものなり。

(甲)本銀行にては支那人財産の安全を圖らん爲め西洋式倉庫を造り西洋各廠の製造に係る貴重品保管箱を設備し至極低廉の月費を以て貸貸し併せて貴重品の保管事務を兼營し凡て左に列記せる各件の代理保管をなす。

- (一) 家屋財産土地契約證書及各種契約證書
- (二) 公私債券及各種株券
- (三) 婚約書類、遺言書、卒業證書、保險證書及び其他の重要書類

- (四) 寶璽及貴金屬並に金銀裝飾品一切
- (五) 書畫骨董及一切の貴重品

(乙)本行の保管は之を普通保管嚴密保管の二種に分ち二者均しく預入と同時に倉庫課に於て預り證書を發行して保管の證據と爲す、保管料金左の如し。

普通保管料金 毎季(三ヶ月)一元 一年間 三元五角

嚴密保管料金 大 毎季 二元五角 一年間 七元
中 同 二元 同 六元
小 同 一元八角 同 五元

貯蓄章程

(甲)貯金は之を定期及當座の二種に分ち二者何れも毎月二百元を超ゆるを得ず、貯金總額三千元を超過するを得ず利息は均しく陽曆一年を以て計算す。

(乙)當座預金は何時たりとも隨時預入及拂戻をなし得べし利息は年利四厘を以て計算す、定期預金は三ヶ月拂は年利四厘五毛、六ヶ月拂は年利五厘、一ヶ年拂は年利六厘の割にて夫々利息を計算し若し其期に到りて元金を引出さず更に其上一年を繼續する者は利率更に五毛を加へ以後尙逐年之を繼續する時は利歩最高七厘迄漸次加ふるものとす、即ち預金三年に及べるものは年利七厘五毛を計算す。

(丙)當座及定期預金は共に其利息は半年毎に結算し一月及七月の兩月に分ちて利息を發表す、若し其期に到りて利息を受取らざる時は該利息は之を元金に繰り入れ爾後此元金を元金として利息を付加す、斯くして預金が三千元を超ゆるに至りたる時は本行は其超過數を尋常預金に繰り入れ利息を付す可し。

貸付章程

本行の貸借項目は左の五種となす。

- (一) 抵當貸 (二) 保證貸 (三) 透文(原文のまゝ)

(四)貼現(現文のまゝ)

(五)荷爲替 詳細面談

爲替章程

本行爲替は至極低廉に之を取扱ひ常に其當時の相場に照して計算し之に手数料を加へ外に些の費用を徴收せず。其種類は左の二種に分つ。

(一)爲替 (二)兌換

爲替は更に左の四種に分類す

無記名手形 記名手形 電報爲替 荷爲替

兌換は當地貨幣の兩替、當地以外の貨幣及外國貨幣の兩替の二種となす。

次いで同行は信託事業の兼營を計畫し「近時世界各國何れも信託事業に重きを置くに至れり、是れ蓋し信託事業は、獨り金融の滯塞を防ぐのみならず、亦百貨の空賣買の流弊を杜ぐを以てなり、支那は各省幣制複雜にして、百貨爲めに滯鎖す、試に東三省に就て見るも、中外貨幣雜然として用ひられ、價格定まる無きの有様にして、不便少なからず、外人は時勢の趨く所に從て、各地に信託公司を設立し居るに鑑み、殖邊銀行は既に實業振興を以て宗旨としながら、空しく財源外溢の現象を目撃して、信託事業を兼辦せざるを得ず」とて、爰に特に兼辦信託章程を具して財政部に其許可を稟請し、爰に民國四年八月二十一日附を以て、愈々認許を得たるに至れり、參考のため該章程を示せば左の如し。

殖邊銀行兼辦信託事業章程

第一條 殖邊銀行は各國信託銀行成規を參照して一切の信託事業を兼營することを得

第二條 凡そ殖邊銀行の信託を經て行ふ定期賣買は賣主買主より各須く本章程第三條の規定に準照して保證金を繳し以て信用の擔保と爲す

第三條 一切取引の定期が一日以上三日以下なるものは須く代價の百分の一を預金(徴收)し、三日以上七日以下のものは百分の二、七日以上十四日以下のものは百分の三、十四日以上二十日以下のものは百分の四、二十日以上のもものは百分の五を預金すべし、右預金は各其取引を終れる後之を返還す

第四條 若し市價昂落に因て預金保證金額に變更を來したる時は殖邊銀行は賣主買主に保證金増額を請求することを得

第五條 殖邊銀行は信託領受の時定價期及受取の保證金額を明記せる信託狀を發行し並に賣主をして署名捺印せしめ之に印紙を貼附して證據となす。

第六條 凡て未だ第五條所載信託狀の定期賣買を有せざるものは皆空賣買を以て論ず

第七條 殖邊銀行は毎取引完結の時買主に向て其千分の一手數料として徴取する事を得

第八條 本章程は財政部批准の日より實行す

尙本行は兌換券發行の特權を有するが右兌換券は次の章程の下に發行すべきものとす。

兌換券發行章程

第一條 本行は條第十條に依り兌換券を發行す其發行方は本章程に依り辦理すべし

第二條 本行兌換券は暫く種類を下の如く定む

一、十圓券 二、五圓券 三、一圓券

第三條 各分行は總管理處の先許を経て兌換券を發行するを得る者は發行前後に本章程に按照して辨理すべし

第四條 各分行は兌換券承領前に當地商況民俗乃至經濟程度交通範圍等を左記條件に照し一々詳細に總管理處に報告すべし

一、當地特産品の種類及其賣行地方

二、當地商人は何組合を以て最優勝とするや

三、當地外國商は何家を以て最著名とするや又何種事業を經營するもの多きや

四、當地銀行銀號銀莊の銀票錢票を發行するもの幾家ありや及其發行總額若干、商民の其發行銀票錢票に對する信用如何

五、當地生活程度

六、當地の交通便否其交通機關及範圍如何

七、本行發行兌換券の着手進行如何

八、本行發行兌換券の散布程度

九、本行發行兌換券の社會上需用の最高限度豫想

第五條 總管理處と第四條所印の各分行の報告に接したる後發行の必要ありと認めたるときは始めて兌換券の承領を許可す

第六條 各分行兌換券承領の類は總管理處之を定む

第七條 各分行兌換券を承領の時は兌換券の製造費は總管理處に支拂ふべし

第八條 各分行兌換券を受領したるときは司券員は該分行

長と會同し出具收證を檢點し總管理處に報告すべし

第九條 凡そ各支行及派辨處臨時營業所發行の兌換券は均しく本章程を適用して辨理す只一切手續管理處及本管轄

分行に對し均しく之を履行すべし

第十條 本章程は董事會議決を経るに非ざれば之を修改するを得ず





湖南省の教育及實業機關一覽

(一) 教育機關

公立法政專門學校	校長 徐光模	所在 長沙	省立第三女子師範學校	同	歐陽鼎	衡陽縣
公立商業專門學校	同 湯松	同 同	省立第二中學校	同	殷士奇	常德縣
公立工業專門學校	同 賓步程	同 同	省立第二甲種農業學校	同	潘賢錄	衡陽縣
省立第一師範學校	同 孔貽綬	同 同	省立第二甲種工業學校	同	孟鼎鑑	芷江縣
省立第一中學校	同 劉武	同 同	省立第三甲種工業學校	同	周邦柱	衡陽縣
省立第一甲種農業學校	同 陳建中	同 同	私立達材法政專門學校	同	陳千里	同上
此農業學校に日本獸醫一名聘傭す			私立群治法政專門學校	同	戴真銓	長沙
省立第一甲種工業學校	同 蔡湘	同 同	第一聯合中學校	同	鄭芳	同
省立第一藝徒學校	同 陳聯芳	同 同	第二 同	同	彭國鈞	同
省立第一師範女子師範學校	同 馬晉義	同 同	第三(同四五は廢止)	同	劉其光	寶慶縣
省立第二師範學校	同 李笏山	同 同	第六 同	同	蘇暢仁	岳陽縣
省立第三師範學校	同 向金銓	同 同	第七 同	同	賈文安	零陵縣
省立第二女子師範學校	同 彭施源	同 同	第八 同	同	謝芳澤	郴縣
			第九 同	同	呂賢英	沅陵縣
					毛昌壽	芷江縣

祁陽縣

衡山縣立中學校
寶興縣立中學校

同 湯周炳
同 程子樞

衡山縣
寶興縣

以上湖南省內中等程度以上の學校を舉ぐ

(二) 實業機關

礦務局

會辦 朱祖蔭
總理 吳庚

協理 余煥東

長沙

森林培養局

經理 張正信

同

公立蠶業講習所

所長 向瑩

同

女子蠶業講習所

同 蔣森

同

模範桑園

經理 彭兆龍

同

模範桑園

經理 龍臣虞

沅江縣

模範製絲工場

場長 吳家驥

長沙

農事試驗場

籌備員 楊景輝

同

茶業講習所

所長 同上

同

大林區林務所

所員 朱繼承

同

第一紡績廠

廠長 衛守鑑

同

模範勸工場

場長 劉克剛

同

官合辦醴陵磁業公司

經理 沈釐

醴陵縣

實業試驗場

場長 常先

同

清理湖田局

局長 向遠源

長沙

華製紙廠

總經理 張先贊

同

省農會

會長 曹日曦

同

省商會

會長代理 張先贊

同

省教育會

會長 陳霖
副會長 孔昭綏

同

通俗教育書報局

編輯長 何翀

同

圖書館

館長 周鎮澄

同

高等師範學校器具保管處

職員 劉元定

同

(目下廢校せり)

船山學社

總理 劉人熙

同

(三) 省視學

第一區
第二區

視學 朱
廖軍祺

長沙
衡山



英國對支貿易論 (五完)

香港大學教授

ミツドルトン、スミツス

第五章 英國對支貿易の二大問題

一 緒言

二 政府の確立と秩序の回復維持

三 支那資源の開発

(一)事情照介は開發の第一步 (二)資源開發は世界的要求 (三)支那鑛業法改正の必要 (四)英支合辦事業の必要

(四) 結論

一 緒言

英國對支貿易の將來に横はる二大問題は即ち、

1、支那に於ける鞏固完全なる支那政府の樹立と、其法政秩序の維持方法如何。

2、支那の自然的資源を開發して、之を人類の利用に供與する手段並に程度如何。

の二點に歸着するものにして、而も此等の問題たる、一見極めて平凡且容易たるが如くなるを以つて、英國對支貿易の進展上、之を解決すること亦洵に易々たるが如く思惟せらるべし、然りと雖も、實際に於て此問題の解決案を考究

するときは、其極めて難問なるを發見するに至るべく、從つて將來之が實際的解決策の如何は即ち、亞細亞の運命を左右すると共に他面、世界全人類に影響する所更に深厚なるべきを斷言するに足らむか。

二 政府の確立と秩序の回復維持

支那の將來に於ける發達に就き、緊喫の必要條件たる事項は乃ち、不幸にして其不可能とする所なり。惟ふに支那にして英國が印度に於て成功せしが如き、内政の改革と政府の確立乃至は諸種の公益的設備を、完成するを得たりと假定せむか、其發達に貢獻する所極めて大なるものあるべく、結局支那の隆盛に必要な要件は即ち、國內秩序の回復維持と、其産業の振興策とに之を求むるを得べし。然れども支那人は人種的道德より見れば幾多の長所を有するにも拘はらず、其國內統治の能力を缺如するが故に、將來彼等が自國の政治的改革を完成し、之に依りて其産業の振興を謀らむことは、蓋至難の事に屬すべし。

英人が支那に於る政治經濟的改革に對し、有力なる援助を供與し得べき點を例證せむには、先其現行の海關制度の設立に寄與せし事蹟を略述するを以て捷徑とす。此制

度の確立は實に主として英人サーロバートハート氏の事業にして、爾來其後繼者たる英人の均く支持改善せる所なりとす。

而してロバート氏は海關制度の改革に際し、徴稅部を確立するの外、之に關連して、更に海事部、教育部、郵政部の事業を附屬せしめたるものにして、就中、徴稅部は内班（幹部と書記部とに分つ）外班（檢權課と監視課）及び沿岸勤務（監視巡邏部）の三部より成り、海事部は支那沿岸に於ける燈臺の設立維持に關する事務を處理する所にして之が爲に沿岸航海の危險を除去し、著しく其航路を安全ならしむるを得たり。教育部は北京廣東の二箇處に學校を設立し海關事務に關する教育を施し、郵政部は一八九六年に創設せられ主として海關専用の通信事務を處理するに至れり。

而して支那の海關制度は即ち列強の共同管理に屬すと雖も、設立以來の沿革に依り當初より英國人最も多く其數實に自餘外國人の五倍に上り、其總稅務司の地位は常に英人の占むる所なりしが故に、海關制度は即ち英人の創設維持する所なりと云ふも過言にあらざるべく、從つて之に依り英人が支那並に諸列強の貿易業者に寄與せる效績極めて大なるものあるを知るべし。

海關制度の設立に依りて支那内地との貿易は著しく刺戟獎勵せられ來りしを以つて、何人とも雖も其貿易に對する障礙たるを云爲するものなかるべし、而して現今に在りても海關制度の未だ普及せざる内地地方に於ては諸種の内地通過稅を徵收せらるるが故に、此等地方間の貿易者は其貨

物の運搬に際し、多大の不便を成べく（劫掠等の危險は除外しても）從て海關制度の如き徴稅組織にして一度内地諸地方に普及せられ、之に依りて内地貿易の障礙を除去するを得んか、其支那貿易の進展に資すること蓋莫大なるべし。

三 支那資源の開發

（一）事情紹介は開發の第一步

管子曰く、「倉廩充ちて禮節を知る」と此言たる洵に至言にして、之を現在の經濟的發展の經路に適用すべく、即ち貿易の進歩は日常生活の程度を向上せしめ、内地各般の狀態は之に從つて進歩すべきは明なるべし。之を更に具體的に云へば電燈の發達する所盜賊影を潜め、新聞紙は官場の照魔鏡たるが故に、其普及は官場の惡弊を一掃するに至るべし、之に就き多年支那に在住せし一米人が嘗て言へることあり、「支那の改革に必要なは從來の秘密主義を棄てて、公表主義に移るに在り」然れども此公表主義の採用は今猶至難の事にして、之が爲に支那事情に關する正確なる報道を蒐集するは、現今に於て亦至難の業なるは蓋己むを得ざる所なり。

支那事情に關する諸種の報道中、海關報告書は最も有益正確なるは世人の均しく信憑する所にして、之に依るに支那各省に埋藏する礦產の豊富なることは、今や何人も之を疑ふものなかるべきも、從來寧ろ此點に就き世人は支那の富源を輕視せる形蹟あり。更に支那人の經濟事業に對する

觀念態度が、近年一轉期を劃しつゝあることに就きては、内地に居住し又は旅行する外人の均しく認むる所なりと雖も、而も之を英國の現状に對比するに支那は産業改革上より言へば實に現今の英國に比して、少くとも百五十年前の狀態に在りと云ふも過言にあらざるべきを知る。

英人にして、支那事情に通曉すること益深きに至らむか其對支貿易の將來が益有望なるべきを一層適切に覺知するに至るべきは自明の理にして、更に支那人が英國品の特質を了解するに従つて、其之に對する需要益増進すべきも亦自然の勢なるべし、而して此雙方の事情を闡明するは即ち之を公表、報告の力に待たざるべからざる所にして、所謂公表主義の必要實に之に存す。

支那に於ける經濟單位は一家族又は一都市なるが、歐米のそれは即ち一國家なり、即ち前者は今猶家族經濟又は都市經濟の時代に在るに反し、後者は既に國民經濟より國際經濟に移らんとするの時代に在り、而して支那に於ては今猶一般に原始的機械器具其他の經濟的組織を採用しつゝありと雖も、國民の經濟眼は今や著しき進歩を示し、歐米人の既に拋棄せる經濟思想は、今や支那人間に於ても非難せられつゝあるを見る、故に諸種の報道に依りて支那人に照會するに、近世的經濟組織方法の有利なる事實を以つてせむか、彼等は即ち之を採用すれば從來の人力に比し有效迅速に利得を得べきを會得するに至り、直ちに之を採用するに至らむこと疑を容れざるべし。

然れども最近世經濟組織方法の紹介猶未だ普及せざるを

以つて、舊式方法は依然として墨守せられ、之を製茶に見るも、摘取乾燥精選仕上等何れも人力又は簡單不完全なる器具に依りて行はれ、其包裝運搬等一として舊式方法に依らざるなし。之を製材業に見るも機械使用の製材所の設置を見ず、其他各諸の運搬方法に於ても、幾百萬馬力の動力は或は空しく地下に埋藏され、或は空く峽谷を奔流するにも拘はらず、何れも人力又は家畜の筋力に倚るを見る。

(二)支那の資源開發は世界的要求也

以上述べたる所に依り吾人は支那の將來に關する二大問題中の第二回に逢着すべし、即ち、支那の鑛產開發と其他資源開發の重要なるは實に支那自身の發達上の問題なるのみならず抑亦世界的經濟問題の一なるべし。蓋這回の大戦に依り吾人は、國際交通の緊密なる現代に於て、如何なる國家も永く孤立の地位を保持することの不可能なるを知れり即ち國家の孤立生存は一面に於て、國民が世界に對して極めて重要な鑛產を空しく地下に藏有して、之を開發せざるは、果して正當なる權利なりや否やてふ問題に歸着するものにして、吾人は此の如き權利を否定せざるべからず。即ち此の如き退嬰的國民の存在は、實に他國の生存に重大なる惡影響を及ぼすものにして、他國は之を默示すること能はざるなり。更に之を他方面より見るも、支那は其天然の資源を自ら開發し又は之を他國人の開發に開放するに依りて、物質的並に精神的に、世界の進歩に對し著しき貢獻を爲すことを得るものなり。

(三)支那鑛業法改正の必要

支那人は經濟思想の發達せる國民なるを以つて、高價なる鑛産物を空しく地下に埋藏するを喜ぶものにあらず、其之が開發に熱心なるべきは自然の勢なりと雖も、現今の狀態に於ては之を開發するに際して、幾多の障礙あるを免れず、而して現行鑛業法の改正は即ち、此等障礙除去の先驅たるべし。此點に就き左に一の實例を擧げむ。

海峽殖民地在住のローク、ユー氏は (Mr. Loke Yew C. M. G.) 廣東附近に生れたる支那移民の一富豪なるが、其初め苦力として海峽殖民地に渡航し、英國政廳の保護の下に在りて刻苦勉強遂に今日巨萬の富を集積したるものなるが、老年に至り其郷里廣東に歸れり、氏は一面成功者たると共に又熱烈なる愛國家にして企業的才能に秀でたる士なるが故に、其郷里の貧困衰退の狀を見るに及び、之が開發に志し、殊に南支那の鑛産に豊富なるを調査して、之を開掘して郷里の發達に資せむとせり、然れども氏は其計畫を進捗せしむるや、官場の腐敗法制の不備等、其海峽殖民地に於ける事業遂行に際しては、夢想だもせざりし諸種の障礙の前途を壅塞するを知り、遂に其計畫を拋棄するの己むを得ざるに至れり。

(四) 支那人との合同事業の必要

世界工業の二大要素は即ち鐵と石炭にして、支那現在の石炭産額は二千萬噸に上り其半は無煙炭なりとす、即ち支那本部中の八省及滿洲三省は何れも石炭の埋藏量に富み殊に山西陝西二省の無煙炭は優にペンシルバニア州の炭量に正敵するを得べしと云ふ。

然れども從來の成績に徴するに支那人經營の企業にして相當の成績を擧げ得たるもの一も之れなく、唯一の例外として招商局を擧ぐるものあれども其成功の原因は即ち近年運賃備船料等の暴騰に因るものにして、若も此會社にして英人の經營者の手に依りて適當に經營せられたらむには、現在に比し更に莫大の利益を收め得たりしや疑なからむ。

然れども英人は單獨に支那に於ける企業を經營して成功せむことも亦不可能のことにして、こは即ち英人が支那の官場に對し、支那企業家の有するが如き勢力を振ふこと能はざるに因る。然らば即ち支那に於ける企業成功の秘訣は唯英支兩國人の共同に依り、前者は其資本と技術的方面の企業的才能を提供し、後者は其官場に對する勢力を利用して事業の成功を完成するに在りと云はざるべからず。

而して此種英支合辦事業の成功の一例としては開港業務合同公司の事業を擧ぐることを得べし、即同公司は始め支那人の創設せる所なりしが其成績常に不良にして、負債に苦み結局英人の管理に移り、現に英支合辦事業をして其成績見るべきものあり、兩國人が均しく巨額の利益を收めつつあるものなり。

此合辦事業の始めて成立せしは今より僅かに五年以前、(一九一二年七月)のことにして爾來メージャーナサン氏、(Major Nathan) は其總理として東亞に於ける一大工業會社の經理に任じ、其議決機關の一半は支那人を以つて之に任せり。而して此合同公司成功の原因は一にして足らずと雖も其主要なるものは左の三點に歸着すべし。

1、鑛産の豊富なりしこと、(此點は支那各地共に然る處なりとす)

2、企業者其人を得たること。

マージャーナサン氏は卓越せる企業の才能と手腕とを有し、特に其支那人を説得するの手腕に至りては外人中稀に見る所なり、在支外人は何れも氏の成功を以て幸運兒となすと雖も、幸運とは常に堅忍不拔の精神を意味するものなるを看過すべからず。

3、英支兩國人の合辦事業たること。

筆者は即ち開採合同公司の採用せるが如き組織を以つて英支合辦事業の組織中最も適當のものと信するものにして之を將來の在支英人企業者に推賞せざるを得ず、蓋英國資本家企業家にして支那の資源開發に従事せむとするものは常に、支那人の好意を博するに依りてのみ、成功するを得べき點を心に牢記するを要す、蓋支那人は極めて感情的の人種にして、其體面を損すを厭ふの念は歐米人の到底想像に及ばざる處なるが故に、常に之が利用に留意するを要するものにして、支那商人は即ち其共同經營者が自己に對する好意を感知すること深く、従つて之を幹部の一員に列することは即ち、彼等の要求する均等の待遇を與ふる所以にして、亦其好意を繋ぐ所以なりとす。

四 結 論

支那の經濟事情を研究せるものは何人も其産業の革命の時期の切迫しつつあるを疑ふものなかるべく、夫の獨帝の

所謂黃禍論の如きは狂人の暴論として之を一笑に付せざるべからず。蓋支那人は平和の愛好者にして、又機敏なる商人として物質的生活資料を尊重するの國民たり、好意は即ち彼等の頗る重要視する所にして、彼等は従つて其接觸する相手方が自己に對し、好感を有するや否やを即座に斷定するの能力を有す。即ち將來來るべき産業革命に於て支那人が重要な地位を占むべきは明かなりと雖も、其資金技術の一半及び其使用すべき新式機械の全部は、之を外人の供給に仰がざるべからざるの趨勢に在り、而して英國の對支貿易は其由來する所久しきもの存りて存するが故に、此等の資金機械智識等は能く之を供與するを得べし。

日本が最近支那鐵礦の獨占的探掘を要求せるは正に吾人の留意すべき事實にして、北京に於ける各國使館は從來常に支那の天産に關連する世界的問題に逢着し來れるなり。日本は蓋世界史上鐵礦の豊富は即ち國力發展の基礎たることを覺知せるものなるべく、獨逸は這回の大戦に際し、歐洲の鐵礦を其獨占に留保せむとの望を懷抱せるは世界の均しく認むる所なり。然れども近世工業の基礎たる鐵礦の埋藏額は支那に於ては極めて多量なるが故に、此處に經濟的利害關係を有する凡ての國民が均等に其分配を受くるに十分なるべし。其他各種の鑛産に就きても亦同じく、一國の獨占的探掘を要求するを要せざるべし。

英國、印度、加奈陀、濠洲、海峽殖民地英領ボルネオ等は孰れも皆支那の産業發達に就き深き利害關係を有するものにして、其開發に必要なるは即ち組織と共同に在り故に

平和克復後の經濟的發展に備ふるが爲には、吾人は今に於て、支那經濟問題の研究と、技術家、企業家の注意を此方面に集中せざるべからず、而して戦後の準備にして充足せむか、英國船舶は巨額の貨物を取扱ふを得べく、本國の工場は多量の注文を得べく在支英商人は即ち巨額の貿易を爲し得べし。

然りと雖も英國は東亞と距る數千哩の地に隔在するが故に、輿論の指導者は時に或は國民の利害に關係する重要問題を輕視するなきを保し難く、之れ實に英國民海外發展に對する唯一の危險なるを以つて、吾人は茲に本國に寄稿し敢て世人の注意を東亞に惹かむと試むるものなり。

——(完)——

支那に於ける英吉利人と獨逸人(三)

デツニス、ケー、モツス

二 對支貿易に關する準備に於て

英吉利人は獨逸人に及ばずと

する一般思想の根據(上)

印度、支那等極東に於る獨逸人は商業上最も成功せるものなりとは、近年來一般人の等しく認むる所なり。此の認むる思想は、全く豫期せざる方面に於ても相當の勢力を有するものゝ如く、而して、此の思想は、獨逸人自ら、全世界に遍き通信の方法に依り、或は更に間接的なる方法を以て、銳意培養せる所のものなり。然れども、吾人が此種の奇怪事に對して批難を加へむが爲めには、吾人に領事あり、

商務官あり、外交官を有す。然るに、吾が英國の國民性たる自下自卑は亦吾が領事、商務官等の習慣となり、彼等の報告書にも其の色採を表し、其結果は、世界貿易に於る吾人の全成績に鑑み、凡ての誤謬失策を考量し、抽出したる時に、吾國の利益に對する烈しき打撃が繼續的に吾人自らの手によりて爲されたるものなることを暴露せり。吾人は店頭より吾人自らを誹謗なるに餘りに慣れたり。報告書は陸續として出で來りて、陳套なる辭句を以て吾人を批議するなり。曰く、英國人は企業心を缺く。曰く、英人は英語を廣告することに失敗せり。曰く、英人は遊戲娛樂の爲めに營業を閑却せり。且つ曰く、英國製造業者は支那人の嗜好

に適する商品を作ることを爲さずと。此等の批難の語は嫌惡を感ずるまで吾人の耳にせる所あり、斯る報告は丹臆にも廣く流布せられ、殆んど一般人の大半の讀む所にして、吾人自身も亦稍もすれば之を信せんとするに至る。然かも此種の報告書中に一點眞と爲すべきものあらば多とするに足る。英國の商人竝に製造業者固より管理想的のものにあらず、而して彼等は、Mr. H. Y. Wellsの所謂高等なる經營法を以て其の商業を營む所の高等なる商人の一團たる名譽を有するものに非ずと雖も、獨逸人も亦缺點を有するものなることは事實の能く證明する所にして、且つ彼等の特質の大部分は大に誇張されたるの嫌あり、若し獨逸人にして英國人に勝るの徳性ありとすれば、英國人も亦獨逸人に勝る徳性ありて、優に其他の方面に於る缺點を償うて餘りあるべし。若し企業にして結果の期待し得べきものあらば、支那に於て、吾人は更に目覺しき商業的企業を成就せしに相違なし。吾人の支那に根據を据たる既に年久しく、獨逸人の如きは三十年前頃に於て始めて多數の支那仕住者を見たるまでにして、英國商人よりも寧ろ英國以外の他國、殊に佛國商人を犠牲にして、獨逸現在の地位を獲得せるなり。屢々英國商人を批難嘲笑する報告書を読む時、吾人は謹嚴ならんとするも勢得べからずして、遂に之を惡口するに至る。英國人は鈍重、非企業的にして、遊戲をのみ好愛する非現代的の沈黙家多しと雖も、本國に於る懸眼者は既に、吾人の歐洲に於る最も近接せる敵國獨逸よりも、對支貿易に於て數等上位に在ることを識れり。即ち吾人は壯大なる

鐵道並に船舶企業を有す。吾人は支那に於て他の何れの歐洲諸國よりも大なる船渠、廣告機關を有し、更に、多數の商人と使用人を有するなり。疑もなく、吾人は、支那に於て最も優良なる銀行を有し、保險會社を設立せり。支那に於ては、支那自體に次での最も大なる富の所有者なり。米國人と雖も、吾人が極東支那に於て赫々たる商業上の成績を擧げ居ることは、常に認容する所なり。而かも、英國人は商業經營の方法を知らずと云ふを吾人の耳にせる年々歲々の行事なり。支那の諺に曰く、『自國產の生養は辛味に非ず』と、其の意は蓋し、人は自國產の物品よりも外國製のもの好むものなりと云ふに在り。吾人は只管に外國人、外國の制度及び外國の物産を賞讃するを是れ事とし、吾が英國に害惡を及ぼせること決して尠少に非るなり。

英國領事は、其の報告書中に、香港及び支那の各地に於る吾人の、製造業上の成功を説明するを忘れたるものゝ如し。香港に於て、英國は大なる機關工業所、製糖場、セメント工場及び製索所を有し、凡て之を管理せり。香港に於る此種の工業中獨逸人によりて經營せらるゝものは、僅かに小規模なる石鹼工場あるのみ。支那の其他の地に於て工業企業にして、醸造業を除きて、彼等の經營管理に屬するものゝ如きは極めて僅少なりとす。

獨逸人自ら優秀なりと號する若くは事實上優秀なる二、三の事業を検査するに、軍器及軍需品の取引は獨逸人の獨占する所なるが、而かも是れ暴力による強制に基くものにして、獨逸が軍需品の製造に於て、他國よりも特殊の技能

を有し、且つ其製作上豊富にして良好なる原料の供給を保持するを思へば、蓋し是れ當然の結果なりと謂ふべし。されど、香港に於る清算の結果に依れば、軍器、軍需品の賣割に於ても、獨逸人は是れと稱すべき合法の利益を擧げざりき。クルップ會社及び其他の軍器製造業者は莫大なる利益を占めたるも、他國の同業者の爲す所等には何等顧慮する所無き傍若無人の振舞を敢てし、其主營業も、頗る後暗き性質のものにして、秘密のコンミツションは常習的に授受せられたるを以て、多くの英國商館は彼等との競争を手控へたるなり。

獨逸の機關業者及び機械輸入商は英國の其れよりも、不可思議なる利益を享有したるものと信すべきものあり。然れども、此處にも亦清算の結果は一の珍妙なる挿話を物語れり。秘密のコンミツションの授受の多額なるが故に、契約上の利益は極めて少く、其結果は取引上一般に多大の損失を與へたり。此事たるや唯に香港に於るのみに非ずして記者の發見せる通信に依れば、北支那に於る一獨逸商館の機械部に於ても前同様の結果を経験せり。香港にて大規模の機械業を経営するの餘地なきことは明白の事實なれども、二、三の英國の機械輸入商は良好なる成績を收めつゝあり、而して、英國の大機關工場及び船渠會社に於て、各種機械の多額の製作を爲しつゝあることは、世人の稍もすれば聞却せんとする所なり。機械類に對する需要の更に大なる上海に於ては、英國人は斯業に於て確に獨逸人を凌駕し居り、同地に於ける吾人の斯業に於る根據は頗る確固たるも

のありて在す。香港の一獨逸商館は大規模の船用モートル業を營みたるが、清算の結果其帳簿の示す所に依れば、該商館の利益金は凡て事業割込みの爲めのコンミツションとして使用し盡されたるを見たり。機械類の取引は事實斯の如きものなりき。故に若し獨逸人の爲めに英國人が機械類の注文を失ひたりとするも、獨逸人の營みたる斯業は實際上前述の如く不利なるものなるを以て少しも、遺憾とするに足らざるなり。

吾人は既に、獨逸人が特に好みて、支那の官憲及び其他の支那人に對して、多額の秘密コンミツションを與へて、以て取引を獲得する方法を採用せる事實に言及せるを以て、吾人は茲に少くとも斯る手段に對する道義觀を披瀝せんとす。固より支那人に斯る手段を不正なりとするものある無し。支那共和政府の勝利に歸せる一九一一年の革命以前に於ては、支那の官吏は凡て少額の俸給を支給せられたるを以て、彼等支那官吏が凡て所謂『賄賂』を取るが如きは尋常茶飯事と看做されたり。上は官吏より下は苦力に到るまで、此の『賄賂』は支那人生活に於る公認の一特色なりき。革命後に於ては賄賂收受の必要なからしめむが爲めに、一度彼等官吏に對して充分の報酬を與ふるの計畫を爲したることありたるも、舊來の弊習の根柢容易に抜く能はずして、此方面に於る根本的革新は未だ其可能性を立證せるものと謂ふことを得ざるなり。

前述の如き賄賂授受に對する支那人の道義觀の如きは吾人の容易に解する能はざる所にして、歐洲人が取引を爲す

に當りて斯る手段に訴ふるの餘裕を有せざるは明かなることなり。

支那に於て、獨逸は香港大學の機關製作場に匹敵し得べき優良なるものを有せず。香港大學の機關製作場の機關及び機械類は英國商會の供給せる所にして、最も完全にして壯大なるものなり。此等の機械類を該大學に供給するに當りて、英國商會は決して法外の利益を貪ることなかりき。是れ却つて彼等商會にとりて最後の利益となるべきを以てなり、何となれば、將來支那に於て専門技師として活躍すべき斯大學の學生は、將來必ずや自己の平素親める機械を購入するに至るべきが故なり。然かも、英國の技師は其の取引を支那に於て發展せしむることを閑却せりととは、確に將來再び吾人の耳にする所ならずんばあらず。

アニリン染料に就いては、吾人は獨逸人の成功を認めざるを得ず。其製造業者と商人間の非常なる協力により、且つ又支那以外の方面に於るアニリン染料取引の獨專と相俟つて、獨逸人は支那に於て巨大なる斯業の取引を爲すことを得たり。大なる堅忍持久の精神と中部支那に於ける大々的の廣告遊説とにより、支那自國產の藍を栽培するよりも獨逸合成藍を購入するの利益なることを支那人に吹き込みたり。斯くして獨逸人は各種の染料及び化學工業品の利益多き好取引を營む根據を獲るに至れり。勿論吾人は此の獨逸人の成功を嫉視するものに非ず、而して、英國の製造者が何故に獨逸人との競争に破れたるかは英本國に於て廣く論議せられたる所なりとす。此の點に於ては、吾人は名譽

ある戦争に於て、雄々しき戦敗を爲せるものなることを卒直に認容するを可とす。されど、此染料爭奪戰の勝利を獲んが爲めに獨逸人の傾倒せる精力と而して其組織とは、英米煙草會社及び英國油乳會社等の商業戰に對する準備よりも、決して大規模且つ徹底的のものにあらざりしことは吾人の記憶を要する所なり。煙草會社及び油乳會社に於ては獨逸の染料業に劣らざる成功を贏ち得たり。

生姜、獸皮及び桂皮等の支那物產の輸出に於ては獨逸は驚くべき發展を爲せり。茶の取引は尙大部分英國及び露國の掌中に在れども、其他の支那物產の取引に於て吾人の驅逐せられたるもの少からず。事實上一般の取引は倫敦銀行業者の支配する所なりしと雖も、獨逸人は價格の割引を爲し、且つ相當のクレデットを與へて、頻繁なる取引の申込を獲得し、驚くべき多額の營業を爲したり。吾人の聞く所に依れば、獨逸人は支那の田舎に行き、前約を以て支那各地の物產を買占め、以て輸出貿易に成功し得たるなりと。此事たるや、漢口若くは北支那に於ては或程度まで事實なるべきも、香港及び南支那に於ては、絶対に斯る手段を以てすべき機會あるなし。獨逸人の所謂香港に於る彼等の成功なるものは畢竟投機的事業及び價格の割引を意味するに過ぎずして、實際に於ては明かに不利益のものなりしなり。一、二の例を按ずるに、獨逸人が自ら鑑定を爲す丈の化學的智識を有せしことは確かに彼等に助力を與へたるに相違なし。吾人も亦此方面に於る改善を施すべかりしなり、支那物產に關する英國の専門家も亦此の種の重要な科學を

精究して、自由に其の智識を活用せざるべからず。此事たるや支那人の常習たる巧妙なる偽造變造の手段に對する有効なる防禦法たるのみならず、現今に於て航行中少からざる減損の危険ある多數の支那輸出品を保持する上に特効あるべきは疑を容れざる所なり。

獨逸人の保險業の經營振りは、其の内容の如何よりも形式主義なるが故に、本店に對しては頗る不快なる影響を與へたることは確かなり。保險を撰擇するに當りても何等特別の注意を拂はざりき。故に保險業に於ては、支那の各地に有力なる支店、代理店を有する英國の保險會社との競争に勝利を獲るが如き事は到底所期する能はざる所なりき。加之地方の英國保險會社は常に、火災、生命、海上保險等に其の業務に就きて常に撰擇權を有したるが爲めに、極東保險市場に於て如何に獨逸が活躍するも、此方面に於ける英國の利益に對しては到底一指も染むる能はざりしなり。希くは此の好況を持続せしめよ。戰爭勃發前に於ては、獨逸商館にして、英國の大保險會社の有力なる代理店を營めるもの多く、此等の代理店は、多額の契約を結びて、莫大なる利益を獲得せり。此等獨逸の代理店も、或場合に於ては、英國保險會社に相當の利益を與へたるものなるが、宣戰布告と同時に、獨逸代理店の殆んど凡てが、瞬く間に營業を停止するに到りたる事は吾人の満足に値する所なり。此の現象はマンチエスター及びブラッドフォード商館の行動と對照する時に、其差異の甚しきものあるを見る。即ち此等の商館は吾が政府が敵國民と通商することは最も好ま

しからざることを布告せる後に於ても、尙長期間支那に於る獨逸商館と取引を繼續せるなり。幸にして、現今に於ては斯る取引は全く不可能となりたりと雖も、敵國民との取引を禁止する或種の手段を講ぜざるを得ざりしことは、吾が英國民の一部に愛國心を缺くものあるの表徴にして悲ま

(未完)



彙 錄

戰時在外職工損害調查方法

第一條 凡て歐戰期內華工の直接間接に蒙る一切損害に關して概ね僑工事務局に由り詳細に調査し財政部附設の戰時會計處に報告して之を登記す。

第二條 華工の損害種類を大別すること左の如し。

(一) 在外華工の戰事より受くる所の影響

(二) 華工の航海中敵に遇て蒙りたる其生命財産の損害

(三) 華工の所在國に於て其生命財産に受くる所の直接

間接の損害

(四) 華工の戰事に因り生命に危險を及ぼし或は死傷し

て其家屬蒙る所の損害

第三條 調査事項にして國內に在る者は本局より調査員を

派遣し或は各區僑工事務局をして調査せしむ又利便上

地方官に其調査を委託するを得。

第四條 調査事項にして國外に在る者は僑工事務局より駐

外公使館或は領事館員に調査を委託し其重要事項有れば

僑工事務局より調査員を特派して之を調査するを得。

第五條 僑工事務局は主任委員二人調査員二人を添置す主

任委員は國務總理の認可を経て任用し調査員は局長に由

りて委任し局長の督率に統歸して戰時華工損害調查事務

を辦理す但し必要の場合は臨時に各省現任人員を酌派し
て本局調査員に兼充するを得。

第六條 戰時華工損害調査事項に關しては僑工事務局より
隨事局員を戰時會計處に派して報告交渉す。

第七條 戰時華工損害調查事務に關する所用經費は僑工事
務局より支出し國務院に請ふて財政部より撥給せしめ調
査の完竣を俟て即時停止す。

第八條 此辦法にして未だ盡さざるの事項あれば隨時に増
加修正するを得。

第九條 此暫行辦法は批准の日より施行す。

土布免稅布告

稅務處は過般支那製棉布(土布)に對して免稅を許可した
ることあり、今又此規定に稍や變更を加へて、特に布告せ
り。其内容は今後凡て五十支里内に於て常關に輸出報告を
爲したる者には、左列の種類に屬する土布に對してのみ向
三年間免稅することを得と云ふにあり。

(一) 其織法は必ず向來の土布織法と相同じきか或は向
來支那棉布織法と相同じき者即ち羅紗織法に仿へたる
者に限る其他外國各棉布織法に擬したる織物は此限り
にあらす

(二) 舊式手工に由り製出したる織物

(三) 専ら原式に係るか或は漂白を加へたる者は其幅二
十四吋を過ぐるを得す其他の各布は二十吋を過ぐるを
得す

(四) 織用の棉糸は或は支那棉糸或は西洋棉糸にして其細粗は二十手を過ぐるを得ず

(五) 經緯糸は共に單線を用ひ未織成前は確に製練を経ざる者に限る。

(六) 色彩には或は本色に未だ染めざる者或は漂白を加へたる者或は先織後染或は先染後織或は染成後石灰若くは他藥物を用へたる者且つ向來支那紋型法に依り模様染に成りたる者皆其内に在り

唯特別の練光或は加粉せし織物は此の限りにあらず。

湖南省兵災地方田賦免除章程

湖南省長公署は湖南省の兵災に罹りし地方の田賦免除章程を八月十四日附を以て公布せるもの左の如し。

第一條 本省の用兵各縣にして重大なる被災は調査の上田賦を免除する本章程の規定に悉照するものとす

第二條 本省の兵燹に遭遇せる地方は各縣知事より隨時勘査し其被災情形の大概を省長公署、財政廳及該管道尹に報告すべし

第三條 省長公署は該縣知事の報告に據り該管道尹に命じ地方委員と合同審査の上被災地の畝數箇處を調査し田賦免除に相當せる項目を表に製して道尹に提出し財政廳に送り省長公署に呈出して大總統に呈報し並に主管各部に請うて辦理す

第四條 地方の被災勘査報告は其被災程度は十分より七分に至るを限度とす其被災七分に達せざるものは報告せし

めず

第五條 地方の被災は左記の事情の一を有するものを十分の被災となす

一、田畝荒蕪し並に未だ耕種せざるもの

二、避亂流亡し尙未だ復業せざる者

三、財物損失罄盡したる者

四、家屋全焼されし者

五、賦税を整へて敵軍に勒收せられし證據ある者

但被災者の情形は縣知事と委員と合同調査し前四項により其輕重を酌量し九分より七分迄を明晰に報告すべし第五條の情形は其被災實數を審定す

第六條 地方より查報せる被災者原納正賦は十分として計算し被災に按じて免稅す

一、被災十分は本年の正賦を全免す

二、被災九分は本年の正賦十分の七を免す

三、被災八分は本年の正賦十分の五を免す

四、被災七分は本年の正賦十分の三を免す

前項免除せる賦銀は徵集期内に於て其數を按じて免除す延滞するを得ず

第七條 被災地を明査し田賦の除くべきものと減すべきものは查報の日より暫時徵集を停止し其筋の示令を待ちて示令に照らして辦理すべし

第八條 減除すべき田賦は其官府に未だ徵納せざるものにして次年より納賦の義務に復するものとす

第九條 縣知事及委員が調査報告は力めて事情の真相を失

はざる様に精査すべし如し事情を捏造虚報するものは財政廳と該管道尹より懲罰を申請す

第十條 收税吏にして災害に藉りて國税を侵蝕し又は免除すべき賦税を混朦に徴收せるものは財政廳より查明し嚴罰に處す



寄贈書目録

鐵道協會報	九二號	小樽商業會議所
小樽商工統計書	二四〇號	東洋協會
東洋時報	七月三拾日	青島守備軍民政部
青島に於ける物價	七〇號	奉天商業會議所
月報	七五五號	外務省通商局
通商公報	一三五號	名古屋商業會議所
日本及日本人	七四一號	政教社
ヘラルドオブアジア	自一號至二號	ヘラルド社
東方時論	至一〇號	大連商業會議所
滿蒙經濟彙報	三九號	其社
商工	九號	其局
特許公報	二九三號	其社
財政經濟時報	一〇號	特許局
實用新案公報	自五〇五號	名古屋圖書館
名古屋通俗圖書館報	至一〇六號	東亞經濟調查局
經濟資料	一〇號	外務省政務局
大日本紡績聯合會月報	三一三號	黑龍會
外事彙報	一〇號	丸の内特許局
亞細亞時論	四三三號	其社
三田評論	二五五號	日支時論社
商標公報	四三三號	大日本水産會
日本及支那	四三三號	丸善株式會社
水産界	九號	水産商業會議所
學燈	二號	木浦商業會議所
月報	四號	株式會社地質調查所
南滿洲地實地考察圖說明書	四號	其社
國民經濟雜誌	四四號	南滿洲鐵道株式會社
支那鑛業時報	九號	支那青島實業協會
月報	一〇一號	古島印刷所
四日市商業統計月報	九月號	其社
いんさつ	八二四號	其社
東洋經濟新報	二五號	其社
宮城縣教育	一〇號	其社
朝鮮及滿洲	一〇號	其社
京都法學會雜誌	一〇號	京都法學大學
紡織界	一〇號	其社

事業界

上海紡績營業成績

(The Shanghai Cotton Manufacturing Co. Ltd)

同社第十回年次株主總會は、九月二十六日午後上海四川路四九號なる三井物產支店に於て開催せられ、二六、四三四株の株主出席あり、今議長たる林支店長のなせる報告説明に基き、昨年七月一日より本年六月三十日に終る一ヶ年間の同社營業經過を記せば左の如し。

土地、建物、機械及什器 兩工場に少しく機械を増設したる外、何等取立て、云ふべきものなし。

第三工場勘定 此項に現はれたる數字は、建物、什器、機械及附屬品に要したる總ての經費を含むものにして、工場竣成の曉には、之等各項は夫々區別せらるゝに至るべし。

棉花綿糸布等の在荷高 昨年度に比し七六七、三〇〇兩二〇の増加を來し、其大部分は綿絲、綿布及手許原料棉花なり、倉庫及兩工場にて使用中の棉花は八七〇、〇〇〇兩、綿糸は五〇、〇〇〇兩、綿布は四七〇、〇〇〇兩とす。然れども内綿絲五割、綿布四割三分は、既に賣約済のものにして、爾餘のもの亦本計算締切後に相當利益ありて賣約せられたり、而して三等製品の金額は、後期に繰越し當時甚だしく價格低落し居りたれば、單に原價にて見積り置たるを以て、最も安全なり、されば此等製品の利益は今回の勘

定には包含せられず、借入金は三井物產よりの借入金を除きては何等特に云ふべき程のものなし。

損益計算 本年度に於ける利益は、前期よりの繰越金二二、五三三兩四三を含み、合計八〇三、三八三兩八三に達し、之れを處分すること左の如し。

利益金處分法

建物減價償却

一五、八八六、一一

紡績機械及什器同

四六、七九五、四二

家具同

二、五二五、二三

計

六五、二〇六、七六

減價償却準備金

五、九七、二六〇

一株に付六兩配當年(一割二分) 二四〇、〇〇〇、〇〇

一株に付六兩特別配當(同) 二四〇、〇〇〇、〇〇

修繕及取換準備金 二〇、〇〇〇、〇〇

計 五二、二〇四、八一

右の内減價償却に關しては、重役が昨年度の總會に於て製産せらるゝ全綿絲布に對し、綿絲一表、或は綿布一反に就き、減價償却準備金の新勘定課目を設くべく決議したるを以て、以上の如く五、九七二兩二六の基金を準備せしものなり、紡績及織物工場の機械又は什器の保存及取換に關しては、最も慎重なる注意を拂ひ、之が爲六〇、六六三兩九八の費用を投じたり、紡績工場又は本年度を通じ、晝夜繰業し、織物工場は單に晝間のみ作業せり。

計 八〇三、三八三、八三

右の内減價償却に關しては、重役が昨年度の總會に於て製産せらるゝ全綿絲布に對し、綿絲一表、或は綿布一反に就き、減價償却準備金の新勘定課目を設くべく決議したるを以て、以上の如く五、九七二兩二六の基金を準備せしものなり、紡績及織物工場の機械又は什器の保存及取換に關しては、最も慎重なる注意を拂ひ、之が爲六〇、六六三兩九八の費用を投じたり、紡績工場又は本年度を通じ、晝夜繰業し、織物工場は單に晝間のみ作業せり。

會社の事業 本年度會社の事業成績は、支那に於ける政治上の紛争及び銀價暴騰等の惡材料あるに關らず、極めて良好なりき、會社にて使用する原料及び石炭の價格亦頗る増加せり。

第三工場 該工場の建築は殆んど完成し、今や内部の裝置をなしつゝあり、汽罐及附屬品は既に全く其据付を終り、主要機軸も茲二三週間に完成せらるべく、紡績機軸の大部分は既に到着し、各其の据付を終りたり、殘餘の注文品は緩慢ながら、毎船毎に英國より到着しつゝあり、電氣機軸は未だ到着するに至らず、されば現時の状態に於ては工場之竣工期は未だ明言する能はずと云ふ、現時据付中の紡績機に關しモリス氏の質問ありたるに、橋生氏之に應答し、其言に據れば全部の据付終了期に關しては明言し能はざるも、三萬錠は既に到着し其半數は年内に繰業し得べしと。

中國電氣公司の内容

目下支那に於て需要する所の電氣材料は、委く之を外國より輸入され、利益の外溢甚だ大なるより、交通當局は米國と合辦の一電氣公司を設立し、以て自國製の電氣材料を供給するの計畫を立て、先づ交通部より投資し、漸次民間經營となさん方針にて、協議進行中なりしが今回完全に其成立を見、支那交通部と米國西方電氣會社並に我が日本電氣公司を加へ、日米支三國合辦の一會社を設立し、中國電氣有限公司と名稱し、電信電話機械を始め、其他一切の電氣器具類を製造すべく資本を一百萬弗(二百萬元)とし、内

五十萬弗を交通部にて、他の一半を日米兩國にて出資すること。決し、第一年の役員は次の如く任命されたり。

監督兼總理 葉恭綽氏(支)
董事 周家義氏(支)
何元濬氏(支)

中山龍次氏(日) (交通部顧問)

總經理 ミーナー氏(米)

副經理 郎國珍氏(支)

書記兼會計 ホーワー氏(米)

尙副會計は第二次會合の際任命さるべきが、多分支那人なるべし、而して本社を北京に置き、支社を上海に設く可き豫定なりと云ふ、新設の中國電氣有限公司に、西方電氣公司及日本電氣會社の支那に於ける唯一の代理店にして、專有商標及新發明製造の權利を有し居れり、西方電氣公司は一大電氣材料製造工場にして、米國の電報電話局等は、殆んど同社に材料を仰ぎ居る有様にて、世界各地に製造工場を有し居り、名聲錚々たるものなり、總經理ミーナー氏は近く北京に來る筈にして、數年間各國巴里の電報會社總理、又アントワープ電話製造業に従事せし經歷を有し、電氣材料製造には經驗深き人なりと云ふ。

五族商業銀行

梁士詒氏等の發起に係る、五族商業銀行は、資本銀一百萬元を以て、去る九月十六日北京前門外煤市街の本店に於て開業式を舉げ、引續き營業せり、同行の營業は一般銀行と差違なく、各省の都會及商埠に特約代理店を設け爲替も營む筈なりと。

支那半月史

大正七年九月下半

南方派態度堅決

廣東軍政府外交部は、九月二十一日交渉員羅誠氏の名を以て、在廣東各國領事團に對し、『北京國會に於ける大總統選舉は非法なるを以て、軍政府に於ては政務會議を開き絶對に之を承認せざる事を決議』せる旨照會したるが、二十日廣東省議會に國會茶話會を開き、席上首席政務總裁岑春煊氏は大要左の如き演説を試みたり。

軍政府成立以來其意思は政務會議多數の意思に依りて完全に構成せらるる予は多數に服従するの原則を守るの外他意なし軍政府にては軍事問題の決定に關しては各省各軍（各省に在る靖國軍護國軍の類多數の意思を根據とし政治問題の主張に關しては國會多數の意思を標準となし一切の大問題の解決に關しては當然國會多數の主張する所に服従すべく諸君は一致主張して軍政府をして據る所あらしめんことを切望す北京政府のなせる國會の解散、新國會の召集、大總統選舉等の非法なるは何等考慮の餘地なし唯新聞紙上某々等が大總統の選舉せられたるに對し賛成の意を表示せし事並びに和議の條件を討論しつゝある事等記載せらるゝも此種の流説は識者の一笑にも値せ

ず今茲に更に態度を明白に宣示す北方偽國會の非法選舉は絶對に之を承認せず且つ北方の主戰派は各省議法討伐の名を以て徒黨を號召しつゝあり西南は護法のため又自衛のため戰はざるを得ず故に私の一事は斷じて之を被討伐の口より出す事能はず若し北方改悛の誠意を以て誠實妥協を希望するあらば予等は諸君と共に國會多數の心理に従ひ國法を擁護する範圍内に於て平和を主張すべし現在の狀態にては北京政府は唯武力を以て恫喝し非法を續くるのみにて和平の誠意を認むるに由なし今は唯諸君と共に誤解を一掃して協力前進すべきのみ云々。

之に對し衆議院議長吳景濂氏は國會を代表して曰く國會同人は總裁の示表に對し甚だ満足する次第なり唯一言同人多數の意思を代表して諸公に告げ度き事は政局の解決を急がざる事なり解決を急がば目前『小仁義』の名を博すと雖も將來再び革命の慘を見其犧牲今日より一層甚しきものあるべし。

と。新國會の大總統選舉に對する南方の態度に關しては、從來種々の説傳へられたるが、叙上の如き經過によりて最後に明確となれるはツマリ北京國會の選舉を非法なりとして絶對に否認し、北方より和議を提出し來らば『國法を擁護する範圍に於て』之に應ずべしと再び護法主義を力説せるの二事に在り。段派の機關新聞を通じて裏面を觀察するに、事の此處に至りたるは李烈鈞氏の主張最も力あるが如し、併し茶話會に於ける岑氏の演説は南方派としては當然の言分にして之を以て絶對に妥協を排したるものと見るは

早計にして、裏面の妥協運動は表面の經過如何に拘はらず
 案外急なるものと見ざる可からず、趙炳麟、李國杰、孫寶
 琦、谷鍾秀、張國淦、汪有齡諸氏の來往漸く頻繁を極め來
 れるは注目に値す。

廣東大官更任

九月二十日附軍政府令を以て莫榮新氏を廣東督軍に任命
 し軍政府陸軍部長を兼ねしめ、廣東省長李耀漢氏（兼肇軍
 總司令）久しく病癒へざるを以て本職並びに兼職を免じ、
 翟汪氏を省長代理に古日光氏（李耀漢氏部下の統領）を肇陽
 羅鎮守使に任じ、肇陽羅各地に駐在する各軍隊は古氏の管
 轄に歸すべき旨を發表したり。李耀漢氏は李福林氏と共に
 『廣東の二李』と稱せられ、廣東に於ける北方派と指目され
 し者なるが、實は陳炯明氏等と共に『廣東軍』の一團をなす
 ものなり、故に此の任免に對しては李耀漢、李福林、陳炯
 明氏等皆反對にて、翟汪、古日光兩氏も就任を肯んぜず、
 廣東選出國會議員は連名して軍政府に省長任免の權なきを
 理由として質問書を提出し、引留運動盛んなり。此事は全
 く岑春煊派の專横に對する反抗にして、一方莫督軍は病重
 く、督軍事務は督軍公署參謀長郭椿霖氏に依りて處理せら
 れつゝあり、岑派は李根源氏をして督軍たらしむべく運動
 を開始し、陸榮廷派は之に對抗して陳炳熾氏を推し内訌漸
 く顯著ならんとするに、孫文氏の代表徐謙氏亦新に南下し
 て司法部長に就任し、盛んに硬論を主張して徐世昌氏討伐
 令を發布すべしなど敦囑つきゝありとの報あり。南北妥協

の進展を見ざる、南方派の内訌與かつて力あり。

滿蒙、山東鐵道借款、 製鐵廠借款

九月二十九日東京に於て發表せられたる所に據れば最近
 日支兩國間に於て左の三借款の成立を見たりと。

(一) 滿蒙四鐵道借款

(イ) 洮南より熱河に至る鐵道(ロ) 長春より洮南に至る鐵
 道(ハ) 吉林より海龍を経て開原に至る鐵道(ニ) 洮熱鐵道
 の一地より海港に達する鐵道建設のために支那政府より
 我が特殊銀行團に對し借款申込あり支那政府と我特殊銀
 行團との間に二千萬圓の前貸借款契約締結せられたり而
 して本鐵道線路延長は約一千餘哩にして敷設費總額一億
 五千萬圓に上るべく之が資金は支那政府に於て金貨公債
 を發行し我が銀行團之を引受け調達する計畫なり。

(二) 山東二鐵道借款

(イ) 山東省濟南府より直隸省順德に至る鐵道(ロ) 山東省
 高密より江蘇徐州に至る鐵道を建設するため特殊銀行團
 に對し借款申込あり二千萬圓前貸借款契約締結されたり
 而して該契約に於て右二鐵道線路を調査し經營上有利な
 らずと認めたるときは支那政府銀行團間に於て協議の上
 敷設線路を變更するを得る旨規定せり。

(三) 製鐵廠借款

支那政府は國營製鐵廠を設立し之が所要資金を我國に於
 て調達すると共に製鐵廠の經營並びに技術上必要なる人

材を我國に求めその經營を完たからしめんとするの計畫を有し豫ねて我特殊銀行團との間に商議進行中なりしが今回その決定を見るに至り兩者間に不日約一億圓の鐵製廠借款契約成立する事となり居れり。

北京に於ける新聞社封鎖

上海ノース・チャイナ・デリー・ニウスは、九月十九日附北京通信に於て、左の如く報道せり。

日本と支那との間に交渉中なる借款左の如し。

(一)山東高密より江蘇徐州に至る鐵道敷設權

(二)山東濟南より直隸順德に至る鐵道敷設權

(三)其他鐵道五線の敷設權、其中の一線は洮南或は熱河より北京に至るもの、其他四線未詳

(四)四百萬圓の軍事借款

(五)政治借款

以上第一項第二項の借款額は不明なれど利息は八厘にして第三項はすでに六百萬圓を前渡して利息は六厘なり、此外日本は山東滿蒙に於て民政署を設け鐵路區域内の鑛山開掘等の苛酷なる條件ありと。第四項は軍事の用に供せられ利息八厘、日本人に支那軍隊を教練するの權を與へ又日支軍事協定を擴張すといふに在り。第五項は二百萬元にして政費に充て抵當には煙酒税を以てすべしと、天津にて發行する英人の機關紙北京天津タイムスも略同様の記事を掲げたるが、コハ前項の滿蒙、山東鐵道及び製鐵廠三借款を誤傳せしものに外ならず、而して北京に於け

る馮派の通信社たる新聞交通社亦これと同様な通信を提供し、亞東新聞、中華新報、晨鐘報、國民公報等の八新聞(共に政學會系及び馮派、研究會系に屬す)之を掲載したる廉を以て九月二十四日右九社は封禁を命ぜられ、新聞交通社長以下捕縛せられたり。

段内閣は辭職行掛の駄賃として反對派たる馮派新聞の封鎖を行ひたるものにして、北京に於ては段派新聞の外存在を許されざる事となりたるなり。

金券條例抗議の其後

金券條例に關する列國の抗議に對し支那政府は「民國三年國幣條例を發布し將來金本位制を立つる事を宣言し爾來銳意幣制整理に従事中にて金券發行の如きもその一手段なり支那は幣制整理を行ふに際し他國の干涉を容れず所謂四國銀行團の主張し居るが如き束縛を受くるものに非ず」との反駁的解答を九月二十七日附を以て日英露佛四國公使に通牒せり。四國側は之に對し支那側回答に就き不備の點を指摘し反駁的意見書を財政部に提出したりと。

南北將士聯名通電

吳佩孚氏等在湖南北軍將領が聯名にて主和通電を發表して時局に多大の影響を與へたるは前號にて報道したる通りなるが、コハ全く孫洪伊氏運動の結果にして、其後も孫氏の運動は益々深く吳氏等に喰入り、終に九月二十六日を以て南軍の譚浩明、譚延闓兩氏以下程潛、馬濟、李書城、章

榮昌、張其鑑、林俊徵、陸裕光、趙恆惕、林修梅、賀克明、馬鑒、宋鶴庚、廖家棟、魯滌平、王得慶諸將は北軍の師長吳佩孚、李奎元、楊春普三氏以下鎮守使趙春廷、總指揮張宗昌、副司令官陳德修、旅長馮玉祥、潘鴻鈞、張克瑤、王承斌、閻相文、蕃耀南、張字顏、張福來、團長穆文卿、王起貴、楊清臣諸將と聯名にて次の如き電報を發表したり。

馮代總統徐東海先生各部院保定曹經略使廣東軍政府各總裁南寧陸總裁畢節金慶押報唐行營唐總裁南京李督軍武昌王督軍南昌陳督軍各省督軍省長各都統護軍使各司令師旅長鎮守使各商會各報館均鑒。

夫歲國會解散せられてより後民意存するなく上に道揆なく下に法守なく舉國騷然として軍民交々困しむ國に當る者若し能く時難を痛念し事々これを法律に根つくれば早くすでに此の紛糾を解きたりしならんに乃ち計此に出でず竟に新國會の成立し新選舉の實行せらるゝに至れり矣此の武力強造せる不完全の國會が真正民意なきの選舉を實行す縱へ被選者の資望素と字はるともそのよつて出づる所を推すに各既に未だ正しからず言即ち順ならず而して分裂の禍將さに之に隨つて而して起らんとす此れ我が國の稍々法律知識を具する者の隱憂する所と爲す雙十の瓜期(十月十日の新舊總統交代期)眉睫に迫る望むらくば國に當る者これを天良に訴へ再び戰に至るなからしめて國難を紓べて危亡を救はん新舊國會に至つては自から當さに法理を以て依歸と爲し軌道を逾越せしめざらんことを否らざれば則ち國家將さに無政府の地步に陥らんと

す來るの危險當さに更らに今より甚しき者あらん言を興して此に及び能く痛心なからんや我が雙方の前敵將領等地方の糜爛と生民の塗炭とを目睹し決して再び武力を用ひて相争ひ國命を促して強鄰を利するに忍びず爲めに此に懇請す馮代總統は非法の動搖を受けず毅力もて和平を主持し速かに罷戰命令を頒たんこと東海先生は非法の利用する所と爲らず出でて調人の首領に任せられんことを曹經略使及び長江李王陳三督帥岑陸兩總裁は仍ほ初衷に本づき同じく調人の責任を擔負し以て迅速に時局を解決し同じく對外を謀るを期せられんことを全國幸甚區々の下忱伏して維ふ亮察せよ。

段內閣を援助し段氏を中心として支那の統一を持ち來さんとするは一理屈あり吾人は世論の如く無難作に之を攻撃するものにはあらざるも北洋軍閥なるものが今日の如く安徽直隸兩系に分裂して内訌を事とする狀態を以てしては結局贊同するを得ず。譚浩明吳佩孚兩氏の聯名通電は、即ちその證文として提供せんと欲する所なり。

義和團事件賠償金免除問題

九月下旬の新聞紙上北京電報に依りて傳へられし義和團事件賠償金殘額の支拂を支那政府に對し免除する云々との説は、寺內内閣時代にその噂ありたるものにて、傳ふる所に據れば右金額(六千三百六十四萬餘圓)を以て支那の富源開發會社設(主として棉花、羊毛の改良發達のため大會社を設置すと)及特殊事業に使用するに決し居れり。

時報



内治外交

●新總統證書授受式

新總統の當選證書授受式は十六日午前十一時東四五條徐邸に於て舉行せらるる定刻に到り選舉會正副議長梁士詒王揖唐捧呈前往せり徐氏の宅前は必ず一層の熱鬧を増さん因て警察は已に十五日には豫め特に通知を發したりし程なりし是日徐宅に赴き慶賀の人又は凡そ執事の人員の車馬は午前十一時禮與の未だ經過せざる以前は一律停止したり其當選證書授受の禮式附録下の如し

(一)大總統當選證書は總統選舉會議長副議長親ら當選大總統府第に詣り授受の禮を行ふ。

(二)内務部々員を派し期に先だち當選大總統府第に赴き禮

堂を布置し並に儀衛隊軍樂隊の地點を指定す。

(三)定刻内務部より儀衛隊及び禮車を派遣し議長副議長を送迎す。

(四)總統選舉會議長當選證書を授遞する時内務總長は當選大總統を導引し大禮服を服し禮堂に至り東向して立つ此間奏樂議長は當選證書を奉じ西向し親ら當選大總統に授く此間奏樂正議長辭を致す當選大總統證書を受け答辭を陳べ畢り奏樂當選大總統は轉じて南向して立ち議長副議長北向して三たび鞠躬の禮を行ふ當選大總統答禮す議長副議長辭去す禮式全く完了樂も亦た止む。

徐東海の答詞 世昌不敏にして全國の重託兩院の公推を承け義辭すべきなし引いて己が任となし此後は憲政を厲行し國光を發揚し敢て寸長を竭し冀くは輿望に符せ

んことを

議長の挨拶 士貽揖唐今日參衆兩院を代表して恭しく證書を當選大總統の前に致し謹みて辭を致して曰く元首人を得大任屬するあり群倫命を托す薄海仁に歸す國に福し民に利す此れ其れ勞を左にす(時報)

●副總統問題の内幕

副總統問題は幾んど人の言及するなし、現勢より之を推せば十月以前には選出に難らんと緩選を主張する者多きに居るが故なり擬議の人物に至りては則ち非常に複雑なり某方面概括の調査に六派あり

(一)主として段祺瑞を擧ぐる者三派あり段を認めて功高く望み重し大總統を襄助の資格ありとなす此れ一派なり段の高位に據るを利して其の總統を繼ぎ得ると希望す此れ又た一派なり段の總理たるの地位を取消し與ふるに副總統の地位を以てし總理一席を騰出する又た一派なり故に主として段を擧ぐる者其數最も多きに居る然れども法定人數と相去ること猶ほ遠し而して此の三派の者表面上稱する所の理由は一律第一派の如し(二)主として馮玉璋を擧ぐる者分ちて二派となす第一派は有邪無邪の性質となす第二派は某二省の人を以て多しとなす某省は托庇を馮の都督たる時代に受けたる縁に因り故に報德の舉あり某省は則ち郷誼を重んずるなり(三)主として曹錕略使を擧ぐる者(四)主として張作霖を擧ぐる者其持する所の理由は多くは曖昧にして人に告ぐべからず(五)北方の人物中に於て任擇すれば政治の漩渦と相聞せざるの人(六)南方の要人を留待すれば副總統の人物問題は大概分ちて此の六派に分つ近日の形勢を以て之を

推測するに馮段二人を擧ぐる者多數に居ると雖も然れども皆な其の願ふ所の如くなる能はず段に反對するに因り擧馮を主張するの一派あり其反對の原因は或は感情を以てし或は段を以て南方の絶大の反感を引起するの虞あり和局に不利なりとなすなり馮に反對する者擧段を主張する一派あり擧曹擧張及前後の二派皆唱言する者あることなし而して終局の勝利の要は此の四者の中にありて今日に於て決定すること能はざるは實に議員の腦海中理慾の戦未だ勝負を分たず而して數部の分あり勢力を有する人士は大局の情形に鑒み絶對に緩選を主張するなり。(時報)

●參戰督辦處組織規則

- 一 參謀處 甲、籌備區 乙、作戰區 丙、交通區
- 丁、情報區 戊、圖書區
- 二 外事處 甲、交涉區 乙、翻譯區 丙、調查區
- 三 軍備處 甲、人事區 乙、兵器區 丙、經理區
- 丁、醫務區 戊、執法區
- 四 機要處 甲、文牘區 乙、譯電區 丙、繕寫區
- 丁、公文電報收發區 戊、編纂區
- 五 副官處

權限の規定に至りては現に法制局にて審議中にあり(時報)

●廣東國會の軍政府組織大綱修正

第一條 中華民國軍政府は護法各省各軍の聯合を以て基礎となす國會に於て大總統の職權を行使する能はざるの規内には本大綱の規定に依り中華民國の行政權を行使す

第二條 軍政府の職權は左の如し (一)和戰に關する事件

(二)共同外交を辦理し契約を訂立す (三)共同財政を監督し内外公債の募集を辦理す (四)省と省との爭議事件を裁決す (五)護法を承認する省區軍隊の加入に關する事件(六)軍備及び計畫作戰を統籌に關する事件但し人民の負擔の契約のある内外公債の募集及和平條件の提出に關しては須らく國會非常會議の同意或は追認を経べし

第三條 軍政府は國會非常會議に由り選出する所の政務總裁七人を以て組織す政務會議は其職權を行使す、政務會議は政務總裁一人を以て主席と爲し政務會議に由り之を推定す、護法各省及び政務會議の承認する經たる護法各軍は各代表一人を派出し第二條所載の第一第二第四第六各款に關し政務會議に參預することを得

第四條 軍政府は左列の各部を設立して政務會議に直隸す外交部、內政部、財政部、參謀部、陸軍部、海軍部、交通部、司法部

第五條 各部の事宜は政務總裁より兼管するものを除く外各部長一人を設く

第六條 部長は政務會議に由りて之を特任す、政務總裁事故ある時は部長の一人に委託して代理することを得

第七條 政務總裁は他の職務を兼ねることを得

第八條 凡そ政務に關するの文書は政務總裁より連署して之を公布す

第九條 政務會議內部附屬機關の組織は別に條例を以て之を定む

第十條 護法各省自主政府の職權は一に其舊に仍る但し現

に北京政府の機關に隸する各省にして直接管轄すること能はざる者は軍政府は之を收回することを得

第十一條 本大綱は宣布の日より施行す

第十二條 本大綱は國會大總統の能く其の職權を行使する時に至り廢止す(神州)

●廣東政府各部通則

第一條 各部長は政務會議の命を承り本部の事を管理し所屬の職員並に所轄の各官署を監督す

第二條 各部長は其職權或は其特別の委任に依り部令を發することを得

第三條 各部長は護法各省各軍所屬の各級官廳に對し之を執行す

第四條 各部に職員を置くこと左の如し

次長簡任 司局長簡任 秘書薦任 司員委任

第五條 次長一人部長を補助し部務を整理し各職員を監督す

第六條 司局長三人秘書二人司員九人

第七條 參謀陸軍海軍の三部は其他の職員を酌設することを得

第八條 文件を繕寫し及び其他の庶務は僱員を酌用することを得

第九條 如し特別の事件あれば政務會議に由り之を決定す

第十條 本通則にして如し未だ事宜を盡さるることあれば各部長より政務會議に陳請して之を決定す

第十一條 本通規は公布の日より施行す(神州)

●廣東軍政府の要聞

(一)軍政府各總長は先月各省代表制定せる政務會議條件の尙は未だ妥適を盡さざるの處あるを以て現に修正に従事し以て推行に利せんとせり昨已に政務會議に提出して酌豫修改したりと修正全文の探得するを俟ちて再び續報せん(二)軍政府成立以來已に各國に通告したり頃各總裁は本府の成立の條各國と實際日に繁多なるを以て必ず須らく各國に派員常駐せしめ以て消息を靈通し感情を聯絡せしむべしとなし現に張翼鵬、彭程萬、殷汝耕を委任して駐外委員となさんと議あり不日即ち發表すべしと云ふ(三)國會議員陶遜は西南各省方に用兵の際にあるを以て將才を培養するは當今の急務となす昨特に軍政府に陳請して廣東屬官研究所の經費を擴充して將校團となし以て將材を儲へて而して任使に備へんとせり聞く岑總裁は此の議に對しては甚だ同感を表し已に此案を以て政務會議に提交せりと(四)軍政府は各省各軍護法代表現に已に次第に廣東に到着し政務に參預せるを以て自ら應さに妥かに招待を爲し以て優異の情を表すべしと聞く各總裁は指定の的款に就き毎月千元を支出し其經費に充てしめ並に委員を派遣し官舎を設け以て代表の常駐して事を辨し而して實際に利せしむと云ふ(神州)

●李厚基急遽歸省の二原因

二十三日(九月)福州の來電に曰く李督軍は厦州より福州に歸れり歸來の原因は種々の風説ありと雖も當地にて傳ふる所は二原因あり左の如し。

(一)閩江の上流延平は危急に陥り福州の形勢漸く不安なり

因りて顧慮して而して歸還せるなり。

(二)某方面の情報に據るに此次北京に在るの薩鎮冰氏は任命せられて福建全省の清鄉督辦と爲り將來福建は薩氏に督軍の地位を奪取せられんことを恐れしを以て急遽歸還せしなりと。(順天)

●英米調停の真相

近日外間頻りに傳ふ英米將に出て、中國の時局を調停せんとすと記者昨十二日特に英公使を往訪して其眞偽を叩き始めて英國の調停説の全く事實にあらざるを知れり英國使館員曰く英米協會は南北調停の決議ありしことは、確かに事實となす惟該協會は何等政治的性質あるにあらず、故に英公使は即ち非公式に該決議を以て中國政府に傳達せりとの舉も亦た其事なし本國政府の中國南北調停に對しては亦た決して未だ何等の訓令の到來せるあらず若し調停を認めて必要の時期と爲すときは斷じて日佛等協商國政府と協議せざるべからず此の調停の重大行動の如きは必ず須らく協商國政府の協同行爲を以て始めて克くなし得ることなり云々。(順天)

●唐繼堯條件を提出するの消息

政府の確息に據れば唐氏は近々當局と個人の通信を爲し而して大局を解決するに對しては亦た主張する所あり惟其地位及び權利に於ては特別注意あり感情上極めて接洽するを除く外附するに種々の條件あり政府は如何に答復せんとするか尙は酌議中にあり大約徐氏就任後唐氏と正式に對付すべしと云ふ其條件下の如し。

(一)舊國會を恢復せんことを請ふ

(一) 四川雲南貴州三省の巡閱使に任命せられんこと要求す

(二) 熊克武を四川督軍となす

(三) 雲南軍は二師を派して四川省に常駐せしめ永く撤換せず(順天)

●李王兩督軍の妥協の内容 九月十九日漢口の來電に王占元は十七日に於て特に湖北第四混成旅長南元超を解し南京に往かしめたりと聞く其内容は左の如しと。

王占元と李純と南北妥協の條件に關して會て已に協定あり其條件の主要なる者に就き之を言へば李純の主張は新舊國會は同時に解散す大總統は則ち新任の徐氏を承認し再び新たに全國より議員を召集す即ち南方の意志を尊重する所以なり其餘の條件は自ら容易に解決せん云々王占元は則ち從來南方を以て逆徒となす中央にて召集の新國會は遽かに爾く解散せば未だ國家の威嚴に損あるを免れず若し國家の存立上に於て重大の事件なければ必ずしも新國會を解散せずして僅かに舊國會のみを解散す南方派の首領に至りては務めて必ず中央に招致し舉國一致して内閣を組織し而して條件又た必ず能く應允する者を以て限となし南方所提の地方を尊重するを穩當となす云々是に由りて兩方の意見一致せざりしと雖も南氏の赴寧は實に計議に便にして其妥協を遂げしめたりと云ふ。(順天)

●露國人の内國旅行を取締る條件 中國政府は最近各省に通電して露國人の中國内地の旅行を取締る辦法を傳達せりと下の如し。

(一) 露國中旅行券を所持する者は仍は從前の通り優待す

(二) 若し未だ旅行券を所持せざる露國人あるときは該露國人を附近の露國領事館に引渡す

(三) 過激派員を放逐す(順天)

●參陸處會議紀要 前日參陸處會議々案は國防問題を除く外に福建の局面を維持し龍軍を處置するの兩案に對して討論頗る久しき結果は其辦法を決定せり下の如し。

(一) 李厚基廈門を離るゝの後は延平廈門の軍事は童副司令威鎮守使をして責任を負ひ力を竭して維持すべく電令す
(二) 山東の龍軍を援がしたるの善後の始末に就きては龍濟光の責任に歸す並に張樹元曹銳に電令して法を設け蔓延を防止せしむ又た吳長植に電令し軍隊を派遣して禹鄆各縣に移駐せしめ協同して防止に盡力せしむと云ふ。(順天)

●海外出稼條例の解釋 外交部は昨廿一日各省長に通達するに海外出稼條例の解釋を以てせり其要點三あり
(一) 此の項の條例は我國の法權の及ぶ所の地には適用せず
(二) 外人の華工を僱用し中國法權の及ぶ地點に在りて工作する者は該管官署に其旨届け出づべし

(三) 該管官署は外人の華工を虐待の有無及び中國法權の及ぶ所にあらざる地點に運往して工作するの情形も稽査する責任あるものとす。(順天)

●昨廿一日の閣議紀聞 昨日は國務例會なりしが段總理は九時院に到り各閣員は十一時前後して齊しく集會せり惟財政曹總長院に參すること較遅かりしが十一時半開

軍事

議ありたり議する所の者を聞くに左の如し(一)庫倫陳毅は電請して庫倫に軍事處を設立せんことを以てせり討論の結果は設立することを許可したれども惟經費は毎月二千元を逾ゆるを得ずと(二)奉天省の水災賑卹案にして議決の結果は財政部より速に一萬元を送金すること(三)河南鞏縣兵工廠損失に關する議案(按ずるに鞏縣兵工廠開業以來經費は均しく中央の擔任する所たり客歲兵興り軍費浩繁政府は兼顧に力なく遂に規模方さに具るの兵工廠をして中止の勢を致せり現に該廠の損失は約一百餘萬元あり趙督軍より政府に電請して法を設けて補救せんを)其結果は財陸兩部に命令して熟議して再び辦法を定むることに決し午後三時に至り散會段傳兩總長公府に入り右の始末を報告したりと。(順天)

●平和會議は將に江蘇に開かれんとす 十三

日(九月)南京の來電に據るに謂く曩きに時局を解決するに馮國璋徐世昌の同意を得て平和會議を漢口に準備開催せんとせることは已に漢口電報の謂ふ所の如し茲に李督軍の電告に由るに王督軍曰く平和會議を開かんと欲する通電に對しては各省々會議より代表者及び在野南北の要人を推舉して南京に會合せしめんと欲するは王督軍漢口にありて各督軍代表人を召集し平和會議を開催するに比するに遙かに迅速に時局を解決するに便なりとなすと而して王督軍は李純の通電に對しては已に返電同意を表したりと云ふ。(順天)

●湖北省援湘軍の新調査 直隸軍和を主とし湖南

危機に際するを以て張敬堯督軍は連りに湖北王督軍に打電して速かに湖北軍の湖南に入り應援すべき兵數の調査を請へり王督軍は湘鄂唇齒相依り坐視するに便ならざるを以て特に參陸處に打電して三部分を抽提して近傍より湖南を援ふこととなせり茲に已に出發したる者及び尙ほ準備中にある各師旅を探記すれば下の如し。

△二十師 該師長范國璋は岳陽失陷の時張氏は援岳を擔任し深く鄙みて該師の再び用ひて戰線以外に任命出發せしむべからずとなし故に退けて鄂東に置きりしも今春又た岳陽に移駐し土匪の討伐に盡力せしを以て原官に復したり此次長沙急を告ぐ張督は急に該師に命令して入省せしめたりと聞く范氏は先年鄒棄せられたるの故を以て頗る難色ありと茲に某當局より居中解釋して始めて異議なしと連日岳長の車にて省に向て運送し日に發車八回なりと范氏は已に八日同司令部の人員を率ゐて列車に坐乘入省したりと。

△第八師 南軍反して湖南の西方を攻め戰火已に近づけるを以て張湖南督軍は急を告ぐ馮王祥旅長亦た同様求援せり王督軍は已に駐荆第八師長王汝賢に命令して第十旅を派し石首華容より進み臨澧に駐し馮旅の後援を爲すと云ふ。

第三旅 湖北軍第三混成旅の本部及び第六團は尙ほ新堤に駐すと聞く廬金山旅長は令を奉じて六團及び砲兵一連を派

し遑んで南縣華容林子口一帶に駐し以て湖南西方の湖北に入るの要隘を扼すと。(神州)

財政實業

●中交兩銀行紙幣の維持を實行す 財政部と中

交兩銀行と會議の結果一面には紙幣の發行を停止し一面には未だ賣れ残れる七年公債を發賣する由なり偕て聞く此事は財部と兩銀行と共に已に愈實行の決心を表示したり即ち再び紙幣を發行せざる一事に關しては昨日已に公文を以て兩銀行に對して正式に通達し而して兩銀行も亦た七年公債を以て發賣し盡さん等なり且つ公債局を以て發賣の機關となさんことを願ふ由なり此の如くして紙幣は再び發行せられず一方には逐漸法を設けて紙幣を減少すれば紙幣の價值は自ら日に増加すべし民國以來兩銀行を査するに政府の爲めに出金し來り未だ停止せず一たび金融緊迫に遇へば破綻は乃ち立ちどころに見はる此次果しく能く毅然として實行するときは則ち兩銀行の前途は尙ほ希望あり金融界前途の好現象にあらずと謂ふべからざるなり。(順天)

●王克敏の計畫如何

同氏は上海に於て大有公司を組織し軍米を運ぶと稱し偷運輸出して東隣を濟ふとの種種の情形あることは已に前報に誌したりしか茲に王氏の運米公司の上海にある者實に五個處あり皆な近時南市開北租界に發生したるなり均しく其商標札は概ね大字を用ゐて首に居き大有大裕大増等の如し而して滬寧車站北首の大有號

を最も顯明となす聞く發生より今に至るまで運出の米は已に一萬三千包の多きに達せりと五家公司の米石取扱主任を黃吉甫李仲漁陳子香陸祥甫王門樞等五人となす聞く彼等は此次產米の各處に赴き米糧を收買せり無錫常熟二處の米商中には外人救濟の爲めなることを知り大概拒絕して賣らず黃陳の二人も種々の窘辱を受くるに因り良心發現して近う已に揚言して辭職して公司の關係を離脱せりと未だ知らず果して事實となるや否や。(神州)

●江西商組織の收礦公司

江西の通信に據るに江西の南方錫礦の產出甚だ盛なり前きに湖南廣東の商人及本省の紳商等集り二十萬元を合して收買錫礦公司を組織せり現に又本省の紳商胡某あり廣東の馮某商を迎へて(香港にて熔煉廠を設立す)資二十萬元を集め亦た該處にて一の收礦公司を組織し香港に運往して自ら熔煉を行ふ如し出荷恒ある如くんば即ち熔煉機械を江西に運搬し以て輸運の煩を免れんとする由なり其公司是聞くに亦た前次の湖南廣東商人の辦法に仿ひ已に軍民兩署に出願して已に許可を得たりと。(神州)

●廟灣華成鹽壑公司

南通の張李直等發起の同上公司是株券募集以來已に定額に達せしを以て公司を創立し開業を實行すべき筈なり並に張君を推して臨時主任となし本月廿四日を以て大馬路大生紗廠事務所を借り特に成立大會を開き以て報告をなしたり已往情形討論進行の方針及び規則の研究提議報法の諸要點あり故に昨日に於て分別各株主に書面を致し時を期し臨會して籌議に參預し以て商權に

賢し而して進行を策せんことを請へり聞く前の廣東省長朱慶瀾氏も政界を離れ實業界に投じ該公司の創立には尤も熱心に盡力したる一人なりと云ふ。(神州)

●米を海外に輸出するの特別調査

現在屯積の米の情況通信に據るに云く大有公司是某々米店に託して已に十萬石を購入せる外に南市米商に代購せしめたる者又た三四萬石あり而して北市は只だ新開橋北の某氏所開の米店にて三千石を代購せしめたりと皆省長の許可の下るを俟ち即ち該公司より直輸出をなすと云ふ米商代購手数料は每石五分なりと云ふも惟此次米商の代購せしことは頗る秘密に屬し手数料の如きは尙ほ調査すること困難なりと云ふ。

(時報)

●中日實業公司よりの借款

張總司令頃日濟南より發來の要電に謂く新たに中日實業公司に向て三百萬元の借款をなしたりと該公司より借入れたる舊負債及び缺損の軍費を償還せんが爲めになり蓋し去歲第二路軍隊前方に出發せし時所用の經費は中央政府も彼の時即ち未だ支給せざりしが曾て山東の中日實業公司にて貨物屠獸税を抵當となし一百五十萬元を借入れ已に償還の期日に達せると中央政府又た償還すべき金なきを以て已むを得ず續いて該公司に向ひ再び三百萬元を借り原有の擔保品を除き更らに金庫券二百萬元を増添して抵當となし利息は八厘期限は六ヶ月並に認めて中央短期借款をなすべきを聲明し山東省に於ては償還の責任を負はずと該款は負債の一百五十萬元を償還する外に第二路軍隊新舊の軍糧の經費に充つ云々。(時報)

東亞同文會編纂

最新版

支那關係

特種條約彙纂

正價金四圓

送料 内地十二圓 支那銀四十圓
總本製紙箱入四六版 總六號七百五十頁

最近迄 支那

關係の各種條約を網羅す

支那と列國との特種關係・支那に於ける列國利權・支那の國際上の地位悉く本書に依りて明瞭

東京市赤坂區溜池町二

發行所 東亞同文會調查編纂部

電話 芝一二一四番
振替東京九七三〇番

彙報

自九月十六日至九月三十日

對露關係

▲東清鐵道尙罷業

(哈爾濱特電十三日發) 東清鐵道の列車は同盟罷業に加盟せざる労働者を雇ひ集め不規則ながら運轉を繼續し居れるも罷業は尙依然熾ます尤も東清鐵道線は罷業者の主なる者七百名を解雇し罷業に加盟せる者の宿舍取上を聲明する等の高壓態度に出でし爲昨朝來弗々復職する者出で來りたり然れども自暴自棄となれる強硬分子を中心とせる連中は飽迄鎮束を要し昨朝來業務に就かんとする軟派連の喰止めに努力し之に對し露國軍人側は嚴重なる處分をなすべしと主張しハルワット長官は暫時待たれよと語りしとの事なるが右は妥協に就き何等かの光明を認めたる爲なるが如く昨夜更に十四五名の主なる罷業者を逮捕せりと。(十六日、日日)

▲東清保護嚴命

(十四日北京特派員發) 北京政府は張東三省巡閱使、吉林黑龍江兩省軍に「東清鐵道は民國政府完全に保護すべき責任を有す吉林黑龍江兩省軍隊は決して該鐵道沿線を撤退すべからず某國の該鐵道管理權要求は中央政府より直接に交渉すべきに就き意外の事件を起すべからず」と嚴命せり。(十八日、朝日)

▲東清鐵道問題解決

(北京特電十六日發) 東清鐵道問題に就き最近當地に於ける日支露三國當局者の間に意見の交換ありたる結果、同鐵道の管理權は依然露國にあり警備は支那政府之を有することとして何れも諒解せり又同鐵道附屬電信電話は本月十三日同鐵道從業員の同盟罷業終熄し列車の運轉を見るに至ると同時に開通せるを以て一時軍用電話を敷設す可しとの間諜は自然消滅に歸せり。(十八日、時事)

▲東清罷業解決

(哈爾濱特電十三日發) 東清鐵道労働者並に電信局員の同盟罷業はチエック軍司令官ガイダ少將が次の如き威嚇的命令を發したると東清鐵道が賃銀を復活し且罷業者の免職を取消せるに對し労働者側が其主張せる職業同盟會公認問題を撤廢したるとにより十三日朝を以て解決を告げ運轉其他の業務は一切舊に復せり。(十九日、日日)

▲日支軍スチャンタコフ占領

(十四日滿洲特派員發) 軍司令部發表山田少將の鐵道支隊は十三日午前キムカン驛西方の鐵道に達したるも該鐵道は貨車にて杜絶され又其西方ロシヤウ鐵橋も破壊されれば直に之が復舊に努め既に一部隊を前進せしめたり亞米利加軍、支那軍の各一部隊も我鐵道隊と協同する事となり米軍は既にハバロフスクを出發せり十二日午後日支聯合軍の一部はスチャンタコフを占領せり。(十九日、朝日)

▲主權侵害の抗議

(北京特電十八日發) 支那政府はチエック軍が東清鐵道從業員の同盟罷工に對し若し鐵道從業員にして復職せざる者は軍事裁判に付し銃殺する旨布告を發したるがチエック軍は未だ支那政府の承認を得ざる團體にして且支那領土内にて斯かる布告を爲すは主權侵害なりと憤り吉林軍曹孟恩遠氏に向ひ嚴重抗議せよと告令せり。(二十一日、日日)

▲東清守備撤退する勿れ

(二十日奉天特派員發) 北京政府は張巡閱使孟督軍及び鮑督軍に對し東清鐵道は我が支那より完全に保護するの權あり該鐵道を守備する吉林、黑龍江の軍隊は責任を擔負して撤退せしむ可からず某國の該鐵道に對する管理權の要求は既に中央政府より直接交渉せり之を拒絶するも意外の事故を發生する憂ひなしとの密電を發し送れり。(二十二日、朝日)

▲蒙國境漸く急なり

(北京特電二十一日發) 二十一日の閣議にて庫倫辦事代員陳毅氏の請求により庫倫に軍事處を設けし事を許可せり又恰克圖電報によればイルクラーツクの獨逸俘虜は過激派と合し恰克圖を奪還せんとし同時にウエルフネ・ウーデンスク方面より日本軍は、チエック軍と聯合して恰克圖に進軍せんとする警報あり何れにせよ大兵を庫倫恰克圖に送らざれば蒙國境を守る能はずと。(二十三日、日日)

▲東清線守備兵増派

(長春特電二十二日發) 東清鐵道守備の支那兵は現在約八千名に達せるが近來獨探の跋扈益々しく危險多しと稱し北京政

府は更に増兵すべき事を吉林督軍に命令せりと依て孟督軍は東清沿線守備司令官高士漢中將を始め各團隊長を二十一日吉林に召集して軍事會議を開き増兵の方法及其兵數等に就き密議せり。(二十六日、日日)

▲西伯利政府救助懇請 (北京特電二十四日發) オムスク政府代表者ウオロゴドスキー氏は陸外交總長を訪ひて來京の目的を語り今や露國は聯合國の援助を得て東部西伯利を完全に恢復したるが西部西伯利には尙過激派及獨逸の勢力強きものありオムスク政府は之を驅逐すべき當に當り居るを以て此際聯合國と交渉し其實際的援助を求め西部西伯利の恢復を圖り進んで東部新政府を建設し全露國の恢復に就き準備する所あらんとす其他金融の整理、食料の供給等に就いても聯合國と協議せんと欲す貴國の切實なる援助を希望すと述べたるに陸外交總長は支那は聯合國の一員として必要なる援助を寄らす聯合國間の協議應らば之と同一の態度を執るべしと答へたり尙同氏は段總理及び各聯合國公使を歴訪し同様陳述すべしと。(二十六日、日日)

▲東清罷業餘燼 (長春特電二十五日發) 京奉鐵道從事員支那機關士車掌火夫等四十五名は北京政府の命により二十三日夜長春發哈爾濱に向ひたるが是東清鐵道同盟罷業未だ完全に解決せざる爲列車運轉に従事する爲なり。(二十七日、日日)

▲過激派追放命令 (北京特電二十五日發) 北京政府は各省及特別區域長官に訓令を發し露國人の旅行者に對しては旅行免狀を要する者は從來通り取扱ひ旅行免狀なき者は露國領事に引渡し過激派と認むる者は直に國外に放逐せよと命令せり。(二十七日、日日)

外交關係

▲支那外交委員 (北京特電十二日發) 支那政府は前駐露公使劉鏡人氏を浦鹽駐在の外交高等委員に任命し劉氏は十二日出發せり。(十六日、日日)

▲新總統の親日方針 (北京特電十三日發) 芳澤代理公使は十二日徐世昌氏を訪ひ大總統當選に對し日本政府を代表し祝辭を述べたるに徐氏は其好意を感謝し總統就任は自ら各方面に向ひ發達せし通電の回答を待つて發

決定すべしと述べ將來の施政方針に就ては該通電に述べたる趣旨を敷衍し南方の各首領とは裏面に聯絡あり南北妥協の望みあることを語り日本が從來支那に對して執れる政策に就ては何等の誤解疑念を有せず將來も日本と親善關係を持續し其隣誼に依頼すべしとの口吻を漏せり徐世昌氏邸は既に大禮官其他の吏員出張し接待の任に當り事實上大總統の待遇をなし居れりと。(十七日、日日)

▲天津日本商議の抗議 (十四日天津特派員發) 天津日本人商業會議所は輸入綿絲梱包検査問題に關し強硬なる抗議を海關に提出せるが本問題に就き外國商人側は現今綿絲を輸入し居れるものなき爲對岸の火災觀し居るも支那側當業者は斯くと聞きて俄に會議を開き協議の結果商務總會の名に於て交渉使を通じて政府に命令撤回を要求せり又我官憲にては抗議貫徹の爲め池邊副領事十四日午後四時發列車にて上京せり。(十七日、朝日)

▲孟督軍の好意 日下北方に輸送中なる日本軍隊は東清鐵道の輸送途滯の爲一時長春に宿營するに至りしが吉林督軍孟恩遠將軍は日本軍に便宜を與へんが爲に萬般の手段を盡し殊に十一日以來自ら親しく長春に出張して日支官憲の間に立ち仲介者の勞なとり大に努めたる爲日本軍の宿營其他に何等の故障を生ぜざるのみならず支那官民共に好感情を以て日本軍を迎へ日支兩國民の間極めて圓滿なり。(十六日其筋着電、十七日、日日)

▲軍事委員叙勳 (北京特電十二日發) 日支軍事協定實行期に入りし爲支那政府は該協定に干與せし兩國委員に總花的叙勳をなし青木中將は二等寶光嘉禾章を寶藤中將は二等文虎章を宇垣少將、坂西少將、吉田少將は二等大綬嘉禾章を伊集院、樺山兩大佐は三等寶光嘉禾章を贈與されたり。(十七日、日日)

▲英國公使勸告真相 (上海特電十五日發) 英國公使の支那の南北和平に關する勸告に就きロイナル北京電報を英國公使が廣東海關問題に就き陸徵祥氏と會見の際南北の争ひある以上斯くの如き事件續出するを指摘し平和恢復の見込あるを説き海關と云ひ且つ又今日の狀態は單に支那を衰微に導き且つ其商業貿易其他一切の工業を破壊し外國人も支那人も共に損害を受くること大なるを説けるなりと。(十八日、時事)

▲チエツク族承認を通告 (北京特電十七日發) 船津書記官は

報の如く昨日陸外交總長を訪問し日本政府のチエツク、スロバツク承認宣言書を提示せり。(十九日、時事)

▲金銀禁止 (北京特電十七日發) 十七日外交部會議を開き支那政府の金銀輸出禁止令に就き討論する所ありたるが日本側は未だ本國よりの訓令に據せざるの故を以て之を保留し未決の儘散會慎重なる態度を執り居れり。

支那政府は北京外交部に對し同國の金、銀、銅の地金及銀貨、銅貨の輸出禁止を爲したき旨提議し來り右品目の輸出禁止は昨年一度外交部に提議し來りたるも是等の輸出禁止は通商上其影響頗る大なるものあるを以て外交部は直に之を拒絕したるが今同は更に強硬なる態度を以て其要求を爲し來り外交部が如何なる決定を爲すべきや目下審議中なる處なるが特に我國の如きは其關係する所重大なるを以て慎重なる考慮を要すべき問題なりと。(二十日、日)

▲公使團徐氏に祝辭 (北京特電十九日發) 徐世昌氏大統領當選に就き外交部は既電の如く芳澤代理公使先づ第一に祝辭を呈し英米白佛の各國公使も何れも本國政府の命に依り徐氏を訪ひ祝辭を述べたるが英國公使ジョルダン氏は祝辭を述べたる後時局に關し意見を述べて曰く支那南北は宜しく速かに妥協し以て紛糾せる時局に解決を與へ内國民の困窮を救ひ外獨逸勢力の侵入を防がざる可からず余屢々長江沿岸を視察するに未開地少からず若し内争を止め協力富源の開発に従事せば十年の後に支那は世界の富國たらんと之に對し徐氏も南北統一を以て刻下の急なりと思惟すと答へたるを以てジョルダン公使は廣東、上海、漢口、南京其他南方各地の英國領事に對し南方派及び中立派の各領袖に南北妥協の策を執る可き旨電報せり。(二十一日、時事)

▲軍事協定細目調印 (北京特電十九日發) 軍事當局者は曰く最近日支兩國軍事當局者は日支軍事協定に基き細目を決定し既に調印を終りたるが右は共同防敵の目的を達する爲必要の事項を規定するに過ぎず且協商國側に不快の感を生ずる虞なき支那を壓迫するものにあらず支那新聞が軍事協定の範圍を擴張したるが如き又は東洋モンロー主義を加味し外國を阻害する傾向ある如く報道するは全然事實と相違せり日本は支那及協商國に對しても武器彈藥の供給を爲し共同防敵の範圍内にて能ふ限りの努力を爲しつゝあり。(二十

一日、日)

▲食糧解禁 (北京特電十九日發) 十八日の公使會議は露國公使の提議に係る支那國內よりハバロフスク食糧輸出禁止を解くことを可決し哈爾濱に於ては郵便檢閱を履行する件をも討論したり。(二十一日、日)

▲鐵道管理拒絕事情 (北京特電十八日發) 米國駐在北京支那公使顧維鈞氏より米國政府は引續き東清鐵道の管理權を米國鐵道委員に付與せよと請求し居れる旨の電報に接し支那政府は同鐵道と支那との立場を明確にしたり即ち同鐵道管理權に就ては日支の間に於て交渉ありたるが支那は斷じて資本に管理權を讓るが如きことなし故に米國の提議に對しても之を拒絕する旨回答せり蓋し支那政府は日米兩國を互に牽制せしめ同鐵道の管理權を保持せんとするものゝ如し。(二十一日、日)

▲支那の駁論 (北京特電二十一日發) 支那政府は四國政府及銀行團の金紙幣條令抗議に對し支那政府は民國三年國幣條令を發布し將來金本位制を立つる事を宣言し爾來銳意幣制整理に従事中にて金紙幣發行の如きも其一なり支那は幣制整理を行ふに際し他國の干渉を容れず所謂四國銀行團の主張し居るが如き束縛を受くるものにあらずとの反駁的答を爲せり且日本に對しては特に阪谷男は未だ幣制顧問として備聘したるにあらず従つて本件に對し阪谷男に諮詢する必要を認めざりし旨を附言せり。(二十三日、日)

▲英米佛南方不承認 (上海特電二十一日發) 英、米、佛三國は支那南北に對して中立を守り南方の交戰團體たることを承認せざるに決せる旨北京より報道ありたり。(二十三日、日)

▲支藏紛爭 (上海特電二十一日發) 西藏側より支那に對する和議條件左の如し。
(一) 支那兵の撤退をなし西藏兵を四川の境に駐屯せしむること
(二) 支那は西藏に軍費五萬磅を賠償すること
(三) 四川西藏貿易に就き双方委員を派し其規定を爲すこと。(二十三日、日)

▲日本の蒙人募集反對 (十九日奉天特派員發) 北京政府は龍鳳龍江督軍に對し日本の蒙古人募集を以て協約に違反するものとし其兵隊若しくは軍役夫として應募せしむることを嚴禁すべく電命せり。(二十三日、朝日)

支那政府默殺

(北京特電二十一日發) 兩三日間 國政府は和蘭公使アロツクランド氏を経て支那政府に講和提議を爲し來れるが支那政府は講和に關しては全然各協商國と歩調を保つ方針にて協商國側の態度決定するまで何等回答を爲さるゝことに決し華公使に對し日本政府の態度を確むべしとの電報を發せり。(二十四日、日日)

吳氏と新總統

(上海特電二十四日發) 援粵副司令吳佩孚氏は公文書にて廣東領事團に對し非法總統不承認方を北京外交部に通告せんことを乞へり。(二十六日、日日)

列國に不承認通告

(二十四日香港特派員發) 廣東軍政府外交總長は外交部特派交涉委員をして廣東駐在外國領事團に對し軍政府は新任の國民大統領を承認せざる旨を通告せしめ且各國領事より北京駐在の各國公使に傳達方を要求せり。(二十六日、朝日)

講和提議を拒絶

(北京特電二十六日發) 境地利政府は此程北京駐和蘭公使ベラツツ氏を通じて支那政府に境地利及び支那兩國の單獨講和を提議し來れり右に就き支那政府は國務會議を開き回答方に就き目下協議中なるが段國務總理は協商國側との從來の關係上、當然拒絶す可しと主張し閣員孰れも之に賛成なれば不日駐支和蘭公使を通じて境地利政府に拒絶の回答を與ふることゝならん。(二十九日、時事)

日支兵衝突す

(蒲潮特電二十五日發) 二十二日夜ニコリメクに於て日支兵の衝突を來したるが其真相は全く夜間殊に言語双方不通の爲めに於て當夜支那軍の屬會に露人一名潜入し銃器を奪はんとし果さず拳銃を放つて逃げたるを同所附近の日本軍に於て斥候を放てり然るに支那哨兵は我斥候が賊の逃走したる方向と同方面に現はれたるを以て我斥候を賊と誤解し我斥候に向つて發砲し我亦之に應射したる次第なり之が爲め我斥候中死者一名負傷者二名を出せり支那側は私の損害に對し深く其哨兵の粗忽に基因せることを斷じ居る爲め事件も迅速容易に落着し日支兩兵間には何等の惡印象を残さずと。(二十九日、時事)

金券條例抗議の回答

(二十八日北京特派員發) 金券條例發布に對する日、英、佛、露、伊、公使の抗議に對し財政部は二十六日回答を與へて曰く

抗議の理由とする所は幣制改革は先づ以て四國銀行團に 議するを要し且つ該條令善後借款の處分は金券條例と何等關係なし尙同會は純粹なる内政問題にして民國三年の國幣條例と等しく外交と關係なし又財政部と銀行團とは從前何等の約束もなし云々。(三十日、朝日)

米代理公使の勸告書

(二十八日北京特派員發) 最近支那政府が上海貯蔵の阿片買収を裁可せるに對し北京駐在米國代理公使は本國政府の訓電に依り正式に勸告書を提出せり其大要に曰く

支那政府が最近阿片買収を裁可せるは米支兩國政府の批准せる阿片禁止に關する海牙條約の精神に違反するものなり依つて米國政府は支那政府が今回の計畫を實行せず且つ其阿片買収契約を取消さん事を切望す。(三十日、朝日)

南北情勢

兩廣雲貴の態度

(北京特電十三日發) 廣東、廣西、雲南、貴州の商務總會より徐世昌氏の總統當選を祝し南北戰爭以來各省の受けし苦痛を述べ中央政府が速に平和を計り内争を停め外侮を防がんことを請求し來れり。(十六日、日日)

貴州軍湖南進擊

(漢口特電十三日發) 貴州第二師長袁祖銘氏は其師團を率ゐる重慶を引揚げ湖南省辰州に突進の計畫にて其一團は既に出發せり。(十六日、時事)

重慶會議の目的

(漢口特電十三日發) 重慶會議は十日開會の筈なりしも十四日、唐繼堯氏の到着を待つことゝなれる由。

熊克武、葉荃、顏德基氏等は到着せり會議の重なる目的は雲貴四川の軍事、行政、財政の聯合を圖るにあり。(十六日、時事)

四川督軍任命

(北京特電十四日發) 南方政府は熊克武氏を四川督軍に任命せり。(十六日、日日)

會見方法協議

(上海特電十四日發) 譚治明氏は湖南省永州に在る譚延闓氏に對し衡州に赴き吳佩孚氏との會見方法に就き議せん事を求めたり。(十六日、日日)

▲和議修通 (上海特電十四日發) 湖南に於ける南軍司令官賴澤氏は會議を開き和議に就き討議する惟軍政府に向け打電せりと。(十六日、日日)

▲段總理辭意を傳ふ (上海特電十四日發) 段總理氏は徐世昌氏に對し現狀維持を爲し十月十日職を退き其命を聞く旨傳へたる處徐氏は大總統就任の通電を發したるなりと。(十六日、日日)

▲倪張主張主張 (十一日北京特派員發) 倪嗣冲、張作霖の二人は段總理に宛て徐世昌氏に向ひ大總統就任後も從來の主戰方針を變更せず飽く迄決定的戰勝を得て時局を統一すべしと勸告せよと打電し來れり。(十六日、日日)

▲新募兵の輸送 (芝罘特電十四日發) 奉天軍の募集せる新兵四百三十名は本日順天丸にて天津に向け輸送せられたり。(十六日、日日)

▲徐氏回答を與へず (北京特電十五日發) 湖北督軍王占元氏は蕩口に全國會議代表者會議を開き南北統一を圖るべしとの意見を發表せるが之れに對し江蘇督軍李純氏は會場を南京とし全國會議代表者の外更に南北在野主要人物をも加ふ可しと主張し徐世昌氏に宛て之れに賛與せんことを要求し來れるが徐氏は北方督軍の反對を慮れ單に一箇の意見として受理せしむるにて何等回答を與へずと。(十七日、時事)

▲段氏副總統を固辭す (北京特電十四日發) 段總理は副總統の候補者として引合に出さるゝを厭ひ予は決して正副總統たる事を望みたる事なし國務總理にして正副總統たる事を運動せんか比較的容易に成功することを得べきも斯かる先例を作る事は民國の爲に喜ぶべき事にあらず何となれば將來總統たらんとする野心ある者は先づ國務總理たらん事を欲し政爭常に絶えざるべければなり予 斷じて副總統たらんと語れり。(十七日、日日)

▲段氏初志を續さず (北京特電十五日發) 段總理は世人は平和を唱ふるは甚だ宜しきも現在の狀態にて果して南北の妥協を實現し得るや否やは懸念なり予の主戰主義は平和論者が成功したる感嘆に於て完全に失敗と云ふを得べきも今日の形勢は直に予の主戰は失敗と斷言する能はざるべし予の考ふる處にては主戰主義は平和を求むるの道にして予は尙最後まで努力を廢せざる方針なりと語れり尙樂士貽氏が十三日徐世昌氏と會見したる席上にて和戰問題につき意見を交換したるが時局收拾の途は先づ停戰命令を公表する

を急務となすと雖も段内閣存命中は是を廢するに由なく已むを得ず裏面に於て南方首領と非公式の交渉をなし一方北洋派の結束を堅め段の辭職によりて動搖を來すが如き事なきよう豫め準備する位の程度に出づるに如かずとなし政局依然混沌たり。(十七日、日日)

▲師團交代陳情 (漢口特電十五日發) 第十一師團長李奎元氏は湖南督軍張敬堯氏との確執解けざるより湖北督軍王占元氏は十三日徐世昌氏に打電し就任後第十一師團を大總統護衛軍に轉じ第五師團をして代りて湖南に下らしむるを乞へりと。(十七日、日日)

▲遣日海軍學生 (北京特電十四日發) 支那海軍は今因日本海軍大學校に留學生を送ることに決せり。(十七日、日日)

▲唐繼堯條件提出 (十五日北京特派員發) 雲南督軍唐繼堯は北京政府に向け舊國會恢復雲南、貴州巡閱使の使命、熊克武を四川督軍に任命する事、雲南軍二個師を四川へ永久に駐せしむる事從來中央に反抗せし軍人は一切任用せざる事等の條件を提出せりと。(十七日、朝日)

▲厦門遂に陷落す (上海特電十五日發) 洪兆麟陸路司令は十二日より厦門に迫り浙江軍等と勇戦の末確實に厦門を占領し督軍李厚基は逃走したり同地の軍艦一隻は中立の態度を持し居れりと。(十七日、時事)

▲民黨徐氏の誠意を疑ふ (北京特電十四日發) 上海の民黨側にては徐世昌氏が總統就任以前明かに南北妥協を宣言し解決の局に當る決心に出でざるに對し疑惑の眼を向け居れり若し徐氏にして南北妥協の誠意あらば就任前に平和會議を開き舊國會の憲法制定を承認し且就任に關しても舊國會の承認を來むる方針に出づべきに至當とすと爲し現に孫洪伊氏は徐氏の選任を勸告し且舊國會恢復の必要を述べたる長電を送り其決心を促せり。(十七日、日日)

▲福建軍用米買入 (南京特電十四日發) 督軍李厚基氏の派遣せる曹副官は當地對岸浦口に來り軍米三千石を買入れたり。(十七日、時事)

▲暗殺團入込む (北京特電十四日發) 最近南方派の放てる暗殺團多數北京に入込める證據あり北京警隊にては嚴重なる搜索を行ひつゝあり。(十七日、日日)

▲南北妥協の一難關 (北京特電十五日發) 南北妥協問題の一條件

は西南各省の軍費善後策なるが岑春煊氏より熊希齡氏に内報したる處によれば凡そ四千萬圓を要すべしと此巨額の軍費は從來各省又は南方各首領が立替又は借入金を始めを含むものにて或意味に於て法律論以上の難問なりと。(十七日、日日)

▲外蒙古人歸服

(北京特電十四日發) 外蒙古烏梁海地方の人民より北京政府の麾下に服したき旨請願ありたる爲十四日の閣議にて之を可決し新に軍隊を同地に派遣し官衙を設くるに決定せり。

(北京特電十五日發) 烏梁海の人民が支那に歸服せん事を申出でし事は別項の如くなるが右は道光十二年慶親王と露國公使との間に國境を確定せし時烏梁海一部は露國領土に歸し目下オムスク州に編入されたる關係より露國の政權に服従し居りたるものにして之等の人民は蒙古人の風俗習慣を維持し毎年哥羅克と共に親屬方面に巡禮旅行をなす習慣あり今同其下に歸らんとするものなりと。(十七日、日日)

▲揚子江氾濫す

當地は十一日より長江再び氾濫し十二日は海關水櫃二十九尺餘に達し堤防外市街地低地全部浸水せるも減水せり(沙市肥田事務代理發、十七日、日日)

▲王正廷氏出發

(上海特電十六日發) 十數日前より當地にありて一切日本人の面會を斷絶し居たりし廣東國會議長王正廷氏は十四日エンブレ・オブ・ジャパン號にて米國に向へり其使命は南方政府承認及借款に關する用務なる事疑なき所なるが岑春煊氏は日本に對し極力私用を以て渡米するの序を以て軍政府事務の一部を依託したるに外ならずと稱し居るも其實は伍廷芳氏等を中心とする親米派が日本に對する示威運動として計畫したるものなり但上海民衆は之に對して寧ろ冷淡の態度を取り居れり。(十八日、日日)

▲政務會議參列者

(上海特電十六日發) 廣東軍政府政務會議出席資格者は熊克武、譚浩明、陳炯明、程潛、李根源、浙江軍司令呂公望陝西四國軍及び湖北靖國軍の代表なりと。(十八日、時事)

▲曹錕氏の平和通電

(北京特電十五日發) 屬南下の説を傳へられし四省經略使曹錕氏は尙保定にありて動かす十四日長電を各方面に發し時局艱難、外交逼迫を説き文武官の墮落を慨然し個人の權利を争ふに急にして内亂相繼ぎ外侮を顧みざる現狀にては亡國の端を招くやも知れず印度、朝鮮以

て殷鑑となすべし只救國の志を同うする者南北に在て互に共助するを悦ぶ大廈の倒れんとするや主木之を支ふるにあらざれば不可なり天下明達之士共に立つて之を挽回せよ予は學識闇昧なるも救國濟民を以て志となす敢て内外の狀況に刺戟され意見を述べと結べるが曹錕編出なるも平和解決を主張せること明白にして其態度全く一變せるを見る段總理は該電報を受けたる後其私邸に重要會議を開きたるが席上強硬派の曹錕氏が從來主戦の態度を變ひ巨額の軍費を貪りながら副總統たる野心を逞き成功覺束なきに至るや急に態度を改め平和論を唱ふるを攻撃憤慨せるものありしも鍾健派は曹錕すら論斯くの如く約變せる以上速に挂冠して野に下り再起の秋を待つの外なしと説き大勢は後説に傾けり。(十八日、日日)

▲徐氏當選證を受く

(北京特電十六日發) 今十六日總統選舉會議員並に副議長は徐世昌氏の私邸に赴き大總統選舉當選の證書を交付し徐氏は之を受領せり之に依り徐世昌氏は大總統就任を形式に承諾せることとなりたるが大總統就任の儀式は改めて十月十日舉行に確定せり。(十八日、時事)

▲徐氏政見宣布

(上海特電十六日發) 徐世昌氏は政見を宣布せるが其要旨左の如し。

一、争を止め和を言ひ統一を促進すること

二、速に憲法を定め共和の基礎を樹つること

三、南北軍隊を裁撤して民政を維持すること。(十八日、日日)

▲吳佩孚氏の返電

(北京特電十六日發) 徐世昌氏の第二回通電に對し曹錕(四省經略使)楊善德(浙江督軍)兩氏は徐氏の意見に賛成し一致して事に當らんと回答せり更に吳佩孚氏(毅勇副司令)は徐氏に對し貴下の志望見識は全國人民の悦服する所にして總統を以て許すも若し總統就任前に平和意見を發表し南北調停の任に當り馮總統に停戰命令を發布せしめば更に可なり然らば無論國會問題が如何に解決するも貴下を措きて總統たるものなしとの電報を送れり。(十八日、日日)

▲正式選舉主張

(上海特電十六日發) 江蘇省南通州に在る張警氏は徐世昌氏の總統たるに賛成すると兵に約法に照し正式の選舉を執行するの要を説けり。(十八日、日日)

▲副總統推舉現狀

(十七日漢口特派員發) 吳江督軍は段祺瑞が曹

張に副總統を與へて疏通を圖らんとするを知るや李督軍等をして徐世昌と連絡せしめ馮國璋を副總統たらしむべく盛んに密電を交換し居れり。(十九日、朝日)

▲北軍劉陽奪還 (十六日北京特派員發) 湖南劉陽は十四日再び北軍に奪還されたり。(十九日、朝日)

▲張督の交換條件 (北京特電十六日發) 張奉天督軍は東三省巡閱使に命ぜられたる交換條件として段内閣に約するに(第一)奉天軍事集兵九箇旅團の中四箇旅團を參戰官辦處に歸屬せしむる事(第二)官職職掌中の前湖南督軍傅良佐氏及同省長周肇祥氏を邊防軍に採用し功を樹て罪を償はしむる等を以てせり。(十九日、日日)

▲兩院當選祝詞 (北京特電十六日發) 總統當選證書捧呈式の際參議院議長梁士詒氏の朗讀せし祝詞左の如し。
兩人(兩院議長)本日參衆兩院を代表し恭しく證書を當選大總統の前に致す
國を福し民を利するの左券なり。(十九日、日日)

▲段氏の辭職遲延理由 (北京特電十六日發) 段總理は四省經略使曹錕氏が主戰主義を捨て平和調停論に轉變せる爲益々現地位に止まり難きを以て辭意を固めたるが其未だ辭職を決定せざるは(第一)新總統徐世昌氏との間に後繼内閣の選任決定せざると(第二)辭職後は専ら參戰官辦處に力を盡す決心なるも現在所屬軍隊は步兵三箇旅團、砲兵一箇旅團にて工兵騎兵輜重兵機關銃隊等を缺き居れるを以て之が完成を急ぎつゝあるか爲なり。(十九日、日日)

▲參衆兩院會議 (十六日北京特派員發) 十六日衆議院開會、出席議員二百十六名にして衆議院規則第二、第十六、第三十、第四十七、第六十一の各號修正案を可決し參議院は出席議員九十八名にて國會組織法第六、第十七各條及選舉法第八條の修正案を可決せり。(十九日、朝日)

▲南方派徐總統を認めず (上海特電十八日發) 岑春煊、伍廷芳、林葆懌氏等其他雲南、貴州、廣東、廣西各督軍は聯合して馮國璋氏宛て五百餘の電報を送り民國七年法治國の實事からず常に個人權力の跋扈する弊を述べ最後に徐世昌氏其人には敬服するも徐氏は非法手段によりて選舉されたる

故總統たるの資格なし此點に至りては馮國璋氏は法律に依る民國の大總統なれば今後は只舊馮國璋氏に對し自重終始せんことを望む旨を述べり。(十九日、日日)

▲軍政府特派派遣 (香港特電十七日發) 廣東軍政府は王有蘭氏を四川、貴州、雲南に派遣する事に決せり遣は是等諸省と融和せんが爲には王氏最も適任と認められたる爲なり。(十九日、日日)

▲瀏陽土匪引揚 (漢口特電十八日發) 安武軍督辦章文生は十二日平江を経て僅少の兵を率ひ瀏陽に入城せり土匪は多少の抵抗を爲せしも元來唐莽を崇拜せしもの多く宣教師を仲介として商議の上引揚たり。(二十日時事)

▲吳佩孚肯かす (十七日北京特派員發) 張敬堯は總統に密電を送り吳佩孚は予の勸告に服せざるに依り吳の部下を後方に廻し奉天軍を以て之に代らしむべく其外中央より別に軍隊を増援し永州郴州附近に分駐せしめられたしと噂ひ來れり。(二十日、朝日)

▲吳佩孚徐氏に説ぐ (上海特電十八日發) 吳佩孚氏の徐世昌氏に宛たる電報中に左の語あり。

我國既に共和を要す専ら法律を以て根本とす法律全からざれば邦基堅からず是世界の共に認むる處、國會は國家立法の最高機關、國會議員は國民の完全なる代表、總統を選舉するは國家非常の重典なり故に總統選舉は必ず眞正の民意に出で全國の代表は眞正なるを要す我國舊國會業より不夏のものあるも新國會の諸員に至つては實に金運動に依りて出づるのみならず西南五省等しく選舉を経ず此素質不完全なる國會焉ぞ能く全國民意の代表たるを得んや我公の聲望尊嚴久しく國人の悦服する處皆次期大總統を以て期待するも遂に是等の國會に依り選舉せられたるは實に我公に累するのみならず恐らくは不信任なる國會と連帶關係を爲すに至る可し我公よく曲げて隨は西南五省を除くするに至らん強ひて戰に就かば民國分崩す可く其實我公にあるに至り天下後世に之を貽すに至らん斯くして和局は永遠に不可能なる可し我等は敢て公の爲め賀辭を呈せず寧ろ民國 爲め用意を表す可し若し我公任に就くの前儼然として和平の意を現はし敢て調停者の首領となり馮總統に停戰の命令を下さしめ先づ時局解決を爲し統一を圖りたる上

國會議員を國を通じて正式に選舉し其成立せる國會に依り總統として選舉せらるれば自然公は總統たる可きなり云々。(二十日、時事)

▲福建清鄉總辦

(北京特電十八日發) 總統命令にて薩鎮冰氏は福建全省清鄉事宜總辦に黃培桂氏を會辦に任じ又都護副使科布多佐理員徐時眞氏の辭職を許し(洪楨氏庫倫辦事大員秘書長)其後任に任せらる。(二十日、日)

▲土匪三千峰起

(濟南府特電十八日發) 十七日夜土匪三千一團となり萬城縣を襲ひ之を占領し掠奪を行へりとの通報に接し今朝實軍處參謀長は步騎砲兵各一聯隊を率同地に急行し討伐に向へるが天津、濟南府間の汽車は爲に不通となれり。(二十日、日日)

▲徐世昌吳佩孚に返電

(十八日北京特派員發) 徐世昌は吳佩孚より和平統一を先にして就任を後にせよとの勸告電報ありしに對し和平を希望し早く統一を圖る可ければ靜かに解決を待つべしと返電せりと。(二十日、朝日)

▲前清皇室徐氏祝賀

(十八日北京特派員發) 前清皇室より徐世昌當選祝賀の爲十七日世續を徐氏邸に遣はしたり。(二十日、朝日)

▲岑、伍兩氏の勸告

(上海特電十八日發) 岑春煊、伍廷芳兩氏は徐世昌氏に對し非常國會より選出されたる總統の職に就く勿れと返電し岑は更に馮國璋氏に宛て徐氏の總統に就任せざる傳へられたしと打電せり。(二十日、日日)

▲南方強硬

(上海特電十八日發) 廣東軍政府は北京政府が正式國會を承認するにあらずんば共に和を言はずよのことに決定せり。(二十日、日日)

▲廣東衆議院副議長

(十八日上海特派員發) 廣東衆議院は十七日副議長の選舉を行ひ褚輔成百七十四票、葉夏聲八十一票を得、褚氏當選せり。(二十日、朝日)

▲國務院と和議

(十九日北京特派員發) 國務院は曹錕の主和的通信に對して中央政府も決して内争を好むものにあらず曹錕の意見と規を犯し權利同じく法を争ひ國家を危くするものを制止し政治の均一手段を講じ衝突を保つに過ぎずとの通信を發せり。(二十一日、朝日)

▲廣東不一致

(北京特電十九日發) 十六日政務總裁會議にて伍廷芳

氏は徐世昌氏に對し總統たることに反對せざるも其選出違法なるを以て就任せざる様政府の名を以て打電せんことを發議せしも林葆懌、李烈鈞、莫榮新氏等は絕對に不賛成を唱へ終に岑春煊、伍廷芳兩氏は私人の名を以て打電せり。(二十一日、日日)

▲兩督軍の妥協意見

(北京特電二十日發) 長江各督軍が南北妥協運動に着手せる事は既電の如くなるが李純氏は新舊國會を同時に解散し徐世昌氏の總統たることを承認せしめ新に全國より議員を召集せば南方の意志をも尊重するに當り其他の條件も容易に解決すべしと主張し又王占元氏は南方を叛徒と認め新國會を解散するは國家の威嚴を害するに當るを以て之を承認せず舊國會のみを解散して南方首領を成るべく中央に集め舉國一致内閣を作

り其他の條件は出來得る限り南方の希望を尊重するを囑當とすと唱へ兩者の意見一致せざる點あり十七日王占元氏は湖北第四混成旅團長南元超氏を南京に特派し更に協議せしむることとなれり。(二十二日、日日)

▲徐氏の事勿れ主義

(上海特電二十日發) 徐世昌氏は吳佩孚氏を経て馮國璋氏に其任を去るを延期することを求め予は既に平和的企圖に依り重寶し力めて法を設け之を貫徹せんとす此時職を去り反動を助成せしむること勿れと又徐氏は孫寶琦氏を経て吳佩孚氏に對し過激に失して南方の氣焰を擧ぐる勿れと打電したるか吳氏は之に對し任に就くに先だち停戰の命令を出すの要を以てせりと。(二十二日、日日)

▲南軍兩省進擊

(上海特電二十日發) 陝西督軍陳樹藩氏は王安福氏麾下の兵四千數州及萬縣より陝西湖北を迂回し一は竹谿(湖北)一は平利(陝西)より其先頭隊は既に鎮平(陝西)に入れりと報告せり。(二十二日、日日)

▲阿片案否決

(北京特電二十日發) 二十日參議院にては吳系議員(前伊太利公使)提出の阿片を買収しモルヒネを造り海外に輸出する建議案に對し反對起り議員廖壽生氏は同案は民國元年のヘーグ條約に反し民國三年のモルヒネ取締法に悖るものにして政府が阿片を買収し巨利を畫るとの浮説ある際かかる提案を爲し議院の威嚴を損さんとするは政府の大にあらずやと罵り同案は遂に否決されたり。(二十二日、日日)

▲民友系議員の消息

(上海特電二十日發) 民友社系の舊國會議員田朝郡呂等兩議員は發行中なり又呂公望は滬蘇に在り浙江軍に對し未だ北方に

加入せざる中に南軍に入るを勸告中なり何れ陳炯明の軍と行動を伴にす可しと。(二十三日、時事)

▲總統府衛隊編成 (二十一日北京特派員發) 徐世昌は第十六師中より四大隊を抜き總統府衛隊を編成することとなり從來海關の用ひし衛隊六大隊は江蘇に歸還し一混成旅團を編成すべしと。(二十三日、朝日)

▲石青陽氏も來着 (重慶特電二十日發) 三省聯合軍事會議に出席すべく四川第三師長陳洪第一總司令石青陽氏本日重慶衛兵一箇聯隊を率ゐて到着せり。(二十三日、日日)

▲南方派祝電の魁 (北京特電二十一日發) 廣東省長李耀漢氏(督軍莫榮新氏の反對者)は徐世昌氏に宛て大總統當選祝賀電報を發したり是れ南方よりの第一着の祝電なり。(二十三日、日日)

▲講和主張を求む (南京特電二十一日發) 曹錕氏の李純氏に送りたる電報に據れば此際須らく主和の主張を爲さんことを乞ひと。(二十三日、時事)

▲沿海州支那軍參謀長 (北京特電二十二日發) 二十一日附大總統令を以て嶺南西氏を沿海州派遣支那軍參謀長に任命せり。(二十三日、時事)

▲陸氏代表派遣條件 (二十一日北京特派員發) 徐世昌の内意を受けて在野某有力者が陸榮廷に對し商議の爲め代表者を上京せしむることを打電せしに對し陸榮廷より(一)代表者に全權を委ぬる事(二)代表者廣西出發と同時に戰線には停戦を命ずる事(三)代表者との議には軍の干渉を許さざる事の三條件を承諾せば適當なる代表者を送るべき旨返電し來れり。(二十三日、朝日)

▲津浦列車變はる (天津特電二十一日發) 十八日浦口發津浦線急行列車は山東省安城に於て匪賊に襲はれ戰時停車するの餘儀なきに至れり濟南代理督軍張樹元氏は急報に接し即時第五師團歩兵二營を特別列車にて同縣に派し匪軍を擊退したる爲め該列車は無事着車するを得たり翌十九日午後濟南に近き禹城桑梓店間に於て浦口發北京急行列車並に天津發上海行の郵便列車は一昨日天津を経て南下せる振武軍二營が匪賊と相合して通路二箇所を破壊せるが爲め又もや停車の止むなきに至れり尙ほ匪賊は勢益々猖獗にして

四箇所の停車場を占領し官兵と交戦中なり。(二十三日、時事)

▲康、徐の就任を戒む (上海特電二十一日發) 康有爲氏は徐世昌氏に打電して曰く公選ばれて人喜ぶあれども只公の位安からず蓋は以て其身を失ひ弊は以て其位を失ひ過は以て其名を損せり公に至つて益々難し公は佛蘭西のマクマホンの智を以て特に米國のリンコルンの時に當る一方分崩四郊累を多くし又外國の借款を爲す國亂れて民休む所なし今南方は認めず僅に一方のみの總統と爲る大艱難に際し何を以て後を圖らんとするか左右に如何なる人材を有し何の策あるや喜びを爲す可からずして憂ひを爲す可きにあらずや公新に大任に就かんとし擁びを呈して祝賀するもの多し故て三十年來の舊交を辿り空しく祝辭を呈するを爲さず只公之を認められんことを。(二十三日、時事)

▲孫文氏動かす (上海特電二十二日發) 當地にある孫逸仙氏に對し國會議員代表二名政務總裁として速に廣東に來らんことを請へるに尙病氣靜養の必要ありとて今同徐謙氏を其全權代表として廣東に赴かしむることとせり。(二十四日、日日)

▲西安陷落 (漢口特電二十二日發) 陝西省西安は十五日陝西軍副司令胡璣、郭堅、孔慶氏等に砲撃され十七日陷落し督軍陳樹藩氏は東方に向け遁走し奉天軍の援助を得て西安城の奪還を謀りつゝありと。(二十四日、日日)

▲徐氏唐紹儀に答ふ (二十二日北京特派員發) 日本滞在中の唐紹儀は徐世昌宛「外交上の確問題ある今日兵を動かして内争を事とせば國家の滅亡立地に至らん早く時局解決の方法を定め立國の途を立てよ」と打電し來れり徐世昌は之に對し早く國に歸り共に時局の解決に盡力ありたしと返電せり。(二十四日、朝日)

▲山東土匪討伐軍急派 (二十一日濟南特派員發) 山東の匪亂尙熾滅せず各地に蜂起せる時は袁州曹州膠州各地方は全く無警察狀態に陥り當局も兵力を以て討伐の無効なるを知り土匪の糧食を試みたるも却て最も有力なる鹽運使林萬城縣にて亂を爲し形勢重大となるより當地より大軍を急派し討伐に着手せり目下津浦線不通の狀態なり。(二十四日、朝日)

▲江西軍南軍と對峙 (二十三日上海特派員發) 丁汝衡、王餘慶の率ゐる江西軍に安徽省、安武軍の援助を得て三路に分れて攻撃に移らんとし南

軍は之が防禦陣地を配布し中央は大梅嶺左翼は仙人嶺、右翼は小梅嶺一帯に又別に一隊を梅嶺大路に配置し小梅嶺附近にて小戦闘日々に行はれつゝあり(二十五日、朝日)

▲山東の匪辭平定

(二十三日北京特派員發) 山東省禹城縣に於ける胡德麟の叛亂に對し張山東督軍は討伐隊(歩兵一營)を派遣し二十一日安城の東方にて胡德麟の率ある叛軍と官軍との間に戦闘あり土匪は敗れ西北方に逼れ土匪の死傷三百、降伏するもの六百に及びたり之に依り濟南以北の津浦線も二十二日開通するに至れり。(二十五日、朝日)

▲英字新聞發行

(香港特電二十四日發) 本日より廣東タイムス當地に於て新に發行さるべし同紙は支那人經營の英字紙なり。(二十六日、日日)

▲總統任期

(上海特電二十四日發) 二十四日廣東國會兩院會議にて總統の任期延期問題につき協議せり其理由は袁世凱洪憲皇帝たりし八十日を任期に加へ十月十日より八十日間(尙馮副總統が總統の職權を代行すべしといふ)にあり。(二十六日、日日)

▲國防籌備處

(北京特電二十三日發) 黑龍江督軍鮑貴卿氏は日支共同防禦實行の爲新に國防籌備處を設け滿洲里警備軍司令官張煥相氏をして同處長を兼ねしむることを電請せり。(二十六日、日日)

▲吳と岑と密約説

(二十四日北京特派員發) 吳佩孚は頗る主和的通電を發しつゝあるが岑春煊と吳佩孚との間に和議實現の後吳佩孚を湖南督軍に推薦する密約ありと。(二十六日、朝日)

▲王有潤重慶行

(上海特電二十三日發) 王有潤氏は二十二日重慶に向け出發す唐繼堯、熊克武氏等と會見す可し。(二十六日、時事)

▲吳氏頑然

(北京特電二十四日發) 吳佩孚氏の主和態度に對し陸祺瑞氏其他北洋派首領より此際停戦せば九仞の功を一簣に缺くを以て飽く迄討伐主義を實行し其目的を貫徹すべしと勸告頻りなるも吳氏は救國救民の爲所信を改めずとて之を肯する模様なしと。(二十六日、日日)

▲軍政府茶話會

(二十五日上海特派員發) 二十三日廣東軍政務總裁及び國會議員茶話會開催され四百餘名の議員出席せり岑春煊氏長演説を試み伍廷芳氏は左の四個の問題を提出して意見を徵せり。

一、徐世昌若し總統の職に就かば如何にして之に對すべきか

二、副總統問題を如何に處すべきか
三、若し徐世昌を承認せずば別に選舉を行ひて正式政府を改組すべきか如何

四、若し徐世昌を請はば如何に答ふべきか。(二十六日、朝日)

▲廣東省長更迭

(上海特電二十三日發) 李烈鈞氏は廣東軍政府の爲め廣東省長の職を罷められ顧汪代理省長となれり。(二十六日、時事)

▲唐繼堯氏の妥協條件

(北京特電二十四日發) 唐繼堯氏は學協條件として人を介し左の如き要求を提出せり。

- (第一)舊組織法に依り新國會を改選する事
- (第二)劉存厚を懲罰し熊克武を四川督軍に推す事
- (第三)帝敵反對軍費七百五十萬圓の内未拂の七百十萬圓を償還すること
- (第四)今同の舉兵に要せし軍費を中央政府にて負擔すること
- (第五)雲南軍二箇師團、貴州軍一箇師團を四川省に駐屯せしめ其經費を中央政府にて支拂すること。(二十六日、日日)

▲協力國難を救はん

(二十四日上海特派員發) 岑春煊、伍廷芳、陸榮廷、林葆懌は連名にて孫洪伊に打電して曰く

一書を辱ふし名論を承り甚だ感ず西南軍を起して以來國會恢復、約法維持に於て始終主張を未だ改めず停戰調和の説問々發生せんも法律問題は決して聊も移す能はず岑春煊職に就くの宣言、伍廷芳等護法の通電は一度ならず法律の正規内にて時局の解決を求め又天下の既に見る所最近政務會議非法選舉總統の通電に於て最も之を明かにす北方の軍人中吾等と聲を共にせんとするは既に示されたる所の如し此心志を同じくするを知らん我輩孤ならず望むらくは誠を推して相共にせんことを唯前途嶮多し浮説外部に動かしや努めて己が蒙る啓きて動かさるゝ勿れ力を盡せんを共に國難を救はん吾等敢て其力を盡し時局進行を爲すに努む幸に省察せよ。(二十六日、朝日)

▲勸告電報取次

(北京特電二十四日發) 二十一日吳佩孚氏は十六日發岑春煊、伍廷芳兩氏の電報を各省に取次げり其電文は徐世昌氏が時局紛糾の原因を究めざるを責め救國の方法は奉法守度の一言に盡く徐氏にして斷然非法國會の選舉を承認せざるを宣言すれば可なるに徒に奸人に遇らるゝを惜む其何れも名譽の軌道を逸する勿れと思告せるものなり。(二十七日、日日)

▲徐氏許世英を招く (二十四日北京特派員發) 徐世昌當選の時より各地の名士對時局策に關し具陳する者頗る多し其中に前副總督交通總長たりし許世英の意見に先づ北方を統一し進んで南北の統一を圖るにありとの趣旨徐氏の最も嘉納する所となり特に許世英の來京を促せりと許氏は今天津に在り。(二十七日、朝日)

▲行掛けの駄賃 (北京特電二十五日發) 八新聞社の封鎖は參戰督辦處の指導にして京師警備司令段芝貴氏は命を警察總監吳炳湘氏に傳へ二十四日午後新聞交通社及八新聞社に巡警を派し營業停止を命じ編輯人等十數名を拘引せり其名目は軍事上の機密を洩し外國の惡感を發し政府顧慮を企てたりと云ふに在り戒嚴令により處分を求め事態頗る重大疑獄をも起し兼まじき見事なりしも其後警察の態度も大に緩和され一應の取調となりたる後今朝午前一時頃新聞交通社を除くの外各社の關係者を釋放せしが新聞解禁の時期は不明なり今同罹災各社が凡て段内閣反對者なるは一奇となすべく一般輿論は段内閣が其最後にして於て宣世凱以上の言論壓迫をなせしに對し憤慨し寧ろ人心を失ふ愚策なりと評するもの多し。(二十七日、日)

▲李烈鈞氏の強硬意見 (上海特電二十五日發) 李烈鈞氏の時局に關する意見を聞くに北方が非法國會選舉を行ひ徐世昌亦依然總統就職を承認せるは南方に對する侮辱なりと共に南北妥協の前途に大妨害を與へたり斯かる際南北妥協の聲を聞くは意外なり南方は護法の目的以外情實を容るゝ餘地なし假りに今日姑息の妥協をなすも半年ならずして時局も再び紛糾せん刻下は所謂最後の五分時にして決して兵を解くべき時機にあらず北方は和平運動失敗後實を南方に據し主戰派恢復の機會を造り或は段祺瑞氏自ら陣頭に起つて南方壓迫に努力せんとするやも知れず戰國は南方の希望にあらずるも真正もの平和を得るか爲には飽くまで戰國を辭せず我等軍人は罷れて後已むの一途あるのみと因に露に軍政府會議にて軍政府の名を以て徐世昌氏の總統就職を止めんことを勸告せんとの説ありしが其際李烈鈞氏は之に反對し其非法行為たるは一般の知る所今や再び勸告の要なし又軍政府の名を以てするは不見識なりと主張し陸軍の代表郭松年氏、海軍の代表林葆懌氏は李烈鈞氏の説に同意し遂に岑春煊、伍廷芳兩氏の名にて個人的勸告に止めたるものなりと。(二十七日、日)

▲南方の妥協不應決議 (上海特電二十五日發) 廣東來電、參戰軍政府會議を開き講和主戰孰れに決すべきかにつき協議したる結果北方が誠意を以て南方護法の精神を容るゝまでは如何なる主和條件提出さるゝも之に應ぜず又南方は妥協に就き絶對に提議せず護法の目的を貫徹するまでは決して戰國を中止せざる旨決議し各軍司令官に通告せりと。(二十七日、日)

▲段氏の留任を望む (漢口特電二十四日發) 張作霖氏は王占元氏に打電して曰く徐世昌氏の位地は段祺瑞の輔佐あるにまらざれば之を維持し難し我等愛國者は段氏の留任に盡力せざる可からずと倪嗣冲よりの來電も亦同一の意を述へ且つ友人として吳佩孚氏の不法行為を中止せしむる方法を講ぜられたしと云へり。(二十八日、時事)

▲襄陽方面土匪猖獗 (漢口特電二十四日發) 襄陽樊城附近土匪猖獗なれば同方面の内地に邦人の旅行するは見合す可きやう交派員より領事館に通知し來れり。(二十八日、時事)

▲李純奉天軍阻止 (二十六日北京特派員發) 河南省信陽にて新に編成されたる奉天軍二個旅團は歸建救援の途天津浦口鐵道にて徐州の南方に達せしに李純は二十四日急に第六師團全部を揚子江北に出動せしめ之を邀撃すべく花旗營の鐵橋を破壊したり奉天軍は徐州に引返し今や對陣中なり。(二十八日、朝日)

▲教導團開處 (北京特電二十六日發) 參戰處の將校教導團にては講習學生十二名、步兵下士七名、騎砲兵各七十五名、輜重兵各二十五名を收容し十月初旬より開辦すべしと。(二十八日、日)

▲陝西土匪猖獗 (北京特電二十八日發) 王安瀾、黎天才兩氏の部下は四川、湖北邊界の土匪と合し陝西省平利縣を占領し雲南軍師團長葉盛氏は陝西省白河に向ひ進出せりとし報あり。(二十八日、日)

▲福建軍盛返す (北京特電二十六日發) 福建軍の嚴政平氏は二十日海澄縣を恢復し勝に樂じて漳州を襲ひ二十六日午後江東縣一帶を占領し數に多大の損害を與へたりとの報あり。(二十八日、日)

▲南京議和會反對 (南京特電二十四日發) 來寧中の段祺瑞代表は南京に於て議和會議開催に反對なるものゝ如く倪嗣冲代表と共に蚌埠に歸れり。(二十八日、時事)

▲廣東の外交事務

(上海特電二十六日發) 伍廷芳氏は西南諸省に通告して曰く軍政府既に成立し各省外交事件は軍政府外交部直接之を管理すと。(二十九日、時事)

▲五家裏に來廣を促す

(上海特電二十六日發) 軍政府は再び衆議院議長五家裏に對し廣東に來らんことを促せり。(二十九日、時事)

▲龍濟光軍南歸阻止

(二十六日上海特派員發) 龍濟光の募集せる新兵三營二十四日夜安徽省徐州を通過し南に連れんとし江蘇省中李純は之を防ぐ爲め二十二、二十三兩隊を派遣し之が爲め津浦鐵道一時不通となりしも安徽省軍院調冲、徐樹錚に打電して右龍濟光軍の前進を停め蚌埠に停まらしめ津浦鐵道は二十五日午後より再び開通せりといふ。(二十九日、朝日)

▲内務部長辭職

(香港特電二十六日發) 廣東軍政府内務部長は非常國會の反對の爲辭職し雲南に向へり内務次長冷道氏處理部長に任ぜられたり。(二十九日、朝日)

▲倪嗣冲辭表を出す

(二十六日南京特派員發) 安徽省軍院調冲は其後の病勢變化なきも常に病床にある身を懸念しつゝある機嫌なり加之昨今時局に對し不平を抱き中央に辭表を提出せりと南京第十六師品王廷植父之が後任の目的を以て二十四日蚌埠に向へり。(二十九日、朝日)

▲南軍兵備に努む

(漢口特電二十五日發) 南軍は其勢力範圍たる湖北六縣の財政本部を利川縣に置き銅錢を鑄造し軍票を發行し又稅務署鹽稅局を設け軍費供給機關とし兵を得らるゝ限り募集し居れり(二十九日、時事)

▲南方議和賛否あり

(上海特電二十五日發) 軍政府政務會議にては岑春煊氏議和を主張し李烈鈞氏は反對せるが其儘議決に至らず。(三十日、時事)

▲南方原内閣を喜ぶ

(上海特電二十七日發) 孫逸仙、孫洪伊氏等は原内閣の成立が日本憲政の大進歩にして南方護法派と共鳴する所深く今後の對支方針に何等かの變化を見るべしと觀察しつゝあるも官僚派が原氏の對支方針を妨げざるやを疑へり原氏は唐紹儀氏と交情親密なれば之が爲南方派は何等かの便宜を得べしと期待し居れり。(三十日、朝日)

▲張巡閱使我軍を稿ふ

(二十六日奉天特派員發) 張山東省巡閱使は奉天清室の義軍に對し食牛四十頭、煙草十箱金額にして約そ四千圓の物

を贈る前觸ありしが二十六日之を贈り來れり恰も日支兵衝突ありし翌日の事として我が抗議を和ぐる策なりと評判され居れり。(三十日、朝日)

▲徐世昌氏に謁見す

(北京特電二十六日發) 予特派員は二十六日午後新總統徐世昌氏に謁見せり予は同五時氏の私邸に至れるに大禮官黃海文氏等の招待を受け待つ事暫くにして導かれて大總統の接見室に入るや支那の徐總統は握手をなし内卓を圍み予の祝詞に對して其厚意を謝し總統に當選し未だ就任せざるも就任の上は平和の目的を達せんことを誓むと前提し予は民間に在りし時より日支親善に力を盡せり就任の上は一層此目的に努力する覺悟なるが親善とは單に國家政府間との親善を指すものにあらず人民と人民との親善を計らざる可からず今日日本の輿論を代表する貴紙の代表者たる足下との會見は深く喜ぶ所なり願はくは其天職を以て輿論を指導し此目的に副はんことを切望す更に將來の方針に就ては無論統一平和を希望す開誠敷行を以て其決心を達ぐる決心なるが具體的方法に至つては就任後にあらざれば確定せざるも由來支那三千年の歴史は平和を愛好する國民なることを證するも現に南北の間には一箇の誤解ありて時局紛糾しつゝあり面も南方には平和を希望する者乏しからず南北の關係は複雜を極め居るも誠心誠意事に當らば時局解決の方法なきにあらず

と堅き決心を眉宇の間に溢らせ數年前大連にて故桂侯後藤男と會見せる往年を追憶し其時病氣の爲日本漫遊の志を遂げざりしは遺憾なりと打寛きたる談和をなしたる後茶菓の饗應あり會談十分にて辭去せり新總統は觀望を來ふるも頗る健康の體に見受けられ統一平和を嚆矢せらるゝ元首として立派なる威容と優れたる應接振りを示せり。(三十日、朝日)

財政關係

▲軍政府軍債發行否認

(十四日香港特派員發) 廣東軍政府は軍事公債千五百萬元の發行を否認せり。(十八日、朝日)

▲陝西借款

(北京特電十七日發) 日本の実資本國と陝西督軍陳樹藩氏との間に銅貨鑄造局及紡紗局新設の爲四百萬圓の借款成立せるが期限は六

年にして据置二箇年利子八分擔保は鑄造局及紡紗局の財産なり。(二十日、日)

▲借款抗議

(北京特電十九日發) 支那政府は臺灣銀行と廣東軍政府との間に煙酒税を擔保として五十萬圓の借款成立せりとの報に對し煙酒税は中央政府の收入なれば之を承認する能はざる旨日本政府に抗議したり。(二十一日、日)

▲川粵借款

(上海特電二十日發) 北京財政部は蕭天佑氏を米國に派し川漢粵漢鐵路借款に就き協議せしむべしと。(二十二日、日)

▲日支小借款

(北京特電二十一日發) 山東省財政廳と中日實業公司との間に左の小借款成立せり。

金額三百五十萬圓(內滿期となる借款百五十萬圓を差引く)利子(年六分)期限(六箇月)擔保(前借款の擔保たる登記税及地方税三種と國庫債券)二十四日、日)

▲銀行團の決議

(上海特電二十三日發) 北京銀行團は支那新內閣成立し南北妥協の成る迄借款の交渉を一切停止すべく決議せりと。(二十四日、日)

▲南軍財政本部

(漢口特電二十四日發) 南軍は其勢力範圍たる湖北六縣の財政本部を利川縣に置き銅錢及軍票を發行し又政務所鹽稅局を設け軍費供給機關とし極力寡々に努め居れり。(二十七日、日)

▲軍器借款成立說

(二十三日北京特派員發) 亞東通信の報に據れば支那陸軍部と太平組合との間に二千萬元の軍器借款成立し其條件期限二箇年利率年七分。(二十七日、朝日)

▲金銀禁輸同意

(北京特電二十六日發) 佛國及露國は支那政府の金銀輸出禁止に賛成せり。(二十九日、日)

經濟關係及其他

▲武長鐵道開放

武昌長沙間鐵道は竣工後全く軍用にのみ使用せられ普通客車の運轉を開始するに至らざりしが九月十六日より毎日一同公衆の

爲直通列車を發車することに決せり。(漢口漢川總領事發十七日、日)

▲四鄭鐵道開通式

(四平街特電十六日發) 四鄭鐵道開通式は十五日四平街鐵路總局にて舉行來賓約一千名交通部總長曹汝霖、同次長葉恭綽の挨拶(代讀)漢鐵路局長の挨拶藤枝技師は竹中運輸課長の報告國澤滿鐵理事員の祝辭等あり廣局長の答辭に式畢つて宴に移り日支蒙古人の各種餘興あり四平街空前の盛況を極めたるが來賓には局員接待四鄭間を往復説明せり。(十八日、日)

▲郵船船腹準備

(漢口特電十九日發) 郵船會社にては同地輸出に對し努めて荷主等の要求を充すだけの船腹を準備すべき旨を回答せり。(二十一日、日)

▲安東附近農作

(安東縣特電十八日發) 東遼道管内の農作物は真好にして米、粟、高粱、大豆、小豆皆豐作なり支那農民は何れも歡喜し觀望を張るもの多し。(二十一日、時事)

▲運河技師僱聘

(上海特電二十日發) 會て紹興州運河及巴察馬運河に技師たりしジョセフ・ラブレ氏は米國インスター・ナショナル・コーポレーションの手を経て支那政府に僱聘せられ運河工事に就き調査をなすべく既に南京より十七日北京に向へり南京にては南京大學の氣象臺を檢査したり。(二十二日、日)

▲商銀組織通電

(上海特電二十一日發) 天津の商會聯合會は全國商業銀行を組織するに決し各省商會に通電を發せり。(二十三日、日)

▲外人團體活動

(上海特電二十二日發) 米國商業會議所は當地の各國商業團首にあて書面を送り聯盟國商業團體として支那全國を通じ協同の利益を進むる爲具體的の案を立つるの要あるに付先づ各團體より成立する聯合協會を組織し右會員には支那にある各聯盟團體の會員を網羅し先上海より之を始むべく貴團體の賛成を求むると共に各團體より委員を出し上海にて協議會を開き度し云々との事を以てせり。(二十四日、日)

▲米輸出の質問

(北京特電二十一日發) 衆議院議員鮑宗漢氏(江蘇派)外五十三名は日本に江蘇米を輸出するは隣誼の上より又過剩米を賣り農民を利する點より見て不可なきも實際は奸商の買占により米價騰貴し農民利せず細民害を受く且輸出免許税を以て特別收入として他年の饑饉に備へ

ざるべからず然るに政府未だ之を許可せざる以前既に百萬石を密輸出せるものありと聞く果して然らば輸出額は何程にして何人の取扱にかゝり何處より許可書を與へしや且特別輸出免許税を納入せしや其用途如何との質問書を提出せり。(二十四日、日日)

▲紙幣下落調査

(北京特電二十四日發) 二十四日の衆議院に於て

一議員より中國、交通兩銀行紙幣の逐次下落するは兩銀行内に不正の行爲あるが爲にあらざるか其原因を調査する爲三十名の特別委員に付託し財政總長曹汝霖氏の出席を求めて其説明を聽取すべしとの緊急動議を提出し異議なく成立せり因に同日の兩銀行紙幣相場は洋貨四角二仙なり。(二十六日、日日)

▲山東麥解禁

(二十五日北京特派員發) 日本より支那當局に向け本

秋山東省の麥及麥粉の輸出解禁方交渉中なりし所支那政府にても同地本年の麥作非常の豐作なりしに依り十萬噸を限り許可することに決し其旨回答し來れり。(二十六日、朝日)

▲對支投資團

(桑港特電二十六日發) 米國富豪等合同して支那に一

大シンジケートを興し製材事業に徒事すべくロビンソン氏之が總裁たるべしと。(二十八日、日日)

▲長沙民の困苦

(長沙特電二十五日發) 紙幣の價格益々暴落し物

價は五六割の騰貴を告げ加ふるに長沙附近に於ても土匪及軍隊の掠奪に遭ふもの多く人民の困憊非常にして何れも吳佩孚氏の妥協案の成立を翹望し居れり。(二十七日、日日)



支那

第九卷 第二十一號

要目

論說	支那幣制改革の根本障害……………一—四
資料	殖邊銀行事情(下)……………五一—三 支那に於ける租借地研究(二)……………一四—八 英人の見たる最近支那貿易事情一九—二二 滬寧鐵道營業成績……………二二—二四 支那に於ける蒙古利人と獨逸人(四)二五—三〇
雜錄	湖南省兵燹被害民の救濟法……………三一
彙錄	京漢線の成績……………三一—三二 粵漢鐵道武昌長沙線……………三二
事業界	支那事業界近況……………三三—三六
半月史	半月間の支那重要事件……………三五—四〇
時報	支那最近時事要項……………四一—四六
彙報	支那關係諸報道……………四七—五八

東亞同文會調查編纂部

支店出張所



支店出張所

株式會社

臺灣銀行
(北臺)

歐米	南洋	支那	
倫敦	孟買 新嘉坡	厦門	上海
紐育	スラバヤ スマラン バタビヤ	汕頭	九江
		香港	漢口
		廣東	福州

内地	臺灣	
神戶	宜蘭	基隆
大阪	淡水	臺中
橫濱	新竹	嘉義
東京	桃園	臺南
	澎湖島	打狗

TRADE

MARK

PATENT "Kamenoko Tawashi"

An Ideal Scrubbing Brush

Sell It from Today and
Increase Your Profit!

Cleaning a pan with

"Kamenoko-Tawashi"



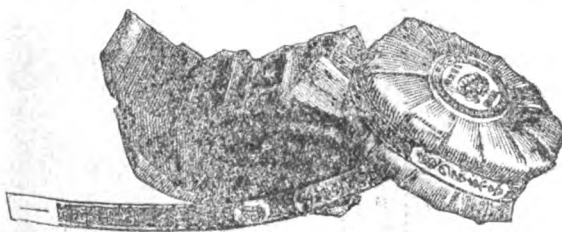
FACTS

SIMPLEST IS THE BEST is only applicable to the Patent "**KAMENOKO-TAWASHI**"—made of two materials—fibres stitched with wire—so is cheap—strong—fibres never come off—scarcely wears out—both sides used to the last piece—fit for washing anything. Homes or factories can't do without it even for a day.

Already is exported in large quantities to many foreign countries.

Write for samples and prices at once

OVERSEA ORDERS RECEIVE PROMPT ATTENTION.



Shows fully wrapped in paper and labelled, thus perfectly keeping it from dirt, so is sanitary, and attractive, and convenient to handle.

SIZES:

- No. 1. 4.2" x 2.8"
- No. 2. 4.8" x 3.0"
- No. 3. 5.4" x 3.3"
- No. 4. 6.6" x 3.6"
- No. 5. 7.8" x 4.2"

Sole Manufacturers:

NISHIO - SHOTEN

37, Masago-cho, Hongo-ku,
TOKYO, JAPAN

BEWARE OF IMITATIONS



菱印硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式会社

第一工場 兵庫縣尼崎
第二工場 福岡縣戸畑
第三工場 神奈川鶴見
第四工場 福岡縣枝光
煉瓦工場 兵庫縣尼崎
曹達工場 福岡縣戸畑

東亞同文會調查編纂部編纂

再訂 支那全圖

縱五尺一寸 横四尺四寸 七色刷映入

大正七年版

定價貳圓也

郵稅(内地八錢 海外三十錢)

東京赤坂溜池二番地

發行所

東亞同文會調查編纂部



大正七年十一月一日

第九卷 第十二號



○支那幣制改革の根本障礙

一

支那政府は、八月十日大總統敕令第三十三號を以て、金券條例及び金券發行に伴ふ幣制局官制を發布したり。今其條例を見るに吾人の所説と相距ること遠からず、之を從來の銀元本位説、又は金爲替本位論と比較するに、確に一進歩を示し、之を實施するも差支を生ずることなく、支那幣制改革上有効なるものなりしに拘らず、五國財團上海商務總會を始めとし、内外官民の間に劇烈なる反對を惹起し、果して之を實施し得るや否や疑問あるに及びたり。支那の經濟上財政上最も緊要なる幣制改革の大業が、立案の不備に基かすして、内外政略上及之と類似の事由に依り、實行することを得ざるは遺憾なりと謂ふべし。

二

五國財團の反對する理由は、支那政府が五國財團に何等相談することなく、該財團を出抜き、金券條例を發布したりと謂ふにあり。支那政府が清末五國財團の前身たる四國財團と幣制借款契約を締結し、該契約に基き、幣制改革顧問を招聘し、革命亂後該借款を五國財團の權利に繰込み、昨年更らに財團に對し改革資金として二億圓の融通を申込みながら、突然金券條例を發布し、借款と幣制改革とを分離せんと試みたるは、舊誼を没却せる嫌あるを免れず、五國財團の抗議を提起せるは、當然なりと謂ふべし。然るに支那政府が辭を左右に託し、動もすれば自己の非行を是認せしめんと試むるは、無誠意の護りを甘受せざるべからず五國財團の行動に對しては、吾人が同意する所なるも、若し其支那政府の無誠意を咎むるに急にして、金券條例の根本的趣旨まで全然破壊せんと努むるが如きことあらんか、吾人の賛成する能はざる所なり。

三

上海商業會議所を始め、支那官民の金券條例に反對する理由は、其經濟的財政的缺陷あることを認識したるよりも

寧ろ彼等の所謂利權の某國人の手に歸することを猜忌したるに依るもの、如し。支那が自己の力を以て、幣制改革の大業を成就すること能はず、之を成就せんには外國より資金を輸入し、顧問を招聘せざるべからざるは、天下の齊しく認むる所たり。外國の資力に待たんに、其資力を仰ぎたる外國の勢力幾分支那に加はるは已むを得ざることにして、要は幣制改革の大業成就する利益と、外國の勢力加はる弊害とを比較し、決定せらるべき問題にして、單に利權の外溢を疑惧し、反對すべきにあらざるべし。金券條例實施の爲め、如何なる利權外國に溢出すべきや、條例を一見せし丈にて之を判斷すること能はざるが、幣制改革の大業成就と比較すれば、殆んど言ふに足らざるものたるや明なり。然るに、彼等が徒らに反對を事とするは、幣制改革に對し、誠意を缺くの致す所にあらざる乎。

四

一九〇二年より三年に亘り、日英米の諸國が支那と通商條約を締結せし際、條約内に幣制改革の一項を挿入せしより今日に至る十有六年、支那政府は調査に尋ぐに調査を以

てし、決議を申ねるに決議を以てし、改革の法令の發布せらるゝもの三たびなるに拘らず、實行上何等觀るべきある能はず、何ぞや。支那官民の幣制改革に對し誠意を缺如すること重要な原因たらずんばあらざるなり。支那幣制改革顧問「ウキセリシング」氏は、其幣制改革意見書の劈頭に、莊重嚴肅なる態度を以て、幣制改革には官民の誠意を必要とすることを力説したり、然るに、彼等の多くは痛切に幣制の改革の必要を感せず、反て本問題を以て上叙の如く政略問題に利用するのみならず、往々幣制の紊亂に乘じ、私利を營まんとするものさへ存するなり。支那内地に於ける住民は生活簡易にして、慣習に従ひ銀銅二三種乃至數種を使用し、殊に數百年來の惡幣制に慣れ居れば、現制度の改革を叫ぶもの鮮く、小都會より大都會に至るに従ひ、流通する貨幣の種類と空單位と漸次複雑に赴き、一般人民も亦次第に不便を感ずるに至るべきも、錢莊、銀爐、公估局、票莊等は幣制の紊亂に依り、利益を博すること少なからず、錢莊時として大商店か、銀錢票其他の手形を發行し、營利の源と爲すものなれば、幣制の改革は其營業に打撃を與ふること少なからざるに依り、概ね幣制の改革を喜ばず、而め督軍以下大小の地方官は、幣制の統一せざることを奇貨とし、銀錢交換比例を市價と相違せしめ、其差額を私し來りたるものなるに依り、是れ亦其改革を好まざるなり。其

眞に幣制改革を希望するものを求めば、恐らく一部の有識者と銀價の劇變に依り外債を募集し又は賠償金外債元利を支拂ふ際、非常の苦痛を覺ゆる財務當局者にあらざるなき乎。されば、一旦銀價にして平正に歸せんか、財務當局者は復た舊の如く幣制改革に熱心ならざるなり。彼等が數々幣制借款を五國財團に申込むの動機を察するに、幣制改革を名とし、財政缺陷を補填せんとするの小策にあらずやと疑はれざるにあらず。幣制改革の高唱せらるゝに拘らず、其實行の伴はざる誠に理由ありと謂ふべき也。

五

幣制改革に關し支那官民に誠意乏しきのみならず、支那通の外國商人及銀行も亦必ずしも誠意を有せざるなり。彼等は支那の通貨に關し、相當の智識を具ふるのみならず、銀價の變動に對し、數十年の經驗を積めるに依り、支那内地に入り自由に支那人と取引し、銀塊相場の変化に應じ、巧みに利益を博し、支那事情に通ぜざるものをして手を措く所なからしむ。若し一朝幣制にして改革せられんには、彼等の有する智識經驗は無効に歸するを以て、彼等は幣制の改革を喜ばず、假令幣制の改革に賛成するものも、銀貨本位を維持せんことを希望す、又英米兩國は、或は印度に鉅億の銀を蓄積するに依り、或は本國に鉅億の銀を生産する

に依り、支那をして銀を購買せしめ、金を自國に抱藏せんと企て、支那の金貨本位を採用することを好まず、往々銀本位論を唱へ、銀本位を排するもの亦、金爲替本位論を唱ふ。平生支那指導を以て自ら任ずるもの、態度斯の如し、支那幣制改革の功擧らざること、當然なりと謂ふべきなり

六

抑も支那が銀を以て主要なる通貨と爲し、其幣制紊亂するが爲め、内外官民の被むるべき損失枚擧するに遑あらず即ち支那の各種の通貨の價格は、之に對する需要の多少と、其含有する地金の市價の高低に依り、絶へず變動し、之が爲め物價は常に不確實にして、取引も亦危險を含めり。殊に金銀市價の變動は、對外貿易をして悉く投機の性質を佩びしめ、確實を旨とする外商は、已むを得ず金貨を以て買賣契約を結び、銀貨變動の危險を支那商に轉嫁せんと試むるに依り、一朝銀價の激變あらんか、資本の乏しき支那商人は、乍ち破産の厄に陥るべし。鉅億の外債を負擔し、將來尙は鉅億の外資を輸入し、財政の整理を計らざるべからざる支那政府は、外債を借り入るゝ際少額の金を受取り、之を支拂ふ際多額の金を引渡し、徒らに外國銀行をして囊裡を充たしめ、國民に莫大の損失を被らしめつゝあり。又一般外國人は、支那の通貨と爲替相場に對する智識乏しきによ

り、安心して支那に投資すること能はず、資本の乏しき日本商人の如きは、企業上の過失に依らず、銀塊相場の激變のみに依り、鉅額の損失を被むり、數十年間の辛苦を水泡に歸せしむるもの少なからず、支那幣制の改革の眞に急務にして、一部支那に通ずる外國人又は支那地方官錢莊の利益の爲め、決して忽諸に附すべきものにあらざるを見るなり。然るに上叙の情實に依り、幣制改革の進展することなきは遺憾なりと謂ふべし。

七

今回我邦の對支政策を變更し、新に支那事情に精通し公明正大なる小幡氏を公使に任命し、政府の所信を斷行せしめんとしつゝあり。吾人の寡聞なる、小幡公使が、何の成竹ありて、支那に赴任するやを詳にせざるも、從來の弊習を一洗し、日支兩國國民の期待に副はんことを希望せざるを得ず。支那幣制改革の如きは、之を南北妥協の如き當面の問題と比較すれば、往々不急の問題として高閣に束ねらるるを免れざるべきも、其日支兩國國民に與ふる影響量り知るべからざるもの存すれば、小幡公使が大に之に留意し、内外民多數の利益の爲め、公平なる處置を採り、成るべく速かに之を成就せんことを要望せんと欲するなり。



資料



殖邊銀行事情 (下)

營業狀況

本行は營業開始以來滿洲方面に頻に發展を來し、支店を設け紙幣を發行し、一時大に盛なりき、今參考の爲同行支店出張所所在地及其開設日期を示せば次の如し。

殖邊銀行各分支行處所開幕日期

名 稱	開 幕 日 期
北 京 分 行	三年十一月二十二日
奉 天 分 行	四年三月二十九日
哈爾濱分行	四年四月十二日
天 津 分 行	四年八月十一日
張家口分行	四年九月五日
上 海 分 行	三年十二月六日
漢 口 分 行	四年三月一日

成 都 分 行	四年一月一日
雲 南 分 行	四年七月二十日
長 春 分 行	四年十一月八日
通 化 分 行	四年十一月十五日
汕 頭 分 行	四年九月廿六日
多 倫 支 行	四年七月廿三日
杭 州 支 行	四年三月十五日
沙 市 支 行	五年二月九日
宜 昌 支 行	六年三月
重 慶 支 行	四年九月九日
吉 林 支 行	四年八月三十日
塔 城 支 行	四年八月二日
鐵嶺派辦處	四年十一月廿七日
西安派辦處	四年十二月十六日

開原派辦處	四年十二月二十六日
昌圖派辦處	四年十一月二十七日
遼源派辦處	五年三月六日
洮南派辦處	五年三月十三日
朝陽鎮派辦處	六年六月十九日
營口派辦處	六年一月十日
山城派辦處	五年七月一日
呼蘭派辦處	四年九月十三日
寧安派辦處	四年九月十七日
綏化派辦處	五年四月三日
雙城派辦處	五年二月十八日
三姓派辦處	五年十一月二十五日
略什喀派辦處	五年元月
天問派辦處	六年一月一日
自流井派辦處	四年三月
延吉派辦處	六年三月十八日
伊通派辦處	六年二月一日
海龍營業所	五年十一月十四日
東豐營業所	六年一月一日

錦縣營業所	六年一月七日
西豐營業所	六年一月四日
遼陽營業所	六年二月四日
同江口營業所	六年四月二十三日
遼中縣營業所	六年六月十日
興京營業所	六年五月二十三日
山海關營業所	五年七月五日
海倫營業所	五年八月六日
齊齊哈爾營業所	五年九月
阿什河營業所	六年四月十日
慶城營業所	六年六月三十日
保定營業所	六年三月二十八日
四平街營業所	五年十月十八日
公主嶺營業所	四年十二月
留守營業所	
輝南營業所	六年十月十日

而して同行營業成績は時に盛衰あり、相當の利益を擧げたる營業期もあり、今各支店について擧げたる其歷年の收支表次の如し。

殖邊銀行各行歷期損益表

行名	期別		損益		損益		損益		損益		損益	
	損	益	損	益	損	益	損	益	損	益	損	益
	四年	上期	四年	下期	五年	上期	五年	下期	六年	上期		

總管理處	六五八九		五六、一四三三	三九、六九、九〇	二、五九九、三三	一九、四八、二八
北京分行	二、三三八、九四		二、八三、〇七	九三、九四、八一	三、七四五、六二	六、四一五、八九
奉天分行	五、七三、八九	一七、〇五一、八九		六〇、八二六、九〇		二六、一七四、三三
哈爾濱分行	二、六六六、五九		四四、九八〇、〇八	一五、六七三、八七	二、八四三、七四	七四、五二七、五六
張家口分行	一、七三、八八	八、〇一八、七〇		一一、七三、六〇	一一、六九三、一〇	一六、九九六、九六
上海分行		九四二、三六	一三、一五七、二三			
杭州支店	三、一〇八、六六	四、一七〇、九三		五、八〇四、一〇	三、九九九、六四	四〇〇六八、五三
漢口分行	一、六〇五、二一	一四、八三、六〇		四四、八八、一四	一七、四六三、一三	一九、二四八、五九
成都分行		六〇、七七三、九四	一、三三五、六五	二、三六六、八〇		
天津分行		七、九六、四七		一〇、八九九、一七	一三、六五七、六二	二四、七八三、三二
昌圖派辦處			四二九、六九	五、五九	一〇、六七九、八九	五、八七〇、六一
開原派辦處			七四二、二四	六五四、〇四	六、五九九、九二	二、五二六、五五
西安派辦處			一、七二八、四六	三九五、三一	九、八三九、一四	一、六〇七、〇六
鐵嶺派辦處			三〇四、三〇	三三六、六二	七、六一九、四四	二〇、九二一、〇一
呼蘭派辦處			一、八四三、二〇	一八一、七二	九、七〇三、〇六	一三、三六九、一〇
寧安派辦處			一七五、四一	三、〇六九、三二	六、九三三、四七	一〇、八六一、一六
長春分行			二、六九一、七九	四〇、九七〇、二二	六、七四八、六七	二三、〇五七、五八

吉林分行							八、七四八、〇八			四一、四六四、七二			八、六五〇、三二			四、八八五、五四
多倫支行							三、六三三、三三			一、六六一、〇三			二、三二五、二五			三、七〇五、〇五
獨石口派辦處							七、四六六			一、一九四、六四			五、〇〇九、五			
重慶支行								二、〇二〇、四三			一、五七二、六三		一、一六五、一三			
沙市支行								七、六五四		六、九八二、三六			一、三〇五、六〇			五、二五、九二
雲南分行								六、六七五		三、四九一、九九						七、四一、九八
汕頭分行							六、五六四、二七			二、〇二一、三九			七、〇八五、六三			
豐鎮派辦處									一、〇九五、八八			二、一八六、〇八				
遼源派辦處										一、六四四、四二						一〇、七八一、一一
洮南派辦處										三、一四三、〇九						七、七七〇、四四
綏化派辦處										一、三八七、七四						二、五五八、六六
雙城派辦處										一、九三、四六						七、四二一、五七
迪化分行										三、三二二、二七			五、五二七、九六			
山城派辦處																
三姓派辦處																
齊齊哈爾營業所													二、八三三、四三			六、六二一、八四
保定營業所													三、四三三、三二			一、二九八、四四
																一、三二九、一四

資 產 負 債 表 (民國六年六月三十日)

負 債		資 產	
	債		產
資本總額	一、七三〇、五二一、六四	定期貸金	一、二三三、二七六、八七
定期預金	八七、六二八、〇九	定期抵當貸	一、二八四、一五一、七七
當座預金	七〇九、五五九、二四	現金	七九、五九〇、〇〇
特別當座預金	一六七、二一〇、九二	當座預金	五三五、七四一、五三
定期貯蓄預金	五六〇、〇〇	他行當座預金	一、三八五、九四一、七四
當座貯蓄預金	一四一、七〇	抵當貸	九、三三四、五九
預金證書	七四八、五七三、七四	定期爲替	二、一〇〇、〇〇
通知預金	五〇、八三四、六一	買入證書	九七二、〇三
臨時預金	二、〇三三、五一八、三六	督促金	二七一、五七八、五七
爲替	六八、六八六、七六	暫時缺損金	四三三、八三二、五九
借入金	二〇、一三六、三七	兌換券製造費	二一四、六一七、九二
他銀行當座	二〇八、二〇三、六五	開業費	一三三、五九五、六四
行員報酬	二、三四九、七九	所有物	一九七、三二七、八二
行員報酬未拂金	九、五七九、七三	有價證券	一、〇五八、五一九、六三
行員貯蓄金	三、六六九、九五	外國貨幣	六六、二〇一、九九
兌換券發行額	四、八四七、〇三〇、五七	沒收抵當物	一、九一五、一七
兌換券發行準備金	二三四、〇九五、三五	兌換券準備金	二、八七〇、二八八、八〇
他行預金	四、〇一六、五八	兌換券準備金	三三八、二六二、〇二
法定積立金	二二、五六六、二九	本支店本年上半年損益	二二三、二三〇、五二
支店前期總損益	四二、七二〇、三五	支店	一、四六七、二七二、五五
本店勘定	九〇四、六五九、二六	出張所	一、二八〇、四〇二、六四

管内支店勘定
保 證 金
純 益
總 計

九六八、三九六、二六
一、三三三、八一二、五八
一一七、五四七、三六
一四、三一六、〇一九、一五

地 金 銀
現 金
未 拂 金
營 業 所
總 計

八七、二〇六、二五
一、〇九一、七五八、〇七
二六、〇九〇、七四
二二、八〇九、七〇
一四、三一六、〇一九、一五

同行上海支店員は支店員中私曲を圖りしものありて信用墜落し、遂に民國五年五月十一日取付に遭ひたるが、資金乏しく預金の拂戻及紙幣の兌換に應ずる能はず、一時營業を停止して、破産状態に陥れるが、民國六年九月に至り同行債權者等は緩漫の手段を以ては、到底其目的を達し得ざるを覺り此に債主聯合會なるものを組織すると共に、其事務所を設け、法律高等顧問を聘し、活躍をなすに至れるが、其章程左の如し

一、同志の聯合を以て殖邊銀行をして一日も早く其發行紙幣の回收、預金の返還を行はしむるを以て目的とす

二、殖邊紙幣及預證又は預金通帳を有するものは金額の多寡を論せず須らく常事務所に届け出づべく其手数料一元を申受く

三、本會は米國「マツシユ」大律師を債權者代表となし財政部並に殖邊總管理處に對し正式法律に依り交渉を嚴行す

四、本會一切の經費は入會手数料にて不足の場合は發起人に於て之を代辦す

五、入會したる者は其所有の紙幣、預金帳、預證を携帯し

來りて其の檢證を受くべし若し之を持ち歸らんと欲するものは會の許可を受くべし

六、本會大會の際に總代表一人、副代表一人、辦事員七人を選挙し常に輪番を以て會務を辦理す

七、本會は毎日曜事務所に於て常會を開き、特別會議を開くのある時は豫め通知を發す

八、入會者は必ず團結を固ふし共に進行の法を研究し決して自棄觀望其權利を失ふが如き事あるべからず

九、本會事務所を英租界麥家園交通路の中市に置く

十、以上章程の不備なるものは隨時之を修正す

然るに其後に至るも毫も整理の實なく、且紙幣の回收、預金の拂戻なきより、組合は遂に會審衙門に破産の宣告を申請するに至り目下係争中なるが、これと共に其他の支店の營業にも影響し、各地の營業共に不振なり、從て最近に至り同行關係者は之れが整理發展を策し、周學淵を以て其總理となし、新に新株二百萬元を募集し、且又農商部が設立の始官株七十萬元を引受けて、現金を拂込まずして、僅に漢冶萍株式を以て之れが擔保に供し居れるを改めて、現金を拂込ましむる事とし、以て其營業を回復振興せしめん

としつゝあり、右につき周總理が民國七年一月國務院に提出したる處の呈文次の如し

竊かに査するに殖邊銀行は上海停業より以來、信用墜落せり、滬行失敗の原因を細考するに營業の虧損にあらずして、實は經理人の準備金を私消し、自利を希圖し卒に盈を求めて反て細するに至り、行務を牽動したるによる、茲より以後銀行の威信既に失し、自ら充分の統一能力なく、各分行人自ら財をなし、運轉靈ならず、即ち一に補救の方あるも、要は皆枝節のものにして終に全局統籌の計劃なし、學淵(代理總理)株主の推任を経て後詳細に該行全部の内容を考察するに入手の方法なし、首として先づ各分行報告の表等を根據として該行發行紙幣額並に準備金數目、各分行營業狀況を分別整理し、即ち員を派して各地に赴かしめ各分行實在情形と各種帳冊表單とを相互印證考査せしめしに、上海一行債務最も多く、貸借の差引き、總ての支拂金手形各項尙銀元一百五十萬元内外を要す、之れ即ち虧損の數にして、其餘の北京、張家口天津、漢口、新疆諸分行の如き或は利益あるあり或は少く損失あるあり、均しく大患なし

凡て銀行の危險を生ずるは、往々營業發達の時に於てす以上諸行或は既に停業を経、或は停業せるに似て未だ停業せず、虧損あるものは皆顯はれて見易く、法を設けて整理するに難からず、惟に東三省三處分行は、營業範圍頗る廣く、紙幣流通數目亦鉅に、若し不慎あれば危險大なり、今既に整頓に従事せんと欲するに於ては、三省各

分行に對しては、理宜しく特別注意すべきなり、故に此次實際を調査するにも、三省諸行には偏重ならざるなり査するに長春、奉天、哈爾濱二處分行は成績長春分行を以て最良となし、奉天之次ぎ、哈爾濱又之れに次で、以上三行發行の紙幣五百四十七萬餘元、庫存準備金二百十二萬餘元、定期貸付金九十七萬餘元、定期抵當貸付金四十四萬餘元、當座預金の貸殘三十一萬餘元、他行貸殘十四萬餘元、催收二萬餘元、暫記二十三萬餘元にして、以上各款を綜合するに分別割引をなし、損失を五十六萬元内外とするも、別に清單の査すべきあり、此項の割引損失は假に多額に見積りたるものにして、將來清算後實際上の損失は尙斯の如く多額ならざるべく、現在全部を通して計算するに、官商資本百八十萬元あり、而して上海の實際損失百五十萬元、三省各行假定損失五十餘萬元、其餘各行小損失計二十萬元とし、該行の負ふ資本債務計四百萬元あり、誠に能く新株二百萬元を増募し、再び舊株主をして、株式に應せしめ、從來の株數に按して負擔せしめば、忽にして滿株となるべく、然らば則ち増資當に三百萬元の外にあるべし、再び滬行債務を各戸に商明し、滬行を繼續存在せしめ、緩に従つて分期支拂をなさしめば、欠損額既に着落あり、活動資金亦周轉に足るべく、之れより實心整理せば尙爲すあるべし

夫れ銀行整理方法の要點は、一は勢を得るなり、二は資を得るなり、三は人を得るなり、四は法を得るなり、殖邊銀行の失敗は主として用人を得ざるにより、遂に資本の

喪失を致し、勢之れによりて去り、法亦行はれざる所ありしによるなり、今學淵既に經理を擔任し全局の利弊已に梗概を得たり、一面法を設けて新資を商添し、各方面新株に應せんとするもの頗る人に乏しからず、豫め計るに二百萬元内外あり、一面人才を慎選し章程を安定して、内部整頓改良の豫備をなせり、惟ふに新株既に添募を經、舊株主の既に之れに應募せるものは、自ら應じ數の如く拂込をなすべし、開設の初農商部は、嘗て株式四七十萬元に應募せるも今に至る迄未だ現金を拂込まあす、僅に漢冶萍株券を以て擔保となしたるのみ、前に債年公債一百五十萬元を以て漢冶萍株券を收回するの議り、嗣いで前項公債業に已に結束せるを以て、復元年公三百萬元を改發せんとし、早く既に案にありと雖も、遂に未だ實行せず、今新株に應募して鉅資あるを得たるもの、舊株主自ら其宿諾を踏み、すべての舊株主が拂込主のをなすによる、民有株方面既に已に催繳を行ひ日を定めて收取す、其官株の應募せる處の七十萬元は、應に政府に請ふて數に照して現金を發給し、漢冶萍株式を收回し以て原議に符せしむべきなり、然らば則ち舊株主は官款を表率となして遵從する所あり、新株は政府の維持を知りて倍す踴躍すべし、殖邊銀行の許可を得たるは、元政府が金融を活動せしめ、商民をして其利益を蒙らしめんとするの意に出づ、若し其停滯扶持する能はざるを聞かば、該行破産の狀あるは、其弊猶小なるが如きも、商民喪資の苦其害大なるを思ひて之を整頓して板を化して活となし、

營業を日に發展し、基礎日に鞏固ならしめ、社會をして一金融機關を多からしむべきなり、之れ豈獨り該行のみの利益ならんや、抑亦商民の福なり
後本年四月二十八日北京に株主總會を開き、楊度氏議長席につき、會議をなせる結果、周代理總理辭し、新に渾寶惠氏總理となれり、周氏の辭職は柴錦堂なるものゝ爲に動かされて不正の事ありしが爲なりと傳へらる



支那に於ける租借地研究

(二)

治外法權問題

支那はその租借權の存續期間中主權の行使を中止せるを以て、當然次の如き問題を生ず、即ちこの租借地内に於てこの協約に加はらざる第三國の行使し得る治外法權の範圍如何これなり、或る時代に於ては、通商國間に於てこの問題に對し、意見の差異ありしものと觀測せらる。多くの列國は、かゝる權利を棄權すべきことの利益なるを宣言せり。然れども、日本は支那との協約に依り享受せる權利を行使すべきことを主張せり。

▲合衆國の態度 例へばワシントン國務省の法律顧問の宣言せる處に依れば「租借權の中に明白に規定せられたるが如く、支那は租借地に對する主權を保有す、而してかくの如き領地は支那の領土たることを斷言するに何等疑を容る餘地なかるべし、又領事裁判權を許容するところの我國と支那との協約の條項は、租借地内に於ても均しく適用せらるべきものなり、併しながら余は支那が明らかにその裁判權を棄權したる事實よりして、支那が主權を保留せる理由は單に將來必然的に起り得べきところの主張即ち借地國が租借地の主權を永久に自國に譲り受けんとする主張を中斷せんとする意圖ある爲めと推斷するものなり。」と而して彼は更に「これ等の租借地は事實上は吾人と類似せる法理學を修めたる國民の支配下にあり、故にこれ等租借地が外

國人の領有にある間は、かくの如き裁判權の繼續を主張する牢固たる理由は存せざるべし」と意味あり氣なる附言をなせり。

▲現時の地位 日本が既に旅順口及び大連の權利を繼承して種々の問題の解決せられたる今日は、最早かゝる裁判權は從前屬したる國家の行使する能はざるものたる趣を呈すに至れり。支那の關する處にては、この問題の閉塞せられゐる今日、これより生ずる種々の事態の研究をなすは必要なることなり。然れども、この事實は、外國諸國にありては重要な利害關係の存する處なり。即ち彼等は政治上の便宜主義の理由よりして租借地が外國人の領有に在る間にかゝる裁判權の繼續を主張する實質的理由を認めざるなり。

中立問題

現時の戰爭に於て、日英軍に依り獨逸の勢力を膠州灣より排斥したることは、吾人の眼をかゝる租借地の中立問題に向はしむるに至れり。

▲借地國の不完全なる所有權 既に前説に於て論述せる處よりして、借地國とその對手國との間に戰爭の勃發することあらんも、租借地を攻撃の目的物となす能はざるは明白のことなり。而してこの場合の敵國は同僚借地國なるか、或は他の獨立國なり。貸地國の主權は、讓渡證書に従つて

は、特別に保留せられ、而してかくの如き譲渡をなし、土地は租借權の存續中は借地國の領有する權利あると雖も依然として支那の領土なり、然れどもこの譲渡たるや、決して絶體的のものにあらず、そは單に明記せられたる年限丈無効にして、その撤廢せらるゝや該財産は許諾者に復歸すべきものなり、借地國は此の土地に對しては、完全なる即ち奪却すべからざる權利を有せず。故にこれを他に譲渡することを得ず。此處に於てか「獨逸は支那より租借したる地を如何なる場合にも他國に轉貸する能はず」なる規約を設けしなり。

▲領土の准中立 借地國は此の領土の絶體所有權を有せざるを以て、その所有は多少準中立と呼ばるゝ性質を帶ぶるものなり。例へば、中立たる白耳義、ルクサンブルグ、或は瑞西は攻撃的の敵對行爲をなすことを得ず。如何となれば、これ等の何れの諸國も敗北したる場合は、その戰勝國に合併せらるべき惧あればなり。此の不慮の事件は、歐洲の諸列強を不安ならしめ又はこれを除かんとして、これ等の各國に對して中立の資格を與ふるなり。これに多少類似して、租借地も亦同様に中立たらしめらる。然れども、この中立行爲は決して明白に宣言せらるゝにあらずして、この場合の必要に依りて默示的に表はさるゝものなり。借地國の此の領土に對する所有權は、不完全なるものなり。何故ならば、かゝる所持の權利は、決して所有權に歸せしむること能はざればなり。この領土は他に譲與又は譲渡をなすことを得ず。又この地を戰爭の地域内に包含することを得ず。

如何となれば、敗戰國たる借地國は、この地を戰勝國に割譲するを得ず。加ふるに有効なる權利を同國に譲渡することを得ざればなり。

▲還附に對する盟約 租借地をして攻撃の目的物たらしむることは、この地を他に譲渡することの可能なること或は貸地國が元の借地國の敗戰したる場合これを新しき借地國に許容することを明示するものなり。然れ共かくの如き提言は、既にかゝる譲與は元の借地國に專屬的のものにして、又これを譲渡し能はざるものたる意見を表明したる吾人の認容し能はざる處なり。而してこれと反對の意見を懷抱することは借地國をして、その默示的盟約を輕視せしむることとなり、又貸地國は借地國の不法行爲と、これより生ずる種なる結果とを均しく認容じ、或はこれを默諾することとなるなり。若し借地國が盟約を破棄するも罰を免るゝ場合には、同國はその領土の事實上の所有者なり。此の場合に於ては、例へば最初貸地國より受けし時と同様の條件に依り、その土地を渡與すべしとの盟約に従ひ、租借權の消滅の際も、この土地を許諾者に還附する必要なし。而して若し借地國が敗北してその領土を戰勝國に譲渡することを許されざる場合は、此處に述べたる返還は明らかに不可能のことなり。

▲領土の中立 事情かくの如くなるを以て此の領土は侵犯すること能はざるものにして、貸地國の主權の下に屬し、從つて中立なり。中立權は主權に固着せる特權なり。借地國は單なる領有者に過ぎざるを以て、撰擇權を有せず、而

してその租借權の期限に至らば、その領有せる土地を返還すべきものなり。かくの如き領土は、准中立にして戰闘攻撃より免るものなり。

▲自衛權 借地國はその平穩の享有權の埒外に出づることを得ず。然れ共その領有を保護する爲めに、權利の侵害に對して自衛權を有す。此の見地よりしてかゝる領土は千八百六十八年のバーリンガム條約の條項を參考して「或る種の地域」の範疇に包含せられたり。併しながら、此の特權の商業上の目的は、此處に於ては第一義のものにあらずして、第二義のものなり。從てこの許諾は借地國と戰争狀態にある國家に對し、かゝる領地或は領海内に於て、借地國を攻撃する權利を與ふるものと解することを得ず。それにも拘はらず、かくの如く禁令は借地國があらゆる敵對攻撃に對して抵抗することを抑制するものと解することを得ず。

又借地國よりその權利を奪ふものと思惟することも能はざるなり。如何となれば、借地國がその土地を貸地國に返還する爲めには、借地國はその保存よろしきを得ざるべからざる義務あり。而して、此の義務を果たし得るは、他人がその所有物を破壊し又はこれを處分せんとする、あらゆる企てを斥くる一途あるのみ。更に租借地は準中立なるを以て借地國はその安全を保證し或はその中立を犯さんとするものに抵抗する機宜の手段を採らざるべからず。若し借地國の防禦にして、該領土が優勢なる敵國に占領せられ、又はこれが損害に對して何等の効果なかりしとせば、同國が該土地を地主國に返還し能はざるは、決して自己の怠慢に因

るにあらずして全く優勢力より生じたりとする充分の理由あり。故にこの場合借地國は、その罪を免るゝを得べく、地主國は侵害者に對し、賠償を要求すべし。

▲膠州問題論議 これが例證として現時の戰爭に於ける膠州に就き論述せんとす。扱て純法理上の立場より觀察する時は、聯合軍の青島攻撃は疑もなく支那の中立侵害なり。膠州の地位はアフリカに於ける獨逸の領土或はその保護國と異なるものなり。これ等の獨逸或は保護國は、獨逸の敵國たる諸國の正當に奪取し得べきものなれども、膠州の場合には然らず。如何となれば、この地位は吾人の既に知れるが如く、準中立の一なればなり。

▲同盟國側の支那中立侵害 借地國は盟約に依り、この土地を地主國に還附する義務あるを以て、租借地は暗々に敵對行為より免れ居るものなり。故に該領土は、全くこれを侵犯し能はざる地なり。併しながら、聯合國側の行動は全然辯明の餘地なきにはあらず。然らば果たして如何なる程度迄、この辯明口實が有効なりやに付きて攻究を試みんとするものなり。然れども、吾人は此處に幾多の曲節と種々の議論を切り抜けて正當なる判斷をなさざるべからざるを以て、常に明確なる法律上の立場を失はざらんことを期するを要す。而してこの事たる決して容易の業にあらず。而して自己の位置關係を確保するは極めて必要なことなり。

▲聯合國側の辯明 この事に關し、聯合國はこれ獨逸の支那の中立侵害より餘義なくせられたる、必要の行動なりと

主張したり。而して獨逸が支那の中立を無視したりし以前に於て、未だ嘗てかくの如き行動をなしたることなし。

▲獨逸の支那中立侵害 例へば、青島は聯合國に對する戰事行動の策源地として使用されつゝありき。獨逸の巡洋艦は聯合國の商船を襲撃せん爲め、その領海より出で來り、豫備兵は支那の鐵道を経由して、陸續同地に向つて派遣せられたり。

▲支那の無力 支那の領土主權は極めて微弱にして、獨逸をしてその中立を尊重せしむるやう強請する能はず。然れ共、この敵國の行動は、聯合國の利益と、その福祉に對しては、容易ならざる威赫なりしなり。

▲聯合國の自衛 此處に於てか、聯合國は、その自衛の爲めに餘議なく、支那に於て獨逸を征服せんとしたり。然れど、敵は容易に屈服するに至らず、遂に領土主權の中立を侵すの避くべからざるに至れり。これ實に遺憾とする處なれども、事情己むを得ざる行爲なり。

▲聯合國側に關する審査 聯合國に關しては、此處に一言に盡すことを得べし。獨逸は當然責を負ふべきものにして支那は英國に對しても日本に對しても賠償を要求することを得ず。獨逸の犯したる罪は一の確定の事實にして此の事に關しては略言することを得ず。次に聯合國の領土主權の侵害も、容認せらるべし。その言ふ處に依れば、この侵害は、必要に迫られたる行爲にして、聯合國の責任を負ふ限りにあらずと。支那がその領土たる青島に於て、聯合國の攻撃を蒙りたるは事實なり。然れ共、聯合國は獨逸要塞の

占領せられし以前に於て、既に獨逸の軍時行動に依り損害を蒙りたり。若しも、領土主權が聯合國に對し聯合國がその中立を侵したるの理由を以て、これに關し何等かの權利を主張せんとせば、聯合國も亦支那が他の交戰國の自國の中立を侵犯し、その法律に違反して聯合國に對し損害を與へたる事實を未然に妨ぐ能はざりし理由に依り、支那に對し何等かの權利を主張するを得べし。兩者の主張するこの理由は、對等にして兩者とも所謂 "Gry Gulls" 「負け勝ちなし」となるなり。

▲"Extreme Necessity" 吾人はこれ等の主張する處に關して研究する處あらんとす。この聯合國の主張するかゝる行動は、一の自己保存なりてふ議論の主要なる點は「己むことを得ざる必要」なる言辭に根ざし居れり。若しも自己保存なる理由の下に、正當なりとなし得るならば、この自己保存なる語は、一國をして他の國家に對し、かゝる不法行爲をなし得る權利を與ふことを得べしとは、吾人の認め得るところなり。併しながら、この「己むことを得ざる必要」なる言辭は明確に定められざるべからず、然らざれば、この理由は濫用せらるゝ悞あればなり。この「己むことを得ざる必要」なる言辭の例證として余輩はかのコロライン事件を引用せん。この事件は平時に起りしものにして、戰時に起りしことにあらず。然れども、此の事實は殆んど類似せるところにして、この推理は、同じく適用せらるべし。

▲カラライン號事件 千八百三十八年フイアナ會員のカナダ侵入の際に、武裝せる暴徒が米領内に一團を組織し、ナイヤガラ河の亞米利加側に屬する一小島を占領して、カララインと稱ふ小蒸汽船に乘じ、英領に下らんと準備せり。英國軍隊を指揮せる英國士官は、同船を繫船所より切り離して、この計畫を無効に歸せしめんとせり。即ち英の一小部隊は夜陰に乘じて河を横切り、短時間の争鬭の後カララインを奪取し、これをナイヤガラ瀑布に投じたり。この事件は米領内に行はれしを以て、合衆國は抗議をなして緊急にして、手段を擇ぶ餘地なく、熟慮の餘裕なき自己防衛の必要より生じたる行爲たる旨を、表示せられんことを英國政府に要求したり。而して、英國政府はこれに對し、満足なる解答をなし、五ヶ年間の折衝の後事件は平和に解決したり。英國政府はその當時に於て、一應の辯解を試みざりしは遺憾なる旨を述べ、米國政府はその保證を容認したり。

▲これを現時に適用する件 扱て現時の事件に於て聯合國の自己防禦の必要は、緊急且つ急迫的にして、手段を擇び、熟慮を拂ふ餘地なきものと稱するを得ざるべし。獨逸の威赫なる危險は、決して緊急のことにもあらず、又重壓的のものもあらず。手段の撰擇と、熟慮の時間とは共に、聯合國に與へられたりき。例へば、聯合國は地主國たる支那に對し、或る一定の時間内に獨逸の威赫を除去せんことを要求し、若し行はれざれば、自己の手にて救済策を構すべかりしなり。而して、余輩の此の意見は認められしならん。如何となればこの手段を採る事に依り、支那も、獨逸

も共に何物かを獲ることを得たりしなればなり。カラライン事件に於て、若しも同船が威赫を試むるを得る返、破壊せられざりしならんには、恐らくは既に英領に侵入し至りしならん。然れども、聯合國の場合に於てはその危險は決して急迫的のものにはあざりき。而して、若し獨逸が、兩地の限界約六十哩に狭小せられたる威海衛を攻撃せんとせしならば、或はかゝる急迫せる危險も發生せしやも知れず。此の場合に於ては、英國は自己防衛に於て獨逸の攻撃の機先を制するを得しならん。然れ共、かゝる假設は、吾人の賛成し能はざる處なり、故にこの威赫は聯合國と中立國たる支那政府との折衝に依り、除去するを得べく、從つて支那の中立權侵害なる問題も、避くることを得たりしなり。(此項未完)





英人の
見たる
最近支那貿易事情

(タイムス商業附録)

- 一、銀價昂騰と支那貿易
- 二、大戰と支那貿易
- 三、製造業用機械の需要
- 四、關東州に於ける日本の製造業
- 五、開戦後の新輸出入品
- 六、煙草並護謄

一 銀價昂騰と支那貿易

一九一七年度に於ても銀價昂騰の趨勢は依然停止する所なく、前年度の平均相場三三片十六分の十三に比し、四三片十六分の十三の高きを示せしが故に、若其他の條件にして同一なりしならむには、之が爲に輸入を促進し輸出を減退せしめしや疑なかりしならむも、實際に於て輸入増進

輸出減退の事實は顯著ならず、上海税關の報告に依るに、爲替相場昂騰の外形上に顯はれたる結果は、即ち金融逼迫の事實なりとす、蓋一方に於ては銀價昂騰の爲に有利なる價格を以つて金を買入れ得べきが故に、金塊の買収を誘致し之が爲に市場流通の通貨を減少せしめ、他方に於ては海外に在る支那移民は出來得る限り其本國に對する送金を手控へむとし、其平時本國より注文する日用品等の買入額をも成るべく節約せむと力めしが故に、此種の送金は例年に比して著しく減少せしに因る。

二 大戰と支那貿易

而して前記銀價昂騰に拘はらず輸入増進の結果の顯著なるものなかりしは、他方に於て貿易増進を阻礙する幾多の

原因ありしに因るものにして、即ち一九一七年度に於ける支那貿易の發展を阻害せし諸原因は、船腹不足、運賃暴騰、物價騰貴、及び各國に於ける戰時輸出入の制限等なりとす、加之此等世界的一般的な原因の外、支那に於ては秩序紊亂、各地に於ける大洪水等の爲に、貿易阻害の影響を蒙りしことも亦、注意すべき事項なりとす。

惟ふに銀價の昂騰は明に輸入を増進すべき傾向あるは確なりと雖も、而も他方に於て外國品の價格にして暴騰するときは、勢支那人をして、外國品に代ゆるに内國品の使用を餘儀なくせしむるに至るは、自然の結果にして、例へば石油の價格暴騰すれば植物製油類を代用し、外國輸入の綿製品にして著しく騰貴すれば内國に於ける布疋類、タオル、肌着類の製造使用を盛ならしむるが如きは是れなり、然らば即ち吾人は這回の大戦に依りて、支那貿易の將來に關する一大教訓を得たり、乃ち、支那貿易は常に外國人の經營誘掖てふ温室内に栽培せらるゝに非ずむば、直ちに萎靡枯死するが如き纖弱なる外來植物にあらずして、實に自ら繁茂生長すべき充分なる活力を有し、從つて何等の保護を受けずとも、極めて不利の外國に在りて猶自ら之に適應して生育發達すべき性質を有する堅固無比の野生樹なることを知るに至れることは是れなり。

之を支那輸入品中の大宗たる綿製品に就きて云ふに、凡ての條件は孰れも對支貿易の障害たらざるものなし、即ち、一方には各國に於ける勞力不足、同盟罷業、物價暴騰（特に荷造用の木材紙錫、染色用の染料藥品の缺乏）及び

棉作不況に因る棉花の暴騰等に因り、綿製品は空前の暴騰を示し（時に半年の三倍の高値を見たることありき）他方には運賃保險料の暴騰と我國に於けるが如く、綿絲綿布類は一定の場合の外箱詰とするを禁ずと云ふが如き、輸出に對する制限あり、此等諸種の事情は、支那人の如き保守的なる需要者の到底適應受忍すること能はざる所にして、之が爲に我國の對支貿易は一大打撃を蒙りたるに反し、日本の紡績業者は實に其對支輸出を増進せしめ得べき千載一遇の好機に際會せり、即ち彼等は此有利なる地位を極度に利用して其輸出を伸展せしめしを以て、彼等の支那市場に對する販路擴張と、其輸出額の激増とは即ち昨年度に於ける支那外國貿易に就き、最も注目すべき事實なりとす、是を以つて英米二國の對支綿糸布輸出額は前々年度に比して減少せしに拘はらず、支那の輸入額は却つて二千二百萬兩の増加を示し、此増加は即ち主として日本の供給する所なりとす。

三 製造業用機械類の需要

支那に於ける各種製造業の發達に伴つて、諸種の機械類の需要を増加せしむべきは當然のことにして、各開港場地方に於ては既に、各國商工業者等は、現に盛に使用せられつゝある機械類の種類に就き詳細なる調査を行ひ、以つて將來の供給に關して準備する所あるを見る。例へば政府の事業用としては、砲兵工廠、造幣廠、鐵道、造船所、製革所等の使用する機械の需要あるべく民間事業用としては電

燈籠山等の事業近年頻に發達しつゝあるが故に、此種事業に要する各種の機械裝置は、將來年と共に其需要を激増すべく、又現に經營しつゝある製糸工場、紡績工場、莫大小工場及び紡績工場等の數も亦尠からざる所なるが、此種の紡績工場、其他精米工場、製粉工場、製油、製材、製紙等各種の製造工場は、將來各地共に其設立を見るに至るべく、之に要する機械の需要額も莫大なるべし。其外煉瓦、セメント、蠟燭、石鹼、硝子、陶磁器等を製造する各種工場は近來年と共に増加し、又各地方に於て製造せらるゝ紙捲煙草は、外國輸入の煙草と激烈なる競争を開始し、能く其地歩を維持しつゝあり、其他内地の大都市に於ては漸次水道の敷設を開始し、印刷業も亦次第に普及せむとする傾向あるを見る。

四 關東州に於ける日本の製造業

關東州地方に於て日本人が經營を開始せる事業は、支那人の事業經營に對して、好個の模範を示すものにして、之が爲に將來各地方に於ける支那人の製造業を勃興せしむるに至るべきは事實なるべきを以つて、該地方に現に製出せらるゝ製品の種類を列擧するは、我貿易業者にとりて無益のことにあらざるべし、即ち其製品中前述せるものを除き重要なるもの左の如し。

化學工業品中重要なるものは

油類、グリセリン、硫酸、乳酸、滑石粉末、澱粉、固形油、ステアリン（脂肪素）炭化カルシウム、硫化

アムモニア、苛性曹達、曹達灰、バリウム化合物（此中骨粉製造は主なるものなり）

其他醫療機械（特に外科用機械）暖房裝置加熱機械、電球、増燭、及び自轉車等の製造亦盛にして、此等地方には既に電燈電話電氣鐵道等の裝置あるは勿論なりとす。又紙製模造パナマ帽は其實行き頗る良好なるが如し。

北支那地方よりの報告を綜合するに、此等地方に於ては歐米諸國よりの輸入の杜絶と共に日本品の輸入盛に行はれ従つて日本品は從來の歐米品の地位に代るに至れり、而して此等日本品中、其價格の低廉なると、其品質の漸次著しく改良せられたるとの故を以つて、戦後に至るも猶能く其現在の地位を維持し得べき望ありと、思惟せらるゝ貨物は即ち、

紙類、綿布疋、綿糸、及び綿製眞田、綿レース、模造金絲銀絲、エナメル引鐵器等の雜品並に電機類等

にして、毛織物、木綿糸、石油、アニリン染料、紙卷煙草、硝子器、針等の日本品は品質極めて劣等なるを以つて、當分歐米品と競争して著しく遜色あるを免れず、従つて近き將來に於て之を排斥するが如きことなかるべし。而して日本製綿布疋の發達近年特に著しきは、吾人の茲に看過すべからざる事實にして、其他日本より輸入する家庭用石鹼及び謹謨製品の大部分は、夫々レバー、ブラザース商會及びダシロップ會社の製品にして、此等一商會に既に日本に支店工場を設立せるものなりとす。

五 開戦後の新輸出入品

這回大戰の勃發以來、交戦國との輸入杜絶を來せし結果として、各國製造工業用の原料供給の途亦杜絶し、爲に之が供給を支那に、求むるもの尠からず、是を以つて戦前に在りては支那輸出品中に認むるを得ざりし、所謂新なる輸出品の増加を見るに至りしことは、特に注意すべき所なりとす。

例ば甘草の如き植物は、米國に於て煙草製造、チュイイ・ンガム製造用として、其需要大なるものにして、戦前に在りて之が供給は主として、小亞細亞、ペルシア地方に仰ぎ來りしが、メソポタミヤ地方に於ける軍事的行動の結果として、其供給の途全然杜絶するに至れり。之を以つて今や青洲甘肅地方に之を求むるに至り、而も其品質從來のものに比して、稍劣る所ありと雖も、其輸出額年々増加するの傾向あり。又胡麻桃油は戦争開始以來、オリブ油の代用品として佛國に輸出し始められたる新輸出品の一種にして、之が輸出を試みしは、即ち運賃暴騰の爲に、從來行はれし胡桃の輸出をして不利ならしむるに至り、其結果之を製油して輸出するに至れるが故なり。

日本より新に輸入せらるゝに至れる輸入品中、其賣れ行き良好なるは、絹と植物纖維との交織なりとす、此織物は絹絲を經とし、紡績せる木樹の纖維を緯として織りたるものにして、其外觀頗る鮮麗なれども、其耐久性は保證するに難し。ラミーも亦日本に於て紡績せられ、之を以つて人造

絹糸及び人造絹布を製造し、支那に輸入せらる。

六 煙草、藍、護謨

英米煙草公司は支那に於ける煙草栽培に成功せるものにして、一方威海衛に於て自ら栽植すると共に、他方各地方に於ける支那農民の煙草栽培を補助獎勵するに至れり。而して之が競争者たる南洋兄弟煙草會社 (The Nanyang Brothers Tobacco Co.) は、既に日本の煙草會社と合同し英米公司と同一の方法を採用して之と競争するの計畫を定めたるが故に、將來同公司にとりては一大勁敵たるべし。一九一七年度に於ける楊子江沿岸の收穫は一般に豐作にして、藍の取引頗る多額に上れり、而して藍色染料は從來戦前に於ては、獨逸製人造藍の輸入盛に、戦後は日英より輸入せるもの獨逸品に代るに至り、且其價格獨逸品に比して低廉なりしが、昨年以來上記の原因に因り天然藍の人造藍に代りて用ひらるゝ額少からずとす。

海南島に於ては近年護謨の栽培盛にして、之に従事する會社の數既に三十を算し、北緯十九度以北二十度以南に於て、栽植せる護謨樹の數今や一百万本の多きに上ると云ふ、若之に關する報告にして信憑すべしとせば、(實際該地方より新嘉坡に輸出せられたる護謨多少之れあるに徴すればその全然誤報ならざることを知る) 現在未開の野蠻人の居住せる海南島も護謨輸出の増加に伴ひ、將來商業上重要な地位を占むるに至るべし。

バロイ (Baloi) よりマンガン輸出は近來著しく増加し最近柳州沿岸地方に、品質良好なるマンガン鑛の探掘行はれ其將來頗る有望なりと稱せらる、而して該鑛山產出のマンガン鑛の大部分は、既に之を香港商館に供給するの契約を締結せりと云ふ、(完)

滬寧鐵道營業成績

同鐵道總辦たる C. P. Yin 氏の報告に據れば、一九一七年度に於ける營業成績は、頗る良好にして、鐵道用原料の騰貴及運轉貨車の減少等の惡材料ありたるに關らず、純收入は反て増加し、營業開始以來の記録を殘し、借款利子を差引き、而も折柄の銀高にも拘らず、純益を見るに至りたると云ふ、今支配人たる A. C. Clear 氏の報告に依り、昨年十二月末日に終る、過去一年間の營業成績を示せば左の如し

最近三年間營業成績比較表

	一九一五	一九一六	一九一七
一、總收入	三四一八、〇五六	三、八八、二七〇	四、一七九、八〇九
二、總支出	二、〇三三、六五四	一、九四四、〇一六	二、〇三三、四一六
三、二の對する %	五四、七	四六、〇七	四九、一五
四、純收入	一、三九四、四〇四	一九四四、二五四	一九七六、五三三
五、借款利子(磅)	一五四、三八五	一五四、三六五	一五四、三六五
(弗換算率)	二六八	八五四	七二四
(弗)	一、八〇一、五九三	一、三八三、五五六	二、一七二、七九
六、借款に對する四の %	三、六	七、三五	八、五

一年間を通じ困難なる状態にありたるにも拘らず、總收入の増加したるは良好なる成績と云はざるべからず、是れ

全く各驛、收入増加したるに起因するものなり、而して總支出の増加を見たるは、主として鐵道諸材料の價格騰貴したるに由るものにして、支出同じく増加したれども收入に對する支出の割合は良く相當數字を維持し得たること右表に見るが如し、純益の増加したるは主として銀相場の昂騰に原因するものなれどそれに對しては鐵道材料の暴騰をも亦顧みざるべからず、故に昨年度に得たる純益は一言に爲替率の昂騰にのみ歸する能はざるものなり、昨年度に於ける純益は七四二、五一四弗七〇にして、其前年に比し二四六、九二六弗八七の増加とす、最近三年間に於ける總收入の内譯左の如し

	一九一五	一九一六	一九一七
一、旅客收入(A) 旅客	二、四三、〇四〇	二、六三四、五九五	二、七五、二〇〇
(B) 其他	七五、六六〇	一〇四、九〇四	一四八、〇〇四
二、貨物收入(A) 貨物	八四、二〇一	九六、八九二	一〇八、三三四
(B) 其他	三八、〇四四	四三、八六〇	九五、五五四
三、雜收入	三、〇二二	六六、九六〇	七六、七七
計	三四、二八〇、五八	三、八八、二七〇	四、一七九、八〇九

右表に見るが如く逐年増加し、其營業成績頗る確實なりと稱すべし

一、旅客 各等別にし普通列車の收入は次の如し

等級	一九一五年	一九一六年	一九一七年
一等	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三
二等	乘車數 二〇、七三六 收入 弗 一七、〇四五	乘車數 二〇、七三六 收入 弗 一七、〇四五	乘車數 二〇、七三六 收入 弗 一七、〇四五
三等	乘車數 四、六六六 收入 弗 一、六六六	乘車數 四、六六六 收入 弗 一、六六六	乘車數 四、六六六 收入 弗 一、六六六
苦力	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三

昨年には於ては各等共満足なる増加を來し、一九一五年以來健實なる發展を示しつつあり、一九一五年に於て鎮江南京間の苦力車の收入減少は、ランチの競争に遭遇したるが爲めなるも、今や遂に之に打勝ち良好なる成績を収むるに至れり即ち左表の如し

年次	三等	苦力	計
一九一四年	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三
一九一五年	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三
一九一六年	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三
一九一七年	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三	乘車數 八、二二五 收入 弗 四〇、三三三

之等クラスの收入は現時極めて増進し、一九一四年に比し十萬人以上の乗客を増加したり、昨年津浦鐵道沿線に於ける水害の爲め殆んど二ヶ月間に亘り、輸送不能の局部的困難ありたるに拘らず、該鐵道の發展は着々進行しつつあり。

二、貨幣の輸送 最近三年間の成績次の如し

輸送額 弗	一九一五年	一九一六年	一九一七年
同重量 擔	三三、三五七	三〇、六五五	二五、四〇八
	五、四五一	五、九七三	六、三二五

同運賃 弗 三三、二六六 三九、八六六 四七、五二四

一九一七年に於ける收入の増加は、運賃率の引上げに由るものにして、即ち一九一五年四割、一九一六年四割五分のもの、一九一七年には輸送委託者との協定を経て、五割に改めたるが故なり

三、小包 最近四年間の成績左の如し（單位弗）

一九一四年 一九一五年 一九一六年 一九一七年

收入 四二、八三三 三〇、六七二 四九、九七〇 四二、三三三

四、郵便物 郵便局より受取る一年の料金は年一、〇〇〇弗より二、〇〇〇弗に引上げられたれども、未だ收支を償ふ能はざるを以て、今後尙此問題に關しては協議を重ねべしと云ふ

五、貨物 昨年度に於ける貨物の輸送は満足すべき増加を示し、記録を残すに至れり、此成績は北方よりの輸送能力の減少に依り、豆、落花生、胡麻等の農産物に於ける收入の減少が、一九一六年に比し殆んど一一〇、〇〇〇弗を算せしに徴すれば、一層良好なるものと云はざるべからず、然れども他方に於ては蕪湖よりの米穀輸送は約八八、〇〇〇弗の收入増加を來したり、これは同鐵道に對し收入の一新資源を開きたるものなり、木材の輸送は減少したるも、他の畜産物礦産物及工業製品は、共に相當の増加を見るに至れり、上海發上り汽車の收入も亦頗る増進し、最近四年間の所得を示せば次の如し（單位弗）

一九一四年 一九一五年 一九一六年 一九一七年

一六、三三〇 二〇、六九七 三三、一〇八 三三、四四〇

支出の部（單位弗）

一九一六年		一九一七年	
支出	收入に對する割合(%)	支出	收入に對する割合(%)
二九八、三六	七八二	三三三、六三	七五〇
計	一九〇四、〇二五	計	一九〇四、〇二五
三六、七六	九、九二	三六、七六	九、九二
四七、五〇	三、三六	四七、五〇	三、三六
四三〇、三三	二、二七	四三〇、三三	二、二七
三七、一五二	八、三二	三七、一五二	八、三二
四九、八七	二、〇三、二四六	四九、八七	二、〇三、二四六
五二、〇六	三、〇七	五二、〇六	三、〇七
五〇、一三四	一、三六	五〇、一三四	一、三六
四六、八二四	二、二〇	四六、八二四	二、二〇
三五〇、一九〇	八、六六	三五〇、一九〇	八、六六
五二、七一		五二、七一	

支那に於ける英吉利人と獨逸人 (四)

デツニス、ケー、モツス

二 對支貿易に關する準備に於て 英吉利人は獨逸人に及ばずと する一般思想の根據 (下)

吾人は次にマンチエスター及びブラッドフォードの棉製品及び羊毛品に於る獨逸の活躍を吟味せんとす。獨逸人の活動の最も吾人の注目を引きたるは第一に此の方面に於る取引なり。綿製品及び羊毛品貿易は元來英國の専門にして、獨逸人が支那に於る此等の取引の約二十五パーセント（或は以上）を獨占するに到りたる事は確かに研究を要する問題なりとす。如上の事實によりて一見して吾人の感知するは、英國人の採用せる方針の誤謬なることなり。英國商人にとりて支那は、ランカシャー及びヨークシャーの織產品の輸出先及び市場として、長く印度に次ぐ重要な地位を占

めたるなり。其の貿易額は年々數百萬磅に上る、而して、マンチエスター商人が、獨逸人は支那に於てマンチエスターの製品を賣捌く唯一の國民なりとの觀念を憶面もなく表白したることは實に驚くべき事にして、本記者をして本書を公にするの止むなきに到らしめたる主要原因は實に此の點に存するなり。若し獨逸系統のマンチエスター及びブラッドフォード商人にして幾分たりとも此貿易を開拓するに力ありしとせば、上述の全く誤れる思想も多少の根據ありと稱し得べしと雖も、決して然らざるなり。マンチエスター商會の明かに獨逸名を冠するもの百を以て算すべく、而かも其の過半數は、數代の間其の全經營と所有權とは英國人の掌中に在りしものなり。此等の多數の商館は、其の名稱の獨逸名たる關係上、種々なる嫌疑の標的となり少からざる困難を嘗めたり、其結果其の大多數は其の名稱を英國

風に改むるの止むなきに到れり。此等の商館の上記の行動は全く愛國的精神の發露にして、衷心より英國の利益を顧念するより出でたるものなることは、清算人の手にせる數多の書信によりて明瞭なり。古風にして尊敬すべき英國名を冠するランカシャー及びヨークシャー商館の老舗の大部分が在支獨逸通信員と相通じ、戰爭勃發以後に於ても敵國商館との取引を持續し、政府の干涉あるに非れば、到底之を禁止すること能はざりしは驚愕に値する事なりとす、清算人の受領せるマンチェスター商館よりの書信中の或るもの、如きは最も不名譽なる而して、到底信す得べからざる程非愛國のものなりき。

クレデット制度を創始せる責任は獨逸人の負ふべきものにして、彼等は之によりて綿絲取引に割込み、大に發展することを得たるなり。今茲にクレデット制度の細目に亘りて叙說せざるも、要之該制度は夥多の障害を誘導するものにして、利益少きものなることを謂ふを以て足れりとす。此制度あるが爲めに、獨逸は單に賣上高の増加を企求し、遂に莫大の損失を蒙るに到りしなり。支那商人が取引を爲すに當りて、長期のクレデットを當込みにして過大なる投機を企つる時よりも、支那人自身の資本を以て、之を營む時に却つて其の成績良好なり、而して、此の事實を暫らく措くも、該制度は全體頗る危險にして、且不便なるものなりとす。過去二十年間に於て、屢々、商業界より該制度の廢止を要求せられ、取引現金制度の復活を企てられたり。斯る凡ての場合に於て獨逸商館は、彼等をして其のクレデ

ットを放棄せしむるが如き協定に同意することを拒絶せり一九一五年に香港英國商館が協議會を催し綿布及び羊毛布の取引に對しては爾後決してクレデットを與へざることを協定せるは恐らくは將來に於ても徹底的のものならん。此事は實に慶賀すべき事件にして、忌しき、謗詐多き彼のクレデット制度を復活せしむるが如きことのなからんことは衷心より吾人の希望せざるを得ざる所なり。

マンチェスター及びブラッドフォードの商品の取引によりて獨逸商館の利益を收めたるものは極めて少數なること説明せざるべからず。清算の結果は此の状態を遺憾なく暴露せり。綿布及び毛布の取引に於ても他の取引に於ると同様價格の割引のみを是れ事とし、獨逸人相互に競争せるが故に彼等は皆莫大なる損失を招きたり、故に、英國人は斯る自殺的取引に従事すること不可能なるを以て、英國商人の大部分は此方面に於て獨逸人と角逐することを中止せり。斯くの如く、獨逸人は段物業取引に於ても奇利を占めんが爲めに自國人互に競争せるも、反之英國商人は、製品の購買に際して綿密なる注意を加へ、常に貨物の品質を精撰し且つ其不變性を維持して、其商標の普及を計り、以て市場を支配せんことを努めたり。若し獨逸人か此處に思ひ到りしならんには、彼等は綿布及び毛布業に於て遙かに巨大なる利益を收め得しならん、何となれば、彼等は斯業に對する準備を有し、且つ組織を有するが故に斯業に發展し得る素質を有するが故なり。吾人の既に述べたるが如くマンチェスター及びブラッドフォード商人は、其製品の品質に

於て勝利を得たるなり。支那に定住せる英國商人の爲めに、大に支那に對して綿布を賣出さむことを欲するマンチエスター、ブラッドフォード輸出業者は百を以て算すべし。在支一英國商人が斯くの如き多數の供給者より供給を受け且つ、本國に於る一百人の商人と取引するは固より不可能の事なるが故に英本國の商人の多數が在支獨逸商館及び其他の外國商館に注目し、此等に對して其供給を爲し、以て多大の取引を爲さしめたるは決して怪むに足らざるなり。多くの獨逸及び外國商人は英國商館より其取引を奪はんと企てたるも英國商館は常に貨物の品質の精良を維持せるが故に、此種の商業上の壓迫は屢々冷評を蒙りたり。これを譬へば田舎藥劑師が品質優良にして、一百年以上も其品質を保持し來れる石鹼の製造業者に對して、今少しく利益を擧げんが爲めに、其品質の低下せしめんことを乞へりとせよ、此際に於て其藥劑師が冷評せらるゝと同談なり。在支英國商館がマンチエスター製造業者の注文を受くる能力無かりしことの明かなると共に獨逸人は極東に於て最も敏活にして精力ある實業家なりとの一般思想に對してはマンチエスターの極東視察者の罪最も大なること疑を容れざる所なり若し獨逸人にして無稽なる價格の割引を爲さず、英人の採用せる健全なる取引制度を攪亂することなかりしならんには、少しも獨逸人につきて議すべき點なかりしなり。公明正大なる競争は凡ての商業家に對する善良なる刺戟劑にして、此事たる、巨額なる布類の取引を以て生活の本據とするランカシャー及びヨークシャー人に於て特に然りとな

す。獨逸人は自己に用なきものを他人にも用ゐざらしめんとするが如き意地惡き競争を敢てせるに拘らず、英國人は凡ての方面に於て取引上の選擇權を保持したり。公平なる利益を獲て更紗を二萬磅にて賣捌きつゝある英國商人の世評に上ること少きも、虚名を博せんが爲めに莫大なる損失を蒙りつゝもシャツ類を五百磅を以て取引する獨逸商館の評判は喧しきものあるなり、然れども前者の取引の結果は之をクライド河上のステームヨットの中に見るを得べく、後者の結果は、吾が香港植民地に於る獨逸商館の清算人が英國政廳に差出すべき最後の清算書に之を見ることを得べし。

マンチエスター及びブラッドフォード商人が支那に於て彼等の自身の商店を開設し、支那人と直接に取引することに失敗せることは決して、彼等の企業其物を反映するものに非ず、何となれば、一般的趨勢たる斯る計畫に對しては多大の障礙ありて、満足なる成績を擧げ得たるものゝ如きは極めて少數なるが故なり。

製造業者は其輸出先の住民の要求を研究せざるべからずとは、吾人の尙屢々耳にする所なるが、而かも斯る報告書を草する有力なる識者が多大にして、マンチエスター及びブラッドフォードに於ては他の諸國の何れのものよりも多數の視察者を支那に送り居ること及び此等の視察者は支那各地の一般思想及び情報を獲るに充分なる機會を有するものなることを看過するものあり。ブラッドフォード染料業者組合及び更紗模様製造業者組合は各々上海に其事務所を

設け、以て支那人の流行の移遷及び趣味の向上に伴ひ、支那人に對して特殊のスタイルを有する製品を供給するの機關となせり。在支英國商人にして、綿絲及羊毛の取引の減少を除くなくせられたることは事實なりども、其一面に於て、英本國の製造業者が専心斯業にのみ従事する人々（獨逸人）を發見し、人に利する所ありたり、此事實に對して吾人は何等恥辱を感ずるの要を見ざるなり。然れどもマンチエスター及びブラッドフォード商人に對して一事の忠告すべきものあり、曰く前記の狀態は決して永續性を有するものにも非ず、且又吾人の満足すべき所のものに非ざることは是れなり、而して、清算の結果の報する所に依れば、多數の敵國商館は慢性的に、徒に取引高の多額なることのみを競ふの狀態に陥りたり、敵國商館の全取引組織を顛覆せしめ、彼等をして破産の狀態に沈淪せしむるが如きは一舉手の勞に過ぎざるなり、而かも、此結果は英國の海運及び金融上の利益に對して甚大の打撃を加ふるに到るべし。

本項に於て更に説明を要する一問題あり、即ち何故に獨逸人は支那に於て、英國製綿絲の全取引を支配し、其の代理商たることを得たるかの問題なりとす。本記者及び記者の友人は未だ其の正確なる理由を發見する能はざるなり、而して、本國の株主連にして事の真相を知るに到らば、株主會に於て興味ある諸問題を喚起するに到るべきや必せり。

實際の情勢より判するに、英國商人は獨逸商人同様に斯業を營むを得たりしなり、然るに英國商人が一度も其の機

會を與へられざりしことは頗る重要なる問題なりとす。

戰爭勃發の當時香港には獨逸銀行は唯一行あるに過ぎずして直ちに英國官憲監視の下に置かれたり。獨逸商人は獨逸銀行より多くの援助を受けたりと言ふを得ず、而して、彼等の取引が多く英國銀行を通じて及び倫敦の私人銀行の助力によりて爲されたることは重要なる事なり。既に述べたるか如く、獨逸商人は、吾が英國銀行よりして彼等に與へたる信用を無稽なる手段を以て亂用し、而して、彼等は戰爭開始の當初數ヶ月間吾が英國官憲より與へられたる信用と通商上の特權を亂用せり。如上の事實は仔細に記錄に留め以て戰後若し獨逸人にして再び支那に來り大規模の取引を企つるものある場合に、吾人の彼等に與ふべき便宜を制限するの資料となすべきなり。

廣告學に於ては人は獨逸の優秀あることを信するに似たり。而して、英國人は英語を以て廣告することに於て失敗せりとは吾人の屢々耳にする所にして、獨逸人は實際に於ては支那に於て何等廣告術なるものを施すことなかりきと謂はゞ必ずや多數人は驚愕するならん。獨逸人は支那に於て廣告せずとは、獨逸人は極度に價格の割引を行ひたるために、廣告を爲すが如き贅澤なることに費し得べき剩餘金を有せずとの意味なりとす。二、三の三日坊主的なる、薄弱なる企業を除きては、獨逸人は廣告によりて、其商品の好評を博せんとすることなかりき。實際英國の煙草、石鹼、又は牛乳會社の徹底的なる、壯大なる廣告運動に匹敵すべき運動を獨逸側に於て企てたるものなかりき、何れの支那

新聞に於ても、支那人、英國人及び亞米利加人の廣告のみ其紙面を占領して、獨逸人の廣告の掲載方を殆んど凡て排除せり、支那經濟界に於ては尙廣告術普及せざるが爲めに、壯大なる計畫も失敗に終るもの少からず、若し單に自己の商品が他人の商品よりも廉價なること以外のことを廣告するものあらば其廣告は忽ち支那人の疑惑する所となるなり。故に獨逸人は、出來得る限り廣告の最も直接的なる方法即ち、價格の割引と他よりも廉價に賣捌くの方針を取りたり。支那の人心に投ずるの力は此の直接廣告術に若くものなし、然れども、支那の進歩發達するに従ひ、斯る原始的方法は再考せらるゝに到るべし、終に其の效果の大部分を剝奪せらるゝに至らん。

化學的肥料品の取引に於る獨逸人の成功を看過するは決して公平なる態度と稱するを得ず、支那人に對して最新式の方法の採用方を勧誘せる人にして、始めて其際に於る獨逸人の排除せる困難の如何に大なるものかを充分酌量し得べし。獨逸が肥料實驗所を設立し、其の活動によりて、獨逸製肥料を購入するは相互の利益なることを支那人に納得せしめたるは確かに獨逸人の信用を増す所以なりとす。

在支獨逸人が相互に見苦しき取引の爭奪を爲したるに就きては、獨逸本國に於る生産者も亦其責任の一斑を免るゝ能はず、獨逸本國の生産者は何の爲めにか、一地に一手販賣店若くは同種の代理店を設くるを欲せず、爲めに其結果は何人も斯業取引の利益に預からんとするが故に、何人も利益を獲るものなき結果に陥るなり。此點に關しては、更に

謂ふべきものあり、即ち一地方に對して代理店を設けざる時は、生産者の利益が全く蹂躪せらるゝこと吾人の屢々目撃せる所なり、而して、記者の見聞せしことの一再に止らざりしは、會々支那人は這般の缺陷を奇貨措くべしとし、公然に若くは詐欺的に獨逸人の商標を模倣せることは是れなり、而かも斯る事を獨逸の生産者に報告するの勞を取るものなきことは彼等支那人の充分に承知せる所なりとす。然れども、染料の取引は此の例外なり。斯業に對しては獨逸人は一手販賣代理店を設け、之を根據として活動し、大に其の利益を收めたるなり。

以上の如くなるを以て其事情大約判明せるものと信ず。而して、更に具體的の數字を挙げ、若くは其人名を掲げて之を説明するは、決して策の得たるものに非ず。何となれば、具體的に詳細に説明を加ふことは、戰後に於る獨逸人の活動に最も有益なる智識を給するに過ぎざるの結果に陥る危險あるを以てなり。

徒に獨逸の制度を褒め過ぎて、自己の方法を批難するは實際上の効果少かるべく、而して、此事にして若し一般人心の奥底に永く浸潤するに至らば、吾人の通商上に由々數大害を及ぼすに至るべし。本國の製造業勿者及び商業家は如上の報告に基きて、其の販賣政策を全然一變するは決して困難の事に非るなり。彼等は勿論自國商人と取引を爲すことを希望すると雖も、若し彼等が吾人が外國人よりも取引上の準備に於て缺く所ありとの印象を深くするあらんか、彼等製造業者及び商業家は外國人と取引すべし。何となれ

ば、彼等の目的とする所は、彼等の最も善良なりとし、最も好都合なりとする状況の下に、其貨物の賣捌を爲すにあるが故なり。事情若し斯くの如くなるに到らば『英國人は全く外國人の助力に奇頼せざるを得ざるに到れり』との事實を確證するに到らん。

終りに、一言すべきは、人心を動すは一投足の勞に過ぎることにして、記者の知れる一事件の如きは正に其眞髓を説明するものなり。削り石鹼を製造する一亞米利加人ありしが、一日突然支那には四億の人口あることに想到せり。多分朝刊の新聞紙によりて此の智識を得たるものなるべし。此の事を知るや否や、彼は直ちに、彼のエーチエントに書を送り、詰問して曰く、何故に二億萬本の削り石鹼の注文を爲さざるやと。之と同時に、彼は其の代理契約を解除せり。是れ、削り石鹼を求めて、以て身を清むるの資財と欲望を有するもの、如きは、支那人一千人中に一人の割合にも到底上らざるものなることを知らざるに因るなり。

(此項完)



寄贈書目録

銀行社記事	銀行社	九拾八號
滿蒙研究彙報	其一社	三二號
新著書	丸善株式會社	自五六〇號至五六三號
通商公報	其會社	八二九號
東洋經濟彙報	其會社	一八九號
奉天公報	其會社	一〇號
青島に於ける物價	青島守備軍民政部	一〇號
貿易	日本貿易協會	二號
日本及支那	日支時局	五三號
國際法外交雜誌	國際法學會	三五八號
大陸工報	奧亞技術同志會	一三六號
地學雜誌	東京地學會	七四二號
貿易通報	其社	三號
日本及日本人	倫敦社	四號
ヘラルドオブアジア	ヘラルド社	十月號
朝鮮彙報	朝鮮總督府	十號
新刊圖書雜誌月報	東京堂	一一三號
臺灣商工月報	臺灣總督府殖產局	九號
水交社記事	水交社	一〇號
商工時報	農商務省商品陳列館	三號
日華之實業	其社	一八號
會報	熊本海外協會	四三四號
日報	長春貿易協會	七月十日
商標公報	待許局	十號
帝國圖書館大正六年度摘要	帝國圖書館	一〇號
大連港ト支那沿岸貿易	大連商業會議所	五〇七號
山林公報	農商務省山林局	一〇號
商工	其社	九六號
實用新案公報	待許局	四〇號
報德	其會社	
銀行社記事	其社	
滿蒙商業彙報	大連商業會議所	

彙 錄

湖南省兵燹被害民の救濟法

熊希齡氏は近年兵禍のため被災の人民を救すべく賑湘會を設け之が督辦となり各縣知事の調査に基き之が救濟を企て義捐金を募集し且全國の慈善機關と聯合せんとし湖南義賑聯合處主任黃國英は天津に赴き熊氏と協議せしに湖南省内の饑饉に瀕せるもの及死亡者の吊恤荒蕪地の損害等を完全に救はんには三千萬元以上の巨費を要するを以て到底湖南一省の慈善事業となすには餘りに巨大なるを以て全國の慈善團體と結合するの必要を認めたり。

漢口に設けたる兩湖義賑會は湖北湖南の賑恤を聯合せるものにして上海慈善救濟券の方法に倣ひ富籤式の有獎券を發賣す其價格は一枚二元とし一等獎賞に當りしものは二萬元を得るものとし右救濟券の賣れ高より獎賞金及雜費を引き去りたるものを全部救濟に充ることゝす。

獎金の差等左の如し

一等券獎等	一枚(一枚付)	二萬元
二等同	同	四千元
三等同	同	二千元
四等同	二枚(同上)	千元
五等同	四枚(同上)	四百元
六等同	十枚(同上)	二百元

七等同 二十枚(同上) 三十元
 八等同 五十枚(同上) 二十元
 九等同 百枚(同上) 十元
 十等同 八百枚(同上) 六元
 一等券上下附號 二枚(一枚付) 百元
 二等券上下附號 二枚(同上) 五十元
 三等券上下附號 二枚(同上) 三十三元
 四等券上下附號 四枚(同上) 二十元
 一等券の末尾二字相同きもの五百九十九枚 一枚六元
 二等券の末尾二字相同きもの五百九十九枚 一枚五元
 三等券の末尾二字相同きもの五百九十九枚 一枚四元
 四等券の末尾二字相同きもの千九百九十八枚 一枚三元
 合計 有獎券 三千九百九十四枚
 右は漢口招商局内に事務所を設け集善公司に此事務を委任せり

各會社、商店の獎券の販賣されしものには一等券一枚を賣り出したる者に特別優賞として四百元を給與す二等券には八十元三等に四十元四等には二十元を賞賜す
 以上の方法を以て救恤資金を得んとす
 此外に米英宣教師等が發起し基督教青年會の事業として慈善事業に活躍し居れり前項の全國慈善會は遂には宣教師就中米國派の勢力範圍に歸すべしと思はる。

京漢線の成績

京漢線本年上半期の収入は、昨年及一昨年に比し増加し

百六十餘萬元に達したり、南征軍の舉あるに加へて天災もありしに、能く此の如き良成績を得たるは當事者の盡力之を然らしめたるものに係る、是を以て其筋にては役員に對する獎勵の方法を講じつゝありと云ふ、今最近三年間の上半期收入高を表示すれば左の如し。

	五年度上半	六年度上半	七年度上半
切符	二八五、一九〇元	二七五、〇八七元	三二、二〇四元
貨物	六九七、一五八	六九七、二六八	八二七、九四六
雜項	七三六、九二	八六六、八五	七二九、三三
合計	九八八、五二七	九七〇、五八〇	一二四、七二二

粵漢鐵道武昌長沙線

粵漢鐵道武昌長沙線は既に開通せしも、重もに兵亂中は南北軍隊の輸送に占領せられ、一般人民の交通機關たるを得ざりしこと多時なりしが、目今は一般の交通をなすに至れり、武昌より長沙迄の驛名及乗車賃銀左の如し。

驛名	賃銀
武昌通湘より	午前六時五十分發
鮎魚套	三等 一角 (二等は三等の倍額)
紙坊	二角五分
土地堂	四角五分
山坡	六角
賀勝橋	七角
官埠橋	九角
咸寧	九角五分

汀泗橋	一元一角
中伏鋪	一元二角
蒲圻	一元五角
茶菴嶺	一元六角
趙李橋	一元八角
羊樓司	一元九角五分
五里牌	二元一角五分
路口鋪	二元三角
雲溪	二元四角五分
城陵磯	二元六角
岳州	二元七角
蘇塘	二元九角
榮家灣	三元五分
黃沙街	三元二角五分
桃林寺	三元三角
汨羅	三元五角五分
白水	三元七角五分
沙河	四元
橋頭驛	四元一角五分
長沙北站	四元四角五分
長沙東站(終點)	四元五角(同日夜十二時十分着)

事業界

中國銀行の營業概況

中國銀行は其分行出張所を、支那全國各地に遍設する結果、之が決算事務の完成を期するには、過多の時日を費す不便あり、現に昨六年度營業報告は、漸く此程に至りて發表されたるが如し、今該營業報告に關して、同行員某の談する所に據れば、曰く中國銀行は吾國の國家銀行にして、紙幣發行及び國庫代理の特權を有し、分行號は約二百餘所あり、全國各地に遍設せり、而して營業總額は毎年數億萬元以上に達し、純利益金として亦三四百萬元を獲得せり、實に吾國唯一の大銀行と爲す、本年(民國六年)は歐戰激烈内亂紛紜、商工業の蕭條の際に當ると雖も、該行の營業は尙ほ進歩あり、即ち純利益金二百七萬三千三十二元七角二分を計上せり、唯北京紙幣の尙未だ兌換せず、時人の不満免かれずと雖も、但し該行の幣價維持策に就ては餘力を遣さず云々、先づ該行の昨六年度資財負債表及び損益表を掲げて、後其の營業の概況を略述せんに

中國銀行資產負債表(民國六年十二月末)

一、負債の部

資本總額	六〇、〇〇〇、〇〇〇、〇〇
積立金	二、七一四、九四八、八〇
定期預金	二〇、三二〇、三六〇、四八

當座領金
兌換券發行
本年純益金
合計

一二八、三九四、六〇五、一一
七二、九八四、三〇七、四二
二、〇七三、〇三二、七二
二八六、四八七、二五四、五三

二、資產の部

末拂株式
定期貸付
コール貸付
有價證券
營業用家屋土地器具
創設費
兌換券製造費
兌換券準備金
手許現銀
合計

四七、七二〇、二〇〇、〇〇
二八、八六〇、〇二三、八四
一一〇、六四二、七一九、九五
四、〇九三、四三三、三六
二、四一〇、八九二、七八
一九一、三四一、七二
一、二三七、二六〇、一五
七二、九八四、三〇七、四二
一八、三四七、〇七五、三一
二八六、四八七、二五四、五三

中國銀行損益表(民國六年十二月末)

一、損失の部

諸支拂
家屋什器減價償却
創設費同
兌換券製造費同
雜捐
純益金
合計

三、四二九、一四二、九九
二八五、一〇七、八一
七五、三九五、〇四
四二〇、八八八、九五
二〇、七八九、五五
二、〇七三、〇三二、七二
六、三〇四、三五七、〇六

二、利益の部

爲替手料	一、一六六、七四〇、四八
利息	五、一二〇、三一九、〇〇
雜益	一七、四二六、〇六
合計	六、三〇四、三五六、〇六

以上兩表に依り之を觀れば、昨年該行の營業は確にに進步せし模様あり、茲に其重要業務を以て之を歷年と比較せば左の如し。

中國銀行歷年營業比較表(單位百萬元)

民國元年	二年	三年	四年	五年	六年
預金	二一八	五八	一〇六	一一四	一四八
貸付	二一七	五〇	八八	一〇二	一三九
現銀	三一〇	三四	六〇	六二	九一
紙幣流通	一	五	一六	三九	四六
爲替手形	一〇	五五	一六〇	一四二	一七六
有價證券	一	六	一三	一一	四

右表に據れば該行の營業は逐年増進するの形跡あり、昨年の預金總額一億四千八百萬元、之を四五年に比較すれば、約三四千萬元を増加せり、亦元二三年と比較せば、一億萬元内外の増加を見る、貸付に至ては本預金に従て増進す、故に預金の吸收愈々多ければ、貸金の貸出亦巨大なり、昨年の貸付總額一億三千九百萬餘元あり、約預金と相當す、之を前數年に較べて其増加する數は亦預金の夫れと相等し手許現銀は昨年の總額九千一百萬元、之を四五年に較ぶれば約三千萬元の増加、之を三年に較ぶれば約六千餘萬元の増加、又元二年と比較せば、八九千萬元の増加を見るべし

該行の手許現銀に就き兌換準備金を包括して之を言へば現銀は約其五割を占む、此外コール貸付の如きは隨時回收さるる性質のものにて、通例は多く準備金と爲す者なれ共該行は斷して之を彼項に算入せずと稱し居れり、兌換券發行額は昨年度は七千三百餘萬元あり、之を四五年に較ぶれば約二三千萬元の増發を見る、而して元二三年に比較せば其差額六七千萬元の巨額に上れり、唯該行より中央政府への臨時立替金が、今尙回收せず、之が爲めに其一部分たる北京紙幣發行高約二千萬元に對して、兌換實行の不可能となり、遂に該行信用の累を見るに至れり、爲替取扱に至ては該行尤も發達を稱せり、何となれば其分行號が全國に遍設せられて、彼我間の往來出入頻繁なるが故なり、現に昨年の爲替取扱額は約一億七千六百萬餘元にして、之を元二年に比較せば數十倍の増加を爲し、三四五年に較れば亦數千萬元の増加を見る、唯有價證券に至ては昨年僅に四百萬餘元に過ぎず、之を三四五年に較ぶる時は寧ろ減退を爲せり。

前述を綜合せば該行營業は漸次進歩の道程を辿りつゝあり、然れ共該行の分行出張所の數目及び支那の人口と富力に比例して、之を推論するときは、今後は更に能く營業上の弊害を力矯し、且つ信用を堅樹するにあらざれば、より以上の進歩を見る能はざるべし、中央政府も亦該行の立替金を償還し、該行をして營業上の獨立を鞏固ならしめずは國家銀行たるの本能を發揮するを得ざらしむべし。

支那半月史

大正七年十月上半

副總統選舉流會

副總統選舉は九月六日の兩院聯合談話會に於て「相當の時期に於て再び兩院談話會を開き選舉期日を決定すること但しその時期は大總統就任期以前なるべきこと」を議決したるは既報の如くなるが、兩院は此決議を尊重し九月三十日談話會を開き十月五日を以て副總統選舉執行の旨議決せり。十月二日參議院議長梁士詒、衆議院議長王揖唐兩氏は此問題に就き段總理を訪問したるに、段氏は絶對に副總統たる意思なきを明言じ、曹錕氏の功勞に酬ゆるため同氏を副總統たらしむるを可とすと答へ、更に警察總監吳炳湘氏をして保定に曹氏を訪はしめ出馬を慫慂したる結果、曹氏も候補たることを承諾し、こゝに安福俱樂部は曹氏のために運動を開始したり。然るに副總統の地位は南北妥協の重要條件にして、新國會に於てキャスティングヴォートを握れる梁士詒一派は、副總統の椅子を空け置き南方との妥協に便すべしと唱へて副總統速選に反對し、研究會系亦之に追隨して緩選を主張したるを以て五日の選舉會は出席議員參議院百六十名衆議院百八十四名にて法定數に達せずして流會となり、九日再び開會を決議して散會せるが、九日の選舉會は出席議員參議院九十二名衆議院二百四十一名にて法定

數に達せず、午後再開したるも出席者一層少く又々流會となり、十六日再び開會の旨決議して散會せり。かくて徐總統は十日を以て就職し、梁士詒一派の目的完全に達到せられたるを以て梁は漸くその假面を脱して反啞的態度に出で徐樹錚王揖唐兩氏の必死の奔走も効なく、十六日の選舉會出席議員參議院八十名、衆議院百名に激減し、遂に無期延期のやむなきに至れり。

段派は副總統を速選して曹錕を自派に引つけ、直隸系の分裂を誘致し、以て南北妥協を不可能ならしめんと計畫せしものなるが、此の如きは純然たる段派を除く外何人も賛成せざる所にして、前後三四の選舉會悉く流會に了れるは蓋し當然の成行なり。南北妥協の目的より見れば是れ實に大いに喜ぶべき事に屬す。

大總統職務攝行

南方派の法律的發展

南方派の態度に就ては屢々報導したるが、北方に於ける大總統更任期の漸く切迫し、徐世昌氏亦敢へてその職に就かんとするの形勢あるに對し、廣東國會は大總統選舉の法定數たる三分の二の登院議員を獲る能はず、近き將來に於て大總統選舉を執行し能はざること明白となりたるを以て十月八日左の如き宣言を議決し即日公布したり。即ち大總統選舉は緩選に従ひ、それ迄應急の手段として軍政府に國務院の職權を代行せしめ、併せて大總統の職務を攝行せしむといふに在りて、南方派としては當然爲すことを要する

法律的發展なり。

中華民國國會第三次宣言

大總統選舉は國會議員の職責たり大總統選舉法第三條第二項に依れば大總統任滿前三個月國會議員は須らく自から集會を行ひ總統選舉會を組織し次任大總統の選舉を行ふべしと惟だ現に國內非常の政變に値ふ次任大總統の選舉は應さに暫らく舉行を緩かにすべし民國七年十月十日より起し軍政府に委託して國務院の職權を代行せしめ大總統選舉法第六條の規定に依り大總統の職務を攝行せしめ次任大總統就職の日に至りて止と爲す特に此に宣言し咸な聞知せしむ

徐總統就職式

徐新總統就職式は豫定の如く十月十日を以て北京に舉行されたり。午前八時二十分燕尾服姿の新總統徐世昌氏は五條胡同の自邸を出で、自動車にて新華門より寶光門に出で、大禮堂に入るや馮副總統及び兩院議長國務員等の出迎へあり、次で兩大總統國旗に向つて敬禮の後頌詞答詞の交換あり、終つて徐總統は馮副總統を送つて居仁堂に至り暫時談話の後馮氏辭去、無事更代の禮を了り徐總統は又た大禮堂に引返し、兩院議長議員及び文武百官參列の内に

余誓以至誠遵守憲法執行大總統之職務謹誓

と約法を記されたる文句通りに宣誓し、畢つて各員の觀賀を受け、然る後次に掲ぐるが如き宣言書を朗讀するや、南苑航空學校の飛行機二臺大禮堂上空を盤旋し祝意を表し、

海軍部午砲處は禮砲を放ち、階下軍樂大いに作る中に各員徐々退出、時に午前十時、次で外交團、天主堂主教及び清室代表の觀賀あり午後零時半に至り徐總統漸く本邸に歸れり。

世昌不敏政に従ふこと數十年なり矣憂患の餘生備さに世變を経たり近年閉戸養拙復た時政を與聞せず國是糾紛群情隔隔の際に當り猶ほ將さにその忠告を竭さんとし之を匡持する所以を思ふ蓋し平日憂國の抱時賢に異ならざるも惟だ衰老の年を以て再び政柄に居るを願はざるのみ耿耿たる此衷當さに能く共に見るべし乃ち總統改選の期に値ひ國會の一致推選する所と爲り屢々惴惴を貢して固辭すれども獲ず國人付託の重く責望の殷なるを念ひ已に本日に於いて法に依り就職す惟だ是れ事變紛紜極軌に超く我が國民の希望する所の者亦能く時局を解決し治平を促進する耳而して昌の慮る所は弭亂の近功に在らずして經邦の本計に在り僅かに國家自身の記畫に囿られずして面して必らず將來世界の眼光を具有せん敢へて至誠極懇の意を以て我が國民のために正に之を告ぐ

今我が國民心目中の注意する所尙な曰く南北の統一と統一を求むるの方法は固より宜しく和平を尊重すべし和平の達する能はざる所の者は則ちこれを武力に訴へざるを得ず乃ち其の已往の迹に溯るに兩者皆困難あり當日國人果して能く一心一德以て事機に赴かば亦何ぞ擾攘頻年重ねて國脈を傷ふに至らんや

世昌救民救國を以て前提と爲し竊かに誠心を以て統一の

進行を謀り毅力を以て和平の主旨を達せんことを願ふ果して閭閻をして私悟せしむれば休養期すべく民國の前途希くば豈あらん否らざれば則ち息爭弭亂徒らに空言に託せば或は虞る詐の相尋ぎ兵戎の再び見はるるを致さん邦人既に苦兵の嘆あり友邦且つ厭亂の心を生せん事變を推原するに必らずその咎に尸る者あらん此れ先づ全國の爲めに告げざる能はざるなり

然りと雖も此第だ一時の大局を解決する耳根本立國の圖に非ざるなり世界に立つて國を成す必らず特殊の性質とその運用の機能あり我國戸口繁殖而して生計日に凋殘に即き物產蕃滋而して工商仍は幼稚に居る是れ必らず民生主義を適用し力を悉して實業を擴張するは乃ち目前根本の計たり蓋し國家の長治を期せんと欲せば必らず先づ人々をして以て生に資するあらしめ而して國家をして漸く昌強に躋らしめ以て列邦と相提挈せんと欲せば尤も必らず全國の實業をして日に以て發展せしむべし況んや地沃農に宜しく原料給せざるを虞るゝ無きおや果して能く財力を燃集し佐くるに外貨を以てせば墾政普く興り工廠林立せんその優劣を課りて之に隔導を加へ更に國力の及ぶ所を以て教育を振興し國人をして漸く國家の觀念と夫の科學の知能とあらしむれば則ち利用厚生事半ばにして功倍せん十年の後必らず觀るべきあらん此れ立國の要計凡百の有司及び全國の商民の應さに全力を出して以て之を圖るべき所の者なり

立國の主要は既に上述の如し但だこれを目前の狀況に接

るに土匪は滋擾し戸口は流亡し商業は凋零し財源は涸渇す惟だ驟かに此れを語り難きのみにあらず抑も且つ適々その反を得ん是れ必らず先づその障礙を去り盜匪を嚴剿し有司を慎選するを以て入手の辦法と爲し然る後計政を調劑し金融を振導し次第に之を整理すべし障礙既に去れば乃ち爲すべきあり此れ又必經の階級にして當さに先づ籌措を事とすべき者也

内政の設施は尙ほ國內の能力を視て以て緩急の序を爲すべしその最も重要關係ありて世界の注目する所と爲る者は則ち歐戰後國際上の問題と爲す歐戰發生より以來我國已に合従の勢を爲し參戰義務の在る所惟だ力是れ視る詎んぞ因循すべけんや而して戰備邊防同時に並舉するは兵力財力實に未だ敷かざるあり因應稍々疏なれば動もすれば大局に關す然れども此れたゞ目前の情勢に就いて之を言ふ也歐戰已に將に結束せんとす世界の大勢當さに變遷あるべし姑らく他人の我に對するの如何を論するなく此の旋渦に當る當さに自立する所以の道を求むるを要す逆料するに兵爭既に終れば商戰方さに始まり東亞の片壤は殆んど必らず企業者集目の地と爲らん我は則ち民業未だ振はず内政修まらず此因を長ずれば仍ち勢坐困を成しその危險たる今に十百せん故に必らず統治の實力あり而して後國家の權利乃ち能く發展し國際の地位乃ち能く保持されん否らずしてその間に委蛇し一籌展びる莫ければ國基且つ殆ふし又安んぞ外交の言ふ可きあらんや此れ國家存亡の關鍵我が全國の官吏商民深く長思せざるべからざ

るなり

民徳の墮落國紀の凌夷に至りては風氣の趨く所伊れ朝夕にあらず挽回して之を振厲せんと欲せば當に昌より始むべし安敬以て己を律し誠信以て人を待ち克儉克勤を以て立身の則と爲し去貪去僞を以て制事の方と爲すべし凡そ國に損あり民に害ある者は必らず力を竭して之を驅除せん能く社會をして稍々頽風を息め即ち國家のため元氣を默培せん而して尤も要は法律を尊重し道德を扶持するに在り一切權利の見意氣の争は皆その紛擾に用ふる所なし賞罰は必らず信是非は乃ち公、昌一日職に在れば必らず此意に本づき以て推行を爲し經々の性始終之を以てせん冀くば以て國政を刷新し末俗を振拔せん凡そ我が國民亟かに應に共に勉むべし

昌の國民に告ぐる所以のものは此れその大略也蓋し今日の國家は譬へば彼の久病の人の如し醫を善くする者は須らくその正氣の在る所を審らかにして之を調護せば希くは氣體の虧漸に由つて復せん假令培補未だ終らざるに繼ぐに損伐を以てするは是れ自から戕るなり醫する者何ぞ預からんや國を愛するは身を愛するが如きあり昌敢へて最誠摯親愛の意を以て國民に申告す

段總理罷免

●錢能訓の代理總理任命●

十月十日總統令を以て段國務總理の辭職を許し、内務總長錢能訓總理代理兼任を命ぜらる。是れ單に豫定の行動な

り錢は徐世昌幕下の舊官僚にして民國二年國務卿たる徐氏の下に政事堂右丞となり、徐氏の下野と共に平政院長に轉じ、幾くもなく辭職し、昨年十二月段内閣瓦解し王士珍内閣成立するや同内閣に入つて内務總長となり、本年三月王氏の後を承けて總理代理たりしことあり、本年五十歳楊士琦氏去つて以來は徐世昌系政治家中の先輩とし、特に徐氏の知慧袋と目され居たる人物なれば過渡内閣の總理としては適任なるべし。

同日國務院秘書長方樞辭職を許され郭則澧後任を命ぜられたり。

廣東特使來朝

廣東軍政府の命を帶び我が朝野に南方の實情を訴ふる目的を以て、同政府秘書廳長章士釗氏は五日上海發來朝、熱海に唐紹儀氏を訪ひ打合せの上十二日入京せり。來朝の目的は或は南方承認に關してなりと言ひ或は調停依頼のためなりと傳ふるも明かならず、要するに従來の北方援助方針を改め、真正の意味に於ける傍觀主義を執られたしとの運動を試みるに在らん。章氏字は行嚴、湖南の人にして日本及び英國(エヂンバラ大學)に學び、第一革命の際歸國して民立報主筆(社長は于右任氏)となり、第二革命には討袁軍秘書長として岑春煊との關係を生じ、失敗後東京に亡命して雜誌「甲寅」を發行して論壇の最高權威と目され、第三革命起るや又岑の下に走つて軍務院秘書長となり、第三革命後の政界に於ては岑と政學會(谷鍾秀、張耀曾一派)との聯

絡を作り岑のために足溜りを作りなどし、終始一貫岑のために盡し、第四革命に岑の廣東に向ふや随同して軍政府秘書廳長となるなり。民國第一流の政治學者にして特に憲法の權威なり。而して氏の政治的地位の影響する所、今や最も熱心なる妥協論者たりといへば氏の使命は想察に難からず。

對支借款方針の聲明

東京諸新聞の傳ふる所によれば、新内閣は從來動もすれば隱密的なり我利的なり又は一黨一派に偏せりなどの非難ありたる前内閣の對支借款方針を墨守せず、支那國民の康寧利益を旨とする新方針を採用すべしといふ。此說一度び唱へられて支那殊に南方派に多大の好評を起し、何れも原内閣がその期待を裏切らざるを喜べり。但し此の報道の確實性なほ未だ保證せられず。

平和運動進展

徐世昌氏の大總統就職を機として平和運動漸く發展し來れるの狀勢に在り。今之を分析して報道せんに

一、張謇氏の意見發表 在野元老の尤たる江蘇通州の張謇氏は久しく沈黙を守りて世事を問はざるものゝ如くなりしが徐氏の諮問に應じて平和意見を發表したり。氏の此の態度は江蘇督軍李純氏と協議の結果なるは勿論なり。

二、陳光遠氏の北上 長江三督軍中の一人たる江西督軍陳光遠氏は、十月十四日發漢口經由入京せり。氏の北京行

の用向は徐氏當選祝賀を兼ね大局の解決を主眼とし、江西省の軍費問題を副目的とするものなるは情報に依りて明かなり。而して長江三督軍及び湖南の吳佩孚氏等は、實質に於て南方派にして、孫洪伊氏の意見が此の四氏の間に重きをなす點より考ふれば、陳氏の北上は眞正の意味に於て南北接衝の開始なりと考へられざるにあらず。

三、モリソン顧問の奔走 總統府政治顧問英人モリソン氏が、十月上旬廣東に南下し、伍廷芳、岑春煊兩氏と會見し、頻りに奔走しつゝあるは亦専ら南北妥協のためにして上海の民黨側はモ氏の意見に對し國會問題について不滿の點あり到底承認し難しと非難し居れり。

四、米大統領の祝電 米國大統領ウィルソン氏は十月十二日附を以て徐氏の就職に對し祝電を寄せたるが、その中に左の如き文句あり、

此の文明變化最も緊要なる時中國内亂に因つて自から分析せり若し早く爭端を息めずんば友邦と協同一致して正義維持の目的を達すること難し今貴大總統就職の日は正に貴國各派首領の愛國を以て懷と爲し一切を犠牲として争を息むるの時にして更に宜しく和衷告濟力めて國民の幸福を謀り南北を統一し國際公會中に於て亦その應に有つべきの地位を佔むべき也。

大戰參加以來非常の勢力を世界に對して有し、殊に講話問題の發生以來世界第一の花形役者となれるウィルソン氏の此の如き意見は、徐氏をして如何に力強く感ぜしめたるか豫料の外に在り、ウ氏はかくて徐氏の平和策に力強き支持

を與へたるのみならず更に駐支公使ラインシ氏をして盡力せしむる所ありたり。

五、ラインシ公使の進言 さきに賜暇歸任せる駐支米國公使ラインシ博士は、最近歸任し去る十月十八日徐總統に謁見し、南北統一に關し有意味の進言をなしたり、而して氏が此れを爲すに際し使用したるは法律顧問米人ウイロービー博士の調停意見書なり。

六、ウイロービー博士の意見書 帝制問題に際し有名なリシ米人グッドナウ博士の後任として招聘されしウイロービー博士は、最近左の如き調停意見を携さへ、徐總統、錢總理代理、梁士詒氏等を歴訪したりと。

(イ)北京廣東の新舊國會より同數の議員を選び上海に於て臨時聯合國會を開催し先づ適當の憲法を作成し直ちに臨時聯合國會を解散し新たに新憲法に依り新國會を北京に召集す

(ロ)副總統は西南各省より推薦し上海の臨時聯合國會に於て徐總統及び西南推薦の副總統を同時に承認す

(ハ)兩軍は現在の戰線より以前の駐屯地に撤退すること

七、日本の對支借款方針變更說前項に詳述せり。

八、英字紙の議論 上海にて發刊する英人機關紙北支デーリーニウス、フアーイースタンレピウ、北京の同北京デーリー等は、最近一齊に起つて南北調停論を唱導したるが中にも北京デーリーは

若し長江督軍連にして妥協を成立せしめ能はすんば姉妹共和國たる米國大統領に調停を請ふべし

と論じ、北支デーリーニウスは

外人よりする調停は捷徑なり而して之をなすに當つては英米兩國政府を以て限りと爲すべし日本は之に加入せざるを便とす寺内内閣十八ヶ月の對支政策は支那人に猜忌を與へたり日本は今回の調停に於て傍觀の態度に立つて賢とす

と暴論しフアーイースタンレピウ十月號は更に一步を進めて幾年かの期限附を以て支那の財政を共同管理すべしと極論せり。固より在支外人の意見と各本國政府の見解とは多大の相違あり、殊に北支デーリーニウスの北京特派員がフアーイースタンレピウの主筆なるが如き關係に見れば、かゝる議論の齒牙にかくるに足らざるは勿論なれどその支那人に及ぼす影響は看過す可らず。

九、平和促進會組織 これ即ち梁士詒一派が徐の就職を機として決然安福派と離れ、交通系を中心とし、研究系を隨へて組織せんとするものにして、背後に徐其人あり、北洋主利派の大同團結と目すべく、上來述べ來れる諸運動の集大成せるものと稱すべし、その活動は將來に期待せらる



時報

經濟

●無線電信借款內容

支那政府とマルコニー無線電信會社との間に成立したる、無線電信借款の内容左の如し。(時報)

(一)總額 二十萬磅其内七萬磅を建設費とし十三萬磅を準備費とす。

(二)利息 八分

(三)建設後 二年半目より四期に分ちて償還を開始す。

(四)同借款 喀什爾爾迪仁蘇州に無線電信臺を設立す。

●福中公司活躍

河南省一體の礦産に絶對の權利を有する英伊北京シンジゲートより成る福中公司是、今回衛



河沿岸潯縣地方の堤防修繕費として、多大の費用を提供する事となり、目中河南省議會に於て、之が辦法に就て審議中なりと云ふが、是れ表面該公司の公共事業に援助的投資をなし、以て支那人の對公司感情を融和す可き一手段に外ならずと。(神州日報)

●外債私借嚴禁

支那礦山業者が採掘許可證を擔保に充て、外人より資金を借入るゝに對し、外交部は農商部を経て各省實業廳に嚴禁すべく命じ、權利を保持すると共に交渉を未然に防ぐ事とせる由。(時報)

●漢陽兵工廠現狀

同兵工廠は、從來職工を増加し夜間作業を爲し甚だ繁忙を極めつゝありしも、今回經費の輕減行はれたる爲め、十月一日よりは臨時増加の職工を解雇し、夜間作業を停止して經費の節減を計りつゝあり、而

して其結果は小銃の如き日本より輸入せる材料頗る豊富なるにも關はらず、毎日僅に五十挺を製出し得るに止まり、小銃彈は今迄毎日十六萬發を製出し得る能力ありしも、現在九萬發を製造するに過ぎず、更に又大砲の如きは僅かに七瓏半或は十二瓏砲三四門を製作し得るのみなりと。

(北京日報)

●華成鹽業公司 江蘇南通の大實業家として知られたる張賽氏等は華成廟灣鹽業公司を創立せり、一株一千圓

資本金百二十五萬圓にて既に滿株となりたり本事業は以前より好成績を擧げ相當の利益を博せしものなるが故に、資本公司に信用厚きは尤もなりと云はざる可からず、臨時社長張賽氏は過般上海佛租界大馬路外灘の通海實業公司に於て創立大會を開催したるに遠く南通より上海に來りし者或は代表者等三百餘名の參集を見たり、諸般の報告に次で鹽務の利益多き事業なるを述べ、社長取締役監查役の選舉に移り終りに適當なる時期に株金を増募することある可しと議決して散會したり、役員左の如しと云ふ。(時報)

社長 張 賽 專務取締役 朱子播

監查役 張佩儼 監查役 林味聲

取締役 張退庵 取締役 周扶九

取締役 張作三 取締役 章靜孫

取締役 周孝懷 取締役 陳齡孫

取締役 韓奉持 取締役 某

●九月中認可礦產 九月中支那政府に於て採掘認可を與へたる國內礦產左の通り。

日附 地名及鑛種

湖南省

三 益陽縣李當冲鎔鑛

二五 新化縣潭家冲同上

二三 溆浦縣蔣萊冲同上

湖北省

一六 大冶縣菱橋堡胡李山鉛鑛

奉天省

三 蓋平縣徐家屯苦土鑛

一六 海成縣南大望老山同

一一 西安縣孟家亮炭鑛

二三 海城縣梨溝同上

二〇 鐵嶺縣主家大溝砂金鑛

二八 西安縣孟河亮炭鑛

二八 興城縣富兒溝同上

吉林省

二八 伊通縣四書匠屯煤山鑛

五 樺甸縣潭河邵二哈達銀鉛鑛

五 密山縣小黃泥北河山炭鑛

直隸省

二〇 井陘縣觀家臺炭鑛

二八 同縣周家坑同上

一一 同縣黃家溝同上

京兆

一一 齊堂炭鑛 官商合辦公司 監督 呂調元

請願者

陳光壽

楊光植

黃忠績

劉人祥

高濬成

王成立

梁恒德

楊福源

于福椿

威國鄉

王炳章

孟慶延

邱章

袁大彰

王葆英

陳寶善

段啓勳

一一	辰山縣北害大南玻炭礦	蘇振宗
山東省		
一六	平度縣南家莊鉛礦	金廷壁
一六	淄川縣黨街莊炭礦	朱雲梯
七	博山縣秋溝 同上	錢汝能
二八	淄川縣鞏家塢章邱炭礦	毛得蓉
一一	平遙縣沙溝口同上	王文昭
甘肅省		
一六	靜寧會寧兩縣罐子炭礦	毛義
安徽省		
四	繁昌縣柿沖山炭礦	關伯平
五	懷寧縣象山蓬萊山鐵礦	張伯衍
一一	同縣倪家沖炭礦	吳鳳韶
江蘇省		
一六	江寧縣旺山炭礦	鮑德和
一一	東海縣錦屏山鐵礦	沈蕃
浙江省		
二〇	長興縣景牛山鐵礦	吳秉鈞
一一	上抗塢東陽縣裡岡塢弗石鐵礦	何紹韓
六	諸縣栗樹灣瓜子灣炭礦	許達源
一六	永嘉縣坑山鉛礦	王登
江西省		
五	瑞昌縣銅嶺山鐵礦	金還
福建省		
二五	永泰縣馬尼地鉛礦	余宏瑞

●支那勞銀調查

北京農商部は各省長官に向つて其所屬道尹をして勞働工賃を調査せしむべく進達したり、其内容は稍詳細を極むる者なるが、今其數要點を擧ぐれば、即ち(一)所謂勞働者とは専ら壯年にして能く服役に堪ゆる者を指す、老幼工は其内に在らず、(二)勞働者を最高、普通、最低の三種に分ち、(三)其工賃の數目及び年給月給日給と給食否やを調査す、(四)農事、服用品製造、飲食品製造、建築工事、器具製造及び雜業に従事する勞働者に類別せり。(時報)

●潞澤煤鐵公司

山西省、潞安澤州一帶に於ける石炭及び鐵礦採掘を目的とする、潞澤煤鐵公司なるもの該地方富紳趙有恒の發起により設立せられ已に株券の募集を開始し、其筋の許可と共に開業の運びに至らしむべく奔走中なるが、機械は米商より購入すべく人を上海に派遣せり。(北京日報)

●山西の鹽井發見

山西省浮山縣劉村の王某は其所有畑地に一井戸を開掘せしに、湧水に多量の鹽分を含有し、之を乾燥したるに良好にして海鹽と差なき佳良のものを得るに至りしを以て、今回募債の上一鹽公司を設立する事となり。已に準備に着手せりと云ふ、現在に於ける一日の製鹽は僅に一、二百斤なるも設備完成の上は、充分の生産量を得べし、尙は益々研究の上擴張し、製産額の増加を計るべしと云ひ居れり。(順天時報)

●丹華公司増資

北京丹鳳と天津華昌の兩燐寸會社合併して、丹華火柴公司を組織し、資本金を五十萬元に改

めたるが同社は右五十萬元を第一次の優先株とし、今回更に第二次の優先株二十五萬元を募集して、東工廠の開設、及北京天津兩工廠擴張費に充つる等にて、新募株は一株を五十元とし、十月十五日より明年二月十五日迄に金額拂込みの規定にして、株利は年六分利益配當は此外に計算す。

(北京日報)

●度量衡統一反對

農商部權度量局に於て制定支那統一度量衡器は、既に實施し居れるも、内實は有名無實にて北京に於てさへ之を使用する者少なく、新舊度量衡の使用上商人間に紛争を醸す場合多きが、此新度量衡を使用せしめんとするに對し、商人間に大反對を惹起し、代表者を晉京せしめて、京兆尹公署に新衡器の弊害を具申せる地方もあり。(北京日報)

●京漢鐵道成績

北支那と中央支那とを連結せる交通上の大動脈京漢鐵道は、水災の頻出と軍事輸送の多忙なりしにも拘はらず、當局の施設其の宜しきに稱ひ、現業員の晝夜を分たざる努力とに因り、本年上半期の収入は昨年一昨年に比較して百六七十萬元の増加を示したり、用兵の時水災の後能く此の好成績を奏せるは適々以て人力が天變に打克ち得ることを示せるものと云ふ可し、京漢鐵道管理局長は各員の能率に應じ、潤澤なる特別賞與を支給したり、左に同鐵道最近三個年の上半期収入額を比較して參考に供せん。

五年上半期収入額
客車收入 二、八五一、一九〇_元

貨車收入 六、九七〇、一五三
雜收入 七、二三六

計

六年上半期収入額

客車收入 二、七七五、〇二八_元
貨車收入 六、九六七、二六八
雜收入 八、六六一

計

七年上半期収入額

客車收入 三、二一二、〇五四_元
貨車收入 八、二六七、九四五
雜收入 七、二九一

計

右の表によりて本年上半期の増收額が前年上半期に越ゆること百七十三萬六千三百餘元、五年上半期に越ゆること百六十七萬八千七百餘元に上ぼりし事を知る。(北京日報)

●京綏線の營業 京綏鐵路の營業は近年頗る發展し來る、本年八月中の収入を昨年の同月に較ぶれば、非常なる懸隔を示せり即ち

昨年八月の收入 一九四、九〇一元
本年八月の收入 二八七、〇六九元
本年の増進額 九二二、二六八元

昨年自一月收入 二、一六二、二二一元
本年自一月收入 二、六八八、五五二元

本年の増進額

五二六、三三一元

●京綏支線變更

京綏鐵路の煙筒山に達する支線は當初宣化縣屬の舊家廟より煙筒山に至る豫定なりしも、同線は測量の結果遠距離になるを以て、宣化驛より城西吊橋河隄を經水磨房に至り煙筒山に達する線路に變更し、已に

測量を了へ之に確定せりと。(時報)

●西北自動車公司認可

支那紳商楊作周氏等資金を集め、創立せる西北自動車會社は、張家口より内外蒙二帶に往來貨客を輸送する計畫にて、已に交通部及農商部の認可を經登記を了せり。

●主要叙勳任免

十月一日付

加陸軍少將銜 喬廣雲、單世俊、陶治平
授一等軍需正 關書綸

十月二月付

任運河工程會辦 潘復、嚴智怡
加陸軍々醫監 王瑞芳、張修爵

給二等大綬寶光嘉禾章 江天鐸
給二等寶光嘉禾章 何燭、秦瑞介
給三等寶光嘉禾章 那端、陳承修

給二等大綬寶光嘉禾章 徐華清

給二等大綬嘉禾章 劉冠南

給三等寶光嘉禾章 屈永秋

給二等嘉禾章 王文藻

給三等嘉禾章 徐英揚、王鈞、穆安素

十月三日付

授陸軍中將 張鴻緒
給二等文虎章 李飛鵬、黃邦本
給三等文虎章 李松齡、鄒致權

十月四日付

給三等嘉禾章

加陸軍少將銜

給一等大綬嘉禾章

給二等寶光嘉禾章

給二等大綬嘉禾章

給二等嘉禾章

胡樹標、喬建才

給二等文虎章

給三等嘉禾章

同

給三等寶光嘉禾章

給三等文虎章

十月五日付

授陸軍中將

任浙江政務廳長

免本職福建財政廳長

任署福建財政廳々長

給二等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

韓寶禮、陳興亞

王蘭道

津什呢瑪

劉泰霖、吳

許寬衡

十月六日付

給二等大綬嘉禾章

給三等文虎章

授陸軍中將

授陸軍少將

給二等嘉禾章

給一等文虎章

給一等大綬寶光嘉禾章

給一等大綬嘉禾章

給一等文虎章

給二等大綬寶光嘉禾章

給二等大綬嘉禾章

給二等嘉禾章

給三等嘉禾章

十月七日付

授陸軍中將

授陸軍少將

給二等嘉禾章

給一等文虎章

給一等大綬寶光嘉禾章

給一等大綬嘉禾章

給一等文虎章

給二等大綬寶光嘉禾章

給二等大綬嘉禾章

給二等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

給三等嘉禾章

恩華

斯脫杭

玉遇甲

孟彥倫

徐聯康、張志、張孝移

朱獻文、楊隆杭、黃德章、尹朝植、沈家榮、

梁叔熊、范之杰、邵修文、

安永昌

錢能訓、曹汝霖

陸徵祥、段芝貴、田文烈

增湘、廖昌

章宗祥

李思誥

陳發、吳鼎昌

陸宗輿

楊以德

俞紀璣、王桂林

胡恩義

金鼎勳、王恩貴、劉保鴻

羅樹林、高航、謝壽、
給三等寶光嘉禾章

李和

十月九日付

十月十四日付

劉保慈、呂式斌、陳毓華、
十月十五日付

授贊威將軍

兼任幣制局督辦

任幣制局總裁

免本職交通次長

任交通次長

陸軍中將の原官を回復し並に勳位勳章を給還す

還す

免本職湖南財政廳長

任湖南財政廳長

任長沙關監督

任甘肅陰平鎮守使

給一等太綬寶光嘉禾章

給二等大綬寶光嘉禾章

阿穆爾、圭塔旺佈甲里拉

給二等大綬嘉禾章

鄂多肇、鄧、巫懷清

田應璜、孫潤宇、梁善濟、林步濟

給三等寶光嘉禾章

屈蟻、齊寶善

給二等文虎章

劉富有、李得勝、蕭俊生

衛興武、周茂奎

屈蟻、齊寶善

給三等文虎章

劉文翰、冀汝梅、郭桂林、劉乃勳

盧殿英、張國寶、張輔漢、劉鏡清、玉祺

安海蘭、周傳元、陳俊、齊星棟、陳紹五

楊吉揮、段芝昆、張

程昌恒、周培炳

虞維鐸、郭熙標、

給二等嘉禾章

習殿林、孫樹林、申振林、沈再蕃

楊毓鑽、張家藩、

給二等寶光嘉禾章

徐鎮淮

給二等大綬嘉禾章

余建候

給三等嘉禾章

尹之、陳繼曾、劉景沂、聯成

免職

給三等文虎章

兼任署遼源交涉員

署洮昌道々尹、金梁

給二等寶光嘉禾章

詹天佑、曾毓雋、方樞

給二等大綬寶光嘉禾章

施肇基、胡維德、顏惠慶

顧維鈞、唐在復、王廣圻、汪榮寶、戴陳霖

夏詒霆、

給一等大綬嘉禾章

徐樹錚

任署奉天洮昌道々尹

赫林布

給二等嘉禾章

蔣尊祥、姚國楨、劉符誠、胡乃泰

顏德慶、

李光恩

給二等文虎章

張耕光

給三等嘉禾章

周家義、雷光宇、劉成志、

葉瑞芬、張仁侃、張祖廉、

水鈞韶

給三等文虎章

洮昌道々尹、赫林布

免職

署洮昌道々尹、金梁



彙報

自十月一日至十月十五日

對露關係

▲支那軍隊出兵準備 (安東縣特電二十八日發) 支那軍隊は四伯利出兵の爲めとして連日訓練に努む。(一日、時事)

▲過激政府に抗議 (北京特電二日發) 支那政府は今回左の如く宣明を爲し北京駐劄各國公使に宛て通告し來れるが是は浦潮駐在支那領事の意を參酌し米國政府の慈愼に原因せるものなり。

支那は眞に露國の要求により多數の勞働者を露國領土内に輸送せり然るに過激派軍隊は西部烏拉爾の金山探掘に従事せる支那勞働者三千名を使用し之を戰線に使用せる爲め其内三百名戦死し四百名負傷せり右は人道上由々しき問題なるを以て今回支那政府は過激派政府に對し嚴重なる抗議を提出することとせり云々。(六日、時事)

▲露支國境閉鎖を解く (七日哈爾濱特派員發) 露領各地の擾亂以來露支間の國境を閉鎖され居たる所今同全く復舊開通を見るに至り北滿洲と露領各方面との貨物輸出入は茲に自由となれる旨當地露國總領事より一般に布告せり尤も右は貨車の缺乏軍用列車運轉の都合に依る障害等は別問題にして只公式に閉鎖を解きたるの意なり。(九日、日日)

▲代表派遣督促 (北京特電五日發) 露國公使は外交部を訪ひ全露國最高機關としてウーファに議會及假政府を設けたるを以て支那政府より外交代表者を遣らんことを求めたり。(九日、日日)

▲チエツク軍承認 (七日北京特派員發) 支那政府は六日附にてチエツク軍を交戰團體として承認するの宣言書を發表せり其大要に曰く。

チエツク民族は獨立國家を組織せんとし獨逸軍に反對するを目的と爲す支那政府は固より同情を表せり支那政府は聯盟各國と其行動を共にするもの

なるを以て同民族の西方進撃に就き東清鐵道を貸し種々の援助を與へたり今後進んで同民族が武力を以て獨逸防禦の目的を達せんことを冀ひ特に西伯利に於けるチエツク軍隊を以て獨逸に對し正式戰闘に従事する聯合側交戰團體たることを承認し之に聯合國軍隊と同等の特遇を與へ且つチエツク國民委員會を以て統御能力を有するものと認め若し必要事件あらば同委員會と交渉すべし。(十日、朝日)

外交關係

▲支那出兵通告 (北京特電二十八日發) 支那政府は米國代理公使に向ひ支那が今回ブラゴエシチエンスクに出兵するは全く米國が協商國に提議して西伯利援助の爲出兵せると同一の趣旨に出で米國及協商國と一致の態度を取るにある事を通告せり。(二日、日日)

▲英國阿片抗議 (二十九日北京特派員發) 英國公使は支那政府の阿片買收策に對して是れ阿片貿易の復活にして千九百十一年の英支條約に違反するものなりとの抗議を提出せり。(二日、朝日)

▲支那出兵中止 (北京特電二十九日發) 支那政府は某方面よりの勸告によりブラゴエシチエンスクの出兵を中止したる爲二十八日米國代理公使に交付せし出兵の通告を撤回したりと。(三日、日日)

▲協約功勞者行賞 (北京特電三日發) 總統令にて上原參謀總長、大島前陸相、島村軍令部長、加藤海相等に一等大綬寶光嘉禾章を又青木宣純中將に一等大綬嘉禾章を、田中陸相に同文虎章を船津書記官に二等嘉禾章を其他日支軍事協約功勞者に對し各勳章を贈與せり。(六日、日日)

▲自然の解決を待つ (上海特電三日發) 駐日公使章宗祥氏は北京政府に向ひ日本新内閣の對支方針に關し内田新外相が日本は支那の南北何れをも援助せず自然の解決を待つのみなりと語れる旨打電せり。(六日、日日)

▲支那の回答を承認 (北京特電四日發) 北京駐劄の日英露佛四國

公使(及代理公使)は昨日英國公使館に於て會議せる結果金券條例公布に關する支那政府の回答に就き四國政府は多少不満足の點あるも支那政府に同情する意味に於て何等議論を用ひず人體に於て支那政府の回答を承認することに決し四國公使は昨夜何れも其旨支那政府に通告せり。(八日、日)

敵國人移居令

(北京特電八日發) 支那政府は敵國人を一定の場所に移住せしむることに決し第一指定地を直隸省房山縣雲居寺(有名なる古代石佛を安置せる地)に定め蕭後生氏を管理所長に任命し敵國人指定移居地管理所章程九箇條を發表せり同地には電燈、水道、溫房等の設備あり贅澤極まる物にて先づ黑表に載せる者政治的隱謀をなす者を收容し婦女には及ぼすと。(九日、日)

山東撤退善後

(北京特電五日發) 日本政府は山東鐵道守備兵を撤退し今後山東鐵道の保護に支那軍隊及警察に一任する事に決定せり但濟南府には尙少數の日本軍隊を駐屯せしむべしと。(九日、日)

會審衙門廢止要求

(上海特電六日發) 上海地方檢察廳、上海總商會、上海立憲公會(辯護士)は等しく北京司法部に對し上海會審衙門の如きは世界何處にも此種の組織無く又上訴機關無く加ふるに適用の法律も無きな以て之を取消すことを電報にて請求せり依つて司法部は之を外交部に移し外交部は公使團に對し會審衙門取消の要求を爲せりと云ふ。(九日、日)

金谷司令官披露宴

(天津特電六日發) 金谷司令官は本日アストルハウスに省長曹銳氏を始め各地方官を招待し新任の披露をなし沼野總領事其他も臨席せり。(九日、日)

支那留學生の脅米

(香港國際特電八日發) 前支那大統領黎元洪氏秘書官及び數年間支那商工業委員幹事たりし王氏は米國に於て教育を受く可き支那學生四十名の一團を率ゐて當地に到着したり河南省より派遣せられたる留學生二十二名は工業の研究に従事す可し。(十一日、時事)

各公使平和忠告

(上海特電九日發) 各國公使は北京當局者と會見し多くは個人の資格にて南北問題に關する意見を述べ支那に鞏固なる政府を組織し和平を旨とし時局を解決し一致して獨逸に當るべき事を希望したりと。(十二日、日)

暴行事件落着

(奉天特電十日發) 柳條湖附近滿鐵線路上に於ける

支那兵の列車妨害及我守備兵の武器を強奪したる事件は赤塚領事より嚴重抗議中の處北太營にある一部不正軍隊を他に移轉せしむる外日本側の満足するに足る條件にて去六日無事解決を告げたり。(十二日、日)

通信協定調節

(青島特電十一日發) 昨年來當地に開かれたる山東省に於ける日支通信聯合會議は協議成立し日本側代表者古賀通信部長と支那側代表者權量氏との間に日英支三國語より成る取極書に昨朝調印せり大體に於て獨逸に支獨間に行はれたるものに倣ひたるものにて遠からず聯絡設備を整へ實施すべし從來此聯絡なきより青島と支那各地との通信殊に上海其他との電報の往來に多くの時間を要し貿易上の不便尠からざりき。(十三日、日)

外交團祝辭

(北京特電十日發) 各國公使は新總統就任式に列席し席上英國公使は各國公使を代表し左の祝辭を述べたり、本公使は各國公使を代表し閣下が中華民國大總統に選舉せられたるに對し熱誠なる祝意を述べ今同最高の位置に選ばれたる閣下は閱歷深く名望高き政治家にして中華民國將來康福の兆と認めざる能はず茲に就任の佳節に當り本公使等は所望なる祝意を表す今後閣下の指導を乞ふ本公使は本國政府と貴國政府との睦誼日々益敦厚ならんとを切に望む總統極力國事を計り必ず南北連に統一の曙光あり中華國民をして安全幸福ならしめんことを望む外交部は(第一)外國人が商埠地以外に開店せるものを移轉せしめられたし(第二)商埠地に於ける外人の店舗は資本職業國籍を報告せしめ免許を受けしめられたし(第三)外國人の支店にして不當の買めをなす者は一律禁止せしめられたし云々。(十三日、日)

米國極東情報局長活動

(十二日奉天特派員發) 曩に米國極東情報局長アーサー・ヘランド氏は同國の奉天、長春、哈爾濱二領事と聯絡し滿蒙に活動すべく情報局を設置するの說傳はりしが同局長は其後頻繁に奉天、哈爾濱間を往復し日下在北京同國公使も奉天領事館に滞在し居り彼等の活動は内外の注目を惹きつゝあり尙奉天財政廳長は哈爾濱支那製粉會社を引渡すべく目下米國と交渉中なり。(十四日、朝日)

南北情勢

奉天軍通過默認

(北京特電二十七日發) 江蘇督軍李純氏が兵力を

以て奉天軍の南下を阻止せるに就き中央政府は直に國務總理段祺瑞、陸軍總長段芝貴氏の名を以て李純に宛福建全省の秩序回復上速かに奉天軍をして同省の急を救はしめざるべからざる次第を懇々説明し其際李純氏が部下の軍隊を省の奉天軍をして無事浦口を通過せしめんことを希望する旨電報せる所既に示威運動の目的を達せる李純氏は此上過激の態度を以て中央政府の政策に反對するは却つて不利益なりと思惟せるものゝ如く昨日附を以て奉天軍が浦口を通過し軍川線にて福建省に赴くことを默認する旨返電し來り之にて本事件は無事解決し一時不通なりし津浦鐵道も復舊せり。(一日、時事)

▲襄陽は土匪の擾亂

(漢口特電二十八日發) 襄陽附近の擾亂は土匪にして南軍と關係なし漢水の船舶は老河口以上に通る能はず土匪は隠れ場所を失ふ爲め穀物の買入れを妨害するに依り地方官は兵を出し浦入れを保護し居れり又四川より入れる南軍は竹山縣に迫れる爲め知事の家族は襄陽に避難せり。(一日、時事)

▲湖南借款反對運動

(漢口特電三十日發) 湖南の竹繼橋等當地の湖南商人に機を發して曰く張敬堯は全省の礦山を抵當として借款を起さんとす急に之を妨止せざる可からずと然れども督軍側が長沙代表に答へし所は水口山を抵當とし内債を起すの議はあれど借款は無根なりとあり。(二日、時事)

▲徐世昌氏と復辟

(北京特電二十九日發) 徐世昌氏は復辟説の傳播するに對し予の總統任期五年間は決して國本を動搖せしめざるを保證すべしと述べ内外の形勢復辟の行はれ難きこと及前清皇室の内部が張勳氏復辟の前敵に繋り之に賛成せざるの内情を詳述せりと。(二日、日日)

▲秩序維持を勸告

(上海特電三十日發) 總統府國務院は李純氏に對し新總統に就く後大局に對して正に辨法ある可し所屬各將士に對し安寧を維持するを前提とせん事を傳へられたしと。(二日、時事)

▲徐世昌氏斷乎就任

(上海特電三十日發) 徐世昌氏は如何なる態度を以て外部の人より迎へらるゝとも十日職に就くに決せり。(二日、時事)

▲馮氏に留任を勸む

(上海特電三十日發) 岑春煊氏は馮國璋氏に公は法により總統代理たり時に法により職を去る可し次期の總統正式に選舉さるゝ迄尙は暫らく代理を乞ふと打電せり。(二日、時事)

▲馮總統徐氏を訪ふ

(三十日北京特派員發) 馮總統は二十九日徐世昌を訪問せり其要件は新舊總統更代の打合を爲し徐氏の早く總統府に入りて就任し外間の謠言を生ぜしむることなかれと勸告したるなりと。(二日、時事)

世昌を訪問せり其要件は新舊總統更代の打合を爲し徐氏の早く總統府に入りて就任し外間の謠言を生ぜしむることなかれと勸告したるなりと。(二日、時事)

▲廣東政府代行案

(上海特電二十九日發) 廣東舊國會に軍政府をして正式に政府の職權を行使せしむべしとの提議を爲せるものあり其條件は左の如し。

(一)軍政府に約法上政府の職權を代理せしむ

(二)首席政務總裁に國務總理を代理せしめ政務總裁として國務院を代理せしむ

(三)總統選舉前軍政府政務會議を開き總統の職權を行ふ

(四)約法上總統の職は政務會議を開き之に任す

(五)首席總裁は内外に對し場合により首席總裁又は代理國務總理若くは護理代辦總統の名を以てするを得。(二日、日日)

▲聯合主和通電

(北京特電二十九日發) 二十六日在湖南南軍首領譚浩明、譚延闓、程潛、馬濟、李書城、章榮昌、張其鈺、陸裕光、趙恒惕、林修梅及北軍師團長吳佩孚(弟三)李奎源(弟五)楊春晉(江蘇第十九)湘南鎮守使趙春廷、同總指揮官張宗昌、旅團長馮玉祥(弟十六混成)王承斌(直隸第一混成)閻相文(直隸第二混成)顧耀南(直隸第三混成)張學顏(第五)氏等連名にて北京政府に打電して曰く。

昨午國會解散以來民意を代表するものなく舉國騷然たり若し當局者にして法律に基き解決の方法を適すに於ては此紛糾を解き得べかりしに事此に出でず新國會成立し新總統の選舉を行へり是武力を以て強て不完全なる選舉を行へるものにして眞の民意にあらず假令總統に選出さるゝ者の名望高しと雖も其出づる處名正しからず詞純ならず遂に南北分裂の禍之に従て起らんとす今や總統更迭の期日目前に逼れるが當局者たるもの良心に訴へ再び主戰主義を固持して國難を延ぶる事なく危急を救はんことを望む新舊國會の解決に就いては宜しく法律に従ふべく然らざれば國家は無政府狀態に陥らん此處に双方前敵の將領等は地方人民の塗炭を見るに忍びず馮總統に向つて曹錕張懷芝氏等各督軍が岑春煊、陸榮廷氏と協同して速に時局を解決し以て外國に對せんことを望むと。(二日、日日)

重慶聯合秘密會議

(三十日北京特派員發) 重慶にては二十五日聯合秘密會議行はれ出席者は唐繼堯を始め各軍の總司令にして其の決議の内容は中央政府に於て大總統國務總理の交迭其他政局の如何に拘らず飽迄戰闘を遂行すべき方針にて比較的抵抗力ある湖北方面を先づ進撃し然る後抵抗力少き陝西省方面に向ふ計畫なり岑春煊、唐繼堯は絶えず秘密電報の往復を爲し居れりと。(三日、朝日)

廣東陸海軍命令統一

(北京特電二日發) 廣東軍政府は目下軍司令官多數の爲め命令統一せず依つて參謀部陸軍部海軍部に命令し統一方法を審査せしめ居れりと。(三日、時事)

廣東二代表登用

(三十日北京特派員發) 廣東來電——軍政府秘書長徐謙は孫文の代表として政務會議に列席する旨廣東國會に通告し二十五日廣東に到着せり又唐繼堯の代表趙藩も既に廣東に來りしを以て唐繼堯は李烈鈞の代表者たるを辭し參謀長專任となれり軍政府は趙謙を司法部長に趙藩を交通部長に任じせり。(三日、朝日)

時局對策詰問

(上海特電二日發) 李純、曹錕、王占元、陳光遠氏等は連名にて北京政府に對し時局收拾に就き結局如何なる方針を取るべきかの詰問的電報を發せり。(四日、日日)

重慶軍事會議終了

(北京特電三日發) 重慶來電——重慶の軍事會議は略終了せるが和議に對しては北方が南方の主張たる舊約法尊重を諾するにあらざれば是に應ぜず當分現狀を維持し攻勢を取る場合には湖北を後に四川西方面を先にするに決し四川督軍には熊克武氏を任命するに決せり而して熊氏は省長專任を望み居るが黃復生、石青陽氏等之に反對し居れり四川省の財政は蕭亂の極に達し鹽稅一千萬圓にて彌縫し居れるも其分配に就き熊氏と石氏とは意見一致せず尙唐繼堯氏は會議終了次第學節に歸る筈にて二十八日政務總裁慰勞宴を開き各國領事を招きしも各國領事は唐氏の態度に嫌焉たる爲全部缺席せりと。(四日、日日)

湖南兩軍首將協定

(一日漢口特派員發) 湖南に在る南北軍司令吳佩孚、譚延闓、程潛、馬濟等は九月下旬各代表を派して和議の會議を開き討論の結果左の如き妥協方法を定め積極進行を主張すべく決定せり
一、馮大總統は北方の牽制を受ける事なく停戰命令を發布する事

二、徐世昌は不法の擁護を受ける事なく出で、調人に任じ妥協の促進に資する事

三、長江督軍及び經略使は調人に任じ速かに解決を計る事
四、新舊國會の存廢は法律を以て標準として軌道を超ゆるを得ず。(四日、朝日)

段總理曹錕を推す

(一日北京特派員發) 副總統候補者として段總理は尙曹錕を推さん事を主張し目下議員側と交渉中なり。(四日、朝日)

副總統新候補

(上海特電三日發) 二日參議院議長梁士詒氏、衆議院議長王揖唐氏は副總統問題につき段總理を訪問せしに段氏は絕對に副總統たる希望なきことを明言し主戰政策を維持し自ら兵を督して湖北を平け湖南を恢復せしは曹錕氏の功なれば曹錕氏を副總統となし曹氏の功勢に酬ゆべし此意を議員諸氏に告げられたしと答へたり。

漢口特電三日發

徐樹錚氏一派は段祺瑞氏を副總統となす計畫なりしも段氏は副總統たることを好まず却つて曹錕氏を推し警察總監吳炳湘氏をして保定に曹錕氏を訪はしめ熱議の結果曹氏は愈副總統候補として起つことを承認せり。(五日、日日)

重慶會議の決議

(北京特電二日發) 雲貴四川三省の結束を固め旁々自己の希望を鞏固ならしめんが爲め重慶に於て唐繼堯氏等は聯合軍事會議を引續き開催し原案に多少の修正を加へ左の如く議決すると共に中央に對する態度に就て唐繼堯氏の名を以て全國に通電せり。

(一) 中央政府は約法問題に就て西南諸省の要求を容れざる限りは西南諸省は北伐を續行すること

(二) 北伐方針は陝西省に對しては積極的態度に出で湖北省に對しては現狀を維持し當分攻勢に出でざること

(三) 四川省の財政は戰闘の爲め紊亂せるを以て先づ鹽稅收入一千萬元を拮据として全省財政の一統を圖り以て北伐準備の財源を豊富ならしむること

尙に唐繼堯氏は九月二十八日重慶に於て各軍司令官列席の上廣東軍政府政務總裁就任式を舉行せり軍事會議は細目を除く外右の如く大體に於て終了せるを以て近々各任地に歸任の筈なり。(五日、時事)

▲廣東省長辭職希望

(二日上奏特派員發) 廣東來電——李耀漢は廣東省議會に書を送りて曰く「軍政府の免職命令は敢て之を認めず左れど此際辭職したきを以て省議會を速かに召集し辭職書提出に便せられたし」。(五日、朝日)

▲田文烈氏就任拒絕

(北京特電三日發) 段總理の推薦せし後任者田文烈氏は内閣組織を好まず且一時總理代理たることも拒絕せし爲徐新總統は二日特使を派し錢能訓氏を訪はしめ後任の内談を遂げたるが錢氏も亦前日來病氣なりとて閣辭しつゝあり。(五日、日日)

▲四藏調停困難

(上海特電三日發) 四川省西藏の調停は更に進捗せず加ふるに唐繼堯氏の兵は西藏の停戰區域内にて戰ひ交港更に面倒となれり。(五日、日日)

▲王占元中央服從言明

(一日漢口特派員發) 浙江安徽兩督軍の代表王督軍を訪ひ湖南に赴けるが右は長江督軍が主和に就き運動し居るは對内政策上不利なるを以て此際依然一致中央を擁護し武裝謀和の方針を以て進む事に賛成せられたき旨を要求するにあり王督軍は之に對し予は和戰共に中央の命令に従ふを以て決して軌道を越ゆるが如き行動を執らずと答へたり。(五日、朝日)

▲黎天才氏代表

(上海特電二日發) 黎天才氏は劉世、張伯烈の兩國會議員を軍事代表として廣東に駐在せしむる旨軍政府に電告せり。(五日、日日)

▲式典參列電命

(北京特電二日發) 總統府は二日各省に向ひ十日總統就任式を舉ぐるに就き各代表者を選び式典に參列せしめよと打電せり。(五日、日日)

▲徐氏和議條件を秘す

(上海特電二日發) 北京來電——時局問題に就き徐世昌氏は和議を主張し岑春煊氏に對し趙炳麟氏を、陸榮廷氏に對し孫寶琦氏を、政學會派に對し谷鍾秀氏を、討論會に對し張國淦氏を、長江三督軍に對し汪有齡氏を派遣して説明せしめたるが未だに具體的條件を示さず遂に趙炳麟氏より國會、副總統、内閣の三問題に關し意見を明かにせんことを求めたることあるも徐氏は時に臨んで然るべく處置すべしといへるのみなり。(五日、日日)

▲議長選舉流會

(上海特電二日發) 三十日參議院議長選舉會を廣東

國會に開きしも法定數に達せず流會となれり。(五日、日日)

▲副總統選舉難

(三日北京特派員發) 段總理の意を受けたる安福派は曹錕に曹錕を推さんとし曹錕自身も七十萬元の運費を其弟曹銳に携へしめ議員に對しても運動を爲しつゝあるも討論會其他の反對派は副總統選舉は之れを延期すべきものなりと主張し選舉會には舉つて出席せざる旨決議せる者約九十名あり選舉會に此等反對者缺席せば全議員の四分の三を要する法定數には到達し得ること能はず十日までに選舉會を開くとしても流會となり副總統選舉は事實上延期なるべし。(六日、朝日)

▲倪督軍の辭表

(北京特電三日發) 倪嗣冲氏は病氣の爲豫て辭意を洩し居たるが最近又復辭表を提出し後任者に徐樹錚氏を推薦せりと。(六日、日日)

▲北行龍軍解散

(上海特電三日發) 浦口を引揚げ北行せし龍濟光氏の新募兵一聯隊は臨淮關にて安徽督軍倪嗣冲の爲解散され武器を引揚げしが又南宿州の同軍三個大隊も同様解散さるべし。(六日、日日)

▲奉天軍滯在

(北京特電二日發) 李純軍の爲南下を阻止せられたる奉天軍は常分蚌埠に駐在する事に決し王旅團長は二日急遽來京し徐總統、段總理と協同の上三日彈藥四百二十箱を携へ蚌埠に歸り。(六日、日日)

▲新國會非法に非ず

(上海特電三日發) 政府は三十日吳佩孚氏に打電し新國會は總統命令及び法律に根據を有し非法に非ずと云へり又同時に各省督軍省長に打電し伍廷芳氏の主張に對し共に其誤解を解くに努められたしと云へるが各省よりは未だ何等の回答なしと。(六日、時事)

▲薩督辦着任

(福州特電三日發) 福建省清鄉事宜督辦薩鎮冰氏は三

▲安福派の協議

(北京特電七日發) 三日安福俱樂部は甘肅省、新疆省等の新議員歡迎の爲大會を開き席上副總統選舉の件を議し愈々九日選舉會を開くことに決し五日の兩議院豫備會に提出すべし曹錕氏は目下必死となりて運動を試みつゝあるが進歩黨及僑國議員等の反對激盛にして未だ形勢確定せず。(八日、日日)

▲王廷楨氏歸來

(上海特電四日發) 北京政府は王廷楨氏をして南北調停を爲さしめんとし之が爲め氏は南京より北京に赴きたるが三日浦口に來

れり。(八日、日日)

▲葉次長辭任承認 (北京特電三日發) 政府は交通次長葉恭綽氏の辭職を許し國務院高等顧問に任ずる事に決定せりと。(八日、日日)

▲南軍擊退さる (北京特電三日發) 江西督軍陳光遠氏の急電によれば廣東廣西省境の北軍は自治を守りて何等行動を爲さざるに拘らず南軍は大舉して梅關の北軍砲兵陣地を攻撃せしかば北軍應戦して之を擊退せりと。(八日、日日)

▲李督軍へ特使 (上海特電四日發) 徐世昌氏は特に李國杰氏を南京に派遣し督軍李純氏と意思の疏通を計るべく李國杰氏は三日天津經由出發せり。(八日、日日)

▲振武軍太沽行 (天津特電四日發) 振武軍第一大隊七百餘名は四日午後浦口より津浦線にて當地通過太沽に向へり又同軍第二大隊六百餘名は浦口より來津せり。(九日、日日)

▲議員出席督勵 (上海特電五日發) 廣東來電 近來國會議員の缺席及無効旅行者尙多諸事の進行を阻礙するより今後缺席者は其日數に應じて手當を減することとせり。(九日、日日)

▲廣東の議員數 (上海特電六日發) 廣東國會の衆議院議員數は既に三分の二以上に達せるも參議院は尙不足なりと。(九日、日日)

▲南軍の代表者 (漢口特電六日發) 南軍最高顧問張其皇氏は先月末吳佩孚氏を訪問せるが南軍代表として衡州に駐在すべしと。(九日、日日)

▲繼戰主張 (北京特電五日發) 東三省巡閱使張作霖氏は徐世昌段祺瑞兩氏に向ひ大局を統一するには武力に依るの外なし新總統就任後再び討伐命令を出し以て中央の威信を立て士氣を鼓舞すべしと打電せりと。(九日、日日)

▲新聞解禁督促 (北京特電六日發) 天津の梁啓超氏は徐總統に向ひ速に新聞社の封鎖を解き言論尊重の意を表明せられたしと勸告的の書面を送れり。(九日、日日)

▲南方承認運動 (香港特電六日發) 廣東軍政府は唐紹儀氏に電報を送り日本新聞に對し承認を懇請せんことを依頼せりと。(九日、日日)

▲參戰督辦處 (北京特電四日發) 三日の國會にて參戰督辦處の權限を擴大し參戰軍隊に對し最高統帥權を有する獨立の機關となせり。(九日、日日)

日日)

▲奉天軍の移送 (上海特電五日發) 日下蚌埠に在る奉天軍は北京に於て徐樹錚氏と協議の結果福州に輸送することに決せり。(九日、日日)

▲直隸議會開會 (天津特電四日發) 第二期直隸省議會は三日午前十時召集省長其他臨時開會式を舉げ正副議長の選舉を行へり。(九日、日日)

▲錢氏總理代理承諾 (北京特電七日發) 內務總長錢能訓氏は段總理辭職後十日間總理代理たるを承諾せり正式の後繼内閣は其期間内に組織せらるべく朱啓鈴、汪大燮、田文烈三氏擬せられ居れり。(九日、日日)

▲陝西省危殆 (北京特電四日發) 王安瀾氏の率ゐる南軍は陝西省に侵入し既に平利安康漢陰の三縣を占領し渭南の郭堅氏と聯絡せんとしつゝあり兩軍聯絡せば西安危く陝西省は北方のものとならざるべしとの警報頻りにて政府は山西、河南兩省に援兵派遣を命ぜるも河南督軍趙倜氏は自省の土匪討伐に忙殺され餘力なしと返電せり。(九日、日日)

▲南方の非法總統討伐 (上海特電六日發) 廣東來電 三日軍政府政務會議にて孫文氏の代表徐謙氏は主張して曰く徐世昌氏が十月十日非法總統に就任するに對し南方護法の最高機關たる軍政府は之を等閑に附すべからず宜しく徐氏年來の罪狀を宣布し之に對し討伐令を發すべしと列席者の多數は之に同意し近く討伐令出づべしと云ふ。(九日、日日)

▲南方領袖意見不一致 (六日上海特派員發) 譚和問題に對する南方支那人の意圖を聞くに江西湖南前敵司令は速かに議和を希望し唐繼堯李烈鈞陳炯明等は時局尙早論者にして就中唐繼堯は妥協說に對し單獨に之に反對せんと主張し居れり。(九日、日日)

▲薩督辦の宣言 (上海特電七日發) 福建全省清鄉事宜督辦薩鎮冰氏は五日福々に着したるが自ら其職務は單に土匪の禍を防ぐにありて南北戰爭に關與せずと宣言せりと。(十日、日日)

▲王天縱陝西省侵入 (漢口特電八日發) 陝西の安康縣を占領せしは王天縱なり殆ど戰闘なくして汪安瀾と共に白河、平利、鳳縣を得たり汪は老河口の商會に通信して一箇月内に到着せん兵の爲めに糧食を準備せよと云へり目下、襄陽の兵は多く房縣を守り彼等を防げり漢水上流に兵なし。(十日、時事)

▲北洋主戰派畫策

(九日奉天特派員發) 徐世昌總統に選任以來北洋

主戰派は鳴りを静めて形勢を觀望中なりしが近來南北妥協の絶望にして關東
四川、陝西、湖北、湖南等は益々危險に陥り北洋派は漸次不安に傾きつゝあ
るより張巡閱使は曹錕、張懷芝、倪嗣冲等の救國の盟約に依り從來の主張を徹
底すべく目下書面の往復頻繁なるが事態極めて困難ならんと。(十日、朝日)

▲甘肅平定方略

(重慶特電二十六日發) 昨日の會議に於て宜昌、巴
東、夔州等を攻撃するは戰略上不利なれば同方面に對しては巫山、奉節の二
縣を堅固にし陝西に向つて攻撃を開始し旁甘肅を衝かば北京より援兵を送る
こと容易ならざるのみならず甘肅占領の晩は新疆省も座らにして南軍の手に
入る利益あり仍つて陝西甘肅への侵入に全力を注ぐ事に決し陝西侵入軍は新
編雲南援陝東路司令趙以介氏總司令官となり雲南軍一箇旅團、石青陽氏の一
箇旅團顏德基氏の一箇旅團を派遣し漢中を経て西安に向はしむる事に決せり
尙本日決定事項中には南北諸和不成立の場合南方政府が外國に對し承認運
動を試むべく如何なる方法を採るべきやの外交問題をも含めり。(十日、日日)

▲張謇直接議和勸告

(八日上海特派員發) 張謇は第一革命當時唐
紹儀伍廷芳の上海にて和を議せる例に據り今同南北互に双方相會して直接
和議を爲すべく北京當局に勸告せり。(十月、朝日)

▲曹派の副總統運動

(北京特電七日發) 副總統運動の爲曹錕氏よ
り特派せる李鴻舉氏は徐總統に謁見し聲援を與へられん事を請ひ衆議院議長
王揖唐氏其他の有力者と共に極力運動中なるが今日迄の形勢は研究會討論會
にては二十五票を得たるも尙三十五票不足なる爲頗る焦慮しつゝありと。(十
日、日日)

▲艦隊買収

(北京特電八日發) 福建海面にある北軍艦隊は廣東政府よ
り三十萬圓にて買収され肇陽は既に廣東に向け直行し他の軍艦も追つて出發
すべく旗艦王瑞のみは所用の爲め福州に碇泊し居れり。

▲徐總統就任式

(八日北京特派員發) 內務部は徐世昌の大總統就任
期は十日午前九時なりと布告せり同時刻懷仁堂に於て就任式行はるゝも袁世
凱時代の華やかかりしに比し極めて質素に舉行さるべく參列者は極少數の政

府要路者に限り公使團の如きも式後参賀する事となり内外新聞記者も場所狭
しとして参列を許されず。(十日、朝日)

▲段總理辭職

(北京特電九日發) 九日國務院にて段總理は國務員一
同を招きて茶話會を催し愈辭職に決せん旨を告げ即時辭表を提出せり十日免
職辭令出づべし尙段氏は同茶話會席上閣員一同に對し留任せんことを希望せ
りと。(十一日、日日)

▲臨時大總統選舉承認

(八日香港特派員發) 七日廣東軍政府大總
統選舉の件及同政府に絕對權を付與するの件は國會多數派の承認する所とな
れり。(十一日、朝日)

▲吳佩孚查辦案

(北京特電七日發) 七日參議院に於て吳佩孚查辦案
提出されたるが湖南督軍張敬堯氏の弟張敬舜氏は之に反對し此際吳佩孚氏を
刺戟し湖南の秩序を亂すが如きは由々敷大事なりと述べ採決の結果否決とな
り同時に衆議院にも上程されしも秘密會にて委員付託となる。(十一日、日日)

▲唐繼堯舉節に歸る

(八日重慶特派員發) 唐繼堯は在西川の雲南
軍の檢閱を兼ね貴州瀘州叙州を経て舉節に歸るべく八日朝六時重慶を出發し
成都街道を北上せり。(十一日、日日)

▲馮氏南北互讓切言

(九日上海特派員發) 馮國璋は退職に先だち
長文の通電を發したり其要點は今や總統代理の任期満ち交代するに際し我心
に勝つるなきを得ずとて代理一年間の時局の大局を陳べ、

現在の爭亂は代理の任に當れる以前より打續けるものにて幾多の曲折あり
たれど要するに予の德なく無能の致す所なり各地の兵火既に極まり國家の
元氣消耗し軍隊の軍紀振はず各地に土匪起り商民の困なくして受けし損害
頗る大にして予亦固より難なき能はず南北の諸要人皆意見多く相爭ふ是に
就ても亦世間の公論を遠れ難し斯くして我國全體の人民亂を厭ひ軍隊も戰
を欲せず財政は根本的に窮境にあり歐洲戰爭に參戰して以後我國は友邦を
協助すべきこと多かるに内亂のため之に當る隙なし歐洲戰爭終局後の我國
の地位如何南北双方早く互讓し一致せずば恐らくは以後の事云ふに忍びざ
るべし予は辭職と共に各省文武長官前敵諸將各方面の諸君と此危ふく減び
んとするを救ふ爲全國人心の統一を希望し前敵軍隊の停戰し居るに際し天
に應じ人に従ひ以て和平解決を爲すを希望す云々。(十一日、朝日)

▲副總統選舉流會

(北京特電九日發) 安福俱樂部の議員買収奏効す可き將た反對派たる研究會交通系等の希望するが如く流會に終る可きか一般の興味を惹起せしめたり副總統選舉會は本日午前十一時開會せるが出席者は上院議員を合せて三百三十八名に過ぎず法定數たる全議員數の三分の二に足らざることを尙は四十餘名なるを以て選舉會は成立せず然るに議員中より本日午後二時再び開會す可しと動議せる者あり滿場一致之に賛成せるを以て出席議員は堅く門を閉ざし議院内にて斷食して時の來たるを待ちつゝあり一方安福俱樂部幹部は缺席議員の外出に極力努力しつゝあり。

▲漢口の革命記念祝賀式

(漢口特電十日發) 本日は革命記念日且つは大總統就任日にて月毎に國旗を掲ぐ交遊員は外人の慶賀を受けたり督軍は時節柄只文武官を率ゐ祝賀式を行ふのみにて宴會を催さず。(十二日、時事)

▲討南貫徹決議

(北京特電十日發) 七日保定府にて四省經略使曹錕山東督軍張懷芝、東三省巡閱使張作霖氏代表及安徽督軍倪嗣冲代表等會合し左の決議をなせり。

▲國慶日を祝す

(上海特電十日發) 本日の國慶日に内外諸官衙庶民一般に休暇を取れり新聞紙は此國慶日に眞の共和の實現困難なるも兎に角從來の成功を祝し更に其共和に一進歩を爲すに至らんを希望し居れり。(十二日、時事)

▲段總理罷免

(北京特電十日發) 十日總統命令にて國務總理段祺瑞氏は依願免官となり内務總長錢能訓氏總理代理兼任となれり。(十二日、日日)

▲幣制局の幹部

(北京特電九日發) 財政總長曹汝霖氏は幣制局實辦兼任に陸宗輿氏は同總長に任命されたり。(十二日、日日)

▲馮總統退任の辭

(北京特電十日發) 馮總統退位通電の内容左の如し。

國璋任期滿ち即日交代す茲に總統代理たりし間の狀況を述べんに兵禍の騷擾せしは就任前にあり兵禍を終熄せしむること能はざりしは就任後なり其間の迂餘曲折已むを得ざる苦衷ありしも不徳無能の致す所にして今や地方の紊亂するもの數省に及び軍隊の損傷多數に上り軍紀振はす土匪横行し省民者を受く誰か之を傷まざらん國璋人民に對し罪なしと云ふ能はず而して南北の諸重要人物異見を以て相爭峙するもの亦非難を免れず全國亂を厭ひ軍隊戰を好まず財政不況軍費缺乏の原因積決せず此狀態を以て進まば紛擾日に甚だしく兄弟爭ひて家産を敗るに等し況んや支那は參戰せるも内亂の爲支那を助くる能はず戰後の位置果して如何双方若し互讓せざれば主戰派は戰の云ふべきものなく護法者は法の護るべきものなきに至らんを恐る

▲根氣よき反對

(上海特電十日發) 湖南にある南軍の譚浩明、譚延闓、程潛、馬濟、李書城の諸氏及北軍の吳佩孚、李奎元、楊春普、張宗昌、馮玉祥の諸氏は先般來應徐世昌氏の總統就任に反對の電報を發せるが其最後の文に曰く、

北京正式國會の解散して後民意の託すべきものなく國を擧げて驕然たり清明、佩孚等輩に法を護らんが爲互に戰場に相見えんとしたるも今や外患起る宜しく内争を停め双方和を議し以て外國の侮りを防がざる可らず然るに中央事此に出でず西南五省の議員を除ける新國會を召集し公を擧げて總統とせりされど公の謙讓は既に其通電に明かなる通りなるが其後各方面に迫られて所信を變じ之が爲に更に大局の紛糾を増せり抑も國の主權は民に在り民の命じて之を託するは國會なるも今日の新國會は不完全にて眞の立法機關たらず其選ばれし議員の多くは買収されしものにて民意を代表すと云ふべからず公にして若し國の爲を計らば此際輕々しく停職せず先づ調停者となり大局の解決を容易ならしめんことを請ふ。

と又彼等は右電報を各新聞社に打電して曰く、

東海(徐世昌)假令總統となるも軍閥派の傀儡たる事象元洪、馮國璋氏等より甚しからん是東海を危地に陥るものなり宜しく諸公の賢明なる斡旋を望む云々。(十二日、日日)

▲新總統就任式

(北京特電十日發) 十日午前八時徐世昌氏は錢能訓、黃開文氏等に迎へられ儀仗兵等十二番の自動車に分乗して總統館に入り馮總統と新舊交代の式を挙げ馮國璋氏出府後懷仁堂にて宣誓式を挙げたるが文武百官の拜賀あり十一時半外交團の祝賀を受け盛典を極めたり。(十二日、日日)

▲徐總統宣言書

(北京特電十日發) 新總統徐世昌氏の新任宣言書の要點を擧ぐれば先づ平和を速に招来せんことを希望し立國の大徑は實業を振興し金融を整理し國民の生計を安向にするに在りと述べ歐洲戰爭既に終了の氣動けるが戦後に起るものは商業の戰爭なり故に民生の計をなし國際的地位を高むる爲舉國官民皆戦後の形勢に注意するを要すと説き最後に近來風紀頹廢、道德墮落せることを嘆き力めて挽回を圖り國家の元氣を培養せんことを望み余は從來至誠を以て人々を待つ敢て之を我親愛なる國人に告ぐと結べり。(十二日、日日)

▲陳督軍北京行

(上海特電九日發) 江西督軍陳光遠氏は一箇月の休暇を得て北京に赴くべく十三日南昌を發せり不在中は督軍の職務は第十二師長樊金彪氏代理し第十二師團長岳兆麟氏代理すべしと。(十二日、日日)

▲廣東軍總司令

(北京特電九日發) 廣東軍政府は陳炯明氏を福建五慰使兼閩廣東軍總司令に任命せり。(二日、日日)

▲龍倪兩軍衝突

(南京特電十日發) 安徽省宿州にありし龍濟光氏の振武新軍凡そ二箇大隊は七日夕刻より該方面にて倪嗣沖氏の安武軍と衝突し火を交へたるも遂に敵せず一部は敗退し他は降服せり爲に津浦線は一時不通となりしも翌朝に至り開通せり。(十三日、日日)

▲總統就任善後策

(北京特電十日發) 廣東來電——軍政府及舊國會は徐世昌氏の就任其ものが適法なれば若し徐氏が就任せば叛逆者と認め討伐令を發し軍政府をして大總統の職務を代行せしむべしと主張し七日政務總裁會を開き前者に關しては西南各省の意見を徴し後者は八日の兩院聯合會に付議されたりと形勢斯の如きを以て南北妥協論者は前途を悲觀せり。(十三日、日日)

▲范源濂議和主唱

(十日上海特派員發) 范源濂は南北各代表を上海に派して和を議せん事を主張せりと。(十三日、朝日)

▲吳佩孚等態度強硬

(十日漢口特派員發) 吳佩孚等直隸軍主力が南軍と連絡して新總統反對の通電を發せるに就き王占元は吳等の不穩の行動を戒め暫く現防禦線を守り局面の推移を待たんと警告せるに吳は返電しく曰く吾等は徐世昌を否認するにあらず非法選舉に反對するものなり徐之を察せず就任せば佩孚等は國家の爲服從の義務を負ふ能はざるを以て獨自の道を往かんのみ云々と通告し來れり王占元は吳佩孚の決心固く到底挽回の途なきより曹錕に密電を發し物議を大局に貽さるため吳を戒めんことを告げたり。(十三日、朝日)

▲廣東救恤命令

(北京特電十日發) 新總統は命令を以て廣東人民は久しく兵火に罹り且水災に苦しむを憐み十萬圓の救恤金を下付し省長李耀漢氏をして同省紳商と協議し義捐金を募集し善後策を講ぜよと發表せり是新總統が南北一視同仁の意を示し南方人士の懷柔策なり。(十三日、日日)

▲通濟も南方に投ず

(上海特電十一日發) 軍糧通濟十日汕頭發廣東に向ひ南軍に投ず可し軍糧肇和の歡迎廣東にて盛大なり十一日該軍糧員を招待す可し。(十四日、時事)

▲王天縱の廣東代表者

(上海特電十一日發) 靖國軍河南省司令王天縱は委員長陳策を廣東駐在代理とす。(十四日、時事)

▲國務院秘書長

(北京特電十一日發) 國務院秘書官長方樞氏辭職し銓叙局長郭則雲氏秘書長兼任を命ぜらる。(十四日、日日)

▲總統府秘書長

(北京特電十一日發) 吳笈孫氏は總統府秘書長に新任されたり。(十四日、日日)

▲錢氏就任挨拶

(北京特電十一日發) 國務總理錢能訓氏は十一日午前八時國務院に各部長を集め新任の挨拶をなし現内閣は段内閣の閣員其儘の組織なれば段總理の政策と當然一致するは贅辭を要せず速に後繼内閣を定め責任を譲り野に下り初心を遂げん事を望む予の總理代理中は段祺瑞の計畫に従ひ辦理すべしと演説せり。(十四日、日日)

▲湯氏の樞府津

(天津特電十三日發) 故湯化龍氏の樞は今朝九時半大東丸にて佛租阜頭に到着し妻子及び令弟湯憲銘研究會員並に日本官民出迎

（河北の自宅に送らる北京にて葬儀を営む可し。（十四日、時事））

▲支那朝野内閣稱揚 （十二日奉天特派員發） 原内閣成立以來山東鐵道沿線の警備を撤出し日支通信連絡の件も圓滿に解決し其他の對支方針は支那朝野に歡迎され最近にも孟古林鮑照龍江兩督軍は中央政府に對し東清沿線駐屯の日軍は從來屢主權を犯して鐵道行政に干渉せしも近來新内閣の命に依つて日軍は鐵道警備の權限を尊重して鐵道行政を犯すが如きことなしと電告し盛んに新内閣を稱揚し居れり。（十四日、朝日）

▲長江三督軍の通電 （十二日上海特派員發） 李純、王占元、陳光遠、長江三督軍は徐總統に對し曹錕を副總統に擡ぐるに反對し又妥協の誠意なくば長江の三省は獨立すべしと通電せり。（十五日、朝日）

▲曹氏推舉 （北京特電十二日發） 張作霖、張懷芝、倪嗣冲等北方督軍の代表は十一日軍糧城の奉天軍司令部に會合し北京政府に對し曹錕氏を副總統に選舉するは大局に必要なことを電請し李純氏等の反對電報に對し反駁を加へたり。（十五日、日日）

▲五新聞の解禁 （北京特電十三日發） 封鎖中の大中華報外五新聞は發行禁止 解かれたるも中華日報及晨鐘報のみは未だ何等の命令に接せず新聞界にては偏頗を攻撃する聲高し。（十五日、日日）

▲副總統選舉反對 （上海特電十三日發） 北直安福俱樂部は十六日依然として副總統選舉を爲さんとするにあるも多數は反對にして出席せざる可し。（十五日、時事）

▲時局解決案諮問 （北京特電十二日發） 徐總統は十二日午前西南各省を除ける各省軍民長官に同け時局解決に關する意見を徵する電報を發せり。（十五日、日日）

▲軍艦六隻中立 （上海特電十二日發） 海軍總司令藍建樞氏は軍艦六隻既に南京に來り永建永績永瑞其他併せて六隻中立せる報ある爲參謀長を派して水雷艇江犀江鰲を率ゐる福建に赴かしめ實狀を調査せしめたり。（十五日、日日）

▲軍艦應瑞歸順 （上海特電十一日發） 軍艦應瑞は南方に歸順し廣東に向ふべし。（十五日、日日）

▲南方護法通電 （上海特電十二日發） 十月十日廣東軍政府は通電し

て曰く。民國不幸にして大難未だ去らず茲に七年の國慶日に際し護法各省及前敵の各軍に告ぐ諸君は協力一致し我統一の實を擧げんことを。（十五日、日日）

▲徐氏の擇り好み （北京特電十一日發） 徐世昌氏は十日就任式を終りたる後五條胡同の私邸に歸り執務し居れり氏は總統府内に移るを好まず國務院を總統府内の舊政事堂に移轉し其上にて國務院跡に移るべしと氏が總統府に引移ることを好まざるは前清皇室に對し忍ぶ能はざる爲なりと云ふ者あれども其昵近者の云ふ所に依れば國務院の敷地は元醇親王邸に在りし所にして住心地良きこと前者の比にあらざるを以てなり。（十五日、日日）

▲重慶軍事聯合會議終了 （十二日北京特派員發） 重慶にて先日來開會中なりし軍事聯合會議終了し八日唐繼堯は貴州に向け熊克武は成都に向け出發し其他の各軍首領も相前後して各駐紮地點に歸還し今尙残り居るは王天權と石青陽なるも是亦不日出發歸還すべし。（十五日、朝日）

▲南方諸名士の氣焰 （上海特電十二日發） 廣東軍政府國慶日祝賀宴會席上に於ける諸氏の演說要領左の如し。

伍廷芳氏曰く 非法總統は斷じて之を承認す可からず先づ約法國會を回復し正式總統選舉を爲して初めて護法の目的達す可し。

吳景濂氏曰く 民國七年間武人官僚の弊政の爲め共和の實擧がらず徐世昌氏は國會議員に依り非法に選舉せらる、軍政府は協力徐氏を除き護法の精神を明かにす可きなり。

李烈鈞氏曰く 真正の共和を得る爲めには尙ほ多大の困難を経可く吾人は鞏固なる決心を有す吾人の勢力微弱なるが如きも曾て雲南、貴州の貧弱なる干渉に依りてすら袁世凱の帝政を倒せり共和の前途悲觀す可からず。

徐謙氏 （孫文の廣東に於ける代表）曰く共和は民國の血を以て購ふ可く初めは之を助くるに幾多の困難を以てす護法の目的と真正なる共和は流血に依りて得可きのみと。

諸輔成氏曰く 官僚は常に法律を敵視す徐世昌氏の非法選舉は其甚だしき一例なり、北方の違法、南法の護法は到底一致せず。（十五日、時事）

▲賠償金免除と希望 （上海特電十三日發） 日本が團匪事件賠償金免除の風説に對しての政府及議會の多數有力者の希望は今之れを北京政府に

渡すは支那軍の爲め有害無益なり時局の一段落を見る迄之を銀行に預入れ將來米國の例に倣ひ日本に留學生を送るの資に供すべしと。(十五日、時事)

▲廣東國會宣告

(北京特電十一日發) 廣東に於ける舊國會は八日參衆兩院議員聯合會を開き廣東軍政府に國勢の職權を與へ、總統の職權を代行せしむべしとの原案を通過し兩院聯合會に名を以て左の宣言を全國に通電せり。

大總統選舉は國會議員の職權なり大總統選舉法第三條に據れば大總統の任期の滿つる三ヶ月前に國會議員は自から集合して總統選舉を組織し次期大總統選舉を行ふべきものなり但し現に國內非常の政變に遭ひつゝあるを以て大總統選舉會は暫く時期を延期すべし十月十日より軍政府に委託して國務員の職權を代行し、總統選舉法第六條の規定に依り大總統の職務を代行せしめ時期大總統任在の期に至つて罷めしむ特に茲に宣言す。(十五日、時事)

財政關係

▲廣東借款

(香港特電二十八日發) 廣東商業會議所は廣東政府發行の紙幣を維持せんが爲臺灣銀行廣東支店より八萬圓借款の事に決定せり。(二日、日日)

▲支那人自由債應募

(二日國際社紐約發) 駐米支那公使顧維鈞氏は第四回自由公債募集運動の支那日に於て演説したり當日は此外多數の支那人支那服を着けて此運動に参加したり當日の應募高は一億四百五十七萬四千四百五十弗に上りたり。(五日、朝日)

▲靖國公債發行

(北京特電七日發) 雲南來電——雲南政府の軍費に充つる爲八分利附二百萬元の靖國公債を發行して十箇月間に賣出すべき旨公表せり期限は八箇年、四年目より五分の一の償還し擔保は雲南全省の酒、煙草公賣積なりと。(九日、日日)

▲賠償免除金使途

(北京特電四日發) 日本が今回免除したる義和團賠償金殘額は約三千五百萬圓の巨額にして支那政府は日本の厚意に對し深甚なる感謝を表し居れり該金の使途に就ては支那の富源開發(主として支那の

重要物產なる棉花羊毛の改良發達の爲將來大會社を設立することは既に決定せり)及特種事業、爲に使用する事に決し兩國の意見合致し居れり尙本問題に此頃突發したるものにあらずして既に昨年日本政府は之に就き支那側に通知し居たる次第にして今回新舊總統の面談を好機として實行を見るに至りたるものなりと。(九日、日日)

▲鹽稅剩餘金交付

(北京特電七日發) 日英佛露四國銀行團は支那政府の要求に依り此程九月分の鹽稅剩餘金、金五百三十五萬元を財政部に交付せり。(十日、時)

▲無電借款正式調印

(北京特電十二日發) 支那交通部とマルコニー會社との間に既電の如く無線電信借款交渉中の處此程左の如き條件にて契約成立し宗交通總局とマルコニー會社代表者との間に正式に調印を終れり。

- 一、借、總額英貨二十萬磅
- 二、利、千分八

三、電柱設置後第二年乃至四年間にて償還を終る

四、支那政府は右借款の中六萬磅を以てマルコニー會社より無線電信柱及び附屬機械等を買入れ十四萬磅を以て雜費に充つ

五、支那政府は右無線電信柱をカイシカル(新疆の西部)プロムチン(新疆の北部)及蘭州(甘肅)に設立する外西安に受信機を設置す

六、支那政府は右無線電信機使用の爲めマルコニー會社より特に技師を招聘す

七、支那政府は今後全國各地に無線電信柱を設立するに就き資金を要する場合には先づ第一にマルコニー會社に協議すること。(十五日、時事)

經濟關係及其他

▲北支棉作增收

(天津發外務省着電) 當地方に於ける本年の棉花は近年稀有の豐作にして平年に比し約三割增收の見込なり近地のもの數日前來續々市場に上り相場百斤に付二十四兩を唱ふ當業者は昨年棉花の高値なりし關係上植付反別約四割を増したるものと推測し本年當市場に上る可き棉花は少くとも六十萬俵を降らざる可しと見込み居り從つて相場も今後多少の

下落を見るならんと云ふ。(一日、時事)

▲吉長運賃改訂 (長春特電五日發) 吉長鐵道は今年一月滿鐵の經營に移りし以來諸種の改革を加へつゝあり即ち從來旅客貨物運賃は支那各鐵道に例なき小銀貨本位なる爲煩る而倒なる手暇を要したるが今回支那各鐵道と同じく代用銀本位に改め來十一月一日より實行せらるべく五日發表せる改正の要點は

(一)代用原銀本位

(二)噸哩をキログラム、キロメートルとなす

(三)從來貨物に對して鐵道局は責任を負担せざりしも今後は貨物の紛失破

壞等に對しては相當賠償をなす

等其重なるものにして旅客、貨物運賃共從來よりも多少高率となるべきも今後は列車の改造、貨物に對する保險負擔により寧ろ輕減せられたると同様の結果となるべし改正運賃は旅客一キロメートル三錢一錢六厘、二等三錢八厘、一等四錢にして吉長間の距離は百二十八キロメートルなり又貨物運賃は小荷物百キログラム五厘大貨物百キログラム三錢の割合なり而して吉長線の主要貨物は材木にして從來繰て級品扱ひなりしを改正の結果一二種を除くの外は全部三四級品扱ひに低下されたるを以て當業者の便益は大なるべし大豆は是まで四級品扱ひなりしも三級に進められたり要するに改正貨銀は大體に於て公平且穩當なるべし。(九日、日日)

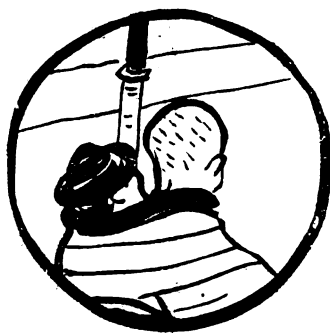
▲運鐵鐵道試運轉 (二十九日立山特派員發) 鞍山站鐵鐵區運鐵鐵道及び太孤山兩支線約十八哩の工事成り二十九日午前八時より試運轉を行ふ成績良好なり目下三鐵區採掘中なるが一方熔鐵爐の火入は今秋末ならんと。(三日、朝日)

▲金嶺鎮鐵道着手 (青島特電十一日發) 金嶺鎮鐵山間の鐵道敷設は愈々決定し來る十七日より土工に着手することとなり該工費は銀三十九萬元の豫算にて本年中に竣工の豫定なりと。(十二日、時事)

▲支那棉豐作 (漢口發九日外務省着) 本年湖北の棉花は近年稀なる豊作にして作付反別約一割を増したる外昨年比し三四割の増收なるべく全省總收穫豫算高八十萬担以上にして此中約五十餘萬担は漢口市場に於て取引せられ此他鄂南及陝西より出荷約三十餘萬担の見込なれば本年當地の集數の

棉花は約九十萬担なるべし。(十三日、時事)

▲粵漢時間變更 (漢口特電十四日發) 粵漢線は時間を變更し一方京漢線と接続し一方長沙株州線に接続することとなり。(十五日、時事)



支那

第九卷 第二十二號

要目

論說	五族共和と民國自決……………	一—四
資料	鹽業銀行事情……………	五—八
	支那に於ける租借地の研究(三)……………	八一—六
	支那に於ける英吉利人と獨逸人(五)……………	七一—二〇
雜錄	支那紙幣流通狀況……………	二一—二三
	支那の鑛山採掘權……………	二四—二六
	支那の鐵道敷設權……………	二七—二八
彙錄	支那品厘金免除八件……………	二八—二九
事業界	支那事業界近況……………	三〇—三二
半月史	半月間の支那重要事件……………	三三—三九
時報	支那最近時事要項……………	四〇—五二
彙報	支那關係諸報道……………	五三—

東亞同文會調查編纂部

● 福 日 南 先 生 著 ●

● 二 十 一 版 ● 賜 天 覽 臺 覽 ● 二 十 一 版 ●

千古の快舉たる赤穂義士の復讐は時の古今を問はず國の内外を論
ぜず人の齊しく仰ぎ見て生ける龜鑑となすものなり本書は文壇の

元禄快舉録

雄豪日南氏の刻苦多年天下を周遊して諸種の材料を蒐集し
椽大の筆を揮て一氣に之を敘述せるもの考証精確探討詳密
幽を闡き微を穿ち行文流暢情趣無盡一讀烈士の風貌に接す
るの感あらしむ蓋し近者稀に見るの快著なり好評噴々縮版

袖元禄快舉録

以來既に二十一版忝くも 天覽の光榮を荷ふに至れり義徒の精神
義舉の眞相本書を俟つて始めて明にすべし……………



三五判上製美顔本函入總六號
なか付一千餘頁寫眞數十面入
定價金壹圓四拾錢
送料金八錢

菊上製美顔本函入總五號
なか付二十八頁寫眞數十面入
定價金參圓也
送料金二十錢

新刊出來

第三回支那年鑑

郵税 内地 二十錢

支、臺、鮮 五十錢

定價

金六圓也

四六倍版紙數
一千百頁背皮總
クロース美裝

回を重ねるに従つて内容益充實、
る各般の材料は本書に盡く

支那に關す

歐米人の支那觀

郵税 内地 十二錢

支、臺、鮮 四十錢

定價

參圓五拾錢

菊版紙數千頁
總クロース
金文入美本郵

歐米の識者有力なる新聞雜誌は如何に支那問
題を觀察しつゝあるか支那研究者に與へらる
べき一新資料なり

東亞同文會調查編輯部

東京市赤坂區
溜池二丁目番地

電話芝 二二九
電替東京 一三七
番 四五
番 〇三



大正七年十一月十五日發行
「支那目次」第九卷
第二十二號

論 說

五族共和と民國自決……………一——四

資 料

鹽業銀行事情……………五——八

支那に於ける租借地の研究(三)……………八——一六

雜 錄

支那に於ける英吉利人と獨逸人(五)……………一七——二〇

支那紙幣流通狀況……………二一——二三

支那の鑛山採掘權……………四二——二六

彙 錄

支那の鐵道敷設權……………二七——二八

支那品厘金免除八件……………二八——二九



事業界

上海紡績株主總會、河南の面粉
會社、長沙南華籌備處請願工事

三〇——三二

半月央

廣東參議院の新議長、張勳特赦、參陸處の停戰軍
令、錢內閣居擧、平和期成會の通電、國務院通電及
主和命令、軍政府承認謝絕、軍政府の徐氏刺彈、
駐支公使更迭、與國援助布告と列國の覺書、平和
期成會の發展、督軍會議開かれん、中日電話借款

三三——三九

時報

(内治外交)

總統選舉會記事——徐總統平和尊重の明令——總統各派を一堂に招く——
大總統に宣布せんとするの政綱——時局の和平日々有望に趨く——徐總
統講和の進行秩序——安福派平和に反對するの說——張勳特赦最要の原
因——安福交通兩系分裂の經過——留日學生監督處規則の制定——四省の
聯防紀要——協約國各公使觀審を要求するの抗議——錢代理總理主和の
方針を宣布す——各省商會の平和の呼聲——軍政府職權を代行するの條
例——大總統府新組織——軍政府總統の職權を攝行するの宣言書
金券條例交渉の經過——無線電信借款の詳起——西南五省鹽稅維持——江
西鐵道銀行を組織するの動議——上海外人居留地の人口——北洋に極大
鍊鐵廠を設立するの計畫——

四〇——五一

(財政經濟)

會報

小幡公使送別會

五二——

彙報

五三——

商 標 登 録

菱印硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外に耐火煉瓦及曹達灰

東京丸之内

旭硝子株式會社

第一工場 兵庫縣尼崎
第二工場 福岡縣戸畑
第三工場 神奈川鶴見
第四工場 福岡縣枝光
煉瓦工場 兵庫縣尼崎
曹達工場 福岡縣戸畑

東亞同文會調查編纂部編集

再訂 支那全圖

縦五尺一寸 横四尺四寸 七色刷映入

大正七年版

定價貳圓也

郵 稅 〔内地八錢
海外三十錢〕

東京赤坂溜池二番地

發行所

東亞同文會調查編纂部



日五十月一十年七正大

號二十二第 卷九第



○五族共和と民國自決

一

武漢革命の豫期以外の大成功を贏ち得たるもの、革命黨の誇稱する如く、支那人民が君主專制を厭忌し、共和政體を謳歌したるが爲めにあらず、排滿興漢の標榜が、輿望に副ふたるが爲めに外ならざるなり。中華本位の思想、支那人の根柢を爲すこと深く、滿人排斥の觀念養成せらるゝこと久しく、泰西學文の支那に入るに及び、其所謂民族主義と共鳴し、排滿興漢の旗印一たび翻りて、十八省之に響應し、半歳ならずして、清朝三百年の社稷傾覆するに至れり。排滿興漢の標榜は、清朝を討滅するに最も有効なりしと雖ども、之が爲め支那全體にとり極めて不幸なる副作用を激成さるゝ、所謂外藩の分離即ち是れなり。

二

西藏民族殊に蒙古民族は、數々支那に侵入し、支那民族即ち漢人の患を爲すこと久しく、清朝支那を征服するに及び、西藏蒙古を討伐懷柔し、之を支那本部の外藩と爲すことを得たり。之を換言すれば、彼等は清朝に依り鎮人と聯係し、一大帝國を組織したり、然るに、漢人が民族的革命を惹起し、清朝を轉覆し、西藏蒙古兩民族との連繫を絶ちたるを以て、彼等は英露兩國の後援に依り、漢人と同様獨立を宣言するに至りたり、革命黨の首領等大に驚き、俄かに五族共和を唱へ、外藩の分離を抑制せんと試みたり、其時機を失したること勿論なりしも、尙ほ之が爲め蒙古西藏に對し宗主權を主張し、外蒙古、巴爾喀の自治を承認するに止むるを得たるは、幸なりしと謂ふべし。最近英米諸國が獨塊を膺懲せんが爲め、民族自決を唱導するや、上海各地の支那新聞紙は之に倣ひ、民族自決を主張するものあるに及べり。若し其主張の如く、民族をして自決せしめんには、西藏蒙古全部は全然支那と分離し、革命黨首領等苦心の發明に係る五族共和の主要水泡に歸すべきなり。

三

民族自決の結果、支那は其地圖上に記載せられたる西藏蒙古を喪失するに止まらず、西藏蒙古民族の棲息する地域全部を擧げて抛擲することを覺悟せざるべからず、清朝は討伐の結果と、移民政策とに依り、西藏蒙古民族の棲息する地域に、支那の軍政又は民政を敷き、滿漢人種の是に居住するもの漸次増加するを待ち、之を本部の州縣に編入し、該地域より西藏又は蒙古てふ感念を除去することに努めたり。而も該地域に今尙ほ西藏及蒙古民族の居住するもの多きのみならず、其蒙古王公西藏喇嘛の所領に屬するものも亦決して少なからざるなり。試みに該地域を指示せんか、其蒙古民族の居住し蒙古王公の所領に歸すべきものは、所謂外蒙古の外、察哈爾都統管下の察哈爾、綏遠都統管下の土默特、新疆省内の伊犁、塔爾巴哈臺、青海辦事長官管下の青海の半部、及東清南滿兩鐵道沿線西部の大半之に屬し、謂西藏民族の居住し西藏喇嘛の所領に歸すべきものは、所其西藏の外、川邊特別區域即ち四川の西半及維西、阿敦子等雲南の西邊之に屬す。されば、西藏蒙古兩民族にして自決の結果獨立することを許されんか、支那は西北外藩の外、本部に於ける廣大なる地域を喪失せざるべからざるなり。

知らず、支那民族は之を忍び得るや否や。

四

民族の自決は、嘗に西藏蒙古兩民族をして獨立せしむるのみならず、所謂回民族をして獨立せしむることを牢記せざるべからず。回民族とは纏頭回、漢回を指し、纏頭回とは東土耳其斯坦人にして、中央亞細亞に居住する土耳其斯坦人と同族なるものに係り、漢回とは一に東干と稱し、中央亞細亞より成吉思汗に従ひ支那西境に土着せるもの、子孫に係り、共に回教を信奉せり。彼等は漢人互に攻伐すること久しく、遂に清朝の征服する所と爲りたるも、數々獨立を恢復せんとして兵を擧げ、清末左宗棠の大虐殺に遭ひ幾かに屈伏したるも、漢人を恨むこと骨に徹し、機會だにあらば獨立せんと企て居れり。纏頭回の新疆にあるもの一百餘萬、漢回の新疆甘肅陝西にあるもの亦一百餘萬、兩回の西北支那に散在するものを合すれば、無慮數百萬に達すべし。民族自決にして許されんか、彼等は少くとも新疆及甘肅の西半を聯ねて一回教國を組織すべきなり。支那に於ける回教徒は、團結極めて鞏固にして、一面識なきものも、兄弟親戚の誼を保つに依り、支那西方に一回教國出現せんには、陝西、直隸、河南、湖北、湖南、雲南各地に居住する同教徒數百萬は、之に加盟せんか爲め、絶へず叛亂を起し、支

那の患を爲すこと決して鮮少にあらざるべし。

五

本部十八省は決して一漢民族の居住する所にあらず、幾多の異人種棲息することを特記せざるべからず。漢人種は言ふまでもなく、固と黃河沿岸に居住し、漸次異人種を南方に驅逐したるものなれば、南方には今尙ほ異人種の棲息するもの少なからず、其内稍々勢力あるものは、苗族と白夷の兩人種なり。苗族は支那本部に於て勢力ある人種なりしが、數千年來漢人の壓迫に依り、南方山嶽地方に追込められたるも、尙ほ貴州省を中心とし、東北は湖南の一部に延ぶるに止まるも、西南は雲南の東部より北武定を経て金沙江畔に達し、南、西江の上流より臨安府に及び、更に南下して佛領東京の北境に至り、其一部は廣西の南部に廣まれり。彼等の頑強に漢人種に抵抗せるは、青史に明なる所にして、其決して漢人種に悦服するものにあらざるは疑ひなし、從ふて民族自決主義が、彼等にまで普及するものとせば、彼等は一苗國を組織することとなるべし。白夷は支那史に於て南夷又は南蠻と稱せられたるものにして、嘗て南詔王國を組織し、雲南を根據とし、漢人に對し一敵國を爲したりき。數百年間漢人と交戦し敗北したるも、尙ほ雲南の西南境に於て勢力を占め、所謂土司國なるものを組織し

支那に對し半獨立の形を維持し居れり。白夷種類は雲南緬甸に蔓延し、其緬甸にあるものは、所謂シヤンステートを組織し、之を土司國に比較し、獨立の勢稍々強きものなれば、彼等にして民族自決の恩恵に均霑し得るものとせば、緬甸雲南交界を打て一丸と爲し、昔日の南詔國を今日に於て見ることを得るやも亦知るべからざるなり。以上兩族の外、異人種の支那南北に棲息するもの少なからず、滿洲には滿洲人を始め、索倫、ブリヤート、チブチン、ヲロート、ダウール、ヲロチョン諸人種あり。福建には畚蕃あり、廣東には蛋家あり、雲南には野人あり、其他殆んど枚舉に耐へざるべし。民族自決主義が徹底的に行はるべしとせば支那本部は、異人種の割據する所となるべき也。

六

以上舉ぐる所に據り之を觀るに、民族自決は支那に非常の災害を招來すべきものにして、排滿興漢の標榜の比にあらず。然るに上海各地の支那新聞紙が、之を顧みず、民族自決を主張するものは、何ぞや。單に英米の讐に倣ふのみならんには、之を一笑に附し去るべきも、若し該説を主張し某國を苦しめ、何等かの利益を自國に收めんとするならんには、某國を苦しむるに先ち、自ら瓦解の端を啓くものならずんばあらず。英米兩國の民族自決を主張するものは、獨

塊兩國に屬する異人種をして獨塊に叛きて獨立せしめ、獨塊兩國をして歐洲の領土を併合せしめざらしめんと、權宜の策より出でたるものにして、固より之を東洋に適用すべきものあらず。彼等に印度、緬甸、安南、東京、蘭領印度、比律賓、南洋諸島をして、各々獨立せしめんと意圖あらざるや明なり。此簡短なる事理を顧みず云々するは、支那の爲め切に取らざる所なり。支那の急務は國家を統一するに存することなれば、他國の意圖如何は其間ふ所にあらず、飽まで五族共和を標榜し、其分裂を豫防するに、最善の努力を爲さざるべからざる也。





鹽業銀行事情

鹽業銀行は元故袁世凱時代、則ち民國三年の頃、時の總統府財政顧問張鎮芳が鹽稅取扱を目的として、計畫したるものなるが、當時財界に於ける廣東派の勢力盛にして、容易に張氏の計畫は成功せず、一時殆んど絶望に歸したりし如く、其後周學熙の財政總長となるや、周氏は元と財界の廣東派を壓伏せんとする宿望を有せしより、張鎮芳の鹽業銀行の計畫を遂行せしめ、之れによりて廣東派に當らんと欲し、民國四年三月遂に之を成立せしむるに至れり。

鹽稅は支那政府歳入の大宗なるが、殊に民國以來大借款の擔保となり、其改革を計りしより、收入次第に加はり、大借款の元利年割額を支拂ふて、尙多大の剩餘あるより、之れが取扱ひの爲めに、特殊銀行を設立し、大に財界に覇を稱へんとするの計畫より、本銀行の設立を見たるものにして、本銀行章程第七條に所謂特別會計に屬する國庫金の取扱とは、即ち鹽稅を指稱するものなり、元鹽稅は外國銀

行團の管理の下にあり、其收入は一定の外國銀行に預入すべきものなるも、外國銀行は上海、漢口、天津等の要地に設けらるるのみなるを以て、若し本銀行にして能く當局者との聯絡を得て、大に活動せんか、各地の鹽場鹽產地に於て鹽稅の取扱をなすを得べく、從て之によりて支那財界に勢力を占むるの便なしとせざるなり。

而して本行の資本金は、總計五百萬元にして、内二百萬元は政府より出資し、三百萬元を民間より募集せるものにして、政府の出資額は全部拂込を了したるも、民間の拂込は開業當時四分の一を得、次いで六年末迄に計百五十萬元を得たるが、更に七年より毎年二十分の一即二十五萬元宛續收して、擴張の資に充つることとせり、其業務は爲替、預金、貸出、手形割引等の一般銀行業務の外、特別會計の國庫金の取扱、政府の委託による金庫事務、政府の委託による在外資金の管理等にして、特に右以外の事業の經營を

禁せり、今次に同行章程を掲ぐ。

鹽業銀行章程

第一條 鹽業銀行は有限株式會社とす

第二條 鹽業銀行は本店を北京に設け且つ内外國に於ける貿易上必要なる地に支店及分店を設置し又は他銀行と代理又は爲替の契約を訂結す但し支店及分店の設置廢止及他銀行と代理又は爲替の契約訂結解除等は總て本店職員會に於て議定の上財政部に報告すへし

第三條 鹽業銀行の資本總額を銀貨五百萬元として之を五萬株に分ち一株を銀貨一百元とす既に財政部に於て鹽業銀行の營業發展補助の爲め二萬株を引受くるを以て殘餘三萬株は一般人民より募集す

本銀行資金の利息は一ヶ年五分とし資金拂込の翌日より利子を付す鹽業銀行が資本を増加せんと欲するときは株主總會の議決を経て財政部の許可を受くへし

第四條 鹽業銀行の營業年限は開業の日より起算し滿三十ヶ年を以て限りとなす但し株主總會の決議を経て財政部に延期の申請を爲すことを得

第五條 鹽業銀行の株券は概して記名式を用ひ其實買讓與に關しては別に章程を以て之を定む但し賣買讓與は中華民國國民に限る

第六條 鹽業銀行の營業種目左の如し

- 一 内外の爲替及荷爲替
- 二 各種の預金及貯金
- 三 各種の貸付

四 國庫證券及確實なる商業手形の割引

五 外國貨幣の兌換及地金銀の賣買

六 各種證券の取立及貴重品の保管

七 其他爲替銀行及實業銀行に於て取扱ふべき營業

第七條 鹽業銀行は特別會計の國庫金を管掌す

第八條 鹽業銀行は政府の委託により金庫事務を分掌することを得

第九條 鹽業銀行は政府の委託により専ら國外に於ける資金を管掌し且其他の事件を取扱ふ

第十條 鹽業銀行は前四條に記載せる以外の業務を經營することを得す

第十一條 鹽業銀行は不動産株券及商品等の物件を買ひ受くることを得す但し左記の事項は此限にあらず

一 營業用敷地及家屋

二 債務償還の爲、債務者より引渡したる場合又は裁判判決に由りて取得する場合

第十二條 鹽業銀行は本行の株券を買受け又は之を抵當として取得することを得す但し債務者が債務の履行を怠るか又は返済の力なきとき之を抵當として取得し又は引受くることは此限にあらず

第十三條 鹽業銀行は董事五名以上十一名以下を置き株主總會に於て二百株以上を所有する株主中より之を選出し財政部に届出つへし其任期は四箇年にして期限満了するも再選重任することを得

第十四條 鹽業銀行に總理一名協理一名を置き株主總會に

於て總理は四百株以上協理は三百株以上を所有する株主中より選出し財政部に届出つへし其任期は五箇年にして期限満了するも再選重任することを得

第十五條 鹽業銀行は毎年一回本店所在地に於て通常株主總會を開く但し特別の事故あるときは臨時株主總會を開くことを得株主總會に關する規程は別に之を定む

第十六條 株主總會會員は十株毎に一票の投票權を有し百株以上は五十株毎に一票を遞加す

第十七條 鹽業銀行毎年の營業純益は其十分の一以上を積立金となすことを要す

第十八條 鹽業銀行は營業上の計算報告書を財政部に提出すへし

第十九條 鹽業銀行が本章程に違背するときは財政部之を制止することを得

第二十條 鹽業銀行事務細則は隨時修正し財政部に報告すへし

該行は現に北京正陽門外に本店あり、天津、上海、漢口、揚州、南京、信陽州に分行あり吳鼎昌氏總理たり

營業狀態

本行營業狀態は比較的成績良好にして開業以來の毎年度の收益額及配當率次の如し

	純益	配當
民國四年度	六七、一〇九、八七 ^元	官餘利 一割
同 五年度	二六七、二二一、二六	同 一割二分

同 六年度 四二五、五四九、七二 同 一割五分
積立金 五年度末現在 一三八、三九五、六七
六年度 一六六、七〇二、二九

計 三〇五、〇九五、九六

尙此に民國六年度資產負債表並損益表を示せば次の如し

資產負債表

負債の部

資本	五、〇〇〇、〇〇〇、
定期預金	一、九〇七、五八二
當座預金	六、二四一、〇八七
暫期預金	一、二九〇、四四一
積立金	四四、一九六
配當均一積立金	九四、一九九
本年純益	四八八、八二二
計	一五、〇六六、三三〇

資產の部

未拂込資本	三、五〇〇、〇〇〇
定期預金	九九三、七五二
定期抵當預金	一、三七四、六七六
當座預金	三、八六一、五八一
他店勘定借金	二、四三三、六〇一
暫期借金	五四四、九七九
開辦費	一四、六五八
營業用器具	一七、〇八三
營業用土地家屋押租	六三、七三八

現計 金 二、二六二、二六九
五、〇六六、三三〇

損益表
利益の部
利子 三三九、三四九元
爲替料 一〇八、六二二
爲替差益 一一四、二五九
平色益 三六、九〇二
雜損益 五、三二八

滙兌處利益 計 二五、八三三
六三〇、二九五

損失の部
各項支出
營業器具開辦費分拂 一一二、〇八二元
總管理處支出 六、二八二
本年純益 二二、一〇八
合計 四八八、八二二
六三〇、二九五

支那に於ける租借地研究

(三)

中立問題

▲手段の選擇 日本が八月十五日より同月二十三日迄の八日間の猶豫を與へたる最後通牒を獨逸に發し、一ヶ月以内に獨逸租借地、及び裝甲軍艦を讓渡すべきことを求めたる事實は、支那に對し直ちにこの憎むべき借地國を懲戒するの手段を案出せざるべからざるの暗示なり。然れども、これは目前の目的に對する、領土主權との直接の交渉にあらざるなり。かゝる交渉は、獨逸に最後通牒を送致せざる以前に於て試みられざるべからず。如何となれば、一度日獨間に戰時狀態に導く豫備行動を生じたる以上、最早其後に於て膠州問題に關し日支間に商議をなし、又はこれが遂行を

なすことを得ざればなり。而して、これ等の豫備行動が外界に現はれざる間は、利害關係國は自由行動をとり得べし。聯合國は、一面に於て支那に對し、獨逸をしてその公安の妨害を差控へんことを要求し得ると共に、他の一面に於ては、支那が獨逸に對し、若し獨逸がその權利を保持せんとするならば、少しく謹慎して、後日の悔なからんことを自省せしむるの策を採り得べし。而して、此の場合、借地國たる獨逸は全く勝算なかりしを以て、若しかる商議が正當に行はれしならば、各關係者は、満足なる結果を見たりしならん。然れ共、一度最後通牒の發せられんか、最早關係國は交渉の自由を失ふに至る。事後商議は僻見を伴ふに至り、領地の引渡は敵國の占領を豫測し、これを避けんが

爲め譲渡せるものなりとの理由を以て、非難せらるゝならん。

商議の目的は、戦争の警鐘に依り破棄せられ、従つて種の盡力も無効に歸し了りぬ。

▲聯合國の行爲は是認せらるべきものにあらず かゝる事情なるを以て、聯合國の場合には、これを是認せられたる事實と認むる能はざるなり。當時の必要に依り、已むを得ず自己の力にて、この問題を救済せん爲め、自己防衛の行動に出でたりと云ふも、これを以て直ちに支那の中立權を侵害せしことを保證するは、早計にして、その理由又不充分の嫌あり。如何となれば、聯合國の青島攻撃の以前に於て彼等は先づ領土主權に向つて、獨逸の暴狀に關して、不滿なる旨の正式の抗議を提出すべかりしなり。而して、この攻撃中にありては、その軍事行動を正當なる範圍に局限し全然中立地帯に及ばざるの意圖なかるべからざるなり。聯合國の行爲は、決して自發的にあらずして、全く獨逸の行爲に激せしめられしものなりとの論は、何等これが辯解となることなし。若し獨逸の行爲が違法なりとせんか、聯合國の行爲も亦違法たるを免れず。惡を以て惡に當ることを認容することが、あらゆる善意に對する矛盾なる以上、兩者とも全く辯解の餘地なきなり。二個の黒色を以て、一の白色を作るの不可能なるが如く、二個の中立權侵害を以て、有効なる國際法の成立し能はざるは明なり。加之、自己の行爲を辯護する爲めに、他人の行爲を引用するは、卑しむべきことなり。何故なれば、例へばAが犯罪者なる旨

の宣告を受けし場合、Bも亦かゝる犯罪行爲をなさんとしつゝありなど、眞面目に提言すること能はざるが如し、若し不幸交戦の己むなきに至らば、少くも中立國の利益と權利は尊重せざるべからず。交戦國が、中立地帯に於て、戰闘を交へしかも薄弱なる口實を以て、この中立侵害の行爲を正當視せんと企つるが如きことあらば、如何にして法律命令の尊重すべきかを知らしむることを得ん。

▲龍口上陸問題 前述せる處は、侵害の最も大なるものなり。故に此處にはその違反の小なるものに就き、論述せんとす。聯合軍の青島を攻撃するや、その要塞の包圍は主として、陸により行はれたり。即ち日本軍は、山東半島の北端に位する龍口に上陸し、租借地の後方よりこれを攻撃せんとせり。而して、青島は同半島の南端に位し、同港を去ること百哩余の地なり。然れども、英軍は勞山灣に上陸せり。同灣は、中立地の限界内にあり、吾人は聯合軍の獨逸營舎の攻撃を以て、先づ第一に考ふべき支那の中立權侵害なりと反覆力說せんとするものなり。而して、これに加ふるに、幾多の違反行爲あり。その重なるものは、日本軍の龍口上陸及山東半島を進軍したりし事、その他この行軍に概通せられ又は包圍せらるべき種々の行爲これなり。既に述べたるが如く、若しも聯合軍が、獨逸住民を葬り、或はこれを放逐せんことに關し、正式に商議したりしならば、決して青島を攻撃する必要なかりしなり。若しも、聯合國が論議するが如く、獨逸の危險が緊急を迫にして、手段を擇び、熱慮をなす餘裕なきものなれば、領土主權と、外交

上の商議を経るの猶豫もなく、これを鎮定せる行爲を正當なりとするならば、聯合國の戰鬭行爲は、租借地を包含する半徑五十浬、即三十餘哩の地域内に限局せらるべきなり故に日本軍が、龍口に上陸して、同地より軍隊を進軍せしめしことに對し、何等有効なる理由なし。

▲絶體中立地帯 若しも租借地をかゝる特殊の場合に制限せらるゝ中立地なりと承認するならば、半徑五十浬外の凡ての領土は何等談論の餘地もなく、絶體の中立地なり。而してかゝる領土に對する侵犯は、極めて明白なる罪惡なり而してこれのみにはあらず。日本軍の通行したる地は、種種の微發を蒙り、其他苛酷なる處置、戰爭の慘禍より生ずる幾多の辛苦を嘗めざるべからざる候あり。而して、この不法行爲と幾多の慘禍は、二個の異邦人間の戰爭より生ぜしものなり。聯合國の中立地違反は、全然辯護の餘地なき處にして、かの獨逸が佛蘭西に入るの捷徑として、白耳義に侵入したりし不法行爲と同様、これを正當なりと解すべからざるなり。

▲山東鐵道占領問題 次に日本軍の山東鐵道占領に關し、一言せんとす。膠州協約に依り、獨逸は青島より濟南に至る二個の鐵道を敷設するの權利を獲たり。この線の建設に關し、次の如き協調を設定せられたり。即ち「支那の資本はこの作業に對し、投資せらるゝを得べく、この工事を進涉せしむるに就いての協定は、將來支那及獨逸の代表者よりなる聯合會議に於て設定せらるべきものとす」との規定これなり。日本軍の龍口を出發するや、先づこの鐵道の主

線を占領し、然る後濟南に於ける最終驛を占領したり。同地は當地方の首府にして、膠州を去る二百二十哩の山東省の中心に位するを以て、支那は同様に抗議を提出したり。而して、日本はこれに答辯をなして、これ獨逸の財産なりとの主張と、軍事上の必要なる二つの理由を以て、この占領を正當なりとせり。

▲沒收の權利なきこと 問題となれる鐵道は、獨逸政府の財産にあらずして支那及び獨逸の共同關係より成る以上獨逸の財産なりと主張すること能はざる處なり。假令、獨逸の箇人的資本の割合がこの鐵道に於けるが如く支那よりも獨逸に多しとするも、尙ほ此の主張は無効なり。如何となれば、敵國の私有財産は、これを沒收し能はざればなり。敵國の領土内に於て、敵の侵入者が緊急の場合に於て一時的なりとは言へ、敵の私有財産を沒收することあれどかゝる財産はこれが使用後に返還せざるべからず。且つ所有者に對し、これが賠償を支拂はざるべからず。然るにこの場合に於ては、該財産は中立地内に在り、而してこれを徵發し能はざるは何等問題なく、これを沒收し能はざるは更に明なることなり。加之、交戰國は先づ中立地を占領して、支那の中立權を侵害したり。而してこは單に支那の承諾を得ざりしのみならず、その強固なる抗議をも顧みざりしなり。

▲「軍事上の必要」 前記鐵道を占領せし眞因は、恐らくは軍事上の必要に迫られし故なるべし。或る獨逸人の言ふ處に依れば、「必要の前には法律なし」と斷言せり。又日本の

參謀本部の言ふ處に依れば、若し鐵道を占領せざらんか、敵は必ず背後より包圍軍を攻撃すべし。これ實に包圍軍の安寧に對する重大なる威嚇なるを以て、これを敵の手に委することは、到底忍びざるところなり。若しも獨逸要塞に對する戰闘作業が、何等危險を受くる惧なからんか包圍軍の安全は、更に幾多の方法を以て強固にせられざるべからず。従つてかゝる鐵道を占領し、獨逸軍をして外界の援助を待つ希望を斷たしむるの必要ありと。これ軍略としては可ならんも、決して法律にあらす。如何となれば、歐洲に於ける法人が、文明國人の眼を以て批難せらるゝ理由は全く此の交戦に於けるものと同様なり。假へば軍事上の必要は、かの捷徑を採ることが、最大限度の時間を最小限度の時間たらしむと雖も、獨逸が白耳義を経て佛蘭西を攻撃せんとせしは、一の罪惡なり。同様に膠濟鐵道の占領は、支那の中立權侵害の他の最も明なる罪惡なり。

▲獨逸砲艦の事件 最後に違反の小なる一例を挙げ次に禁止問題に論及せんとす。青島閉塞中に獨逸の一水雷艇、租借地の限界外の支那海岸に活動しゐたり、此處に於てか、日本の船艦は、同所に赴きこれを拿捕したり。この拿捕は中立帶の海上に行はれしを以て、支那は又これに對し抗議をなせり。この事件は千九百七年の第十三ヘーグ條約の第二條の中立權と海戰に於ける種々の義務に關する條項に直接違反するところなり。該條文は大體次の如きものなり。「中立國の領海に於て、交戰國の軍艦が同海に於て拿捕又は搜索をなす敵對行為は、一の中立權侵害を構成し、従つて嚴

正に禁止せらる」と。而して、この捕獲は繼續せる追撃なる理由を以て、正當なりとすることを得ず。如何となれば追撃せられたる一船舶が、宛かも敗北せる軍隊が中立地帯に逃げ込むが如く中立帶に入り込まんか、追撃者は直ちにその追迫を中止せざるべからざる規定あり。若し彼がその追撃を續行し、かゝる領土、又は領海に於て、拿捕をなせばこの拿捕は無効にして、且つ中立權の侵害なり。

▲支那側に就いての考察 聯合國側に就いての考察は今迄論じ來れる處なり。公平に觀る時は、領土主權も全然非難の餘地なしと言ふべからざるはこれを承認することを得べし。熟慮すべき問題は、かゝる責任の結果並びにその範圍なり。

▲築城の權利 支那が獨逸に對し、膠州に築城をなすことを許可せる時より、既に此度の如き問題の起りし場合に於て、他國がこの防備を除く爲めに必要なる過激手段を用ひることに對し、何等不平を述ぶる權利を失ひしは、明白なる假定なり。若し支那が、特に租借地國に對し、専ら同國の利益の爲めに防備を設くることを認可せしものならばこの假定は眞實なり。然れども膠州協約の條項に依れば、この築城は租借地國のみの使用に供せらるゝ意圖にあらずして、同時に支那帝國の軍事的行動を容易ならしむるの計畫もありしなり。更に支那政府は、百里(支那)の地帯内に於て獨逸政府と協定して、軍隊を駐屯せしめ、他の軍事手段を用ふる處の權利を保留せり。これ即ち租借地期間満期となり。租借地國たる獨逸がその所有を貸地國に引き渡す場合に於ては

同地は全然支那の防備と使用の目的を以て、種々の防衛手段が構せらるに至るべし。この認可は、他の諸外國に對し専ら外國の利益の爲めに防備工事を施し、且つこれが保存をなさしむる許諾に不足せる點なり。例へば、露國との條約には「旅順口は全然軍港なるを以て……陸海軍に要する種々の建築物並に砲臺、兵營を建設すべし、而して漸次必要に應じ、資金を準備すべし」と威海衛に就いては「英國は堡壘を設くる權利に加ふるに、軍隊を駐屯せしめ、又防備目的に必要なる、如何なる手段も採り得る權利を有す」との規定あり。次に廣州灣に關しては「佛國は築城を設け兵營を建設し、租借地内に於ては如何なる防備手段も採ることを得べし」との規約を設定したり。

▲支那は中立侵害に對する駁論を禁せらるゝ事なし 支那は、決して他國に許可したると同様の權利を獨逸に與へしにあらざるを以て、中立侵害に對する辯駁を禁せらるゝ理由なし。若しもこの禁止が實行せらるゝものとしたらば、獨逸が敵國人をその租借地より放逐せんとせし地にも行はるべきは、當然考へらるべきことなり。例へば青島に近接せる威海衛或は旅順口は攻撃することを得しならん。然れども、事實に於ては然らざりき。これ實に意味ある事實なり。既に余輩の述べたるが如く、假令租借期間内は、借地國の所有なりと雖も、その所有地は、依然貸地國の土地なるを以て借地國の權利は、極めて不完全のものなり。この借地國の保持の權利は、決して所有權となることを得ず。故に、これに對する如何なる侵害も、（特に許諾者の財産に

損害を與ふるが如き）決して貸地國の歸屬的權利を剝奪することを得ず。若しもかゝる侵害を惹起したる場合は、貸地國はこの違反者若くは侵犯者に對して、賠償を要求する充分の自由を保留するものなり。

▲支那の無力 支那の非難せらるべきは、その怠慢に因るにあらずして、その力の微弱なるに因るなり。千八百九十八年に不幸にも支那は、その微弱と老衰の狀を現はせり。而して、若し然らざりしならば、決して支那は外國より租借地を強請せらるゝことなかしならん。又千九百十四年に軍事上に於て、たとへ多少若返りし觀ありしと雖も、全く其の無力なる點を曝露せり。若しもかゝる事なかりせば、決して今回の膠州問題の如きものは、議論の焦點とはならざりしならん。而してかくの如き無力は、各交戰國をして中立權の尊重を強請すること能はざらしめたり。然れ共こは支那をして全く救済の資格なしとはせざるなり。何んとなれば支那は中立侵害に對し、強硬なる抗議をなしたるを以てなり。支那の力は微弱なりき、併しながら、自國の利益を保護する事に關しては、決して怠慢ならざりき、若しも獨逸が初めて支那の鐵道に依り軍隊を青島に送りしことが、支那の中立違反なりとの理由を以て、青島の占領を是認するならば、聯合國も亦同時に中立權を侵害したり。即ち千九百一年の國際議定書に依れば、聯合國は北京と港灣との交通を開通せしめんが爲め、支那政府に對し、首府内に守備兵と共に公使館衛兵を駐屯せしめんことを主張したり。余輩は此處に領土主權の無能なることを説明する一

の重要な理由を述べんとす。而してそれは條約より生ずる義務これなり。支那はその中立權の確保を希望し居ると雖も、條約に制肘せられて、手段方法を實行する能はざるなり。かゝる義務の衝突が、最も大なる妨害にしてその結果は吾人の見るを得べきものなり。これ既に余が前章に於て新共和國が國際法の解除條件附約款 *Robus sic stantibus* の下に、租借權の取消をなし得る權利を獲るに至れりと述べし理由なり。かゝる事情なる故に、聯合國はその敵國に倣ふことなく、而して又かゝる侵害を就ふことなく、誠心支那の中立權を保證する爲めに支那を援助せざるべからず。▲支那の採り得る最大努力 貸地國の地位は望ましきことにあらざれども、全然望の絶たれしにはあらず。ヘーグの協調は嚴に中立權を主張すると雖も、決して中立國に對し不可能の事をなすを求むるにはあらず。中立權なるものは絶體なるやも知れず。然れどもこれを擁護する國家の能力は然らず。第三十條約の八條及二十五條に定められたる處に依れば、中立國は唯その中立違反を防止する爲めに任意の手段を以て、細心の注意を拂ふべき義務ありとなせり。これ等の違反行爲は中立管轄權内に於て、一交戰國の他國に對する爲めの船舶の機裝、或は武裝に關して述べると雖も、こゝに用ひし言は他の種々の侵害これを包含せり。假令吾人のこの定義が、中立の海上に於ける船舶の機裝に限局され居ると雖も、獨逸巡洋艦が青島をして、聯合國船舶に對する軍事行動の根據地となせる場合も、これに包含せらるべきものなり。扱て、支那の任意に採ることを得る手

段は、獨逸船舶の掠奪行爲を防止するには不充分なり。故に支那に對し、絶體の責任を負はすることは不可能のことなり。即ち中立國は唯眞面目に自己の力の及ぶ範圍にて、なすべき義務ありて、決して不可能の事をなす義務なし。中立國の責任を絶體的ならしむるは、一の苛酷なる義務を中立國に課することとなり、其結果は更に忍び難き戰爭を惹起せしむるやも知れず。然らば、區々たる事に頓着することに依り、反つて全中立國をして戰亂の渦中に投せしむるの避くべからざるに至るべし。従つて、中立國たる第二國が、第一國より不幸の運命となり。これ決して、國際法の立法者の精神にあらざるなり。故に支那がその能ふ限りの努力をなし、眞面目に任意の手段を構じたるを以て、——例へば支那は抗議を申込み、又侵害者と軋轢を生ぜざる程度の手段も構じたり——聯合國が、これに怠慢の罪を負はするは正當ならざるべし。

▲交戰地帶 日本軍の龍口に上陸するや、支那はこれに抗議を提出したりしが無効なりき。こゝに於てか、支那政府は租借地を圍繞する地を、一の交戰地帶なる旨の宣言をなせり。而して、この範圍は、北は龍口、西は膠州の西端より三十餘哩を去る濰縣 *Weishien* に至れり。而して、支那政府は宣言して、同地帶内に於ては、二交戰國の戰鬪行爲に對しては、何等責任を負ふ處なしとせり。扱て此の支那政府の分界行爲を以て、これ支那がその領土の一部を交戰國の使用に供したるものなるを以て、若しもこの限界内に於て、戰爭行爲を行ひしならば、何等侵害を構成せざるべ

しと考ふるものあるべし。然れども、事實に於てこの地帯は任意に創造せられしものならず。そは日本軍の龍口上陸の以前に設けられしものにあらずして、上陸以後の宣言に基くものなり。日本がこの目的を中止せんことの抗議を納れる能はざりしを以て、中立權は既に侵害され居れるなり。交戦地帯の設定に依つて、この侵害が償はるゝものにあらず。而してかの上陸後の交戦國の犯せる行爲は、決して分界設定に依り擁護せらるべきものにあらず。龍口上陸なる行爲が、違法なる爲めに、これに依り生ぜる其後の凡ての行爲が、同様に無効なり。例へば盗人或る家に侵入し、家人が抵抗する力なきを以て、家人はその財物を持ち去る事を容認せりとするも、この場合犯人は家人の許諾を受けしを以て、有効に財物を受ける權利ありとなし、若し然らずとするも、その罪を免るべきものなりと主張し能はざると一般なり。

▲その意味 限界設定の眞の目的は、近々現はるべき獨逸の此の事に關する抗議に對し、機先を制せんとするに在り。この地帯の創定に依り、支那が聯合軍の行爲を正當なりと容認せしものなることを認むる事能はず。如何となれば、聯合軍の行爲はその最初に當つて既に違法であり、尙ほ將來もかゝる地帯の創定せられしと否とを問はず繼續せらるべければなり。この地帯は實に支那の中立國としての固有せる權利と、交戦國としての聯合國の權利との妥協より生ぜし企圖なり。領土主權は、決して聯合國の既に爲したる或は將來爲さんとする行爲を、輕減する能はず。同時に、

他の不平に對し、自己を防衛せんとせざるべからず。如何となれば、獨逸の土地が聯合軍に依り侵されたりとせんかその所有者たるものは、領土主權に對し自己を保護する能はざりし怠慢に因り、賠償を求むる權利を主張するを得べし。此處に於てか、支那は先づこれらの權利主張の機先を制し、一地帯を指定し、且つ宣言して支那は同地帯内の戰鬭行爲に對しては、何等責任を負はざるべしとせり。此の手段たるや、一の變則たるは免れずと雖も、これ均しく租借地の敷在し、聯合國の青島攻撃の生ぜし所以なり。この戰爭地帯は、正義と力との淺薄なる妥協ならんも、此場合に於てこの不幸なる中立國の探るべき最良の手段たるを失はず。

▲獨逸は如何なる抗議をなす權利も禁せらる 聯合國に對するこの偏頗なる行爲に對し、獨逸は直に抗議をなし、且つ宣言を發して領土主權はこの聯合國の行爲より生ずべきあらゆる損害に對し、責任を負ふべきものなりとせり。ここに至つてか支那の立場は極めて苦しきものとなれり。即ち聯合國は最初に獨逸が中立權を侵害せりとの理由の下に支那の中立を侵犯し獨逸は又敵が支那の中立權を犯しその土地を毀損することを容認せる理由に對し責任を負べしと威嚇せり。然れどもこの獨逸の抗議は主張し得ざるものにして従つて支那の答辯の眞意は極めて明白なるものなり。膠州灣は平穩の享有なる理由に依り、獨逸に租借せられしものにして、決して侵略的の意味に因れるにあらず。若し租借地國が、その借地を使用するに當り、不適當の處置に出

でしとせば、借地國はその地に於て明らかに妨害行爲をなせるものなり。若しその妨害が、輕減せられず、且つその繼續に依り、借地人より受くる損害が、着しくなるべき惧あらんか、借地人は明かに平穩の享有なる默示盟約を破れるものなり。こゝに於てか貸地國は、租借權の取消をなし得べく、又は借地國をして、これを手放さしめ、或は若し借地國がこれを拒絶したる場合は、強制的にこれをその地より放逐せしむるを得べきなり。現時の事件に於ては、貸地國は種々の事情の爲めに、自己の命令を強請することを妨げられたり。然れども、その占有を解除せられたる借地國も他國がこの妨害を除去せんと企てしに依り、これに異議を述ぶることを禁せられたり。契約の不履行をなせる借地國の權利は、盟約を破棄すると同時に既に其効果を失ひしものにして排斥を受けし國が、貸地國なると他の外國なるとは、借地國の關する處にあらざるなり。勿論、貸地國たる支那に於ては、その以前の借地國、即ち獨逸が排斥せられし事が、自國に依れるものなりや、又は第三國に依れるやは、深く考慮すべき關係あり。然れども、借地國たる獨逸は全く如何なる抗議をもなすことを禁せられたり。

▲膠州問題の正當なる解決 吾人は既に論述し來りし處に依り、此處に膠州問題の正當なる解決を暗示すべき地位にあり。吾人は既に同地内に於て、或一國が罪過を行ひ且つ他國が同様に大なる失錯をなしたることを認むるものなり從而、この場合とるべき理想的の手段は、獨逸が其の租借地の全部を、支那に還附すべきことこれなり。日本の最後

通牒に解答を與へし以前に於て、獨逸がその膠州の處分に關し、支那の意見に接近し居たりし事は、理解し得べき事實なり。然れども、この提議は或る條件を附隨せり。而してこの條件たるや、支那が聯合諸國の望ましからざるものたるべしと思惟したりし理由ありき。故に、この提議は遂に拒絶せられたり。故にこの還附は必ず無條件のものならざるべからず。加之、獨逸は聯合國の威赫となるべき凡ての行動作業を差し控へざるべからず。然れども、此等凡ての事たるや、若しも敵國に占領せらるゝを恐れてなす讓渡なりとの理由の下に無効に歸せしめらるゝ商議ならざる以上、露國佛國及び英國に宣戰せし以前に於て、なされざるべからざるものなり。而して、この引渡は獨逸が以前有したる凡ての租借地に對する支配權を失ふ様、絶體的且つ完全なるものならざるべからず。然らば、聯合國は支那の中立權を侵害する口實もなかるべく、獨逸の商業上の利益も充分留保せられしなるべし。然るに現今に於て、獨逸は單にその租借地に對する權利を失ひしのみならず、山東省に於ける凡ゆる商業上の特權を失ふに至りしなり。

▲總括 此處に述べ來りし事實に就き約言せんと欲す。租借地は、これを讓與し能はざるものなり。如何となれば、租借權は專屬的にして單に慎重に領有すべしとの權利を借地國に附與するものなればなり。この借地契約の満期に於ては、借地國は該土地を其儘完全に許諾者に還附すべき義務あり。租借地は、中立に准すべきものなり。現時戰爭に於て、膠州に關する事件を觀察すれば、聯合國が支那の中

立權を犯したる事實は、これを正當なりとする能はず。如何となれば、獨逸の威嚇は決して「緊急急迫にして、手段を擇ぶ餘地なく、熱慮を拂ふべき餘裕なかり」しにはあらざるなり。若し獨逸にして、先見の明ありしならんには、獨逸は完全に、且つ無條件にて、租借地を支那に還附したるしならん。然れども、獨逸はこの避くべからざる運命に對し、全然盲目にして、この危難を招きたるなり。聯合國は、又自己の力にて妨害を除去せんとせし以前に於て、支那に對し正式に獨逸の暴舉を除かんことを、要求すべかりしなり。又一方に於ては、支那は全然その責任を免るゝ事を得ず。支那が自己の中立を擁護すべき能力を試験せられし際その無力を暴露したりしは、支那の負ふべき責任なり。然れ共、又この事實を以て、かのヘーグ協約の違害者にして、且つ支那を援護すべき位置に在りながら、反つてこの悲しむべき契約を利用せんとする、各國の罪を免れしむる能はざるなり。支那はその怠慢の罪は免れざるべし。然れ共獨逸及び日英兩國は、その犯せる罪過に對し、當然非難を蒙らるべからざるなり。(完)(支那人 M. T. Z. Tyan L. D. 著 The Legal obligations arising out of Treaty Relations between china and others)

寄贈書目録

通商公報	丸善株式會社	至五六四號
新著書	本天商業會議所	七一〇號
南洋協會公報	南洋協會	一五〇號
實用新案公報	特許局	至五〇八號
經濟資料	東亞經濟調查局	一〇〇號
學經煙新報	丸善株式會社	一〇〇號
ヘラルドオブアジヤ	ヘラルド社	至七四三號
東洋時報	東洋協會	七四三號
日本及日本人	政教社	至四三號
滿洲ニ於ける露國事情	外務省政務局	二〇〇號
滿洲經濟事情	日支時論	一四三號
滿洲經濟事情	關東都府民政部	一四三號
調查資料	大日本水産界	一八三號
南洋經濟新報	臨時産業調查局第三四部	一八三號
ミツウチン新報	其文庫	一五三號
國民經濟雜誌	其社會	一〇〇號
滿蒙研究會彙報	其社會	一〇〇號
帝國經濟學會彙報	其社會	一〇〇號
東方時論	婦人問題	一〇〇號
三田評論	其社會	一〇〇號
月報	小樽商業會議所	至一〇〇號
月報	名古屋商業會議所	至一〇〇號
月報	外務省政務局	至一〇〇號
宮城縣教育	其社會	至一〇〇號
朝鮮公報	特許局	至一〇〇號
遠東時報	其社會	至一〇〇號
亞細亞時報	其社會	至一〇〇號
紡織聯合會月報	其社會	至一〇〇號
大日本紡織聯合會月報	其社會	至一〇〇號
京都法學會雜誌	其社會	至一〇〇號



支那に於ける英吉利人と獨逸人

デツニス、ケー、モツス

三、支那に於る獨逸商人

其性格及び勢力

ベルンハーデー將軍吾人に語りて曰く、『獨逸商人は一般に英國商人よりも信頼し得べく、且つ一層勤勉なりと思考せらる、』と。將軍の此意見或は正しからむ、而して將軍が斯の如く自國民を賞讃するに對しては何人も之を誹謗し得べからざると同時に、是れ吾人が將軍同様英國國民を賞するも何等の害を爲すものに非ると一般なり。然かも一方將軍が彼の著作に於て論じ且つ言及せる商業事項に關しては彼は失望の中に彷徨せり、而して彼の立言は殆んど事實と相違せり。將軍の著作よりして若し、其博名を贏ち得たる軍

事的脅威を除去せんか、殆んど一顧の價值すら之を認むる能はざるべし。彼の著述を閲する者は皆、彼の意見及び叙述の餘りに誇調なるを認むるなるべし。極東を旅行せる實業家は、將軍の著作が、商業上及び政治上の事項に關して、虚偽と皮相觀に過ぎざるものなることを知るべく、而して此等の問題に關する彼の意見が、戰時中獨逸の採用せる陸海軍備上の施設に關する彼の正しき豫想とは著しく不一致の點あるは寧ろ吾人の驚愕を禁じ得ざる所なりとす。將軍は其世界漫遊の途上各所に於て自國人の歡迎を受け、而かも海外に於ける多數獨逸人の常習たる極めて華麗なる贅澤なる歡迎を受けたるならむ、而して、其等の席上主人側に於ては、將軍の喜悅を買はむが爲めに、心にもなき樂天觀

を吐きて彼を説得せしなるべし。然れども吾人は斯る見地よりして將軍及び其の所説を批判することを爲さざるべし。吾人は人を陥れ易き彼の欺罔の人氣取策より免かるゝに何等の困難を感ずることなし、更に事實に立脚して論ずる所あるべし。

吾人は先づ將軍の言に従ひ、獨逸商人は一般に英國商人よりも勤勉なりとの説を承認して、吾人の論述を進むるの可なるを思ふ。蘇土以東在住の英國人は彼等の餘分の精力の大部分を遊戲に費すにも拘らず、獨逸人は好んで彼等の餘暇をも事務室の一遇に消費し、而かも彼等は吾人の最も親むべき日曜日の幾分さへも、其事務の爲めに犠牲に供したるは有名な事柄にして、然かも獨逸人は何故に斯くしても自ら富裕なる能はざるを怪みたり。今英獨人兩者を比較するに、英國人は遊戲によりて彼の健康を増進しつゝ利益を收むるに反し、獨逸人は終日徒らに營々として其の利する所は極めて少かりき。

更に兩國民教養上の問題に就きて考ふるに、獨逸人は英國人よりも高等にして優良なる教育を有するが故に、商業上に於ても、一層適當なる性質を有するものゝ如くに思惟する者多しと雖も、在支獨逸商人が其の店員として適當なる獨逸青年を雇ひ入るゝに際して少からざる困難を喫しつゝありしは本記者の最も驚異を禁する能はざる事件なりとす。然り、此事は或る通信によりて明かに知ることを得たるなり。更に獨逸に於て、青年を雇入るゝこと困難なるのみならず、よし彼等獨人の想像するが如き適當なる青年を

獲て之を海外に派遣するを得たりとするも、難件は寧ろこの時に始まるなり。即ち多くの場合に於て、其雇用せる青年は最初よりして、不満足なるものなるを常とせり。此種の痛々しき經驗は英國人よりも獨逸人に多かりしことは確かなり。戦前に於て吾人は適當なる書記を求むるに何等困難することなかりき、而して、數年前に於ては、或る人、年五十磅の報酬にて亞弗利加の西岸地方に活動すべき書記を求むる旨をマンチエスターの一新聞紙に廣告せるのみにて、此の件に關し志望者五百名の申込を受けたるは注意すべき事柄なり。此等志望者の九割は實際に於て其職務に不當の者なりしは事實なれども、此事は會一般英國青年が海外に赴きて、海外に於る經驗を獲むことを欲するもの多きことを證明せるものなり。

極東に於る英國植民地の、及び商業上の利益確保の爲めに、吾人が其の精力に於て、將た又其の教育に於て、何等獨逸人に劣ることなき多數の青年を派遣せるは確かなる事實なり。

獨逸商館の青年の多數は全く信頼し得べからざるものなること屢々發見せられたるのみならず、彼等の多數は其雇主に對して不忠實なりき、香港の辯護士が或人に語りたるを聞くに、彼等辯護士は常に獨逸青年よりして、法律上彼等の契約を解除するを得べきや否やに就きて相談を受けたるが、此種の鑑定を求むる者は英國人よりも獨逸人の方遙かに多數なりと。斯くの如くなるを以て、獨逸青年の能く自己の地位を改善し得たるもの殆んど稀にして、其一般的結

果は、斯る不安動搖の狀態は引いて、唯徒に不必要なる苦惱煩悶を増加したるに過ぎず。支那に於ては、亞米利加の如く、何人の爲めにも自ら好んで働かむと欲する人の存するなし。而して、支那人は或る程度まで何事も自ら爲し得るの國民なるが故に、極東支那は支那人の未だ有せざる特殊の智識技能を有するの士のみの活動の舞臺なり。獨逸人の雇用人が其買辦(コンブラドル)に對して多大の負債を有せしことは茲に一言するの要ありと信ず。コンブラドル(買辦)とは、支那に於る外國商館に雇用せらるゝ支那人中の最も上位を占むるものゝ名稱なり、獨逸人にして、支那の買辦に對して多くの負債を有せざるものは極めて少數なりき。尤も、斯る支那人より借財することは他の外國人間に於ても、決してこれ無きに非ずと雖も、獨逸人の如く甚しからざるなり。此種の其日暮らし生活は在香港獨逸人の生活の特色にして、彼等の中節儉を努むるものゝ如きは殆んど稀なりき。即ち彼等獨逸人は贅澤なる生活の爲めに彼等の俸給の數ヶ月分を前以て費消するを習慣とせり、此種の獨逸人が、吾が香港植民地の商業及び繁榮に何等寄與することなきは自明の理なりとす。吾人は香港に移住し、而かも定住して、勤勉に働き、其貯蓄金を投資するの士を歓迎するものなり。而して、獨逸人の如きは、彼等の營みたる商業上の成績の示すが如く、香港に對して寄與する所ありしものと認むる能はざるなり。

獨逸人には外國語を能くするもの多く、歐洲數ヶ國語を話し且つ書き得るもの敢て珍しからず。彼等は皆驚くべき

短日月の間に英語を習得せり。然れども一度支那語の智識を獲るの問題に到りては、獨逸人の才能も自ら制限せられざるを得ざりき、香港、廣東及び其他南支那の地に於る獨逸人にして支那の土語の生かじり以上の上達を示せるものの如きは甚だ少數にして、此點に於ては、英國人は敢て獨逸人に劣る所なかりき。支那語の智識の一層必要なる天津及び漢口に於ては、支那語の智識に於て、獨逸人は英國人に優れたりと稱するも、上海及び南支那に於ては英國人は決して獨逸人に輸するものに非ざるなり。支那語を話し得る能力を有することの利益を極少視するは固より無稽なると共に、而かも其利益は兎角誇調さるゝの傾向あり。人或は支那語を數ヶ年間研究して、其アクセント及び其他凡ての點に於て完全に習得し得むも、而かも其人の競争者が手算似若くは所謂支那英語(Pidgin English)を以て、自己の綿布が前者のものよりも一碼に付十仙宛廉價なることを能く相手方に通じ得たりとせば如何、此の場合に於て、前者の流暢なる支那語も何等施す所なかるべく、其競争者は悠悠其綿布の注文を手に收めて立ち去るなるべし。

獨逸商館は特に其のマンチエスター商品部の爲めに英國人を販賣人として雇用せり。獨逸人は英國人に對する待遇を善くし、相當の報酬を支拂ひたるも一方英國商店に於ても、其雜貨部の爲めに獨逸人を雇入るゝの必要を感じたり。其の二、三の場合に於ては結果は良好なりしも、將來は自國人を採用する方可なるべし。吾人は獨逸商品取扱の爲めに外國人を雇用するの必要を認めず、何となれば、獨逸人

相互が無要の競争を爲し、而かも獨逸製として有名なる商品の多額に就きて價格の割引を爲し、多く利する所なかりしに反し、二、三の英國商店は獨逸品の取引に於て多大の利益を收め得たるは顯著なる事實なるが故なり。獨逸人は自國の小製造業者を閑却せるなり、之に反して、英國人側に於ては、固より其實上高はさまで大ならざりしと雖も、一般に良好の結果を擧げ得たるなり。

獨逸の製造業者及び商人が英國の製造業者及び商人よりも、外國市場の要求を精査して、之に應せむとするに努むるの風ありとは吾人の屢々耳にせる所なり。此の英國製造業者に對する批難の大部分は當らざるものにして、本記者の所見を以てすれば、該批難の職として由り來るは、獨逸本國は一の大家庭工業なるに反して、英國は大工場工業なるに基くものゝ如し。此事は次の例を以てすれば直ちに諒解するを得べし、今獨逸の玩具商が眞紅色の代りに、カーキ色の軍服を着けたる錫製兵隊玩具一萬箱の注文を受けたりと假定せよ、此際に於て其玩具商の先づ第一に爲さるべからざるは、紅色染料の代りにカーキ色染料を購入することにして、其の染料と錫製の兵卒とを各家庭に配布して、之を製造せしめ、斯くて注文の品を交附するなり。之に反して、ヨークシャの製造業者が從來のものよりも幅四吋丈廣くするの條件にて、羊毛布一萬枚の注文を受けたりとせよ、先づ第一に、彼は從來のものと異りたる寸法の羊毛布を製造する爲めに、新しき織機を購入して、之を設置せざるべからず、故に彼は其注文品の製造のためには長期間

と更に高額の代金を獲るにあらざれば引合はすとの理由を以て、一應其注文を謝絶するなるべし。之に依りて見るに吾人の招ける惡評の根據は充分明かなるべし。本記者は嘗て自ら英獨兩國製造業者に對して新奇なる注文を發するの機會に屢々遭遇せり、而して、吾人は一英國製造業者が到底新條件に隨ひて、支那人の嗜好に適せしむるために特殊の意匠を有する物品の製造に應ずる能はずとの不同意を示せる一事例を想起せざるを得ず。獨逸人に於ても同様の實例あり。吾人は多くの優秀にして模範的な商品を製造して全世界の各國に輸出するが故に、世界の各所より湧起する變化極まりなき一時の流行を満足せしめむが爲めに、吾が商品の品質を變更するが如きは一の罪惡たるべきなり。獨逸にも亦少許の模範的な代表的產物なきに非ず、彼の有名なるケルン香水(Eau de Cologne)『四七一』號の製造者が、該番號の數字の合計が『十三』なる不吉の數となるが故に、此の有名なる番號を變更すべしとは誰か之を想像し得るものあらむや、而かも此種要求は日々夜々前同様な極めて卑近なる理由を根據として提出せらるゝ所なり。多數の英國商品が其品質優秀にして模範的なるが爲めに、其製造者が其商標の變更すべきことを要求せられ、該製造者がこれを拒絶せるが故に不當なる批難を蒙りつゝあるは吾人の屢々目撃する所なりとす。(此項完)

支那紙幣流通狀況

銀兩券

券に憑つて銀兩を交付するものにして、券額は概ね一兩五兩、十兩、五十兩、一百兩の諸種あり、惟ふに我國銀兩平色參差、名目同じからざるを以て、各所の付現亦異なる處のもののは行化銀たり、奉天の發行する處のものは藩平銀たり、長沙の發行する所のものは湖平銀たり、之れ僅に其の一例を擧げたるのみなるが、餘も概見すべし、我國銀兩券の須要は多からず、從て其流通額銀元券の廣きに及ばず前には湖南、江西兩省の發行するもの多く、概ね兌換する能はず、其の他の地方にて發行せるものは甚だ少し、各外國銀行の天津、漢口等に於て往々銀兩券を發行し、銀元券と共に相輔けて行はる、其他東三省興業銀行、及官銀號の瀋陽平銀券發行、陝西泰豐銀行の陝議平銀券發行あり、其流通額稍多し、各地習慣により、必ず生銀を用ふるを要し、需用に從て銀兩券を發行せざるを得ざるを除く外、將來銀元券の流通普及すれば銀兩券は自ら消滅するに至るべし。

銀元券

券に憑りて銀元を交付するものにして、近年殆んど遍く

全國に行はれ、中國、交通兩銀行發行のもの最も多く、流通亦廣し、外國銀行の發行せるもの亦頗る少なからず、其の券面は概ね一元、五元、十元、二十元、五十元、一百元五百元の諸種にて、内一元、五元、十元の三種發行額最も廣く、五十元、百元の兩種は發行額少く、流通亦多からず、二十元券の如きは僅に北京中國銀行曾て之れを發行せることあるのみ、五百元券に至つては僅に少數の外國銀行發行せるのみ。

各地通用銀元同一ならざるにより、銀元券の付現亦同じからず、所謂通用銀元は、此處に通用して、彼處に通用せざることあり、例へば上海發行の銀元券は英洋を以て主となし、北京、天津發行のものは北洋站人洋を多しとなし、其の他江西、湖南一帶は、同一銀元にして光洋、常洋の別あり、之れを以て其一斑を概見すべし、これ各銀行發行の銀元券に、均しく發行地方を刷入する所以にして、故に現發行地に於て兌換するにあらざれば、必ず多少の割引あり之れ幣制不統一の然らしむる所なり。

小銀元券

券に憑つて小銀元を付するものにして、此券は僅に東三省、廣東、福建にあり、東三省にては俗に小洋票と呼び、中國、交通、殖邊、奉天興業銀行より東三省各官銀號に至

る迄、均しく之れを發行す、廣東にては雙毫券と稱し、中國銀行發行のもの流通額最も多し、券面は概ね、五角、一元、五元、十元の諸種にして此の小洋票は小銀元を以て兌換すと雖ども尙元を以て計算す、東三省は流通特に盛にして殆んど此券を以て貨幣の本位となせり。

銅元券

券に憑りて銅元を付するものにして、此券は官錢局の出す處にして、大概機關を專設して之れを發行せり、銀行の發行するものは甚だ少く、僅に湖南銀行及江西民國銀行が曾て發行せることあるのみ、此券の發行額及流通數の多きは財政部平市官錢局、及湖北官錢局を最とす、但通用區域は甚だ狭く僅に少數地方に流通するのみ、平市官錢局發行する所のもの、如き、北京、天津、保定三處に限られ、湖北官錢局發行のものは漢口、宜昌、沙市、武昌等の處に多く行はれ、其の券面は五枚、十枚、二十枚、五十枚の數種とす。

制錢券

券に憑りて制錢を付するものにして、實際上は則ち銅元を以て兌換す、現に近來制錢消滅して殆んど盡き、所謂制錢票の僅に虛名を存するのみ、從前各地錢業錢票を發行するの數甚だ多かりしが、近來は錢票の需用昔年に及ばず、故に錢業中の錢票は甚だ稀なり、最近錢票の流通地方に廣きも、東三省、湖北省を以て最多となす、東三省は則ち廣信

公司より以て奉天、黑龍江、吉林三省官銀號發行の官帖あり、湖南、湖北は官錢局發行の臺票あり、該地の市場に廣く流通す、但し臺票、官帖等は市價定まりなく、多くは券面より稍低價にして、同一數目の錢票を以て銅元と兌換す亦往々額に照し授受する能はざるものあり、券面額は各地同じからず、東三省の官帖の如きは吊を以て計算し（東省の所謂吊は每吊百六十錢）湖北の臺票は千を以て計算す。次に民國紙幣の發行につき、辛亥革命以前のものは姑く置いて論せず、民國以來の發行狀況を略説せん。

中國銀行

中國銀行則例を按するに、本兌換券發行の特權あり、銀元票は、各行號の均しく發行する處にして、別に東三省、廣東省、福建省に於ては小洋券を發行す、同行歷年の營業報告によるに其營業額元年には僅に五十萬元なりしが、二年には五百萬元、三年には一千六百萬元に達し、更に四年には三千八百萬元に上りしが、五年に至り兌換を停止せるより、現に尙影響を免がれずして發行に妨礙あり。

交通銀行

交通銀行則例を按するに本政府の特許を受けて兌換券を發行するの一語あり、故に清末の舊により兌換券を發行す同行歷年營業報告によるに其發行額次の如し。

元 年	七十九萬三千五百五十八兩
二 年	四百四十九萬八千七百六十二兩

三 年	五百九十五萬七千六百二十七兩
四 年	三千餘萬元
五 年	二千二百二十九萬七千八百九十一兩

(交通銀行は記帳本位は庫平銀なるも其發行する處のものは銀元券なり)

殖邊銀行

殖邊銀行條例の規定によれば、財政部の認可區域に於て兌換券を發行し得るものにして、該行は東三省に於て銀元券及小洋券を發行して流通稍や廣きも、上海分行は濫發して準備金なかりし爲め、遂に支拂停止に至れり、全體の發行數は未だ詳かならざるが、上海方面に於て發行せるもの約七十餘萬元なりと。

浙江興業銀行

該行は清末、上海、杭州等に於て兌換券を發行し、流通甚だ廣く信用極めて佳なり、四年章程修改の時改めて中國銀行と特約を結び、該行自發の紙幣を回收し、中國銀行兌換券を代理發行することとし、其の總額三百萬元と定め、特約有効期間を四十二年となせり、現に已に天津、杭州、上海、漢口四埠に於て發行す、五年該行決算報告によるに上海行領用兌換券七十萬元、天津行三十萬元、漢口行五十萬元、合計一百八十萬元にして、其中國銀行への納入準備現金九十萬元、保證準備四十五萬元にして、自存準備四十五萬元ありと。

浙江地方實業銀行

該行は浙江銀行を改名したるものにして、清末上海行紙幣を發行せり、民國三年改稱して實業銀行となせる後、時偶政府が紙幣統一を計畫せし時なりしより、該行は中國銀行と訂約し、中國銀行兌換券を領有して自發の舊紙幣を收回することとせり、民國六年上半年決算によれば、該行發行の中國銀行兌換券計百四十四萬八千七百七十元あり、中國銀行保管準備金計八十萬四千元あり。

江蘇銀行

該行は中國、交通銀行が未だ南京に支店を設けざるの前は曾て銀元券を發行せしが、其額多からず、流通又廣からず、該行六年上半年決算によるに發行紙幣額五千七百四十元なり。

中國通商銀行

通商銀行の紙幣發行は最も早く、銀兩券及銀元券を發行す、該行丙辰年第三十九期決算によれば、其發行兌換券額規銀百二十七萬七千七百六十五兩三錢六分あり(上海發行銀行週報)

なし。

▲鑛業者の犯罪 若しも鑛業者が罪を犯したる時は但書に従ひ條約の規定を適用せしむ。若しも領事の判決が支那政府の默認を得る能はず或は犯罪の行はれし地方の鑛業者の満足ならざるものたるときは犯罪者の同胞國民たる鑛業者は再び同地方に於て鑛山發掘の認可を申請する能はず。併しながら民事訴訟に於て犯罪者が支那人或は他の外國人の間に例へば單なる私權に關する金錢上の訴訟の起りし場合は支那當局者は支那法律に準據してこれを判決すべきものなり。若しこの訴訟の事情が特別なるものにして何等法律其他の制規に約定せられざる時は一般に外國に行はるる法律と支那法律に對し正當なる考慮を費したる後これに従つて公平に調停すべきものなり。

▲上告 上告の制度も亦制定せられたり。これに依り鑛業者は鑛務委員の判決を不満なりとしてこれを省の鑛政總局に上告することを得。或は又最後の手段として北京の農工商部に上告することを得べし。而してかくの如き上告に對しては如何なる外國の公使も領事もこれに干與すること能はず。而してこの裁判は特別の規定あらざる限りは支那の制規に従つて判決せらるべし。

▲外國鑛法の援引 後者の場合にありては判決の根據として外國の鑛山に關する法規を引用することを得。然れどもかくの如き場合に於ても支那の法規の主義精神に觸背することあるべからず。

(The Legal Obligations Arising

out of Treaty Relations Between China and Others.)



彙 錄

支那の鐵道敷設權

概して鐵道を敷設し或はこれを経營する處の協定は一通商上の契約にして單純にして明白なるものなり。然れども支那に於てはこの商業上の契約の中に政治的要素包含せられたり。

▲特許權爭奪戰 これ等の協定は主として諸國が租借地の爭奪に熱中し居たりし當時に於て行はれたるものなり。而してこの爭奪の最高潮に達したる當時即ち千八百九十八年七月十三日英國外務卿サリスベリー卿は駐支英國公使クロード、マクドナルド氏に次の如き電文を發したり。「現在行はれつゝある特許權爭奪戰は我國に利あらざるが如し。中略。而してこれより生ずる一の禍は將來我國に對し物資の注文をなすこと減少するに至るべし、これ憂慮に堪えざる處なり。而して他の禍は即ち鐵道經營者が差別的賃銀又は特權を設けて我國の通商を妨害するに至るべきことこれなり。而してこは特許權本來の條項中に同一の待遇をなす旨を記入せしめ以て極力この禍を避けざるべからざるなり。」

▲政治的色彩ある商業取引 支那政府に對し特許權所有者は北京駐在の公使或は自國政府の活動的にして警戒的の援助を受け居れり。即ちこの取引の行はるゝ以前に於てこの

契約の條件は外交代表者の檢閲を経るものにして又これが署名をなす場合に於ては兩者間に通牒するを要す。かくの如き状態は正當なる辯護を缺くものにしてこれ等の協定は決して許諾者側に利益なりとは首肯し能はざるなり。

契約の條件

特許權所有者の區別に二種ありて一を外國政府とし他の一を外國の或る箇人又は會社なり。前者の場合に於てはある一定の期間内ある政府に許可せられたる特許權にしてこの期間内に於て該政府は鐵道を敷設し或はこれを管理するを得べし。第二の場合には外國の個人或は會社に對し行はるるものにしてこれが條件に關しては鐵道借款に關聯して論せんとす期間満了の際は特許權享有者に賠償を支拂ひ或は支拂はずしてこれを許諾者に歸すべく期間満了前の場合は償還の權利を以て或はこれを有せずして許諾者側に歸すべきものなり。

▲軍用鐵道 外國政府の特許權に就いてこれを觀ればこれ等鐵道は軍事上の目的を以て獲得せられたり。例へば千八百九十六年に於て露國は延長千哩に亘る東清鐵道を獲得し千八百九十八年には更に旅順に至る迄南方四百哩を延長したり。日露戰爭後旅順に至るこの四百哩の延長線は日本に讓與せられたり。これ千九百五年のことにして支那政府の確認したる處なり。而して日本はこれに加ふるに百七十哩の安奉線の敷設權を得たり千八百九十八年佛蘭西は雲南府に至る百哩に及ぶ東京線の延長を得たり。而して同年に於

事業界

上海紡織株主總會

上海紡織會社第十回定時株主總會は、九月二十六日午後上海三井物産支店に於て開催せり、當日の出席者は林支店長、幡生、タイアー、フレンタイス、ロバートソンの諸氏其他にして提出株數二萬六千四百三十四株に達す、定刻到るや林氏議長席に着き昨年七月一日より本年六月末日迄一年間に於ける營業經過並に計算に就き報告を爲したり、其概要左の如し同年度は土地建物機械及諸設備は兩工場に少しく機械を増設したる外、取立て、云ふ可きものなし、棉花棉糸綿布在荷は前期と比較する時は、七十六萬七千三百兩二錢の増加にして、倉庫及び兩工場に在る原棉は約八十七萬兩、綿絲は五十萬兩、綿布四十七萬兩なり、綿絲約五割綿布約四割三分は賣約濟みのものなり、而して其餘のもの亦本計算締切後に相當利益にて賣約せり、之等約定品の評價は新勘定に移したり、負債の部にては三井物産の借入金を除き別に説明する程のものなし、利益損失計算にては綿絲賣上利益金は前年度繰越利益二萬二千五百三十三兩四錢三分を合算し八十萬三千三百八十三兩八錢三分にして之を左の如く處分せり。

建物勘定
紡織機械及設備

一五、八八六、一一
四六、七九五、四二

什器

計

準備基金

計

配當金(一株に付六兩)

特別配當金(一株に付六兩)

計

修繕基金

次期繰越

計

三〇

二、五二五、二五

六五、二〇六、七六

五、九七二、二六

七一、一七九、〇二

二四〇、〇〇〇、〇〇

一四〇、〇〇〇、〇〇

四八〇、〇〇〇、〇〇

二〇〇、〇〇〇、〇〇

五二、二〇四、八一

八〇三、三八三、八三

同年度を通じ紡績工場は晝夜操業織布工場は晝間のみ作業せり、同年度事業は支那に於ける政治上の紛争及銀價暴騰等の影響ありしも、作業成績は極めて良好なりき、工場内にて使用する原料品及石炭の價格も頗る増加せり、第三工場は殆ど完成し、今は只内部の裝置のみにして、汽罐及附屬品据付中なり、主要機關は數週間に完成す可く、紡績機械の大部分は已に受取据付を了せり、殘餘の注文品は弗弗英國より到着しつゝあり、電氣機械は未到着なるも、紡錘三萬錘は已に到着せり、本年度内には操業を開始するを得可しと。

河南の蛋粉會社

支那人組織の德和蛋粉會社は、河南省鄆城に工場を設立し、今や一切の設備を竣成して蛋粉の製造を開始するに至れり、而して其製造範圍は卵白、卵黃、及全卵の各種に亘

り一日十時間の従業にて、一、五〇〇乃至二、〇〇〇封度の製造能力を有す、機械は一米國人の技師に依りて、其掘付けられたるものにして、發動機及機關を除きては、全部米國製なり、卵の乾燥方法はスプレー式を採用し、一定の間を置きて空虚となる飮力 (Galvanised-Steel tin) 製の罐を使用し、其上にて卵は乾燥せらる、而して該方法に依る蛋粉は酸化亞鉛を含有せず、機械の價格は約金貨一五、〇〇〇弗にして、其他の什器は土地、建物を含み約一五〇、〇〇〇弗要したりと云ふ、同工場は支那に於ける卵の最大產地の一位に位し、技師の言に據れば卵黄一封度を製造するに要する卵數は五一個にして足るべく、同地方に於ける卵の價格は銀墨一弗に付き一三四個なりと云ふ、同地方卵の生産は頗る豊饒にして、到底一蛋粉會社にて消費し盡し能はざるものにして、現時の生産額を増加する必要なく、工場的發展を醸成し得るは、同社の強みとする所なるべしと云ふ。

長沙商埠籌備處請負工事

武昌長沙間の粵漢鐵道開通後は、差し當り停車場より埠頭に至る道路の敷設を要するより、左に其設計工程を發表し、請負事業に付せんとす。

(一) 工作法と材料

(イ) 道路基址は先づ手動轆轤を用ひて地面を碾壓し、後蒸汽轆轤を以て地面を平整す。

(ロ) 路基表面の舗き石は小石徑三四寸のものと厚さ

九寸に敷き更らに粒石(砂礫)を厚さ三寸位に敷き黄泥と砂礫を混じて厚さ五分位に蔽ふ。

(ハ) 路面は先づ手動轆轤にて碾壓し更らに蒸汽轆轤にて碾壓し堅結せしむ。

(二) 請負入札の注意

(イ) 上記の轆轤機等一切の工事道具石炭及工夫小屋等は請負者の自辨とす。

(ロ) 右各項に表示せる道路用の石材砂礫等は一切請負者に一任し其材料は一應技師の檢閲を経て合格したるものを使用すべし既に運搬し來りて不合格となる場合には別に他の材料に改めしむ。

(ハ) 道路面に用ふる黄泥は技師の指定せる場處より採り來るべし請負者の隨意採掘するを許さず但砂礫は附近の河中より掘取るべし。

(ニ) 舗石は必ず緊密に鋪置して空隙を残すべからず隨時技師又は工事監督者の檢査に合格すべし不合格者は別に改鋪せしむ。

(ホ) 路基面の碾壓が技師の檢査に不合格の際は更らに轆轤碾壓を再行せしむ。

(三) 入札手續

(イ) 工事請負入札者は先づ證金五十元を納むべし、不合格者には之を還付し合格者には領收證を交付す。

(ロ) 入札者は本處の宣示を経て後ち落札者は請負契約書を差出し期限を定めて従事すべし。

(ハ) 落札者は本處の宣示を経たる後五日以内に本處に來りて契約をなさざる時は證金を返還して請負の權利を消滅せしめ次番の入札者に請負はしむ。

(ニ) 落札者が請負ふ工事の材料は之を他に轉用するを禁ず。

(ホ) 落札者の請負へる工事材料は堅牢確實なるべく工事の期限に違誤するを得ず又中途にて價格を増加するを得ず。

(四) 入札者資格

(イ) 請負工事に經驗ある者。

(ロ) 請負者は工事費全額十分の二の保證を納入すべし。

(ハ) 實力ある商人及實力ある保證人を要す。

以上

(右長沙商埠の工事に就ひては前年來省當局者は某會社に向つて資本を求め或は請負工事を委託せんとせしも未だ具體的進行を見ずして有耶無耶に葬むられたりしが今回此の工事は一部分に過ぎざるも將來長沙の市區改正道路改築等は必至の懸案にして其大略の設計は米國技師の手に成れるものあり。



支那半月史

大正七年十月下半

廣東參議院の新議長

廣東參議院議長王家襄氏は研究會系に屬し、國會屢次の南下請求に對し至極曖昧の態度を執り游移不定の間に形勢の推移を見んとする意圖と推せられたるを以て、國會にては斷然之を改選するに決し、十月十七日選舉の結果林森氏大多數の得票にて當選せり。林氏は福建選出の參議院議員にして國民黨系急進派の領袖なるが、第一革命の際南京參議院の議長たりし事あり、目今は民友社（孫文、孫洪伊兩派の合體）内に於て孫文派を代表する領袖たり、參議院は由來國民黨系の勢圍なれば氏の當選は當然なり。かくて廣東國會の正副議長は確定せり、即ち參議院は議長林森氏（民友社）、副議長王正廷氏（益友社）、衆議院は議長吳景濂氏（益友社）、副議長褚輔成氏（政學會）なり。

張勳特赦

昨年七月復辟事件失敗して以來、和蘭公使館に抑留中なりし張勳は、十月二十三日命令を以て特赦されたり。徐總統が南方の反對を豫期しながら敢へて張を特赦せしは徐張並びに北洋派全部の間に或る秘密の存するが爲めにして、

必ずしも復辟の準備行爲といふを得ざるべし。張は赦免後政治界に入らずと聲言し居るが如きも一向當てにならず、北方派の意圖は時期を見て彼を山東督軍あたりに復活せしめんとするには非ざるか。

參陸處の停戰軍令

平和運動の漸く熾烈となるや、主戰派も漸くその所謂討伐の實行し難きを悟れるか十月二十日頃參陸辦公處は次の如き訓令を各省督軍及び戰線諸將に電達したり。

（一）今後各師團は勿論警備隊も中央政府の許可なくして一兵をも増募すべからず若し違背する者あらば即時該軍隊は解散し當事者は嚴罰に處す。

（二）戰線の諸省はその防禦陣地を固守し自から移動するを得ず敵の來襲に逢ひし場合は之を擊退せよ軍費は三期に分ち支給し特別軍費も從來通り補給す。

錢內閣居据

時局の開展は豫想の如く迅速ならず、従つて一時ツナギの總理の心算にて任命されたる錢能訓氏の國務總理代理を以て此處暫らくの推移を見るの必要を生じたる故、徐總統は十月二十一日國務員以下の會議を開き、内閣の改造は平和解決の見込確立したる後を可とすとの意見を述べ、當分現内閣の留任を望み萬一總長病氣等の場合には代理を置くこととし、十一月中旬迄は此儘變動せざることに決定したり。

平和期成會の通電

前號本欄に和平促進會として紹介したる北洋主和派の大同團結は、其後益々運動の歩を進め、名稱を平和期成會と改め創立費として梁士詒氏より五萬元、馮國璋氏より二萬元、徐總統より三萬元を支出し、汪有齡氏等主として事務を視つゝあるが發起人たる熊希齡、張謇、蔡元培、王寵惠、莊蘊寬、孫寶琦、周自齊、張一露、王家襄、谷鍾秀、丁世鐸、徐佛蘇、文羣、汪有齡、王克敏、王祖同、梁善濟、籍忠寅、李肇甫、王芝祥、汪貽書、王人文、林紹斐、由宗龍二十一人は、十月二十三日附を以て左の如き通電を發したり。

慨す國內釁を構へてより忽ちに已に年餘強いて畛域の分を爲して南北の局を釀成し馴れて百政修まらず土匪地に逼ねく三軍暴露し萬姓流離するに至れり此れを長じて相持すれば何を以て國を立てん希齡等夙夜焦思以爲へらく内争一日息まざれば即ち國本一日定まらず險象環生して終極あるなしと況んや歐戰將さに終らんとし國際勢迫る若し仍は兄弟牆に閥がば何ぞ能く折衝禦侮せんや且つ自から和解を謀らず世界の責難を逃れ難し是を以て人心亂を厭ひ舉國同に従ひ各憂危を抱いて宜達し難きに苦しむ希齡等外は大勢を察し内は輿情を觀前後を瞻顧して義賊厭し難し一平和期成會を組織して同情の呼籲を爲し大局の平和を促がさんと擬す凡そ本會の宗旨を賛成する者は同聲相應じ協力進行せんことを切望す蓋し和局の早く成ること一日なれば即ち亂抵の減少すること一分羣力の増

加すること一分なれば即ち國本の早く定まること一日なればなり憂時の君子當さに斯言をよしとすべし謹んで腹心を布き明教を仁候す再び本會の宗旨は黨派を分たす亦政團に非ず平和成るを告ぐれば本會即ち解散を行ひ決して他種の作用無し謹んで併せて聲明す之に對し馮國璋氏王湖北督軍其他より何れも返電あり、固より皆賛成の意を表示せるもの、試みに馮氏の分を舉げんか。

來電奉悉邦家多難同室戈を操り輿論不昌橫流禦ぐなし根本の解決を籌らすんば切運の挽回を期し難し諸君群策群力を合し以て救國救民の舉を實行し大願力を發す此れ其の權輿なり國璋所爲へらく一國政治の隆替は要するに健全なる言論の有無を以て斷と爲す共和國民抱く所の希望は但だ多數の同符を取る即ち團體を結んで以て進行を督策し言論を假りて以て趨向を表示すべし當局は民意在る所の消息に就察して而して之を盈虛せば政治の清明坐して致すべし否らざれば則ち怨氣の積む所一發して而して收拾す可からず壅川防國職として厲階を生ず中外得失の林固より斑々として致ふべき也況んや歐戰終了して内訌未だ平がす剝床の災行々將さに我が中國四萬萬人に及ばんとす庸んぞ能く黙して息み手を束ねて以て淪胥に即かんや諸君此會を掀辦し輿論を政治の正軌に導き一たび驟突叫囂の所爲を反さんとす各熱心に本づき輔くるに毅力を以てし壘積を振發して平和を促進す豈惟だに大局のみならんや實利之に頼る國璋一年以來所有る志逮ばざる者

亦諸君子の繼起に因りてその成功を告ぐるを得たるなり
倘し相需の處あらば必らず棉薄を竭して以て従はん復し
て區々を佈く尙ほ省察を希ふ

國務院通電及主和命令

平和期成會の通信に次いで來る者は國務院の通電（二十三日附）なり、徐總統の和平命令（二十四日附）なり、煩を厭はずして之を譯出せんか、前者は徐總統が主和令發布に先ち西南方面の意向を探るべく國務院に命じて打電せしめたるものにして岑陸唐以下李烈鈞、林葆懌、劉顯世、熊克武諸氏に宛てあり、全文左の如し。

比者四者靖からず兵禍相尋ぎて我が人民を苦しめ我が將士を勞す追溯するに用兵の始各已むを得ざるの苦衷あり而して國力既に殫き紛争未だ息まず政治は擱滯し百業は凋零し僅かに對内に就いて言ふも已に岌々として日を終ふ可からず況んや歐戰現に將さに結束して行々東亞問題に及ばんとするをや苟しくも内政此の紛糾を長せば大局何ぞ設想に堪へん夫れ歐西の戰禍は誼同仇に切なるも猶復た和平を尊重しその勸告を致す矧んや均しく邦人に屬す奚んぞ南北を分たん安危の繫る所休戚與に同じ豈是非意見の争を以て離析分崩の患を貽すに忍びんや試みに念へよ戰禍縣延年を窮め月を累ね凋殘する者は皆我れの國土耗散する者は皆我れの脂膏傷亡する者は皆吾の胞與同室戈を操るは有識の痛む所その至る所を推すに適々以て國脈を摧傷し自から生機を覺むるに足る茲の國步艱難

にして一髮千鈞なるに當り再び遷延を事とせば噬臍何ぞ及ばん邇者東海運に膺り和平を首倡す能訓等譯つて政席を忝ふし德斯の心を同じうす用つて誠悃を擲し羣公に敬告す倘し民困の已に深きを念ひ國家を重しと爲さば愚陋を遺さず相與に籌維せんことを各該省一切の軍政財政及び用人の諸端は開誠布公從容商榷するを防ぐる無し善後の辦法は僕を更ふるも詳かにし難し大要軍隊を收束し民治を勵行し勞來安集の政を以て清靜寧一の功を收め國脈をして漸く行はれしめ民生をして自から厚からしむるに在り法律問題の如きは當日爭端の繫る所たりと雖もたゞ丹を是とし素を非とする剖決甚だ難し今日外交の吃緊を以て若し事實を捨てゝ而して争うて法理を言はゞ勢必らず曠日持久治絲益々勞れ陸沈の憂眉睫に懸らん謂へらく宜しく先づ事實に就いて法を設け紛を解き而して法律問題は之を公議に俟つべし諸公愛國夙に殷んに審時尤も切なり尙冀くば我れに周行を示し商洽に資せしめんことを引領南望德音を翹企す

漫然熄争を言ふのみにして何等具體的新提議なし、宜なり南方の之に對し一顧をも與へざるや。而して所謂主和命令亦殆んど空談に近し、即ち空談に近しと雖もこれ亦妥協に對する一の瀕蹈みたるを失はず、命令に曰く。

歐戰以來兵禍至つて烈に政治に影響し全球を震動す而して立國久遠の圖は究竟未だ悉く武力に憑るべからず故に人類の幸福を保障せんと欲すれば必らず先づ國際の和平を維持す美大總統ウイルソン斯に鑒むるあり迭次の宣言

威な和平を尊重するを以て主憎となす吾國政府より以て士庶に逮びその憫世の誠を佩せざるなし而して大勢の趨く所即ち列邦亦將さに贊助進行して以て世界和平の先導と爲らんとすこれより兵事永く弭み工商大いに興り物質の文明を扶持し民生の發達を補助し大同盛軌此れを權輿と爲す本大總統適々斯時を以て鑒つて衆選に膺る亟かに當さに世局を詳審して用つて設施を定むべし夫れ歐西の戰禍擾攘年を累ね對敵する所の者は視て同仇の如く爭持する所の者は公義に關する所を以て一たび息爭弭亂を経れば遂に異口同聲の若し況んや吾國二十餘省は同じく統治の權に隸し西南數省政見偶々異同ありと雖も休戚相關す南北の判なし安んぞ畛域の分あらん試みに數ふるに上年以來幾たびか戰伐を経て鋒鏑に罹る者孰れか胞與に非ざる餉械を糜する者皆な我が脂膏時艱を補ふなく轉た國脈を傷く則ち何ぞ小嫌を釋て大計を匡さる私忿を獨かれて公誠を勵まし國基をして苞桑に繫がしめ民生をして塗炭に免かれしめん平情衡慮得失昭然たらん茲に列強偃武の初に値ふ正に吾國肇新の會に屬す民生政策を以て協約諸邦と相提携せんと欲す尤も當さに國人の心思を萃め力を併せて文治を刷新し實業を擴張し以て時勢に應じて事抵に赴むべしこの匪勉幹濟猶は後時を慮るに及び豈是丹非素の微を以て破斧欠斨の痛を貽すべけんや況んや兵事紛糾四方耗庶政攔擱百業凋殘まゝ一端を擧ぐるも已に日を終ふべからざるの勢あるをや即ち對外關繫なさも詎んぞ能く此れを長じて支持せんや望む所は邦人君

子戮力同心幡然圖を改め共に兵革を銷し先づ以て國家の元氣を固め次に以て政策の進行を圖らんことを民國の前途庶幾くば豈あらん以て政策を言はゞ民智を促進し普く民業を興すより要なるはなし而して二者皆當さに世界の眼光を具有すべし吾國文教早く開けて民智郁塞し進歩較々晚し是れ宜しく列邦の文化を旁探して以て之に灌輸すべし吾國財力素と豐なり而して興業資する所母財尤も乏し是れ宜しく中外の資力を籌集して以て之を補助すべし國家を以て根本と爲し世界を以て步趨と爲し人民の智識をして大同に歧及せしめ社會經濟をして日に敏活に臻らしめん民智進めば則ち國權自から振ひ民生厚ければ則ち國力益々充つ夫れ是の如くんば乃ち文物の舊邦を保つべく乃ち共和の眞諦を語るべし本大總統曉音瘖口を憚からず和平尊重の主憎を以て我が國人に告ぐ固より我が東亞の一隅世界とその樂利を同じうせんことを渴望す此時大局未だ定まらず保義を先と爲す軍民長官各々地方を捍衛するの責あり仍ほまさに前令に遵照し力めて匪患を除き用つて治安を保てよ民瘼の關する所稍々玩忽する勿れ此に令す。

軍政府承認謝絶

駐米支那公使顧維鈞氏より支那政府に達したる電報に據れば、廣東軍政府特使王正廷氏（廣東參議院副議長）は十月二十四日國務卿ランシング氏と會見し、交戦團體承認に就き懸談する所ありたるが、ランシング氏は交戦團體の承認

は南北の妥協を困難ならしむる虞れあり且つ此問題は全部駐支公使ラインシ氏の報告に一任しあれば米國政府としては直ちに意思を發表する能はず」と婉曲に謝絶したりと。王氏の第一の使命はこゝに失敗に歸せり、即ち第二の使命——日本に於ける章士釗氏のそれ——に復歸し、米國各方面に對し南方の立場を説明したる後十一月中旬を以て歸國すべしと。

軍政府の徐氏糾彈

廣東軍政府には司法總長徐謙氏（政務總裁孫文氏の代表）を首領とする一味の急進派ありて、爾來頻りに徐世昌氏討伐を呼號しつゝありしが、十月二十五日の政務會議は徐謙氏起草の徐世昌氏討伐令に就き審議の結果、討伐の文字を避け、彈劾的宣言書を發するに決し、同宣言書は二十八日頃發表せられたり、その要領は

西南護法の目的、徐世昌氏非法總統不承認、吳佩孚譚浩明氏等が不法選舉に對しその條件を示し苦衷を述べたること、護法各軍は何處迄も護法の精神を貫徹せんとする決心を有すること、徐氏が非法總統の職に就きたるは國權を紊り統一を破壊し内憂外患を醸すものにして其罪責世凱と輕重なきこと、軍政府は護法治亂の責に當り徐氏の民國破壊の罪を明かにし自から共和の實を擧げんことを期す

といふに在り。急進派の此れにあきたらざるは勿論にして彼等は福建浙江を陥れ地盤を堅めたる後講和すべしと唱へ

漸進派は平和期成會の運動に對し賛成の意を表するに至りしを以て、急進派議員百十二名は連名にて徐世昌氏討伐通電を發し飽く迄も護法の初一念を貫徹せんと申合せたり。南方に於ける兩派の不一致は此處に至り明白となれり。

駐支公使更迭

十月二十九日附を以て駐支公使林權助男本職を免ぜられ外務省政務局長小幡西吉氏その後任となれり。氏の任命に對しては國の内外共に好評にして、唯ルーター北京通信員が氏を以てかの大隈内閣時代の二十一條要求をなせる時最も活動し支那人間に最も不信用なる官吏なりと批評せるのみ。北支デーリー・ニュースが日本を除外して英米のみにて南北を調停すべしとの暴論を發表して以來、在支外人系統の言論著るしく排日口調を帶び來れるは注目し値すべし。

與國援助布告と列國の覺書

在北京聯合國公使は十月中屢次會議を開き、支那の參戰義務不履行に關し協議したる結果、支那政府に對し警告を發することゝなりたるが、支那政府は之を聞知し警告豫防の目的を以て十月二十九日與國援助を高調せる布告を發布したるを以て、聯合國側に於ても之を諒とし當初の豫定にては警告を發する筈なりしを單に覺書を交附するに止め三十日右覺書を交附したり。布告左の如し。

溯るに民國六年より德國潜水艇計畫を施行し公法に違背

し中立國人民の生命財産に害及せり我國政府人道公法維持のために見を起し德政府に向つて抗議せしも効無く遂に是年八月十四日に於て德國奧國に對し戰爭の地位に立つことを宣告せり年餘以來我が全國の軍民人等均しく能府宜戰の主旨を仰體して一致敵に對し或は敵人の陰謀をく政密防し地方の秩序を維持し或は紅十字會の款項を慨助して病傷兵士を救済し或は大批の華工をして歐洲に前往して備戰の工作に盡力するを允准し或は法を設けて内地各省に於て原料糧食牲畜の採辦を襄助し或は運船を代造し並びに聯盟各國に船隻を供給す凡そ敵人を防禦する方法にして協商の利益に關係ある者は力を盡して進行せるがなし而して我が友好聯盟の各政府我國の設施に對し既に能く私の實力を諒察し復た能く我に予ふるに各種の便利を以てせり此れ我が政府及び人民の深く感念を致す所の者也且つ協商各國宣戰の宗旨は屢々人道公法國際平民自由の各主義を維持するを以て一再聲明せり我が政府等人及び人民尤も熱聞して深く佩す近數月來我が高尚強毅の協商軍隊數百里の延長戰線に連戰連勝し日に獲るの俘虜は萬を以て數へ日に復するの城村十餘處軍械輜重は實に數ふるに勝へ難し敵軍の勢漸く衰に就き已に講和の舉ありと我が協商各國最後の勝利は已に預期すべし惟だ敵國軍隊一日未だ完全降伏の地歩に至らざれば我が政府及び人民が各聯盟邦を協助するの義務は即ち一日も稍疏懈あるべからず凡そ我が各省地方軍民人士協商各國の代表及び人民に對し務めて必らず各々その力を盡し以て戰

争最後公共の目的を達せよ本大統領は我國及び同盟各國兵士の遠く西伯利に役せられ現に冬令嚴寒に値ひ困苦備さに至れるを軫念し特に本京に在つて別に紅十字會を設けて款項を捐助し冬令必需の件を預備して兵士に協濟し又法國政府本月二十日より起し下月二十四日に至り止むる戰勝公債は電傳す美國人民已に數百萬の巨數を認購すと我が國誼同盟に屬す亦應さに稍棉薄を盡すべし凡そ我が各省地方軍民人士公益義舉に於て素と熱忱を具すそれ各々踴躍誠を輸せよ厚望あり焉特に此に布告す

覺書内容左の如し。

- (一) 聯合國は支那が義和團事件賠償金支拂延期關稅剩餘基金交附を機として國內に於ける產業上の資源と國民の狀態を改善せんことを欲す然るに該基金は徒らに黨争のために浪費されたり
- (二) 支那政府は參戰事務處を設置し兵士を訓練したりと雖も此等の兵士は内亂に使用せられたり
- (三) 支那政府は聯盟國に諮らずして羅馬法王廳と使節の交換を約したり
- (四) 匪賊の津浦瀋陽兩鐵道を妨碍するを放任したために支那人外國人の利益を毀損せしめたり
- (五) 支那政府は未だ嘗つて敵國人經營の會社商店閉鎖を嚴重に履行せず
- (六) 上海天津の支那官憲は同地に於ける敵國人の活動を阻止する能はず
- (七) 對敵通商取締規則は一向實施せられ居らず

(八)支那政府は敵國人の商業を停止せしめんとする聯合國の要求に同意せず

(九)黑河道尹は聯合國がその事實を通告する所ありしに拘はらず敵國間諜の活動を許容して何等の取締を爲さず

(十)支那に於ける敵國人の隠謀は毫も支障を受けずして遂行されつゝあり

(十一)偽造旅券を携帯せる敵國間諜逮捕に際し外國代表者はその裁判に參列することを許されざりき

(十二)聯合國は支那が參戰國としての義務を忠實に履行したるものとして満足し居らず

平和期成會の發展

●●●●●●●●●●
上海には分會組織成る

平和運動は上海に於ても盛んにして十月三十日張耀曾(前司法總長、政學會系)、王家襄(前參議院議長、研究會系)孫發緒、曾毅四氏の案内にて平和期成會の籌備會を開きて簡章を議決し、三十一日附を以て發起人馬良、魏瀚、張耀曾、孫發緒、蔣作賓、溫宗堯、孟森、孔祥柯、沈敦和、施則敬、聶其杰、黃郛、彭程萬、熊成章、李爲綸、陸鴻遠、袁普、黃一歐、趙正平、張烈、李煜、席裕福、曾毅、張東蓀、汪馥炎、姚煜、徐調均、陸韜、吳應圖等の連名にて主和通電を發したり。

北京に於ても十一月三日期成會創立大會を開き、熊希齡孫寶琦、梁士詒以下二百三十名出席、熊希齡氏を假議長に推し、谷鍾秀氏より會則及び綱領を宣布したる後會長選舉

に移り、熊希齡氏會長に、蔡元培氏副會長に當選せり。

督軍會議開かれん

時局の進展に連れ徐總統は督軍會議を開き、和戰其他の問題を決定せん考あり、十月十四日入京せる江西督軍陳光遠氏を先頭とし、十一月初五旬迄に入京せるもの張作霖(奉天)、孟恩遠(吉林)、趙倜(河南)、王占元(湖北)、倪嗣冲(安徽)六督軍あり、其他各省は何れも代表入京せり。あらゆる意味に於て此會議は重大視さる。

中日電話借款

昨年中日實業公司と交通部との間に締結されし電話借款期限満了に就き借繼交渉中の處金額を一千萬元に増加し十月二十五日調印を了せり。



時報



内治外交

●副總統選舉會記事

昨十六日は副總統選舉を繼續する期なるを以て特に衆議院に於て副總統選舉會を開きたり是日午前十時振鈴開會す議長梁士詒主席たりしが出席の人数甚だ寥々たるを以て三十分を延長することに宣告し十時三十分に至るも仍は法定人数に不足を生じたり又た復た繼續して時間三十分を延長し乃ち秘書長をして場に入りて人員を檢査せしめ議長より報告せるに今日の出席議員は計參議院八十二人衆議院一百八十九人なり兩院合計二百七十一にして三分の二以上の數に足らざるを以て院法に照らし兩次延長をなし仍ほ法定の數に不足する時は即ち應に延會を宣告すべしと。

●無期の延會

適衆議院議員吳文濬君主張するあり

此次の副總統選舉は即ち擱置すること能はず又た舉行すること能はず遲延日久しければ殊に鄭重の意を失ふの嫌あるを以て即ち期日を展緩し必ず期を定擇し舉行し選政を重せんと或は今日改めて茶話會を開き以て期日の決定に便にせんことを以てせしが梁善濟も亦た頗る其主張を賛成せり乃ち劉恩格謂く今日即ち開會すること能はず既に日期を決定するも亦た恐らくは期の如く舉行すること能はさらん如かず兩院議長より再び疏通を行ひ日期を嚴定し以て舉行に便にするときは則ち今日の茶話會は既に能く開くも亦た未だ必ずしも何の結果あらざらん是に於て茶話會を開かんことを請ひ乃ち延會を主張する者頗る其人に乏しからず乃ち梁議長は宣告して曰く現在の出席議員人数は兩院の三分二以

上に足らざるのみならず其半數にさへ不足するを以て延會となすとは是に於て遂に散會す時に十一時十分なりしと云ふ。天津に赴きし爲めに缺席せる議員左の如し。

●參議院

馮家遂曹鈞(直)畢維垣(吉)段書雲韓世昌徐果人周作民(蘇)吳飭陶家瑤許受衡(贛)沈銘昌吳鍾鎔沈金鑑潘補汪有齡(浙)蔡漢卿蕭延平(鄂)陳介劉冕執(湘)尹宏慶莊陔蘭李元亮王錫藩張玉庚(魯)史寶安(豫)梁善濟(晉)蔣馮棻汝驥(新)高錫恩(熱)阿穆爾靈圭李國杰吳德培楊壽枏(蒙)汪聲玲(青)沈國均黃錫銓(藏)羅鴻年周詒春何炎森魏斯吳(第一部)張元奇朱啟鈴周自齊陳振先(第二部)任鳳賓陳邦燮(第三部)譚雨三章熙廣譚生林韵宮(第四部)

●衆議院

籍忠寅葉雲表張濂蘇藝林耿兆棟張恩綬王恩濟聶轟王雙岐嘗雲岫賈庸熙韓梯雲(直)金明川(吉)陸冲鵬鮑宗漢陸家鼎藍公武洪玉林夢蒿樸黃家琳孫靖圻楊潤任祖棻郝崇壽沈蓀王玉树張從仁(蘇)胡延禧倪道煌華維嶽崖法陳嘉言(皖)林金相劉思桂龍冕李學遜秋珍葛莊劉樹棠熊正璣宋育德(贛)汪然金紹城周承金菱森沈椿年謝鍾靈杜棟華董能藩王引健黃秉義王錫榮何勳業黃秉鑒汪展黃羣蘇應堅章獻猷杜持蔣季哲姜周輔林同林卓(浙)陳蓉光劉以芬高登鯉李兆年陳爲鏡(閩)呂瑞庭饒漢秘周堂劉亮劉果王璟芳(鄂)李慶璋邵晉藩艾慶鏞勞慶初郭光烈韓鄉一劉福夏繼泉呂慶圻王廣漢王之籙杜惟儉王廣瑤周祖瀾沙明遠張棟明王訥王宗元安鵬東子之風曲卓新謝鴻燾(魯)王敬芳(豫)譚洪崔雲松李步雲季蘊華(陝)宋梓馮翊漢(甘)白常文孟錫珪(京兆)鄧述禹(熱河)程克徐世一(蒙古)

●徐總統平和尊重の明令 徐總統は將に主和の命令を頒たんとせることは既に前報に誌したりしが昨廿四日晚に至り果然頒布せり其全文左の如し。

歐戰以來兵禍至烈政治に影響し全球を震動し而して立國久遠の圖は究に未だ悉く武力に憑るべからず故に人類の幸福を保障せんと欲せば必ず先づ國際の和平を維持す米國大統領も斯に鑒みあり屢宣言するに皆な和平を尊重するを以て主旨となす吾國政府は以て士庶に至るまで其憫世の誠に感佩せざるなし而して大勢の趨く所は即ち列邦も亦た多く贊助進行して以て世界治平の先導を爲す吾國此次戰團に加入して德奧に對して宣戰せしは原より人道を維持し公法を擁護し世界をして永く和平を保たしめんが爲めなり苟も一日も未だ此の目的を達せざれば必ず當さに國人の全力を合せて協商諸邦を勤助して完全の効果を收めんことを期すべし本大統領は適斯時を以て認りて衆選に膺り亟かに當さに世局を詳審し用て設施を定むべし夫れ歐西の戰禍は擾攘累年對する所の敵は視て同仇の如く爭持する所の者は公義に胥ひ關するも猶ほ且つ佳兵を戒めとなし議を唱へ爭を息む況んや吾國二十餘省同じく統治の權に隸す西南諸省の政見偶異同ありと雖も而も休戚相關す爰ぞ能く外よりすれば本と南北の判なし安んぞ畛域の分あらん試みに數ふるに先年以來幾んど戰伐を経て鋒鏑に罹りしもの孰れか同胞にあらざらん糧域を糜かせし者皆な我が脂膏補ひなし時艱轉國脈を傷くる時は則ち何ぞ小嫌を釋きて而して共に大計を匡さざる私忿を除き而して同じく公誠を勵み國本をして苞桑に

繁き生民を塗炭に免れしめん平情衡慮せば得失昭然たらん
惟ふに是れ中央は必ず公心を以て國人に對待し而して誠意
施す所或は盡く喩へ難し長岳の前事は借りて鑑となすべし
故に詐を虞る要は兩派防範するに當り未だ遽かに疏すべか
らず苟も其妨け秩序に及べば仍は當さに力めて綏定を圖る
べし茲に列強偃武の初めに値ひ正に吾國は肇新の會に屬す
民生主義を以て協商諸邦と相ひ提挈せんと欲す尤も必ず國
人の心思才力を萃め文治を刷新し實業を擴張し以て時勢に
應じ而して事機に赴く茲に及んでは匪勉幹濟猶ほ後を慮る
時は豈に是の丹の素に非らざるの微貽を以てして破斧缺斨
の痛みを容るさんや況んや兵事は糾紛し四方填滅庶政は擱
滯し百業凋殘す其一端を擧ぐるも日を終ゆべからざるの勢
あり對外關係なきも豈に能く此の支持を長ふせんや邦人諸
君に望む所は戮力同心幡然圖を改め共に兵革を銷し先づ以
て國家の元氣を固ふし次ぐに政策を推行するを以てせば民
國の前途庶幾くば解くることあらん以て政策を言へば民智
を促進し民業を普興するより要なるはなし而して二者は皆
な當さに世界的の眼光を具有すべし吾國文教早く開け而し
て民智覆塞して進歩較晚し是れ宜しく列邦の文化を采り以
て之を吾國に灌輸せば物力素より豊にして而して興業に資
する所の母材猶ほ乏し是れ宜しく兼ねて中外の實力を集め
以て之を補助し國家を以て根本となし世界を以て步趨とな
し務めて人民の知識をして大同に跋及せしめ社會經濟日に
敏活に至り民治進むときは國權自ら振ひ民生厚きとは則ち
國力益充實せん夫れ是の如きときは乃ち文物の舊邦を保す

べく乃ち共和の眞諦を語るべし本大總統曉音瘖口を憚らず
平和の主旨を尊重するを以て我國人に告ぐ固より我東亞一
隅と世界と其樂利を同ふせんことを渴望す此時大局未だ定
まらず保するに又た先となすは軍民長官は各地方を捍衛す
るの責あり仍は應さに前會に遵照すべし力めて匪患を除き
用て公安を保て民瘼の關する所稍玩忽にすることなかれ惟
茲に有位の者其れ共に之を念へ此を令す。(順天)

●總統各派を一堂に招く 徐總統は本日五條胡同
に於て前代總統馮前總理段熊秉三世伯軒の諸元老を招請し
て午餐を共にす徐總統は主戰派主和派宗社派を融合するの
偉抱ありと雖も但し之に因りて其一定の方針を失はざるを
以て要となす。(順天)

●大總統將に宣布せんとするの政綱 大總統
和平令を頒布せんとすと聞く對外の意思を含有すと近頃又
た一種の政綱を妥にせんと企圖する由なり茲に之を錄すれ
ば下の如し。

(一)時局問題 大總統は和平の辦法を以て南北を統一する
に決したりと現に各方面均しく人の來京するあり大約を接
洽したれば以て目的を達到すべし。

(二)外交政策 支邦親善主義を實行し事々出すに和平主義
を以てす。

(三)外資を輸入し用途を確定す 他項の使用に移作するを
准さず。

(四)法律を遵守す 中華民國の國體をして永遠に鞏固なら
しめんには私かに己の利を圖り國體を破壊し及び復辟の名

義を假借する者は當さに國人と共に之を棄つべし。

(五)教育を普及することを實行す 民智を開發するは尤も須らく道德に注重し以て青年の趨向を確定すべし。

(六)人民官吏は信教の自由に任す。

(七)法律を改良す 一般が將來領事裁判權を回收せんことを預備することに越き内地雜居の基礎を開く。

(八)路政を擴充す 河道を疏濬し内地の產物をして流通に易からしめ更らに須らく工廠を添建し製造して生利の途を講求し日々漸く加増して人民は其力に自食するの益を獲しむ。

(九)林政を興辦す 以て水患を除き新法を採用し荒地を開墾し以て民生を厚ふす。

(十)中國の礦山の原料甚だ富む亟かに開掘を獎勵すべし並びに一面には礦律を酌改し投資を招來し以て人民の不足を補ふべし。

(十一)學校教育は兼ねて體操を重んじ人民をして各尙武の精神を有せしむ語に曰く強健の精神あれば乃ち能く強健の事業を建つ即ち將來は民團を舉辦し地方を捍衛するも亦た力となり易し此れ尤も當さに道德教育と同時に並び重んずべき者なり。(順天)

●時局の和平日有望に趨く

現在各方面の和平に關し時局を解決するの運動蜂起すること泉の湧くが如く和を呼ぶこと日に盛なり徐氏も亦た此の機を認めて逸すべからずとなし風に乘じて帆を揚げ以て其目的を達せんと圖る特に此の意を以て錢代理總理をして理解明白に並に朱

啓鈴梁士詒をして極力運動せしむ廿六日公府開かんとする所の特別會議には各部總長を除く外に旅京の各要人を招集せりと此種の會議は亦た平和促進に於て大に關係ありと云ふべし現下内外の情況は均して國內統一を要求するの趨勢にあり故に平和統一の事實は亦た絶えて不可能にあらず惟孫文孫洪伊李烈鈞一派は恐らくは特別條件あるにあらずれば之と握手することは望み難きのみ。(順天)

●徐總統謀和の進行秩序

總統平和統一を標榜せ

しより以來京津各方面は固より極めて附和の盛況を呈せり長江一帶の政客も亦又群がりて徐氏の意思を仰ぎ大聲唱和す殆んど在野政客にありても一致して平和を主張するあり和戰問題は全く解決を告げたるの觀あり惟だ其實際を詳究するに和議の具體的情形は固より未だ實現せず其原因を推するに實に政客は祇だ議論を爲すべきの人にして實行の人にあらざるなり賢明の東海茲に鑑みるあり茲に先づ各當道重要人物の意見を徵收し而して政客の議論を第二に置かんと企圖せり第二には一兩日前即ち一種の計畫を想出し北方督軍の大會議を開き以て時局問題を討論せんと企畫せり其命意の在る所は架空の議論より轉して各地方當局に向ひ意見を叩詢し以て實行を冀ふなり如し徐氏にして自ら平和統一を主張するときは則ち督軍の中何人に論なく反對を想ふもの出現せん將來停戰命令一たび發するときは則ち當さに北軍全體の戰線には停戰を行はしむべきも惟南軍は能く陸榮廷の一令を視て進退を爲すや否や甚疑問に屬す徐氏は中央方面の政客の議論に對しては既に第二に置きり則ち中央

は南方の方針に對しても亦た當然重視せず南方の政客にして専ら軍隊を有する者の主張に注意せば此れ逆め搦りて得難からざるなり。(順天)

●安福派平和に反對するの說 舊來時局妥協の

聲浪は澎湃として幾んど全國に彌漫し世人も亦た漸く認めて和平の機は既に己に成熟せりと爲せり惟裏面の内情を細察すれば所謂妥協と和平とは仍ほ未だ何等の成算あらざるなり且つ安福派一派は依然として既定の方針を固持し前議を改變するを願はず之に因りて時局の前途は樂觀を抱き難し今安福派の某要人昨日談する所を揭示せば左の如し該派の時局に對する態度は藉りて以て窺知すべし。

國民の平和を渴望することは我黨實に能く之を知れり而して其妥協を希望するの熱誠我黨亦た他黨に譲らず惟だ方今南北の現勢に就きて之を觀るに果して能く妥協の餘地あるや否や南方の主張は従前に較ぶれば更に強硬を加へ四圍の情形は曩時に比し更らに不利を増せり此の如き時に強て妥協を執行せんとせば勢ひ南方に屈從するを免れず南方に屈從を實行するに迫んでは北洋派は當さに全く消滅に歸すべし吾人必しも北洋の全滅を憂へずと雖も而も要するに輕薄の徒政柄を操持せば以て國基の危きを慮らざる能はざるのみ且つ現在の所謂和平者は一時の彌縫に過ぎずして全國の統一にあらず故に曇花一現の和平は立どころにして而して待つべしと雖ども恐らくは時を歴ること幾もなくして將に再び禍亂の途に導入せんとす稍有識の者の能く逆め料る所なり吾人固より甚だ國民を愛し並に和平の實を擧ぐるこ

とを希望す然れども確に知る今日の妥協は萬真正の和平を召く能はざることを吾人亦た贅意を表示せざる所以なり我黨の刻下希望する所は現況を維持して以て南方の疲弊を俟つに在り然る後ち妥協は以て成立すべきなり云々。(順天)

●張勳得赦の最要の原因 張勳は今回大總統令を

以て特赦せられたることは已に命令に見ゆ昨軍人界の言に據るに此次政府に電請して張の罪を赦免せんことを以てせし督軍は確に九人の多きありしと其措詞は山東省の匪禍蔓延日一日より甚だし此際張を用ひ肅清の任に當らしめんとするに在り大總統も此問題に對して事情却くべからずとなし允許せしなりと而して命令中僅かに其罪を究明すること免すとのみあり復官の明文なけれども其中には張をして山東に赴き匪を平げ特殊の功勞あるを俟ちて再び命令を以て陸軍上將の實官及び勳位勳章を復さしむの意を含有すと云ふ。

某使署の消息に據るに張は得赦の後には張の意向にては不日天津に赴き同地英租界の私邸に在りて安居靜養暫らく軍政界の活動には従事せずと云ふ。(時報)

●安福交通兩系分裂の經過 九日新國會副總統

を選舉せり交通系等緩舉を主張せるに因り人數不足して延會を致せり梁士詒王揖唐兩人退出の後兩方互に此事を商議せり梁氏謂く無期的延期となして再び開會の必要なしと是に於て安福派の領袖は完全に死地に陥り復た一線の生機なし惟だ聞く十二日晚間王揖唐は同派の議員を召集して十六日に於ては人數の足不足は論なく本派は必ず議會に出席す

べきを命じたり一は以て本派の團結を尙べるを示し二は以て曹錕を敷衍せしを表明し安福派は確かに之れが爲めに出
力して罪なきことを告ぐべし並に各俱樂部の買収議員は間
接に通知し時期に到りて如し出席せざるときは（任重くし
て遠きに致す）の特別費用三百元の發給を停止す偖て人あ
り往て王揖唐に問ふて曰く議長は能く確かに同人をして一
齊に出席せしむるを把握するありや否やと王以て答ふるこ
となし各議員散するの後ち遂に二十四分部（即各俱樂部）に
分投し互に電話を以て對付の方法を商議し一方には交通係
は正に人を派し四出運動す（多くは銀行員中の人を以てす）
議員の代表を帶領して梁士詒と接洽す梁は遂に交通係に歸
入することを允許せし後は凡そ安福部の議員に對し負ふ所
の義務は一般舊に照らし即ち各俱樂部も亦た舊に依り存在
し必しも決定を取消さず以後各議員は乃ち十三日の晩景一
齊に安福派を退出し十四日の朝同じく天津に赴けるもの百
餘名梁の計畫籌備に依り和平促進會安福派中途に僅かに少
數の幾人を餘すのみ其轟々烈々の氣は殆んど此より霧散し
烟銷え痕迹を留めず和平促進會の進行の步驟如何能く效果
を發生するや否やは現に尙は未だ判斷し易からず今記すべ
き所の者は安福交通の傾軋此に至りて一段落を告げたるの
み。（神州）

●留日學生監督處規則の制定

本年五月十七日
大總統令を奉し其筋より江庸を日本に派遣し規則を定め留
日學生監督處を設立し學生監督の職務に任せしか江監督は
該處規則を改正するの必要を認め修正規則を教育部に提出

し大總統の裁可を経て發布し當日より施行することゝなれ
り該規則の條文左の如し。

第一條 留日學生監督處に職員を置く左の如し。

監督 一人 簡派

科長 三人 薦任待遇

科員 十人以内 委員待遇

第二條 科長科員は監督より特選任用し並に處務規則を制
定し教育部に咨呈して案に備ふ。

第三條 留日學生監督處は文件を繕寫し及び其他特別の事
務あるに因り雇員を酌用することを得。

第四條 留日學生監督辦理すべき各項の事務は教育部或は
駐日公使に商承して辦理する各項を除く外は均しく監督
より其辦法を裁奪し管理規定を以て之を定む。

第五條 留日學生監督處月支經費は左表の如し。

職別 月給 公費 郵電雜費

監督 六百元 二百元 五百元

科長 二百元

一等科員 九十元

二等科員 六十元

第六條 本規則にして未だ盡さざる事宜あれば監督より教
育部に商承し呈請して修改す。

第七條 本規則は裁可の日より施行す。（神州）

●四省の聯防紀要 江蘇山東河南安徽四省聯防の辦

法は四省の軍人會議を経たるの後中央政府に請ひ許可を得
て實行す此項の規則は分ちて五ヶ條となす統て協剿會輯

(五)四川問題 此問題は當さに先づ唐繼堯と商議して一切の處方法を決定すべし。(順天)

●軍府職權を代行するの條例 十六日廣東の來電に曰く、軍政府は國會の依託に因り、十月十日より國務院の職權及び總統の職權を代行す、代行するの前一(九日)已に代行の意旨を以て全國に通電せり前記の職權條例に至りては十月十五日已に既に審査せり不日本會議に付せん其條例の要は左の如し。

(一)國務會議は各總裁を以て之を組織す。

(二)大總裁の名を以て發布する命令は各總裁に由りて連署す。(順天)

●大總統府新組織 昨十二日新聞紙上新公府の人物を載せ發表したり、茲に調査を経るに公府の各機關の人物は確に已に任命の手續中にあり、惟昨日所謂發表したる者は總統の口達にして、正式の發表は尙は幾日の後なるべし、並に聞く此次公府更迭の人員は僅かに一部分にして、尙は一部分は留任するものあり今分別すれば左の如し。

(一)秘書長吳笈孫は已に暫らく定む但し總統は已に二次周少模を招きしも周來らざれば吳氏を留めて暫らく秘書長の職務を行はしむ。

(二)侍從武官長 蔭昌續任

(三)主計處長 楊葆益已に發表

(四)收支處長 朱寶仁已に發表

(五)副官處長 未 詳

(六)總指揮使 劉金標已に定まる一説には衛隊總司令に

任命せらる。

(一)禮官處長 袁乃寬已に定まる

(二)軍事處長 未 定

並に聞く公府秘書廳には現に已に命を奉じて三會辦を添設せりと昨日已に發表せり皆な國務院の秘書を以て兼充す其一人は已に郭則澗を派出せり其餘の二人は未だ審かならず。(順天)

●軍政府總統の職權を攝行するの宣言書 廣東十五日の來電に、軍政府は十月十日を以て國務院の職權を代行し大總統の職權は法に依り行施す、茲に其宣言書の要を摘記すれば左の如し。

約法の効力を恢復し國會解散の亂例を取消し而して真正の共和を求め以て根本の解決を期することは已に屢宣言せり且つ北京に於て非法偽國會に於て偽總統を選舉せることも亦既に已に承認すること能はざることを聲明せり徐世昌に對しては亦た約法を遵守して軍閥に愚にせらるゝことなかれと勸告したり乃ち聞く徐世昌は已に偽總統の職に就けり若し果して事實に屬するときは則ち國權は破壊せらる軍政府は國務院の職權を代行し法に依り大總統の職權を攝行し法を護り亂に戡つは本と吾人の應に盡すべきの天職にして他人を假らす特に此に布告す。(順天)

財政實業

●金券條例交渉の經過

金券條例發布の後銀行團

先づ加ふるに抗議を以てし公使團も亦た曾て抗議を提出せるあり最近又た公使團中の英佛露等あり各第二次の抗議を爲すの説あり茲に某外國人方面より探得せる情形を以て之を略記す。

前次各國抗議の要點は該條例の作用の何れに在るかを明かにせざるを以て且つ四國團幣制借款の利權を侵害するなきかを疑へり財政部は此に對しては與ふるに簡單の答覆を以てし書中附するに幣制計畫書を以て聲明せり此れ支那政府の內政に僅かに幣制を改良するの計畫を爲すにあり決して銀行團借款の權利を侵害せずと答覆したる以後各公使より乃ち答覆に對する答覆あり内容の要點凡そ三あり。

一幣制計畫書に對しては逐條加ふるに批評を以てす。

二聲明せる幣制契約は十月十四日に於て期限已に満てり須らく再び期を延べ銀團中の入直接財政部に到り面議するを俟つべし。

三中國は既に認めて決して四國銀團借款の權利を侵害せずとなす權利を侵害せざるの一言に對しては満足の意を表す。

上の答覆も亦た極めて渾括にして簡單なり未だ金券條例に提及せず北京の多くの各紙は乃ち公使團は已に金券條例に満足なる旨記載せり幣制借款契約に關し延期して再議すべしとの一事は前きに梁啓超王克敏の財政に長たるの時已に數次之行ひ毎次延期して皆な五六個月をなす此たび東方滙理銀行代表未だ到着せざるの故を以て今に至りて未だ財政部と面議せず展限の期日は最近に抗議を提出して仍ほ言

へり前次の所謂満足の意とは決して金券條例に對して満足の意なるを明言せず故に再び抗議の舉あらん。(神州)

●無線電信借款の詳紀

本月九日交通部と英國マ

ルコニー無線電信公司と成立する所の無線電信借款の一事は茲に其詳報を聞くに該款は新疆省疏附縣及び迪化府及び甘肅省の蘭州等の各處に二十五基羅を設くるにあり茲に電力の強大なる無線電信局一所を託す更らに陝西の西安府に於て小規模の無線電信局を設け以て疏附縣と北京との通信を補助す各局にありて各高さ三百英尺の鋼鐵塔一座を建設す此頃の電臺は竣工の後各線悉く聯絡すべし其長度は世界第一となす該局の建設材料に至りては契約調印後半年以後にありて英國より陸續輸送す英國技師は目下一切を準備して龍動より出發せりと又該電局の建設費は豫算を二十萬磅となすマルコニー公司より材料を供給す各地の無線電信工人に至りては一般支那人を用ふ。(時報)

●西南五省鹽稅維持

西南軍事發生の後ち一年以

來鹽稅の收入不足すること既に多く而して交渉糾葛相繼ぎて而して起れり茲に聞く財政部は昨日川粵等西南五省の鹽稅は多くは西南方面にて軍用に供したりしを以て命令して其約限に依り數に照らし送金來京の法なし但し事は借款の抵當及び公債償還の準備金に關するを以て特に維持法及び彌補の辦法を定めんとする計畫ある由にて該書類は大約兩三日中總理の手許まで呈請して實行に便にすと云ふ。(順天)

●江西鐵道銀行を組織するの動議 淮安關監督胡思義は、株を招募し江西鐵路銀行を組織せん計畫中の由、

就ては辦法八ヶ條を定め、前日省長に上申し、其提唱を請へり、威省長閣國の後、特に二十日に於て南昌總商會に對して然るべく辦理すべき旨通告したり、茲に辦法を錄すれば左の如し、(一)本省より計畫を立て、毎年利息銀三十萬元を保證す、如し元金已に足るときは即ち必しも別に計畫せず、否らざるときは則ち籌足するには三十萬元を以て度と爲す、(二)一の江西鐵路銀行を設立し、以前の公司と相混せず、株金五百萬元を招集し、分ちて五十萬株となす、毎株銀十元を收む、第一號より編列して五十萬號に至る、每號又分ちて十條となし、毎條計銀一元、(三)利息は年六厘とす、毎年利息金三十萬元を有すべし、即ち第一年の利息銀全數を將て提出して開獎株券の用と作し、一年を以て止めと爲す、此後は仍ほ年々利息を給す、(四)凡そ一の株券を買へば銀行は即ち認めて株主となし、種々の利權あり得獎と否とは論なく均しく效益ありと爲す、一年の後に於て株券を持し銀行に至り利息銀を取るべし如し特別利あるものも亦た同時に支給す、(五)株券の番號數即ち有獎株券の番號は必ずしも別に換券を行はず、如し得獎あれば該券面に於て明記し仍ほ原持主に交還し其獎銀を收受せしむ、即ち券面に照らし交付するも決して割引あることなし、(六)此株券は祇た本國人に賣與す各省に論なく皆な通行すべし、(七)手数料は百分の五とす、其富商大賈と夫の地方の紳士と代理を出願する者は一千株以上の者は給するに獎章を以てし、五千株以上の者は贈るに匾額を以てし、一萬株以上の者には褒揚條例第一條第三款に援り、省長より內

務部に進達して請ふて建坊を予ふ、(八)獎銀分酌の法は一
等獎一枚洋五萬元、二等獎一枚二萬元、三等獎一枚一萬元
四等獎二枚合計一萬元、五等獎五枚合計一萬元、六等獎十
枚合計一萬元、七等獎二十枚合計一萬元、八等獎一百枚合
計一萬元、九等獎一千枚合計五萬元十等獎六千枚合計十二
萬元。(神州)

●上海外人居留地の人口 居留地以外の人口を除く。(神州)

公共居留地の戸口 上海開港場となりしより以來西洋人の
種を接して來る者日々多し最近三十餘年來萬國其居留地の
戸口を公にせるに其増加せるは數倍の多きに至れり左の如
し。

年 份	西洋人	支那人	共 計
一八八〇年	三、五七三	二、五五五	六、一二八
一八九〇年	三、八二二	六、八二九	一〇、六五一
一八九五年	四、六四四	二四、〇九五	二八、七〇九
一九〇〇年	六、七四四	三三、五七六	四〇、三二〇
一九〇五年	二四、九七	四四、七二六	六九、七〇三
一九一〇年	二五、三六	五二、七六六	七八、一〇二
一九一五年	二五、二九	六〇、四〇一	八五、六九〇

佛國人居留地の人口 佛國人居留地は萬國公共居留地の如く盛ならずと雖ども然れども其戸口年々増多の勢を示す左の如し。

年 份	西洋人	支那人	共 計
一八七九年	三〇七	三、三三三	三、六四〇

一八九〇年	四四四	四二六六	四六二〇
一八九五年	四三〇	五二八八	五二八八
一九〇〇年	六三三	九二六六	九三三八
一九〇五年	八五二	九六三三	九六三三
一九一〇年	一四七六	一〇九五七	一一〇五二
一九一五年	二四〇五	一四六五五	一四九〇〇

●北洋に極大鍊鐵廠を設立するの計畫 參議

員周自齊は連日京律間を奔走中に在るは確かに田農商總長曹直隸省長と商議して直隸に北洋極大鍊鐵廠を設立せんと計畫の由なり今其議決の草案は大約左の如し。

(一)創立の經費及び常年の經費は暫らく四百萬元と定む。

(二)官民合同にして中央政府持株を四分の一とし直隸省長に於て四分の一を引請け爾餘の分は一般民間より募集す。

- (三)地位は直隸宣化縣に設立す。
- (四)礦砂は宣化縣の太陽溝撫寧の定興土王洞臨榆の獅子山藥姓坎等七處の鐵礦並に附近各鎮の鐵砂を買收す。
- (五)石炭コークスは磁縣にて採掘し並に開灤より購入す。
- (六)鍊鐵の豫算は毎日四百噸なりとす。
- (七)輕便鐵道及支線を建築す。
- (八)成效するを俟ちて再び鋼廠を擴充す。
- (九)官立工廠にて鋼鐵を購買せんとするときは優先權を有するものとす。

並に聞く此の項の草案は閣議の決定を俟ち施行す部よりは技正王錫賓梁津僉事翁文瀾を該地に派遣し曹省長よりは工

業試驗科々長郭嘉運科員呂某實業廳よりは鑛務技師朱行中を派遣して周自齊より派遣したる探礦員等と會同して連日各處に分赴し礦産を試驗すると同時に工廠建設地の測量中なりと云ふ。(順天)



會報

小幡公使送別會

小幡新公使送別の爲十一月七日正午華族會館に於て同仁會と聯合にて午餐會を開き席上鍋島會長の乾杯辭小幡公使の謝辭あり出席者左記の如くにして盛會なりき。

來賓 小幡 西吉

侯爵 鍋島直大

伯爵 津輕英麿

男爵 阪谷芳郎

井上敬次郎

五百木真三

井田武雄

波多野乾一

頭山立助

土岐 儀

小川平吉

大谷嘉兵衛

萩野元太郎

岡田晋太郎

龜井陸郎

香川悅次

河野久太郎

高木陸郎

大作理三郎

高木兼寛

田代亮介

田鍋安之助

佃 信夫

中西正樹

中野二郎

中野元心

中村六郎

上野岩太郎

倉知鐵吉

郡島忠次郎

山本市太郎

福本 誠

藤田 諭一

松井廣吉

松本忠雄

小山秋作

荒賀直順

兼同仁會

兼同仁會

兼同仁會

兼同仁會

足立忠八郎

澤柳政太郎

御酒本德松

白岩龍平

平山 周

望月龍太郎

關 菊麿

杉木恭堅

佐藤鋼次郎

長洲 長

同仁會副會長
博士

丹波敬三

同 溝口恒輔



彙報

自十月十六日至十月三十一日

對露關係

▲東清線滯貨夥し (長春特電十八日發) 東清鐵道は去九月初め從業

員の同盟罷業起り其後幹部の威壓に依り繰に汽車の運轉を見たるも恰も我軍隊輸送に際せる爲其貨物列車は全部之に充てられしが此程軍隊輸送は漸く一段落を告げたるも從業員等の服務は今尙十分ならず不完全なる状態にて運轉をなし貨車の不廻り甚だしき爲北送の貨物頗る停滯し僅に一日五輛の配車あるに過ぎざる爲長春及寬城子驛に於ける山積貨物今や極度に達し其置場無き爲繰ての貨物を驛構外に野積みとなし多數の番人を附し居る有様なるが一般荷主等は發送を急ぐ爲吉長線により吉林より松花江を下りて哈爾濱に船輸送をなすものあり支那税關は是等の荷物に對し不當の税金を徴收するのみならず松花江途中の危險も少からず且水は漸次減水せるを以て最早船輸送も出來ざる季節となるべければ貨物益々堆積するのみにて輸送當局者荷主等は非常に困難を感じ居れるが来るべき結氷期には馬車輸送の外自動車輸送を計畫するものもあり馬車なれば長春哈爾濱間八日間を要し約三千斤を積載し得べく自動車なれば二日間にて到着し一臺二噸を積み得らるゝも車體の重量約三噸ありて總計五噸となるべければ松花江の氷上を駛るは甚だ困難なるべし。(二十日、日日)

▲貨物停滯甚し (長春特電二十四日發) 東清鐵道貨物列車不足の爲

長春及寬城子に於ける貨物の停滯二十萬噸に達し輸送の見込なく荷主の困難一方ならず最近の調査によればチタ、浦鹽同の鐵道沿線には凡そ千五百輛の貨車遼離民の住宅となり加ふるに軍用列車運轉の爲普通の貨物に對する貨車の配給は殆ど不可能の状態にあり爲に東清鐵道驛員等の賄賂を要求する事甚だし一車に對し一千留乃至二千留を出すも容易に貨車を得る能はざる状態なり。(二十六日、日日)

外交關係

▲速に内争を停止せよ (北京特電十五日發)

佛國駐在支那公使胡惟德氏は平和問題と支那との關係に關し報告して曰く支那にして國內の擾亂を止めざるに於ては平和會議に列席する能はず歐洲各國は戰爭終結と共に専ら外交上の問題を東洋に轉すべく目下支關係に就いて甚大なる注意を拂ひつゝあり。(十八日、日日)

▲森田領事着任 (吉林特電十七日發)

新任領事森田寬藏氏は家族同伴十七日着任日支官民多數の出迎へを受けた深澤前領事は二十日新任地汕頭に向ふべし。(十九日、日日)

▲金券條例と四國 (北京特電十六日發)

露に支那政府の金券條例公布に關する説明に對し日英露佛四國公使は満足せる旨の回答を與へたる處其後英佛兩國は右は支那政府の幣制改革に對し主義に於て賛成せるに過ぎず金券條例其の物に賛成せるに非ずと爲し日露兩國公使館に對し改めて金券條例に反對の意見を支那政府に提出せんことを懸望せるも日本は英佛に對し未だ何等回答せず又露國は日本に倣はんとして未だ回答せず此處に於て英佛兩國公使は昨日支那政府に對し單獨金券條例に反對なる旨の意見を提出せり尙ほ英佛側は千九百十一年の幣制借款計畫中に明記せる四國銀行團の幣制改革に關する優先權の有効期間を延期し支那幣制大改革は飽まで四國銀行團の手にて行はんとするものなりと日本公使館側は今回の金券條例は右四國銀行團の優先權に抵觸せずとの支那政府の解釋に同意し居れり。(十九日、時事)

▲新米支借款協議 (北京特電十七日發)

米商シームスカレー會社代表者と支那交通部との間に温州、杭州間の鐵道敷設借款契約商議進行中なるが英國公使ジョルダン氏は此程陸外交總長を訪問し右鐵道は英國の既得權たる江、杭、甬鐵道と競争線となる理由を以て抗議を提出せり然るに交通部は外交部を通じ英國公使に宛右兩鐵道線は相距ること遠きを以て競争線と認めずと回答せり。(二十日、時事)

▲米國公使謁見 (北京特電十九日發)

新に歸任せし米國公使ライ

ンシュ氏は徐世昌氏總統就任式當日参賀せざりしを以て十八日徐總統に關して祝辭を述べ米國政府は支那が速に内争を斂めんことを誠心誠意希望する旨を述べ徐總統は深く其好意を謝したり。(二十一日、日日)

▲公使團和平協議 (北京特電十八日發) 英佛等協商國公使は本日英國公使館に公使團會議を開き支那時局和平解決に關し意見を交換せり。(二十一日、時事)

▲廣東政府職權通告 (北京特電十九日發) 廣東軍政府は十六日附を以て廣東駐在各國領事を通じ北京公使團に左の如く通告し來れり。

廣東軍政府は今回國會の決議に依り國務院の職權を代行し中華民國大總統の職權を執行することゝなれり。(二十一日、時事)

▲公使團の警告 (北京特電十九日發) 十八日午後日英露佛公使會議の結果徐總統に對し聯合國は支那の参戰に就き關稅引上げ賠償金延期等あらゆる援助を與へたるに拘らず與國に對し何等貢獻する處なし今や戰爭將に終り講和會議の機將に近からんとす支那は此際如何なる覺悟を以て之に對せんとするやに就き嚴重なる警告を與ふることと決せるが右は支那が内争の爲大戰に對する義務を盡す能はざりしを辯明すべきを豫想し第二段として高壓的に妥協を勸告する前提にして此情報を得たる支那側は恐慌を來し居れり。(二十二日、日日)

▲米國領事館開設 (濟南特電廿二日發) 米國領事館開設せられ昨日ビッグフォード領事は各官廳を公式に訪問せり。(二十四日、時事)

▲佛支協會發會 (二十日北京特派員發) 二十九日北京に於て佛支協會發會式を舉げ佛支兩國人及外人等約千名の出席ありて盛會を極めたり本會は支那に於けるあらゆる佛支人の階級を網羅せるものにして佛國公使等が戰後對支活動の準備として組織せるものなり。(二十二日、朝日)

▲金券抗議問題 (北京特電二十三日發) 二十二日四國銀行團代表者は財政總長曹汝霖氏と會見し協議中の金紙幣問題に關し銀行團の主張を詳述し其實施を中止せん事を求むると同時に千九百十一年借款契約の延期(去る四日滿期)を要求せしが開は閣議を経たる上にて回答すべしとて何等要領を得ざりき。(二十五日、日日)

▲代行照會受領 (上海特電二十三日發) 廣東來電に米國領事は軍

政府に對し軍政府が總統及內閣の職權を代行するの照會を受取れりとの公文を送れり。(二十五日、日日)

▲日露も金券抗議 (北京特電二十三日發) 英佛兩國公使は眞に金券條例に就き支那政府に抗議する處ありたるが日本政府も英佛と同一の行動に出づることゝなり船津書記官は二十日外交部を訪問し抗議を提出せり尙ほ日本の決心を待ち居りし露國も日本と同時に支那政府に同一の抗議を提出せり(二十五日、時事)

▲外交團忠告差控 (上海特電二十四日發) 徐世昌氏が特に和平に關する命を出さんとするに依り外交團は支那内争を止む可しとの忠告を差控ふることゝなれり。(二十五日、時事)

▲日支借款中止 (北京特電二十四日發) 北京政府は章公使より內閣は支那南北の平和を促進する方針にて日支借款の交渉を中止することに決せりとの報告に接し旁和主義を確定し二十四日閣議に於て徐總統の平和宣旨命令を協議決定し二十五日之を公布する事となれり。(二十六日、日日)

▲上海英支國人交款 (上海特電二十七日發) 當地英國官憲商人等は二十一日午後四時より七時まで當地タウンホールに上海總商會委員其他を招き英國公債募集に對する好意を謝し且つ英支兩國人の意思を疎通し又募債に功勞あるものに記念章を英國總領事より贈り宴會を催す可しと。(二十九日、時事)

▲軍政府承認謝絕 (北京特電二十八日發) 駐米支那公使顧維鈞氏より北京政府に達したる報告に依れば廣東軍政府の特使王正廷氏は二十四日華盛頓に著し國務卿ランシング氏に面會し軍政府承認問題に就き懇談する所ありしがランシング氏は此際米國が軍政府を承認して交戰團體となさば一層南北の妥協を困難ならしむる虞あり此問題は全部北京駐在米國公使ラインシュ氏の報告に一任しあれば米國政府として直に意思を發表する能はずと婉曲に之を謝絶せり王正廷氏は尙各方面に對し南方の事情を詳述したる上十一月中旬に歸國すべしと。(三十一日、日日)

南北情勢

▲徐氏南軍の意見を徴す (十三日上海特派員發) 徐世昌は討伐令に關し南軍前敵各司令官の意見と決心とを確めたる上にて聲明するに決定し目下諮詢中なるが多少の時日を要すべしと。(十六日、朝日)

▲軍政府の公文書 (十三日上海特派員發) 廣東軍政府は十一日より公文書に國務院職務代行總統職權攝行の文字にて署名する事となれり。(十六日、朝日)

▲軍政府討伐令を發せん (十二日廣東特派員發) 廣東軍政府は廣東舊國會より大總統の職權代行を委託されたるを以て十二日より新製の印璽を使用すべし尙新代行總統は一週間に非法大總統たる徐世昌に對し討伐令を發すべし。(十六日、朝日)

▲武力解決の外なし (上海特電十三日發) 廣東軍政府は通電を發して曰く徐世昌は遂に總統として就職せり西南は極めて和平を愛するも現在の形勢に於ては兵力を用ゐて事に従ふの外なし之が爲我國民は苦しむべきも其責任の何れに歸すべきかは之を判斷し得べしと。(十六日、日)

▲副總統選舉延期申合 (十四日上海特派員發) 副總統選舉に付き交通研究系安福俱樂部の一割合計百二十餘名は副總統選舉延期を決議し右選舉會に缺席の事及び金錢武力の壓迫を受けずとの決心を示し又交通系は新に政黨を組織すべく決議せりと。(十六日、朝日)

▲徐氏上海官憲に打電 (十四日上海特派員發) 徐世昌は當地支那官憲に對し左の如く打電し來れり。

時局紛糾極まりなし予は老年茲に艱難の秋に任を受け南北相嫉視し民政疲弊の時に當り既に争を止むるの外なし又何ぞ武を用ふるに忍びん今茲に各省區文武官に對し其忌憚なき時局解決の意見を求め其多數に依り決を取り之に従はんとす云々。(十六日、朝日)

▲總統府内に軍事所 (十三日北京特派員發) 徐總統は總統府内に軍事所を設置し將雁行を其所長に任ずべしと。(十六日、朝日)

▲陳光遠北上の使命 (十五日漢口特派員發) 江西督軍陳光遠は十四日朝未明到着漢口大旅館にて王湖北督軍と會見の後午前八時半張敬堯代理及び王督軍代表方日中と共に上京せり此行表面は新總統の就任祝賀の爲と稱するも陳光遠自ら北上せるは豫て江西兩湖三督軍間に申合せありたる從來の

態度を改め新總統の麾下に隸屬して副總統選舉を延期し西南五省長官と法を設けて疏通し無形の和議を爲し漸次有形的ならしむること、梁士詒を國務總理たらしむること等を代請せんとするに在り尙陳督軍は曹錕と會見し徐新總統の本系たる楊浙江督軍等と長江督軍等の新同盟を作り新總統を擁護し時局解決策の根本方針を協議する處あるべしと。(十七日、朝日)

▲徐に命令を待て (漢口特電十五日發) 徐大總統就任以來前敵各司令官は頻りに新總統の軍事方針に就き質問し且南北妥協の途を立て人心を安んぜんことを電請し來れる爲徐總統は各前敵司令官に宛て時局未だ定まらず中央政府の命令なき限り一歩も軍隊を移動せしめず嚴重に中央の命令を待つべしと打電せり。(十七日、日)

▲張李徐に妥協要請 (十四日北京特派員發) 徐總統と最も親交ある上海通州の張譽は江蘇督軍李純と南北調和に關し協議したる結果調和に對し先づ停戰命令の發布を請ふ旨十三日夜打電し來れるが李純よりも十四日徐總統宛速かに停戰命令を發布して南北妥協を圖るべき旨要求し來れり。(十七日、朝日)

▲官制擴張 (奉天特電十六日發) 東三省巡閱使官制は單に軍權のみに限られ居れるより張作霖氏は更に財政、民政、外交の三權をも併得すべく之が官制の擴張を北京政府に強要するが斯ては益々張作霖氏をして東三省の王たらしむるより北京政府も之を躊躇しつゝあるが張巡閱使の要求は飽迄強硬なるより結局官制としては軍權のみを定め其他は機に應じて大總統令を以て監督權を命令する事となるべし尙張作霖氏の東三省巡閱使就任に就ては特に孟吉林督軍の反感あり孟氏は爾來之が對抗策を講究中なりと。(十七日、日)

▲徐樹錚氏の密偵 (北市特電十四日發) 參戰辦處參謀長徐樹錚氏は南北問題に就き北洋派の意見一致し難く主戰派に對して妨害となるべき密電盛んに往復するを以て是等の行動は何人が爲すものなるやを調査せんとて十四日より部下二名を電報局に派遣し嚴重に取調中なり。(十七日、日)

▲馮國璋黎元洪を誘ふ (十六日北京特派員發) 馮國璋は十三日夜黎元洪に宛て共に時局解決の實に任ぜられたき旨の電報を發せりと。(十七日、朝日)

▲在野北洋派結合 (北京特電十五日發) 馮國璋氏は南北問題解決の

爲天津の在野首領と會見し意見を交換したき旨徐新總統に提議したるに徐總統は馮氏の企圖に賛成せしも別に思ふ所あるを以て二週間天津行を延期する様勧告せり而も馮氏自身は既に天津の準備をなし天津の在野首領連と類に非正式に交渉を試みつゝありと。(十七日、日日)

▲林虎西江に進軍 (上海特電十五日發) 莫榮新氏は林虎をして兵六營を率ひて西江に向ひ進軍せしめ北江にある雲南軍と連絡し李耀漢氏を勸説し不測の變を防がしめ居れりと云ふ。(十七日、時事)

▲大總統就任祝電 (北京特電十五日發) 徐世昌氏就任後各國元首は頻々として祝電を寄せ來れるが中にも十三日米國大統領ウィルソン氏の致せる祝辭は最も懇切にして支那の南北統一及歐洲平和恢復後の國際會議に迄言及しあり徐總統は直に外交部に命じて謝電を發せしめたり。(十七日、日日)

▲民の痛苦を如何せん (上海特電十三日發) 廣東軍政府は通電を發して曰く徐世昌氏を擧げて總統として就職せり西南は極めて和平を愛すれども現在の形勢に迫られて兵力を用ひて事に従はざるを得ず之が爲め我國民は苦めども當局は何れが其咎に任ず可きかを知るなる可し云々とあり。(十七日、時事)

▲適法の解決主張 (上海特電十三日發) 莫榮新氏は湖南の南軍各將官の和平に關する電報に對し法により時局を解決することを主張し返電せりと。(十七日、時事)

▲譚、吳各紙に通電 (十一日上海特派員發) 譚浩明吳佩孚は又各新聞社に左の如く通電せり。

湖南駐在南北各軍は日支軍事協定に刺戟され内共に争を止めて侮りを防ぐを計り五日二十五日停戦以來既に四箇月を経たり此間師長等は屢中央政府に戦を止むる命令を出さんことを請へるも段祺瑞が西南に誠意なしとして之を斥けたり師長等は已むを得ず公理に基き西南の同意を求め九月二十六日南北軍將士の連名電報にて其結果を申出でたり即ち西南の和を圖る誠意の眞なるを見るに足る而かも段祺瑞之を察せずして法を惑はし大局を破壊するものと云へり夫れ和するとは全國を一家の如くする者也戰國は即ち南北の分裂なり畢竟大局の破壊とは主和が主戦か抑も主和は亡國のか智者を俟たずして明白なり段祺瑞は新國會を強ひて造れるにあらざると云ふ西南五省

をして議員を選び送りしめず任意に指命せるか選舉を護法なりと云ふこれ何なを以て段祺瑞は徐世昌に職に就くを勸むるの通信を西南五省を除ける各省にのつ送れるか是れ段祺瑞自ら不完成の總理たるを認めて強ひて徐世昌を不完成の大總統たらしめんとするか竊に恐る徐世昌は必ずしも不完成の大總統たるを認めざるべしされど縱し之れを甘んじて認むるも軍人、人民各方面は心に甘んじて不完成の大總統を肯ぜざるなり之れを要するに正義の存する所、是非は自ら公論あり世界國人の心理は將に眞正の民意にて強ひて造るところにあらざり一人の私言を抑止する能はざるなり當世明達之士に乏しからず各々努めて主張し同心一致對外を圖れば大局に幸多し云々と(十七日、朝日)

▲唐繼堯氏歸任 (重慶特電十六日發) 雲南督軍唐繼堯氏は本日出發歸任す西門附近は見送人を以て充滿し交通杜絶の盛觀を呈したるが熊克武氏も亦出發せり。(十八日、日日)

▲翟汪廣東省長 (十五日香港特派員發) 李耀漢は軍政府の命令に従ひ省長を翟汪に引渡すことを承諾したる旨廣東督軍署より發表せり翟汪は近々就任すべし。(十七日、朝日)

▲吉林の新師團 (長春特電十六日發) 吉林督軍孟恩遠氏は張作霖氏に對抗する爲從來の混成旅團を師團編成に改むるに決定したる事は既報の如くなるが右第一師團は意此程に至り成立し各將校は第一、第四の兩混成旅團中より自己腹心の者を拔擢任命したり司令部は當分督軍公署内に置くべしと。(十八日、日日)

▲各領袖の歸任 (重慶特電八日發) 雲南第二軍長顧品參、同第一軍長趙又新、鄂軍聯軍總司令黎天才氏等の各首領は前後して歸途に就けり。(十八日、日日)

▲聯立内閣組織計畫 (上海特電十六日發) 北京内閣問題は容易に解決する能はざる爲徐世昌氏は尙當分錢能訓氏に對し代理國務總理として留任を求め時局解決緒に就くを待ち南北双方に名望ある人物を以て聯立内閣を組織せん考へたり。(十八日、日日)

▲馮氏徐總統を喜ばず (十六日上海特派員發) 馮國璋は黎元洪と共に時局解決の實に任せんことを約し且痛切に時局解決の必要を説き宜言

書を出し之を通電せんとし直隸派の人物に之に名を列するもの頗る多く十五日朝徐世昌に之を示せるに徐氏は之を發表するを十日間延期せんことを求め馮氏は其餘りに運るゝを喜ばざるに似たり。(十八日、朝日)

▲唐督軍の總花

(重慶特電八日發) 四川省長任命問題にて不穩の舉動ありたる四川軍人を慰撫すべく雲南督軍唐繼堯氏は石青陽氏を第三師團長に、顏德基氏を第六師團長に、盧師誥氏を第七師團長に、黃復生氏を重慶警備司令に、陳炳堃氏を川北道尹に、夏志時氏を川南道尹に、各任命し又王天縱氏を靖國豫軍總司令に、唐克明氏を同湖北第一軍長に、黎天才氏を第三軍長に任命したるが右任命政略は靖國聯軍を結束するに足るは勿論からざる成功を収めたり。(十八日、日日)

▲徐氏曹氏に迫る

(北京特電十五日發) 徐世昌氏は十五日朝曹錕氏に向ひ若し自ら南下する能はざれば先づ參謀總長潘矩楹氏を湖南に派遣し各軍隊の意思疏通を圖らしむべしと打電せり。(十八日、日日)

▲新政黨成る

(上海特電十六日發) 交通系の舊人物及中立各團體は聯合して中立黨と稱する一大政黨を組織し機關紙「均報」を發刊したるが其主義は和平統一を促進するにありと。(十八日、日日)

▲段氏國防會議召集

(十五日北京特派員發) 參戰督辦段祺瑞は邊境の防備を嚴重にするの目的を以て國防會議を召集するに決し十五日參戰督辦處より邊境の各代表者を北京に送るべき旨の命令を發せしめたり。(十八日朝日)

▲總統職務執行案答申

(上海特電十七日發) 國會は軍政府より總統及び内閣職務を行ふの件に就き諮問を受けたるに左の如く決定せり。

(一)内閣に軍政府各政務總裁を以て之を組織し

(二)總統名義にて發表する命令には會合に列席の各政務總裁の副署を爲す事となれり。(十八日、時事)

▲徐氏本意を語る

(上海特電十七日發) 徐世昌氏は十四日湖南浙江兩代表と接見したる節西南を接合し自ら時局を解決せる上民政を整理し軍民政を實行する本意なる旨を述べたりと云ふ。(十八日時事)

▲軍政府總統職務執行

(上海特電十七日發) 廣東軍政府は通告して曰く十一月一日より國會委員會の依託を承認し内閣及び總統職務を行使す(十八日、時事)

す(十八日、時事)

▲徐大總統令發布

(十六日北京特派員發) 徐總統は十五日附大總統令を以て近年兵禍に依り疲弊を極めて民生不安の爲め教育を獎勵し商工業を振興し殊に財政方面に於ても人民の窮狀甚だしきを以て華美を慎み法を用ゆるに細心の注意を拂ふべき旨を布告せり。(十九日、朝日)

▲平和促進會計畫

(北京特電十六日發) 黎士詒、周自齊氏等は天津に於て平和促進會を組織せんとし副總統選舉會缺席の爲天津に赴きし交通系討論會、研究會の議員は周自齊氏の宅に集まり協議會を催せり馮國璋氏も裏面にて之を賛成し場合によりては黎元洪氏をも誘ひ表面に名を現すべき決心を示し居れり而して徐總統は各省官吏軍人が平和運動を起すに官紀上面白からざるも在野有力者が運動するには差支なしとて之を掣肘せず陰に賛成せり此事情を知つて廣東に來れる章炳麟氏は岑春煊氏と會見し第一回の報告を徐總統に打電し來れるが其内容審かならざるも徐總統は該報告を得て頗る樂觀の體なりと。(十九日、日日)

▲副總統選舉無期延期

(北京特電十六日發) 副總統選舉會は十六日午前十時開會十一時半參議院議員八十名、衆議院議員百名にして法定數に達せず流會無期延期となれり。(十九日、日日)

▲總花的の行賞

(北京特電十六日發) 總統命令にて熱河都督姜桂題氏に勳一位東三省巡閱使張作霖氏浙江督軍楊善德氏に勳二位を授け其他多數地方文武官に總花的叙勳をなせり。(十九日、日日)

▲平和協進會組織

(北京特電十七日發) 兩院議員は天津に於て平和促進會を組織中の外章炳麟氏の首唱にて在野政客を集め平和協進會を組織し速に南北妥協を行ふ計畫なるが上海天津等の在野政客多數賛成せるのみならず馮國璋氏も賛成者の一人なりと唯平和促進會と平和協進會とは其解決點に多少の相違點ありといふ。(十九日、日日)

▲總統代行宣言

(香港特電十六日發) 廣東軍政府は今後政務總裁が大總統の職權を行使すべき旨を宣言せり。(十九日、日日)

▲陳光遠徐世昌訪問

(十七日北京特派員發) 江西督軍陳光遠は十七日午後一時入京し直に總統府に徐世昌を訪問せり。(十九日、朝日)

▲軍政府李の離職を迫る

(十八日香港特派員發) 廣東省長問題に

李耀漢が軍政府の免職命令に服従せざると省議會の反對に依り今尙解決に至らず最近軍政府は使を肇慶に派し李耀漢に對し省長の公印を交付すべく要求したるに李は既に香港に赴きたる後に今同更に同地に向け人を派遣せり軍政府は近く愈々最後の解決手段を執るに決したりと。(二十日、朝日)

▲省長解任懇請 (漢口特電十八日發) 徐總統の鄂民文治の宣言に對し督軍王占元氏は十四日省長の兼任解除を乞ひたるに對し徐氏は公式内閣組織を待てと答へたり。(二十日、日日)

▲張鎮守使應援 (漢口特電十八日發) 襄陽鎮守使張聯陞氏は陝西應援の爲十日限陽に著し更に白河(陝西)に向ふ善安邊府にある旅團は殆ど全部十二日襄陽守備の爲急行せり。(二十日、日日)

▲徐總統張勳特赦請願を容る (十八日上海特派員發) 曹錕等の張勳特赦に關する請願に對し徐世昌は機を見て敢てすべしと答へたりと。(二十日、朝日)

▲福建應援軍出發 (上海特電十九日發) 蚌埠來電「福建應援軍は三列車に分ち浦口に向ふ其總數約一混成旅團にて十八日浦口着の豫定なり」(二十日、日日)

▲歸順艦長の宣言 (上海特電十九日發) 軍艦肇慶艦長以下の宣言書に曰く

天、中國に災し干戈、水旱一として之なきはなく南北兵を争ひ年を経て數ます財寶を糜す數千萬十餘省を蹂躪したり事茲に至らしめたるは誰の罪なりと稍心ある者の痛恨せざるなし宜しく早く干戈を納め民と共に休息すべきなり段祺瑞氏之を覺らず却て武力に依りて同種の民を慘殺し外債を借りて私腹を肥し近く非法國會を召集し議員を買収し常に人々の體を汚し更に時局を紛糾せしめ其違法行為の多種なる枚舉に遑なし之を要するに段祺瑞氏の政策は實に國を亡ぼすに足る予等固より正義のある所に赴くに他に法なし況んや此時局艱難人心亂を厭ひ極鮮相對し遂に好き結果なきを恐る故に此肇慶軍艦艦員水兵全體と共に西南と行動を一致せしめ以て和平促進を期す其功罪是非は之を國民の裁断に任さん云々。(二十日、日日)

▲吳光新歸任す (漢口特電二十日發) 吳光新氏より王占元氏への電報に曰く二十日軍費軍器を受取りたる上歸任す可しと。(二十一日、時事)

▲モリソン氏奔走 (上海特電十九日發) モリソン氏は廣東に赴き伍廷芳、岑春煊兩氏と會見し十五日同地を去れりと。(二十一日、日日)

▲鮑貴卿氏新任 (北京特電十九日發) 黑龍江督軍鮑貴卿氏は貴州鐵道督辦に新任されたり。(二十一日、日日)

▲後繼内閣督促 (北京特電十九日發) 山東督軍張懷芝氏は徐總統に宛て「段祺瑞氏の辭職を惜むべきも既に事實となりし以上致方なし速に正式に後繼内閣を組織し人心を安心せよ」と打電し之に對し徐總統は「目下馮國璋、段祺瑞、王士珍、汪大燮等と協議中なれば成るべく早く遂行すべし」と返電せり。(二十一日、日日)

▲停戰宣言を迫る (上海特電十九日發) 江蘇省々議會議員連は北京の大總統及び國務院に打電して曰く國內の戰爭一年を越へ民の困難極まり國の危險甚だしく歐洲戰爭の將に終らんとし世界の大勢平和に赴かんとするに我國内訂止まず全世界の嗤ひを招き民意に背く大なり凡そ血氣ある者何れも心を同じうせざるはなし速に停戰を宣し善後を協議し和平を回復し尙ほ全國を統一し國家の面目を保たれたし云々と。(二十一日、時事)

▲福建へ軍用米輸送 (漢口特電二十日發) 第十師團より蕪湖に派遣されたる軍需監張敬祺は軍用米買入れ中にて既に十七日當地に之を陸揚げし鐵路之を發送したるもの一萬七千石なり右軍用米は海路福建に送らる可しと。(二十一日、時事)

▲曹錕軍引揚 (漢口特電十九日發) 當地に残留せる援粵總司令曹錕氏の司令部附兵士約二百名は一昨日全部引揚ぐ。(二十一日、日日)

▲陳光遠の和平意見 (北京特電十九日發) 長江三督軍を代表して入京せる陳光遠氏は昨日大總統と會見せるが其の席上陳督軍は江西省の軍事行政等に就き報告せる後南北の時局に就き意見を述べて曰く是等南北和議に就て注意す可き事三あり。

- 第一、北方に於て從來主戰論者たりし者と平和論者と意見を疏通せしめ南北和議交渉開始後反對運動の起らざる機嫌内内部の統一を計る事
- 第二、北方は兩派に對し誠意を以て交渉し中央の威嚴を保つと共に西南護法精神をも尊重する事
- 第三、王胡北、李江蘇、陳江西の三督軍は調停の任に當り最も公平に南北

妥協に盡力する事即ち是なり。(二十一日、時事)

▲總統代行條例成る (上海特電十九日發) 廣東國會は協議の結果

軍政府の國務員總統職權代行條例三箇條を決議せり曰く國務會議は軍政府各總裁を以て組織す凡そ大總統名義の命令は各在任總裁の連署を要す此條例は公布の日より之を施行すと。(二十一日、時事)

▲廣東參議院議長 (上海特電十九日發) 廣東參議院議長として林森氏選舉せらる。(二十一日、時事)

▲羅生中央と絶つ (上海特電十九日發) 廣東海關監督兼交涉員羅生氏は今後北京政府と關係を絶ち軍政府の命令に服従す可しと申出でたり(二十一日時事)

▲廣東軍政府財政處 (十九日上海特派員發) 廣東軍政府は財政部の正式樹立迄財政處を設け財政に關する事務取扱を爲さしむべく組織條令六條を決議し楊某を所長に任命せり。(二十二日、朝日)

▲南北調停意見 (北京特電二十日發) 徐總統と米國公使との談話の中心となりしウキロビー氏の南北調停意見左の如しと。

一、北京廣東の新舊國會より同数の議員を選び上海に於て臨時聯合國會を組織し先づ適當の憲法を作成し直に臨時聯合國會を開催し新に新憲法に依り新國會を北京に召集す

一、副總統は西南各省より推薦し上海の臨時聯合國會に於て徐總統及西南推薦の副總統を同時に承認す

一、兩軍は現在の戰線より以前の駐屯地に撤退する事

尙以上各項は米國に於て出來得る限り援助を與ふべしと附言せるものにてウ氏は既に徐總統、錢總理代理、梁士詒氏等を歴訪して右の意見を述べたり。

(二十二日、日日)

▲和平促進會 (二十一日上海特派員發) 熊希齡、朱啓鈞等は和平促進會に加入し該會員は三百餘名に達し天津の國會議員百六十餘名も加入せり

と尙天津の和平主張者は二派に分れあり一は全國商務總會をして請願せしめんとし他は各省省議會をして聯合請願せしめんとしつゝあり。(二十二日、朝日)

▲對支新方針好評 (上海特電十九日發) 米國の南北調停勸告說及日

本政府の發表したる對支方針四大綱は當現民黨間の話題の中心となり調停勸告說に就ては未だ其真相明かならざれば孰れも其成行に注意しつゝあるのみなるも我對支方針の發表に關しては孰れも多大の満足を表し是れ原内閣が前内閣の對支方針を根本的に改革したるものなりと解釋し居れり右に就き孫洪伊氏は曰く

平和は何時にても予等の希望する所なりされどモリソン氏等が奔走し居れる南北調停運動は南北對峙の重要案件たる國會問題が無視し居れるが如し是れ頗る不合理なるものにして我等は斯かる調停案には絶對的に反對なり日本に於ても十分に南方の精神を酌みて其對支政策を樹てんことを望む國會問題さへ解決すれば自餘の問題は自ら決すべしと又張繼氏は曰く

對支方針の發表ありしも其實現を見るまでは暫く是非の論を見合すべし寺内内閣も其成立當初は日支親善、絶對不干渉等を言明せり而も其實際は彼が如しされば宣言のみにては安心出來ず差當り夫の滿蒙鐵道に關する一億圓の借款を如何にすべきや新内閣の宣言の効果如何を試むべき好題目なり希くは其宣言の如く實行されんことを云々。(二十二日、日日)

▲軍政府國會恢復固執 (十九日上海特派員發) 廣東軍政府は敢て和議を拒絶せざるも國會は必ず之を恢復するを主張し且一切の問題は之れを國會に附議せしめ之れを解決せしむることを主張し居れり。(二十二日、朝日)

▲章公使錢能訓に祝電 (十九日上海特派員發) 東京駐在支那公使章宗祥は錢能訓の國務總理代理となりしに對し祝電を發し其電文中に日本政府は支那の統一を希望し居る旨を附言したり。(二十二日、朝日)

▲廣東省長問題解決 (十九日上海特派員發) 廣東省長問題は無事解決を告げたり各方面の代表は軍政府の任命せる程汪の後任省長たる事を承認し尙肇慶に在る李耀決の舊部下は依然其指揮下にあるべきを認めたり。(二十二日、朝日)

▲廣東徐宣戰撤回 (十六日香港特派員發) 新總統徐世昌に對する廣東軍政府の宣戰布告は撤回されたり長庚岑春煊に對して北方より何等かの通告達したる結果と見らる。(二十二日、朝日)

▲孫洪伊暗殺を免る (上海特電二十二日發) 昨夕六時三十分孫洪伊氏の宅を訪問すると見せて暗殺を試みんとせるものありたる門番に怪しまれて邸内に入る能はず二階目蒐めて五發の拳銃を發射せるも幸に何人も怪我せず彼は強敵を恐れて逃走せり佛國專管居留地警察は尙ほ警戒を加へ居れり。(二十三日、時事)

▲福建軍二十一營降伏 (二十一日上海特派員發) 福建督軍李厚基の報告に據れば福建軍の南方に降れるもの二十一營ありと。(二十二日、朝日)

▲支那紙原内閣謳歌 (十九日上海特派員發) 當地中華新報は日本の對支方針の改廢と題し評論して曰く

日本の外務大臣は其對支方針を非公式に示し(一)秘密政策を取らず(二)専ら日本の利己を顧るが如き方針を取らず(三)南北に對し不偏不黨以て支那の福利を圖ると云へり是唯寺内内閣の取れる所の政策を完全に取消したるに止らず苟も吾人日本に待望する所既に足ると爲す若し久しく此政策にして變らざれば中日の眞正の親善實現の日ある近からんか吾人は原内閣の出現の既に速きを惜むなり是日本の不幸にして支那の大不幸なり寺内内閣の崩壊克く其時にありしならんには我國の幸にして日本の最も幸なりなり云々。(二十三日、朝日)

▲孟督軍勘ねる (長春特電二十一日發) 孟督軍の代表者は去る十四日北京に赴き大總統に面謁して孟督軍辭職の旨を申出でたり東三省巡閱使の新設に對し慷慨たるものある爲なるが徐總統は懇切に之を慰撫し巡閱使は西伯利及北滿出兵の關係上臨時設置せるものにして永久的機關にあらずれば此際辭職を思ひ止まらんことを乞へりと。(二十三日、日日)

▲湖氏を省長に推す (上海特電二十一日發) 陳炯明氏は廣東に打電し胡漢民氏を省長とせん事を求めたりと。(二十三日、日日)

▲陳光遠遂に辭職か (漢口特電二十一日發) 陳光遠氏は出發前官民を集めて演説して曰く余の上京はこの目的あり一は大局の解決二は江西事情の陳述なり目下江西は軍隊給料の外軍費毎月二十萬元を要するも政府は金を送らず實を仰がんが爲めのみ余は運くも一箇月以内に歸らんと然れども九江鎮守使吳の云ふ所に據れば陳は財政の爲めに必ず辭職せんと云へり陳は家

族と小蒸汽二艘の荷物を携へたりと。(二十三日、時事)

▲米國の祝電を異とす (上海特電二十一日發) 米國大統領が徐世昌氏の大總統就任に對し祝辭を贈れりとの報に接せる廣東人一般奇異の感に打たれ居れり。(二十三日、時事)

▲日本に對する希望 (上海特電二十一日發) 孫文氏代表者徐謙氏は現在世界の大勢は人類最終の目的たる平和掩護の爲め先づ其障害物たる強權主義を除去するの要あるを主張するに一致し居れり協商各國が獨逸を全滅せんとする、支那が軍閥を退かしめんと努力する、最近日本が輿論の力に依つて軍閥内閣を排し政黨内閣を組織せる、東西其軌を一にす以て世界人心の趨向を見る可し然るに協商國は支那北方の強權者に對し事實上の政府を承認する事は獨逸に對する任務と矛盾す法治國にありて法を破るは既に反逆なり余は日本の先進政治家が此點に留意し世界の大勢より國策を樹て正義を重んずるの觀念に依り支那に對しても少くとも嚴正中立を守るが更に進んで正義を以て起る南方を援助せんことを希望す是れ獨り日本に對する希望のみならず協商各國に對する希望なりと語れり。(二十三日、時事)

▲外國干渉を排す (北京特電二十一日發) 米國の支那南北調停運動に關し北京政府及び廣東軍政府側は共に之を歡迎せんとする傾向あるが上海に於ける民黨各電要人物の意嚮を聞くに張繼氏は南北調停は日米兩國相提携して之を行ひ(此間電文數語脱落)延いて内政干渉とならざらんかと憂慮し孫洪伊氏は支那の國情に通ぜざる米國の調停は結果失敗に終らん調停は要するに一種の干渉のみ支那は何國の干渉をも喜ばずと主張し孫文氏は是れ米國の日本對抗運動なりとし延いて列國の内政干渉を惹起す可きを指摘して之に反對し支那の政治家が自己勢力維持の爲め外國の力を藉らんとするを戒め居れりと云ふ。(二十三日、時事)

▲救援軍陝西に向ふ (漢口特電二十一日發) 襄陽の張鎮守使は自ら一旅團の兵を率ゐ陽陽に在り別に旅長孫に命じ陝西平利縣に向はしめたり河南よりの兵も荆紫關に達せり南軍は陝西四鄉縣を占領し漢中に向へりとの報あり。(二十四日、時事)

▲伍廷芳財政總長兼任 (上海特電二十一日發) 廣東軍政府政務會議は唐紹儀の廣東に至るまで伍廷芳財政總長を兼任すること財政部の設立

は之を延期し先づ吳德宜をして財政廳を組織せしむることとし吳德宜は二十日就任の筈。(二十四日、時事)

▲曹錕吳佩孚へ使を送る

(漢口特電二十三日發) 曹錕の參謀長潘は吳佩孚への使者として當地を経て湖南に行けり彼の訴る所に據れば和議は曹も同意なれど商議を爲さず勝手に通電を發するは不穩なり將來は必ず曹の意を經可しとの意を傳ふるなりと。(二十四日、時事)

▲停戰命令發表期

(漢口特電二十三日發) 國務院より王督軍への發報に曰く停戰命令は目下の急務なるも嘗て馮國璋に之に依て感信を損せり依て在野の名士の西南と協議するを待ち之を發せんとすと。(二十四日、時事)

▲錢內閣居据決定

(北京特電二十二日發) 二十一日徐總統に於る會議にて徐總統は時局漸く平和に赴くの兆あり内閣の改造は寧ろ平和解決の見込確立したる後を可とすとの意見を述べ當分現内閣の留任を望み萬一總長病氣等の場合は代理を置くべく現に段陸軍總長の病氣辭職は引留むる能はざるも表面は其儘とし實務は農商總長田文烈氏をして之を執らしむる事となりたるが所謂當分にては區切りつかざる爲假りに十一月中旬迄と定めて錢內閣居据りに決せり。(二十四日、日)

▲南北妥協の重要條件

(北京特電二十一日發) 徐總統と梁士詒氏との間に南北妥協に關する大體の意見合致し目下其進行を窺しつゝあるが其内容は副總統は南方に譲るも内閣組織者は必ず北方より推薦し(暗に梁士詒氏を總理に推す)國會は新舊共に犧牲に供すとの條件は最も重要なものなりと。(二十四日、朝日)

▲和平政策實行の前提

(北京特電二十二日發) 參陸辦公處は左の訓令を各長官及戰線諸將に電達せり

(第一)今後各師團は勿論警備隊は中央政府の許可なくして一兵をも増募すべからず若し爾後違背する者あらば即時該軍隊は解散し當事者を嚴罰に處す

(第二)戰線諸將は其防禦陣地を固守し自ら移動するを得ず敵の來襲に違ひし場合は之を擊退せよ軍費は三期に分ち支給し特別軍費も從來通り補給す

▲官吏任免通電

(上海特電二十四日發) 廣東軍政府は政務會議の(二十四日、日)

結果通電を發し既に總統の職を代行するの權利あり自ら必ず護法各省官吏は軍政府に於て任免すべしと。(二十五日、日)

▲促進會の本部

(北京特電二十三日發) 平和促進會は二十三日北京豐潤胡同に本部を設け幹部として王有齡氏など執務しつつあるが創立費として梁士詒氏は五萬圓、馮國璋氏は二萬圓を出し徐總統亦秘密に三萬圓を補助したり。(二十五日、日)

▲和平期成會成立

(二十三日北京特派員發) 環て京津間に於て組織運動中なりし和平促進會は今同意和平期成會と命名し二十三日熊希齡、張謇、王芝祥、蔡元培、王家驊、孫寶琦、丁世燾等二十四名の發起を以て同志を糾合すべく其總旨書を發布せり。(二十五日、朝日)

▲獨逸宣教師脅迫さる

(二十三日香港特派員發) 在廣東和蘭領事は廣東當局に對し在瓊州獨逸宣教師某が土匪の脅迫を被りし旨を報告せり(二十五日、朝日)

▲王安瀾施南に迫る

(二十三日北京特派員發) 王安瀾部下凡そ一千名雲南軍二千名峰起し施南に迫り湖北北部は大に牽制せられ王督軍は最寄より約そ一混成旅を派遣せり尙王督軍は討伐命令を請ひしが徐總統は妥協成立前騷亂の行爲あるものは南軍たるを否とを問はず命令を待たず討伐すべしと打電せり。(二十五日、朝日)

▲平和請願書

(上海特電二十三日發) 各省の省會聯合會は平和願書を北京政府に出せり。(二十五日、日)

▲福建に兵亂起る

(上海特電二十四日發) 福建督軍李厚基は福清の十一師十二旅團三營の兵が兵變を起し又福州の一及び二團各兵等亦爭亂をなさんと謀るあり既に兵を派して之を鎮壓しつゝありと。(二十五日、時事)

▲陳光遠へ督軍返答

(上海特電二十四日發) 江蘇、湖北、浙江、山東、直隸、河南の各督軍は陳光遠氏に答へ皆一致して和平を希望する旨を答へたりと云ふ。(二十五日、時事)

▲唐氏軍政府を激勵

(上海特電二十三日發) 唐繼堯氏は軍政府に左の意味の電報を發す近日妥協の聲を聞くも吾人の希望は約法擁護舊國會恢復にあり之を棄つれば從來の努力は無意義となる北方にして妥協を欲せば非法機關を取消舊國會恢復を唯一の條件とす可きなり若し段の政策を踏襲する

が如くんば非法叛逆の賊なり俱に天を戴かず閣員も亦其決心に依りて努力せんことを望むと云々。(二十五日、時事)

▲憲法速成會々規 (上海特電二十三日發) 廣東の憲法速成會は規則七條を定めたり内容の主要なるものは即ち憲法速成を期する議員は皆會員とし各省衆議、參議院議員より一名を幹事とし事務を分擔せしめ毎週一回會議を開き憲法成立後其會を解散す云々と云ふにあり。(二十五日、時事)

▲倪氏主戰論放棄 (上海特電二十三日發) 安徽督軍倪嗣冲氏も主戰の意見を擲たり然れども彼は内閣を組織し西南をして干渉せしむるなく以て中央の威信を保つのを要と云ふ又倪氏は農商部に宛百二十萬元の資本を得て安徽に華丹製鐵所を設くる旨を打電せりと。(二十五日、時事)

▲唐氏總統に忠告す (上海特電二十二日發) 唐紹儀氏は徐世昌氏に打電し六年政で見えざるに貴下の電報に接し感慨深し唯だ其擧げざる、なくば必ず其利志に基き時局の紛糾解くを計り得可しとせるに十月十日戰に就かる堪ゆる危ければ敢てなきにあらずとの事を心に體し茲に一言せんとす蓋に宣世凱が天下を左右するの兵力を恃み軌道を逸えたる行動を執り立所に失敗せり其時公は其事情に通じ心を痛め居りたりしなり覆轍未だ致らずとも之を鑑みるの要ある可し公の擧げられしは民國の約法に適合するや否やを問ふは之を天下の論定まるを待つとし談理を棄て政治を談ぜんに實に公の志は既に平和にあり正に平和を以て第一戰とせば先づ法則を先とす可きなり今平和に於て何等把握するあるを聞かず正に時局愈々紛糾せんとす公の爲めに計るに其主張を貫徹するに如かず即ち努めて時局の解決を圖り國事の定まるを待てば法理事實二つながら皆爲す可し四億國民も延いて相對する素より今日と大に異なるなり敢て忠告を勸む云々。(二十五日、時事)

▲孟督軍の早業 (吉林特電二十四日發) 吉林督軍孟恩遠氏は新大總統徐世昌氏が南北の平和を圖らんとしつゝあるを知るや俄に左の如き舉國一致を主張せる電報を徐大總統及び廣東軍政府に送れり。

外患既に緊迫し各地天災人禍頻りに起り國民聊かも安んぜず長く南北分離せんが必ず漁夫の利を得せしむるに至り實に國家の祝福にあらず今や歐洲戰爭は將に講和の消息あり我國速に先づ統一を行ひ内政を整へ全力を擧げ外侮を防ぐべしと。(二十六日、日日)

▲張勳特赦さる (二十四日天津特派員發) 張勳特赦の大總統令出でいより同地舊獨逸租界の本邸は依然保安隊駐制し居り變化なきも英國租界松壽里に於ける家族等の住宅は門前に懸燈し祝賀客の來往頻繁を極む。(二十

六日、朝日)

▲柳河縣馬賊 (鐵嶺特電二十四日發) 四百名より成る馬賊の一團二十一日突然柳河縣内の一部落様手喧に現はれ同地を包圍して多大の金品を強要しつゝありとの報二十三日鐵嶺領事館に達せしかば同地在留邦人の保護に就き同地方に在る支那軍隊に注意を促すと同時に海龍、撫鹿の兩領事分館より十數名同方面に急行したり此賊は並に張作霖氏の召集を受け官軍に降りたる一千餘名中の一部にて其待遇が召集當時の約に違へるを怒りて再び掠奪を始めしものなりと。(二十六日、日日)

▲支那移駐兵北行 (奉天特電二十四日發) 西伯利移駐の支那軍隊第九師步兵第三十三團指揮官李澤根以下將校四十二名下士卒五百八十二名は二十四日朝京奉線にて着奉滿鐵線に移乘北行せりと。(二十六日、時事)

▲李純折衝に當らん (二十四日上海特派員發) 國務院は江蘇督軍李純に對し打電し總統の命令を奉じ李純をして西南と折衝せんことを以てせるとに李純は之に對し命を奉じて西南と折衝すべければ電報局の檢閱官をして李純と西南各方面との電報の往來を自由にし之を途中にて差押へる事なき様取計らはれたしと返電せりと。(二十六日、朝日)

▲南北議和公電發送 (上海特電二十五日發) 國務院は二十三日議和の電報を岑春煊、陸榮廷、李烈鈞、林葆懌、唐繼堯、劉顯世、熊克武に送りて曰く

國內紛爭歇まず政治停滯、百業凋落の形勢あるに加へて歐洲戰爭將に終熄せんとし東亞問題に影響あらんとす若し内爭紛糾長ければ大局に思ひを致す能はず此際南北分れ居るも安危の繫る處休戚相同じ互に異見を以て争ひ分崩に至るに忍びず既に戰禍の爲め國家の命脈を傷けたり此國歩驟離の際徐世昌は和平を主張し各國務に當るもの亦之に同意し諸公に對し謹んで告げんとす諸公は民の艱苦既に深く國家の重きを思ひ各省の軍政財政及び人を求むるに至るまで誠を披き公を布き商議して善後方法を講ずることとし

たし其方法として先づ軍隊を終熄し民治を厲行し命令をして善く行はれし

め民をして自ら幸福を増さしめ法律問題は争端の繁る處なるも今日外交緊急の際事實を捨て法律を争はゞ徒に曠日彌久、民を治むること益々紛糾して危險なる爲め先づ事實問題を解決し紛糾を治め法令問題は之を公の議に俟つて決したし云々。(二十七日、時事)

▲上海教育大會

(上海特電二十六日發) 目下上海に會合の全國教育大會は二十五日開會式を舉げたり其決議左の如し。

- 一、教育を厲行するの政策を執るを請願する事
- 二、青年團の組織を提唱する事
- 三、理化學教授法を改良する事

之なり次回の會合地點は山西と決定す次回の宿題として學生卒業後の前途及實文接近の方法等あり又同聯合會は黎元洪馮國璋兩氏に對し自ら支那國內の擾亂に關し教育も其禍を蒙れる事を述べ歐洲戰終りに近づき外交將に急ならんとする際南北双方の明達之士たる者其政見を固守して國家を維持するを停め國家を尊重し其政見を犧牲にし極端の主張を止め互に至誠危局を救ひ法律政治何れも其平を得て正規に順ふやう盡力されたき旨を打電せり。(二十七日、日日)

▲廣東憲法會議進行

(二十六日上海特派員發) 二十四日廣東國會議法會議は第十二條地方自治會の組織を討議し之を否決し又第九條地方行政機關の組織、第十條各省に豫備兵を設くる事、第十一條國家稅、地方稅を區分する事を可決せりと。(二十七日、朝日)

▲李純陳光遠に通牒

(二十六日上海特派員發) 江蘇督軍は目下北京に在り江西督軍陳光遠に對し「兄は中央を主とせよ弟は西南を主とし互に接近を計るべし」との意を以てせり。(二十七日、朝日)

▲法治的に妥協せよ

(二十六日上海特派員發) 陸榮廷は徐世昌に當て打電して曰く、停戰議和に就き共に同情するも西南の護法は初めより變なし我公憲法を遵守するを宣誓せる上は將に法治的に妥協すべし權利上より着想する勿れと。(二十七日、朝日)

▲爾今電報檢閱せず

(二十六日上海特派員發) 交通部は電報局に對し今後南北自由に通電せしめ檢閱の要なしと命ぜり。(二十七日、朝日)

▲軍民分治を賛す

(上海特電二十五日發) 長江各督軍及び山東、河

南、山西、陝西、甘肅、新疆、湖南、浙江の各督軍等は國務院に對し徐世昌氏の軍民分治の政策に賛成の意を表し省長なき各省に速かに省長を任命せんことを乞へりといふ又江蘇、河南、湖北、山西、浙江、直隸、江西、湖南及び熱河綏遠及び恰克圖の督軍都統は停戰議和を北京に求めたり。(二十七日、時事)

▲陳氏總司令承諾

(上海特電二十六日發) 陳炯明は福建鎮撫使を辭退し在福建廣東軍總司令の職のみを承諾したりと。(二十七日、時事)

▲協商國遊藝會組織

(二十六日上海特派員發) 熊希齡、汪大燮、蔡元培等の發起により支那在留の日、英、米、佛、露、支諸國人と共に協商國遊藝會を組織し不日發會式を舉ぐべしと其目的は専ら協商國人側の交誼を計り對時局策を進むるに便せん爲めなりと。(二十八日、朝日)

▲福建遠征に反對

(廣東特電二十五日發) 廈門海軍總司令薩鎮冰氏は北京政府に對し奉天軍の福建省に遠征し來るを拒絕し若し肯ぜざる場合には福建海軍は遠征軍を攻撃すとも其責に任ぜずと打電せり。(二十八日、日日)

▲孟氏兵を引揚ぐ

(漢口特電二十七日發) 久しく四川軍防禦の任に當れる近畿第二師第七聯隊長孟昭月氏は其兵を率ゐて武昌に歸れり南軍が長江上流より大半其兵を引揚げたるを徴するに足る。(二十八日、時事)

▲徐總統の招宴

(北京特電二十六日發) 徐總統及夫人は二十六日午後主なる文武官外交官及其夫人等約五百名を總統府に招待し就任祝賀の茶話會を開けり瀧澤及冬宮殿庭園等の縱覽後來賓一同愜仁堂に集まるやフロツク姿の徐總統は支那服の夫人並に數名の子女(内一名は令嬢他は親戚の令嬢)に取圍かれ一々來賓と握手を交し八方に愛嬌を振撒き茶菓の饗應をなし終つて一同は紫光閣に陳列せる歷代皇帝の肖像及護衛隊の演武等を參觀し雅集歡會せり。(二十八日、日日)

▲軍政府交通部設置

(二十六日廣東特派員發) 廣東軍政府は交通部を設置せり同部は道路課郵便電信課等に分れ居れり。(二十八日、朝日)

▲軍政府抑留者釋放

(二十五日香港特派員發) 廣東省廣惠鎮守使李福林は廣東軍政府より協議の爲め召命を受けたるが其部下を率ひて肇慶を砲撃すべき督軍の命令を拒絕したる爲め抑置せられたり又廣東全省警務署長魏邦平は全省の軍警組織解散の命令に應ぜざりし爲め同じく拘置されたるが督軍は兩者を長く抑置しそれが爲め事變を醸成すべきを慮り双方とも釋放せ

りと。(二十八日、朝日)

▲一般に講和希望 (漢口特電二十八日發) 王占元氏は重なる文武官と協議の上連名にて休戦令及び民間名士を召集して講和會議を開始せんことを請求し當地中國銀行支配人も平和の獻白を爲せり湖北各商會及び紳士團も請願打電の商議に忙し其の流行殆ど盛世凱勳進の時の如し。(二十九日、時事)

▲孫洪伊不法を責む (二十六日上海特派員發) 孫洪伊は總理錢能訓の西南に致せる主和の電報に對し其不法を責めたる通電を發せり。(二十九日、朝日)

▲西南護法を主張す (上海特電二十七日發) 西南軍政府各政務總裁等は共に護法の精神を貫徹しあり殊に唐繼堯氏の如きは西南の議を起し兵を擧げたるは蓋し護法の精神に出でたるものにて約法を尊重しあり故に國會を北京に開ける非法總裁の位を退き段祺瑞の參戰を罷め再び武力を用ひしめざるに非ずんば正式の解決を爲す能はず舊法は専ら事を決するに法律を外にして共和を言ふ能はざるを明かにせり西南軍政府の各政務總裁等は護法の下に在り一致して北方派の旨に輕々しく承知することなし陸榮廷氏の宣言にも法律に依り時局を解決するを主張し居れりと云ふ。(二十九日、時事)

▲龍軍討伐進捗す (上海特電二十八日發) 廣東海南島に於ける龍濟光軍討伐は其後頗る進捗し既に澄邁、陵水、定安各所を占領し餘す所僅かに瓊州城のみなりと。(三十日、時事)

▲軍政府と梁との和議 (二十九日上海特派員發) 廣東の各新聞は軍政府と梁士詒と和議するの記事掲載するを禁ぜられたり。(三十日、朝日)

▲王占元北京行 (二十八日漢口特派員發) 湖北督軍王占元は中央政府より督軍會議列席の招電に接し即ち二十七日午後二時特別列車にて出發せり。(三十日、朝日)

▲李純南方に交渉 (二十八日北京特派員發) 李純は徐總統の意を受け妥協條件數項を西南の領袖に示して意見の交換を行ふべく既に條件内示の電報を發したり。(三十日、朝日)

▲張孟兩督軍上京 (二十九日奉天特派員發) 今同北京に於て南北妥協の爲め開かる、督軍會議に列席すべく徐總統の電報に依り張巡閱使は意二十九日特別列車にて遼參議子冲漢、副官長超作福其他幕僚十名歩兵二個中隊

機關銃隊一個中隊を隨へ吉林孟督軍と共に入京の途に就けり。尙孟督軍は斐吉長鎮守府、劉財政廳長、張吉林、混成旅團長外將校二十名歩兵八十名を隨從せり。(三十日、朝日)

▲平和擬議 (北京特電二十八日發) 總統は二十八日馮國璋、段祺瑞、趙爾巽、汪大燮、世續氏其他民間の有力者を招き入京中の張懷芝、並に錢總理、陸外交總長、田農商總長等も陪席し平和問題に就き懇談したり。(三十一日、日日)

▲獨立代議員問題 (上海特電二十九日發) 二十五日廣東政府政務會議は司法獨立代議院設置問題を議し軍事會議にて福建方面政略に關して協議せりと。(三十一日、時事)

▲平和論大流行 (北京特電二十八日發) 北京大學校長蔡元培、商務總會聯合會長卞陰昌氏等の發起せる全國平和聯合會は各省の商務總會、教育會、省議會を聯合し平和請願の運動を開始せり平和會中最も率先し且勢力ある平和期成會の通電は各方面の反響盛なるが馮國璋は一國政治の隆替は健全の輿論にありと述べ曹汝霖氏は徐總統既に平和の命令あり誠を以て對せば解決の歩調ありと説き王占元氏は平和解決は予の元來抱懷せし唯一の希望なりと何れも期成會の趣旨に賛成の意を表明せり平和主張は政界の新流行となりつゝあり。(三十一日、日日)

▲楊士琦氏逝く (上海特電三十日發) 當地商招局董事會々長楊士琦氏は昨朝病死せり年五十六徐世昌氏の許に國務總理たるべしとの説あり且北上の事に定まりありしも先般江州西湖に遊び病を得て遂に長逝せるなり。(三十一日、日日)

▲馮曹會談 (北京特電二十九日發) 馮國璋氏は隨員十五名、衛兵五十名を隨へ二十九日特別列車にて保定に赴き曹錕氏と時局問題に就き懇談を交へたり。(三十一日、日日)

▲蒙古平和會 (北京特電二十八日發) 蒙古人代表跳百光、同々教代表王親氏等は蒙古西藏王侯二百餘名を糾合し五族蒙古平和會を組織し南北妥協に聲援を與ふべしと。

(北京特電二十八日發) 前電五族聯合平和會は五族平和合進會と改稱し二十八日發起會を開き來會者百餘名梁家宜氏開會の辭を述べ平和は一部政客の事

業にあらず五族全體の共に屬すべき所宜しく公明正大法理に根據し事實に照し對内對外の政策より出發すべしと主張し大要左の如き通電を發せり

歐洲戰後の平和會議に列するには先づ國內の統一を計るべし支那既に警告あらんとす國民豈惘然たるべけんや南北間には法律戰時諸問題ありと雖も妥協の途なしとせず我國民は五族より成り禍福を共にし痛痒相關す茲に誠意を以て國民に忠告す速に平和恢復をなさんと。(三十一日、日)

▲孟督募兵失敗

(長春特電二十九日發) 吉林督軍孟恩遠氏は曩に第五混成旅團を編成せる爲先頃來各地にて新兵募集をなせるも容易に應募する者なきを以て先頃奉天省懷德、梨樹各縣内に横行掠奪し居りし馬賊頭目と交渉し其歸順を促し官兵に應募せん事を遊説しつゝありし事は既電の如くなるが此程に至り各頭目等は官兵等の意思を疑ひ何れも逃走し遂に失敗に了れり又長春方面にて募集中の者は豫定數千五百名に對し漸く五百六十名の應募者を得たるに過ぎざる有様なれば官邊にてはいなく困却し居れり。(三十一日時事)

▲妥協條件は捏造

(上海特電二十九日發) 唐繼堯は軍政府に打電し近來北方より提議せる條件なりとて三ヶ條或は五ヶ條の妥協條件を發表しつつあるも右は全く捏造されたるものにて信する勿れと。(三十一日、時事)

▲徐氏の罪狀宣布

(上海特電二十九日發) 廣東軍政府は徐世昌の罪狀宣布全文五百字餘にして其の要領は西南護法の目的及び徐世昌の非法總統就任を勸告せること及び吳佩孚團治明以下が非法選舉に對し其の條件を示し密談し其の苦衷を述べたること並に護法各軍の何處迄も護法の精神を貫徹せんとする決心を述べ徐世昌が西南の勸告を容れず非法總統の任に着きたるは國憲を紊し統一を圖り内憂外患の災を醸すものにして然も國民を擧げて統一を唱へ民政を説き文を裝ひ和議を忘る其の罪惡世凱と輕重を分たず軍政府は護法治亂の責任と人爲從ふの義務に依りて徐世昌の民國破壞の罪明かにして自ら共和の實を擧げんことを期す云々とあり。(三十一日、時事)

財政關係

▲山東借款返済延期

(十五日青島特派員發) 曩に朝鮮銀行日本興

業銀行臺灣銀行より中日實業會社を経由して山東省に貸付けたる山東省貨幣整理資金百五十萬圓は本年八月三十日を以て返済期限となり居りしが山東省官憲の希望により同日以後更に六箇月間期限延長を申込み來りたれば承諾を與へたりと。(十八日、朝日)

▲米債應募獎勵

(濟南特電二十二日發) 支那商務總會總理は米國自由公債應募を獎勵し既に一萬二千弗の應募ありたり。(二十三日時事)

▲マ式無電契約成立

(二十一日タイムス社發) タイムス紙北京通信員報道に依れば北京政府とマルコム無線電信會社との間に三個の無線電信局設置の契約成立せり而して右電信局は各二十五キロワットの電力を有するものなりと此電信局は喀什噶爾烏魯木齊及涼州等の僻遠の地方に設置せらるるものにして西安府の小電信局を以て之を補助するものなり。(二十九日、朝日)

▲支那公債應募超過

(倫敦ロイタル特電二十八日發) 八分利付、十年償還、六十萬磅の支那公債は百五磅にて賣出され直に應募超過となれり同公債は十月二十一日賣出し翌二十二日〆切れり。

(記者曰く) 此公債は支那各地に無線電信局を設置する目的を以て發行せられしものにして契約は英國マルコム會社と締結せられたるものなり。(三十一日、時事)

經濟關係及其他

▲亞細亞銀行支店設置

(上海特電十三日發) ダブリュ・シー・ディン及びラン・フドウソン二氏は亞細亞銀行支店を上海に設立の爲め組資より當地に來れりドウソン氏は組資トラスト會社の副秘書、又ディン氏は同會社の副社長なりと云ふ。(十七日、時事)

▲長沙物價騰貴

(長沙特電十八日發) 現金の缺乏益甚しく紙幣の價格日々低落し物價の騰貴甚し。(二十一日、日)

▲粵漢線新聯絡

(漢口特電十四日發) 粵漢線は時間を変更し一方京漢線と接續し一方長沙涿州線と接續せる事にせり。(十六日、日)

▲三水市場大恐慌

(二十二日香港特派員發) 三水よりの報道に據れ

ば廣東より派遣されたる軍隊は三水に於て住民に大恐慌を起さしめたり右は軍隊が多額の軍票を使用し住民をして額面を以て引取らしめたる爲にして商人の損害夥しきものあり就中米穀商の被れる損失最も大なりし故一同申合せの上商店を閉鎖するに至れり尙三水の附近なる西南に於ても同様の恐慌を惹起せりとの報あり。(二十四日、朝日)

▲土門嶺鐵道着手

(長春特電二十三日發) 吉林鐵道の當地と吉林の

中間にある土門嶺鐵道は二十三萬餘圓にて大倉組之を請負ひ長一千六百尺十八箇月にて竣工の豫定にて去る一日より工事に着手せり之に依りて鐵路一哩四分の二に改善せられ、客車二十五分貨車一時間短縮され燃料貨車繰の關係上十六箇年餘の經費を取戻さる。(二十五日、時事)

▲漢口棉花増收

(漢口特電二十四日發) 當地に於ける棉花の出廻り

高は作付反別増加し天候も理想的なりし爲昨年比し二倍増加の見込なり。(二十六日、日日)

▲間島隱元豆市況

(間島特電二十五日發) 間島本年度の隱元豆及白

豆收穫は約五萬七千石の見當にあるが昨今市場には現品輻輳し石十七圓五十錢の相場にて取引行はれ續々輸出あり大豆等の輸出と共に市場漸く緊張し輸出商の入込める者多く白豆の會寧輸出運賃は石一圓六十錢より三圓に騰貴せるが今後輸出の旺盛期に入らば車輛拂底し運賃の昂騰は免れざるべし。(二十六日、日日)

▲長沙紙幣下落

(長沙特電二十五日發) 紙幣益下落の爲財政廳長

劉淇氏は總商會にて財政會議を開催し勸業債券と富籤とを折衷せるが如き一種の公債を發行し硬貨を緊縮するに決せるものゝ如し而も從來税金徴收には紙幣を時價に計算して徴收せるが今後硬貨の外一切收納せずと命令を發せりされば紙幣は愈下落の外なかるべし。(二十七日、日日)

▲上海吳湘道路工事進捗

(上海特電二十七日發) 上海より吳淞に

至る道路は上海舊軍使曹永祥部下の兵士に依り築造中なるが其工事大いに捗取り其道路の路基の工事四十支里四十尺幅のもの既に竣工し其道路の表面工事は十一月十日頃竣工す可し橋梁も其工事捗り三箇月内に出來し明年一月中頃までに全部通行し得可しと。(二十九日、時事)



支那

第九卷 第二十三號

要目

論說	平和會議と支那……………	一一四
資料	支那に於ける外國人の土地所有權……………	五一二
	新華儲蓄銀行事情……………	一一一〇
	保晉鑛務公司事情(一)……………	二一一二四
雜錄	支那と列強との關係(一)……………	二四一三八
	支那に於ける英吉利人と獨逸人(六)……………	二九一三三
彙錄	支那の借款契約……………	三四一三五
	江蘇商生系稅輕減の請願……………	三六一三七
事業界	支那事業界近況……………	三八一四三
半月史	半月間の支那重要事件……………	四四一四八
時報	支那最近時事要項……………	四九一五四
彙報	支那關係諸報道……………	五五一六六

東亞同文會調查編纂部

支店出張所



支店出張所

株式會社

臺灣銀行
(北臺)

支那 厦門 上海
南洋 新嘉坡 孟買 倫敦
歐米

九江 漢口 福州
汕頭 香港 廣東
紐育 スラバヤ スマラン バタビヤ

臺灣 基隆 臺中 嘉義 臺南 打狗
宜蘭 淡水 新竹 桃園 阿猴
臺東 花蓮港 澎湖島
內地 神戶 大阪 橫濱 東京

大阪商船株式會社



歐洲行

◎橫濱馬耳塞線(每月一回)
 橫濱、神戶、門司、香港、新嘉坡(孟買)
 蘇西、坡西土、馬耳塞行
 ◎孟買ゼノア線(每月一回)
 孟買、蘇西、坡西土、ネーブルス、ゼノア行(孟買續接)

南米行

(七年一回)
 橫濱、神戶、長崎、香港、新嘉坡、ダー
 バン、クーブタウン、リオデジャネイロ、
 サントス、ウエノスアイレス行

濠洲行

(每月一回)
 橫濱、神戶、大阪、馬尼刺、シドニー、
 メルボルン、阿德レード行

孟買行

(二週一回)
 橫濱、四日市、大阪、神戶、門司、香港、
 新嘉坡、古倫母、孟買行

南洋行

(每月一回)
 大阪、神戶、門司、基隆、タワオ、パ
 ビヤ、サマラン、スラバヤ、マカツサ、
 サンダカン、香港、打狗、基隆行

北米行

◎香港北米線(二週一回)
 香港、馬尼刺、上海、基隆、長崎、門司、神戶、四日市、清水、
 橫濱、ウイグトリア、シアトル、タコマ、バンクーバー行
 ◎新嘉坡北米線(每月一回)
 新嘉坡、香港、馬尼刺、基隆、長崎、門司、神戶、四日市、清水、
 橫濱、ウイグトリア、シアトル、タコマ、バンクーバー行

南洋沿岸
 支那、朝鮮、
 臺灣、浦鹽、
 及內地各
 港行
 每月數十回

一 資本金

四
千
八
百
萬
圓

(內拂込濟參千萬圓)

一積立金

貳千萬圓



橫濱正金銀行

電話

時
四四四四四四
時
四四四四四四
〇〇〇〇〇〇
四三二一〇
番番番番番番
(宿直用)

支店出張所

東京、大阪、神戸、長崎、倫敦、里昂、紐育、桑港、ロスアンゼルス、布哇、
シドニー、孟買、カルカッタ、香港、上海、青島、濟南、漢口、天津、北京、
牛莊、旅順口、大連、遼陽、奉天、鐵嶺、安東縣、長春、哈爾賓、

此外内外樞要ノ地ニ代理店有之候間爲替、荷爲替、信用狀其他内國手形割引、貸付、保護預等御便宜御相談可仕ニ付御都合次第御來談被下度候



大正七年十二月一日

第九卷 第二十三號



平和會議と支那

一

新聞紙の傳ふる所に據れば、支那政府は陸徵祥氏を平和會議に派遣し、關稅權の回收、治外法權の撤去、青島の回收、蒙古西藏の開放等の條項を提議せしむべしと云ふ、眞偽未だ判明せざるも、孰れも皆支那官民の熱心主張し來りたるものにあらざれば、其解決を熱望するものに屬するものに係り、加ふるに我邦に少なからざる關係を有するものなれば、此際本問題を講究する、必ずしも徒勞にあらざるべきを信するなり。

二

治外法權の撤去と、稅權恢復とは、新支那人の二大題目にして我邦も亦嘗て本問題につき大に苦心せし歴史あれば、彼等の之を熱望するは、當然にして、吾人の深く同情する所に係る、適當なる時機に於て其目的を貫徹することを希望せざるを得ず。而も支

那の現状を以て之を實行し得べきものなりや否や、疑問なきを得ず。抑も治外法權なるものは、新支那人之を以て大に耻辱と心得つゝあるも、支那は上古より屬人主義を採り

異人種の支那に住するものには、所屬國法を適用し、支那人の外に住するものには、本國法を適用し、今尙ほ其外國と認むる蒙古人に對し、蒙古法を適用しつゝあれば、屬邦人に對し、治外法權を認むること、必ずしも謂れなきにあらず。且つ外國人をして國法に適應せしめんとするには、日本の例に徴して明なる如く、文明式の法典の編纂、裁判官の養成、警察及監獄制度の具備を爲さざるべからざるや論を俟たず。然るに、支那に於ては、刑法商法典の一部、同訟訴法、施行細則公布せられたるのみにて、法典の缺如すること甚だしく、北京、上海、奉天に於ては、審判廳の組織稍々觀るべきものあるも、其他は概ね行政官が裁判官を兼ね、舊式の審問を爲しつゝある有様にて、司法制度の缺點極めて多し。警察制度は法文具備せざるにあらざるも警察官吏の養成頗る不完全にして、信頼するに足るべき人材を得べき見込なく、彼等の怠慢不公平放肆共に甚だしく監獄に至りては我邦舊時の揚屋と同様にして、一日たりとも外國人を拘禁し得らるべきものにあらず。されば、吾人は、主義上治外法權撤去に賛成すること勿論なりと雖も、

支那の現状を以てしては、之を實施すること、尙早なりとせざるを得ざる也。

三

支那は列國と對等の條約を締結すること能はざるが爲め、協定輸出入五分稅制を採るの已むを得ざるものあるに依り、輸入稅を増加して外品の輸入を防遏し、輸出稅を全廢して内國品の輸出を獎勵し、依て以て産業を保護することを得ず、又財政窮乏し、外債元利の支拂高比較的多額に上るに拘らず、關稅を加徴すること能はず、支那官民間に稅權恢復論の流行する、當然なりと謂ふべし。されば、舊時より裁釐加稅の説あり、一九〇一年支那通商條約改正委員盛宣懷氏は、拳匪事件媾和條約條件に基き、當時の輸入稅を現實五分に改訂し、更に一定條件の下に、釐金を撤廢するの代償として、輸入稅を一割二分五厘に増加せんことを提議し、日英諸國の賛成を得たり。

從ふて稅權回復に關しては略ぼ主義上既に諸外國の賛成を得居ることなれば、支那が一定條件さへ履行せんか、何時にても其目的を達し得らるゝ筈なり。されど、支那の如き國狀にて、該條件を履行すること困難なるのみならず、裁釐加稅の爲め、外國殊に日本に及ぼす影響の莫大なることを考慮せざるべからず。我邦は支那領土保全を以て國是

と爲し、國命を賭したる日露戦争を始めとし、大小幾多の犠牲を供し、國是貫徹に努め來りたるものにして、支那の今日ある、我邦の力に待つあるもの多きに居れり。されば支那が自國の利害のみより打算し、我邦に危害を加ふべき行動に出づべからざるや勿論なり。日支兩國は各々獨立國なりとは云へ、利害關係は密接にして、之を一體として取扱はざるべからざる場合多く、殊に經濟を以て然りと爲す。支那は我邦に原料を供給して富源を發し、我邦は支那の原料に依り商工業を發達し、兩國共に永く福祉を享けざるべからざる關係にあり。然し支那が關稅を増加し、我邦製品の輸入を防遏せんか、我邦商工業の基礎根本的に破壊し、日支の經濟關係斷絶し、兩國の不幸是より大なるものあるべからず。されば、稅權恢復は主義上吾人の賛成する所なるも、我邦の承認し得べき限度に於て、稅率を増減せざるべからざるなり。

四

蒙古西藏を世界に開放すべしとの意義、聊か空漠なるを免れざるが、恐らく列強人齊しく是に居住し往來し貿易製造採鑛等を爲し得との義にあらざるか。西藏は英國の勢力範圍と認められ、蒙古は日露兩國の勢力範圍と稱せられ、外蒙古は自治区と爲す、西藏も亦支那の約束を受けず、知らず支那は何の權利に基き、之を世界に開取せんとするや、彼の所謂宗主權なるものに基き發言せんとするものならん

が、西藏蒙古は土地廣大交通不便にして、强悍なる蕃族居住し居れるものなれば、支那の力を以て、外國人をして安全に居住營業せしめ得べきものなりや否や、殆んど疑ふべき餘地なかるべし。且つ支那が本部を世界に開放することゝを忌みながら、蒙古西藏を開放せんとするは、解すべからざることにして、列強の力を以て日英露を箝制せんとの策に出づるものと解する外あるべからざる也。

列強齊しく獨逸の陰謀術策に懲り、公明正大を尊ぶことゝなりし際、舊式なる夷を以て夷を制せんとの陋策を用ふるは、支那の爲め大に採らざる所なり。

五

青島の還附是れ亦支那上下の熱心希望する所なるも、支那政府は平和會議に於て、之を主張すべき權利を有するや否やは問題たらざるべからず。謂ふまでもなく、青島なるものは、我邦が海陸忠勇の將卒を犠牲にして之を攻陥し、獨逸の東洋に於ける策源地を傾覆し、東亞の秩序を維持したるものに係る。當時支那は中立を標榜し、日本の作戰計畫につき、抗議を提出し來りたること一再に止まらず。然るに、一旦獨逸降伏するや否や、之が還附を要求せんとするは、餘りに蟲善き注文にあらざる乎。最近歐洲電報に據るに、英國其他の聯合國は、青島の處分に關し、日本に一任し居れりとのことなるが、當然のことと謂ふべし。我邦は支那領土保全を國是とすることなれば、青島處分に關し

列國が認めて以て最も公平妥當なりとする處分に出づること勿論なるべきも、支那が日本の承認を俟たず、平和會議に於て其還附を提議し得べきものにあらざるなり。別に日本が支那官民の希望に副ふべき處分に出でたるならんには、是は實に莫大の恩典にして、支那人たるもの、唯感々服すべきのみ。

六

今回佛國に於て開催せらるべき平和會議なるものは、空前の大會議にして、尋常一様の媾和會議にあらざれば、媾和會議に於て見るべからざる平和人道問題の提起せらるべきこと疑を容れざるも、同盟國の處分を主要問題と爲すこと、亦信じて可なるべし。されば、支那たるもの、同盟國の處分に關係なく、東洋方面の事件に局限さるべき問題を提議し、徒らに會議をして紛更せしむべきにあらず。彼の新聞紙に依り傳へらる支那の條件の如きは、之を問題と爲すべからざるは、自明の理なり。假令百歩を譲り、支那は此等の問題を平和會議に提議し、幾分の利益を得たりと斷定するも、之が爲め將來受くべき不利益莫大なることを記憶せざるべからず。何となれば、此等の問題中には、支那のみの内治外交に屬するもの少なからず、之が解決を平和會議に求むとせば、今後此種の問題につき、列強會議に附するの必要生じ遂に列強協同統治の端を啓くべければなり。

七

抑も支那は今回の大戦に於て何物をか聯合國に寄與したるや。聯合國の優勢略は決したる際、始めて聯合國に加擔したるも、獨逸勢力を國內より驅逐することすら、充分の力を竭さず、西伯利亞に於ける獨塊俘虜の拔扈、露國過激派の敵對行爲に對してすら、適當なる行動を採らず、動もすれば列強協同の敵に對し偏頗の處置に出でたるが爲め、聯合國より強硬なる抗議を受けたるは、世人の耳目に新なる所なり、加ふるに、支那は聯合國に加擔する交換條件として、現實五分稅改正、拳匪賠償金支拂の延期等種々なる利益を享け居れり、之を換言すれば、戰後媾和會議に於て、享くべき利益を戰前業既に之を享けたり。恰も猶ほ約束手形の割引を爲したるが如し。而して平和會議に於て莫大なる報酬を受けんとするは、一債權を以て兩度の支拂を受けんとする類にして、一般公衆の同意し難きものたるや論なし。然し亦交換條件の過小なるを鳴らし、更らに報酬の割増を得んとするものならんか、手形割引の性質として、割引料を損失すること當然にあらざるか、況んや今次の平和會議なるもの目的高遠にして、一國に局限せられたる小利害を羅列し、又は自國に對する報酬の多寡を論議することとを許さざるに於ておや、或は支那新聞紙報する如き提議を爲すことなく、日本と打合せ、適當の處置に出づべしと當然なりと謂ふべし。



資料

支那に於ける外國人の土地所有權

特權の範圍

外國人は通商及び居住の目的を以て、本國人の所有主より家屋を借入れ、或はこれを購買し、又は家屋を建つる爲め土地を賃借し、或は一定の期間これを借入れる機利あり。この特權の範圍は、該權利の所有者たる外國人の類別及びその所有地所在の地方に依り種々の差異あり、即ち外國人にして商人ならんか、その權利は外國貿易並に通商に公開せられたる開港場、及び市場に位する地域に制限せらるれども、宣教師又は商人にあらざる場合は、開港場と均しく内地に迄擴充せらるゝが如きこれなり、然れども兩者の場合に於て、借地法に對する法律上の權利は共に相似たり、而して何れも采邑權にあらずして永代借地權を獲得することを得べし。

開港場に於ける手續

▲外國租界 外國租界即ち外國人の通商居住の目的を以て保留せられたる地域に於ては、外國人はその土地に對する權利を領土主權より取得すべきものとす、即ち外國人はその借地證を支那人なる土地所有主より受け、規定の地租を支拂ひたる場合、地方官廳は該證書に調印するものとす、而して該證書は是等の手續を了へたる後、同外國人に屬する領事館の手を経て登録せらるべきものとす。

▲權利證書の登録 扨て外國人は該證書の登録を自國の領事館に依り求むるのみにして決し、この土地の屬する裁判管轄區域を有する國家の領事館に求むべきものにあらず、一例を舉ぐれば西曆千八百六十一年にトーマス、ハンベリ一なる一英國人、上海の佛租界に於て三地區の土地を得たり、彼は常例の手續に従ひこの證書を自國の領事館に於て登録したり、然るに其後千八百九十八年に至り佛國領事は該證書を検してこれ (*locus regit actum*) の原則に従ひ、佛國

領事館に於て登録せざりし故を以て違法なりと宣べたり、依つてハンベリーは訴訟を提起したるに、英政府はこれに加擔し、終に佛國はその主張を撤回するに至れり。

▲外國租借地 領土主權が借地國に對し、その臣民の居住を統轄する爲めに譲渡したる土地の一區劃たる外國租借地に於ては、外國人は種々の形式に依り、土地に對する權利を取得す、此地に於てはこの權利は借地國の政府より享くべきものとす、然れどもこの土地の主權に對し當然支拂ふべき地租は、居留地に包含せらるゝ該地域の借地國に許可して、貸地國に保留せられたる定期地租を以て間接に支拂ふべきものとす、此の場合借地國政府は自國の居留地より支那人を含むすべての外國人を排除する權利を有し、同地内に於て居住に關する必要な條件、並びに借地法を規定することを得べし、而して若し外國人が該地域内に居住せんことを欲するならば、彼はその法律規則に服せざるべからず、如何となれば此の地に居住を選定せし行爲は、これ等の法規に従ふべき事を承諾したるものと認め得べきを以てなり、此の場合土地に關する權利證書は、該借地國政府に登録すべきものにして、自國の領事館に於てなすべきものにあらず。

▲通商港の境界外は不確定 外國商人が開港場外に於て土地を獲得し得るや否やは今尙は未確定なり、その外國商人側の言ふ處に據れば、條約の旅行券に關する條項に従ひ、外國人が通商港外百里（支那）を越えざる距離の旅行に際しては、旅行券を携帯するを要せずとの理由により、かゝ

る權利は既に附與せられたるものなりと主張せり、併しなからかゝる規定は、遊興を目的とする旅行にのみ適用すべきものなり、如何となれば既に吾人が (Kau Chung-tong) 事件に於て見るが如く、かゝる議論は主張し得ざるものなればなり、従つてかゝる土地に於ては、通商の目的に供せらるゝ種々の建築物と同様、其他の家屋もこれを建築する權利を主建すること能はざるなり。

▲其他の土地 他の方面より主張せる處によれば、英國臣民は開港場に於ても、其他の土地に於ても、家屋、倉庫、教會、病院を建て又は墓地を設くることを得べしなる文中「其他の土地」なる語は、この權利の範圍を擴張せるものなりと解せり、然れども英國政府の解釋によれば、この語は單に吳淞沙面等の地を指稱せる外、他の意義に解せず、而してこれ等の土地は各々上海及廣東に近接し、或はこれが出口に相當し、概して開港場を距る數哩の地に位せり。

▲事實上に於ける自由建築 併し乍ら實際上に於てはこの「其他の土地」なる語は、極めて自由に解釋せられたり、而してその結果は他の建築と同様、通商上の建築物も開港場の境域外の甚だしき遠距離の地點に建設せられたり、これが説明をなす爲めに、吾人は九江に於ける牯嶺所有地の例を引用せん、次に千九百三年に於ける同港に關する英國領事の報告を引證すべし。

▲牯嶺所有地 支那の如何なる土地にも匹儔を見る能はざる程に、「近接地」なる語の解釋が擴大せられたるは、この港に於ける一の著しき實例なり、余が此處に參照するは

最近六年間に廬山山上に獲得したる牯嶺所有地、及びこれを圍繞せる多くの土地なり、殆んど一平方哩に近き高地を外國人は幾多の論争の後支那政府より租借したり、而して牯嶺信託局に租借せられたる主なる土地は、今や重要にして價值ある療養地となり、百三十戸の家屋建築せられ、且つ同地に近接せる英米露諸國人が個人的に借用したる土地には、十戸内外の家屋あり、更に前記牯嶺信託局は更に大なる權利を得んが爲めに、既に三ヶ年餘に亘り支那政府と交渉を重ねつゝあり、本年に於てその夏期中或は一時的にこの地に居住したる外人來遊者は五百人より、七百人に及び、又四季を通じて少數の永久的居住をなすものあり、楊子江上三千呎乃至四千呎の山頂、又は森林地に存在するこれ等の療養地より離れたる低地に、英國人の租借したるが如き領事館に於て登録したる一地あり、而してこの外海拔七百乃至千百呎の山麓の丘に沿ふて、數多の家屋の建てられたる六箇の土地あり、此等の土地の中三箇は税關の所有にかゝり、一箇は此地より山上の主要なる所有地に通ずる道路を管理する牯嶺信託局に屬し、アメリカ傳道協會、露西亞人及び某株式會社は各一ヶ所を所有せり。

▲延長六哩乃至六十哩　かくの如く種々なる方法に依り居住の目的に依り、外人の手に歸せる土地は通商港より六哩乃至六十哩の距離に達したり、此の外九江より遠からざる地點に三ヶ所の土地ありて墓地として使用せらる、然れども採炭の目的を以て土地を獲得せんと企てし計畫は、條約違反を來すべしとの理由に依り、その都度支那當局者に依

り拒絕せられたり、現在にありては九江の對岸なる揚子江の北岸に、石油貯重裝置の爲めに、一地を貸與せられたりと雖も、支那は權利證書に調印してこの權利を承認することを拒みたり、而して同問題は江西の巡撫と南京の總督の反對に依り一時中絶せられたり。

内地に於ける手續の規定

▲通商港と同様なること　内地に於ける土地獲得に關しての手續は、外國租界に於けるものと相似たり、併し乍ら傳道團體に對しては、或る特權を附與したり、即ち傳道團體に對し土地を讓渡するものにして、これは決して傳道師其人に附與するものにあらず。

▲千九百三年の對米條約　例へば千九百三年の對米條約第十四條に規定する處次の如し、「支那政府は米國の傳道團體が傳道の目的に依り、全支那帝國内に於て同團體の財産として、建築物若くは土地を永遠に租借又は賃借することを許すべきこと、而して該權利證書が正當に地方官廳に依り調印せられたる後は、傳道團體がその目的たる事業を遂行する爲めに、必要なる建築物を建設することを許可すること」これなり。

▲何等不合理なる障害なきこと　地方住民がこの讓渡に對し反對せざる限り何等妨害となるものなし、例へば千九百六年湘潭の行政官は合衆國福音教會の傳道會社の獲たる土地に關する證書の登録を拒絕したり、これ各種の傳道會社に關する關係が該證書に記入せられざりし爲めなり、かゝ

る行動は不道理なる障害を創始したるものと認められたり、而して此の事件はワシントン政府に申告せられ、國務省はこの問題に關し次の如き論評をなしたり、即ち千九百三年十月八日の條約第十四條中に記されたる條項は、必然的に地方官廳の權利證書の調印に先づ條件として、此等團體の國家的共同的性質の建築物を暗黙に許可せるものなり、故に傳道團體が財産を獲得し、又はこれが所持をなす處の條約上の權利の論證は、權利證書より除かざるべからずとなす、湘潭行政官の奇なる要求は、明かに條約上の權利を無視するものにして、有効なる登録の行爲を無効に歸せしむることゝなるなり、これに關し外務部は通牒を受けたるを以て、行政官は終に次の如き回答をなして曰く、「リンガル師及び合衆國福音教會が墓地として購求したる土地に關しては、この土地に對する證書は「傳道團體」なる語を含まざりき、この理由に依り多少の延引をなしたるなり、然るに余は既に傳道關係者との間に議する處あり、該證書に協會の財産なる語を記入し、今や正當にこれに調印したり、云々と。

▲不當の要求を爲さざる事 更に兩者共に決して他を強制するが如きことあるべからず、又特種の借地權を獲得することが、同地方人の反對する充分の理由あり、或は其處に正當なる交換が不可能なる事實が明白なる時は、傳道協會はかゝる特種の權利を主張する能はざるなり。

▲南京に於ける米人傳道師の問題 千八百九十三年南京在住の米人傳道師は、同市に近接せる丘陵中に避暑地を設け

んことを希望したり、然るに同地の巡撫は彼等が既に數箇の家屋を建設したりと聞くや、その承認を拒みたり、その主張せる處に依れば、「市外に於ける彼等外國人の生命財産は安全ならざるべし、而してそは余り保護の及ぶ限りにあらざるべし」と、而してこの問題の北京政府に照會せらるゝや、同政府も彼の説を援助し、且つ次の如き報告を用いてこれを是認したり、即ち「支那は既に支那内地に於て基督教の弘通及びその教會の建築を認可したるを以て、その傳道者に對し暑熱を避くる爲めに、或る土地に參集するが如き單なる特權を禁ずるは、何等理由なきものゝ如し、故に地方首府の市内と市外とにより、その物情大に相違する事實に、これが眞の理由を見出すべきものなり、傳道師等の避暑地となさんとする山地は、極めて靜寂の地にして、處に在住する住人も稀なり、基督教會の南京に建設せられしより、今日に至る迄未だ曾て傳道師の夏期中この山間に避暑したる例なきを以て、従つて條約の中にも彼等に對しかくの如き認可を與ふる處の條項なし、揚子江流域の峽谷は一般の民心平穩ならず、而かも民衆は常にこれ等傳道師に對し大なる反感を抱き居れり、行政官の保護の下にある教會の所在地たる市内に於てさへ、尙ほ人民の疑心より數々紛擾を醸すことあり、況んや市街地を離れたる山間に於ては、地方官憲は當にかくの如き問題を發見するの困難なるのみならず、これが保護の任に當ることも或は不可能なるべし。

▲千九百十一年の規約 概ね傳道團體の土地所有に關して

は幾多の錯雜せる事實を伴ふものなり、而してかくの如きは現在の狀態の下にありては、缺くべからざるものなれども、これに對し多少なりとも改良の餘地はあるべし、依りてこれ等の紛議を除去するの目的を以て、千九百十一年次の如き規約を設け、支那政府と外國代表者との間に承認を経たり。

(一)土地所有者はその所有の土地を自由に賣却するを得べく、傳道會土地を購求せんとする場合は、決してその所有者を強制すべからず。

(二)傳道會は土地を購買する以前、地方官憲と商議し、彼等をして公に敷地を測量し、且つ記録を確認することを要求すべき事。

(三)購買終了後傳道會は、地方官廳に出願して特許證を求むること。

(四)買收したる財産は傳道會の財産に歸すべきものにしてかゝる所有を記録する帳簿を設くべきこと。

(五)若し購買後再び該土地を支那人に賣却すべき時、これを窃かに外人に譲り渡すことを禁ず。

(六)地方官廳は次の場合に於て、土地を購買することを禁ず。

1. 傳道會の名義を以て土地を購買したるも、これを傳道に供さざる時。
2. 外國商人が取引の目的を以てこれを使用せんとしたる時。

南滿洲に於ける事情

一般に土地獲得に關する規定は、今迄記述せる處なれども、南滿洲に於ては多少異なる規定あり、千九百十五年以前に於ては、外國人の取引及び居住の目的に關しては、全然内地の範疇の下に包含せらるゝものと同一の立場により取扱はれたれども、千九百十五年の對日條約に依り全領土は全く開放せられたり、この條約は勿論脅迫により締結せられたるを以て、日本に許可したる特權は全く例外なり。

▲協約による借地權 日本臣民は協約に依り取引、製造に要する建築物を設くるに、必要な土地又は農業に關する種々の企業を行ふに必要な土地を借地することを許さるこの協約に依る借地權は三十年を越えざる長期借地權を默約し、加之無條件に書き替へをなし得る選擇權を有するものと解せらる。

▲地方官廳の法律を遵守すべきこと この規約は南滿洲全般に適用せらるべきものなれども、その効力の及ばざること甚だ遠し、故にかくの如き特權を附與したる交換としてこれ等の土地所有者は地方警察法を遵奉すべき協約を設けたり、加之彼等は租税に關する種々の問題に關しては、支那の裁判權に服さざるべからざるなり。

所在地法 (Lex Loci Rei Sitae)

吾人は此處に支那の土地に關し適用せらるゝ法律の性質に關し少しく論述せんとす。

▲許諾者の譲渡をなさざる權利に基く法律を適用すべきこと 領土主權が國際上の取引又は居住の目的に供する爲めに、土地を保留し或は又領土内に居住せる外國人、又はその財産に及ぼす支配權を拋棄したりとするも、領土主權は決してその土地に附屬する大權を失ひたるにあらず、如何となれば領土主權はその委任したる事實の如何に拘はらず、該領土の絶體所有者なればなり、而して領土主權はその領土を支配せる權利の一部を譲渡したりと雖も、尙ほ未だ譲渡しをなさざるものを保留すればなり、故に所有地の借地法に關する種々の問題を解決するに當りては、領土主權に保留せられて譲渡をされざる權利に基く法律を適用せざるべからず。

▲千九百十五年の對日協約 法律上の語法を以てすれば、これを土地の位する場所に關する法律として知られたり。千九百十五年の第二對日協約の第二條に規定せる處、次の如し、「土地に關する日支間の複雑なる民事上の問題に就いては、支那法律及び地方の慣習に従ひ、兩國の代表者共同してこれを裁判すべきものなり。」

▲外國不動産説の矛盾 他國に於ける如く、支那に於ても借地はかゝる土地の保有に附帶せる、凡ての權利義務に従ふべきものなり、かるが故に關係外國人の本國法は、この目的に對し適用し能はざるものなり、されば不動産若くは信託法に關する、英國の學説はこれ等の土地に決して適用せられざるものとす、實に若し英國法の適用せられんか、これ法律規定を避くるが爲めトラストを設立するが如きも

のなり、然れば英國の法理學を以て觀るも、亦不法にして且つ無効なりと言はざるべからず。

▲治外法權の本質 ザンデバール事件に於て、英國樞密院の法律委員の言に依れば、領土主權の附與したる治外法權は不可侵の性質を帶ぶるものなり、こは條約國臣民の希望する處にして、且つこれに附與せらるべきものなり、此處に不可侵の性質とは、即ち完全なる人身保護、充分なる司法裁判の確保、及び本國法により附與せらるゝものと等しき自己及び自己の權利承繼人に對する財産の享有等これなり、然るに若し一地が英人に購買せらるゝ瞬間に於て、英國性を帶び、且つ事實英國に附與せられ、他の英領土に團聚せらるゝ場合と等しく、同様の附帶物を伴ふとなさんか、これこの不可侵性を餘りに極端に解するものと云ふべし、而してその隣人が英國臣民たると否とを問はず、事實上にあらざる擬制的地位に依りて生ずる權利義務を有すべしとなす説も亦同じ。

▲裁判權 支那に於ける英國最高裁判所判事ボーン氏に依り、千九百四年天津に開かれたるマクドナルド對アンダーソン事件に於て前述の推論を引用したり、然るにサーフレデリック氏は曰く、「余はこの場合支那法律が適用せらるべきものなりと思惟す、裁判所は英國法を行ふべきものなれども、支那皇帝の領土内に所在せる不動産に關し英國法は果して如何なる効力を有するや、勿論かゝる財産に關する權利は所在地法、即ち支那の法律に依り定むべきものなり、支那臣民に依り所有せらるゝ支那内地に適用せらるべき法

律は久しく、論争の焦點なりき、而してその及ぼす利害關係又甚だ大なるを以て、此の事件に依りかゝる問題の生ぜし以上、前述せる事件（外務大臣對チャーレスス、ピリング會社事件）に於て、英國樞密院の判決の効力に關し、鄙見を述ぶるは當然の事なりと信ず、この事件は類推するところに依れば、二個の前提を構成するが如し、即ち支那法律は支那に於ける事件に關し、支那内地の皇帝の裁判所に依り適用さるべきものとす、而して支那裁判官は支那法

律を管理すべきものなり、更に英國法官の言ふ處に依ればこの所在地法は、支那に於ける所有停止に關し、英國臣人及び支那人間に締結せられたる契約に關する法規を同様に支配すべきものなり、而して又米國の外國裁判管轄區域の下にも、恐らくは同學説の（所在地法）の採用を見るならんとの見見發表せられたり。（The Legal obligations arising out of Treaty Relations Between China and others. by M. T. Z. Yau.）

華新儲蓄銀行事情

新華儲蓄銀行は民國三年十月十一日公布新華儲蓄銀行章程に準據し、財政部に於て中國銀行及交通銀行に命じて組織せしめたるものにて、貯金取扱を主要目的とし、割増金付儲蓄票も發行す、資本金は一百萬元にして、其組織は株式會社なるも、右資金は中國交通兩銀行の合資に係り全部拂込済たり。

其業務は純然たる貯蓄銀行なるが、其資金運用の途は、中國交通兩銀行に對する當座及定期貸付一般に對する六ヶ月以内の國家公債證書等を擔保とする貸付に限る處に、特別の目的を藏するに似たり、則ち同行の設立目的は、國民の預金を吸収して、中國、交通兩銀行に資金を供せんとするにあるものゝ如し、之が爲めに財政部が特に之れを設立

せしめたるなるべきか其成績は明かならざるも、民國六年支那政府の發表せる、民國行政紀要中には、「零細の資金を吸収し得て、成績頗る良好なり」とあり、又民國三年度農商部統計書には其預金額二百萬元と記せり今同行章程を次に掲ぐ。

新華儲蓄銀行章程

（民國三年十月十一日批令）

第一條 本行は財政部に稟准して設立し定名を新華儲蓄銀行と爲し政府の儲蓄銀行條例公布施行を俟つて仍ち儲蓄銀行條例に遵照して辨理す。

第二條 本行資本總額は一百萬元と定め毎株を一百元と爲す。

第三條 本行總行營業地點是北京と定め分行之開設及其地點儲蓄櫃の分布及其の地點は均しく隨時重役會議に於て之を決行す。

第四條 本行は左列各項の預金の取扱ひを爲すを得。

- 一、各種活期儲蓄預金
- 二、各種年金儲蓄預金
- 三、各種定期儲蓄預金

第五條 活期預金は一人一回の預入額銀元一元或は京足銀一兩より少なきを得す。

第六條 各種活期儲蓄の利率は複利の計算法を以てし別に章程を定む。

第七條 各種儲蓄預金の利率は重役會議に於て決議後之を公告す。

第八條 各種儲蓄預金は先づ重役會に於て種類及其辦法表式に付議決後財政部に稟請して其批准後之を公告す。

第九條 各種定期預金は一戸銀元十元或は京足銀十兩を以て限りとす。

第十條 本行は儲蓄預金總額に按し其若干を以て國家の公債證券を購入し所在の中國銀行或は交通銀行の保管に提出して各儲蓄預金の擔保と爲す其成數は財政部に稟請して之を定む。

前項儲蓄預金の總數は半年結算の現存總數を以て之を定む。

第十一條 本行は財政部の委託を受け特別儲蓄事項を取扱ふを得。

第十二條 本行存金の運用左の如し。

一、中國銀行或は交通銀行に活期或は定期の貸付を爲す。

二、低當貸付を爲す但し其期限は六個月を過ぐるを得す其低當品は國家公債證券或は政府發行證券或は政府の擔保證を以て限りと爲す地方公債にして中央政府の認許指定したるものは亦國家公債證券の例に按し取扱ふ。

第十三條 儲蓄銀行は市面の情形に依り第十二條の保管に係る國家公債證券等を以て中國銀行或は交通銀行に暫時抵當として現金を借入ることを得。

第十四條 本行は株主成立會を除く外毎年一月一回常會を開く若し重役二名以上の請求あるときは臨時會を開くを得。

第十五條 取締役監査役の選舉は常會を開きたるとき之行ふへし、但し第一回取締役及監査役の選舉は成立會を開くときに行ふを得。

第十六條 凡そ株主常會及臨時會の議案は均しく株權の多少數を以て之を決す。

第十七條 本行は株主より五名を公舉して取締役と爲し二名を監査役と爲す再び取締役中より一名を公舉して總取締役と爲し二名を副取締役と爲し銀行事務を處理せしむ

第十八條 取締役監査役及總取締役副取締役の公舉方法は均しく得票の多數を以て當選と爲す。

第十九條 取締役及監査役の任期は創立年度を計算せずして均しく滿三年を以て期と爲す但し連舉連任するを得。

第二十條 總取締役副取締役に缺員あるときは取締役中より再ひ之を公擧す取締役及監査役中に缺員あるときは次年度株主常會を開きたる時再ひ之を公擧す。

第二十一條 本行の行務は總取締役之を總理し副取締役之を協助す。

第二十二條 本行は重役會を組織すへし凡そ經費の豫算及純益分配規定及行務の興革各項細章の規定及本章の規定は重役會議に提出して之を評議すへし事項は重役會議多數の議決を以て之を行ふ。

第二十三條 重役會は毎月常會一回を開く前條規定の各事を議決するを除く外總取締役は一ヶ月内の營業狀況を報告す。

總取締役或は取締役二名以上の請求あれば臨時重役會を開くを得。

第二十四條 監査役は隨時各項の帳簿及各種表を檢査するを得若し不合の點あれば之を擧發するを得其重大なるものは即時重役會に報告するを得。

第二十五條 每營業年度終了の時資産負債表及損益表を株主常會に報告すへし監査役は查明籤字して其責任を負ふへし。

第二十六條 總取締役副取締役及監査役の俸給及獎勵規定變更は株主會に於て之を定む。

第二十七條 總取締役及副取締役及監査役は株主會の允許を得るに非ざれば辭職するを得す若し留任し能はざる者は理由を具し株主會を開きたるとき多數議決に於て之

を辭退するを得。

第二十八條 本行株金に分配する純益金には利息を附せず每營業年度終了のとき決算して分配す。

第二十九條 每營業年度終了の時純益總額中少くとも十分の一を提出して公積金と爲し其餘數は株主に分配するを得。

第三十條 本行營業年限は三十個年と爲す但し財政部に稟請して之を延長するを得。

第三十一條 本章程を若し變更するときは株主會の議決を経て財政部に稟准したる後始めて効力を發生し得。

尙又本行は政府の特許を得て、毎年一回割増金付の貯蓄票一百萬枚一千萬元宛を發行する事を得べく、爲に民國三年十月十二日附を以て、新華儲蓄銀行發行儲蓄票章程の發布を見たり、即ち次の如し。

新華儲蓄銀行發行儲蓄票章程

(民國三年十月十二日財政部令)

第一條 本銀行儲蓄票は政府に稟請して特准を受け發行す
第二條 儲蓄票の償還元金及當籤して給獎するは均しく政府之を保證す。

第三條 儲蓄票票面金額は定めて銀圓十圓と爲す一枚を更に十枚に分ち其金額を銀一圓となす。

第四條 儲蓄票發行總額は毎回一百萬と定め即ち百萬枚を一千萬枚に分つ。

第五條 儲蓄票は毎年一回發行す。

第六條 儲蓄票元金償還の期は三年を以て限りとす、其償

還期日は票面に記明す但し正に當籤したる者は即ち憑票して獎を附し別に元金を償還せず。

第七條 儲蓄票に附すべき利息は抽籤給獎を以てし毎年抽籤一回を給與一回に代ふ。

第八條 毎年舉行する抽籤の期日及地點は毎回儲蓄票を發行する時に定め票面に書明す、如何を論せず之を更改するを得ず。

第九條 抽籤の當日は公開し政府より肅政史二名財政部より監理員一名所在地の商務總會より二名を公舉して會同し開籤を監視せしむ。

第十條 毎回發行の儲蓄票は均しく三回に分ちて抽籤し開籤は毎年一回と爲す但し已に當籤したる者には次回再び抽籤せず毎回當籤者は千枚にて即ち五萬枚の金額左の如し。

- 一等十萬元一個(一枚一萬元宛)
- 二等四萬元一個(一枚四千元宛)
- 三等三萬元一個(一枚三千元宛)
- 四等二萬元一個(一枚二千元宛)
- 五等一萬元一個(一枚一千元宛)
- 六等五千元二個(一枚五百元宛)
- 七等二千五百元六個(一枚二百五十元宛)
- 八等一千元三十個(一枚一百元宛)
- 九等五百元六十個(一枚五十元宛)
- 十等二百五十元三百個(一枚二十五元宛)
- 十一等一百元六百個(一枚十元宛)

十二等五十元一千個(一枚五元宛)

第一等獎末尾の三字が相同しきもの九百九十九枚は一枚四十元宛(即ち一枚四元宛)

第二等獎末尾の三字が相同しきもの九百九十九枚は一枚二十元宛(即ち一枚三元宛)

第三等獎末尾の三字が相同しきもの九百九十九枚は一枚二十元宛(即ち一枚二元宛)

計五千枚即ち五萬枚

給獎額五十五萬九千九百十元

第十一條 儲蓄票賣出後凡そ當籤して元金償還するときは票を認めて人を認めず若し遺失等の事故ありとも紛失の届出をするを得ず。

第十二條 本行は儲蓄票に關する資金運用は本行章程を遵照して處理すへし政府は隨時派員をして之を監理す。

第十三條 凡そ儲蓄票中第一二三等當籤者は須く直接北京新華儲蓄銀行より受領すへし五等以下の當籤者は即ち原發行の地に就き新華儲蓄銀行及び中國交通の兩銀行並に各郵便電信局より受領すへし。

第十四條 凡そ當籤者は當籤の日より起算して一年以内に隨時該票を持參して受領すへし期を逾れば受領するを得ずして作廢す。

第十五條 凡そ三回にして未だ當籤せざる儲蓄票は償還の期満ちてより一年内に原發行地の新華儲蓄銀行或は中國交通の兩銀行及各郵便電信局へ該票を持參して元金の拂戻を受くへし期日を逾れば受領するを得ず作廢す。

第十六條 儲蓄票は本行を以て發行總機關と爲す中國交通總分行及各地郵便電信局を以て發行代理機關と爲す總發行所は財政部より監理員一名を派遣して之を監理せしむ代理機關の章程は別に之を定む。

第十七條 凡そ賣出の取扱ひを爲さんと欲する者は均しく總發行所及發行機關に向つて商定すへし之れが章程は別に定む。

第十八條 第一年の抽籤時に達したる時儲蓄票尙賣出額全數に満たざるときは已に賣出號數の儘抽籤を行ひ給獎す仍は本章程第十條に按照して所列各等の全部を給獎す其第二年第三年亦賣出の票號に照して開籤し仍は此法辦理を按照す。

第十九條 本章程を若し増入及修改するときは須く本銀行重役會決議を経て財政部に提出し其認可を受くへし。

右章程に示すか如く、本行は儲蓄票發行の總機關なるが其儲蓄票なるものは、外國等の割増金付債券とは、其趣を異にし、償還期限は僅三ヶ年にして、割増金の外利子を附せず、又割増金に當籤したるものには、元金を支拂はさる制度にして、稍富籤(彩票)に類し、其兩者の折衷せられたるものとなすへきに似たり、而して其元金及割増金の支拂については、政府に於て之れを保證するものとす、儲蓄票賣出により得たる資金は、本行章程に従ひ、運用すべきものなれば、主として中國交通兩銀行への融通にあり、旁以て政府はそれにより兩銀行に迫りて、其政費を得んとする計畫たるは、推するに難からず。

第一回儲蓄票は民國四年十月を以て賣出し、數月内に賣盡し、更に其後四年、五年、六年の三回に抽籤を行ひ、民國七年には規定に基き、當籤以外の儲蓄票の支拂をなすへきの期に達したるも、其後儲蓄票の發行なく、資本なき爲、國務會議の議決、大總統の許可を経て、更に三年間之れを繼續する事とし、七年四月廿五日を第一回とし、八年九年の三回に割増金の抽籤をなし、其後に於て當籤せざるものに元金を拂戻す事とせり。

尙政府の則例を以て決定したる、本銀行の儲蓄種類は、次の如き各種あり、其利率迄も決定したるは一奇と謂ふへし。

第一類 當座預金

此類の預金は儲蓄者の爲めに、小切手を設けて使用せしむるものにして、第一回の預入最少限度を銀一百元、或は京足銀一百兩とし、以後每次預入は最少銀一元、或は京足銀一兩とし其預金總額は制限を加へず、利子二分五厘、毎年六月十二月末に結算す。

第二類 特別當座預金

此類は特別儲蓄者の爲に帳簿を設け、毎回の預入最少限を銀一元或は京足銀一兩となし、其預金總額の限度は銀一千元或は京足銀一千兩とし、帳簿によりて收支するものにして、利息は複利法によりて、二分五厘を附す、毎月一回宛結算し、其毎月付すべき利息は、元金中に繰入れ、翌月一日より利子を附す。

第三類 通知預金

此類の預金は儲蓄者の爲に通知支票を用ひ、預入辦法は第一類に照して之を行ひ、毎回拂出をなす時は、先づ支票を以て本行に差出し、其檢明捺印を得、其後五日に於て該支票により拂出をなすものにして、利子四分とし毎年六月十二月末に結算す。

第四類 甲種定期預金

此類の預金は定期儲蓄者の爲に設くるものにして、凡て定期三ヶ月は利子四分、四ヶ月は四分半、六ヶ月は五分一年は六分にして期に至れば元利共拂戻す。

第五類 乙種定期預金

此類の預金は儲蓄者、毎月利子を受取るの便利あるが爲に設くるものにして、定期一年は利子六分、二年は六分半、三年は七分、月々利子を支拂ひ、期に至れば元金を拂戻す。

第六類 丙種定期預金

此類の預金は、長年の儲蓄の爲に設くるものにして、本行は複利法により年利六分として計算す、若し銀一百元を預入せは次の如し。

一年を期となし期に至り拂戻すへき元利	百六元九分
五年 同上	百三十四元三角九分一厘
十年 同上	百八十八元六角一分一厘
十五年 同上	二百四十二元七角二分六厘
二十年 同上	三百二十六元二角三厘

銀額が多寡年数の長短は此を以て類推す。

第七類 丁種定期預金

此の類の預金は儲蓄者か、毎月元利を取回するを得るの便利ある爲に設くるものにして、本行は複利法に依り六分の利子を附す、若し儲蓄人毎月元利十元を取回せんとせば次の如くすへし。

預入百十六元一分二厘、一年内毎月元利十元宛を取回す。

預入五百二十九元九角〇七厘、五年内毎月元利十元宛を取回す。

銀額が多寡期間の短長之れを以て類推すへし。

第八類 戊種定期預金

此類の預金は儲蓄者か一定年限の後に、毎月元利を取回し得る便利の爲に設くるものにして、本行は複利法により年六分の利子を附す、其計算例次の如し。

一回預入銀元二百五十九元九角八分八厘、五年以後毎月十元宛を支拂ひ三年にして元利共に拂終る。

一回預入銀元三百三十八元三角五分四厘、四年以後、毎月十元宛を支拂ひ、五年にして元利共に拂終る。

一回預入銀元四百三十二元九角七厘、五年以後、毎月十元宛を支拂ひ五年にして元利共に支拂終る。

銀額が多寡期間の長短これにより類推すへし。

第九類 己種定期預金

此類の預金は儲蓄者か、零存整取し得るか爲に設くるものにして、本行は複利法により利子六分を附す、計算例次の如し。

毎月銀一元宛を預金するものとす。

一年の期満つれば元利合計

十二元三角三分

二年同上

二十五元二角九分一厘

三年同上

三十八元九角一分五厘

四年同上

五十三元二角三分六厘

五年同上

六十八元六角八分九厘

六年同上

八十四元一角一分三厘

七年同上

百元七角四分六厘

八年同上

百十八元二角三分一厘

九年同上

百三十六元六角一分

十年同上

百五十五元九角二分九厘

十一年同上

百七十六元二角三分七厘

十二年同上

百九十七元五角八分三厘

十三年同上

二百二十元二分二厘

十四年同上

二百四十三元六角九厘

十五年同上

二百六十八元四角二厘

十六年同上

二百九十四元四角六分四厘

十七年同上

三百二十一元八角六分

十八年同上

三百五十元六角五分七厘

十九年同上

三百八十九元九角二分七厘

二十年同上

四百十二元七角四分八厘

第十類 庚種定期預金

此類の預金は儲蓄者か、修學婚姻及養老等の豫備となさんか爲に、設くるものにして、其辦法乙種と同じく其例次の如し。

毎月預入銀七元三角二分三厘 滿五年にして元利五百元

毎月預入銀三元二角七厘

滿十年同上

毎月預入銀一元八角六分三厘

滿十五年同上

毎月預入銀一元二角一分一厘

滿二十年同上

毎月預入銀八十五元八角八分三厘

滿五年同上

毎月預入銀三十七元六角一分三厘

滿十年同上

毎月預入銀二十一元八角五分一厘

滿十五年同上

毎月預入銀十四元二角一分

滿二十年同上

第十一類 辛種定期預金

此類の預金は學校醫院の基本金、各種撫卹金、獎學金、其他の各項慈善事業の爲に、儲蓄せんとする爲めに設くるものにして、本行は利子亦特別高歩に之れを附し、一年は年七分、二年は七分半、三年は八分、四年は八分半、五年以上は九分とし、期に至れば元利共支拂ふ。

後民國七年に至り先の章程中改訂を要する箇所ありて、新株募集規則と共に、原定規則に改訂を加へ、同年一月二十六日附を以て、財政總長王克敏氏より大總統に之か准許を呈請せり、即ち該株募集章程及改修章程を示せば左の如し。

新華儲蓄銀行新株募集章程

第一條 本銀行の定額資本を通用銀元一百萬元となし分ちて一萬株とし一株一百元とす。

第二條 本銀行株銀を二期に分ちて拂込み應募の際先づ五割を納め殘金は董事會の決議を俟て株券と引換へに之を拂込むものとす。

第三條 本銀行株券は記名式とし本國人を以て限りとす。

第四條 本銀行株券は官利年六厘とし毎年帳簿締切 株主證據券と引換へて之を支拂ふ。

第五條 本銀行株券は民國七年七月一日より起算す。

凡て期に先ちて株金を拂込むものは其日數に按して官息を其内より控除すへし。

第六條 本銀行毎年決算に於て得たる所の利益は其十分の一以上を控除して公積金とし其餘を株主配當及行員獎勵金に分配し均しく董事會の決議により之を行ふへし。

第七條 本銀行資本は中國交通兩銀行持株五千株を除くの外其の五千株は別に募集して之を満たし均しく一律に本行章程に照して株主の權利を享有す。

第八條 凡て株券の轉賣讓與は本銀行臺帳に登録するを要す。

第九條 株券か若し抵當の情事に因りて紛擾を發生したる時は本銀行は株券面所載或は本行に登録の株主を以て證據となす。

第十條 株券若し遺失したる時は本人より保證人の署名捺印せる届書を本銀行に提出すると同時に一面當地二種以上の新聞紙上に遺失廣告をなすへし、廣告の日より三ヶ月以内に問題起らざる時は新株券の換給を得へし。

新華儲蓄銀行修正章程

第一條 本銀行は儲蓄を提倡し兼ねて商業を營むを以て宗旨となし定名を新華儲蓄銀行股份有限公司と云ふ。

第二條 本銀行は股份有限公司の組織に遵據し資本總額を定めて通用銀元一百萬元とし分ちて一萬株、一株銀元一

百元とす、株券は概ね記名式を用ひ株主は本國人を以て限りとなす。

第三條 本銀行總行の營業地點を定めて北京となし分行の開設及其地點儲蓄櫃の分布及其地點は均しく隨時董事會の議決により財政部の許可を呈請すへし。

第四條 本銀行の營業種類左の如し。

- 一、各種當座儲蓄預金
 - 二、各種定期儲蓄預金
 - 三、各種年金儲蓄預金
 - 四、各種爲替
 - 五、爲替割引及抵當貸付
 - 六、有價證券の賣買
 - 七、貨幣金銀の兌換
 - 八、各司、銀行、商家手形及現銀の代理取立
- 第五條 本銀行は政府の委託を受け特別儲蓄事項を辦理することを得。

第六條 本銀行に董事七人以上十一人以下を設け董事會を組織す其章程は別に之を定む。

第七條 本銀行株主は一百株以上を有するに非らされは董事に選舉せらるゝを得ず董事の任期は三年を期限となし期満ちて連選連任することを得。

第八條 董事中一人を公推して總經理となし一人を副經理となし常に辦事所に在て有ゆる行中の事務を行ひ均しく完全の責任を負ふ。

第九條 本銀行に監察人二人を設け五十株以上の株主より

選ひて之に充つ其職權は別に規定を定む、任期は一年とし選舉連任することを得。

第十條 總經理副經理に缺員ありたる時は董事中より再び之を公推す一董事及び監察人に缺員ありたるときは候補董事及監察人より得點順にて之を補ふ。

第十一條 本銀行株主常年會及臨時會は董事會より召集し常年會の會期は毎年三月に之を行ふ可し。

株主が資本總額の三分の二以上を占有し會議に提出する事項を有し開會を請求せる時は董事は直ちに全體株主臨時會を召集し一ヶ月前に新聞公告を爲すを要す。

第十二條 株主會は十株毎に一議決權を有し百株以上は二十五株毎に一議決權を加ふ。

第十三條 本銀行は董事を以て董事會を組織す、凡て經費の豫算、決算、純益の配當規定分配及行務の興業事項は均しく董事會の多數議決により之を行ふ。

第十四條 董事會は毎月常會一回を開き前條規定の各事を議決する以外に總經理は一ヶ月内に營業狀況を會報に依りて之を告ぐへし。

總經理或は董事三人以上の請求あれば臨時董事會を開くことを得。

第十五條 監察人は各種帳簿に對し隨時検査すへし。

第十六條 每營業年度終了せる時は株主常會に於て之を報告し資産負債表及損益表は監察人之を検査し其責任を負ひ並に財産部に呈送して其検査及許可を受くへし。

第十七條 本銀行毎年帳簿締切の時は預金總額の四分の一を現銀或は公債券にて其の近くの中國交通兩銀行或は其他確實なる銀行に預入れて以て儲蓄預金還付の擔保となす。

第十八條 本銀行毎年帳簿締切に得る利益は其十分の一以上を控除して公積金となさる可からず。

第十九條 本銀行營業年限を定めて三十年とす、但し株主會の議決を経て財政部に之か延長を呈請することを得。

第二十一條 本章程に未だ盡さる事項は銀行則例及公司條例股份有限公司の規定を遵用す。

第二十一條 本章程に若し變更を要する時は株主會の議決を経て財政部の許可を呈請して施行すへし。

而して現在の組織は方仁元總理たり、賀順副總理たり、程良楷、胡憲徵查帳員たり、北京本店の外天津に分行を設く。

營業成績

同行民國六年度決算報告は次の如くにして、當座預金計三百五十萬餘元、定期預金六十七萬八千餘元、暫時預金四十二萬餘元、合計四百六十餘萬元なり、兎に角相當の成績を挙げ居れり、其詳細次の如し。

資產負債表

借方

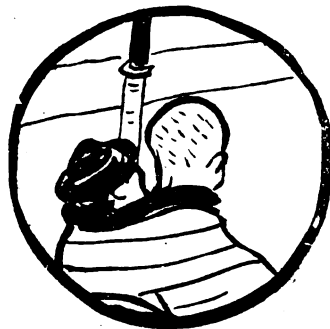
資本總額	一、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇
當座預金	三、五〇五、六七六、四四九
定期預金	六七八、〇五七、八二六
暫時預金	四二〇、二九四、二三〇

存出金透支	來支滙款	積立金	特別積立金	本年純益	計	貸方	存出資本	定期貸金	定期抵貸付金	存出金	取引預金透支	暫時借入金	開辦費	營業用土地家屋	營業用器具	有價證券	他店勘定	現金	總計	損益表	利息	兌換損益	爲替料
-------	------	-----	-------	------	---	----	------	------	--------	-----	--------	-------	-----	---------	-------	------	------	----	----	-----	----	------	-----

一六八、一四四、五九七	八八一、五〇〇	五一、〇〇〇、〇〇〇	一七、〇〇〇、〇〇〇	二一五、六七九、五四七	六、〇五六、七三四、一七六		八五〇、〇〇〇、〇〇〇	一、三六五、二八五、七一二	七七二、五二二、四一九	一、五五六、九三九、七七六	一二二、一九九、一四五	四六、五一四、七五〇	二三、七一五、六八〇	八四、九六〇、五六二	三、七〇一、一五八	四八七、七五三、九七八	五九、七二七、一〇八	三〇三、四一三、八八八	六、〇五六、七三四、一七六			四六、五一五、〇〇〇	九八、五三七、〇〇〇	一、四〇八、〇〇〇
-------------	---------	------------	------------	-------------	---------------	--	-------------	---------------	-------------	---------------	-------------	------------	------------	------------	-----------	-------------	------------	-------------	---------------	--	--	------------	------------	-----------

手數料	割引料	前期損益	合計	損失	各項支出	開辦費分擔	營業用土地家屋分擔	本年純利	合計
-----	-----	------	----	----	------	-------	-----------	------	----

二、三二九、〇〇〇	二五、〇〇〇	九七、八五七、〇〇〇	二四六、六七三、〇〇〇	二九、四〇一、〇〇〇	四〇八、〇〇〇	一、〇九八、〇〇〇	二一五、六七九、〇〇〇	二四六、六七三、〇〇〇	
-----------	--------	------------	-------------	------------	---------	-----------	-------------	-------------	--





保晉鑛務公司事情 (一)

保晉公司の成立情況

前清光緒二十四年山西巡撫は商務局に命じて、英商福公司と借款章程二十箇條を締結せしめ、而して潞澤、平孟、平陽府の各鑛山を舉げて、福公司の開採權に統歸せしめたり、庚子後正太鐵道の平潭に達せんとするや、福公司是急遽人を山西に派遣して、各鑛山を踏査し、且つ英國公使に請ひ外交部に照會して曰く、前締約章程に基き、凡て潞澤、平孟、平陽府の各鑛山は、他人の探掘を許さず、並に土人所開の各洞は悉く封閉すべしと、是に於て羣情憤激し一面には福公司与交渉し、一面には保晉鑛務公司を設立し、全省の各種鑛産を開採することに議定するや、時を移さず、光緒三十三年春農工商部に向て、該公司設立認可を申請せり、即ち本年十二月迄二百七十五萬元を福公司に提供し、

潞澤、以て平孟、平陽の各鑛産を買收し、全然自國人經營と爲し、別に契約を締結して、彼此遵守すべしと云ふにありしが、福公司是勢の止むなきを知り、遂に其要求に應ぜし結果は、茲に保晉公司の完全成立を見たり、左に鑛産買収契約十三個條を列舉すべし。

・ 贖 礦 合 同

第一條 現在山西商務局は福公司与商議す、商務局は晉省に款を備へて、福公司与前定せし所の開鑛、製鐵、轉運に關する正續各章程合同を贖回して廢と作すことを願ふ、今會議の後福公司是晉省の甚しく本省鑛務を自辦するを願ふの至意を體諒し、其詳細の借況に按して、晉省の前後議定せし所の開鑛、製鐵、轉運に關する正續各章程合同を晉省に由り購回自辦するを允すべし、以て友誼を敦し和平を維す。

第二條 贖款は行平化資銀二百七十五萬兩と計上し、山西商務局に由りて擔任し期を按して交清す。

第三條 此項の贖款數目は晉省の擔任する所に係る、福公司の之を收納して福公司原訂の合同内に索むべき款銀、並に各項損失する所の利益を賠償する者と認む、福公司の他省に在りて別に經營ある者に至ては、晉省と毫も干渉なし。

第四條 此項の贖款は光緒三十四年正月二十日に於て先づ一半を交付すること、定め、之を第一回支拂と爲す、其餘の款は光緒三十五年、三十六年、三十七年の三期に攤還し、毎期は華四月一日に交付することを定む。

第五條 贖款は行平化資銀に按して計算し、決して割引せず、其山西より北京に至る爲替費は、先づ一時立替金に對する利息に倣ひ、晉省は之を承認して畝捐に由て攤還す。

第六條 此案は原と商務局が山西巡撫の批准を奉じ、復た前總理衙門の奏准を経て、現に晉省は款を備へて贖回せるに由り、此項の合同は廢紙と爲る、外交部に請ひ山西巡撫に咨照し、商務局を督飭して期に照し贖款を交付せしむべし、稍や拖欠あるを許さず、必ず合同を遵照して辦理すべし。

第七條 晉省礦務は既に收回自辦に係る、福公司是所有の開礦、製鐵、轉運に關する正續各章程合同の權を以て、一概に退還す、晉省は絶て洋款を借るの意なし唯此次福公司是既に所有利益を退回せるを以て、將來晉省の礦務

製鐵、轉運等の事に因り、萬一外款を籌借することあり、晉省より福公司に通告して、果して廉借するを得ば、再び籌議を行ふも、否らずば他より借款するも各異言なるべし。

第八條 此合同簽字の日より起り、三月の内に於て、福公司是平定州に在る所有廠房一切を交出し、且つ其所有機器等を山西商務局に交與すべし。

第九條 其原定合同に開列する五處は、福公司是其既購の財産を以て一概に退還して、再び執て業と爲すを得ず。

第十條 福公司所聘の人は、工程師或は他役員に論なく、此に因て其事業を失ひ、以て生計を營むを得ずして、福公司向て賠款を要求する者あれば、福公司是自ら擔任を行ふべし。

第十一條 此項の贖款は商務局に由り、先に籌備を行ふ、晉省の畝捐的款項下より毎年撥用す、礦産は晉省の公共産業に係る、畝捐も亦晉省の公共辦理すべき、全省公益に係る款なるが故に、此款を以て本省の礦産を贖回すべし、唯此贖款の還請せざる以前に在て、畝捐を稍や更改し、或は其數を減免するを得ず、若し畝捐にして此用に足らざれば、晉省大吏に於て、更に隨時他款を提出して其不足を補ふべし。

第十二條 原合同議定の章程二十條は、既に前總理衙門の批准を爲す、今此事を結了する合同も、亦外務部の批准を経、並に大英國使臣の允認を得、以て彼此其本國の人か一切を遵守するを保せしむべし。

執て憑と爲す。
を以て兩分を繕具し、各一分を

募株の情況及數目

該公司創設の時に當り、畝捐銀五萬兩を以て創設費と爲し、次年又十五萬兩を領し、前後合計二十萬兩の畝捐銀を領收せり、此款に據りて稍や創設事務を整備したる觀ありき、光緒三十四年公司より撫藩各憲に向ひ、其所屬區に命じて、鑛株を勸集せんことを稟請せり、即ち紳商學社の四大綱に分ち、而して大縣は三萬兩、中縣は一萬五千兩、小縣は一萬二千兩と預定し、別に平遠、大谷、榆次、祁縣の四區より、特別負擔額を提出せしむること、定め、向三ヶ月を限り一律に其報告を完成せしむ、復た吏員を各所屬區に派遣して督促したる結果、前後收得したる株金一百六十九萬餘兩に達せり、此外に本省官憲の引受額五萬餘兩、各省の補助株約十八萬ありて、其實收株金額は約一百九十三萬餘兩に上れり、茲に該公司の歷年收得せる株金數目を舉ぐれば左の如し。

光緒三十二年	五〇、〇〇〇、〇〇
同 三十三年	一五〇、〇〇〇、〇〇
同 三十四年	六一一、七〇九、七九
宣統 元年	一、〇一二、二九二、八六
同 二年	七〇、二九二、九五
同 三年	三二、四八三、一〇
民國 元年	—

同 二年	二七、九〇
同 三年	一二、〇〇〇、〇〇
同 四年	—
合計	一、九三八、八〇六、六〇

組織狀況附職員錄及每月支出表

該公司の成立當時は總局を省垣海子邊に設けたるが、現に執務上便利の見地よりして、平定、陽泉驛に遷移したり、其組織は左の如し。

總公司	總理	崔延獻(壽陽)	協理	曾紀綱(陽曲)
總稽核	王 驥(壽陽)	文書課長	韓 炯(洪洞)	
會計課長	閻天祿(祁縣)	庶務課長	梁恩濟(崞縣)	
課 員	陳祖猷(河南)	課 員	薛仰清(安邑)	
同	李世勛(祁縣)	同	溫其傑(祁縣)	
同	梁國寶(祁縣)			
平定分公司(陽泉驛に設く)	經理	劉振采(平定)	技 師	武盡傑(霍縣)
技 師	王 憲(寧武)	測量員	侯德旺(文水)	
測量員	陳永清(臨汾)			
大同分公司(千金峪鑛廠に設く)	經理	王祥麟(太平)	技 師	賽夫耳(獨人)
壽陽分公司(榮家溝に設く)	經理	張鍾河(平度)		
晉城分公司(五里舖に設く)				

經理 崔秀峯(太平)
石莊賣炭分公司(石莊驛内に設く)
經理 黃守淵(平定)
保定賣炭分公司(保定驛内に設く)
經理 袁英(祁縣)
北京賣炭分公司(西河沿に設く)
經理 宋啓聰(介休)
天津賣炭分公司(天津に設く)
經理 王世思(祁縣)
上海賣炭分公司(虹口に設く)

經理 郝本仁(平遙)
塘沽賣炭分公司(塘沽に設く)
經理 韓崇禮(文水)
每月支出表(本年十月分支出表)

俸給 三、〇二一、八〇
工費 九、七一六、六五
材料 一、一三五、八五
雜費 一、六八二、〇六
合計 一五、五五六、三六

(山西財政廳礦務技師員耿步蟾調査)

支那と列強との關係 (一)

吾人は曩に西洋諸國の各宗派の宣教師の渡來により、支那及其國人に及ぼせる影響に關し、多少詳細に記述したるを以て、こゝには支那が西洋諸國との交通により、その政治及社會的歴史の上に及ぼせる善惡兩方面の影響、及びこの東西交通により、刺戟せられたる夫の不變動の東洋に於て生じたる種々なる變化に關し、考察せんと欲す。

現時の革命に關しては、勿論研究を怠るべからずと雖、未だ之を歴史の一事象として見るに足らず。そは時代の一記錄、又は此度の革命以前に於ける幾多の變革に密接なる關係を有する一現象にして、建設時代に於ける單なる過程

に過ぎざればなり。

旅行家探險者國家の代表者及び文書の交換等に依り行はれたる東西兩洋の、更に嚴密に言はゞ「西洋及び東洋」の初期の交通に關し記錄の傳ふる所によれば、次の如き結論を得べし。即ち當時の交通接觸に依り、蒙りたる感化影響はかの自足的の東洋より、變轉に富める西洋の方遙かに多大なりし事これなり。

かの東西兩洋の友誼を厚ふし、商業上の利益を増進するに力ある西洋文明、貿易上の利便、其他精巧なる武器等に依りて、支那は歐洲列強の存在を認めしにはあらずして、

西洋の進歩發達は單に歐洲の主權の尊嚴に關し、(西洋に於ては未開國の内にもこれあり)何等かの理解を與へ、以て支那の爲政者を満足せしめたるに過ぎざりき。

西洋諸國が、支那の資源、及び實力の程度、其強弱、その文明、及び智識の程度、外國人に對する懇切なる待遇、或は懷疑的の排他心等の種々なる感情に關し充分なる觀察を遂ぐるに至りしには、其だ長年月を要したり。然しながら、又支那が模倣し、又取り入るゝに足れる西洋文明の特色及種々なる本質的の利益を知る爲には、更らに長くの時日を経過し來り。而して、今や巨人は其長き眠りよりさめ常感の色をなして、その古き衣を脱ぎ、不似合なる新しき衣裳をつけつゝあり、而してその不似合なるは、極めて性急に織られ、且つ仕立てられたるものなればなり。

最初の交通

扱て西洋紀元に表はれたる最初の公式の交通は、即ち西歷百六十六年マールカス、アントニウス帝の、東漢の元帝に對し、慰問使を送りたる事之なり。而して支那人の著書によれば、これをもつてかの屬國の臣民がその外藩の君主に對する場合の如き、朝貢使なりと記述せられたり。羅馬の史家は、之に反して記述して曰く、シーハ人印度人の來るや、恰も臣下が畏懼と尊敬とをもつてするが如く、ローマ帝に拜謁し、携え來りし象、鐵砲、植物を貢物として獻じたりと。然りと雖も、かくの如き説は、固より餘り信を置くに足らざるものなり。

これより約百五十年の後、各種の交通が、支那の邊陲の地と、西洋の東方に位する各地との間に、行はれたり。これは單に支那に對して大なる恩惠を齎したるのみならず、幾多の時代を経過して、次第に支那と西洋諸國との間に、圓滑なる通商交易を促す、主なる刺戟となるに至れり。一般に證言せらるゝが如く、茶は支那の國產にあらず。その成育、培養につきては、第四世紀の中葉乃至初期より遠く溯りてその由來を尋ぬる事能はずと雖、或書によれば、これよりやゝ早き頃シセテ人および者の、毎年シーネ(支那)の國境に來り、マラバstromとシーネの貨物と交易したりと而してこのマラバstromは、恐らく茶の意味なるべし。これ等の人々は、アッサム及び雲南地方の山地より來りしものにして、同地方は最近に至る迄野生の茶繁茂し居たり。

アラビヤ商人

吾人が有する最初の信すべき談話者にして、西歷八百五十年及び八百七十七年の兩度支那に渡來したる、かの二人のアラビヤ人旅行者の語る處によれば、唐代に於ては、已に茶が一般に使用されつゝありしとなり。更に該旅行者の言によれば、夫のユスチニアン帝(西歷四八二—五六五)の時代より彼等の旅行したる頃まで、西洋諸國と支那との間に、極めて盛んなる商業取引行はれたるが如し。而してこのユスチニアン帝の治世に、ひそかに蠶種を支那より輸入し數多の商人アラビヤ人、猶太人、基督教徒、ぞろあすた教徒がガンフに蟄集したりとは、アラブセツドの記述す

るところなり。

カンフは從來マルコボロがカンフと稱したる支那の港杭州と、同一なりとせられしが、こは恐らく、は當時廣州或は廣府として知られたる廣東を指したるものなるべし。

アブセッドの言ふ處によればカンフに於ける十二萬人を下らざる外國探檢者、及商人は、九世紀の終期に於て、全く絶滅したり、かの壯麗なる杭州の都は、マルコボロ（西歴一二七五——一二九二）時代に於ける商業及政治の中心地にして、錢塘江の沿岸に位し、漏斗狀をなせる河口を距る約四十哩の地にして、かの大潮の入口に當り、所謂「支那の門戸」たる舟山列島を距ること、百哩乃至百三十哩の地に在り。最も古く貿易の港として、内外人に認められたる歴史上の事實よりするも、又第一回の阿片戦争の終局後開港場として選ばれたる最初の港たる事實より觀察するも、この杭州は、何物か商業的接觸の上に有利なるものなからざるべからざるなり。而して近年に至りこの地を重視せざる理由は、即ち海洋通ひの船舶の唯一の通路たるこの河に、かの大潮の超る畏あればなり。而して又此事實は、淺州等の幾多の妨害の爲非常なる危険を有する海灣に、接近せる港に、如何にして、かくの如き歴史を有したりしやを、疑ふ理由ともなるなり。

かの上海の外港たる吳淞に於ける大潮の際外國船が侵入を防ぐ目的或は超自然的の守備となれる支那人の所謂天塹（揚子江）は今や全く除去せらるゝに至れり。

然れども杭州の大潮は、更に恐るべき障害にして、現今

は上海に通ずる大なる運河を設けて、これに依り貿易を營み居れり。

歐洲使節の去來

中古に於ける商業上の接觸に對する、種々なるころみは、吾人をして西洋諸國が、極東の強國の威名に畏れ代表者を派して種々の請願書又は幾多の贈物（支那人は町重なる贈物と云ふよりむしろ貢物なりと解釋したり）を獻じ只管、通商互市を請へる或る繪畫的場面を想像せしむ。然るに、支那は外國に對して、使節を遣はさず、又外界の未開國人に何等干涉することなく、彼等の權力を恐れず、又彼等に對し領土的野心も有せざりき。何となれば、主權者が其家臣に對し、如何で攻撃的行爲を爲すを得んやてふ、考を有したればなり。この長き歴史は、光明と暗黒とに依り交互に班點を印されたり。光明の期間は比較的長期のものにして、夫の門戸開放、通商、居住の自由、又マルコボロ時代に於ける如き汗國より得たる種々なる恩惠、西歴千五百十六年、千五百十七年又は其後使節を送りたる時、葡萄牙人に與へたる貿易上の特許條は、即ちこの光明時代の事に屬す。

臺灣が和蘭人に依り領有せられたりし頃、一時同地に居留地を認可したり。然れども幾多の擾亂と、暗黒はこの美しき繪畫の上を去來したり、即ち是等外國人は、懷疑心深く反逆心に富む支那人により、虐殺せられ、又は外人の罪科を見て暴行を加ふる事屢々なりき。

葡萄牙人は、千五百二十一年及千五百八十七年に寧波に商館を建てり。而してこれは表面抗議を受けたることなし、而して其痕跡と史蹟は、西歷千七百五十九年の英國商館に於けるが如く、今も尙はこの都市に残存せり。著者は寧波の南方の海岸にその跡を見たり。同地には多くの葡萄牙人埋葬せられたり。こは、西歷千五百八十七年に非基督教的行爲をなしたる爲に慘殺されたる、一萬二千人の基督教徒の一部なり。

更に古に於て獨り露西亞人は（恐らくは其國の接近せるが爲ならんか）早くより使節を送り支那に説いて、屬國又は臣下としてにあらずして、同等に交を結ばん事を請ひたり。然れども夫の西歷千七百十九年ピーター大帝より派遣せられたる露西亞使節イスメイロフ氏さへ、尙は支那皇帝の前に禮拜するの屈從を敢てし、且つもしも支那が露國に使節を送りたる場合は、露國の慣習に従ひ行動すべしとの、曖昧なる妥協をなすに過ぎざりき。

支那の門戸を開放せんと努力したる英國の計畫は（西歷千五百九十六年エリザベス女王が使臣をして支那皇帝に送る親書を携へしめし頃より、又西歷千六百三十七年ワッデルが或る權力の後援に依りて、廣東の城廓に英國々旗を掲揚したる時より、單なる私人的の企圖にはあらざりき）他の如何なる西洋諸國の行動より、廣大にして、繼續的の効果を及ぼしたり。ワッデル氏の支那訪問より夫の悲しむべき阿片問題、西歷千八百四十年の戦争の最高頂に至る迄の二百年間の歴史は、實に暗黒と陰鬱を以て記されたるもの

なり。而して讀者はこれに依り。この長年月に亘れる事件に關し、兩者の批評に、甲乙を附することの困難なるを悟るに至らん。公平を愛好する史家が、非難の大部分を基督教國就中英國の行爲に、歸せしむるはその常例なり。然しながら、夫の過失による不慮の殺人行爲を、通常の殺人罪と同一に論じ、又一の生命を絶ちたる時は、其行爲の如何を問はず且何等の審問も行はずして、直ちに加害者の生命を奪ふが如き、又支那に於ける有名な詩人蘇東坡の言の如き、未開人は、例へば獸類に等しくこれを治むるには、かの古代の君主が採りたる如き「不治」(Non-ride)をもつて治むべしとなす説の行はるゝ國狀を觀れば、吾人如何に悲しむと雖も、かの西洋に於て、復讐心を緩和すと稱せらるゝ正義寛恕の様式を備へざるは深く怪しむに足らざるなり。

歴史を批評する場合に、次の事情は充分記憶し置かざるべからず。即ち支那の外國使節歡迎、及び好意的態度（主權の尊大なる態度に依り如何に不純になりとは言へ）は、外國に對する排他的態度、及び敵對的政策より以前に採られたる、對外政策なりき。而してこの排他政策は必ず相手方の錯誤、腕力的行動、及び傲慢なる態度に對してのみ、表示せらるゝものなり。

支那政府又は其官吏が、阿片の印度支那貿易に對してなせる抗議、請願に、耳を傾け且つその威赫又は陰謀を容認したる行爲は、外國との交際、貿易（これ多くの人々の認めて東印度商會、及びこの商會の保護を蒙り英國政府の大な

る後援を有する、商人の拒絶を正當なりとなしたり）に對する明白なる敵意なりき。これ等商人及英國政府は、長年月支那人のこの貿易を非難せる道德的動機を信ぜざりき。そは單に直の動機を掩けたる虛托に過ぎずして、實は凡ての外國貿易の禁止を意味したりしなり。

扱て少しく前に遡りて論せんに、支那の物情は急速に惡より惡に變他し行きぬ。貿易に對して何等一定せる政策なく一般に認められたる關稅制度も外國人と内國人との交通に必要な一定の通貨制度もなかりしを以て、密賣買の如きは、何等異とするに足らず。東洋及西洋諸國の國家的信用は、全く危機に陥りたり。

遂に英國政府は覺醒して、この危險を自覺し之が改良を計り、出來得べくば、この葛藤の原因を除去して、英支兩國間に通商の安全なる地歩を確立せん事に努めたり。こゝに於てか、西歷千七百八十八年カスカルト大佐を使節として北京に送りしが、不幸その途上スンダ海峽にて死去したり。依りて千七百九十三年マカートニー卿は軍艦に警護され、隨員を從へ、支那皇帝に獻ぐる種々の供物を持し、成功を豫期してチエホルに到着したり。然り而して、事實は期待したる如く懇篤なる歡迎を受けたり。而して先づ第一の要求たる臣下たるを示す平伏の禮は、廢せられたり。

支那人のこの賓客を遇するや、實に豪奢を極めたるものなりき。マカートニー卿は支那政府の許可を得て、北京より内地を経て廣東に到りぬ。

今やその文明及その偉大なる點に關する支那帝國が眞相

を掩ひたりし幔は取り去られたり、而して支那は、又將來其代表者を送りたる場合に英國が如何にこれに對し町重に禮遇するやを以前より更らに明らかに悟りぬ。然れども、支那は未だこれをもつて、かの屬國がその外藩の宮廷に對し獻ぐる最も壯大なる頌德表なりとの觀念を去らんとはせざるのみならず、又夫の通商條約に對し煩はしき政策を變更する事なかりき。

更らに西歷千八百十六年アムハースト卿は、マカートニー卿と同じく印度總督たりし時、使節の長として北京を訪ひ、兩國の友誼を表す種々なる供物等を獻じたりしが先のマカートニー卿より更らに著しき失敗に終りたり。即ち彼は屬國の使節たる事を肯せざりし故に、皇帝に謁見する事をすら拒絶せられたり。尤も南方に於ける待遇は、多少町重にして、英國の偉大とその眞摯なる點を充分認めたるが如く見えたりしが、これとて何等實質的利益を齎らざりき。(Chinese People, by Dr. Moule)より



支那に於る英吉利人と獨逸人

(六)

(完結)

デツニス、ケー、モツス

四、戦後は如何 (結論)

戦後敵國民に對し吾が香港植民地に於て如何なる程度まで通商上の便宜を許容すべきかに就きて速かに其の確固たる政策を定むるは、吾が香港政府の最も重大なる責務なりとす。

彼等敵國民が戦前に於けると同様再び香港に來りて、彼等の所謂「香港を繁榮ならしむる」事業に従事することは果して認許せらるべきものなるや、若くは彼等敵人は何等かの方法によりて制限を受け、其將來の行動に關して嚴重なる監視を受くべきものなるや、熱帶及び半熱帶地方の英國領内に斯くも廣大なる獨逸植民地（香港）の發生を許容するの危険なるは自明の理にして、之を力説するが如きは殆んど無用の業に屬す。

英蘭に於る敵國人は實に困難なる問題の提供者にして、吾人は之に就きて一言なきを得ず。彼等外人は英蘭に渡來後、二、三代間に英國人の社會に同化し、斯くて彼等自國の國籍を喪失せるなり。有色人種に比して白色人種の數少き印度又は其他の英國屬領地に於ては、前記の事項に就きては英蘭とは事情自ら異なるものあり。事實の示す所に由れば

英蘭在住の獨逸系統の者は決して真正の英國人となりたるものに非ずして、其の言語に於て、其の精神に於て、將た又其の性格に於て依然として根本的に獨逸人其者なりき。

香港植民地に來れる獨逸人の多數が善人なりしことは既に述べたる所なるが、若し彼等獨人にして開戦後に於てルシタニヤ號沈没の如き事件に對して快哉を叫ぶが如き露骨なる本性を現はすことなかりしならんには、戦後と雖も、吾人は彼等獨人を俟つに吾が友朋と爲すに躊躇せざるべし。支那の諸開市場に於る獨逸人は前記の如き吾が不祥事件に對して物々しき喝采を浴びせかけたり。抑も戦争勃發の當初よりして獨逸人の犯せる戦時罪惡に對しては、在支獨逸人は一言半句の批議をすら敢てするものなかりき。單に如上に述べたる理由を以てするも、戦後再び吾人は彼等獨逸人に對して吾人と相交るを許容すべき理由を發見するに苦むものなり。

Mr. Ainscough が其のマンチエスターに於る近時の演説に於て、在支獨逸商館を鼓舞せる愛國的精神の強烈なるものあるを説明せるも、吾人の香港に於る獨逸商館を清算せる經驗によりて之を判すれば、在支獨人の愛國心なるものに就きては不幸未だ釋然たる能はざるものあるを遺憾とな

す。遮莫、將來再び吾が香港植民地に於て何等の制限を設くることなく獨逸人の歸來を許容するが如きは吾人の無智を表明するものにして、大に考慮を要する緊切問題なりとす。吾が香港植民地に於て吾人が其の渡來を希望する外人は、時局重大の場合に於ても、吾が英國に對して力の一資源を供給する底の人物なりとす。吾人の商業的優勝の地位を陰謀を以て覆さんとし、或は土着支那人を誘ひて吾人に反抗せしむるが如き者は到底香港植民地の要求する所の人士に非るなり。否、吾人の豊富なる實驗により按ずるに、中歐帝國國民に對して、從前同様の待遇を附與するが如きは無稽も亦此處に至りて極まれりと謂ふべし。

宣戰の布告を見るや、獨逸人は膠州在住の英國人並に聯合國國民に對して、膠州退去の爲めに僅かに二、三日の餘裕を與へたるに過ぎざりき、而して、獨逸人に於ては、英人をして膠州に於て其の營業の繼續を許容するの意は最初より毫も有せざる所なりき。事情斯くの如くなるに拘らず、香港當局者が獨逸人に對して何が故に斯くまでも特に寛大の態度を採りたるかは吾人の到底了解する能はざる所なりとす。恐くは、香港當局者は、香港は獨逸人に負ふ所大なりと思惟せるに座するならん。

開戰後間もなく、在獨英國人の殆んど全部が獨逸に歸化せることは獨逸の大革新にして、外國人に對する警戒に就いては獨逸人は吾人よりも遙かに寛大なりき。然れども、獨逸が通商上及び戰爭上幾多の不正行爲を敢てしながら、吾人に對して更に吾人の右の類に彼等に繼續的に提供せむ

ことを要求するが如きは誠に圖々しき限りにして、斯くて獨逸人は此の吾人の右の類をも強打せむとするなり。若し獨逸人の利益にして脅され、若くは何等かの報復を受けむか、先づ第一に悲鳴をあげて喧燥するものは彼等獨逸人に非ずや香港及び新嘉坡等に於る獨逸人の清算は實に未だ曾て前例なき大事件にして、吾が當局者をして斷乎たる處置を取らしめざるを得ざる急迫せる必要存せしなり、而かも、吾が當局者の奮起せし時期少しく遅延せるものと共に、獨逸人が膠州に於て、英國人に與へたる待遇に相當するの處置を講せざりしことは吾人の憾みとする所なり。

香港政廳が、香港に於る獨逸の代表的四大商館の內的行動を自ら進んで調査するの行動に出でたることは吾人の既に知る所なり。斯くの如き調査の結果を根據として、一般政策の基礎と爲すが如きは頗る危險なることなりとす。此の事は未だ香港政廳の深く行ふ所に非ず、而して、此等の事項に關しては、香港政廳は香港商業界より助言を求むるを以て賢明なる處置と吾人は推す。

吾人は支那に於る吾人の競争者として獨逸人よりも更に勁敵二人を有す。其の第一人は日本人にして、次は支那人これなり。日本が低廉ある勞働と地理的接近の形勝の位置とにより各方面に於て吾が英國の通商貿易圈内の侵入し來りたるを以て、遠からず、吾人の欲すると將た又之を欲せざるとに頓着なく、日本は吾が英國の貿易に追付くに到るべし。更に今次の大戦は、日本人に對して、對支貿易及び其他の對外貿易を伸張すべき稀有の好機會を與へたり、而

して、日本人はよく此の機を利用したり。日本は今や獨逸に代りて低廉なる商品を提供して大多數の支那人の需要を充たしつゝあるが故に、日本人との競争に於て、獨逸人が英國人よりも、寧ろより多くの苦痛を喫するに到るべきことは吾人の聊か満足する所なり。吾人の競争者として支那人を見るに、支那の各地に於て「支那人の爲めの支那」なる運動の漸時擡頭し來りたることは注目を要す。此の聲たるや頗る高く、而かも妥當の要求なりとす、而して、例令

此のプロバガンダにして陰險なる方法と詭計を以て爲さるるとも、吾人は到底これを阻止し得ざるべし、時の進行に伴ひ、支那人の競争は吾人にとりて、緊要なる一大問題となるべし、而かも遂に之を回避するの途なきなり。現時に於ても、支那人は工場を設立して、商品を製造しつゝあり、十年以前に於ては、其等の商品たるや一に歐米諸國の供給に俟ちしものなり。然れども、吾人が今日まで支那に於て築き上げたる吾人の地位勢力を鞏固にし、更に擴張し得るや否やは懸りて吾人の雙肩に在りとす。支那は四億の人口を有するが故に、其の通商能力も亦偉大なるものあり。而かも支那人に對しては不當の待遇を加ふべからず、支那は其の内部の力によりて發達すると同時に外來の力によりてよく發展を遂ぐるを得べし。支那に助力を與ふるの度深ければ深き程、支那人は其の精力を對外的抗争のために費さるべし。而して、若し支那人にして、更に多く自國の富源に對する自由權を獲得せんか、支那人は一層臨機應變の處置を採るならん。例令幾多の虐遇的計畫は諸國に於て

成功したりと雖も、從來支那に於ては幾度か失敗の歴史を繰返せるものなり。

支那に對する原料品竝にタイプライター、染料、及び自動車等の如き高等なる特殊製品の供給に於て、英國の貿易が大なる發展を爲せることは記憶するを要す。此點に於て亞米利加人は吾人に模範を示したり、而して、合衆國全般を通じて勞銀頗る高價なるに拘らず、亞米利加の高等商品貿易に於る地位は容易に他國の侵略を許さざるものあり。

要之、在支英國商館が過去に於るより一層緊密に協力することは絶對的に必要なりとす。香港商人が、太物の取引に於て、支那人に對してクレデットを與へざることの協定を爲すに當りては少からざる困難に遭遇せり。更に、天津に於る英國商業會議所の設立が甚だ遲延せるは英國商人間の利害の衝突に基くものなり。彼等は不當なる嫉妬排擠を事とせり。第一に之を改善せざるべからず、英國商人は其の大小如何を問はず、一致して、獨逸の輸出業者が目下餘儀なくせられつゝある其活動不能の狀態に乗じて、大に英國の貿易を振興せざるべからず。斯くして始めて、吾が英國の對外貿易は安定の基礎を得べく、而して、戰後之を吾人の掌中より強奪せんとする如何なる企らみに對しても協力一致對抗することを得べし。

平和克復後此等の問題に就きては大に論究せらるべし。現今吾人の採るべき方針としては、吾人の貿易上の地位を甚しく毀損することなくして堅忍持久し、從來の誤謬を再び繰返すことなからんことを努むべきのみ。

戰後に於て吾が英國銀行は、獨逸商館に對して戰前同様の便宜を與ふるが如き事は決して爲すべからず、又恐らくは斯くすることを欲せざるべし。吾が領事及び商務官は、從來賞讃と獎勵を必要とする場合に於ても、一語賞勵の辭をすら與へずして、只單に吾が國人の失敗のみを訪調せる報告書の作成に没頭せるが、將來に於ては決して斯る事のないからんことを吾人は衷心より希望せざるを得ず。彼等は、濠洲の商務官の態度に就きて大に學ぶ所ありて可なり。濠洲の商務官は海外を旅行し、濠洲の輸出品を如何にすべしかに就きて充分精到なる智識を有したり。濠洲の商務官は濠洲に於る信用し得べき商人及び製造業者の名簿を携帯し身親しく、海外との取引關係及び代理店の問題を處理し、濠洲產物の賣捌を爲さしめむがために、彼等の選定せる商館の地位と能力とを充分に活用することを得るなり。

吾が香港植民地在住の英國人は、吾が英本國に於る老人連は偉大なる吾が英帝國全般に對して充分の興味を感ぜざるに非ずやと思惟すること屢なり。國民としての獨逸人は、植民地の事情に就きては一般英國人よりも數等多くの智識を有したり。是れ勿論植民帝國 (Colonial Empire) なる語は獨人に對して珍奇の感を與へたるに由るべく、且更に獨逸人に於ては植民によりて利すべき彼等の屬領の甚だ貧弱なるに基固するものなり。此些々たるが如しと雖も、確かに吾人の失敗なりとす。英本國より香港商人に到着する書狀の多數は二片半の切手を貼用せるが、適々是れ、英本國の商店の青年事務員の多數が、香港は英國の一屬領にして、

書狀の郵税一片なることを知らざるを暴露せるものなり。又英帝國全般を通じての智識にして國民の具有する所ならむには、本國の多數商人が、香港と商取引を爲し得べきや否やに就きて疑を挿めりと云ふが如き驚くべき誤解を爲すことなかりしならず。彼等商人が之を疑へるは、單に、對支通商に關する參考書たる、White's Guide の中に香港英國商館名を逸したりとの理由に基くに過ぎざるなり。吾が植民帝國の如何なるものなるかに關する智識の國民的教養を促進するは、各人を裨益すること蓋し鮮少に非るべし、若し然らざれば、吾人が大植民帝國の繼承權を有することを諸國民に認めしむること能はざるに到るべし。外國を旅行し、探檢するの國民的熱望を先づ第一に喚起せざるべからず。吾人は人を要求す、然り戰後に於て海外に於る英國の優越的地位を維持せんが爲めに有爲の士を要求す。

英國は或は今時の戰爭に對する準備に於て缺くる所ありしにもせよ、平和の締結に於て、將た又戰後の商業戰に於て希くは吾人をして違算ならしめよ。今日まで吾人の爲したる所は決してさまで不良のものに非ずして、從來の所謂吾が英國人の『鈍根應揚』なる性質が却つて成功し、要點に觸れたるものなることを示すは本書の目的とする所なり。地方の一新聞が近時指摘せるが如く、此の『鈍根應揚』の性質は敵國民に對しても、其の文明的一素質として要求せらるゝに到るべし。著者の最も考慮する所は、過去に於る競争の不首尾なりしにせよ、且又將來の競争の見込のあるなしに拘らず、英國人は將來支那に於て決して獨逸人の

後塵を拜するが如きことあるべからずと云ふにあり。遮莫、内外に於る英國商人及び製造業者をして一致協同せしむるは最も重要な事に屬す。『英國製』(British Made)なる語は尙全世界を通じて、品質及び價値の象徴なること及び公正なる取引によりて、公正なる生活を爲さむとするもの、爲めには世界は廣く青山永久に盡きざること、吾人をして之を記せしめよ。(全部完結)



寄贈書目録

實用新案公報	特許局	自五一〇號
通商公報	外務省通商局	至五一二號
新著書	丸善株式會社	自五六一號
青島に於ける物價	青島守備軍民政部	至五七二號
日本及日本人	政教社	九月三十日
月報	青島商業會議所	七四四號
東洋經濟新報	其社	一〇號
いんさつ	古島印刷所	八三二號
貿易通報	大阪商業會議所	一三七號
ヘラルドオブアジャ	ヘラルド社	八號九號
大陸工報	興亞技術同志會	五四號
上海經濟新報	其社	四七號
特許公報	特許局	二九八號
滿蒙實業彙報	大連商業會議所	四一號
調查資料	南滿鐵道株式會社	4輯
商標公報	特許局	四三六號
臺灣商工月報	臺灣總督府	一一〇號
外事彙報	外務省政務局	九號
國際法外交雜誌	國際法學會	三七號
奉公	其會	一九〇號
地學雜誌	東京地學會	三五九號
朝鮮彙報	朝鮮總督府	四六號
會報	熊本海外協會	四號
月報	長春貿易協會	一九號
遼東時報	茂生洋行	

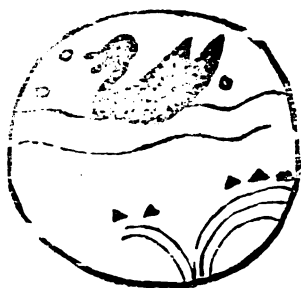
江蘇商生絲稅輕減の請願

年來生絲市場の凋落するは、専ら生絲稅の賦課過重なるに起因すとて、過般吳江縣の生絲商施則敬等は、江蘇省議會議員周積偉の紹介に由り、特に省議會に向て生絲稅率輕減に關する請願書を呈出せり、該請願書の梗概を紹介するに左の如し。

民國五年冬季貴會に向ひ生絲稅減收案の維持を請願せしに、當時貴會の決議を蒙り、省長に轉咨せらる、嗣て農商部よりは未だ批准の沙汰なく、荏苒今に至て既に兩載を閱みせり、既に生絲市場は日に益々凋疲し、商情益々恐慌を加ふ、勢ひ再び減稅請願を行ふに非ざれば、決して生絲業を維持するに足らず、敢て減稅を請求する各理由を以て、貴會に向つて之を縷陳せんとす、査するに江蘇省の生絲輸出は震澤に獨有せらる、然共本區の產絲甚だ少く、大都は之を浙西の南潯、湖州、烏鎮、菱湖等より購入するなり、現在の實業政策として、盛に土貨を獎勵し、其提唱に盡力して尙は振興するに足らざるを虞る、況や生絲の海外に運銷する其輸出貨の大宗を爲すに於てをや、宜く如何かして該稅率を減輕し、以て獎勵進行を圖るべきなるに、今反て重稅を以て生絲商を累す、實に發展策を力圖するを得ざるなり、月前賦課さる、各稅捐に就て之を觀るに、生絲百斤に付浙江の絲稅洋三十一元五角、浙江公益捐五元を徵納し、震澤に至りて絲稅洋十元、公益捐二元を徵納し、上海に運びて抵代稅七元五角、輸出稅十五元を徵納す、即ち是れ海

外に輸出する生絲一擔毎に稅捐洋七十二元の巨額を賦課さる、譯なり、國家の實業を提唱し、商民を體恤するの意に非らざるに似たり、此れ稅率輕減を請ふの理由一也、稅率の増加は原多く捐稅を收むる見地より行はる、者なるが、蓋し生絲に對しては其然からざるを知る、則ち捐稅増せば生産費大となり、生産費大となれば、出貨少となる、況や此歐戰紛紜に値ひ、販路停滯するの際、其影響の及ぶ所、尤も維持し難きに至るべし、民國三年六月以後震澤の出絲量は之を民國三年六月以前に較ぶれば、逐年遞減するを覺ゆ、生絲業が重稅の累を受けて、營業日に其小なるを見る故に國家生絲稅は之を收むるに於て、重稅の名を受くる程に、實際上未だ其益を得る能はず、是れ其加稅に因り商を苦め國を病ますと、減稅に因り國を裕し商を惠むと孰れ可なるか、此れ稅率輕減を請ふ理由二也、歐洲釐を起してより、既に五年を歷たり、震澤の生絲業の此五年中に於ける損失額を調査するに、民國三年乃至六年末間、缺損百五十六萬元の鉅に達し、本年一月より今日に至る迄又約洋三十萬元の損失を見たり、加之志相場日に昇騰し、爲替漲升し、商船稅減す、且つ金融逼切、市況停滯す、是れ通商以來未だ見ざるの現象なり、苟も捐稅を輕減し、以て助勢救補するにあらざれば、必ず各商の資力盡き、其經營は相率て停業するに至らん、此れ稅率輕減を請ふの理由三也、震澤の絲行大小約數十家あり、生絲產出額毎年約一萬擔左右あり、又繅絲を業とする者實に數萬戸に上れり、年來生絲業凋落し行主大半は各行を支持するの力に乏しく、且つ更に開設を

國るの人なく、則ち此數萬戸には逐漸其業を失ひて、生活の道杜絶せらる、實に後患の堪へざるを知る、須く稅率を輕減し、以て商業の振興を圖りなば、庶くは人民其福を受けん、此れ稅率輕減を請ふの理由四也、以上數端を綜覽するに、是生絲稅の輕重と、國民生計とは息息相關係する所頗る密接なり、苟も生絲業の前途の爲めに、國家利權の挽回の爲めに計る、正に生絲稅減收原案を查照して、今後は輕稅每擔六元と爲し、以て提唱に資し、體恤を示されんことを請ふ、是に於て生産費較や輕く、貿易漸く暢り、稅收亦旺なるべし、生計之が爲めに維持され、商家營業の道亦之に賴て發展するを得ん云々。



東亞同文會編纂

最新版

支那關係

特種條約彙纂

正價金四圓

總革製紙箱入四六版
總六號七百五十頁
送料 内地十二錢
支那四十錢

最近迄 支那

關係の各種條

約を網羅す

支那と列國との特種關係・支那に於ける列國利權・支那の國際上の地位悉く本書に依りて明瞭

發行所

東亞同文會調查編纂部

東京市赤坂區溜池町二

電話 芝一二一四番
振替東京九七三〇番

事業界

交通銀行昨年末營業狀態

交通銀行は去年改組後、營業方針は爲替業務に重きを爲せる趣あり、現に國外方面にては香港、新加坡の既設分行を除き、去年冬頃特に日本東京に駐東經理處を設立して、専ら日本の電爲替を取扱へり、此れ分行設立の基礎を作れるなり、經營方法も亦改善を行ひ、新式帳簿を採用し、銀元を以て記帳本位と爲せり、従前の帳簿も亦全く整理を行ふ、内部組織は改善せられ、會計上秩序井然たる觀あり、故に去年決算期には純利百九十萬一千八百九十三元を計上せり、之を五年度に較ふるに約一倍有餘の増加を爲せり、唯該行の北京紙幣が政府立替金關係に因り、今尙は兌換に着手せざるが爲め、信用の累たるを免かれざるのみ、但し去年上海分行の現兌開始せし結果、信用回復し、營業發展せり、茲に先づ六年度資産負債表及び損益表を左に掲示せんに、

(一) 資産負債表

一、負債の部

株式總額	一五、〇〇〇、〇〇〇、〇〇〇 ^元
借入金	二一、二五〇、〇〇〇、〇〇〇
定期預金	一二、四〇七、二九八、五二
當座預金	二六、一二九、六四四、〇九

紙幣發行
積立金
去年繰越
本年利益

合 計

二、資産の部

未拂込株金	七、五〇〇、〇〇〇、〇〇〇
定期貸付	二一、四七五、〇九六、二九
當座貸越	四四、四五〇、五五〇、八四
押 匯	一、二三五、〇五〇、六四
同業貸付	一八、六一九、三三〇、四二
有價證券	二、八九三、六四八、六六
手持現金	一二、七六二、九八〇、二四
合 計	一〇八、九三六、六五七、〇九

(二) 損益表

一、利 益

利 息	二、六八〇、九八五、三〇
爲替割引	五五九、八六八、三九
手續費	八七、七六四、一六
兌換利益	一〇六、五七〇、四〇
有價證券買賣利益	一〇、一一三、三三
雜 益	三一、八九五、六九
合 計	三、四七七、一九七、二七
二、損 失	一、五七五、三〇三、八四
各支出	

純 益

合 計

一、九〇一、八九三、四三
三、四七七、一九七、二七

以上資產負債表中の負債部に、借入金二千一百二十五萬元の一項あり、此れ疊に日本より借入れたる者に係り、即ち營業擴張、紙幣兌換の用に資せられたるなり、六年紙幣發行數二千八百六十萬三千八百三十六元は、五年發行數二千一百餘萬兩に較ふるに、尙ほ其發行高を減せり、定期預金及び當座預金三千八百五十三萬六千九百四十二元は、五年年度預金二千五百萬餘兩に較べて、百萬元の増加を見る、當座貸越及び定期貸付二項に至ては、五年度三千一百餘萬兩に對して、六年度の當座貸越四千二百二十一萬餘元、定期貸付二千一百四十七萬餘元、合計六千三百萬餘即ち二千萬元の増加を示し、同業貸借高一千八百六十萬餘元は五年度に較べて六百萬元の増加を見る、是に於て知る、該行の日本資金借入後營業擴張せし結果、貸付及預金の同時に増加するに至りし事を、茲に該行の重要營業を以て、歴年比較表を作り、之に依りて其の營業の發達の概況を明にせんとす。

科 目 民國元年 民國二年 民國三年 民國四年 民國五年 民國六年

預金總額	萬兩 一、四四〇	萬兩 三、五三三	萬兩 四、九〇五	萬兩 四、七四八	萬兩 二、五七九	萬兩 三、八五三
貸出總額	一、六三三	三、八四五	四、三二七	五、〇五五	五、二二三	八、五五八
發行紙幣	七九	四四九	五九五	二、四八六	二、二九	二、八〇
在庫元金	四六五	八七四	一、四七三	一、五八一	九七五	二、二五
積立金	二三	二〇	六二	一一	一一	一五

純 利 一七 四二 一六七 二〇〇 九 一九

上海交易所股份有限公司章程

第一章 總 則

第一條 本公司の商號は定名して上海交易所股份有限公司と曰ひ民國〇年〇月〇日農商部の認許登記を経て設立す。

第二條 本公司は上海に設く。

第三條 本公司の成立年限は登記の日より起り十年を以て限りと爲す。

第四條 本公司の公告聲明は本公司市場及び上海通行の日報に掲載すべし。

第二章 營業主旨

第五條 本公司は本章程及び營業章程營業細則を按して左列の物品を取引す。

- (一) 中外各國發行の有價證券
 - (二) 中外棉花
 - (三) 中外棉糸
 - (四) 金銀類
 - (五) 中外織物
 - (六) 雜穀及び油類
 - (七) 皮毛類
- 第六條 各公司が株券及び公司債券並に一切證券を以て本公司に向ひ買賣を請ふ者ある時は其許否に就き即時決定すべし但し既に承認し或は本公司に在りて買賣取引する

者と雖も若し該公司條例に違反し或は營業狀態に缺陷ある者は調査後即時に其取引を停止及び中止すべし。

第三章 資本及株式

第七條 本公司の資本總額は上海通用銀元五百萬元とし十萬株に分ち毎株銀元五十元とす若し營業發達せば株式及び資本銀額を増加すべし。

第八條 本公司の株券を五種に分つ。

一株一枚 五株一枚 十株一枚 五十株一枚 百株一枚
株券上に株主の姓名を記し及び番號、商號、登記年月、株式の種類數量、毎株銀額、毎株既拂銀額を明載して本公司の圖章を捺押し發行の時理事長に由り署名捺印す。

第九條 株銀を四回拂込と定め毎回株銀の四分の一即ち毎株十二元五角を拂込むべし第一回株銀拂込後は〇ヶ月を越へて再び第二回株銀を支拂込む其餘の株銀拂込期日は營業情況を視て理事會に由り期日を議定して少くも一ヶ月前に各株主に通知すべし。

第十條 株銀を期日内に拂込まざる時は過期の翌日より起算して百元には毎日過期利息五分を徴收す株主にして期日後公司の催告を経て一ヶ月を越ゆるも尙ほ拂込まざる者は理事長に由り公司條例第三百三十六條に照して該株主の權利を喪失したる者と決定すべし既拂株銀は還給する能はず。

第十一條 各公司及び商號は本公司の株式を購買するには必ず一人の代表人を定め其姓名を本公司備付の株主記名帳簿に記載すべし。

第十二條 凡て個人にて本公司の株式を購買するには株式總額二十分の一を過ぐるを得ず。

第十三條 凡て本公司の株式を購買する者は中華民國人民を以て限りと爲す。

第十四條 凡て株券の轉讓は本公司所定の書式に照し讓渡人及び承受人の連名捺印して即時登記すべし若し子孫にして之を承繼し或は遺書を奉し或は法例に遵ひ獲得する株式を本公司に向ひ登記を欲する時は必ず本公司の承認するに足るべき證明書據を備有すべし。

第十五條 株券轉讓にして其承受人の姓名住所を株主名簿に記載せざるに於ては本公司の權利を享受するを得ず。

第十六條 株券を遺失毀損したる時は株主は聲明書を提出し株券番號及び失毀原由を詳細に述明し且二人以上の連帶保證を具へ本公司に向て別に株券の補給を請求すべし但し該株主は失毀の情由を新聞紙に廣告し六十日を経たる後異議を申請する者なきに於て新株券を補給するを許す一切廣告費用は該株主の擔任たるべし。

第十七條 株券の姓名書換及び新株券補給等に要する費用は理事會議の議定に由り之を徴收す。

第十八條 本公司の定期株主會の三十日以前は株券登記等の事項を停止す。

第十九條 本公司の株銀全數の拂込済となりたる時は法律に依り無記名式の株券を發行すべし。

第四章 株主權利

第二十條 各株主の獲得すべき議決權を左の如く規定せ

り。

一株乃至十株は一株毎に一議決權を有す。

十一株乃至一百株は二株毎に一議決權を増す。

一百一株乃至一千株は五株毎に一議決權を増す。

一千一株乃至五千株は十株毎に一議決權を増す。

第二十一條 株主及び株主法定代理人の株券を收取する時其姓名住所及び印鑑を以て本公司に通告すべし。

前項の處理を怠りて錯誤を生ずることあるも本公司は其咎めに任せず。

第五章 株主總會

第二十二條 定期會議は毎年三月九月の二回開會す臨時會議は理事及び監査役より緊要事件を提出するに因り且本公司株式總額十分の一以上を有する株主が會議を開かんと欲する時は必ず其提議事項及び理由を明白に開陳し理事長に向て開會を請求すべし理事長は十五日内に株主會議召集の豫備を爲す。

第二十三條 會議の目的及び場所時日は理事長に由て決定し少くも一ヶ月以前に於て各株主に向ひ其議案を通知すべし通知書所載の議事以外に提議するを得ず。

第二十四條 定期會議は議長理事長を選任す。

議長は株主の取得すべき議決權の外別に裁決權を有す。

第二十五條 株主會議は株式總額半數以上の株主列席して開會すべし但會議が章程變更或は任意解散に遭ふ時は株式總額半數以上及び資本半額以上の株主が列席するにあ

らざれば開會する能はず。

第二十六條 株主代理人は株主の委任狀を帶有するに依り其議決權を行使するを得若し代理人が本公司の株主にあらずれば其代理人の議決權を行使する外辯論するを得ず。

第二十七條 株主の請求に由り會議を召集する時は其議長は監査役及び臨席株主に由りて之を選擧す。

第二十八條 株主會議の議決事項は必ず之を決議錄に記載すべし議長及び臨席理事に由り署名捺印し且つ出席株主名簿を併存すべし。

第六章 重要職員

第二十九條 本公司の重要職員は左の如し。

理事の十七人 本公司株式一百株以上及び年齢二十五歳以上の者にして始めて選舉さるゝを得べし。

第三十條 理事は株主より之を選舉す任期二年とす但再選重任するを得。

第三十一條 理事長一人 理事中より之を互選す任期は理事と同じ。

第三十二條 監査役五人 必ず本公司株式五十株以上及び年齢二十五歳以上の者にして始めて被選を得。

第三十三條 監査役は株主より之を選舉す任期は一年とす但再選重任を得。

第三十四條 選舉用投票法は票數の多き者を以て當選と爲す若し二人以上の同數あれば年長者を以て之に充て同數

同歳なれば抽籤法を用て之を定む。

第三十五條 凡て職員資格は必ず證券交易所法第九條第十條と違反せざる者にして始めて被選を得べし。

第三十六條 凡て職員の當選後は其姓名を農商部に報告して其承認を経べし。

第三十七條 理事長理事及監査役の年俸は株主會議に由て之を決定す。

第三十八條 理事の在任期内は自己所有の本公司株券一百株以上を監査處に保管せしめ任期満了の時株主會は其在任期内の業務處理を審査して缺陷なしと認むるときは即時該株券を還付すべし。

第三十九條 重要職員にして若し缺員ある時は臨時株主會を開きて補缺選舉を行ひ前任の期限及び職務を補充す。

第四十條 理事長は本公司の代表と爲り業務を總理す本章程營業章程及び營業細則に規定せざる一切の事件も皆な其決斷に由て之を處置す。

理事長にして若し事故ある時は其事務は首席理事に由り之を代攝す。

第四十一條 理事長理事に依り理事會議を組織して重要事項を議決す理事長は理事會の議長と爲す理事會の議決事項は必ず議事録に記載すべし。

第四十二條 理事長は定期株主會の開會十五日以前に於て必ず左列の帳簿を監査役に提出して其審査を受くべし。

(一) 財産目録(二) 貸借對照表(三) 事業報告書(四) 損益計算書(五) 公債金及び利益金分配に關する議案(六) 報酬

及び俸給に關する議案(七) 下期の收支豫算。

第四十三條 理事長は前項の帳簿を定期株主會に提出し通過後は總決算を以て之を公告す。

第四十四條 監査役は理事長提出の帳簿を審査したる後其審査結果を株主會に於て之を報告すべし。

第四十五條 監査役は何時を論せず理事長に向て報告を檢閱し及び本公司の業務並に財産情況を調査すべし。

第七章 會計

第四十六條 計算法は總收入より通常經費及び他支出を控除したる剩餘を利益金と爲し更に利益金より本公司の納むべき正税及び他雜税を控除し其剩餘金の内百分の十を積立金とし百分の二十を慰勞賞與金とし百分の五を發起人の特別利益金とす然る後其餘銀を以て各株主の利益に配當するか或は該餘銀若干を下期の結算内に繰入るべし。

第四十七條 本公司の積立金は資本四分の一に達するを以て止りと爲す。

第四十八條 株主への利益配當は五月一日十一月一日當時の株主記名簿に照して發給す。

第四十九條 金銀及び有價證券の保管方法は理事會の決議を以て之を定む。(未完)

ドグラス會社營業成績

ドグラス汽船會社の昨一年度間の營業報告によれば、總ての消耗費、入渠費、保險のプレミアム、乗組士官賞與等

を支拂ひ、更に政府徵發法の下に運轉しつゝある船舶に對して、相當の準備をなしたる後、損益勘定の貸方尻は四一八、八一二弗六四となり、其内去る四月支拂たる半期配當八萬弗(八分)を差引たる殘額、三三八、八一二弗六四を左の如く處分せり、

後半期配當四分(每株二弗)

特別配當一割(每株五弗)

會社所有船及資産減價償却

準備資金

左記御用船勘定

計

四〇、〇〇〇、〇〇
一〇〇、〇〇〇、〇〇
六八、八一二、六四
七〇、〇〇〇、〇〇
六〇、〇〇〇、〇〇
三三八、八一二、六四

汽船ハイヤン及ハイチンの二隻は、本年度を通じて御用船の任務に就き、ハイタン及ハイホンの兩隻は、去る四月より御用船となれり。

上海鹽業銀行成績

鹽業銀行は民國四年に創設せられたるものなるが、昨年吳達銓總理に任じ、經理其人を得て、大に發達し、昨年の結算によれば、純利四十八萬八千八百二十二元を得たり、其上海支店は支店中大店にして、亦營業發達し、昨年末の結算によれば、純利六千九百餘元を算し本年の各種預金は増加して二百八十餘萬元に達し、各種放資亦二百萬元に上り、準備金は常に五分の一内外に在りて、本年上半期の純利三百九千十二元二十三仙を得、其收入は利息なるが爲替料亦少からず、上海鹽業銀行支店は、天津路鴻仁里内に在りしが、不日北京路十號の新築店に移轉すべしと。

寧鄉炭礦會社の設立

資本金四百萬弗の一炭礦會社は、湖南省督軍張敬堯氏の

庇護の下に、今や設立中なるが同社は同省に於ける寧鄉炭礦の開發を目的とするものにして、資本金の一部分は既に拂込を了し、試堀及土地の購入に向けられ、同炭礦の採掘及特許權の請願書も、既に先月北京政府に提出せられたり。

同地方に於ける石炭の埋藏豊富なることは久しきより廣く知られ、支那人は土法に依りて採炭し居りたり、特に豐富なるは Shung-shu-lin or Double Lion Pedge 地方にして其面積三十平方支里に亘ると稱せらる、而して炭質は揚子江流域には見出し難き良質の無煙炭なりと云ふ、張督軍が會社の設立を斡旋するに至りたる理由は、即ち(一)外國人に對する礦山發掘權の許可に關して支那人士間に生ずる不平と紛争を避くる爲め(二)礦夫の雇傭は湖南省に於ける戰亂より甚しく困憊しつゝある幾千の人々に生活の途を與ること、(三)礦山に對する課税は夥多の收入を誘致すること等の三理由に起因するものなり。

寧鄉礦山會社は官民合辦組織なれば、事業開始前に地圖の作製、計畫書及北京政府の代理人に依る調査一等諸種の形式を経る必要なく、張督軍は速に事業を開始すべきことを命じ、又農商部は會社の請願書を受取るや否や、直に張督軍に電報を發して、其開業を許可したり、資本金四百萬弗の割當は總額の四割は湖南省立銀行の持株とし、内第一回の拂込を八萬弗となし、殘額二百四十萬弗は、長沙及其他の商人に割當てらる、發起人等は同省衙門評議員たる

Chu Tsun-jin 氏を選んで會社の代表者となし、土地購入のため五六人の委員任命せられたり、土地購入に關しては財政部の助力を得べく、同地方に於ける曖昧なる炭礦は直に閉鎖し私人經營のものは之を買収すべしと云ふ。

支那半月史

大正七年十一月上旬

聯合國の對支覺書

支那の參戰義務履行と講和使節

支那の參戰義務不履行に關し聯合國より聯合覺書を交附せしこと（十月三十日附）は前號本欄に於て報道せしが如くなるがその内容左の如し。

中國若し協商國の資格を恢復せんと欲せば須らく次の十二條件に大いに注意を爲すべく若し將來議和の時に地位を占得し同等の利益及び發言權を獲享せんと欲せば須らく早きに及んで勉力し此の十二條件をもつて辦理完成すべし。

第一條 支那は協約國盟約に加入し獨逸に對し宣戰せる後義和團事件賠償金の支拂延期、關稅剩餘金の交附を要求せるが均しく協約國の認可を経たり協約國が右允許を與へたるは支那が之を以て實業を經營し富力を増進し以て協商國の戰時物資を協助せんことを希望したるなり然るに支那は此金額を以て黨派私爭の一途に浪費し協約國の好意を失へり。

第二條 參戰機關は設立後日久しきも其實際は有名無實にして且つその編成に係る軍隊は之を參戰の用に供せず甚しきは此の參戰軍隊を調用して國內爭戰の用に供せり。

第三條 津浦、隴海各鐵道沿線の土匪の擾亂を取締らず路政を破壊せしめたり該兩鐵道には協約國政府人民の資本ありこれ協約國の人民をして直接土匪の損害を受けしめたるものなり。

第四條 支那政府は協約國の同意を経ずして羅馬法皇廳公使戴陳霖を派遣し故意に協商國の惡感を挑發せしは敵國人の運動を受けたる嫌疑を免かれず。

第五條 敵國人財産を查封するは敵國人がその資財を以て種々の陰謀を爲すを（晴地接濟）防止する爲めなるに支那は獨逸銀行在支獨人の財産に對し切實に查封監視する能はず。

第六條 （一）天津に於ける敵國人の機關を取締る能はず（二）察哈爾に於て某國が自働車の試運轉を爲したる際地方官憲は之に對し阻止を加へ（三）上海に於ける敵國人の營業を封閉し以て協約國に損失を與へたり。

第七條 對敵通商禁止條例は國務會議の議決宣布を経たるに拘はらず未だ切實に施行せず。

第八條 北京順利飯店は純然たる敵國資本經營の營業機關にして協約國が數次の力爭によりて漸く査禁したり支那の協約國に盡力する能はざる一明證なり。

第九條 黑河道用が敵國人と通じ露國過激派の軍餉を資助したるを以て協約國は數次支那政府に向つてこれが更迭を提議したるに拘はらず支那政府は今なを之を更迭せず敵國人と通せる官吏を祖護せんとする想見すべし。

第十條 支那に在りて陰謀を逞しうする敵國人を收容拘束

する能はず。

第十一條 協商國人民と敵國人との訴訟事件の審訊は之を公開し各該地領事をして觀察せしむるを得るの明文あるに拘はらず天津庫倫に於て敵國人捕獲の際地方官は領事の觀察を拒絶せるのみならず之を公開せず又嚴重に之を處分する事をなさざりき。

第十二條 支那政府にして以上各條件を完全迅速に履行せば歐洲議和の時必らず協商國と同等の權利を獲得すべし速かに査照注意せられよ。

右覺書の交附を受けたる支那政府は、外交總長陸徵祥氏をして十一月一日聯合國側に對し、聯合國が支那の希望を容れて「警告」を改めて「覺書」とせられたるを謝し、今後十日間内に右覺書條件の實行を爲すべしと述べしめたるが果して(一)二日の參衆議院は會合一致にて政府提出の對獨宣戰追認案を通過し五日參議院も之を通過し(二)十一月七日附を以て黑河道尹張壽増を免職し馬廷亮を以て之に代へ(三)同十一日附を以て直隸警務處處長兼天津警察廳廳長楊以德獨人の陰謀に對し種々便宜を亟へ殊にハンネツケンを庇護したりとの噂あり)を免職し張汝相をその後任とし(四)六日前井陘炭坑總辦獨人ハンネツケンを、七日前獨亞銀行支配人にしてヒンツエ公使歸國後隱然たる公使の勢ありたるコルデスを逮捕拘禁する等、參戰義務履行怠り無きを示し、十日外交次長陳籙は公使團首席公使ジョルダンを訪ひ、聯合國覺書十二條に就き支那政府は切實に之を處理しつつある旨、事實を擧げて説明し、ジョルダン公使は

大體に於て之を諒とし未了案件に就ては速かに之を履行せられたき旨を答へたりと。

支那側の此の如き態度は、要するに大戰講和會議に參列せんとの運動に外ならず。即ち支那は一面參戰義務履行に努むると共に他面大戰講和會議は東亞に重大なる關係あり青島の處分、山東東清兩鐵道問題も議せらるゝを以て支那も當然之に參加すべき權利ありとの理由を以て聯合國側に命し運動を開始し、外交總長陸徵祥氏を歐洲に派遣して參列の目的を達せんとしつゝあり、若し之に成功せば陸氏を以て全權委員と爲すべしと。尙先發委員として魏宸祖外三名任命せられたりと。

軍政府特使歸國

章士釗氏の使命及意見

廣東軍政府特使として十月十二日入京し、我が朝野の間に遊説しつゝありし軍政府秘書廳長章士釗氏は、十一月六日發歸國せり。氏の使命は初め或は南方承認運動に在りと云ひ、或は調停依頼のためなりと云ひ世論歸一する所無かりしが、要するに深き意ありての事に非ず、唯だ軍政府が米國に王正廷氏を特派したる御附合に章氏を日本に派遣したるに過ぎず、その附帶の任務として日本政府の從來の北方援助方針を改め、眞の意味に於ける傍觀主義を執られたしとの運動を試むるに在りしや疑なし。偶々寺内内閣更迭して原内閣成り、末だ公式の聲明無きも對支借款方針の變更(十一月一日號本欄參照)等に依りて事實上援北方針の

打切を見、國論亦支那の妥協調停に一致せしを以て充分なる満足をして歸國の途に就きたるものと察せらる。

章氏は屢々述べたるが如く岑春煊政治家の随一人にして充分軍政府及び政學會を代表するに足る人物なり。故を以て氏の來朝はかの政學會系の主持しつゝある天津及び上海の平和期成會の運動と關係無きを得ず氏が歸國に先つ一日都下の新聞通信社員に對し試みたる次の演述は、此點に就いて頗る暗示に富めるものと謂ふべし。

支那の眞の統一を招來する爲めには南北双方共に無條件にて適當の地點に平和會議を開き民國の各方面を代表するに足るべき人物を委員とし「公善主義」を以て會議の根本精神とし人治主義と法治主義との調和、中央集權主義と地方分權主義との交譲を發見し然る後他の問題に及ぶべく然らずして南北兩派の急進派が主張する如く漫然舊國會を恢復し或は徐總統を承認すとも到底眞の統一を得可からず予は何よりも先きに無條件會議、白紙會議を主張す。

氏の廣東を發途するや民黨系の急進派は多く冷笑を以て之を送り、急進派新聞は氏を以て國會無用論者（廣東舊國會の存在が南北妥協の一大障礙なりといふ程の意味に於て）なりと罵れり。知るべし氏が南方主和派の急先鋒なるを。

徐樹錚氏の來朝

參戰督辦處參謀長陸軍上將銜中將徐樹錚氏は我が陸軍大演習陪觀のため十一月五日北京發、十日午後八時半入京し

り。氏は人も知る如く北方主戰派の中心人物にして、滿身これ策ともいふべき策士なれば氏の來朝は決して大演習陪觀のためのみならざるべしとて種々の憶測を生じたり、その一は日支軍器同盟締結說にしてその二は借款運動說にして、民黨系の戊午通信の如き盛んに此說を流布し居れり、その三は當時北京には恰かも督軍會議開かれ居たるを以て徐總統は又しても徐樹錚氏に掻き廻されんことを恐れ大演習陪觀の美名の下に上將銜をも與へ之を日本に敬遠せしなりといふ說なり、その四は南北妥協成立後に於て自派の不利を來さざるやう運動するに在りとの說なり。四說共に多少の根據と理由とあり、恐らく四說の全部を合計せしものが氏來朝の使命なるべし。但し氏來朝後の局面の發展上より見れば、偶然にも第三說最も適中せるかに見ゆ。

和平會議開かれん

唐紹儀氏歸國の意味

和平運動の根源は徐世昌氏に在り。天津及び上海に於て成立せる平和期成會は、全北洋主和派の結束にして、又實に徐派の大同團結なることはその實部の顔觸に見るも明かなり、即ち熊希齡派として熊、孫寶琦、莊蘊寬あり、張謇派に張及び馬良、沈敦和あり、交通系に周自齊、汪有齡、政學會系に谷鍾秀、張耀曹、丁世驊、李肇甫、彭程萬、熊成章、研究會系に王家襄、梁善濟、籍忠寅、孫發緒、張東蓀、舊民黨系に蔡元培、王寵惠、溫宗堯、馮國璋派に張一麋、王克敏、文群、林紹妻あり。徐氏は此等事功を喜ぶ政

客、乃至利祿の心深き官僚を利用して期成會を組織せしめ會をして南方派の實力者たる陸榮廷、唐繼堯、諸氏と和平會議開催につき商議せしめたる形迹あり、之に對し唐繼堯氏は岑春煊、陸榮廷兩氏の同意を求めたる後徐總統に同意の返答を送りたるものゝ如し。徐氏は唐氏の返答に接するや之を以て各督軍に諮り、その内諾を得て十一月十二日開議を開き、異議なく通過、直ちに江蘇督軍李純氏に右の趣を打電し、西南に之を轉電せしむると同時に張謇、譚延闓兩氏と協議せよと命令したり。北京政府は是に於て廣東軍政府を交戰團體として承認したるなり。

會議に關する具體的條件は固より未だ決定し居らず、唯豫想し得るは(一)會議開催期日の略十二月月上旬なるべきこと、(二)會議の性質の無條件、白紙的なるべきこと、(三)會議に出席する代表は民國の各方面を代表するに足るべき人物なるべきは勿論なるも何れも個人の資格に於てすべきこと、(四)徐總統は代表として出席すること無かるべきこと、(五)會議參加の確實性多きは張謇、熊希齡、李純、唐紹儀四氏なるべきこと等なり。去る四月來朝以來絶へず何物かを握むべく焦慮しつゝありたる唐紹儀氏が、十一月十六日神戸發二十日上海に歸着せしは、大いなる暗示を與ふ。氏が日本滞在中北京政府側と多少の聯絡ありしは事實にして氏の歸國は即ち北京政府との間に或る諒解成立せる結果なるべく、即ち氏の和平會議出席説起る。章炳麟氏の次の通電を見よ。

北京政府は唐紹儀を利用し徐世昌を正式總統に推舉せ

しむることを圖り國務總理の位地を以て唐を動かさんとす唐は天性潔直、利の爲めに偏せず彼等の籠絡を受けざるべきもその日本より歸朝遅るゝこと數ヶ月政務總裁の職に就かず民心漸く疑惑あるものゝ如し請ふその廣東に來り政務總裁の職に就くことを促がし上海に逗留して北方派をして間に乘じ是非を眩惑せしめその清白の身を傷つけしめざらんことを云々。

督軍會議の協贊

北京政府の平和解決方針は、十一月十五日督軍會議の協贊を得たり。十月十九日江西督軍陳光遠氏の入京以後、張作霖(奉天)孟恩遠(吉林)王占元(湖北)倪嗣冲(安徽)趙倜(河南)楊善德(浙江)各督軍及び張懷芝(援粵總司令)等の着京するあり、政府の方針愈開議を通過するや徐總統は十一月十五日總統府に督軍會議を召集し、前日出京せる直隸督軍曹錕以下各督軍護軍使督軍代表及び國務員等三十三名出席徐總統、錢總理より平和方針採用に關し詳細なる説明あり、倪安徽、張奉天兩督軍より一二の質問ありたるのみにて異議なく可決、政府の平和解決方針は茲に督軍會議の協贊を経たり。

停戰命令發布

上述の如き手續を経て久しく待望されし停戰命令十一月十六日附大總統令を以て公布さる、全文次の如し。

國家の政治は審時を先と爲す内を安んじ外を靖んする

理二致なし比者天心亂を厭ひ歐戰終を告げ我が協商國の兵士人民躬から艱險を冒すを憚からず卒に公理を以て強權に敵しして此の最後の勝利を獲たり吾國力めて衆難を排し戰團に加入し茲に盛舉に與かる是れ欣幸に堪へたり兵氣既に戢まり和會肇始す方に將さに斯世を綏保して共に康平に躋らんとす顧みるに西南數省政論偶異同あるを以て一隅に肇まり全局に牽及し兵戈歳を累ねて國力殫殘せり内を安んずるすら未だ處はず靖外を云ふに遑あらんや川粵諸省昔富庶と稱す兵燹迭りに觀はれ井里、墟と爲り即ち完善の區ありと雖も亦復た百業凋殘し生機窘蹙せり民瘼を言念すれば至つてもつて心を痛ましむ南北各軍は袍澤に非ざるはなし徒だ戈を同室に操るを以て身を鋒鏑に置き原野に暴露するを致さしむこれを袍與の誼に揆るに能く惻惻の私無からんや是れ宜しく人民の趨嚮を鑑察し以て國內の紛争を除き政治の統一を促進し以て友邦の希望に協ふべきなりあらゆる前方在事の各軍隊は務めて當さに即日戰を罷め一律退兵すべくその各處地方の治安は均しく各該管軍民長官より隊を派して次第に接防し切實に保護すべしその土匪ありて治安を擾亂し及び軍隊の戒紀に遵はずして秩序に妨げある者は是れ國人の共に棄つる所なれば時に及んで戡定し民患を滋す勿れ本大總統は素と澹泊を懷き久しく政聞を謝せり祇だ邦人責望の殷んにして安危の關する所間、髪を岑れざるを以て勉めて鉅任を肩ひ時艱を挽かんことを冀へり歐洲勝敗の數を觀れば則ち公理の憑るべきを知る吾國禍亂の源を察

すば則ち民事の緩ふし難きを知る國交に對しては惟だ敦睦の誠意に本づき世界の和平を促進し從容樽俎大同に跂進するあるのみ内政に對しては惟だ工商主義を以て民生を培養し共和の正軌を以て法治を振興するあるのみ果して政綱をして畢く舉がらしめ國基として鞏固ならしめば衰朽の年冀くば同行の羣彦と共に太平を致し衣を拂國つて歸耕するを得んか實に至樂あり國歩はなはだ艱く時や再びせず共に上理を圖り早く浪勞を釋てん一切應さに辦すべきの事宜は各該管部迅速に籌議し施行を呈候すべし此に令す。

中日電話借款に就き

中日電話借款借換契約（原額三百萬圓を一千萬圓）には十一月十八日調印せられたるが、右資金を供給すべき我が特殊銀行團（興銀、鮮銀及臺銀）に於て金額を保管し、南北統一後交附すべき手筈となり居れりと、けだし當事者に於て我が政府の對支借款方針を諒とせる結果なり。



時報



内治外交

●調停と英米

廣東よりの情報によれば、廣東に於ける一部の人士は、此の際英米二國に南北調停を依頼すべく各方面に運動中なり、而して之れは梁士詒系及海軍側の一部によりて奔走されつゝあり、廣東に於ける兩院議員は十月三十日聯合茶話會を開き、護法侵害事件を討論し、各議員は交々起ちて永久合法的和議を主張すべきこと、徐世昌の退位を要求すべきこと、偽國會の解散を要求すること、昨年六月十二日の國會解散命令を取消すこと、等を議和の先決問題をなすべきこと、護法後援會を組織すること、前敵將士に實力討伐を督促することを主張し結局左の通り決議せり

第九卷 第二十三號 時 報

一、兩院議長の名義を以て全國に通電すること

二、代表を軍政府に派遣し平和促進に對する態度を問ふこと

三、米國々會に發電し永久的平和を希望するの眞意を聲明する事

四、護法後援會の組織と名稱を決定すること
尙ほ同日附を以て林森、吳景濂、緒補成、各議長の聯名にて徐世昌の罪を述べ、非法の議和に反對し法によりて解決すべく他に調和の餘地なしとの長文の通電を發せり更に米國に對する電報は、十一月二日國會聯合會長の議決を経て發することゝなれりと

●支佛協進會の決議事項 支佛協進會は、數日前北京に於て會議を開き、兩國各關係者多數出席して互に意見を交換せしが、其の結果大凡次の如き事項を決議實行する

ことゝせり。

(一)教育 (イ)佛文中學増設(ロ)佛文高等學校増設(ハ)佛文夜學校増設(ニ)佛文進信學校創設(ホ)佛文師範學校創設(ヘ)佛文醫學校増設(ト)佛語美術學校増設(チ)外交學校に佛語科増設(リ)佛人の爲に北京大學内に支那語科を附設す(ヌ)佛語學生の成績優良なる者は佛國に留學せしむ。

(二)科學 (イ)佛國の度量衡法を採用す(ロ)支佛學術聯合會發起の生物學院を促成す。

(三)美術 (イ)音樂院を創設す(ロ)美術學校を設立す(ハ)古物學院を設け、且古物を保存す(ニ)畫繪博物院を創設す。

(四)書籍 (イ)佛文教科書の刊行(ロ)佛國の名著を譯刊す(ハ)支佛兩國文雜誌を發行す(ニ)佛文書目錄を刊行す(ホ)支佛圖書館を創設す(ヘ)佛文書肆を設く。

(五)遊學 (イ)兩國遊學團を組織す(ロ)佛國留學生の採用を奨励す(ハ)便利留學生の團體を組織す(ニ)留佛學會の改良發展を圖る。

(六)僑工 (イ)僑工の教育(ロ)在佛僑工の優秀分子を撰擇す(ハ)僑工教育の教員を養成す(ニ)貯蓄會の發企(ホ)育兒院中より僑工を選送す(ヘ)支那に於て僑工模範校を設く(ト)在佛僑民協會を組織す

(七)實業 (イ)支佛關係の實業及び市政工程を促進す(ロ)兩國人の需給に應ずる爲、特に商店を設く(ハ)兩國物產の相互供給(ニ)佛國の物產を調査して、從來獨逸より供

給せしものに代らしむ(ホ)支佛興業會社の設立(ヘ)支佛兩國實業の發展策を研究す

當今支佛の國交極めて良好なるを以て、此機に乗じて、營業者は徒らに空論に馳せず、極力之が實行を圖る由なれば兩國親善の爲益する處蓋し尠からざる可し。

●上海和平期成會發起人會 豫て噂ありし上海和平期成會は、十月三十日午後二時、英租界一品香にて發會式を舉行せり、出席者は二十餘名にして、最初張鎔西君本會發起の理由を述べ、次に王幼山君起ちて天津平和期成會の成立及經過を報告せり、後會則並に電文等を研究し、事務所を佛蘭西租界蒲名路二十號に置くこととし、午後四時散會せり、尙當日上海商會よりは王一亭君總代として列席せしが、商會側にては又別個の行動を執るやも知れざればとて未だ賛否を明かにせざる由なり。(時報)

同會の會則は左の如し

(一)本會は民意の宣達を圖り平和を促成するを宗旨となす
(二)本會の事業に二方法あり、(イ)文字或は演説を以て國民主和の意見を傳播す、(ロ)電報、書翰或は代表者を派して南北當局者に向ひ、和平の勸告をなす

(三)本會は別に南北和議の條件を提出せず、但し本會々員は個人の資格を以て自由に意見の發表をなすことを得
(四)凡そ民國男子にして本會の目的に賛成する者は、本會々員の紹介を経て本會々員となることを得

(五)本會は會員中より若干名の幹事を推選し本會一切の事務を分擔せしむ、但し本會が未だ成立せざる以前は、

發起人中より數名を推して之れに任す。

(六)本會の經費は發起人及幹事より之れを負擔し、一般人に向して徵收せず。

(七)本會は和平告成の日に到れば即ち解散す

●張勳私產還附請願 張勳は最近奉天督軍張作霖、吉林督軍孟恩遠に依頼して、徐總統に向ひ、和蘭公使館に償還すべき保險費を要すとして、曩に沒收せられた私產の還附を請願せる由なり。(順天)

●熱河都統交迭說 滯京中なりし熱河都統姜桂題は十一月二日北京を發して歸任せり、外間傳ふる所に據れば姜都統は、特に山東督軍に榮轉し、熱河都統には現步軍統領李階平陞任し、李の後任には劉金柱擬せられ居ると、暫らく一説として掲ぐ。(北京公報)

●參戰主旨徹底命令 二十九日左の命令出で對獨參戰主旨徹底を命せり

民國六年獨逸潛船航艦戰を計畫して公法に違背し、中立國人民の生命財產を侵害するや、我國政府は人道及び公法を維持せんとする見地よりして獨國に向ひて抗議を提出し、次で其効無きや同年八月十四日獨國及び奧匈國に對して宣戰を布告せり、爾來既に年餘、我國民は武に在ると文に在るとを問はず上下能く宣戰の主旨を體し、一致して或は獨人の陰謀を密防し以て地方の秩序を維持し或は赤十字社の活動を助けて病傷兵士の救済に力め、或は多數の勞動者を歐洲に送るに軍器の製作補充に備へしめ、或は法を設け各省より穀物、家畜其他の原料品を輸

出して聯盟國に供給し、又は汽船の建造に力を盡して各國の船隻を補充する等、凡そ敵人を禦ぎて協商國の利益に關係あるものは、戮力進行を圖らざる無かりき、而して我友好聯盟の各國政府も亦我國の設施に對し、既に能く我實力を諒察し復能く我に與ふるに各種の便利を以てしたり、此れ我政府及び人民の深く感念する所也。且協商各國は屢々宣戰の主旨を敷衍して、人道及び世界の公法を維持し國際の平和と人氏の自由とを尊重する所以を明かにしたり、之れ復我政府及び人民の尤も熱聞せる所にして、最近數月以來高尙強毅の協商國軍隊は、連戰連勝數百里の戰場に於て日に俘虜を獲ること萬を以て數へ、城村を恢復すること十餘處其他軍械輜重の類を鹵獲すること實に擧げて數ふ可らず、敵軍の勢漸く衰へ既に講和の議あり、されば吾協商各國最後の勝利は既に豫期す可く、惟敵國軍隊が未だ完全に降伏せざる間は、我政府及び人民は各聯盟國を協助する義務あり、即ち一日だも懈怠ある可らず、凡そ各省地方の軍民は協商各國の代表者又は該人民に對して必ず各其力を盡し、以て戰爭最後の共同目的を達成するに努力すべし、本大總統は我國及び同盟各國の兵士が、西伯利亞に遠征し現に將に嚴寒に際し困苦具さに軫念し、特に北京に於て赤十字社義捐部を設け、冬期必需品の準備を計り出征兵士を協濟せんとす、又佛國政府は本月二十日より來月二十日迄戰事公債を發行すること、せり外電に據れば米國人民は既に數百萬の巨數を購求せりと云ふ、我國亦同盟の誼あり將に

棉薄を盡すべし、凡そ各省軍民人士は公益義舉に素より熱心なり、各踴躍して此等の事業を援けんか、將に著しき厚望あらん此に布告す。

財政經濟

●鹽稅餘款用途

十月分鹽稅剩餘金は銀行團より支那政府に返還するに決せるが其用途は左の如く定めたりと。(時報)

- 一、行政費補助 八十萬元
- 一、警察費補助 一百萬元
- 一、參戰經費 三十萬元
- 一、戰區接濟特別軍費 五十萬元
- 一、外交豫備費 二十萬元
- 一、中交紙幣買收 二百五十萬元

●山東財政窮乏

山東省財政窮乏の爲め各縣に於て前月特に各商人に交渉し、捐金一月分前納をなさしめ居れるの如き破天荒なる手段を執り、漸く今日に至り、今月分捐金は已に徵收するものなく、又復困難に陥りしが、豫て中央に懇請中の立替金五十萬元支出認可あり兩三日中に送金すべき旨來電ありたる由にて、當局者は一時焦眉の急を救ふを得るに至れりと云ふ。

●支那河川測量

支那全國水利局は國內各省の水利を振興せん爲、各河川の測量を兼ね、測候所様の機關を設立する計畫を立て、而して水害を防ぎ農作物の増獲を圖る

こととせるも、此際經費多額を支出する能はざるを以て、内務農商兩部會同の上、各省の中にて河務局農林機關又は水利機關等の設けある地方より先着するに決し、這次制定せる全國河川測驗辦法なる七ヶ條の規定に基き、漸次各省に普及する筈にて、其主なる執務は各該地方の降雨量各河の水位及流水流量等の測量より始め、治水工事に必要の施設をも爲す由。(時報)

●全國商銀は不認可

支那全國商會聯合會々長卡蔭昌氏等の企畫に係る、株式會社全國商業銀行設立願は農商財政の兩部打合の結果却下せり。(順天時報)

交通

●民國六年度支那郵便事業

民國六年度郵便事業に就て最近發表されたる所に依れば左の如し

郵便局の數は前清光緒三十一年には、四百三十七なりしもの、宣統三年には九百五十七、民國六年には千六百八十三となれり、又代理郵便局の數は光緒三十一年一千百八十九なりしが、宣統三年五千二百四十四、民國六年七千四百二十に増加せり、普通郵便物取扱數は、清光緒三十一年二千三百萬、宣統三年一億一千七百萬、民國六年二億七千八百萬、小包郵便取扱數清光緒三十一年三十一萬四千、宣統三年九十五萬五千、民國六年二百六十四萬、小包郵便物價格清光緒三十一年銀八百五十萬圓、宣統三年銀一百四百七十

萬圓、民國六年銀三千五百萬圓、切手賣上高清水緒三十一年銀百二十萬圓、宣統三年銀五百八十五萬圓、民國六年銀二千五百萬圓、又陸上郵便路程は光緒三十一年十二萬一千支里、宣統三年三十一萬九千支里、民國六年四十三萬二千支里なり、又汽船及民船に依る郵便路程は六萬八千六百支里、鐵道郵便路程一萬九千五百支里、陸上郵便路程四十三萬二千支里にしては、觀音堂(隴海鐵路終點)より新疆迪化に至る六千六百七十支里(二千二百二十三哩)是れ世界に於ける最も長距離なる陸上郵便路なり、庫倫より張家口に至る陸上郵便路は三千四百六十支里、(一千五百五十哩)四川省内郵便は毎日百二十支里より百八十五支里の間、遞夫は重量四十封度を擔ひ遞送するものにして、破壊されたる橋梁に懸れば、即ち郵便物を針金を以て對岸に渡すものにして急流中と雖も、未だ郵便物の流失せるを聞かず、其他牛馬又は駱駝に依り遞送するものなるが、途中匪賊或は無規律の兵士、又は野獸に襲撃せられ、危險に瀕せること尠からず。

●南京輕便鐵橋計畫 南京浦口間の連絡は目下小汽船を以てしつゝあるが、曩に滬寧鐵道總管より提出したる南京浦口間輕便鐵橋計畫の内容を聞くに、船隻を以て橋底とし、其の上面に鐵軌を敷設し、橋の兩端に各一大起重機を設け、貨車の上下等に便にするものにて、工事費百二十三十萬弗なりと、而して右工事は南京驛方面にて準備を進めつゝあるが、只起重機及橋柱等は外國に仰がざるを得ざるに依り、一時延期する筈なりと云ふが、當局者は向ふ一年

内に完成する計畫なりと云ふ。(神州日報)
●吉長墜道起工 吉長鐵道唯一の難工事なる土們嶺墜道工事は、前きに工費莫大なる爲め後廻とし、迂回線路を作りて開通したるが、今回關局長北京に赴き交通部と磋商の結果、愈々今冬内に着手するに決し、最近工事入札を行ひたる結果、大倉組に落札受負ふ事となれりと、其工費は三十七萬四千元にして、明年三月迄に竣工する豫定なりと。

鑛 山

●十月中認可礦產 支那政府に於て、本年十月中發給したる各省の礦產物採掘認可證は三十五通にして、内八割は炭礦及鐵礦なりと其詳細左の如し
△直隸省宣化縣筒山鐵礦二十四日龍煙鐵礦公司に
△江西瑞昌縣銅嶺山礦廿四日金還に
△奉天興成縣荆條山錫礦九日王德化に
△奉天康平縣廉三家子地九日礦商徐芳に
△湖南新化縣檀山灣鉛礦九日楊春に
△安徽貴池縣西三保洗馬潭炭井山炭廿一日陳英銳に
△安徽貴池縣鐵光冲大茅山炭礦廿四日阮確夫に
△江西萍鄉炭礦五日湖北官礦公署
△浙江義烏縛直嶺郭磚山弗石礦五日喻雨田に
△江蘇江寧縣北固山炭礦々十五日譚壽康に
△安徽當塗縣蝦蟆山鐵礦廿一日王敏庵に

- △安徽當塗縣龍家山展家山鐵礦廿一日
 - △安徽當塗縣大小馬山黃梅山等鐵礦廿一日倪炳文に
 - △安徽當塗縣巧山鐵礦二十一日倪炳文に
 - △安徽當塗縣代山鐵礦二十一日寧資愚に
 - △江蘇江寧縣湯泉鄉候涵山炭礦十五日陶紹保に
 - △湖北嘉魚縣米埠鄉琵琶山炭礦十五日張殿清に
 - △安徽宣城縣東沖團王村炭礦二十四日夏子幹に
 - △江蘇宜興縣金泉區炭礦五日陳和増に
 - △吉林磨石縣玻璃套生福屯鐵礦十五日孟小村に
 - △山東博山縣太平嶺炭礦廿四日王廷光に
 - △山東淄川縣青草溝炭礦二十四日張子岱に
 - △安徽繁昌縣趙家沖鐵礦十五日李偉侯に
 - △湖南東安縣白石崗錫礦十五日渠に
 - △奉天桓仁縣半截溝炭礦三十日孟凌雲に
 - △直隸省涿源縣馮家莊石棉礦三十日曲伯平に
 - △吉林縣大王嶺炭礦二十四日劉效曾に
 - △熱河隆化縣鷄冠山銅礦卅一日葉基勤に
 - △湖南湘潭縣荷葉塘炭礦卅一日周章林に
 - △直隸遵化縣黑土山炭礦三十一日任德洋に
 - △江蘇江寧縣泉山孔山鐵礦三十一日柳芝庭に
 - △熱河灤平縣三道溝孟家窩銀鉛鐵礦三十一日葉基勤に
 - △安徽宣城縣鳳凰山炭鐵礦三十一日劉炎に
 - △奉天安福縣泉水窩樓梯嶺炭鐵礦涂秉忠に
 - △安徽繁昌縣桃沖鐵礦倪道炯に認可
- 金剛石礦發見 山東省晉南條山の烏雲嶺は、産礦

豊富なるが、最近礦業家郭某は同山に於て金剛石礦を發見したるが、其採集せるものは黑色にして、能く硝子其他磁器等を鎖切するを得と、若し最新の採掘方法を用ゆる時は必ず純良なるダイヤを採掘し得べく期待し、目下外人技師に再調査を爲さしむべく、奔走中なりと云ふ、若し該礦なるに於ては江西崇山のラジエーム礦發見と共に、近來の大發見なりと云ふべし。

●齋堂炭礦開採 齋堂炭礦は愈々開採に着手すべく、資本金百萬元中、官株四十萬元は農商部及海軍部に於て各等分に負擔し、交通部持株は暫らく見合す事に決定せるが、官民合辦會社として督辦は略緒に就くを俟つて決定の筈なり。(順天時報)



彙報

自十一月一日至十一月十五日

對露關係

▲黑龍鐵道定期運轉か

(四日哈爾濱特派員發) 日本軍は一月初旬迄には貨車六百機關車八十五を解放することを約束したれば之と共に黑龍鐵道は定期の運轉を見るに至るべし因に別報にセミヨノフが既にハバロフスクより浦潮に着せしことを報ぜり。六日、朝日)

▲極東の各權限決定

(六日哈爾濱特派員發) 極東總督ホルワート氏極東露軍總司令官セミヨノフ氏烏蘇里哥薩克統領カルムイコフ氏黑龍州哥薩克統領ガモフ氏等の各權限に關して最近の浦潮會議並にセミヨノフ氏のハバロフスク行きに依りて相互の了解を得て大體に於て次の如き決定を見るに至りたるがセミヨノフ氏の獲得せし極東露領に於ける兵權と同じくホルワート氏の獲得せし極東の政權とが紛糾錯雜せる露領の軍事政治上に對して如何に活用さるゝかは最も利目に値すべし

(一)ホルワート總督は極東露領(後貝加爾は未定)一帯の行政權を有するも兵權を有せず但し露領土内と事情を異にする東清沿線のみは一定の守備兵を有することを得(二)セミヨノフは極東露軍の總司令權を有するも沿海黑龍兩州の各軍司令官に屬する將卒の任命小部隊の異動等一州に限れる軍事に關しては沿海黑龍兩州の司令官の權限を侵さず但し絕對に政權に干渉せず(三)烏蘇里哥薩克統領カルムイコフ並に黑龍州哥薩克統領ガモフは等しくセミヨノフ總司令官に隸屬するも其州内に止る軍事に關してはセミヨノフの司令を受けず(八日、朝日)

▲哈爾濱市場不活潑

(七日浦潮極東電報社發) 哈爾濱の株式取引所は運輸機關の解體平和の接近等の見越して不活潑なり又留は露費の見込

なり。(十日、朝日)

▲寬城子兵舍明渡問題

(八日長春特派員發) 寬城子の露國兵舍には目下支那兵を收容し居るも此際我兵七を收容するの必要あれば露國官憲より支那官憲に該兵舍の明渡しを要求するも支那官憲顧として聞き入れず之が爲に新山領事官補と普守備隊長は露國官憲と共に斐鎮守使を訪ひ兵舍の明渡しを交渉せり。(十日、朝日)

▲寬城子兵營明渡承認

(九日長春特派員發) 既報寬城子露國兵營の明渡交渉に對し支那側承認せし爲め愈我内地送還軍隊を同所に收容する事となり。(十一日、朝日)

▲極東總督府組織

(哈爾濱特派員發) 極東總督府の組織に關し十一月一日命令發せられたるが其主なる條件次の如し

一、極東總督府の所轄區域は黑龍州、沿海州、勸察加、樺太并に東清鐵道沿線一帯の地にして右地方は臨時西伯利政府の極東最高全權者(以下便宜上極東總督と稱す)に其統治を委任す

二、極東總督府の組織次の如し

(イ)民政及軍政の衝に當るべき二名の副總督を置く(ロ)前者は極東總督の推薦に基き臨時政府之を任命す(ハ)後者は陸軍大臣の推薦に依り極東總督の同意を得て臨時政府より任命す(ニ)總督府内に會議を設く(一種の諮詢機關ならん)(ホ)軍事副總督は極東司令官とす

三、極東總督不在の場合には副總督二名の中先任者之を代理することとす

四、極東總督の權限は次の如し

(イ)聯合國駐在露國代表者并に極東に於ける各國代表者と直接の關係を保ち極東に於ける露國の利益を擁護す(ロ)裁判官を除くの外總ての官公吏會計檢査院官吏、黑龍銀行員等を監督す(ハ)土地組合並に都市自治團に對しては州及各執政官を通じて之を監督す

五、極東總督は其權限の一部を副總督其他に委任することを得

六、極東總督は一般の命令及政府内の極東諸官衙より發せる事務規則を監督す。(十一日、日)

▲露境派兵決議

(十日北京特派員發) 參戰義務に關する協商國側の警告に鑑みる所ありし爲めか九日の閣議にて露國國境に一個師の兵を派遣す

る事を可決し参戦督辦處及び庫倫部議使に其旨通告せり併し果して實行し得るや否やは疑問なり。(十三日、朝日)

外交關係

▲南北調停發議

(北京特電二十九日發) 章駐日公使より北京政府に達したる電報に曰く日本政府は英、米、佛諸國が支那南北の妥協に關し干渉の意味にあらずる好意的勸告を試みんとする企てあることを聞き自ら支那に於ける優越權を有し且隣國の誼に關し指導的位置に立たんことを欲し左の四項目に就き英、米、佛、伊諸國と協議中なりと、

(第一) 世界の大勢に従ひ聯合國は共同して支那の統一平和を達成せしむる爲友誼的調停を爲すこと

(第二) 廣東軍政府は未だ交戦團體と認められざるも調停に便する爲聯合國は同時に南北双方の首領と交渉すること

(第三) 調停案の詳細は聯合國の手許にて起草し南北首領に送付すべく同時に支那國民の猜疑を避くる爲内政干渉の意思なきことを聲明すること

(第四) 聯合國は支那の統一平和を見ざらば如何なる借款も之を起すことを差控ふること。(一日、日々)

▲大統領對支策片鱗

(二十九日國際社華盛頓發) 米國大統領ウィルソン氏は國會に對し某支那人の陸軍大學入學許可の決議案通過を要請せり此の事に對する共同決議案は兩院に提出せられたリウィルソン大統領は國會に宛てたる書翰中に述べて曰く此の決議案の通過に依りて支那政府は我國の好意を諒とすべしと。(一日、朝日)

▲敵人取締警告

(北京特電二十九日發) 參戰以來支那は聯合國に對する援助の言ふべきなきのみならず其官吏中には却つて敵國に好意を表するが如き行動あるを遺憾とし聯合國公使團の間に協議中なりしが大體意見一致せしを以て近日具體的事實を擧げて警告すべく其内容左の如し

支那政府は聯合國反對の嫌疑ある獨逸人の拘留を約しながら前獨逸銀行支配人コルテス前井陘炭礦總辦ハンネツケン等著名なる嫌疑者を逸し殊に天津警察署長楊以德はハンネツケンを庇護する形跡あり又黑河道尹黑龍江旅

團長が過激派に加擔し便宜を與へたるは不都合なり支那政府は宜しく之が取締りに任すべし。(一日、日日)

▲支那政府緩怠

(北京特電三十一日發) 英國公使は聯合國を代表し三十日支那政府に對し支那政府若くは一部の支那官吏が參戰以來聯合國の利益に反せる行動を執り獨逸に便宜を與へし事實十二箇條を列舉したる覺書を交附したるが聯合國の意圖は表面上支那政府をして參戰の義務を自覺せしめ聯合國の利益を尊重せしむるにあるも某々國は支那が内亂に没頭するは外交上由々しき問題を惹起するの虞ありとなし國內の平和促進を希望するものと認むべき節あり本問題が公使會議に上り居る事を探知したる支那政府は一面南北妥協の促進を圖り他面九日總統布告を發して聯合國援助の義務を詳述する等専ら聯合國の感情を融和するに努めたる爲聯合國も最初は警告の形式にて支那政府の怠慢を責むる意見なりしも多少態度を和けて警告の形式を避け聯合國が不満を感じる箇條を列舉したる覺書を交付するに止めたるものなり但し本問題は支那今後の態度如何に依り再燃するやも知れず。(二日、日日)

▲對支覺書內容

(北京特電一日發) 既電の聯合國側より提出せし支那參戰義務不履行に關する覺書十二箇條の内主なる箇條は(一)義和團賠償金を戰爭に用ゐたること(二)參戰督辦處を設置せるも有名無實なること(三)聯合國の投資せる鐵道が廉土匪に襲はれしこと(四)聯合國の同意を得ず羅馬法王に公使を派遣せんとせしこと(五)敵國人取締及財産管理の不十分なること(六)對敵通商條約を履行せざること(七)黑河道尹が過激派と通じ居りしこと(八)敵國人拘留の寛大なること等にして最後に支那が參戰の義務を完全に履行する能はざる時は歐洲平和會議にて聯合國と同等の權利を主張すること能はざること等なり。(三日、日日)

▲米國の内爭中止勸告

(上海特電一日發) 駐米支那公使顧維鈞氏は北京政府に對し左の如く打電せり
米國國務卿ランシング氏は大統領ウィルソン氏に代り内爭をして是引かしめ之が爲支那が戦後に於て國際上の地位を失ふなからんことを希望せり。
(三日、日日)

▲覺書提出経緯

(北京特電一日發) 聯合國公使より支那政府に交付せる十二箇條の覺書は最初各公使打揃ひ徐總統に面謁し正式に警告の形式を

取る議ありしも斯ては支那の面目丸潰れとなるに付支那側より正式に提出を避けられたる旨聯合側に懇請し非公式に交付することとなるものにして随外交總長は一日聯合國側に向ひ聯合國が支那の希望を容れたるを謝し今後十日間の猶豫を請ひ該覺書に列舉せる事項に就き相當の處分をなし聯合國の希望を空しうせざるべきを告げ聯合國側は支那政府が誠意を以て事に當るを諒とし靜かに成行を待つ事とせり。(四日、日)

▲哈爾濱に軍事裁判設置 (北京特電二日發) 協商側の要求に依り支那は哈爾濱に軍事裁判を設置して敵國人或は其の間諜を處分する事を承諾し一日其の旨英國公使に回答したり。(四日、時事)

▲日本對支策好評 (上海特電三日發) 在東京支那公使章宗祥氏は北京政府に打電して曰く章士釗及び唐紹儀に對し日本は支那が統一さるゝまで南北に論なく決して投資せず又義和團事件賠償金を返却するの交渉も内争止むまで開始せずと宣言せる爲め在東京英米佛各大使は共に此宣言に對し驚しく甚た満足せりと。(五日、時事)

▲英米公使の忠告 (上海特電三日發) 去る一日英國公使は陸徵祥氏を、米國公使は徐世昌氏を訪問し警告のこと及び時局解決に就き忠告する所ありたり。(五日、時事)

▲日本砲艦出發 (重慶特電二十六日發) 重慶碇泊中の日本砲艦は湖北に向へり官民の見送り盛んなり。(五日、日)

▲支那金本位の決議文 (三日國際社香港發) 東京商業會議所派遣委員山科禮藏氏等一行はオレゴン州ポートランド市に向け出發したり一行は出發の前日當地處々を見物し加州大學を觀覽したり此の大學は當市及び他國の商業界に地位を占むる多くの人々を始め有力なる日本人の多くが教育を受けたる處なり一行は當地に來るや第一に日本聯合商業會議所六十聯合決議文を桑港商業會議所に交渉したり決議の趣意は支那銀本位を改めて金本位となすの運動を開始したと云ふものなるが山科氏は曰く

此決議文は米國の各商業團體に交付せらるべく我等一行は米國商業界有力者の賛成を得て此の運動を起し米日支の本位貨幣を同基礎に置かんことを願ふ果して然るを得ば將來米國と東洋との商業關係を簡易にし東洋の大利源を開發するに最大手段たらしむべし

一行の新波名譽書記は曰く

一行の桑港訪問の重要な結果は桑港商業會議所と彼我商業會議所の協力に關する取極をなし得たる事なり此の取極に依り双方互に力を併せて相齎することを得んこの協力の詳細方法は一行が他市及び他州を訪問中に確定せらるべく當地に歸來するの日には完成を見ることを得んと。(六日、朝日)

▲徐樹錚氏一行 (北京特電五日發) 大演習觀戰武官徐樹錚氏一行は愈五日午後日本に向ひ出發せるが徐氏語りて曰く

予は由來各方面の猜疑を受け居れるが成るべく政治運動に關係せざるやう爲し居るも實會議開催の際何等かの陰謀を企つるが如く噂され迷惑を感じ居る所へ大總統より日本大演習參觀を命ぜられ喜び之を受けたり渡日後は探々に所信を述べ了解を求むる積なり。(六日、日)

▲ハンネツケン抑留さる (天津特電七日發) 最近當地に於て物議の種となり居りしハンネツケンは遂に支那官憲の抑留する所となり今曉四時支那巡警十名に警護せられて北京に送られたり。(八日、時事)

▲佛支協進會の決議八項 (北京特電六日發) 過日來開會中なりし佛支協進會は左の決議をなせり

- (一) 北京に圖書刊行會を組織し佛國の古書を刊行すること
- (二) 佛語學生を試験し優等生を佛國に留せしめ其費用を給すること
- (三) 佛支兩國相互學者を派し專門的研究をなさしめ其費用を補助せしむること
- (四) 北京に國際問題研究の佛語學校を設立す
- (五) 佛國人の支那語研究學校を設け大學の翻譯を許すこと
- (六) 佛支文の雜誌を發行すること
- (七) 古物學會を起し古物保存研究をなすこと
- (八) 佛支博物館音樂堂佛支圖書館を創設すること。(八日、日)

▲覺書實行説明 (北京特電十日發) 外交總長陸徵祥氏は十日英國公使ジョルダン氏を訪ひ聯合國の覺書十二箇條に對し政府は夫々切實に處理しつつある旨事實を擧げて説明し各公使に傳達を請へりジョルダン公使は大體に於て聯合國側は支那の誠意を諒とせると尙未完了の箇條を遽に履行せられたと答へたり。(十二日、日)

▲英國皇帝親電 (十二日北京特派員發) 英國皇帝は徐總統に親電を以て「對獨休戰條約は既に調印を終れり是れ協商國に人道の爲に戦ひ最の勝利を得たるものにて謹みて祝賀の意を表す」と述べ來れり。(十四日、朝日)

▲國際委員設置未決 (北京特電十二日發) 米國公使フインシュ氏が徐總統に意見を提出せし件は米國側にては否認せずされど其内容は新聞の報道するが如く劇く激烈ならず尤も國際委員會設置問題が外交團の間に於て問題となり米國も其主なる主張者たることは事實にして十二日の公使會議にも本問題提出されしが重大問題なれば急に各國の意見一致する能はず何等纏りたる結果なく未決の儘散會せりと。(十四日、日日)

南北情勢

▲大總統布告

(北京特電二十九日發) 二十八日大總統布告を以て參戰以來支那が敵國人の陰謀を防ぎ赤十字に義損し職工苦力を歐洲に送り原料品、糧食家畜等を補給し聯合國の利益を圖ることに努力せしこと聯合國も支那の實力を察し種々の便宜を與へたることを述べ次に最近聯合國が戰勝の著しきを祝し敵國既に講和を提議せしも断然降伏を見ざる間は支那政府及人民は聯合國を援助するの義務あり一日も怠るべからずと説き西伯利遠征軍の冬籠りを助くる爲特に北京に赤十字社を設け義損金を募ること及人民をして佛蘭西の戰勝公債に相當の引受を爲さしむること等を詳述したるがこは聯合國が支那參戰以來援助の言ふべきなきを責め警告を與へんとするを聞き之が緩和策を兼ね平和會議に參例の機會を作らんとする手段なりと解せらる。(一日、日日)

▲廣東軍政府の宣言

(北京特電二十九日發) 廣東軍政府は二十八

日左の宣言を發せり

徐世昌が新國會の選舉を受け大總統の偽職に就きしは國憲を棄すものなり然も今尙國民を欺き統一を唱へ民主政策を述べ文明を虛飾するは段々援助するよりも其罪大なり軍政府が法を護り亂を平ぐる責任は之に依つて益々重大を加ふ茲に徐世昌の民國を破壊するの罪を聲明し民國をして眞正の共和國たらしめんことを期す。(一日、日日)

▲南方派の妥協條件

(上海特電三十一日發) 張繼曾氏を中心とせる上海の政學會派は天津の和平期成會と相呼應し同地にも和平會を組織せん計畫中なりしが最近王家襄氏も同運動に加はり三十一日午後張繼曾、王家襄孫發緒氏等集會の上和平會に就き協議を凝せり之に對して上海の強硬派は全然之に反對し張繼、孫洪伊氏等は和平は希望なるも如何なる條件を以てせんとするや和平會は先づ其條件を明かにするを要すと説き政學會との間に何等の聯絡なきが如く三十日戴天仇氏が和平期成會の發起人の一人たる溫宗堯氏に書を送り其變節を責めたるに見ても彼等と政學會との關係を知るべし今日迄明かにせられたる所に據れば南方派の和平條件左の如し

一、徐世昌の總統を取消す事

二、國會及總統に就ては督軍團の國會破壞運動前即民國六年三月前の狀態に復する事

三、舊國會恢復再び總統を選舉し内閣を組織する事。(一日、日日)

▲張孟兩督謁見

(北京特電三十一日發) 張作霖、孟恩遠兩督軍は三十日總統に謁見し更に段參戰督辦を訪問し東三省の軍事に就き報告する所ありたり。(二日、日日)

▲唐紹儀總理に打電す

(上海特電一日發) 唐紹儀氏は徐世昌氏に對し約法を守り舊國會を恢復し新國會を排除す可き機打電せりと云ふ。(二日、時事)

▲四省議會の通電

(北京特電三十一日發) 山東、河南、黑龍江、福建四省の省議會は民意を代表し平和主張の通電を發したり。(二日、日日)

▲小幡公使好評

(上海特電三十一日發) 當地民黨は小幡公使の新任に對し多大の満足を表し居れるが是れ一に林前公使に對する反感に基き一は小幡氏を原内閣に依り聲明されたる新對支政策實行の適任者と認めたるに因る民黨の大部分は小幡氏と面識あり。(二日、日日)

▲各省督軍會議々題

(三十日上海特派員發) 今同の北京に於ける各省督軍軍事會議の議題は(一)時局に對し一致の方針を取る事(二)土匪を鎮壓するの計畫を定むる事(其の理由は各省土匪の狀態は異り中央も共同の辦法を指定し能はず故に各省に於て其省の狀態に従ひ其の方法を定めんとす)(三)内閣を改造するに先ち各督軍の同意を求むる事(四)軍器問題を時局收拾前に

一致し中央地方となく之を分割すること等其の主要問題なり。(三日、朝日)

▲内閣一部改造 (北京特電一日發) 新内閣員承認案は參衆兩院に提出されたるが靳雲鵬氏を陸軍總長に、陸宗輿氏を財政總長に任命するの件は既に夫々本人の同意を得内務總長は錢能訓氏兼任するか專任者を選任するかは目下交渉中にて其他の總長は異動なし尙梁士詒、周自齊、朱啓鈴氏等は本日入閣せざる意思を表示し新内閣の承認に同情的援助を與ふべしと。(三日、日日)

▲龍軍南軍に投ず (上海特電一日發) 十月二十八日附報告に據れば龍濟光軍の南軍に投降せるもの一營一聯、近く投降せんとするもの一營其他投降の議を爲すもの極めて多しと。(三日、時事)

▲張家口商埠決定 (一日北特派員發) 張家口を商埠として開放するの件は三十一日の國務會議を通過せり。(三日、朝日)

▲山東署理督軍の任命 (北京特電二日發) 一日命令にて張樹元を山東署理督軍兼省長に任命せり。(四日、時事)

▲天津署長轉任 (北京特電二日發) 天津警察署長楊以繼はフオン・ハンネッケンを投獄せざりしとの聯合國の通告に接したる結果政府は同人を天津より轉任せしむるに決したり。(四日、時事)

▲安福派の分裂 (上海特電三十一日發) 安福俱樂部交通部の一人なる增祺氏(梁士詒氏派)は同會より分離して七號俱樂部を組織したり。(四日、日日)

▲戰捷祝電發送 (北京特電一日發) 一日參議院議員何炎森氏の提案に依り中華民國々會の名を以て英米佛三國に祝捷の電報を發する件を討議せしが三國に限りず協商國全體に宛つる事に修正可決せり。(四日、日日)

▲廣東兩院茶話會決議 (二日北京特派員發) 廣東兩院聯合茶話會は三十日開會され護法問題を討論し次の決議を爲せり

- 一、代表を軍政府に派し和平問題に對する態度を問ふ事
 - 一、米國國會に打電し永久平和を希望するの趣意を聲明する事
 - 一、護法後援會を組織する事
- 尙同日附を以て林葆懌、孫文、伍廷芳及び兩院議長連名にて徐世昌の罪を述べ非法の議和に反對し時局問題は法によりて解決するの外他に調和の餘地なしと述べたる長文の通電を發せり。(四日、朝日)

しと述べたる長文の通電を發せり。(四日、朝日)

▲平和會議組織提議 (北京特電一日發) 陸榮廷氏は徐總統に打電し個人としては平和を希望するも此問題は個人關係にて私議すべきものに非ざれば總統より代表者を出し平和會議を組織し公議に待つを可とす提議し來れり。(四日、日日)

▲張懷芝罷免 (二日北京特派員發) 張懷芝は山東督軍を罷められ張樹元が署理督軍に任命されたるは張の意外とする所にして彼は是に對し憤懣措かず一日保定に去れり督軍の免職は近頃容易の事にあらざりしに徐世昌の就任早々此事に出でしは頗る果斷の處置なりとさる。(四日、朝日)

▲宣戰追認案贊成 (北京特電二日發) 二日衆議院にて錢總理以下各總長出席し對獨逸戰案に就き説明を爲し次で一議員は最近外交團よりの通牒の眞否を確め總理之を是認するや之に警告を與へ終りて宣戰追認案の投票を爲すや二百四十四名中無効二票を除き全部之に贊成し國務總理同意案は政府より協議會に提出の筈なりしが安福俱樂部は副總統問題解決さるまで同案に同意する能はずと反對せる爲め政府は同俱樂部と意志の疏通を得るまで中止さる可し。(四日、時事)

▲時局變則解決策 (北京特電二日發) 國會問題解決方法として新舊國會議員中より舊組織法の定員だけを抽籤にて選拔し新國會を組織し他は補缺候補者となすべしとの議あり徐總統も贊成の意ありと。(四日、日日)

▲徐總統の招待會 (二日北京特派員發) 二日午後徐總統は參衆兩院議員及び在京中の督軍連を招待し盛宴を張れり徐總統は其席上に於て施政方針を演説し參議院長梁士詒答辭を述べたり。(四日、朝日)

▲官紀振肅訓令 (北京特電三日發) 徐總統は官紀振肅に關する長文の命令を發し廉恥を重んじ貪婪を戒め使すものは嚴罰に處すべしと訓令せり。(五日、日日)

▲電報速達訓令 (重慶特電二十六日發) 交通部より四川當局に對し既に交渉中なれば唐繼堯氏其他各首領の北京政府に送れる電報は遲延せしむる勿れとの通知を發し來れり。(五日、日日)

▲平和期成會大會 (北京特電四日發) 三日午後湖廣會館にて平和期成會創立大會を開き熊希齡、孫寶琦、梁士詒、蔡元培、莊蘊寬、王兆惠、張一

廣、王克敏氏等二百三十名出席熊希齡氏を假議長に推し同氏開會の主旨と經過を述べ谷鍾秀氏會則及綱領を宣布したる後投票に移り熊希齡氏二百二十二票にて會長に蔡元培氏百三十八票にて副會長に當選せり。(五日、日)

▲正式内閣成立難 (北京特電三日發) 正式内閣問題に關し安福俱樂部は總理及び閣員の同意を副總統問題解決と交換せんと主張し研究會は錢總理には反對せざるも曹汝霖、陸宗輿に反對の氣勢を示し討論會は海軍の劉冠雄に反對の態度を執り居れば今後政府と政黨との間に十分意志の疏通を要す可く成立愈々困難となれり。(五日、時事)

▲廣東國會強硬決議 (上海特電三日發) 廣東國會は若し徐世昌總統の地位を退かず又北京の國會を解散せず黎元洪國會解散の命令を取消さざる間は和議の談判に應ず可からずと決議せり。(五日、時事)

▲廣東軍政府の回答 (廣東特電二日發) 廣東政府は北京の平和期成會に對し左の如き回答を發したり

吾人の希望する平和は平和を基礎としたる永久的のものにして決して一時的のものたるべからず希くば諸公之を諒せられよ思ふに現下の混亂に處するの途は唯護法運動あるのみ故に我等は合法的に共和國を建設せんとす而も此目的の爲に一年以上に亘りて吾人が爲したる平和的努力は徒勞に歸したり然るに今や諸公は共和國として義務を盡し民國を救出せんとす問題解決の日も遠からざるべし我等は南北互に協力せんとするに至りたるを喜ぶ

(五日、日)

▲徐世昌討伐通電 (上海特電二日發) 十一月一日廣東國會硬派議員百二十名は連名にて南方各省に徐世昌討伐の通電を發す其内容に云ふ吾人は法治國の實を擧ぐるに尙ほ多大の決心を有し彼の非法總統と姑息の妥協を結ぶが如きは一部人士の野心を満たすに過ぎず假令外國の勸告ありとも一時の僞調和を求む可からずと徐世昌年來の行動を非難し最後に其奸を除かずば官僚武人の害毒遂に蔓延すべからず吾人は一致して徐世昌討伐を行ふ可く一時の苦痛を忍び國家萬年の基を求めんことを期す可し云々と別に吳景濂、林森連名にて徐世昌の非法行為を擧げ真正の平和は徐世昌の爲めに根本より破壊せられ目下妥協の聲全國に著く彼等は支那國民の弱點たる所以及び雷同性を利用し陰謀を圖らんとしつゝあり然も我護法各省軍政府の將士至誠自己を

知り人を知るが故に姑息の議和に動くことなし外問之を察せず誤解せんことを虞れ特に記す云々といへり。(五日、時事)

▲護法後援會運動 (上海特電二日發) 廣東國會の強硬分子は兩廣、雲貴、四川、湖南、湖北、陽西、江西、福建、浙江十一省各階級の有志を連ね國會議員を中堅として軍隊評議會を併せ護法後援會を組織せんと奔走中なり之に對し軍政府側一部は是れ軍政府の職責に抵觸すといふ者あるも議員は相繼立して護法の効果を擧ぐ可しとして軍政府と意志疏通を圖り居れり。(五日、時事)

▲譚延闓の三要求 (上海特電三日發) 譚延闓氏は左の三項を北京當局に要求す

(一)停戰命令を發布すること
(二)立法を維持すること
(三)西南の人物を正式内閣に入ること。(五日、時事)

▲真正の和局を希望 (上海特電三日發) 廣東國會兩院は左の決議を通過せり

一、米國に對し南方の作戰と米國對獨作戰と同一主義にして今和平の聲全世界に著く及ぶ南方は真正の和局を望む米國と同一なるを聲明する事
二、西南各省に對し必ず永久の和局を得るの必要を聲明し之を得ずば寧ろ再び犠牲を拂ふを辭せざる事是なりと。(五日、時事)

▲奉天省議妥協促進通電 (四日奉天特派員發) 奉天省議會は北京總統府國務院及び廣東軍政府參衆兩院に宛て南北妥協を促進すべき電報を致せり其要に曰く

國會解散以來南北兵を構ふること二年百政此が爲に疲弊す若し猶ほ相峙して確執せば亡國の慘痛を免れ難し目下南北の論なく國內名達の人多し各團體等しく平和を主張せり當路の諸官達に輿情に従ひ政争を止めよ切に望む云々。(六日、朝日)

▲張懷芝氏悶ゆ (北京特電四日發) 山東督軍の地位を奪はれたる張懷芝氏は不平を抱きて天津に去り援粵軍總司令をも免ぜられたしと請願せり。(六日、日)

▲山東督軍陸任 (濟南府特電四日發) 山東督軍の地位を何人が奪ふ

べきかは種々臆測されつゝありしが昨日張而陳氏は護理督軍兼省長署理に陞任されたり。(六日、日日)

▲唐督軍の論駁 (上海特電五日發) 雲南督軍唐繼堯氏は錢能訓氏の事實問題を先にして法律問題を後にすべしとの主張に對し之を論駁し是種法の精神を無視するものなりとて強硬に反對の意を表せり。(七日、日日)

▲砲臺引渡要求 (北京特電四日發) 福建寧波の艦隊は督軍李厚基氏に向ひ砲臺引渡を要求し既に大體の要部を取外せり。(六日、日日)

▲海南島の講和交渉 (上海特電五日發) 海南島にては龍軍代表は軍刀令沈鴻英と會見、和を請ふの條件を提出し瓊州の龍軍を撤退し以て地方安寧を保つを願ひ沈鴻英は龍軍の武裝を收取取り二箇月以内に北軍に送り返すことを要求せりと云ふ。(七日、時事)

▲梁内閣否認 (北京特電五日發) 梁士詒氏は内閣組織説を否認し總統より何等相談を受けず錢能訓氏が安福俱樂部の反對に遭ひ辭意あり田文烈氏を後繼者に推薦しつゝあるが田氏は北洋派の先輩なれば安福俱樂部も反對せざるべしと語れり。(七日、日日)

▲徐世昌單獨折衝 (上海特電五日發) 北京來電に曰く徐世昌氏は二日降参廷、唐繼堯、劉湘世、熊克武に宛電報を發せり其内容は極秘なるも事實問題解決を協議するものにして徐世昌氏は彼等と單獨に折衝しつゝありと。(七日、時事)

▲兩鎮守使新任 (北京特電五日發) 混成第十六旅團長馮玉祥氏は陝西鎮守使に第七團第十四旅團長吳新田氏は岳陽鎮守使に各任命せられたり。(七日、日日)

▲岑春煊和議代表 (北京特電六日發) 徐總統が南方に派遣せる張使節は昨夜歸京今朝錢總理に謁して復命せる結果錢總理は長文の電報を直に李純氏に寄せ西南諸省は既に岑春煊氏をして和議代表と定め妥協交渉を爲さしむる善なれば迅速和議取計らひを依頼し唯民黨の一部が反對するも顧慮するに足らず云々と。(八日、時事)

▲福建軍現狀維持命令 (上海特電六日發) 北京參陸處は福建督軍李厚基氏及び福建に在る浙江軍司令童保楨氏に對し攻勢を執らず現狀を維持し中央の解決を待つ可しと電命せりと。(八日、時事)

▲上海の期成會 (上海特電七日發) 當地平和期成會は人を天津に派し北京天津の平和期成會と聯絡を取らしむることとせり。(八日、日日)

▲停戰令發布見合 (七日北京特派員發) 各方面より停戰令發布を要求し來りたるにより徐總統は督軍連の意見を盡したるに彼等は皆停戰命令は早晚發せらるべきものならんも先年停戰命令出でたる際南軍に棄ぜられ岳州陷落せる例もあれば慎重にすべきものなりとの意見なる故徐總統も其時機にあらずとし當分是が發布を見合すべしと。(九日、朝日)

▲武昌長沙綿物騒 (漢口特電七日發) 武昌長沙線は普通旅客に開放せられたるも車中軍人充塞し横暴を極むるに依り旅客極めて少し最近婦人を殺し顔の皮を剥きて車外に捨てたるあり。(八日、時事)

▲西藏軍優秀 (北京特電七日發) 四川境界にて西藏軍を防禦中なりし川邊鎮守使陳運勳氏は敵の勢力に壓迫され雅州より江安に退却せりと。(九日、日日)

▲王天縱氏敗る (漢口特電七日發) 襄陽第三十五聯隊は二十八日王天縱氏の兵を撃破し白河(陝西省境)を占領せり王氏は目下四川省夔州にあり南軍は重慶會議の結果目下續々長江を下り巫山に入りつゝあるも双方戰意なく平和に傾き居れり。(九日、日日)

▲講和會議參與可決 (北京電報八日發) 八日參議院開會出席議員百十一名重なる議案衆議院より同附の憲法會議組織合議の爲め兩院聯合會開催の案を協議せしが主和派は極力延期説を主張せるも結局十一日開會に決せり尙委員を歐洲に派し講和會議に參與の準備を爲さしむとの政府の建案は秘密會に附し審査したる後可決せり。(十日、時事)

▲援粵總司令部員引揚 (六日漢口特派員發) 武昌に在りたる援粵總司令部執法處員は張繼芝の命に依り僅に數名の監視員を駐めたるのみにて天津に引揚げたり該部員の談に據れば總司令張繼芝免職されたるを以て進退を共にせんとするものなりと。(九日、朝日)

▲北軍に進撃を禁ず (上海特電八日發) 四省經略使曹錕氏は前敵將士に對し進み攻むる勿れ防禦を忘るなかと命令せりと。(十日、時事)

▲直隸救濟會組織 (上海特電八日發) 天津の紳商は歐洲戰爭救濟會直隸救濟會募金部を組織し曹錕氏を會長に曹錕氏邊守靖氏を副會長に選めり

といふ。(十日、時事)

▲姑息の平和不可 (北京特電八日發) 廣東來電「政務總裁會議の結

果軍政府は平和期成會の平和勸告に對し姑息の平和を以て一時の安を偷むを廢し法に依り永久の平和を求め護法の目的即ち真正の共和政治を恢復するにあらざれば不可なり」と返電し舊國會も平和を渴望するも法に依る永久の平和を主張し一時的平和には賛成せずと返電せり。(十日、日日)

▲主和派の妥協意見 (北京特電七日發) 熊希齡、梁士詒、汪大燮氏等は時局解決方法に就き

第一 平和會議を中立地帯に組織(上海又は南京)する事
第二 停戰命令を發せず事實上の停戰をなす事
第三 岑春煊氏を西南の總代として平和會議に出席せしめ徒に空論を唱ふる分子は願慮せざる事

等を協議し各方面の同意を求めつゝあり。(十日、日日)

▲汪大燮の奔走 (上海特電八日發) 徐世昌氏の命に依り汪大燮氏は天津に赴き黎元洪氏と會見し時局に對する意見を訊ね且つ天津の和平期成會の各領袖とも折衝する所ありたり。(十日、時事)

▲九龍鐵道訴訟審理 (八日香港特派員發) 廣東九龍鐵道に關して起る訴訟事件を審理する爲め特別臨時裁判所を廣東に設置したり。(十日、朝日)

▲妥協の前途遼遠 (上海特電九日發) 在北京、廣東軍政府秘書官陳嘉謨は岑春煊氏の非正式代表なるが其語る所に曰く北京に於て先づ事實を決し法理を後に圖る可しとの議は岑春煊をして堪ふる能はざらしむる所のものなり蓋し兩軍の主戰派は之を以て岑を攻撃す可ければなり余は吳總統府秘書長、國務院秘書長を訪問し説くところありしも妥協に至るには尙ほ前途遼遠なり云々。(十一日、時事)

▲平和期成會會員募集 (漢口特電十日發) 五督軍の意見に依り一時見合せたる當地和平期成會は昨今商務總會及び各團體聯合會主唱となり會員を募集し居れり。(十一日、時事)

▲軍政府義捐 (上海特電十一日發) 廣東軍政府は五萬元を支出し協約國に義捐することに決し且つ各省に返電し共同義捐をなし協約國に對し親

善を計るべきを以てせり。(十二日、日日)

▲外交稽査會 (上海特電十一日發) 廣東軍政府は新に外交稽査會を設置する事に決せりと。(十二日、日日)

▲巡閱使以下任命協議 (上海特電十日發) 北京政府は陸榮廷氏を兩江巡閱使、譚浩明氏を廣東督軍、李繼漢氏を廣東省長、陳炯明氏を廣西督軍、莫榮新氏を廣西省長、陳炯明氏、李烈鈞氏を護軍使、林虎氏、陳光遠氏劉志鵬氏、方聲濤氏を鎮守使と爲すの議を出し陸榮廷氏の同意を求めつゝありと。(十二日、時事)

▲閣議和平に同意 (上海特電十日發) 北京來電に曰く和平期成會は政府に建議し南北速かに代表を派し平等の形式にて時局を商議するを以てし閣議之を通過し徐世昌氏も之に賛成し議の中央地方不對等の主張を放棄せり田文烈氏、錢能訓氏は此事を平和會に答へたりと云ふ各國公使は若一二箇月内に時局決せざれば干涉すとの北京電報あり。(十二日、時事)

▲上海の和平會 (上海特電十一日發) 當地に新に中華民國促進和平會なるもの出現し南北停戰を趣意とし和平の目的を達せずんば止めずと云ひ其大會を開き南北に和平促進を請願すると共に代表を選び南北に直接請願せんとする旨を公表せり。(十二日、日日)

▲段氏心事を語る (北京特電九日發) 段祺瑞氏は各督軍を參戰督辦處に招き

余は政界を退き専心參戰事務に従ひ居れるを以て政治に容喙せず従つて和戰の意見を述べず唯支那の中心人物は徐世昌を除き他に人なし諸君は徐總統を輔け中心人物たる實を擧げしむべしと演説したる後參戰に關し種々打合を爲せり。(十二日、日日)

▲和平監視商定 (十日上海特派員發) 國務院は前敵司令官に對し中央は各督軍と和平を監視すべく商定せり但し解決を見る迄各地の防守尙聊かも怠るべからず是停戰令の代りを爲すものなりと。(十二日、朝日)

▲和議交渉の形式 (北京特電十日發) 趙炳麟氏は十日徐總統の旨を受け岑春煊氏に電報を送りて曰く總統は南北和平に關し尙ほ具體的政見なし故に條件に就ては未だ何等云ふ能はざるも唯だ南北對等の和平會議に至りては威信の上より總統は頗る考慮し居れり若し會議の形式を避け得れば交渉な

進め得可し。(十二日、時事)

▲李薩停戰打電 (十日上海特派員發) 福建督軍李厚基福建全省清鄉事宜監督辦薩鎮冰は北京政府に打電し前敵各軍に進攻を停め七日双方とも停戦を實行し軍隊は土匪討伐に用ひ居れりと。(十二日、朝日)

▲湖南紳商要請 (上海特電九日發) 湖南省の紳商等譚延闓氏を代表として北京に赴かしめ張敬堯氏の湖南督軍を革め奉天軍を撤退せしめ吳佩孚氏を以て善後事宜を處理せしむる事を北京政府に要求せしむる事となり譚延闓氏は七日既に北上せりと。(十二日、日刊)

▲憲法起草委員會組織 (北京特電十一日發) 十一日午後參衆兩院協議會あり出席者、參議員九十四名衆議員二百十四名にて過半数に達し討議の結果滿場一致にて左の決議をなせり一週内に參衆兩院より各三十名宛の委員を選出し憲法起草委員會を組織すること。(十三日、時事)

▲奉天軍の輸送 (漢口特電十一日發) 河南省信陽より鄭州迄の鐵道は信陽駐屯の本天軍を範圍に輸送の爲一週間前より全部使用され居れり。(十三日、日刊)

▲漢中も亦陷落す (漢口特電十一日發) 陝西省漢中陷落し官軍東へ退却す。(十三日、時事)

▲陝西省寶慶陷落す (漢口特電十一日發) 陝西省寶慶陷落し西安急に迫る武昌よりは九日北軍第四混成旅を白河に輸送し居れり信陽より鄭州までの貨車は信陽駐在の本天軍を範圍に輸送の爲め一週間前より全部使用せらる。(十二日、時事)

▲和平會議贊否區々 (上海特電十二日發) 北京來電に曰く張作霖氏は徐總統と疏通を得て和平會議に反對せざるも只南京、天津、上海の三箇所に於て之を行ふことを不可とし孟恩遠氏は天津にて之を開き各省より各二三人の委員を出す可しとなし熊希齡氏は南北各一定の人数を推舉す可しと云ひ熊氏の説に賛成するもの頗る多きも段祺瑞氏は此和平會議に對しては頗る不快の意を表し居れり但し輿論の趨くところ段氏も之を阻止非難するの法なしとあり又和平期成會は北京にて南北會議の建議を採用する旨を表示せるに止まるが故に公文を以て更に南北會議の地及び代表として派する人数等を質問せりと。(十三日、時事)

▲陸氏の返電 (北京特電十一日發) 陸榮廷氏は徐總統に向ひ法律及事實の兩問題は同時に論議するを避け速に平和會議を組織し同會議にて法律、權利、體面、威信等の諸問題を一方に偏せざる様決議すべしと返電せり。(十三日、日刊)

▲南方省長民選議案 (十二日上海特派員發) 廣東國會議員は省長民選議案を國會に提出し先づ縣議會にて初選し省議會にて複選せしめんとするの案なりと。(十三日、朝日)

▲軍政府の和平會議取締 (上海特電十二日發) 廣東軍政府は各省和平會議に對し左の如き取締法を設けたりと通告せり曰く護法各省は軍政府の許可なく和平會議を設け軍事を妨害す可からず他省より派遣したる和平會議委員は許可なくして護法各省に入り運動するを得ず若し擅に之を犯すものは問議を以て之を論す許可を得たるものと雖も軍政府は常に其行動を監視す可し云々と。(十三日、時事)

▲督軍連說服さる (十二日北京特派員發) 入京中の各督軍は徐總統より風殺に漸次說服せられ十日を以て其會見を終れるが結局督軍連は軍人なれば政治には容喙せず政治上の事は總て徐總統の指揮を俟ち主和方針には敢て異論を唱へざることに一致せりされば之れにて形式的會議は開かずして各督軍は退京するに至るべし。(十四日、朝日)

▲和平會議開催決定 (北京特電十二日發) 十二日國務會議に於て最近陸榮廷氏より來れる電報及び其他各方面より來れる和平電報を參照し時局問題を討議せる結果兎に角南北和平會議を開くことに意見一致し錢總理は直に李純氏に長電を發し譚延闓張勳と協議の上妥協の方法を政府に請願せよと申されり。(十四日、時事)

▲北軍攻勢抑止命令 (漢口特電十三日發) 國務院は武昌に訓令して曰く西南の討伐令は敵人の過激派の主張に過ぎず決して我が態度を變じ南軍に對し攻勢を取る可からず妥協問題は在野の調停者の協議を待てるを待ち双方より代表を出し議定することとなる可しと。(十四日、時事)

▲北將戰地にて病死 (上海特電十三日發) 江西省第二混成旅旅長兼廣東征伐副司令たる汪興全氏は前敵地にありて病死し第五混成旅旅長鄭孝蘭氏一時之が代理を爲し居れりと。(十五日、時事)

▲議和は尙ほ遑遠 (上海特電十四日發) 徐謙氏は曰く唐繼堯氏より約法の効力及び舊國會を完全に恢復し得る見込みあらば現政府に一切を託すとの來電ありしは事實なり然れど誠意なき北方を相手として之が實現を期するは容易ならず従つて上海に議和會を開くが如きは時期尙ほ遑遠なりと。(十五日、時事)

▲議和速開を督促す (上海特電十三日發) 熊希齡氏は徐世昌氏に對し平和會議を速かに開かんことを督促せるに徐世昌氏は尙ほ意志の疏通を爲す可き要ありと答へ熊希齡氏は何處と意志疏通するかと問ひしに徐氏は明白せず數日後、之を知るを得可しと答へたりと。(十五日、時事)

▲北方遂に讓歩 (北京特電十三日發) 十三日錢總理は徐總統に謁し平和會議に關し協議の結果南方の主張に讓歩し法律問題と事實問題とを同時に協議する方針に決せるか平和期成會長熊希齡氏は右方針の下に廣東軍政府に向け北方は既に一致して平和會議を開くに決せり南方も一致して之に應ぜられん事を望む反對者に對しては特に意思の疏通を圖られし外交の形勢切迫せる今日若し此機會を失ひ解決せざれば遂に外國の干渉を招く懼れありと打電せり尙右平和會議開催地に關しては平和期成會は上海を選び張作霖氏は是非共天津に於て之を開會すべしと主張し居れり。(十五日、日日)

▲陸軍改編實行 (十四日長春特派員發) 十三日長春を通過せる孟督軍の隨員張扶餘縣稅捐局長の談に依れば北京政府は先頃孟督軍の新設せる吉林第一師を承認せざるを以て孟督軍は今更に政府に對し從來の吉林陸軍第一より第五までの混成旅を廢止し右五箇混成旅を以て四個師に改編するの申請を爲せり政府は之を近く承認すべし而して第一師長には高士賓、第二師長に斐其勤、第三師長に高鳳城、第四師長に陶詳貴を任命すべしと尙吉林保衛團は右の四個師内に編成さるべく陸軍改編の實行及び其他の事は督軍歸任後發表さるべし政府は右改編と共に機關銃十二門、野砲若干、小銃二萬挺を日本より購入の手續き中なり。(十五日、朝日)

財政關係

▲金券は無期延期 (北京特電三十一日發) 大總統徐世昌氏は金券案

期延期となさんことを内閣に就得せり。(二日、時事)

▲紙幣回收便法 (長沙特電三日發) 紙幣回收及現金吸收法として惠民有獎票を發行することとなり一等當籤三萬圓、二等一萬圓、三等五千圓より十三等まで當り籤あり二回に分ち發行し總額一千萬圓なり當籤外のものは半年後償還の規定なり。(五日、日日)

▲穀類輸出稅問題 (北京特電三十一日發) 露國は滿洲より西伯利亞方面に輸出さるる穀物及び穀粉に對する輸出稅賦課を以て千八百八十一年の條約千九百十年の哈爾濱協約、東清鐵道協約及び其の他の露支協約に違反するものと主張する所ありしが支那政府は當地露國公使に送れる覺書に於て露國側の主張を容認せり然れども是以支那の他の部分に於て同様の課税をなすこと及び輸出入稅徵收の爲め稅關以外の機關を用ふることに對する一般外國側の抗議を解決するものにあらす牛莊に於て數年前穀物に對し輸出稅を課せること及び上海に於て穀粉に對し五分の輸出稅を課せることは現在の如き複雑なる狀態を惹起せし第一步なりしものなるが如く斯かる狀態は之を一掃せざる可からず。(二日、時事)

▲陳氏借款反對 (廣東特電三日發) 攻閩軍總司令官陳炯明氏は福建省より廣東省議會、教育會、商務總會等へ左の意味の打電をなせり
遠法福建督軍李厚基は嶺山を擔保とする借款を起せるがこ福建省を賊ふものなり故に廣東軍政府を説きて日本滯在中の代表者に命じ日本と改めて協議せしむるのみならず福建及び廈門海軍に對し協力して反對する様打電せしめ而して更に廣東にある福建省民をして會議を開かしめ北京にある同省民に打電し借款契約を取消す様當局者に要請せしめ其問題に對し諸君の協力一致せる反對運動は余の命する所なり尙諸君に於て名案あらば開示せられたし。(五日、日日)

▲電話借款行惱 (六日北京特派員發) 十月二十五日交通部と駐日實業公司との間に調印されたる電話借款一千萬圓の再契約は同公司以右資金を調達すべき日本銀行團が日本政府の對支方針を更に依り當分右調達を見合ふことになりたる結果同借款は行儀みの狀態にありと。(八日、朝日)

▲鹽稅剩餘金交附 (北京特電八日發) 聯合國銀行團は既に日本が戰爭中支拂に貸付けたる短期幣制改革借款二百萬磅に對する第一同月賦返費額

として鹽稅剩餘金中より五十萬弗を支拂ひたる上本日右鹽稅剩餘金殘額五百三十萬弗を無條件にて支那政府に交付せり。(十日、時事)

▲幣制借款の延期 (北京特電九日發) 財政部は昨日銀行團に對し千九百十一年の幣制借款契約を更に六箇月即ち明年四月まで延期することを承諾し尙ほ金券條例に關しては今後雙方間に討議研究する旨回答せり又外交團に對しても略同様の回答ありたり。(十一日、時事)

▲郵便貯金條令可決 (八日北京特派員發) 交通部にては近く郵便貯金を開始する筈にて同條例二十二箇條七日の閣議にて可決せり。(十日、朝日)

▲米國に借款引受を求む (上海特電十日發) 北京來電に曰く政府は米國に銀行團に加入し三億圓の善後借款を引受くることを請ひたるが右は其三分の一を以て一年來の諸借款及び日本の前渡金を償還し其他を以て軍隊休養及び實業振興の用に充つ可きを條件とすと云ふ。(十二日、時事)

▲米國の對支活動 (十三日北京特派員發) 日本が對支借款を打ち切りたる結果支那財政は忽ち窮迫を告ぐる事となり陸宗輿は一旦財政總長に擬せられたるも財政上成算なしとて之を辭退し曹汝霖其他日本に好意を有する人々も頗る逡巡の態となれり然るに一方米國公使ラインシュ氏は此機を利用して親米的氣分を鼓吹するに努め要路者に對して各種方面の運動怠りなく親米派の連中は之に依つて勢力を得んとし場合に依りては對米借款に依つて急場を急はんとする意向も見ゆ若し之れが實現を見ることとならば日本が支那南北統一に資せんが爲め借款打ち切りを聲明したる誠意も水泡に歸するに至り今日財政部要路者の言に依るも日本の借款打ち切の爲財政窮迫し南方との妥協は成べく急を要する際なれば眞に支那の時局の重大を思ふ者は米國の對支活動に就き特に注意を要す。(十五日、朝日)

經濟關係及其他

▲長沙の暴動 (長沙特電三十日發) 北門外の貧民米屋に迫り不穩の形勢ありたるも警察隊の鎮壓にて暴舉に至らず解散せり原因は米價の騰貴と

言はんよりは寧ろ紙幣の下落に基因するものなれば尙此風潮は繼續すべし。(一日、日)

▲徐氏佛國債應募 (北京特電三十一日發) 大總統徐世昌氏は佛國軍事公債に對し五十萬法の應募を爲せり。(二日、時事)

▲我取引所を難す (上海特電二日發) 當地舊國會議員は昨日より評議會を開き左の電報を北京政府に致すを協議せり

貿易商は一國經濟の中樞國脈民命に關するもの至つて深し現に日本人は上海に取引所を設立して各種の交易を經營し我國權利を侵す之より甚だしきはなし交易を査するに外國人は之に加入するに正に制限を加ふ可しと況んや外國人が我國内に取引所を設立するが如きは斷じて座視す可からず昨日日本公使に之が抗議を提出して期限を定め之を取消さしめ以て國權を保ち商利を全ふせしむ可しと然れど右は法理を知らざる一般無識の言なる爲め何等の影響なかる可しと云ふ。(四日、時事)

▲食鹽一億萬斤輸出 (北京特電二日發) 日本は最近支那に對して食鹽一億萬斤輸出を求めたるにより本日國務會議に於て之を許すに決せり。(四日、時事)

▲湖南湘江減水 (三十日長沙特派員發延着) 湖南湘江減水し日清汽船航路も今同にて終航とならん軍艦一隻増水迄碇泊に決せりと。(六日、朝日)

▲北漢線の發着 (漢口發外務省電) 京漢鐵道北京漢口間直通列車發着時間表十一月一日以後左の通り改正せり

午後十時三十分北京發、翌々日午前七時漢口着、午後十一時十分漢口發、翌翌日午前七時三十分北京着。(九日、日)

▲獨亞銀行清算論議 (三十日倫敦特派員發) タイムス上海通信員は獨亞銀行の清算問題を論議し獨逸商業組織の礎を其儘存置しながら戰後獨逸の對支貿易を制すべしと云ふも愚の極なり特に北京政府が今日尙獨逸銀行の理事コルデス・フィツゲ等に左右せられつゝあるを見れば支那を斷然覺醒せしむるの要切なるを覺ゆと。(五日、朝日)

▲江蘇米輸出拒絶 (六日北京特派員發) 江蘇省議會は日本より最近再び支那江蘇米の輸出を要望し來れるに對し特別會議を開きて討論したるが

江蘇の北部土匪の被害甚だしきを南部の米作本年は豊饒ならずとの理由を以て日本の要求を拒絶し依然輸出を禁止するの決議を爲せる旨中央に返電し來れりと。(九日、朝日)

▲米人湖北鐵山採掘運動 (十一日漢口特派員發) 湖北省象鼻山の

鐵山は曩に湖北官鑛公署總辦金鼎が湖北官錢局より一萬甲文を支出し大冶の黃石港に到る輕便鐵道を敷設し開採せんことを上申し農商部の許可を得たるが會辦曹寶江は米國商人アンダーソンネーヤー即ち慎昌洋行と軌道の購入技師招聘等の假契約を爲し更に米國商人と數百萬の借款を結び純洋式を以て開採せんと欲し目下上京運動中なり。(十三日、朝日)

▲銀價漸落 (十三日奉天特派員發) 休戦を見越し數日來漸次低落したる銀價は十四日金百圓に對し支那銀貨日十元に下り尙目先崩落の模様なり。(十五日、朝日)



支那

第九卷 第二十四號

要目

論說	南北妥協と列強の勸告……………一—四
資料	支那に於ける居留地研究……………五一—一
	支那銀行關係法規……………一一—一五
雜錄	保晉鑛務公司事情(二)……………一六—二二
	支那と列強との關係(二)……………二三—二七
	支那に於ける聯合國の調停必要……………二八—三一
彙錄	湖南の食鹽缺乏……………三二—三三
	支那銀行用語……………三三—三四
半月史	半月間の支那重要事件……………三五—四一
時報	支那最近時事要項……………四二—五〇
彙報	支那關係諸報道……………五一—五九

東亞同文會調查編纂部

商標



用仙鶴牌束
子刷洗炒勺

註冊

官許
專賣
仙鶴牌束子

製造
發售
本舖

大日本東京

西尾商店



本舖開設以來研究多年專造束子遠近名馳嚮請官許專賣此貨用鐵絲編椰子纖維而成之價值格外從廉堅牢無比兩面均可耐久使用鎖路日見增加輸出外國實為不鮮各家庭各工場以外一切從農工漁業者代用刷子一日亦不可缺之要品也其用途廣大必費述凡掃除洗刷等等非用此品不可於各家廚房洗刷一切最為清潔衛生早一日用之則有一日之利實為理想的要品特此謹告即請購備為荷

請立刻函致本舖試用實為至盼



開紙

用紙包裝封如此能可完全預防塵埃實為衛生而美觀且使用利便

尺 寸

第一號	長四寸二分	橫二寸八分
第二號	四寸八分	三寸
第三號	五寸四分	三寸三分
第四號	六寸六分	三寸六分
第五號	七寸八分	四寸二分

賜宮內省御買上之光榮

專賣特許

仙鶴牌束子（龜の子束子）の用途は頗る廣汎にして厨所用に限らず百般の工業養蠶畜產業船舶用其他ブラシ代用の洗滌器として需用益々擴大し尙海外に輸出せらる

東京市本郷區眞砂町

本舖

西尾正左衛門商店

電話小石川 九五二番
九五三番
振替口座東京六六〇八番

● 福 日 本 南 先 生 著 ●

● 二 十 一 版 ● 賜 天 覽 臺 覽 ● 二 十 一 版 ●

千古の快舉たる赤穂義士の復讐は時の古今を問はず國の内外を論
ぜず人の齊しく仰ぎ見て生ける龜鑑となすものなり本書は文壇の

元禄快舉録

雄豪日南氏の刻苦多年天下を周遊して諸種の材料を蒐集し
椽大の筆を揮て一氣に之を敘述せるもの考証精確探討詳密
幽を闡き微を穿ち行文流暢情趣無盡一讀烈士の風貌に接す
るの感あらしむ蓋し近者稀に見るの快著なり好評噴々縮版

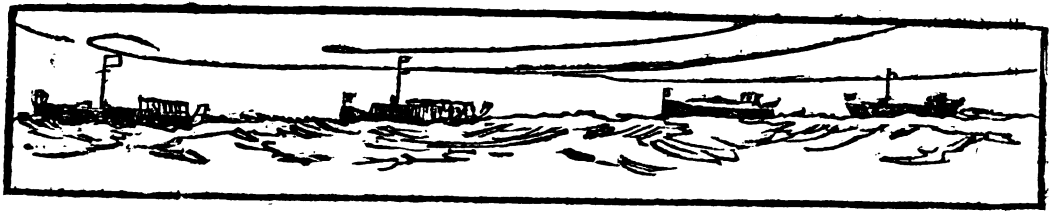
袖珍元禄快舉録

以來既に二十一版忝くも 天覽の光榮を荷ふに至れり義徒の精神
義舉の真相本書を俟つて始めて明にすべし……………



三上判美顔本函入總六號
な付一十餘頁寫眞數十面入
定價金壹圓四拾錢
送料金八錢

菊上判美顔本函入總五號
な付二十八頁寫眞數十面入
定價金參圓也
送料金二十錢



大正七年十二月十五日發行
「支那目次」第二十九卷
第二十四號

論說

南北妥協と列國の勸告……………一——四

資料

支那に於ける居留地研究……………五——一一

支那銀行關係法規……………一一——一五

雜錄

保晉鑛務公司事情(二)……………一六——二二

支那と列強との關係(二)……………二三——二七

支那に於ける聯合國の調停必要……………二八——三一



彙錄

湖南の食鹽缺乏……………三二——三三

支那銀行用語……………三三——三四

半月央

萬國委員會論、英米の總爭勸告説、軍政府停戰命令、廣東の平和期成會、段派の蠢動、妥協勸告、南方の和平會議開會主張、支那の總和條件、山東民政撤廢……………三五——四一

時報

(内治外交)

支那の總和準備——青島還附を要求す——領事裁判權撤去問題——青島同收還議案——山東民政官問案——團體債金免除問題——關稅剩餘金と軍政府——進行中の善後協議會——安福派の現状と前途——組閣問題と安福派——和平會議と議和代表——徐氏平和策の大綱——岑春煊氏の意見——徐樹錚と借款——大借款交渉の風説——電話借款條件……………四二——五〇

(財政實業)

彙報



菱印窓硝子

製品種目

品質一等ヨリ五等迄厚
サニ耗ヨリ四耗迄
透明板、摺板、小紋板
色硝子、簾板、結霜板
外に耐火煉瓦及臂達灰

東京丸之内

旭硝子株式會社

第一工場 兵庫縣尼崎
第二工場 福岡縣戸畑
第三工場 神奈川鶴見
第四工場 福岡縣枝光
煉瓦工場 兵庫縣尼崎
曹達工場 福岡縣戸畑

東亞同文會調查編纂部編纂

再訂 支那全圖

縱五尺一寸 横四尺四寸 七色刷映入

大正七年版

定價貳圓也

郵稅(内地八錢 海外三十錢)

東京赤坂溜池二番地

發行所

東亞同文會調查編纂部



大正七年十二月十五日

第九卷 第二十四號



南北妥協と列強の勸告

一

聯合國北京駐紮公使は、支那政府に對し、南北妥協につき、凱切なる勸告を與へたり、支那人民は業既に數年に亘る内争に飽き、南北兩派の首領も亦互に敵手を屈伏せしむべき成算なく、所在協妥を希望するもの輩出し、加ふるに歐洲大戰終熄し、平和の空氣世界に瀰滿せる際、支那上下の最も畏憚する聯合國が、南北妥協を勸告せるは、極めて其時機を得たるものとして、吾人の大に賛成する所なり。徐總統は聯合國の勸告に遭ふや否や、北洋主戰派の首領たる段祺瑞氏を始め、要路の人々を招集し、開議を催したるに、一人として反對を唱ふるものなく、南方と交渉を始むることに決し、尋て田文烈氏を擧げて代表委員と爲し、近日南京又は上海を卜し、南方派代表と交渉を試むべしと云ふ。

二

南北妥協は、支那の内政に屬し、他國の干涉すべきものにあらざるは勿論にして、妥協の方法條件其他につき、一切之を南北兩派の爲す所に任すこと、外國の義務たるに相違なけれども、之を支那の爲すが儘に放任すれば、何時妥協成立すべきや、殆んど豫測し難く、之が爲め支那人民をして、永く内訌に苦ましめ、外國殊に支那と密接なる利害を有する日本は、少なからざる惡影響を被むるべし。從つて列強は南北妥協を勸告せしと同一趣旨に依り、内政干涉の譏を受けざる範圍に於て、南北兩派の意思を疏通し、妥協促進を助成する方法を講ずること必要なるべし。列強として、先づ第一に考ざるべからざるは、何人を中心とし、妥協を成立せしむべきやの問題なり。若し主戰論者たる段派と、極端なる民主々義者たる孫派とを中心とし、妥協を成立せしめんとせば、河清を待つと同じく、百年を経るも其目的を達し得べからず。徐總統は重厚の君子にして、衆望を負ひ、遂に支那の元首に選ばれ、南北妥協を熱望するものなるに依り、同民を中心と爲すこと當を得たるもの、如し。而も同民の旗下に屬すべきものは、曹汝霖、陸宗輿一派に過ぎずして、實力の觀るべきものなければ、同氏の努力丈にて、何事をも爲し得ざること明白なり。知らず、何人を以て中心と爲すべきや。

三

南北妥協の中心は、之を支那輿論を代表すべき公平なる意見と、妥協を成立せしむるに足るべき實力を有するものに求めざるべからず。支那に於て實權あるものは、兵力を擁する督軍其他の軍人に外ならざるが、彼等の内、從來妥協を主張し、又は之に反對せざるものは、北方にありては前總統馮氏を首領とする直隸軍人派、南方にありては廣東軍務院派、及長江の三督軍ならざるべからず。彼等の間には、夙に靈犀一點相通するものあれば、聯合國が其間に斡旋し、意思を疏通せしむること、決して困難にあらざるべし。徐總統と岑春煊氏は、兵力を有せざるも、前者は一國の元首にして、後者は軍務院の首領に係り、共に輿望を擁ひ居るものなれば、若し列強にして、長江督軍及直隸軍人派をして徐總統を擁戴せしめ、兩廣雲貴の督軍團をして、岑春煊氏を擁戴せしめ、兩者の代表者をして、隔意なき交渉を遂げしむることに周旋せんか、案外速かに妥協を成立せしめ得るやも亦測り知るべからず。

四

支那人民は、猜忌嫉妬心深く、自己及自己の黨派の利害を第一位に置く傾きあれば、一黨一派に偏し、妥協の成立

を求むべからざるは勿論、妥協の便宜を計り、或一派を排斥すること亦不可なり。従つて列強は、南北の兩極端派たる段祺瑞孫逸仙の與黨をも忌避することなく、法を設けて慰撫戒飭を加へ、北京政府をして北方派を統一し、廣東軍務院をして南方派を取纏めしめ、南北一致の形式の下に、妥協を成立せしむことを心掛けざるべからず。若し然らずんば、南北孰れかに兵力を以て妥協に反對するもの出づる虞あり。而も支那政府には之を鎮定するの實力なく、聯合國にして其軍隊を使用するときは、極端なる内政干渉となるべく、旁非常なる面倒を惹起すべし。されば妥協の中心人物は之を選ばざるべからざるも、形式は飽くまで南北一致たらざるべからざるなり。

五

如何なる條件に依り南北を妥協せしむべきやは尋て研究せざるべからざる問題なり。南方派は舊約法に依る舊國會を召集せんことを主張し、北方派は修正約法に依る新國會を承認せしめんことを主張し、其主張餘りに懸隔し、妥協點を發見すること容易ならざるの觀あり。況んや利害と體面とに汲々たる支那人に、互讓の美果を求めんとするに於ておや。されど、常識に富み融通の利く支那人のことなれば、南北一致の形式の下に妥協を交渉せんか、双方の體面

を毀損せざる妥協案を考へ出すこと、必ずしも困難にあらざるべし。舊約法は實行上大不便あり、而して共和を基礎とする新憲法を制定せざるべからざること、内外人の齊しく認むる所なるに依り、南北代表者をして新憲法を起草せしめ、現北京政府の召集したる國會をして之を承認せしめたる後、該國會を解散し、新國會を招集すること、或は妥協の一便法ならんと思はるゝなり。されど、歐洲大戰終熄し軍國主義なるもの一敗地に塗れ、侵略主義なる露國の如きは、數十萬年を経るも再興すべき見込なく、支那領土保全確保せらるゝことゝなり、最早内訌を連續するも版圖を喪失する憂なきに至りたることなるに依り、妥協の成立を見らるまでには、多少の曲折を経ることなるべし。

六

南北妥協成立し、新憲法の下に新國會召集せらるゝとも之を以て支那の統一と看做すべからざること勿論なり。支那の統一を現實にせんには、所謂軍民分治なるものを斷行し、各省督軍の兵權を中央に奪回せざるべからざるなり。各省督軍なるものは、我邦舊時の各藩と同一視すべからざること論を待たざるも、各々大兵を擁して地方に蟠まり、概ね省長即ち民政長官の職を兼ね、假令之を兼ねざるものも亦、省長を蔑視して自ら行地權を握り、殊に陸榮廷、張

作霖、倪嗣冲の徒は、數萬の家子郎黨を有し、擅に管内を支配し、妄りに中央政府に干渉し、苟くも意に滿たざるものあるときは、何時にても中央に反對することを辭せず、宛然唐時の藩鎮の如し、彼等は地方的利害に依り互に聯盟し、張倪兩氏は、直隸の曹錕、山東の張懷芝と結び、北洋督軍團を組織し、陸氏は雲貴の唐繼堯、劉顯世、兩廣の陳炯明、譚浩明等と結び、南方督軍團を組織し、江蘇の李純、江西の陳光遠、湖北の王占元等別に長江督軍團を組織し、南北の間と介在せり。彼の北洋元僚派と稱し、南方民黨と名くるものは、外觀上南北の勢力を代表するもの、如くならも、其實督軍團を後援にし、蠢動するに過ぎず彼等督軍團は、眼中既に中央政府なく、又國會なく、自己及與黨の利害より打算して行動し、何人之を制御すること能はざるものなれば、假令南北妥協するも、軍民分治を斷行せざる限り、督軍の跋扈依然として舊の如く、到底支那の統一を望むことを得べからず。我邦の諸侯は、奉公の念厚く、三百年來領有し來りたる版圖を朝廷に返納したりと雖ども、支那督軍團に兵權奉還を望むは、木に攀り魚を求むると同じかるべし。中央政府が督軍の兵權を奪回するまでには非常の苦心を要すべく、列強より多大の後援を藉らざるを得ざるべし。

七

抑も支那は有名なる家族主義の邦にして、其制度たる、古來の希臘羅馬と其接を一にし、道德、宗教、政治、經濟、等皆家族制度を基礎として組織せられたるものに係り、國民生活を始めとし、有する組織制度歐米諸國より遅るゝこと數百千年に及ぶ。其内最も進歩したる商業に於てすら、歐洲中世に行はれたるギルド制度を根柢にし、カウフ、ハウスに依り内地交易を爲し、外國人すら清初に行はれたる十三洋行制度に基きコンブラドルに依り、支那人と貿易を營む有様なり。然るに支那は歐米に於て進歩其極點に達し其弊を矯むべき必要ある個人主義を基礎としたる諸制度を輸入し、而も特殊の事情に依り、米國に發達したる共和政體を樹立せんとす。小學生が一躍して大學に入ると一般非常の困難あるは勿論にして、假令督軍團より兵權を中央に奪回することを得たりとするも、容易に其太平を望むことを得べからざるなり。南北妥協は既に困難にして、督軍より兵權を奪回すること更らに困難なり、支那の秩序維持に至りては假令不可能にあらずとするも、至難中の至難たり、知らず南北妥協を勸告したる列強は、支那秩序維持につき、何等の成算ある。人道問題の高唱せらるゝ今日、蒸蒸日上四億萬の黎民を塗炭より救済する方法につき攻究することなくして、徒らに南北妥協のみ喋々する、可ならんや、不可ならんや。



資料



支那に於ける居留地研究

定義

『英國臣民及び其家族が、安全且つ何等の拘束を受くることなく、廣東、福州、厦門、寧波、及び上海の各都市に居住するために、永遠の平和と友誼に對する條約を規定す。從つて該土地及び家屋は—その使用料或は價格は、兩者共強制することなく、普く國民一般に通用せる割合に從つて、正當に且つ公平に、取り定むべきものなり。—地方官吏これを領事に通牒して、特に設定し置くべきものとす。』

右の簡條は實に現今の居留地及び外國租界の起原をなすものなり。

國際貿易及び居住の目的に對し協定せられたる地域に四種の區別あり。(一)專管居留地 (Co cession) 即ち借地國に對しその國民の居住の爲め、永代許與の行爲に依り、譲り渡されたる地にして、該地域は支那君主の統治權外に屬

し、借地國の統治の下にあるものとす。(二)共同居留地 (Settlement) 即ち諸外國人の居住の爲めに擇びたる地域にして、該地域内に於ては、或種の目的の爲めに、自治團體を組織し、彼等の選出せる代表者をして、支配せしむることを得。(三)自開商埠 (Voluntary Settlement) 即ち或港に於て、外國人の居住の目的を以て、支那自らが一時的に公開したる地にして、該地の市政及び警察權の管轄は、依居住方官廳に任すべきものとす。(四)默許に依る外人の定を地 (Settlement by Sufferance) 即ち屬地君主の正式の協の權俟たずして、居留民が一箇の自治團體を形成する默諾然地利を得たる土地なり。

法律上の地位

是等の地域は、次の二つの見地より、これを觀ることを得べし。即ち外國自治團體に依り運用さるべき權力如何、

而してかくの如き裁判權の性質如何、これなり。正當に論ずる時は、この二箇の問題は一の項目の下に纏むるを得べきものなれど、明瞭を期する便宜、上各別に取扱ふことを得べし。

外國人自治團體の權力範圍、國際上の居住地として或土地を指定する行爲は外國人が支那に於て貿易をなす希望を増進する目的を以て、設計せらるゝを以て、彼等の自治團體の權限は制限せられたり、而してこの土地の地域内にありては、外國人は共通の目的を増進する爲め、最良と思惟する統治機關により、彼等自身を支配し得べき特權を賦與せらる。然しながら、この許諾は該地域内に住居せる外國人をして、單に屬地君主の屬人的裁判權より免るゝを得るのみにして、支那君主は、別にその大權を保留するものなり。千八百六十三年八月六日、北京に於ける外國代表者が上海在住の納稅者に對し、發したる訓令中に、工部局の權限に付き規定せる處次の如し。

(一)如何なる領土上の權も借地者側の公使の手を経て直接これを支那政府より取得して設定せらるべきものとす。

(二)工部局の目的に供せらるゝ道路、警察、及び保稅に關しては單なる工部局の事項以外に亘るべからず。

(三)現に外人に雇傭せられ居る以外の支那人は、支那の市街に於けると同様、全然支那官憲の支配下に屬すべきものとす。

(四)各國領事は自國民の統治及び管理の權を有し工部局當局者は單に公安に對する違犯者を捕縛しその事件の場合

に従ひ支那又は他の國の各當局者に引き渡し告發するものなり。

(五)この工部局の組織中には、支那人より成る一機關ありて、これに對し或る附託をなし、支那住民に關する準則に對しては、その承引を得べきものとす。

裁判權の性質 工部局の行使する權能は屬人的のものにして、屬地的のものならず。その權能は工部局の目的に供せらるゝ道路、警察課稅等の單なる工部局の事項に限らる。居留地は、該地域内の土地をその權利を受くる國の政府に讓渡することを表示するものにあらすして、外國臣民の便宜を計り、支那政府が別にその臣民の使用に供せし地なり。此代表機關に圍繞せられたる土地は、支那の主權に從屬して、依然支那の領土たり。而して、該地域内に居住せる外國人の法律上の地位は、この地域外にあるものと同一にして、該地域内に不動産を有する外國人は、同様に支那政府に對し地租を收むべきことを要す。支那人より成る機關に關する條項は、嚴密には行はれず。然れども、年々三名の代表者が支那商業團體より選出せらる。是等代表者は、工部局に於て、商業團體を代表するものにあらすして、彼等の同胞國民に關する問題に付き、工部局の協議に與るべき權威ある人々として、その職掌を司るものなり。此の事實は、國民の負擔する苛酷なる課稅に想到する時不平均なる支那の社會と共に吾人の常に堪へ難き苦痛とする處なり。斯の如き不公平なる事實は一日も速にこれが改訂を希望して己まざるなり。

該地域内の支那人の地位 該地域は國際貿易及び外國人居住の目的を以て保留せられしものなれども、決して此地より支那人の退去を迫る意志なし。千九百八年蕪湖の外國領事は、該地域内に支那人の居住することを拒絶する爲めに、同港の共同租界に關する規定を修正せんことを提議せり。而して米國領事は、此の修正に關し、本國政府に照會する處ありしが、政府は不同意の旨回答せり。米國政府は是等の貿易港に於ける共同租界より支那人を放逐することは、支那政府の同意せざる處なるべしと思惟し、且つ米國が未だ容認せざりし處の支那政府との論争、即ち米國人及び其他の外國人は、條約に準據して内地の各都市に居住する資格なく、彼等の居住地内に制限せらるべしてふ爭議に於て、支那側を正當とせざるべからざるに至るべしと思惟したり。又他方に於て、該地域内に居住することは、支那人に固有せるものと異なり、且つ該地域外に居住することと異なる資格を支那人に賦與するものにあらざるなり。

かくの如く、居住のに干する事實あるにも拘はらず、支那人は依然彼等自身の政府に屬する臣民にして、工部局は、彼等にその君主の司法權と兩立せざる保護を與ふるを得ず。支那の法律は、彼等が宛かも該地域以外に在住せると同様適用せらるゝなり。例へば、千八百六十二年に、上海の地方官廳は、英國租界に居住せる支那人に對し、課税を強制し、英國領事の助力を求めたり、而して英國領事は、外國人との通商權利に抵觸せざるものならんには、如何なる税と雖も、その臣民に課するを得べき支那當局者の權利

を容認すと雖も、該居留地に在住する支那人に對しては、彼はかゝる權利を認むること能はざりき。如何となれば、該地域内に在住する臣民に對する支那政府の司法權は、常に英國領事の手を経て行使せらるべきことは、地方官廳の當局者との間に於ける、一の充分なる諒解ある事項なりしを以てなり。而して、此の外人側の態度は、英國領事サー、フレデリック・ブルース氏に依り破棄せられたり。氏はかくの如き問題に干渉する如何なる手段もこれを正當なりとする條約を見ずと言へり。而して、更に彼は言つて曰く「道臺は任意に課税するの權利あり、而して道臺が均しく、その市内に在ると市外にあるとを問はず、收むべき税金を居留地に在住する人民に賦課することを求むるのみにて余はこれを妨ぐるの理由を認むる能はず。而して、政府がその財源を喪失せざることが、支那の利益たると同じく、我國の利益なる時は同様にこれを妨ぐる理由を見ず。」と。英國領事の此の意見は同國政府の賛成する處なり、アール、ラッセル氏は更に附言して「英租界の限界内に位する土地は疑もなく支那の領土なり。而して、かゝる限界内に居住せるものと云ふ、單なる事實を以て、支那臣民が、その當然の義務の履行を免るべしとは道理上主張し能はざる處なり」と言へり。

土地使用者に關する默諾條件

平穩の享用 該讓渡許可は、外國人居住の目的を以て表示せらるゝものなるを以て、外國人がこれを享用するにつ

きては、使用者に關する或る默諾の條件に従はざるべからず。外國人は此の條件の範圍内に於て、領土主權の利害と衝突し、又はこれを害ふ處の手段を用ひざる限りは、彼等は其の共通の目的の増進を計ることを得。而して、彼等は又支那領土の法律に抵觸せざる限り、如何なる種類の貿易にも従ふことを得べく、領土主權の最上の權利を害さざる以上、あらゆる方面の産業に従事するを得べし。例へば國民阿片禁止運動に依り、上海の支那街に於ける阿片店が、全く閉店の己むなきに至りし爲め、阿片喫煙者が外人租界に群集せるが如きこれなり。工部局はこれ等の特許せられたる阿片館を、一掃することに、漸次注意を拂ひ來りしが尙この財源より生ずる歳入を失ふことは望まざる處なりき。而して、當初にありては、彼等の義務に付き充分認識せる如く見えたりしが、現今迄のところにては、その回答は、極めて冷淡なるものなりき。是れ吾人の今論じつゝある使用者の默諾の條件に背くものなること明なり。

許諾者の利益に背馳せざる事 就中、讓渡側の利益は、充分尊重し、更にこれが増進を計り、斷じてこれと衝突するが如きことあるべからず。故にこれが豫防策として、千九百七年一月二日の條令を設定したり。即ちこの條令に依れば、若し英國領事が一方、英國政府、或はその國民と他方、支那政府、地方官廳、又はその人民との間の友誼關係を傷くるが如き、傾向ある行爲を工部局が採りしを認めたる時は、工部局に向つてこれが辯明を求むるか、然らざれば、北京駐在の公使に向つて申請せる法令が、未裁決の

場合にありては、これを否認するを得ることこれなり。然しながら、理想は畢竟理想にして、必ずしも守らるべきものにあらず。而して此の事實は、外人が單に、自國官憲のみに服従するてふ慣習ある間は、到底避くべからざるが如し。かくて最近上海共同租界内の會審衙門に於て、租界内に於て銃砲、火器を賣買し、又は所有せりとの嫌疑に依り支那刑法第二百四條及工部局法令違反として告發されたる多數の支那人に對し、判決を下すに當り、英國陪席判事格蘭トジョーンズ氏は次の如き言をなすを常としたり。

「余は被告の處分を進むる前に本裁判進行中に現はれたる租界内の悲しむべき狀態に對し、注意を促さんと欲す。平和なる社會の居住地たるべき此地は、今や内地人外國人を問はず浮浪無賴漢のアルセーシアとなり了りぬ。」

(註。アルセーシアはテムズ河とフリート、ストリートとの間にある倫敦の一地ホワイト、フライアースの通語なり。同地は千六百九十七年迄治外法權を有する隠れ場として多くの無賴の徒横行せりと云ふ)

かゝる狀態にある上海は、支那の政治界の腐爛せる腫物なり。此の事實は吾人の前に呈示せる處にして、不評判なる外人會社、及び外國人は卑劣なる支那人と種々の取引に於て、互に相競争せり。而してこの取引は、中立國法の違反を醸し易きか又は、内亂を助成し内國の紛擾を増發せる以外、何等の目的を有する能はざるなり。

局外中立問題

許諾者側の土地領有 『支那皇帝は、外國の市民又は臣民に對し、帝國領土内の一地を割きて居留地となし、これに居住の特權を賦與し又は貿易の目的を以て、これに領海の一部を委すると雖も、決して前述せる領土及び領有の大權を放棄するものにあらすてふ意見を持するを以て、當然この讓渡許諾は、合衆國と戰時狀態或はこれと敵對行爲を執れる國家又は團體に對し、合衆國の市民若くは該領土又は領海にある同國民の財産を侵害する權利を、與ふべきものと解すべからざることに同意す。而して合衆國側にありても、前述の支那帝國内の、かゝる領土又は領海に於て、合衆國と戰時狀態又は敵對行爲を執れる外國の市民、又は臣民、若くは團體又はその財産に對し、自發的攻撃をなすことを慎しむべき事に同意す、併しながら此の條項の中に、合衆國がその市民又は財産に蒙る敵國の攻撃侵害に對抗することを、避くべしと解すべき規定なし。而して、更に以下に述ぶることに同意す。即ち支那の領土内の何等かの權利又は利益を、通商貿易の目的を以て、從來又は將來支那政府より合衆國に譲り渡すことあるとも、夫は、決して該地域内の人民、及び財産に及ぼす司法權を、支那官憲より奪ふものと解すべきにあらず。但し該權利が條約に依り明らかに放棄せられたる場合は此の限にあらず。』

現在の經驗 四十八年前、設定せられたる此の原則は、現今に至る迄、尙各條約國に依り、嚴密に承認せられ來りしものなり。併し、現今にありては、或方面に於て前述の根本的義務を輕視する傾あるが如し。即ち、聯合國政府は

支那に於ける獨塊側の居留地を占領し、且つ同國人を該地域より放逐するもの、如く想像せらる。而して前述せる如き明白なる宣言あるにも拘はらず、吾人の想像する行動が支那の主權と局外中立を侵害するの已むなきに至れるが如し。

吾人の想像する此の行動は辯護の餘地なし。前の香港裁判所長サー、フランシス、ビゴット氏は、最近一英國雜誌に次の如き寄書をなして「帝國主義者」なる一匿名寄書家の提言を辯駁したり。即ち『帝國主義者の言ふに依れば、開港場に於ける外國居留地は、明らかに所有者の財産にして支那の主權外に在り。故に獨逸の所持する居留地が、戰爭繼續中に、他國がこれを攻撃の目的物となせるは、極めて至當なる措置たり。而して、各國家間の戰爭狀態の結果、居留地不可侵の特權は極めて曖昧なるものとなれり。(但し此の特權は以前にありては極めて空漠而かも不正式なるものにして、此等居留地を、作戰の圈外に置くものとして容認せられたるものと假定したり) 故に獨逸貿易業者が地方軍隊に依つて放逐せられしことは何等支那の主權、又はその局外中立を侵害せしものにあらざるべしと。併しながら、かの「帝國主義者」は全然二箇の事實を無視し居れり。即ち第一に佛蘭西を除く他の國家は凡てその居留地の權利を上海の所謂共同租界内に集中合同し居れり。されば、彼の企圖する處はこれを實際に行ふは、不可能の事なり。第二に、租界より、より大なる權利を有する專管居留地と雖も、支那の領地にあらすして、歐洲人の所有にかゝる被包領な

りと稱すること能はず。治外法權の特權は、條約國の臣民に對する純然たる屬人的のものなり。而して、或土地内に於ける、住居、若くは居留の權利、及び更に權利の範圍大なる或地域の排他的讓渡は、全く支那側の獨立許可に基くものなり。而して、開港場内の自治團體の創立は、全く過去の習慣、因襲、及び寛容より生ずる、自然的の結果にして此等の原因は支那人と外國人間の、通商をして極めて圓滿ならしめしものにして、決して其間の不調を來せしが如き事あらざりき。然しながら、領土に對する支那の主權及び其他の種々の權利は、條約上の許可、又は默許に依りて放棄せざる限り、依然として存在するものなり。若し此の言明の正確なることを疑ふ處あらば、支那、及び合衆國間に締結せられたる、千八百五十八年の天津條約の附加條項に依り充分納得するを得べし。該條約は千八百六十八年に協定を経たるものにして、其の條件次の如し。(中略)此の簡條は明かに「帝國主義者」の想像せる租界内の交戰狀態が、條約違反たることを闡明せしのみならず、彼の證言の論據も、此の條約に依り明白に覆へされたり」と。

自家防衛 併しながら、此の局外中立の宣言は、領土君主が外國との戰爭狀態又はその勃發せんとする際に採る如何なる行動にも適應すべからざることは注意すべし。斯かる際に於ては、支那は軍事目的を理由としてその領土内の港を閉塞し、外國貿易の目的を以て開きたる、多くの外國租界の權利を無視することを得。支那の此の自衛の權利を否認するやうに、此の條款を解釋せんとするは、取りも直

さず、かの國の主權と、獨立に對し、堪ふべからざる一の條約を制定する事なり。然れ共、この貿易航海の妨碍は、これ等妨碍を要求せし必要の止みたる時、及びこれ等の障害を廢する事遲延して、不平の理由を醸したる場合、直にこれを除去せるは、支那の從來常例とする處なり。

例へば、佛支交戰中、支那は廣東の港灣の防備を講じたり。而して、戰端の終熄するや、合衆國はその妨害除去の遅々たる點に對し抗議を提出したり。國務省の説く處に依れば、「戰時に於て、一交戰國が、敵の船艦巡洋艦、又は封鎖破壊船として、同國の港に入らんとするを撃退する目的を以て、其港の通路に障礙物を敷設するは、何等問題とすらに足らず。是れ和蘭が、フィリッポ二世の世に、西班牙の攻撃に備へし時實行されたる事實にして、此の外、英國がチャールズ二世の時代に、和蘭に攻撃せられ、合衆國がその革命戰爭、及び千八百十二年の戰に英國より襲撃せられし時、及び南北戰爭に於ける合衆國、セバストボル包圍戰に於ける露西亞、千八百七十年、普佛戰爭中、普魯西に依り行はれし等、其例に乏しからず。前述せし處は、一の法令なれども、國際法に於ても、同様に戰爭終熄の曉は、大船舶の常に往來したりし通路の運航を、阻害したりし障礙物は屬地當局に於て、これが除去を計らざるべからずと規定せり。かくの如きは、條約を離れて存する規定なり。(中略)吾人が何等の疑惑なしと主張する此問題に對し、何等かの疑問の點あらば、そは我國と支那との間に締結せられたる條約の條項に基きて決定せらるゝことゝならん。該

條約は廣東をして實質的に自由港ならしめ、我が商船は、平時に於て、自由に同港に入港し得る權利あり』と。而して此の障礙は、結局除去せらるゝに至れり。

(The Legal Obligations Arising out of Treaty Relations
Between China and others. by M. T. Z. Tyan. L. L. D.)

支那銀行關係法規

支那に於て最初戶部銀行、浙江興業銀行、交通銀行等の組織せられたる時は、未だ銀行法規の據るべきものなかりしが、其後光緒三十二年に至り、立憲準備の計畫を進むるに際し、銀行の設立整理亦急務なりとし、當時の當局より銀行條例制定の必要を上奏裁可を得たりしが、其後光緒三十四年一月十六日に至り、漸く銀行通行則例、大清銀行則例、殖産銀行則例、儲蓄銀行則例の四條例成り、上奏裁可を経て公布せられたり、當時右四則例制定に關し、度支部より上奏したる處の奏疏一道、以て此間の事情を悉せるものあり、今これを左に譯出すべし。

各銀行條例制定に付度支部の上奏

光緒三十二年閏四月二十二日前財政處は本部と會同上奏して曰く、銀行なるものは貨幣流通の樞機にして、商務を維持するの根本なり、東西各國皆中央銀行あり、又普通、勸業、儲蓄各種の銀行あり、其制度を考ふるに約兩端あり、一は國家銀行にして國家より命令して設立し、與ふるに特權を以てし、國幣の通用、紙幣の發行、官金出入の管理、緊

要公債の擔任は、皆義務として盡くすべきものとなす、一は民立銀行にして、商民其の設立を請願し、政府之を裁可し然る後之を開設するものなり、要するに皆商民と取引するものにして、其募集株金額、營業目的等一切の方法は、本部に届出て資金營業情況等、時々報告するものとす、以上各種銀行に對しては、本部皆統轄權を有し、且各特別例規を設けて之を監督す、誠に銀行は全國財政の關する處にして、實に本部特別の要務に係る、我國今や財政整理の時なれば國幣の劃一及び公金外債の取扱ひに付ては、銀行は最も緊要に關す、若し管理の法規なければ恐らくは各銀行必ず秩序を失ひ、遂に財政整理の期なからん是を以て臣等銀行の制度を參酌し、政府銀行を設立し開業後の成績を見て擴張を謀り、中央銀行の基礎となさんとす、目下銀行意程に通ずるものを選び、東西各國の規則を參酌して各種銀行の管理及營業に關する特別例規を制定し、恭しく御覽に呈し欽定の上頒布を行ひ、然後凡そ政府銀行より普通、農、工、商業、儲蓄各銀行號に至るまで、官立民立に論なく均

しく之に遵ふて辨理すべし、云々と、而して此の上奏は當時既に裁可を得たり臣等伏して思ふに、近年民智開通し、官立、私立各種銀行日に益々増加するを以て、速に條例を頒布し營業者をして遵循する處あらしむべし、本部の管理上にも亦據る處あり、劃一整齊の効を收むべきなり、但是等の例文は東西各の通行章程、繙譯したるものなれば參考に備ふべしと雖ども、之を清國商業上の風俗慣習に適中せしむるに、頗る困難なれば之が編制に最も慎重を要するなり、昨年財政處は其上奏裁可の後、委員を選んで編纂し、冊に作りて本部に送り來り本部は再び委員を設け、細心研究し銀行條例四種を立案せり、本部設くる所の原名戸部銀行を以て中央銀行となし、現に本部は度支部と改稱したるにより、該銀行も大清銀行と改稱せんとす、而して其條例は二十四條なり、我國は從來銀行なきも、金銀の爲替取引を營業とする民間の銀號、票商、錢莊より各省官設の官銀號官錢局に至るまで凡そ銀行の性質を有するものは、普通銀行として取扱ふべし、其條例十五條なり殖産銀行は農工業の倚賴する所、東西各國實業の進歩悉く此に賴る、現時農業銀行未だ設立せられずと雖も、鐵道に關する郵便部の交通銀行及浙江鐵道の興業銀行は、皆殖産銀行なり、此の條例三十四條なり、各種銀行の資金預入多額にして貯蓄を奨勵し錙銖の資を集むるものは儲蓄銀行とす、各省現に已に設立するもの數ヶ所あり此條例は十三條なり、臣等詳細調査したるに、誠に妥當に屬す依て謹で別冊として、恭しく御覽に呈す、御裁可の上は本部より當該衙門及

地方官に通知し、各銀行に命令して、一律に遵照辨理せしめんとす、茲に各種銀行條例を制定したる理由を具陳し、伏して皇太后皇上の聖鑒を乞ふ。謹で奏す。（光緒三十四年正月十六日裁可）

斯くて是等四種の銀行則例は公布せられしが、右の内特殊銀行に關するものは、これを各該銀行の項中に述べべく茲には單に一般銀行に關する條例に就いて説明すべし。右銀行通行則例なるものは、殆んど我國の銀行條例の繙譯と見るべきものにして十五條より成り則ち次の如し。

銀行通行則例

第一條 凡そ店舗を開設して、左記の事業を經營せんと欲するものは、如何なる店名牌號を用ゆるに論なく、之れを銀行と稱し、皆本則例を遵守するの義務あり。

一、各種期票滙票割引

二、短期拆息

三、預金取扱

四、貸 出

五、生金生銀賣買

六、銀錢兌換

七、公司銀行商家所發の票據代收

八、各種期票滙票の發行

九、市面通用銀錢票發行

紙幣律未だ頒布せられざるの以前は、官設商立各行號は、均しく暫時市面通用銀錢票を發行するを得、但し官設行號は毎月須く發行額及準備金額を期を按して度支部に咨

報して査核に供すべく、度支部は又隨時員を派して前往
稽查すべし。

第二條 凡そ銀行を創立せんと欲するものは、或は獨り資本を出すと、或は公司辦法に按し、合資集股するとを問はず、均しく豫定資本總額を、確實なる商號の保證を得て、地方官に届出で、査核に供し、度支部に轉報せしむべく、其註冊(登記)許可を俟ちて、初めて開辦すべし、凡そ銀行の早報を要する事件は、地方官に呈請して轉報するの外、並に須く直接度支部に届出で以て稽核に便すべし、凡そ銀行開辦せる時は、其年月日を所在地方官に稟報し度支部に轉報せしむべし。

第三條 凡そ銀行を開設せんと欲するものは、左記の事項を呈報すべし。

一、行號招牌

二、本店支店設置地名

三、資本金額

四、獨資、合名、合資の別、及其もの、姓名原籍住所
若し株式組織なる時は上記事項の外株式募集章程及發起人、辦事人の姓名、籍住所、有限無限責任の別を呈報すべし。

第四條 凡そ銀行を開設せんとせば須く本則例に照し、自ら詳細章程を定めて、度支部に呈報し、許可を請ふべく、若し變更ある時は同じく呈報すべし。

第五條 凡そ銀行は毎半年に、該行所有財産目録及貸借對照表を詳造して、度支部に早送して査核に供すべく、若

し特別事故あれば、度支部より員を派し前往して、各項簿冊、憑據、現金並に其營業の實際情形を検査せしむべし、此外各項營業には、官より概ね干預せず、若し官吏の端を藉りて需索する等の情あらば、該行より度支部に呈稟して查明に供すべく嚴に從て査辦すべし。

第六條 凡そ銀行は毎年決算後、須く貸借對照表を製し、詳かに收支金額總數を列記して、新聞に廣告するか、又は他の方法を以て一般に周知せしむべし。

第七條 銀行營業の時刻は、午前八時より午後四時迄とす、但し營業の情形により變通するを得。

第八條 銀行若し日曜又は營業地方の休息日に際せる時は均しく休業するを得、但し停業を欲せざるものは、營業するも可なり、若し止むを得ざる事故より、休業をなさんとするものは、銀行より地方官に届出で、新聞廣告、其他の方法により公衆に周知せしむべし。

第九條 凡そ登記許可の各銀行に、若し危險情形あれば、其詳細理由を具して、所住地方官に呈報すべく、度支部に報明せば、更に地方官に轉飭して、營業の實況及び將來の希望を詳査せしめ、若し果して一時周轉する能はざるものにして、並に其實際に損失あらざるものなる時は、附近大清銀行に命じ、資金を貸與し、又は實力擔保をなして、意外の虞あるを致すを免れしむべし。

第十條 凡そ銀行か或は個人の營業を改めて公司となし、或は元公司なるを變じて個人の營業となさんとする時、或は其公司の制度を變更し、又は他公司と合併せんとす

る時は、第二條によりて辦理すべし。

第十一條 銀行若し第五條所定の報告、検査及第六條所定の布告を遵守せず、或は検査を受けるに際し隠匿し、或は報告布告を發するも、其中に不正等の弊あるもの、一度査出を経る時は、度支部より情節の輕重を酌量して、五兩以上千兩以下の罰金を科すべし。

第十二條 從來の各處の商設票莊、銀號、錢莊等の各項營業中、銀行の性質あるものは、本則例を遵守すべし、其則例に違ひ登記せるものは、度支部に於て優に保護を加ふべく、其未だ登記せざるものは、三年内に限り全部登記すべし、若し期滿ちて尙ほ登記せざるものは、再び爲替を取扱ひ、又は一切の官金の收支を取扱ふを得ず。

第十三條 各省官衙の行號、或は官商合辦の行號は、總て本則例奏定後六ヶ月内を限りて、部に報告して、登記し、一切本則例に従つて辨理すべく、若し期を過ぎて登記せざるものは、五百兩以上の罰金を科し、以後六ヶ月を遅るゝ毎に罰金を加科す。

第十四條 官辦の行號は、每省會商埠只一所に設立するを許す若し必需あり別に設立せんとする時は、須く度支部と協商し、或は會奏旨を請ふて辨理すべし。

各種官立銀行か、分行を設立せんと欲するときは、既に大清銀行分行のある地方にては、須らく先づ該分行をして代理店たらしむべし。

第十五條 凡そ銀行或は折閱により、或は特別事故あり、廢業を請願せば、應に清算人を舉定し、地方官に稟報し

貸借金額の清算を商律に照して辨理すべく、地方官は事由を具し速に度支部に報告して査核に供すべく、遲延するを得ず、並に又一面該行自ら度支部に稟報査核に備ふべし。

附則、凡そ單に銀錢を兌換するのみにて、銀行の性質なきものは、本則例施行後、均しく銀錢兌換所となし、其の登記を免れしむ。

各種特別銀行は特別專例に遵照するを除く外、其の專例の及ばざるの所あるものは、均しく本則例に按照して辨理すべし。

本則例は奏准後三ヶ月より實施す。

本則例若し條改を要する處あれば、臨時斟酌奏明辨理す。其後民國に入りて各種法令の改廢あり、現に大清銀行則例交通銀行則例の如き、舉げて改正せられたれども、銀行通行則例は、其後公布せられざるを以て、右前清時代の規定は、今日に於ても尙行はれつゝあるものと見るべきなり、然れども元來支那の事たる、徒らに制度の形骸を存するに過ぎざるもの多きが、右銀行條例も亦これと一樣にして現に本則例第六條に規定せる每營業年度後に於て貸借對照表を作製し、新聞に廣告すること等、殆んど之れを遵守するものなし。

民國四年八月二十四日に至り、銀行職員取締章程なるもの公布せられたるが、右は主として銀行職員の私曲を糺し、爲に預金者及資本主に累を及ぼすを防がんとせるものにして其全文次の如し。

銀行職員取締章程

第一條 銀行は本行職員に對し、貸出をなすを得ず、但し董事會の議決認可を経たるものは、此限りにあらず、然れとも其額は、其の資本額の十分の一を超過するを得ず。

第二條 銀行職員若し本行に預金を有するものは、預金額以上に手形を出すを得ず。

第三條 銀行が抵當を徴するときは、小物を以て多押し、又は賤物を以て貴押し、及各種不確實の期票(手形)を以て抵當品となすを得ず、若し上記の事あれば該行經理人の不法を以て論ず。

第四條 銀行職員は本行手形を割引して、買入るゝを得ず。

第五條 銀行職員は他人の擔保にて、本銀行より借款をなすを得ず。

第六條 銀行職員は本行營業の種類として、規定する所の業を私營するを得ず。

第六條 銀行職員は本行營業の種類として、規定する所の業を私營するを得ず。

第七條 凡そ信用借款は該行經理人、若し借主の殷實ならざることを明知し、専ら情によりて款項を貸與せるものは詐欺取財を以て論ず。

第八條 凡そ經理人は投機其他不正當の商業を兼營するを得ず。





保晉鑛務公司事情 (下)

鑛廠狀況

該公司所屬炭坑にして平定縣に在る者六ヶ所、壽陽縣に二ヶ所、大同縣に七ヶ所、晉城縣に一ヶ所あり左に分述せん。

平定炭廠

(一) 鐵路溝 は鐵道南側に在り東は陽泉を距ること六支里、廠内に圓形豎坑三ヶ所あり其内二ヶ所は溝口にあり一は運炭坑にて一は通風坑なり一ヶ所は溝内にありて未だ出炭せず溝口に在る者は坑口直徑一丈四尺、深十四丈八尺、坑内の四圍は石材を以て積重ねたり、其炭層の厚一丈八尺、傾斜度極めて微少なり西南に向て走れり坑上に直徑三尺五寸の降井機二具あり大は六十馬力、小は三十馬力とす三節立鍋爐四座あり、昇降機及び吸水機の用に

供せらる發電機一具あり電力一百十「ボルト」、電流十六「アンペア」、一分間二百五十回轉、専ら廠内電燈の用に供す、工人二百五十名、毎日百餘噸を產出す。

採炭諸負は左の如し。

炭別	斤數	塊數	工賃(文)	備考
----	----	----	-------	----

大炭	一三〇	一	七五	
----	-----	---	----	--

中炭	七〇	二	四五	
----	----	---	----	--

小炭	四〇	一	一〇	
----	----	---	----	--

粉炭	一〇〇	一	一六	粉炭は籠を以て量る
----	-----	---	----	-----------

作業時間 晝夜二班に分て作業す。

採炭費用 採炭一噸に付き費用約一元二角五分。

(二) 燕子溝 鐵路溝の西に在り相距ること約二支里許、陽泉驛を距る約七支里、亦鐵道の南側に在り廠内に丈六徑の豎坑一ヶ所あり未だ出炭せず(炭層を距ること約十四

丈) 民國元年爆發藥を用ひて開鑿せしに忽ち沼風(即ち瓦斯なり此瓦斯空氣と相違ふ忽ち爆炸す)に遇ふて大に爆炸し傷失少からざりき遂に停工せり同四年復た開工せしが不注意に因り又も爆炸の厄に遇ふて全然停工の已むなきに至れり五尺經の昇降機一具最新式の平大鍋爐二具、壓氣機具一を備へ並に鑿孔機四臺、探礦鑽孔機一臺を所有し且つ鑄鐵及機械工場等各一ヶ所を設備し居れり。

(三) 漢河溝 陽泉驛の正北に在り相距ること約十五支里西法及び支法を兼用して開採せり廠内に南北豎坑二ヶ所あり南坑は人力を用て絞炭し深十七丈、經八尺なり北坑は三尺經の昇降機を用て起炭し深二十丈經九尺、炭層の厚約二丈あり三節立鍋爐一座を据付けり工人六七十名、毎日約四十噸を採出し毎噸運賃(坑口より陽泉驛に至る間以下同じ)約八角を要す。

(四) 莊莊溝 陽泉驛の西北に在り相距ること九支里、西法と土法を兼用すること漢河溝の如し廠内に豎坑一ヶ所あり深十七丈經八尺なり鍋爐、昇降機炭層は悉く漢河溝と同じく工人八十名、一日出炭額四五十噸毎噸運賃六角。

(五) 先生溝 陽泉驛の西北に在り相距ること約十二支里専ら土法を用て開採す廠内に豎坑二ヶ所あり深さ各十九丈經八尺、炭層の厚約二丈二尺、工人八十名、一日出炭額三十五噸、毎噸運賃七角五分。

(六) 賈地溝 陽泉驛の東北に在り相距ること約二十支里、土法にて開採す豎坑二ヶ所あり一所の深二十七丈一所の深二十四丈、徑各八尺なり其他は悉く先生溝と相等し毎

噸運賃九角。

附記 炭層平均厚一丈八尺、炭質は無煙炭に屬し黑色にして光澤を帶び質硬にして緻密なり比重一、三五純炭成立頗る高く熱量も亦富めり唯灰分較や多く且つ磷硫質を含有せり僅に火爐、厨用に適す眞に惜むべきなり。

壽陽炭廠

(一) 陳家河 縣城の正北に在り城を距ること三十支里、土法を用て開採す廠内に橫坑一ヶ所あり深二十八丈(深四百七)炭層厚九尺、工人三十名、毎日出炭額二十餘噸、橫鍋爐一座を設け吸水機の用に供せらる坑底に三寸徑の吸水機一具を設置す採出の石炭は坑口より停車場に運搬し毎斤運賃(銅錢)九厘なり。

(二) 榮家溝 二は陳家溝の東北に在り相距ること十五支里、縣城を距ること亦四十五支里なり土法にて開採す廠内に橫坑一ヶ所あり深約二十九丈餘、炭層厚九尺なり工人八十名、一日出炭額四十噸と稱するも一年實數一萬噸内外を採出すべし坑廠より本地に賣捌く者一年三千七餘噸(每斤平均炭價銅錢一文五厘)なり又城外停車場に運搬するは正太鐵路公司に賣出す者にて一年約四千噸の譜あり毎噸賣值大洋四元三角密城より縣城停車場に運搬さるゝ者は毎斤運賃(銅錢)一文二厘なり四節橫鍋爐一座を設け専ら坑底の水を抽取るに用へらる坑底には三寸徑の抽水機一具を設置す機械修繕工十名あり毎月給金百六十六元を給付せり。附記 炭層厚九尺、炭質半煙炭に屬し黑色無光澤にして

に係る坑上に高車各一座及び昇降機各一座、直形鍋爐二座吸水機一臺あり坑内の水は牛皮袋に盛り昇降機を以て之を吸取る(前は布袋を用ひ其だ多く頗る不便)一日探出高は粉炭四十九噸塊炭四十噸なり西廠内には堅坑二ヶ所あるが坑道既に破壊して早くより停工し居れり民國四年十月廠内東隅に新坑を開鑿し深二十丈あり本年五月より出炭す現に土法を用て採炭に従事す工人七十七名、毎日粉炭二十八噸、塊炭二十噸を採出せり。

附記 炭層厚二丈七尺、炭質無煙炭に屬し色純黒にして光澤あり性質堅硬にて上等無煙炭の列に入る純炭成分は百分の七九八と爲す炭内揮發物を含有すること甚だ多く灰分も亦少からず。

○進行計畫

(甲) 採 炭

(一) 平安採炭計畫

北山開採 北山は賈地溝、莊莊溝、先生溝、漢河溝の四所を稱す皆な正大鐵道を距ること稍や遠く或は十餘支里或は二十餘支里あり其間河流を隔て輕便鐵道の敷設も容易ならず現に該公司は高架運炭鐵道を敷設する計畫ありて將來此鐵道にて北山一帯の炭坑を聯結して一停車場に總彙することとなるべし該公司よりは既に調査員を日本及直隸の良郷、房山等に派して準備事項の調査に従事せしめたり一たび該高架線の竣工せば各坑

の運炭費は甚しく輕減を見るべく從て其產額も増加するや必せり又該公司は機器添設の企てあり其布置完備する曉は北山各坑を一區と成し以て管理の統一を期すべしと此れ北山の計畫なり。

南山開採 南山は現に開採する坑と開採せんとする坑三所あり即ち鐵路溝、燕子溝、剪子溝是なり鐵路溝礦區は其面積八方支里四百餘畝、此坑の工事材料の設備略は完了す唯坑道の修理に尙ほ工費を要する趣なり該公司員の言に據れば現に十萬元を工費に充て進行計畫の實行を期しつゝあり但近日來建昌鎮區との交渉事件發生せし爲め一切の進行遂に停滯せるが早晚該事件の解決を俟て此計畫に着手する由なりと、燕子溝礦區は其面積六方支里四百餘畝、此坑は宣統三年頃鑿坑せしが沼氣の危險に因り尙ほ未だ出炭せず炭層を距る僅に十餘丈に過ぎず此坑内工事を完成するには約五萬元を要すべく兎も角該公司は總坑道工事費として三十萬元を充つる豫定あり唯此進行計畫は沼氣危險の伴ふ恐れあるより非常の慎重を要す到底普通開鑿法を行ふ能はざるなり故に其成功稍や遲緩なるべし剪子溝礦區は其面積約五方支里一百餘畝、前に一坑口を開鑿せしが尙未だ出炭せず該公司は此溝が鐵路溝を距ること甚だ近きが故に先づ鐵路溝の設備完成するを俟て徐に此溝の開採に着手する計畫なりと。

(二) 壽陽採炭計畫

壽陽礦區は今尙ほ登記申請せず其儘に放棄し居れり其

原因は該礦區の西方太原各處の煙炭盛に採出せられ東方井陘等の煙突も亦之と競争しつつあり且つ正太路の運賃較や重きと密廠の所在停車場を距ること甚だ遠きに因り該公司は先に榮家溝及新開の陳家河兩坑を開採し徐ろに壽陽礦區の開鑿に着手する計畫なりと。

(三) 大同採炭計畫

大同の各舊坑は停車場を距ること甚だ遠きに因り前年該公司は京張鐵路局と支線修築問題を訂議したることあるが今に其決定を見ず一たび該問題の解決さるゝ以上は鐵路運賃の輕減を見越して一大投費を試むる計畫あり大同西山一帯は炭田豊富、地勢亦較や平坦にて停車場を距る約三十餘支里に止まる該公司は現に崗村以西の吳官屯、姜家灣、紅圈梁、三道溝等を踏査測量せしに其面積約四十七八方支里ありしと近々登記申請すべしと云ふ。

(四) 晉城採炭計畫

晉城礦還の面積二方里二百八十餘畝、民國四年三月頃登記済、但し交通の不便と販路の不暢に因り暫時工作に力圖せず澤州炭鐵の往年河南山東方面に運搬さるゝ額は毎年約八十餘萬元に上れり近年河南省に炭鐵續出せし爲め澤州炭の販路全く杜絶されたるの觀あり將來澤清鐵道の修築を俟て始めて成功するに至らん蓋し澤州清化間は僅か一百二十餘支里に過す其間山岳聳峙、處々山脈を洞穿せずは功を奏せざる所多し曩に該公司は此鐵道を修築せんと欲して潞澤兩官憲に其援助を請ひ

しことあり嗣て此議容れられずして沙汰止みとなれり現に該公司は舊礦區内に於て徐々擴張を策しつつあり即ち現在採出額三百噸を漸次四百噸迄に増加せしむる計畫あり唯澤清鐵道の竣成を俟て再び大擴張案を審議すべしと。

以上綜合せば該公司の資本は之を平定に用ふる者最も多く且つ其主要計畫は平定炭業の經營に全力を注げるが如し一面各鐵道局と運賃輕減に關して交渉を重ねつつあり果して此交渉案の解決を見れば將來の發達は期して待つべきなり。

(乙) 製 鐵

保晉公司是曩に平孟鐵礦の各標本を獨國クルップ鐵工廠に送りて分析試験を請ひ ことあり其試験の結果平均六十%の鐵分含有し中位品たるを認め得たり洋式鍊鋼法を適用せらるゝも唯鐵苗甚だ薄く 鐵層係二尺乃至四尺 且又散在して一處に聚まらず土法に依り採鍊するに於ては尙ほ窒礙する所なきも若し洋法を用ふる時は其一處に產出する分に於て尙ほ旬日の供給に足らざるのみならず機器も亦鐵處に隨て轉移し能はざるの不便あり故に今尙は土法を用て開採しつつあり若し洋法を以て之を製鍊せんか其一日の得る所一爐だに供給し能はざる少量なるが故に該公司は別他鐵石買收方法を採り而して自開分と併用するに於て五丈餘高の鼓風爐を用て之を製鍊するも優に一日洗鐵三十噸を產出するを得べし更に鍊鐵の確に成效あるを俟て

より以上の熔爐を備附くるとするも惜らくは供給率の増大を期する能はずして僅に毎日十噸の増加を見るに止まらん乎該公司は原鐵廠に五十萬兩、鋼廠に七十萬兩を投資する計畫を立て先づ平定下五都に該兩廠を建設する豫定なりしが唯經費不足に因り今に至るも其實行を見ざりき本年崔總理は先づ試辦を行ふ意あり技師趙鐵卿氏の見積額十二萬元を要する計畫案を以て株主會議に提出すべく其通過を俟て直に實行すべしと其計畫の概容左の如し。

鐵廠建設費豫算表

鍊鐵爐部開設費	三〇、〇〇〇元
鋼爐機械部開設費	三一、九〇〇
洗鐵貨鑄造部開設費	八、〇〇〇
鍊鐵貨製造部開設費	五、〇〇〇
公舍建築費	七、〇〇〇
熔鍊費(一日出炭十噸見積)	三〇、〇〇〇
採鍊燒焦費	八、〇〇〇
合計	一一九、九〇〇

保晉公司開設以來逐年所

出總經費表 (其一)

項別	光緒三十二年	光緒三十三年	光緒三十四年	宣統元年	宣統二年
鑛地買收	一一九四、六〇	七〇六、〇五	九五七、五七	一、〇〇三、五四	二、九九、八〇
家屋建築	二〇三、九六	二、二九九、九二	三、五九、八四	二七、三五、六三	三、七四、一三
洞坑開鑿	二、六三、七九	一、八六、四〇	九、四四、五三	二、一九、三四、四五	九、六四、六六

保晉公司開設以來逐年所 出總經費表 (其二)

項別	宣統三年	民國元年	民國二年	民國三年	民國四年
機器購買	——	二六、〇三七、六六	五、九五、〇八	一六、〇四、一五	一三、一八、八二
家具購買	一、五二六、八三	二、七八、三五	一、三七、二八	四、〇八、六七	三、七四、九〇
諸雜費	——	——	四、五四、一二	五、二〇、五五	六、四四、七一
院房購置	九、八五	三、三二	二、五〇、〇〇	四、三〇、〇〇	一、七五、五〇
舊業接收	三、五〇〇、〇〇	——	一〇、〇〇〇、〇〇	三、一五〇、〇〇	五、〇〇〇、〇〇
合計	三、七、九四、五〇	四、八八、二七	六、六二、〇二	一五、一六、五〇	二一、三、三三

(一) 各項總計四十二萬九千餘兩

(二) 表内所列の各項は該公司逐年産業支出費

(三) 表内各數は均く紅封平銀兩を本位とす

按するに山西鑛山の豊富なるは全球に豈稱さる難に福公司は光緒二十四年に採鑛權を獲得せり光緒三十二年に至り正太鐵道の開工さるゝや該公司始めて平定に於て炭礦採掘に着手したり思ふに着手の遅々たる所以の者は則ち礦産

と鐵道との關係上鐵道敷設せざれば良好の鑛山と雖も運輸の便を缺くるが故なり、光緒三十三年に及び山西人は福公より鑛山權を贖回して自辨と爲すや此れより山西境内に始て鑛業會社の營業を見るに至れり然共今に及ぶも保晉公司の發展を見る能はざるの所以の者は其之を盡く經營者其の人のなきに歸すべからず實に交通の不便は最も是が一大原因を爲すと謂はざるべからず查するに保晉公司の交通方面に對して其困厄を受くる所甚だ多く今之を總括するに約數端あり即ち左の如し。

(一) 正太鐵道の狹軌 山西東境には僅に正太一線あるのみ其軌道狹小なるか爲め鄰省の軌道と聯貫し能はざるの不便あり。

(二) 澤清鐵道の未成 澤州清化間相距ること僅か一百二十餘里なるが尙未だ修築せられざるが故に運輸亦容易ならざるに屬す。

(三) 大同支線の未修 京張一線は目下漸く大同北關に及べり產出區を距ること尙は十支里の遠きあり年來保晉公司は屢次京張鐵路局と支線修築を交渉するも今に至る迄成議なし。

(四) 壽陽支線の難工 壽陽方面の產炭區は停車場を距ること尙は遠く且つ河流環繞して支線修築は實に容易の業にあらずるべし。

今運賃上より之を見れば正太京張兩路に要する運賃甚た少からず國家の鑛業を獎勵し公司を維持する見地より之を望めば第一幹支各線を急遽修築すべき事第二汽車運賃を特

に抵減する事、此れ必要の舉なり保晉公司に至ては本省及外省より株式一百九十萬餘兩を募集し之を以て全省各鑛を經營す本不足なきなり然るに鐵鋼廠設置計畫の熟議されたるに拘はらず、未だ敢て設施されず其炭鑛開採も亦中止する唯平定大同兩處の能く先に擴張せられしは之れ此兩處が鐵道の便を受けしが故なり但し該公司は大同に在て尙は成效なく而して平定に至ては施工最も久しく設備亦頗る完備せり其主要部分は最も鐵路溝、燕子溝一帶の地にあるが蓋し建昌公司の蔡窪溝開採以來其鑛區は適々保晉の鐵路溝、燕子溝の間にありて相距ること頗る近く是を以て坑道鑿通の時交渉事發生し今に至るも尙は解決されざるなり保晉公司の既往辨理の情況に至ては殊に精神を缺くの嫌あり即ち事務員に専門的學識なきと且つ精確の計畫に缺如するより此數年以來其成績の見るべき者なかりき本年八月崔廷獻氏總理と爲り始て官廳と畝捐整理の舉ありて株金七十萬元を領得し繼て太原省城の綢公司を陽泉に移轉せしめ刻下帳簿を整理し章程を修正しつゝありて其執務甚だ熱心なると之が施設頗る實際的に適合する所あるを以て保晉の鑛業或は此れより進歩する有らん乎。(完了)

支那と列強との關係 (二)

阿片問題

吾人は既に、阿片問題の葛藤に關し、論及せるを以て、更らにこの論争の歴史に就きて、簡單に記述せざるべからず、前に述べたるが如く、東西の交通は何等支那の文明と政治に及ぼせる影響あらざりしのみならず、現に全國を震撼しつゝある大動亂に對し何の準備ともならざりき。

芥子に關する支那の歴史は、支那に於ける外國關稅總監督たる英國人の命により、發刊せられたる公の冊子に記述せられたるを以て余はこゝに順を追ふて其梗概を摘記せんと欲す。

芥子は唐代（西曆六一九—九〇七）以前の支那には、發見せられざりしが如し。其後支那人はアラビヤ商人よりこれを睡眠劑として輸入せり。而して芥子の木は、花卉として賞翫し、或は貴重なる藥品の原料として十七世紀に至る迄、屢々重視せられたり。其當時支那は、比律賓より喫煙の習慣及び煙草の栽培法を輸入せり（西曆千六百二十一年）明朝の後代（西曆一六二七——一六四四）に於ては煙草の喫煙を非難し、これを嚴禁したるは、其後百年の後に至り、阿片の喫煙を禁じたると一般なり。

煙草には、種々の調合劑を混入せり。例へば砒素を水煙管に用ふる煙草及び阿片に混するが如きこれなり。

阿片喫煙に對し最初勅令の發布せられしは、煙草禁止より後る、事約百年程にして、西曆千七百二十九年の事に屬す。夫の有名な旅行家ケンフエル氏の紀行文に依れば、阿片喫煙はこの時代より以前に瓜哇に於て盛なりきと記さる。然りと雖もこは支那に於て行はれし惡德より、多少異りたる習慣なりしが如し。何となれば、ケンフエル氏の記述するが如き、ハマツク或はランニングアモツクは現代に於て見る能はざるものなればなり。

臺灣はその美はしき名稱と共に、阿片喫煙の汚名と不名譽とを擔へり。日本は最近に此地を領有したりしがこの惡習慣の禁絶に關しては當面の最も困難なる問題となしたりき。

西曆千七百四十六年に發見せられたる臺灣に關する二個の著書の中に、この惡風とその結果に關し、次の如く記述せられあるを見るべし。

『阿片は始め銅製の鍋にて煮沸せらる、煙管はその形小なる根棒の如し。一定の職なき無賴の青年、夜毎に集合して、これを喫煙し終に一の習慣となるに至る。この喫煙者の爲めに多くの果物又は美味なる肉類を備へ、又人々をこの巢窟に誘ふ爲に最初は金銭を受けず、暫くするや彼等は殆んどここに入り浸りて全財産を蕩盡し、終に救ふべからざるに至る。若し彼等一日喫煙を廢止せんが顔貌衰弱し口唇開

き正に死に瀕せんとす。而して、再びこれを喫煙すれば即ち元氣恢復すと雖も、三年を出でずして死に至る。この惡習の支那に入りてより十年餘なり」と。

既に阿片に對する嚴重なる禁令が發布せられしも、支那政府は再び一の悲しむべき社會的不幸を、眼のあたり見るに至れり。當時芥子は、東部支那より回教徒により輸入せられたり。この回教徒は、十八世紀以前に雲南に於ける一強國を組織し、アラビヤ、ペルシヤ及び印度に芥子の栽培をなしたりき、西曆千七百八十一年東印度商會は、ワーレン・ヘスチングの監督の下に阿片の專賣權を獲得し、内地に於ては賣行きなきをもつて、何處にか有利なる市場を設けんとしたりき。時恰も吾人は英國下院より次の如き報告を得たり。

「支那は阿片の輸入を禁じたり。而してもしこれを犯す時は、莫大なる罰金を課せらるべし。現に所有する阿片は燒棄せられ、運送中の船荷は沒收せらるべく、既に支那商人にしてこの禁を犯したるものは、死刑に處せられたり」と。

この明らかなる禁止あるにも拘らず、東印度商會は支那政府の貪婪なると、その容易に買収し得べきを豫期して戰爭もしくは海賊に於けるが如き武裝せる船舶を以て、強制的に密賣の危險を冒せり。

英國の商業的市場を得んとする必要と、支那の排他主義（阿片問題に關しては全く道德的立場なりしが後に示されたるが如く一般の貿易に關しては懷疑的政策によりて著しくなれり。）とが同時に起りしは、實に不幸なる事なりき。

又運輸交通の殆んど絶えんとせる今日に至る迄尙は貿易と其歴史を辯護する議論は、單に支那の抗議に對する一種の嘲笑と疑惑なりし事は、悲しむべきことなり。而して支那の主張は、實は阿片に對する高尚なる道德上の非難にあらすして、徒らに外國貿易を嫌惡し、これを排斥せんとしたるものにして、この議論が當時一般に行はれたるは頗る遺憾なり。

印度阿片の貿易が、今日の隆盛を至したるは他にこの惡習慣を生みたる強大なる刺戟物の存在せる爲なりとの議論は争ふべからず。かの聲を大にして、阿片の貿易と其喫煙の惡習慣を非難するものが阿片喫煙家たる道元帝其人にして、一方に於ては、巡撫、總督、道臺がこの密賣買を默許せるは滑稽なる皮肉と云ふべし。然るに林則徐は、高壓手段をもつてこの禍根を絶たんが爲め、向ふ見ずにも廣東に於て、阿片二萬二百八十三箱を沒收し、且つこれを燒棄せしめ終に、西曆千八百四十年の戰を惹起したり。然り而して林則徐の行爲は、即ち暴行なりと雖も、全く私心なき公平の行爲と云ふを得べし。この當時の歴史に關し、吾人の結論は次の如し。

「阿片事件に關しての支那の行爲は、正當にして、英國のそれは不當なり。然れどもこの他の事件に處してなせる支那の行爲は、之を恕すべきにあらず、同様に、英國がこれが苦痛を蒙りしは、當然なり。假令英國が通商貿易、殊に阿片の取引を強請したりしは不當の處置なりとは云へ、英國が支那の外交の政策に忍ぶ能はざりしは正に然るべきと

ころのものなり。

西曆千八百四十年の戦争は、香港を英國に譲與せることによりて其翌年即ち千八百四十一年にその終局を見るに至れり。而して英國は又代替として、貿易上に有利なる二地を要求せり。然れども支那政府の申出たる該二地の歐米諸國に對する不割讓の默諾を拒絶したり。而してその二地は即ち舟山列島及び臺灣なり。其結果南京條約により五港を開き其後千八百四十四年及び同千八百四十五年に合衆國及び佛蘭西との條約により基督教の公布を諾し、其後千七百二十四年の勅令は撤廢せられたり。然りと雖も夫の重大なる阿片貿易に關しては、依然何等の協調を見ざるに支那政府は内には太平の亂（西曆一八五〇—一八六四）の憂患を控へ、外には絶えず阿片密輸入に對したるをもつて頗る憂慮しつゝありしが、遂に西曆千八百五十六年十月アロー號の拿捕は、英國々旗を凌辱せるものなりとの理由の下に第二回の戦端は開かれたり。この英國々旗凌辱と云ふも英國はその國旗を權限外の使用に供したるをもつて既に自から凌辱的行爲をなしたるものと云ふべし。

此戦争は西曆千八百五十八年天津條約により終局を結びしが如く見えたりしが、支那人の太沽砲臺に於ける大膽なる陰謀に依り、戦争は再び繼續せられたりしが終に同砲臺の占領となり、北京は全く英佛二個國の占領するところとなり、この條約は北京に於て批准を経たり。

この驚くべき而かも演劇的手段の採られたる當時、英國は、印度の反亂に會ひ、これが鎮定の爲め海陸の軍隊を派

遣したるを以て、支那との開争は事實上印度に於ける英軍の窮狀を救援する爲め暫くカルカッタに變更せられたり。

この時に於て支那は、二強國と九個の條約を締結し前條約に於て是認したる五港の外に、更に十港を開港して著しき門戸開放をなしたり。而してかの困難なる阿片問題に論及して、三度戦争の慘禍を招くことを避け、遂に己むなく關稅を課して阿片の輸入を許可したり。

吾人は主として阿片貿易の歴史に關し論述し來れり。而して其後の支那及び西洋諸外國との關係につき、論及するの必要を見ず。如何となれば、そは何等この問題に關し特別なる關係あらざればなり。

千八百七十年の天津の虐殺（若し佛蘭西にして、當時獨逸と干戈を交へ居らずして、充分なる兵力を有したりしならんには、恐らくは支那に對し戦端を開きしならん。）千八百七十五年に於けるアール、マーガリー氏の暗殺（著者は同氏が支那内地を横斷して緬甸の國境に至る旅行を敢行せんとせし前夜氏と會見したり。其後氏が此の目的を達し正に歸途にありし時奸計をもつて暗殺せられしなり。）は再び戦争の急迫して避くべからざるを思はしめしが、遂に支那の屈服によりこを未然に防ぐを得たり。而して芝罘條約によりての調印あり、種々の布告を揭示し、二箇年間英國官吏を派遣して、各地を監視せしめたり。これ又著者が當時支那内地在往中目撃したるところなり。人心の不安動搖、宣教師に對する暴行。罵詈雑言の貼札、及び諷刺畫の禁止すべからざる流行。揚子江沿岸に於ける外國人に對する反感

及び反基督教熱、西曆千八百九十一年列強聯合の抗議、宣戰布告をなさざる佛國との戰爭。(この時支那の武士氣質はその敵國たる佛國の特有なる武士氣質に優越したり。)西曆千八百九十五年八月の古城の虐殺、この事件より少しく以前支那全土を震撼せしめたる日清戰爭。西曆千八百九十八年のクーデター。獨逸が二人のカトリック教會の宣教師暗殺の結果たる膠州灣占領。露國の滿州侵略の。日本が正當の戰爭により獲得したる旅順の要塞、英國の威海衛領有。支那の領土保全の保證。彼の拳匪事件の誘因をなせる列強の領土要請。夫の慘虐を極めしと雖も愛國的動亂の勃發。基督教に依る火水も畏れざる強き聖靈の感化。日露戰爭と日本の勝利に依る全世界の驚倒從來多く口にせられざりし愛國心及び愛國的國家觀念の創建。凡て以上述べ來りし事件は、夫の憂ふべき阿片問題を不問に附せしめたり。而もこは明らかに、解決し能はざりしものなりき。

最初東洋に於ける最大國たる隣邦支那を倒し、次に歐洲の大國露國を屠りて、威名を全世界に轟かしたる日本の成功は、支那を反省せしめ、且つ日本の強大を至したる一の秘訣を最も明確に悟らしめたり。そは即ち日本は、平時軍時兩時に於ける西洋文明の萃を、參酌したるは言ふを俟たざるところなれども、就中、日本が阿片貿易に對し、猛烈なる反對をなし、内國に於て芥子の栽培及びこれが製劑を禁止し、極力阿片喫煙の惡風と輸入の防止に力めしことこなれり。

「近く吾人は強大となるを得ん。」とは某支那大官が英國及

び印度政府が、將來誠意を以て支那政府と協力し阿片の使用を防止し、内外共にその貿易及び栽培を抑壓せんとする意あるを認めし時、非常なる熱心をもつて記されたる感謝の書簡の一節なり。

然し乍ら吾人は暫く止まりて、これを考察するに遺憾ながら次の事實を發見すべし。

西曆千八百六十年の條約後に於ける阿片貿易及び阿片の弊害に關する歴史は、悲しむべき阿片使用の普及と印度の阿片供給高の増減(寧ろ減少と云ふより増加と云はん方適當ならんか)及び支那に於て芥子の栽培の爲めに廣大なる面積の供せられたる五十年間の歴史これなり。

拳匪事件の鎮壓せられし後、即ち西曆千九百二年に支那に於て三箇の最も著しき兆候を見る事を得たり。

第一に、阿片喫煙の習慣は以前に於ては秘密に行はれしものなれども、當時は何等恥づる處なく白晝公然行はるゝに至れり。即ち一つの流行となり、禮議として一杯の茶を供するが如く一般社會の各階級に於ける尋常事となれり。

第二に、多數の婦人がこの習慣を學びたる事。

第三に、一般に阿片の有害なるを悟ると雖も、全くこれが禁煙を斷行せんとはせず、徐ろに攝してこの風習の惡毒を輕減せんと企つるに至りし事これなり。

近年西曆千九百七年支那國內に於ける、阿片の總高は各地よりの詳細なる報告により明示せられたり。例へば貴州(阿片の大產地)に於ては、二十五才以上の成年者十人中七人迄は喫煙の習慣を有し、その率は小なれども、多數の

婦人喫煙者ありき。

苗族等の蕃人の中に於ては阿片喫煙の風習年と共に増加しつゝあり。

雲南に於ては、同地に産出する阿片の産額、逐年増加し従つて喫煙の惡風は更に著しくなり、住民の品性及忍耐力は明らかに低下しつゝありき。

雲南を距る千七百哩の福建地方は、西曆千九百七年全く雲南と同様の状態にあり。多くの同地の住民は阿片の喫煙に耽りたりと。

河南に於て芥子栽培の進歩は著しきものありて、多く内地産の阿片を使用したり。

浙江の南方はその産額の多きことに依り擔州阿片として有名なり。同地に於ては六十年以前にはじめて栽培せられしものなれども、近年莫大なる地積を、これが栽培の爲に供用せられ五月の太陽の下に種々の色彩を呈せる有様美觀を極めたるものにして、内地及び外國との取引最も盛なりき。

神の攝理を信する基督教の普及せる如何なる僻地と雖も阿片生産地にして、大小の賣買の行はるゝを見る。且つ支那のあらゆる都市村落の状態及び家族又は一箇人の生活を思ひ彼等社會状態を觀察すれば實、憂ふるべきものなくんべあらず。

今や芥子の栽培及び、内地産の阿片の取引は禁止せられ阿片喫煙者の巢窟を閉鎖し、煙管其他の器物を燒棄して、秘密に喫煙する事も不法行爲となるをもつて、印度貿易の

不振を來たし、對支印度貿易は少くとも現今の處停歩するの已むなきに至れり。

支那はもしも此決心を翻すことなく、更に阿片外國酒其他内地の酒類を過に使用せざるに至らんか、この一大禍難より全く免るゝを得るの日期して待つべきが如し。

吾人は阿片問題及び、現時支那を震撼しつゝある幾多の變動と、關聯して十九世紀の支那に於ける一大反亂たる太平之亂に關し、考察を怠るべからず。多くの史家は太平の亂をもつて單なる獨立せる事件とし、何等特別の意味なく支那の安寧幸福に對し、何等永久的の影響あらざる事件と思惟し來れり。然れどももし吾人の見にして誤りなかりせば、これ善き意味に於ける西洋文明の影響の第一の兆候なりと云ふを得べし。而してこの影響たるや決して夫の侵略的分割的のものにあらず、又武力の干渉を意味するにあらざるなり。

先に述べたるところは主として西洋諸國が自己の利益の爲め、好奇心をもつて力を支那研究に傾注したりし歴史なりしが、今や反つて支那が其手を西方に伸げ、自國の實用に供せん爲め普く西洋文明を、輸入せんとする態度に出づるに至れり。されどこの傾向この運動は、その機未だ熟さざるものありき。而して人民は從來行はるゝ政治組織、社會組織の腐敗墮落を、認むると雖も尙ほ眞にこの歐化政策の利なる事を悟るに至らざりき。

支那に於ける聯合國の調停必要

支那に於ける政治狀態は著しく發展して、非常手段に依つて最後の解決を俟たざるべからざるに至れり。而して、聯合國の力に依らずして、支那自らがこれが永久的解決を創造し能はざるは、明白なる事實なり、若し夫れ、これが解決を彼等支那人のみに任せんか、終には彼等が最も得意とする處の妥協に了るべきは疑を容れず。彼等は實に、如何なる人、如何なるものとも妥協し得る可能性を有し居れり。而して、支那人がこの妥協に堪能なることは、彼等が現在苦しみつゝある困窮に遭遇するに至りし、大なる原因にして、自業自得と言はざるべからず。支那に於ける如何なる政黨も、如何なる團體も、國家の目的を遂行し得る能力を缺き居れり。故に、多數民衆は、最早官僚の徒、又は政黨員に信賴する能はず、一般民衆の援助に依らざれば、如何なる成功も期す能はざるに至れり。支那國民は、近年に於て、幾多の改革論者或はこれに反對する軍閥、官僚の企畫に依り、慘しき經驗を嘗めたるが故に、終に全く彼等の救済に望を斷ち、恰かも、疫病より免れんと焦慮する如く、彼等の提議より、脱れんとしつゝあり。彼等は軍隊に依り、悲惨なる損害を蒙り、政府を設立せんとする幾多の鬭争の爲めに、莫なる犠牲を支拂ひたり。然るに、今や彼等は何物をも望まんとせざるなり。如何なる救済も、干渉も彼等の望む處にあらざるなり。彼等は唯、何等の干渉も受

けずに、放置せられんことを求むのみ。政治家は、彼等自身の鬭争の爲めに、戰ふことを得べし。而して、事實彼等は、過去七年間全くこれが爲めに鬭争を事とせり。然れどもこれに依り何等齎せる處あらざりき。而して、將來も恐らくは何等の進歩も向上も希望し能はざるべし。北方派に幾多の分派ある如く、南方派も亦種々の黨派に分裂せられたり。而して、これ等は何れも他に打ち勝つ力を缺き居れり。而して、終に來るべきものは、妥協なるべし。然れども妥協も二者の何れかが、對者を排除するに足る能力ありと信じたる時は、直ちに破棄せられて、再び元の狀態に復歸すべし。然る時は、再び新しき革命は生れ、再度過去七年度の擾亂は繰り返さるゝに至るべし。

今や、是等鬭争の永久的解決に就き、あらゆる事物に關し充分なる考察をなさざるべからざる時は至れり。而して、鞏固なる立憲政體の確立は、第一に考察せざるべからざる緊急の事項たり。若しも、支那が來るべき平和會議に參與するの權利を得んとせば、支那は先づ須らく國內の問題に全力を傾注し、これが調停解決に努力せざるべからず。支那は、今時の戦争に對し何等與國を援助する處なかりき。支那が獨塊に對し爲せる宣戰布告は、一の滑稽なる狂言に過ぎず。支那が聯合國に加擔して戦争に参加したる利益は即ち國際關係に對し、適當なる調和となりしことこれなり。

而して、この調和は、單に平和會議、若くは極東の種々なる問題に關する或る特定の國際會議に於てのみ、影響を及ぼすべきものたるに過ぎず。若し、支那が歐洲戰亂の終熄の曉も依然擾亂の禍中にあらんか、支那は當然平和會議に於ける資格を喪失するに至るべし。然る時は、當然かの取得し得べかりし利益を逸し去るべし。支那をして、その罪過を悟らしめ、國內の整頓を強請する爲めに、手段を選択すべき時にあらず。而して、これが目的を完成する唯一の方途は、即ち外國の調停、及び外國の財産管理これなり。最早「ベテンに耽るは罪惡なり」等の語を銜つて用ふる場合にあらざるなり。

アングロサクソン人の指導の下に、聯合國は支那の紛糾せる問題を解決すべきなり。完全なる立憲政府の命令に服従する軍隊の改造、國家的武力の改善は、聯合國にして始めて企圖し得べきなり。支那の政治家は、若し彼等のみに委したらんには、決してかの軍服を着けて無上の榮譽とせる無智なる賤民の團體を解散せしむる能はざるべし。而してこの必要なる事業を企つる爲めには、必ず他の何物かの援助に俟たざるべからず。而して、この力は即ち聯合國の勢力を置いて他に求むること能はざるなり。調停者の必要なると同時に、又善後借款も必要なり。然れども此度は決して袁氏の採りたるが如き、無意味なる善後借款を興すべからず。聯合國は正に支那人と共力して、財政の根本的整理、軍事的葛藤の排除、及び從來支那の進歩を阻止したりし時代後れの行政制度を一掃する爲めに、實際的手腕を振

はざるべからず。前述せる事項に關する支那の輿論は、全然贊成の意を表し居れり。これ實に來るべき國家の遠大な變革を豫知する事實なり。

從來、外國人の實際的援助の必要なる所以を力説するも支那人の首肯し能はざる處なりき。然れども今日に在りては、多くは若しも何等の非常手段を構せず、この儘に放置せんが、國家は終に全く四分五裂の状態に陥るべしとの自覺を得るに至れり。この支那の輿論の變遷は、將來の發展進歩の上に、最も著しき然かも有望なる現象を呈するものなり。而して、吾人が希望する如く、この状態にして愈々膨脹發展せんか、これ支那の友邦が支那の前途に對し最も歡ぶ處ならん。支那に對する聯合國の援助は、支那の有すべき最善のものにして、聯合國がこれが援助を敢てせざるは全く謂なきことなり。思慮ある支那人は、正に無二の後援として、この聯合國の援助を請願して起つべきなり。勿論、彼等はこれが唯一の解決方法として、望まじきことたるに一致し居れり。然れども更に必要なるは、即ち一般民衆の輿論表示、及び社會的運動これなり。聯合國は、先づ支那の爲めに充分盡力すべき旨を提言せざるべからず。而して、若しも武斷派がこの提議を斥くるが如きことあらんか、聯合國は支那に對してなせる經濟的援助を停止せざるべからざるに至るべし。立憲主義者は立憲制度を設けんと欲するならば、聯合國の援助に對し、須く好意を持つべきなり。彼等は、事實外國の援助を必要とせり。然らば何故に彼等が外國の援助を乞はんとするに不可あらん。勿論、武

斷派は、これに對して反對するやも知れず、然れども聯合國が現に歐洲に於て軍國主義に對し戦ひつゝある事實より考ふるも、支那に於てこの軍國主義を支持し或はこれが可否を論するが如きは誠に愚と言はんも愚なり。

支那に於ける最も有力なる英國新聞「ノースチャイナ、デーリーニュース」は、九月二十七日の同紙上に外國の調停に關し熱心に提唱したり。而して、この論に依れば、外國の調停は必ず英米二國に依らざるべからずとし、且つ支那人が日本の意圖に對し甚だしく不信を懷けりとの理由に依り、日本のこの舉に加入することを反對せり、又同紙は南北調停に必要な豫備條件として、段將軍が首相の地位を桂冠せんことを希望し、且つ段將軍は國家の存立を危からしむる政策を委任せられこれを破棄することの不可能なる立場にありと評し、更に次の如き言論をなせり。

「問題とする處は、即ち彼をして他の政策を採用し、且つこれを運用すべき、新しき支配者を得ることは國家の利益なりとの事實を了解せしむるにあり、而して、此の目的を達する爲めに、迅速にして且つ最も確實なる方策は即ち外國の調停を容るゝことにして、これ吾人が南北の握手を促進せしむる唯一の手段として、屢々力説し來りし處なり。……從來聯合國公使は、支那人が自ら何等かの手段を構するに先ち、支那より招引を受けるに至る迄は、袖手傍觀すべしとの態度を採り來れり。然れども、この理論は、恰かもかの溺死者の許諾を得て始めて救助せんと云ふに等しくとるに足らざる愚論と云ふべし。英

米二國が調停を爲すために最も有力なる理由三箇あり。(一)吾人が凡て同盟者なりとの事實(二)及び過去十八ヶ月間の爭亂を通じたる強烈なる猜疑心は、かの昔、匈奴の暴虐なる行爲に源を發せる支那人の通有性なりとの事實(三)及び支那人がこれに干與する時は、直に兩者何れかに偏重すとの嫌疑を蒙り易き事實等これなり。吾人の信する處に従へば、これ等二國の代表者は、支那より絶體に信賴をうけ居れり。

勿論平和を促進せしむる爲めに、有力なる種々の要素の存在せるは事實なり。例へば、徐總統に對する一般の簡人的好感情、若くは尊敬而して平和を希望せるは單に長江督軍のみならず、北方派の將軍連もこれを希望せり。且つ、西南の方面に於ても無意味なる鬭争を續くることの不可なるを悟り居れり。唯、この共同の解決を得る爲めに、何人がよくこれ等要素を結合按配して、公平なる調停の衝に當るを得るや否やの問題たるに過ぎず。

然れども、これ等調停者は、決して内より生すべきものにあらずして、必ず外より來るべきものなり。吾人の希望し且つ提唱する處は、調停者が必ず此の二國に限られざるべからざること、これなり。蓋し、如何なる場合に於ても、(少くも支那の場合に於ては)調停者の數を増すことは、何等多くの實際的效果を齎さざるを以てなり。この問題に關しては、更に論述せざるべからず。「ノースチャイナデーリーニュース」は決して日本に對して、不信なりとの非難を受ける理由なし。吾人が日本の利益に

對し、支那の利益と同様、充分なる了解を有すとの言を

なす所以は、日本の舊友たる特權に信賴する外、更に容認せらるべき理由を有するを以てなり。支那人が日本の支那に對する意嚮に關し、甚だしき疑惑を抱き居る事實はこれを無視すること能はず。屢々公言せられ、吾人も亦日支親善の効果を深く信じたりし寺内内閣の政策は、過去十八ヶ月間の實蹟より觀察する時は、遺憾ながら寺内内閣の支那に對したる好意は著しく偏頗にして、餘りに一方のみを偏重したる嫌ありと言はざるべからず。而已ならず、段内閣は、外國よりの借款を興すにあらざれば、到底戰爭を繼續することの不可能なるは明白なる事實なるを以て、かの無責任なる日本の借款運動者の活動は、日本國民に對しても尙ほ反感を與へたり。東京政府は、最早信賴するに足らず、且つ平常の先見達識に似ざる事を表示せり。日本が、支那貿易に於て優越なる地位を得んと欲するは自然の理なり。然れども、今日の支那はその國狀、五十年前のそれとは大に趣を異にせり。戰爭終熄の曉、歐米の企業家は、再び支那に於てその全力を傾くべし。而して、日本が商業上一大打撃を蒙るべきは已むを得ざるの狀勢なり。吾人が以上直言せる理由は全く友誼的行爲に基くものにして、吾人の率直なる態度は、決して日本の誤解を招くものにあらざるを信ずるを以てなり。今や外國の調停は行はれんとせり。而して、日本政府がこの交渉に對し好意的態度に出て、これに加盟せんことを提議せざらんか、これ日支兩國の歴史の上に

一大光彩を添ふものと云ふべし。

(フアリーイーヘタンリビュー十月號所載)



彙 錄

湖南の食鹽缺乏

目下長沙を初めとし各地に於ける鹽の供給に缺乏し日常生活上に多大の迷惑を來たし吾同胞在留者中には遠路漢口より購入して日常食用を充たし居るに至れり支那人側の困難は又一方ならず必竟原產地より並に省外鹽商より輸入を停滯せるものにして其首因は湖南省に硬貨拂底し濫發せし紙幣は銀貨一元に對し十六串文以上の兩換相場となり紙幣と硬貨即ち銀貨（光洋と稱するクリンダラ）と兩換の困難なるを以て省外との取引に差詰の不自由を來したる所以なり。

長沙油鹽商等が省當局に訴へ各地方より商務總會へ苦情を陳せるもの一二を左に摘抄して鹽の缺乏に困しみ居れるを證せん。

（イ）長抄油鹽商 は省政府に向つて銀行に命じて新紙幣を以て舊敗紙幣に兌換せしめんことを請願せしも未だ省政府は何等の答示なく鹽を購入するには光洋を用ふべく敗爛せる舊紙幣を以て入市税に充つる能はず而して光洋に非れば買込みをなすを得ず民間の小買人は依然舊敗紙幣を以て買はんとし日々店には買手擁擠群來せるも鹽店はみす／＼損失をなして舊紙幣を收むる能はず其ため葛藤を紛起し毆打血流の慘狀を續發し鹽の買入に窮し民間は

鹽食を絶たんとす。

（ロ）長沙縣下東郷の紳士 周文齋、蕭榮爵、余肇康、楊文煥、章荇生等の老紳等は長沙商務總會に左の如く訴へ來れり。

東郷は兵燹に罹りし以來人民は離散し驚魄定らず近頃紙幣暴落し米價は奇昂し此が維持に困み更らに鹽の缺乏に窘束し東郷の人民は日々長沙に入りて鹽を購入するに其途中白馬舖一帶に駐在せる兵士に掠奪せられ又摧運局（鹽運局）は郷間に私兵を派して其購入額を一回四十斤と制限しもし四五名の購鹽者が一度に同路を通過する際に四十斤の總額に過ぐれば私兵に押奪せらる斯かる次第なれば民間の鹽は日々不足を生じ淡食（無鹽）の已むなきに至る此十數日は鹽の購入をなす能はず特に商務總會に通告して督軍に申請し摧運局の私兵を取締り此維持をなさんことを請ふ。

（ハ）沅江縣の祝廷福 等は長沙商務總會に宛左の要求をなせり。

全縣鹽の缺乏を訴へ居るも摧運局は屢々兵燹に遭ひ鹽庫は空竭し其後洪水其他土匪の被害頻發して鹽の販賣をなさず個人として購賣するものなし摧運本局に此情狀を陳述し早やく鹽の供給をなさざれば民間の疾苦は勿論又如何なる騷擾を惹起するやも測り難き情勢なり云々。

右は僅かに一二の例を挙げたるのみ此他各縣各郷に於ける鹽の缺乏は今後一層猛烈に赴きつゝあり湘江は減水し長沙又は常德方面も汽船航路杜絶せる今日更らに甚しき狀況

(支那語)

索還掛欠
滙兌尾撥入金
滙兌尾繳入金
支付地點
支付傳票
轉販傳票
總販
押滙
利息
公司債票
貨物提單
貨物棧單
經手費
未收股本
公積金
該項
存項
股利均一公積金

(日本語)

舊債取立
爲替尻決濟拂込金
爲替尻決濟納入金
支拂場所
支拂傳票
振替傳票
元帳
荷爲替札
利債
社債
貨物引換證
貨物倉預證
手數料
未拂込株金
積立金
借貸方
配當均一積立金

寄贈書目録

通商公報	外務省通商局	自五七三號
地學雜誌	中國地學協會	自五七七號
東洋經濟新報	其社	自八三三號
商標公報	特許局	至八三四號
財政經濟時報	其社	四三七號
學燈	丸善株式會社	一二號
貿易	大日本貿易協會	一一號
東方時論	其社	一一編
帝國鐵道協會會報	其社	一三號
日本及支那	日支時論	一三號
日本一	南北社	二五七號
三田評論	其社	二四二號
東洋時報	東洋協會	九七號
銀行社記事	銀行社	七四五號
新若書	丸善株式會社	一〇號
日本及日本人	政務社	一〇號
外事彙報	外務省政務局	三三號
新公論	其社	一一號
報德	其會	至一一號
ヘラルトオブアジャ	ヘラルト社	一〇號
上海經濟時報	其社	四八號
月報	水浦商業會議所	一〇號
經濟實計	東亞經濟調查局	一二號
奉天省現行稅制	南滿洲鐵道株式會社	一卷
第三回臨時海外派遣	農商務省商工局	二號
官報告集	其社	六號
國民經濟雜誌	特許局	二九九等
特許公報	名古屋商業會議所	一一九號
月報	其社	一一號
紡織外	其社	五一三號
實用新案公報	其社	一一號
大陸	臺灣實業協會	一一號
朝鮮及滿洲	其社	一三八號
水產界	大日本水產界	四三五號

支那半月史

大正七年十一月下半

萬國委員會論

米國公使進言說

駐支米國公使ラインシュ博士が、十月中旬前後を以て支那政府に對し、一種有意味の進言をなしたりとの風説あり、十月二十九日の上海時事新報は、右の内容なりとて次の如き北京通信を掲げたり、即ち聯合國が支那の事態に對し不滿の意を抱き、萬國委員會を支那に設け、治安の維持、實業の振興等に就き支那に代つてこれが整理をなさんとするに在りと言へり、頗る確實性を缺けども時節柄注目するに足るべき言談なれば次に採録す。

各國重要人物の言論皆謂ふ一月以前支那は敵國俘虜收容に對して極めて熱心なりしと今に及んで各方面の所謂熱心なる者を觀察するに僅に外交部あるのみ之が爲に協約各國人民の支那に在る者支那は對獨宣戰に加入の後絶えて協約各國を援助するの誠意なし各國の公使館官員亦此論を持し各公使館の所有る本國政府に報告する文書亦支那が獨逸を以て敵國と爲さざるの諷刺を包有す各國政府尙未だ完全に支那に在る官民と同一思想なるを表示せずと雖も久しからずして亦必らず一致に趨かん協約各國東方に在るの會議を觀

るに竟に支那を以て協約各國の列に在らずと爲す則ち將來和平會成立の時支那は恐く協約各國視て團體の一分子と爲さざるに至らん蓋し支那の敵人を遇する未だ寬縱を免れず獨人ハンネツケン（ハネツケン）の如き井陘礦務の勢力に藉りて天津に於て大に活動を爲し領事と分際異らず獨逸の赤十字社亦未だ封閉せず皆其顯證なり異日講和の際當然良好の結果なからん又支那南北の戰禍久しく未だ解決せざるは實に雙方調和の觀念なきに因る軍興つて以來彼此皆極端に走る權利の私見に非ざるなし各國官民より之を見れば支那の兵は實に土匪と異なるなし蓋し國の兵を設くるは敵を禦ぐ所以苟くも外患なければ自ら應に警察と同じく民の保衛に當るべし乃ち支那の兵は但だ民を保つ能はざるのみならず反て民を害するに至るこれが解散に至ては亦未だ何等の辦法あらず又支那は軍費浩大の爲に遂に財政困難に至れり支那も亦之を知る英國乃ち六十萬磅のマルコニー無線電借款を交付せるもの此項借款を以て戰局の計畫と爲せるもの獨逸の無線電借款既に成立し居るが故に英國此對抗を爲せるなり恐く支那は此諸の負債を以て急に各項の興利事業を圖らずんば破産目前に至るべし以上舉る所の三端は皆支那の最も注意すべき點なりとす聞く各國支那に於て萬國委員會を設立せんとす此事各國從前提議を経たるが唯た相互の疑念に因て未だ實行する能はず抑協約各國支那が敵人を處分せるの機に乗じて遂に此事を以て對敵計畫と爲し成立し容易を期す各國中の素と支那に親む者亦異議なし且此舉祇だ支那の腐敗官僚稍妨碍あるも其好官良民皆其利を受く蓋し治安を維持

し、實業を振興する外人代つて整理を爲すに非れば、必ず成效に乏し、即ち冗兵を汰することに就ても亦外人に非れば之を辨する能はず要するに萬國委員會の議各國官民の支那に在る者人々皆之を言ひ漸く傳へて歐米に至り必ず遂に事實と成らん謹で聞く所に據り伏して垂鑒を乞ふ。

英米の熄爭勸告説

駐支英國公使ジョルダン氏は、十一月十八日徐總統に謁見し、公式に聯合軍の戦捷に對し、聯合國の一員たる支那に向ひ賀辭を呈したる後、支那が速に内争を熄め、世界的平和の大勢に順應せんことを希望し、徐總統はその好意を深謝したり。廣東に於ても十一月十九日頃米國領事が公使の旨を奉じ、軍政府に對し熄爭を勸告したるが二十一日再び軍政府を訪ひ、政務總裁伍廷芳氏に對し北京政令府の停戰令宣布に應じ、軍政府に於ても同様の命令を發するを以て妥當なりと述べ、形勢今日の如くして尙ほ停戰令發布に躊躇するは國際的罪惡なりと切言せり。軍政府にては右に關し、二十二日政務會議を開き、岑首席總裁は缺席せるも伍廷芳氏以下出席、停戰令發布の件に關し協議せるが、李烈鈞、徐謙、張伯烈氏等強硬論を主張し、(一)徐世昌にして大總統の名義を取消さず、(二)新國會を解散せざる以上停戰令發布に同意し難しと頑張り、議容易に決せずして散會したるが、同日午後再開の結果、硬派少數にて破れ翌日停戰命令を發するに決したり。

軍政府停戰命令

十一月二十三日公布の軍政府停戰命令左の如し。

慨す軍興つてより以來膏血野に被むり盧井墟と爲り國力これが爲めに凋敝し元氣毀傷す一たび念及する毎に痛心疾首す本軍政府の法を護り師を興せる原と國本を保全するを以て戰志と爲し迭りに法を依るの和平及び永久和平の兩義を宣佈するを經たり此心此志永く失うて渝らず苟しくも和平を以て護法の主張を貫徹すべくんば斷じて重ねて吾民を累するに忍びず比る聞く北方休戰の言ありと本軍政府は素と和平を愛す詎んぞ復た好んで黷武を爲さん此れが爲めに前敵各軍隊に通令す原防を恪守し靜かに後命を待てよ果して北方誠意和を言ふか自から當さに法に依りて解決すべし本軍政府厚望あり焉此に令す。

廣東の和平期成會

南北兩政府共に停戰命令を發布したり。平和氣分は逐日濃厚となり來らざるを得ず、果然廣東總商會の發起にて眞督軍(榮新)の許可を得たる廣東和平期成會なるもの十一月二十四日頃組織され、十二月一日成立大會を擧げたり。廣東は七十二行以來商人の勢力強し、而して今や陸榮廷氏の後援を得たりと稱せらる、その有力なる運動なるべきは推察し得べし。組織大綱に曰く。

(一) 民意を宜べ和平促成を期す。

(二) 言論演説に依り和平を鼓吹し文書電報並びに特使派

遣等に依りて南北兩當局に和平を勸告す。

(三) 代表十二名を各地に派遣し全國和平期成會と協力せしむ。

(四) 本會は自から和平條件は提議せざるも會員は個人として意見を發表することを得。

段派の蠢動

段派が徐世昌氏を大總統たらしめしは徐氏を責任の地位に立たしめ、南方派非難の衝點に當らしめ、以てその主戰策への復歸を餘儀なくせしめんと、の魂膽なりしは想像し得る所なり。然るに事豫期に反し徐氏は逐日勢力を加へ來り、その主和策は追々南方の諒解をも得、列國の徐氏を視ること漸やく重からんとするに至りたるを以て氣が氣でなく、一方休戰條約成立に依り折角自派の隠れ家とせる參戰督辦處もその必要なきに至りしより、狼狽の極段祺瑞氏を國務總理に復せしむるの運動を開始したり。安福俱樂部議員が盛んに錢內閣改造を主張し、その首領たる王揖唐を內務總長たらしむべく運動せし、尤も其間の情偽を見るに足れり。然るに徐總統錢總理は何か恃む所あるもの、如く安福派の運動を軽くあしらひて問題にさせず、追つき拂つて尙ほ主和策を續行するにぞ、安福派は業を煮やし、十一月二十六日衆議院議員賀培桐等をして錢總理彈劾案を衆議院に提出せしめ、錢總理が先きに主戰策を主張せし一人にてありながら今主和策を主持するは其意を得ずとか、今日の如き重大なる時局に際しては世界的眼光を具し內政を洞悉し外

交に深明なるの老手に非ざれば總理たるに足らず、錢の如き狡猾なる前清の舊官僚にして家あつて國あるを知らざるの輩は不可なりとか、政事黨右丞時代東陵公司事件に關し私利を營みたりとか述べ、極力中傷を試み、倪嗣冲張作霖以下主戰派督軍は督軍會議終れるにも拘はらず退京せず無形の威嚇を與ふると共に、日本滞在中の徐樹錚をして借款交渉を進めつゝあるやうに装はしめ、盛んに鳴物入りの恫喝を試みたり。大勢妥協に傾きたるに拘はらず、依然之に順應することを知らず、統一の障礙物を以て目せらるゝ者南に純理派あり、北に主戰派あり、特に北方主戰派の此の如き蠢動は見苦しき限りにして殆んど國際的反感を挑發したるに近し。是に於て列國の妥協勸告出づ。

妥協勸告

借款援助中止

先是帝國政府は、支那南北の妥協統一に關し友誼的勸告を支那政府に致すの妥當なるを思ひ、英米佛伊の四國政府に對し、共同勸告に出でんことを提議したるが、全然賛同を得たるを以て、在北京五國公使は十二月二日午後四時徐總統に謁見し、又廣東に於ても右五國領事團は同日午後四時半軍政府を訪問し、首席政務總裁岑春煊病氣中なりし爲め伍總裁（廷芳）に對し、何れも同様の覺書を交附したり。右に關し十二月三日外務省の公表左の如し。

帝國政府は支那の内訌久しきに亘りて解けず爲に同國自

身の康寧と列國の利益とを損傷するの甚だしきものあるを見て夙に憂慮に堪へず此際紛争妥協の促進運動に資せんがため佛、英、伊、米諸國政府と共に支那南北首腦者に對し全然友好的の勸告を爲すの機宜に當る措置たるべきを念ひ之を前掲列國政府に提議したり爾來本件帝國政府の所見は全然其の賛同を得たるを以て北京に於る日、佛、英、伊、米五國代表者は十二月二日徐世昌閣下に謁して左記覺書を呈出し同時に廣東に於ける關係列國領事官は同日南方首腦者に對し同文の勸告を與へたり帝國政府は支那國民が其階級又は政派の如何を問はず舉げて今回勸告の公正無私なる衷情に出でたるを諒とし其の愛國的協同努力に依り速かに支那國內に平和及統一の樹立するに至らんことを切望するものなり。

覺書 (譯文)

過去二箇年に亘り支那南北を乖離せる内訌は日、佛、英、伊、米各國政府の寔に憂慮に勝へざる所なり此不祥なる紛争は支那自身の康寧を壞敗し併て諸外國の利益をも損傷したるのみならず延て一般人心の動搖を來たし爲に敵國側をして之に乗ずるの機會を得せしめ今次戦争の最大難局に際して支那の聯合側との協力を阻害するに至れり今や危機漸く過ぎ列國共に各國民間に平和及正義の實現を目的とする世界的組織の成立を希圖するの秋に方り支那に於ける内訌の尙熄まざるは此の大業を一層困難ならしむべし。

日、佛、英、伊、米聯盟政府は支那共和國大統領が内訌

妥協の爲め既に執られたる措置を諒として多大の希望を屬すると同時に南方首腦者諸氏の態度も亦同様穩便に紛議を解決せんとする意を示すを認め深く之を欣幸とす依て前記五國政府は北京政府及び南方首腦者諸氏が些々たる個人の感情若は法規の枝節に關する見地を排し且細心以て平和樹立の障礙たるべき一切の舉措を避け隔意なき協議を擬し理法の大則と支那民福を顧念するの衷情とに基き支那國內に平和統一の實を擧ぐるに必要なる妥協成就の手段を案出せんとするの徴候に對し同情と期待とを以て之を迎ふるものなることを茲に言明す。

日、佛、英、伊、米の各國政府は南北雙方に於て從來其の乖離を招きたる各種難件の解決を圖らんとする努力に深厚なる同情を表するに當り五國政府には何等干渉の企圖を有せず又何等妥協の特殊條件を指示し或は之を左右せむとするの意志なく此等妥協の條件は支那人士自ら協定すべきものと認むることを明にせんと欲す五國政府は妥協統一の實現を計らんとする南北双方の熱望努力に及ぶ限りの聲援を與へ以て支那國民が列國の現に企圖する世界改造の偉業に參與して傳來の國威を發揚するに至らんことを望むに過ぎざるなり。

同日外務省は對支借款に就き次の如き聲明をなしたり。通般來支那に於ける日本の活動特に借款問題に關し種々の流説傳はりて帝國政府の意思を誣ふるもの尠からず固より支那に於ける我國民の財政經濟上の企畫にして隣接友好國間の特殊關係に基く當然且正當の成果たるものは政府に

於て之を阻止するの措置を執ることを得ず、猶又支那一般の康寧福祉の爲め必要あるに於ては政府は累次の宣言及諸外國との協定の條項に牴牾せざる限り支那に財政上の援助を與ふることを躊躇するものに非ず、然れども支那南北内訌の現狀に際し、對支借款は頗るすれば南北孰れか一方の誤解を招き延いては支那は勿論關係列強の最も關心せる支那の平和及統一の回復を阻害することあるべく、従つて政府は支那國內の政局に紛糾を加ふるの慮ありと認めたる借款其他財政上の援助は之を差控ふることに決定したり、此方針は支那に利害關係を有する諸列強の切實賛同する所なるべきを信す。

同日外務省發表の支那及び西伯利亞に對する投資方針左の如し。

時局の進運に伴ひ本邦資本家の支那及び西伯利亞に對する投資は外交上將た又國家の財政並に經濟上影響する所尠からざるに鑑み、今般政府に於ては左記の方針を決定し、嚴に之を勵行することゝ成れり。

一、爾今本邦資本家に於て支那及び西伯利亞方面に對し、其の中央地方何れの官憲たるを問はず、苟も之に政費を融通することゝなる處ある借款又は類似の交渉を開始せんとするに當りては必ず先づ之を外務省若しくは在外帝國大使館又は領事館に申報の上指示を受け、尙隨時交渉の經過を申報せらるゝことを要す、外務省に於ては速に大藏省及其他の關係官廳と協議の上關係資本家に對し隨時指示すべし。

二、關係資本家に於て前項の指示を待たず又は指示に反して交渉を行はざるゝときは政府に於て保護を供與せざることあるべし。

三、問題の性質又は交渉進行の程度に依りては關係資本家に對し直接に大藏省又は其他の關係官廳より指示することと取計ふことあるべし。

覺書に對する世評は良好なり、特にその文句の友誼的にして毫も内政干渉的の臭味無きは世人の多とする所、若しそれ借款方針聲明に至つては公明深切といふべし。

南方の和平會議開會主張

廣東軍政府は二日徐總統に宛て、歐洲戰爭終り強權消滅せり、支那も世界の潮流に従ひ平和恢復の要あり、南北既に停戰令を發しながら徒らに時日を消費するは遺憾なり、茲に誠意を披瀝し眞正の講和を希望す、上海を以て適當の中立地帯と認め辛亥民國元年の例に倣ひ双方より同數の全權代表を派し、一切の法律政治問題は理に依りて斷じ法に依りて解決し、國利民福を圖り永く平和を保たんとことを望むと打電せるが、此意味頗る重大なり、即ち一面和平會議開催が南北双方の承認を経たるを意味し、他面、舊國會に據れる南方急進派と、軍政府に集まれる穩健派との協調成立を意味すればなり。軍政府が國會多數の黨嚮を無視して行動し得たる事は從來其例なし。

支那の講和條件

十一月二十一日の國務會議は外交部提案の支那が歐洲平和會議に參列し得べき理由として左の各項を可決せり。

(一) 宣戰後敵國艦船を押收せり。

(二) 兵力を以て東清鐵道を維持し北滿洲に於ける過激派の勢力を驅逐せり。

(三) 昨年十二月段前總理は三個師團を西部戰線に派遣する事に決し佛國側に運送船無きため中止せしが右は支那側より中止せしに非ず。

(四) 本年六月駐支英國公使ジョルダン氏の忠告に従ひ在留獨人を濠洲に放逐せんとし聯合國側より前議を取消せるため中止せるが右も支那側にて中止せるに非ず。

(五) 本年五月駐支米國公使ラインシュ氏の提議に賛成し軍艦海容を烏港に派遣し秩序維持に協力し同年日支軍事協定を締結し極東に於ける敵國の勢力を驅逐し並びに參戰軍隊を烏港及び滿洲里に派遣せり。

(六) 苦力十五萬を西部戰場に送り戰鬪力の増加に直接關係ある勞力を供給せり。

(七) 一八八一年條約を犠牲とし滿洲里より糧食を輸出し聯合國に供給せり。

(八) 本年八月佛國の要求に依り北滿洲より米穀を輸出し安南軍に供給せり。

(九) 支那が宣戰せる時北京駐在聯合國公使は支那を聯合國の一員として將來平和會議參列の資格を認めたり。

(十) 對敵通商禁止條例を發布せり。
右の理由に依り支那は平和會議參列の權利ありと信じ、

外交總長陸徵祥氏を特派使節とし、同氏は隨員外交部參事劉崇傑(日本迄)同嚴鶴齡、同王景岐、以下十五名を從へ十二月一日北京を出發せり。而して支那が前掲の理由に依り平和會議に提出すべしと傳へらるゝ條件左の如し。

第一、青島及び山東鐵道問題

山東選出衆議院議員王訥等より青島及び山東鐵道回收に關する建議案提出せられ(時報欄參照)日支軍事協定に反對して歸國せる歸國留日學生救國團は、一步を進めて右回收の無條件なるべきを主張せり。支那政府は結局此問題を平和會議に提出すべしと察せらる。山東鐵道問題は日支合辦等の溫和論(支那側より見て)もあれど、大多數は無條件回收を主張し居るものゝ如く、青島問題以上の難問なり。

第二、東清鐵道管理問題

單に日露支三國の問題たるに止まらず、西伯利出兵以來聯合國全般の關係を生じ來れる故に、支那提出案中の最難件たるべく、この解決如何は今日に於ては豫測すら許されざるなり。

第三、領事裁判權撤廢問題

至當なる問題、特に明治初年以來司法權恢復、稅權恢復に就いて多大の困難を経験したる日本としては、同情を以て視るべき問題なれど、何分にも關係法規の未だ完備せず、司法官養成完からず、行政官たる縣知事が司法官を兼ねるが如き現制にては時機尙早の感なくんばあらず。徐樹錚氏が前陸軍上將たる陸建章氏を誘殺せしが如き、最近の不快

なる實例なり。

第四、關稅改正問題

昨年支那參戰の代償として聯合國側に於て關稅改正を承諾し、今春來關稅委員會を開き現實五分率を採用し、尙戰後二ヶ年間に於て、此稅率の一部又は全部修改を承諾したり。支那側の意圖は稅權の恢復に在りて、一足飛びに協定稅率廢止を目標とせるものゝ如し。此問題は關係列國の利害關係錯綜せる關係上決定困難ならん。

第五、義和團事件賠償金免除問題

支那參戰の代償として五ヶ年間支拂を延期せられたる本債金を全然免除せられんことを要求せんとするものなり。日本に債金免除の内議ありて詮議中なるが如く、關係列國も大多數は異議なかるべしと想察せらる。支那提出案中解決最も困難ならざるものなり。

第六、蒙藏開放問題

意義甚だ曖昧なれど兩地に於ける國權恢復を豫想せしむるものあり、然らばこれ亦一難問題なり。

山東民政撤廢

山鐵沿線守備隊撤退

山東鐵道沿線に於ける我が民政署（坊子及び領事が民政署長を兼ねる濟南）及び同鐵道沿線の我が守備隊は、濟順、高徐兩鐵道借款契約成立の交換條件として、將來適當の時機に於て撤廢さるゝことゝなり、九月二十四日支兩國政府の間に公文書交換を了したりと、山東議員王訥等の質問

（時報欄參照）に對し錢總理の回答左の如し。

査するに此案は外交部及駐日章公使の嚴重交渉を経たるも日本政府は堅持して讓歩を肯せず爭執多時結果なかりしが政府は此事の久懸決せざるは國家の主權に妨げあるのみならず地方人民尤も無窮の痛苦を感受するを以て本年二月山東督軍と商議し濰縣開埠を以て調停辦法と爲し外交部より林公使に提議せしめ一而章公使をして日本外務省と交渉せしも日本は始終延宕として確實の回答無かりしが本年九月政府適々日本資本家より借款して濟順、高徐兩鐵道を建築するの議あり終に機に乘じ章公使に電令し民政署撤廢及膠濟（山東鐵道）沿線軍隊の引揚を以て交換と爲し日本政府と確議せしめたる結果九月二十四日日本外務省と文書を交換し將來此項文書實行の際は凡ゆる山東各處の日本民政署は即時撤廢すべきことを訂定せり右回答す。



時報

内治外交

●支那の講和準備

大戦講和會議に使節派遣の事は已に決定したるが徐總統は對獨要求條件に關し左の大綱に依り各要人と共に研究を重ね居れりと。

(一) 津浦鐵道北段に關する一切の契約を取消し完全に支那政府の所有に歸せしむべきこと。

(二) 獨逸よりの借款を調査しその半官的性質を有するものに對しては適當の處置を講ずべきこと。

(三) 押收したる獨逸船舶の沒收。

(四) 獨人私有財産に關する事項の調査。

大體右の順序に依り研究を進め遅くも本年中には成案を得べき豫定なりと。(七、一、一七、順天)

●青島還附を要求す

今夏日支軍事協定の締結に反對して大舉歸國したる日本留學生は救國團なるものを組織し運動を繼續し居たるが此程次の如き通電を北京政府廣東軍政府國會督軍省長省議會教育會商會及び各新聞社宛打電したり。

曩者日人防獨に藉口し我國を強要して軍事協約を訂立するや同人等深く彼國別に野心を懷けるを知り學を輟めて國に歸り拒約を請願せしも未だ察納を蒙らず終に禍端を醸せり數月以來日幣北部に濫行し日兵東蒙に侵及し更に此に由つて以て我が新疆を窺はんとす事實顯然中外共に睹る同人等不幸言中り實に心に痛みあり敢へて先見の明に訪らんや尤も後來の禍を懼る何の幸ぞ今者歐戰終を告げ獨塊屈し己に防敵の必要なし應さに解約の宣言をなすべし伏して望むらくば政府即日中外に布告して該約を取銷し並びに日本に

請うて速きに從つて滿蒙の騎兵を撤退し以て列國の猜疑を釋き我國の領土を保たんとを又青島はもと我國の土地たり獨人武力を以て強索租借し日本又從つて而して之を奪ふ日獨開戰の初に當り日本政府はち宣言すらく戰後必らず該島を以て中國に還すべしと今戰局既に終る應さに政府より日本に要求するに前言を實踐して我國に歸還し決して別に要挾あるを得ざるべきを以てすべし以上の二事は國權に關係す務めて望むらくは我が政府上に堅持し我が國人下に力倡し狡鄰をして更に藉口するあらしむるなからんことを主權を恢復し領土を保全せば國家幸甚人民幸甚歸國留日學生救國團同人謹叩。(七、二二七、民國日報)

●領事裁判權撤去問題 北京國會議員杜棣華(安福俱樂部員)等三十餘名の連署にて次の如き「派員列席交涉領事裁判權案」提出されたり。

歐戰數載を越へ人類此の慘判の恒河の沙を以て計る可からざるに遭ふ協約國が種々を犠牲とするを惜まず戰爭最後の勝利を獲得するを以て止と爲すその目的果して何くに在るや獨逸兩國世界の公道自由を破壊するが爲め也我が國亦獨逸兩國が世界の公道自由を破壊するが爲めに協約國に加入し種々を犠牲にするを惜まず以て協約國と相提携せるが今や果して協約國の素願の如く最後の勝利を獲得せり矣則ち凡そ公道自由ならざる者あらば此後まさに復た世界に容れられざるべき也領事裁判權は世界一種最も公道ならざるの特例にして實に即ち文明國の野蠻國に對待する一種最も不自由の裁判也日本かつて領事裁判權の國內に存在せしこ

とありしも政治を改良してより後即ち各國の撤回を経たり土耳其亦かつて領事裁判權の裁判を受けたりと雖も今にいたりては已に明日の黃花と爲り復た賭るべからず蓋し一國の政治文明に進めば他國即ち其國主權の行使を妨害するある能はず他國人一國內に在りて罪を犯して其國法律の制裁を受けざるが如き未開化の野蠻國に在りては文明國の法律と相等しきこと能はず犯罪人に不利ならんことを恐れ或は領事裁判權の保障を要することもあらん否らざれば則ち領事裁判權を設置して其國主權の行使を妨害するは徒らに與國に對待するの不公道不自由を表示するのみにして自國には毫も實益なき也もし假りに他國亦領事裁判權を以て自國に設置せば吾恐る國人將さに不公道不自由の苦痛を感じ堂々正々の抗議書を提出せん「已所不欲勿施於人」歐米先進國は早きに當つて我國領事裁判權の公例に適せざるが爲めに撤回を私議せしことありたゞ我國未だかつて之と力爭せず因循設置せる耳況んや屬地主義大陸に風行してより屬人主義は即ち須らく二十世紀に廢棄せらるべきをや日本土耳其の領事裁判權を撤回せるその明證也乃ち此の公道自由を維持するの歐戰終を告げ平和會議をもつて開幕せられんとす我國派遣委員の平和會議に列席する又近く目前に在り此種公道ならず自由ならざる領事裁判權は我が國政治刷新以來復た存留の餘地無し應さに請ふべし政府員を派して平和會議に列席する時撤回を提請せんことを想ふに協約國既に公道自由を維持するを以て目標と爲す此の不公道不自由を廢棄せんとするの請求に對しては當さに起つて而して非

難するなかるべき也謹しんで院法に依りて提出し大會の公決を請求す提出者杜棟華連署者董能藩等三十餘人。(七、二二、民國日報)

●青島回收建議案 山東各界の青島及び山東鐵道問題に關する熱心驚くべきものあり各團體よりの打電引きも切らず省議會も外交問題に關する要案を通過し代表を舉げて錢總理陸外交總長に謁見し陳述する所あり同省選出衆議院議員王訥以下よりも青島回收に關し次の如き建議案提出せられたりと。(七、二二、五、上海時事新報)

爲建議事、査するに青島の交渉は獨人英露勢力の東亞に擴充せんことを恐れ膠州教案を借りて名と爲し青島を強佔するや清政府は獨の蠻横無理におそれ九十九年租借の條約以て成る租借以來獨人種々壟斷し我國の喪權損威の處擢髮數へ難し我國協約に加入して以來あらゆる従前我國と獨塊二國との各種條約上の關係は全く應さに解除すべく青島は本と收回すべく更に何等の問題を生ぜず惟だ參戰以前日本協約の故を以て青島を攻取し並びに鐵路を占有して暫時之を管理す恐らくは各國和平會議の時に於て障礙を發生せん然れども査するに民國三年八月日本の獨に致せる最後通牒第二款に云ふ「獨政府膠州灣全部をもつて支那國家に還附するの目的を以て」と又聲明す「永遠に東亞の和平を保つが爲めに見を起し決して土地を領佔するの野心なし」と是れ日人固なり早く中國に交換するの主張あるなり國際信義上より之を言へば日本は當さに遽かに前言を食むに至らざるべし且つ日本の青島を攻取するや原と協約の宣戰よりし

て起る我國參戰してより後は即ち協約國の一たり國際友誼を以て論すれば日本は應さに亞條件を以て青島を中國に交還すべく尤も義の辭すべからざる所たり膠濟鐵路に至りては原と青島租借の附帶條款たり青島既に應さに交還すべくんば則ち日本の鐵路管理の權同時に亦應さに消滅すべし且つ米總統かつて宣言あり應さに和約を立定し各國をして各々その應さに有つべきの地方を得せしむべく且つ其人民をしてその隣邦を畏怖する所なからしむべしと則ち青島は固と我國の領土なり應さに有つべきの地方を收回す米總統の公理を主持するの正義に於て極めて符合を爲す茲に歐戰已に終り和議開始せらる聞く政府將さに代表を派して歐に赴むかしめ私議に參與して樽俎に折衝せしむと我國の前途に關係する甚だ鉅なり謹んで院法第三十七條の規定に依り建議案を提出す會に交し公決し政府に咨請し和平會議に提交し並びに赴歐代表に責成して一切を主張せしめ青島及び附帶の鐵路建築の管理權を收回し以て國權を挽き領土を保たんことを是非當さに敬んで公決を候つべし。

●山東民政質問案 山東選出衆議院議員王訥張棟銘沙明遠氏等は日本の山東に民政署を設けたるにつき左の如き質問案を政府に提出せり。(七、二二、四上海時事新報)

質問を提起する爲めの事、竊かに日人青島を佔奪してより後獨人の行動を防遏するに藉口し我が警察を驅り憲兵を膠濟鐵路一帶の地方に駐せしめ去年の秋又復た坊子等の處に於て民政署を設立し訴訟に干渉し居民を騷擾するの浪人は地痞と串通し到る處に茶毒し礦産を把持し商業を破壊し

その軍隊は公法を弁歴し横行恣むなし居民側目して日に生を聊んせず迭りに地方官の外交當局に報告するを經たり訥等東人を代表し京に來り政府に籲訴し奔走呼籲涙竭き聲嘶く時半載を逾へ政府一再遷延今に至る迄未だ正式解決の方法なし竊かに思ふに山東省は中華民國の一片土耳其中華民國は未だ亡びず豈外人の民政署を我國の領土に設立するを容れんや我が主權を侵し公法を蔑弁するこれより甚しきはなし試みに問はん外交當局司る所は何事ぞ而して竟に一籌展ぶるなく國權の喪失を坐視する耶然らば則ち日人の民政署を我國の領土に設くる是れ主權の侵害ならざるや否や主權侵害の問題は是れ外交當局の應さに棄死力爭すべき所ならざるや否や半載有餘延宕塘塞せる是れ溺職ならざるや否やは是れ誤國ならざるや否や謹んで院法に依り質問案を提起す政府に咨請し明白答覆せしめ以て群疑を釋かんことを切盼の至に勝へず。

内治外交

●團匪償金免除問題

義和團事件賠償金支拂免除問題に關し北京國會議員黃錫銓等は左の如く提案せり。

(七・一・三〇、民國日報)

拳匪戎を招き辛丑和を講じ兵費四億五千萬兩利息五億三千二百二十三萬八千一百五十兩を賠償し光緒二十八年壬寅より起し民國二十九年庚辰に至りて止め三十九年に分ち清償す初期の九年は年に一千八百八十三萬九千餘兩を交附し期

を分ちて遞増し最後の期には幾んど一倍を増す溯るに壬寅よりして丁巳まで十年の交附を終り關稅足らず鹽稅を流用し羅掘俱に窮し債を借りて填補せり丁巳以後年に二千四百萬餘兩を交附すべきもの尙ほ十四年あり年に三千五百萬餘兩を交附すべきもの又九年あり更に如何にして應付すべきやを知らず況んや内外の國債歲々増加し國家の歲入は祇だ此數あるのみなるおや有限の歲入を以て無限の賠償に供す必らずや襟を捉へて肘を見鼎を擧げて腹を絶つの一日あらん往後を思量するに心を痛ましめざるなし。

査するに各國の先例日露の戰米西の戰伊土の戰巴爾幹の戰皆戰費賠償無し又普佛の戰露土の戰中日の戰の如き戰費賠償無し又普佛の戰露土の戰中日の戰の如き戰費賠償ありと雖も亦辛丑賠款の鉅にしくものなしその此を致せる所以實に獨逸皇帝ウイルヘルム二世の主張する所に由るヘンリ親王の軍を統べて亞に赴くの日獨帝之に詔して曰く此行當さに無上の武力を用ひ以て半數化の國民を制服し他日敢へて再び抗せしむる勿れと講和に至るに及んでや即ち經濟滅國の毒計を實行し四百五十兆兩を強索し其初め原と交附の銀額は海關兩を以てすべしと議し未だ幾くならずして又舊厘の年利を索め未だ幾くならずして又銀を以て金に易へんことを索め未だ幾くならずして又磅虧を賠補せんことを索め爭議五年始めて克く案を定む綜計するに利息の本金を超過すること八千一百萬餘兩なり辛丑以後金磅日に高く吃虧愈々甚し今稍々交附を緩ふせりと雖も五年の後困難更に前より甚しからん此れ吾が國人唯一の痛苦也。

夫れ此の如きの鉅款なりと雖も十四國に在りて分ちて之を受く原とより大利の言ふべきなく中國に在つては則ち害、數十年後の子孫に及ぶその結果は則ち各國同じくその大害を受く何を以て之を言ふや中國の歳入を數ふるに賠款國債に供するを除くの外僅かに能く少數の國軍及び官俸を養ふのみ餘力の以て教育實業の發達を謀るべきなし教育實業は立國の本なり前清既に本壞によりて國亡びたり民國又力の以て振興するなくんばこれより國民教を失ひ窮民業を失ひ盜賊煩興して農產短絀し工業頽廢し外貨ありと雖も購買力弱く外資ありと雖も清償難しと爲す百廢舉がらず變亂環生し列國の財産生命の吾が宇内に投託する者一もその危険を蒙らざるものなしこれ臆測の言にあらす實に必死の勢あり故に列強の爲めに計るに明かに中國の民を盡滅しその土地を占有する能はざるを知らば何ぞ救養の資を寬留し以てその良民を厚待し通商の永利を安享するを期するに如かんや。

米國その然るを知るや首先一部分を退還し清華學生を培養せり日本その然るを知るや最近亦退款辨學の議あり其他各國現に均しく緩交を允許し稍民力を紓ふ凡そこの軫念の深情已に加ふるあつてやむなし然れども吾が國民の願望する所は尙ほ此に止まらざる也回憶するに二三年前中南方面の國民百數十萬人を聯合し各政府に賠款免除を電懇せるにあらずや中國に旅居せるの教士商民かつてその政府に聯電し吾が國民に代つて請願せしに非ずや彼時歐戰初めて起り商議に暇なし原と忘情にあらず去年獨逸甫めて和議を露はす

や米總統英首相即ち非賠償主義を取りて全球に宣告し議和の基礎を奠む本月大戰甫めて停まるや米總統又獨逸國民を憐恤し救済を宣言せりそれ爭戰最も久しく損失最も大なる歐戰すら尙無賠償了結すべく且つ惠澤を戰敗の國民に施すべし豈先朝に在りて拳匪の擾亂を受くるの國民の又兵費賠款の鉅款を擔負し今日に至りて情見はれ勢絀に困窮呼籲猶ほ列國同情の減免を得る能はざるあらんや殊に敢へてその此れあるを信せず本議員國民を代表し政府に提議を急請する所也。

●進行中の善後協議會 政府各方の要求に徇ひ平和會議を開かんと擬し現在大體すでに決定せり惟だ名義上平和會議と曰はずして善後協議會といひ南北各十人を派す此の十人の派出は一種勢力の代表を爲し北方の如きは東三省を一勢力と爲し長江を一勢力と爲し其他各省を一勢力と爲す此の十人中必らずや一人の此等勢力を代表するものあるべく南方亦然り北方亦然り北方派する所の十人中將さに田文烈君を以て首領と爲すべしと南北妥協進行の程度に至つては現在已に漸く一致に趨き南方の岑春宣陸榮廷唐繼堯劉顯世熊克武譚浩明等六人の意見亦已に一致和平に趨向せり將來協議會中の争點は祇だ一個の問題の頗る解決し難きあるのみ故に該會の成立は大致望むべく而してその結果如何は尙ほ逆料し難しといふ。(七一・一七、國民公報)

●安福派の現狀と前途 時局問題久しく決定せず北京内閣問題亦懸案と成れり政局上表面異常冷靜なるも其實内幕の暗闘仍ほ甚だ激烈なり蓋し交通系と安福派とは己

に解く可からざるの死仇となれるなり舊交通系は某巨公の下に託庇して以て活動を求め安福派は段氏の下に託庇す兩派の旗幟一は主和と爲し一は主戰と爲す此次各督の來京するや兩派勞瘁を辭せずして其前に周旋す蓋し皆督軍意思の如何を認定して和戰成功失敗の關鍵と爲せるなり惟だ此次督軍中の中心人物は倪嗣冲なれば舊交通系の活動は十分効を見る能はず然れども各督固より亦各々機警人に過ぐるの智略あり外交及び財政狀況の困難を目撃しながら安んぞ一安福派の犠牲たるを肯んせんやたゞ一般飯碗議員の必死運動を受け新國會維持を以て口頭禪と爲さざるを得るのみ往日西南に對し「滅此朝食」の氣慨ありしものと迥かに同じからず而して安福派の人物は各督の彼等に對する御定まり文句に欺かれ人に逢へば即ち曰く某督は主戰なり今よりして大局解決の希望ありと詡々然として自得せるが如し。安福派首領王揖唐は最も忌刻性に富める人物なり故に一般才識衆に出づるの偉は常にその喜ぶ所と爲らず楊度の流の如きも選舉競争の時に當り排斥の列に在り其他知るべし新交通系の曹陸等は本と「出風頭」を好むの人王はその才識彼の上に立つるを忌み毎に他人を嗾使して之を侮辱し曹陸始終快々たり又た歐戰終結を告げ國際形勢一變せるに因り彼等賣國の領袖展に易からず某派の信用亦日に薄く勢將さに秋扇となつて捐てられんとす曹陸已に此種の關頭を識破し乃ち舊情の關係を以て暗に舊交通系と款曲を通じ近る屢次和議贊成を宣言せり梁士詒は極狡猾滑の輩たり此の時機に處して自から阿瞞等と重ねて舊夢を溫め以て某派の羽

翼を折くを樂しまん某派は武夫を恃んで後盾と爲す外其餘の才識聲榮盡く皆庸々碌々の選のみ若し財政上一たび不便あらば武夫一時に心を回し意を轉すべく將來必らず場臺の悲境に陥るべきや疑義なき也。(七一・一二、民國日報)

●組閣問題と安福派

安福派は組閣問題(錢能訓

内閣同意案)に對し原と根本反對なるに非ず實は豫かじめ交換條件を提出し徐總統之を承認せば錢に同意を與へんといふなり所謂交換條件は、

(一)組閣前曹錕を副總統に選舉すること。

(二)內務總長は王揖唐(安福派首領)に與ふべきこと。

の二條件なるが副總統問題は徐總統意中の妥協條件の一にしてその解決は之を將來に俟つべき豫定あり王揖唐の內務總長は固と不可なきも交通系其他の反對に依りて同意を得難き恐れあり安福派の希望は恐らくば達し難かるべく從つて錢内閣同意案も國會の同意を得難かるべしと。(七一・七、新時報)

●和平會議と議和代表

戊午通信に曰く邇來和平

會議の説甚だ盛んに或は曰く北政府は南京説を主張し陸唐岑は上海説を持すと或は曰く陸唐岑皆代表を派して上海に到らしめたれば約二十日以内に當さに開議すべしと異説紛起その由來する所を知るなし査するに一年以來唐繼堯代表となりて南京と接洽する者は王乃昌李宗黃兩君なり王君は前月廣東に赴き李君は即ち本社(戊午編譯社)記者と相往還す初め和平會議の事あるを聞かず前きに南京の信を得たり陸巡閱使代表と號稱する者は關冕鈞林紹斐二人なりと

此二人は皆交通系に隸し林は前きに梁士詒の密使となり前
往して陸に説きしも要領を得ざりき今又自から稱して陸の
代表と爲る奇異の至といふべし關冕鈞は北京に蟄居し未だ
南寧に至りしこともなし陸又何ぞ此人を擧げて代表たらし
めんや又聞く岑の代表は章士釗彭允彝二人なりと彭の南京
に往來する一日に非ず廣西に赴けば則ち李督軍を代表し南
京に赴けば則ち陸巡閱を代表す實に一豹變を善くするの人
物近來李督軍之に對し甚だ冷淡往々拒んで見えすたゞ督署
參議李廷玉君と尙ほ時に交際あり日に李君に密説し李督軍
和議を提起するの時に於て西林(岑春煊)を忘却するなかれ
と請ふのみ章士釗は軍政府に安んぜざるを以て乃ち託詞し
て日に赴き頃ろ始めて歸來し會ち李督軍に往謁せしこと一
次聲訴すらく西林廣東に在りて自由に和議を主持する能は
ず李督軍に於て西林を電約して上海或は南京に來らしめん
ことをと章彭二君の如き豈西林の議和代表ならんや所謂西
南議和代表は國會より正式に推舉し輔くるに陸唐諸公親信
の人を以てすべきものなり。(七一・二四、民國日報)

●徐氏平和策の大綱 南北和平の聲吾人の耳鼓に
喧傳するもの一月有餘なり矣外に在つては各政客の活動内
に在つては各督軍の會議各方面進行顯著なりと雖もその實
際に至りては一停戦令の外何等の成果なし私局望みなきに
非ず實に秘密疏通時代に在るを以て也徐氏の謀和手段は二
大綱に分つべく一は長江三督軍の勢力を承認し李純をして
西南との接洽に當らしめ主和期間内は「戦」の一字をいはず
るべきを約束せり二は局部的議和又は實力者との議和主義

これなり此方面にては先づ陸榮廷との接洽をなし次で唐繼
堯に及ばすべく近日林紹斐を廣西に向はしめたりと林の使
命にして成功せば唐に對し強硬の表示をなすべく唐の在京
代表周予覺に對しはて沈黙を守り居れりと尙ほ國會問題に
關しては、

(一)政府に種々の機關を設け舊國會議員を羅致し舊國會を
して自然消滅せしむ。

(二)省議會代表會議を北京に開き新國會を承認し西南五省
より議員を補選しめ或は大五省の舊國會議員を新國會議
員中に入るゝこと。

の二手段を考案し居れりと。(京津タイムス)

●岑春煊氏の意見 廣東軍政府首席政務總裁岑春煊
氏は目下の時局に對し記者の質問に左の如く答へたり予は
絶対に内争を主張する者に非らず上海にて屢々調和を唱へ
しも北方は武力主義を固執せるより遂に廣東に來れり當時
發表せし宣言書と予の心事は終始變る事なし目下和平の議
盛んとなり北方も悔悟の色ある今日對等の資格にて代表を
派し和平會議を組織するは予も賛する所なり民意と公理の
合する所により始めて永久の和平を期し得べく然らずして
一時を纏縫糊塗せば決裂すべきは民國七年間の現象に徴し
て明かなり歐洲戦争終り自由主義は武力主義に勝てり將來
一人一派は野心の爲に特殊の勢力を逞ふするは不可能事に
して獨帝の雄才すら大獨逸主義の失敗を招きたるを見て知
るべし是れ民意公理を無視せんとするものの絶好の教訓な
り我國にありては民意に基づき公理に服従すべく武力主義

を以て一人一派の私利を謀らんとせば國民起つて之を倒すべし袁世凱段祺瑞是れなり和平を壊り流血の慘を生むは其の禍根を杜絶せざる爲めなり即ち武力主義の存在是れなり永久の平和を欲せば此の禍根を杜絶するを要す現在の戦争は民意公理と強力武斷との戦争なるは南方は護法を説き北方が威信を保たんとしつゝあるを推知すべし南方は和平を望む故に北方が武斷を避け私利を捨て民意公理に従へば和平は難事にあらず予の所謂武斷豫防法は左の如し。

一、法理及び法治國の名稱を尊重し自治を行ふにあり。

我國は共和に改めし以上人事を離れて法治に入るべし自治の發展を欲せば法律の尊嚴を保ち武力に依り法律を破壊せんと欲するものあらば護法的手段に出づるは止むを得ず今和平を協議せんとせば法律問題に基礎を置き國會總統は法律に依り解決し將來野心家をして不義を圖り得ざらしめ以つて法治の實を立つべきなり。

二、從來國事紛糾を極むるは中央と地方との制度なき爲によるものなり。

權限不明瞭の紛争の爲に起れり中央地方の別なく之を掌握し國亂れ自治跡絶ち中央にも地方にもあらざる藩鎮割據の現象を呈し地方制度を定めんとするには軍區を劃し軍政を設け軍民の衝突を防ぎ然る後中央地方の職權を確立し分權を重んじ國民に政治思想涵養の機會を與へて漸次穩健なる自治の發展を期すべく斯くて基礎立つに至らば争ひは自ら止むべし。

以上の二件は今後和平會を開くに當り實現を期せんとす事

實上我國は自己主義を弄する結果一家内にてすら警戒と猜疑心を懷く將來一の中心國體を組織する以上利害感情を捨て個人及び黨派の強力武斷の弊害を除く事とせば民意公理燦然として世界大同の恵みに浴せん是れ予が希望なり中國國民が強力武斷の下に甘じて屈服せざる事各國民と差異なきを記憶し了解せられたし。(七・一二五、上海時事新報)

財政實業

●關稅剩餘金と軍政府

軍政府外交部長政務會議

に咨陳して曰く。

爲咨陳備案事竊かに本部海關稅務事宜に對し屢々交渉を経て餘力を遺さず茲に英米佛日駐粵總領事先後の來函に接准す聲稱す北京政府關稅剩餘金を提用せんとを請求し已に協約國各公使より拒絕せりと並に請ふ軍政府此舉を誤解し南方を鼓勵し戦争を延長するの意ありと爲すなかれ關稅に對し干涉を加ふる勿れ等の語、もつて特に各該領事の來函を抄譯し及び本部後函の仍ほ關稅餘款提用を商酌するの各節察核備案を陳情す謹んで政務會議に咨陳す外交部長伍廷芳。軍府外交部の英米佛日駐粵總領事に覆するの函に云ふ逕啓者昨大國の貴國駐北京公使の訓令を轉述せらるゝに接し一切を備悉せり協約國各公使が北京政府の關稅餘款提用請求を允さるに決せる實にその再び北方の戦争繼續を贊助せざるの盛意を證明するに足る且つその中國人民の利益のために計ることその本國人民の利益のために計ると異なる無

きは殊に欽佩を爲す查するに軍政府は本と國內戦争の延長を喜ばず惟だ中國の早日にして合法の統一政府を回復するを得んを切望する而已海關々税は外債償還の關係あり本軍政府從來未だ不合理の干涉を爲すの意あらず今協約國公使の北京政府の關稅餘款提用を拒卻せらるゝを承く則ち軍政府の態度尤も始終一の如きに屬す惟だ正式國會解散せられてより後盡人皆北京政府の關稅餘款を提用せる甚だ鉅きを知る今護法各省をして關稅餘款を提用すること北方の數と相等しからしめ或は至つて少きも比例の數に依照し以て地方行政の用となさしむるを得ば方に公理に合せるを覺ゆ請ふ此意をもつて貴國駐京公使に轉達せられば荷と爲す日祺を順頌す伍廷芳啓。(七・一二五、民國日報)

●徐樹錚と借款

徐樹錚の渡日は大演習陪觀の爲めのみにあらず實に借款と關係あり一千萬元電話借款は前に中日實業公司との間に調印を了せるがその中三百萬元は曹汝霖の手を経て交附され殘額は原内閣の手にて保管中なりしが徐渡日の結果日本政府は經濟借款と見なし殘額交附に同意せりとこれ徐と西原氏と協議中の大借款の一にして徐渡日の第一功勞なり。(七・一二四、上海中華新報)

●大借款交渉の風説

兩大借款の風説あり一は四國團及び米國に向つて一億磅の借款申込をなしたりとの説なりコハ一笑を以て葬らる二は曹汝霖が日本に向つて一億元の借款申込をなせりととの説なりその擔保は地租厘金にして曹等は此借款成功せばそのコムミツションを得て政界を退却すべしといふに在り。(七・一二五、上海時事新報)

●電話借款條件

交通部と中日實業との電話借款は十一月十八日成立せり條件左の如し。

一金額 大正五年の舊債日金三百萬圓に加ふるに此次の七百萬圓を以てし合計一千萬圓。

一用途 電話擴張及び新設費。

一期限 三 年

一手取 九七七 (舊債は九五)

一利率 八 分 (舊債は七分)

金額は東京中日實業公司保管し政費に流用するを許さず。(七・一二八、商天時報)



彙報

自十一月十六日至十一月三十日

外交關係

▲支那講和使節決定 (北京特電十四日發) 十日閣議にて歐陽平和會議參列委員を左の如く定めた。

全權委員 陸軍部 ▲一等參贊 駐米公使 顧維鈞 ▲同 駐日公使 西條德二 ▲二等參贊 外交部參事 陸宗輿 ▲同 外交部次長 高田謙 (十六日、日)

▲獨人立退命令 (十四日陸軍部發) 陸軍部英國領事は租界内に在留獨逸人に對し一箇月内に財産全部を揚へ去るべき警告を照會内に退去せざれば其財産を沒收すべしと布告せり。(十六日、日)

▲慰問金募集運動 (奉天特電十四日發) 奉天統帥の右端により聯合軍慰問資金一億七千萬弗の内支那に對する割當額二十萬募集に就て米國總領事と支那側との間に協議あり青島警衛兵を會長とする救濟會直轄募金部なるもの本月四日設立され中國青年會に事務所を設け既に資金募集に着手し特に十一日よりゴールデンホールに於て大會を開き演說行事も一場の演説を試みたが省議會は二十萬の支出を可決せり。(十六日、日)

▲安南兵掠奪 (北京特電十四日發) 北京に在る安南兵は十三日夜獨逸銀行街の主なる獨逸商店を襲ひ家屋を破壊し且商品等を掠奪せり熱狂の結果稍暴慢となれり。(十六日、日)

▲破壊迄一週間 (北京特電十四日發) 例のケットレル記念碑は支那側にて破壊するに決し十三日夜より多數の人力を並役し居れるが一週間を要すべしと。(十六日、日)

▲ウイエルソン街 (漢口特電十四日發) 露國租界には米國領事館より西佛蘭西租界に到る道路を大統領ウイエルソン街と名付け今朝命名式を行ひ露國義勇兵參列せり。(十六日、日)

國義勇兵參列せり。(十六日、日)

▲南方卒先祝電發送 (十五日上海特派員發) 岑春煊は北京政府に先だち廣東軍政府西南各省を代表して各國元首に宛て勝利祝電を發せり又軍政府は議決各省に對し三日間國旗を揚揚し協南國の勝利を祝賀すべきを命ぜり。(十七日、朝日)

▲特派使節問題 (北京特電十五日發) 支那側の情報によれば支那政府は過日米聯合國公使に向ひ歐洲平和會議參列に關し各本國政府の意圖を質しつゝありしが漸く昨日英國公使ジョーダン氏が本國政府より支那參列承認の回答を得しと露國公使コグニエフ氏が本國政府の回答なく個人的意見を述べたる外日、米、佛、伊よりは未だ回答來らず爲に外交總長陸徵祥氏を特派することに閣議にて決定せるも公然發表すること能はず頗る憂慮し居れりと。(十七日、日)

▲和蘭公使抗議 (北特電十五日發) 和蘭公使ブロックランド氏は傳、來、安南兵が獨逸銀行街獨逸商店を破壞掠奪せる件につき十四日米佛兩公使外交部を屢訪抗議を提出せり聯合國公使は十四日午後右に關する會議を開き取敢ず事實調査をなすに決せり内外人間にても對峙休戰後名譽ある戰勝軍隊の一部に此暴行ありたるを遺憾とし非難の聲高し。(十七日、日)

▲北滿支軍引揚開始 (十七日長春特派員發) 北滿駐屯軍中の支那軍隊も引揚を開始し十六日平壤品三車を北京に送り(十六日、朝日)

▲獨逸借款取扱調査 (十九日上海特派員發) 財政部は各省に通告して各省の獨逸及び獨逸の借款取扱方に就き調査を求めたり曰く歐洲戰終りを告げ獨逸降伏し各省公案にして獨逸兩國の借款あるもの宣戰以後總て停止せるも今和議開始の際に當り應に其處理の方法を規定すべし。

一、支拂停止の借款は其性質を先づ研究して再び是が支拂の方針を定むる事

二、外資に對し其停止期間の延期利息幾干なるや

三、數額大にして期限短かきものは返済期限を延期するを要求し得べきが如何

四、各省若し物品購入の代金あり其品は戰爭の爲未だ受取りあらざるもの外國に支拂ひし代金を返却するを求むるものありや否や。(二十日、朝日)

▲英國公使の謁見 (北京特電十八日發) 英國公使ジョーダン氏は

五、

八日午前十時徐總統に謁見し公式に聯合軍の戦捷に對し友國たる支那に向ひ賀辭を述べたる後支那が速に内争を止め世界的平和の大勢に順應せんことを希望し徐總統は其好意を深謝したり。(二十日、時事)

▲梁啓超と陸徵祥 (二十日上海特派員發) 梁啓超は陸徵祥と共に歐洲に赴き視察せんことを北京政府に請ひ徐總統錢總理は之を許す旨返電せりと。(二十一日、朝日)

▲阿片焼却決定 (十九日北京特派員發) 支那政府は英商人より購入して目下上海に貯蔵せる一千六百箱價格六千萬元の阿片全部を焼却することに十九日の國務會議にて決せり是と同時に阿片吸入嚴禁の總統令を不日布告する筈なり。(二十一日、朝日)

▲米領事平和勸告 (上海特電二十日發) 廣東駐在米國領事は北京公使の訓令にて軍政府に對し平和を勸告せり。(二十二日、日日)

▲支那講和使出發期 (北京特電二十一日發) 外交總長陸徵祥氏は平和會議參列の目的を以て二十六日出發外交部參事劉崇傑氏と共に十二月一日渡日桃山御陵に參拜し日本政府要路者と會見する筈にて夫れより七日橫濱解纜のマウントイグル號にて米國經由渡歐すべし劉參事は東京まで隨行一行に別れ歸支すべし陸氏は外交總長の資格を以て講和會議の時正式全權委員となる可く不在中は次長陳錦濤氏總長代理たる可し。(二十二日、日日)

▲支那の自立方針 (紐育電報十九日發) 支那南方派の王正廷氏は最近當市に著し支那は民本主義に基き平和的且立憲的方法によりて自國の運命を開拓する事を許さるべきなりと主張せり曰く。

若し支那にして專制方針を執らんか四億の人口と無限の軍資を擁するが爲に同國は世界の平和に對し一の脅威たるべし而も支那國民は今や餘々として覺醒しつゝあり萬事は懸かつて國民の啓蒙運動の方法に在り若し支那をして外界よりの干渉を受けず自ら其運命を開拓せしむることとせば同國は平和的且産業的に發展するを得べし支那が此機會を興へらるゝことに關し吾人は米國に期待する所多し。

と同氏は尙支那國民が米國及聯合國に對し熱烈なる好感を有することと説き軍隊の外に支那人二萬名を大戦に參加せしめしこと及米國に對する支那の義捐を其忠誠の證左として引證せり。(二十二日、日日)

▲支那の提出條件 (上海特電二十一日發) 北京國務院は陸徵祥氏の歐洲に携へ行く可き提案を出したるが領事裁判權、關稅改正、蒙古西藏開放問題、青島を支那に取戻す等の件を含む居れりと云ふ其領事裁判權同收に就いては勿論監獄の改良裁判所の設備等を行ふを條件とし居れりと云ふ。(二十三日、時事)

▲支那參列理由 (北京特電二十一日發) 二十一日の閣議にて外交部提案の支那が歐洲平和會議に參列し得べき理由として左の各項を可決せり。

第一、宣戰後敵國艦船を沒收せり。

第二、兵力を以て東清鐵道を維持し北滿洲に於ける過激派の勢力を驅逐せり第三、昨年十二月段前總理は三箇師團を西部戰線に派遣することに決し佛國側に運送船なき爲中止せるが右は支那側より中止せしに非ず。

第四、本年六月英國公使ジョルダン氏の忠告に従ひ在留獨人を濠洲に放逐せんとし聯合國側より前議を取消せる爲中止せるが右も支那側にて中止せるに非ず。

第五、本年四月米國公使ラインシュ氏の提議し賛成し軍艦海容を浦鹽に派遣し秩序維持に協力し同年日支軍事協定を締結し極東に於ける敵國の勢力を驅逐し並に參戰軍隊を浦鹽及滿洲里に派遣せり。

第六、本年十一月巴里糧食同盟に關する(以下電文缺字)

第七、千八百八十一年の一部條約を犧牲に供し滿洲里より糧食を輸出し聯合國に供給せり。

第八、本年八月佛國の要求により北滿洲より米穀を輸出し安南軍に糧食を供給せり。

第九、支那が宣戰せる時北京駐在聯合國公使は支那を聯合國の一員とし將來平和會議參列の資格を認めたり。

第十、對敵通商禁止條約を發布せり。(二十三日、日日)

▲膠州灣回收建議 (北京特電二十日發) 山東省選出衆議院議員沙明遠氏等二十餘名は全權委員を歐洲平和會議に參列せしめ光緒二十四年締結の條約を取消し膠州灣及山東に於ける獨逸の權利全部を支那に同收すべしとの建議案を衆議院に提出せり。

(北京特電二十一日發) 山東省選出衆議院議員王鈞氏外一名は歐洲平和會議に際し青島及山東鐵道に關する支那の利益を恢復すべしとの議案を提出せる

が山東省議會其他よりも同様建議案類々政府に達しつゝあり。

▲上海特電(二十二日發) 北京電報に據れば日本留學生杜某は講和會議に際し膠州灣租借條約を廢棄せんことを政府に迫り右に關する議案を衆議院に提出せりと。(二十三日、日)

▲廣東領事團岑と會見 (二十二日上海特派員發) 廣東領事團は岑春煊と會見し南北和平を主張せるに岑春煊は極めて之を感謝し且曰く此度の歐洲戰爭に於て公理も強權に勝てり世間議法の旗幟は又正に天と共に之を諒とすべきなり和平元より之を求むるも得ざるは之が爲也尊意の存する所は西南の將士に打電すべしと。(二十三日、朝日)

▲南北和平促進勸告 (香港特電二十三日發) 在廣東米國領事は北京公使の訓令に基き更に南北和平促進を勸告すべく昨日軍政府を訪問せり。(廣東特電二十二日發) 在廣東米國領事は昨日軍政府に伍廷芳氏を訪問し北京政府の停戰令宣布に祝賀の意を表し之に對する軍政府の態度を質したるに伍廷芳氏は吾人の反對は永久的平和を希望する爲にして北政府の平和宣布に同意する所なり然れども法律を蔑如するは神聖なる平和主義を破壞する所以なりと答へたるが米國領事は更に支那國民が米國に對し援助を哀求し居れるに對する軍政府代表の意見を聽かんことを望み若し軍政府にして今日に於て停戰宣布を出さざれば開は國際的罪惡ならんと聲明せり。(二十四日、日)

▲林前公使に授勳 (北京特電二十二日發) 徐總統は前駐支林公使に最高勳章たる一等大綬寶光嘉禾章を贈れり。(二十四日、日)

▲ウイルソン氏に與ふる書 (上海特電二十三日發) 孫逸仙氏は先般米國大統領ウイルソン氏に宛て護法運動の經過を説き北方派に對し舊國會を尊重するやう勸告せん事を請へり其要に曰く、

ウイルソン大統領閣下、閣下のシヴィリゼーション及デモクラシー擁護の功績たる頗る偉大なり昨夏閣下が支那の參戰を勸告したる當時予が極力之に反對せる所以のものは我國の武人が之に藉口して支那に於けるデモクラシーを打破せんとすべきを知りたればなり不幸予の豫言は適中したり昨年我國會參戰問題を討論中彼等は苟に前内閣總理段祺瑞の意を受け國會に迫りて之を解散せしめ復辟を企てたり予は帝政復活民國顛覆の報を得ると共に千九百十七年七月五日支那海軍の一部を率ゐて帝政派と戰はんとした

るも之に先つて段祺瑞表面に現はれ却つて既に帝政を倒せりと聞き予は其愛國心を賀し舊國會の恢復を勸告せるに彼は予の期待に反して是を行はざりき予は茲に於て初めて段の陰謀を知り張勳の復辟が段の使骸に出でたる事及段が從來歐米のデモクラシーに反對し居れることを發見せり仍つて予は廣東に於て自己の責任を以て國會を召集するの舉に出でたり初め南方の軍人は是に反對せるも輿論の助けを得て初めて一致の行動を執るを得たり支那に於ける争は全くミリタリズムとデモクラシーとの戦なり北方の武人亦南方の主義の公正にして武力を以て是を服従せしめ能はざるを知り茲に舊國會を創始し正當に選舉されたる國會に反對し世人の耳目を欺かんとせり然るに日本に内閣變動ありて北方は軍費及武器供給の途盡きたるを以て北方武人は策に窮し密かに南方に對し和議を提出し眞偽兩國會を同時に解散して政府の位置を維持せんと試みたり南方軍人中にも是に連絡せられ其位置を得て人民の權利を顧みざらんとする者なきに非ず北京の消息に依れば米國は支那の内争を止めん事を求め若し南方にして肯かすんば米國に於て南方を尊重すべしと歐洲戰爭の際吾人は戰爭に反對すと謳ひられ平和に至らんとするや吾人は更に北方人種より平和に反對すと稱せらるる予は閣下に對し個人として民主及平和の爲に懇へ且我黨の支那に於ける和平條件を提示せんとす吾人は徹頭徹尾唯一條件を固持す即ち我正義國會をして充分に適應の職務を行ふを得せしむる事は是れなり若し此簡單、正當且穩健なる條件にして容れられざるに於ては如何なる強力吾人の頭上に臨むも何處迄も之と戦ふべし蓋し正當なる國會は我革命烈士の流血の結果にして民國立國の基礎たればなり正式憲法成る迄は國會は斷じて解散すべからず此國會たるを嘗て閣下の好意に依り劈頭第一米國より承認せられたるものなり閣下願はくは歐洲に於けると同様支那に於てデモクラシーを救ひ正式國會恢復の必要を北方武人に對し勸告せられたし。(二十五日、日)

▲軍政府の回答 (香港特電二十四日發) 米國領事の提議に依り廣東軍政府は平和問題に關して政務會議を開會せるが政務總裁連は南方は永く和平の爲に戦ふものにして好んで北方と戦ふを欲するものにあらず若し此際北方にして戰線を攻撃するが如きことなくば南方も亦同様の態度に出づべく要するに正當なる手段に依り時局の平和解決を希望するものなりと回答せ

り。(二十六日、日)

▲梁啓超氏資格

(北京特電二十五日發) 梁啓超氏は個人の資格にて十二月十五日以前に渡歐し將來平和會議の財政委員として參與するに決せり。隨員は張嘉森(國際委員會委員)徐新六(財政部秘書)吳貫因(內務部秘書)賀紹昌氏に決せり。(二十七日、日)

▲山東民政署の撤廢

(二十六日北京特派員發) 錢總理が衆議院議員王誦(山東選出議員)等の日本山東民政署に關し提出したる質問に對し回答せる要領に曰く、日本山東民政署撤廢案は外交部より駐日公使をして屢交渉せしめたるも日本政府は固く持して譲歩せざりしを以て懸案となり居りたるが本年二月山東督軍は濰縣を商埠として開放するの條件にて調停せんとし外交部より林公使に提議せしめたるも日本は之に對し確答を避けたる本年九月に至り支那政府に日本資本家より濟順鐵道高密徐州間の鐵道敷設に要する借款を爲せる機に乗じて民政署撤廢及び山東鐵道沿線の日本軍隊の撤兵を交換條件として提出したるに遂に九月二十一日日本外務省と將來山東民政署撤廢を實行する旨の文書を交換せり云々。(二十八日、朝日)

▲獨商不動產沒收

(漢口特電二十七日發) 英租界に在る獨逸二大會社メルヘルス及びカルロウィツの不動產は昨日英國官憲に沒收せられたり。(二十八日、時事)

▲西藏問題再議要望

(北京特電二十七日發) 英國公使は昨日外交部に對し西藏問題未決案に就き期日を定め談判再開を求め來たり。(二十八日、時事)

▲廣東政府公認を求む

(二十八日國際社華盛頓發) 南支那廣東政府代表者は米國上院外交委員長ヒツチコック氏に廣東政府を交戰國として公認せんことを要求せる覺書を送付せり覺書に曰く廣東政府は共和政府にして支那海軍及び常備軍二十萬を管理す廣東政府が北京政府の諸港を封鎖する能はざる所以は偏に列國が是等の諸港を入國口として管理するが爲めのみ廣東政府は支那人の五分の四を代表す北京の現當局は篡奪者なりと。(三十日、朝日)

▲陸氏出發變更

(上海特電二十八日發) 陸徵祥氏は歐訪丸にて日本より出發することに改めたりとの報あり。(三十日、日)

南北情勢

▲愈々停戰令發布

(上海特電十五日發) 十五日の北京督軍會議は停戰の命令を布告するに決し内容五百餘文字にて徐總統之を承諾し既に之を發布し又左の件を協議せり。

一、地盤の動搖を爲さざること。

二、財政を如何に維持す可きか。

三、地方の秩序を如何にして破綻せしめざるか。

▲國防籌備處と改む

(十三日上海特派員發) 段祺瑞は靳雲鵬、曲同豐に對し歐洲戰爭終結するも國防重要なる爲め參戰處を改め國防籌備處と爲す其意は尙兵力を擴張するに在りと。(十六日、朝日)

▲平利縣陷る

(漢口特電十四日發) 張勳陸氏の兵は八日平利縣を占領し王安瀾氏の兵は四川省城口方面に退却せり。(十六日、日日)

▲政府對南讓歩

(十五日上海特派員發) 北京政府は南方に對し讓歩して事實及法律問題を同時に解決するに決し其旨廣東軍政府に傳達せしめたりと又總理錢能訓は雲南唐繼堯廣西陸榮廷に對し法理事實兩問題を同時に解決するを承諾せること及周某を雲南に林紹斐、關晃鈞を廣西に派遣し和平の方法を眼前述べしむとのことを以てし且其大意を李純に告げ周、林、關等を先づ南京に遣はしたる上雲南廣西に行かしむと。(十七日、朝日)

▲南北交渉問題

(十五日北京特派員發) 岑春煊は南北和平解決の前提として先づ湖南督軍張敬堯を罷め譚浩明を以て之に代らしめ廣東にて龍濟光の巡閱使を罷め陸榮廷を之に代らしめ廣東省長を職前に復せしむる事を申込みりと北方にては之に對し廣東の事は可なりとするも湖南の張敬堯を罷め譚浩明を之に代らしむるは困難なりとし議難らすと。(十七日、朝日)

▲和局進行通電

(上海特電十六日發) 平和期成會は廣東軍政府、各政務總裁、前敵將士各司令に打電し北方既に南方に人を派して平和會議を開くに賛成したる以上諸公も其意を容れて和局の遂行を計られたしと通電せり。

(上海特電十六日發) 岑春煊氏は陸榮廷徐世昌氏等に對し左の意味を打電せり。

(一) 平和會議開催の地點如何 (二) 條件は西南督軍をして商定せしめ政務會議に提出すべし (三) 會議を速開し速に和局を爲すべし。(十七日、日日)

▲楊省長立往生

(重慶特電六日發) 楊新任四川省長は赴任の途熊克武氏の部下より反對起りたる爲成都に入る能はず。(十七日、日日)

▲警務廳長更迭

(天津特電十六日發) 新任警務廳長張汝桐氏は十五日新式を舉行し前廳長楊維德氏より一切の事務を引継ぎり。(十八日、日日)

▲土匪討伐續行

(北京特電十七日發) 復讐命令發布後と雖も陝西、甘肅、湖北、山東の土匪と同一行動をなすものに討伐を増行すべし。(十八日、日日)

▲面從腹背の督軍連

(北京特電十七日發) 各督軍は總統府會議にては穩和なる態度にて徐總統の平和政策に賛成せるが心中頗る不平にして十六日の段祺瑞氏邸招宴の席上にては盛に氣焰を揚げ今日の失敗を招きしは馮國璋氏の罪なりと惡毒を逞し曹錕氏(四省經略使)は特に吳佩孚氏(援粵副司令)が三十萬圓にて馮總統に買収されしを罵り安徽督軍倪嗣沖氏は江蘇督軍李純氏が南方を通じて自己の榮達を欲する心事を卑しみ平和期成會の如きは空論を逞うするのみにて何等の利益なしと攻撃せる等主戰政策の失敗を憤慨せしが湖北督軍王占元氏は吾人の先決問題は軍費なり外國が平和解決前に借款に應ぜざるを宣言せし上は如何に再び戦ふを得んやと軟論を吐くに至り各督軍も一言なく時事の非なるを嘆じて散會せりと。(十九日、日日)

▲北方條件提示

(十八日上海特派員發) 北京國務院は江蘇督軍李純に左の如く打電せり。

一、平和談判を南京に於て行ふ事。
二、南北双方より多く代表を出す事。

西南各省は土匪を討伐して民を安んじ土匪をして南軍の名目用せしむるなく現在の南軍司令官をして土匪討伐の司令たらしめ又北京政府の代表者として施恩氏南京に來り督軍李純に向ひ北方の條件を提示し説明する所あり李督軍は直に之を西南に轉電せりと。(十九日、朝日)

▲北軍撤兵實行

(十八日北京特派員發) 停戰命令の結果督軍は直に

撤兵を實行し湖南は衡州迄、湖北は沙市迄、江西は吉安迄、福建は廈門迄、引揚ぐるることとなりたるが徐總統は南軍をして同時に引揚げしめんと交渉すべく其手段としては陸榮廷をして湖南に於ける廣東、廣西兩軍を、岑春煊をして江西、福建に於ける廣東、雲南兩軍を、唐繼堯をして四川、湖北、陝西に於ける雲南、貴州兩軍を纏めて撤退せしめんとするに在り。(十九日朝日)

▲憲法審議事項

(廣東特電十九日發) 廣東國會憲法審議會は地方自治に關する左の各項を審議せり。

一、省長は地方自治を贊助し省議會に對し責任を負ふべし。
二、省長は大多數を以て省議會より選舉せられたるものを任命す。(二十日、日日)

▲李督先づ撤退す

(北京特電十九日發) 江蘇督軍李純氏は政府の停戰命令に従ひ第一着に江西省に在る江蘇軍第十九師團に向ひ撤退命令を發したり。(二十日、日日)

▲王安瀾軍暴行を退す

(漢口特電十九日發) 王安瀾の兵は月末興安を去りしが湖北軍の爲めに破られ四日再び歸り來りし時地方義勇兵の爲めに拒まれ遂に放火掠奪殺戮を擅にし諸咸宜教師ソムメルタスは殺害せられたり。(二十日、時事)

▲停戰區域を定む

(二十日上海特派員發) 福建督軍李厚基は副官を遣はし陳炯明と議定せしめ北軍は鷺口嶺に南軍は五老峰に退出し停戰區域を定め各一連の哨兵を留め十九日より之を實行せりと湖南に於ける北軍司令吳佩孚は南軍司令譚延闓と約して三日内に各五里兵を退け前方防禦の地は趙春還の湖南軍をして駐屯せしむと云へり。(二十一日、朝日)

▲廣東議員停戰令質問

(上海特電二十日發) 廣東國會議員は軍政府に質問して曰く徐世昌の停戰命令を下せるに對し將に如何せんとするか各政務總會全會出席して之に答へられたしと。(二十一日、時事)

▲省參事會の權限

(上海特電二十日發) 廣東國會憲法審議會は省參事會は省長を補佐し省内の行政處分を掌り省議會に對し責を負ひ參事會員は省議會にて選舉する事に決定せり。(二十一日、日日)

▲龍軍降らす

(香港特電十九日發) 海防來電「海南島に在る龍濟光軍は完全なる降服を拒絶し兩軍は最後迄戦ふ決心にて再び交戦の準備に着手

せり。(二十一日、日)

▲岑春煊の意見轉電

(二十日上海特派員發) 李純は岑春煊の電報を北京政府に轉電せり曰く。

一、前敵軍隊の數及び地點を詳かに取調の上報告すべし、二、講和問題は西南各首領の意見の一致を見たる上にて返電すべし但し總て適法なるを前提とす。(二十二日、朝日)

▲春煊張謇に同意

(上海特電二十一日發) 岑春煊氏は南通州の張謇氏に對し返電して曰く貴意の如く辛亥第一革命の例に倣ひ南北各代表を出し和平會議を爲すの議は最も公平にして西南當局賛同せざるなし西南は約法を求め全國をして法治の中に在らしめ以て永遠の平和を求むるの外他意なしと。(二十二日、時事)

▲唐紹儀徐總統に打電

(二十日上海特派員發) 唐紹儀は二十日朝徐世昌に對し和平に關する其真意如何に就き打電する所ありしが其返電を得て廣東に赴くべく和平に就ては南北對等なるを必要とし其方法も始めより何等の條件を附するなく和平に關する協議を爲すべきを示したるものなり。(二十二日、朝日)

▲政府の撤兵方法

(漢口特電二十一日發) 政府は各戰地に就き先づ一部の撤兵を行ひ其費用は官民の義捐租稅及び公債に依るに決し各方面に撤兵監察の將校を置き湖北には前四川查辦使王人文來り先づ三分一を撤し追つて民國六年の豫算の數を減す可しと。(二十二日、時事)

▲撤兵議定報告

(二十日北京特派員發) 福建督軍李厚基は福建の南軍司令陳炯明と南軍撤兵の方法を協議し地域を限りて停戰區域と爲し兩軍より歩哨兼土匪の防備として各步兵一中隊を出す事並に之を十九日より實行することと議定したる旨又湖南に於ける吳佩孚は譚浩明と三日以内に各五里を撤兵して駐屯することを約せる旨十九日報告し來れり。(二十二日、朝日)

▲南北妥協に努む

(二十一日漢口特派員發) 在湖南南軍の司令程潛の代表と會合せる北方代表者は右會見の結果程潛の代表は南北妥協の延引し難き理由を述べ陸榮廷は南廣巡閱使を承諾する時直に中央擁護を表示するの意向なる旨を通告し來りたるより代理督軍何佩璋は其旨滯京中の王督軍に打電せり。(二十三日、朝日)

▲靖國軍停戰令に服す

(二十一日漢口特派員發) 鄂西の靖國軍司令は中央の休戰命令は國民の期待に副ぶものなるを以て本軍は十八日より停戰休息し所有問題は單獨主張をなすべき性質のものにあらざるを以て悉く軍政府と中央政府との解決に一任すべしと聲明せり。(二十三日、朝日)

▲廣東國會兩院聯合會

(二十二日北京特派員發) 廣東國會は二十日兩院聯合會を開き伍廷芳より僑總統僑國會を取消すにあらざれば斷じて和議に應ぜざるの動議を提出したるに游揚一致可決せり國會は直に右議決を軍政府に通告し適當の處置を取らんことを希望せり。(二十四日、朝日)

▲徐氏の和議條件

(上海特電二十四日發) 徐世昌氏は和議の範圍六箇條を李純氏に打電し以て南方と交渉せしめんとせり。
一、李純陸榮廷唐繼堯の三氏と交渉せしむるも廣東軍政府との交渉を許さず議決後中央の命令にて解決す可し。
二、陸徵祥と議するには李純一名の名義を出し湖北江西督軍等と連名の要なし中央も別に人を派して南方と打合せず。
一、第一に對しては南北對等の和平大會を開き仲莪の形式を執る可し議決事項は南北當局に於て等しく遵從す可し。
二、第二に對しては曩に南北調和を主張したる上李純曹錕王占元陳光遠の四氏聯合名を出す可し。
三、命令を發して陸榮廷などの職を復するは權利を得んとするの嫌われば不可なり。
四、第四、第五は四川、陝西、福建と湖南を區別せず一律停戰す可きものとす。
五、第六は和平大會にて其額を議定し北京政府のみに決定を委す可からず。
三、先づ命令を以て陸榮廷氏の兩江巡閱使の職を復し唐繼堯氏を雲貴巡閱使とす可し。
四、四川、湖南問題は別に議し陝西、福建の南軍は土匪と認む。
五、湖南に對しては阻防令を下すも四川、陝西、福建は停戰範圍にあらず。
六、西南の軍費及び戰費は中央所定の限度を超過するを得ず。
右六ヶ條を南京駐在の吳佩孚の參謀長李達璋氏を経て吳佩孚氏に送り其意見

を求めたるに吳佩孚は左の如く返電す。(二十五日、時事)

▲廣東軍政府決議 (二十三日北京特派員發) 廣東にては十八日政務會議を開き(岑春煊は病氣と稱して缺席)和戰案に就て討論したるが席上孫文代理徐謙湖北軍代表張伯烈等は北方に誠意あらば先條件を提示すべし條件にして護法の趣意に反せざれば南方に議和に應ずべきものとす然るに停戰命令は護法に觸れず北方の誠意は認むるを得ず軍政府は護法の最高機關にして軍政府は議和を唱ふべきにあらずとて主戰を主張せり十九日再び臨時會議を開き引續き討論したる結果前敵に對しては油斷なく戰備を爲すべき旨通電すること徐世昌錢能訓の和平希望の電報に對しては返電せざることを護法の精神上僞總統僞國會の存在する間は討伐を繼續せざる可らずとの決議を爲せり。(二十五日、朝日)

▲廣東軍政府各省議會を説く (二十四日上海特派員發) 廣東軍政府は各省議會に對し力を盡し兵を裁め國を濟ふを説き且亂を厭ふの人心に従ひ和平を唱へらるゝの幹旋は共に感佩する所なるも共和七年武人兵を挟みて自ら重しとし國民不安の心を以て迷はざるが爲なるは辛亥丙辰二亂に於て經驗せり是皆根本的解決を爲さざりしが爲めなり一時を糊塗して禍を後に貽すべきにあらず今同護法の爲め師を起せるは永久和平を得るの爲めにして真正法治の基を樹つるにあり此目的を達せば和平に應ずべしと又國會も各省議會に對し略動様の電報を發せり。(二十六日、朝日)

▲西南首領の答電 (北京特電二十五日發) 李純氏の密使李廷玉氏は一昨日入京し李純氏が中央の命に依り西南諸首領に致せる電報に對する陸榮廷、岑春煊、唐紹儀、劉顯世等諸氏の答復電報を齎せり陸氏の電報は新國會を解散せば舊國會を閉會せしむ可しとあり岑氏の電報は西南の軍費を中央にて負擔の件を述べたり劉氏の電報は中央が新國會を解散せば貴州は其の翌日より自主を取消す可しとあり而して唐氏の電報は北方が個人的に密約する手段を棄て公明正大に南北議和の協議となせとあり。(二十六日、時事)

▲陳光英瓊州城占領 (二十五日上海特派員發) 陳光英は十四日海南島瓊州城を占領せり龍濟光の部下は武裝を解除されたり。(二十六日、朝日)

▲南方停戰布告經過 (二十五日北京特派員發) 廣東にては二十二日政務會議を開き兩院議長も出席し二十日國會に於て徐總統辭職し新國會を

解散するにあらずれば停戰すべからずとの決議に關し討論されたるが硬派は國會の決議に依り實行せんことを主張し隱健派は先づ非公式に停戰して議和を開始すべしと主張し議容易に纏まらざりしが結局先づ停戰を爲し國會の決議の二條件を和議談判開始の前提として提出するに決せり。(二十七日、朝日)

▲南方側の憤慨 (二十六日上海特派員發) 徐世昌より唐紹儀への返電は唐繼堯よりの電報に接せざること及び南北和議の件に就き閣議に依り停戰命令を出し李純をして辦理せしめ居ると云ふに止まり冒辭は頗る鄭重なるも誠意を示さず形式的の返答なりとて南方人士は憤慨し居るのみならず王永川部下の奉天軍を浙江に許蘭洲部下の奉天軍は陝西に送らんとし以て福建、陝西を収めんとするの右様なり陝西民黨側の人物は廣東に對し北方の誠意なきを痛憤し居れりと云ふ。(二十八日、朝日)

▲現線維持命令 (香港特電二十五日發) 廣東軍政府は北京の休戰宣言に關し之を不問に附する能はざるより政務會議を開き同問題に對する態度を協議したるが先づ戰線にある南方各軍に對し別命ある迄現狀を維持すべしと電命せり。(二十八日、日日)

▲新募兵到着 (香港特電二十五日發) 軍政府の命に依り雲南省より數百名の新募兵は既に廣東に到着し尙續々來廣すべし該軍隊は政務總裁の護衛に任ずるものなりと。(二十八日、日日)

▲廣東和平會大綱 (上海特電二十七日發) 廣東和平期成會の組織大綱左の如し。

- (一) 民意を統べ和平復政を期す。
- (二) 言論演說に依り和平を鼓吹し同時に文書電報及特使を派し南北兩當局に和平を勸告す。
- (三) 本會は自ら和平條件は提議せざるも會員は個人として意見を發表するを得。
- (四) 會員の資格は二十五歳以上にして他の會員の紹介を要す。
- (五) 會名を廣東和平期成會と稱し代表十二名を各地に派遣し全國和平期成會と協力せしむ。
- (六) 經費は發起人之を負擔す。
- (七) 細則は別に定む。

(八) 本會は和平成立の日を以て解散す。(二十九日、日日)

▲錢總理彈劾案 (二十八日北京特派員發) 衆議院議員賀培桐外六十餘名の連署を以て錢代理總理彈劾案を衆議院に提出せるが其理由とする所は

(一) 錢總理は段内閣の閣員にして誠に主戰に賛同し今主和を唱ふ(二) 錢總理は内外重大の時局に處するに手腕に乏し(三) 錢總理は官權を利用して私利を貪れる事實あり斯の如く内政外交に經驗なく國を譚り職を汚がする者は國務の重任を託するを得ずと云ふに在り右彈劾案の背後には安福俱樂部あり行き憚める内閣問題と密接の關係あるものゝ如し。(二十九日、朝日)

▲新國會は解散し得ず (二十八日上海特派員發) 錢能訓は李純に對し新國會は斷じて解散の命令を下すを得ず若し舊國會と同時に閉會すると云ふならば或は之を爲し得べきならんと返電せり。(三十日、朝日)

▲錢總理辭意を漏す (北京特電二十八日發) 錢能訓内閣承認案提出の議は騰起りて尙事實とならざるは安福俱樂部の阻害する所にして同俱樂部の背後には督軍團及段祺瑞氏一派あり同俱樂部は之を以て曹錕氏の副總統失敗に復讐し且新國會保全の保障を得んとし段氏一派は錢内閣が北洋派の面目を潰して只管平和を求めんとするに憚ざるより直隸省議員賀培桐氏等の如きは東陵森伐採問題を借りて錢能訓内閣彈劾案を提出せんとし形勢險惡なり現に二十七日徐總統が段祺瑞を訪問せし際も段氏は錢總理が南方に對し過大の讓歩をなすを難じ(南北對等の平和會議を指す)之を以て總理の任に戀々たるものと諷し徐總統は憮然として錢總理は總て余の同意を経て事を行へり余の意は國家の大局を重しとし一時の苦痛を忍ぶのみ然れども將來國家の大權は中央政府に存し卿が希望する國內の統一に背かざるを期すと語り又錢總理は四圍の形勢不可なりと覺り二十七日徐總統に向ひ二十八日の閱兵式終りたる後辭表を提出せんと乞ひしに徐總統は卿にして是非退くならば余も事を見ず段祺瑞氏をして難局を收拾せしむる外なしと答へたる由にて徐段間の意見衝突漸く顯著ならんとす。(三十日、日日)

▲段祺瑞氏復活運動 (奉天特電二十九日發) 鄭歸任を傳へられたる張運閣使は今尙北京に滞在しつゝあるが右は南北妥協漸く成らんとし徐總統の位置鞏固を加へ且歐洲戰の休戰條約成立し段祺瑞氏唯一の隠れ場所たる參戰督辦處も最早其必要なきに至るべく之等は總て段派の豫期せざる所にして

作戦に齟齬すると同時に段氏の武力に遠ざかるは忍ぶべからざる苦痛なるより此際段氏の復活を計るべく段派が結束して或種の運動を試みつゝある所以なりと。(三十日、日日)

財政關係

▲米國借款未だし (上海特電十五日發) 顧駐米支那公使は北京政府に打電して曰く米國より借款するは未だ時機にあらず速かに内争を止めたる上ならでは交渉するを得ずと。(十六日、時事)

▲未發紙幣燒棄 (長沙特電十五日發) 十五日督軍府にて未發行の紙幣を公衆監視の下に燒棄する等なるが之が爲譚浩明氏督軍時代に發行せる流通銀には多少の影響あるべきも一般經濟には影響なかるべし。(十七日、日日)

▲對米借款準備 (上海特電十九日發) 在米國支那公使胡惟鈞氏は國務院に對し煙酒稅は未だ借款の抵當となり居らざるか否やに就き至急返電せよと電報せるが或は米國方面と借款に關する準備交渉にあらざるか。(二十日、日日)

▲關稅剩餘交付交涉 (北京特電二十日發) 北京政府は南北戰爭終熄費に使用する名目の下に再び關稅剩餘金の交付を聯合國公使に交渉中なり(二十二日、日日)

▲福建借款交涉 (廣東特電二十日發) 福建督軍李厚基氏は全省の茶稅を擔保として上海某銀行より百萬弗借款を爲すべく交渉中なり是に對し廣東に於ける福建人は輿論に懇へ借款反對の聲を揚げつゝあり。(二十二日、日日)

▲金券條令愈々實施 (北京特電二十二日發) 二十日財政部は四國公使に向ひ金紙幣條令實施は外國の干渉を受くべきものにあらざる且往年の借款契約も愈明年一月より金紙幣を以てする豫定なりと。(二十四日、日日)

▲借款流用禁止 (北京特電二十七日發) 日本公使館は先般交通部と中日實業會社と調印せし電話借款七百萬圓は電話擴張新設に使用する事を指定し絕對に政費に流用せしめず中日實業は該金を東京支店に保管し使途を確實にしたる上ならでは支出せざる事を發表し外人間に日本が尙政費供給を繼續すとの疑念を排せり。(二十九日、日日)

▲李督軍の借款に反對 (二十八日香港特派員發) 廣東在留の福建人は福建省議會並に商界學界の各團體に對し督軍李厚基が臺灣銀行上海支店より福建省茶稅を擔保として百萬元借款したるに對し強硬なる反對運動を開始せんことを通電せり。(三十日、朝日)

經濟關係及其他

▲大坂漢口航路 (漢口特電十五日發) 郵船會社は大阪漢口間直行航路を開始し第一船新潟丸は既に大阪を發せり第二船は來年漲水期を待て繼續する由。(十六日、時事)

▲無電使用許可 (上海特電十六日發) 漢口にある各國商船の無線電信使用を禁止し居たるが今同之を取消したり。(十七日、日日)

▲露貨を買煽る (吉林特電十六日發) 吉林財政廳長劉彭壽氏は露に露貨の空相場にて約一千萬兩の利益を得たるが今回又もや官銀號をして露貨の買煽りをなさしめ大儲をなさんと企てたるが此事何時しが吉林省議會議員等の知るところとなり財政廳長を國賊なりと叫び之を彈劾せんと奔走中なり。(長春特電十六日發) 吉林官銀號は豫てより露貨相場に依りて大儲けを策し其隙を狙ひ居りたるが恰も休戰條約成立したるを以て機乘すべしとなし去十日頃より長春市場に於て支那人大手筋を使喚して露貨凡そ七千萬兩の買煽りをなさしめ其結果市場は近來稀なる高値を示したるが十四日に至り六百萬兩を賣放てる爲俄然崩落し昨今四百五十萬兩を唱ふるに至れり之が爲め昨今の市場は大混亂に陥り多數の破産者を出す虞あり人心恟々たり。(十八日、日日)

▲黑龍鐵道敷設計畫 (哈爾濱特電二十日發) 黑龍江督軍鮑貴福氏は一昨年露國側に於て敷設權を獲得したる齊々哈爾濱黑河間の黑龍江鐵道を日本

本の北滿に對する勢力扶植策として米國の資金及材料技師を以て敷設せん意嚮ありと確言す尙兩地間の輕便鐵道敷設を邦人が要求せりとの風説あるも事實無根なり。(二十二日、日日)

▲日支露各辦取引所開始 (二十二日浦潮極東電通社發) 哈爾濱に於て露日支各辦の取引所開始せられたり持株の割當は露國六六七株日本六六七株支那六六六株なり。(二十四日、朝日)

▲徐總統實業大會開催 (二十二日奉天特派員發) 歐洲戰の休止と共に實業方面の變化は極めて急速に來るべきを以て之に對する方法を商議する爲め徐總統は二十四日を以て各省實業者代表を北京に召集して全國實業大會を開く筈なるが右に就き奉天省より出席する代表者は沈奉天實業課主任及工商兩會の首領並に農工商業學校長等なりと。(二十四日、朝日)

▲對敵輸出契約禁止 (二十二日香港特派員發) 廣東支那商人は獨逸商人と輸出契約を結ぶべからざる旨官憲より警告を受け居れり。(二十五日、朝日)

▲道德獎勵令發布 (二十四日北京特派員發) 二十四日大總統令を以て法規の完備を期し道德を獎勵するの命令を發布せり。(二十六日、朝日)

▲湖南一帶飢饉 (漢口特電二十六日發) 兵亂の爲妨げられし湖南の稻作は豫想の如く甚しからざりしも瀏陽、岳州を初め大小都市の兵亂の爲掠奪されし者多く爲に漂泊の饑民其數を知らず且北軍のみにて十六萬駐屯し南軍を合すれば二十五萬に達すべきを以て急に撤兵をなさざれば寒中饑饉道に横にはるに至らんと。(二十八日、日日)

▲露清銀行留紙幣發行 (二十九日哈爾濱特派員發) 露清銀行は五千萬兩の紙幣を發行せり米國にて印刷中の二十五萬兩と百萬兩紙幣(帝制時代のものと同型)二百五十萬兩は近く露國に到着の筈なり。(三十日、朝日)

▲總統の記者優遇 (上海特電二十八日發) 徐世昌氏は二十八日歐洲休戰祝賀會に列席すべき支那新聞記者に對し無賃乘車券其他を送り北京に招き各社の代表は既に北京に赴けり。(三十日、日日)

支那省

天覽

第九卷

第九卷內容

目次

第一編	總說	一—三
第二編	開市	二—七二
第三編	貿易	七三—九四
第四編	都會	九五—一七二
第五編	交通運輸及郵電	一七三—四五四
第六編	主要物產及商業慣習	四五五—六四八
第七編	工業及礦產	六四九—八三五
第八編	輸入品	八三六—九〇八
第九編	商業機關及特種慣習	九〇九—九七六
第十編	金融貨幣及度量衡	九七七—一〇九六

地圖寫眞 湖北省全省(百五十萬分四色刷)外都會圖寫眞百餘
 本書は本會附屬上海東亞同文書院に於て一
 千餘の人員と二十萬金の資とに依り十年間
 實地踏査をなさしめたる資料三十萬頁を基

前號要目

論說	平和會議と支那……………一四
資料	支那に於ける外國人の土地所有權五—二 新華儲蓄銀行事情……………一一—一〇 保晉鑛務公司事情(一)……………二—二四 支那と列強との關係(一)……………二四—二八 支那に於ける英吉利人と獨逸人(六)二九—三三
雜錄	支那の借款契約……………三四—三五 江蘇商生糸稅輕減の請願……………三六—三七
彙集	支那事業界近況……………三八—四三 半月史(半月間の支那重要事件)……………四四—四八 時報(支那最近時事要項)……………四九—五四 彙報(支那關係諸報道)……………五五—六六

支那

大正七年十二月十四日印刷
大正七年十二月十五日發行
東京市本郷區湯島天神町一丁目十一番地

發行所 清水 壽
編輯者 東京市麹町區飯田町二丁目三十三番地
印刷者 三澤 善哉
印刷所 東京市麹町區飯田町二丁目三十三番地

印刷所 株式會社 兵林館印刷所
東京市赤坂區溜池町二番地

發行所 東亞同文會調查編纂部
電話 芝 二二五番
接替口座東京九七三〇番

大賣捌所 東京市神田區表神保町 東 京 堂 書 店

同 東京市京橋區尾張町二ノ二 東 海 堂

同 東京市京橋區元數寄屋町三ノ七 北 隆 館

同 東京市神田區南神保町一二 有 斐 閣

同 東京市京橋區西紺屋町一六 良 明 堂

發行所	每月定價	冊數	定價	稅料
二冊	二圓二角	二冊	二圓二角	無
十二冊(半年分)	二十四圓	十二冊	二十四圓	無
二十四冊(一年分)	四十五圓	二十四冊	四十五圓	無

明治四十五年一月十七日第三號
大正七年十二月十五日發行(每月一日十五日發行)

支那 第九卷
第二十四號

東京市麹町區飯田町二ノ三三兵衛藥房所

國產
サッポロ
アサヒ
エビス
ビール

清涼飲料

リボ
ン
シトロン
イン
ラズベリー
印

釀造元

大日本麥酒株式會社



日本文庫

13

